

姫路市

池ノ下遺跡

中播都市計画事業英賀保駅周辺土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

[本文・図版編]

平成24(2012)年3月

兵庫県教育委員会

姫路市

池ノ下遺跡

中播都市計画事業英賀保駅周辺土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年3月

兵庫県教育委員会

例 言

1. 本書は兵庫県姫路市に所在する、池ノ下遺跡の発掘調査報告書で、[本文・図版編]と[写真図版編]の2分冊である。
2. 発掘調査は中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴うもので、兵庫県教育委員会が姫路市都市局市街地整備部区画整理課の依頼を受けて、平成17年度・平成18年度は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が、平成19年度は兵庫県立考古博物館が本発掘調査を実施した。
3. 出土品整理は兵庫県教育委員会が姫路市都市局市街地整備部区画整理課の依頼を受けて、平成21年度～平成23年度に兵庫県立考古博物館で実施した。
4. 遺構全体の航空写真測量を入札により、平成17年度と平成18年度は(株)大設、平成19年度はアジア航測株式会社に業務委託した。
5. 写真は、遺構を調査員が担当し、遺物については入札により、(株)谷口フォトに委託した。
6. 本書の図版1は、国土地理院発行の1/200,000「姫路」を使用した。図版2は、兵庫県発行の兵庫県地質図1/100,000を使用した。図版3・図版8～図版11は、姫路市都市計画図「飾磨区付城」を使用した。図版5は、国土地理院発行の1/25,000「姫路南部・姫路北部」を使用した。また、図版6は、大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000「姫路・飾磨」を使用した。
7. 本書に使用した方位は世界測地系(第V系)の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面(T.P.)を基準とした。
8. 出土品の分析は、年代測定を(株)加速器分析研究所に、土器の胎土分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に、鉄滓の金属学的分析を(株)九州テクノリサーチに、木製品の樹種同定を(株)古環境研究所に依頼した。
9. 本書の執筆は、
 - 第1章、第2章、第3章第1節・第2節・第4節・第5節・第7節・第8節、第4章第1節～第4節、第6章第1節・第3節を篠宮正
 - 第3章第3節、第4章第6節・第8節、第6章第2節を池田征弘
 - 第3章第6節を山田清朝
 - 第3章第9節を西口圭介
 - 第4章第5節を岸本一宏
 - 第4章第7節を久保弘幸
 - 第4章第9節を別府洋二
 - 第5章第1節を(株)加速器分析研究所
 - 第5章第2節をパリノ・サーヴェイ株式会社
 - 第5章第3節を(株)九州テクノリサーチ
 - 第5章第4節・第5節を岡本一秀
 - 第5章第6節を(株)古環境研究所
 - 第5章第7節を立命館大学青木哲哉
10. 本書の編集は篠宮が行った。
11. 本書にかかる写真・図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館に保管している。
12. 発掘調査および報告書の作成にあたり、
 - 姫路市教育委員会、奈良文化財研究所
 - 青木哲也(立命館大学)、亀井明德(専修大学)、巽淳一郎(京都橘大学)、冉万里(同志社大学)、田村朋美(奈良文化財研究所)、弓場紀知(兵庫陶芸美術館)、秋枝芳・大谷輝彦・森恒裕・中川猛・小柴治子・福井優(姫路市教育委員会)
 - の各機関・各氏にご援助・ご指導・ご教示頂いた。記して深く感謝の意を表する。

池ノ下遺跡 [本文・図版編]

中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

例言

目次

第1章	遺跡をとりまく環境	1
第1節	地理的環境	1
第2節	歴史的環境	1
第2章	調査の契機と経過	4
第1節	調査にいたる経緯	4
第2節	試掘調査	4
第3節	本発掘調査にいたる経緯	5
第4節	本発掘調査の経過	5
第5節	出土品整理作業	8
第3章	発掘調査の成果－遺構－	10
第1節	発掘調査の概要	10
第2節	A地区の調査	11
第3節	B地区の調査	14
第4節	C地区の調査	24
第5節	D地区の調査	30
第6節	E地区の調査	58
第7節	F地区の調査	63
第8節	G地区の調査	83
第9節	H地区の調査	90
第4章	発掘調査の成果－遺物－	117
第1節	遺物の概要	117
第2節	縄文時代の土器	117
第3節	弥生時代の土器	118
第4節	古墳時代初頭の土器	123
第5節	古墳時代の土器	149
第6節	古代・中世の土器	158
第7節	石器・石製品	180
第8節	金属器	190
第9節	木製品	193
第5章	自然科学的調査の成果	205
第1節	池ノ下遺跡の放射性炭素年代(AMS測定)	205
第2節	池ノ下遺跡出土土器の胎土分析	210
第3節	池ノ下遺跡出土鍛冶関連遺物の分析	226
第4節	池ノ下遺跡出土銅鍍の材質分析	231
第5節	池ノ下遺跡出土ガラス玉の材質分析	233
第6節	池ノ下遺跡における樹種同定	235
第7節	池ノ下遺跡の地形環境	246
第6章	まとめ	256
第1節	古墳時代初頭の土器について	256
第2節	古代・中世の土器について	261
第3節	池ノ下遺跡の変遷	264
別表		1～4
図版		1～307
報告書抄録		

挿 図 目 次

第1図	遺物 土器 22～26	119
第2図	遺物 土器 167～174	125
第3図	遺物 土器 860～865	148
第4図	遺物 H地区出土勾玉	187
第5図	遺物 銅製品	191
第6図	暦年較正年代グラフ(1)・(2)	208・209
第7図	各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(1)～(3)	217～219
第8図	胎土中の砂の粒径組成(1)～(3)	220～222
第9図	碎屑物・基質・孔隙の割合	222
第10図	銅鍍の全体像と測定箇所	231
第11図	銅鍍蛍光X線定性分析スペクトル	232
第12図	池ノ下遺跡出土ガラス玉	233
第13図	ガラス玉蛍光X線定性分析スペクトル	234
第14図	池ノ下遺跡の木材(1)～(5)	241～245
第15図	遺跡付近の地形分類図	247
第16図	調査区東部における微地形の分布	248
第17図	2区の地質断面図	248
第18図	19区、および19区～20区の地質断面図	249
第19図	20区の地質断面図	250
第20図	21区の地質断面図	251
第21図	調査区西部における微地形の分布	252
第22図	64区の地質断面図	253
第23図	古墳時代初頭土器分類(壺)	256
第24図	古墳時代初頭土器分類(甕)	258
第25図	古墳時代初頭土器分類(鉢・有孔鉢・高坏・器台他)	259
第26図	縄文時代の池ノ下遺跡	266・267
第27図	弥生時代の池ノ下遺跡	266・267
第28図	古墳時代初頭の池ノ下遺跡	268・269
第29図	古墳時代中期の池ノ下遺跡	268・269
第30図	古代の池ノ下遺跡	270・271
第31図	中世前期の池ノ下遺跡	270・271

表 目 次

第1表	測定試料及び処理	207
第2表	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果(1)・(2)	207・208
第3表	胎土分析試料一覧および胎土分類	211
第4表	薄片観察結果(1)～(5)	212～216
第5表	供試材の履歴と調査項目	226
第6表	供試材の化学組成	228
第7表	出土遺物の調査結果のまとめ	230
第8表	ガラス玉成分分析結果	234
第9表	池ノ下遺跡における樹種同定結果	240

別 表 目 次

別表1	池ノ下遺跡土器一覧(1)～(27)
別表2	池ノ下遺跡遺跡石製品一覧(1)・(2)
別表3	池ノ下遺跡遺跡金属器一覧(1)・(2)
別表4	池ノ下遺跡遺跡木製品一覧(1)・(2)
	報告書抄録

図 版 目 次

図版 1	遺跡		1 兵庫県の位置 2 姫路市の位置 3 池ノ下遺跡の位置 (1/200,000)
図版 2	遺跡		池ノ下遺跡周辺の地質(1/100,000)
図版 3	遺跡		池ノ下遺跡周辺の微地形復原
図版 4	遺跡		池ノ下遺跡周辺の主要遺跡一覧
図版 5	遺跡		池ノ下遺跡周辺の主要遺跡(1/25,000)
図版 6	遺跡		明治39年の池ノ下遺跡周辺(1/20,000)
図版 7	遺跡		中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業用地と遺跡(1/1,000)
図版 8	遺跡		池ノ下遺跡確認調査位置
図版 9	遺跡		池ノ下遺跡調査区位置
図版10	遺跡		池ノ下遺跡調査区位置(東部)
図版11	遺跡		池ノ下遺跡調査区位置(西部)
図版12	遺構	A地区 1区	東半部 下層・上層遺構配置 土層断面
図版13	遺構	A地区 1区	西半部 下層・上層遺構配置 土層断面
図版14	遺構	A地区 1区	溝SD001・SD002・SD004～SD006土層断面 柱穴P0101土層断面 掘立柱建物SB001
図版15	遺構	A地区 2区	遺構配置 土層断面 溝SD001・SD002土層断面
図版16	遺構	A地区 3区	遺構配置 土層断面 掘立柱建物SB002 溝SD007土層断面 土壙墓ST001 土坑SK003
図版17	遺構	B地区 4・5区	遺構配置 土層断面
図版18	遺構	B地区 4区	掘立柱建物SB003・SB005・SB006
図版19	遺構	B地区 4・5区	掘立柱建物SB004 柵SA001
図版20	遺構	B地区 7区	遺構配置 土層断面
図版21	遺構	B地区 7区	掘立柱建物SB007～SB009
図版22	遺構	B地区 6・8・9区	遺構配置 土層断面
図版23	遺構	B地区 8区	掘立柱建物SB010・SB011
図版24	遺構	B地区 8区	掘立柱建物SB012 土坑SK004 溝SD008土層断面
図版25	遺構	B地区 10区	遺構配置 土層断面
図版26	遺構	B地区 10・11・12区	遺構配置 土層断面
図版27	遺構	B地区 13・14区	遺構配置 土層断面
図版28	遺構	B地区 13区	掘立柱建物SB013・SB014
図版29	遺構	B地区 14・15区	遺構配置 土層断面
図版30	遺構	B地区 14区	掘立柱建物SB015 土坑SK006
図版31	遺構	B地区 14・15区	掘立柱建物SB016
図版32	遺構	B地区 15区	遺構配置 土層断面 掘立柱建物SB017
図版33	遺構	B・C地区 3・16・19区	遺構配置
図版34	遺構	B地区 16区	竪穴住居SH001
図版35	遺構	B・C地区 3・16・19区	掘立柱建物SB018・SB019
図版36	遺構	B地区 16区	掘立柱建物SB020・SB021
図版37	遺構	B地区 16区	掘立柱建物SB022 溝SD009土層断面 土坑SK007
図版38	遺構	B地区 17区	遺構配置
図版39	遺構	B地区 17区	土層断面
図版40	遺構	B地区 18区	遺構配置
図版41	遺構	B地区 18区	溝SD013
図版42	遺構	C地区 19区	北半部 下層・上層遺構配置 土層断面
図版43	遺構	C地区 19区	中央部 下層・上層遺構配置 土層断面
図版44	遺構	C地区 19区	南半部 遺構配置 土層断面
図版45	遺構	C地区 19区	溝SD014・SD016土層断面 土坑SK008
図版46	遺構	C地区 19区	溝SD017土層断面 土坑SK009・SK010
図版47	遺構	C地区 19区	掘立柱建物SB023・SB024
図版48	遺構	C地区 19区	掘立柱建物SB025
図版49	遺構	C地区 19区	掘立柱建物SB026
図版50	遺構	C地区 19区	掘立柱建物SB027・SB028
図版51	遺構	C地区 19区	掘立柱建物SB029・SB030
図版52	遺構	C地区 20区	西半部 下層・上層遺構配置 土層断面
図版53	遺構	C地区 20区	東半部 遺構配置 土層断面 溝SD019・SD020土層断面
図版54	遺構	C地区 21区	下層遺構配置 土層断面
図版55	遺構	C地区 21区	上層遺構配置 土層断面
図版56	遺構	C地区 21区	掘立柱建物SB031～SB033
図版57	遺構	C地区 21区	土坑SK011～SK013 溝SD027・SD028土層断面
図版58	遺構	C地区 21区	土壙墓ST002
図版59	遺構	C・D地区 21～23区	遺構配置
図版60	遺構	D地区 22区	掘立柱建物SB034～SB036
図版61	遺構	D地区 23区	下層・上層遺構配置
図版62	遺構	D地区 23区	溝SD029～SD033土層断面 土坑SK015・SK016
図版63	遺構	C・D地区 21・23区	掘立柱建物SB037・SB039
図版64	遺構	D地区 23区	掘立柱建物SB038
図版65	遺構	D地区 23区	溝SD034～SD036土層断面 土坑SK017～SK019

図版66	遺構	D地区	25・26区	遺構配置	溝SD037土層断面
図版67	遺構	D地区	26区	掘立柱建物SB040・SB041	
図版68	遺構	D地区	26区	掘立柱建物SB042	溝SD038・SD039土層断面
図版69	遺構	D地区	26区	土壙墓ST003	
図版70	遺構	D地区	23・27区	遺構配置	
図版71	遺構	D地区	27区	遺構配置	
図版72	遺構	D地区	27区	溝SD041～SD044土層断面	土坑SK020～SK023
図版73	遺構	D地区	27区	土坑SK024～SK028	
図版74	遺構	D地区	28区	東半部	下層遺構配置
図版75	遺構	D地区	28区	東半部	上層遺構配置
図版76	遺構	D地区	28区	西半部	下層遺構配置
図版77	遺構	D地区	28区	土層断面	
図版78	遺構	D地区	28区	SD045・SD048・SD049土層断面	
図版79	遺構	D地区	28区	溝SD045～SD048土層断面	
図版80	遺構	D地区	28区	溝SD047・SD050土層断面	木組SW005・SW006
図版81	遺構	D地区	28区	木組SW001	
図版82	遺構	D地区	28区	木組SW003	
図版83	遺構	D地区	28区	木組SW003断面	
図版84	遺構	D地区	28区	木組SW004	
図版85	遺構	D地区	28区	杭列SW008	
図版86	遺構	D地区	28区	杭列SW008断面	
図版87	遺構	D地区	28区	杭列SW009	
図版88	遺構	D地区	28区	杭列SW009断面	
図版89	遺構	D地区	28区	溝SD051土層断面	掘立柱建物SB043
図版90	遺構	D地区	29区	遺構配置	
図版91	遺構	D地区	29区	溝SD053土層断面	土坑SK029 掘立柱建物SB044
図版92	遺構	D地区	30区	遺構配置	
図版93	遺構	D地区	30区	土層断面	
図版94	遺構	D地区	30区	杭列SW010	溝SD046・SD047・SD049・SD050・SD056土層断面
図版95	遺構	D地区	31・34区	下層・上層遺構配置	
図版96	遺構	D地区	33・34区	下層・上層遺構配置	
図版97	遺構	D地区	34区	杭列SW011	
図版98	遺構	D地区	34区	土層断面	溝SD061～SD064・SD066～SD068土層断面
図版99	遺構	D地区	34区	掘立柱建物SB045	溝SD75土層断面
図版100	遺構	D地区	33区	遺構配置	溝SD058～SD061・SD076～SD078・SD086
図版101	遺構	D地区	33・35区	北半部	下層・上層遺構配置
図版102	遺構	D地区	35区	南半部	下層・上層遺構配置
図版103	遺構	D地区	35区	溝SD076・SD077・SD080～SD085土層断面	
図版104	遺構	D地区	35区	溝SD077・SD079・SD086土層断面	
図版105	遺構	D地区	35区	溝SD087～SD089土層断面	掘立柱建物SB046
図版106	遺構	D地区	35区	掘立柱建物SB047・SB048	
図版107	遺構	D地区	35区	土坑SK031～SK036	
図版108	遺構	D地区	36区	遺構配置	土層断面 溝SD090 柵SA002
図版109	遺構	D地区	37区	東半部	下層・上層遺構配置
図版110	遺構	D地区	37区	中央部	遺構配置
図版111	遺構	D地区	37・39区	西半部	下層遺構配置
図版112	遺構	D地区	37・39区	西半部	上層遺構配置
図版113	遺構	D地区	37区	土層断面	
図版114	遺構	D地区	38・39区	遺構配置	
図版115	遺構	D地区	37区	溝SD045・SD046・SD048・SD092・SD094・SD097～SD100・SD105～SD107土層断面	土坑SK038
図版116	遺構	D地区	37区	溝SD093・SD096・SD101～SD103・SD108土層断面	土坑SK040
図版117	遺構	D地区	37区	掘立柱建物SB049・SB050	
図版118	遺構	D地区	37区	掘立柱建物SB051	
図版119	遺構	D地区	37区	掘立柱建物SB052・SB053	柵SA003
図版120	遺構	D地区	39区	土坑SK042～SK044	溝SD107・SD111土層断面
図版121	遺構	E地区	40区	遺構配置	
図版122	遺構	E地区	40区	掘立柱建物SB054・SB055	
図版123	遺構	E地区	40区	溝SD112・SD116土層断面	柱穴P4001
図版124	遺構	E地区	41・42区	遺構配置	
図版125	遺構	E地区	41区	掘立柱建物SB056・SB057	
図版126	遺構	E地区	42区	遺構配置	
図版127	遺構	E地区	42区	掘立柱建物SB058	土坑SK046 溝SD119土層断面
図版128	遺構	E地区	43・44区	遺構配置	
図版129	遺構	F地区	45・46区	下層遺構配置	
図版130	遺構	F地区	45・46区	上層遺構配置	
図版131	遺構	F地区	45区	土層断面	溝SD123～SD126土層断面 土坑SK047土層断面 柵SA004
図版132	遺構	F地区	45区	掘立柱建物SB059・SB060	
図版133	遺構	F地区	46区	下層遺構配置	
図版134	遺構	F地区	46区	上層遺構配置	

図版135	遺構	F地区	46区	土層断面 縄文土器出土地点SX001 溝SD123・SD127・SD128土層断面
図版136	遺構	F地区	46区	掘立柱建物SB061・SB062
図版137	遺構	F地区	46区	掘立柱建物SB063・SB064 柵SA005
図版138	遺構	F地区	47・48区	遺構配置
図版139	遺構	F地区	47・48区	47区西壁・48区南壁土層断面 溝SD129・SD130・SD133土層断面
図版140	遺構	F地区	49区	遺構配置 溝SD134～SD136・SD138土層断面
図版141	遺構	F地区	50・51区	遺構配置
図版142	遺構	F地区	51・52区	遺構配置
図版143	遺構	F地区	50・51区	溝SD139～SD144・SD146～SD148・SD150土層断面
図版144	遺構	F地区	53区	東半部 下層・上層遺構配置
図版145	遺構	F地区	53区	西半部 遺構配置
図版146	遺構	F地区	53区	溝SD142・SD146・SD150・SD152・SD153・SD155～SD158・SD160・SD161土層断面
図版147	遺構	F地区	53区	土坑SK048・SK049
図版148	遺構	F地区	53区	土坑SK050～SK052
図版149	遺構	F地区	53区	掘立柱建物SB065
図版150	遺構	F地区	53区	掘立柱建物SB066
図版151	遺構	F地区	53区	掘立柱建物SB067・SB068
図版152	遺構	F地区	53区	掘立柱建物SB070・SB069
図版153	遺構	F地区	53区	掘立柱建物SB071
図版154	遺構	F地区	54・55区	遺構配置
図版155	遺構	F地区	55区	遺構配置
図版156	遺構	F地区	55区	溝SD146・SD164～SD172土層断面
図版157	遺構	F地区	55区	溝SD163・SD173・SD174土層断面 土坑SK053・SK054
図版158	遺構	F地区	55区	掘立柱建物SB072～SB074
図版159	遺構	F地区	56区	北半部 下層遺構配置
図版160	遺構	F地区	56区	北半部 上層遺構配置
図版161	遺構	F地区	56区	南半部 遺構配置
図版162	遺構	F地区	56区	溝SD180
図版163	遺構	F地区	56区	溝SD175・SD177・SD179・SD181 土坑SK055～SK057
図版164	遺構	F地区	56区	溝SD182～SD188
図版165	遺構	F地区	56区	掘立柱建物SB075 柵SA006
図版166	遺構	G地区	57・58区	下層遺構配置
図版167	遺構	G地区	57・58区	上層遺構配置
図版168	遺構	G地区	58区	土坑SK058 溝SD192～SD195土層断面
図版169	遺構	G地区	58区	溝SD194・SD201・SD202土層断面 杭組SW012
図版170	遺構	G地区	58区	竪穴住居SH002 土坑SK059
図版171	遺構	G地区	58区	掘立柱建物SB075・SB076
図版172	遺構	G地区	58区	掘立柱建物SB077・SB081
図版173	遺構	G地区	58区	掘立柱建物SB079・SB080
図版174	遺構	H地区	59区	遺構配置 溝SD207・SD208土層断面
図版175	遺構	H地区	59区	土層断面 土坑SK064～SK068
図版176	遺構	H地区	60区	遺構配置 土層断面 溝SD182・SD184～SD186土層断面
図版177	遺構	H地区	61～64区	遺構配置
図版178	遺構	H地区	61区	遺構配置 土層断面
図版179	遺構	H地区	62区	東半部 遺構配置
図版180	遺構	H地区	62区	西半部 遺構配置
図版181	遺構	H地区	62区	南壁土層断面
図版182	遺構	H地区	62区	溝SD211土層断面
図版183	遺構	H地区	62区	溝SD212～SD226土層断面
図版184	遺構	H地区	62区	掘立柱建物SB082・SB083
図版185	遺構	H地区	62区	土坑SK069～SK072・SK074
図版186	遺構	H地区	62区	土坑SK073・SK075～SK079
図版187	遺構	H地区	62区	土坑SK080～SK085
図版188	遺構	H地区	63区	遺構配置 西壁土層断面
図版189	遺構	H地区	64区	遺構配置
図版190	遺構	H地区	64区	土層断面
図版191	遺構	H地区	64区	竪穴住居SH003 土坑SK091・SK092
図版192	遺構	H地区	64区	土坑SK094～SK097
図版193	遺構	H地区	64区	土坑S093・SK099～SK105
図版194	遺構	H地区	64区	掘立柱建物SB084～SB086
図版195	遺構	H地区	64区	溝SD227・SD229～SD232・SD234・SD235・SD238・SD239土層断面
図版196	遺構	H地区	64区	上層水田・中層水田・下層水田及び最下層の遺構
図版197	遺構	H地区	64区	上層水田土層断面
図版198	遺構	H地区	65区	東半部 下層・上層遺構配置
図版199	遺構	H地区	65区	下層遺構配置
図版200	遺構	H地区	65区	上層遺構配置
図版201	遺構	H地区	65区	土層断面
図版202	遺構	H地区	66区	土坑SK106～SK110
図版203	遺構	H地区	66区	土坑SK112・SK14～SK117
図版204	遺構	H地区	66区	土坑SK118～SK120 井戸SE001

図版205	遺構	H地区	65・66区	掘立柱建物SB087・SB088 柵SA007
図版206	遺構	H地区	65・66区	溝SD242～SD254土層断面
図版207	遺構	H地区	67区	遺構配置 土層断面
図版208	遺構	H地区	67区	土坑SK121～SK123 溝SD255～SD257土層断面
図版209	遺構	H地区	68・69区	遺構配置
図版210	遺構	H地区	68・69区	土層断面
図版211	遺構	H地区	68区	遺構配置 土坑SK126・SK127
図版212	遺構	H地区	68区	土坑SK124・SK125・SK129～SK134
図版213	遺物			土器 1～18・21
図版214	遺物			土器27～46
図版215	遺物			土器47～68
図版216	遺物			土器69～82
図版217	遺物			土器83～95
図版218	遺物			土器96～128
図版219	遺物			土器129～142(SD201)
図版220	遺物			土器143～166
図版221	遺物			土器175～190(SD138)
図版222	遺物			土器191～210(SD138)
図版223	遺物			土器211～227(SD138)
図版224	遺物			土器228～259(SD138)
図版225	遺物			土器260～272
図版226	遺物			土器273～296(SD186)
図版227	遺物			土器297～321(SD186)
図版228	遺物			土器322～357(SD180)
図版229	遺物			土器358～390
図版230	遺物			土器391～413(SX002)
図版231	遺物			土器414～435
図版232	遺物			土器436～450(SD201)
図版233	遺物			土器451～463(SD201)
図版234	遺物			土器464～483(SD201)
図版235	遺物			土器484～508(SD201)
図版236	遺物			土器509～526(SD201)
図版237	遺物			土器527～544(SD199)
図版238	遺物			土器545～567(SD199)
図版239	遺物			土器568～585
図版240	遺物			土器586～601
図版241	遺物			土器602～633(SD211)
図版242	遺物			土器634～653
図版243	遺物			土器654～673
図版244	遺物			土器674～685
図版245	遺物			土器686～701
図版246	遺物			土器702～728(包含層)
図版247	遺物			土器729～758
図版248	遺物			土器759～790
図版249	遺物			土器791～820
図版250	遺物			土器821～836(SD256)
図版251	遺物			土器837～859(SD256)
図版252	遺物			土器866～889
図版253	遺物			土器890～905
図版254	遺物			土器906～929
図版255	遺物			土器930～949(包含層)
図版256	遺物			土器950～981
図版257	遺物			土器982～1019
図版258	遺物			土器1020～1058
図版259	遺物			土器1059～1093
図版260	遺物			土器1094～1120(SD086)
図版261	遺物			土器1121～1152
図版262	遺物			土器1153～1193
図版263	遺物			土器1194～1256
図版264	遺物			土器1257～1288
図版265	遺物			土器1289～1308
図版266	遺物			土器1309～1343
図版267	遺物			土器1344～1379
図版268	遺物			土器1380～1420
図版269	遺物			土器1421～1466
図版270	遺物			土器1467～1497(包含層)
図版271	遺物			土器1498～1516
図版272	遺物			土器1517～1550
図版273	遺物			土器1551～1585
図版274	遺物			石器・石製品 1

図版275	遺物	石器・石製品 2
図版276	遺物	石器・石製品 3
図版277	遺物	石器・石製品 4
図版278	遺物	石器・石製品 5
図版279	遺物	石器・石製品 6
図版280	遺物	石器・石製品 7
図版281	遺物	石器・石製品 8
図版282	遺物	石器・石製品 9
図版283	遺物	石器・石製品10
図版284	遺物	石器・石製品11
図版285	遺物	石器・石製品12
図版286	遺物	金属器M 1～M 9
図版287	遺物	金属器M10～M20
図版288	遺物	金属器M21～M30
図版289	遺物	金属器M31～M44
図版290	遺物	金属器M45～M55
図版291	遺物	金属器M56～M64
図版292	遺物	金属器M65～M75
図版293	遺物	木製品W 1～W10
図版294	遺物	木製品W11～W18
図版295	遺物	木製品W19～W23(SW007)
図版296	遺物	木製品W24～W28(SW008)
図版297	遺物	木製品W29～W35(SW008)
図版298	遺物	木製品W36～W41
図版299	遺物	木製品W42～W53(SW009)
図版300	遺物	木製品W54～W57
図版301	遺物	木製品W58～W62
図版302	遺物	木製品W63～W79
図版303	遺物	木製品W80～W86(SB050)
図版304	遺物	木製品W87～W94
図版305	遺物	木製品W95～W103
図版306	遺物	木製品W104～W110
図版307	遺物	木製品W111～W114

第1章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境(図版1～3)

池ノ下遺跡は兵庫県姫路市苦編、町坪、飾磨区高町に所在する。姫路市は兵庫県の中西部に位置しており、南は瀬戸内海に面し、南東は高砂市、東は加古川市、北東は加西市、北は神崎郡福崎町・市川町・神河町、北西は宍粟市、西はたつの市と揖保郡太子町に接している。

池ノ下遺跡は姫路市街の西端の初取山(標高200.3m)を主峰とする鬘櫛山から山崎山にかけて南北に連なる荒川山塊の南部の苦編山(標高165.8m)南東麓に位置する。荒川山塊を東西に最短距離で結ぶ峠道には苦編峠や伯母ヶ谷峠があるが、道路事情が良くなった現在ではあまり使用されていない。

荒川山塊は中生代白亜紀に位置づけられる相生層群伊勢層の流紋岩質多結晶溶結凝灰岩を主体として下部と中部には凝灰質の砂岩や頁岩などの堆積岩などが挟まれている。池ノ下遺跡をはじめとする平野部では新生代第四紀完新世の砂礫やシルトが堆積している。

荒川山塊の西側には夢前川が流れ、池ノ下遺跡の東側には今宿南の清水を水源とする大井川が南流し、水尾川に合流した後、播磨灘に注いでいる。現在の大井川は明暦年間(1655～1658)に夢前川を御立横関で現在の河道に付け替えるまでは置塩川と呼ばれていた。御立横関から蛤山や荒川山塊の東側を流れ水尾川とつながっていた。

池ノ下遺跡周辺では近年の大規模造成や溜め池、旧河道などを除いた平野部では、条里地割が良好に残っている。池ノ下遺跡は標高3.2m～6.5mであり、緩やかに北東から南西に傾斜している。縄文海進時の海岸線は現在のT.P. 4m～5m付近に位置していたと考えられている。

池ノ下遺跡の名称の元になった「池ノ下」の小字は北側に位置する四ツ池(北から町坪池・玉手池・中池・苦編池)の下方に位置することから付けられたと考えられる。

明治22年(1889)11月には池ノ下遺跡の南東側を走る姫路から竜野間の山陽鉄道(明治39年に国有化され国鉄を経て現在JR山陽線)が開通した。池ノ下遺跡の南西800mには姫路駅と網干駅の間駅として大正2年(1913)4月に英賀保駅が開業し、交通が便利になった。遺跡の南側を国道2号姫路バイパスが走り、東側約2kmに中地ランプがあり、交通動脈の中心をなしている。

第2節 歴史的環境(図版4・5)

池ノ下遺跡は姫路市の南西部に所在する。池ノ下遺跡周辺には平安時代から中世の集落である豆田遺跡や大淨口遺跡や村東遺跡が存在しており、遺跡の密度が高い。

今回中心となる遺構と遺物は旧石器時代から中世に至っている。したがって、池ノ下遺跡周辺地域、特に夢前川下流域から船場川下流域の縄文時代から中世の遺跡を中心に時代ごとに概観する。

1. 旧石器・縄文時代

旧石器時代の遺跡の調査は姫路市南部では行われていない。今回、池ノ下遺跡の発掘調査において遊離資料ではあるが、旧石器時代後期のナイフ形石器が出土した。

縄文時代の池ノ下遺跡では、流路から中期の土器や晩期の土器が出土している他、石鏃や石匙などの石器が出土した。周辺では辻井遺跡・堂田遺跡・朝日町遺跡・橋詰遺跡・大鳥遺跡などで調査が行われている。辻井遺跡では中期から晩期の土器が多量に出土し、中期の屈葬人骨や晩期の土器棺を検出している。朝日町遺跡では後期の土坑を調査しているほか、晩期の土器が出土している。橋詰遺跡では包含

層から後期と晩期の土器が出土している。大鳥遺跡では晩期後半の溝や土坑などを調査している。他に石ヶ坪遺跡で後期の土器が、小山遺跡で晩期の土器が見つまっている。

2. 弥生時代

弥生時代の池ノ下遺跡では、前期の土坑や溝、中期の竪穴住居や溝、後期の溝などを調査している。周辺では、今宿遺跡・今宿丁田遺跡・名古山遺跡・辻井遺跡・岩端町遺跡・千代田遺跡・西延末遺跡・八反長遺跡・東川遺跡・笹山田遺跡などで調査が行われている。弥生時代前期後半から始まる遺跡には千代田遺跡・八反町遺跡がある。弥生時代中期では今宿丁田遺跡・辻井遺跡・名古山遺跡・笹山田遺跡などがあり、竪穴住居を検出している。遺跡数・遺跡規模ともに拡大している。岩端町遺跡では掘立柱建物を検出している。弥生時代後期では今宿遺跡・今宿丁田遺跡・西延末遺跡・笹山田遺跡などがあり、竪穴住居を検出している。笹山田遺跡では円形周溝墓を調査している。

東川遺跡で銅鐸の破片が出土しており、合わせて鋳型や鏡の粗型なども出土している。名古山遺跡と今宿丁田遺跡では袈裟襷文銅鐸の石製鋳型が出土しており、水尾川流域は播磨における青銅器生産の中心地であったといえる。

3. 古墳時代

池ノ下遺跡では古墳時代初頭の掘立柱建物や流路、古墳時代中期から後期の流路や溝を調査しており、多量の遺物が出土している。北側に隣接する四ツ池遺跡では鳥形木製品が採集されている。古墳時代の集落遺跡には笹山田遺跡・長越遺跡・湯田遺跡などがあり、調査が行われている。

長越遺跡と湯田遺跡では古墳時代初頭の竪穴住居・井堰などを調査しており、船場川流域の中心的な集落遺跡である。遺物は他地域の広域的な土器が多量に出土している。笹山田遺跡では古墳時代初頭の竪穴住居・柵列・井戸、中期の竪穴住居・掘立柱建物、後期の竪穴住居・掘立柱建物を調査している。

八反長遺跡では古墳時代初頭の方形周溝墓を検出している。周辺では前期古墳や中期古墳の調査は行われていない。後期の古墳には、山崎山群集墳(7基)・手柄山北丘群集墳(12基)・山所群集墳(8基)などがあり、丘陵上や丘陵斜面に横穴石室の群集墳が存在している。手柄山北丘群集墳では発掘調査が行われている。周辺には規模の大きい横穴式古墳は存在していない。

4. 古代

奈良時代において、この地域は播磨国飴磨郡に含まれていた。7世紀後半の藤原宮出土の木簡に「志加麻評」とあり、シカマの初見である。『播磨国風土記』には飴磨郡は16里が記されており、池ノ下遺跡周辺は東部の町坪が伊和里、西部の苦編が英賀里に比定されている。平安時代の『和名類聚抄』には飴磨郡は14郷が記載されており、東部の町坪が伊和郷、西部の苦編が英賀郷に比定されている。

播磨国府・播磨国分寺・播磨国分尼寺はいずれも飴磨郡に所在している。播磨国府は本町遺跡に推定されており、豆腐町遺跡からは「郡」・「郷」の墨書土器や漆工房関連遺物などが出土しており、播磨国府の関連遺跡と考えられている。播磨国分寺・播磨国分尼寺は市川左岸に位置する。

『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によると播磨国には9駅が記載されている。池ノ下遺跡の北側約2.5kmには古代山陽道が東西方向に推定されており、周辺に駅馬30疋の草上駅が置かれていた。『延喜式』神名帳に記載のあるいわゆる式内社は飴磨郡に4座あり、射楯平主神社二座・白国神社・高岡神社がある。

飴磨郡には古代寺院が多く、池ノ下遺跡の上流域には今宿廃寺や辻井廃寺があるほか、郡内には市之郷廃寺や見野廃寺などがある。池ノ下遺跡の西側の夢前川沿いの山所遺跡からは瓦や塼が出土している。『播磨国風土記』の飴磨御宅は三宅遺跡に比定されており、重弧文軒平瓦などが採集されている。

池ノ下遺跡の周辺の条里地割は宅地化などの開発で失われた地区も多いが、広い範囲に古代山陽道を基準とした北から東に約23°振る飭磨郡条里の地割が残る。池ノ下遺跡では掘立柱建物を調査しており、唐三彩の弁口瓶が円面硯や石帯などの遺物が出土している。

集落遺跡はほかに今宿遺跡・今宿丁田遺跡などで調査が行われている。辻井遺跡からは掘立柱建物や井戸を検出しており、墨書土器や木簡が出土している。今宿丁田遺跡では掘立柱建物を検出している。

古代における須恵器生産をはじめとする窯業遺跡は飭磨郡西部から揖保郡東部にかけて群集しており、青山窯跡群・桜峠窯跡群・打越窯跡群・大池窯跡群・赤坂窯跡群・峰相口窯跡群などがある。

5. 中世

中世の姫路については、不明な点が多い。古代の国府は律令制の衰退とともに、次第にその機能を失い、院政期には事実上、播磨国府は院の御分国と化してしまう。鎌倉時代に入ると、守護所が加古川に置かれたことから、国衙の機能はいっそう衰退したと考えられる。国衙機構が完全に衰退するのは、小河氏が守護赤松氏に被官化し、守護所となった書写坂本城の守護代館に移り住むようになる明徳年間以後と考えられる。以後、姫路が播磨の中心として再び歴史上に登場するのは、黒田氏による姫路城の築城期、さらには羽柴秀吉による初期城下町の形成期である。

池ノ下遺跡では鎌倉時代の掘立柱建物や木棺墓を調査しており、遺跡密度が濃い。東部の町坪は伊和西郷、西部の苦編が英賀保に比定されている。

中世の集落には村東遺跡・豆田遺跡・今宿遺跡・大石橋遺跡・鹿谷道遺跡・出手遺跡・横枕遺跡・岩端町遺跡・笹山田遺跡・加茂遺跡・南通り遺跡などがあり、調査が行われている。

村東遺跡や豆田遺跡や笹山田遺跡では平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物・井戸・土坑墓を検出しており、池ノ下遺跡と同様に集落が広がっている。豆田遺跡の井戸からは応永年間(1394～1428)の大般若経や仁王般若経の転読札がまとまって出土しており、在地領主や武士などの富裕層の存在が考えられる。笹山田遺跡では平安時代後期から鎌倉時代の掘立柱建物・井戸・土坑墓を検出している。加茂遺跡では鎌倉時代の掘立柱建物、室町時代から安土桃山時代にかけての堀・土塁・掘立柱建物・井戸・池などが検出しており、城館と推定されている。

6. 近世

池ノ下遺跡周辺は姫路藩領であり、江戸時代初期の元禄時代以降には町坪村、苦編村と呼ばれ、幕末に至っている。村の中央には姫路城下と室津を東西に結ぶ室津道が走っている。

四ツ池のうち、南端の苦編池は寛永15年(1638)の拡張工事により現在の形に整備された。

近代交通発展以前の集落は、近世の景観を保っていたと考えられ、苦編に鎮座する苦道国主神社の創建については不明な点が多いが、宝暦4年(1754)に社殿が改築されている。木村興宗寺は火災に遭った本堂を宝暦10年(1760)に再建している。

7. 近代(図版6)

池ノ下遺跡が存在する姫路市町坪と苦編は、明治4年(1871)の廃藩置県により、姫路藩が7月から姫路県となり、11月に飾磨県と改称し、明治9年8月に兵庫県となっている。明治22年(1889)の市制町村制施行により飾西郡荒川村に属し、明治29年(1896)4月には郡制がひかれ飾磨郡に所属した。大正12年(1923)3月には郡制が廃止された。昭和11年(1936)4月に姫路市と合併し、姫路市の大字となって現在に至っている。姫路市は平成8年に中核都市となり、播磨の中心となっている。

第2章 調査の契機と経過

第1節 調査にいたる経緯(図版7)

姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合(理事長水野利和)は中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業を計画した。中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業は姫路市の中心部であるJR姫路駅の南西約3.8kmに位置し、JR英賀保駅の北側に面する。事業規模は東西約2.5km、南北約1.5km、面積69.5haである。事業地は姫路市町坪、井ノ口、玉手、苦編、飾磨区高町、飾磨区山崎、飾磨区付城、飾磨区富士見ヶ丘町の範囲に及ぶ。都市計画決定は、平成11年(1999)3月、事業計画決定は、平成11年(1999)11月である。施行期間は平成11年度～平成29年度の予定である。

姫路市の総合計画において英賀保駅周辺地区は住宅地として位置づけられており、進行する市街化の拡大に対処し、無秩序な市街化を防止するため、土地区画整理事業を計画した。併せて幹線及びそれを補完する補助幹線道路をはじめとする公共施設の整備改善を行い、宅地の利用増進と快適な住環境の創造を目指した。また、災害時の避難場所としての機能をもたせた近隣公園等を計画し、地域住民の公共の福祉の増進に寄与することを目的として計画された。

事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地は知られていなかったが、周辺には多くの遺跡が存在していたため、事業地内にも遺跡の存在が想定された。そこで、姫路市教育委員会が試掘調査を行い、埋蔵文化財の保護を図ることとした。

第2節 試掘調査(図版8)

中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に先立って、姫路市教育委員会は平成12年度から平成14年度にかけて国庫補助事業として試掘調査を行った。その結果、事業対象地内に4箇所の遺跡を確認し、英賀保駅周辺遺跡第1地点～第4地点と仮称した。仮称英賀保駅周辺遺跡第4地点(池ノ下遺跡)の試掘調査は平成14年度に苦編・町坪・玉手地区にかかる約19haを対象に2m×2mの調査区を85箇所(当初の計画は90箇所)設定し実施した。このうち今回本発掘調査を実施した範囲にあたる調査区は1～70(21・35・36は欠)の67箇所である。

調査の結果、遺構を検出した調査区は2・6・10・14・16・18・20・21・22・25・27・30・31・35・37・39・43・44・48・50・57・58・60・62・63・67・68・69の28箇所である。検出箇所は確認調査対象地内全域にわたっている。遺跡の時期は、弥生時代・古墳時代・奈良時代・中世と幅広く存在し、場所によっては複数の生活面が存在していることが判明し、調査を対象としたすべての範囲内で本発掘調査が必要であることを確認した。

調査期間は、平成15(2003)年2月6日～平成15(2003)年3月14日。調査面積は340㎡である。

確認調査の組織

調査主体 姫路市教育委員会

調査事務 課長 玉岡路三郎 主任 大谷輝彦

調査担当 係長 秋枝 芳(調査総括) 技師 小柴治子

第3節 本発掘調査にいたる経緯(図版9)

姫路市教育委員会が、平成12年度から平成14年度にかけて試掘を行ったところ、4箇所の遺跡(第1地点～第4地点)の存在が明らかになり、遺跡の範囲が事業地内の多くを占めていることが判明した。

平成16年10月に姫路市教育委員会は中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業にかかわる埋蔵文化財調査の支援について兵庫県教育委員会文化財室に相談している。姫路市教育委員会の支援要請の内容は国土交通省の国道2号姫路バイパスの側道拡幅工事が事業用地内にかかっており、事業規模も大きい。平成15年度に姫路市教育委員会が一部の本発掘調査を実施しているが、事業期間内に発掘調査から出土品整理を完了する調査体制が整わない。したがって、埋蔵文化財発掘調査の支援要請をしたいというものである。

これに対して文化財室はこの区画整理事業は、国道2号姫路バイパス事業も関連する広域的な事業であり、事業規模が大きくまた、文化財調査の占める割合も大きく、姫路市教育委員会の対応だけでは事業進捗に支障をきたす可能性が大きい。このことから兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所の事業量等から支援できる状態であれば、支援する位置づけをするようにとの意見が示された。

埋蔵文化財調査事務所ではこの事業に対する発掘調査が、文化財室の支援事業と合致しており、埋蔵文化財調査事務所の発掘調査や整理事業の通常業務との調整が可能で、支援条件が合致すれば支援を行うこととした。

この基本的な方針を元に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所は兵庫県教育委員会文化財室を交え、姫路市教育委員会生涯学習部文化財課、姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合と姫路市都市局市街地整備部区画整理課との協議を持ち、調査対象遺跡や調査期間、現地の状況や調査条件などの協議を行った。これにより、支援対象遺跡は仮称英賀保駅周辺遺跡第4地点のうち国道2号姫路バイパス北側ではJR山陽線西側の約38,000㎡の区画道路部分と歩道部分である。支援期間は発掘調査が平成17年度から3箇年とし、出土品整理は平成20年度から平成23年度までの4箇年とすることで合意し、詳細は年度単位で協議して進めることとなった。

第4節 本発掘調査の経過

姫路市教育委員会の試掘調査の結果を踏まえ、本発掘調査を平成17年度・平成18年度・平成19年度に実施した。

事前に事業者が、耕作土を除去しており、併せて工事用道路の設置を行っていた。発掘調査は調査区の設定後、床土以上の無遺物層の掘削を機械で行い、それ以下の包含層掘削・遺構検出・遺構掘削を人力により行った。遺構の測量は、全体を空中写真測量で実施し、調査の進展に合わせて撮影・測量を行った。詳細な遺構の平面図・遺物出土状況図や断面図などと写真撮影については調査担当職員および調査補助員が行った。

調査終了後は、耕作土以外の土の埋め戻しを行った。

1. 平成17年度の発掘調査

平成17年度には、調査を大きく2回に分け、D地区とE地区の本発掘調査を実施した。

(1) 本発掘調査(遺跡調査番号2005157)

発掘調査は、都市計画道路と区画道路部分について実施した。調査範囲は町坪地区から苦編地区東半部にかけてのD地区(22区～39区)であり、里道や水路等の調査不可能な部分が含まれていることから、18地区に分け調査を実施した。

空中写真測量は、調査の進展に併せて3回の撮影・測量を行った。

調査途中の平成17年11月19日に地元地区や地権者を対象とした遺跡の説明会を実施した。

調査終了後は耕作土以外の土の埋め戻しを行った。

調査期間は、平成17年10月11日～平成18年2月13日。調査面積は7,946㎡である。

(2) 本発掘調査(遺跡調査番号2005194)

発掘調査は都市計画道路と区画道路部分について実施した。調査範囲は町坪地区から苦編地区東半部にかけてのE地区(40区～44区)であり、D地区の南東側に位置し、JR線沿いの地区である。里道や水路等の調査不可能な部分が含まれていることから、5地区に分け調査を実施した。

空中写真測量は、調査の進展に併せて1回の撮影・測量を行った。

調査終了後は耕作土以外の土の埋め戻しを行った。

調査期間は、平成18年1月19日～3月24日。調査面積は1,329㎡である。

2. 平成18年度の発掘調査

平成18年度には、調査を大きく2回に分け、B地区とF地区の本発掘調査を実施した。

(1) 本発掘調査(遺跡調査番号2006055)

調査は都市計画道路と区画道路部分について実施した。調査範囲は町坪地区のB地区であり、事業用地内には市道や里道・水路等の調査不可能な部分が含まれていることから、調査区は東方向から西方向に向って4区～18区の15地区に分割した。

空中写真測量は、調査の進展に併せて2回の撮影・測量を行った。

調査終了後は耕作土以外の埋め戻しを行った。

調査期間は、平成18年6月30日～平成18年9月29日。調査面積は3,031㎡である。

(2) 本発掘調査(遺跡調査番号2006093)

調査は都市計画道路と区画道路部分について実施した。調査範囲は苦編地区東半部のF地区であり、事業用地内には市道や里道・水路等の調査不可能な部分が含まれていることから、調査区は北東方向から南西方向に向って45区～56区の10地区に分割した。

空中写真測量は、調査の進展に併せて3回の撮影・測量を行った。

調査途中の平成18年12月23日に地元地区や地権者を対象とした遺跡の説明会を実施した。

調査終了後は耕作土以外の埋め戻しを行った。

調査期間は、平成18年10月2日～平成19年1月23日。調査面積は5,863㎡である。

3. 平成19年度の発掘調査

(1) 本発掘調査(遺跡調査番号2007057)

発掘調査は都市計画道路と区画道路部分について実施した。調査範囲は町坪地区のA地区(1区～3区)とC地区(19区～21区)、苦編地区東半部のG地区(57区・58区)、苦編地区西半部のH地区(59区～69

区)の4地区に分れ、市道や里道・水路等の調査不可能な部分が含まれていることから、18地区に分け調査を実施した。前年度までに発掘調査を実施したA地区とC地区周辺の調査区はすでに道路の擁壁工事等が始まっており、昨年度まで調査不可能であった水路部分の調査を実施した。

空中写真測量は、調査の進展に併せて3回の撮影・測量を行った。

遺構の調査後は、地形の形成を見るために立命館大学の青木哲哉先生に指導いただき、A地区の2区、C地区の20区・21区、H地区の62区・64区で深掘りを実施した。

調査終了後は耕作土以外の土の埋め戻しを行った。

調査期間は、平成19年6月13日～12月6日。調査面積は7,107㎡である。

4. 発掘調査の組織

(1) 平成17年度

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 平岡憲昭 総務課 主幹 大西義明

企画調整班 主幹 輔老拓治 主査 深井明比古

調査第2班 調査専門員 山本三郎

調査担当(2005157)

調査第2班 主査 岸本一宏 主査 久保弘幸 主査 篠宮 正

調査補助員 森崎由起子 竹地克征 赤壁千恵子 山本香織

調査担当(2005169)

調査第2班主査 山田清朝 主査 鐵 英記

調査補助員 森崎由起子 赤壁千恵子

(2) 平成18年度

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 平岡憲昭 主幹兼総務課長 若生晃彦

企画調整班 主幹 池田正男 主査 深井明比古

調査第2班 調査専門員 山本三郎

調査担当(2006055)

調査第2班 主査 吉識雅仁 主査 別府洋二 主査 池田征弘

調査補助員 森崎由起子

調査担当(2006093)

調査第2班 主査 西口圭介 主査 篠宮 正

調査補助員 森崎由起子 前田洋子

(3) 平成19年度

調査主体 兵庫県教育委員会

整理事務 兵庫県立考古博物館

館長 石野博信

副館長(総務部長兼務) 松下信一 総務課 課長 若狭健利
埋蔵文化財調査部長 若生晃彦 主幹 岡崎正雄
調査第2班 調査専門員 山本三郎
調査担当 調査第2班 主査 西口圭介 主査 篠宮 正 主査 鐵 英記
調査補助員 小谷義男 清水洋子 森崎由起子 山本啓

第5節 出土品整理作業

平成17年度から平成19年度にかけて現地において遺物洗浄の一部を行った他は、平成20年度以降に兵庫県立考古博物館において実施した。

1. 出土品整理の概要

平成20年度は、出土遺物の洗浄・ネーミング・接合・補強を行い、実測や採拓するものを選択した。

平成21年度は、金属器を除く出土遺物の実測・拓本を行うとともに、金属器の保存処理を行った。

平成22年度は、金属器の実測を行うとともに、土器の復原の後、金属器・木製品・石器とあわせて写真撮影を行い、写真を整理した。出土品の分析は、年代測定を(株)加速器分析研究所に、土器の胎土分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に、木器の樹種同定を(株)古環境研究所に依頼した。遺構図をトレースが行えるように補正し、一昨年度に実測した遺物図・遺構図とともに、トレースを行った。

平成23年度は、昨年度にトレースをした遺物図・構図と写真のレイアウトを行った。また木製品の保存処理を行った。原稿執筆・編集を行った後、報告書を刊行した。

2. 出土品整理の組織

(1)平成20年度

調査主体 兵庫県教育委員会

兵庫県立考古博物館

整理事務 館長 石野博信

副館長(総務部長兼務) 藤原 悟 総務課 課長 若狭健利

埋蔵文化財調査部長 若生晃彦 主幹 岡崎正雄

整理保存課 課長 森内秀造 主査 菱田淳子 主査 篠宮 正 主査 岡本一秀

整理担当 整理保存課 主査 篠宮 正

調査第2課 担当課長補佐 別府洋二 主査 山田清朝 主査 池田征弘

調査第1課 担当課長補佐 岸本一宏 担当課長補佐 西口圭介

非常勤嘱託員 吉田優子 真子ふさ恵 島村順子 家光和子 三好綾子 荒木由美子

小林陽子 小野潤子 荻野麻衣 吉村あけみ 藤池かづさ 嶺岡美見

小谷桂加

(2)平成21年度

調査主体 兵庫県教育委員会

兵庫県立考古博物館

整理事務 館長 石野博信
 副館長兼総務部長 藤原 悟 総務課 課長 前川浩子 主査 大西晃彦
 埋蔵文化財調査部 部長 若生晃彦
 整理保存課 課長 森内秀造 主査 菱田淳子

整理担当 整理保存課 主査 篠宮 正
 調査第2課 担当課長補佐 別府洋二 主査 山田清朝 主査 池田征弘
 調査第1課 担当課長補佐 岸本一宏 担当課長補佐 西口圭介
 非常勤嘱託員 宮田麻子 島田留里 大前篤子 矢木加奈子 川村由紀 長浜重美
 西村美緒 藤井光代 前田恵梨子

(3) 平成22年度

調査主体 兵庫県教育委員会

兵庫県立考古博物館

整理事務 館長 石野博信
 副館長兼総務部長 安部邦明 総務課 課長 前川浩子 事務職員 川原聡介
 埋蔵文化財調査部長 若生晃彦 主幹 吉田 昇
 整理保存課 課長 村上泰樹 主査 篠宮 正 主査 山本 誠 主査 岡本一秀

整理担当 整理保存課 主査 篠宮 正
 調査第2課 担当課長補佐 別府洋二 主査 山田清朝 主査 池田征弘
 調査第1課 担当課長補佐 岸本一宏 担当課長補佐 西口圭介
 非常勤嘱託員 宮田麻子 栗山美奈 川村由紀 長浜重美 西村美緒 前田恵梨子
 大西美緒 伊藤ミネ子 藤池かづさ 荻野麻衣 藤尾裕子 浜脇多規子
 桂昭子 柴田妃三光

(4) 平成23年度

調査主体 兵庫県教育委員会

兵庫県立考古博物館

整理事務 館長 石野博信
 副館長 安部邦明 総務部長 山内雅彰 総務課 課長 前川浩子 事務職員 川原聡介
 埋蔵文化財調査部長 高尾直登 主幹 深井明比古
 整理保存課 課長 村上泰樹 主査 篠宮 正 主査 山本 誠 主査 岡本一秀

整理担当 整理保存課 主査 篠宮 正
 調査第2課 担当課長補佐 別府洋二 担当課長補佐 西口圭介 主査 池田征弘
 調査第1課 担当課長補佐 岸本一宏 担当課長補佐 久保弘幸
 担当課長補佐 山田清朝
 非常勤嘱託員 宮田麻子 友久伸子 島田留里 今村直子 柏木明子 高瀬敬子
 村上令子 前田恵梨子 坂東知奈 榎真菜美

第3章 発掘調査の成果－遺構－

第1節 発掘調査の概要

1. 池ノ下遺跡の調査(図版9)

試掘調査は平成14年度に実施し、本発掘調査は平成17年度～平成19年度にかけて5次にわたる調査を実施した。

平成17年度の本発掘調査は2回に分けて実施した。平成17年度の第1次調査(遺跡調査番号2005157)は町坪地区から苦編地区東半部にかけてのD地区(22区～39区)である。平成17年度の第2次調査(遺跡調査番号2005194)は町坪地区から苦編地区東半部にかけてのE地区(40区～44区)である。

平成18年度の本発掘調査は2回に分けて実施した。平成18年度の第1次調査(遺跡調査番号2006055)は町坪地区のB地区(4区～18区)である。平成18年度の第2次調査(遺跡調査番号2006093)は苦編地区東半部のF地区(45区～56区)である。

平成19年度の本発掘調査(遺跡調査番号2007057)は、昨年までの調査でし残った所を実施するため、広域に多数の地点が存在する。町坪地区のA地区(1区～3区)とC地区(19区～21区)、苦編地区東半部のG地区(57区・58区)、苦編地区西半部のH地区(59区～69区)の大きく4地区に分かれる。

2. 調査区の呼称(図版10・11)

今回池ノ下遺跡の本発掘調査対象地は東西900m、南北260mと広大で、調査も3箇年5次に亘って実施した。調査の順番も工事を優先に実施したため、まとまりが無い。このため、報告書作成にあたり、地区のまとまりと調査単位とを重視して、新たに調査地区と調査区の名称を付け替えた。

調査区は、道路や水路などで区切られた単位とし、調査区が枝として延びる場合は別の名称を呼称した。調査地区は調査単位を原則としたが、調査地区が離れている場合は別の名称を付した。原則的には北東から南西に向かって順番に付与した。なお、遺構の呼称も各遺構の種類ごとに調査区順に1から始まる遺構名称に付け替えた。

A地区は、平成19年度に実施した調査区のうち、東北端の町坪地区にあたり1区～3区の3地区に分割した。B地区は、平成18年度に実施した第1次調査の地域である。町坪地区にあたり、4区～18区の15地区に分割した。C地区は、平成19年度に実施した調査区のうち、町坪地区にあたり、19区～21区の3地区に分割した。D地区は、平成17年度に実施した第1次調査の地域である。町坪地区から苦編地区東半部にかけての地域であり、22区～39区の18地区に分割した。E地区は、平成17年度に実施した第2次調査の地域である。町坪地区から苦編地区東半部にかけての地域であり、40区～44区の5地区に分割した。F地区は、平成18年度に実施した第2次調査の地域である。苦編地区東半部のものであり、45区～56区の10地区に分割した。G地区は、平成19年度に実施した調査区のうち、苦編地区東半部にあたり、57区・58区の2地区に分割した。H地区は、平成19年度に実施した調査区のうち、苦編地区西半部にあたり、59区～69区の11地区に分割した。

第2節 A地区の調査

1. 調査の概要(図版10 写真図版4)

A地区は、調査対象地北東部のB・C-1・2区に位置する。平成17年度に本発掘調査を実施した一部であり、1区・2区・3区の3調査区が該当する。

2. 1区(図版12・13 写真図版34・35)

1区は、今回調査範囲の最北端のB・C-1区位置する。道路の北側に並行した東西に細長い調査区である。東側部分は耕作による影響を受けている。基本層序は水田耕作土と床土の直下に遺構検出面が存在し、中央部分は1層下に下層の遺構検出面が存在している。検出した遺構は上層では掘立柱建物と土坑と溝があり、下層では土坑や柱穴が多数ある。炭を含んでいるものが多い。

SK001(写真図版34・36)

検出状況 調査区西部の下層面に位置し、南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。
形状規模 平面形は円形であると考えられ、断面形は浅いU字形である。規模は南北0.9m、東西1.1m、深さは15cmを測る。

埋 土 埋土には炭を多量に含んでいる。

出土遺物 遺物は出土していない。

P0101(図版14 写真図版34)

検出状況 下層面で検出した。調査区西部のSD005の西側に位置する。

形状規模 直径0.25m、深さ72cmの柱穴である。

埋 土 埋土には炭が多量に含まれている。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD001(図版14)

検出状況 調査区東部に位置する。SB001の柱穴とSK002に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、主軸方位はN27°Eである。規模は幅約5.0m、深さ40cm、延長3.7m以上を測り、断面形は削平が著しい。東西2本に分かれている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD002(図版14)

検出状況 調査区東部に位置する。SB001の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝である。規模は幅約3m～4m、深さ35cm、延長3.7m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 二次加工のある剥片(S1)が出土している。

SD003

検出状況 SD001とSD002の間に位置し、南側はSK002に切れ、北側は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に直交するやや蛇行した溝である。規模は幅0.3m、深さ10cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD004(図版14 写真図版35)

検出状況 調査区中央部のSB001の西側に位置する。

形状規模 主軸方位はN58°Eで、調査区外に延びる直線的な溝である。規模は幅0.7m、深さ20cm、延長5.3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD005(図版14 写真図版35)

検出状況 調査区西部に位置する。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN24°Eである。規模は幅1.5m、深さ45cm、延長5.6m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 須恵器碗(950)が出土している。

SD006(図版14 写真図版35)

検出状況 調査区西部のSD005の西側に位置する。

形状規模 方位はN43°Eで、調査区外に延びる直線的な溝である。規模は幅1.6m～1.8m、深さ40cm、延長3.60m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 須恵器坏(951)が出土している。

SB001(図版14 写真図版36)

検出状況 調査区西部に位置する。北側と南側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。下層の溝SD001・SD002を切っており、建物内にSK001が存在するが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN25°Eの総柱建物である。南北1間(1.6m)以上×東西2間(5.3m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.6m、東西1間2.5m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm前後、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～40cmである。P04の上部には石があり、P05の底には木質が残存していた。

出土遺物 柱穴P01・P03から土器の小片が出土している。

SK002(図版14 写真図版35)

検出状況 調査区東部に位置し、SB001と重複関係にあるが先後関係は不明である。南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 平面形は不整形で、断面形は浅いU字形である。規模は南北1.3m以上、東西2.2m、深さは16cmを測る。

出土遺物 土師器小皿(952)が出土している。

3. 2区(図版15 写真図版37)

2区はB-1・2区位置する。1区の南側の道路と住宅を挟んだ所に位置している。東西に細長い調査区で、東側部分では一部北側に張り出す。西端は南側へ延びる3区と接しており、東側はB地区の13区に対して位置する。削平が著しく、東半部で溝2条と柱穴を調査したのみである。

SD001(図版15 写真図版37・38)

検出状況 調査区東部に位置する。位置関係と埋土の状況から1区と同一の溝である。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、北から南に流れている。規模は幅約5.0m、深さ最

大35cm、延長6m以上を測り、断面形は中央部分が盛り上がっており、2本の浅いU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(23)が出土している。

SD002(図版15 写真図版38)

検出状況 調査区東部に位置し、SD001の西側に平行する。位置関係と埋土の状況から1区と同一の溝である。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝で、北から南に流れ、方位はN26°Eである。規模は幅約3m～4m、深さ15cm、延長6m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 溝底から弥生土器鉢(22)がつぶれた状態で出土した。

4. 3区(図版16 写真図版39)

3区は2区西端の南側に接しており、南側はB地区の16区に接した所に位置する。南北に細長い調査区である。全体的に削平が著しく、南端には攪乱が存在する。

遺構は南半部で墓、掘立柱建物、土坑、溝を検出した。掘立柱建物SB018は16区に伸びており、16区で記述を行う。

SB002(図版16)

検出状況 調査区南部に位置する。西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN28°Eの建物である。南北2間(3.8m)×東西1間(1.6m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間1.9mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、深さは13cm～20cmである。

出土遺物 柱穴P04からは土器の小片が出土している。

SK003(図版16)

検出状況 調査区南端に位置し、SB018に切られている。

形状規模 平面形は不整形で、断面形には凹凸がある。規模は南北2.1m、東西1.6m、深さは最大25cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

ST001(図版16 写真図版39)

検出状況 調査区南部のSB002の東側に位置する。

形状規模 墓壇の平面形は全長200cm、幅70cmの長方形で、深さ10cmの浅い断面逆台形を呈する。木棺の痕跡は確認できなかった。墓壇の主軸方位はN64°Wである。

頭 位 不明である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD007(図版16 写真図版39)

検出状況 調査区中央部に位置する。

形状規模 北東部に角を持つL字形の溝である。規模は東西延長2.5m、南北延長2.0mを測る。幅最大40cm、深さ5cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土器の小片が出土している。

第3節 B地区の調査

1. 調査の概要(図版10 写真図版5)

B地区は調査対象地北東部のA・B-2区、C-1・2区D-3区に位置する。A地区の南、C・D地区の北側にあたる。4～18区が属している。東西約200m、南北約200mに及ぶ。地形は緩やかに南に下がる傾斜面で、標高は4区の6.2mが高く、18区4.9mが最も低い。調査前の原状はほとんどが水田で、検出面も耕土直下である。

検出した遺構は中世の掘立柱建物(4・7・8・13～16区)がほとんどであり、比較的散漫である。その他に弥生時代の竪穴住居(16区)、掘立柱建物(16区)、溝(17区)、古代の溝(16区)などを検出している。

2. 4区(図版17 写真図版40)

全体の北東端に位置している。南北方向に長い調査区で、南東端に5区、南西端に6区が接している。調査区北端より南側へ13.5mは標高約6.2mの平坦な面で、コンクリート擁壁を挟んで南側は削平を大きく受けて、標高約5.8mの平坦面である。検出面は耕土の直下で、北・中部はその上に厚く盛土がなされている。

検出した遺構は掘立柱建物跡4棟である。

SB003(図版18 写真図版40・42)

検出状況 4区の北部で検出した。SB004の北側に位置している。西側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN67°Wである。梁行2間(4.3m)、桁行1間(2.6m)以上である。桁行方向の柱列が梁行方向に対して西側へやや傾いている。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径15cm～30cm、深さは34cm～10cmである。柱痕を確認できたものは1基のみで、径14cmである。

出土遺物 柱穴P04から土師器皿、P05から須恵器碗(953・954)、土師器鉢(955)が出土している。

SB004(図版19 写真図版41・42)

検出状況 4区の中中部で検出した。SB003の南側に位置している。西側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN65°Wである。東北隅の柱穴は検出していない。梁行4間(7.8m)、桁行2間(4.4m)以上である。梁行方向の柱間は中央2間が2.2mであるのに対して、南北両端が1.7mである。桁行方向の柱間も東から2間目が2.4mであるのに対して、東端が2.0mと短い。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径25cm～34cm、深さは34cm～10cmである。柱痕を確認できたものは1基のみで、径14cmである。

出土遺物 柱穴P11から砥石(S2)が出土しているが、建物に属する遺物は出土していない。

SB005(図版18 写真図版41)

検出状況 4区の南部で検出した。SB004の南側、SB006の東側に位置している。東側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、梁行方向の方位がN78°Wである。梁行2間(4.4m)、桁行1

間(2.4m)以上である。桁行方向の柱列が梁行方向に対して東側へやや傾いている。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径は20cm～34cm、深さは6cm～16cmである。柱痕は径約16cmである。

出土遺物 柱穴P02から須恵器細片、土師器細片、鉄滓が出土している。

SB006(図版18)

検出状況 4区の南部で検出した。SB004の南側、SB005の西側に位置している。西北部は調査区外である。

形状規模 東西棟の建物と考えられ、桁行方向の方位がN75°Wである。梁行2間(4.4m)、桁行2間(5.4m)である。柱間の間隔は不均一で、2.8m～2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径は20cm～34cm、深さは7cm～16cmである。柱痕を確認できたものは1基のみで、径10cmである。

出土遺物 柱穴から遺物は出土していない。

3. 5区(図版17 写真図版42)

4区南東隅から東側に細く延びる調査区である。調査区の幅は1mと狭い。東端は大井川に面している。標高は4区南部と同じく、約5.8mの平坦面である。検出した遺構は柱列1基、ピットである。

SA001(図版19)

検出状況 5区の中中部で検出した。調査区が狭いため、柱列として認識しておく。

形状規模 柱間は3間で、全長は6.8mである。方位はN68°Wである。柱間の間隔は不均一、3.0m～1.7mである。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径は20cm～36cm、深さは16cm～32cmである。柱痕を確認できたものは1基のみで、径10cmである。

出土遺物 P01から須恵器細片、土師器細片、P02から土師器細片、P03から須恵器碗、P04から土師器細片が出土している。

P0501

検出状況 5区の中中部で検出した。

形状規模 平面は不整形で、長53cm、幅27cm、深さ4cmである。

出土遺物 埋土から土師器皿(956)が出土している。

4. 6区(図版22 写真図版43)

東西方向に長い調査区で、東端に4区南部、西部に8区北端が接している。西側には用水路を挟んで7区が位置している。4区南部と同様に削平を大きく受けており、標高約5.8mの平坦面である。

東端部に4区SB006の一部が含まれている以外は明瞭な遺構は検出していない。包含層からも手づくね成形の土師器皿が出土しているのみである。

5. 7区(図版20 写真図版43)

東西方向に長い調査区で、用水路を挟んで東側には6区、西側には13区北部が位置している。検出面は耕土の直下で、標高5.9～6.0mの平坦面である。

検出した遺構は調査区東端で検出した掘立柱建物跡3棟である。掘立柱建物跡は同じ場所でSB009・SB008・SB007の順に建て替えられたものである。調査区西端で検出した深さ60cm程度の落ち込みは近世以降のもので、用水路に関連する遺構と考えられる。

SB007(図版21 写真図版44)

検出状況 7区の東端で検出した。SB008・SB009の柱穴を切っている。南側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN72°Wである。梁行1間(1.5m)以上、桁行3間(8.2m)である。桁行方向の柱間は東側2間が約3mであるのに対して、西端が2.1mと短い。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径30cm～40cm、深さは43cm～14cmである。柱痕の径は15cm前後である。おおむね南列の柱の方が35cm以上と深い。

出土遺物 柱穴P02から土師器皿(958)、P04から土師器皿・羽釜、P05から土師器皿(959・960)、瓦器碗、P06から土師器皿、瓦質土器羽釜(961)が出土している。

SB008(図版21 写真図版44)

検出状況 7区の東端で検出した。北端の柱列のみを検出したもので、全ての柱穴がSB007の柱穴に切られており、南側はSB007の柱穴と共通すると推定される。南側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 形状はSB007と同一で、東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN72°Wである。梁行1間(1.7m)以上、桁行3間(8.2m)である。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径19cm～23cm、深さは22cm～10cmである。柱痕の径は14cm前後である。SB007と比べて径が小さく、深さも浅い。

出土遺物 柱穴P01から土師器皿、P02から瓦質土器羽釜、P03から土師器羽釜、P04から土師器皿(962)が出土している。

SB009(図版21 写真図版44)

検出状況 7区の東端で検出した。SB007の柱穴に切られている。南側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN70°Wである。梁行1間(1.1m)以上、桁行4間(8.1m)である。桁行方向の柱間は2.2m～1.8mと不均一で、東側ほど大きくなっている。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形である。掘形径は明らかに南列が28cm～35cmと大きく、北列が16cm～25cmと小さい。深さも南列が32cm～46cmと深く、北列が28cm～10cmと浅い。柱痕の径は13cm前後である。

出土遺物 柱穴P02から土師器皿、瓦質土器細片、P04から土師器皿(963・964)・羽釜、P05から土師器皿、瓦質土器羽釜(970)、P07から瓦質土器羽釜(971)、P08から土師器皿(967)、瓦質土器羽釜(968・969)、P09から瓦質土器羽釜、P10から土師器皿(966)が出土している。

6. 8区(図版22 写真図版43・45)

南北方向に長い調査区で、北側は6区西部に接し、南端部では用水路を挟んで西側には9区が位置している。検出面は耕土の直下で、標高5.8m前後の平坦面である。

検出した遺構は掘立柱建物跡3棟、溝、土坑などである。調査区南端で検出した深さ1m程度の落ち

込みは近世以降のもので、用水路に関連する遺構と考えられる。

SB010(図版23 写真図版45)

検出状況 8区の北部で検出した。西側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の2面庇建物と考えられ、桁行方向の方位がN78°Wである。梁行4間(6.8m)、桁行2間(4.4m)以上である。梁行方向の柱間は中央2間が1.8mであるのに対して、南北両端が1.6mと短い。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径15cm～25cm、深さは33cm～16cmである。柱痕の径は10cm前後である。最北の列のみ柱穴の断面が細く尖っており、杭であったと考えられる。

出土遺物 柱穴P06から土師器皿(972)が出土している。

SB011(図版23 写真図版46)

検出状況 8区の南部で検出した。西側は調査区外に延びているものと思われる。SB012と重複しているが、切れ合いはない。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN78°Wである。梁行2間(3.4m)、桁行3間(5.8m)以上である。桁行方向の柱間は2.2m～1.6mと不均一で、西側ほど短い。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径21cm～31cm、深さは10cm～50cmで、30cm以上の深いものが多い。柱痕の径は12cm～20cmである。

出土遺物 柱穴P01から土師器皿(973)、P03から土師器鍋、P04から土師器皿・鍋、P05から土師器皿、P06から土師器皿、P07から土師器皿、瓦質土器羽釜、P08から土師器皿、P10から土師器皿(974)が出土している。

SB012(図版24 写真図版46)

検出状況 8区の南部で検出した。西側は調査区外に延びているものと思われる。SB011と重複しているが、切れ合いはない。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられ、桁行方向の方位がN82°Wである。梁行2間(3.6m)、桁行2間(4.3m)以上である。桁行方向の柱間は2.6m～1.7mと不均一である。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径21cm～46cm、深さは26cm～50cmで、30cm以上の深いものが多い。柱痕の径は10cm～16cmである。

出土遺物 柱穴P01から土師器皿(976)、P02から土師器皿(975)、瓦質土器羽釜、P03から須恵器碗、P04から土師器皿、P05から土師器皿、瓦質土器細片、平瓦(977)、P06から土師器皿、瓦質土器羽釜、P07から土師器皿、須恵器細片、P08から土師器羽釜が出土している。

ピット

検出状況 8区の南部で検出した。SB011・SB012の柱穴以外にも建物に復元できなかった柱穴が約50基存在している。おそらく、この2棟以外にも建物が存在するものと思われる。

このうち遺物が出土しているのは21基である。ただし、細片のみが多く、図化を行ったのは4点のみである。

出土遺物 P0801から亀山焼甕(978)、P0802から土師器羽釜(979)、P0803から土師器羽釜(980)、P0804から瓦質土器三脚(981)が出土している。

SK004

検出状況 8区の南部で検出した。SB011・SB012の南側に位置している。東側は調査区外である。

形状規模 南北80cm、東西80cm以上で、深さは6cmと浅い。

出土遺物 坑内床面から径15cm以下の礫とともに土師器皿(982)、瓦質土器三足付羽釜(983)が出土している。

SD008

検出状況 8区の南部で検出した。SB011・012の西側に沿って位置している。南側は近世以降の落ち込みに切られ、北側は調査区外である。

形状規模 南北方向の直線的な溝である。長さ4.0m以上、幅40cmで、深さは8cmと浅い。

出土遺物 埋土から径15cm以下の礫とともに土師器皿、瓦質土器羽釜(984)が出土している。

7. 9区(図版22 写真図版47)

8区南端部とは用水路を挟んで東側、10区西端部とは用水路を挟んで北側に位置している。検出面は耕土の直下で、標高5.7m前後であるが、調査区内のほとんどが8区南端部で検出した近世以降の落ち込みと一連の落ち込みと考えられる。

8. 10区(図版25・26 写真図版48)

東端部では9区と用水路を挟んで南側に位置し、西端部では北側に11区が接続し、南西側には20区、南東側には21区が続いている。検出面は耕土の直下で、標高は東部の一部が5.5mである他は、5.3m前後で、用水路の北側に比べてかなり低い。

東端部では東西方向の用水路側に落ち込みが存在し、西部では南北方向に溝状遺構が存在するが、時期は近世以降のものである。

中世以前の遺構としては古代の土坑(SK005)のみが存在する。

SK005

検出状況 10区の東部の検出面のやや高い部分で検出した。西端は検出面が1段低いが、遺構部分の底の部分もこの部分がもっとも低い。

形状規模 平面は東西に長い不整形である。東西3.4m、幅1.3m以上で、深さは17cmである。

出土遺物 埋土から須恵器壺(986)が出土している。

9. 11区(図版26 写真図版48)

6区西部から幅1.8mで北側に延びる調査区である。用水路を挟んで北側に12区が続いている。

検出面は耕土・床土の直下で、標高は5.3～5.4mである。

調査区中央付近では東西方向の溝を検出し、北端部では現用水路の前身の用水路の南肩部を検出している。いずれも近世以降のものと考えられる包含層からは白磁碗(987)、青磁碗(988)が出土している。

10. 12区(図版26 写真図版48)

調査区は幅1.8mで11区と用水路を挟んで北側に続いている。現地表は11区と比べて30cm程度高いが、検出面の標高は5.15m前後と11区より15cm程度低い。

調査区南端部で現用水路の前身の用水路の南肩部を検出しているが、近世以降のものと考えられる。

11. 13区(図版27 写真図版49)

調査区は北端部で2区の東側に接し、南北方向の用水路を挟んで東側に7区が位置している。南端部は西へ屈曲する部分で14区と区分する。検出面は表土及び床土直下で、標高は北部で約6.0m、南端部で約5.85mである。

北端部で掘立柱建物跡を3棟検出した。

SB013(図版28 写真図版49)

検出状況 13区の北部で検出した。北側は調査区外に延びているものと思われる。2区では柱穴を検出していないことから、西側へは延びない。SB14の柱穴に切られている

形状規模 検出部分が少ないため建物の構造は不明である。長辺の方位はN68°Wである。東西3間(8.2m)、南北1間(2.0m)以上である。東西方向の柱間は西側2間が3.0mであるのに対して、東端が2.2mと短い。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、深さは48cm～20cmである。柱痕の径は15cm前後である。

出土遺物 柱穴P04から須恵器細片、土師器細片、P07から須恵器碗(989)、土師器皿・鍋、砥石(S4)、石鏃(S5)、P08から土師器鍋、須恵器細片が出土している。

SB014(図版28 写真図版49)

検出状況 13区の北部で検出した。北側は調査区外に延びているものと思われる。2区では柱穴を検出していないことから、西側へは延びない。SB13の柱穴を切っている。西側の列のみ近接して柱穴が切れ合い、外側の方が新しいものと思われる。

形状規模 検出部分が少ないため建物の構造は不明であるが、南北棟の可能性が高いものと思われる。桁行の方位はN23°Eである。梁行1間(古2.3m、新2.5m)、桁行1間(2.2m)以上である。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径44cm～24cm、深さは50cm～25cmである。柱痕の径は15cm前後である。

出土遺物 柱穴P01から須恵器碗、P03から土師器細片、P06から須恵器碗(990)が出土している。

P1301

検出状況 13区の北部のSB013付近で検出した。

形状規模 平面は円形で、直径32cm、深さ39cmである。

出土遺物 埋土から土師器皿(991)が出土している。

12. 14区(図版27・29 写真図版50)

調査区は北端部で13区南端部より引き続き南西に屈曲した部分である。用水路を挟んで南側に15区が続いている。

検出面は表土及び床土直下で、標高は5.8m前後である。

西半部で掘立柱建物跡を2棟検出した。

SB015(図版30 写真図版51・52)

検出状況 14区の西部で検出した。SB016の北東側に位置している。南東側は調査区外に延びているものと思われる。建物内の東辺に沿って土坑SK006を検出している。

形状規模 南北棟の総柱建物と考えられるが、南西隅の柱穴は検出できなかった。桁行方向の方位はN22°Eである。梁行2間(4.9m)、桁行3間(6.1m)である。梁行方向の柱間は東側が2.7mであるのに対

して、西側が2.2mである。桁行方向の柱間は約2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径20cm～35cm、深さは34cm～10cmである。

柱痕の径は15cm前後である。

土 坑 建物内の東辺に沿って検出した。南北4.6m以上と長細く、幅2.0m、深さ14cmである。底面は踏み込んだかのような凹凸が存在する。

出土遺物 柱穴P02から土師器細片、P07から土師器細片が出土している。SK006の埋土から須恵器小皿・壺、鉄滓が出土している。

SB016(図版31 写真図版50・52)

検出状況 14区の西部から15区の東北隅にかけて検出した。SB015の南西側に位置している。北西および南東側は調査区外に延びているものと思われる。

形状規模 東西棟の総柱建物と考えられるが、北端と西端の柱列は縁か柵列の可能性はある。桁行方向の方位はN75°Wである。梁行5間(9.0m)、桁行4間(9.7m)である。梁行方向の柱間は南3間が約2.0mであるのに対して、その北側が1.8m、最北部が1.0mである。桁行方向の柱間は西3間が2.7m前後であるのに対して、東端が1.7mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～40cm、深さは60cm～30cmである。柱痕の径は15cm前後である。

出土遺物 柱穴P01から須恵器碗(992・993)、P02から須恵器細片、P03から須恵器壺、P04から須恵器碗、P08から須恵器碗(994)、P09から土師器細片、P11から土師器小皿(995)、P12から須恵器碗(996・997)、土師器鍋、P13から須恵器細片、土師器細片、P14から須恵器碗、P15から須恵器碗、土師器皿・鍋、P16から須恵器碗(998)が出土している。

ピット(写真図版50)

検出状況 8区の南部で検出した。SB015・SB016の柱穴以外にも建物に復元できなかった柱穴が約40基存在している。特にSB015・SB016の間付近で多く見つかった。

このうち遺物が出土しているのは12基である。ただし、細片のみが多く、図化を行ったのは4点のみである。

出土遺物 P1401から鉄滓(M01)、P1402から土師器小皿(1001)、P1403から土師器羽口(1000)、P1404から瓦質土器皿(999)が出土している。

13. 15区(図版29・32 写真図版53)

調査区東部は用水路を挟んで北側に14区が続き、西側も用水路を挟んで16区が続いている。

検出面は表土及び床土直下で、標高は5.7m前後である。

遺構は、西部で時期不明の掘立柱建物跡が1棟(SB017)、東部で中世の掘立柱建物跡1棟(SB016)を検出した。SB016は14区で検出した建物跡の南端部である。その他は、近世以降の耕作に関わる溝、近代の布掘り状の基礎、時期不明のピットなどである。

SB017(図版32)

検出状況 15区の西部で検出した。調査区外の北側に延びている可能性がある。

形状規模 南北棟の側建物である。桁行方向の方位はN26°Eである。梁行1間(3.8m)、桁行2間(4.2m)以上である。桁行方向の柱間は2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～25cmで、深さは45cm～30cmである。柱痕は検出できなかった。

出土遺物 柱穴から遺物は出土していない。

14. 16区 (図版33 写真図版53)

調査区は15区の西側に位置し、東端部は北側に3区、南側に19区が続いている。東部は用水路を挟んで北側に14区が続き、西側も用水路を挟んで16区が続いている。西側は17区に接続している。

検出面は表土及び床土直下で、標高は約5.7mである。

遺構は、中部で弥生時代の竪穴住居跡1棟(SH001)、東部で弥生時代の掘立柱建物跡1棟(SB018)、時期不明の掘立柱建物跡1棟(SB019)、古代の溝1条(SD009)、縄文時代の焼土面(SF001)西部で中世の掘立柱建物跡3棟(SB020～SB022)を検出した。

SF001 (図版33)

検出状況 16区東部で検出された。SB018の南辺柱列の北側に位置している。

形状規模 長20cm程度と長15cm程度の焼土面が広がっている。その周囲には検出面の地山に染み込むように炭化物の散布が認められた。

出土遺物 遺構に伴って遺物は出土していない。炭化物は炭素14年代測定によると 4570 ± 30 yrBPの結果が得られた。

SH001 (図版34 写真図版54・55)

検出状況 16区東部で検出した。厚さ約15cmの耕土を除去すると、厚さ4cm足らずの床土が部分的に現れ、その面ですでに円形の竪穴住居址の輪郭が確認できたため、一部拡張して全容を把握した。

形状規模 直径5.25m～5.55mを測り、ほぼ正円形の平面形態をもつ。周壁溝は確認できない。床面までの深さは15cmほどしか残存しておらず、上面を削平されたものであろう。埋土中には多くのサヌカイト片や軽石が含まれていた。

中央土坑 東西0.75m、南北0.6mの不整な円形で、深さは12cmほどしかない。周囲の一部が床面より高くなっており、周堤帯を有していたものかもしれない。埋土の上層には炭混じりの部分があるが、下層は暗褐色を呈している。

柱 穴 床面で4ヶ所の柱穴を検出でき、柱間は2.15～2.7mと等距離ではないが、支柱穴と思われる。柱個々の規模も直径30cm、深さ52cmのものが1基あるが、他は直径15cmのものや、深さ23cmのものがあるなど貧弱である。

出土遺物 出土した土器片はすべて小片であるが、弥生時代前期の特徴を有している。埋土を水洗選別したところサヌカイト製石器(S9～S23)、チップ、剥片が多量に見つかった。また、軽石片も多量に含まれており、支柱穴埋土からも出土している。竪穴住居東側には皿状の落ち込みを検出したが、その周辺の埋土上層には多くの軽石が見られた。水洗選別ではS8の濃赤色を呈するガラス小玉も1点検出できたが、混入であろう。

備考 弥生時代前期の竪穴住居としては本調査内では唯一のものであるが、近辺には同時代と考えられる掘立柱建物(SD018)も確認されている。この住居内或いは周辺でサヌカイト製の石器の製作を行っていたことは確実と思われるが、出土した石器に石錐が多いことや軽石が多く出土していることから、何か別の製品の製作を行っていた可能性がある。

SB018 (図版35 写真図版55)

検出状況 16区の東部から3区の南端部にかけて検出した

形状規模 南北棟の側柱建物である。桁行方向の方位はN42°Eである。梁行2間(3.4m)である。桁行は北部の柱列が十分に検出できなかったためはっきりしないが、4間(7.0m)と推定される。梁行方向の柱間は1.7mである。桁行方向の柱間は南1間が2.0mで、柱間が長いことから、全体の柱間の間隔は整っていないものと考えられる。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、深さは20cm～35cmである。柱痕は検出できなかった。柱穴の埋土は竪穴住居跡(SH001)と同様に黒色系である。

出土遺物 柱穴から遺物は出土していない。

SB019(図版35)

検出状況 16区の東部から19区の北端部にかけて検出した。

形状規模 東西棟の側柱建物である。桁行方向の方位はN70°Wである。梁行1間(2.6m)、桁行2間(3.6m)で、桁行方向の柱間は1.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、深さは15cm～25cmである。柱痕の径は15cm前後である。

出土遺物 柱穴から遺物は出土していない。

SB020(図版36 写真図版56・57)

検出状況 16区の西部で検出した。SB021・SB022の東側に位置し、遺構は北側へ続くものと思われる。

形状規模 南北棟の総柱建物と推定される。桁行方向の方位はN22°Eである。梁行2間(4.5m)、桁行1間以上(2.1m)で、梁行方向の柱間は約2.3mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、深さは30cm～55cmである。柱痕の径は15cm前後である。

出土遺物 柱穴P03から須恵器碗、P05から須恵器碗、P06から須恵器碗(1007)、土師器鍋が出土している。

SB021(図版36 写真図版56・57)

検出状況 16区の西部で検出した。SB020の西側に位置し、SB022と重複している。遺構は北側へ続くものと思われる。

形状規模 南北棟と推定されるが、形式は不明である。桁行方向の方位はN28°Eである。梁行2間(4.9m)、桁行1間以上(2.0m)で、梁行方向の柱間は東側が2.6m、西側が2.3mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm～30cm、深さは44cm～55cmである。柱痕の径は10cm前後と杭状に細い。

出土遺物 柱穴P01から須恵器細片が出土している。

SB022(図版37 写真図版56・57)

検出状況 16区の西部で検出した。SB020の西側に位置し、SB021と重複している。遺構は北側へ続くものと思われる。南西隅の西辺に沿って土坑SK007が位置している。

形状規模 南北棟の総柱建物である。桁行方向の方位はN13°Eである。梁行3間(6.0m)、桁行3間以上(6.0m)で、梁行・桁行方向とも柱間は2.0m前後である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm～25cm、深さは30cm～50cmである。柱痕の径は15cm前後である。

土 坑 建物内南西隅の西辺に沿って検出した。平面楕円形で、南北50cm、東西23cm、深さ13cmである。底面に薄く黒色のシルト層が堆積している。

出土遺物 柱穴P07から須恵器碗、P11から須恵器碗(1008)、土師器鍋、P12から須恵器碗、SK007から土師器皿(1009)が出土している。

SD009(図版37 写真図版58)

検出状況 16区の中中部で検出した古代の溝である。南北とも調査区外に延びている。

形状規模 検出した長さは6mで、幅は約50cmである。断面は浅いV字形である。

出土遺物 埋土の下層から須恵器杯(1010)が出土している。

15. 17区(図版38 写真図版59)

調査区は南北に長い。16区の西側に位置し、南側は用水路を隔てて18区に続いている。調査区の西隣は苦編池の堤である。

検出面は表土及び床土直下で、標高は北端で6.0m、南端で5.4mである。地形は全体に西側へ傾いており、苦編池の下に谷、旧河道などが存在するものと思われる。

遺構は、北部で弥生時代の溝1条(SD011)、南部で古代～中世の旧河道1条(SD012)を検出した。

SD011(図版39 写真図版59)

検出状況 17区の北部で検出した弥生時代の溝である。調査区西側から孤状にせり出し、南北両端とも調査区外である。

形状規模 検出した長さは10mで、幅は約40cmである。深さは10cmで、断面は浅いU字形である。埋土はやや黒味の強い灰色土である。

出土遺物 埋土から弥生土器細片が出土している。

SD012(図版39)

検出状況 17区の南部で検出した旧河道である。南北方向に流れる旧河道の東肩部と南端部に東西方向に折れ曲がる旧河道の北肩部を検出した。南肩部は南側の18区では検出しておらず、調査区間(約6m)の間で収まるものと思われる。奈良時代から16世紀までの土器・陶磁器が出土しており、複数の河道が切り合っている可能性もある。

形状規模 検出した長さは20mで、幅は7m以上である。肩部は比較的切り立っており、水の流れは強かった段階があったようである。

出土遺物 埋土から須恵器杯(1011)、須恵器碗(1012)、須恵器捏鉢(1013・1014)、備前焼播鉢(1015)、白磁碗(1016)、染付磁器碗(1017)、管状土錘(1018)などが出土している。

16. 18区(図版40 写真図版60)

調査区は南北に長い。17区とは用水路を隔てて南側に位置し、南側に29区が続いている。調査区の西隣は苦編池の堤である。

検出面は表土及び床土直下で、標高は北端で5.4m、南端で4.9mである。

遺構は、南部で中世の溝1条(SD013)を検出した。北端部で検出した石組井戸は近代のものである。

SD013(図版41 写真図版60)

検出状況 18区の南部で検出した中世の溝である。東西方向の溝で、東西両端とも調査区外である。

形状規模 検出した長さは5.4mで、幅は約65cmである。深さは8cmでと浅い。東部では径40cm以下の礫が散乱していた。

出土遺物 埋土から須恵器碗(1020～1022)、瓦器碗(1023)、須恵器小皿(1024)、土師器羽口(1025)、鉄滓(M2～M7)が出土している。

第4節 C地区の調査

1. 調査の概要(図版10 写真図版4)

C地区はB地区の南側のA—3区・B・C—2・3区に位置している。C地区は周辺がすでに工事にかかっていたため、水路部分や里道部分も含めて調査を実施した。19区～21区の3地区が該当し、19区と20区は接続し、21区はやや東に離れている。

2. 19区(図版33・35・42～44 写真図版61・64・65・70)

16区の南側、27区の北側、18区の東側に位置する南北に長い調査区で、南端がやや屈折する。中央部で20区が接続する。南端の一部を除いて耕作土及び床土直下が遺構検出面となる。南端は調査前の水田区画の段があり、南側は土壌層が厚く堆積していた。遺構検出面は、旧水路を境に北端では約5.8m、中央部分は5.4m、南端では約4.8mである。

検出した遺構は掘立柱建物・土坑・溝・流路がある。中央部の流路SD015の埋土を基盤とする掘立柱建物群周辺では偶蹄類の蹄痕跡が多数検出できた。なお、SB019はすでに16区で記述した。

SD014(図版45 写真図版62)

検出状況 調査区北部に位置する。SB024の柱穴と溝SD016・SD017に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する流路である。規模は幅10.6m、深さ40cm、延長6m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(26)と二次加工のある剥片(S27)が出土している。

SD015(写真図版62)

検出状況 調査区中央部に位置する。溝SD016、掘立柱建物SB025～SB030の柱穴、土坑SK009・SK010に切られている。

形状規模 幅広く大きく蛇行する流路である。規模は東側部分しか検出できていないため、幅7m以上であるが不明である。深さ最大35cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 縄文土器底部(1)が出土している。

SK008(図版45)

検出状況 流路SD014の北側に位置する。

形状規模 平面形は円形で、中央部は一段深くなっている。規模は南北0.25m、東西0.35m、深さは15cmを測る。

埋土 埋土には焼土や炭を多量に含んでいる。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD010

検出状況 調査区北端に位置し、B地区の16区に続く。SB019と重複関係にあるが先後関係は不明である。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位はN21°Eである。規模は幅20cm～30cm、深さ3cm、延長8.8mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD016(図版45 写真図版63)

検出状況 調査区の全体に位置する。検出面の削平状況や幅によって、深さは一定ではない。流路SD014・SD015を切り、溝SD017・SD018、掘立柱建物SB025～SB030の柱穴、土坑SK009に切られている。

形状規模 北から南に向かって蛇行して流れ、調査区外へ伸び、再び調査区内に戻っている。規模は幅2.5m～1.5m、深さ40cm～20cmを測り、断面形は浅いU字形を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢(2)、弥生土器広口壺(24)、弥生土器長頸壺(25)が出土している。

SD017(図版46)

検出状況 調査区北部に位置する。流路SD014、溝SD016を切っている。

形状規模 調査区に斜交する直線的な溝で、方位はN62°Eである。規模は幅0.35m、深さ6cm、延長9m以上を測り、溝底は凹凸を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD018

検出状況 調査区南部に位置する。溝SD016を切り、並行する現代水路に切られており、一部攪乱を受けている。

形状規模 東西方向の直線的な溝で、方位はN85°Wである。規模は幅約2m、深さ33cm、延長5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器羽釜(1032)、染付磁器皿(1035)が出土している。

SK009(図版46 写真図版70)

検出状況 調査区中央部に位置し、東側は調査区外に伸びているため本来の規模は不明である。溝SD016と流路SD015に切られている。

形状規模 平面形は本来、円形と考えられ、北側に張り出しがある。断面形はU字状である。規模は南北2.8m、東西0.7m以上、深さは18cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK010(図版46 写真図版70)

検出状況 調査区中央部に位置し、西側は調査区外に伸びているため本来の規模は不明である。掘立柱建物SB025・SB026・SB030の柱穴に切られている。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北8.5m、東西1.7m以上、深さは12cmを測る。

出土遺物 須恵器碗(1033)が出土している。

SB023(図版47 写真図版61)

検出状況 調査区北端東部に位置する。北側と東側は調査区外に伸びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN25°Eの掘立柱建物である。南北2間(4.4m)以上×東西1間以上の規模である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm前後、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～40cmである。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB024(図版47 写真図版64)

検出状況 調査区北部に位置する。東側と西側は調査区外に伸びている可能性があるため本来の規模は不明である。下層の流路SD014を切っており、溝SD017に切られている。

形状規模 南北軸がN21°Eの建物である。南北2間(4.6m)以上×東西1間(3.2m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.3m、東西1間3.2mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径22cm～28cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～30cmである。P01とP04は柱痕跡が掘形より下に沈み込んでいる。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB025(図版48 写真図版67・70)

検出状況 調査区中央南半部の掘立柱建物群の北端に位置する。西側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。下層の流路SD015・SD016と掘立柱建物SB026を切っており、土坑SK010に切られている。掘立柱建物SB030と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN21°Eの総柱建物である。南北3間(6.3m)×東西3間(7.7m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西1間2.6m・2.9m・2.2mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径22cm～32cm、柱痕は径約15cm、深さは約50cm～20cmである。P01・P06・P13には石が入れられ、P10には木質が残存していた。

出土遺物 柱穴P09からは土器の小片が出土している。

SB026(図版49 写真図版69)

検出状況 SB025の南側に位置する。東側と西側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。下層の流路SD015・SD016を切っており、掘立柱建物SB025と土坑SK010に切られている。掘立柱建物SB030と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物である。南北4間(7.9m)以上×東西2間(5.2m)以上の規模である。建物の柱間は、南北方向の外が2.0m、内が1.95m、東西1間3.1m・2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～32cm、柱痕は径約20cm、深さは約20cm～40cmである。

出土遺物 柱穴P06・P10・P13～P15からは土器の小片が出土している。

SB027(図版50 写真図版68・69)

検出状況 SB026の南側に位置する。西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の流路SD015・SD016を切っている。SB028・SB029と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物である。南北4間(8.6m)×東西1間(2.4m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.15m、東西1間2.4mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～40cm、柱痕は径約20cm、深さは約20cm～400cmである。P08の上部には石が、P09の底には炭化材が残存していた。

出土遺物 柱穴P02・P03からは土師器小皿(1028・1029)が、P06・P10からは土器の小片が出土している。

SB028(図版50 写真図版68・69)

検出状況 西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の流路SD015・SD016を切っている。SB027・SB029と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN21°Eの総柱建物である。南北3間(6.5m)×東西2間(4.3m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.15m、東西1間2.15mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～50cmである。P02・P04・P10の底部には礎板が残存しており、P02は鼻線を鋸で切断した痕跡が残る。

分析 SB028から出土した木材のうち、3点の樹種を分析した。P02・10はスギであり、P04はカキノキ属であった。

出土遺物 柱穴P03からは須恵器椀(1030)が、柱穴P06・P11からは土器の小片が出土している。

SB029(図版51 写真図版68)

検出状況 東側と西側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。流路SD015・SD016を切っている。SB027・SB028と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN20°Eの建物である。南北2間(3.9m)以上×東西1間(2.2m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.8m・2.1m、東西1間2.2mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm、柱痕は径約15cm、深さは約8cm～25cmである。

出土遺物 柱穴P05からは土師器小皿(1031)が、柱穴P01からは土器の小片が出土している。

SB030(図版51 写真図版67・69)

検出状況 SB025と一部重複し東側に位置する。下層の溝SD015・SD016を切っている。掘立柱建物SB025・SB026と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN8°Eの総柱建物である。南北4間(8.4m)×東西4間(9.3m)の規模である。建物の柱間は、南北方向の外が2.05m、内が2.15m、東西方向の外が2.5m、内が2.15mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは約22cm～50cmである。P10の底部には石が、P09・P12・P14の底部には礎板が残存していた。

分析 SB030から出土した木材のうち、3点の樹種を分析した。P05・P09はヒノキであり、P14はスギであった。

出土遺物 柱穴P05・P10・P13・P14からは土器の小片が、P13からは鉄釘(M8)が出土している。

3. 20区(図版52・53)

19区の中央部分から東側に延びる調査区で、B地区の10区の西側に位置する。西端は屈折し、東部では水路部分の調査も行っている。水路部分を除いて、耕作土及び床土直下が遺構検出面であり、削平が著しく、遺構密度は低い。検出した遺構は溝のみである。水路の最終的な幅は2m程度であるが、古い段階は幅7mを測り、徐々に平坦化されており、規模が縮小された様子がうかがえる。

SD019(図版53 写真図版71)

検出状況 調査区西部に位置し、直交する溝SD020に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な流路である。規模は幅7m～9m、深さ25cm、延長6m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD020(図版53 写真図版71)

検出状況 水路より西側に位置し、SD019を切っている。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位はN68°Eである。規模は幅1.5m前後、深さ10cm、延長30mを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

3. 21区(図版54・55・59 写真図版72・73)

21区はC地区東端に位置し、20区の東側にあたる東西に長い調査区である。D地区の23区の東側に接し、道路の形状により弯曲している。調査対象地域の最東端にあたり、東側は大井川が流れている。耕作土・床土直下が遺構検出面であり、削平が著しい。南北方向の里道及び水路を境に段差ができており、南側には現代の切りあい関係がある水溜め遺構が5基並んでいる。

検出した遺構には掘立柱建物、土坑、土壙墓、溝、流路がある。

SD021(図版54 写真図版72)

検出状況 調査区東部に位置する。埋没後、掘削が行われた溝SD022～SD024、溝SD025～SD027、掘立柱建物SB031～SD033の柱穴、土坑SK011・SK012・SK014、土壙墓ST002に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な流路で北から南に向かって傾斜し流れる。浅いU字状の断面をもち、規模は幅12m～13m、深さ最大80cm、延長12.5m以上を測る。

出土遺物 縄文土器深鉢(3)が出土した。

SD022(図版54 写真図版72)

検出状況 流路SD021の東肩部分を切り、溝SD026・SD027、掘立柱建物SB032の柱穴、土壙墓ST002に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位は真北を向き、北から南に向かって流れる。U字状の断面をもち、規模は幅1.2m、深さ最大40cm、延長12.5m以上を測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD023

検出状況 流路SD021の西肩部分を切り、溝SD027に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交するやや蛇行する溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.2m、深さ5cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD024(写真図版72)

検出状況 調査区東端に位置し、流路SD021の東肩部分を切る。

形状規模 東から西に向かって流れる直線的な溝で、方位はN56°Eである。U字状の断面をもち、規模は幅0.6m、深さ7cm、延長3.7m以上を測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB031(図版56 写真図版75)

検出状況 調査区南端に位置し、南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。溝SD021を切っている。

形状規模 南北軸がN24°Eの総柱建物である。南北2間(4.1m)以上×東西2間(4.7m)以上の規模で、北西隅のみ1本北に柱が伸びている。建物の柱間は、南北1間2.05m、東西1間2.4m・2.3mである。

柱穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、深さは約20cm～22cmで、柱痕は明瞭ではない。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB032(図版56 写真図版75)

検出状況 調査区南端に位置し、南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。溝SD021・SD022を切っており、SB033と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 東西軸がN64°Wの側柱建物である。南北1間(2.2m)以上×東西2間(4.0m)の規模である。

建物の柱間は、南北1間2.2m、東西1間2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cmである。

出土遺物 柱穴P04からは土器の小片が出土している。

SB033(図版56)

検出状況 調査区南端に位置し、南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。溝SD021を切っており、SB032と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 東西軸がN64°Wの柱列で柵の可能性もある。東西1間(2.1m)の規模である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm、深さは20cmで、柱痕は不明である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK011(図版57 写真図版73)

検出状況 掘立柱建物SB032の北側、SD027の南に近接する。溝SD021を切っている。

形状規模 平面形は東西に長い隅丸長方形で、断面形は浅い逆台形である。規模は南北1.0m、東西1.2m、深さは10cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK012(図版57 写真図版73)

検出状況 土坑SK011の西側に位置し、溝SD021を切っている。

形状規模 平面形は南西側に一部張り出しがある不整円形で、断面形には凹凸がある。規模は南北1.7m、東西1.3m、深さは12cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK013(図版57 写真図版73)

検出状況 掘立柱建物SB031の北側に位置し、掘立柱建物に伴わない柱穴により切られている。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北1.3m、東西0.9m、深さは10cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK014

検出状況 掘立柱建物SB032の西側に位置し、流路SD021を切っており、西端は攪乱を受けている。

形状規模 平面形は東西に長い長方形で、断面形は浅い逆台形である。規模は南北1.7m、東西3.8m、深さは15cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD025

検出状況 調査区北東端に位置する。南端で溝SD026と直交して接しており、溝SD021を切っている。北端は調査区外に伸びている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN22°Eである。規模は幅0.8m～1.0m、深さ10cm、延長5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD026

検出状況 溝SD026の南側に直交して続く。溝SD021・SD022、土壙墓ST002を切る。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位はN77°Wである。調査区の東側に延びる。規模は幅0.7m前後、深さ15cm、延長3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD027(図版57 写真図版73)

検出状況 調査区中央部に位置する。流路SD021、溝SD022・SD023を切っている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN63°Wである。規模は幅0.6m～1.0m、深さ12cm、延長19m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋土 埋土は灰黄褐の極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD028(図版57)

検出状況 調査区西端に位置する。SB037の柱穴を切っている。

形状規模 調査区西端に並行する直線的な溝で、部分的に途切れており、方位はN24°Eである。規模は幅0.3m、深さ20cm、延長は途切れながら16m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋土 埋土は灰黄褐の極細砂である。

出土遺物 鉄釘(M9)が出土した。

ST002(図版58 写真図版74)

検出状況 調査区の北東部に位置する。溝SD021・SD022を切り、溝SD026を切っている。耕作等の影響で削平が著しい。

形状規模 墓壙の平面形は隅円長方形で、全長125cm、幅64cm、深さ10cmの断面形は逆台形を呈する。木棺の痕跡は不明であるが、蓋板の木質の痕跡がたわみこんだ状況で確認できた。木棺の主軸方位はN70°Wである。

頭位 遺骸は残っていなかったが、遺物の出土位置から頭位は西方向であると考えられる。

出土遺物 棺内の西小口部分北側からは白磁碗(1040)が、南側から土師器小皿が4枚(1036～1039)内側に傾いた状態で出土した。

第5節 D地区の調査

1. 調査の概要(図版10・11 写真図版6・7)

D地区は平成17年度の第1次の調査地区である。B・C地区の南側のA-3区、B-2～4区、C・D-3・4区、E-3～5区に位置している。水路部分や里道部分が調査不可能であったため、調査区を分割して調査を実施した。22区～39区の18地区が該当する。

2. 22区(図版59 写真図版76)

22区は、D地区東北端に位置し、23区東部から北側に向かって直交して延びる南北に長い調査区である。北側には里道を挟んで、B地区の10区が位置する。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、削平が著しい。中央部のみで柱穴群を検出し、掘立柱建物3棟を確認した。北西端には現代の水溜がある。

SB034(図版60 写真図版76)

検出状況 調査区中央部に位置し、西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。SB035

と重複関係にあるが先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN15°Eの総柱建物である。南北2間(5.7m)以上×東西1間(2.0m)以上の規模である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm前後、柱痕は径約15cm、深さは約25cm～50cmである。P02の上部からは石が出土した。

出土遺物 柱穴P02以外からは土器の小片が出土している。

SB035(図版60)

検出状況 調査区中央部に位置し、SB034と重複している。西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。南北1間(2.1m)以上×東西1間(2.1m)以上の規模である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、深さは約10cm～15cmである。P01の上部からは石が出土した。

出土遺物 柱穴P01からは土器の小片が出土している。

SB036(図版60 写真図版76)

検出状況 調査区中央部のSB034の南側に位置している。西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN11°Eの総柱建物である。南北1間(2.7m)以上×東西2間(3.2m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.7m、東西1間1.6mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約20cm、深さは約30cm～45cmである。

出土遺物 柱穴P04からは土器の小片が出土している。

3. 23区(図版59・61・70 写真図版77・78)

23区は22区の南側に直交して続く、東西に長い調査区である。東側はC地区の21区が水路を挟んで存在し、南側には24区が直交して続いている。西側は水路を挟んで27区が存在する。削平が著しく、耕作土及び床土直下が遺構検出面である。西端の水路際は一段下がっている。検出した遺構は掘立柱建物2棟、土坑、溝である。

SD029(図版62)

検出状況 調査区中央部の溝SD029の西側に位置する。土坑SK15と溝SD031・SD035に切られている。

形状規模 調査区を北から南に向かって僅かに蛇行する溝である。規模は幅50cm、深さ6cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD030(図版62 写真図版80)

検出状況 調査区中央部に位置し、群をなす溝の中で最東端にある。

形状規模 調査区を北から南東に向かって大きく弯曲する溝である。規模は幅75cm、深さ18cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD031(図版62 写真図版80)

検出状況 調査区中央部の溝SD030の西側に位置する。土坑SK15と溝SD030を切り、溝SD034・SD035に切られている。

形状規模 調査区を北西から南東に向かって弯曲する溝である。規模は幅40cm、深さ14cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD032(図版62 写真図版80)

検出状況 調査区中央部の溝SD031の西側に位置する。溝SD034・SD035に切られている。

形状規模 調査区を西から南に向かって大きく弯曲、蛇行する溝である。規模は幅1.0m、深さ20cm、断面形はV字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD033(図版62 写真図版80)

検出状況 溝SD032の西側、調査区の中央部に位置する。掘立柱建物SB038の柱穴と土坑SK017により切られている。

形状規模 調査区を北西から南西に向かって蛇行する溝である。規模は幅0.9m、深さ32cm、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK015(図版62 写真図版81)

検出状況 調査区中央部の溝SD030とSD031の間に位置し、溝SD030を切り、SD031に切られている。

形状規模 平面形は東西に長い隅丸長方形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北0.95m、東西0.95m以上、深さは30cmを測る。

出土遺物 土師器甕(143)がある。

SK016(図版62 写真図版81)

検出状況 調査区中央部の溝SD029とSD030の間に位置する。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形はU字状である。規模は南北1.6m、東西1.1m、深さは22cmを測る。

SB037(図版63 写真図版82)

検出状況 調査区東端に位置し、東側は21区に跨っている。南東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。南北4間(8.3m)×東西3間(7.6m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間約2.1m、東西1間2.4m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは30cm～45cmである。P01・P08は中程から石が、P03・P12は上部から石が、P02・P07は多数の石が出土し、P2は石と一緒に椀形鉄滓が、P07は石と一緒に砥石が出土した。

出土遺物 柱穴P02からは鉄滓(M10)、P07からは須恵器椀(1044)、土師器鍋(1045)、砥石(S28)、P09からは土師器小皿(1046・1047)が出土している。他にP01・P03・P04・P08・P12からは土器の小片が出土している。

SB038(図版64 写真図版79)

検出状況 調査区中央部の溝SD034の西側、溝SD035の南側に位置する。南東隅は調査区外に延びている。

形状規模 南北軸がN20°Eの総柱建物である。南北4間(8.4m)×東西3間(7.2m)の規模である。建物の柱間は、南北方向が外2.0m、内2.2m、東西1間2.4m・2.2m・2.6mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径約30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～40cmである。P07の底部には木質が残存していた。

出土遺物 柱穴P06・P14・P16からは土器の小片が出土している。

SB039(図版63)

検出状況 掘立柱建物SB038の西側、調査区西部に位置する。北西隅柱は試掘坑により攪乱を受け、南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN20°Eの総柱建物である。南北1間(2.5m)以上×東西2間(6.7m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.5m、東西1間3.35mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm～25cm、柱痕は径約15cm、深さは約10cm～25cmである。

出土遺物 遺物は出土していない。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD034(図版65 写真図版80)

検出状況 調査区中央部に位置する。溝SD031・SD032を切り、溝SD035に切られている。

形状規模 調査区を北から南に斜交する直線的な溝で、方位はN15°Eである。規模は幅60cm、深さ7cm、延長17m以上を測り、断面形は浅いU字状で凹凸を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD035(図版65 写真図版80)

検出状況 調査区中央部に位置する。溝SD030～SD032・SD034を切っている。

形状規模 調査区を西から東に斜交する直線的な溝で、方位はN70°Wである。規模は幅20cm、深さ7cm、延長16.5m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD036(図版65 写真図版80)

検出状況 調査区西部に位置する。この溝を境に西側は大きな段差があり、一段下がっている。土坑SK019を切っている。

形状規模 調査区を北から南に斜交する直線的な溝で、方位はN23°Eである。規模は幅30cm、深さ20cm、延長13.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK017(図版65 写真図版81)

検出状況 調査区中央部の掘立柱建物SB038の西北端に重複して位置し、溝SD033を切っている。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北1.1m、東西0.8m、深さは20cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK018(図版65 写真図版81)

検出状況 調査区中央部の掘立柱建物SB038の西側に位置し、南側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形はU字状である。規模は南北60cm以上、東西40cm、深さは25cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK019(図版65 写真図版81)

検出状況 調査区西部に位置し、溝SD036に切られている。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は浅い逆台形である。規模は南北1.7m、東西0.6m、深さは10cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

4. 24区(写真図版83)

24区は、23区の東部から南側に向かって直交して延びる南北方向に長い調査区である。南側は水路を挟んで、25区が位置する。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、削平が著しく、遺構は検出できなかった。

5. 25区(図版66 写真図版83)

25区は、24区の水路を挟んで南側に位置し、26区に続く南北に長い調査区である。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、溝を1条検出したのみである。

SD037(図版66 写真図版83)

検出状況 調査区北部に位置し、東側は調査区外に伸びている。

形状規模 直線的な溝で、方位はN70°Wである。規模は幅40cm、深さ7cm、延長6m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。23区のSD035の延長線上に位置する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

6. 26区(図版66 写真図版84・85)

26区はD地区の南東端に位置し、東西に長い調査区である。24区の南側に直交して続き、西側はE地区の40区が水路を挟んで接している。南側はJR線が走っており、東側は大井川が流れている。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。掘立柱建物3棟と木棺墓、溝が検出した。東端は大井川改修あるいはJR線の鉄橋工事のため、大きな攪乱が存在した。中央部分は明黄褐極細砂の基盤層が存在していなかったため、北側の壁際に確認のトレンチを設定し、掘削をしたが、遺物は認められず、JR線に近接しているため、掘削を行わなかった。埋土の状況から、C地区の流路SD021の続きである可能性が高い。

SB040(図版67 写真図版86・87)

検出状況 調査区中央部に位置する。南東部は調査区外に延びている。すぐ東側にST003が存在する。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物である。南北2間(5.6m)以上×東西2間(4.3m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.8m、東西1間2.1m・2.2mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは約25cm～40cmである。P04底部

からは石が多数出土した。

出土遺物 柱穴P04からは鉄釘(M11)、P06からは須恵器椀(1051)が出土しており、P01からは土器の小片が出土した。

SB041(図版67 写真図版86・87)

検出状況 調査区西部のSB040の西側に位置する。南東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。SB042と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN22°Eの総柱建物である。南北1間(5.9m)以上×東西2間(5.4m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m・1.9m、東西1間2.7mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径約30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～40cmである。P02・P03・P04・P06の上部から石が複数出土した。

出土遺物 柱穴P02からは須恵器小皿(1056)が出土しており、P01・P03・P04・P07からは土器の小片が出土した。

SB042(図版68 写真図版86・87)

検出状況 調査区西部のSB040の西側に位置する。南東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。SB042と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN23°Eの総柱建物である。南北3間(6.3m)以上×東西3間(6.4m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西1間2.2m・2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、柱痕は径約20cm、深さは約30cm～50cmである。P02・P07・P09・P10の中段とP08からは石が出土した。

出土遺物 柱穴P06からは土師器皿(1052)、P07からは土師器皿(1053)と羽口(1054)、P10からは須恵器椀(1055)が出土しており、P03からは土器の小片が出土している。

ST003(図版69 写真図版15・88～91)

検出状況 調査区中央部のSB040の東側に位置する。

形状規模 墓壇の平面形は全長184cm、幅72cmの長方形で、深さ20cmの断面逆台形を呈する。墓壇の中央部に、内法の全長163cm、幅52cm、深さ18cmを測る木棺を埋葬しており、厚さ最大3cmの木質が残っている。底板の上面の周囲に側板を載せる構造で、蓋板の中央部分は棺内の底板近くまで、たわみ込んでいる。木棺の主軸方位はN67°Wである。両側板、両小口板ともに樹種同定の結果、スギであった。

頭 位 遺骸は残っていなかったが、土器の出土位置から頭位は西向きと考えられる。

出土遺物 須恵器椀(1057)が南西小口部分で上を向いて出土した。

SD038(図版68 写真図版84)

検出状況 調査区東部に位置する。攪乱で全容は明らかでなく、南北ともに調査区外に伸びている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN12°Eである。規模は幅1.4m、深さ20cm、延長5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 鉄釘(M12)が出土した。

SD039(図版68)

検出状況 調査区西部に位置する。東西ともに調査区外に伸びている。SB041・SB042の柱穴に切られている。

形状規模 調査区北から東に弯曲する溝である。規模は幅0.55m、深さ10cm、底面は凹凸が著しい。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD040

検出状況 調査区西端に位置し、東側は調査区外に、西側は40区に延びている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN67°Wである。規模は幅0.25m、深さ10cm、延長2.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

7. 27区(図版70・71 写真図版77・92・93)

27区は、水路を挟んで23区の西側に位置する東西方向に長い調査区である。西側は水路を挟んで28区があり、西端では北側にC地区の19区と接し、南側にE地区の41区に続く。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、削平が著しい。検出した遺構は土坑と溝、柱穴、炭を含む穴がある。

SF003

検出状況 調査区東部に位置している。

形状規模 基盤層と考えていた明黄褐極細砂層内に炭化物がまとまって疎らに混在している部分を、断ち割って、掘形などを確認したが、痕跡は認められなかった。

年代測定 SF003内から出土した炭化物の年代をAMS測定によって実施した。測定の結果、 $4,720 \pm 30$ yrBPの年代を得た。

SD041(図版72 写真図版93)

検出状況 調査区西部に位置し、41区へ続く。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN44°Eである。規模は幅最大1.5m、深さ25cm、延長30m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 石ヒ(S32)が出土した。

SD042(図版72)

検出状況 調査区西部のSD041の東側に位置し、南側は調査区外に延びる。

形状規模 直線的な溝で、方位はN24°Eである。規模は幅20cm、深さ4cm、延長2.3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD043(図版72)

検出状況 調査区西部のSD041の西側に位置する。

形状規模 直線的な溝で、方位はN29°Eである。規模は幅18cm、深さ4cm、延長2.5mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 須恵器小皿(1059)がある。

SD044(図版72)

検出状況 調査区西部のSD043の北西に位置する。

形状規模 直線的な溝で、方位はN29°Eである。規模は幅25cm、深さ3cm、延長2.6mを測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK020(図版72 写真図版94)

検出状況 調査区南東隅に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、中央部は一段深くなっている。上部断面形はU字状である。規模は南北1.2m、東西0.85m、深さは42cmを測り、中央部は直径10cm、深さ35cmの円柱状に深くなっている。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK021(図版72 写真図版94)

検出状況 調査区東部に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北1.05m、東西0.65m、深さは25cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK022(図版72)

検出状況 調査区東端に位置し、東側は調査区外に伸びている。

形状規模 平面形は不整形で、断面形は箱形である。規模は南北60cm、東西30cm以上、深さは13cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK023(図版72 写真図版94)

検出状況 調査区西部に位置する。

形状規模 平面形は円形で、断面形は逆台形である。規模は直径約85cm、深さは12cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK024(図版73 写真図版93)

検出状況 調査区西部のSD041の西側、SD043の北側に位置する。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形はU字状である。規模は南北1.0m、東西1.7m、深さは50cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK025(図版73)

検出状況 調査区西部のSK024の西側に位置し、北側は調査区外に伸びている。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形と考えられ、断面形は箱形である。規模は南北0.35m以上、東西0.7m、深さは14cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK026(図版73 写真図版94)

検出状況 調査区西部のSD044の西側に位置している。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は箱形である。規模は南北0.6m、東西0.9m、深さは28cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK027(図版73)

検出状況 調査区西部のSK026の北西側に位置している。

形状規模 平面形は南北に細長い楕円形で、断面形は箱形である。規模は南北1.1m、東西0.3m、深さ

は18cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK028(図版73)

検出状況 調査区西部のSK027の西側に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は箱形である。規模は南北0.6m、東西0.4m、深さは12cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

8. 28区(図版74～77 写真図版95・96・105)

28区は、水路を挟んで27区の西側に位置し、東西に長い調査区である。西側は水路を挟んで30区があり、中央部では北側に29区が続く。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、南東部分のみ削平が著しい。西側に行くに従い、堆積が厚く、全体に複数時期の遺構が切り合っている。同一地点で、時期が異なる複数の流路・溝の切り合いがあり、堆積状況が複雑である。流路、溝、木組、掘立柱建物を検出した。

SD045(図版78・79 写真図版105)

検出状況 調査区のほぼ全体に流れ、30区に続いている。溝SD046～SD051と掘立柱建物SB043の柱穴に切られている。

形状規模 調査区北東部から西部にかけて大きく蛇行しながら東から西に向かって流れる流路である。規模は幅5m～12m、深さ40cm～65cmを測り、断面形は浅いU字状を呈し、一定しない。

出土遺物 縄文土器深鉢(4～8)、弥生土器壺(27・29・30)甕(28・31)、石鏃(S33)、木製品部材(W57)、組合せ平鍬(W58)、有頭棒状(W59)が出土した。

SD046(図版79)

検出状況 調査区のほぼ全体に流れ、30区に続いている。流路SD045を切り、溝SD047～SD049に切られている。

形状規模 調査区北東部から西部にかけて大きく蛇行しながら東から西に向かって流れる溝である。調査区東部において大きく北から西に流れを変える部分で、幅が広くなり、木組SW004が設置されている。溝の規模は幅1m～4m、深さ30cm～40cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺類・(38・39・41～43)・甕(36・37・40・44～46)・脚台(46)、石鏃(S35)が出土した。

SD047(図版79・80 写真図版106)

検出状況 調査区中央部から西側に位置する。流路SD045、溝SD046を切り、溝SD048・SD049に切られている。上流部で木組SW001を伴う。

形状規模 大きく蛇行しながら東から西に向かって流れる溝である。規模は幅85cm、深さ35cm前後を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 木製品板材(W60)、槽盤?(W61)、樋状(W62)が出土した。

SD048(図版78・79 写真図版106)

検出状況 調査区中央部から西側に位置する。流路SD045、溝SD046・SD047を切り、溝SD049に切られている。上流部で木組SW003を伴う。

形状規模 大きく蛇行しながら東から西に向かって流れる溝である。規模は幅2m前後、深さ40cm前後を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器壺(144・145)・土師器甕(146・147)、石鏃(S36)が出土した。

SD049(図版78)

検出状況 調査区中央部から西側に位置する。流路SD045、溝SD046～SD048を切っている。屈曲部で杭SW005とSW006を伴う。

形状規模 大きく蛇行しながら東から西に向かって流れる溝である。規模は幅1m前後、深さ40cm～60cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢(9)がある。

SD050(図版80 写真図版106)

検出状況 調査区西端に位置し、30区に続く。

形状規模 この調査区では直線的な溝であるが、30区では蛇行している。規模は幅60cm、深さ35cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SW001(図版81 写真図版97)

検出状況 調査区中央部の溝SD047内の底面に位置する。

形状規模 溝SD047に直交する方向に1.5m前後の木材8本程度を配置し、東側を中心に0.6m前後の杭を11本打ち込む木組遺構である。このほかに東西に方向が異なる1.3mの木材が出土した。

SW002

検出状況 調査区中央部の溝SD047の西側に位置する。

形状規模 溝SD047の西側の窪んだ場所に70cm～20cmの木材8本程度がまとまった状態で出土した木組遺構である。

SW003(図版82・83 写真図版99)

検出状況 調査区中央部の溝SD048内の一段深くなった部分に、大きく4箇所にとまって検出した。

形状規模 木材のまとまりは、1.2m～0.3mの直径10cm前後の芯持材を溝SD048の底に150本程度の木材を4箇所に配置する木組遺構である。

SW004(図版84 写真図版98)

検出状況 調査区東部の溝SD046の幅が拡張した下流側に位置する。この木組遺構から下流の溝の幅は上流と同じに戻る。

形状規模 溝SD047に直交する方向に最長1.3mの木材5本程度を下流側に配置する。溝と並行する方向には0.8m前後の木材を25本程度を組み合わせる木組遺構がある。下流方向にせり上がっている。

SW005・SW006(図版80)

検出状況 調査区中央部の溝SD049の両岸に位置する。SW005・SW006と別の遺構番号を付けたが、本来は対をなすものと考えられる。

形状規模 SW005は溝SD049の東岸に存在し、80cm×50cmの範囲に最長60cmの杭を12本打ち込んでおり、地表面に出ている部分は腐朽していた。2個の巨礫が杭の上に存在していた。SW006は溝SD049の西岸に存在し、直径55cmの範囲に最長55cmの杭を14本打ち込んでおり、地表面に出ている部分は腐朽していた。

分析 SW005を構成する木材のうち、任意に選んだ矢板の樹種を分析したところ、エノキ属であった。

SW007(写真図版101・102)

検出状況 SW002の西側に位置する。

形状規模 東西約2m、南北約1.5mの楕円形の落ち込みの東寄りに、東西方向の矢板もしくは杭を密に打ち込み、横木の板を渡している。64本以上の木材で構築しており、横木は最長1.9m、杭や矢板は30cm～40cmのものが多い。

分析 SW007を構成する木材のうち、任意に選んだ矢板の樹種を分析したところ、ヒノキであった。

SW008(図版85・86 写真図版104)

検出状況 29との分岐点付近に位置する。

形状規模 流路が堆積した後、160本程度の杭を打ち込み、横木を敷き、平坦な巨石を敷いている。

分析 SW008を構成する木材のうち、任意に選んだ矢板と杭の樹種を分析したところ、矢板はコナラ属アカガシ亜属、ツブラジイとヒノキ、杭はコナラ属クヌギ節とヒノキであった。

SW009(図版87・88 写真図版100)

検出状況 SW007の西側に位置する。南側は調査区外に伸びている。

形状規模 流路が堆積した後、杭を打ち込み、横木を敷いており、186本以上の木材で構築している。この一群の中には生えている木もある。

分析 SW009を構成する木材のうち、任意に選んだ矢板と杭の樹種を分析したところ、矢板はコナラ属アカガシ亜属とシイ属、杭はヒノキであった。

SB043(図版89 写真図版107)

検出状況 調査区東端に位置する。北側にはSD051を伴っている。下層の溝SD045を切っている。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物でやや平行四辺形に傾いている。南北3間(6.3m)×東西3間(7.7m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西1間東端のみ2.1m、他2.8mである。

柱穴 柱穴は円形もしくは方形で、掘形径もしくは一辺20cm前後、深さは22cm～36cmである。P03の底部からは石が出土した。

出土遺物 柱穴P02とP08からは土器の小片が出土している。

SD051(図版89)

検出状況 調査区東部の掘立柱建物SB043の北側に位置する。西側は調査区外に延びる。

形状規模 掘立柱建物SB043の北辺に並行する直線的な溝で、方位はN75°Wである。規模は幅30cm、深さ5cm、延長6以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

9. 29区(図版90 写真図版108)

29区は、28区の中央部分から、分岐し北側に延びる調査区である。中央部分で屈折し、北側は細くなっている。北側はB地区の18区と接し、西側は水路を挟んで32区と接している。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。流路、溝、土坑、掘立柱建物、北端で現代の水溜めを検出した。

SB044(図版91 写真図版109)

検出状況 調査区南部に位置する。南西側は調査区外に伸びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。南北1間(2.0m)以上×東西1間(2.2m)以上の規模である。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径約25cm、深さは約15cm～30cmである。

出土遺物 柱穴P03から須恵器小皿(1071)が出土した。

SK029(図版91 写真図版109)

検出状況 調査区中央部に位置する。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形はU字形である。規模は南北1.9m、東西1.5m、深さは55cmを測る。

出土遺物 石鍋(S41)が出土した。

SD052

検出状況 調査区北端に位置する。水溜SG001・SG002に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する流路である。規模は幅8.2m以上、深さ30cm、延長4m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD053(図版91 写真図版109)

検出状況 調査区北部に位置する。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN40°Wである。規模は幅1m～1.5m、深さ26cm、延長4.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD054(写真図版109)

検出状況 調査区南部に位置し、東側は調査区外に延びる。

形状規模 西から東に流れる直線的な溝で、方位はN83°Wである。規模は幅50cm、深さ15cm、延長2m以上を測り、断面形は二段のU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD055(写真図版109)

検出状況 調査区南部の溝SD054の南側に位置する。東側は調査区外に延びる。

形状規模 西から東に流れる直線的な溝で、方位はN70°Wである。規模は幅50cm、深さ5cm、延長3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SG001

検出状況 調査区北端に位置する。流路SD052を切っている。

形状規模 切り石を積み上げてた水溜めで、東西方向に長い長方形である。掘形の規模は東西3m以上×南北2.5m以上、深さ100cmを測り、内法は東西3.0m×南北1.6m以上、深さ100cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SG002

検出状況 調査区北端のSG001の南側に位置する。流路SD052を切っている。

形状規模 自然石の形を軽く整えた石材を積み上げて作った水溜めで、東西方向に長い長方形である。掘形の規模は東西3m以上×南北2.8m、深さ35cmを測り、内法は東西1.8m×南北1.2m、深さ25cmを

測る。西側以外は石が抜き取られている。やや西よりに埋井の際の竹筒が残っていた。

出土遺物 遺物は出土していない。

10. 30区(図版92・93 写真図版110～112)

30区は、水路を挟んで28区の西側に位置し、北東－南西に長い調査区である。西側は水路を挟んで37区があり、西端では北側に31区に続く。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、南東部分のみ削平が著しい。流路・溝部分は堆積が厚く、複数時期の遺構が切り合っている。

SD045(図版93 写真図版110)

検出状況 29区から続く流路で、37区に続いている。溝SD046～SD049に切られている。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく蛇行する流路である。規模は幅11.5m前後、深さ80cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 土器が出土しているが、図示できない。

SD046(図版93・94 写真図版111)

検出状況 一群の溝のSD047とSD048の間に位置する溝で、流路SD045を切り、溝SD049に切られている。28区から続きで北東部をかすめ、再び北西部に戻り、37区へ続く。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく蛇行する溝である。規模は幅1.4m前後、深さ50cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土器と木材が出土しているが、図示できない。

SD047(図版93・94 写真図版112)

検出状況 一群の溝の南から2番目を流れる溝で、流路SD045を切っている。28区から続く。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく蛇行する。規模は幅1.5m前後、深さ60cm、を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢(10)、弥生土器高坏(50)・鉢(51)が出土した。

SD048(図版93 写真図版111)

検出状況 一群の溝の北端を流れる溝で、流路SD045を切って、37区へ続く。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく蛇行する。規模は幅2m～1m、深さ60cm、を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 銅鏃(M76)が出土した。他に、土器と木材が出土しているが、図示できない。

SD049(図版93・94 写真図版112)

検出状況 一群の溝の北端を流れる溝で28区からの続きで、37区へ続く。流路SD045・溝SD046を切っている。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、蛇行する。規模は幅0.45m、深さ30cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(48)・甕(47)・高坏(49)が出土した。他に、木材が出土しているが、図示できない。

SD050(図版93・94 写真図版112)

検出状況 調査区南東部に位置し、28区からの続きである。

形状規模 大きく蛇行し、東から西へ流れる溝である。規模は幅1m前後、深さ35cm前後を測り、断面

形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD056(図版94 写真図版112)

検出状況 調査区西端に位置し、37区へ続く。切り合いは不明である。

形状規模 弯曲する溝で、規模は幅0.6m、深さ10cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SW010(図版94 写真図版111)

検出状況 調査区中央部の溝SD046の両岸に打ち込まれた杭である。溝に直交していないため、他の遺構に伴う可能性もある。

形状規模 溝SD046の西岸に4本、東岸に1本を1.4mの間隔を開けての杭を打ち込んでいる。杭は20cm前後である。

11. 31区(図版95 写真図版113)

31区は、30区の西端から北に延びる調査区である。北側は水路を挟んで34区がある。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、削平が著しい。検出した遺構は流路のみである。

SD057(図版95 写真図版113)

検出状況 調査区北端に位置する。

形状規模 調査区の長軸に直交し、東から西に向かって流れる流路である。規模は幅7.0m、深さ40cm、延長6m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 石核(S42)が出土した。

12. 32区

32区は、29区と33区の上に位置する東西方向の調査区である。北側は四ツ池の堤防である。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。削平が著しく、西端で溝を検出したほかは遺構は検出できなかった。ただし、遺構検出面が砂礫層であるため、上部からの影響による変色が認められた。東端から5.5m～13mにかけては黒色シルトの染み込みが認められたため、上部に流路が存在していた可能性が高い。

13. 33区(図版96・100～102 写真図版114)

33区は、32区の水路を挟んで西側に位置する東西方向の調査区である。東端では南側に34区と接し、西端では南側に35区が続く。北側は四ツ池の堤防である。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。検出した遺構は溝と柱穴のみである。溝はいずれも調査区を直交している。

なお、34区へ継続している溝SD061・SD062は34区で、35区へ継続している。SD076・SD077・SD078については35区で記述する。

SD058(図版100 写真図版115・121)

検出状況 調査区西部に位置する。南北ともに、調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に直交するやや蛇行する溝である。規模は幅1.7m、深さ42cm、延長6.5m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢(12)が出土した。他に、木材が出土しているが、図示できない。

SD059(図版100 写真図版115)

検出状況 調査区中央部の溝SD058の東側に位置する。南北ともに、調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に直交するやや蛇行する溝である。規模は幅60cm前後、深さ16cm、延長6m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD060(図版100 写真図版115)

検出状況 調査区中央部の溝SD059の東側に位置する。南北ともに、調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に直交するやや蛇行する溝である。規模は幅1.9m前後、深さ20cm、延長6m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD063(図版98 写真図版114)

検出状況 調査区東部に位置し、溝SD065に切られている。南側は調査区外に延びており、34区に続く。

形状規模 溝SD065に切られているため、西側の肩の一部のみ判明している。北東から南西方向に流れる溝である。規模は幅2m以上、深さ45cm、延長3m以上を測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD065

検出状況 調査区東端に位置する。溝SD062・SD063を切っている。南北東側は調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に直交する弯曲した溝である。規模は幅0.25m、深さ50cm、延長6m以上を測り、断面形はV字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

14. 34区(図版95・96・98 写真図版116・118)

34区は、33区の東端から南側に直交して延びる調査区である。南部では南東側に屈折する。南東側は水路を挟んで31区が存在する。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。検出した遺構は掘立柱建物・土坑・溝である。

SD061(図版98)

検出状況 33区の調査区東部から34区の北部に位置する。掘立柱建物SB045の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、一部蛇行するが直線的な溝である。規模は幅40cm、深さ4cm、延長25m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD062(図版98 写真図版114・115)

検出状況 33区の東部から34区の中央部にかけて位置する。溝SD065～SD067を切り、掘立柱建物SB045の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、溝SD061の東南部に並行してやや弯曲して流れる直線的な溝である。規模は幅1.2m、深さ23cm、延長36m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD063(図版98 写真図版114)

検出状況 調査区中央部に位置する。北東部と南西部は調査区外に延びる。溝SD066・SD067を切る。

SD064とは同一の溝として調査を行ったが、断面観察及び、中央部の杭列SW011の存在、南部で2本の溝に分かれることから、別の溝として記述を行う。

形状規模 調査区の長軸にやや弯曲して斜交する直線的な溝である。規模は幅約2m、深さ55cm、延長22m以上を測り、断面形はU字状を呈する。溝SD064と並行して流れ、中間に杭列SW011を設けている。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD064(図版98)

検出状況 調査区中央部に位置する。北東部と南西部は調査区外に延びる。溝SD069・SD070・SD072を切り、SD063・SD073に切られる。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、弯曲して流れる溝である。北部での規模は幅1.5m以上、深さ62cm、南部での規模は幅2.1m、深さ45cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SW011(図版97 写真図版117)

検出状況 調査区中央部の溝SD063とSD064の中間に位置する杭列である。

形状規模 杭列は延長8.5mの間に21本の広葉樹の芯持ち材を中心とした杭を打ち込んでいる。地表面には腐朽して残存していないが、土層断面の堆積状況から、溝SD063の東側の護岸を補強するための杭列である。杭の長さは15cm～50cm程度である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD066(図版98)

検出状況 調査区中央部に並行する溝SD062とSD063との間に位置し、切られている。

形状規模 溝SD062とSD063に直交する直線的な溝である。規模は幅65cm、深さ35cm、延長1.0m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD067(図版98)

検出状況 調査区中央部に並行する溝SD062とSD063との間のSD066の南側に位置し、切られている。

形状規模 溝SD062とSD063に直交する直線的な溝である。規模は幅60cm、深さ32cm、延長1.3m以上を測り、断面形はV字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD068(図版98)

検出状況 調査区南部の溝SD064の東側に位置する。溝SD069と溝SD073の間に位置し、切られている。

形状規模 南北方向に流れる直線的な溝である。規模は幅35cm、深さ5cm、延長1.8m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD069(写真図版116)

検出状況 調査区南部の溝SD068の南側に位置し、SD064とSD068に切られている。

形状規模 東から西に流れる不定形な溝である。規模は幅0.8m～1.5m、深さ25cm前後を測り、底面には凹凸がある。

出土遺物 弥生土器甕(63)、石鏃(S47)が出土した。

SD070

検出状況 調査区南部の溝SD069の南側に位置し、SD064に切られている。

形状規模 東から西に流れる不定形な溝である。規模は幅0.7m～1.3m、深さ20cm前後を測り、底面には凹凸がある。

出土遺物 弥生土器壺(62)が出土した。

SD071(写真図版120)

検出状況 調査区南部の溝SD070の南側、SD064の東側に位置する。

形状規模 溝SD064から分岐する溝あるいは同一の溝の可能性がある。不定形な溝で、規模は幅1m以上、深さ15cm、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 楔形石器(S48)が出土した。

SD072

検出状況 調査区南部の溝SD064の東側、SD073の北側に位置する。

形状規模 不定形な窪み上の溝で、規模は幅4m程度、深さ25cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 土師器甕(157)が出土した。

SD073

検出状況 調査区南部の溝SD069とSD072の間に位置する。SD064・SD068を切る。

形状規模 調査区の長軸に直交する弯曲した溝である。規模は幅2.0m前後、深さ63cm、延長8m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD074(写真図版120)

検出状況 調査区南部に位置する。溝SD075の西側に位置し、並行している。両端は調査区外に延びている。

形状規模 南北方向に流れる直線的な溝で、方位はN24°Eである。規模は幅80cm、深さ15cm、延長10m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD075(図版99 写真図版120)

検出状況 調査区南端に位置する。溝SD074の東側に位置し、並行している。東側は調査区外に延びているため、本来の規模は明らかでない。

形状規模 調査区の南東端に並行する直線的な溝で、方位はN24°Eである。規模は幅1.9m以上、深さ60cm、延長10m以上を測り、断面形は、浅いU字状を呈する。

出土遺物 須恵器椀(1080)、土師器播鉢(1079)、有溝穿孔土錘(1083)、備前焼播鉢(1081・1082)、石鏃(S49)、石製品五輪塔(S50・S51)が出土した。

SB045(図版99 写真図版119)

検出状況 調査区北部に位置する。西側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。下層の溝SD061・SD062を切っている。

形状規模 南北軸がN22°Eの総柱建物で、並行四辺形に傾いている。南北4間(8.6m)×東西2間(4.6m)以上の規模である。建物の柱間は、南北両端1間2.0m、中央2.3m、東西1間2.4m・2.2mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径10cm～30cm、柱痕は径約10cm、深さは削平が著しいため約5cm～10cm

である。

出土遺物 柱穴P06からは土器の小片が出土した。

15. 35区(図版101・102 写真図版122・125)

35区は、D地区の北西端に位置する。34区の西端から南側に向かって延びる南北に長い調査区である。南端は里道を挟んで36区が存在する。北半部の西側は苦編山の山麓にあたる。北半部の一部は農作業小屋が存在するため調査できなかった。検出した遺構は掘立柱建物3棟と土坑、溝がある。

一部33区と共通する溝があり、35区で説明する。

SD058(写真図版123)

検出状況 33区から流れてきており、調査区北部から中央部にかけて位置する。溝SD076・SD077・SD086に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する弯曲的な溝である。規模は幅1.8m、深さ46cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD076(図版103 写真図版123)

検出状況 33区から流れてきており、調査区北部に位置する。溝SD058を切り、SD076・SD077・SD086に切られている。

形状規模 大きく蛇行する溝である。規模は幅1.7m～3m、深さ50cm、延長3.60m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(64)が出土した。

SD077(図版103・104 写真図版123)

検出状況 調査区北部から中央部にかけて位置し、両端とも調査区外に延びている。溝SD058・SD076を切り、溝SD086、土坑SK030～SK032に切られている。

形状規模 大きく蛇行する溝である。南端部分でSD080を分岐する。規模は幅3.3m前後、深さ62cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

埋土 苦編山山塊からの土石流による礫が多量に含まれている。

出土遺物 土師器壺(161)・甕(162～165)、二次加工のある剥片(S58)、木製品糸巻?(W64)が出土した。

SD078(図版100)

検出状況 33区西端から34区の調査区北西部に位置する。溝SD077と土坑SK030に切られている。

形状規模 北東から南西に流れる溝である。規模は幅3m前後、深さ30cm、延長9m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器壺(158)が出土した。

SD080(図版103 写真図版123)

検出状況 調査区中央部の溝SD077の東側に位置する。北側は溝SD086に切られ、南側は調査区外である。

形状規模 溝SD077から分岐する溝でやや蛇行して北から南へ流れている。規模は幅60cm、深さ20cm、延長3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD081(図版103 写真図版124)

検出状況 調査区南部に位置し、溝SD082・SD085・SD086・SD088に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝である。規模は幅1.7m、深さ20cm、延長5m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 弥生土器甕(65・66)が出土した。

SD082(図版103 写真図版124)

検出状況 調査区南部に位置し、溝SD081を切り、SD085・SD086に切られている。

形状規模 調査区に斜交する弯曲した溝で東から西に向かって流れる。規模は幅90cm前後、深さ32cm、延長7m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(69～73)・甕(77)、石棒?(S57)が出土した。

SD083(図版103 写真図版124)

検出状況 調査区南部に位置し、掘立柱建物SB046～SB048の柱穴と溝SD086に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝である。規模は幅2.8m、深さ60cm、延長4.7m以上を測り、断面形は逆台形で凹凸がある。

出土遺物 弥生土器甕(67・68・160)、石片(S56)が出土した。

SD084(図版103 写真図版124)

検出状況 調査区南部の溝SD083の北側に位置し、掘立柱建物SB046～SB048の柱穴と溝SD086に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する蛇行した溝である。規模は幅70cm、深さ10cm、延長5.5m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD085(図版103 写真図版124)

検出状況 調査区南部に位置し、溝SD081・SD082を切り、SD086・SD087に切られている。

形状規模 調査区に斜交する直線的な溝で、方位はN1°Wである。規模は幅70cm、深さ23cm、延長14.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD079(図版104 写真図版123)

検出状況 調査区中央部に位置する。溝SD077・SD086、土坑SK034・SK035に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝である。規模は幅5m、深さ70cmを測り、断面形はU字状を呈する。溝内には生えていた木株が存在する。SD079の続きの可能性が高い。

埋土 埋土内に巨礫が堆積していた。

出土遺物 土師器甕(159)が出土した。

SD086(図版104 写真図版125・127)

検出状況 溝SD058・SD076・SD077・SD079～SD085・SD087を切っている。北側は調査区外であり、南側は36区やF地区の47区に延びる。

形状規模 調査区に並行して北から南に向かって流れる直線的な溝で、方位はN25°Eである。規模は北部では幅3m、最大5m以上を測る。南半部では西肩部分が調査区外に延びている。深さは60cm、延

長85m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は北部では大礫から巨礫を多量に含む土石流が流れ込んでいる。南部は比較的安定した水平堆積の状況を示している。

出土遺物 土師器皿(1088～1091)・鍋(1092～1094・1096)・羽釜(1095)、管状土錘(1097)、須恵器碗(1098～1112・1151)・小皿(1113～1117)・捏鉢(1118・1119)・杯B(1120)、瓦器碗(1121・1122)・小皿(1123)、瓦質土器羽釜(1124)、備前焼播鉢(1125～1129)・甕(1130・1131)、丹波焼壺(1132)、肥前系施釉陶器皿(1133)・碗(1134)、施釉陶器底部(1135)、白磁碗(1136～1143)・皿(1144)・水注(1145)、青磁皿(1146)、龍泉窯系青磁皿(1147)、同安窯系青磁碗(1148)、中国製染付磁器碗(1149)・底部(1150)、石鏃(S52～S54)、砥石(S55)、鉄製品鉄釘(M14)、鉄滓(M15～M22)、木製品曲物底板(W63)など遺物が多量に出土した。

SD087(図版105)

検出状況 調査区南部の掘立柱建物SB046の北側に位置し、SD085を切っている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN74°Wである。何回か掘削しなおしており、二重に並行している部分がある。規模は幅25cm、深さ13cmと幅25cm、深さ5cmの断面形はU字状の溝が二重になっている。延長は2.5m以上を測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD088(図版105)

検出状況 調査区南部の溝SD087の北側に直交しており、溝SD081を切っている。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位はN20°Eである。規模は幅18cm、深さ4cm、延長2.8mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD089(図版105)

検出状況 調査区南部の溝SD087の北側、SD088の西側に位置し、溝SD081を切っている。

形状規模 つ字状に弯曲した溝である。規模は幅15cm、深さ5cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB046(図版105)

検出状況 調査区南部の溝SD086の東側に位置する。東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD083・SD084を切っており、掘立柱建物SB047・SB048と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。南北3間(7.0m)×東西2間(3.5m)以上の規模である。建物の柱間は、南北方向の北のみ1.9m、他2.55m、東西1間1.9m・1.6mである。

柱 穴 柱穴は円形で、東西方向中央2列は掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～30cm、北側・南側2列は掘形径15cm、深さは約10cm、柱痕は不明である。P03からは石が出土した。

出土遺物 柱穴P11からは同安窯系青磁小碗(1085)が出土しており、P02・P03・P06・P09・P10からは土器の小片が出土した。

SB047(図版106 写真図版128)

検出状況 調査区南部の溝SD086の東側に位置する。東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD083・SD084を切っており、掘立柱建物SB046・SB048と重複関係にあるが、先

後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN16°Eの総柱建物である。南北2間(4.0m)×東西2間(3.8m)以上の規模である。

建物の柱間は、南北1間2.0m、東西1間1.9mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、深さは約15cm～20cmである。P02の上部には石が入っていた。

出土遺物 柱穴P01からは土師器皿(1086)が出土しており、P02～P04・P07からは土器の小片が出土した。

SB048(図版106 写真図版128)

検出状況 調査区南部の溝SD086の東側に位置する。東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD083・SD084を切っており、溝SD086に切られている。掘立柱建物SB046・SB047と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN14°Eの総柱建物である。南北2間(3.9m)×東西2間(4.6m)以上の規模である。

建物の柱間は、南北1間1.95m、東西1間1.8m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、深さは約10cm～20cmである。

出土遺物 柱穴P05からは土師器小皿(1087)、P04からは石鏃(S59)が出土しており、P01・P02・P06～P09からは土器の小片が出土した。

SK030

検出状況 調査区北部の溝SD086の西側に位置し、溝SD077とSD078の上層にある。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北0.9m、東西1.2m、深さは8cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK031(図版107 写真図版129)

検出状況 調査区北部の溝SD086の西側、土坑SK30の南東部に位置し、溝SD077の上層にある。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北1.1m、東西0.65m、深さは8cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK032(図版107 写真図版129)

検出状況 調査区北部の溝SD086の西側、土坑SK31の南西部に位置し、溝SD077の上層にある。

形状規模 平面形は円形で、断面形はV字状である。規模は南北65cm、東西80cm、深さは10cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK033(図版107 写真図版129)

検出状況 調査区北部の溝SD086の西側、土坑SK32の南西部に位置し、溝SD058の上層にある。

形状規模 平面形は不整形円で、断面形は逆台形である。規模は南北1.1m、東西0.8m、深さは34cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK034(図版107 写真図版129)

検出状況 調査区中央部の溝SD086の東側に位置し、溝SD079の上層にある。

形状規模 平面形は東西にやや長い楕円形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北44cm、東西82cm、

深さは8cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK035(図版107 写真図版129)

検出状況 調査区中央部の溝SD086の東側で、土坑S034の南側に位置し、溝SD079の上層にある。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北70cm、東西95cm、深さは7cmを測る。

埋 土 底面に1cm～2cmの炭層が堆積している。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK036(図版107 写真図版129)

検出状況 調査区南端に位置し、南側は調査区外に延びている。

形状規模 平面形は東西に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北0.95m、東西1.56m、深さは14cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

16. 36区(図版108)

36区は35区の南側に里道を挟んで位置する調査区である。南西側には水路を挟んで47区が存在する。調査区は南端を頂点とする細長い三角形を呈する。検出した遺構は柱列と溝であり、北端には近世の水溜め土坑がある。

SD090(図版108 写真図版130)

検出状況 調査区南端に位置し、南東岸は調査区外に延びるため規模は不明である。溝SD090と柱列SA002に切られる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する溝である。規模は幅4m以上、深さ40cm、延長7m以上を測り、断面形はW字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD091

検出状況 調査区南西端に位置し、西側は調査区外に延びる。位置関係から35区の溝SD086とF地区の47区の溝と同一であると考えられる。下層の溝SD090を切り、西側に位置する現代水路に切られている。

形状規模 調査区の長軸に並行する溝である。規模は幅60cm以上、深さ60cm以上、延長4.3m以上を測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SA002(図版108)

検出状況 調査区南端に位置する。溝SD090を切り、SD091に一部切られる。調査範囲が狭いため、調査区外に延びるため規模は不明である。また掘立柱建物になる可能性もある。

形状規模 方位はN15°Eの柱列である。規模は東西2間(3.1m)である。柱間は1.8mと1.3mであり不揃いである。

柱 穴 円形を基本とし掘形径20cm～25cm、深さ10cmを測る。

出土遺物 土師器托か皿(1153)が出土した。

SK037

検出状況 調査区北端に位置する水溜めで、南側に隣接する水溜めを切っている。

形状規模 平面形は円形で、断面形は箱形である。規模は直径1.5mの掘形に内法の直径0.9mの木製桶を埋設している。

埋 土 埋土には土の他に石や木材など有機物が堆積していた。

出土遺物 竹製品(W70)・篋?(W71・W72)、木製品薄板材(W73)、板材(W74・W76～W78)、角材(W75)、部材(W79)が出土した。

17. 37区(図版109～113 写真図版131～133)

37区は、30区の西側に里道を挟んで位置し、北東－南西方向に長い調査区である。東端では南側に直交し38区に続く。西端では南側に直交して39区に続く。西側は水路を挟んで47区と48区に続く。

検出した遺構は掘立柱建物4棟と溝・土坑がある。東部は30区から続く溝群と掘立柱建物、中央部は溝群、西部は掘立柱建物と溝がある。

SD045(図版115 写真図版132)

検出状況 調査区東部に位置し、30区から続く流路で、南西側は調査区外へ延びる。溝SD046・SD048・SD049・SD056・SD093と掘立柱建物SB049・SB050の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく弯曲する。規模は幅6.4m前後、深さ50cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢(13・14)が出土した。

SD046(図版115)

検出状況 調査区東部に位置し、30区から続く溝で、流路SD045を切っており、南西側は調査区外へ延びる。溝SD049・SD093と掘立柱建物SB049の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく弯曲する。規模は幅1.7m前後、深さ47cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器甕(82)が出土した。

SD048(図版115)

検出状況 調査区東部に位置し、30区から続く溝で、流路SD045を切っており、南西側は調査区外へ延びる。溝SD093、掘立柱建物SB049・SB050の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、大きく弯曲する。規模は幅2.7m、深さ28cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器長頸壺(81)が出土した。

SD049

検出状況 調査区東部に位置し、30区から続く溝で、流路SD045と溝SD046を切っている。

形状規模 調査区の東から西に向かって流れており、弯曲する。規模は幅0.45m、深さ30cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD056

検出状況 調査区東北端に位置し、30区から続く溝で、切り合いは不明である。

形状規模 弯曲する溝で、規模は幅0.6m、深さ10cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK038(図版115)

検出状況 調査区中央部の溝SD097の西側に位置し、SD097に切られている。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形には凹凸がある。規模は南北0.8m、東西1.3m、深さは40cm以上を測る。

埋 土 埋土は基盤層のブロックが混じった状態で堆積している。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK039

検出状況 調査区中央部の溝SD100の西側に位置する。

形状規模 平面形は不整形で、断面形は逆台形を呈している。規模は南北1.7m、東西1.5m、深さは25cmを測る。

出土遺物 不明鉄製品(M26)がある。

SK040(図版116)

検出状況 調査区西部の掘立柱建物SB051の南東隅に位置する。

形状規模 平面形は南側に突出部をもつ円形で、断面は浅く凹凸がある。規模は南北1.2m、東西0.9m、深さは4cmを測る。

埋 土 埋土には炭を含んでいる。

出土遺物 須恵器小皿(1175)、土師器小皿(1174)、鉄滓(M24・M25)が出土した。

SK041(写真図版136)

検出状況 調査区中央部の溝SD100の西側に位置し、SD101を切っている。

形状規模 掘形の平面形は東西に長い隅丸長方形で、南北1.4m、東西3.2m、深さは23cmを測る。断面形は逆台形である。中央部に直径65cmの桶を埋設していた痕跡が残る。

出土遺物 木製品部材(W89)が出土した。

SD092(図版115 写真図版136)

検出状況 調査区東部の溝SD048の西側に位置する。掘立柱建物SB049・SB050の柱穴に切られている。南北とも調査区外に延びる。

形状規模 大きく蛇行する溝である。規模は幅35cm、深さ10cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 須恵器椀(1173)、土師器甕(166)がある。

SD093(図版116 写真図版136)

検出状況 調査区東部に位置する。流路SD045、溝SD046・SD048・SD092を切り、掘立柱建物SB049の柱穴に切られている。南北とも調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN39°Wである。規模は幅1.0m、深さ23cm、延長12.3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器小皿(1172)が出土した。

SD094(図版115 写真図版136)

検出状況 調査区東部の溝SD092・SD093の西側に位置している。南北とも調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に直交し、蛇行する溝である。規模は幅55cm、深さ9cmを測り、断面形はU字

状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD095

検出状況 調査区東部の溝SD094の西側に位置し、溝SD096に切られている。南北とも調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN22°Wである。規模は幅4.5m～6m、深さ28cm、延長13m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD096(図版116 写真図版136)

検出状況 調査区東部の溝SD094の西側に位置し、溝SD095を切っている。北側は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN18°Eである。規模は幅0.9m、深さ8cm、延長11m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD097(図版115 写真図版135)

検出状況 調査区中央部に位置する。土坑SK038を切っている。南北とも調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN5°Eである。規模は幅1.05m、深さ30cm、延長14m以上を測り、断面形は底部付近が袋状に抉れている。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD098(図版115 写真図版135)

検出状況 調査区中央部の溝SD097の西側に並行して位置する。南北とも調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN5°Eである。規模は幅40cm、深さ13cm、延長14m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD099(図版115 写真図版135)

検出状況 調査区中央部の溝SD098の西側に並行して位置する。南北とも調査区外に延びる。溝SD100に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する僅かに蛇行する溝である。規模は幅2.3m以上、深さ42cm、延長14m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(78)・高坏(79・80)が出土した。

SD100(図版115 写真図版134)

検出状況 調査区中央部の溝SD099の西側に並行して位置する。南北とも調査区外に延びる。溝SD099を切っている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN4°Eである。規模は幅2.2m、深さ40cm、延長14m以上を測り、断面形は底部付近が袋状に抉れている。

出土遺物 木製品部材(W93・W94)が出土した。

SD101(図版116)

検出状況 調査区中央部の溝SD100の西側に位置する。南北とも調査区外に延びる。溝SD102・SD103を切り、土坑SK041に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交し、逆S字状に蛇行する溝である。規模は幅1.2m前後、深さ35cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 須恵器坏(1170・1171)がある。

SD102(図版116 写真図版134・136)

検出状況 調査区中央部の溝SD101の西側に交錯しながら位置する。南北とも調査区外に延びる。溝SD101に切られている。SD103との切り合い関係は不明である。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、蛇行する溝である。規模は幅2m前後、深さ40cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 須恵器坏(880～882)、木製品杭(W92)がある。

SD103(図版116 写真図版134・135)

検出状況 調査区中央部の溝SD102の西側に位置する。南北とも調査区外に延びる。溝SD101に切られている。SD102との切り合い関係は不明である。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、弯曲する溝である。規模は幅1.5m前後、深さ50cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 須恵器蓋(876)・平瓶(877)が出土した。

SD104(写真図版136)

検出状況 調査区中央部の溝SD103の西側に位置する。南側は調査区外に延びる。SD103との切り合い関係は不明である。

形状規模 調査区の長軸に直交し、南東方向に向かって広がる溝である。規模は幅0.1m以上、延長6m以上を測る。

出土遺物 須恵器坏B(1169)・壺(878・879)が出土した。

SD105(図版115)

検出状況 調査区西部に位置し掘立柱建物SB051と柵SA002に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN42°Wである。規模は幅1.0m～1.3m、深さ24cm、延長13m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD106(図版115 写真図版135)

検出状況 調査区西部に位置し、39区に延びる。溝SD108とSD109、掘立柱建物SB051に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN55°Wである。規模は幅50cm前後、深さ20cm、延長22m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD107(図版115・120 写真図版135)

検出状況 調査区西部に位置し、39区に延びる。溝SD108とSD109に切られている。

形状規模 調査区の長軸にやや弯曲して斜交する溝である。規模は幅85cm、深さ30cm、延長22m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD108(図版116 写真図版135)

検出状況 調査区西部に位置し、溝SD106とSD107を切っている。

形状規模 調査区の長軸にやや蛇行して斜交する溝である。規模は幅1.0m～1.3m、深さ40cm、延長26m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 須恵器坏蓋(867)、土師器壺(868)、石鏃(S60)が出土した。

SD109

検出状況 調査区西端に位置し、現代水路に切られている。位置関係と埋土の状況から36区のSD091と47区・48区のSD133と同一の溝であると考えられる。

形状規模 直線的な溝で、規模は幅50cm以上、深さ30cm以上を測り、断面形を推定するとU字状を呈すると考えられる。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB049(図版117 写真図版137・141)

検出状況 調査区東部に位置する。南東側は調査区外に延びている。下層の溝SD045・SD046・SD048・SD092・SD093を切っている。

形状規模 南北軸がN20°Eの総柱建物である。南北4間(7.8m)×東西4間(8.9m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.95m、東西方向の外2.5m、内1.9mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～40cmである。P03とP20の上部からは石が出土した。

出土遺物 柱穴P09・P12からは須恵器椀(1154・1155)、P18からは須恵器小皿(1156)が出土しているほか、P015・P20から土器の小片が出土している。

SB050(図版117 写真図版138)

検出状況 調査区東部の掘立柱建物SB049の南側に位置する。南東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD045・SD048を切っている。

形状規模 南北軸がN20°Eの総柱建物である。南北2間(4.0m)以上×東西2間(4.2m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.0m、東西1間2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、深さは約20cm～40cmである。P04からは礎板が、P02・P05からは鼻線を利用した礎板が、P03からは石が柱穴底部から出土した。

出土遺物 柱穴P04・P05からは土器の小片が出土している。

SB051(図版118 写真図版139・140・142)

検出状況 調査区西部に位置する。北西側は調査区外に延びている。溝SD105を切っており、建物内にSK040が存在するが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN16°Eの総柱建物である。南北4間(8.4m)×東西6間(13.5m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西方向の東端のみ2.0mで、他は2.3mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～35cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～40cmである。P01の底部からは石が、P10・P19の上部からは石が、P26の底部からは石と木質が出土した。

出土遺物 柱穴P03・P18・P25からは須恵器椀(1157・1163・1164)、P08・P12・P13・P17からは土師器小皿(1158～1160・1162)・底部(1161)、P10からは不明鉄製品(M23)が出土しているほか、P02・P06・P09・P14・P19・P24からは土器の小片が出土している。

SB052(図版119 写真図版140・142)

検出状況 調査区西部の掘立柱建物SB051の北側に位置する。北西側は調査区外に延びているため本来

の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN16°Eの総柱建物である。南北2間(4.4m)以上×東西2間(4.4m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.0m・2.2m、東西1間2.5m・1.9mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～40cmである。P03の中程から石が出土した。

出土遺物 柱穴P06からは土器の小片が出土している。

SB053(図版119 写真図版140)

検出状況 調査区西部の掘立柱建物SB051の東側に位置する。東側に延びる可能性がある。

形状規模 南北軸がN13°Eの建物である。南北3間(6.6m)以上×東西1間(2.1m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.2m、東西1間2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径約30cm、柱痕は径約15cm、深さは約15cm～20cmである。

出土遺物 遺物は出土していない。

SA003(図版119)

検出状況 調査区西部に位置し、掘立柱建物SB051とSB053の間で検出した。

形状規模 方位がN17°Eの柵列である。規模は南北3間(6.3m)である。柱間は2.1mの間隔である。

柱 穴 円形を基本とし掘形径25cm、深さは約15cm～20cmである。

出土遺物 柱穴P01からは須恵器椀(1167)、P02からは土師器托(1168)が出土した。

18. 38区(図版114 写真図版143)

38区は、37区の東端から南側に直交して続く。南端の東側にはE地区の44区が続く。38区では30区や37区から続く溝を検出した。一部農作業小屋が存在するため、調査できていない部分がある。

SD047(写真図版143)

検出状況 調査区北端に位置し、37区の溝SD049の南東側に位置する。

形状規模 調査区の東から西に向かって弯曲して流れる。規模は幅1.5m前後、深さ60cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD110(写真図版143)

検出状況 調査区北部の溝S047の南側に位置する。東西とも調査区外に延びている。位置関係と埋土の状況から、30区のSD050と同一の溝であると考えられる。

形状規模 調査区の長軸に直交し弯曲する溝である。規模は幅0.8m～1.2m、深さ20cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

19. 39区(図版111・112・114 写真図版144)

39区は、37区の西端から南側に直交して続く調査区である。南側は市道が走っている。耕作土及び床土直下が遺構検出面で、溝と土坑を検出した。37区から続く溝SD107は37区で記述した。

SK042(図版120)

検出状況 調査区南部に位置する。

形状規模 平面形は隅丸方形で、底面には凹凸がある。規模は南北60cm、東西70cm、深さは10cmを測る。

出土遺物 土師器皿(1190)が出土した。

SK043(図版120 写真図版144)

検出状況 調査区南部の土坑SK042の東側に位置する。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸三角形で、断面形はU字形である。規模は南北70cm、東西50cm、深さは15cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK044(図版120)

検出状況 調査区南端に位置し、南側は調査区外に延びる。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅い皿形である。規模は南北1.4m、東西1.0m、深さは10cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD111(図版120 写真図版144)

検出状況 調査区南東端に位置する。位置関係や埋土から37区のSD103の続きであると考えられる。

形状規模 直線的な溝で、断面形は東側にやや平坦部分を作るU字状を呈する。規模は幅2.0m、深さ40cm、延長6m以上を測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

第6節 E地区の調査

1. 調査の概要(図版10 写真図版145・148・151～154)

調査対象地の南東部のB・C-3・4区、D-4区に位置する。水路部分の調査が不可能なため、調査区を40区から44区の5地区に分割して行った。

2. 層序

多くの地区において、耕作土層・床土層・基盤層の層序が認められた。基盤層の上面が、遺構検出面となっている。

3. 40区(図版121 写真図版145)

26区の西側、42区の東側に位置する。全長92m、幅6mの東西に細長い調査区で、東側部分では一部東側に張り出す。調査面積は527㎡を測る。遺構は、掘立柱建物跡(SB054・SB055)・柱穴(P4001)・溝(SD114～SD116)・土坑を検出している。また、SD040が26区西端から延びているが、当遺構については26区で報告済である。

SB054(図版122 写真図版146)

検出状況 調査区西半部に位置する。SB055と棟軸方向をほぼ同じくし、その東側に位置する。南東部は調査区外に広がっているが、全体の規模を捉えることは可能である。他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 北西-南東軸をN22°Eにとる総柱建物である。北西-南東3間(7.30m)×北東-南西3間

(6.40m)の規模である。建物の柱間は、北西－南東3間2.40m・2.40m・2.50m、北東－南西3間2.20m・2.00m・2.20mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径22cm～28cm、深さは約10cm～30cmである。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SB055(図版122 写真図版146)

検出状況 調査区西半部に位置する。SB054と棟軸方向をほぼ同じくし、その西側に位置する。南側は調査区外に延びている可能性があるため、本来の規模は不明である。他の遺構との明確な切り合い関係は認められない。

形状規模 南北軸をN20°30'Eにとる総柱建物である。北西－南東2間(4.80m)以上×北東－南西2間(4.30m)以上の規模である。建物の柱間は、北西－南東2間2.50m・2.30m、北東－南西2間2.10m・2.20mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径23cm～48cm、深さは約50cm～70cmである。P01の柱痕径は約20cmである。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

P4001(図版123 写真図版147)

検出状況 調査区西半部に位置する。SB054南東隅(P09)の南東側に位置する。他の遺構との明確な切り合い関係は認められない。

形状規模 建物に復元できなかった柱穴である。平面形は円形で、掘形径56cm、深さは66cmである。P01の柱痕径は38cmである。

出土遺物 柱痕内から須恵器小皿(1194～1197)、土師器小皿(1198～1207)・托(1208・1209)が出土している。

SD112(図版123 写真図版147)

検出状況 調査区東部に位置する。SD114の西側に位置し、SD115に切られている。両端とも調査区外へ延びている。

形状規模 弧状をなす溝である。規模は、幅1.24m、深さ35cm、延長8.00m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は、上から、褐灰色極細砂・暗褐色極細砂～細砂・褐灰色細砂～シルト質極細砂・明黄褐色極細砂～細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD113

検出状況 調査区東半部に位置する。SD112の西側、SD116の東側に位置し、SD116に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。規模は幅0.50m～0.60m、深さ10cm、延長11.00m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は黄褐色シルト混じり灰褐色細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD114

検出状況 調査区東部に位置する。SD112の東側に位置する。東端部が攪乱を受けている以外は、他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 調査区の長軸に斜交するわずかに蛇行傾向にある溝である。規模は幅0.50m、深さ8cm、延長3.80mを測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は上層が灰褐色極細砂、下層が黄灰褐色の細砂～粗砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD115

検出状況 調査区東部に位置する。SD112に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。両端とも調査区外へ延びている。規模は幅0.30m、深さ6cm、延長8.500m以上を測り、断面形は皿形を呈する。

埋 土 埋土は褐灰色極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD116(図版123 写真図版147)

検出状況 調査区中央部に位置する。SD113を切っている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。両端とも調査区外へ延びている。規模は幅1.50m、深さ45cm、延長8.00m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は、上から、暗青灰色極細砂・灰褐色細砂～シルト質極細砂・明灰黄色極細砂～シルト質極細砂である。1層から3層を中心に40cm大の角礫が放り込まれていた。

出土遺物 備前焼播鉢(1210・1211)と白磁碗(1212)が出土している。

4. 41区(図版124 写真図版148)

41区は、27区西端部・42区東端部に直交する。全長29m、幅6mの南北に細長い調査区で、両端とも幅が12mに広がっている。調査面積は251㎡を測る。遺構は、掘立柱建物跡(SB056・SB057)・溝(SD117・SD118)・土坑(SK045)を検出している。また、SD041の一部が27区西端から延びているが、当遺構については27区で報告済である。

SB056(図版125 写真図版149)

検出状況 調査区中央部に位置する。北東隅と南西部は調査区外に広がっている。SK045を切り、SD118に切られている。

形状規模 南北軸をN20°Eにとる総柱建物である。南北4間(8.50m)×東西3間(8.00m)の規模である。建物の柱間は、南北4間2.10m・2.20m・2.10m・2.10m、東西3間2.30m・2.70m・2.00mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径18cm～32cm、柱痕は径約16cm、深さは約20cm～34cmである。また、P04とP13の柱痕内には角礫が入れられていた。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SB057(図版125 写真図版150)

検出状況 調査区中央部南側に位置する。北東部は調査区外に延びている。他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 南北軸をN18°Eにとる総柱建物である。南北3間(6.40m)×東西2間(4.10m)の規模である。建物の柱間は、南北3間1.90m・2.10m・2.40m、東西2間2.10m・2.00mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～32cm、深さは約20cm～28cmである。P07の柱痕径は径14cmである。

出土遺物 柱穴P03とP06から須恵器椀(1215・1216)が出土している。

SK045(写真図版148)

検出状況 調査区中央部に位置し、SD118に切られている。また、西側は調査区外へ広がっている。

形状規模 平面形は不定形である。規模は南北2.10m、東西2.60m以上、深さは14cmを測る。断面形は皿形をなす。

埋 土 埋土は黄褐色シルト混じり暗褐色シルトである。

出土遺物 須恵器椀(1217・1218)と土師器小皿(1219・1220)が出土している。

SD117

検出状況 調査区北西隅に位置する。SD041とほぼ平行する。他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。北東端は調査区内で収束し、南西端は調査区外へ延びている。規模は幅0.20m、深さ4cm、延長2.00m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は褐色シルトである。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD118(写真図版148)

検出状況 調査区中央部に位置する。SK045・SB056の柱穴を切っている。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、鍵形に屈曲する直線的な溝である。規模は幅0.15m～0.60m、深さ7cm、延長10.00m以上を測り、断面形は皿形を呈する。

埋 土 埋土は黄褐色シルト混じり暗褐色シルトである。

出土遺物 須恵器椀(1221)と土師器小皿(1222・1223)が出土している。

5. 42区(図版124・126 写真図版151・152)

42区は40区の西側、43区の東側に位置し、東端部は41区南端部と直交する。全長67m、幅5mの東西に細長い調査区である。調査面積は306㎡を測る。遺構は、掘立柱建物跡(SB058)・溝(SD119～SD121)・土坑(SK046)を検出している。

SB058(図版127 写真図版151)

検出状況 調査区東部に位置する。北西隅と南東隅は調査区外に延びている。他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 南北軸をN17°Eにとる総柱建物である。南北2間(4.00m)×東西2間(4.90m)の規模である。建物の柱間は、南北2間1.90m・2.10m、東西2間2.50m・2.40mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径21cm～34cm、深さは約10cmである。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK046(図版127 写真図版151)

検出状況 調査区中央部に位置する。他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 平面形は南北に長い舌状をなし、断面形は皿形である。規模は南北1.70m、東西3.40m、深さは5cmを測る。

埋 土 褐色シルト質極細砂～シルト質極細砂1層である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD119(図版127 写真図版151)

検出状況 調査区中央部に位置する。他の遺構との切り合い関係は認められない

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。両端とも調査区外へ延びている。規模は幅1.80m、深さ50cm、延長8.00m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋 土 埋土は、上から、褐灰色極細砂～シルト質極細砂・暗褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD120(写真図版152)

検出状況 調査区西部に位置する。SD121に切られている。東側肩部のみ検出し、西側の肩部は検出していない。西側の調査区43区においても検出していないことから、落ち込みの可能性も考えられる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する。規模は幅1.40m以上、深さ40cm、延長7.00m以上を測り、断面形は皿形を呈する。

埋 土 埋土は、上から、黒灰色シルト混じり灰色シルト・暗黒灰色シルト・暗青灰色シルト混じり中砂である。

出土遺物 縄文土器深鉢(15・16)が出土している。

SD121

検出状況 調査区西半部に位置する。SD120を切っている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。南東端は調査区内で収束し、北西隅は調査区外へ延びている。規模は幅0.30m、深さ8cm、延長3.30m以上を測り、断面形は皿形を呈する。

埋 土 埋土は灰褐色細砂～粗砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

6. 43区(図版128 写真図版153)

42区の西側、44区の東側に位置する。全長29m、最大幅5mの三角形状をなす調査区である。調査面積は97㎡を測る。遺構は、溝(SD122)を検出している。

SD122(写真図版153)

検出状況 調査区西端部に位置する。他の遺構との切り合い関係は認められない。

形状規模 調査区の長軸に斜交するほぼ直線的な溝で、西端部はわずかに弧状をなしている。東端は調査区外へ延び、西側は44区で検出している。規模は幅0.80m、深さ16cm、延長8.50m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

埋 土 埋土は暗灰色シルトである。

出土遺物 遺物は出土していない。

7. 44区(図版128 写真図版154)

44区は、43区の西側に位置し、西端は38と直交する。全長36m、幅4mの細長い調査区である。調査面積は148㎡を測る。遺構は、東端部で溝(SD122)を検出している。詳細は43区で報告済である。

第7節 F地区の調査

1. 調査の概要(図版11 写真図版155)

F地区は平成18年度の第2次調査の地区である。D地区の西側のE-3～5区、F-4・5区、G-5・6区、H-5区に位置している。市道や里道部分、水路部分が調査不可能であったため、調査区を分割して調査を実施した。45区～56区の12地区が該当する。

2. 45区(図版129・130 写真図版155・159)

45区はF地区の北端に位置し、南西-北東方向に長い調査区である。中央部から東側に向かって46区に続く。南側は水田畦畔を挟んで、G地区の57区に接する。北側は苦編山麓であり、西側は苦編集落が広がる。遺構検出面は耕作土及び床土直下であり、南北方向の中央部には水田の段が存在する。北端は攪乱が存在する。

検出した遺構は掘立柱建物2棟と溝・土坑がある。

SK047(図版131)

検出状況 調査区南部に位置し、溝SD123を切り、溝SD125・SD126に切られる。西側は調査区外に延びる。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、底部には凹凸がある。規模は南北8m、東西10m以上、深さは最大30cmを測る。

埋土 埋土は上層が灰黄褐色の極細砂、下層が黒褐色もしくは灰黄褐色のシルト質極細砂である。

出土遺物 須恵器碗(1240・1241)・小皿(1242・1243)、土師器坏(1230・1231)・小皿(1233～1236)、托(1232)・底部(1237・1238・1239)、白磁碗(1244)、平瓦(1245)、鉄製鏝(M36)が出土した。

SD123(図版131 写真図版156)

検出状況 調査区南部に位置し、46区から続いている。土坑SK047、溝SD125に切られている。

形状規模 大きく蛇行する溝である。規模は幅1.5m～3m、深さ45cm前後、延長3.60m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD124(図版131 写真図版156)

検出状況 調査区北端に位置する。SB060の柱穴に切られ、北東端は攪乱を受けている。

形状規模 調査区の北辺に並行する直線的な溝で、方位はN52°Eである。規模は幅2m～2.5m、深さ約40cm、延長30m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

埋土 埋土は上層が黒褐色のシルト質極細砂、中層が褐色、下層が灰黄褐色の極細砂～中砂で細礫を多く含んでいる。

出土遺物 弥生土器甕(83・84・85)が出土した。

SD125(図版131 写真図版156)

検出状況 調査区南部に位置する。溝SD123と土坑SK047を切っている。

形状規模 南北方向に直線的な溝で、方位はN22°Eである。規模は幅1m、深さ120cm、延長9m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋土 埋土は灰黄褐色の極細砂である。

出土遺物 図示できる遺物はない。

SD126(図版131)

検出状況 調査区南部の西端に位置し、土坑SK047を切っている。

形状規模 南北方向に直線的な溝で、SD125に並行し、方位はN20°Eである。規模は幅0.4m、深さ10cm、延長8m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋土 埋土は暗灰黄色の極細砂～細砂である。

出土遺物 須恵器碗(1246)がある。

SA004(図版131)

検出状況 調査区北部、掘立柱建物SB059と重複して検出した。P01以外は調査区外である。

形状規模 方位がN76°Wの柵列跡である。規模は東西2間(5.5m)である。柱間は3.1mと2.4mの間隔である。

柱穴 方形で掘形径15cm、深さは20cmを測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB059(図版132 写真図版157・158)

検出状況 調査区北部に位置する。北側には大きな攪乱があり、東側は調査区外に延びているが表土が除去されていたため、2間まで確認できた。建物内にSA004が存在するが、前後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。西側柱列南に小規模な柱が付く。南北2間(4.4m)以上×東西2間(4.5m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.2m、東西1間2.25mである。

柱穴 柱穴は円形で、掘形径40cm～50cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～50cmである。P01の下部とP10の上部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P02～P04から土器の小片が出土している。

SB060(図版132 写真図版157・158)

検出状況 SB059の西側に位置する。下層の溝SD124を切っており、北西部分は大きな攪乱により影響を受けている。

形状規模 南北軸がN14°Eの総柱建物である。南北3間(6.5m)×東西4間(8.1m)の規模である。建物の柱間は、南北1間約2.2m、東西方向が西1.8m、他2.1mである。

柱穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～35cm、柱痕は径約15cm、深さは約10cm～45cmである。P05の上部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P02・P05・P07・P08・P10～P14から土器の小片が出土している。

3. 46区(図版129・130・133～135 写真図版155)

46区は45区の東側に位置し、南西－北東方向に長い調査区である。東側は47区に続く。南北方向の中央部には水田の段差があったため、検出面にも段差が生じた。北側の調査区外は、事業者による耕作土除去で、柱穴を中心とする遺構が見えていたため、掘削はしなかったが、検出位置の記録を取った。

検出した遺構は、掘立柱建物4棟と柵1基、溝がある。

SB061(図版136 写真図版162)

検出状況 調査区中央部に位置する。北側は調査区外に延びているが、表土が除去されていたため、3間まで確認できた。下層の溝SD123・SD127を切っている。掘立柱建物SB062・SB064と重複関係にあ

るが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物で、南北3間(6.9m)以上×東西3間(9.3m)の規模である。建物の柱間は、南北方向は南端のみ2.4m、他2.2m、東西方向は東端のみ3.3m、他3.0mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～40cmである。

出土遺物 柱穴P09からは須恵器椀(1247)が出土しているほか、P01・P04・P08・P13から土器の小片が出土している。

SB062(図版136 写真図版162)

検出状況 調査区中央部に位置する。北側は調査区外に延びているが、表土が除去されていたため、3間まで確認できた。下層の溝SD127を切り、掘立柱建物SB061・SB063と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸はN23°Eの総柱建物である。南北3間(5.6m)以上×東西4間(8.5m)の規模である。建物の柱間は、南北方向は北端のみ2.0m、他1.8m、東西方向は外1.9m、内2.35mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cmである。深さは10cm～40cmで西側ほど深くなっている。P03・P04の下部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P03からは土師器皿(1249)、P07からは須恵器坏B(1252)・甕(1253)、土師器小皿(1250・1251)が出土しているほか、P04・P08・P12・P16・P20から土器の小片が出土している。

SB063(図版137 写真図版162)

検出状況 調査区中央部に位置する。北側は調査区外に延びているが、表土が除去されていたため、3間まで確認できた。溝SD128を切り、掘立柱建物SB062と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN22°Eの総柱建物である。南北3間(6.3m)以上×東西3間(7.4m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西1間2.6m・2.7m・2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm。深さは25cm～60cmで西側ほど深くなっている。

出土遺物 柱穴P03・P08から土器の小片が出土している。

SB064(図版137 写真図版162)

検出状況 調査区中央部に位置する。北側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD123・SD127を切っている。掘立柱建物SB061と重複関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN14°Eの総柱建物である。南北1間(1.5m)以上×東西3間(4.8m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.5m、東西方向外が1.4m、内が2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～25cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～25cmである。

出土遺物 柱穴P01からは土師器小皿(1248)が、P03・P04・P06・P08から土器の小片が出土している。

SA005(図版137)

検出状況 調査区中央部の掘立柱建物群の南西端に位置し、SD123を切る。

形状規模 方位がN70°Wの柵列跡である。柱間は2間で、全長は4.3mである。柱間の間隔は不均一で2.3m・2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～25cm、深さは約10cmである。P03の上部から石が出土した。

出土遺物 P01・P02から土器の小片が出土している。

SD123(図版135)

検出状況 調査区中央部に位置する。流路SD127、掘立柱建物SB061・SB064、柵SA005の柱穴に切られている。位置関係と埋土から45区に繋がっている。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝で大きく蛇行している。規模は幅4.0m前後、深さ60cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD127(図版135)

検出状況 調査区中央部に位置する。流路SD123を切り、掘立柱建物SB061・SB062・SB064の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝である。規模は幅4.0m前後、深さ72cm、延長7.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 下層から弥生土器壺(86・87)、上層から須恵器稜碗(1254)、不明石製品(S69)が出土した。偶蹄目の動物の歯が出土した。

SD128(図版135)

検出状況 調査区東部の掘立柱建物群の東側に位置する。北側は調査区外に伸び、南側は水田造成の段により削平されている。SB063の柱穴に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝で、方位はN14°Eである。規模は幅最大30cm、深さ7cm、延長6.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器皿(1255)、羽釜(1256)が出土した。

SX001(図版135 写真図版160)

検出状況 調査区西部に位置する。従来、弥生時代以降の遺構検出面と考えていた土層から、土器の一部が顔を出していたため、平面的に遺構検出を試みたが、掘形は検出できなかった。このため縄文土器出土地点をSX001とした。

形状規模 褐色の中砂～粗砂の堆積層の中から口縁部を南に向けた縄文土器深鉢が出土した。おそらく大きな流路の一部であると考えられる。

出土遺物 完形の縄文土器深鉢(17)の他に周辺から縄文土器の破片(18～20)が出土した。

4. 47区(図版138・139 写真図版163)

47区は、46区の東側に接しており、D地区の36区の南西側と37区の北西側に水路を挟んで位置している。南北方向に長い調査区で、南端は東側に屈折している。耕作土及び床土直下が遺構検出面である。南北方向の中央部と東西方向の西端部分に水田耕作時の大きな段差があったため、検出面も段差が認められた。検出した遺構は、溝のみである。

SD129(図版139 写真図版163)

検出状況 調査区南部の西端に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD130・SD133に切られており、SD130の南側では削平が著しく一部途切れている。

形状規模 調査区の南西端を弯曲する溝である。規模は幅50cm、深さ最大30cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD130(図版139 写真図版163)

検出状況 調査区南部の西端に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD129を切り、SD133に切られている。

形状規模 調査区の南西端を大きく蛇行する溝である。規模は幅1.2m、深さ18cmを測り、断面形は浅い逆台形を呈する。

出土遺物 土師器鉢(172・173)が出土した。

SD131(写真図版163)

検出状況 調査区中央部に位置する。南側に接して溝SD132がある。東側は溝SD133に切られており、西側は調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。規模は幅1.5m、深さ最大20cm、延長5m以上を測り、断面形はW字状を呈する。

出土遺物 土師器鉢(170・171)が出土した。

SD132

検出状況 調査区中央部に位置し、溝SD131の南側に接している。東側は溝SD133に切られており、西側は調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。規模は幅2.0m、深さ最大30cm、延長7.5m以上を測り、断面形には凹凸がある。

出土遺物 土師器甕(167・168)・二重口縁壺(169)が出土した。

SD133(図版139 写真図版164)

検出状況 調査区東半部全体に位置する。溝SD129～SD132を切っている。東肩は調査区外に延びているため、幅は不明である。位置関係と埋土の堆積状況から、35区のSD086、36区のSD091、37区のSD109と同一の溝であると考えられる。

形状規模 調査区北から南に向かって貫く直線的な溝である。規模は最大幅4.8m以上、深さ70cm、延長61m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

埋土 溝は埋土の堆積状況から、周囲の土を削平し、埋め立てて平坦化させ、規模を縮小させていった様子がうかがえる。

出土遺物 土師器甕(174)、土師器小皿(1257・1258)・椀(1259～1261)・托(1262)・鍋(1263)、須恵器椀(1265・1266)・甕(1264)、瓦質土器三足付羽釜(1267・1268)、瓦器椀(1269)、備前焼壺(1270)、白磁碗(1271～1273)・把手(1274)、青磁碗(1275)、染付磁器碗(1276)、平瓦(1277)、施釉陶器壺(1278)、楔形石器(S71)・二次加工のある剥片(S72)、鉄釘(M37)・鉄滓(M38)、曲物底板(W99)が出土した。

5. 48区(図版138・139 写真図版165)

48区は47区の南側に位置し、D調査区の37区の西側に水路を挟んで位置している。南側には市道が走る。西側の辺が短い台形を呈する。旧耕作土の上に厚く盛土を行っている。耕作土及び床土直下が遺構検出面である。検出した遺構には、中世の溝がある。

SD133(図版139)

検出状況 調査区東半部全体に位置し、47区から続きの溝である。

形状規模 調査区を南北に流れる直線的な溝である。規模は幅6.3m、深さ30cm、延長12m以上を測り、

断面形は浅いU字状で凹凸がある。

出土遺物 白磁皿(1280)、平瓦(1279)がある。

6. 49区(図版140 写真図版166)

49区は51区の北西方向に水路を挟んで位置し、北西-南東方向に長い調査区である。耕作土及び床土直下が遺構検出面である。検出した遺構は、溝5条と柱穴である。

SD134(図版140 写真図版166・167)

検出状況 調査区南東端に位置する。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、北から南に向かって流れる直線的な溝である。規模は幅1.5m前後、深さ75cm、延長8.5m以上を測り、断面形は箱形を呈する。

出土遺物 管状土錘(1284)がある。

SD135(図版140 写真図版168)

検出状況 調査区北西端に位置する。

形状規模 調査区の長軸に直交し、北から南に向かって流れる直線的な溝である。規模は幅1.1m前後、深さ23cm、延長5.5m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD136(図版140 写真図版168)

検出状況 調査区西端、溝SD138の西側に位置し、西側は調査区外、東側は溝SD138に切られている可能性が高い。

形状規模 南西方向に屈曲する溝である。規模は幅1.4m、深さ25cm、延長2m以上を測り、断面形はV字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD137

検出状況 調査区西端、溝SD138の西側に位置し、西側は調査区外、東側は溝SD138に切られている可能性が高い。

形状規模 東西方向に延びる溝である。規模は幅70cm、深さ15cm、延長2m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD138(図版140 写真図版167・168)

検出状況 調査区西部の溝SD135～SD137の東側に位置する。

形状規模 調査区の長軸に斜交する溝である。規模は幅2.5m～4.0m、深さ1.0m、延長11m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(88)・甕(89)、土師器壺(175～190)・甕(191～223)・鉢(224～246)・有孔鉢(247・248)・高坏(249～259)・器台(260～264)・小型器台(265)、木製品把手(W100)・部材(W101)・角材(W102)がある。自然遺物として桃の核がある。上層からは須恵器坏(1281)、坏B蓋(1282)、壺(1283)が出土した。

7. 50区(図版141 写真図版169・170・172)

50区は48区の北東方向に市道を挟んで位置し、南西方向に水路を挟んで51区がある。北東－南西方向に長い台形を呈する調査区である。耕作土直下で遺構を検出しており、削平が著しい。検出した遺構は溝のみである。

SD133

検出状況 調査区東端に位置し、西肩のみ検出した。ほかは調査区外に延びる。位置関係と埋土の状況から48区から続きの溝であると考えられる。

形状規模 調査区を南北方向に流れる直線的な溝である。規模は幅1.6m以上、深さ40cm以上、延長2.5m以上を測り、断面形は浅いU字状である。

出土遺物 白磁皿(1280)、平瓦(1279)が出土した。

SD139(写真図版170)

検出状況 調査区東部の溝SD133の西側に位置する。両端は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN18°Eである。規模は幅1.1m、深さ27cm、延長5.3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD140

検出状況 調査区東部の溝SD139の西側に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD141に切られる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN9°Eである。規模は幅25cm、深さ8cm、延長6.50m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD141(写真図版170・171)

検出状況 調査区南東部の溝SD139の西側に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD140を切る。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN44°Eである。規模は幅60cm前後、深さ25cm、延長15.7m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD142(写真図版171)

検出状況 調査区全体に位置する。北側は調査区外に延び、西側は51区に続く。規模や埋土からSD142～SD144は同時併存であると考えられる。

形状規模 調査区の東部では南北方向に直線的に延び、溝SD143との分岐点で南西方向に屈折する。さらにSD144との合流点で、やや西方向に屈折する溝である。規模は幅35cm、深さ13cm、延長29m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD143(写真図版170)

検出状況 調査区北部に位置する。東側は溝SD142から分流し、西側はSD144に直交して合流する。規模や埋土からSD142～SD144は同時併存であると考えられる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。規模は幅30cm、深さ14cm、延長11.0mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD144(写真図版171)

検出状況 調査区西部に位置する。北端では溝SD143の西端に直交して合流する。南部ではSD142と交錯するが、規模や埋土からSD142～SD144は同時併存であると考えられる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN22°Eである。規模は幅30cm、深さ8cm、延長18m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD145

検出状況 調査区南部の壁際に位置する。

形状規模 調査区の一部をかすめて弯曲する溝である。規模は幅70cm以上、深さ35cm以上を測り、断面形は推定U字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD146(写真図版171・172)

検出状況 調査区西北端に位置する。東肩のみ検出し、ほかは調査区外のため、全容は明らかでない。51区に続く。

形状規模 調査した範囲では直線的な溝である。規模は幅50cm以上、深さ30cm以上、延長3.5m以上を測る。

出土遺物 遺物は出土していない。

8. 51区(図版141・142 写真図版169・170・172)

51区は50区の南西側に水路を挟んで位置する調査区であり、南西部の北西側に一部直交して張り出す。南西側には水路を挟んで52区、北西側には水路を挟んで49区が存在する。耕作土直下で遺構を検出しており、削平が著しい。検出した遺構は溝のみである。

SD142(図版143 写真図版171)

検出状況 調査区長軸中央部に位置する。溝SD148を切り、SD147と中央部から南側では重複関係があり、切っている。SD149はSD142もしくはSD147から分岐する可能性がある。北側は50区から続き、南側は52区へ続く。

形状規模 調査区の長軸に並行し、やや蛇行する溝である。規模は幅45cm、深さ12cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD146(図版143 写真図版171)

検出状況 調査区長軸中央部に位置する。溝SD148・SD149を切っている。北側は50区から続き、南側は52区へ続く。52区の南西側は削平が著しく、SD151によって切られているため、良好に検出できていないが、53区へ続く。

形状規模 調査区の長軸に並行し、やや蛇行する溝である。規模は幅1.2m～1.8m、深さ38cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器甕(90)、土師器小型器台(266)がある。

SD147(図版143 写真図版171)

検出状況 調査区長軸中央部の溝SD142とSD146の間に位置する。溝SD148を切り、中央部から南側で

はSD142と重複関係にあり、切られている。SD149はSD142もしくはSD147から分岐する可能性がある。北側は削平を受けて消滅している。

形状規模 調査区の長軸に並行し、やや蛇行する溝である。規模は幅33cm、深さ5cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD148(図版143 写真図版172)

検出状況 調査区中央部から西部に位置する。両端とも調査区外に延びる。溝SD142・SD146・SD147に切られる。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、やや蛇行する溝である。規模は幅75cm、深さ15cm、延長16m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD149(写真図版171)

検出状況 調査区西部の溝SD142とSD148が交差する周辺から西側に位置する。SD146に切られており、西側は調査区外に続く。

形状規模 やや蛇行する溝である。規模は幅20cm、深さ5cm、延長13.5m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD150(図版143 写真図版171)

検出状況 調査区北西部に位置する。北東側は調査区外に延び、南西側は溝SD151に切られており、52区を通り、53区に続いている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。規模は幅50cm、深さ38cm、延長12.7m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD151

検出状況 調査区西端に位置する。東肩のみ検出し、ほかは調査区外のため、全容は明らかでない。52区へ続く溝である。

形状規模 直線的な溝で、方位はN22°Eである。規模は幅3.3m以上、深さ25cm、延長18m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器鍋(1289)が出土した。

9. 52区(図版142 写真図版169・170・172)

52区は51区の南西方向に水路を挟んで位置し、西側には53区が存在する。三角形の調査区である。耕作土直下で遺構を検出している。調査前の水田時の段差が遺構検出面でも存在し、特に南側は削平が著しい。検出した遺構は溝のみである。なお、SD146の記述は51区に合わせて行う。

SD151

検出状況 調査区西端に位置する。東肩のみ検出し、ほかは調査区外のため、全容は明らかでない。51区から続く溝である。

形状規模 直線的な溝で、方位はN22°Eである。規模は幅2.8m以上、深さ25cm、延長17m以上を測り、

断面形はU字状を呈する。

出土遺物 備前焼摺鉢(1289・1290)・壺(1291)、青磁碗(1292)、石臼(S74)が出土した。

10. 53区(図版144・145 写真図版169・172・175・176)

53区は52区の西側に水路を挟んで位置している。西側には水路を挟んで55区が存在する。北東-南西方向に長い調査区であり、耕作土及び床土直下で遺構を検出している。南西方向に行くにしたがって、土壌層が厚く堆積している。

検出した遺構は溝が調査区全域に広がっており、中央部では掘立柱建物と鉄分を伴う土坑が集中している。

SD142(図版146)

検出状況 調査区東端に位置する。52区から続いており、南側は調査区外に延びる。溝SD150と接する付近からSD153が分岐している。

形状規模 調査区の隅を弯曲する溝で、一部途切れる。規模は幅28cm前後、深さ15cm、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD146(図版146 写真図版172)

検出状況 調査区の長軸中央部に位置する。52区から続いており、55区へ続いていく。溝SD150・SD152・SD155・SD157、土坑SK048、掘立柱建物SB065～SB069・SB071の柱穴に切られている。また、中央部分から西側に溝SD154が分岐している。

形状規模 調査区の長軸に並行し、僅かに蛇行する溝である。規模は幅1.0m前後、深さ43cm、延長70m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器脚付壺(91)が出土したほか、最上層から緑釉陶器(1334)が出土した。

SD150(図版146 写真図版172)

検出状況 調査区東部に位置する。北東側は51区から続いており、南側は調査区側に延びている。溝SD146・SD153・SD156、土坑SK050、掘立柱建物SB070に切られている。

形状規模 直線的で僅かに蛇行する溝である。規模は幅60cm、深さ30cmを測り、断面形は箱形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD152(図版146 写真図版172)

検出状況 調査区北東から中央部に位置する。溝SD146・SD153・SD156・SD155、土坑SD050、掘立柱建物SB070の柱穴に切られている。

形状規模 直線的で僅かに蛇行する溝である。規模は幅35cm、深さ32cm、延長25m以上を測り、断面形は深い箱形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD153(図版146)

検出状況 調査区東部から中央部にかけて位置する。溝SD142がSD150と接する付近から分岐している。西側は削平により消滅している。一部SD150と重複し、SD150を切っている。

形状規模 直線的で途中で屈折する溝である。規模は幅40cm、深さ5cm、延長13.5m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD154

検出状況 調査区中央部に位置する。溝SD146が蛇行し、北西に膨らんだ部分から西側に分岐している。掘立柱建物SB067に切られている。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝である。規模は幅0.5m～1.0m、深さ40cm、延長4.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD155(図版146 写真図版173)

検出状況 調査区中央部に位置する。溝SD146・SD152を切り、土坑SK052、掘立柱建物SB065・SB066・SB070・SB071の柱穴に切られている。両端とも調査区外に延びている。

形状規模 調査区の長軸に斜交し、蛇行する溝である。規模は幅1.0m前後、深さ25cm、延長20m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 須恵器坏身(892)、管状土錘(1333)が出土した。

SD156(図版146 写真図版173)

検出状況 調査区中央部の東側に位置し、掘立柱建物SB070の北辺の北側に並行して存在する。溝SD150・SD152・SD153を切る。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN65°Wである。規模は幅70cm、深さ3cm、延長5.0mを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 須恵器椀(1342)が出土した。

SD157(図版146 写真図版173)

検出状況 調査区中央部に位置し、掘立柱建物SB071の中央部に並行して存在するが、先後関係は不明である。西側部分は溝SD146を切る。南東側は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN70°Wである。規模は幅30cm、深さ15cm、延長15.8m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器壺(267)が出土した。

SD158(図版146 写真図版173)

検出状況 調査区南西部に位置する。中央部では土坑SK049と溝SD159とが重複関係であるが、先後関係は明らかでない。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN89°Eである。規模は幅35cm、深さ5cm、延長10.3m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD159

検出状況 調査区南西部に位置する。南端では土坑SK049と溝SD158とが重複関係であるが、先後関係は明らかでない。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN20°Eである。規模は幅35cm、深さ5cm、延長6.0mを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD160(図版146 写真図版173)

検出状況 調査区南西部の溝SD158の南側に位置する。両端は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN70°Wである。規模は幅53cm、深さ8cm、延長9.8m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 管状土錘(1343)が出土した。

SD161(図版146 写真図版173)

検出状況 調査区南西部に位置し、溝SD160の南側に並行する。東側は調査区外に延び、西側は55区に続かないため、L字状に屈折してSD162に続くと考えられる。

形状規模 調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位はN70°Wである。規模は幅2.0m～2.3m、深さ20cm、延長6.3m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 土師器坏(1335)、須恵器坏(1336～1338)・稜椀(1339)・坏B蓋(1340・1341)が出土した。

SD162

検出状況 調査区南西端に位置する。溝SD161の西側に位置し、L字状に屈折する可能性がある。東側の肩のみ検出したが、西側は調査区外に延びている。南側は位置関係や埋土の状況から、54区のSD163へ続くと考えられる。

形状規模 直線的な溝で、方位はN20°Eである。規模は幅1.5m以上、深さ20cm、延長5m以上を測り、断面形は推定、U字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK048(図版147 写真図版174)

検出状況 調査区中央部の北側に位置し、掘立柱建物SB068の南東隅に存在するが、先後関係は明らかでない。

形状規模 平面形は南北に長い不整形円で、断面は浅くやや凹凸がある。規模は南北1.7m、東西1.4m、深さは11cmを測る。

出土遺物 須恵器椀(1322)、白磁碗(1323)、石鏃(S75)が出土した。

SK049(図版147 写真図版174)

検出状況 調査区南西部に位置し、溝SD158とSD159とは重複関係があるが、先後関係は明らかでない。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面は浅くやや凹凸がある。規模は南北1.7m、東西1.2m、深さは10cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK050(図版148)

検出状況 調査区中央部の東側に位置し、掘立柱建物SB070の内部に存在するが、先後関係は明らかでない。溝SD150を切っている。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北2.2m、東西1.7m、深さは14cmを測る。

埋土 北側の最下層に約5cmの炭層が堆積しており、南側には鉄滓や鉄分を多量に含む層が約5cm堆積している。

出土遺物 土師器皿(1324・1325)・小皿(1326・1327)・鍋(1328)、須恵器椀(1329～1331)、瓦器椀(1332)、鉄滓(M47～M49・M51)、鉄塊(M50)が出土した。

SK051(図版148 写真図版174)

検出状況 調査区中央部の東側に位置し、掘立柱建物SB070の内部のSK050の南西側に存在するが、先後関係は明らかでない。

形状規模 平面形は南北に長い不整形円で、断面形はV字状である。規模は南北44cm、東西30cm、深さは20cmを測る。

埋 土 南東部分の30cm×18cmには鉄滓や鉄分を多量に含む層が約10cm堆積している。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK052(図版148 写真図版174・177)

検出状況 調査区中央部に位置し、掘立柱建物SB065もしくはSB071の内部に存在するが、先後関係は明らかでない。溝SD155を切っている。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅いU字状である。規模は南北56cm、東西64cm、深さは7cmを測る。

埋 土 上層には鉄滓や鉄分を多量に含む層が約5cm堆積している。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SB065(図版149 写真図版174・175)

検出状況 調査区中央部に位置する。下層の溝SD146・SD153・SD155、掘立柱建物SB066・SB070の柱穴を切っている。建物の南西隅に鉄滓や鉄分を多量含む土坑SK052が存在するが、この建物に伴うかどうかは不明である。

形状規模 南北軸がN14°Eの総柱建物である。南北4間(7.8m)×東西3間(7.2m)の規模である。建物の柱間は、南北1間外側2.1m、内側1.8m、東西1間2.3m・2.1m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、柱痕は径約18cm、深さは30cm～65cmである。P10の上部、P03・P08・P15・P19の中部、P18の下部から石が出土した。またP03・P12・P13からは炭が多量に出土した。

出土遺物 すべての柱穴から土器が出土している。P05からは鉄滓(M40)、P07からは鉄釘(M43・M44)、P12からは瓦器椀(1293)・鉄塊(M41)・鉄釘(M42)、P14からは土師器皿(1294)、P18からは瓦器椀(1296)・土師器小皿(1295)が出土した。

SB066(図版150 写真図版175)

検出状況 調査区中央部に位置する。下層の溝SD146・SD153・SD155、掘立柱建物SB069・SB070の柱穴を切っており、SB065・SB067の柱穴に切られている。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。南北3間(6.3m)×東西3間(8.0m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.9m・2.2m、東西方向の外が2.7m、内が2.6mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは約40cm～60cmである。P06の上部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P01からは須恵器椀(1297)、P09からは白磁碗(1298)、P16からは土師器小皿(1300)、P10からは土師器小皿(1299)が出土しているほか、P08以外の柱穴からは土器が出土している。

SB067(図版151 写真図版178・179)

検出状況 調査区中央部の掘立柱建物SB066の北側に位置する。北西隅は調査区外に延びている。下層の溝SD146・SD154、掘立柱建物SB066の柱穴を切っている。

形状規模 南北軸がN17°Eの側柱建物である。南北2間(3.8m)×東西3間(7.2m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.9m、東西1間2.4mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約40cm～55cmである。P02・P06・P09の中部から石が出土した。またP02・P04・P05・P08からは炭が多量に出土した。

出土遺物 柱穴P04からは土師器鍋(1301)、P06からは土師器皿(1302)・小皿(1304・1305)、羽口(1306)、瓦器椀(1303)が出土しているほか、P02・P05・P07・P09から土器の小片が出土している。

SB068(図版151 写真図版178)

検出状況 調査区中央部北端に位置する。北西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。南東隅にSK048を伴っている。下層の溝SD146を切っている。

形状規模 南北軸がN23°Eの総柱建物である。南北3間(6.1m)以上×東西2間(4.2m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m・1.9m、東西1間2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～50cmである。

出土遺物 柱穴P04以外の柱穴からは土器の小片が出土している。

SB069(図版152 写真図版174・179)

検出状況 調査区中央部西側に位置する。下層の溝SD146・SD155を切っており、SB066の柱穴に切られている。

形状規模 南北軸がN22°Eの総柱建物である。南北2間(4.2m)×東西2間(4.5m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西1間2.25mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～60cmである。P07の下部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P01からは土師器竈(1308)、P03からは土師器小皿(1307)が出土したほか、P02・P05・P09からは土器の小片が出土した。

SB070(図版152 写真図版177・179)

検出状況 調査区中央部東側に位置する。南東側は調査区外に延びている。下層の溝SD150・SD152・SD155を切り、掘立柱建物SB065・SB066の柱穴に切られている。建物内に鉄滓や鉄分を多量含む土坑SK050やSK051が存在するが、建物に伴うかどうかは不明である。

形状規模 南北軸がN20°Eの総柱建物である。南北3間(6.1m)×東西4間(10.0m)の規模である。建物の柱間は、南北方向の南端が2.1m、他2.0m、東西方向の西端が2.8m、他2.4mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、柱痕は径約20cm、深さは約40cm～60cmである。P01の上部、P07・P10～P12の中部から石が出土した。またP06・P14・P15の柱痕跡は極めて明瞭であった。

出土遺物 柱穴P01からは須恵器椀(1309)、P06からは土師器小皿(1310)が出土したほか、P02・P13・P17以外からは土器が出土している。

SB071(図版153 写真図版176・179)

検出状況 調査区中央部南西側に位置する。南東側は調査区外に延びている。下層の溝SD155を切っている。建物の北部に鉄滓や鉄分を多量含む土坑SK052が存在するが、この建物に伴うかどうかは不明である。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物である。南北4間(8.4m)×東西4間(9.7m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.1m、東西1間2.3m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～60cm、柱痕は径約20cm、深さは約20cm～50cmである。P04の底部には木質が残存していた。礎木か柱根であると思われるが、不明である。P07・P16・P17・P20の上部、P05・P13の底部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P11からは白磁碗(1311)、P12からは鉄釘(M45)、P13からは須恵器壺(1312)、P14からは須恵器椀(1313)、土師器小皿(1314)、P16からは土師器皿(1315)、P17からは土師器小皿(1316)・鉄滓(M46)、P18からは土師器小皿(1317)、P19からは土師器小皿(1318)、須恵器椀(1319・1320)が出土したほか、P04・P10・P20以外からは土器が出土した。

11. 54区(図版154 写真図版180)

54区は53区の南側、55の水路を挟んで東側に位置し、南側はJR線が走る。三角形の調査区である。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。検出した遺構は溝のみである。

SD163(図版157 写真図版180)

検出状況 調査区の西端に位置する。幅は調査区外に延びているため不明である。位置関係と埋土から53区の西端の溝SD162と同一の溝であると考えられる。

形状規模 調査区の西側の水路に並行する直線的な溝である。規模は幅75cm以上、深さ20cm、延長6m以上を測り、断面形は推定U字状を呈する。

出土遺物 須恵器坏B(1351)がある。

12. 55区(図版154・155 写真図版181)

55区は53区と54区の西側に水路を挟んで位置する。北西側には56区が続く。北西-南東方向に長い調査区である。耕作土及び床土の下に土壌層が堆積しており、遺構検出面は土壌層の下である。検出した遺構には、掘立柱建物、溝、土坑がある。

SD146(図版156 写真図版184)

検出状況 調査区東部に位置する。東側は53区から続き、西側は調査区外に延びる。溝SD165に切られ、SD164・SD167と切り合い関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 大きく蛇行する溝である。規模は幅70cm前後、深さ20cm前後を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器甕(92)が出土した。

SD164(図版156)

検出状況 調査区東部に位置する。東側は53区から続き、西側は調査区外に延びる。溝SD165に切られ、SD146・SD167と切り合い関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 東西方向のやや蛇行する溝である。規模は幅1.4m、深さ10cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 板材(W103)が出土した。

SD165(図版156 写真図版184)

検出状況 調査区東部に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD164・SD167・SD146を切り、SD166と合流する。

形状規模 北東方向から南西方向へ流れ、SD166の合流点で屈折し、南へ向かって流れる直線的な溝で

ある。規模は幅1.0m前後、深さ40cm、延長32m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢(21)、須恵器碗(1366)が出土した。

SD166(図版156 写真図版184)

検出状況 調査区東部の溝SD165の西側に位置する。北側は調査区外に延び、南側はSD165に合流する。

形状規模 南北方向のやや弯曲する溝である。規模は幅75cm、深さ25cm、延長4m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 鉄滓(M54)が出土した。

SD167(図版156)

検出状況 調査区東部に位置する。東側は溝SD146に切られ、西側は調査区外に延びる。溝SD165に切られる。

形状規模 溝SD146と交錯しながら蛇行する溝である。規模は幅55cm、深さ13cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD168(図版156)

検出状況 調査区中央部の溝SD170の西側に位置し、西側は調査区外に延びる。SD170と切り合い関係にあるが、先後関係は不明である。

形状規模 弯曲する溝である。規模は幅55cm、深さ10cm、延長4m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD169(図版156 写真図版183・184)

検出状況 調査区中央部に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD170と同時併存しており、分岐する。

形状規模 調査区の長軸に斜交するやや弯曲した溝である。規模は分岐前の2.0m、分岐後の幅1.4m、深さ60cm、延長20m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋土 埋土の状況から埋積後、再掘削した様子が読み取れる。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD170(図版156 写真図版183)

検出状況 調査区中央部に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD169と同時併存しており、分岐する。

形状規模 調査区の長軸に斜交するやや弯曲する溝である。規模は幅1.5m、深さ75cm、延長11m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器脚台(93)、須恵器坏A(1360)・碗(1361・1362)・壺(1363)が出土した。

SD171(図版156 写真図版182)

検出状況 調査区西部に位置し、溝SD170の西側に存在する。両端は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交するやや弯曲した溝である。規模は幅3.0m前後、深さ65cm、延長14m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋土 埋土の状況から溝SD172と同時併存していた可能性が高い。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD172(図版156)

検出状況 調査区西部の溝SD071の西側に並行して流れる。両端は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に斜交するやや弯曲した溝である。規模は幅50cm、深さ35cm、延長14m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

埋 土 埋土の状況から溝SD171と同時併存していた可能性が高い。

出土遺物 土師器壺(268～270)・甕(271)・鉢(272)、最上層から須恵器捏鉢(1365)が出土した。

SD173(図版157 写真図版184)

検出状況 調査区南東端に位置、南側は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の東端に並行する直線的な溝で、方位はN20°Eである。規模は幅50cm、深さ7cm、延長9.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD174(図版157 写真図版184)

検出状況 調査区南東端に位置、南側は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の東端に並行する直線的な溝で、方位はN20°Eである。規模は幅55cm、深さ20cm、延長12m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 須恵器坏B(1367)が出土した。

SK053(図版157)

検出状況 調査区東部の溝SD164の南側、SD165の東側に位置している。

形状規模 平面形は不整円形で、断面形は浅い皿形である。規模は南北約3.0m、東西約4.0m、深さは11cmを測る。

出土遺物 須恵器碗(1357)・壺(1358・1359)が出土した。

SK054(図版157)

検出状況 調査区西部の溝SD171の北側に位置している。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は浅いU字形である。規模は南北1.65m、東西70cm、深さは12cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SB072(図版158 写真図版185・186)

検出状況 調査区南部の掘立柱建物SB073の北側に位置する。南西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸がN7°Eの推定側柱建物である。南北3間(5.0m)×東西1間(2.0m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間約1.7m、東西1間2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形もしくは隅丸方形で、掘形径30cm～80cm、柱痕は径約25cm、深さは約25cm～50cmである。P72の上部から石が出土した。

出土遺物 柱穴P04からは製塩土器(1355)が出土したほか、すべての柱穴から土器が出土している。

SB073(図版158 写真図版185・187・188)

検出状況 調査区南部の掘立柱建物SB072の南側に位置する。北西側は調査区外に延びている。

形状規模 南北軸がN15°Eの側柱建物である。南北3間(5.0m)×東西2間(3.5m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.65m、東西1間1.75mである。

柱 穴 柱穴は円形もしくは隅丸方形で、掘形径40cm～60cm、柱痕は径約25cm、深さは約40cm～50cmである。

出土遺物 柱穴P08からは製塩土器(1356)が出土したほか、P06・P07以外の柱穴からは土器が出土している。

SB074(図版158 写真図版189)

検出状況 調査区南部に位置する。南東隅は調査区外に延びている。

形状規模 南北軸がN19°Eの側柱建物である。南北2間(2.5m)以上×東西1間(3.3m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.25m、東西1間3.3mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約15cm～30cmである。

出土遺物 すべての柱穴から土器の小片が出土している。

13. 56区(図版159～161 写真図版190・194)

56区はF地区の西端に位置する調査区で、北東部分の南東側に55区が続く。南西－北東方向に長く、北東側の一部が北側に張り出している。最北端は耕作土及び床土直下が遺構検出面である。それ以外の地点では土壌層の堆積があり、南西部に行くに従い厚くなっており、土壌層の下が遺構検出面である。この土壌層から古墳時代から中世にかけての遺物が多量に出土した。

検出した遺構は、掘立柱建物・柱列・溝・土器集中地点・土坑・柱穴群などがある。

SB075(図版165 写真図版195)

検出状況 調査区中央部に位置する。下層の溝SD175を切る。

形状規模 南北軸がN20°Eの建物である。南北1間(3.9m)×東西2間(5.1m)の規模である。建物の柱間は、東西1間2.2m・2.9mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは20cm～30cmである。

出土遺物 柱穴P01からは須恵器坏(894)が出土しているほか、P03・P05からは土器の小片が出土した。

SA006(図版165 写真図版195)

検出状況 調査区中央部に位置し、掘立柱建物SB075の西側に位置する。

形状規模 南北軸の方位がN17°Eの柱列である。南北方向の南端から東に折れるL字状を呈する。規模は南北3間(5.8m)×東西1間(3.3m)の規模である。南北方向の柱間は2.2mと1.5mと不揃いである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径15cm～20cm、深さは7cm～20cmである。

出土遺物 柱穴P03からは須恵器椀(1380)が出土した。

SK055(図版163 写真図版194)

検出状況 調査区北部の張り出し部の溝SD181の南側に位置する。土器群SX002と併存している可能性が高い。

形状規模 平面形は南北に長い不整円形である。断面形は周囲が浅く、中央部はU字状に深くなっている。規模は南北0.9m、東西70cm、深さは31cmを測る。

出土遺物 土師器壺(369～374)・甕(375～378)・鉢(379)・高坏(380)が出土した。

SK056(図版163 写真図版194)

検出状況 調査区北部の張り出し部の土坑SK055の南側に位置している。土器群SX002に切られている。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形はU字状を呈する。規模は南北1.28m、東西1.04m、深さは45cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK057(図版163)

検出状況 調査区北部の張り出し部に位置し、溝SD179に切られている。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形はU字状を呈する。規模は南北1.8m、東西38cm、深さは23cmを測る。

出土遺物 土師器甕(367・368)が出土した。

SD175(図版163 写真図版192)

検出状況 調査区東部の下層に位置する。北東側は水溜め状遺構SG003から南西方向に流れ出て、調査区外へ延びる。掘立柱建物SB075の柱穴に切られる。

形状規模 蛇行する溝である。規模は幅0.5m～1.0m、深さ15cm前後、延長25m以上を測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 石鏃(S78)が出土した。

SD176(写真図版192)

検出状況 調査区北部の張り出し部の東北端に位置し、北側は調査区外に延びる。溝SD177・SD180に切られている。

形状規模 直線的な溝で、方位はN14°Eである。規模は幅50cm、深さ7cm、延長2m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD177(図版163 写真図版192)

検出状況 調査区北部の張り出し部の北端に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD176に切れ、SD180を切っている。

形状規模 東西方向にやや蛇行する直線的な溝である。規模は幅57cm、深さ25cm、延長6.5m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD178(写真図版192)

検出状況 調査区北部の張り出し部の溝SD177の南側に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD180に切られている。

形状規模 溝SD177の南側に並行する。やや蛇行するが、直線的な溝である。西端で2本に分岐している。規模は幅0.8m～1.0m、深さ最大45cm、延長10m以上を測り、断面形は箱形を呈する。

出土遺物 石鏃(S79)が出土した。

SD179(図版163)

検出状況 調査区北部の張り出し部の溝SD180と181の間に位置する。柱穴P5601・P5609を切り、SD181と土器群SX002に切られている。

形状規模 僅かに蛇行する溝である。規模は幅15cm、深さ5cm、延長7.0mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD180(図版162 写真図版193)

検出状況 調査区北部の張り出し部に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD176～SD178を切り、SD181に切られている。

形状規模 大きく弧を描く溝である。規模は幅2.5m～4.0m、深さ11cm～15cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

埋土 埋土には層状に多量の炭が含まれている。

出土遺物 土師器壺(322～325)・壺蓋(326)・甕(327～342)・鉢(343～347)・製塩土器(348)・手焙(349)・高坏(350～357)・小型器台(358・359)・小型丸底壺(360～364)・小型丸底鉢(365)・焼成粘土塊(366)が出土した。ほかに粘土の塊が6箇所出土し、上層より須恵器坏蓋(893)が出土した。

SD181(図版163 写真図版194)

検出状況 調査区北部の張り出し部のSD179の南側に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD179とSD180と柱穴群を切り、土器群SX002に切られている。

形状規模 緩やかに弯曲する溝である。規模は幅45cm、深さ10cm、延長12m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD182(図版164 写真図版192)

検出状況 調査区西部に位置し、両端は調査区外に延びている。南端部分では溝SD183～SD187に切られている。

形状規模 緩やかに蛇行する溝である。規模は幅1.0m、深さ18cmを測り、断面形は浅いU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD183(図版164 写真図版191)

検出状況 調査区西部に位置する。溝SD182を切り、SD184・SD187に切られている。

形状規模 溝SD182に直交する緩やかに蛇行する溝である。規模は幅50cm、深さ16cm、延長39m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 鉄滓(M56)が出土した。

SD184(図版164)

検出状況 調査区西部に位置する。溝SD182・SD183を切り、SD187に切られている。

形状規模 弯曲する溝である。規模は幅90cm、深さ42cm、延長16m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD185(図版164 写真図版191)

検出状況 調査区西部の溝SD186の北側に位置する。溝SD183・SD184を切り、SD187に切られている。

形状規模 溝SD186の北側に並行し、緩やかに曲線を描く溝である。規模は幅65cm、深さ18cm、延長20m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD186(図版164 写真図版191)

検出状況 調査区西部に位置し、両端とも調査区外に延びる。溝SD187と切り合い関係があり、南東壁ではSD187を切っている。

形状規模 緩やかに弯曲する溝である。規模は幅2.2m前後、深さ58cm、延長22m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(94)、土師器壺(274～282)・甕(283～297)・鉢(298～310)・有孔鉢(311～314)・高坏(315～319)(320・321)、木製横杓子(W95)・容器?(W96)・部材(W97)・棒状木製品(W98)が出土した。

SD187(図版164 写真図版191)

検出状況 調査区西部に位置し、両端とも調査区外に延びる。溝SD187と切り合い関係があり、南東壁ではSD186に切られている。

形状規模 大きく蛇行する溝である。規模は幅2.5m、深さ75cm、延長25m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD188(図版164 写真図版191)

検出状況 調査区西部の南端の溝SD185の南東側に位置する。ほとんどが調査区外に位置するため、全容は明らかでない。

形状規模 溝SD185に並行する直線的な溝である。規模は幅95cm、深さ17cm、延長12m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SG003

検出状況 調査区東端の下層に位置する池状の遺構である。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は浅いU字状を呈する。西端からは溝SD175が流れ出る。規模は南北7.5m、東西19.0m、深さは20cmを測る。

出土遺物 弥生土器壺(95)が出土した。

SX002(写真図版194)

検出状況 調査区北部の張り出し部のSD180の南側に位置する。土坑SK055や柱穴群を伴うと考えられる。

形状規模 標高2.45m～2.5mのほぼ平坦な8m×5mの範囲に土器が集中して出土し、木材・炭化材や粘土塊、砥石なども出土した。土坑SK055や複数の柱穴を伴うと考えられるが、建物は復原できなかった。

出土遺物 土師器壺(391～396・417)・甕(397～405・422)・鉢(406～410・423)・高坏(411～415)・小型丸底壺(416・418)・小型器台(419～421・424・425)、砥石(S80)が出土した。

第8節 G地区の調査

1. 調査の概要(図版11 写真図版196・197)

G地区はF地区の北西側のF-4区に位置している。平成19年度に調査を実施したうち、東側に離れた57区と58区の2区が該当する。57区と58区の間には水路が流れている。G地区の北西側は苦編山麓に立地する苦編集落が広がる。

2. 57区(図版166・167 写真図版196・197)

57区はF地区45区南端の水田畦畔を境に接し、西側には水路を挟んで58区が位置している。南端を頂

点とする、細長い三角形である。遺構検出面は耕作土及び床土直下である。2面の調査を実施し、いずれの面も溝を検出した。

SD123

検出状況 調査区北端に位置し、F地区45区の南側から続く溝である。

形状規模 大きく蛇行する溝で東から西に向かって流れる。規模は幅1.5m以上、深さ30cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD189

検出状況 調査区中央部に位置し、溝SD191に切られている。

形状規模 調査区の長軸に直交する溝で東から西に向かって流れる。規模は幅2.5m前後、深さ50cm、延長5.5m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(96)・甕(97)、礫器(S84)が出土した。

SD190

検出状況 調査区南部に位置する。両端は調査区外に延びる。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝である。規模は幅2.5m、深さ40cm、延長3.5m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器有孔鉢(585)が出土した。

SD191

検出状況 調査区中央部に位置し、溝SD189を切っている。北側は45区から続き、南側は調査区外に延びる。45区のSD125と同一である。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位はN21°Eである。規模は幅1.0m、深さ12cm、延長13.5m以上を測り、断面形は逆台形を呈する。

出土遺物 須恵器椀(1421)が出土した。

3. 58区(図版166・167 写真図版202・203)

57区の水路を挟んで西側に位置している。南側は市道で、西側は苦編集落が広がる。北東-南西方向に長い調査区である。北半部分は以前宅地であったため、攪乱による影響がある。

検出した遺構は竪穴住居・掘立柱建物・土坑墓・土坑・溝である。

SK058(図版168 写真図版209)

検出状況 調査区南西部のSD194とSD196の間に位置する。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形はU字状を呈する。規模は南北1.24m、東西0.92m、深さは15cmを測る。

埋土 埋土には炭が混じっている。

出土遺物 土坑底部から弥生土器壺(125)・甕(126・127・128)が出土した。

SD192(図版168 写真図版209)

検出状況 調査区北部に位置する。溝SD194・SD199、掘立柱建物SB076～SB078、土坑SK061に切られている。

形状規模 東西方向に流れる直線的な溝で、複数の溝が切り合っている可能性が高い。規模は幅3.2m

前後、深さ50cm、延長14m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(98・102・104)・甕(103・105・106)が出土した。

SD193(図版168 写真図版209)

検出状況 調査区南東部の調査区際に位置する。溝SD195・SD197・SD198・SD206、竪穴住居SH002、土坑SK059に切られている。

形状規模 北東から南西方向に僅かに弯曲して流れる直線的な溝である。規模は幅45cm、深さ26cm、延長27m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(107・108)・甕(109)が出土した。

SD194(図版168・169 写真図版209)

検出状況 調査区長軸中央部に位置する。溝SD192を切り、溝SD199・SD200・SD202、掘立柱建物SB076～SB078・SB080、土坑SK061・SK061に切られている。

形状規模 調査区の長軸に並行し、北東から南西方向にやや蛇行しながら流れる直線的な溝である。規模は幅1.5m～1.2m、深さ33cm～40cm、延長52m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(110・111・114・118・119)・甕(112・113・116・117・120)が出土した。

SD195(図版168 写真図版208)

検出状況 調査区中央部に位置し、東側は調査区外に延びる。溝SD193を切り、溝SD197・SD198・SD200に切られている。

形状規模 東から西方向に蛇行して流れる溝である。規模は幅95cm、深さ14cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 弥生土器壺(121)・甕(122・123)・壺蓋(124)が出土した。

SD196

検出状況 調査区南部の溝SD194と土坑SK058の西側に位置する。溝SD199・SD201に切られている。

形状規模 北東から南西方向に流れる直線的な溝で、方位はN44°Eである。規模は幅30cm、深さ11cm、延長9m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SH002(図版170 写真図版201・205)

検出状況 調査区中央部東寄りで検出した。溝SD193を切り、土坑SK059、溝SD206に切られている。

形状規模 平面形状は隅丸長方形、南北方向に若干長い。東西辺2.42m・南北辺3.50mを測る。削平が激しく壁面の高さは5cmである。

中央土坑 SK060はやや西よりに位置する。直径80cm、深さ10cmを測り、炭を含んでいる。

壁溝柱穴 壁溝は存在せず、柱穴は住居に伴うと確定できるものはない。

出土遺物 土師器甕(573)・高坏(574)・小型丸底壺(575)が出土した。

SK059(図版170 写真図版205)

検出状況 調査区中央部東よりに位置する。溝SD193と竪穴住居SB002を切っている。

形状規模 平面形は不整形円で、断面形はU字状である。規模は直径0.70cm、深さは23cmを測る。

埋土 暗褐色の極細砂で、基盤層のブロックが混じり、炭を含んでいる。

出土遺物 土師器甕(576・577)・鉢(578～582)・小型丸底壺(583・584)が出土した。

SD197(写真図版201・208)

検出状況 調査区南東部に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD193・SD195を切り、溝SD206と掘立柱建物SB077の柱穴に切られている。

形状規模 竪穴住居SH002の中軸線の延長の調査区外に中心をもつ半径7.5mの弧を描く溝である。規模は幅50cm～1.2m、深さ10cm前後を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器甕(570)・器台(571)・鉢(572)が出土した。

SD198(写真図版208)

検出状況 調査区南東部に位置し、両端は調査区外に延びる。溝SD193・SD195、竪穴住居SH002、土坑SK060を切り、溝SD206に切られている。

形状規模 溝SD197と同様に、竪穴住居SH002の中軸線の延長の調査区外に中心をもつ半径5.3mの弧を描く溝である。規模は幅30cm前後、深さ5cmを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD199(写真図版208)

検出状況 調査区長軸中央部に位置する。北側は調査区外から流れ、途中SD200と分岐し、南側は溝SD201とSD202に合流する可能性が高い。溝SD192・SD194・SD195を切り、掘立柱建物SB076～SB078・SB080、土坑SK061・SK061に切られている。

形状規模 調査区の長軸に並行し、北東から南西方向にやや蛇行しながら流れる直線的な溝で途中、SD200と分岐する。南端はSD202に合流する。規模は幅1.3m～1.5m、深さ20cm、延長50m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器壺(527～531)・甕(532～544)・鉢(545～556)・器台(557～560)・小型器台(561・562)・壺蓋(563～565)・鳥形(566)・匙(567)が出土した。

SD200

検出状況 調査区南部に位置する。溝SD199が屈曲する場所で分岐している。南端はSD201に合流する。溝SD194・SD195を切っている。

形状規模 直線的な短い溝である。規模は幅1.2m、深さ20cm、延長2mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器脚台(568)・壺蓋(569)が出土した。

SD201(図版169 写真図版198・206・207)

検出状況 調査区南端に位置する。北西部肩は検出したが、南東部の肩は調査区外のため全容は明らかでない。溝SD193を切り、掘立柱建物SB079に切られている。

形状規模 調査区南端の一部を調査したのみで詳細は明らかでないが、大きく蛇行する溝である。規模は幅4.5m以上、深さ90cmを測り、断面形は場所によって異なるがU字状もしくは逆台形を呈する。SD202との分岐点付近の溝底に杭を打ち込んだSW012が存在する。

埋土 最上層と上層は溝のたわみこみがあり、灰黄褐色の細礫が混じる極細砂層が堆積している。平安時代後期から鎌倉時代を中心として古墳時代後期以降の遺物が出土した。下層の黒褐シルト質極細砂層から古墳時代初頭の土器や木製品が出土した。

出土遺物 弥生土器壺(129～134)・甕(136～142)、土師器壺(436～450)・甕(451～483)・鉢(484～478)・有孔鉢(479～502)・小型丸底壺(503～505)・小型丸底鉢(506・507)・製塩土器(508)・高坏(509～521)・

器台(522～524)・小型器台(525)・壺蓋(526)、削器(S85・S86)・分割礫(S87)、棒状木製品(W104)・楯(W105)、上層より須恵器坏身(898)、最上層より須恵器椀(1432～1434)、緑釉陶器(1435)、灰釉陶器皿(1436)・底部(1437～1439)、鉄製品鉄滓(M63・M64)が出土した。

SW012(図版169 写真図版198・206)

検出状況 溝SD201とSD202の分岐点付近に位置する。

形状規模 溝底に打ち込まれた杭群であり、直径50cmの範囲に33本の杭を打ち込んでいる。杭の長さは最長65cmである。広葉樹の芯持ち材が中心で、一部針葉樹の割材を使用している。

出土遺物 木製品杭33本の内、8本(W106～W113)を図化した。

分析 木製品杭33本の内、2本(W109・W111)の樹種同定を実施した。W109はコナラ属アカガシ亜属、W111はヒノキであった。

SD202(図版169)

検出状況 調査区南西端に位置する。溝SD201から分岐し、西端は調査区外に延びる。溝SD194・SD196を切り、SD203が分岐する。

形状規模 東西方向の直線的な溝である。規模は幅2.0m～4.0m、深さ80cm、延長10m以上を測り、断面形は東側では浅いU字状、西側ではV字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD203(写真図版208)

検出状況 調査区南西部に位置する。溝SD199から西へ分岐し、西側は調査区外に延びる。

形状規模 南東西方向の直線的な溝で、方位はN69°Wである。規模は幅30cm前後、深さ10cm～5cm、延長3m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK061(写真図版207)

検出状況 調査区北部の掘立柱建物SB078の南東角に位置する。下層の溝SD192・SD194・SD199を切っている。

形状規模 平面形は掘立柱建物SB078と同じ方向で東西に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北2.1m、東西2.3m、深さは15cmを測る。

出土遺物 土師器皿(1446)、須恵器椀(1447)・小皿(1448)・捏鉢(1449)、鉄滓(M65～M67)・不明鉄片(M68)、銅銭(M80)が出土した。

SK062(写真図版207)

検出状況 調査区南部の中央、掘立柱建物SB080の北側に位置する。下層の溝SD194・SD199と掘立柱建物SB080を切っている。

形状規模 平面形は東西に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。規模は南北1.4m、東西1.8m、深さは18cmを測る。遺物の出土状況から頭部を西側に埋葬した土墳墓の可能性が高い。

出土遺物 北西部及び北部の壁際から、土師器皿(1450～1454)・小皿(1455・1456)が出土したほか、須恵器椀(1457)、瓦器椀(1458)が出土した。

SK063

検出状況 調査区南部の西端、掘立柱建物SB081の南側に位置する。

形状規模 平面形は不整円形で、断面形はU字状である。規模は直径70cm、深さは30cmを測る。

出土遺物 土師器皿(1459)、鉄滓(M69)が出土した。

SD204

検出状況 調査区北部の掘立柱建物SB077の南部に位置する。

形状規模 掘立柱建物SB077の南辺に重なる東西方向の不定な溝である。東西2か所に分かれ、西側の規模は幅30cm、深さ7cm、延長1.2m、東側の規模は幅50cm、深さ8cm、延長2.6mを測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 須恵器椀(1440)が出土した。

SD205(写真図版207)

検出状況 調査区北部の掘立柱建物SB077の北側に位置する。北側は調査区外に延びる。溝SD194・SD199を切り、SD206に切られている。

形状規模 南北方向の直線的な溝である。規模は幅35cm前後、深さ7cm、延長6m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD206(写真図版207)

検出状況 調査区北部に位置する。掘立柱建物SB077の北辺と東辺の外側に沿って屈折し、南辺の柱列の横から東方向に屈折して延びる。竪穴住居SH002、土坑SK059、溝SD192～SD194・SD197～SD199を切っている。

形状規模 直角に2回屈折する直線的な溝で、南北方向の方位はN17°Eである。規模は幅30cm～50cm、深さ15cm、延長8m以上を測り、断面形はU字状を呈する。

出土遺物 土師器皿(1441・1442)・小皿(1443・1444)・羽釜(1445)が出土した。

SB076(図版171 写真図版204・210)

検出状況 調査区北部に位置する。下層の溝SD192・SD194・SD197・SD199を切っている。掘立柱建物SB077・SB078と重複関係があるが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸がN16°Eの総柱建物である。南北4間(7.1m)×東西3間(5.4m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.8mを基本とし、東のみ1.7m、東西1間1.8mを基本とし、北から2のみ2.0mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径約30cm、深さは約10cm～35cmである。P13の底部には石が入れられて、P07の底部には礎板が残存していた。

出土遺物 柱穴P05からは土師器小皿(1422)が出土しており、P03からは土器の小片が出土している。

分 析 P07底部の礎板はの樹種はヒノキであった。

SB077(図版172 写真図版204・210)

検出状況 調査区北部に位置する。北西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD192・SD194・SD199を切っている。掘立柱建物SB076・SB078と重複関係があるが、先後関係は不明である。位置関係から、北側と東側に位置する溝SD206が伴う。

形状規模 南北軸がN17°Eの総柱建物である。南北4間(8.6m)×東西3間(7.0m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.20m、北のみ2.0m、東西1間2.45m、西のみ2.1mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～40cm、柱痕は径約15cm、深さは約25cm～45cmである。P14の中央部分には石が入れられていた。

出土遺物 柱穴P08・P14からは土師器皿(1423～1425)、P09からは鉄製品鉄釘(M62)が出土しており、P03・P04・P06・P09～P15からは土器の小片が出土している。

SB078(図版172 写真図版204)

検出状況 調査区北部に位置する。北西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD192・SD194・SD199を切っている。掘立柱建物SB076・SB077と重複関係があるが、前後関係は不明である。南東隅に土坑SK061が伴う。

形状規模 南北軸がN13°Eの総柱建物である。南北3間(5.8m)以上×東西1間(2.5m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.20m・1.80m、東西1間2.5mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm～40cm、柱痕は径約20cm、深さは約20cm～40cmである。

出土遺物 柱穴P02・P04・P05・P06からは土器の小片が出土している。

SB079(図版173 写真図版200・210)

検出状況 調査区南部の東端に位置する。南東側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。下層の溝SD193・SD201を切っている。

形状規模 南北軸がN19°Eの総柱建物である。南北3間(5.4m)以上×東西2間(3.0m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.80m、東西1間1.6m・1.4mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径23cm～35cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cm～40cmである。P03の底には石が入れられていた。

出土遺物 柱穴P01からは土師器皿(1426)・小皿(1427・1428)、P06からは土師器皿(1429)が出土しているほか、P05からは土器の小片が出土している。

SB080(図版173 写真図版199)

検出状況 調査区南部の中央、掘立柱建物SB079の西側に位置する。下層の溝SD194・SD195・SD199を切っており、北辺中央の柱穴は土坑SK062切られている。

形状規模 南北軸がN18°Eの総柱建物である。南北2間(4.0m)×東西2間(4.8m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.0m、東西1間2.0m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径10cm～40cm、深さは約8cm～30cmである。P01・P04などは2本柱痕跡が残存した。

出土遺物 柱穴P02・P03・P05・P06・P08・P09からは土器の小片が出土している。

SB081(図版172 写真図版200・210)

検出状況 調査区南部の西端、掘立柱建物SB080の西側に位置する。西側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。下層の溝SD199を切っている。

形状規模 南北軸がN16°Eの総柱建物である。南北2間(4.0m)×東西2間(4.8m)以上の規模である。建物の柱間は、南北1間2.0m、東西1間2.0m・2.8mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径25cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約10cm～45cmで東西方向の中間が浅い。P05・P07の上部には石が入れられていた。

出土遺物 柱穴P04・P06・P07からは土器の小片が出土している。

第9節 H地区の調査

1. 調査の概要(図版11 写真図版9・211)

H地区は苦編地区に位置し、F地区の西側に広がる。G-6区、H-4～6区、I-4・5区、J-5区に位置している。平成19年度に調査を実施したうち、西側の11地区が該当する。西から東に向って59区・60区・61区・62区・63区・64区・65区・66区・67区・68区・69区の調査を実施した。

2. 59区(図版174・175 写真図版211)

59区は60区の東、JR神戸線の西側に隣接する調査区である。耕作土直下が遺構面となっており、全体的に削平を受けていると考えられる。調査区のほぼ中央で南北方向に流れる溝(SD207・SD208)を検出し、他には調査区北端で土坑を3基検出している。これらの遺構の時期は出土遺物が少なく明確ではないが平安時代から鎌倉時代にかけてのものと考えられる。

SK064(図版175 写真図版211)

検出状況 調査区東端に位置し、SK065の北側にある。

形状規模 平面形は長楕円形で、断面形は丸い。規模は東西1.15m、南北0.50m、深さは15cmを測る。

埋 土 シルト質極細砂混じり褐灰色極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK065(図版175)

検出状況 調査区東端に位置し、SK064の南側にある。

形状規模 平面形は南北に長い俵形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北0.80m、東西0.46m、深さは12cmを測る。

埋 土 SK064と同じ、シルト質極細砂混じり褐灰色極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK066(図版175)

検出状況 調査区東端に位置し、SK064の西側にある。

形状規模 平面形は東西に長い洋梨形で、断面形は極浅い皿状である。規模は東西1.00m、南北0.64m、深さは5cmを測る。

埋 土 灰白色極細砂質シルトが堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK067(図版175 写真図版211)

検出状況 調査区中央に位置している。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形、断面形は浅い皿状である。規模は東西1.28m、東西0.35m、深さは6cmを測る

埋 土 暗灰黄色極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK068(図版175)

検出状況 調査区中央に位置している。

形状規模 平面形は南北に細長い楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北0.98m、東西0.18m、

深さは3cmを測る。

埋 土 暗灰黄色極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD207(図版174 写真図版211)

検出状況 調査区中央に位置する。SK067・SD208と接する。

形状規模 S字に蛇行する溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.40m前後、深さ5cm前後、延長8.50m以上を測る。

埋 土 暗灰黄色極細砂～シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD208(図版174 写真図版211)

検出状況 調査区中央に位置する。SD207と接する。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.70m、深さ30cm、延長6.50m以上を測る。

埋 土 上層が暗灰黄色極細砂～シルト質極細砂、下層が褐灰色極細砂である。ともに土壌化している。

出土遺物 遺物は出土していない。

3. 60区(図版176 写真図版212)

60区は67区の道路を挟んで北東側に位置する三角形の狭小な調査区である。

検出した遺構は北から南に流れる溝が4条である。これらの溝は、後述する67区、58区の溝と同一のものと思われ、弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が出土している。

SD182(図版176 写真図版212)

検出状況 調査区南東壁際に沿って走る。

形状規模 北端で方位を北へ振る溝である。皿状の断面をもち、規模は幅0.65m前後、深さ18cm前後、延長12.0m以上を測る。

埋 土 褐灰色極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD184(図版176 写真図版212)

検出状況 調査区中央を南西から北東に流れる。SD182と並行し、SD186より若干遅れて掘削されるが、一時期は合流する。

形状規模 U字状の断面をもち、規模は幅0.75m、深さ20cm、延長9.0m以上を測る。

埋 土 上層が粗砂混じり黒褐色シルト質極細砂、下層がシルト質極細砂混じり褐灰色細砂～粗砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD185(図版176 写真図版212)

検出状況 調査区北西端に位置する。SD186と並行する。

形状規模 皿状の断面をもち、規模は幅0.50m、深さ12cm、延長2.00m以上を測る。

埋 土 褐灰色極細砂～シルト質極細砂が堆積している。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD186(図版176 写真図版212)

検出状況 調査区中央を南西から北東に流れる。SD185と並行し、SD182より若干早く掘削されるが、一時期は合流すると考えられる。

形状規模 箱形の断面をもち、規模は幅2.20m前後、深さ35cm前後、延長8.0m以上を測る。

埋 土 上層が黒褐色シルト質極細砂、中層がシルト質極細砂・粗砂混じり褐色細砂、下層は黒褐色細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

4. 61区(図版177・178 写真図版213)

61区は62区の東側に位置する三角形の狭小な調査区である。調査区南隅で古墳時代のものと思われる溝を検出したほか、古墳時代の水田(アゼ)を検出した。溝からは滑石製の小型勾玉が1点出土した。

水田遺構(水田畦畔)(図版178 写真図版213)

検出状況 調査区の西半より、南北方向(N9°E)に走る畦畔を検出した。

形状規模 畦畔は基底部の幅約1.7m・高さは10cm前後を測る。

出土遺物 土師器甕(906)が出土した。

備 考 検出された畦畔と水田土壌は64区の中・下層水田に対応すると考えられ、上層水田土壌との間にある洪水砂によって被覆されている。

SD209(図版178 写真図版213)

検出状況 調査区南端に位置する。

形状規模 規模は幅1.30m、深さ40cm、検出長1.0m以上を測る。

埋 土 上層水田土壌(褐色シルト質極細砂)によって埋没している。

出土遺物 滑石製の小型勾玉(S89)が1点出土した。

5. 62区(図版177・179~187 写真図版214~220)

62区は水路を挟んで68・69区の北東に位置し、西南隅で64区に接する。検出した遺構は中世の掘立柱建物、弥生時代終末の流路、溝、土坑などである。

調査区東側で検出した中世の掘立柱建物(SB082)は規模が1×2間以上で軸線をやや東に振る南北棟である。調査区西側で検出した掘立柱建物(SB083)は規模が2×3間以上であるが更に東に振るため、時期が違う可能性がある。

弥生時代終末の土坑には土器を廃棄した土坑と粘土採掘坑と思われる土坑の2種類あると考えられる。前者はSK074やSK071で複数の甕・壺などが廃棄されていた。後者は弥生時代終末の流路(SD211)の東側にいくつか固まっており(SK080・SK085等)、ブロック状の埋土が特徴で、いくつかには甕が投棄されていた。

弥生時代終末の溝(SD220)は土地の傾きと直交して東西方向に流れるもので、削平をうけて浅くなっているが、流路(SD211)に合流する水路であると考えられる。流路(SD211)は調査区北壁付近で二つの流れが合流し、南に向かって流れている。流れる方向や堆積土から見て、64区の流路(SD227)と同じものであると考える。

北西に位置する張り出し部分は63区の北東で62区に接するきわめて狭小な調査区で、現在の水田造成の際に完全に攪乱されているため、江戸時代のゴミ穴を除いて遺構は検出できなかった。

SB082(図版184 写真図版219)

検出状況 調査区中央東よりに位置する。南側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸をN16°Eにとる側柱建物である。南北2間(3.50m)以上×東西1間(3.40m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.70m～1.80m、東西1間3.50mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径24cm、柱痕は不明、深さは約40cm～50cmである。

出土遺物 柱穴P04から土師器壺(696)が出土したほか、P05からは土器の小片が出土している。

SB083(図版184)

検出状況 調査区西半に位置する。南東側は調査区外に延びている可能性があるため本来の規模は不明である。水田痕跡と切りあうが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸をN30°Eにとる総柱建物である。南北3間(5.40m)以上×東西2間(3.30m)の規模である。建物の柱間は、南北1間2.20m・1.80m、東西1間2.15mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は不明、深さは約20cmである。

出土遺物 柱穴P01・P02・P04・P05・P07～P09からは土器が出土している。

SK069(図版185)

検出状況 調査区東端に位置し、SK070と隣り合う。

形状規模 平面形は南北に長いナスビ形で、断面形は浅い皿状である。西端は一段深くなっている。規模は南北長1.70m、東西幅0.20m～0.78m、深さは6cmを測る。

埋 土 灰黄褐色細砂・にぶい黄色極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器甕(640)が出土した。

SK070(図版185 写真図版215)

検出状況 調査区東端に位置し、SK069と隣り合う。

形状規模 平面形は南北に長い卵形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北長0.98m、東西幅0.58m、深さは5cmを測る。

埋 土 灰黄褐色細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK071(図版185 写真図版215)

検出状況 調査区東端に位置する。

形状規模 平面形は楕円形で、断面形はボウル状である。規模は南北軸0.56m、東西軸0.50m、深さは13cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器甕(641～643)・鉢(644)が埋納された状態で出土している。

SK072(図版185)

検出状況 調査区東半に位置する。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は浅い皿形である。規模は東西長1.60m、南北幅0.65m、深さは3cmを測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK073(図版186 写真図版215)

検出状況 調査区東半に位置している。

形状規模 平面形は東西に長い卵形で、断面形は浅い楕円形である。中央は一段深くなっている。規模は東西長1.70m、南北幅1.14m、深さは16cmを測る。

埋 土 黒褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK074(図版185 写真図版218)

検出状況 調査区中央西よりに位置している。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は皿状である。中央は遺物が入り一段深くなっている。規模は東西1.22m、南北0.86m、深さは10cmを測る。

埋 土 黒褐色極細砂～シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(645・646)・甕(647～651)・鉢(652・653)を埋納している。

SK075(図版186 写真図版215)

検出状況 調査区中央西よりに位置している。SK074に隣接する。

形状規模 平面形は勾玉形で、断面形は浅い皿状である。南端は一段深くなっている。規模は南北長3.40m、幅は中央で東西0.80m、深さは6cmを測る。

埋 土 黒褐色極細砂～細砂が堆積する。

出土遺物 土師器高坏(671)が出土した。

SK076(図版186 写真図版215)

検出状況 調査区中央西よりに位置している。SK075の北側に隣接する。

形状規模 平面形は東西に長い不整な矩形で、断面形は凹凸のある皿形である。規模は東西長4.20m、中央での南北幅1.10m、深さは18cmを測る。

埋 土 黒褐色極細砂～シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(672・673)、石皿(S90)が出土している。

SK077(図版186)

検出状況 調査区中央西よりに位置している。SK075の更に西側に位置する。

形状規模 平面形は東西に長い長楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は東西軸1.60m、南北幅0.66m、深さは6cmを測る。

埋 土 シルト質極細砂混じり黒褐色細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK078(図版186)

検出状況 調査区西に位置し、SK077の北方にある。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は東西長0.82m、南北幅0.40m前後、深さは6cmを測る。

埋 土 黒褐色細砂～中砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK079(図版186)

検出状況 調査区西半に位置し、SK078の西方にある。

形状規模 平面形は東西に長い卵形で、断面形は浅い皿状である。規模は東西長0.54m、南北幅0.32m前後、深さは5cmを測る。

埋 土 黒褐色細砂～シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK080(図版187 写真図版215)

検出状況 調査区西半、南壁際に位置し、SK084の東側にある。

形状規模 平面形は南壁より外に大半が出ており形状・規模は不明である。断面形は箱形である。規模は東西幅1.30m、南北残存長0.68m、深さは34cmを測る。

埋 土 上層は褐灰色シルト質極細砂、下層には褐灰色シルト質極細砂に地山の灰白色シルト質極細砂がブロックで混じる。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK081(図版187)

検出状況 調査区西半に位置し、SK082に切られる。

形状規模 西半部をSK082に切られており、半円形に検出している。断面形は浅い皿状である。規模は径0.70m前後、深さは5cmを測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK082(図版187)

検出状況 調査区西半に位置し、SK083に切られる。

形状規模 平面形は南北に長い俵形で、断面形は皿状である。規模は南北1.22m、東西0.90m、深さは12cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK083(図版187 写真図版218)

検出状況 調査区西半に位置し、SK082を切る。

形状規模 平面形は東西に長い長楕円形で、断面形は浅い皿状であるが、西端は一段深くなっている。規模は東西長1.40m、南北幅0.78m、深さは西端で32cmを測る。

埋 土 上層は粗砂混じり黒褐色極細砂、中層は灰黄褐色シルト質極細砂、下層は褐灰色シルト質極細砂が堆積している。

出土遺物 土師器鉢(680～682)・小型丸底壺(683)・木材が出土した。

SK084(図版187)

検出状況 調査区西部に位置し、一部が南壁より外に出る大型の土坑である。

形状規模 平面形は南西から北東に長い不整楕円形で、断面形は逆台形であるが、南端は一段深くなっている。規模は長軸3.00m、幅1.60m、深さは南端で40cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂が堆積している。

出土遺物 土坑底より土師器壺(684)・甕(685)が出土した。

SK085(図版187 写真図版215)

検出状況 調査区西部に位置し、SD220に切られている。

形状規模 平面形は北東・南西に長い勾玉状の土坑で、凹凸が激しい。規模は長軸約4.0m、幅1.26m前後、深さは28cmを測る。

埋 土 上層は褐灰色極細砂、下層は黒褐色シルト質極細砂が堆積している。

出土遺物 土師器甕(674～679)、砥石(S92)が出土した。

SK086(写真図版216)

検出状況 調査区中央に位置し、一部が南壁より外に出る大型の落ち込みである。SK074・075に切られる。

形状規模 平面形はハート形である。規模は南北7m以上、東西8mを測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(654・655)・甕(656～663)・鉢(664～667)・製塩土器(668・669)・器台(670)が出土している。時期は古墳時代初頭である。

SK087(写真図版216)

検出状況 調査区西部に位置し、SD211の西隣にある。

形状規模 南半を失い、残る平面は半円形である。規模は径1.3m、浅い皿状の断面をもつ。

埋 土 黒褐色シルトが堆積する。

出土遺物 土師器壺(686・687)・甕(688・689)・鉢(690～692)・高坏(693)が出土した。時期は古墳時代初頭である。

SK088

検出状況 調査区西端部に位置し、遺構の大半は南壁より外側に出る。

形状規模 平面形は隅丸方形と考えられる。規模は南北1m以上、東西3.4m以上を測る。

埋 土 水田土壌と考えられる。

出土遺物 土師器壺(694)、須恵器高坏(912)が出土している。

備 考 水田遺構の残欠と考えられる。

SK089

検出状況 調査区西端部、64区との分岐付近に位置する。

形状規模 北東隅のコーナーを検出した。平面形は方形と推測される。規模は南北2m以上、東西3m以上を測る。

埋 土 水田土壌と考えられる。

出土遺物 土師器高坏(695)が出土した。時期は古墳時代初頭である。

備 考 水田遺構の残欠と考えられる。

SK090

検出状況 調査区西端部、64区との分岐付近に位置する。

形状規模 南東隅のコーナーを検出した。平面形は方形と推測される。規模は南北1.5m以上、東西2.5mを測る。

埋 土 水田土壌と考えられる。

出土遺物 須恵器皿(1461・1463)・坏(1462)・底部(1464)、土師器筒状土錘(1465)、平瓦(1466)が出土

している。

備考 幅30cmの畦畔状の帯を挟み、南側に同様の変色部を検出している。水田遺構の残欠と考えられる。

SD210

検出状況 調査区東端に位置する。谷状の落ち込みである。自然地形と考えられ、全容は明らかでない。

形状規模 北東から南西に右岸の肩部を検出した。左岸側は調査区外である。溝幅は10m以上、深さ0.5mを測る。

埋土 褐灰色土である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD211(図版182 写真図版217・220)

検出状況 調査区西半に位置する。南北方向に流れる流路である。

形状規模 調査区北壁付近では二股になっており、合流し調査区内で1本の流路となって南流する。浅いU字状の断面をもち、規模は中央部で幅約11.0m、深さ80cmを測る。

埋土 上層が細礫混じり黒色シルト質極細砂・中層では褐灰色シルト質極細砂、下層が黒褐色シルト質極細砂～細砂、最下層が褐灰色極細砂～シルト質極細砂で一部下層と最下層が混じる。

出土遺物 土師器壺(602～609)・甕(610～616)・鉢(617～625)・有孔鉢(626)・製塩土器(627)・高坏(628～630)・小型器台(631)・籠目土器(632)・蓋(632)、須恵器坏蓋(899)・坏身(900)・壺(901)・甕(902)、土師器壺(904)・高坏(905)・甕(903)が出土した。

備考 最終の埋没は同時であるが、東側の流れが新しい。

SD212(図版183 写真図版217)

検出状況 調査区東端に位置する。SD213・SD214と並行する。

形状規模 調査区の長軸に並行する直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.50m、深さ16cm、延長18.0m以上を測る。

埋土 細礫～粗石混じり暗褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 須恵器坏蓋(911)が出土した。

SD213(図版183)

検出状況 調査区東端に位置する。SD212と並行し、SD214は一連の溝と考えられる。

形状規模 調査区の長軸に並行する溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.36m、深さ6cm、延長2.80mを測る。

埋土 粗砂混じり灰黄褐色細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD214(図版183)

検出状況 調査区東端に位置する。SD212と並行し、SD213は一連の溝と考えられる。

形状規模 調査区の長軸に並行する溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅1.20m～0.80m、深さ14cm、延長11.2mを測る。

埋土 粗砂混じり灰黄褐色細砂・細砂混じりにぶい黄褐色粗砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD215(図版183)

検出状況 調査区東半、中央寄りに位置する。SD216と重複し新しい。SB082と並行する。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.4m、深さ6cm、延長7.0m以上を測る。

埋 土 細礫～粗砂混じり灰黄褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD216(図版183)

検出状況 調査区東半、中央寄りに位置する。SD215と重複し古い。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.30m、深さ2cm、延長3.80m以上を測る。

埋 土 灰黄褐色細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD217(図版183)

検出状況 調査区中央に位置する。SK086と重複するが先後関係は明らかでない。

形状規模 調査区の長軸に直交する直線的な溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.26m、深さ4cm、延長5.0m以上を測る。

埋 土 灰黄褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD218(図版183)

検出状況 調査区西半に位置する。SD220とほぼ並行する。

形状規模 調査区の長軸に対し斜行する直線的な溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.85m、深さ6cm、延長5.2m以上を測る。

埋 土 黒褐色極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD219(図版183)

検出状況 調査区西半に位置する。

形状規模 調査区の長軸に直交し、南北方向に走る直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.18m、深さ5cm、延長2.00m以上を測る。

埋 土 黒褐色細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD220(図版183 写真図版217)

検出状況 調査区西半に位置する。SD218とほぼ並行する。

形状規模 調査区の長軸に対し斜行する直線的な溝である。浅いV字状の断面をもち、規模は幅1.10m、深さ15cm、延長16.0m以上を測る。

埋 土 細砂混じり黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 土師器甕(634・635)・鉢(636・637)・高坏(638)が出土した。

SD221(図版183)

検出状況 調査区西半に位置する。SD220の北側に位置する。

形状規模 L字に曲がる溝である。浅いU字状の断面をもち、規模は幅0.20m、深さ4cm、延長4.0m以上を測る。

埋 土 黒褐色細砂～シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD222(図版183)

検出状況 調査区西半に位置する。SD221の西側に位置し、SD220と切り合い先行する。

形状規模 南北方向に走る直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.20m、深さ5cm、延長3.60m以上を測る。

埋 土 粗砂混じり黒褐色細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD223(図版183)

検出状況 調査区西半に位置する。SD222の西側に位置する。

形状規模 弧状に巡る溝である。凹凸のある断面をもち、規模は幅0.34m、深さ8cm、延長1.50m以上を測る。

埋 土 黒色極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD224(図版183 写真図版217)

検出状況 調査区の西端に位置する。SD225と切り合い古い。

形状規模 南北方向に走る直線的な溝である。V字状の断面をもち、規模は幅0.44m、深さ18cm、延長8.0m以上を測る。

埋 土 粗砂混じり褐灰色極細砂～細砂である。

出土遺物 土師器鉢(639)、砥石(S91)が出土した。

SD225(図版183)

検出状況 調査区の西端に位置する。SD224と切り合い新しい。

形状規模 北東・南西方向に走る直線的な溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.33m、深さ6cm、延長13.30m以上を測る。

埋 土 粗砂混じり灰黄褐色細砂である。

出土遺物 須恵器坏蓋(908)、土師器坏(909)不明(910)が出土した。

SD226(図版183 写真図版217)

検出状況 調査区の西端に位置する。SK088と切り合い新しい。

形状規模 東西方向に走る直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.30m、深さ6cm、延長4.30m以上を測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

6. 63区(図版177・188 写真図版213)

63区は69区の北東、62区の北西に位置するU字形の狭小な調査区である。ここも現集落とは段差があり、遺構面はかなり削られている。遺物の出土が少ないため所属時期が確定できないが、土坑・溝を検

出している。また、柱穴を18個検出しているが、調査区が狭隘なため建物の復元にはいたらなかった。

SD260

検出状況 調査区南際に位置する。

形状規模 U字状の断面をもち、規模は幅2.20m以上、深さ15cm、残存長14.5mを測る。

埋土 埋土は上層が礫・シルト混じり極細砂、下層が礫・シルト混じり粗砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

7. 64区(図版177・189～197 写真図版221)

64区は62区と65区のほぼ中間に位置し、北西隅で62区と、南東隅で65区と接する。検出した遺構は平安時代の掘立柱建物3棟以上と古墳時代の水田跡、弥生時代終末の竪穴住居、溝、流路、土坑、弥生時代中期以前の流路がある。

掘立柱建物のうち全体が確認できたのはSB085で、2×3間で北西から南東に軸線を持つ。残りの3棟はSB084が2×2間以上、SB086が1×2間以上の規模で、軸線が揃い調査区内の微高地ごとに営まれているため、ほぼ同時期に存在したものと考えられる。

古墳時代の水田は弥生時代終末にはほぼ埋没した流路(SD227)とSB084～SB086がある微高地の間の相対的に低い部分で営まれていた。部分的に砂礫を含む箇所があり、畦畔の方向も複数であることから、何回かにわたって作り直されたものと思われる。

弥生時代終末の住居跡(SH003)は下層で検出したため、かなり攪乱されているが、中央に土坑を持ち、周壁溝をめぐらせる隅丸方形を呈する4本柱の竪穴住居である。住居の東側にはほぼ同時期の土坑がいくつ也存在し、土器が投棄されていた。弥生時代終末に埋没した流路(SD227)は前述したように62区SD211の下流部に当たると思われる。古墳時代の水田の下には、弥生時代中期に遡る土壌層があり、ここでも南北方向に流れる流路や溝が見ついている。

SH003(図版191 写真図版222)

検出状況 調査区東半に位置する。北東隅と南西隅を欠く。

形状規模 平面形状は隅丸方形と考えられる。南北方向に若干長いプランをもつ。南北辺5.20m・東西辺4.90m・床面積は約25.5㎡を測る。削平が激しく壁面の高さはない。

壁溝 幅15cm・深さ5cm、U字形の断面形状をもつ溝が北辺・西辺・南辺・東辺の一部に巡る。

柱穴 径30cm～50cm・深さ20cm～30cmの主柱穴を4個検出した。

屋内施設 壁溝・柱穴以外に中央に土坑を検出した。径60cm前後を測り、炭が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SB084(図版194 写真図版226)

検出状況 調査区東端に位置する。北西隅柱穴と南東隅柱穴は調査区外にあるため本来の規模は不明である。

形状規模 南北軸をN5°Eにとる総柱建物である。南北2間(3.30m)以上×東西2間(3.30m)の規模である。建物の柱間は、各1.65mである。また、中央の梁行の柱列より約50cm南側にもう一列柱列が存在し、柱穴はSD230を切っている。

柱穴 柱穴は円形で、掘形径40cm、柱痕は径約15cm、深さは約10cmである。柱間は南北では2.80m、東西では2.70mを測る。

出土遺物 柱穴P01、P08、P10からは土器の小片が出土している。

SB085(図版194 写真図版225)

検出状況 調査区中央に位置する。北東隅の柱穴は調査区外にある。

形状規模 南北軸をN64°Eにとる総柱建物である。桁行3間(5.00m)×梁行2間(3.60m)の規模である。建物の柱間は、桁1間1.50m・1.70m・1.80m、梁1間1.80mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径30cm、柱痕は径約15cm、深さは約40cm・70cmであり、四隅の柱穴が深い。

出土遺物 柱穴P01から土師器鉢(784)が出土しているほか、柱穴P04、P07、P10、P11からは土器の小片が出土している。

SB086(図版194 写真図版226)

検出状況 調査区西半に位置する。北東隅の柱穴を欠き、南西側は調査区外に延びているため本来の規模は不明である。建物内にSK091が存在するが、先後関係は不明である。

形状規模 南北軸をN20°Wにとる屋状の建物である。南北3間(4.80m)以上×東西1間(1.80m)の規模である。建物の柱間は、南北1間1.60m、東西1間1.80mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径36cm、深さは約50cmである。

出土遺物 柱穴P04からは土器の小片が出土した。

SK091(図版191 写真図版223)

検出状況 調査区西半に位置し、SB086と重複する。

形状規模 平面形は楕円形で、断面形は深いU字形である。規模は南北0.68m、東西0.58m、深さは54cmを測る。

埋 土 最下層に黒褐色極細砂が堆積しており、ここより土器が出土した。上層には黒褐色極細砂が堆積している。

出土遺物 土師器甕(777)・鉢(778・779)・小型器台(780)が出土した。

SK092(図版191 写真図版223)

検出状況 調査区西半に位置し、SK091の北側に位置する。

形状規模 平面形は楕円形で、断面形は深いU字形である。規模は南北0.80m、東西0.71m、深さは56cmを測る。

埋 土 下層は黒色シルト質極細砂、上層には炭を含む黒褐色極細砂が堆積している。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK093(図版193 写真図版223)

検出状況 調査区東半に位置し、SD231と接する。

形状規模 一部が調査区外にあり、半円形で検出した。断面形は逆台形である。規模は南北0.78m、深さは34cmを測る。

埋 土 下層には褐灰色極細砂、中層には灰黄褐色中砂、上層には粗砂混じり灰黄褐色極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK094(図版192 写真図版224)

検出状況 調査区東半に位置し、SK097・SK098・SK095に切られている。

形状規模 平面形は東西に長い舌状の落ち込みで、断面形は皿状である。東端は浅く、規模は詳らかではない。南北2.20m、東西3.70m以上、深さは22cmを測る。

埋 土 全体に炭を含み、黒褐色～暗褐色粗砂混じり細砂～中砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(759)・甕(760～762)・鉢(763～770)・壺蓋(771)が出土した。

SK095(図版192)

検出状況 調査区東半に位置し、SK094を切り、SK096に切られている。

形状規模 平面形は南北に不整な方形と考えられるが、SK096に切られているため、明確ではない。断面形は楕円状である。規模は東西1.14m、深さは25cmを測る。

埋 土 全体に暗褐色細砂～中砂が堆積し、下層上部に炭を含む黒色細砂が堆積する。

出土遺物 土師器甕(753)・鉢(754・755)が出土した。

SK096(図版192 写真図版224)

検出状況 調査区東半に位置し、SK095を切る。

形状規模 平面形は宝珠形で、断面形は逆台形である。規模は南北1.38m、東西1.04m、深さは24cmを測る。

埋 土 下層には黒褐色極細砂～中砂が堆積している。上層には細礫混じり暗褐色極細砂～中砂が堆積する。

出土遺物 土師器小型丸底壺(751)・製塩土器(752)が出土した。

SK097(図版192 写真図版223・224)

検出状況 調査区東半に位置し、SK094を切り、SK098に切られている。

形状規模 一部が調査区外にあるため、平面形は南北に長い隅丸長方形と考えられるが詳らかではない。断面形は浅い皿状で、南端は一段深くなっている。規模は南北1.20m以上、東西1.40m、深さは13cmを測る。

埋 土 黒褐色極細砂～細砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(756)が出土した。

SK098(図版192 写真図版224)

検出状況 調査区東半に位置し、SK094・SK097を切る。

形状規模 一部が調査区外にあるため、平面形は南北に長い俵形と考えられるが詳らかではない。断面形は浅い皿状である。規模は東西0.70m以上、南北1.18m、深さは13cmを測る。

埋 土 極細砂混じり暗褐色細砂～中砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK099(図版193 写真図版223)

検出状況 調査区東半に位置し、SD231の西隣に位置する。

形状規模 平面形は東西に長い卵形、断面形は浅い皿形で中央部には凹凸がある。規模は東西1.30m、南北1.00m、深さは16cmを測る。

埋 土 上層は炭を含む黒褐色シルト質極細砂、下層はにぶい黄褐色細砂～極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK100(図版193)

検出状況 調査区東半に位置し、SK101の東隣に位置する。

形状規模 一部が調査区外にあり、半円形で検出した。断面形は楕円形である。規模は南北0.70m、深さは13cmを測る。

埋 土 細砂混じり黒褐色粗砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK101(図版193)

検出状況 調査区東半に位置し、SK100の西隣に位置する。

形状規模 一部が調査区外にあり、半円形で検出した。断面形は楕円形である。規模は南北0.68m、深さは12cmを測る。

埋 土 粗砂混じり灰黄褐色細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK102(図版193)

検出状況 調査区東半に位置し、SK101の西隣に位置する。南端はピットと切りあう。

形状規模 一部が調査区外にあるため、平面形は南北に長い楕円と考えられるが、詳らかではない。断面形は逆台形である。東側は中位に段がつく。規模は南北2.40m以上、東西1.54m、深さは18cmを測る。

埋 土 下層に黒褐色極細砂～細砂、上層には褐灰色極細砂～細砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺蓋(757)が出土している。

SK103(図版193)

検出状況 調査区東半に位置し、SK102の南隣に位置する。

形状規模 平面形は東西に長い卵形で、断面形は逆台形である。中央からピットを検出しているが先後関係は不明である。規模は東西1.84m、南北1.10m、深さは24cmを測る。

埋 土 上層に粗砂混じり黒褐色細砂、下層に細砂～粗砂混じり黒褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK104(図版193 写真図版223)

検出状況 調査区東半に位置し、SK102・SK103の西隣に位置する。

形状規模 平面形は不整な隅丸方形で、断面形は逆台形である。規模は南北0.90m、東西0.80m、深さは21cmを測る。

埋 土 黒褐色極細砂粒混じり灰黄褐色細砂～中砂が堆積する。

出土遺物 土師器鉢(758)が出土している。

SK105(図版193 写真図版224)

検出状況 調査区西半、中央よりSD228の左岸に位置する。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、南端は調査区外にある。断面形は浅い逆台形である。底面には凹凸がある。規模は南北1.30m以上、東西0.62m、深さは13cmを測る。

埋 土 下層は灰黄褐色シルト質極細砂～極細砂、上層には黒褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD227(図版195)

検出状況 調査区西端に位置する自然流路である。62区SD211が分岐した流路である可能性が高い。更に南流する。

形状規模 調査区を横断する。上部が大きく開き、下半はU字形に落ち込む形状の断面をもつ。規模は

幅7.00m、深さ80cmを測る。

埋 土 上層が褐灰色極細砂～砂質シルト、下層が黒褐色～灰白色シルト～細砂である。

出土遺物 土師器壺(729～732)・甕(733～735)・鉢(736・737)・高坏(739・740)・小型器台(742)、須恵器高坏(916)が出土した。

SD228

検出状況 調査区西半、中央寄りに位置する自然流路である。62区SD211が分岐した流路である可能性が高い。更に南流する。

形状規模 調査区を横断する。上部が大きく開くV字形に落ち込む形状の断面をもつ。規模は幅3.0m～5.0m、深さ0.7mを測る。

埋 土 上層が灰黄褐色、下層が褐灰色のシルト～中砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD229(図版195)

検出状況 調査区東端に位置する。SB084と並行して検出した。調査区内から始まり調査区南側へ延びる。

形状規模 皿状の断面をもち、規模は幅1.10m、深さ13cm、延長4.00m以上を測る。

埋 土 下層が灰黄褐色中砂、上層が黒褐色細砂～中砂である。

出土遺物 土師器高坏(743)が出土している。

SD230(図版195)

検出状況 調査区東端に位置する。SB084と重複する。

形状規模 東西方向に走る溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.38m、深さ14cm、延長1.30mを測る。

埋 土 黒褐色細砂～中砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD231(図版195)

検出状況 調査区東端に位置する。SK093と接する。

形状規模 調査区を横断して北北東から南南西に走る溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅1.50m、深さ13cm、延長6.0m以上を測る。

埋 土 黒褐色極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD232(図版195 写真図版224)

検出状況 調査区東半に位置する。SD234と隣接する。弧を描いて南流し流末は調査区内で収まる。

形状規模 浅いU字状の断面をもち、規模は幅0.45m、深さ12cm、延長4.60m以上を測る。

埋 土 褐灰色粗砂である。

出土遺物 土師器高坏(744)が出土している。

SD233(写真図版224)

検出状況 調査区東半に位置する。SD234と隣接する。調査区内で始まり弧を描いてSH003の南西隅を切る。南流し流末は調査区内で収まる。

形状規模 U字状の断面をもち、規模は幅0.50m前後、深さ24cm、延長7.20mを測る。溝底は凹凸が激

しい。

埋 土 灰褐色極細砂である。

出土遺物 土師器鉢(748・749)が出土している。

SD234(図版195)

検出状況 調査区東半に位置する。SD235と接する。

形状規模 南北方向に走る直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.74m、深さ10cm、延長1.80m以上を測る。

埋 土 SD235の上層と同一、褐灰色細砂である。

出土遺物 土師器甕(772・773)・鉢(774)・高坏(775・776)が出土している。

SD235(図版195 写真図版224)

検出状況 調査区東半に位置する。SD234と隣接する。

形状規模 調査区を横断して、やや弧を描いて南北方向に流れる。凹凸が激しい浅い皿状の断面をもち、南側が一段深い。規模は幅1.60m、深さ17cmを測る。

埋 土 SD234の埋土と同一の褐灰色細砂によって最終的に埋没している。

出土遺物 土師器甕(745・746)・手づくね土器(747)が出土している。

SD236

検出状況 調査区中央に位置する。

形状規模 調査区の北東から出現し、南西に抜ける自然流路である。浅いU字状の断面をもち、規模は幅1.50m～2.00m、深さ15cmを測る。

埋 土 埋土は上層が灰黄褐色、下層が褐灰色のシルト～中砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD237

検出状況 調査区西半、中央寄りに位置する。SD228の西側に位置する。

形状規模 調査区を横断して北北東から南南西に走る溝である。水田区画と並行しており、一部に畦畔を伴う。浅いU字状の断面をもち、規模は幅0.70m、深さ20cmを測る。

埋 土

出土遺物 遺物は出土していない。

SD238(図版195)

検出状況 調査区西半、SD237に重なって中層水田に伴う。

形状規模 浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.75m、深さ13cmを測る。

埋 土 上層が褐灰色極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD239(図版195)

検出状況 調査区西端に位置する。SD227に隣接する。

形状規模 北東から南西に走る直線的な溝である。浅いU字状の断面をもち、規模は幅0.15m、深さ5cm、延長2.50m以上を測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂である。

出土遺物 土師器鉢(750)が出土している。

水田遺構(図版196 写真図版227)

調査対象とした水田遺構は3枚存在する。新しいものから、上層水田遺構、中層水田遺構、下層水田遺構とする。

上層水田遺構(図版197)

SD236とSD237の間において検出した。水田畦畔が残存する部分は旧地形の中でも谷部にあたる地点である。

遺構は、東西方向に走る幅30cm～40cm、高さ10cm前後の畦畔を主として、東端では分枝する畦畔を検出している。東西方向の畦畔は延長約21mを検出した。この畦畔に伴う水田土壌は2層検出しており、畦畔自体は耕作を免れた洪水砂部分が帯状に残ることによって検出している。

分枝する畦畔は下層のSD236の形状に沿って構築されており、地形に沿う水田区画が形成されているが、主たる東西方向の畦畔は正方位の区画に伴う可能性がある。

調査範囲では水田区画の単位は認識できなかった。

出土遺物から水田遺構の時期は古墳時代後期以降と考えられる。

中層水田遺構

SD236とSD237の間において検出した。主に4本のN20°Eの方位をとる幅20cmの水田畦畔と東西方向に走る畦畔約10m分を検出している。東西方向の畦畔の間隔は2.3m・1.4mを測る。南北方向については6m以上の幅をもつと考えられる。また、SD238はこの時期の水田畦畔と方位を同じくしている。

出土遺物から水田遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

下層水田遺構

SD236とSD237の間において検出した。N20°Eの方位をとる幅30cmから70cmの畦畔を検出している。

水田区画は1枚検出している。東西幅約5mを測り、南北については5m以上を測るが、明確ではない。SD238はこの時期の水田畦畔とも方位を同じくしており、下層水田から機能していたと考えられる。

出土遺物から水田遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

8. 65区(図版198～206 写真図版229・232・233)

65区・66区は水路を挟んで65区の東に位置し、東側で二つに分かれ東北端が64区に接する全体としてY字形を呈する調査区である。64区に接し、併行する調査区を65区とし、南に張り出した調査区を66区とした。

65区で検出した遺構は平安時代の建物跡2棟、井戸、古墳時代の水田、弥生時代終末以前の土坑、溝などである。

平安時代の建物は調査区東北端で検出した。SB088は2×1間以上、SB087は2×2間以上の規模で、軸方向は64区SB084～SB086とほぼ同じである。この2棟は近接しているため、同時に存在したとはいえないが、64区のいくつかの建物と同時に存在し、ひとつの屋敷を構成していたと考えられる。井戸SE001は円形の掘形を持つ井戸で、曲げ物を枠として設置していた。上層に何枚もの平たい石を放り込んで廃棄していた。

古墳時代の水田は調査区の西端から分岐点までの間で検出した。やや不整形な小区画水田で、畦畔の方向が2種類あることから考えて、64区の水田と同様に複数回にわたって営まれたものと考えられる。

分岐点の東側では、弥生時代終末の土器や炭化物を含む土坑が見つかったが、明確な住居跡は検出で

きなかった。また、この地区でも古墳時代水田の下層に弥生時代中期に遡るとされる複数の流路が見つかっている。

SB087(図版205 写真図版230・231)

検出状況 調査区北東端に位置する。北隅の柱穴は調査区壁にある。SB088とは向きを同じくして並ぶ。

形状規模 南北軸をN52°Wにとる側柱建物である。2間(3.40m)×梁行2間(3.50m)の規模である。

建物の柱間は、1間1.75m・1.70mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径50cm～60cm、柱痕は径約20cm、深さは約20cmである。

出土遺物 土師器甕(800)が出土した。

SB088(図版205 写真図版230・231)

検出状況 調査区北東端に位置する。SB087とは向きを同じくして並ぶ。

形状規模 南北軸をN42°Eにとる側柱建物である。桁行き2間(3.10m)×梁行1間(3.00m)の規模である。建物の柱間は、1間1.55m・3.00mである。

柱 穴 柱穴は円形で、掘形径40cm、深さは約20cmである。

出土遺物 柱穴P01～P05からは土器の小片が出土している。

SK107(図版202)

検出状況 調査区中央に位置している。

形状規模 平面形は不整な隅丸長方形で、断面形は極浅い皿状である。規模は南北1.78m、東西1.18m、深さは4cmを測る。

埋 土 褐灰色細砂である。

出土遺物 図示できる遺物はない。

SK108

検出状況 調査区東半に位置し、SD249に近接する。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形である。

出土遺物 焼成粘土塊(796)が出土している。

SK109(図版202)

検出状況 調査区東半、66区との分岐付近に位置している。

形状規模 平面形は溝状の落ち込みで、南側は調査区の外にでる。断面形は浅い皿状である。規模は南北0.90m以上、東西0.60m、深さは6cmを測る。

埋 土 炭化物を含む暗灰黄色極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる遺物はない。

SK110(図版202)

検出状況 SK109の西隣に位置し、南側は調査区外にでる。

形状規模 検出した平面形は東西に長い長方形で、断面形は浅い皿状である。内側にピット状の窪みがある。規模は東西0.98m、南北0.50m以上、深さは2cmを測る。

埋 土 炭化物を含む黄褐色極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる遺物はない。

SK111(図版202)

検出状況 SD253の北延長上に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北0.68m、東西0.35m、深さは4cmを測る。

埋 土 灰黄褐色細砂混じりシルトである。

出土遺物 古墳時代初頭の土師器手焙(797)が出土している。

SK112

検出状況 SD251の北東側に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い俵形である。規模は南北約1.50m、東西0.70mを測る。

埋 土 灰黄褐色シルトが堆積する。

出土遺物 須恵器坏(1538)が出土している。

SD244(図版206 写真図版229)

検出状況 調査区東半から中央に向かって流れ込む流路である。下層の自然流路が埋没した最上層をSD244とした。流路の始まりは明瞭ではないが、64区SD231の延長上にあり、流末は調査区南壁から更に南へと流れだす。

形状規模 緩やかに蛇行する自然流路である。浅く、開いたU字状の断面をもち、規模は幅1.0m～2.1m、深さ20cm、延長27.5m以上を測る。

埋 土 黒褐色極細砂と共に、土壌化した赤灰色細砂質極細砂、赤黒褐色細砂～極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(791)が出土している。

SD245(図版206)

検出状況 調査区西端に位置する。水田区画(遺構)に付随する溝である。

形状規模 水田区画に伴う直線的な溝である。軸をN64°Eにとる。U字状の断面をもち、規模は幅0.65m、深さ15cm、延長6.00m以上を測る。

埋 土 上層が褐灰色極細砂～シルト質極細砂、下層が褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD246(図版206)

検出状況 調査区中央に位置する。

形状規模 北西から南東に流れる直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.28m、深さ22cm、延長3.00m以上を測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂～シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD247(図版206)

検出状況 調査区東半に位置する。南北方向の水田区画に沿う溝の可能性が高い。

形状規模 南北方向に走る直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.20m、深さ5cm、延長3.50m以上を測る。

埋 土 赤灰色細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD248(図版206 写真図版229)

検出状況 調査区東半に位置する。SD244を横断する。

形状規模 緩やかにカーブする溝である。浅いU字状の断面をもち、規模は幅0.20m、深さ5cm、延長

6. 50m以上を測る。

埋 土 赤灰色細砂質極細砂である。

出土遺物 土師器高坏(795)が出土した。

SD249(図版206)

検出状況 調査区東半に位置する。同方向の溝が複数本存在する。

形状規模 北西から南東に走る直線的な溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.15m、深さ4cm、延長1.50mを測る。

埋 土 灰黄褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD250(図版206)

検出状況 調査区東半、66区との分岐付近に位置する。SD244に近接する。

形状規模 東西方向に走る直線的な溝である。SD254とほぼ同方向に走る。U字状の断面をもち、規模は幅0.15m、深さ4cm、延長1.50m以上を測る。

埋 土 炭化物を含む灰黄褐色細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD251(図版206 写真図版229)

検出状況 調査区東半、66区との分岐付近に位置する。

形状規模 直交するSD244と一連の溝である可能性が高い。浅いV字に近い断面をもち、規模は幅0.25m、深さ5cm、延長3.80m以上を測る。

埋 土 炭化物を含む灰黄褐色細砂～シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD252(図版206)

検出状況 調査区東半、66区との分岐付近に位置する。

形状規模 南北方向に走る直線的な溝である。SD251・253とほぼ同方向に走る。U字状の断面をもち、規模は幅0.15m、深さ5cm、延長1.90mを測る。

埋 土 炭化物を含む灰黄褐色細砂～シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

水田遺構(図版200 写真図版232)

調査対象とした水田遺構は同一面において2枚検出した。重複関係から古いものを、水田遺構Ⅰ、新しいものをⅡとする。

水田遺構Ⅰ

旧地形の形状にしたがって水田区画を検出した。水田区画の方位は河道の形に伴い一定ではないが、概ね、N20°E～40°E前後にとり、64区の中下層水田遺構と近似する方位である。各畦畔は幅30cm～40cmを測る。また、1枚の面積が分かる水田は乏しいが、3m×2.5m前後の小区画水田が推測できる。SD245は同様の方位をとって、この時期の水田に伴うものと考えられる。

この水田の時期は、出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

水田遺構Ⅱ

水田遺構Ⅰと重複し同一面において検出した。水田区画は概ね正方位に近い方位に向いており、64区

の上層水田遺構と同方位である。畦畔は東西方向に2列検出しているが、全体に遺存状態が悪く、個々の水田区画の状況は明らかではない。各畦畔は幅20cm～30cmを測り、2列の畦畔間の距離は約3.3mである。

この水田の時期は、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

下層遺構

SK106(図版202)

検出状況 調査区西端に位置している。

形状規模 平面形はオムスピ形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北1.32m、東西1.60m、深さは8cmを測る。

埋 土 黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 土師器壺(798)・小型器台(799)が出土した。

SD242(図版206 写真図版233)

検出状況 調査区西半に位置する。北西から南東に蛇行して流れる。また、北壁から合流する流れが存在する。

形状規模 上面が開くU字状の断面をもち、規模は幅6.20m、深さ95cm、延長23.20m以上を測る。

埋 土 上層が褐灰色、中層が灰色シルト質極細砂、下層が褐灰色シルト質極細砂～極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD243(図版206 写真図版233)

検出状況 調査区西半に位置する。北東から南西に蛇行して流れる。SD242と調査区北壁付近で分岐している可能性が高い。

形状規模 上面が大きく開くU字状の断面をもち、規模は幅3.70m、深さ55cm、延長17.0m以上を測る。

埋 土 上層が褐灰色極細砂質シルト、中層は褐灰色シルト質極細砂、下層は灰色シルト質極細砂～極細砂。

出土遺物 遺物は出土していない。

9. 66区(図版202～206 写真図版234)

66区は65区の南側に位置する。検出した遺構は井戸・平安時代の柵、古墳時代の水田、弥生時代終末以前の土坑、溝などである。

SA007(図版205)

検出状況 調査区南東端において検出した。

形状規模 方位をN23°Wにとる柵列跡である。規模は南北5間(3.80m)である。柱間は0.60mと0.80mの間隔である。

柱 穴 円形を基本とし掘形径30cmを測る。

出土遺物 柱穴P04・P05・P06からは土器の小片が出土している。

SE001(図版204 写真図版235)

検出状況 調査区北西部端に位置し、SK116を切る。素掘りの井戸である。井戸は径50cm前後・厚み10cm前後の板石、径20cm前後の河原石によって埋められている。

形状規模 掘形はやや不整な円形を呈し、径約0.95m・深さ1.28mを測る。井戸底には径53cm・深さ20

cm前後の曲物を水溜めとしている。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK113(図版203)

検出状況 調査区北西部端に位置し、SD253に切られている。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北2.25m、東西1.16m、深さは8cmを測る。

埋 土 炭化物を含む黒褐色細砂～極細砂が堆積する。

出土遺物 緑釉陶器底部(1547)が出土している。

SK114(図版203 写真図版235)

検出状況 調査区北西部端に位置し、SD254に切られている。

形状規模 平面形は南北に長い不整な楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北2.70m、東西1.32m、深さは8cmを測る。

埋 土 黒褐色極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK115(図版203 写真図版235)

検出状況 調査区北西部端に位置し、SD254の先端に位置する。先後関係は不明である。南半は調査区外にある。

形状規模 平面形は南北に長い舌状で、断面形は浅い皿状である。東半は一段深くなっている。規模は南北1.00m以上、東西0.68m、深さは16cmを測る。

埋 土 上層に炭化物を含む細砂混じり灰黄褐色シルト質極細砂、下層に灰黄褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK116(図版203 写真図版235)

検出状況 調査区北西部端に位置し、SE001に切られる。

形状規模 平面形は隅丸長方形で、断面形は皿状である。規模は南北1.57m以上、東西0.90m、深さは13cmを測る。

埋 土 上層に炭化物を含む灰黄褐色極細砂、下層に灰黄褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 土師器鉢(819)が出土した。

SK117(図版203)

検出状況 調査区南東端において検出した。北半は調査区外にある。先端のピットとの先後関係は不明である。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長楕円形で、断面形は逆台形である。規模は南北2.12m以上、東西0.80m、深さは10cmを測る。

埋 土 上層に炭化物を含む粗砂混じり褐灰色シルト質極細砂、下層に褐灰色粗砂が堆積する。

出土遺物 土師器壺(809・810)・甕(811～816)・高坏(817)が出土した。

SK118(図版204)

検出状況 SK117の西側に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い卵形で、断面形は皿状である。中央は一段深くなっている。規模は南北

1.16m、東西0.62m、深さは10cmを測る。

埋 土 粗砂混じり褐灰色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK119(図版204 写真図版235)

検出状況 調査区南東端に位置する。

形状規模 平面形は卵形で、断面形は深いU字形である。規模は南北0.88m、東西0.65m、深さは25cmを測る。

埋 土 下層はシルト質極細砂混じり灰黄褐色粗砂、上層は粗砂混じり褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 土師器甕(818)が出土した。

SK120(図版204)

検出状況 調査区南東端に位置する。SK117の南側にある。

形状規模 平面形は長楕円形、断面形は浅い楕円状である。規模は南北1.08m、東西0.52m、深さは16cmを測る。

埋 土 粗砂混じり褐灰色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD253(図版206)

検出状況 調査区北西部端に位置し、SK113を切る。SD252と並行する。

形状規模 北西から南東に伸びる直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.18m、深さ4cm、延長1.30mを測る。

埋 土 炭化物を含む灰黄褐色細砂～シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD254(図版206)

検出状況 調査区北西部端に位置し、先端にSK115が位置する。

形状規模 調査区を横断する直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.52m、深さ13cm、延長6.00m以上を測る。

埋 土 暗褐色極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

10. 67区(図版207・208 写真図版236)

67区は66区の南、道路を挟んで60区の南西に位置する。検出した遺構は古墳時代のものと考えられる水田の痕跡、弥生時代終末の溝と土坑である。

古墳時代の水田は調査区西半で畦畔痕跡を検出したものの、水田土壌はほとんど残っていなかった。

弥生時代終末の溝SD256は調査区東端を縦断するもので、60区の溝SD185や58区の溝SD201と同じものである。埋土には甕をはじめとする土器が多く含まれていた。また、SD201に合流するSD203からは石錘が出土している。

SK121(図版208 写真図版236)

検出状況 調査区西部に位置し、SK122に隣接する。

形状規模 平面形は楕円形、断面形はボウル状である。規模は長軸0.50m、短軸0.40m、深さは22cmを

測る。

埋 土 粗砂混じり黒褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 土師器鉢(861・862)が出土している。

SK122(図版208)

検出状況 調査区西北壁際に位置している。

形状規模 平面形は隅丸方形で、断面形は逆台形である。規模は南北辺1.50m以上、東西辺1.30m以上、深さは20cmを測る。北側は調査区外に位置する。

出土遺物 土師器甕(860)が出土している。

SK123(図版208)

検出状況 調査区西部に位置している。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形で、断面形は浅い皿形である。規模は南北1.25m、東西0.78m、深さは12cmを測る。

埋 土 灰黄褐色極細砂～シルト質極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD255(図版208 写真図版236)

検出状況 調査区を東西方向に横断する。水田遺構を切り後出する。

形状規模 浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.35m、深さ5cm、延長13.0m以上を測る。

埋 土 灰黄褐色シルト質極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SD256(図版208 写真図版236)

検出状況 調査区東半に位置する。北東隅で南壁に抜ける。SD257と重複するが、先後関係は不明である。

形状規模 下半は箱型に掘り、上半は大きく鉢型に開く。規模は幅2.80m、深さ45cm、延長10.0m以上を測る。

埋 土 上層が黒褐色シルト質極細砂、下層が褐灰色粗砂～細砂である。

出土遺物 土師器壺(821～823・827～833)・甕(824～826・834～845)・鉢(846～851・854～857)・有孔鉢(858)・高坏(852・853)・器台(859)が出土した。

SD257(図版208 写真図版236)

検出状況 SD256と重複して位置する。先後関係は不明である。

形状規模 SD256と並行する。浅い皿状の断面をもち、幅0.30m、深さ5cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 石錘(S101)が出土した。

水田遺構

検出状況 調査区北西半部から水田区画を検出した。水田区画の大半は南半部が削平され規模は詳らかではない。水田区画は北半部では上下2列検出しており、あわせて5区画前後を検出した。上段の区画は明確ではない。河道に近い下段は比較的南北に長い区画形状をしており、東側に行くほど規模も大きい。水田区画の方位は地形に伴い一定ではないが、概ねN12°W方向に向いている。

形状規模 下列の区画は3.5m四方(約10㎡)から1m×2m以上の区画を呈する。

出土遺物 4a層からは、土師器小皿(739)が出土している。被覆する3b層からは16世紀後半代の土師器鉢が出土している。

備考 この水田に伴う土壌は4層(4a)明褐色シルトである。

11. 68区(図版209～212 写真図版237・238)

Y字状を呈する68区と69区は65区から続く南東部を68区、62区から続く北西部から西部を69区とした。耕土直下に薄い灰褐色の砂礫混じりシルト層が堆積し、その中には主として奈良時代から平安時代の遺物が大量に含まれていた。この包含層の下には黄灰色のシルト層があり、遺構はその上に営まれていた。

検出した遺構は溝、土坑、ピットがあるが、かなり浅いものが多く大きく削られているものと思われる。この内土坑は68区の南端にかたまって検出している。

調査区西端では条里の痕跡を留める大畦畔の一部を検出し、南東端では古墳時代半ばの土坑群が見つかっている。この土坑群は形態も一定せず、粘土採掘坑の可能性もある。また、包含層出土の遺物には、須恵器・土師器といった食器類のほか、唐三彩弁口瓶、円面硯、平瓦、緑釉陶器、石帯、墨書土器といった寺院・役所に関連するものが含まれている。

なかでも唐三彩弁口瓶は69区との境付近で出土しており、黄灰色シルト層(遺構面)に食い込んだ状態で検出した。これは、近現代の耕作による可能性が高い。

SK124(図版212)

検出状況 調査区南端に位置し、SK125と並ぶ。

形状規模 平面形は東西に長い楕円形で、断面形はV形である。規模は東西1.15m、南北0.65m、深さは18cmを測る。

埋土 上層は褐色細砂質極細砂、下層は褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK125(図版212)

検出状況 調査区南端に位置し、SK124と並ぶ。

形状規模 平面形は東西に長い不整な楕円形で、断面形は逆台形である。規模は東西1.88m、南北1.06m、深さは20cmを測る。

埋土 上層には細砂粒混じり灰白色シルト質極細砂、下層は極細砂混じり黒褐色シルト質極細砂が堆積する。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK126(図版211 写真図版238)

検出状況 調査区南端に位置し、SK127と並ぶ。土坑の北半は調査区外にある。

形状規模 平面形は東西に長い隅丸長方形と考えられ、断面形は逆台形である。中位に浅い段を持つ。規模は東西3.15m、南北1.15m以上、深さは30cmを測る。

埋土 最下層に灰色極細砂質シルトが、中層には灰色・褐色のシルト質極細砂が堆積している。上層には褐色極細砂が堆積している。

出土遺物 須恵器坏蓋(917)・坏身(918)・壺(919)、土師器壺(920)が出土した。

SK127(図版211)

検出状況 調査区南端に位置し、SK126と並ぶ。

形状規模 平面形は東西に長い不整な五角形で、断面形は浅い皿状である。規模は東西1.58m、南北1.50m、深さは18cmを測る。

埋 土 全体に褐灰色極細砂～シルト質極細砂が堆積するが、最上層には地山のブロックが入る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK128

検出状況 調査区南端に位置し、土坑の一部は調査区外にある。

形状規模 検出した平面形は半円形で、断面形は浅い皿状である。規模は南北約1.0m、東西検出長0.60mを測る。

埋 土 黒褐色シルトが堆積している。

出土遺物 須恵器有蓋高坏(921・922)・坏身(923)、土師器高坏(924)が出土した。

SK129(図版212)

検出状況 調査区南端に位置し、SK128と隣接し、SK130に切られる。

形状規模 平面形は南北に長い卵形で、断面形は凹凸がある。規模は南北1.10m、東西0.80m、深さは14cmを測る。

埋 土 極細砂質シルトと地山土がブロックで含まれる。

出土遺物 須恵器蓋(925)、坏身(926)、甕(927)が出土した。

SK130(図版212 写真図版238)

検出状況 調査区南端に位置し、SK128と隣接し、SK129を切る。

形状規模 平面形はくびれをもつ形で、南側に向かって広がりを見せる。断面形は箱形、南側は調査区外にある。規模は南北1.80m以上、東西1.10m以上、深さは16cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK131(図版212 写真図版238)

検出状況 調査区南端に位置し、SK130に切られている。

形状規模 大半が調査外にあり扇形に検出した。断面形は逆台形である。中位に浅い段を持つ。規模は南北0.68m、東西0.70m分を検出した。深さは15cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK132(図版212 写真図版238)

検出状況 調査区南端に位置し、SK129と隣接する。

形状規模 平面形は南北に長い卵形で、断面形は浅いV字である。規模は南北1.27m、東西0.96m、深さは12cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂に地山土がブロックで含まれる。

出土遺物 製塩土器(928)が出土した。

SK133(図版212)

検出状況 調査区南端に位置し、SK132と隣接する。

形状規模 平面形は東西に長い隅丸長方形で、断面形は逆台形である。中位に浅い段を持つ。規模は東西0.86m、南北0.68m、深さは18cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂である。

出土遺物 遺物は出土していない。

SK134(図版212)

検出状況 調査区南端に位置し、SK133と隣接する。

形状規模 平面形は南北に長い俵形で、断面形はU形である。規模は南北1.30m、東西1.00m、深さは30cmを測る。

埋 土 褐灰色シルト質極細砂に地山土がブロックで含まれる。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SD258(写真図版238)

検出状況 68区北西部に位置する。

形状規模 東西方向(N79°E)に走る直線的な溝である。U字状の断面をもち、規模は幅0.60m、深さ25cm、延長6.00m以上を測る。

埋 土 埋土は上層が灰黄褐色、下層が褐灰色のシルト～中砂である。

出土遺物 須恵器坏蓋(929)が出土している。

12. 69区(図版209・210 写真図版239)

Y字状を呈する68区と69区は65区から続く南東部を68区、62区から続く北西部から西部を69区とした。今回の調査地点の東端に位置し、苦編の現集落との間に3m程度の段差がある。

SK135

検出状況 調査区西半に位置し、SK136と隣り合う。また、土坑の南端は調査区外にある。

形状規模 平面形は南北に長い不整な楕円形である。規模は南北0.80m以上、東西0.40m、深さは15cmを測る。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

SK136

検出状況 調査区西半に位置し、SK135と隣り合う。また、土坑の南端は調査区外にある。

形状規模 平面形は南北に長い隅丸長方形である。規模は南北2.40m以上、東西2.20m、深さは15cmを測る。

出土遺物 須恵器碗(1560)、土師器碗(1559)が出土した。

SD259

検出状況 調査区西端に位置する。切れ切れに南北方向に検出した。

形状規模 N6°E前後の南北方向に走る溝である。浅い皿状の断面をもち、規模は幅0.80m、深さ15cm、延長5.00m以上を測る。

出土遺物 土師器甕(863)が出土した。

備 考 溝は西側との間に落差をもっており、約2.0mの間を空けて西側に同規模の溝が存在する。このことから、2本の溝は大畦畔の側溝の可能性が高い。

第4章 発掘調査の成果—遺物—

第1節 遺物の概要

池ノ下遺跡は広大な面積の調査を実施したため、旧石器時代から近代に至る遺物が出土した。また遺物の種類も土器・土製品、石器・石製品、ガラス製品、金属器、木製品など多様な遺物が出土した。

遺物の出土状況は第3章の遺構の説明で述べたため、本章では時代ごとの土器・土製品と土器以外の石器・石製品、ガラス製品、金属器、木製品について種類ごとに成果を述べる。なお、ガラス製品はガラス玉1点であったため、石器・石製品と一緒に含めた。

第2節 縄文時代の土器

1. 概要

縄文土器は中期と晩期のものが出土している。晩期の土器は突帯文土器で流路から出土したものが多く、中期の土器はSX001が同時期の流路に埋没したものであるが、ほかの多くは新しい時期の遺構から混入して出土したことが多い。

2. C地区

19区(図版213 写真図版242)

SD015

1は鉢の底部で上げ底である。磨滅が著しい。

SD016

2は深鉢の体部で、外面は条痕による調整を行う。横位の突帯を貼り付け、細い円形刺突を付加する。

21区(図版213 写真図版242)

SD021

3は深鉢の体部で、磨滅が著しい。横位の突帯を貼り付け、キザミを付加する。

3. D地区

28区(図版213 写真図版240)

SD045

縄文土器深鉢である。4・5は口縁部が単純に外反する。6～8は突帯文土器である。6・7は口縁部で、口縁部から下がった位置にキザミのない突帯を付ける。8は頸部と体部の境界で稜が明瞭である。

SD049

9は深鉢の体部上半部の破片で、くびれ部に刺突を行う。

30区(図版213 写真図版240)

SD047

10は深鉢の頸部と体部の境界部分で、突帯をめぐらす。

33区(図版213 写真図版240)

SD076

11は深鉢の体部上半部の破片で、横方向の半截竹管による横方向の条線文を全面に施したのち、上から縦方向に半截竹管によるジグザグ文を切りながら施文する。

SD058

12は波状口縁深鉢の口縁部で急角度に内折する。口縁外面には3列の円形刺突充填し、円孔を設ける。屈折部にキザミを加える。

37区(図版213 写真図版240)

SD045

縄文土器深鉢(13)は単純に外反する口縁部で、外面は横方向のケズリの後、ナデている。14は上げ底の底部である。

4. E地区

42区(図版213 写真図版247)

SD120

15は突帯文土器の口縁部で、口縁部から下がった位置にキザミのない突帯を付ける。16は上げ底の底部である。

5. F地区

46区(図版213 写真図版17・241)

SX001

17はほぼ完形の深鉢である。最大径が口縁部と体部中央にあり、体部上部で一度くびれる。口縁部は内湾する。体部は下半部が左上がり、上半部は横方向の条痕文を施す。口縁部は5単位の緩やかな波状を呈し、縄文を施文する。波状部分の膨らみを生かして上下に沈線をめぐらせ、上部に連続「つ」字状の単位文を描き、磨り消す。18は平底で17の底部の可能性がある。19・20は無文である。

55区(図版213 写真図版248)

SD165

21は突帯文土器の口縁部で、口縁部から下がった位置に突帯を貼り付け、弱いキザミを付加する。

第3節 弥生時代の土器

1. 概要

弥生時代の遺構には竪穴住居・土坑・溝・池状遺構などがある。竪穴住居からは実測できる土器が出土しなかったため、土坑と溝と池状遺構から出土した土器を図化している。溝の土器には古墳時代以降の溝に含まれていたものがある。

2. A地区

2区(第1図 写真図版242)

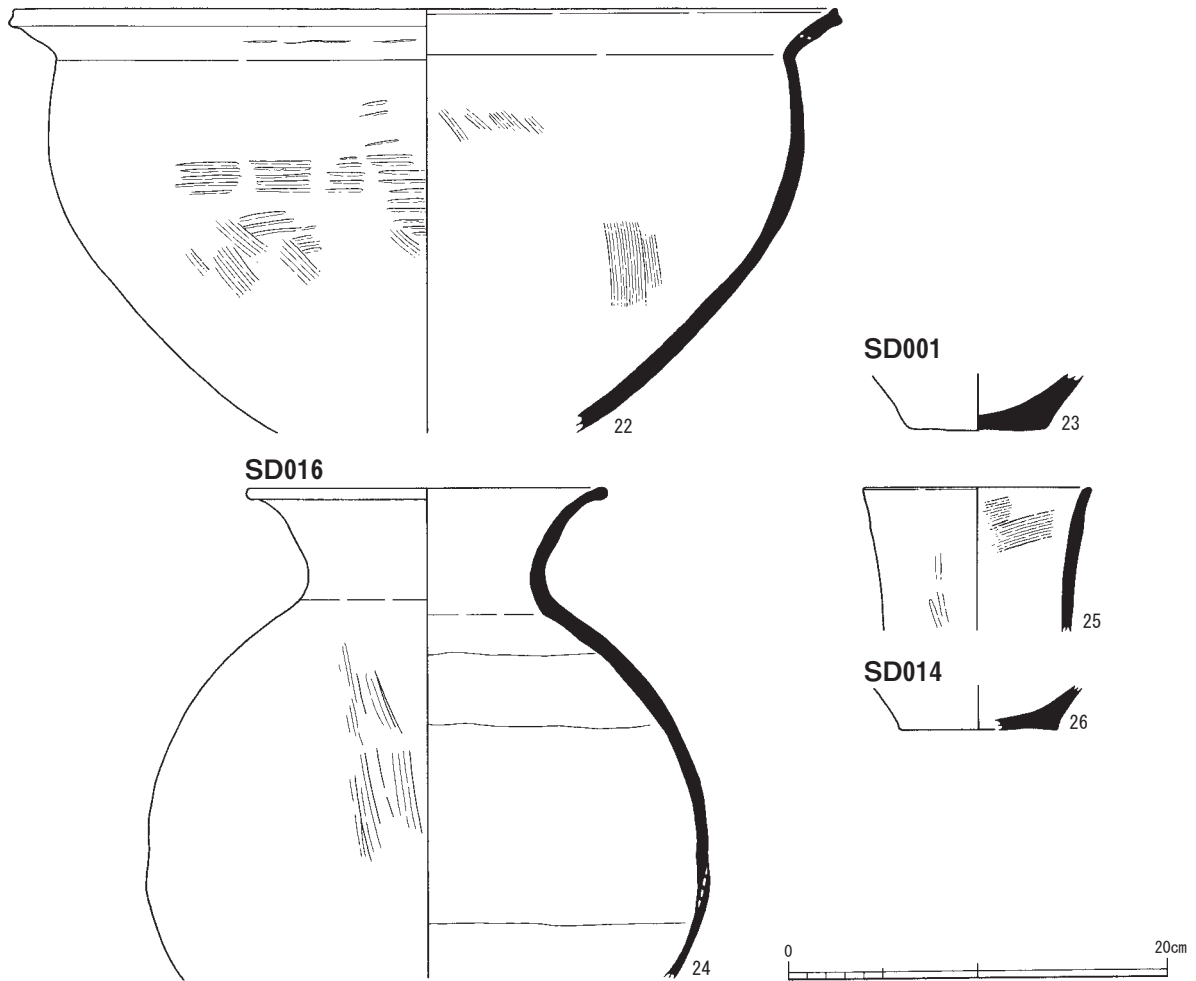
SD002

22は大形の「く」字状口縁鉢で、体部はタタキ整形を行う。

SD001

23は壺の底部である。底部から体部にかけて接地黒斑が存在する。

SD002



第1図 遺物 土器 22~26

3. C地区

19区(第1図 写真図版242)

SD016

24は広口壺で、球形の体部に外反する口縁部が付く。25は長頸壺の口頸部で、外面は縦ミガキ、内面は横ハケである。

SD014

26は壺の底部である。

4. D地区

28区(図版214 写真図版243・244・252)

SD045

壺・甕がある。壺27は広口壺で、頸部に2条の突帯をめぐらし、口縁部は下方に拡張し、4条のキザミを加えた凹線文をめぐらし、円形浮文を貼り付ける。口縁内面には2条の突帯をめぐらし、キザミを加える。壺29は肩部に2条のキザミ目突帯を貼り付ける。甕28は「く」字状口縁甕で、口縁端部は上方につまみ上げる。底部側面に接地黒斑、肩部に覆接触黒斑が残る。甕30は底部の破片である。甕31は平底で、体部外面は縦方向にミガキ、内面は縦方向にケズリを行う。

SD047

32は広口壺で、口縁部は下方に拡張し、4条の凹線文をめぐらし、キザミを加える。口縁内面には突帯をめぐらし、キザミを加える。33は口縁部が大きく外弯する広口壺で、口縁端部にキザミを加える。口縁内面には横方向のミガキを行う。34は広口壺で、口縁部は下方に拡張し、4条の凹線文をめぐらす。口縁内面には突帯をめぐらす。35は「く」字状口縁甕で、口縁端部は上方につまみ上げる。外面にはススが付着する。

SD046

36は「く」字状口縁甕で、口縁端部は上下に拡張する。内外ともハケ調整である。37は口縁端部にキザミをもつ前期の甕である。38は壺の底部で、下半部外面は縦方向のミガキ、体部中央は横方向のミガキを行う。内面はハケ調整行い、底面には爪痕が残る。外面にはススが付着する。39は壺の底部で、下半部外面は縦方向のミガキを行う。40は「く」字状口縁甕で、外面下半部は被熱による剥離が著しい。上半部はハケ調整でススが付着している。内面にはコゲが残る。41は長頸壺の口頸部で、頸部外面は縦ハケ、口縁部は強くヨコナデを行う。42は口縁が内傾する無頸壺である。内面は火回不良黒斑である。43は広口壺の口縁で、大きく外反し、口縁端部は拡張し、凹線をめぐらす。44は外反する口縁の甕で、口縁端部は拡張する。45は甕の底部で、外面はハケ調整、内面はケズリを行う。46は脚台部で脚端部は拡張し、垂下する。脚外面は4条の凹線をめぐらし、裾部に円孔を開ける。内面は横方向に強いケズリを行う。

30区(図版215 写真図版247・254)

SD049

47は外反する甕の口縁である。48は広口壺で口縁部は外反し、口縁端部は拡張し、凹線文をめぐらす。体部内面は横方向にケズリを行う。49は椀形高坏の坏部で腰部に凹線を3条めぐらす。

SD047

50は有稜高坏の坏部で、内面は横方向のミガキが残る。口縁部に黒斑が残る。51は直口鉢で、内外とも縦方向のミガキを行う。

34区(図版215 写真図版245・246)

SW011

52は広口壺の口縁で、端部には綾杉状のキザミを施す。53は壺の底部で外面は縦方向のミガキを行う。54は「く」字状口縁甕で、口縁端部は拡張する。体部は内外面ともハケ調整を行う。55は甕の底部で、焼成後穿孔を行う。体部はミガキを行い、ススが付着する。

SD062

56は広口壺の口頸部で大きく外弯する。57は広口壺の口縁部で、端部は下方に拡張し、4条の凹線文をめぐらし、棒状浮文を貼り付ける。口縁内面には2条の突帯をめぐらす。58は広口壺の口頸部で直立する頸部から口縁部は外反する。59は壺の底部で、内面はケズリを行う。60は「く」字状口縁鉢で、口縁端部は上方に拡張している。体部外面には黒斑がある。

SD070

62は広口壺の口縁部で大きく外反する。口縁端部は上下にキザミを加える。口縁内面には押圧突帯を貼り付ける。

SD069

63は甕の底部である。

33区(図版215 写真図版245)**SD065**

61は壺の体部上半部の破片で、5本単位のクシ工具で直線文と波状文を描く。

35区(図版215・216 写真図版246・254)**SD076**

64は弥生前期の甕の底部である。底部内面は指オサエを行い、内面下半部にはコゲが付着する。

SD081

65は外反口縁甕で、口縁直下に3条のヘラ描沈線をめぐらす。66は甕の底部である。

SD083

67は弥生前期の甕で、口縁直下に2条のヘラ描沈線をめぐらす。68は鉢の底部で、底部側面は指オサエを行う。

SD082

69は前期の壺で、扁球形の体部と頸部の境に3条のヘラ描沈線をめぐらす。70は壺の頸部で8条以上のヘラ描沈線を施文する。71は壺の底部である。磨滅により調整は不明である。72は壺の体部上部で、4条のヘラ描沈線を施文する。73は大形の壺で、体部上半部に2条のキザミ目突帯を貼り付ける。74は外反口縁甕で直線的に開く。75は外反口縁甕で体部は丁寧なナデを行い、口縁部はヨコナデを行う。76は甕の底部である。77は甕の底部で、体部下方に接地黒斑がある。

37区(図版216 写真図版247)**SD099**

78は壺の体部で算盤玉形を呈する。内外面とも剥離や磨滅が著しい。79は水平口縁高坏の坏部で口縁部は残存していない。内面の突帯は三角形をなす。坏部と脚部の境には2条の突帯をめぐらす。80は無頸壺の口縁部は大きく内弯する。口縁部に1条と体部に3条の凹線文をめぐらす。横方向のミガキを施す。

SD048

81は長頸壺の口頸部で、外面は縦方向のミガキを行い、口縁部はヨコナデする。

SD046

82は壺の底部である。

4. F地区

45区(図版217 写真図版248)

SD124

83・84は大形の外反口縁甕の口縁部で、磨滅が著しい。85は大形の甕の底部である。84と85は胎土が同一のため同一個体の可能性が高い。

46区(図版217 写真図版248)

SD127

86は直口壺で、口縁部は拡張し、端部にキザミを加える。口縁直下には低い押圧突帯を3条貼り付ける。体部はクシ描波状文を施文する。87は甕の底部である。

49区(図版217 写真図版268・270)

SD138

88は壺の口頸部で口縁部は外反し、端部に沈線が1条めぐらる。89は外反口縁甕で、口縁端部にはキザミを加え、口縁直下にクシ描沈線を2条めぐらす。

51区(図版217 写真図版248)

SD146

90は「く」字状口縁甕で、口縁端部は丸く仕上げる。胎土は精緻で、体部外面にはススが付着する。

53区(図版217 写真図版248)

SD146

91は脚付無頸壺で、体部と脚台部の接点はない。体部は内弯し、口縁端部が拡張する。脚部は円孔を8か所開け、脚端部は上方に拡張し、面を作る。

55区(図版217 写真図版248)

SD146

92は「く」字状口縁甕で、口縁端部は上方につまみ上げる。

SD170

93は脚台で、三角形の透かしを8か所開ける。脚端部は拡張する。

56区(図版217 写真図版283)

SD186

94は広口壺の口縁部で、口縁端部にはヘラ描沈線を1条めぐらす。内面は横方向のミガキ痕跡が残る。

SG003

95は壺の底部で、体部外面は横方向のミガキを行い、内面はナデ調整を行う。

5. G地区

57区(図版218 写真図版249)

SD189

96は壺の底部である。内外面ともナデを、底部内面は指オサエを行う。97は甕の底部で、中心からずれた位置に焼成後の穿孔がある。

58区(図版218 写真図版249・250・251)**SD192**

98・99は広口壺で口頸部は大きく外反する。100は大きく肩が張った壺で、2条の突帯を貼り付け、キザミを加える。101は壺の頸部で、3条のヘラ描沈線をめぐらす。102は壺の頸部で、1条の突帯を貼り付け、キザミを加える。103は外反口縁甕で、口縁直下に4条のヘラ描沈線をめぐらす。104・105は壺の底部で、104の底部端には接地黒斑が存在する。106は甕の底部である。

SD193

107は壺の体部で、5条のヘラ描沈線をめぐらす。108は甕の体部上半部で、4条のヘラ描沈線をめぐらす。109は甕の底部で、底部から体部にかけて接地黒斑が存在する。

SD194

110・111は広口壺で、突帯を貼り付け、110はキザミを加える。112・113・115～117は外反口縁甕で、口縁端部にはキザミを付ける。112は1条、113は4条、116は5条、117は6条のヘラ描沈線をめぐらす。114は無頸壺で、口縁部は内傾し、突帯を貼り付ける。118・119は壺の底部である。120は甕の底部である。

SD195

121は小形の壺の底部で、底部に葉脈痕が残る。底部から体部にかけて接地黒斑が残る。122・123は甕の底部である。124は壺蓋で、平坦な頂部には木葉圧痕が残る。

SK058

125は広口壺で、口頸境に3条のヘラ描沈線をめぐらす。126は外反口縁甕で、口縁直下に3条のヘラ描沈線をめぐらす。127・128は甕の底部で、127は底面に接地黒斑が残る。

SD201

129・130は壺の体部の破片で、頸体境に2条のヘラ描沈線をめぐらす。131は広口壺で、口頸境に3条のヘラ描沈線をめぐらす。132～134は壺の底部である。135は甕の底部である。137・139・140は外反口縁甕で、口縁端部にキザミを付け、口縁直下には4条のヘラ描沈線をめぐらす。138は外反口縁甕で、体部は直線的である。口縁直下には6条のヘラ描沈線をめぐらす。141・142は「く」字状口縁甕で、141の口縁端部は丸く収めており、142の口縁端部は上方に拡張し、面を作る。

第4節 古墳時代初頭の土器**1. 概要**

池ノ下遺跡の今回の調査の中で遺物量が一番多い。古墳時代初頭の遺構は竪穴住居・土坑・流路・溝・土器溜りなどがある。

2. D地区**23区****SK015**(図版220 写真図版253)

143は甕Aaである。

20. 28区

SD048(図版220 写真図版252)

壺・甕・鉢が出土した。

壺は二重口縁壺と短頸壺がある。

二重口縁壺はC(144)とD(149)があり、144の体部は縦方向のハケ調整のち、口縁部の内外も含めて横方向のミガキで仕上げる。149は頸部を横方向のミガキで仕上げる。短頸壺A(146)は球形の体部に短く直立する口縁部が付く。

甕はA(145)と底部(147・148・150～152)がある。145は口縁部から体部上半部にかけて覆接触黒斑がある。147は底部に接地黒斑が、内面には熾溜黒斑があるため、直立して焼成を行っていることがわかる。148には外面にススが、内面にはコゲが付着する。150の底部から体部にかけて、接地黒斑がある。151の底部外面中央部には窪みが残りに、接地黒斑がある。内面には熾溜黒斑があり、体部外面にはススが付着している。152の底部内面および周縁は指オサエで整形しており、上げ底である。体部外面下部の一部には布目圧痕が付着する。内面には熾溜黒斑が残りに、体部外面中央部にはススが付着する。

包含層

遺構に伴わない遺物には壺と甕がある。

153は甕Lbの口縁部である。154は壺の底部で、底部に「×」のヘラ記号がある。

30区(図版220 写真図版254)

SD049

鉢と二重口縁壺がある。

鉢Cb(155)は丸底で、低い脚台が付く。体部下半部から底部の一部にかけて接地黒斑がある。

二重口縁壺(156)は大きく水平に広がる口頸部から屈折して斜め上方に口縁部が付く。

34区(図版220 写真図版245)

SD072

157は広口壺で磨滅が著しいが、体部上半部にミガキが残る。

35区(図版220 写真図版253・254)

SD078

158は壺の体部で、算盤形を呈する。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。

SD079

159は甕で、体部上半部から口縁部にかけて、タタキ整形を行う。

SD083

160は二重口縁壺で球形の体部上半部の外面は縦方向のハケ調整の後、横方向のハケ調整によって仕上げる。内面は横方向のケズリを行う。

SD077

壺・甕・鉢が出土した。

壺は底部(161)があり、内外ともハケ調整である。

甕はD(162)と底部(165)がある。162の体部上半部の外面は縦方向のハケ調整の後、横方向のハケ調整によって仕上げる。内面は横方向のケズリを行う。165は底部外面に木葉圧痕が残る。底部から体部下半部には接地黒斑があり、対する内面に熾溜黒斑がある。

鉢は底部(163・164)があり、丸底気味の平底である。163は右上がりのタタキ、164は下部が縦方向のタタキ、上部が横方向のタタキである。163の体部下半部には接地黒斑があり、対する内面には熾溜黒斑がある。

37区(図版220 写真図版254)

SD092

166は甕で、体部上半部から口縁部にかけて、タタキ整形を行う。口縁部にススが付着する。

3. F地区

46区(第2図 写真図版255)

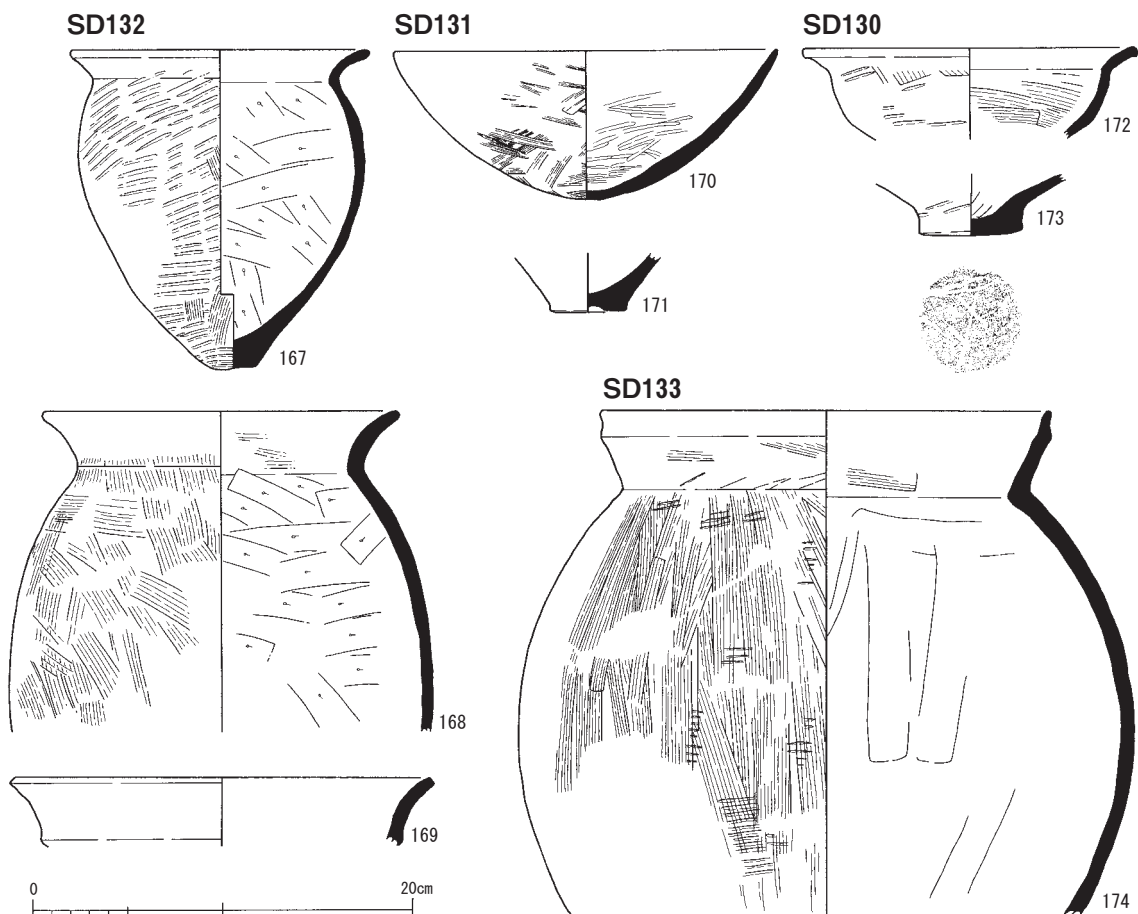
SD132

甕がある。甕Ab(167)は体部外面に被熱による剥離が著しい。剥離部分にはモミ痕跡が残る。甕Jb(168)は縦長の体部に外面はハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。体部中央部にススが付着する。

47区(第2図 写真図版255)

SD132

169は二重口縁壺の口縁部である。



第2図 遺物 土器 167~174

SD131

170は鉢Dbで、内外とも横方向の細かいミガキを行う。底部には接地黒斑が存在する。171は鉢の底部で窪み底である。体部下半部に接地黒斑がある。

SD130

172は鉢Aaで、外面にはかすかにタタキが残り、内面には黒斑が存在する。173は壺の底部で、底部には木葉の圧痕が残る。底部から体部下部にかけて接地黒斑が、対する内面には熾溜黒斑が存在する。

SD133

174は甕Pb1で肩部に覆接触黒斑がある。

49区(図版221～225 写真図版256～263・268～271)

SD138

壺・甕・鉢・有孔鉢・高坏・器台・小型器台・小型丸底壺が出土した。

壺は広口壺・二重口縁壺と短頸壺がある。

広口壺はA(175・176)とB(177～181)と183がある。175は頸部外面を縦方向のミガキ、内面に横方向のミガキを行う。口縁上部には黒斑が存在する。176は体部内面に明瞭な粘土紐接合痕跡が残る。177は口縁端部に沈線が1条めぐり、頸部外面は縦方向のミガキ、口縁部内面は横方向のミガキを行う。178は球形の体部で、底部内面は剥離している。179は口縁端部を丸く仕上げる。180は口縁部内面に黒斑が存在する。181は口縁端部を上方につまみ上げている。口縁部内面には2mm程度の虫?の圧痕が残っている。183は口頸部外面に突帯を貼り付け、二重口縁状にしている。

二重口縁壺(182)は、口頸部の内外ともに丁寧な横方向のミガキを行う。短頸壺(184)は球形の体部に短く外反して立ち上がる口頸部が付く。体部下半部は縦方向に、上半部は横方向に丁寧な磨きを行う。体部下半部には接地黒斑が、対する内面には熾溜黒斑が、体部上半部には覆接触黒斑が存在する。短頸壺Ac(186)は体部から口縁部にかけて黒斑が残るため、横倒し状態で焼成を行ったことがわかる。壺の体部(187)は最大径部に幅広の上下が突出した突帯を貼り付ける。壺の底部(188)は底部には接地黒斑が、対する内面には熾溜黒斑が存在する。

甕はAa(191～193・202・204～207)・Ab(194～198・228)・Ca(203)・E(208)・F(211)・Lb(212～214)・Ja(215～218)・M(219・220)・K(221～223)・底部(209・210)がある。

191は口縁部直下以外の体部と口縁部にススが付着し、特に体部最大径部に層状のススが付着している。内面下部には部分的にコゲが残存する。192の底部付近はススの酸化部であり、体部下半部にはススが、上半部には薄いススが付着する。193は口縁部外面に粘土紐接合痕跡が残る。194は口縁部直下以外の体部と口縁部にススが付着し、内面下部には付着物がある。195は外面に部分的なタタキが残る。196は内面に熾溜黒斑が存在する。197は口縁部直下以外の体部と口縁部にススが付着し、底部付近はススが酸化している。198は外面にススが付着しており、肩部には覆接触黒斑が存在している。199・200は口縁から肩部にススが付着している。201の体部上半部は細かいタタキで仕上げる。外面全体にススが付着し、最大径部は層状のススが付着する。内面下半部はコゲが付着する。202は外面にススが付着しており、特に最大径部は層状のススが付着している。203は外面にススが付着しており、特に最大径部は層状のススが付着し、被熱による剥離がある。内面の下部にはコゲが存在する。204は外面の最大径部にわずかにスが残っている。205は下膨れの体部で、下半部は広葉樹のハケ調整を行う。中央部以下はススが付着している。206は体部外面にススが残り、口縁内面には黒斑が存在する。207は体部下

半部にススが付着している。208は小形であるが、器壁が厚い。209は体部下半部に接地黒斑が存在する。210は底部に植物質の圧痕が残る。底部の半分から体部下半部にかけて接地黒斑が存在する。

211は磨滅が著しい。212は体部の最大径部にススが付着している。213の体部下半部は縦方向のミガキを行い、ススが付着している。部分的に被熱による剥離が存在する。214は体部から口縁部にかけて黒斑があり、最大径部にススが付着している。内面にはコゲが付着する。215・216は口縁部外面にススが付着している。217は体部上面にススが付着している。218は底部外面に黒斑が存在する。219・220は体部上半部から口縁部にかけてススが付着しており、220は最大径部に層状のススが付着している。221～223は口縁部外面にススが付着しており、222は口縁部内面にコゲが付着している。228は体部下半部に接地黒斑が、対する体部上半部には覆接触黒斑がある。

鉢はAb(224・225)・B(226・227・252・253)・Ca(229～233)・Db(234・237)・Dc(238)・Da(242～245)・E(246)がある。

224は体部下半部に黒斑が存在する。体部はタタキを行い、下半部はミガキを行う。225は体部内面にコゲが付着している。226は磨滅が著しいが、外面にはタタキ痕跡がわずかに残る。227は内外ともにハケ調整を行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。体部内面下半部にはコゲが付着する。

252は磨滅が著しく調整は不明である。253の体部はタタキで整形している。229は体部下半部に接地黒斑がある。230・231は体部から底部にかけて接地黒斑がある。232・235は磨滅が著しく調整は不明である。233は体部に接地黒斑がある。234は指オサエで整形し、外面はナデで仕上げている。236の底部は木葉痕跡の上からヘラ描で「×」を記している。237の底部は指オサエで整形しており、底部内面には熾溜黒斑がある。238は全体をハケ調整し、内面のみナデで仕上げる。239は内面に黒斑がある。240は脚台部に黒斑がある。242の底部付近に接地黒斑がある。243は半球形で、タタキ後ナデている。244は丸底の底部はヘラケズリを行う。245は丸底の底部付近に指オサエの痕跡が残る。246は体部から口縁部まで直立する。鉢底部(189・190)の内面は丁寧なナデ、189の外面はハケ調整後ミガキ、190はタタキ後ミガキを行う。

製塩土器(241)は脚台部のみで、指オサエで仕上げる。

有孔鉢にはA(247)とB(248)がある。247はタタキ仕上げで、体部下半部に接地黒斑がある。248は縦方向のハケ仕上げである。

高坏にはA(249)とAb(250)とDa(254)と脚(251・257・258)がある。

249は坏部中心の脚部内面には軸孔がある。ほぼ完形に近いが黒斑は存在しない。250は坏部・脚部ともに外面は細かい横方向のミガキを行う。251は脚部外面をハケ調整する。254は口縁端部に擬凹線を施す。255の脚部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整を行う。256は脚部外面をミガキ、内面を横方向のハケ調整を行う。257の脚柱部外面は細かい横方向のミガキを行う。脚部内面には軸孔があり、脚部内面に布痕跡が残る。脚端部には黒斑がある。258の脚柱部は中実で、脚端部の接地面は未調整である。

器台はA(261～263)とB(260)と脚部(264)がある。

260の受部内面は横方向、外面は縦方向のミガキを行う。261・262は全体に内外とも縦方向のミガキで仕上げる。263は磨滅により調整は不明である。264の外面は縦方向のミガキで仕上げる。器台Aの可能性が高い。

小型器台B(265)は一部に縦方向のミガキの痕跡があるが、磨滅のため不明である。

小形丸底壺(185)の体部は横方向の丁寧な細かいミガキ調整を行う。底部から体部下半部にかけて接

地黒斑が存在する。

壺蓋(259)は円柱状のつまみ部である。

51区(図版225 写真図版264)

SD146

266は小型器台Bで、脚部は貫通している。

53区(図版225 写真図版264)

SD157

267は壺の体部上半部で、ヘラで不規則な蛇行線を描いている。

55区(図版225 写真図版264)

SD172

壺・甕・鉢が出土した。

壺には広口壺A(268)と他(269・270)がある。268は小さな平底で、接地黒斑が全体にあることから、直立して焼成していることがわかる。269は扁球形の体部で、下半部は縦方向、最大径部は横方向のミガキを行う。壺底部270は未調整で、底部から体部下半部にかけて接地黒斑があり、対する内面には熾溜黒斑がある。

甕Eb(271)は外面の一部にススが残るが、不明瞭である。内面には帯状のコゲが付着する。

鉢(272)は底部に低い脚台状の突出部を付け、上げ底にする。体部外面はタタキ後、ハケ調整を行う。

56区(図版226～231 写真図版265～267・272～284)

SD186

壺・甕・鉢・有孔鉢・高坏・壺蓋が出土した。

壺には広口壺・二重口縁壺・短頸壺・直口壺・底部がある。

広口壺はA(273・274)と頸部(275)がある。

273は口頸部が大きく外反する。274は球形の体部に大きく外反する口頸部が付く。頸部には部分的に縦のギザミを4箇所付ける。肩部には4条のクシ描波状文を2列施文する。275は頸部外面を縦方向のミガキ、口縁部内外面を横方向のミガキで仕上げる。外面にススが付着する。

二重口縁壺(277)は扁球形の体部に口頸部が付く。体部下半部はタタキ痕跡が残る。肩部と口縁部の内外面にはクシ描波状文を施文する。

直口壺(278)の口頸部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整を行う。

短頸壺(279)はほぼ完形で、体部下半部には接地黒斑が、対する内面には熾溜黒斑が、体部上半部には覆接触黒斑が存在する。

壺口縁部(276)は水平に広がる口縁部である。壺底部(280)の体部外面はタタキを行う。

甕にはAa(282)・Ab(283・284)・B(285・286)・C(287・288)・Ea(289)・Lb(290～295)・La(296)がある。

282は体部外面及び口縁部上部にススの付着があり、中央部には層状のススが付着している。283は底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。体部最大径部分にはススが付着している。284は底部を中心に被熱による剥離が著しい。体部下半部にはススが付着している。285は細かい横方向のタタキを行う。286は体部上半部を横方向のハケ調整で仕上げ、内面はケズリを行い、薄く仕上げる。口縁内面にはコゲが付着する。他地域の胎土である。287は球形の体部で、内外ともハケ調整を行う。288は体部と

口縁端部にススが付着する。289は内外とも、磨滅が著しく、調整は不明である。290は外面全体にススが付着しており、最大径部と頸部に層状のススが付着している。内面底部付近にはコゲが残っている。291は口縁部外面に黒斑がある。292の体部外面は縦方向のハケ調整、内面は中央部までを斜めに、上部は横方向のケズリを行う。293の底部付近以外はススが残り、最大径よりやや下部に層状のススが残っている。294の内面は火回不良黒斑で暗灰色を呈している。外面頸部にはススが付着している。

295は底部内面に熾溜黒斑がある。外面は底部を除く体部にススが付着する。296は外面にススが付着しており、最大径部に層状のススが付着する。体部下半部はススが酸化しており、対する内面にはコゲが付着する。

鉢はAa(298)・Ab(297)・Da(299)・Db(300・301)・Ca(302)・E(303)・Ga(305・306)・Dc(307～310)・底部(281)がある。

298は外面全体にススが付着している。299の体部外面に黒斑がある。300・302は体部下半部に接地黒斑がある。301は口縁部に黒斑がある。303は底部から体部下半部に接地黒斑があり、対する口縁部には覆接触黒斑がある。304は不明であるが、尖底部分是指オサエで、整形している。305の内面は火回り不良黒斑で、褐灰色である。体部外面最大径以下と頸部にはススが付着している。306の体部は球形で、横方向のミガキで仕上げている。307～309は磨滅のため、調整は不明である。310の体部はタタキ後、縦方向のハケ調整を行う。297は小さな平底の底部である。281は底部で、体部外面はタタキを行い。内面はミガキを行う。

有孔鉢はB(311～313)・A(314)がある。

311は体部に接地黒斑が、対する口縁部には覆接触黒斑がある。312は底部から体部中央にかけて接地黒斑がある。313は体部下半部に接地黒斑が、対する底部内面には熾溜黒斑がある。314は底部から体部にかけて接地黒斑がある。

高坏はAb(315)・Aa(316)・Da(317)・脚部(318・319)がある。

315は磨滅が著しいが、脚部に細かい横方向のミガキを行う。316の脚部内面には軸孔がある。口縁部内面は横方向の細かいミガキを行う。317の体部外面及び口縁部内面に横方向のミガキを行う。318は坏部が欠損し、脚裾部の内外にススが付着しているため、蓋として使われた可能性がある。319は磨滅のため、調整は不明である。

壺蓋は320・321がある。

320は体部の内外ともに縦方向のミガキを行う。321は内外ともにナデを行い、口縁端部に黒斑がある。

SD180

壺・壺蓋・甕・鉢・製塩土器・手焙・高坏・小型器台・小型丸底壺・粘土塊が出土した。

壺には二重口縁壺(322・323)・底部(324・325)がある。

322・323は口縁部をヨコナデする。324は体部下半部に黒斑がある。325は底部に葉脈の圧痕が残る。底部全面から体部下半部にかけて接地黒斑がある。

壺蓋(326)は小形の直口壺の蓋で、半球形で、双孔の紐穴が対に存在する。

甕はAa(327～329)・Ca(332)・Ea(333)・Ca(334)・Ja(336)・Jb(337)・J(342)・I(338～341)・他(330・331・335)がある。

327は体部の最大径部と口縁部にススが付着する。体部内面には粘土紐の接合痕跡が明瞭に残る。328は体部の最大径部と口縁部にススが付着する。329は短い口頸部の甕である。体部最大径部に覆接触黒

斑がある。330～332は球形の体部である。磨滅のため、調整は不明である。333は縦長の体部で、タタキ調整の後ナデを行う。334は体部上半部と口縁部外面にススが付着する。335の体部外面は細かいタタキを施し、内面は横方向のケズリを行い、薄く仕上げる。生駒西麓の胎土である。336・337は体部内面を横方向にケズリ、薄く仕上げる。337は体部上半部から頸部にかけてススが付着している。338・340は磨滅が著しく、調整は不明である。339は体部内面に指オサエの痕跡が残り、口縁部はヨコナデである。341の体部外面はヘラミガキを行う。内面は上半部に指オサエの痕跡が残り、最大径以下は縦方向のケズリを行う。342は底部で、底部内面は指オサエの後、高い部分のみケズリを行う。外面はススが付着するが、底面は酸化してススがとんでいる。

鉢はDc(345・347)・鉢F(365)・手捏(363)・底部(343・344・364)がある。

343は平底で、内面はナデを行う。他地域の胎土である。344は窪み底で未調整である。体部外面は縦方向のタタキを行う。345の脚台部は指オサエによって整形している。347の鉢部内面は磨滅が著しく詳細は不明であるが、ミガキを行う。363は手捏で、口縁内面に稜を作る。364は小さな平底の鉢である。365は磨滅が著しく調整は不明である。

製塩土器(346・348)は指オサエによって、脚台を作っており、346の内面にはコゲがある。

手焙(349)は覆部の一部である。

高坏はAb(350)・B(351)・Cb(352)・脚部(353～357)がある。

350の口縁部外面は横方向のミガキを行う。口縁部の内外に黒斑がある。351・352は磨滅のため調整は不明である。353は坏部・脚部外面ともに横方向の細かいミガキを行う。354は脚部に3方向の円孔を開ける。外面は縦方向のミガキを行う。高坏Dの脚部である。355の透かし孔は存在しない。内外とも縦方向のミガキを行う。鉢や壺の脚台の可能性もある。356・357は椀形高坏の脚台である。

小型器台はA(358・359)がある。

358は受部底面に細い孔が貫通する。359は受部から脚部にかけて貫通する。

小型丸底壺は3点ある。

360は体部に接地黒斑があり、対する内面に熾溜黒斑がある。361は口縁部下部に接地黒斑がある。362は磨滅が著しく調整は不明である。

366は焼成粘土塊で、表面にはタタキ痕跡、裏面には窪みがある。

SK057

甕Aa(367)とJ(368)が出土した。

367は体部から口頸部にかけてタタキで仕上げる。368は底部で、内面に指オサエの痕跡が残り、コゲが付着する。

SD176

壺(371)と甕(369・370)が出土した。

371は壺底部で、底部から体部下半部にかけて接地黒斑があり、対する内面には熾溜黒斑がある。369・370は磨滅が著しく調整は不明である。

SK055

壺・甕・鉢・高坏が出土した。

壺は二重口縁壺(372)・直口壺(373)・底部(374)がある。

372は口縁部をヨコナデで仕上げている。373は球形の体部で、体部下半部に接地黒斑があり、体部下

部にはススが付着している。374は小さな底部から体部下半部にかけて、接地黒斑がある。

甕はB(375)・Ca(378)・他(376・377)がある。

375の体部は細かいタタキで仕上げる。376・377は磨滅しており、調整は不明である。378の体部はハケ調整を行い、内面は横方向のケズリを行う。体部最大径部にススが付着する。

鉢(379)は低い脚台部を指オサエで仕上げる。

高坏(380)は坏部から脚部にかけての破片で、脚部内面は絞りの痕跡が残る。

ピット

P5606からは甕Aa(381)が出土した。球形の体部にススが付着しており、特に最大径部に層状のススが付着している。体部上半部には吹きこぼれの痕跡がある。内面にはコゲは存在しない。

P5610からは甕(382)が出土した。尖底の底部である。

P5609からは甕(383)が出土した。磨滅が著しく、調整は不明である。口縁端部に、1条の沈線がめぐる。

P5605からは甕Lb(384)と底部(388)が出土した。384は口縁部をヨコナデする。388は底部から体部にかけて接地黒斑がある。

P5612からは甕Lb(385)が出土した。口縁部をヨコナデし、端部に黒斑がある。

P5601からは甕I(386)が出土した。体部上半部内面には指オサエの痕跡がある。体部外面最大径部にはススが付着する。

P5611からは鉢(387)が出土した。底部から体部上部にかけて接地黒斑がある。

P5603からは底部(389)が出土した。内面は火回り不良黒斑で灰色である。

P5607からは鉢(390)が出土した。手捏で作られており、底部全面に接地黒斑があり、内面には熾溜黒斑がある。

SX002

壺・甕・鉢・製塩土器・高坏・器台・小型丸底壺・小型器台が出土した。

壺には広口壺(391・392)と二重口縁壺(394)と直口壺(395・396)・口縁部(417)がある。

391・392は球形の体部に外反する口縁が付く。391は体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。393は体部下半部から底部にかけて接地黒斑があり、対する内面には熾溜黒斑がある。394は口縁部外面に円形浮文を貼り付ける。円形浮文は4個残るが、本来は7～8個に復原できる。395は頸体境に突帯を貼り付ける。内外とも磨滅のため調整は不明である。396は頸体境にキザミのある突帯を貼り付ける。417は磨滅や剥離が著しく、調整は不明である。

甕はAb(422)・B(400～402)・Ja(404)・K(405)・他地域(403)がある。

397は球形の体部で、体部下半部に接地黒斑がある。外面最大径部にはススが付着し、吹きこぼれ痕跡がある。内面下部にはコゲが残存する。398は球形の体部で、下半部にはススが付着している。被熱による剥離が著しい。399は球形の体部で、最大径部にはススが付着しており、底部付近はススが酸化している。対する内面にはコゲが付着する。全体に被熱による剥離が著しい。400～402は球形の体部に細かいタタキを施す。400は肩部を除く体部と口縁部にはススが付着する。401は最大径部にススが付着する。403は口縁部のみであるが、他地域の胎土である。404は体部上半部内面に横方向のケズリを行う。405は頸部が短く、口縁部幅が広い。422の体部は球形で、底部から体部下半部にかけて接地黒斑が存在する。

鉢はCa(406・407)・B(408・418)・Dc(423)がある。

406には接地黒斑は存在しないが、内面に熾溜黒斑がある。407の底部には葉脈痕跡が残り、底部から体部にかけての半分が接地黒斑である。408の底部全体に接地黒斑が存在する。409は脚台部の一部である。418は内外とも磨滅が著しく、調整は不明である。423は脚台が付く。体部下半部には接地黒斑がある。

製塩土器(410)は脚台部の一部のみである。

高坏はA(411)・F(412)・Db(413)・脚(414・415)である。

411・413は内外とも磨滅が著しく、調整は不明である。412は脚部を欠く。坏部の口縁部から体部にかけて大きく黒斑が存在する。414は脚部のみで、柱部は中実である。透かしは存在しない可能性が高い。415は脚部で、4方向の円孔透かしがある。

小型丸底壺(416)は口縁部より、体部の比率が高い。磨滅が著しく、調整は不明である。

小型器台はA(420・421)・B(424・425)・不明(419)がある。

419は受部のみで、磨滅が著しい。420は磨滅のため調整は不明である。脚部には4箇所の透かし孔がある。421は受部から脚部にかけて貫通孔がある。3か所の透かし孔を2段設ける。424は受部から脚部にかけて貫通孔があり、脚部には3か所の透かし孔がある。425は受部から脚部にかけて貫通孔があり、柱部外面には黒斑がある。

包含層

遺構に伴わない土器のうち、壺・甕・鉢・製塩土器・高坏を図化した。

壺(427～429)のうち、427は肩部にヘラ先の列点を刺突する。428は直口壺の口頸部である。磨滅のため、調整は不明である。429は手捏で整形している。側面に接地黒斑があるため横位で焼成したことが考えられる。

甕(430～432)のうち、430は口縁部のみであるが、他地域の胎土である。431は横方向の細かいタタキで仕上げる。生駒西麓の胎土である。432の体部上半部内面は指オサエの痕跡があり、横方向のケズリを行う。

鉢(433)は脚台部で内面はハケ調整を行う。

製塩土器(434)は脚台部が残り、底面に接地黒斑があり、内面にも黒斑がある。讃岐地域の胎土である。

高坏(435)は坏部の口縁部で、磨滅のため、調整は不明である。

4. G地区

58区(図版232～239 写真図版285～301)

SD201

壺・甕・鉢・製塩土器・高坏・器台・小型丸底壺・小型器台・壺蓋が出土した。

壺には広口壺(436～438)と二重口縁壺(441～444)と直口壺(446・447)・短頸壺(448・450)・口縁部(445)・底部(439・440・449)がある。

436の体部上半部はハケ調整後、縦方向のミガキを行っている。口縁部外面にはススが付着している。

437の体部は球形で、底部から体部下半部にかけては接地黒斑がある。438の体部内面は粘土紐の積み上げ痕跡が残る。439は球形の体部に、直立する頸部が付く。体部外面は縦方向のミガキを行う。体部内面の下半部には熾溜黒斑がある。440は平底で、体部は球形である。体部はタタキ後、縦方向のハケ

調整を行う。441は扁球形の体部に直立する頸部、大きく外反しさらに上方に屈折する口縁部が付く。体部は縦方向のミガキで仕上げ、肩部に突帯を貼り付け、竹管文を押圧する。肩部にはクシ描波状文を施文する。口縁部の内外面にも竹管によるC字文とクシ描波状文を施文する。体部最大径部に黒斑があり、体部最大径部以下にススが付着する。442は口頸部で、口縁部外面はタタキ後ヨコナデを行う。

443は器壁が厚い。口縁部の内外ともに横あるいは斜め方向のミガキで仕上げる。外面にはススが付着する。444の体部外面は斜め方向のミガキを行い、外面頸部及び内面口縁部は横方向のミガキを行う。体部上半部には覆接触黒斑がある。445は頸部から屈折して口縁部が立ち上がり、擬凹線がめぐる。446の体部外面は縦方向のハケ調整後、ミガキを行い、内面はケズリ後、ミガキを行う。口縁部は内外ともに横方向にミガキを行う。外面の一部にはススが付着している。

447は外面にススが付着しており、被熱による剥離や磨滅のため、調整は不明である。448は扁球状の体部に外反する頸部に屈折して立ちあがる口縁部が付く。449は器壁が厚い。扁球状の体部外面はタタキで仕上げる。450は歪みが大きい。体部中央に布痕跡がある。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。

甕はAa(451～454・460・465・466・469)・Ab(455～459・461～463・467・468)・Ea(474)・Cb(475)・Lb(477・478)・Ja(481)・I(482・483)・脚台付(479)がある。

451の体部はタタキ整形しており、底部の内面は絞って作っている。外面はススが付着しており、被熱による剥離が認められる。肩部から最大径部には吹きこぼれ痕が存在する。底部はススが酸化しており、対応する内面にはコゲが付着している。452の体部はタタキ整形しており、底部の内面は指オサエを行っている。体部下半部には接地黒斑が存在する。体部外面及び口縁部にはススが付着しており、最大径部には層状のススが付着している。底部はススが酸化しており、対応する内面には帯状のコゲが付着している。453の体部はタタキ整形しており、底部の内面は指オサエを行っている。体部外面及び口縁部にはススが付着しており、最大径部には層状のススが付着している。底部は被熱による剥離が認められ、剥離部にもススが付着している。底部付近には炭化穀粒痕が付着している。454の体部はタタキ整形しており、体部下半部には接地黒斑が存在する。体部外面下半部にはススが付着している。455の体部はタタキ整形しており、内面下部には熾溜黒斑が存在する。体部外面及び口縁部にはススが付着している。底部はススが酸化しており、対応する内面にはコゲが付着している。456の体部はタタキ整形しており、内面は火回り不良黒斑で灰色である。体部下半部は被熱による剥離が認められる。457・458の体部はタタキ整形しており、体部外面にはススが付着している。458は被熱による剥離が認められる。459の体部はタタキ整形しており、体部外面及び口縁部にはススが付着している。底部はススが酸化しており、被熱による剥離が認められる。460の体部はタタキ整形しており、体部下半部には接地黒斑が存在し、対応する内面には熾溜黒斑がある。体部外面及び口縁部にはススが付着している。底部はススが酸化しており、対応する内面にはコゲが付着している。461の体部はタタキ整形しており、体部下半部には接地黒斑が存在し、対応する内面には熾溜黒斑がある。体部最大径部にはススが付着しており、吹きこぼれ痕跡が明瞭に残る。462の体部はタタキ整形しており、体部外面及び口縁部にはススが付着しており、一部被熱による剥離が認められる。463の体部外面にはススが付着している。底部はススが酸化しており、対応する内面にはコゲが付着している。464の口縁部には層上のススが付着している。465の体部外面には層状ススが付着している。内面にはコゲが付着している。466の体部外面肩部及び口縁部には層状のススが付着している。最大径部以下はススが酸化しており、被熱による剥離が認められる。

対応する内面にはコゲが存在する。467の体部外面肩部には覆接触黒斑が存在している。最大径部及び口縁部には層状のススが付着している。468は球形の体部で、タタキ後縦方向のハケ調整を行う。469は体部から口縁部にかけてタタキで整形を行い、ハケ調整で仕上げている。470の体部外面はタタキを行い、体部内面及び口縁部を横方向のミガキを行う。471は平底で、葉脈圧痕の上から、ヘラ描を行う。472・473の外面はススが付着し、吹きこぼれ痕跡が残る。474の体部はハケ調整しており、外面にはススが付着している。475の体部はハケ調整している。体部外面及び口縁部にはススが付着しており、最大径部には層状のススが付着している。底部は被熱による剥離が認められ、剥離部にもススが付着している。剥離部内面には円形のコゲが帯状に存在する。476は球形の体部で、内面は横方向のケズリを行う。477の体部はハケ調整している。体部外面及び口縁部にはススが付着しており、内面下半部にはコゲが存在する。478の体部はハケ調整しており、肩部にはタタキ痕跡が残る。底部内面には布か昆虫の圧痕が残る。体部外面及び口縁部にはススが付着しており、最大径部には層状のススが付着している。底部にはコゲが存在する。479は脚台が付く甕である。脚台部底面及び、体部下半部には接地黒斑があり、対応する内面には熾溜黒斑がある。480は頸部から口縁部にかけて、ススが付着している。481は外面の最大径部以下にススが付着しており、内面下部には帯状のコゲが存在する。482の外面にはススが付着しており、口縁部内面にはコゲが存在する。483の外面にはススが付着しており、最大径部には層状のススが付着している。

鉢はCa(484・485・491)・Da(486・487)・Db(488～489)・Dc(423)・H(492)・E(493)・Ga(494)・Cb(495)・Dc(496～498)・Aa(503～506)がある。

484の底部は窪み底で、体部はタタキを行っている。485は粘土紐接合痕跡が残り、口縁部も雑な作りである。486は外面にススが付着しており、底部はススが酸化し、被熱による剥離が著しい。487は外面にススが付着している。底部はススが酸化し、対応する内面にコゲが付着する。488は体部外面に黒斑がある。489は内外ともに短い単位のハケ調整を行っている。490の外面はケズリを行い、内面はミガキを行う。口縁部には黒斑がある。491の底部から体部下半部にかけて接地黒斑があり、対応する内面に熾溜黒斑があり、口縁部には覆接触黒斑がある。492は平底で、内外面とも横方向のミガキを行う。内面に豆の圧痕がある。胎土に片岩を含む。493は底部内面に熾溜黒斑がある。外面体部下半部には層状のススが付着している。494は体部外面をミガキ、内面をケズリで仕上げる。体部最大径部および口縁部にはススが付着している。495は上げ底で、内外ともにミガキを行う。496は脚台部が付く。鉢部内外ともに縦方向のミガキを行う。497は脚台部が付く。内外ともにミガキを行い、脚端部は未調整である。498は脚台部が付く。外面にわずかにススが付着している。

503は体部下半部に接地黒斑がある。外面にはススが付着している。504は体部下半部に熾溜黒斑があり、対応する外面肩部から口縁部にかけて覆接触黒斑があるが、接地黒斑は存在しない。

505は手捏である。506の底部は上げ底である。底部付近は被熱による剥離がある。外面にはススが付着して、口縁部から体部上半部にかけて吹きこぼれ痕がある。

有孔鉢はE(499)・C(500)・D(501)・B(502)がある。

499は平底に小孔を7箇所開ける。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。500は焼成前の穿孔時に穿孔を失敗した痕跡が残る。体部下半部には接地黒斑がある。501の体部はタタキ後ハケ調整を行う。底部から体部下半部にかけて黒斑があり、直立して焼成したことが復元できる。502は尖底に孔を穿つ。

小型丸底鉢(507)は内外ともに丁寧にミガキを行っている。外面はススが付着しており、被熱剥離後、ススが付着している部分もある。

製塩土器(508)は脚台部のみ残る。

高坏はAa(509～511・515)・Ab(512～514)・Fb(518・519)・Db(521)・脚(516・517・520)がある。

509は坏部の口縁の内外とも縦方向のミガキを行う。外面にモミ痕が存在している。510は坏部の底部中央と脚部との間に軸孔が貫通している。脚部は短い。坏部内面は横方向の細かいミガキを行う。511の脚部は太く、外面は縦方向のミガキを行う。坏部外面は縦方向、内面は斜め方向のミガキを行う。512～514はいずれも坏部のみである。内外ともに細かい横方向のミガキで仕上げる。515は坏部の稜は鋭さが無い。外面は縦方向、内面は横方向のミガキを行う。516は脚部で、外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のケズリを行う。517は脚部の柱状部が短く、大きく裾が広がる。外面は縦方向のミガキを行う。518の坏部は横方向の細かいミガキを行い、脚部は縦方向のミガキを行う。519の坏部は横方向のミガキを行う。520の脚柱部は短い。内面の中心部には軸孔が存在する。柱状部から裾部の上部にかけて横方向の細かいミガキを行う。521は口縁部の内外の横方向のミガキを行う。器台はB(522・523)と脚部(524)がある。522は受部内面を横方向、外面を縦方向のミガキを行う。523は受部と口縁部の接合痕跡が明瞭に残る。受部内面は横方向のミガキを行う。524は脚部を縦方向にミガキを行う。

小型器台B(525)は受部から脚部にかけて貫通孔がある。脚部には3か所の透かし孔がある。

壺蓋(526)はハケ調整の後、ナデで仕上げている。

SD199

壺・甕・鉢・器台・小型丸底壺・小型器台・壺蓋・鳥形・匙がある。

壺には二重口縁壺(527)・短頸壺(528・529・531)・底部(530)がある。

527は算盤玉形の体部に小さな底部を作る。タタキ後ミガキで仕上げる。体部下半部には接地黒斑がある。528は球形の体部で、外面はハケ調整、内面はケズリを行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑があり、対応する肩部には緋色が残る。内面は火回り不良により、灰色を呈する。体部下半部にモミ痕跡がある。529の球形の体部上半部には、タタキの痕跡が僅かに残る。530は脚台部と口縁部を欠く。内面には粘土紐積み上げの痕跡が残る。531は体部と口頸部の境界は明瞭ではない。磨滅のため調整は不明である。

甕はF(534)・M(535)・Lb(536～539・542・543)・I(544)・底部(540・541)・ほか(532・533)がある。

532は磨滅のため調整は不明である。体部外面最大径部にはススが付着し、内面下半部にはコゲが存在する。533は体部内面上部を横方向にケズリを行う。534の体部外面上部はタタキが残るが、最大径以下はハケ調整を行い、ススが付着する。535は球形の体部で、頸部から体部はススが付着しており、底部付近はススが酸化している。536は縦長の体部で、体部上半部に覆接触黒斑がある。体部下半部にはススが付着している。537は縦長の体部で、ハケ調整を行う。内面は下部を斜め方向、上部を横方向のケズリを行う。538は体部内面の上半部を横方向のケズリを行う。539は縦長の体部で、内面下部は縦方向、上部は横方向のケズリを行う。540は体部内面下半部を縦方向のケズリを行う。541は外面を縦方向のハケ調整を行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。最大径部にはススが付着している。542の体部は外面を縦方向のハケ調整、内面を横方向のケズリを行う。543は体部内面を横方向のケズリを行う。口縁端部にはススが付着する。544の体部下半部は縦方向のミガキ調整を行い、内面は縦方向のケズリを行う。肩部内面は指オサエの痕跡がある。

鉢はAa(545)・Ga(546・550・554・555)・Gb(547)・Dc(551～553)・B(556)・底部(548・549)がある。

545・546は磨滅や剥離のため調整は不明である。547の体部は下半部を縦方向、最大径部を斜め方向、上半部を横方向のミガキを行う。底面は未調整である。下半部から最大径部にかけてはススが付着している。548の底部側面は指オサエで、整形しており、底部は未調整である。549の底部にはヘラ記号があり、底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。550は磨滅のため内外とも調整は不明である。内面は僅かに横方向のケズリ痕跡が残る。551は脚台部で、内面はハケ調整を行う。552は短い脚台部である。磨滅のため調整は不明である。553は短い脚台部で、指オサエで作っている。554・555は鉢Gaの脚台部で、554の脚台部内面は横方向のミガキを行う。556は底部から体部にかけて接地黒斑がある。

器台はC(557・558)・B(559)・脚部(560)がある。

557は脚部を欠く。磨滅のため調整は不明である。558の外面は縦方向のミガキを行い、脚部内面は横方向のハケ調整を行う。脚裾部に黒斑がある。559の外面は縦方向のミガキを行い、受け部内面は横方向のミガキを行う。560は透かし孔が1箇所残存するが、当初の数は不明である。磨滅のため調整は不明である。

小型器台は受部(561)と脚部(562)がある。

561・562は磨滅のため調整は不明である。

壺蓋はB(563～565)のみである。

563の外面は縦方向のミガキを行い、つまみ部内面は横方向のミガキを行う。564の内面は横方向のハケ調整を行う。565はつまみ部中央部に窪みがある。磨滅のため調整は不明である。

鳥形(566)は一部しか残っていない。不明な点が多いが、形態や調整から鳥形の可能性が高い。

匙(567)は瓢の体部を削り抜た匙形を模した土製品である。

SD200

鉢と壺蓋が出土している。

鉢(568)は脚台部で、透かし孔は存在しない。

壺蓋(569)は、つまみ部は平坦である。内外ともにハケ調整を行う。

SD197

甕・器台・小型丸底壺が出土した。

甕(570)は甕Iの底部で、ミガキを行う。

器台(571)は器台Aで、受部外面は横方向のミガキを行う。

小型丸底壺(572)はで、口縁部が短い。

SH002

甕・鉢・高坏が出土した。

甕(573)は甕Aで、体部はタタキ後、縦方向のハケ調整を行う。

高坏(57)は脚部で、柱上部は短い。磨滅のため調整は不明である。

鉢(575)は鉢Aで、口縁部が短く外反する。磨滅のため調整は不明である。

SK059

甕・鉢が出土した。

甕(576)は平底で、球形の体部をもつ。体部はハケ調整で、底部から体部下半部にかけて接地黒斑が

ある。外面はススが付着している。

鉢はCa(578)・Dc(579・580・582)・D(581)・B(583・584)・底部(577)がある。

577の底部は正円であるが、体部は歪んでいる。体部外面には接地黒斑がある。578・579の外面はタタキ整形、内面はハケ調整である。579の口縁部には黒斑がある。580は内面に縦方向のミガキの痕跡が残る。579・580の脚台部の接合部には指オサエ痕跡がある。581は薄い作りである。磨滅のため調整は不明である。582は脚台が付く。磨滅のため調整は不明である。583は口縁部が外反する。584は側面に接地黒斑がある。

57区(図版239)

SD190

585は有孔鉢Bである。外面はタタキを行う。

5. H地区

60区(図版240 写真図版301・302)

(586~600)

壺・甕・鉢・高坏・小型器台がある。

壺には広口壺(586)・直口壺(587)・底部(588~590)がある。

586の口縁部は大きく外反し、頸部内面は横方向のハケ調整を行う。587の口頸部はヨコナデを行い、口縁端部にはススが付着する。588は球形の体部で、外面はタタキの後、下半部は縦方向のミガキを、上半部はハケ調整を行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。589は球形の体部下半部で、外面はタタキの後、ハケ調整を行う。底部付近には接地黒斑がある。体部下半部にはススが付着している。590は小形の壺の底部で、体部は縦方向のハケ調整を行う。

甕はH(591)・D(592)・Ca(593)・F(594)・底部(595)がある。

591の体部外面はタタキ後ハケ調整を行い、内面は縦方向のケズリを行う。外面はススが付着し、内面にはコゲが付着する。592は球形の体部で、外面は縦方向と横方向のハケ調整を行う。体部と口縁部にはススが付着する。593の体部外面は縦方向のハケ調整を行い、内面は横方向のケズリを行う。594は球形の体部に小さな底部を作る。外面はタタキ後、縦方向のハケ調整を行う。底部には接地黒斑があり、直立気味で、焼成を行っていたことがわかる。外面のスス付着や内面のコゲは認められない。595は底部の一部である。底部全体に接地黒斑があり、ススが付着している。

鉢はAb(596)・Da(597)・Dc(598)がある。

596の体部上半部を斜め方向のミガキで仕上げている。597は半球形で、小さな底部を作る。底部には葉脈の圧痕が残る。体部下半部はタタキを行い、上半部は整形ヒビが残る。底部から体部下半部に接地黒斑がある。598は大きな脚台が付く。体部下半部はタタキを行う。

599は高坏Caで、坏部は横方向に細かいミガキを施す。

600は小型器台Bで、脚柱部は貫通孔がある。外面は縦方向にミガキを行い、受部内面は横方向にミガキを行う。

61区(図版240 写真図版302)

包含層

遺構に伴わない土器のうち、小型丸底鉢を図化した。

601は小型丸底鉢で体部内面はケズリを行い、薄く仕上げている。

62区(図版241～246 写真図版303～313・317)

SD211

壺・甕・鉢・有孔鉢・製塩土器・高坏・小型器台・籠目土器・蓋がある。

壺には広口壺(602～606)・直口壺(607～609)がある。

602・603は大きく口頸部が外反する。602は体部上半部から頸部にかけては縦方向のハケ調整を行う。603・605の頸部外面は縦方向のハケ調整を行う。604の口頸部内面は横方向のミガキを行う。606は磨滅のため調整は不明である。607の頸部外面は縦方向のミガキを行う。608は口頸部が直線的に開く。609は完形で、球形の体部に直線的に開く口頸部が付く。口頸部は縦のミガキを行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑が存在する。

甕はAa(610)・Jb(612)・K(613)・頸部(611)・底部(614～616)がある。

610は縦長の体部である。左上がりのタタキの後に水平のタタキを全面に施す。底部には接地黒斑があることから直立気味で焼成したことがわかる。611の体部外面は細かいタタキを行い、内面は横方向のケズリを行う。生駒西麓の胎土である。612は外面の一部にススが付着している。613は磨滅のため調整は不明である。614・615の体部外面はタタキ後、縦方向のハケ調整を行い、内面はケズリを行い、薄く仕上げる。615は外面にススが付着しており、内面にコゲが存在する。616は底部で、内面中央部が窪む。生駒西麓の胎土である。

鉢はAb(596)・Da(597)・Dc(598)・口縁部(632)がある。

617は小形の半球形で、口縁部に黒斑がある。618の内面はナデを行い、外面は整形ヒビが残る。側面には接地黒斑がある。619は磨滅のため調整は不明である。体部下半部に接地黒斑がある。620の内面は指オサエを行い、ナデで仕上げる。体部下半部に接地黒斑がある。621の外面はタタキを行うが、一部整形ヒビが残る。底部には接地黒斑がある。622は磨滅のため調整は不明である。底部には接地黒斑がある。623の外面は指オサエを行う。口縁部から体部にかけて接地黒斑がある。624は体部の内外面とも横方向のミガキを行う。625は脚台を貼り付ける。脚台には指オサエの痕跡が残る。632は鉢の口縁部で、口縁部は斜め方向、体部は横方向の網代を押圧している。内面は横方向のハケ調整の後、縦方向のミガキで仕上げている。

626は有孔鉢Dで体部内面はハケ調整を行い、下半部はケズリを行う。外面は整形ヒビが残る。

627は製塩土器の脚台部で底面には接地黒斑がある。

高坏はA(628)・脚(629・630)がある。

628は外面の一部にハケ調整が残るが、磨滅のため調整は不明である。629は脚柱部に横方向の細かいミガキを施す。630は裾が広がらない脚台である。631は小型器台Aである。磨滅のため調整は不明である。

633は半環状の把手が取れた蓋と考えるが、全体に指オサエで整形しており、歪みが大きい。

SD220

甕・鉢・高坏が出土した。

甕にはAaとKがある。

634は甕Aaで、体部外面は横方向のタタキを行う。体部下半部はススが付着する。

635は甕Kで、体部内面は横方向のケズリを行う。

636は鉢Fで、体部外面には整形ヒビが残る。体部内面には熾溜黒斑がある。637は鉢Fで、磨滅のため調整は不明である。

638は高坏Abで、坏部外面は横方向のミガキを行う。脚部は短い。脚裾部内面には黒斑がある。

SD224

639は鉢の底部で葉脈の圧痕がある。

SK069

640は甕Jaで、体う内面は横方向にケズリを行う。

SK071

甕と鉢が出土した。

甕にはAb・Cbがある。

641は甕Abで、外面はタタキを行い、内面は横方向のハケ調整を行う。側面の半分に接地黒斑がある。

642は甕Cbで、体部は球形である。磨滅のため調整は不明であり、体部の一部にハケが残る。643は甕で、球形の体部の肩部に覆接触黒斑がある。

644は鉢Caの底部で、体部内面にはハケ調整が残る。

SK074

壺・甕・鉢が出土した。

壺には広口壺Bと広口壺Aがある。

645は広口壺Bで、球形の体部に平底を作る。体部外面はタタキを行うが、内外ともに粘土紐の接合時のヒビ割れが顕著である。646は広口壺Aで、体部外面はタタキを行う。体部上半部内面は粘土紐の接合痕跡が残る。

甕にはAb・Cb・底部がある。

647は甕Abで、球形の体部外面はタタキ後、ハケ調整を行い、内面は横方向のハケ調整を行う。体部上半部には覆接触黒斑がある。体部下半部は被熱により一部剥離している。648は甕Aで、体部外面はタタキ後、ハケ調整を行い、内面は横方向のハケ調整を行う。内面は粘土紐の接合痕跡が残る。649は甕Abで、球形の体部外面はタタキ後、ハケ調整を行う。外面体部最大径部にススが付着し、体部下半部から底部にかけてはススが酸化している。対する内面上部には帯状のコゲが付着している。650は甕Cbで、球形の体部外面はハケ調整を行い、内面はケズリを行い薄く仕上げている。体部最大径にはススが付着し、下半部から底部はススが酸化している。生駒西麓の胎土である。651は甕底部で、底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。体部下半部にはススが付着している。

鉢にはFと底部がある。

652は鉢底部で、底部側面は指オサエを行う。内面はハケ調整である。653は鉢Fで、内面はハケ調整、外面は粘土紐の接合痕跡や整形ヒビが残る。側縁に接地黒斑がある。

SK086

壺・甕・鉢・製塩土器・器台が出土した。

壺には二重口縁壺(654)・底部(655)がある。

654は頸部から口縁部が直立する。655は平底で、底部に葉脈の圧痕がある。

甕はAb(656・657・659～662)・Aa(658)がある。

656の体部外面はタタキを行い、内面は斜め方向のハケ調整を行う。体部下半部は被熱による剥離が

著しい。最大径部内面にはコゲが付着する。657の体部外面はタタキを行った後、下部は縦方向のハケ調整を行う。内面は横方向のハケ調整を行う。658の体部外面はタタキを行った後、縦方向のハケ調整を行う。内面は磨滅のため調整は不明である。659の体部外面はタタキを行う。内面は磨滅のため調整は不明である。660の体部外面はタタキを行う。小さな底部の中央部は窪みを作る。底部から体部下半部に接地黒斑がある。661の体部外面はタタキを行った後、一部のみ縦方向のハケ調整を行う。内面はハケ調整後、指オサエを行い、下半部は縦方向のケズリを行う。662の体部外面はタタキを行った後、縦方向のハケ調整を行う。底部はハケ調整を行う。内面はハケ調整とケズリを行う。底部から体部最大径部にススが付着している。他地域の胎土である。

鉢はAa(663)・Db(664)・Da(665)・F(666)がある。

663の体部外面はタタキを行う。底部は平底で、葉脈痕跡をナデ消している。664の体部内面はハケ調整を行う。底部から体部下半部に接地黒斑がある。665の体部外面は一部にタタキ痕跡が残る。内面はハケ調整後、縦方向のミガキを行う。666は内外ともに指オサエで仕上げている。側面には接地黒斑がある。

667～669は製塩土器の脚台部である。

670は器台の脚部である。3箇所の透かし孔があり、外面は縦方向にミガキを行う。

SK075

671は高坏Abの坏部である。外面は横方向に細かいミガキを行う。

SK076

壺が出土した。壺には広口壺Aと無形壺がある。

672は広口壺Aで、外面は縦方向のハケ調整を行う。肩部には覆接触黒斑がある。673は無形壺で、口縁部に紐孔を穿孔する。最大径部に黒斑がある。

SK085

甕が出土した。

甕にはB(675・676・679)・D(677・678)・口縁部(674)がある。

674は磨滅のため調整は不明であるが、薄く仕上げている。口縁部には黒斑がある。675の体部外面は細かいタタキを行い、内面の調整は不明であるが薄く仕上げている。口縁部から体部上半部にかけて、覆接触黒斑があり、下半部はススが付着している。676の体部外面は細かいタタキを行い、内面はケズリを行い薄く仕上げている。体部下半部に接地黒斑があり、最大径部以下にはススが付着している。677の体部外面は縦方向と横方向のハケ調整を行い、内面はケズリを行い薄く仕上げている。体部上半部から口縁部にかけて覆接触黒斑がある。678の体部外面は縦方向と横方向のハケ調整を行い、内面はケズリを行っている。体部最大径部と口縁部にススが付着する。679体部外面は細かいタタキ後、縦方向のハケ調整を行い、内面はケズリを行い薄く仕上げている。外面はススが付着し、下半部はススが酸化している。対応する内面にはコゲが付着する。

SK083

鉢と小型丸底鉢が出土した。

鉢はCa(680)・Cb(681・682)がある。

680は平底で、底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。681・682は磨滅のため調整は不明である。

683は小型丸底鉢で、僅かに底部を作る。体部下半部に接地黒斑がある。

SK084

壺が出土した。

684は直口壺で、口縁端部に黒斑がある。685は球形の体部で、外面は磨滅のため調整は不明である。内面は横方向のケズリを行う。

SK087

壺・甕・鉢・高坏が出土した。

壺には直口壺がある。

686は直口壺で、球形の体部をもつ。外面は縦方向のハケ、内面は横方向のケズリを行う。外方に直線的に開く口頸部はヨコナデを行う。687は直口壺で、扁球形の体部下半部に穿孔がある。完形であるが黒斑は存在しない。

甕にはCb・Bがある。

688は甕Cbである。全体的に磨滅が著しく、一部ハケが残るのみである。689は甕Bで体部外面は細かいタタキを行い、内面はケズリを行い薄く仕上げている。体部上半部に覆接触黒斑があり、最大径部以下にはススが付着している。

鉢にはF・Caがある。

690・691は鉢Fで、磨滅が著しく調整は不明である。690の側面には接地黒斑が存在する。

692は鉢Caで、内面はハケ調整を行う。底部から体部下半部に接地黒斑がある。

693は高坏Abで、坏部内外とも細かい横方向のミガキを行う。口縁部には黒斑がある。

SK088

694は二重口縁壺である。口縁部内面には黒斑がある。

SK089

695は高坏Cbである。内外ともに横方向の細かいミガキを行う。

SB082P04

壺(696)は、口縁部で大きく外反する。

ピット

P6206からは甕(697)が出土した。口縁部で、端部は上方に肥厚している。

P6205からは壺(698・699)が出土した。698は口縁部で大きく外反する。699は扁球形の体部で、外面は横方向のミガキを行う。体部下半部から底部に接地黒斑がある。

P6204からは高坏Fb(700)が出土した。坏部の内外ともに横方向の細かいミガキを行う。

P6203からは鉢F(701)が出土した。内面はハケ調整を行い、外面は弱いタタキを行っているため整形ヒビが残る。体部下半部から底部に接地黒斑がある。

包含層

遺構に伴わない土器のうち、壺・甕・鉢・製塩土器・高坏・小型器台を図化した。

壺には広口壺A・二重口縁壺・体部がある。

702は広口壺Aで、外面は縦方向のミガキを行う。体部最大径部に覆接触黒斑がある。703は広口壺Aで、頸部外面は縦方向、内面は横方向のミガキを行う。704は二重口縁壺の口縁部で、外面にクシ描波状文を施文する。705は壺の体部で、最大径部に突帯を貼り付ける。709は二重口縁壺で、頸部は縦方向のハケ調整を行う。710は二重口縁壺で、口縁部内面は横方向のミガキを行う。結晶片岩を含んだ阿波

地域の胎土である。711は装飾のある二重口縁壺で、口縁部は内外ともにハケ調整を行う。口縁部最下端には二重の竹管文を押圧した円形浮文を32個程度貼り付ける。

甕にはAbと口縁部がある。

706は甕の口縁部である。生駒西麓の胎土である。712は甕Abで、外面はタタキを行い、内面はハケ調整を行う。底部内面は絞って作っている。713は甕で、外面はハケ調整を行い、内面は縦方向のケズリを行う。他地域の胎土である。

鉢にはCa・Db・F・Dc・脚台部がある。

707は鉢の脚台部である。底面にミガキを行う。714は鉢Caで、磨滅が著しく調整は不明である。715は鉢Dbで、外面下半部はタタキを行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。716は鉢Fで、磨滅が著しく調整は不明である。717は鉢Dcで、低い脚台部を付ける。内面は縦方向のケズリ後、ナデを行っている。718は鉢で、側面に接地黒斑があることから、横倒しで焼成したことがわかる。

製塩土器には脚台部と口縁部がある。

708は製塩土器の脚台部である。719は製塩土器の口縁部で、外面はタタキを行っている。720～723は製塩土器の脚台部で、720・721は体部にタタキを行っている。722の底部には接地黒斑がある。720は讃岐地域の胎土、722は吉備地域の胎土である。

高坏はAb・F・脚部がある。

724は高坏Abである。口縁部は内外とも横方向の細かいミガキを行っている。725は高坏Fで、脚柱部が短く、裾部は屈折して広がる。脚内面の中心には軸孔が残る。726は高坏脚部で、脚裾部は直線的に開く。

727・728は小型器台で、磨滅が著しく調整は不明である。727の口縁部には接地黒斑がある。

64区(図版247・248 写真図版314～317)

SD227

壺・甕・鉢・有孔鉢・高坏・器台・小型丸底壺・小型器台が出土した。

壺には二重口縁壺・口縁部・底部がある。

729は二重口縁壺で、磨滅が著しく調整は不明である。口縁部内面に黒斑が存在する。730は壺の口縁部で、口縁部を内傾させ、上下に拡張する。731は壺の口縁部で、口縁部を内傾させ、上下に拡張する。端面にヘラで山形文を施文する。732は壺の底部で、外面はタタキを行う。底部から体部下半部にかけて接地黒斑がある。

甕は口縁部と底部がある。

733は甕で、磨滅が著しく調整は不明である。735は甕の底部で、体部外面はタタキを行う。底部は複数の葉脈の圧痕が残る。

鉢(734)は底部で、体部外面は縦及び斜め方向のタタキを行う。

高坏にはAb・Bと脚部がある。

738は高坏Abで、坏部外面は横方向のミガキを行う。739は高坏Bで、脚柱部は短い。口縁部には接地黒斑がある。磨滅が著しく調整は不明である。740は高坏の脚部で上部に不均等な透かし孔を8箇所開ける。

736は小型丸底壺で、側面に接地黒斑がある。737は小型丸底壺で、外面は磨滅が著しく調整は不明である。

741は小型器台の受部である。内面はナデを、外面はハケ調整を行う。742は小型器台Aである。脚柱部は中実である。

SD229

高坏(743)は高坏Dbの口縁部である。小型器台の受部である。

SD232

高坏(744)は脚部である。外面上部は縦方向、下部は横方向のミガキを行う。

SD235

甕・鉢がある。

745は甕Lbである。磨滅が著しく調整は不明である。

746は鉢Fである。内面には熾溜黒斑がある。747は小形の鉢で、手捏で作っている。内面に熾溜黒斑がある。

SD233

甕・鉢がある。

748は甕の底部である。底部には複数の葉脈痕跡が残る。体部下半部には接地黒斑がある。

749は鉢Dbで、外面はタタキ後、ハケ調整を行う。体部から口縁部内面にかけて黒斑が存在する。

SD239

鉢(750)は底部で、内面に熾溜黒斑がある。

SK096

鉢と製塩土器がある。

751は鉢である。体部下半部から底部にかけて接地黒斑があり、対応する内面には熾溜黒斑がある。

752は製塩土器の脚台部で、内面には熾溜黒斑がある。

SK095

甕と鉢が出土した。

753は甕の底部で、外面はタタキ後、ハケ調整を行う。外面はススが付着している。

754は鉢Caで、底部は上げ底である。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。755は鉢Caで、外面はタタキを行う。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。

SK097

甕(756)は体部下半部であり、外面はハケ調整を行う。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。外面はススが付着している。

SK102

壺蓋(757)はつまみ部である。

SK104

製塩土器(758)は、磨滅が著しく調整は不明である。

SK094

高坏・甕・鉢・壺蓋が出土した。

759は高坏Aaの口縁部である。外面はハケ調整を行い、内面は横方向のミガキを行う。

甕はAb・Lb・底部がある。

760は甕Abである。体部下半部には接地黒斑がある。761は甕Abである。球形の体部外面はタタキを

行う。底部には接地黒斑がある。762は甕Lbである。体部外面はハケ調整を行う。763は甕の底部である。底面には葉脈の圧痕が存在する。764は甕の底部である。底面には葉脈の圧痕が存在する。体部下半部から底部にかけては接地黒斑がある。

鉢はDa・Cb・Dcがある。

765は鉢Daである。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。766は鉢Daである。球形の体部外面はタタキを行う。767は鉢Cbである。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。768は鉢Dcの脚台部である。ナデ調整を行っている。769は鉢Dcの脚台部である。内外ともハケ調整を行っている。770は鉢Dcの脚台部である。内面はハケ調整を行っている。

771は壺蓋で、つまみ部内面は絞り痕がある。

SD234

甕・鉢・高坏が出土した。

773は甕Lbである。体部外面はハケ調整を行う。体部上半部と口縁部にはススが付着する。

鉢はGa・Dcがある。

772は鉢Gaである。磨滅が著しく調整は不明である。774は鉢Dcの脚台部である。脚内面はハケ調整を行い、他はナデ調整を行っている。

高坏は坏部と脚部がある。

775は高坏の坏部で、小形である。内面は縦方向のミガキを行う。776は高坏の脚部で、外面は縦方向のミガキを行う。

SK091

甕・鉢・小型器台が出土した。

777は甕Abで、球形の体部外面はタタキを行う。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。

鉢はDa・Dbがある。

778は鉢Daである。体部外面はタタキを行う。779は鉢Dbである。体部外面はタタキを行い、内面はミガキを行う。側面には接地黒斑がある。

780は小型器台Bである。受部から脚柱部は貫通している。

SH003

短頸壺と鉢が出土した。

短頸壺(781)は、口頸部は直立する。

鉢(782)は鉢Daの底部である。底部に黒斑がある。

P6401

鉢(783)は口縁部である。

SB085P01

鉢Da(784)がある。底部付近にはタタキ痕跡が残り、体部には整形ヒビが残る。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。

包含層

遺構に伴わない土器のうち、壺・鉢・高坏を凶化した。

785は大形の二重口縁壺の口縁部である。口縁部は内傾する。786は大形壺の頸体部である。頸体境には突帯を貼り付け、斜めのキザミを押圧する。他地域の胎土である。

787は鉢Caで、底部が僅かに窪む。底部の周囲は使用による磨滅が認められる。外面は縦方向のハケ調整を行う。788は鉢Caで、底部は葉脈の圧痕がある。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。

789は高坏Caである。坏部の口縁部外面は縦方向のミガキを行う。脚柱部は中実で、縦方向のミガキを行う。脚内面中央には軸孔がある。790は高坏の脚部で、タタキを行っている。

65区(図版249 写真図版318)

SD244

791は大形の壺の口頸部である。頸体境に突帯を貼り付ける。口縁部は内傾し幅が広い。

SD243

甕が出土した。792は甕の口縁部である。磨滅が著しく調整は不明である。793は甕Jbである。磨滅が著しく調整は不明である。

794は甕Jaである。

SD248

高坏(795)は口縁部である。

SK108

焼成粘土塊(796)は、折り曲げた状態である。

SK111

手焙(797)は、覆部の下部で、鉢部から剥離した状態である。

SK106

壺と小型器台が出土した。

798は壺の底部である。内外面ともハケ調整である。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。体部下半部にはススが付着する。799は小型器台である。受部の内外面ともに、斜め方向のミガキを行う。

SB087P01

甕(800)は甕Iの底部である。体部及び底部はミガキを行う。残存している部分すべて接地黒斑である。

水田

イイダコ壺・甕・脚台が出土した。

801はイイダコ壺である。内面は指ナデで仕上げる。802は甕Abである。体部上半部と口縁部上半部にススが付着している。803は脚台である。磨滅が著しく調整は不明である。

包含層

遺構に伴わない土器のうち、壺・甕・鉢・高坏・製塩土器を図化した。

804は二重口縁壺の口縁部である。口縁部外面にはクシ描波状文を施文する。

805は高坏Aの坏部である。口縁部外面に2本のクシ描波状文を施文する。坏部内面は横方向のミガキを行う。

806は小形の甕で、体部は球形である。接地黒斑は無いが内面に熾溜黒斑があり、外面肩部に覆接触黒斑がある。

807は鉢Dcである。底面には接地黒斑がある。

808は製塩土器である。底面には接地黒斑がある。

66区(図版249 写真図版319)

SK117

無頸壺・脚付の土器・甕・高坏が出土した。

809は無頸壺である。扁球形の体部はタタキ後、ハケ調整を行う。最大径部に黒斑がある。810は脚付の土器である。体部内面はハケ調整を行う。811は甕Abである。812は甕である。口縁部外面にはススが付着する。

813は鉢の底部である。体部外面は水平方向のタタキを行う。814は甕Abで、球形の体部外面はタタキ後、上部はハケ調整を行う。最大径部にはススが付着する。815は甕Abで、球形の体部外面はタタキ後、上部はハケ調整を行う。最大径部以下及び口縁部にはススが付着する。816は甕Ebで、肩部には覆接触黒斑がある。817は高坏Cbの坏部である。口縁部内外面ともに横方向に細かいミガキを行う。

SK119

甕(818)は甕Abで、球形の体部外面はタタキを行う。

SK116

鉢(819)は鉢Caで、体部外面はタタキ、内面はハケ調整を行う。体部下半部には接地黒斑がある。

包含層

遺構に伴わない土器のうち、壺蓋を図化した。

820は壺蓋である。

67区(図版250・251・第3図 写真図版320～324)

SD256

壺・甕・鉢・有孔鉢・器台が出土した。

壺には広口壺A・広口壺B・広口長頸壺・底部がある。

821は広口壺Aである。球形の体部外面は、ハケ調整後、縦方向のミガキを行う。内面最大径部はコゲが付着している。822は広口壺Bである。体部から頸部にかけてタタキを行い、頸部はナデ消している。頸部内面は粘土紐接合痕跡が明瞭に残る。823は壺の底部である。内外面ともハケ調整を行う。体部下半部から底部にかけて接地黒斑がある。827は広口長頸壺で、頸部にハケ調整を行う。828は広口壺Bで、頸部及び体部は縦方向のミガキを行う。829は広口壺である。830は壺の底部である。外面はタタキ痕跡が残る。831は壺の底部である。内面はハケ調整を行う。底面は未調整である。832は壺の底部である。外面はタタキ後、縦方向のハケ調整を行う。833は壺の底部である。内外面ともにハケ調整を行う。体部下半部には接地黒斑がある。

甕にはAa・Ab・Cb・La・底部がある。

824は甕Aaである。体部外面はタタキを行う。口縁部には覆接触黒斑がある。最大径部にはススが付着している。825は甕Abで、球形の体部外面はタタキを行い、内面は横方向のハケ調整を行う。826は甕Abである。体部外面はタタキを行い、上部は横方向のハケ調整を行う。肩部には覆接触黒斑がある。外面にはススが付着しており、最大径部外面には斜めに吹きこぼれ痕跡が残る。最大径部内面にはコゲが付着する。834は甕Abである。体部外面はタタキ後、ハケ調整を行う。内面はハケ調整を行うが、外面のハケ原体とは異なる。835は甕Abである。体部外面はタタキを行い、上部はハケ調整を行う。外面にはススが付着しており、最大径部には層状のススが付着する。肩部には吹きこぼれ痕跡が残る。

836は大形の甕で左上がりのタタキ後、ハケ調整を行う。生駒西麓の胎土である。837は甕Abである。

体部外面から口縁部はタタキを行い、後ハケ調整を行う。体部下半部はタタキが弱く整形ヒビが残る。体部下半部から底部にかけては接地黒斑がある。838は甕Cbである。外面にはススが付着しており、最大径部と口縁部には層状のススが付着する。口縁部内面にはコゲが付着する。839は甕で、磨滅が著しく調整は不明である。840は甕で、口縁部はヨコナデしている。841・843は甕Laで、体部内面は横方向のケズリを行っている。843の口縁部にはススが付着する。

842は甕Lbで、体部内面は横方向のハケ調整を行っている。最大径部にはススが付着する。844は甕の底部で、底部にモミ痕跡がある。体部下半部から底部にかけては接地黒斑があり、対応する内面には熾溜黒斑がある。845は甕の底部で、おそらく甕Lの底部である。

鉢にはAb・Ca・Da・Db・Fがある。

846は鉢Abである。体部は内外ともにハケ調整を行う。体部下半部にはススが付着する。847は鉢Caで、底部は葉脈痕跡が残る。体部下半部から底部にかけては接地黒斑がある。848は鉢Daである。体部上半部には整形ヒビが残る。体部下半部には接地黒斑がある。口縁部内面にはコゲが付着する。849は鉢Daである。外面は縦方向のケズリを行う。内面には熾溜黒斑がある。850は鉢Daである。内面には熾溜黒斑があるが、対する外面には接地黒斑は存在しない。851は鉢Fである。底部は未調整である。854は鉢Dbである。体部外面はタタキ、内面は縦方向のミガキを行う。底部外面には接地黒斑がある。855は鉢Dbである。体部外面には整形ヒビが残り、内面は縦方向のミガキを行う。856は鉢Dbである。内面は縦方向のハケ調整を行う。口縁部から体部中央部にかけて接地黒斑が、反対の口縁部には覆接触黒斑が存在することから、横位で焼成していることがわかる。857は鉢Dbである。体部内面は縦方向のミガキを行う。底部内面には熾溜黒斑がある。

有孔鉢(858)は有孔鉢Bである。体部外面の一部には蓆状の痕跡が残っており、蓆に置いた痕跡か蓆状タタキを行ったかのどちらかである。内面はケズリを行う。口縁部から体部にかけて接地黒斑が存在する。

高坏には坏部と脚部がある。

852は高坏の坏部下半部以下である。坏部の調整は磨滅のため不明である。脚部は縦方向のミガキを行う。853は高坏の脚部である。透かし孔を3方向に開ける。

器台(859)は器台Bの受部である。口縁部外面に接地黒斑がある。

SK122

甕(860)は甕Aaで、口縁部にススの付着がある。底部に接地黒斑が存在することから立ち気味な状態で焼成を行ったことがわかる。底部から体部下半部を中心に被熱による剥離が著しく、対応する内面にはコゲが付着している。

SK121

861・862は鉢Dbで、内面はハケ調整を行う。862の外面は整形ヒビがある。底部外面には接地黒斑がある。

69区(第3区)

SD259

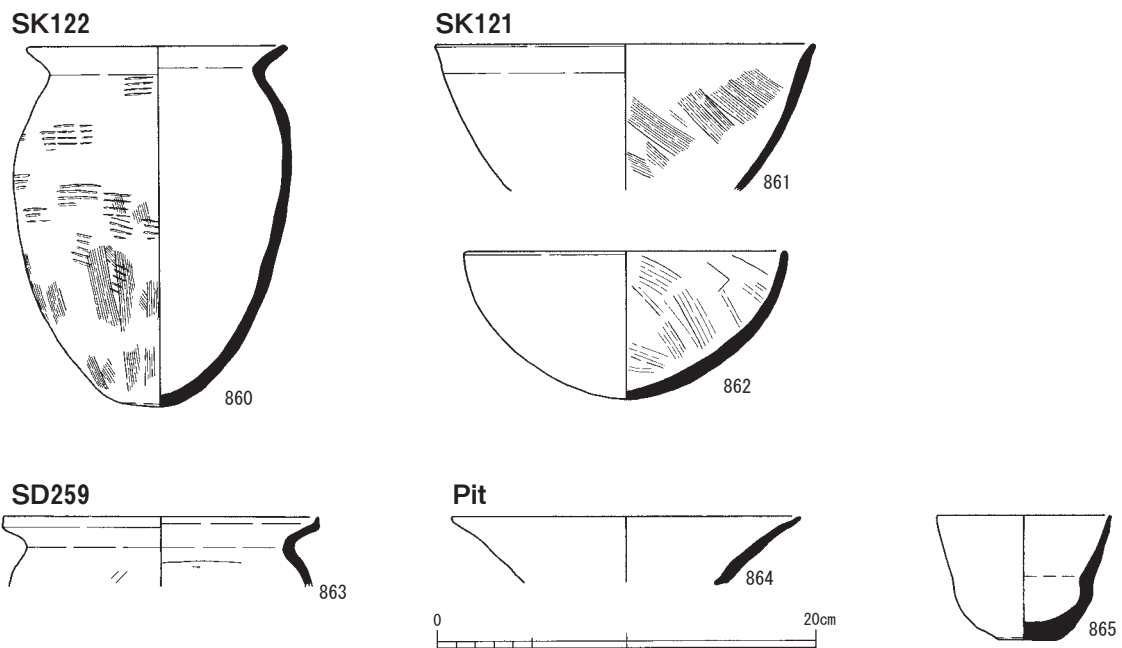
甕(863)は、体部内面は横方向のケズリを行う。他は磨滅が著しく調整は不明である。

P6901

高坏と小型丸底壺が出土した。

高坏(864)はの坏部口縁である。磨滅が著しく調整は不明である。

小型丸底壺(865)は、体部下半部に接地黒斑がある。



第3図 遺物 土器 860~865

第5節 古墳時代の土器

1. A地区

3区(図版252 写真図版325)

この地区の包含層から出土した古墳時代の遺物は866の須恵器坏身1点である。たちあがり部は内上方にのびるが、歪んでいる。端部は丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリのようなものである。TK43型式期前後と推定される。

2. D地区

D地区で古墳時代の遺物が出土した遺構には、35区ではSD077、37区ではSD108・SD103・SD104、SD102の溝がある。また、23・28・37区の包含層からも古墳時代の土器が出土している。

35区(図版252 写真図版325)

SD077

SD077からは須恵器の坏・短頸壺のほか土師器高坏が、いずれも溝の上層から出土している。

869の蓋は天井部が丸みをもち、口縁部は下外方にのびて端部は丸くおさめる。回転ヘラケズリの範囲は狭く、TK43型式期の可能性が高い。

870は須恵器坏身で、たちあがり部は内傾して同じ厚みのまま直線的に短くのび、底部外面の回転ヘラケズリの範囲は狭い。MT85型式併行期からTK43型式期のものと思われる。

871の短頸壺は鉢にも似た形態である。口縁部は体部から外反して短く外上方にのびる。端部には面をもつ。体部はやや扁平な感を受ける。

872は有稜高坏口縁部である。口縁端部は小さく外反しており、同一溝から出土した873の特徴と非常に似ている。内外面ともハケ調整で、坏底部との境にある外面の稜は比較的鋭い。874の脚部が同一個体の可能性がある。873の土師器高坏坏部は口縁端部が小さく外反し、坏部外面はハケ、内面は横方向のハケである。

874・875は土師器高坏の脚部である。874は下方にひらく中空の脚柱部から大きく外反して下外方にのびる脚部で、端部は丸くおさめる。内外面の調整は不明である。875の脚部には3方向の円形透孔を穿っており、脚部内面はヘラケズリをおこなっている。坏底部の形状が丸いことから、塊形の坏部であると思われる。

37区(図版252 写真図版325・326)

SD108

SD108から出土した土器のうち、古墳時代のものは867の須恵器坏蓋と868の土師器壺の各1点である。

867は図上完形品である。天井部上端は水平に近いが、ヘラケズリの範囲はあまり広くない。回転方向は左である。天井部と口縁部の境の外面は突帯状になっており、口縁端部にはやや内傾する面をもつ。形態的にはTK208型式に近いが、シャープさに欠けていることから、時期的には降るものであろう。

868も図上完形の小型壺で、口径は8.9cmである。口縁部は短くほぼ直立し、体部はやや扁平である。体部最大径は口径を若干凌駕する。体部外面はヘラケズリの後ハケを施し、内面は板ナデ調整である。口縁部内面は横を基調としたハケを施している。SD108の底から出土したものである。

SD103

SD103から出土した土器のうち、古墳時代に属するのは876の須恵器蓋と877の須恵器平瓶の2点である。876の天井部外面は回転ヘラ切り後ナデのようである。口縁部は丸くおさめる。TK217型式期古段階と思われる。

877は体部最大径13.0cmと小ぶりの平瓶で口縁端部を欠失している。体部最大径部分は稜をもち、1条の沈線を施している。底部外面は静止ヘラケズリである。

SD104

SD104から出土した土器には、878の須恵器坏と879の須恵器壺の2点がある。

878の坏の底部外面は回転ヘラ切りである。TK217型式期新段階～TK48型式期と思われる。

879は壺体部の破片である。やや長い体部で、外面の肩部と中央やや下部に各2条の凹線を施している。体部外面には平行タタキ痕が一部残っている。体部最大径は15.4cmを測る。体部下部の外面には静止ヘラケズリの痕跡が残っている。

SD102

SD102からは880～882といった3点の須恵器坏が出土している。

880は口径9.2cmと小ぶりの坏で、器高は3.0cmである。底部外面は回転ヘラ切りで、TK217型式期新段階～TK48型式期と思われる。

881の底部外面は回転ヘラ切りである。口縁端部は丸くおさめており、TK217型式期新段階～TK48型式期と思われる。

882の須恵器坏は口径13.5cmとやや大ぶりで、底部はほぼ水平である。口縁部はやや外反気味で、底部外面は回転ヘラ切り後ヘラ削りを施している。TK217型式期新段階～TK46型式期と思われる。

D地区包含層

D地区の包含層から出土した古墳時代の土器は、883～887に図示した須恵器坏5点である。883・884は28区、885・886は23区、887は37区の包含層からそれぞれ出土したものである。

883は坏蓋で、天井部外面は回転ヘラ切り後未調整である。口縁部は丸みをもって下方にのび、端部は丸くおさめる。TK217型式期新段階の可能性はある。

884は坏身で、たちあがり部は内上方に直線的に長くのび、端部は丸くおさめる。TK10型式期と思われる。

885の坏身の底部外面は回転ヘラ切りにより平らになっている。たちあがり部は大きく外反しながら直上方にのびる。TK217型式期の所産と思われる。

886の坏身の底部外面は回転ヘラ切り後未調整である。TK217型式期～TK48型式期の範疇でとらえられよう。

887の坏身は底部外面が回転ヘラ切りとなっている。口縁部は丸くおさめるが、端部直下をやや外反気味にしている。TK217型式期～TK48型式期の範疇でとらえられよう。

3. E地区

E地区では、包含層から古墳時代の須恵器2点が出土している。どちらも褐灰色粘質シルト層からの出土である。

包含層(図版252 写真図版326)

888は器台の脚部である。脚端径は26.5cmとやや大型である。残存部外面では2～4条の凹線により4横帯に区画され、最下帯を除いて櫛描波状文をそれぞれ上下に2帯施している。波状文を施した横帯のうち、最下段のみ三角形の透孔、その他は長方形の透孔を縦方向に揃う位置にそれぞれ4方向に穿っている。TK47型式期～MT15型式期の所産と思われる。

889は須恵器壺である。体部は丸く最大径は16.2cmを測る。外面はタタキ整形後、部分的に横方向のカキメを施している。内面には当て具痕が認められるが、大半がナデ消されている。口縁部は頸部から外反気味に外上方にのびている。口縁端部は屈折して上方に短くのび、外面には凹線状の小さな段が認められるが、下方への肥厚はほとんど認められない。口径は13.4cm、器高は16.6cmを測る。TK47型式期～MT15型式期の所産と思われる。

4. F地区

平成18年度調査のF地区については、49区・53区・56区の溝、56区の掘立柱建物跡の柱穴、53区・56区の包含層から出土した古墳時代の須恵器のうち、合計7点を図示した。

F地区で古墳時代の遺物が出土した遺構には、49区のSD138、53区のSD155、56区のSD180、SB075P01がある。

49区(図版253 写真図版327)**SD188**

49区のSD138から出土しているのは須恵器坏蓋の2点である。

890は天井部と口縁部の境に突帯状の段を有する。天井部外面のヘラケズリ範囲はあまり広くない。口縁端部の内側は凹線状とし、内傾する面のようにみえる。MT15型式期～TK10型式期と思われる。最上層から出土したものである。

891は天井部外面が回転ヘラケズリ、内面には仕上げナデを施している。口縁部は垂直に近い下外方にのび、端部は内傾する面をもつが、あまい。天井部と口縁部の境には凹線等は認められない。これも上層から出土したもので、MT85型式併行期と思われる。

53区**SD155(図版253 写真図版327)**

53区SD155から出土した土器のうち、古墳時代に属するもので図示できたのは892の須恵器坏身1点である。

892はSD155上層から出土している。たちあがり部は受部から外反しながらほぼ直立するように長くのびている。たちあがり端部は丸い。底部の回転ヘラケズリ範囲は2分の1ほどでやや狭い。MT85型式併行期およびその前後の所産と思われる。

56区(図版253 写真図版327・329)**SD180**

56区SD180から出土した土器のうち、古墳時代に属するもので図示できたのは893の須恵器坏蓋1点である。

893はSD180の最上層から出土しており、天井部外面に「×」状のヘラ記号が認められる。天井部外面は回転ヘラ切り後回転ヘラケズリをおこなっているようである。破片のため法量は不明である。TK

217型式期の可能性がある。

SB075

SB075として組みあう柱穴SB075P01および包含層から出土した破片が接合したものである。柱穴出土土器は柱痕あるいは掘形のいずれから出土したかの区別はできていない。

894は須恵器坏蓋としたが、坏身の可能性もある。天井部外面は回転ヘラ切りで、口縁部は下外方に内湾気味にのびて端部は丸くおさめる。TK217型式期～TK48型式期と思われる。

F地区包含層

F地区の包含層から出土した土器のうち、古墳時代に属するもので図示できたのは、53区で出土した895の須恵器底部と56区出土の896の須恵器坏蓋である。

895は底部の破片であるが、やや大型の坏と思われる。外面には格子状のヘラ記号が施され、内面には当て具痕が残存している。

896の天井部はやや丸く、外面の回転ヘラケズリ範囲は広く、口縁部は垂直に下方に長くのびる。口縁端部にはやや内傾する面をもち、口縁部と天井部の境の外面はすどい突帯状になっている。TK23型式期前後の所産と思われる。ロクロ回転方向は左である。

5. G地区

G地区については、58区の溝から出土した古墳時代の須恵器2点を図示した。G地区で古墳時代の遺物が出土した遺構には、58区のSD201がある。

58区(図版253 写真図版327)

SD201

897の須恵器坏身は、たちあがり部と底部中央を欠失する。受部は外上方にのび、たちあがり部は内上方にのびている。底部外面の回転ヘラケズリの範囲は約2分の1である。MT85型式併行期前後であろうか。

898はSD199・SD199付近の遺構検出時に出土した、須恵器短頸壺の上半部片である。径12.0cmとやや大きい肩部には、鈍い凹線とその上に櫛描波状文を1帯施文している。この波状文の上端部は、上部の鈍い凹線状を呈した部分には及んでいない。口縁部は体部から外反して直上方に長くのびるが、やや内傾している。口縁端部は内傾する面をもつようにみえるが、丸みがある。TK208型式期以前と思われる。

6. H地区

平成19年度調査のH地区については、61区の水田跡・包含層、62区の流路・溝・土壙・柱穴および包含層、64区の流路・水田跡・包含層、65区・66区・69区の包含層、68区の土壙・溝・包含層から古墳時代の土器が出土した。

H地区で古墳時代の遺物が出土した遺構には、61区の水田跡、62区のSD211・SD225・SD212・SK088・P6207・P6202、64区の水田跡・SD227、68区のSK126・SK128・SK129・SK132・SD258がある。

61区(図版254 写真図版328)

水田跡

906は土師器の甕または埴と思われる。口縁部のみ残存しており、口径25.6cmの大型品である。体部

から外上方に直線的にのびる口縁部は外面中央部をやや肥厚させ、端部はおさえることにより垂直に近い面を形成している。外面の調整は磨滅により不明であるが、内面は口縁部がヨコハケ後ヨコナデ、体部は横方向のヘラケズリとなっている。内面全面に煤状の物質が付着している。

62区(図版253・254 写真図版327～329)

SD211

SD211から出土した古墳時代の土器では、須恵器の坏や壺・甕と、土師器の甕・壺・高坏の合計7点を図示した。

899は須恵器坏蓋で、天井部の回転ヘラケズリは広範囲におよび、下外方に直線的にのびた口縁部端は凹面をなしている。天井部と口縁部の境には小さいながらも段を有している。MT15型式期前後の時期である可能性が高い。

900はたちあがり部を欠失する須恵器坏身である。受部は外上方に向くが丸い。底部外面は約3分の2を回転ヘラケズリしている。MT85型式併行期前後であろうか。

901は壺口縁部で、外面には鈍く低い突帯により分割された2横帯にそれぞれ櫛描波状文を各1帯施している。口縁部は外上方に外反気味にのびているが、中央部でやや屈曲している。口縁端部は丸くおさめ、突帯より上の器壁は薄くなっている。TK208型式期～TK23型式期の可能性がある。

902は須恵器甕の上半部である。残存部の最大径約48cmの体部外面には平行タタキ痕が残存し、内面は当て具痕をナデ消している。体部内面は5P7/1の明紫灰色を呈している。体部から大きく外反して外反気味に外上方にのびる口縁部は、端部を少し拡張して断面三角形に近い形状としている。端部の外面下には1条の突帯が認められる。TK23型式期の所産と思われる。

903は土師器甕で、口縁部を欠失している。いわゆる長胴甕の形態に近いが、肩部の丸みが乏しい。内外面とも器表が磨滅しているために調整は不明であるが、体部外面はハケ、内面はヘラケズリである可能性がある。器壁が厚いことが特徴としてあげられよう。

904は口縁部が短く外反する土師器壺である。丸い底部付近の器壁が厚く、口縁部にゆくにつれ徐々に薄くなっている。内外面の器表が磨滅しているために調整痕が残っていないが、体部外面はハケである可能性がある。内面には指頭圧痕を多く残す。古墳時代中期末～後期にかけての所産と思われる。

905の土師器高坏は脚部を欠失している。坏部の口径は22.0cmとやや大きく開く形態で、坏底部との境の内外面にはにぶい稜を残している。内外面の調整が磨滅により不明となっているが、ヨコナデ仕上げであると思われる。

SD225

SD225で出土した古墳時代の遺物のうち、須恵器および土師器の坏と土師器の不明品を図示した。

908は須恵器坏蓋である。丸みの少ない天井部外面は口縁部境まで回転ヘラケズリを施している。口縁部は下外方に外反気味にのびて端部付近はやや内湾する。端部は丸くおさめている。時期的な判断は難しいが、MT15型式期頃であろうか。無蓋高杯の可能性も残している。

909は土師器の坏と思われる破片である。小片のため口径は不明である。体部は内湾し、口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。

910は土師器であるが器種不明である。4.7cm四方の矩形の破片で、厚さは1.5cm程度と厚い。外面には丸みがあるが、内面は外面ほど丸くはない。

SD212

SD212から出土した古墳時代の遺物のうち、須恵器坏蓋1点を図示した。

911の坏蓋はSD212および谷部から出土した破片が接合したものである。器高は3.5cmとやや扁平な形状を示す。比較的平らな天井部外面のほぼ全体を回転ヘラケズリしている。口縁部は下外方に直線的にのび、天井部との境には幅広い凹面をつくりだしている。口縁端部は丸い。MT85型式併行期～TK43型式期の可能性がある。

SK088

SK088出土の古墳時代遺物は912の須恵器無蓋高坏の坏部1点を図示した。口縁端部はほぼ水平でくぼみ気味の面をもつ。坏底部と口縁部境の外面には小さい段を有する。坏底部中央外面には、脚部との接合のために渦巻きが刻まれている。時期的にはMT15型式期の可能性を考えている。

P6207

掘立柱建物跡として組みあうかどうかは不明であるが、P6207から須恵器高坏と思われる小片が出土している。柱穴内の柱痕または掘形のいずれから出土したかの記録はない。913に示したが、外面にはふい突帯で区切られた横帯があり、そのひとつに櫛描波状文を1帯施文している。図の下段突帯の下部は回転ヘラケズリとなっている。

P6202

914はP6202の上面から出土した土師器甕である。柱穴に伴うものかどうかは未確定である。あまり張らない体部から緩やかに外反しながら上方にのびる口縁部を有する。口縁端部は丸くおさめている。外面には煤が付着し、体部上半外面はタテハケ、口縁部はヨコナデ調整である。体部内面はタテハケ後イタナデのような調整をおこなっている。古墳時代前期末～中期の所産である可能性がある。

64区(図版254 写真図版328)

水田跡

915は須恵器坏身である。たちあがり部は外反気味に内上方にのび、端部は丸くおさめる。MT85型式併行期前後と思われる。

SD227

916はSD227から出土した須恵器高坏である。口縁部および脚部を欠失した破片であり、脚部に透孔の存在を示す部分は遺存していない。

68区(図版254 写真図版328～330)

SK126

SK126から出土した古墳時代の遺物では、須恵器の坏・壺、土師器壺を図示した。

917は須恵器坏蓋である。天井部外面の2分の1には回転ヘラケズリを施し、丸みをもって下外方にのびる口縁部は端部付近を若干外反させ、端部は丸くおさめるが、内傾する面のようにもみえる。天井部と口縁部の境の稜はほとんど認められない。MT85型式併行期と思われる。

918は須恵器坏身である。底部外面の2分の1以上を回転ヘラケズリし、受部から外反気味に内上方に長くのびるたちあがり部の端部は丸くおさめる。底部内面には同心円の当て具痕が認められる。全体的に器壁が薄い印象を受ける。MT85型式併行期と思われるが、体部が深い点で若干さかのぼる可能性もあろう。

919は体部を欠失する須恵器の壺である。頸部の中央から外反して上外方にのびる口縁部は端部付近

を受け口状に仕上げ、端部には面をもたせている。口縁端部には稜線が認められ、外見上は肥厚させた甕口縁部のように仕上げている。外面全体にカキ目状の細線が多く施されている。TK47型式期～MT15型式期の所産と思われる。

920は土師器壺である。ほぼ完形品であるが、体部下半に1箇所不定形な孔が認められる。意図的に穿たれたものかどうかは不明である。孔の長径は約3cm、短径は約2.5cmである。体部はやや扁平な観があり、体部から曲折して上外方に直線的にのびる口縁部は、端部がやや尖るように仕上げられている。器表が磨滅しているため外面の調整痕は残っていないが、ヘラミガキが加えられている可能性が高い。体部内面はナデ調整である。

SK128

SK128から出土した土器のうち、図示したのは須恵器坏や高坏3点と土師器高坏1点である。

921は有蓋高坏である。受部端は鋭くやや上方を向く。たちあがり部は内上方に直線的にのびて、端部は主として外方に拡張して凹面を作り出している。口縁端部は鋭い。口径は10.7cmと小ぶりである。脚部には横方向のカキ目を施した後、台形の透孔を3方向に穿っている。脚端部は上下に拡張し、端面上半は凹面を呈している。TK47型式期の所産である。

922も有蓋高坏であるが、坏部のたちあがり部を欠損している。受部はやや上方を向くが921よりもあまい。脚部の形状は921と同様であるが、脚端径は8.8cmとやや大きい。

923は須恵器坏身としたが、高坏の可能性もある。底部外面のヘラケズリの範囲は広く、受部から外反気味にほぼ垂直上方に長くのびるたちあがり部をもち、端部は丸くおさめている。MT15型式期前後と思われる。

924は土師器高坏の坏部である。浅い壙形を呈し、内面には1条の暗文が残る。

SK129

SK129から出土した土器のうち、図示したのは須恵器坏2点と須恵器甕1点である。

925は蓋で、天井部外面は回転ヘラ切り後未調整。天上部から下外方に内湾しながらのびた口縁端部は丸くおさめる。TK217型式期と思われる。

926は須恵器坏身である。体部外面の回転ヘラケズリの範囲は広く、たちあがり部は内上方に直線的にのび、端部には内傾する面をもつ。ロクロ回転は左方向で、TK23型式期～TK47型式期と思われる。

927は甕口縁部で、端部はわずかに上下に拡張しているように見える。わずかに残る肩部外面には格子タタキ痕が残る。この土器はSK130とSK131から出土した破片が接合したものである。

SK132

SK132から出土した古墳時代の土器のうち、製塩土器の脚台部と思われる土師器を図化した。

928の脚台径は5.2cmと小さく、ユビオサエが明瞭に認められる。古墳時代前期～中期と思われる。

SD258

SD258からは929に示した須恵器坏蓋が出土している。体部から口縁部にかけての外面には、凹線状となった粘土紐接合痕が明瞭に残っている。天井部外面は回転ヘラ切り後未調整となっている。口縁端部は丸く仕上げている。TK217型式期の所産と思われる。

7. H地区包含層(図版254・255 写真図版328・330・331)

H区では、前記に示した以外に61区・62区・64区・65区・66区・68区の包含層からも古墳時代の土器

が出土している。これらのうち、65区・66区・68区で出土した古墳時代の土器は包含層に限られている。

以下、地区ごとに遺物を述べる。

61区

907は土師器高坏で、坏部を欠失している。脚部は「ハ」字形に緩やかに開く中空の脚柱部から曲折して外反気味に横外方に大きく開く裾部となっており、内面には稜を有する。脚端部は丸くおさめる。脚柱部内面は横方向のヘラケズリである。外面はハケ後ナデを施しているようである。

62区

62区の包含層から出土した古墳時代の土器では、須恵器坏、土師器の把手を図示した。

930は須恵器坏蓋の破片で、口縁部はほぼ垂直で端部には凹面に近い面をもつ。天井部と口縁部の境には小さな段を有している。TK47型式期頃であろうか。

931は須恵器坏身の破片で、たちあがり部は短く厚みがある。受け部も短い薄い。底部外面はヘラ切りで、体部との境は鋭い稜となっている。TK217型式期と思われる。

932および933は土師器の把手である。932は上面に2条の平行な切込みを入れており、933は半分を欠失するが、同様と思われることから、同一個体の可能性がある。器種は甕か甌であると思われるが、不明である。また、形状は牛角状ではないものの、切込みがある点から韓式系土器である可能性もあろう。

64区

64区の包含層から出土した古墳時代の土器には、須恵器の坏と高坏がある。

934・936は須恵器坏身であるが、936は高坏の可能性もある。934は口径10.2cmに対して器高5.2cmと深い形状を示す。受部はほぼ水平に短くのび、たちあがり部は直線的に内上方にのびている。たちあがり端部は内傾した面をもつが鋭さに欠ける。体部外面の回転ヘラケズリは3分の2以上の範囲におよぶ。ロクロ回転方向は左である。936は高坏の可能性もある破片で、体部は深みのある形状を示す。934と936はTK216型式期の可能性がある。

935・937・938は須恵器の高坏である。935は坏部片であるが、脚部もわずかに遺存しており、3方向に穿たれた長方形透孔であることがわかる。たちあがり端部は丸みを持ち、内面に凹面を呈しているようにもみえる。937の脚部は3ないし4方向の長方形透孔を穿っている。外面にはカキメを施し、脚端部は上下に拡張している。938も端脚の脚部であるが、透孔は穿たれていない。脚端部には面をもつ。935と937はTK47型式期前後、938はTK209型式期前後と思われる。

65区

65区の包含層から出土した古墳時代の遺物には、須恵器の坏・高坏・壺がある。

939は須恵器坏蓋で、天井部と口縁部の境の外面には小さな段を有し、口縁端部は内傾する面となっている。TK10型式期～MT85型式併行期と思われる。

940は坏身で、たちあがり部は長く、端部は内傾する面を有する。941はたちあがり部が外反するように短くのびて断面は三角形に近い。底部外面はヘラ切りとなっている。940はTK208型式期頃、941はTK217型式期と思われる。

942は須恵器の短脚高坏脚部である。円形の透孔が1箇所残存している。また、脚端部は上方に小さく拡張している。MT15型式期前後であろう。

943は須恵器壺の口縁部である。外上方に外反気味に開く口縁部で、端部は断面三角形に近い。外面のやや鋭い突帯間には櫛描波状文を各1帯施している。TK208型式期頃と思われる。

66区

66区の包含層から出土した古墳時代の遺物は須恵器坏身1点である。

944の底部外面はヘラ切りをおこなっており、その後は未調整となっている。たちあがり部は外反気味に内上方に短くのび、断面は三角形に近い。TK217型式期古相の所産と思われる。

68区

包含層から出土した土器のうち、古墳時代に属するもので図示できたのは3点であり、表面採集の1点も加えて4点示した。

945は須恵器のつまみ部分の破片である。直径5.8cmと大きいことから、大型品のものと思われるが、器種は不明である。つまみ部の厚さは2.6cmで、上面の中央部が窪んで凹面を呈している。西の側溝から出土したものである。

69区

946は円筒埴輪の口縁部と思われる。須恵質で、表面の色調も灰褐色を呈するが、断面中央部は赤橙色である。口径は17.9cmで、外面には斜め方向のハケ、内面には横方向のハケが認められる。口縁上端部は凹面を呈している。

947は朝顔形埴輪の一部と思われる。須恵質であるが、表面は橙色～灰白色を呈している。口縁部の中央にある屈曲部分の破片と思われる。外面はタテハケ、内面は斜め方向のハケを残している。突帯の外面は凹面を呈する。946や949および948といった可能性がある破片も含め、埴輪が出土していることは、付近に埴輪をめぐらせた古墳が存在していたが、削平された可能性を指摘できる。時期的には古墳時代中期後半から後期前葉と思われる。

949は不明品であるが、埴輪の可能性はある。厚さ2cm弱で、片面には2個一対の刺突文が多く施されていることから、形象埴輪の可能性はあるが、器種は不明である。

948は表面採集された、土師器高坏脚部と思われる破片である。朝顔形埴輪の口縁端部である可能性もある。端部はやや凹面を呈し、器厚は0.8～1.1cmである。径は16.6cmを測る。

第6節 古代・中世の土器

1. 概要

古代の須恵器・土師器については調査地東部の包含層から多く出土しており、中世の土器・陶磁器などは地区のほぼ全体にわたって掘立柱建物跡の柱穴や溝などから出土している。ごく一部、近世の土器・陶磁器も報告している。なお、土師器煮炊具や陶磁器の記述にあたっては以下の文献の掲げる編年・分類などを参考とした。

土師器煮炊具：長谷川眞「播磨における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21 2007年

瓦器：尾上実「南河内の瓦器椀」『藤澤一夫先生古稀記念古文化論叢』1983年

備前焼：乗岡実「備前焼播鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』2000年

肥前系陶磁器：九州近世陶磁研究会『九州陶磁の編年』2000年

輸入陶磁器：森田勉・横田賢次朗「大宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』
4 1978年

小野正敏「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 1982年

太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』2000年

2. A地区

1区(図版256 写真図版332)

SD005

950は須恵器碗である。口縁部が外反している。やや浅手の椀と考えられる。

SD006

951は須恵器杯である。底部はヘラ切りである。8世紀前半と思われる。

SK002

952は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

3. B地区

4区(図版256 写真図版332)

SB003P05

953・954は須恵器碗である。955は土師器鉢である。口径が大きく深手である。

5区(図版256 写真図版332)

P0501

956は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

6区(図版256 写真図版332)

包含層

957は土師器皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている

7区(図版256 写真図版332)

SB007P02

958は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

SB007P05

959・960は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

SB007P06

961は瓦質土器羽釜である。

SB008P04

962は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

SB009P04

963・964は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

SB009P06

965は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

SB009P10

966は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。

SB009P08

967は土師器小皿である。手づくね成形で、口縁部にヨコナデが施されている。968は瓦質土器脚部である。969は瓦質土器羽釜である。口縁部は短く、やや内傾している。

SB009P05

970は瓦質土器羽釜である。口縁部は短く、直立している。

SB009P07

971は瓦質土器三足付羽釜である。口縁部は短く、やや内傾している。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデが施されている。

8区(図版256・257 写真図版333)

SB010P06

972は土師器小皿である。

SB011P01

973は土師器小皿である。手づくね成形である。

SB011P10

974は土師器小皿である。手づくね成形である。

SB012P02

975は土師器小皿である。底部はヘラ切りと思われる。

SB012P01

976は土師器小皿である。手づくね成形である。

SB012P05

977は平瓦である。凸面には無文タタキ後ナデが施され、凹面には13本/1cmの布目が認められる。

P0801

978は亀山焼甕と考えられる。底部は平底である。焼成は軟質でかなり磨滅している。体部外面に格

子タタキ、底部内面にナデが施されている。

P0802

979は瓦質土器羽釜である。口縁端部がやや内傾し、鏝は短い。

P0803

980は瓦質土器羽釜である。口縁が内傾している。

P0804

981は瓦質土器脚部である。

SK004

982は土師器皿である。手づくね成形である。983は瓦質土器三足付羽釜である。口縁部は内傾し、鏝は短い。体部は浅く、下膨れである。体部外面はナデ、体部内面はヨコハケが施されている。

SD008

984は瓦質土器羽釜である。口縁部は直立し、鏝は短い。

包含層

985は瓦質土器羽釜である。口縁部は直立し、鏝は短い。体部内面はヨコハケが施されている。

10区(図版257 写真図版333)

SK005

986は須恵器壺である。口縁部は大きく開いている。

11区(図版257 写真図版333)

包含層

987は白磁碗である。口縁端部外縁は外側に突出し、口縁部内面に凹線をもっている。988は龍泉窯系青磁の細連弁文碗である

13区(図版257 写真図版334)

SB013P07

989は須恵器碗である。見込みにやや凹みをもち、底部はほとんど突出しない。底部は回転糸切りである。

SB014P06

990は須恵器碗である。見込みにやや凹みをもち、底部はやや突出する。底部は回転糸切りである。

P1301

991は土師器皿である。底部はヘラ切りである。

14区(図版257 写真図版334)

SB016P01

992・993は須恵器碗である。993は見込みに凹みをわずかに残し、底部はほとんど突出しない。

SB016P08

994は須恵器碗である。見込みに凹みをわずかに残し、底部はほとんど突出しない。

SB016P11

995は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB016P12

996・997は須恵器碗である。997は見込みに凹みをわずかに残し、底部は突出しない。

SB016P16

998は須恵器碗である。

P1402

1001は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

P1403

999は土師器皿である。底部はヘラ切りである。

P1404

1000は土師器羽口である。外面の一部が還元している。還元径は9.5cm、還元口径は2.5cmである。

包含層

1002は白磁碗である。口縁部が玉縁状に肥厚する。森田・横田分類のⅣ類である。1003は青白磁合子蓋である。表面の文様は花卉状である。内面及び口縁端部外面が露胎である。

15区(図版257 写真図版334)**包含層**

1004は須恵器杯Bである。器高がやや低い。8世紀中葉と思われる。1005は土師器鍋である。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はタテハケ、体部内面は板ナデが施されている。1006は白磁碗である。口縁部が玉縁状に肥厚する。森田・横田分類の白磁碗Ⅳ類である。

16区(図版257 写真図版335)**SB020P06**

1007は須恵器碗である。

SB022P11

1008は須恵器碗である。

SK007

1009は土師器皿である。内外面とも磨滅している。

SD009

1010は須恵器杯である。底部はヘラ切りである。8世紀前葉までのものである。

17区(図版257 写真図版335)**SD012**

1011は須恵器杯である。底部はヘラ切りである。8世紀前葉までのものである。1012は須恵器碗である。見込みは凹まず、底部はやや突出している。底部は回転糸切りである。1013・1014は須恵器捏鉢である。口縁端部が丸味をもち、1013は端部が上方に拡張している。1015は備前焼播鉢である。乗岡編年中世6期(16世紀初頭～16世紀第3四半期)である。1016は白磁碗である。見込みに沈線をもち、底部は露胎である。森田・横田分類の白磁碗Ⅴ類である。1017は染付磁器碗である。外面に○文、見込みに花文が描かれている。豊付は露胎である。小野分類C群(15世紀後葉～16世紀前半)である。1018は土師器管状土錘である。重量が4.7gである。

包含層

1019は土師器管状土錘である。

18区(図版258 写真図版335)

SD013

1020～1022は須恵器碗である。見込みにわずから凹みもち、底部はほとんど突出しない。底部は回転糸切りである。1023は瓦器碗である。口縁端部内面に凹みをもつ。内外面ともヘラミガキが認められ、内面のヘラミガキは不明瞭であるが密である。1024は須恵器小皿である。底部は回転糸切りである。1025は土師器羽口である。先端部分の破片で、表面のほとんどが融解・還元しており、孔の部分のみ酸化している。復元口径は3cmである。

包含層

1026は須恵器杯Bである。底部は回転ヘラ切りである。1027は白磁碗である。見込みに沈線もち、底部は露胎である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。

4. C地区

19区(図版258 写真図版336)

SB027P02

1028は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB027P03

1029は土師器小皿である。表面は磨滅している。

SB028P03

1030は須恵器碗である。

SB029P05

1031は土師器小皿である。成形は手づくねである。

SD018

1032は土師器羽釜である。口縁部は短く外反気味である。鏝は短く、断面三角形である。長谷川編年Ⅵ～Ⅶ期である。

SK010

1033は須恵器碗である。

包含層

1034は須恵器碗である。1035は染付磁器皿である。底部は碁笥底で、高台内及び畳付が露胎である。見込みには草花文、外面には芭蕉葉文・列点文が描かれている。小野分類C群Ⅰである。

21区(図版258 写真図版336)

ST002

1036～1039は土師器小皿である。いずれも手づくね成形である。1040は白磁碗である。口縁部は玉縁状で、見込みに沈線をもっている。体部外面下半～底部外面は露胎である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ-1類である。

包含層

1041は須恵器杯Aである。底部はヘラ切りである。8世紀中葉頃と思われる。1042は白磁碗である。細く高い高台をもっている。見込みには沈線と櫛描文が描かれている。森田・横田分類白磁碗Ⅴ-4b類である。

5. D地区

22区(図版258 写真図版336)

P2201

1043は土師器小皿である。外面はナデ、内面は平滑なナデが施されている。

23区(図版258 写真図版336)

SB037P07

1044は須恵器碗である。1045は土師器鍋である。形態は背の低い甕形である。口縁部は頸部で屈曲して直線的に開いている。端面は凹線状である。口縁部外面はヨコハケ後ヨコナデ、口縁部外面はヨコナデ、体部外面はタテハケ、底部外面はヨコハケ、体部内面・底部内面は板ナデが施されている。

SB037P09

1046・1047は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

包含層

1048・1049は土師器管状土錘である。1048は重量6.2gである。

25区(図版258 写真図版336)

包含層

1050は白磁碗である。見込みに沈線をもち、見込み及び外面は露胎である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。

26区(図版258 写真図版337)

SB040P06

1051は須恵器碗である。

SB042P06

1052は土師器皿である。底部はヘラ切りである。

SB042P07

1053は土師器皿である。底部はヘラ切りである。1054は土師器羽口である。先端部の破片で、先端が融解・還元している。復元径は11.0cmである。

SB042P10

1055は須恵器碗である。見込みに凹みは認められず、底部は突出しない。底部は回転糸切りである。

SB041P02

1056は須恵器小皿である。椀形の皿である。底部は回転糸切りである。

ST003

1057は須恵器碗である。見込みにわずかな凹みをもち、底部はほとんど突出しない。底部は回転糸切りである。体部外面に墨書をもつが、字の判読はできていない。

P2601

1058は土師器鍋である。口縁部は頸部で屈曲して大きく開く。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はタテハケ、体部内面はヨコハケが施されている。

27区(図版259 写真図版337)

SD043

1059は須恵器小皿である。

28区(図版259 写真図版337・338)

包含層

1060は須恵器小皿である。小椀形の小皿である。底部は回転糸切りである。1061～1063は須恵器捏鉢である。1061は口縁端部が外反、1062は口縁端部が矩形、1063は口縁部端面が外傾している。1064は土師器甕である。口縁部は短く外反し、1ヶ所の穿孔がなされている。1065は土師器管状土錘である。1066～1069は白磁碗である。1066は口縁端部が外方に突出する。内外面とも施釉されている。1067は口縁端部が外反し、口縁部内面に沈線をもっている。外面下端のみ露胎である。1068は高台脇～高台内が露胎である。森田・横田分類Ⅳ－2類である。1069は外面が露胎である。森田・横田分類Ⅳ－1類である。1070は龍泉窯系青磁連弁文碗である。連弁は鎚をもたない。

29区(図版259 写真図版338)

SB044P03

1071は須恵器小皿である。底部は回転糸切りである。

SG002

1072は土師器有溝穿孔土錘である。

包含層

1073は白磁碗である。外面に斜め方向の沈線をもっている。高台は細く高い。高台脇～高台内は露胎である。1074は龍泉窯系青磁碗である。口縁部外面に雷文をもっている。上田分類CⅡ類(14世紀後葉～15世紀前半)である。

30区(図版259 写真図版338)

包含層

1075は備前焼碗である。2次的な被熱を受けている。16世紀頃のものと思われる。

33区(図版259 写真図版338)

SD065

1076は土師器杯である。口縁端部にススが付着している。

SD078

1077は土師器底部である。高さ1.3cmの平高台である。表面は磨滅している。1078は須恵器杯Bである。底部に回転ヘラケズリが施されている。

34区(図版259 写真図版338)

SD075

1079は土師器播鉢である。内面はヨコハケ後8本1単位の櫛目が入れられ、外面はナデ、外面下端はヘラケズリが施されている。底部外面は不調整である。1080は須恵器碗である。見込みはわずかに凹み、平高台はわずかに突出している。底部は回転糸切りである。1081・1082は備前焼播鉢である。1081の播目は12本1単位の櫛目が入れている。1082は口縁端部が上方に大きく拡張している。乗岡編年中世4期(15世紀前葉～15世紀第2四半期)である。1083は土師器有溝穿孔土錘である。

包含層

1084は須恵器小皿である。椀形の小皿で、底部は回転糸切りである。

35区(図版259～261 写真図版338～342)

SB046P11

1085は同安窯系青磁小碗である。内面に横方向の櫛目文が入れている。外面下端は露胎である。

SB047P01

1086は土師器皿である。手づくね成形である。

SB048P05

1087は土師器小皿である。手づくね成形である。

SD086

1088・1089は土師器皿である。底部はヘラ切りである。1090・1091は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1092～1094は土師器鍋である。器高の低い甕形である。1092は口縁部内外面にヨコハケ後ヨコナデ、体部外面にタテハケ、底部外面にヨコハケ、体部内面にヨコハケ後ナデ、底部内面にヨコハケが施されている。1093は口縁部外面にヨコハケ、口縁部内面にヨコナデ、体部外面にタテハケ、体部内面に板ナデが施されている。1094は口縁部内外面にハケ後ヨコナデ、体部外面はハケ後ナデ、底部外面はハケが施され、内面は磨滅している。1095は土師器羽釜である。口縁部は短く、鏝は低い断面三角形である。体部外面に平行タタキが施されている。長谷川編年Ⅵ期である。1096は土師器鍋である。1095と比べて鏝はほとんど確認できない。体部外面に平行タタキが認められる。内面は回転ナデ後板ナデが施されている。長谷川編年Ⅶ期である。1097は土師器管状土錘である。重量は10.8gである。1098～1112 須恵器碗である。見込みにわずかな凹みをもち、平高台はわずかに突出する程度である。底部は回転糸切りである。口径16.85～14.9cm、器高5.65～4.75cmである。12世紀前半頃のものが多いようである。墨書をもつものが多く認められ、○に「上」(1101)、「天」(1106・1111)、「十」(1107・1108)、「一」(1110)などがある。1113～1117は須恵器小皿である。底部は回転糸切りである。器高は3.1～1.7cmと幅がある。1118・1119は須恵器捏鉢である。1118は端部が上方に大きく拡張し、端面が丸味をもっている。1119は端部が矩形で、外縁がやや突出している。1120は須恵器杯Bである。1121・1122は瓦器碗である。1121は内面のヘラミガキが比較的密で、見込みのヘラミガキは平行である。輪高台は断面三角形である。尾上編年2-1・2期(12世紀前半)頃のものと思われる。1122は磨滅のため外面のヘラミガキが不明瞭である。1123は瓦器小皿である。内面及び口縁部外面にヘラミガキ、底部外面に指頭痕が認められる。1124は瓦質土器羽釜である。口縁部は短く直立している。体部内面にはハケが施されている。1125～1129は備前焼播鉢である。1125は口縁部がやや肥厚する。播目は6本1単位の櫛目である。乗岡編年中世3期a(14世紀中葉～後葉)である。1126は口縁端部が大きく上方に拡張している。播目は7本1単位の櫛目である。乗岡編年中世4期b(15世紀第2四半期)である。1127は口縁部が板状に大きく拡張している。乗岡編年中世5期b(15世紀末)である。1128・1129は口縁帯がやや内側に倒れ、上端に面をもっている。乗岡編年中世6期a(16世紀前半)である。1130・1131は備前焼甕である。1130は玉縁状の口縁部が直立している。乗岡編年中世5期である。1131は玉縁状の口縁部が内弯して立ち上がり、玉縁部の外面に凹線が入れている。乗岡編年近世1期である。1132は丹波焼壺である。口縁部は外反し、端部は丸味をもっている。表面にはオリブ灰色の自然釉が付着している。1133は肥前系施釉陶器皿である。内面及び口縁端部外面に施釉されている。見込みに砂目跡が付いている。肥前1-2期(16世紀末頃)である。1134は肥前系施釉陶器碗である。体部外面下位及び底部外面は露胎である。肥前I-2期(16世紀末頃)である。1135は施釉陶器底部である。見込みに4か所の砂目跡をもって

いる。釉色は浅黄色で、暈付は露胎である。産地は不明である。1136～1143は白磁碗である。1136～1141は森田・横田分類の白磁碗Ⅳ類、1140は森田・横田分類の白磁碗Ⅳ－1類である。1141は森田・横田分類の白磁碗Ⅳ－2類である。1142・1143は森田・横田分類の白磁碗Ⅴ類である。1144は白磁皿である。暈付のみ露胎である。森田分類E群(16C)である。1145は白磁水注である。頸部付け根付近に縦方向の耳をもっている。耳はやや平たい粘土紐を2つ並べた形態である。内外面とも施釉されている。1146は龍泉窯系青磁碗である。高台内は露胎である。森田・横田分類Ⅰ－2b型式である。1147は龍泉窯系青磁皿である。森田・横田分類Ⅰ－1型式である。底部外面は露胎である。1148は同安窯系青磁碗である。底部外面～体部下端は露胎である。1149は中国製染付磁器碗である。底部は平坦で、暈付は露胎である。外面は唐草文、見込みは草花文が描かれている。高台内の銘款は「造」のみが読み取れ、「大明年造」の可能性が考えられる。1150は中国製染付磁器底部である。暈付は露胎で、砂が付着している。見込みには「福」の字が書かれている。

包含層

1151は須恵器碗である。1152は須恵器杯Aである。底部は回転ヘラケズリである。

36区(図版262 写真図版343)

SA002P02

1153は土師器托あるいは皿の可能性が考えられる。

37区(図版262 写真図版343・344)

SB049P09

1154は須恵器碗である。

SB049P12

1155は須恵器碗である。見込みに凹みの痕跡をわずかに残し、平高台は突出しない。底部は回転糸切りである。

SB049P18

1156は須恵器小皿である。底部はヘラ切りで、板状圧痕が付着している。

SB051P03

1157は須恵器碗である。

SB051P08

1158は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB051P12

1159は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB051P13

1160は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB051P17

1161は土師器底部である。平高台高く突出し、体部は大きく開いている。底部はヘラ切りで、板状圧痕が付着している。1162は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB051P18

1163は須恵器碗である。見込みに凹みをもたず、平高台も突出しない。底部は回転糸切りである。

SB051P25

1164は須恵器碗である。

P3701

1165・1166は土師器小皿である。表面は磨滅している。

SA003P01

1167は須恵器碗である。

SA003P02

1168は土師器托である。底部はヘラ切りである。

SD104

1169は須恵器杯Bである。底部は回転ヘラケズリである。8世紀前半と思われる。

SD101

1170は須恵器杯Bである。底部はヘラ切りである。8世紀中葉と思われる。1171は須恵器杯である。底部はヘラ切り後ナデである。

SD093

1172は土師器小皿である。手づくね成形である。

SD092

1173は須恵器碗である。

SK040

1174は土師器小皿である。表面は磨滅している。1175は須恵器小皿である。

包含層

1176は土師器皿である。成形は手づくねである。1177は須恵器蓋である。天井部外面に回転ヘラケズリが施されている。1178は須恵器碗である。大型の碗で、体部外面に段状の沈線もっている。1179～1181は須恵器捏鉢である。1179は底部が回転糸切りで、輪高台をもっている。1180・1181は口縁端部が上方にやや拡張している。1182は緑釉陶器底部である。底部は蛇の目高台である。釉はわずかにしか残存していない。1183～1186は白磁碗である。1184～1186は森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1186は外面が露胎である。1187は同安窯系青磁皿である。体部下半外面及び底部外面は露胎である。森田・横田分類皿Ⅰ-1b類である。

38区(図版262 写真図版344)**包含層**

1188は瓦器碗である。表面は磨滅している。1189は龍泉窯系青磁碗である。森田・横田分類碗Ⅰ-5b類である。

39区(図版262 写真図版344)**SK042**

1190は土師器皿である。表面は磨滅している。

包含層

1191は須恵器碗である。底部は回転糸切りである。見込みに凹みの痕跡を残し、平高台は突出しない。1192は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1193は同安窯系青磁皿である。底部外面は露胎である。森田・横田分類皿Ⅰ-2類である。

6. E地区

40区(図版263 写真図版244・345)

P4001

1194～1197は須恵器小皿である。器高はやや深く、底部は回転糸切りである。1198～1207は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1200・1202・1205はヘラ切り後ナデが施されている。1208・1209は土師器托である。1208は底部がヘラ切りで、1209は底部にヘラナデが施されている。

SD116

1210・1211は備前焼播鉢である。1210は口縁端部が縁帯状で、端面に2条の凹線をもっている。乗岡編年中世6期a(16世紀前半)である。1211は口縁端部が上方に拡張している。播目は6本1単位の櫛目である。乗岡編年中世4期b(15世紀第2四半期)である。1212は白磁碗である。体部外面下端～底部外面は露胎である。森田・横田分類白磁碗Ⅴ類である。

包含層

1213は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1214は土師器管状土錘である。重量は22.6gである。

41区(図版263 写真図版345)

SB057P06

1215は須恵器碗である。

SB057P03

1216は須恵器碗である。

SK045

1217・1218は須恵器碗である。見込みはやや凹み、平高台もやや突出している。底部は回転糸切りである。1219・1220は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SD118

1221は須恵器碗である。見込みに凹みをもたず、平高台は緩やかに突出している。底部は回転糸切りである。1222・1223は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

包含層

1224・1225は白磁碗である。外面は露胎である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ-2類である。

43区(図版263 写真図版345)

包含層

1226は白磁碗である。森田横田分類白磁碗Ⅳ類である。

7. F地区

45区(図版263 写真図版346)

攪乱包含層

1227・1228は土師器皿である。手づくね成形である。1229は土師器鍋である。口縁部は受け口状である。体部内面はヨコハケが施され、体部外面には指頭痕が認められる。

SK047

1230・1231は土師器杯である。表面は磨滅しているが、底部はヘラ切りと思われる。1232は土師器托

と思われる。口径はやや大きく、広く開いている。1233～1236は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1237～1239は土師器底部である。見込みは凹み、底部はヘラ切りである。1238・1239の平高台は高い。1240・1241は須恵器碗である。1240は体部外面に「○」の墨書をもっている。1241は見込みに凹みの痕跡を残し、平高台はほとんど突出しない。底部は回転糸切りである。1242・1243は須恵器小皿である。底部は回転糸切りである。1242は小椀型である。1244は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1245は平瓦である。凹面は斜格子タタキで、凸面の布目は7本/1cmである。

SD126

1246は須恵器碗である。

46区(図版263 写真図版347)

SB061P09

1247は須恵器碗である。

SB064P01

1248は土師器小皿である。手づくね成形で、口径は6.3cmと小さい。

SB062P03

1249は土師器皿である。手づくね成形である。

SB062P07

1250・1251は土師器小皿である。手づくね成形である。1252は須恵器杯Bである。底部はヘラ切りである。1253は須恵器甕である。口縁部は縁帯状に厚い。

SD127最上層

1254は須恵器稜碗である。稜は鋭い。

SD128

1255は土師器皿である。手づくね成形である。1256は土師器羽釜である。口縁部は下膨れの体部からそのまま内傾する。体部内外面はナデが施されている。

47区(図版264 写真図版347・348)

SD133

1257・1258は土師器小皿である。手づくね成形である。1259～1261は土師器碗である。1259・1261は吉備系土師器碗と考えられる。色調は浅黄橙である。1259は体部外面にナデ・ユビオサエ、体部内面に丁寧なナデが施されている。1261はしっかりした輪高台をもっている。内面は丁寧なナデ、外面はナデが施されている。1260は底部が回転糸切りである。1262は土師器托である。底部はヘラ切りである。1263は土師器鍋である。口縁部はやや内弯している。体部外面上半はナデ、体部外面下半はヨコハケ、体部内面はヨコハケ・板ナデが施されている。1264は須恵器甕である。1265・1266は須恵器碗である。1266は見込みに凹みの痕跡をもち、平高台はほとんど突出しない。1267・1268は瓦質土器三足付羽釜である。口縁部は下膨れの体部からそのまま内傾する。体部内外面はナデが施されている。1267は体部外面下半にスス、体部内面下半にコゲが付着している。1269は瓦器碗である。内外面ともヘラミガキが密に施されている。1270は備前焼壺である。底部に刻印が認められる。1271～1273は白磁碗である。1271・1272は森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1273は森田・横田分類白磁碗Ⅷ-1類である。1274は白磁把手である。水注の把手と思われる。1275は青磁碗である。森田・横田分類龍泉窯系碗Ⅰ-3類である。1276は染付磁器碗である。豊付は露胎である。高台内には「大明年造」の銘款をもっている。

小野分類E群VI類(16C)に含まれると思われる。1277は平瓦である。凸面は格子タタキ、凹面はナデが施されている。1278は施釉陶器壺である。内外面とも褐釉が施釉されている。山本分類耳壺IV-1類である。

48区(図版264)

SD133

1279は平瓦である。凸面は平行タタキが施され、凹面は5本/1cmの布目が残る。1280は白磁皿である。底部は露胎である。

49区(図版264 写真図版348)

SD138

1281は須恵器杯である。1282は須恵器杯B蓋である。天井部・縁部とも平坦である。1283は須恵器壺である。

SD134

1284は土師器管状土錘である。重量は8.2gである。

包含層

1285・1286は白磁碗である。1286は畳付～高台内が露胎で、森田・横田分類白磁碗V類である。1287は白磁小杯である。畳付は露胎である。1288は青磁碗である。龍泉窯系の細連弁文碗で、剣頭部が省略されている。上田分類B-IV'類(16C)である。

51区(図版265 写真図版348)

SD151

1289は土師器鍋である。体部外面に平行タタキが施され、外面全体にスス・コゲが付着している。長谷川編年鉄かぶと形VI期(15C後半～16C初)である。

52区(図版265 写真図版348)

SD151

1290は備前焼摺鉢である。摺目は1単位5本である。乗岡編年中世3期b(15C前葉)である。1291は備前焼壺である。口縁部の玉縁状の膨らみは小さい。1292は青磁碗である。高台脇～高台内は露胎である。

53区(図版265～267 写真図版350～351)

SB065P12

1293は瓦器碗である。見込みの暗文は平行で、環高台の断面は台形である。和泉型II-3期(12世紀後半)である。

SB065P14

1294は土師器皿である。底部はヘラ切り後、板状圧痕が付着している。

SB065P18

1295は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1296は瓦器碗である。ヘラミガキは不鮮明である。

SB066P01

1297は須恵器碗である。

SB066P09

1298は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗IV類である。

SB066P10

1299は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB066P16

1300は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB067P04

1301は土師器鍋である。甕型の鍋である。口縁部は短くやや内湾気味である。体部外面はタテハケ及びハケ、口縁部内外面・体部内面上半はヨコナデ、体部内面下半はヨコハケが施されている。

SB067P06

1302は土師器皿である。底部はヘラ切りである。1303は瓦器碗である。外面にヘラミガキは認められない。輪高台の断面はやや三角気味である。尾上編年Ⅲ－1期(12C後半)である。1304・1305は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1306は土師器羽口である。復元孔径は3.8cmである。

SB069P03

1307は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB069P01

1308は土師器竈である。全面は大きく方形に窓をなし、その周囲に庇がめぐらされている。側面の上部には把手の膨らみが存在している。

SB070P01

1309は須恵器碗である。見込みの凹みをもつが、平高台は突出しない。

SB070P06

1310は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB071P11

1311は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。

SB071P13

1312は須恵器壺である。肩部に突帯をもっている。

SB071P14

1313は須恵器碗である。見込みに凹みの痕跡を残し、平高台の突出はわずかである。12世紀前半である。1314は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB071P16

1315は土師器皿である。底部はヘラ切りである。

SB071P17

1316は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB071P18

1317は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。

SB071P19

1318は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1319・1320は須恵器碗である。平高台はほとんど突出しない。

P5301

1321は瓦器碗である。外面にヘラミガキは施されておらず、内面のヘラミガキは残存していない。

SK048

1322は須恵器碗である。1323は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ－1類である。

SK050

1324・1325は土師器皿である。1324は底部がヘラ切りである。1326・1327は土師器小皿である。底部はヘラ切りである。1328は土師器鍋である。口縁端部はやや外側へつまみ出されている。1329～1331は須恵器碗である。1329は見込みに凹みをもたず、平高台も突出しない。12世紀後半である。1332は瓦器碗である。外面にヘラミガキは認められない。

SD155

1333は土師器管状土錘である。重量は4.9gである。

SD146

1334は緑釉陶器底部である。底部は回転ヘラケズリで、露胎である。

SD161

8世紀後半の土器がまとまって出土している。1335土師器杯である。底部は手持ちヘラケズリである。1336・1337は須恵器杯Aである。1336は底部がヘラ切りである。1337は底部が回転ヘラケズリである。底部に墨書があるが、判読はできない。1338は須恵器杯Bである。底部は回転ヘラケズリである。1339は須恵器稜碗である。高い輪高台をもっている。体部外面は板ナデ、底部外面は回転ナデが施されている。1340・1341は須恵器杯B蓋である。天井部・縁部ともほとんど平坦である。1340は天井部外面に回転ナデが施され、天井部内面に赤色顔料が付着している。1341は天井部外面にヘラケズリが施されている。

SD156

1342は須恵器碗である。

SD160

1343は土師器管状土錘である。重量は4.9gである。

包含層

1344は土師器羽口である。先端部分で融解している。復元孔径は3.0cmである。1345は須恵器皿である。内外面ともヘラミガキが施されている。1346・1347は須恵器碗である。底部は回転糸きりである。1346は平高台が明瞭に突出している。底部に「万」の墨書が書かれている。1347は見込みに凹みの痕跡を残し、平高台はほとんど突出しない。底部に墨書があるが、判読はできていない。1348は須恵器捏鉢である。口縁端部はやや上方へ突出している。1349は須恵器円面硯である。1350は須恵器風字硯と思われる。表裏両面ともヘラナデ、端部はヘラケズリが施され、端縁は面取りがなされている。表面の一部には墨が付着している。

54区(図版267 写真図版351・352)

SD163

1351は須恵器杯Bである。底部はヘラ切り後ナデが施されている。

包含層

1352は須恵器杯Bである。底部はヘラ切りである。8世紀中頃と思われる。1353は須恵器稜碗蓋である。天井部と縁部の境がシャープである。内外面とも回転ナデが施されている。1354は緑釉陶器壺である。底部は蛇の目高台である。焼成は軟質で、胎土の色調は浅黄橙色である。釉は明オリーブ灰色である。

55区(図版267 写真図版352・353)

SB072P04

1355は土師器製塩土器である。内外面ともナデが施されている。

SB073P08

1356は土師器製塩土器である。内外面ともナデが施されている。

SK053

1357は須恵器碗である。見込みは凹みをもち、平高台は高く突出している。底部は回転糸切りである。1358は須恵器壺である。口縁部は大きく開き端部は上方につまみ上げられている。1359は須恵器壺である。底部に輪高台をもっている。体部外面はヘラケズリ、体部内面は強いヘラナデ、底部外面は回転ヘラケズリ後ナデが施されている。

SD170

1360は須恵器杯Aである。底部はヘラ切りである。1361・1362は須恵器碗である。1361は見込みに凹みをもたず、平高台は突出している。底部は回転糸切りである。1363は須恵器壺である。底部は回転糸切りである。

SD172

1364は須恵器杯Bである。底部はヘラ切りである。1365は須恵器捏鉢である。口縁端面は外傾している。

SD165

1366は須恵器碗である。

SD174

1367は須恵器杯Bである。底部はヘラ切りである。1368は須恵器甕である。口縁部は外反し、端部はわずかに拡張する。体部外面は平行タタキが施され、体部内面には同心円当具痕が残る。

包含層

1369は土師器製塩土器である。内外面ともナデが施されている。1370は土師器管状土錘である。重量は6.7gである。1371は須恵器杯Aである。底部は回転ヘラケズリである。1372は須恵器杯である。底部はヘラ切りである。見込みに「×」のヘラ記号をもっている。1373は須恵器杯B蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。1374は須恵器稜碗蓋である。口縁部の屈曲が大きく、環状のつまみをもっている。天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。内面中央にはヘラ記号が入れられている。1375は須恵器皿である。口縁部は短く立ち上がり、輪高台をもっている。底部は回転ヘラケズリが施されている。1376・1377は須恵器壺である。1377は双耳壺である。1378は瓦器小皿である。内面にはヘラミガキが認められる。1379は白磁碗である。見込みには目跡が2か所認められる。森田・横田分類白磁碗V類である。

56区(図版268 写真図版281・353・354)

SA006P03

1380は須恵器碗である。

包含層

包含層から出土したもののうち1381～1385・1387・1388はSD185・186・188の上面で出土したものである。

1381・1382は須恵器杯Bである。底部はヘラ切りである。1382は底部に「×」のヘラ記号と「一十」の墨書をもっている。1383は須恵器杯Aである。底部は回転ヘラケズリである。底部に墨書があるが、判読はできていない。1384は須恵器底部である。高い輪高台をもっている。底部はナデが施されている。1385は須恵器蓋である。小型の短頸壺の蓋と思われる。1386は土師器皿である。高い輪高台をもっている。体部外面は手持ちヘラケズリ後ナデのようである。1387は土師器小皿である。手づくね成形である。1388は山茶碗小碗である。底部は回転糸切りである。1389～1395は土師器管状土錘である。重量は12.6g～2.8gである。1396は土師器製塩土器である。内外面ともナデが施されている。1397は須恵器杯Aである。底部は回転ヘラケズリである。8世紀後半のものである。1398は須恵器稜碗である。内面は丁寧なヘラミガキが施されていると思われる。1399～1401は須恵器皿である。1399は口縁部が直線的に外へ開き。輪高台をもっている。底部は回転ナデが施されている。見込みは平滑に磨れており、転用硯として使用された可能性がある。1400は無高台で、わずかに内湾しながら外へ開いている。底部はヘラ切り後ナデが施されている。1402・1403は須恵器杯B蓋である。縁部はあまり屈曲しない。内面には墨が付着し、平滑に磨れており転用硯として利用されたと考えられる。1402は天井部外面が回転ヘラケズリ、1403は天井部外面がヘラ切りである。1404は須恵器蓋である。短頸壺の蓋と考えられる。天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。1405は須恵器平瓶である。小型の平瓶である。1406は須恵器円面硯である。1407は須恵器壺である。口縁部は外反して開き、端部は上方につまみ上げられている。1408は緑釉陶器底部である。底部は平高台で、全面に施釉がなされている。1409・1410は灰釉陶器碗である。1409の施釉はハケ塗りである。1411は灰釉陶器皿である。1412～1414は灰釉陶器底部である。高台は低い三日月高台で、K-90型式と考えられる。1412は内面が施釉されているが、見込みは露胎である。1413・1414は内面及び体部外面が施釉されている。1415～1417は白磁碗である。1415・1416は森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1417は見込みに櫛目文が入れている。森田・横田分類白磁碗Ⅴ類である。1418は白磁皿である。体部外面下位～底部外面は露胎である。森田・横田分類白磁皿Ⅳ-1b類である。1419は青磁皿である。底部外面は露胎である。森田・横田分類龍泉窯系青磁皿Ⅰ-2c類である。1420は平瓦である。凸面は格子タタキが施され、離砂が付着している。凹面は糸切り痕後6本/1cmの布目が認められる。

8. G地区

57区(図版269 写真図版355)

SD191

1421は須恵器碗である。平高台は突出しない。底部は回転糸切りである。体部外面下端に墨書が書かれているが、判読はできていない。

58区(図版269 写真図版355・356)

SB076P05

1422は土師器小皿である。成形は手づくねである。口縁部はヨコナデが施されている。

SB077P08

1423は土師器皿である。成形は手づくねである。

SB077P14

1424・1425は土師器皿である。1425は成形が手づくねである。

SB079P01

1426は土師器皿である。成形は手づくねである。1427・1428は土師器小皿である。成形は手づくねである。

SB079P06

1429は土師器皿である。成形は手づくねである。

P5801

1430は土師器皿である。成形は手づくねである。

P5802

1431は須恵器杯Bである。底部は回転ヘラケズリである。

SD201

1432・1433は須恵器碗である。1433は見込みに凹みをもち、平高台は突出している。底部は回転糸切りである。1434は須恵器碗である。口径が小さい。底部は回転ヘラ切りである。1435は緑釉陶器破片である。胎土は灰白色で、焼成はやや軟質である。内外面とも施釉され、外面は非常に平滑である。壺の体部や香炉の蓋の可能性が考えられる。1436は灰釉陶器皿である。1437～1439は灰釉陶器底部である。内面は施釉されているが、見込みは施釉されていない。高台は三日月高台である。K-90型式と考えられる。底部は回転ヘラケズリが施されている。1439は底部外面に墨書が書かれているが、判読はできていない。

SD204

1440は須恵器碗である。見込みは凹みをもち、平高台はやや突出している。底部は回転糸切りである。

SD206

1441・1442は土師器皿である。成形は手づくねである。1443・1444は土師器小皿である。成形は手づくねである。1445は土師器羽釜である。口縁部は内湾しながら立ち上がる。体部外面はナデ、体部内面はヨコハケが施されている。

SK061

1446は土師器皿である。成形は手づくねである。1447は須恵器碗である。1448は須恵器小皿である。1449は須恵器捏鉢である。口縁端部は上方に拡張している。

SK062

1450～1454は土師器皿である。手づくね成形である。口縁部は屈曲が比較的強い。底部外面は板ナデが施されている。指頭痕が認められるものもある。1454は口縁部外面のヨコナデの下端部にヘラ状工具のあたってような痕跡が認められる。1455・1456は土師器小皿である。成形は手づくねで、内外面ともナデが施されている。1457は須恵器碗である。1458は瓦器碗である。高台は低い三角高台である。表面は磨滅している。

SK063

1459は土師器皿である。体部外面は板ナデが施されている。

包含層

1460は瓦器碗である。輪高台はやや踏ん張る三角高台である。ヘラミガキは残存していない。

9. H地区

62区(図版269～271 写真図版356～358)

SK090

1461は須恵器皿である。大型の皿で、輪高台をもっている。内外面ともヘラミガキが施されているようである。1462は須恵器杯である。底部ヘラ切りで、見込みにヘラ記号が入れている。1463は須恵器皿である。わずかに外反しながら大きく開いている。1464は須恵器底部である。平高台は高く突出している。底部は回転糸切りである。1465は土師器管状土錘である。重量は5.6gである。1466は平瓦である。凸面は格子タタキ、凹面は布目後ナデが施されている。

包含層

1467～1473は江戸期の攪乱土坑や溝から出土したものである。1468～1470が攪乱土坑、1471～1473が溝からまとまって出土したものである。

1467は泥面子である。表面は三つ葉の文様が押印され、裏面には「木□」の墨書が書かれている。1468は土師器焙烙である。口縁部内外面はヨコナデ、底部内面はナデ、底部外面は板ナデが施されている。底部外面にはススが付着している。1469は染付磁器碗である。畳付は露胎である。瀬戸系で、19世紀頃のものと思われる。1470は白磁鉢である。口縁端部及び畳付は露胎である。見込みに目跡が3か所あり、体部はガラス継ぎがなされている。高台内には墨書が書かれているが、判読はできていない。1471は陶体染付碗である。広東碗の形体で、畳付は露胎である。1472は染付磁器油壺である。畳付は露胎である。肥前系で、18C中頃のものと思われる。1473は施釉陶器筆立てである。筒状で、側面が7角に面取りされている。口縁端部から体部下位まで鉄釉が施釉されている。底部は回転糸切りである。

1474は土師器製塩土器である。外面はナデ、内面上位は斜め方向のナデ、内面中位は板ナデが施されている。1475・1476は須恵器杯Bである。1475は器高が高く、8世紀後半頃のものと思われる。1476は底部に回転ヘラケズリが施されている。8世紀中頃のものと思われる。1477は須恵器杯Aである。底部はヘラ切りである。1478～1481は須恵器底部である。杯の底部と思われる。1478は底部が回転ヘラケズリ、1479～1481は底部がヘラ切りである。1478・1479は底部外面に「小殿」の墨書が書かれ、1480も底部外面に墨書が書かれているが、判読はできていない。1481は底部外面に「×」字のヘラ記号が入れている。1482・1483は須恵器稜碗である。体部外面はヘラケズリが施されている。1484は須恵器碗である。小型の碗で、平高台はやや突出している。1485は須恵器皿である。口縁部は大きく開き、端部は外反している。底部は回転ナデが施されている。1486～1491は須恵器杯B蓋である。天井部が笠形で、縁部があまり屈曲しないものが多い。1489以外は天井部外面に回転ヘラケズリが施されている。つまみは1486・1490が宝珠形、1487～1489がボタン形である。1489は天井部外面に墨書が書かれているが、判読はできていない。1492は須恵器壺である。肩部に突帯をもっている。1493は須恵器鉢である。大型で、器高が高い。1494は灰釉陶器皿である。高台は三日月高台である。底部は回転ヘラケズリである。K-90号型式と考えられる。1495は緑釉陶器碗である。底部はケズり出しの輪高台で、高台内中央のケズリが浅い。焼成は軟質で、胎土は浅黄橙色である。全面に施釉がなされていたと思われる。1496・1497は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。1498は丸瓦である。凸面はタテ方向ナデが施され、凹面は磨滅している。1499・1500は平瓦である。1499は凹面に7～8本/1cmの布目が付き、凸面は磨滅している。1500は凸面に斜格子タタキ、凹面に縦方向ナデが施されている。1501は道具瓦と思われる。短い丸瓦状で、玉縁をもっているようである。丸瓦部は端面側に向かって細くなっている。凸面はナデ

が施され、凹面は布目が付いている。

1502・1503は須恵器杯Bである。1502は底部に回転ナデが施され、爪形圧痕が付いている。1503は底部がヘラ切りである。

63区(図版271 写真図版358)

包含層

1504は備前焼播鉢である。口縁端部は縁帯状で、4条の凹線をもっている。乗岡編年近世1期a・b期(16世紀後葉)である。1505は須恵器皿である。底部は回転ヘラケズリである。1506は土師器杯である。表面は磨滅している。1507は須恵器壺である。高い輪高台をもっている。底部内面はヘラナデ、底部外面は回転ナデが施されている。底部外面には「×」字状のヘラ記号が入れられている。

64区(図版271・272 写真図版359・360)

P6402

1508は須恵器杯B蓋である。天井部外面は回転ナデが施されている。

包含層

1509は土師器杯である。口縁端部内面に凹線をもっている。底部外面はナデが施されている。1510は土師器底部である。高い輪高台をもっている。表面は磨滅している。1511は須恵器杯Aである。底部は回転ヘラケズリが施されている。1512は須恵器皿である。底部は回転ヘラケズリが施されている。1513～1516は須恵器杯Bである。底部は1513がヘラ切り、1515がヘラケズリである。1517～1520は須恵器杯である。底部はヘラ切りである。1521～1523は須恵器皿である。1521・1522は大型の皿で、高台をもたない。口縁部は端部のみ緩く内彎しながら立ち上がる。1521は内面及び口縁部外面に回転ナデ、底部外面に板ナデが施されている。1522は内面及び底部外面にヘラミガキが施されている。1523は輪高台をもち、口縁部が大きく開き、端部が外反している。底部はヘラ切りである。1524は須恵器稜碗である。器高がかなり低い。1525は須恵器高杯である。1526・1527は須恵器杯B蓋である。1526は天井部外面に回転ナデが施され、宝珠形のつまみをもっている。1527は天井部外面に回転ヘラケズリが施され、ボタン状のつまみをもっている。1528は須恵器底部である。開く輪高台をもっている。底部は回転糸切りである。1529・1530は須恵器円面硯と思われる。1530は高い脚部で、端部は玉縁状である。1531は須恵器甌と思われる。2孔式の中央の棧の部分と考えられる。底部内面は回転ナデ、底部外面はナデが施されている。棧の側縁は面取りがなされている。1532～1534は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗IV類である。1535・1536は土師器土馬である。足の部分のみ本体より剥離している。足の裏に穴が穿たれている。表面はナデが施されている。1537は須恵器管状土錘である。重量は22.6gである。

65区(図版272 写真図版360)

SK112

1538は須恵器杯である。底部はヘラ切りである。

水田

1545は須恵器高杯である。

包含層

1539は土師器管状土錘である。重量は11.1gである。1540は土師器土馬である。足の部分のみ本体より剥離している。表面はナデが施されている。1541は須恵器杯Bである。底部は回転ヘラケズリが施されている。1542は須恵器皿である。底部は回転ヘラ切りである。1543は須恵器稜碗である。体部外面

は板ナデが施されている。1544は須恵器壺である。高い輪高台をもっている。底部は回転ヘラ切りである。底部内面に自然釉が付着している。1546は染付磁器底部である。皿と思われる。内面には鳥文が描かれているようである。

66区(図版272 写真図版360)

SK113

1547は緑釉陶器底部である。底部はケズリ出しの輪高台で、高台脇のケズリが粗い。京都系の製品である。

包含層

1548は須恵器杯B蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。つまみはボタン形である。1549は白磁碗である。森田・横田分類白磁碗Ⅳ類である。

67区(図版272 写真図版360)

包含層

1550は須恵器捏鉢である。口縁部端面に丸味をもち、やや拡張している。

68区(図版272 写真図版361・362)

包含層

1551は須恵器杯Aである。表面は磨滅している。1552・1553は須恵器皿である。輪高台をもっている。口縁部は短く立ち上がる。1553は底部に回転ヘラケズリが施されている。1554～1557は須恵器円面硯である。1554はやや大型である。1555・1557は脚部に方形透かしが入れられている。

69区(図版273 写真図版22・361～363)

SK135

1558は土師器高杯である。脚柱部外面はヘラケズリにより八角柱にされている。

SK136

1559は土師器碗である。底部はヘラ切りと思われる。1560は須恵器碗である。平高台はわずかに突出している。底部は回転糸切りである。

包含層

1561は土師器杯である。口縁端部は巻き込み気味である。1562は土師器底部である。高い輪高台をもっている。底部はヘラ切りである。1563・1564は土師器製塩土器である。内外面ともナデが施されている。1565は土師器羽釜である。口縁部は短く上方へ立ち上がる。内面はヨコナデ、体部外面はナデが施されている。1566は土師器羽口である。復元孔径は2.6cmである。1567は土師器土馬である。胴体部の破片である。下面は溝状にくぼんでいる。尻の面には穴が穿たれている。1568・1569は須恵器杯Aである。底部はヘラ切りである。1570～1572は須恵器杯Bである。底部は回転ヘラケズリが施されている。1573～1577は須恵器皿である。1573～1575は高台をもたない。1573は底部内面及び外面にヘラミガキが施されている。1574は底部がヘラ切りで、底部外面縁部のみ板ナデが施されている。1575は底部外面に回転ヘラケズリが施されている。1576・1577は輪高台をもち、口縁部は短く立ち上がる。1578は須恵器稜碗である。内外面とも回転ナデが施されている。1579は須恵器壺である。口縁部は外反して開き、端部内縁をつまみ上げている。1580は須恵器壺である。体部の破片で、外面に沈線で樹木文のようなものが描かれている。1581・1582は緑釉陶器碗である。1581は底部がケズリ出しの輪高台で、高台脇のケズリは粗い。内面～高台脇・高台内中央に施釉がなされている。京都系の製品である。1583は備前焼壺で

ある。肩部に櫛描波状文が入れている。1584は唐三彩弁口瓶である。口縁部から頸部下端までが残存している。口縁部はいわゆる弁口形で、注口部を前に長くつまみ出している。反対側には龍頭の把手が付くものと推定される。頸部は細長く、中央付近に断面が丸味をもつ2条の突帯をもっている。胎土は白色で、黒色砂粒が認められる。釉は全面に施釉されていたが、外面はほとんど剥離している。外面の釉は白釉に褐釉、緑釉が流し掛けされている。内面は上部が淡い白～褐色で、下部に黒に近い濃色が溜まっている。残存部のサイズからすると器高は20cm台の後半と推定される。1585は平瓦である。凸面は格子タタキが施され、凹面は布目が付いている。

第7節 石器・石製品

1. 概要

池ノ下遺跡では、各調査区より多様な時期の石器・石製品が出土している。その多くは、遺物包含層（古土壌層）、ないしは後世の遺構内から出土しており、本来、当該遺物が所属する時期の層位あるいは遺構から遊離したものであり、一括性のある遺物群として把握しうるものはB地区の竪穴住居跡SH001出土の石器群のみである。このような事情から、以下では石器・石製品について、地区および遺構単位で資料を図示し、個別に記載をおこなうこととする。

なお、本節で記載した資料の素材および主要な属性については、本稿末尾の別表2に一括している。

2. A地区

1区(図版274 写真図版364)

S1は、二次加工のある剥片に分類した資料であるが、図上側の縁辺が顕著に潰れており、楔形石器であった可能性を捨象できない。やや厚手の横長剥片を素材としており、その末端側縁辺に不規則な二次加工が見られる。二次加工は、素材剥片の背面(図左面)に対してやや急斜度に施されている。SD002より出土した。

3. B地区

4区(図版281 写真図版372)

S2は、砥石である。図上側の面には敲打による整形痕が認められる。下部は折れ面であるが、本来は直方体状であったものであろう。SB005P11より出土した。

7区(図版274 写真図版364)

S3は、平基式石鏃である。風化が進行しており、器表面は灰白色を呈する。両側縁がわずかに膨らみをもつ。遺物包含層より出土した。

13区(図版274・281 写真図版364・372)

S4は、砥石である。ほぼ直方体状を呈し、その3側面に研磨痕が認められる。図下部は折れ面となる。SB013P07より出土した。

S5は、凹基無茎式石鏃である。一側縁が直線的に整形されているのに対し、これに対する側縁は、わずかに凹んだ形状を見せる。基部の挟りU字形を呈し、挟りの深さは器長の1/5程度である。SB013P07より出土した。

S6は、遺物包含層より出土した尖頭器である。剥片の縁辺に浅い角度の二次加工を施し、尖頭部を作り出している。左図右側縁が鋸歯状を呈するが、これは新欠によるものである。基部は逆三角形に見えるように見えるが、左図右下側は古い折れ面であり、この折れ面が側縁の二次加工を切っていることから、現状の基部形態は本来意図されたものではないと判断される。石鏃未製品の可能性も考慮される。

15区(図版274 写真図版364)

S7は、凹基無茎式石鏃である。基部の挟りは三角形を呈し、器長の1/2近くに達する。脚端部は丸く仕上げられている。風化が進行している。P1501より出土した。

16区(図版274・275 写真図版364・365)

【SH001】

S8～S23(図版274・275)は、竪穴住居跡SH001より出土したものであり、本報告書で記載する石器のうち、唯一、一括性が高いと判断される資料群である。

ガラス小玉

S8はガラス小玉である。鮮明な赤色を呈するガラスで、やや歪んだ球形をなす。

石鏃

S9は凹基無茎式石鏃である。ごく小型の剥片を素材とし、腹面側からやや急斜度の二次加工を施している。両側縁はわずかに膨らみをもち、基部の抉りはごく浅い。風化が進行している。

S10も凹基無茎式石鏃であり、表裏から二次加工が施される点以外は、S9に酷似している。

S11は凹基無茎式石鏃である。両側縁は緩やかに凹み、基部の抉りもごく浅い。二次加工は面的に施されており、断面は凸レンズ形を呈する。

S12は両脚部を折損し、基部がほとんど残されていないため、本来の形態は断定できないが、平基、またはわずかな凹基をなす石鏃であろう。一側縁がほぼ直線的であるのに対し、他方は顕著な膨らみを見せる左右非対称形の石鏃である。風化が進行している。

石錐

S13～S15は石錐である。

S13は、不定型な剥片の、主として腹面側から急斜度の二次加工を施している。つまみ部と錐部の境界は不明瞭である。全体に二次加工が粗雑で不規則であり、あるいは二次加工のある剥片とすべきかもしれないが、錐部先端にわずかに摩耗が認められることから、本器種に分類した。

S14は幅広のつまみ部をもつ石錐で、つまみ部と錐部の境界は明瞭である。錐部先端は折損している。錐部の稜線には摩耗が認められる。

S15は不定型な剥片の両側縁に、主として腹面側から急斜度の二次加工を施したものである。剥片の腹面が不規則に、強く波打っているため、平面形もその影響を受けている。錐部先端は折損している。

楔形石器

S16～S19は楔形石器である。

S16・S17は、ほぼ平行に相対する上下二側縁から打撃が行われている。いずれの側縁も潰れが認められる。S16の上側は折れ面であり、この面を打撃して顕著に潰れた縁辺を形成している。

S18は一端が丸く終わっており、一般的に四辺形をなす楔形石器とは、やや異なった形態を示すが、縁辺が潰れていること、右図右側面に截断面が形成されていることから、本器種に分類した。風化が進行した資料である。

S19は、本器種としてはやや異質な形態という印象を受けるが、やはり縁辺に潰れが認められ、右図右側面に截断面が形成されていることから、本器種に分類した。図上側は素材上の折れ面であり、この面を打撃して顕著に潰れた縁辺を形成している。

二次加工のある剥片

S20～S23は、二次加工のある剥片とした。

S20は、剥離の際に打撃点を中心として、縦方向に破断した剥片に二次加工を施したものである。下端を尖らせるように加工されていることから、石錐として用いられた可能性がある。

S21は、小型の横長剥片を素材とし、その打面側および末端側縁辺に急斜度の二次加工を施したものである。左図右側縁は表裏から二次加工を施した、対向調整となっており、ある種の小型ナイフ形石器を想起させる。図下端を尖らせるように加工しており、やはり石錐として用いられた可能性がある。

S22はごく細長い剥片の両側縁に、主として腹面側から二次加工を施したものである。図下端を尖らせるように加工しており、端部にやや摩耗が認められることから、石錐として用いられた可能性がある。

S23は、板状の剥片の一部に、不規則で浅い二次加工を施したものである。右図右側面は、折れ面である。

17区(図版275 写真図版365・366)

S24～S26は、17区の包含層より出土した。

S24は、平基無茎式石鏃である。両側縁はほぼ直線的に仕上げられている。

S25は熱破碎と考えられる剥片である。図左面は、剥離面がきわめて不規則に強く波打っており、図右面では、リング・フィッシャーが剥離面の中央に集束する。左図の下～左縁辺に見られる細かな剥離痕状の面も、仔細に観察すると打撃点が識別できず、受熱によって生じた破碎と思われる。

S26は石棒の断片と思われるが、両端を折損しているため確定できない。石英脈を含む片岩礫を素材としており、器表面に肉眼で識別可能な加工痕は認められない。

4. C地区

19区(図版276 写真図版366)

S27は石材不明の、二次加工のある剥片である。不定型な剥片の末端に、背面側から不規則な二次加工を施している。背面に気泡状の自然面をとどめている。素材剥片の打面部は折損している。

5. D地区

23区(図版276・281 写真図版366・372)

S28は硬質の細砂岩を用いた砥石である。下端は折れているが直方体状を呈し、幅広の1面が研磨作業面となっている。SB037P07より出土した。

S29～S31は、遺物包含層より出土した。

S29は凹基無茎式石鏃である。両側縁は精緻な二次加工によって概ね直線的に仕上げられているが、先端付近のみ両側縁が屈折している。仔細に観察するとこの部分は、他の縁辺に比べて二次加工がやや急斜度となっているほか、両側縁が互いに異なる面から加工が施されていることがわかる。こうした状況から、先端付近には、再生加工(リダクション)が施されたと考えられる。

S30は、ほぼ左右対称の木葉形に作られた有茎式石鏃である。厚みのある剥片を素材とし、全周にわたって均質な二次加工が施されている。側縁と茎部の境界は、わずかに側縁を窪ませている。全体に稜線が摩耗しており、二次的な移動が大きかったものと思われる。

S31は凸刃の削器である。厚手の剥片を素材とし、その末端部に表裏から二次加工を施して弧状の刃部を形成している。刃部に相対する縁辺(図上部)は、打撃を繰り返すことで潰している。これは、刃部に対して背部を意図したものと思われる。

27区(図版276 写真図版366)

S32は石匕である。表裏ともに精緻な二次加工を施し、ほぼ左右対称の扇形を呈している。つまみ部

は側面観がやや歪んだ楕円形に作られ、その基部には両側縁ともに抉りを形成している。刃部は厚く、直線的に作られている。SD041より出土。

28区(図版276・277 写真図版367)

S33は、いわゆる「飛行機鎌」の形態を示す、平基無茎式石鎌である。側縁中央に段を設け、そこから基部に向けて、一段、幅が広がる。SD045より出土。

S34は、打製石包丁である。全体に短冊形を呈し、その1側縁に表裏から二次加工を施して、直線的な刃部を作る。刃部に相対する縁辺は、ゆるやかな弧状に整形されている。全体に、剥離面に光沢が生じるほど顕著に摩耗しており、特に上下の縁辺は著しく摩耗している。28区のSW009より出土。

S35は、凹基無茎式石鎌である。両側縁はゆるやかな膨らみをもち、基部は弱い凹基をなす。SD046より出土。

S36は、平基無茎式石鎌である。両側縁はほぼ直線的に整形されている。風化が進行して、剥離痕の稜線は不鮮明である。SD048より出土。

S37～S40は、遺物包含層より出土した。

S37は、横長剥片を素材とした削器である。剥片末端部の縁辺に、背面側から細かな二次加工を施している。

S38は楔形石器である。図の上下両端から剥離を進めており、左図右側縁に、截断面が形成されている。

S39は、剥離軸の偏ったやや厚手の剥片を素材とした、尖頭をもつ削器である。剥片の両側縁に、主として背面側から浅い角度の二次加工を施して、刃部を形成している。素材剥片の末端部には、表裏から二次加工を施して、尖頭部を作出している。

S40は鋸歯縁石器である。素材剥片は、剥離時に打撃点を中心に破断しているが、残された剥片の一次剥離によって生じた縁辺に、腹面側から二次加工を施している。

29区(図版281 写真図版372)

S41は石鍋である。破砕しているが、片面に整形痕をとどめている。SK029より出土した。

31区(図版277 写真図版368)

S42は石核である。サヌカイトの亜円礫を素材とし、その一端から輪切り状に剥離を進めている(図左面)。図右面の剥離面は、リング・フィッシャーが面の中央に集束しており、一見、熱破砕的な様相を見せるが、器表面には受熱の痕跡がなく、むしろ、材質そのものに起因する破砕面かもしれない。SD057より出土。

33区(図版277・278 写真図版367・368)

S43・S44は、33区の包含層より出土した。

S43は、二側縁加工のナイフ形石器である。厚手の横長剥片を素材とし、その打面側側縁と、末端側側縁の一部に、腹面側から二次加工を施している。背面側には、多方向からの剥離痕が認められることから、打点を不規則に移動させる横長剥片剥離技術を基盤としたものと考えられる。

S44は錘と判断した。石材を研磨によって白形に整形し、その上部に片面から穿孔している。

34区(図版278・281 写真図版368・372)

S45は柳葉形の石鎌である。ほぼ左右対称形に整形されており、身部と茎部の境界は、側縁を緩やかに凹ませている。SD063より出土。

S46は楔形石器である。平行四辺形を呈し、その上下両縁辺から打撃をおこなっている。左図右側面は、折れ面となっている。風化の非常に浅い個体である。SD063より出土。

S47は均整のとれた魚形を呈する石鏃である。両側縁は緩やかなS字形に整えられ、縁辺は細かい鋸歯状を呈する。長軸の下部1/3付近から、脚部に向かって幅を広げ、基端部はわずかな凹基となっている。SD069より出土。

S48は、平面がほぼ正方形をなす楔形石器である。上下両縁辺から打撃が行われており、両側縁には截断面が形成されている。のSD071より出土。

S49～S51は、SD075より出土した。

S49は平基無茎式石鏃である。基部を水平に置くと、左右両側縁の傾きが異なること、片側側縁の二次加工が、他方と比較して粗略であることから、1側縁(左図では右側縁)は再生加工(リダクション)がおこなわれた可能性がある。

S50は五輪塔の火輪、S51は五輪塔の水輪である。

S52～S55は、SD086から出土した。S52のみは33区出土であるが、SD086が33区から35区にかけて延びる溝であるためここで記載する。

S52は凹基無茎式石鏃である。全体に丁寧な押圧剥離が施されている。両側縁はほぼ直線的に仕上げられている。先端は丸く仕上げられている。両脚を折損する。

35区(図版278・282 写真図版368・369・372)

S53は平基無茎式石鏃である。両側縁はやや膨らみをもつ。基部の加工が粗雑であることから、未製品の可能性が考慮される。

S54は、細長い柳葉形の両端を切断したような形態を呈する。二次加工は両側縁ともに表裏から施されており、断面は凸レンズ状となる。片面に自然面をとどめる。器種の判断に迷う資料であるが、弥生時代中期に散見される、細身の柳葉形の石鏃の可能性があるかと判断した。二次加工はやや粗い印象を受けるため、未製品の可能性も考慮される。

S55は砥石である。扁平な板状を呈し、1面に砥面を設けているが、他はすべて破断した面である。

S56は紅簾片岩の石片である。二次加工の痕跡は明瞭ではない。SD083より出土。

S57は緑泥片岩製の石棒表面が、剥落した断片と思われる。表面は平滑に仕上げられている。SD082より出土。

S58は二次加工のある剥片である。左図左側縁に大きな新欠が生じているため明瞭ではないが、両側縁および基部に表裏から二次加工が施されている。図上面は折れ面である。SD077より出土。

S59は凹基無茎式石鏃である。1側縁はほぼ直線的、他方はやや歪みをもち、先端は丸みをおびた形態に仕上げられている。基部はわずかな凹基である。風化は浅い。SD084より出土。

37区(図版278・282 写真図版369・372・373)

S60は凹基無茎式石鏃である。1側縁は丸みをおび、他方はほぼ直線的に作られた縁辺が、先端にかけて屈折する。基部は浅い弧状の凹基である。SD108より出土。

S61～S66は、37区の包含層より出土した。

S61は凹基無茎式石鏃である。両側縁はほぼ直線的に作られ、先端部にかけて屈折する五角形状を呈する。基部は浅い弧状の凹基である。

S62は、扁平な板状の砥石である。緻密な石材(不明)を素材とし、その4側面に研磨痕が認められる。

上下両端は折れ面である。

S63～S66は石鍋の破片である。いずれの個体も表裏に研磨痕をとどめるほか、S65では、底面に鑿状の整形痕が残る。またS61・S65では穿孔が認められるが、これが破片の再利用に伴うものか、器体の修理を意図したものかは不明である。

6. E地区

41区(図版279 写真図版369)

S67・S68は、遺物包含層より出土した。

S67は凹基無茎式石鏃である。両側縁は緩やかに凹み、脚端部は丸く仕上げられている。基部の挟りは頂部の丸い三角形状を呈し、深さは残存器長の1/4程度である。

S68は凹器無茎式石鏃である。両側縁はほぼ直線的に作られており、ともに脚部に向かって緩やかに屈折する。脚は方形に仕上げられている。基部の挟りはU字形を呈し、挟りの深さは器長の1/7程度である。

7. F地区

46区(図版279・283 写真図版369・373)

S69は直方体状の石製品である。3側面に、鑿状の工具で表面を整形した痕跡と、その後の研磨痕をとどめる。砥石の未製品の可能性が考慮される。SD127より出土。

S70は平基無茎式石鏃である。1側縁は緩やかなS字状を呈し、屈折して先端に至るが、他の側縁では、先端に至る屈折が見られない。基部にかけては大きく幅を広げる。遺物包含層より出土。

47区(図版279・282 写真図版369・373)

S71は楔形石器である。図上縁は新欠のため、本来の縁辺をとどめないが、下縁には打撃による潰れが認められる。左図左側面は截断面、同右側面は折れ面である。SD133より出土。

S72は片麻岩製の二次加工のある剥片である。図の上下両端は折れ面であるが、右図右側縁には、不鮮明ながら表裏ともに剥離痕が認められる。SD133より出土。

51区(図版279 写真図版370)

S73は凹基無茎式石鏃である。大きく開いてのびる細い脚部を見せ、基部は浅く弧状に挟られている。風化が著しく進行しており、剥離痕の観察も困難である。遺物包含層より出土。

52区(図版283 写真図版373)

S74は花崗岩製の臼である。中央に軸を差し込む孔の痕跡をとどめる。片面には、挽き目が溝状に刻まれている。分画数は不明であるが、目の中心角からは6分画であった可能性が高い。SD151より出土。

53区(図版279 写真図版370)

S75は凹基無茎式石鏃である。側縁は丸みをもち、脚端部は尖る。基部の挟りは弧状を呈し、器長の1/5程度である。風化が著しく進行し、剥離面の観察が困難である。SK048より出土。

55区(図版279 写真図版370)

S76はナイフ形石器である。厚みのある横長剥片を素材とし、その打面側側縁と末端側側縁中央に、腹面側から二次加工を施している。背面側には腹面側と同一方向からの剥離痕のほか、対向方向からの剥離痕2枚が認められる。風化は進行しているが器表面は堅緻である。55区の包含層より出土。

S77は凹基無茎式石鏃である。丸みをもつ側縁から、鋭利な脚端部に至る形態を示す。基部の挟りは弧状を呈し、器長の1/3に達する。55区の包含層より出土。

56区(図版279・284 写真図版370・374)

S78は、長幅比がほぼ2:1を示す凹基無茎式石鏃である。両側縁は長く緩やかなS字状を呈し、基部はわずかに弧状の挟りを見せる。二次加工は全体に丁寧におこなわれている。SD175より出土。

S79は、長幅比が1.5:1以下となる凹基無茎式石鏃である。両側縁はほぼ直線的に作られ、基部の挟りは弧状で、ごく浅い。SD178より出土。

S80は、細粒の砂岩を用いた直方体状の砥石である。表裏2面が砥面となっており、ともに、使用のため大きく凹んでいる。全体に火熱を受けて変色している。SX002より出土。

S81は、二次加工のある剥片である。薄い剥片の周縁に、細かな二次加工を施して刃部を形成している。包含層出土。

S82は、紅れん片岩製の石棒と思われる。細長い礫をそのまま利用しており、縦方向に破損している。包含層出土。

S83は砥石である。細粒の砂岩を直方体状に整形し、幅広の1面を研ぎ面としている。一部が変色しており、火熱を受けたものと思われる。遺物包含層出土。

8. G地区

57区(図版280 写真図版371)

S84は、楕円形の砂岩礫を用い、その一端に二次加工を施した礫器である。二次加工は、まず礫表面を打撃して剥離面を形成し、その後この剥離面と礫表皮がなす稜線付近を打撃して、稜と尖端を形成している。加工部位の断面は三角形を呈する。機能については不明である。SD189より出土。

58区(図版280・284 写真図版371・374)

S85はサヌカイト製の凹刃削器である。横長剥片を素材としており、その打面側縁辺を打撃によって潰して弧状に整形する。相対する縁辺には、急斜度の二次加工によって、弱く内湾する刃部を形成している。器表面の稜線には摩耗が認められるが、風化は浅い。SD201より出土。

S86はサヌカイト製の凸刃削器である。大型の横長剥片を素材とし、その末端側に表裏から浅い角度の二次加工を施している。打面部周辺は、打撃により縁辺が潰れている。素材剥片の背面側には、石核底面と思われるポジティブな剥離面をとどめている。SD201より出土。

S87は片麻岩の角礫を分割したものである。角閃石を多く含み、石英を脈状に含む。本遺跡周辺には、角礫状の片麻岩を産出しないため、人為的に持ち込まれた石材と判断した。SD201出土。

S88は、凹基無茎式石鏃である。両側縁はほぼ直線的に整形され、脚と挟り部分は丸く仕上げられている。遺物包含層出土。

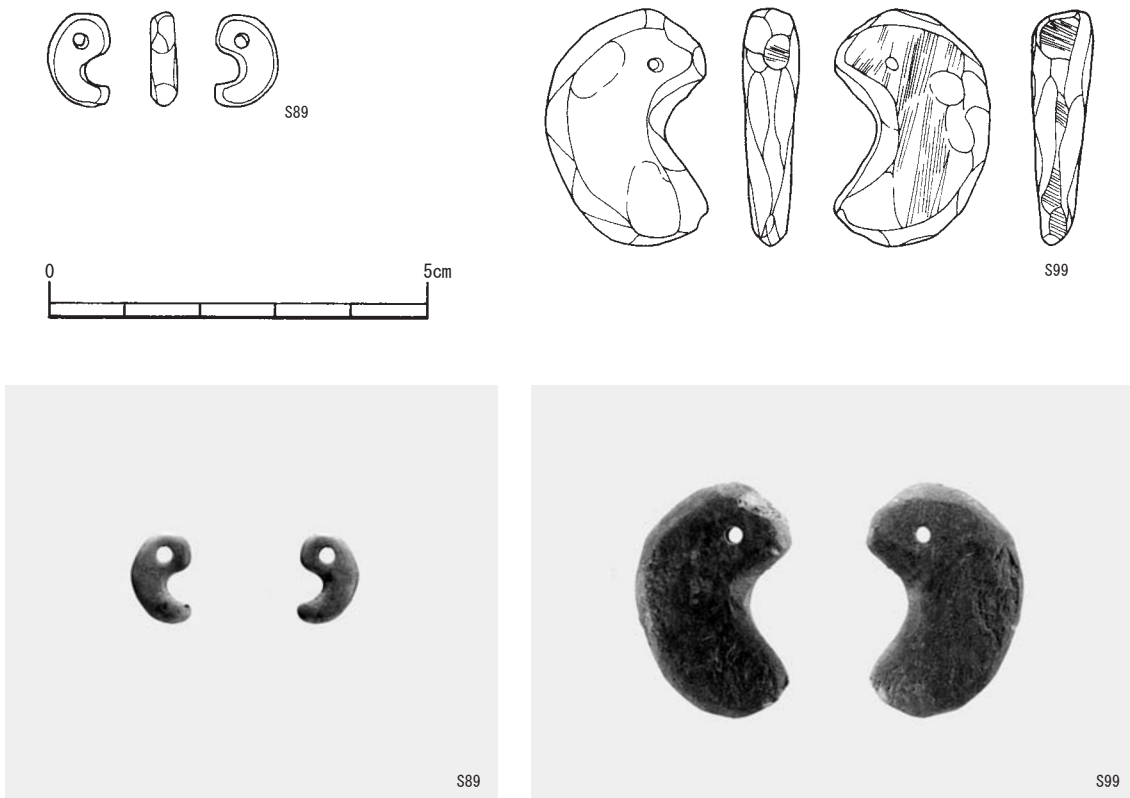
9. H地区

61区(第4図)

S89は、碧玉製勾玉である。SD209出土。

62区(図版283~285 写真図版374・375)

S90は、中粒砂岩を用いた石皿であろうか。図左面中央は凹面で、敲打痕が認められる。SK076出土。



第4図 遺物 H地区出土勾玉

S91は、凝灰岩製の砥石である。大きく破損しており、研磨作業面は遺存しておらず、整形加工が施された2面をとどめるのみである。SD224出土。

S92は、細～中粒砂岩の垂円礫を素材とした砥石である。礫の形状を大きく変更せず、比較的平坦な面を研ぎ面としている。SK085出土。

S93は、石材不明の砥石である。図右面の右上部分が、きわめて端正な直角に仕上げられている。図示した面以外は破断面であり、本来直方体であったものが破損したものであろう。包含層出土。

S94は、粗粒の砂岩礫を用いた凹み石である。図中央付近には、打撃痕が顕著に集中した凹部が形成されている。周縁部も敲打により整形されており、左右両側縁ともに中央よりやや上部を敲打によって凹ませている。包含層出土。

64区(図版285 写真図版375)

S95は、黄白色を呈する凝灰岩製の不明石製品である。砥石の可能性も考慮したが、断面が八角形(もしくは七角形)の多角柱状に整形され、器表面がよく研磨されていることから、砥石以外の石製品としておく。遺物包含層出土。

65区(図版284・285 写真図版374・375)

S96は、白色凝灰岩製の砥石である。直方体に整形され、うち、幅広の2面を研ぎ面としている。遺物包含層出土。

S97は、サヌカイト製の石核である。大型の剥片を素材とし、その縁辺から剥片剥離を進めている。右図右側縁・下縁には、他の剥離痕と比較して風化の浅い、不規則な剥離痕が多数認められる(二重風化)。本資料は、水田土壌より出土していることから、原位置を遊離した後、耕作によって不規則な打

撃を被ったものと思われる。

S98は、砂岩礫を用いたもので、その形態から石杵の可能性が考慮される資料である。左図中央および周縁の一部には敲打痕が認められ、下方ほど幅広となる。下面は平坦に整形され、敲打痕のほかに研磨痕が認められる。肉眼では朱の付着などは認められない。遺物包含層出土。

66区(第4図)

S99は、石材不明の勾玉である。ごく扁平に作られており、孔は図左面の方が、相対する面よりもやや大きい。研磨は粗略で、素材の凹面を残している。古墳時代中期の所産であろう。遺物包含層出土。

67区(図版280・285 写真図版371・375)

S100は平基式石鏃である。端正な二等辺三角形に整形される。基端部が、わずかに脚状に作られている。SD0256出土。

S101は石錘である。黄白色凝灰岩の円礫を用い、その周縁を敲打して浅い溝を形成している。SD257出土。

S102は凹基無茎式石鏃である。両側縁はわずかに膨らみをもち、脚端部は丸く仕上げられている。基部の抉りは丸く、器長の1/5程度である。風化が進行している。遺物包含層出土。

68区(図版280 写真図版371)

S103は楔形石器である。厚みのある板状剥片を素材とし、上下両端から打撃がおこなわれており、両側縁に載断面が形成されている。風化が著しく進行しており、器表面はほぼ白色を呈する。包含層出土。

S104は凹基無茎式石鏃である。両側縁はほぼ直線的に作られ、基部はわずかに抉られている。脚端部は鋭く尖る。風化が進行して全体に灰白色を呈し、剥離面の観察が困難である。包含層出土。

S105は丸柄である。黒色で硬質の粘板岩を用いている。器表面は丁寧に研磨されており、光沢をもつ。裏面(図左面)には、帯に結束するための孔が3か所に穿たれている。遺物包含層出土。

10. 小結

今回報告した資料は、その多くが原位置を遊離したものであり、器種組成や技術組成について明らかにできる点はわずかであるが、以下で、石器に関するまとめをおこなっておきたい。

本遺跡では、後期旧石器時代に遡る資料として、ナイフ形石器2点(S43・S76)が出土した。いずれも遊離資料であるが、夢前川河口に近い地域では初めての出土例であり、今後、本地域での研究を進める契機となる発見と言える。

いずれも、瀬戸内地域の剥片剥離技術の系譜上で理解できる横長剥片を素材とした、二側縁加工のナイフ形石器であり、素材剥片の技術的特徴からは、国府石器群以降に位置づけられる可能性がある。当該時期の石器群として、隣接地域では、たつの市御津町の碇岩・南山遺跡出土の石器群が知られているが、横長剥片剥離技術を基盤とするという点では共通するものの、ナイフ形石器の形態・技術には相違点も認められる。

縄文時代に属する石器は、調査区の広い範囲から出土しており、本遺跡における縄文時代の生活領域の広がりを示唆している。石鏃のみでは詳細な時期を決定することはできないが、S73は、その形態から縄文時代早期～前期に、S7は前期～中期に属する可能性がある。S33は晩期に属するものであろう。また、精美な扇形横型を呈する石匕S32も、縄文時代前期以降に属する可能性があろう。また、形態が

わかる資料はないものの、石棒の断片と思われる資料(S26・S57・S82)も、縄文時代の所産である可能性が高い。

こうしたことから、調査区周辺は縄文時代の相当長い期間にわたり、断続的に利用されていた可能性が想起される。

弥生時代の石器は、石鏃、石錐、打製石包丁のほか、多様な形態の削器が出土している。肉眼観察によれば、当該時期の打製石器の大部分は、讃岐産のサヌカイトを用いているようである。

抉りの浅い凹基無茎式、平基式石鏃の多くは、弥生時代に属するものと思われ、これに柳葉形の有茎式石鏃(S30・S45)が少数伴う。石錐は、つまみを有するものと棒状を呈するものが認められる。本器種には含めなかったが、S20・S21・S22も、棒状の錐として用いられた可能性があろう。

打製石包丁は、使用による摩耗が進行した資料である。今回の調査では磨製石包丁が出土しておらず、打製石包丁もわずか1点の出土であり、稲作に関連する石器が総じて希薄な印象を受ける。

楔形石器は、今回報告した中でも多数を占める器種であり、縄文時代～弥生時代の資料を含むものと思われるが、その峻別はできない。両極打撃が行われる縁辺の高さが4 cm前後のものと、6 cm～7 cmを測るやや大型のものが見られる。

これらの他に、片岩あるいは片麻岩の断片(S56・S72・S87)が出土している。こうした岩種は、調査地近隣では産出せず、人為的に持ち込まれたことは明らかである。本遺跡で出土した石棒が、片岩類を用いていることから、これらの石材の一部は縄文時代に搬入された可能性があろう。

第8節 金属器

1. B地区の金属器

14区P1401、18区SD013から鉄滓、7区・10区の包含層から銅銭が出土している。

製鉄関連遺物(図版286 写真図版376)

M1～M7は鉄滓である。M1は14区P1401、M2～M7は18区SD013から出土した。径2cm以下の白色礫が付着したものが多い。M7は下面に土器が付着している。M3・M4は金属学的分析の結果、鍛錬鍛冶滓に分類されている。

銅製品(第5図 写真図版380)

M77・M78は銅銭である。M77は北宋嘉祐元年(1056)初鑄の嘉祐元寶である。7区包含層から出土した。M78は銅銭である。寛永13年(1636)初鑄の寛永通寶である。10区包含層から出土した。

2. C地区の金属器

19区SB030P13、21区SD028から鉄釘、19区遺物包含層から銅銭が出土している。

鉄製品(図版286 写真図版376)

M8・9は鉄釘である。M8は19区SB030P13、M9は21区SD028から出土した。M8は頭部を平たくつぶして、折り返している。

銅製品(第5図 写真図版380)

M79は銅銭である。北宋元豊元年(1078)初鑄の元豊通寶である。19区遺物包含層から出土した。

3. D地区の金属器

23・26・30・35・37・39区で鉄製品・製鉄関連遺物が出土している。30区SD048からは銅鏃が出土している。

鉄製品(図版287・288 写真図版376・377)

M11・14は鉄釘である。M11は26区SB040P04、M14は35区SD086から出土した。M14は全長22.4cmの大型の鉄釘である。東部は断面方形でやや膨らんでいる。

M23・26は不明鉄製品である。M23は37区SB051P10、M26は37区SK039から出土した。M23は板状の本体に打ち込まれた鉄の一部が残存している。M26は細長い板状の製品である。

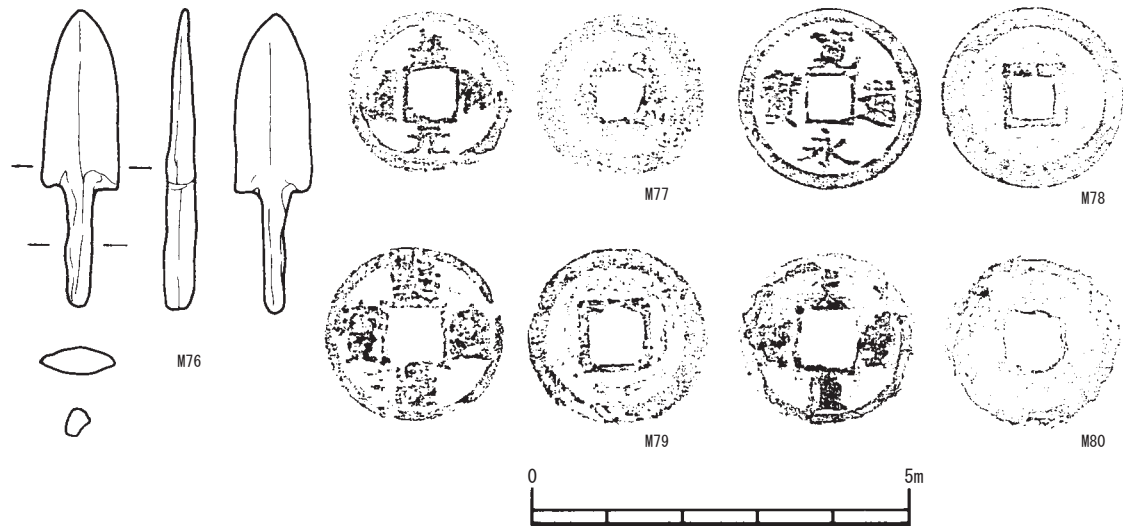
製鉄関連遺物(図版287～289 写真図版376・377)

23区SB037P02(M10)、26区SD038(M12)、26区包含層(M13)、35区SD086(M15～M22)、37区SK040(M24・25)、37区包含層(M27～M32)、39区包含層(M33)から鉄滓が出土している。35区SD086、37区包含層では比較的まとまった量で出土している。

M10・M12・M13・M15～M22・M24・M25・M27～M33は鉄滓である。M16・M17は金属学的分析の結果、鍛錬鍛冶滓に分類されている。M17では鋼と判断される金属鉄部分が確認されている。

銅製品(第5図 写真図版380)

M76は銅鏃である。有茎小形の型式で、鏃身は膨三角形である。鏃は明瞭で、腸袂は十分に作り出されていない。茎部は筈の合わせ目で表裏が若干ずれている。30区SD048から出土した。



第5図 遺物 銅製品

4. E地区の金属器

43区包含層から不明鉄製品が出土している。

鉄製品(図版289 写真図版377)

M34は不明鉄製品である。板状の製品である。43区包含層から出土した。

5. F地区の金属器

45区、47区、53区で鉄製品、製鉄関連遺物が出土している。

鉄製品(図版289 写真図版377・378)

45区SK047、45区攪乱包含層、47区SD133、53区 SB065柱穴、53区SB071柱穴から鉄製品が出土している。

M35は鉄製釣針である。45区攪乱包含層から出土した。

M36は鉄製鑿である。頭部は鞍状につぶれている。45区SK047から出土した。

M37・42～45は鉄釘である。M37は47区SD133、M42は53区SB065P12、M43・M44はSB065P07、M45は53区SB071P12から出土した。M42は3点が付着し、側面に木質が付着している。頭部は平たく押しつぶして折り曲げている。

製鉄関連遺物(図版289～291 写真図版378・379)

47区SD133(M38)、47区包含層(M39)、53区SB065P05(M40)、53区SB071P17(M46)、53区SK050(M47～M49・M51)、53区包含層(M52・M53)、55区SD166(M54)、55区包含層(M55)、56区SD183(M56)、56区包含層(M57～M61)から鉄滓、53区SB065P12(M41)、53区SK050(M50)から鉄塊が出土している。

M38～40・M46～M49・M51～M61は鉄滓である。M40は表面に木炭が多く付着している。M47は金属学的分析により鍛錬鍛冶滓に分類されている。M58は表面の磁着が弱く、裏面の磁着が強い。

M41・M50は鉄塊である。表面に気泡などは認められない。M41は金属学的分析により精錬鍛冶作業前の状態の鍛冶原料に分類されている。

6. G地区の金属器

58区で鉄釘、鉄滓、銅銭が出土している。

鉄製品(図版291 写真図版379)

M62は鉄釘である。SB077P09から出土している。

製鉄関連遺物(図版291・292 写真図版379)

M63～M67・M69・M70は鉄滓である。M63・M64は58区SD201、M65～M67は58区SK061、M69は58区SK063、M70は58区包含層から出土している。

M68は不明鉄片である。表面に気泡などは認められないが、磁着は弱い。58区SK061から出土した。

銅製品(第5図 写真図版380)

M80は銅銭である。北宋熙寧元年(1068)初鑄の熙寧元寶である。58区SK061から出土した。

7. H地区の金属器

62区包含層・63区包含層から鉄滓が出土している。

製鉄関連遺物(図版292 写真図版380)

M71～M75は鉄滓である。M71～M74は62区包含層、M75は63区包含層から出土した。

8. 小結

今回報告を行った金属製品75点のうち55点が鉄滓・鉄塊など製鉄に関連する遺物で占められている。製鉄関連遺物はB・D・F・G・H区などで出土しており、ほぼ全域で出土している。特にB地区18区SD013、D地区35区SD086、D地区37区包含層、F区53区SK050、G区58区SK061などD地区西部、F地区東部付近で多く出土している。時期的にはほぼ12世紀代に集中しているものと思われる。

このうち5点の椀形滓と1点の鉄塊について金属学的分析をおこなった(第5章第3節参照)。椀形滓については鍛錬鍛冶滓に分類され、そのうち、M17では鉄素材(鋼)と判断される金属鉄部分が確認されている。また鉄塊(M41)については精錬鍛冶作業前の状態の鍛冶原料に分類されている。

調査区内では鍛冶炉などの遺構は検出されていないが、鉄滓の出土量は多く、鉄素材を利用した生産を行ったことからすると、単なる道具を修復する程度の鍛冶ではなく、ある程度規模で製品の生産を行った鍛冶工房が、調査地中央付近のどこかに存在した可能性が高いものと思われる。

第9節 木製品

1. 概要

池ノ下遺跡の調査では縄文時代から近代にいたる様々な遺構が検出された。その中の流路中の木組み遺構(SW)や溝(SD)、土坑(SK)、柱穴(P)などから多くの木製品や木材が出土した。その総点数は945点にも及ぶが、製品や明らかな加工が観察できるもの百点余りを掲載することができた。また、樹種を同定できたものはさらに限られており、遺跡周辺の里山などで伐採されたであろう丸太材を加工した杭などの多くは掲載できていない。コナラ節の立木が確認できたが、樹種の傾向から周辺の環境等を復元することは難しい。その中で古墳時代初頭に属するモミ属を用いた楯(W105)など、あきらかに他所からもたらされた木製品が存在する。また、中世の段階でヒノキやスギを用いた柱根や鼻線建築部材がかなりの比率で存在していることは、同時代の遺跡の性格をうかがう材料となるであろう。

弥生時代中期、古墳時代初頭、古墳時代、中世、近代など概略の所属時期を記載したが、詳細な所属時期等は遺構や同時に出土した遺物の項を参照していただきたい。

報告する池ノ下遺跡の調査では、各時代とも木製品の製作をおこなっていた状況はみられないが、杭や矢板、建築部材の最終加工、木材の再利用は集落内あるいは付近でおこなわれていたことは確実であろう。その他の木製品はその製品を用いた最終段階である廃棄などの様相を示すものと考えられる。何点かの木製品が焼け焦げていたのはその証左と考えるが、一部の木製品には焼け焦げた後に加工を加えたものが存在する。

なお樹種同定については第5章第6節に結果を報告している。

2. 19区(図版293 写真図版381)

W1～W3は、掘立柱建物を構成する柱穴から出土した。

W1は、SB028を構成するP10から出土した。柱の礎板として柱穴内に入れたものであろう。スギの丸太材を用いており、最大径の部分は直径が15cmほどの表皮を除いただけの状態である。その上下を上側が13方向、下側が11方向から斜めに削って算盤玉形を作り出している。上端面は平滑に削られており、突出する下端面は概6方向から刃物を打ちこんで、尖り気味に切断される。建築部材先端部の鼻線を切り離したものであろう。

W2は、SB030を構成するP09から出土した。ヒノキの板目材の破片である。柱材や礎板ではなからう。

W3は、SB030を構成するP14から出土した。スギの板目材で、曲物の破片に類似する。W2と同様に柱穴からの出土であるが、柱材や礎板の破片ではなく、柱掘り方内に納められた地鎮具等の破片の可能性も考えられる。

3. 28区

SW001(図版293 写真図版381)

W4・W5は、SW001に伴って出土した杭である。ともに広葉樹の丸太材の枝を払った樹皮付きのまま利用している。両者とも先端は6方向から各面多くて3回ほど刃を打ち込んで尖らせており、先端

は少し潰れている。

SW002(図版293 写真図版381)

W6は、SW002に伴って出土した杭である。広葉樹の樹皮付きの丸太材を利用している。先端は4方向から各面1～2回ほど刃を打ち込んで尖らせている。

SW003(図版293 写真図版381)

W7～W10は、28区、SW003に伴って出土した。

W7は、細い針葉樹の角材の一端が焼け焦げたもので、着木であろう。樹種同定を行っていないが、ヒノキのような年輪の詰まった材を丁寧削って作られており、本来は箸や題箋軸などの製品であった可能性がある。

W8・W9は、ともに広葉樹の丸太材の枝節を払い樹皮付きのまま利用した杭である。W6の先端は、4方向から多くて10回ほど刃を打ち込んで尖らせているが、節の切り落としのための打撃も含まれる。W7の先端は、7方向から各1～3回程度刃を打ち込んで尖らせる。

W10も、下端が摩滅し、砂粒が食い込んでいることから、矢板に用いられたものであるが、一端を斜めに切り落とした板材を再加工したものである。樹種同定を行っていないが、桧のような年輪の詰まった針葉樹の板目材を用いており、上端の折れた部分以外は火を受けている。右側の長側面は焦げて角が丸くなるが、先端部は焦げた部分に打撃を加えて斜めに削り落している。左側の長側面は焼けておらず、割り取ったか、削り落しているが、先端部は打撃を加えて削り落したのちに焼け焦げている。裏面には不定方向の比較的短い直線的な刃物痕が見られ、おそらく焼けた後に一旦作業台として利用したものであろう。

SW005(図版294 写真図版382)

W11～W14は、SW005に伴って出土した杭である。

W11は、エノキ属の芯去り材の割り材を用いており、全面を加工して先端を尖らせている。先端部は潰れている。加工には刃幅1.5cm以上の直線的な刃物を用いていることが観察できる。

W12は、広葉樹の樹皮付きの丸太材を利用している。先端は7方向から各3回ほど刃を打ち込んで尖らせている。

W13も、広葉樹の樹皮付きの丸太材を利用している。先端は5方向から各1～2回ほど刃を打ち込んで尖らせている。

W14も、丸太材を利用した杭であるが、樹皮や節を除去するためか広い範囲に工具痕が見られる。先端は6方向から各2～3回ほど刃を打ち込んで尖らせている。

SW006(図版294 写真図版382)

W15は、SW006に伴って出土した杭で、下端が潰れている。広葉樹の樹皮付きの丸太材を利用している。先端は7方向から4回以上刃を打ち込んで尖らせているが、この部分は節が多くみられる。

SW007(図版294 写真図版382)

W16～W23は、SW007に伴って出土した。針葉樹を用いている。

W16は、樹種同定を行っていないが、ヒノキのような年輪の詰まった針葉樹の板目材である。表裏面とも平滑に仕上げた板材であり、一ヶ所、刃幅2.5cmほどの手斧様の痕跡が認められる。下端は切り離しそのまま荒れているが、上端部は表裏面に及ぶ焼け焦げが内部にまで及んでいる。右側長側面は一部焼け焦げを削っている。

W17は、ヒノキの板材である。加工痕は残らないが、表裏面とも平滑である。

W18も、樹種同定を行っていないが、ヒノキのような年輪の詰まった針葉樹の板目材である。表裏面は荒れており、面を仕上げた痕跡は観察できない。下端は焼け焦げがみられる。

W19は、樹種同定を行っていないが、ヒノキのような年輪の詰まった針葉樹の柁目材である。器表面の加工痕は明瞭ではない。下端は折れているが、上端部左寄りと右長側面に長方形の切り込みが存在し、建築部材の可能性が高い。裏面の一部には焼け焦げがある。

W20は、針葉樹板目材で、工具痕は観察できないが、表面は丁寧に仕上げているが、裏面はやや荒れている。一長側の両角を方形に切り取っている。切り取られた反対側の長側面には細くあたりが観察でき、縄などで縛った可能性がある。また、この長側面の中央部もすこし窪んでおり、別の部材と組み合わさった痕跡かもしれない。箱形の田下駄などが復元できるが、目釘はみられない。

W21は、針葉樹板目材で、器表面は荒れているが、一部は平滑である。工具痕は観察できない。下端は折れているが、上端は切断している。

W22は、針葉樹板目材であるが、細く厚い。上端は折れているが、下端は1方向から斜めに削っており、先端面は潰れて、砂粒の痕跡が残る。矢板に用いられたものであろう。

W23は、針葉樹板目材で角材に近い。上端は節があり、潰れている。下端は2方向以上から斜めに削っており、先端面は潰れている。杭・矢板に用いられたものであろう。

SW008(図版296・297 写真図版383)

W24～W35は、SW008に伴って出土した。

W24は、アカガシ亜属の柁目材を用いた扁平な板材で、一短辺の中央に幅を減じた柄或いは軸部の痕跡が続くことから、一木平鋤或いは曲柄平鋤と判断した。裏面は柄、軸部の幅の剥離が刃部まで及んでいる。柄・軸部と刃部の境が明瞭で、刃部両側がほぼ平行し、刃部幅と肩幅は大差ない。断面は中央がやや厚い紡錘形を呈すが、体部全長の中央付近から下側の両長側面が薄く刃部を作り出している。また、幅もやや広がる。刃先近くの両側面には小さな段や抉りが認められるが、鉄製の刃先を装着したものはなからう。

W25も、鋤の未成品の可能性を考えていたが、樹種同定の結果、ツブラジイであることが判明したため農耕具ではなからう。ミカン割り材の一短辺を両側から尖らせている。他短面は潰れており、矢板に利用したものであろう。

W26は、クリを用いたミカン割り材で、あまり加工は顕著ではないが、下端を尖らせ、一部潰れが見える。杭であろうか。断面は台形を呈しているが、各面は平滑に作っている。

W27は、針葉樹柁目の板材である。加工痕は観察されないが、器表面は丁寧に作られており、やや荒れている。一長側面側から刻み状の痕跡が2ヶ所並んでいる。下端は一部裏面からの打撃痕跡を残して切断している。上端は折れであろう。

W28は、ヒノキ板目材を用いた矢板である。上端は折れており、下端の側面を打撃によって切り落とし、表面の3方向から打撃によって薄く作っている。裏面は先端の一部のみ削っている。先端の端面は潰れ、砂粒が食い込んでいる。

W29～W35は、丸太材を利用した杭であり、ほとんどのものに樹皮が残存している。先端面が潰れ、砂粒が食い込むものもある。W31を除くと広葉樹を用いており、W35はクヌギ節を用いている。W29～W34の先端部は6方向から各2～7回の打撃によって尖らせており、節の大きなW35では5方向から各

1～3回の打撃によって尖らせる。

SD047(図版298 写真図版384)

W36は、SD047に伴って出土した。アカガシ亜属柾目材を用いて作られた曲柄又鋏の身である。二又に分かれた先端部は、外側では先端から10cm以下の位置まで刃が作られ、内側は全域に刃を作り出している。肩部は全く張らずに次第に細くなり、軸部へと続く。軸頭は欠損する。

SW009(図版298～300 写真図版384・385)

W37～W56は、SW009に伴って出土した。この遺構からは弥生時代中期までの遺物が出土している。W37は、アカガシ亜属のミカン割り材を用いて作られている。一端は折れているが、両端部を薄く作り、一端は4方向から削って尖り気味に作られる。全体はやや厚手の扁平な棒状を呈しており、刃部は作られていないが、股鋤の可能性を残す。表面に2孔2対の貫通していない孔が見られる。

W38～W40は、樹種同定を行っていないが、肉眼ではアカガシ亜属に類する材で、ミカン割り材の一長側面を薄く刃状にしている。W38は、両端部を欠くが、幅を広げた一長側に刃を作っている。細くなった部分は断面が長方形で、刃は見られず、柄部にあたるものと思われる。工具としてくさびの用途をもったものかもしれない。W40も、柄部と刃部を作っており、やはり楔の用途をもつ可能性がある。W39は、一端を表裏面から削って薄くしている。一長側面は節などを整えて薄く作っている。柄部を持たないため、矢板などに用いられた可能性もある。

W41は、木目の詰まった針葉樹の柾目材を用いた板材で、縦半分に割れたものであろう。両端近くに方形の穿孔が残り、表裏面から刃幅2cmほどの手斧状の工具によって穿たれたものである。穿孔の角部は別の工具によって丸く仕上げている。また、一長側面の一端部近くには表裏面から抉りが加えられている。器表面の裏面は荒れているが、表面の中央部のみ平滑である。一部炭化のためか黒くなる。田下駄の一部であろうか。

W42は、針葉樹を用いた細い角材で、表・両側面は丁寧に成形している。裏面は割れた痕跡が残る。下端面は切断したものか、段をもって折れている。

W43は、針葉樹を用いた棒状を呈したものであるが、上端部に切断痕が観察される以外には加工痕は見られない。

W44は、針葉樹板目材を用いた板材である。上半部は焼けて炭化しており、下端部は折れている。表面は平滑に成形されているが、裏面は一部を欠損し、荒れている。

W45は、シイ属を用いたミカン割り材で、下端部が尖るが、磨滅のため加工痕は不明である。上端部は折れている。

W46は、針葉樹板目材を用いた板材である。表裏面は平滑で、裏面の一部には刃幅2cmほどの手斧様の痕跡が残る。上端部は折れているが、下端部はつぶれており、矢板などに利用されたものであろうか。

W47は、広葉樹丸太材を用いた杭である。下端部は5～6方向から各1～2回削って尖らせている。

W48は、ヒノキ柾目材の角材を用いた矢板である。下端部は3方向から削って尖らせている。上端部は折れている。上端部近くの裏面には側面にかけての抉りがみられる。裏面に一部には刃幅3.5cmほどの手斧様の痕跡が斜め方向に残る。表裏面とも焼けて焦げているが、両側面にはみられず、焼いた後に削ったものかもしれない。裏面の抉り部も焦げている。

W49～W52は、広葉樹丸太材を用いた杭である。W49～51には樹皮が残存している。W49は、下端部を7方向各2～3回削って尖らせている。W50は、下端部を6方向以上から削って尖らせており、先端

部は潰れている。W52は、下端部を5～6方向各1～2回鋭利な刃物により削って尖らせている。W51も、広葉樹の丸太材を用いたものであるが、両端部を欠損する。樹芯を貫通する穿孔が2孔平行して穿たれる。穿孔は両側から行われている。

W53は、細い丸太材を加工しており、中心を通る2方向からの穿孔が平行して2ヶ所貫通している。

W54～W56は、樹種同定はおこなっていないが、ヒノキのような年輪の密な針葉樹を用いた材である。W54は板目材の器表面を一部平坦に加工する。下端面は切断されているが、少し潰れている。上半部はややずれた位置で凸形に加工し、一部にあたりが見られる。別部材と組み合わせたものか。上端部は焼け焦げており、焼けた後に加工を加えて断面方形に整える。

W55は、ミカン割り材を加工したもので、裏面を平滑にしている。下端面は荒く切断されており、一部に焼け焦げが見られる。

W56は、樹芯近くの部位を扁平な角材に加工したもので、上半部をL字形に切り欠く。切り欠きより下方の側面は4回の痕跡を残して切断している。器表面の裏面は平滑に仕上げられており、材と直交する方向に刃幅3cmまでの手斧様の工具で加工している。裏面、両端面および切り欠き面以外の面には火を受けた痕跡が見られる。他の部材と組み合う建築部材の可能性はあるが、上端部の厚さは約2cmと薄くなる。

SD045(図版300・301 写真図版385)

W57～W59は、SD045から出土した。遺構は縄文時代晩期～弥生時代中期に属するものと判断されたが、木製品は弥生時代のものであろう。

W57は、板目材の板材であるが、裏面の器表面は荒れている。下端部はL字形或いは凹形に切り欠きを作り、中央部にあたりが見られる。上端部は折れている。一長側面には斜めに段を作り出したものかもしれない。

W58は、SD045の黒色シルトから出土した。アカガシ亜属を用いており、下半部を欠損しているが、組合せ平鋤身と思われる。方形を呈した角肩の上半部には円形の柄孔が約65度の角度に穿たれており、さらに上方に樋が作られる。上縁部の着柄軸部は欠損している。刃部表面(後面)側柄孔周囲には隆起を作り出し、それと連続して3周に一段高い縁を作り出している。

W59は、広葉樹丸太材を加工した有頭棒状のもので、下半部を折れにより失う。頭端部は4方向以上から削っているが、仕上げは雑である。側面は7方向以上から削っている。軸部も11方向以上から削って細くしている。

SD074(図版301 写真図版385)

W60～W62は、弥生時代後期の溝SD047から出土した。

W60は、広葉樹の板目材を用いた板材で、方形の小穿孔が3ヶ所に穿たれる。最上段の最も小さな孔は裏面にも小段が観察でき、両面から穿たれたものであろう。中央および最下段の穿孔は表面側から穿たれたものであろう。

W61は、クスノキを用いたもので、短辺側に突起が残ることから、槽・盤などの容器の可能性はある。但し器表面が著しく痛んでおり、上面に残された痕跡が加工痕であるか、傷であるかも判断できない。

W62は、板材の表面側を抉って一長側に縁を作って木樋状に形作る。もう一方の長側は腐朽のため欠損したものか不明である。裏面は手斧様の工具によって平坦に仕上げる。

4. 35区

SD086(図版302 写真図版386)

W63は、中世に属するSD086から出土した曲物底板である。針葉樹の柾目材を用いたもので、過半を欠く。円形のものであれば直径約20cmの円盤が復元できる。外周からやや内側に入った位置に2孔を穿ち、桜樹皮と思われる幅約0.3cmの樺皮縫合によって側板と結合されていたもので、底面に2重、側板には3重重ねている。

SD077(図版302 写真図版386)

W64は、古墳時代初頭に属するSD077から出土した。針葉樹の柾目角材を断面三角形に削り、一端を全周からさらに削って尖らせ、先端部は段を作って出臍とする。他端は折損するが、表面の三角形頂部から斜めに削って板状に細工している。糸巻きの軸受部と考えられるが、同一部材を直角に組み合わせた場合、組み合う部分を斜めに削る状況は他例とは異なる。

5. 34区

SW011(図版302 写真図版386)

W65～W68は弥生時代中期に属するSW011から出土した。

W65は、広葉樹丸太材を用いた杭である。下端部は欠損するが、一部に潰れた痕跡が残る。5方向以上から各3回程度削って尖らせる。

W66は、アカガシ亜属の樹皮付き丸太材を加工した杭である。一方の端部は6方向から刃を入れて尖らせており、各々6回程度刃を打ち込んでいる。先端部は少し潰れており、実際に使用され硬い地面に当たったものであろう。

W67は、比較的年輪の粗い針葉樹の柾目材を用いて、厚めの板材を作っている。裏面の一部の凹部に焼け焦げが残っており、表面を焼いた後に加工したものかもしれない。一長側面に斜め方向に刃を打ち込んで、縦方向に割り裂き、板材の幅を半分近くまで減じている。その部分の長側角は面取りを施している。細くなった先端部は潰れていることから、矢板として使用されたものであろう。

W68は、ヒノキ板目材の板材である。上端部は折れているが、下端部は一部に切断痕が残っている。裏面は荒れており加工痕は不明であるが、表面は手斧様の工具痕が一部に見られる。また、表面から一側面にかけて焼けた痕跡が観察できる。

6. 30区

SW010(図版302 写真図版386)

W69は、SW010から出土した。樹種同定はおこなっていないが、広葉樹の柾目材で、アカガシ亜属に類似する。両端部を欠損するが、幅の広い棒状を呈したもので、角の面取りも丁寧におこなっている。鋤鍬の一部であろうか。

7. 36区

SK037(図版302 写真図版386)

W70～W79は、近代の土坑SK037から出土した。

W70は、一節を残した竹を用いたもので、節のすぐ上の凹部を浅く削り込み、さらに上部に穿孔をも

つ。穿孔は下面まで貫いており、下部の孔には丸釘状の鉄片が打ち込まれていた。

W71・W72は、竹を縦に細く裂いて籤状にしたもので、表皮を残し、内面と側面は面取りを施している。残存する先端部は丸く加工しており、使用のためかよく磨滅している。2点とも先端部に近い部分で内方向に緩やかに湾曲するが、W71では内面に直交方向の刻み目を入れて湾曲に備えている。W72には節が残る。

W73は、針葉樹板目材の薄板で、器表面は丁寧に削られており、平滑である。隅部に小穿孔があるが、回転によるものではなく、角釘を打ち込んだ跡かもしれない。

W74も、針葉樹板目材の板材で、器表面は丁寧に削られており、斜め方向の加工痕が観察できる。隅部に小穿孔があるが、回転によるものではなく、角釘を打ち込んだ跡かもしれない。

W75は、針葉樹の角材で、断面五角形の棒状を呈している。一端を表面側から一段切り落とし、刀子様の工具で成形し、他部材との接合に備えている。中央には方形の穿孔が見られ、釘孔と思われる。

W76は、年輪の粗い針葉樹の板目材板材を加工したもので、表裏面には軸方向に直交する直線的な刃の痕跡が細かく残る。両側面には一部刃を食い込ませて成形しており、手斧様の工具が想定できる。楔状を呈するが多くの手が加わっており、木目も美しく表れていることから、台などに用いられたものかもしれない。

W77は、針葉樹板目材の板材で、長方形に作られる。側面は斜め方向の擦痕が残ることから、鋸が用いられたものであろう。表裏面にも細かい直線的な工具痕が残る。

W78は、針葉樹ミカン割り材の内側を割って板状に作っており、両木口は切断している。

W79は、年輪の粗い針葉樹を用いた角材で、一端部を下面から斜めに切り落としている。さらに先端部は凹状を呈していた可能性が高いが腐食が著しい。2ヶ所のやや偏った位置に長方形のほぞ孔を切り、針葉樹の板目材が充填され、同種の材を用いた楔を打ち込んでいる。

8. 37区

SB050(図版303 写真図版387)

W80～W86は、検出した中世に属する掘立柱建物SB050を構成する柱穴から出土した。

切り落とされた鼻繰などいずれも建築部材の端材で、柱痕底から出土するなどから柱の礎板として再利用されたものであろう。樹種同定をおこなわなかったものを含めて、スギあるいはヒノキが用いられており、建築部材としては上級のものである。また、移動や搬入のために加工された鼻繰を有する木材は、近隣の里山などで伐採されたものではなく、ある程度遠方の産地から搬入されたものと考えられる。材木として使用される際に切り落とされたものであることや、同一建物の複数の柱穴から出土していることから、この掘立柱建物SB050で用いられた木材である可能性が高く、この建物や建物が含まれる集落の性格を示す一助となろう。

草戸千軒町遺跡では鼻繰は樹種ごとに、製作方法・寸法などの規格性があったことが指摘されている。本遺跡でもヒノキを用いた材(W81・W84・W86)とスギを用いた材(W82)では製作方法・寸法などが異なっている。

W80は、P05から出土した。年輪の詰まった針葉樹の柁目材を用いている。樹種同定はおこなっていないがヒノキであろう。厚手の板状を呈しており、表面には斜め方向の手斧様の工具痕が顕著に残る。一部に刃こぼれと思われる痕跡が観察できる。裏面は平滑で工具痕は不明である。

W81は、P05から出土した。ヒノキの板目材を用いた角材の鼻線を切り落としたものである。厚さは幅の半分を少し下回る寸法をもつ。切断部は平滑で明瞭な工具痕は観察できない。鋸状の工具を用いた可能性がある。他端は4方向から手斧様工具を打ち込んで丸く扁平にする。残された工具の刃幅は3.5cm～4.5cmで、刃先がやや湾曲している。2ヶ所に刃が折れ曲がったような刃こぼれの痕跡が観察でき、鉄製の工具と思われる。側面は割り裂いたままの状態である。鼻線の孔は、表面側は全幅に及ぶ手斧様工具の打ち込みをおこない、中心部分のみさらに深く打ち込んでいる。裏面は中心部分のみ抉っており、最終的に円孔を穿っている。孔内面の上方は、すれて磨滅しており、材運搬の際に縄などを通していたものであろう。

W82は、P05から出土した。スギの板目材を用いた板材の鼻線を切り落としたものである。切断部は切れ目を入れて折り取っている。他端は角部を斜めに手斧様工具により切り落としている。器表面は直線的な刃をもった手斧様工具で成形している。鼻線の孔は方形で、表面側はおそらく鑿と思われる工具で垂直に切り込みを入れ、一部はさらに斜めに刃を打ち込んで穿孔している。裏面は刃幅5.4cmほどの手斧様工具の打ち込みが見られるが、切断の際のものかもしれない。

W83は、P04から出土した。ヒノキの丸太材を4分割したミカン割り材で、一端部には手斧様工具による切断痕が残る。割り面の成形は見られないが、木表は刃幅3cm以上の手斧様工具により多角形状に成形している。直径17cmほどの面取りを施した柱材の端材であろう。接合できないが同一個体と思われる破片がある。

W84は、P02から出土した。ヒノキの板目材を用いた角材の鼻線を切り落としたものである。厚さは幅の半分を少し下回る寸法をもつ。切断部は平滑だが器表面はざらついており、明瞭な工具痕は観察できない。鋸状の工具を用いた可能性がある。他端は側面側の角の4方向から手斧様工具を打ち込んで尖らせる。先端部の裏面は潰れており、砂粒が食い込んでいる。鼻線の孔は、表面側は全幅に及ぶ手斧様工具の打ち込みをおこなって一段低くし、中心部分のみさらに深く打ち込んでいる。裏面は中心部分のみ抉っており、最終的に不正形な円孔を穿っている。刃幅は4cm～4.5cmで一部に刃こぼれがあるようである。鑿状の工具の痕跡は観察できなかったが、穿孔には用いた可能性がある。孔内面の上方にはあたりがみられ、縄などを通していた可能性が高い。

W85は、P02から出土した。少し年輪の粗い針葉樹の丸太材で、木表面を手斧様工具や一部刀子様工具により面取りを施し、多角形状に成形したものの器表面を割りとったものである。一端部は手斧様工具でまっすぐ切断しており、他端は手斧様工具で斜めに削るが粗雑な仕上がりである。裏面は割れたままである。

W86は、P02から出土した。ヒノキの柾目材を用いた角材の鼻線を切り落としたものである。厚さは幅の半分を少し下回る寸法をもつ。切断部は平らだがざらついており、明瞭な工具痕は観察できない。鋸状の工具を用いた可能性がある。他端は角部の4方向から手斧様工具を打ち込んで尖らせる。先端部や先端近くの裏面の一部は潰れている。鼻線の孔は表面側の全幅に及んで手斧様工具を直交方向に打ち込んでおり、打ち込みの角度は上方からと下方からでは異なる。中心部分のみさらに深く軸方向に割れており、鑿による穿孔の可能性が高い。裏面は中心部分のみ上下及び斜め方向から刃を打ち込んでいる。軸方向は割れ面が残されているが、やはり鑿を用いたものであろう。孔内面の上方にはあたりが観察でき、運搬の際に縄などを通していたものであろう。

SD046(図版304 写真図版388)

W87は、弥生時代に属するSD046から出土した。年輪の密な針葉樹の柁目材を用いた板材で、一端部を両長側面から削って握部状に加工する。握部端はやや薄くなる。器表面は荒れており、加工痕は不明であるが、一部に焼け焦げた痕跡が残る。長側面の角は使用のためか、丸く磨滅している。

SD047(図版304 写真図版388)

W88は、弥生時代後期に属するSD047から出土した。年輪の密な針葉樹の板目材を用いた板材である。風化が著しく器表面もほとんど残存していない。

SK041(図版304 写真図版388)

W89は、近代に属するSK041から出土した。年輪の密な針葉樹の板目材を用いた、やや湾曲した板材である。一長側が薄く作られており、厚い側の長側面の中央に近い位置に浅い抉り込みが刻まれ、圧迫された痕跡が観察できる。この抉りに向かって器表面に当たりが残存する。また、長方形の穿孔が一端部に近い位置にあり、角釘の抜孔かもしれない。別の部材と組み合わされたものであろう。器表面には斜め方向の擦痕が残るが、鋸によって切断された際の痕跡か、使用によるものか判断できない。

図化できなかつたが、SK039からはブナ属を用いた漆器片が出土している。

SD048(図版304 写真図版388)

W90・W91は、弥生時代後期に属するSD048から出土した杭である。

W90は、針葉樹の丸太材を用いており、樹皮は残っていない。一端を4方向から2～9回以上、刃幅2.5cm以上の先端のやや湾曲した刃物を打ち込んで尖らせている。刃が食い込んで、割れていない部分があり、削る範囲も方向によって8cm～22cmとまとまりがない。

W91は、年輪の粗い針葉樹の丸太材を用いた杭で、樹皮は残っていないが、もともとは樹皮付きのまま利用されたものであろう。一端を5方向から5～7回、刃幅3cm以上の刃こぼれのある刃物を打ち込んで尖らせている。刃が食い込んで、割れていない部分がある。

SD102(図版304 写真図版388)

W92は、古墳時代の溝SD102から出土した杭で、先端部が潰れていることから地面に打ち込まれたものであろう。広葉樹の樹皮付きの丸太材を用いている。一端を2方向から3回刃物を打ち込んで尖らせたもので、簡便なつくりである。

SD100(図版304 写真図版388)

W93・W94は、古墳時代の溝SD100から出土した。

W93は、やや年輪の粗い針葉樹の板目材で、裏面は割り裂いたままの状態であるが、表面は平滑に成形している。表面には手斧様工具が食い込んだ痕跡が残され、下半部を厚さが半分にまで斜めに切り落としている。

W94は、SD100の下層灰色土から出土した。針葉樹の板目材で、一端部を欠損するが、丁寧に長方形の板材を作り、一長側を表裏面から削って刃を作っている。機織りの緯打ち具の可能性を考えたが使用痕は観察できなかつた。刀形など祭祀具の可能性もある。

9. 56区**SD186**(図版305 写真図版389)

W95～W98は、古墳時代初頭の溝SD186から出土した。

W95は、SD186の最下層から出土している。スギの板目材を加工した横杓子で、形態はアカスクイに類似する。長方形の環状の把手をもち、把手上端部がやや突出する。握部断面は長円形に成形され、使用のためか器表面は他の部位と比べて滑らかである。下部は扁平に成形し、そのまま体部まで続く。体部前半の下部は斜めに削って接地面から上げており、同時に上縁部も徐々に高さを減じて先端部が薄くなるように作る。内面底の周囲は溝状に彫り込んでいる。把手部、体部上縁、先端の欠損部、左辺の割れ欠損部に焼け焦げがみられることから、破損後に焼却しようとしたものか。

W96も、SD186の最下層から出土している。年輪の詰まった針葉樹柁目材を板状に加工しているが、上下の厚さは異なる。表面は一部手斧様工具痕が残るが、おそらくヤリガンナなどの工具で縦方向に削って仕上げている。両端近くに直交方向の細線がケガキ線状に刻まれる。また一長側に接して非常に細く鋸歯紋状の線刻がみられるが、紋様を表現したものかは不明である。裏面は厚い下半部には削りの加工を施すが、上半部は割れのままである。上縁部の偏った位置に長円形の穿孔がある。長側左辺は欠損するが、右辺はやや内傾して成形されている。桶材に類似するが、組物かもしれない。

W97は、SD186の砂層から出土した。広葉樹のミカン割り材を断面楕円形に成形して棒状をなす。上部は折損しているが、下端部は丸く成形する。下端から7.5cmの位置に半周にわたる小段を抉っており、以上の幅を減じている。小段よりすぐ上はあたりがありよく磨滅している。

W98も、SD186砂層から出土した。針葉樹丸太材の一端を5～6方向から削って尖らせている。尖らせた先端部の1ヶ所に幅・長さ約2cmの方形の抉りを刻んでいる。草葺屋根の縄通しなどに用いられたものか。

10. 47区

SD133(図版305 写真図版389)

W99は、中世に属する溝SD133の4層から出土した。年輪の粗い針葉樹の柁目板を利用した曲物などの底板である。直径10cm～12cmのやや歪な円盤が復元できる。

11. 49区

SD138(図版305 写真図版389)

W100～W102は、古墳時代初頭に属するSD138から出土した。

W100は、最下層から出土した。ヒノキの柁目角材を加工しており、両端部を左右非対称ではあるが三角形に成形している。一面の中央に方形の切り欠きを入れており、内面は刀子様工具で調整している。反対の面の長側の角には面取りを施している。側面の1ヶ所には上面にまで及ぶあたりが認められる。把手など他の部品と組み合わせた部材であろう。

W101は、放射組織が通る広葉樹で、樹種同定をおこなっていないがアカガシ亜属の可能性が高い。四隅をやや突出させて抉った方形孔をもつ。アカガシ亜属を用いていれば、組み合わせ平鋏或いは又鋏の可能性はあるが、柄孔の位置がやや偏り、周囲の隆起が作られず、全体が薄いことから、別の製品の部材と考える。

W102は、下層から出土した。ヒノキ板目材で、多角形に面取りした角材の器表面部分を割り裂いたものであろう。但し、割り面は荒れたままではなく、節などを除去するなどの加工は加わる。多角形の加工は刃こぼれのない手斧様の工具を用いているが、一端部を斜めに切った手斧様工具には刃こぼれが

あり、別時点或いは別工具を用いている。面取りの一部には直線的な刃傷がみられ、作業台として再利用されたものであろう。他端部は焼け焦げており、一部裏面にまで及ぶ。

12. 55区

SD163(図版305 写真図版389)

W103は、古墳時代初頭に属するSD163出土のヒノキ板目材の板材を加工している。ほぼ中央に近い位置に穿孔を施すが、非常に粗い加工である。器表面の加工も観察できない。田下駄などに再加工されたものであろうが、紐ずれなどの使用痕は認められない。

13. 58区

SD201(図版306 写真図版390)

W104・W105は、古墳時代初頭の溝SD201から出土した。

W104は、最下層から出土した。ヒノキの柁目板材を用いており、軸部は全周囲から面取りを施して、断面円形に成形している。軸部上半部は側面のみに面取りを施すため、断面が長円形となる。軸部から斜めに広がった体部は両側面を欠損する。体部の端部は弧状に挟られており、端面には細かい傷が観察でき、黒化している。

W105は、第3層から出土した。モミ属の板目材の板材を用いた楯である。わずかに上方の幅が広い薄板の一隅部が残存する。側面はやや斜めに切り落とされているが、側面、上面とも面取りなどはおこなわない。全面にわたって直径3mm以下の小孔が穿たれている。小孔は上縁部分では横方向に列をなしているが、上下で位置をずらしており、割れを避けて穿孔しているが、下半部は縦方向に列をなしており、割れが生じている。左下の部分には穿孔の少ない部分が存在しており、持ち手や飾りなどを取り付けていた可能性がある。この部分を中心とすれば、幅は最小でも40cmのものが復元できる。また、角部のすぐ下にもイレギュラーな穿孔がみられる。加彩は観察できなかった。

SW012(図版306・307 写真図版390)

W106～W113は、古墳時代初頭のSW012から出土した杭である。

W106～W110は、直径5cm程度の広葉樹の樹皮付きの丸太材を用いており、樹種同定できたW109はアカガシ亜属を用いている。先端部の加工は、W106では9方向2～3回、W107では6方向4回まで、W108では7方向1～3回、W110では5方向2～3回削って尖らせている。硬いアカガシ亜属を用いたW109の加工は1方向4回と他のものとは異なる。

W111～W113は、針葉樹の割り材を用いており、樹種同定できたW111はヒノキを用いている。W111はミカン割り材を使用しており、樹皮は残存していないが、一部には器表部が残る。先端部の加工は、4方向から1～3回程度である。樹芯近くの節も削り落している。

W112は、丸太を半裁した芯持ちの材先端部を4方向から8回程度刃を打ち込んで尖らせているが、裏面の節は除去しているが、割り面のままで、矢板状を呈している。

W113は、ミカン割り材を試用しており、一部には樹皮は残存しないが、木表が残る。一面は割り面のままであるが、もう一面には刃が薄く直線的な手斧様工具によって成形しようとした痕跡が残る。先端部は樹芯側から7回以上削っており、さらに先端は3方向から削って尖らせている。

14. 64区

水田(図版307 写真図版390)

W114は、64区の水田から出土した杭である。針葉樹のミカン割り材を用いており、先端部は一部加工を施されたのちに、焼け焦げており、また一部には摩耗した痕跡も残る。さらに両側面では焼け焦げた面を3回程度削って尖らせている。焼けた材を再利用したものか、或いは腐朽を防止するために器表面を焼いたものであろうか。

[参考文献]

樋上 昇 1989 「木製農耕具の地域色とその変遷－勝川遺跡出土資料を中心として－」『年報 昭和63年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター

樋上 昇 2010 「木製品から考える地域社会－弥生から古墳へ－」雄山閣

奈良国立文化財研究所 1975 「木器集成図録 古代編」

奈良国立文化財研究所 1993 「木器集成図録 近畿原始編」

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 1993 「草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ」

第5章 自然科学的調査の成果

第1節 池ノ下遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株)加速器分析研究所

1. 測定対象試料

池ノ下遺跡は、兵庫県姫路市苦編・町坪に所在する。測定対象試料は、SK035出土炭化物(1 : IAAA-102482)、SF002出土炭化物(2 : IAAA-102483)、SF003出土炭化物(3 : IAAA-102484)、ST003棺内埋土下層出土炭化物(4 : IAAA-102485)、SF001出土炭化物(5 : IAAA-102486)、SD138最下層出土炭化物(6 : IAAA-102487)、SK050出土炭化物(7 : IAAA-102488、8 : IAAA-102489)、SD180で採取された炭化物が混じる土壌(9 : IAAA-102490)、SX002出土炭化物(10 : IAAA-102491)の合計10点である(第1表)。

2. 測定の意義

遺構の時期を特定する。

3. 化学処理工程

(1)メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。試料9は土壌中に微量の炭化物が混じっており、炭化物を土ごと取り出してすりつぶし、試料とした。

(2)炭化物は酸-アルカリ-酸(AAA : Acid Alkali Acid)処理、炭化物が混じる土壌は酸処理を実施し、不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。酸処理では、通常 1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。AAA処理を行った試料で、アルカリ濃度が1Mに達したものは「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第1表に記載する。酸処理のみの試料は第1表に「HCl」と記載する。

(3)試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。

(4)真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5)精製した二酸化炭素から鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。

(6)グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4. 測定方法

3 MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9SDH-2)をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

(1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(第1表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ^{14}C 年代(Libby Age : yrBP)は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第1表に、補正していない値を参考値として第2表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい(^{14}C が少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第1表に、補正していない値を参考値として第2表に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース(Reimer et al. 2009)を用い、OxCal v4.1較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第2表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

6. 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、SK035出土炭化物1が 1030 ± 30 yrBP、SF002出土炭化物2が 3960 ± 30 yrBP、SF003出土炭化物3が 4720 ± 30 yrBP、ST003棺内埋土下層出土炭化物4が 1370 ± 30 yrBP、SF001出土炭化物5が 4570 ± 30 yrBP、SD138最下層出土炭化物6が 2020 ± 30 yrBP、SK050出土炭化物7が 1020 ± 30 yrBP、8が 980 ± 30 yrBP、SD180で採取された炭化物が混じる土壌9が 1790 ± 20 yrBP、SX002出土炭化物10が 1870 ± 30 yrBPである。SK050出土の2点の値は、誤差($\pm 1\sigma$)の範囲で重なり、おおむね近い年代を示す。暦年較正年代(1σ)は、1が992~1021cal ADの範囲、2が2565~2460cal BCの間に2つの範囲、3が3627~3381cal BCの間に3つの範囲、4が643~669cal ADの範囲、5が3369~3135cal BCの間に3つの範囲、6が46cal BC~19cal ADの範囲、7が992~1025cal ADの範囲、8が1018~1148cal ADの間に3つの範囲、9が143~318cal ADの間に4つの範囲、10が82~210cal ADの間に3つの範囲で示される。

試料の炭素含有率を見ると、炭化物はすべて50%を超え、炭化物が混じる土壌は約11%と、特に問題のない値である。

第1表 測定試料及び処理

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-102482	1	SK035	炭化物	AAA	-25.71±0.42	1,030±30	87.95±0.29
IAAA-102483	2	SF002	炭化物	AAA	-28.48±0.42	3,960±30	61.07±0.22
IAAA-102484	3	SF003	炭化物	AAA	-29.62±0.29	4,720±30	55.57±0.21
IAAA-102485	4	ST003 棺内埋土下層	炭化物	AaA	-23.77±0.57	1,370±30	84.27±0.30
IAAA-102486	5	SF001	炭化物	AaA	-24.97±0.60	4,570±30	56.63±0.21
IAAA-102487	6	SD138 最下層	炭化物	AAA	-27.78±0.36	2,020±30	77.78±0.27
IAAA-102488	7	SK050	炭化物	AAA	-25.93±0.74	1,020±30	88.07±0.30
IAAA-102489	8	SK050	炭化物	AAA	-30.17±0.52	980±30	88.50±0.31
IAAA-102490	9	SD180	炭化物が混じる土壌	HCl	-17.05±0.30	1,790±20	80.01±0.24
IAAA-102491	10	SX002	炭化物	AaA	-27.60±0.62	1,870±30	79.22±0.28

[# 4026]

第2表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果(1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-102482	1,040±30	87.82±0.28	1,031±26	992calAD-1021calAD(68.2%)	903calAD-914calAD(2.1%) 970calAD-1034calAD(93.3%)
IAAA-102483	4,020±30	60.64±0.21	3,961±29	2565calBC-2532calBC(27.5%) 2496calBC-2460calBC(40.7%)	2571calBC-2513calBC(35.5%) 2504calBC-2432calBC(48.1%) 2424calBC-2401calBC(4.9%) 2381calBC-2348calBC(6.9%)
IAAA-102484	4,800±30	55.05±0.21	4,719±30	3627calBC-3596calBC(22.0%) 3527calBC-3506calBC(13.5%) 3428calBC-3381calBC(32.6%)	3633calBC-3559calBC(33.9%) 3537calBC-3496calBC(20.4%) 3460calBC-3376calBC(41.1%)
IAAA-102485	1,305±30	84.48±0.28	1,374±28	643calAD-669calAD(68.2%)	611calAD-683calAD(95.4%)
IAAA-102486	4,570±30	56.64±0.20	4,567±30	3369calBC-3334calBC(40.3%) 3212calBC-3190calBC(15.8%) 3154calBC-3135calBC(12.0%)	3492calBC-3469calBC(5.0%) 3375calBC-3318calBC(44.0%) 3293calBC-3290calBC(0.3%) 3274calBC-3268calBC(0.6%) 3237calBC-3108calBC(45.5%)
IAAA-102487	2,060±30	77.34±0.26	2,018±27	46calBC-19calAD(68.2%)	93calBC-56calAD(95.4%)

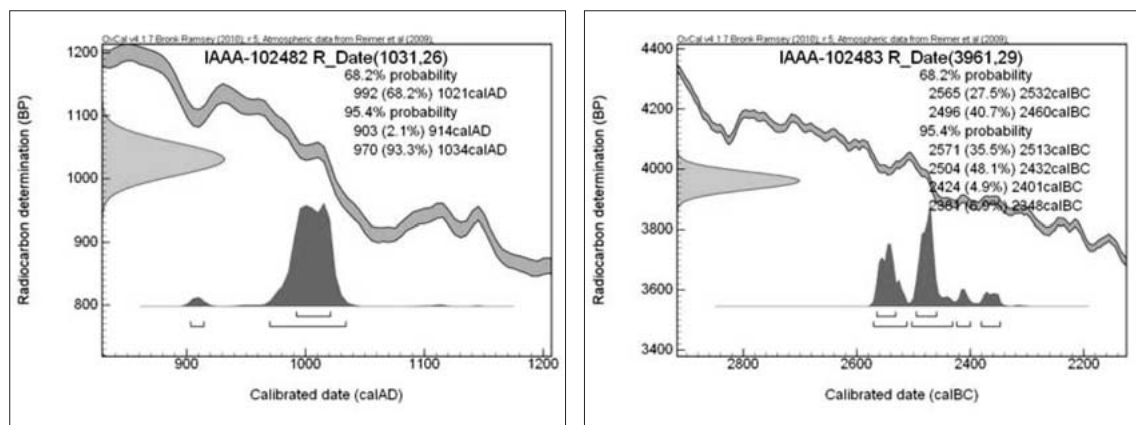
第2表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果(2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-102488	1,040±30	87.90±0.27	1,020±27	992calAD-1025calAD(68.2%)	904calAD-913calAD(1.0%) 971calAD-1044calAD(92.6%) 1106calAD-1119calAD(1.8%)
IAAA-102489	1,070±30	87.57±0.30	981±28	1018calAD-1046calAD(38.5%) 1094calAD-1120calAD(23.9%) 1141calAD-1148calAD(5.8%)	993calAD-1055calAD(47.9%) 1077calAD-1155calAD(47.5%)
IAAA-102490	1,660±20	81.32±0.24	1,791±24	143calAD-149calAD(2.6%) 171calAD-193calAD(11.3%) 211calAD-258calAD(43.4%) 300calAD-318calAD(10.9%)	134calAD-260calAD(77.4%) 282calAD-325calAD(18.0%)
IAAA-102491	1,910±30	78.80±0.25	1,871±27	82calAD-140calAD(47.5%) 150calAD-170calAD(11.1%) 194calAD-210calAD(9.5%)	75calAD-222calAD(95.4%)

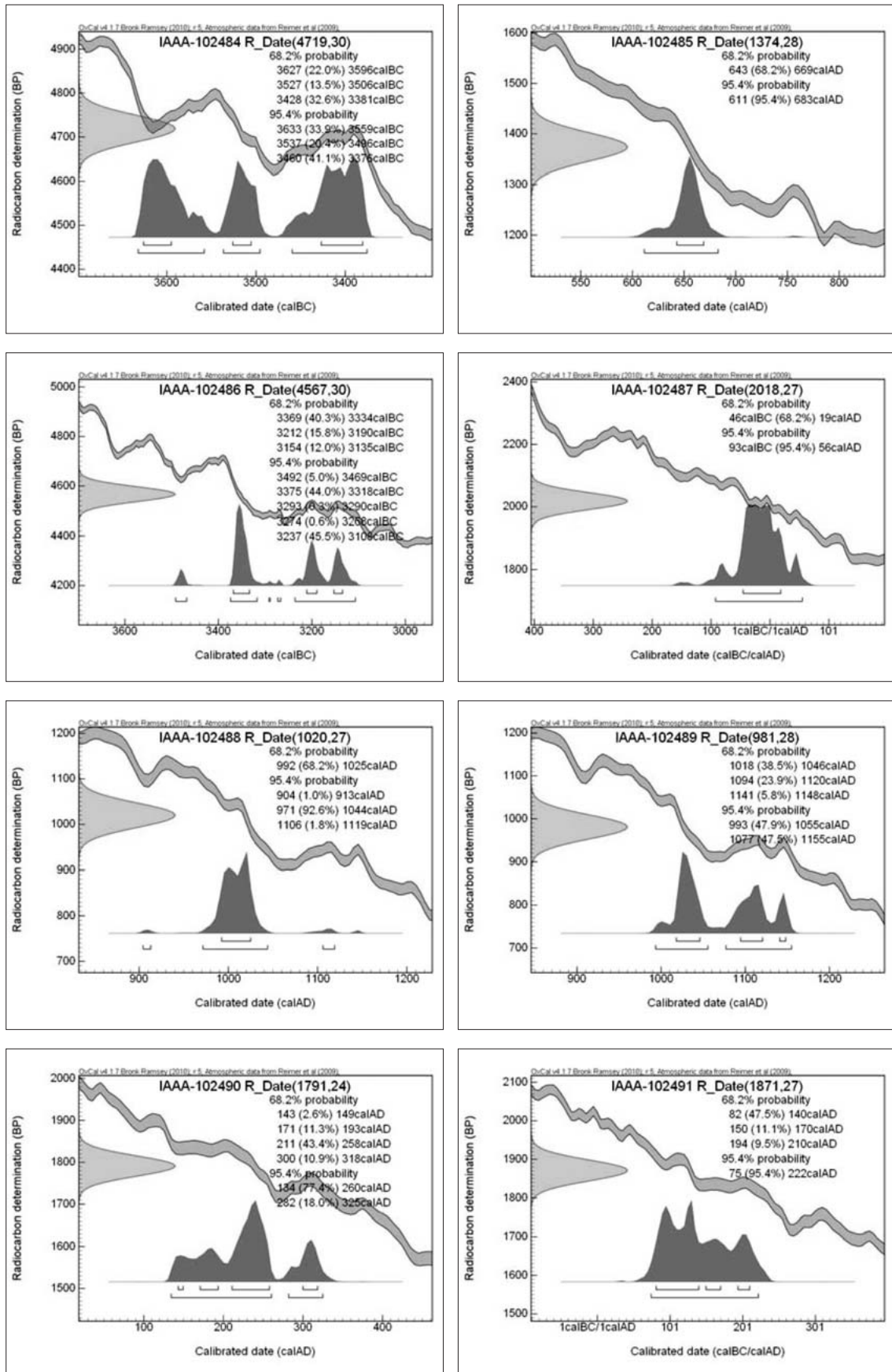
[参考値]

文献

- Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355 – 363
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337 – 360
- Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0 – 50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111 – 1150



第6図 暦年較正年代グラフ(1)



第 6 図 暦年較正年代グラフ (2)

第2節 池ノ下遺跡出土土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、池ノ下遺跡より出土した、縄文時代中期の縄文土器、弥生時代中期の弥生土器および古墳時代初頭の土師器の各種土器について、その材質(胎土)の特性を明らかにし、その生産や供給事情に関わる資料を作成する。特に、土師器試料には、発掘調査所見により、丹波、河内、讃岐、阿波、吉備、山陰といった近畿地方から瀬戸内および中国地方など各地域から搬入された可能性があると指摘された試料もあることから、これらの所見と胎土との対応関係あるいは既存の地質資料から推定される地域性などを検討し、搬入品の可能性についても考察する。

1. 試料

試料は、縄文時代中期とされた縄文土器片1点、弥生時代前期および中期とされた弥生土器片が1点ずつ、古墳時代初頭とされた土師器片23点の合計26点である。器種の内訳は、縄文土器は深鉢、弥生土器は甕、土師器は、甕が15点、壺が5点、高坏と器台および鉢が1点ずつである。土師器の甕には、丹波産とされた試料と讃岐産とされた試料および吉備産とされた試料がそれぞれ2点ずつあり、但馬産、河内産とされた試料も1点ずつ含まれる。また土師器の壺には、山陰(伯耆・出雲)とされた試料と山陰(但馬・因幡)とされた試料がそれぞれ1点ずつあり、土師器の鉢1点は阿波産とされている。

各試料にはNo.1～No.26が付されており、これらを一覧表にして第3表に示す。

2. 分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される、同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

第4表 薄片観察結果(1)

No.	砂粒区分	砂粒の種類構成																				合計								
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	鉍物片 酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	燐灰石	不透明鉍物	チャート	頁岩	砂岩	軽石	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類		黒雲母片岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	植物片	植物珪酸体
1	細礫																													0
	極粗粒砂																				1									1
	粗粒砂	3	3																		1									7
	中粒砂	2	2																										4	
	細粒砂	6	2	2																							1		11	
	極細粒砂	4		3				1																			1		9	
	粗粒シルト	4	1	2																							3	1	11	
	中粒シルト	1	1																										2	
基質																											238			
孔隙																											7			
2	細礫																												0	
	極粗粒砂	1																		1	4								6	
	粗粒砂	13	5	3																3	2						1		27	
	中粒砂	6	2	6																1									15	
	細粒砂	7		9					1																				17	
	極細粒砂	4	1	6		2			1			1																	15	
	粗粒シルト	9		4																									13	
	中粒シルト	1																											1	
基質																											382			
孔隙																											12			
3	細礫																1												1	
	極粗粒砂																3	2								1			6	
	粗粒砂	3									1					3	1								2			10		
	中粒砂	1														2			1						2	1		7		
	細粒砂			5		1					1					2									1	3	1	14		
	極細粒砂	4	1	6																						3		14		
	粗粒シルト	3	1	5																								9		
	中粒シルト	2		1																								3		
基質																											646			
孔隙																											11			
4	細礫																												0	
	極粗粒砂																1	1								1			3	
	粗粒砂	2	1													1								1	2			7		
	中粒砂	1														3			1						1			6		
	細粒砂	3		4												3	2		1									13		
	極細粒砂	3	1	8			1				2	1							1									17		
	粗粒シルト	4	1	5																								10		
	中粒シルト	2																										2		
基質																											571			
孔隙																											7			
5	細礫																									1		1		
	極粗粒砂	2										3			2	2	1	1								1		12		
	粗粒砂			1								4	1			1	1		1				1	2	2	3	1	18		
	中粒砂	1									1		1												1	1		5		
	細粒砂	7		3			1												2							3		16		
	極細粒砂	1		4				1																				6		
	粗粒シルト	3		2			1																			1		7		
	中粒シルト	1																										1		
基質																											454			
孔隙																											13			
6	細礫																											0		
	極粗粒砂																									3		3		
	粗粒砂	2		2		7			1																			12		
	中粒砂	4	2	6		9	1		1																3			27		
	細粒砂	4		12		11			1																			28		
	極細粒砂	2		11		9			2		1																	25		
	粗粒シルト			9		6																						15		
	中粒シルト																											0		
基質																											331			
孔隙																											9			

第4表 薄片観察結果(2)

No.	砂粒区分	砂粒の種類構成																			合計													
		鉱物片									岩石片									その他														
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	燐灰石	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	軽石	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	黒雲母片岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	植物片	植物珪酸体					
7	細礫																													0				
	極粗粒砂												1	1			2														4			
	粗粒砂	1		1									1				1														4			
	中粒砂																1														1			
	細粒砂	1	2	6										1				5													15			
	極細粒砂	1		1																	1										3			
	粗粒シルト	2				1																							2		5			
	中粒シルト	1																													1			
基質																															262			
孔隙																																		
8	細礫																														0			
	極粗粒砂	2															1	2	1													6		
	粗粒砂	6		3									4			7									1	2					23			
	中粒砂	2											2			1				1											6			
	細粒砂	4	2		1											1												5			13			
	極細粒砂	2	1																								1				4			
	粗粒シルト	1		2																											3			
	中粒シルト																														0			
基質																															276			
孔隙																															6			
9	細礫																															0		
	極粗粒砂	1															3	1							1	6	2					14		
	粗粒砂	4												2			5	1								7	5					24		
	中粒砂	2		2													1															5		
	細粒砂	2																														2		
	極細粒砂			1																												1		
	粗粒シルト	1	1	1																									1			4		
	中粒シルト	1																														1		
基質																																461		
孔隙																																14		
10	細礫																															0		
	極粗粒砂	5														1		10		2					1		1					20		
	粗粒砂	3		2					1				1	3	2		22	3		1					3	1	8					50		
	中粒砂	2	7		1									5			13			1	1				4		2	1				37		
	細粒砂	2	10		2										1												2					17		
	極細粒砂	2	1		1																											4		
	粗粒シルト	3	4		2																									3		12		
	中粒シルト																															0		
基質																																743		
孔隙																																23		
11	細礫																															0		
	極粗粒砂																																0	
	粗粒砂		1														1										1	1					4	
	中粒砂	1		2														1															4	
	細粒砂	1	1				1																				1	1					5	
	極細粒砂	1	1	2																													4	
	粗粒シルト	3	3	5																										3			14	
	中粒シルト	2		1																													3	
基質																																	259	
孔隙																																	3	
12	細礫																																0	
	極粗粒砂																2										1							3
	粗粒砂			2													3	1									1							7
	中粒砂		1	1													2	1																5
	細粒砂	3		1																														4
	極細粒砂	2		3																														6
	粗粒シルト	5	3			1		1				1																		4			14	
	中粒シルト	1																																1
基質																																		361
孔隙																																		16

第4表 薄片観察結果(3)

No.	砂粒区分	砂粒の種類構成																				合計								
		鉱物片										岩石片								その他										
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	燐灰石	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	軽石	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類		黒雲母片岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	植物片	植物珪酸体
13	細礫																													0
	極粗粒砂													1			1													2
	粗粒砂															2										1	1			4
	中粒砂	1	1	5					1					1	5	1								1	1					17
	細粒砂	3	1	4					1						2												2			13
	極細粒砂		1	7		1										2											1			10
	粗粒シルト	3	1	7		1		2																					1	15
	中粒シルト	2		3																										5
基質																											548			
孔隙																											12			
14	細礫																													0
	極粗粒砂																													0
	粗粒砂												1		1				1											3
	中粒砂	4													1			2							1					8
	細粒砂	8	3	2		1			1				1											1						17
	極細粒砂	3	1	1		1																		1						5
	粗粒シルト	4	4	4																										8
	中粒シルト	1		1																										2
基質																											182			
孔隙																											2			
15	細礫																													0
	極粗粒砂																													0
	粗粒砂																													0
	中粒砂			1																										1
	細粒砂		1	2		2										2										1				8
	極細粒砂	1		1									1																	3
	粗粒シルト	2		5				1																				1		9
	中粒シルト	2																												2
基質																											255			
孔隙																											3			
16	細礫																													0
	極粗粒砂												1		9									1	5					16
	粗粒砂												1		5	2							2	2	1					13
	中粒砂	1		1												1							1	1	1	1				7
	細粒砂		1									1														9				11
	極細粒砂	2		2																					3					7
	粗粒シルト	4		6							1																			11
	中粒シルト	1		2																										3
基質																											393			
孔隙																											19			
17	細礫																													0
	極粗粒砂			1										1																2
	粗粒砂			2		7														2										11
	中粒砂	1		3		15				3																				22
	細粒砂	5	3	3		30				5	2																			45
	極細粒砂	3	4	4		11				3																				21
	粗粒シルト	1		1		3																								5
	中粒シルト																													0
基質																											269			
孔隙																											6			
18	細礫																													0
	極粗粒砂	1										1		6										1						9
	粗粒砂	1												3	1								1	3						9
	中粒砂			1										2			1							1	2					7
	細粒砂	2		1										1										1	1					6
	極細粒砂	2		3																										5
	粗粒シルト	9		10																								2		21
	中粒シルト	2		2																										4
基質																											320			
孔隙																											8			

第4表 薄片観察結果(4)

No.	砂粒区分	砂粒の種類構成																			合計									
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	燐灰石	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	軽石	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英		花崗岩類	黒雲母片岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	植物片	植物珪酸体
19	細礫																													0
	極粗粒砂															5								1						6
	粗粒砂														2	1									1	1				5
	中粒砂															1		1							2					6
	細粒砂	1		2												1		1						1			1			7
	極細粒砂	1		3															1										5	
	粗粒シルト	3		6																								1	10	
	中粒シルト																													0
基質																												402		
孔隙																												6		
20	細礫															1														1
	極粗粒砂																1									2				3
	粗粒砂	3													2											1				6
	中粒砂	1				1											1		1								1			5
	細粒砂			2		1																								3
	極細粒砂			1																1										2
	粗粒シルト	3	1	6							1																		3	14
	中粒シルト	1																												1
基質																												417		
孔隙																												2		
21	細礫					1																								1
	極粗粒砂																													0
	粗粒砂	1				6																								7
	中粒砂			2	1	7																								10
	細粒砂	1		11		13				2																				27
	極細粒砂			3		9																								12
	粗粒シルト			1		8																								9
	中粒シルト																													0
基質																												229		
孔隙																												2		
22	細礫																													0
	極粗粒砂															1														1
	粗粒砂	2	1	1											2			2							1					11
	中粒砂	2													1										1	1				5
	細粒砂	3		3		1																					3			10
	極細粒砂	3	1																								2		6	
	粗粒シルト	3		1							1																		2	7
	中粒シルト																													0
基質																												210		
孔隙																												5		
23	細礫																													0
	極粗粒砂																													0
	粗粒砂					4												2									1			7
	中粒砂		1	1		5					1																			8
	細粒砂	1		5		13					1		2																	22
	極細粒砂	1		2		19					1	1																		24
	粗粒シルト	2		2		1																							5	
	中粒シルト																													0
基質																												219		
孔隙																												3		
24	細礫																													0
	極粗粒砂	1																								3				4
	粗粒砂	2		1		4																				6				13
	中粒砂	6	1	11		16					6								1	2										43
	細粒砂	6		24		24					12	1														1				68
	極細粒砂	3		16		14					2																			35
	粗粒シルト	4		11		3																								18
	中粒シルト			1																										1
基質																												537		
孔隙																												15		

第4表 薄片観察結果(5)

No.	砂粒区分	砂粒の種類構成																	合計													
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	角閃石	酸化角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	燐灰石	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	軽石	凝灰岩	流紋岩・デイサイト		安山岩	多結晶石英	花崗岩類	黒雲母片岩	ホルンフェルス	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	植物片	植物珪酸体	その他	
25	細礫																														0	
	極粗粒砂																				4										4	
	粗粒砂	3		2																	6										11	
	中粒砂	11	2	22		3												2			2										42	
	細粒砂	8		9		2		1																							20	
	極細粒砂	4		9		2																									15	
	粗粒シルト	1		3																											4	
	中粒シルト																														0	
	基質																															268
	孔隙																															12
26	細礫																														1	
	極粗粒砂			1																											1	
	粗粒砂															1				3		3		1		1					9	
	中粒砂	2	1	2																7		1	1	3		3					20	
	細粒砂	5				1														5				2							13	
	極細粒砂	9	1	3		1														2											17	
	粗粒シルト	22	1	6																							1				29	
	中粒シルト	3																													3	
	基質																															477
	孔隙																															13

3. 結果

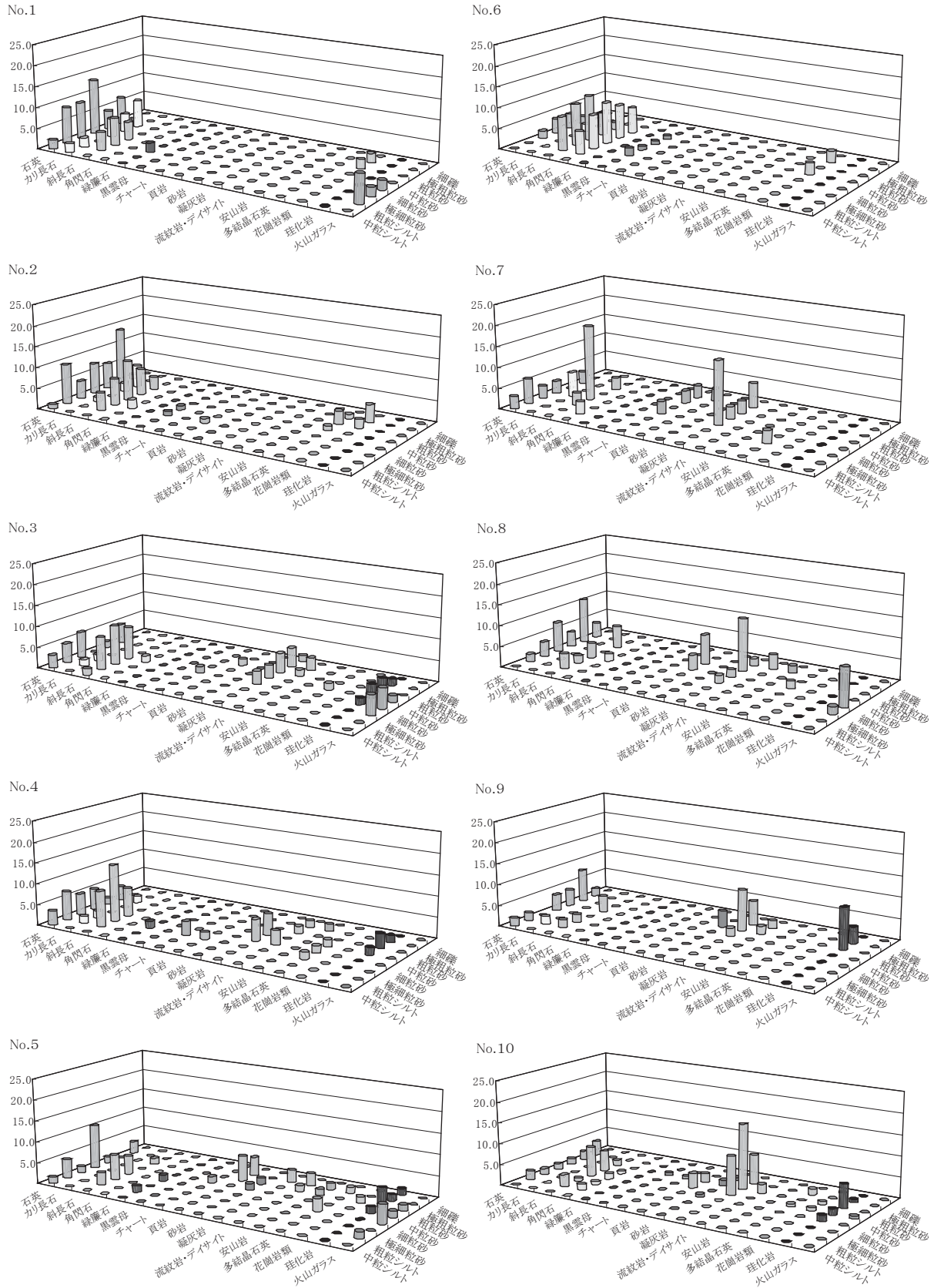
観察結果を第4表、第7図～第9図に示す。これまでの兵庫県下の遺跡出土土器胎土分析において設定した鉱物片および岩石片の種類構成による胎土分類では、A類からM類までの種類が設定され、さらに、各種類について副次的な鉱物や岩石の種類によって細分もしている。今回の結果も、その基準に従って分類してみると以下ようになる。

No.3、No.4、No.8～No.16、No.18～No.20、No.22の計15点は、鉱物片では石英または斜長石を主体とし、微量のカリ長石を伴うことが特徴である。岩石片では、凝灰岩を比較的多く含むことが特徴であり、それ以外に頁岩、流紋岩・デイサイト、花崗岩類、変質岩、珪化岩および火山ガラスという多種類の岩石片および碎屑物を少量含むことが特徴である。凝灰岩を多く含む組成は、これまでの分類のF類に相当する。F類は、これまでのところ、F1類からF6類まで細分されているが、凝灰岩以外に多種類の岩石片および火山ガラスを伴う組成は、F6類に分類される。

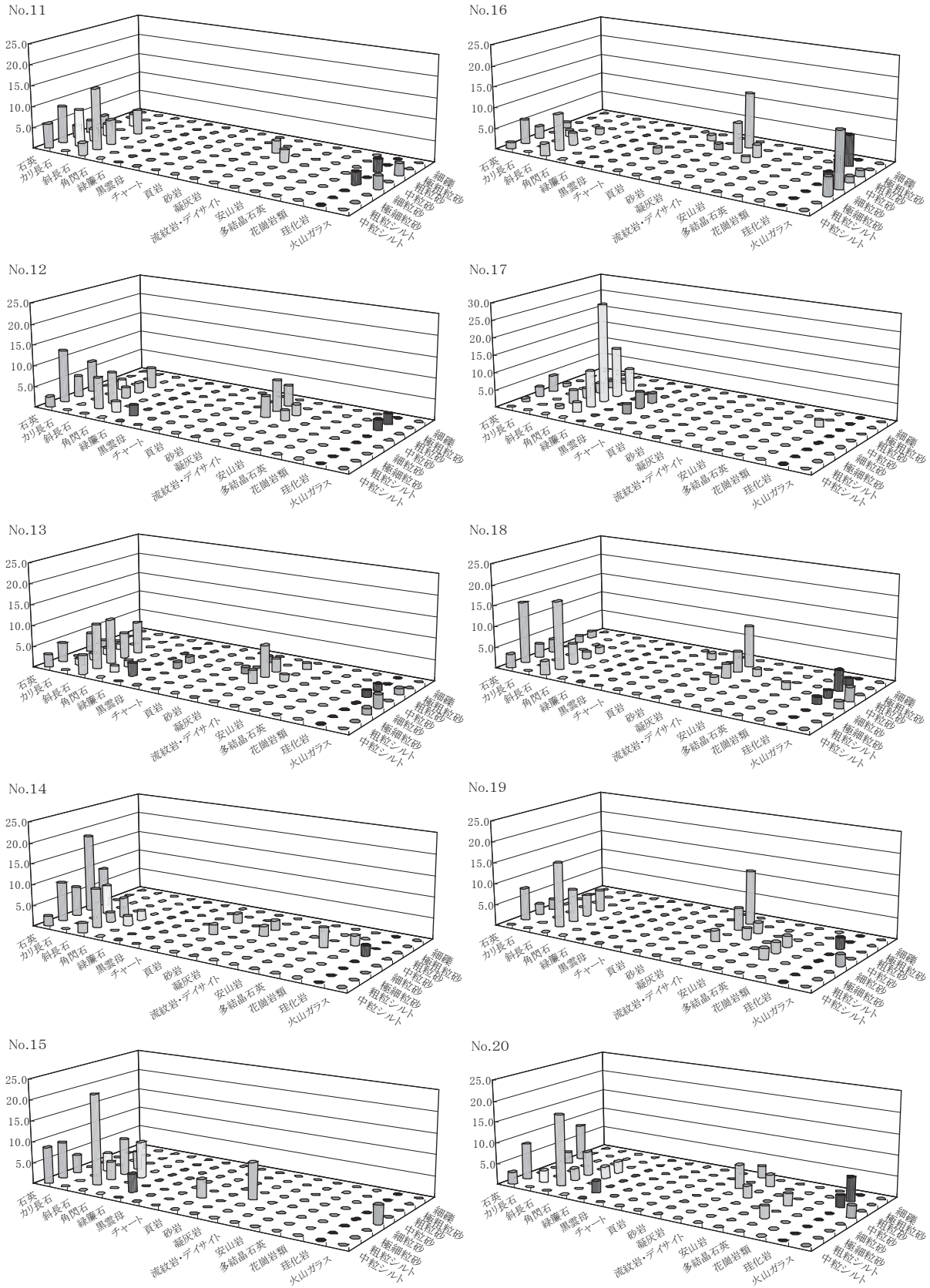
No.7も凝灰岩を多く含むF類に分類されるが、供伴する岩石片はチャート、頁岩の堆積岩類のみであることから、F3類に分類される。なお、F類の凝灰岩および流紋岩・デイサイトは結晶質であることも重要な特徴である。

No.17、No.21、No.23の3点は、角閃石の鉱物片が突出して多く含まれることが特徴である。このような組成は、これまでの分類ではB類に相当する。

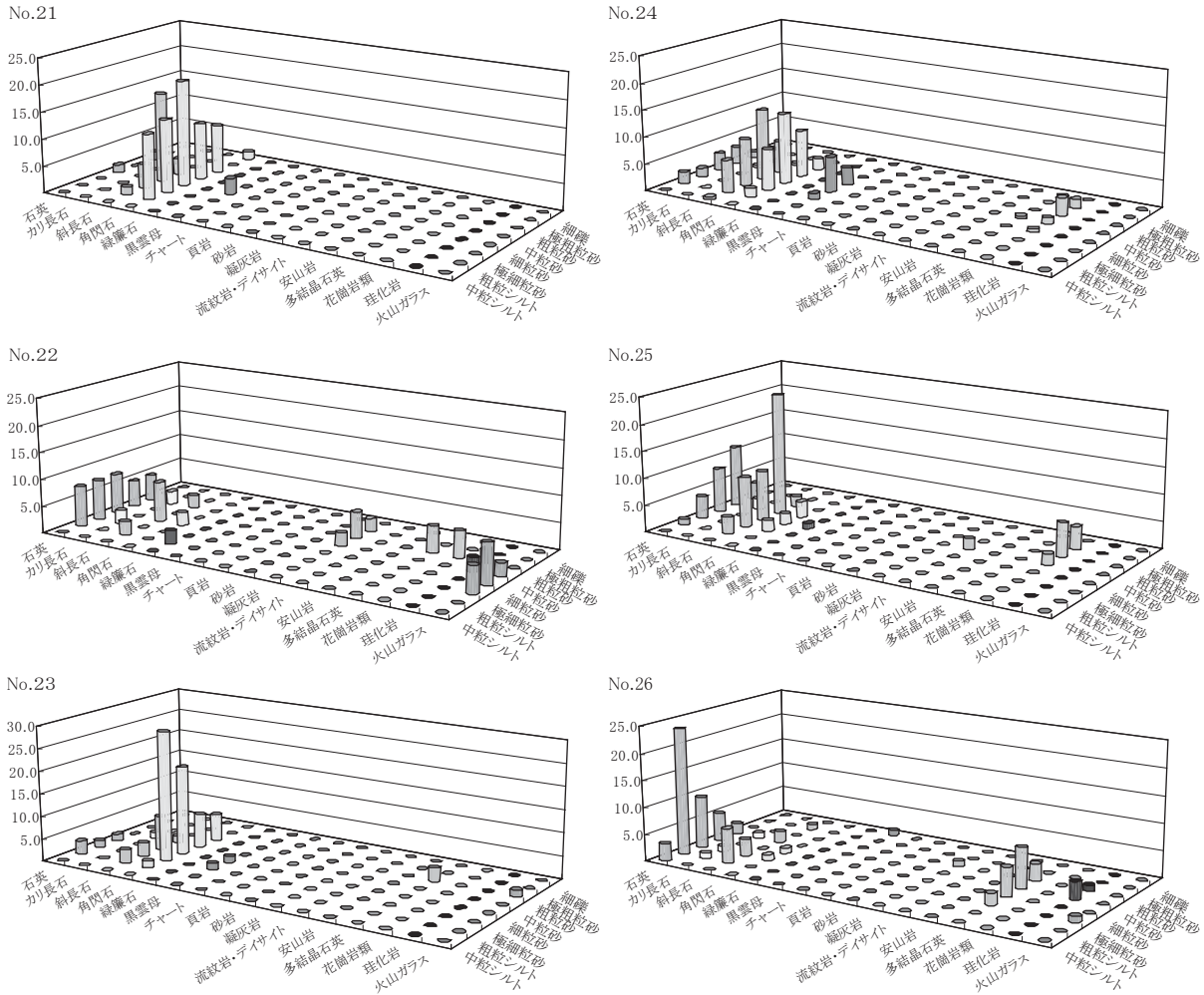
No.6とNo.24も角閃石の鉱物片が多いが、斜長石の鉱物片も同量程度に含まれることから、B類とはせず、岩石片が花崗岩類のみであることから、C1類に分類される。さらに、No.25についても、岩石片では花崗岩類を主体とすることからC類に分類され、石英と長石類を除いた鉱物片では角閃石が多いことからC1類に分類される。なお、C1類の中でも、石英より斜長石の鉱物片が多い組成については、飯田II遺跡の分析事例においてC1c類という分類をした。ここでC1類に分類した3点はいずれも、ほぼC1c類に相当するとしてよい。



第7図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(1)



第7図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(2)

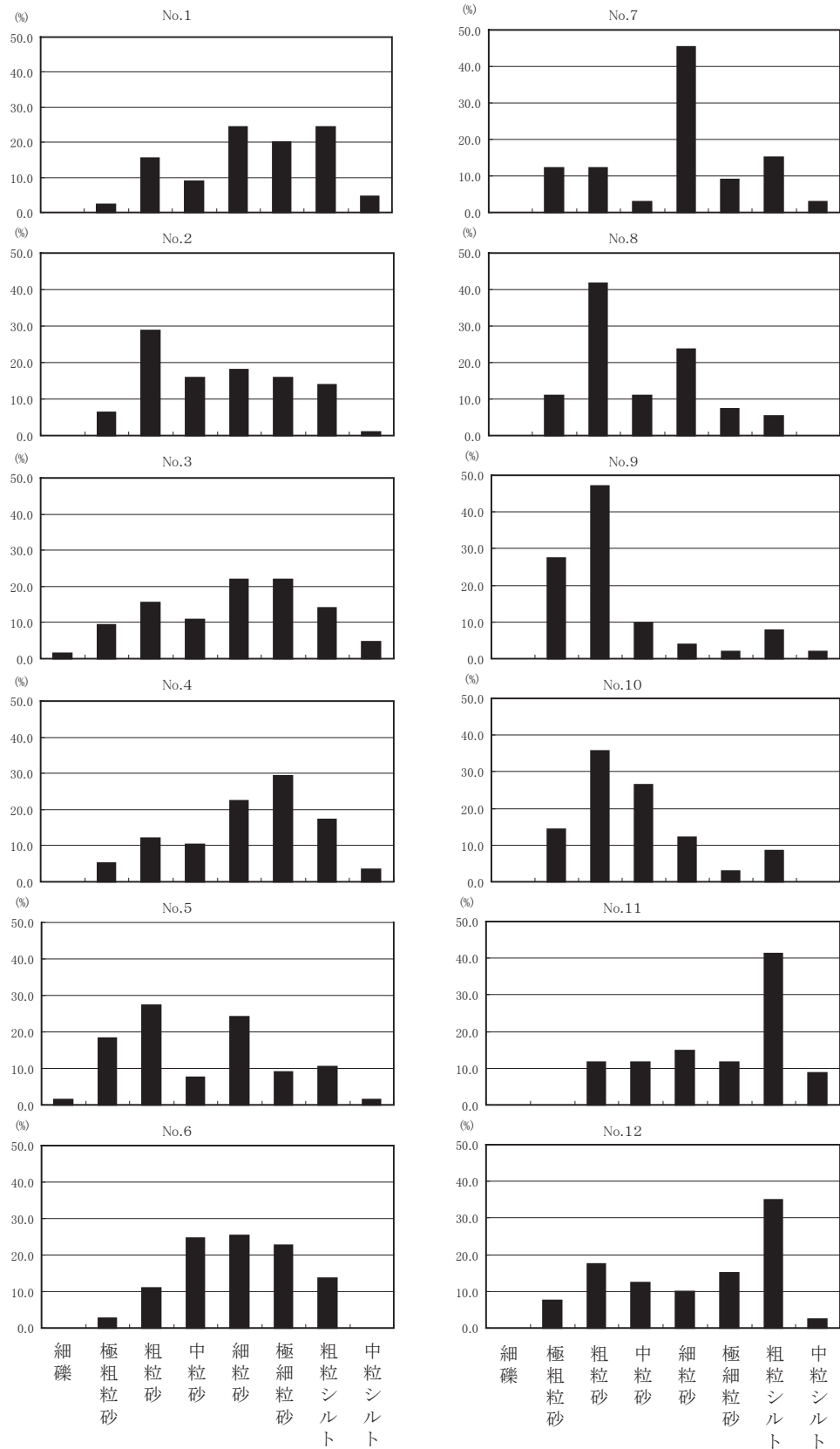


第7図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(3)

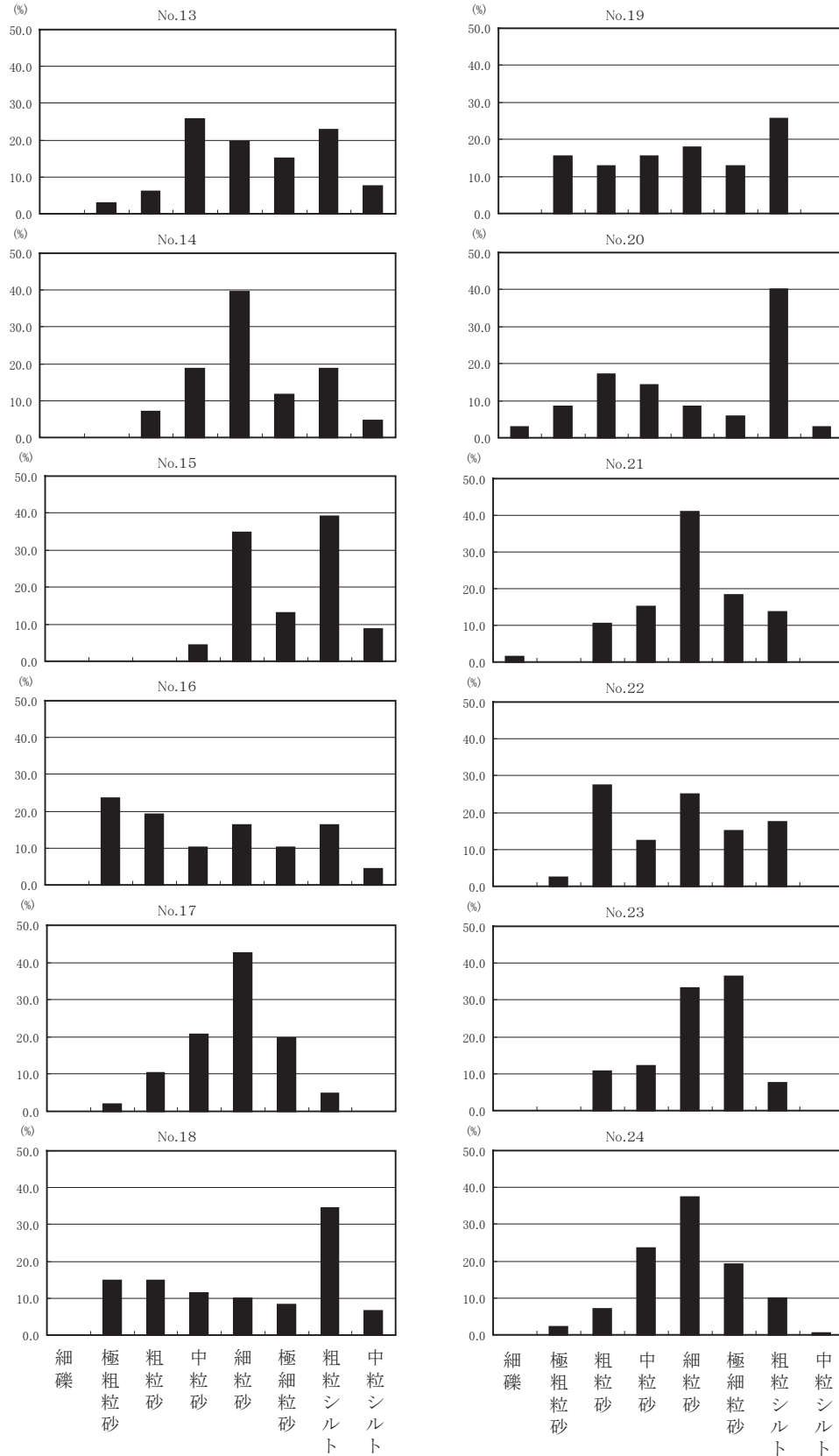
No.1とNo.2およびNo.25は、いずれも岩石片の種類構成をみると花崗岩類を主体とすることから、C類に分類される。これらのうち、No.1の特徴は、火山ガラスを含むことであり、この特徴は、これまでの分析例ではC8類に相当する。No.2の特徴は頁岩と多結晶石英を含むことといえるが、この特徴はこれまでに分類されたC8類までの特徴には相当しない。砂粒の全体量が少ないために、本来含まれているはずの岩石片が検出されていない可能性もあるが、ここでは、C9類としておく。

No.5については、チャート、頁岩、砂岩の堆積岩類が比較的多いが、凝灰岩や流紋岩・デイサイトも花崗岩類も含まれている。さらに変質岩、珪化岩、火山ガラスも含まれることから、これまでの分類のA4類に相当する。

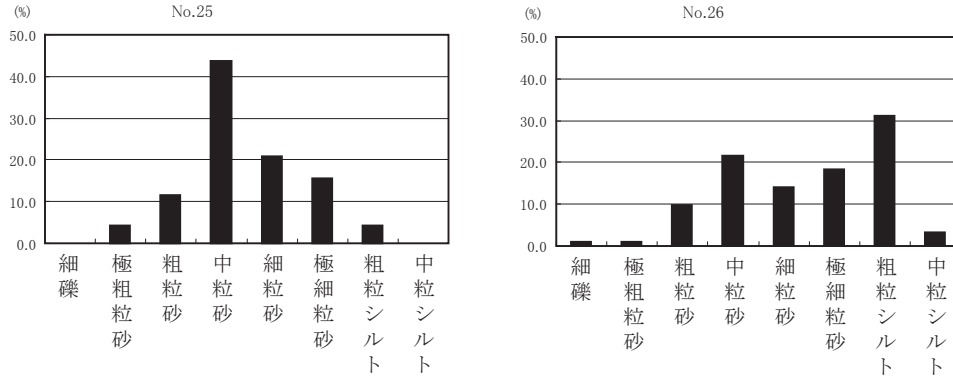
No.26については、岩石片の主体は多結晶石英であるが、それ以外の岩石片では、黒雲母片岩、脈石英、珪化岩の3者がほぼ同量程度に含まれている。鉱物片では、石英が最も多く、次いで斜長石が含まれ、カリ長石、角閃石、黒雲母が微量含まれている。このような鉱物・岩石組成は、これまでの分析例では確認されたことがないことから、新たにN類とする。



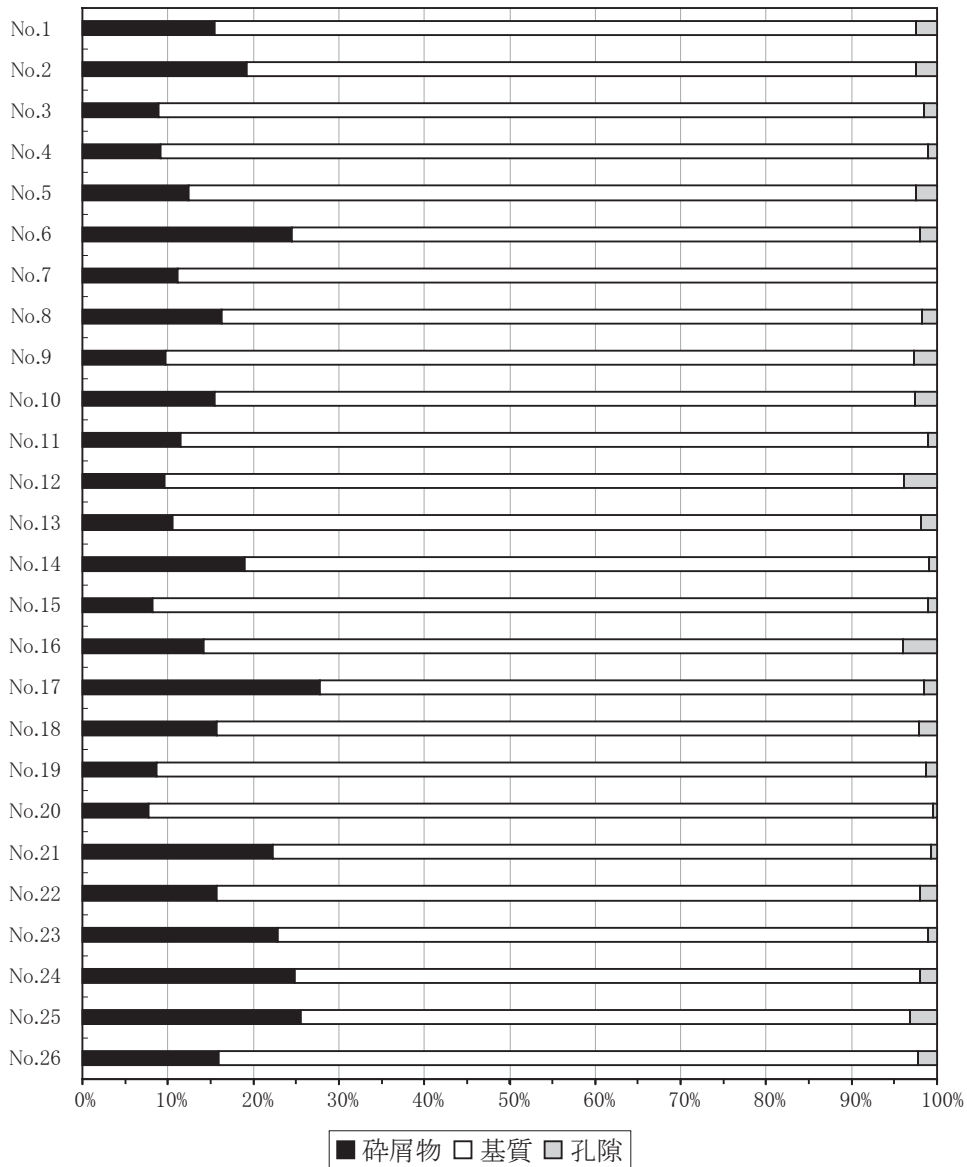
第8図 胎土中の砂の粒径組成(1)



第8図 胎土中の砂の粒径組成(2)



第8図 胎土中の砂の粒径組成(3)



第9図 碎屑物・基質・孔隙の割合

次に各試料の砂分全体の粒径組成をみると、モードを示す粒径は試料により異なる。ここでは、モードを示す粒径により、粗粒傾向の組成から細粒傾向の組成に向かって、順に1類から6類までの分類を設定した。各分類の内容を以下に示す。

- 1類：粗粒砂または極粗粒砂をモードとする。
- 2類：中粒砂をモードとする。
- 3類：細粒砂をモードとするが、中粒砂も同程度に多い。
- 4類：細粒砂をモードとする。
- 5類：極細粒砂をモードとする。
- 6類：粗粒シルトをモードとする。

今回の試料では、6類が最も多く、8点を占め、次いで1類が多く、7点を占める。他は、4類が5点、5類が3点、2類が2点、3類が1点である。碎屑物・基質・孔隙の割合では、碎屑物の割合が10%前後と15%前後および20%以上で3分することができる。順にⅠ類～Ⅲ類とすると、今回の試料では以下の通りに分けられる。

- Ⅰ類：No.3、No.4、No.7、No.9、No.11～No.13、No.15、No.19、No.20
- Ⅱ類：No.1、No.2、No.5、No.8、No.10、No.14、No.16、No.18、No.22、No.26
- Ⅲ類：No.6、No.17、No.21、No.23、No.24、No.25

なお、上述した各試料の鉱物・岩石組成、粒径組成および碎屑物の量比における各分類結果は、一覧にして第3表に併記する。

4. 考察

(1) 胎土の由来と発掘調査所見による産地の可能性

今回の試料において最も多くの試料が分類されたF6類は、当社が以前に分析した飯田遺跡出土の庄内式とされた甗、甕、製塩土器の胎土および飯田遺跡Ⅱ出土の播磨産とされた庄内甗、甕、壺、高坏および小型丸底壺と同様の分類である。これらの報告でも述べたように、F6類の鉱物・岩石組成は飯田遺跡周辺の地質学的背景と整合すると考えられたが、それは同様に池ノ下遺跡の地質学的背景でもある。すなわち、結晶質の凝灰岩や流紋岩・デイサイトは、姫路市内に分布する丘陵を構成している中生代白亜紀の相生層群の中の上部亜層群に相当する伊勢層に由来し、花崗岩類は、池ノ下遺跡背後の丘陵の北側に分布する丘陵(桜山貯水池を囲んでいる)を構成している白亜紀-古第三紀の斑状角閃石黒雲母花崗閃緑岩(桜山岩体)に由来し、さらに火山ガラスは、姫路市中心市街地を取り囲む丘陵の縁辺に形成された山麓緩斜面堆積物中に挟まれるテフラ層に由来すると考えられた(以上、猪木(1981)、日本の地質「近畿地方」編集委員会(1987)、山元ほか(2000)の地質記載参照)。したがって、F6類に分類された、縄文土器、弥生時代前期の弥生土器および古墳時代初頭の土師器は、いずれも池ノ下遺跡や飯田遺跡の位置を含む姫路市およびその周辺域で作られた可能性が高いと考えられる。なお、F6類に分類された試料の中には、発掘調査所見により、但馬産、吉備産、丹波産、山陰(但馬・因幡)産とされた古墳時代初頭の土師器甗や壺も含まれているが、現時点では、これらもその製作地は姫路市およびその周辺域であると考えられる。

F6類と同様に凝灰岩の多い胎土であるF3類は、これまでの分析事例では、市川の河口付近に位置する南通り遺跡から出土した弥生時代後期の弥生土器に認められている。F3の示す鉱物・岩石組成は市

川の流域に分布する堆積岩類と凝灰岩類からなる地質を反映していることから、その製作地は南通り遺跡周辺の可能性があると考えた。F3類は、F6類の組成から、花崗岩類と変質岩、珪化岩および火山ガラスを除いた組成とも言えるが、花崗岩類は桜山岩体由来し、火山ガラスは丘陵周縁の山麓緩斜面堆積物由来するとすれば、F3類の胎土は、丘陵地から比較的離れた位置にある南通り遺跡周辺の地域を製作地とすることを示唆する可能性がある。その場合、今回の試料であるNo.7は、池ノ下遺跡からはやや離れた市川河口付近で作製された可能性があると考えられる。

B類という胎土は、これまでの兵庫県内における分析例では、伊丹市に所在する小阪田遺跡出土の弥生土器に認められているが、その試料は、発掘調査所見により生駒西麓産である可能性が指摘されている。また、前述した姫路市に位置する南通り遺跡出土の弥生土器にも認められており、これも河内産という発掘調査所見が示されている。一方、今回の試料では、B類に分類された3点のうち、No.17は、讃岐産の所見が示されている。また、当社分析事例(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004)には、讃岐平野に位置する上天神遺跡や空港跡地遺跡から出土した弥生土器の中に、B類に相当する胎土の試料が認められている。これらの状況から、B類の胎土は少なくとも姫路市周辺産ではなく、河内産または讃岐産を示す胎土の可能性はある。現時点では、讃岐地域および河内地域における土師器分析事例が充分得られておらず、いずれかに確定することはできない。今後の事例蓄積による検討が必要と考えられる。

今回の試料の中で、それぞれ讃岐産および河内産とされたNo.6とNo.24は、上述したB類ではなく、C1類に分類された。また、吉備産とされたNo.25もC1類に分類された。さらに、いずれも飯田遺跡Ⅱの分析事例におけるC1c類に分類される。飯田遺跡Ⅱの試料では、やはり讃岐産および河内産とされた試料がいずれもC1類に分類されている。また、C1c類の由来する地質については、飯田遺跡Ⅱの報告において、小豆島に分布する石英閃緑岩をあげた。今回の試料についても、讃岐産でも吉備産でも河内産でもなく、小豆島産の可能性はあると考えられる。ただし、前報でも述べたように、小豆島における自然堆積物の確認と土器の産出状況まで含めて確認し、検討する必要があると考えられる。

弥生時代中期の弥生土器No.1が分類されたC8類については、これまでの分析事例では姫路市西方に隣接する太子町に位置する沖代遺跡から出土した弥生時代前期の土器に認められている。C8類の由来する地域としては、花崗岩類を桜山岩体、火山ガラスをその周縁に形成された山麓緩斜面堆積物にそれぞれ由来すると考え、桜山岩体の周辺域に推定した。今回のNo.1の弥生土器も、池ノ下遺跡からは若干距離のある桜山岩体周辺で作製された可能性があると考えられる。

No.2が分類されたC9類については、現時点では類例もないため、その地域性を推定することはできない。発掘調査所見により、No.2は山陰(伯耆・出雲)産との所見が示されている。この地域には、白亜紀後期から古第三紀にかけて形成された深成岩類の岩体が広く分布する(寺岡ほか, 1996)ことから、C類の胎土の由来する地域としては基本的に矛盾はない。少なくともF6類やF3類でないことは、池ノ下遺跡周辺地域で作製された可能性の低いことを示唆しており、今後の類例蓄積による地域性の推定が必要であろう。

No.5が分類されたA4類は、これまでの分析事例では、太子町に所在する東南遺跡から出土した古墳時代初頭とされる土師器と縄文土器に多数認められている。東南遺跡の報告では、A4類の地質学的背景は、揖保川流域の地質とほぼ一致すると考え、A4類の地域性として揖保川下流域という推定を行っている。今回の試料のNo.5は、発掘調査所見により丹波産との地域性が示されているが、東南遺跡の事例からは、揖保川下流域産である可能性があると考えられる。

No26は阿波産という所見があり、胎土の分類は、これまでに認められなかったN類とされた。N類の中で、特に注目される岩石片は、黒雲母片岩である。この岩石は、結晶片岩から構成される変成岩帯に由来することから、N類の地質学的背景としては、変成岩帯の分布を考えることができる。ここで、阿波産という所見を考慮すると、徳島県北部の吉野川右岸側に分布する四国山地には、三波川帯と呼ばれる変成岩帯が広く分布している(牧本ほか, 1995)。すなわち、発掘調査所見と胎土から推定される地質学的背景とが整合する分析例となる可能性が高い。現時点では、阿波産とされた試料の分析例は、本分析の1点のみであることから、今後は同様の所見が示された多数の試料について、その胎土を確認し、検討する必要があると考えられる。

(2) 胎土と器種との対応関係

胎土と器種との関係では、鉱物・岩石組成、粒径組成および碎屑物の割合のいずれの分類においても、有意な対応関係が認められない。例えば、粒径組成では、粗粒の1類と2類、細粒の5類と6類、中間的な3類と4類という見方をした場合に、土師器の甕には粗粒、中粒、細粒のいずれもが含まれ、壺にも粗粒と細粒のものとの混在する。器台と高坏および鉢はいずれも細粒ではあるが、本分析では1点のみであるため、器種としての特性は不明である。

引用文献

- 猪木幸男, 1981, 20万分の1地質図幅「姫路」. 地質調査所.
- 牧本 博・利光誠一・高橋 浩・水野清秀・駒澤正夫・志和龍一, 1995, 20万分の1地質図幅「徳島」, 地質調査所.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高, 1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－. 日本文化財科学会第16回大会発表要旨集, 120-121.
- 日本の地質「近畿地方」編集委員会, 1987, 日本の地質6 近畿地方. 共立出版, 297p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2004, 高松平野内遺跡出土弥生土器の胎土分析. 空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8冊 空港跡地遺跡Ⅷ. 香川県教育委員会・香川県土地開発公社, 220-241.
- 寺岡易司・松浦浩久・牧本 博・吉田史郎・神谷雅晴・広島俊男・駒澤正夫・志知龍一, 1996, 20万分の1地質図幅「高梁」. 地質調査所.
- 山元孝広・栗本史雄・吉岡敏和, 2000, 龍野地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 66p.

第3節 池ノ下遺跡出土鍛冶関連遺物の分析

九州テクノリサーチ・TACセンター

1. いきさつ

池ノ下遺跡は兵庫県姫路市苦編・町坪に所在する。調査地区内の平安時代の溝跡から、鉄滓等の鍛冶関連遺物が複数出土した。35区および18区出土遺物が12世紀前半から中頃、53区出土遺物は12世紀後半のものと推定されている。当該期の遺跡周辺での鉄器生産の様相を検討する目的から、分析調査を実施する運びとなった。

2. 調査方法

2-1. 供試材

第5表に示す。鍛冶関連遺物6点の調査を行った。

2-2. 調査項目

(1) 肉眼観察

遺物の外観上の特徴を簡単に記載した。この所見をもとに分析試料採取位置を決定している。

(2) 顕微鏡組織

鋳滓の鋳物組成、金属部の組織観察や非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 μ と1 μ で鏡面研磨した。

また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して、写真撮影を行った。なお金属鉄部の調査では3%ニタル(硝酸アルコール液)を腐食(Etching)に用いた。

(3) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO)：容量法。

炭素(C)、硫黄(S)：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素(SiO₂)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K₂O)、酸化ナトリウム(Na₂O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO₂)、酸化クロム(Cr₂O₃)、五酸化燐(P₂O₅)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO₂)：ICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

第5表 供試材の履歴と調査項目

符 号	遺跡名	出土遺構	遺物名称	推定年代	計 測 値		メタル度	調 査 項 目							報告 番号	
					大きさ(mm)	重量 (g)		マクロ 組 織	顕微鏡 組 織	ピカース 断面硬	X線 回折	EPMA	化学 分析	耐火度		カラー
AGH-1	池ノ下 遺 跡	35区SD086下層	椀形鍛冶滓	12c前半 ~中頃	65×55×30	71.19	なし		○				○			M16
AGH-2		35区SD086下層	椀形鍛冶滓 (含鉄)		55×54.5×32	72.76	H(○)		○				○			M17
AGH-3		18区SD013	椀形鍛冶滓		92.5×84×28	206.55	なし		○				○			M3
AGH-4		18区SD013	椀形鍛冶滓		55×55.5×25	46.69	なし		○				○			M4
AGH-5		53区SB065P12	鉄塊系遺物	12c後半	69×52×27	111.76	L(●)		○				○			M47
AGH-6		53区SK050上層	椀形鍛冶滓		54.5×43×21	56.98	なし		○				○			M41

3. 調査結果

AGH-1：椀形鍛冶滓(M16)

- (1) 肉眼観察：平面不整六角形状で偏平な71g強の椀形鍛冶滓である。表面はやや風化気味で、色調は灰褐色である。上面は比較的平坦で、長さ10mm弱の木炭痕が散在する。下面は浅い皿状で木炭痕による細かい凹凸がみられる。側面は1面を除いて破面で、微細な気孔が点在するが、緻密である。
- (2) 顕微鏡組織：写真図版30①～③に示す。白色粒状結晶ウスタイト(Wustite： FeO)、淡灰色盤状結晶ファヤライト(Fayalite： $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$)が晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。
- (3) 化学組成分析：第6表に示す。全鉄分(Total Fe)54.20%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.05%、酸化第1鉄(FeO)53.60%、酸化第2鉄(Fe_2O_3)17.85%の割合であった。造滓成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$)は24.07%で、このうち塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)は1.03%と低値である。通常製鉄原料の砂鉄に含まれる二酸化チタン(TiO_2)は0.32%、バナジウム(V)も0.02%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)も0.08%、銅(Cu) $<0.01\%$ と低値である。

当鉄滓は主に鉄酸化物と炉材(羽口・炉壁)粘土溶融物または鍛接剤(粘土汁、藁灰)起源の造滓成分(SiO_2 主成分)からなり、砂鉄起源の脈石成分(TiO_2 、V、MnO)は低減傾向が顕著であった。熱間での鍛打加工に伴って生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

AGH-2：椀形鍛冶滓(含鉄)(M17)

- (1) 肉眼観察：73g弱のやや小型の椀形鍛冶滓である。表面には黄褐色の土砂が付着する。滓の色調は灰褐色で、上面端部には1箇所小さな錆化鉄部が目につく。特殊金属探知機のH(○)^(注1)で反応があり、内部には微細な金属鉄が残存する可能性がある。また下面は木炭痕による凹凸が著しい。側面は1面が破面で、気孔は少なく緻密である。
- (2) 顕微鏡組織：写真図版30④～⑥に示す。滓中にはごく微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。
- また滓中には、ごく微細な金属鉄が複数散在する。3%ナイトルで腐食したところ、フェライト・パーライトの重共析組織～全面パーライトの共析組織が確認された。⑤⑥はその拡大である。この金属組織からは炭素含有率0.7～0.8%程度の鋼と判断される。
- (3) 化学組成分析：第6表に示す。全鉄分(Total Fe)46.03%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.66%、酸化第1鉄(FeO)23.42%、錆化鉄の影響から酸化第2鉄(Fe_2O_3)高めの38.84%の割合であった。造滓成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$)25.01%で、このうち塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)は0.97%と低めであった。通常製鉄原料の砂鉄に含まれる二酸化チタン(TiO_2)は0.37%、バナジウム(V)0.02%と低値である。また酸化マンガン(MnO)は0.24%、銅(Cu)も $<0.01\%$ と低い。

滓部の鉱物組成から、当鉄滓も鍛錬鍛冶滓に分類される、また滓中の微小金属鉄部は重共析組織～共析組織を呈しており、熱間で加工された鉄素材は高炭素鋼であった可能性が考えられる。

AGH-3：椀形鍛冶滓(M3)

- (1) 肉眼観察：207gとやや大型で偏平な椀形鍛冶滓である。滓の色調は黒灰色であるが、上面には部分的に黒色ガラス質滓が付着する。これは羽口先端の溶融物と推測される。また上面は比較的平坦であるが、中小の気孔が散在しており、一部木炭を噛みこんでいる。下面は浅い皿状で、一部砂質土が付着する。

- (2) 顕微鏡組織：写真図版31①～③に示す。淡灰色柱状結晶ファヤライト、白色樹枝状結晶ウスタイトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。
- (3) 化学組成分析：第6表に示す。全鉄分(Total Fe)45.78%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.26%、酸化第1鉄(FeO)16.24%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)47.04%の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)24.19%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は0.53%と低い。通常製鉄原料の砂鉄に含まれる二酸化チタン(TiO₂)は0.33%、バナジウム(V)が0.01%と低値であった。また酸化マンガ(MnO)も0.11%、銅(Cu)<0.01%と低値である。

当鉄滓も主に鉄酸化物と炉材(羽口・炉壁)粘土溶融物または鍛接剤(粘土汁、藁灰)起源の造滓成分(SiO₂主成分)からなり、鍛錬鍛冶滓に分類される。

AGH-4：椀形鍛冶滓(M4)

- (1) 肉眼観察：47g弱のやや小型の椀形鍛冶滓である。表面には黄褐色の土砂が付着する。上面端部には部分的に黒色ガラス質滓が付着しており、羽口先端の溶融物と推測される。上面は中央が窪む形状で、下面には細かい気孔が点在する。側面は1面が破面で、気孔は少なく緻密である。
- (2) 顕微鏡組織：写真図版31④～⑥に示す。淡灰色柱状結晶ファヤライト、白色粒状結晶ウスタイトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。
- (3) 化学組成分析：第6表に示す。全鉄分(Total Fe)36.17%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.02%、酸化第1鉄(FeO)4.24%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)46.98%の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)36.72%と高めであるが、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は0.57%と低値である。通常製鉄原料の砂鉄に含まれる二酸化チタン(TiO₂)は0.36%、バナジウム(V)も0.02%と低い。さらに酸化マンガ(MnO)0.08%、銅(Cu)も<0.01%と低値である。

当鉄滓も砂鉄起源の脈石成分(TiO₂、V、MnO)の低減傾向が顕著で鍛錬鍛冶滓に分類される。また炉材(羽口・炉壁)粘土溶融物または鍛接剤(粘土汁、藁灰)起源の造滓成分(SiO₂主成分)の割合の高い滓であった。

AGH-5：鉄塊系遺物(M47)

- (1) 肉眼観察：平面不整五角形状でやや偏平な112g弱の鉄塊系遺物である。表面は黄褐色の土砂で覆われる。また一部灰褐色の滓部が観察されるが、全体に特殊金属探知機のL(●)で反応があり、銹化による割れも生じている。内部にはまとまった金属鉄部が存在する可能性が高い。
- (2) 顕微鏡組織：写真図版32①～④に示す。断面観察位置では、上面側に滓部が固着する。①はそ

第6表 供試材の化学組成

符 号	遺跡名	出土遺構	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸 化 第 1 鉄 (FeO)	酸 化 第 2 鉄 (Fe ₂ O ₃)	*	*	*
									二 酸 化 珪 素 (SiO ₂)	酸化アル ミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化カル シウム (CaO)
AGH-1	池ノ下遺跡	35区SD086下層	椀形鍛冶滓	12c前半 ～中頃	54.20	0.05	53.60	17.85	18.47	3.93	0.69
AGH-2		35区SD086下層	椀形鍛冶滓(含鉄)		46.03	0.66	23.42	38.84	19.66	3.70	0.63
AGH-3		18区SD013	椀形鍛冶滓		45.78	0.26	16.24	47.04	16.23	7.07	0.34
AGH-4		18区SD013	椀形鍛冶滓		36.17	0.02	4.24	46.98	28.68	6.33	0.42
AGH-5		53区SB065P12	鉄塊系遺物	12c後半	52.07	3.65	21.48	45.36	8.88	1.94	0.52
AGH-6		53区SK050上層	椀形鍛冶滓		63.26	0.07	58.99	24.79	10.47	2.33	0.26

の拡大で淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル(Ulvöspinel: $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。砂鉄製錬滓の晶癖である。

一方下面側にはまとまった金属鉄部が存在する。②～④はその拡大で重共析組織($C < 0.77\%$)を呈する。なかでも上面側(明色部: ③)はやや炭素量が低く、下側(暗色部: ④)は炭素量が高い。この金属組織から、炭素含有率0.5～0.7%程度の鋼と推定される。

(3) 化学組成分析: 第6表に示す。金属鉄部は断面金属組織観察を優先したため、錆化鉄部および滓部主体の測定値となった。全鉄分(Total Fe)52.07%に対して、金属鉄(Metallic Fe)3.65%、酸化第1鉄(FeO)21.48%、酸化第2鉄(Fe_2O_3)45.36%の割合であった。造滓成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$)は11.96%と低めで、塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)も0.83%と低値であった。また製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO_2)は1.48%、バナジウム(V)が0.08%であった。さらに酸化マンガン(MnO)は0.14%、銅(Cu) $< 0.01\%$ と低い。

滓部の鉍物組成から当鉄塊の始発原料は砂鉄で、精錬鍛冶作業前の状態の鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物: 鋼)と推定される。なお兵庫県下では砂鉄を製鉄原料とした古代～中世の製鉄遺跡も確認されており、近接地域で生産された鉄塊が鍛冶原料として搬入されたと想定しても矛盾はない。

AGH-6: 椀形鍛冶滓(M41)

(1) 肉眼観察: 57g弱のやや小型で偏平な椀形鍛冶滓である。滓の色調は黒灰色である。上面は比較的平坦で、下面は木炭痕による凹凸が著しい。側面は1面が破面で、ごく微細な気孔が点在する。

(2) 顕微鏡組織: 写真図版32⑤⑥に示す。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。またウスタイト粒内に点在する微細な暗灰色部はヘルシナイト(Hercynite: $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$)と推定される。さらに⑥左上の微細な明白色粒は金属鉄である。

(3) 化学組成分析: 第6表に示す。全鉄分(Total Fe)63.26%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.07%、酸化第1鉄(FeO)58.99%、酸化第2鉄(Fe_2O_3)24.79%の割合であった。造滓成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$)13.35%と低めで、塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)も0.39%と低値である。通常製鉄原料の砂鉄に含まれる二酸化チタン(TiO_2)は0.19%、バナジウム(V)も0.01%と低値であった。さらに酸化マンガン(MnO)も0.03%、銅(Cu)も $< 0.01\%$ と低い。

当鉄滓も砂鉄起源の脈石成分(TiO_2 、V、MnO)の低減傾向が顕著で鍛錬鍛冶滓に分類される。また比較的酸化鉄の割合が高い。これは鉄素材の熱間加工時の吹き減り(酸化に伴う損失)によるものと推測される。

*												Σ*		
酸化マグネシウム(MgO)	酸化カリウム(K_2O)	酸化ナトリウム(Na_2O)	酸化マンガン(MnO)	二酸化チタン(TiO_2)	酸化クロム(Cr_2O_3)	硫黄(S)	五酸化燐(P_2O_5)	炭素(C)	バナジウム(V)	銅(Cu)	二酸化ジルコニウム(ZrO_2)	造滓成分	造滓成分	TiO ₂
												Total Fe	Total Fe	
0.34	0.38	0.26	0.08	0.32	0.02	0.01	0.22	0.18	0.02	<0.01	0.02	24.07	0.444	0.006
0.34	0.45	0.23	0.24	0.37	0.02	0.10	0.16	1.50	0.02	<0.01	0.02	25.01	0.543	0.008
0.19	0.17	0.19	0.11	0.33	0.02	0.06	0.16	1.08	0.01	<0.01	0.03	24.19	0.528	0.007
0.15	0.85	0.29	0.08	0.36	0.01	0.05	0.26	0.57	0.02	<0.01	0.02	36.72	1.015	0.010
0.31	0.24	0.07	0.14	1.48	0.03	0.22	0.24	1.60	0.08	<0.01	0.11	11.96	0.230	0.028
0.13	0.10	0.06	0.03	0.19	0.02	0.01	0.10	0.17	0.01	<0.01	0.01	13.35	0.211	0.003

3. まとめ

池ノ下遺跡から出土した鍛冶関連遺物を調査した結果、次の点が明らかとなった。

〈1〉53区(推定年代：12世紀後半)から出土した鉄塊系遺物(AGH-5)は、精錬鍛冶作業前の鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物)に分類される。滓部の鉱物組成から、製鉄原料は砂鉄と推定される。兵庫県下では、砂鉄を原料とした古代～中世の製鉄遺跡が存在している。こうした生産遺跡から鍛冶原料が供給されたと想定しても矛盾のない特徴といえる(注2)。

また後述のように、今回分析調査を実施した鉄滓中には精錬鍛冶滓は確認されなかった。ただし鉄塊系遺物(AGH-5)にはかなり製錬滓が固着しているため、こうした不純物を溶融除去する精錬鍛冶作業も一部行われていた可能性が考えられる。

鉄塊系遺物(AGH-5)の金属鉄部はまとまりの良い鋼であった。高炭素域では0.7%程度の炭素含有率と推定される。硬度を要求される刃金にもなり得る性状といえる。

また後述の35区出土椀形鍛冶滓(AGH-2)の微細な金属鉄部も鋼(炭素含有率0.7～0.8%程度)であった。こちらの推定年代は12世紀前半から中頃とやや先行する時期の遺物であるが、やはり鉄素材(鋼)を熱間加工していたことが明らかとなった。

〈2〉分析調査を実施した鉄滓5点〔35区出土(AGH-1、2、推定年代：12世紀前半から中頃)、18区出土(AGH-3、4、推定年代：12世紀前半から中頃)、G区出土(AGH-6、推定年代：12世紀前半)〕は、すべて鍛錬鍛冶滓に分類される。

この結果ら、当遺跡では主に砂鉄系鉄素材を熱間で加工して、鍛造鉄器を製作する作業が行われていたものと判断される。

(大澤正己・鈴木瑞穂)

(注)

(1) メタル度とは、金属関係の遺物内部の金属残存状態を、非破壊で推定するため調整された、特殊金属探知機を使用した判定法のことを指す。感度は三段階〔H：high(○)、M：middle(◎)、L：low(●)〕に設定されている。低感度で反応があるほど、内部に大型の金属鉄が残存すると推測される。特殊金属探知機の詳細な仕様は、以下の文献に記載されている。

穴澤義功「鉄生産遺跡調査の現状と課題－鉄関連遺物の整理と分析資料の準備について－」『鉄関連遺物の分析評価に関する研究会報告』(社)日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学部会「鉄の歴史－その技術と文化－」フォーラム 鉄関連遺物分析評価研究グループ 2005

(2) 大澤正己「生栖遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『生栖遺跡』－県道八鹿山崎線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－(兵庫県文化財調査報告 第280冊)兵庫県教育委員会 2005

第7表 出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	出土遺構	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成(%)								所見
						Total Fe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	造滓成分	Cu	
AGH-1	池ノ下遺跡	35区SD086下層	椀形鍛冶滓	12c前半～中頃	滓部：W+F	54.20	17.85	1.03	0.32	0.02	0.08	24.07	<0.01	鍛錬鍛冶滓
AGH-2		35区SD086下層	椀形鍛冶滓(含鉄)		滓部：微細W+F、 微小金属鉄部： 亜共析組織～ 共析組織	46.03	38.84	0.97	0.37	0.02	0.24	25.01	<0.01	鍛錬鍛冶滓
AGH-3		18区SD013	椀形鍛冶滓		滓部：F+W	45.78	47.04	0.53	0.33	0.01	0.11	24.19	<0.01	鍛錬鍛冶滓
AGH-4		18区SD013	椀形鍛冶滓		滓部：F+W	36.17	46.98	0.57	0.36	0.02	0.08	36.72	<0.01	鍛錬鍛冶滓
AGH-5		53区SB065P12	鉄塊系遺物	12c後半	滓部：U+F、 金属鉄部： 亜共析組織	52.07	45.36	0.83	1.48	0.08	0.14	11.96	<0.01	製錬鉄塊系遺物 (製鉄原料：砂鉄)
AGH-6		53区SK050上層	椀形鍛冶滓		滓部：W (粒内微細H)	63.26	24.79	0.39	0.19	0.01	0.03	13.35	<0.01	鍛錬鍛冶滓

W：Wustite(FeO)、F：Fayalite(2FeO・SiO₂)、U：Ulvöspinel(2FeO・TiO₂)、H：Hercynite(FeO・Al₂O₃)

第4節 池ノ下遺跡出土銅鏃の材質分析

1 はじめに

池ノ下遺跡より出土した銅鏃(M76)について顕微鏡による構造調査と、蛍光X線分析装置による材質調査を行った。

2 試料

分析の対象とする試料は、弥生時代後期の溝SD048から出土した1点である。

3 試料の観察と分析

実体顕微鏡による観察

最初に実体顕微鏡で表面の状態を観察した。使用した装置は(株)ニコン製SMZ-1500である。表面の風化の状態の観察を目的とし、分析する箇所を検討した。

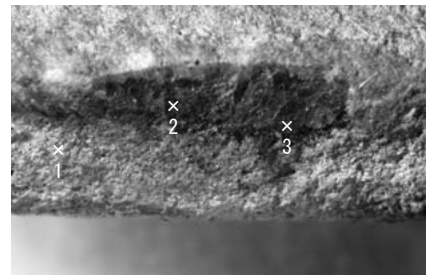
蛍光X線分析装置による分析

蛍光X線分析は、スペクトロ社製エネルギー分散型蛍光X線分析装置MIDEX-Mを用いて行った。分析の条件は電圧45kV、電流0.25mA、測定時間180秒でコリメータ径は2.0mmで測定した。ターゲットはモリブデン(Mo)、検出器はペルチェ冷却SDD(液体窒素不要)である。

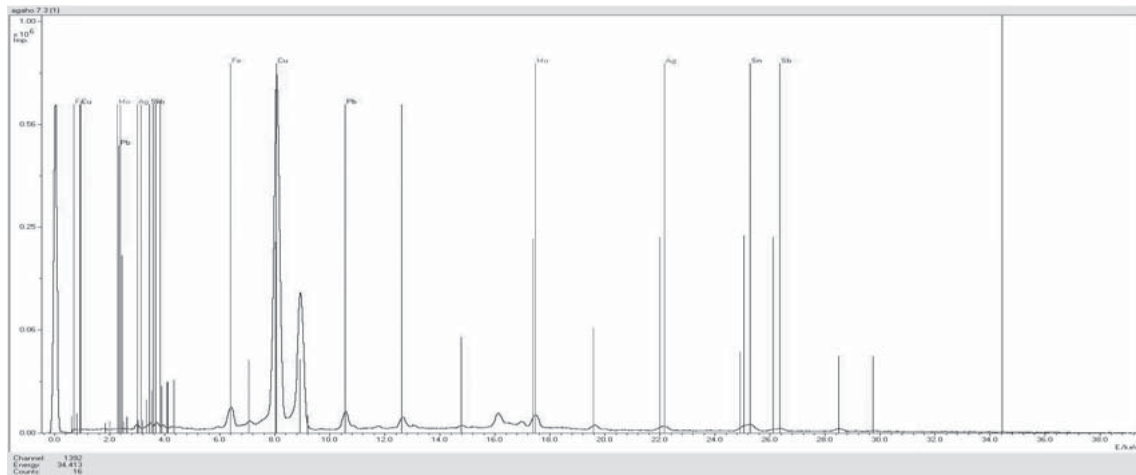
今回の測定の結果は、表面の非破壊測定によるため、表面の風化や形状が影響し、必ずしも試料内部の正確な化学組成を示すものにはならないが、大まかな材質を判断することは可能である。

4 分析結果と考察

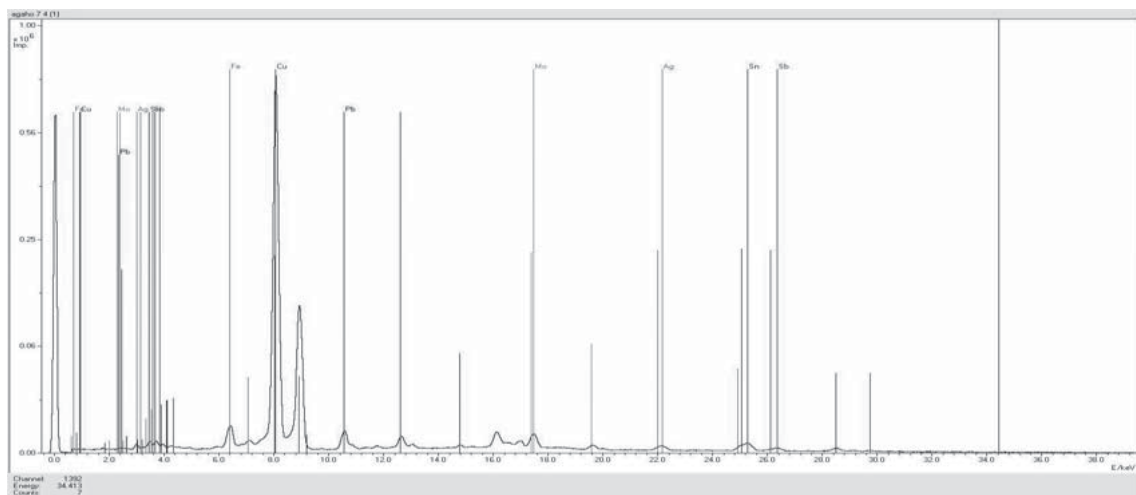
蛍光X線分析の結果からは、銅(Cu)、錫(Sn)を主成分として鉛(Pb)を含む合金である青銅であることが判明した。また微量元素として鉄(Fe)、銀(Ag)、アンチモン(Sb)が検出された。鉄は土由来の、銀は鉛鉱石に含まれる微量元素、アンチモンは錫鉱石に含まれる微量元素と考えられる。



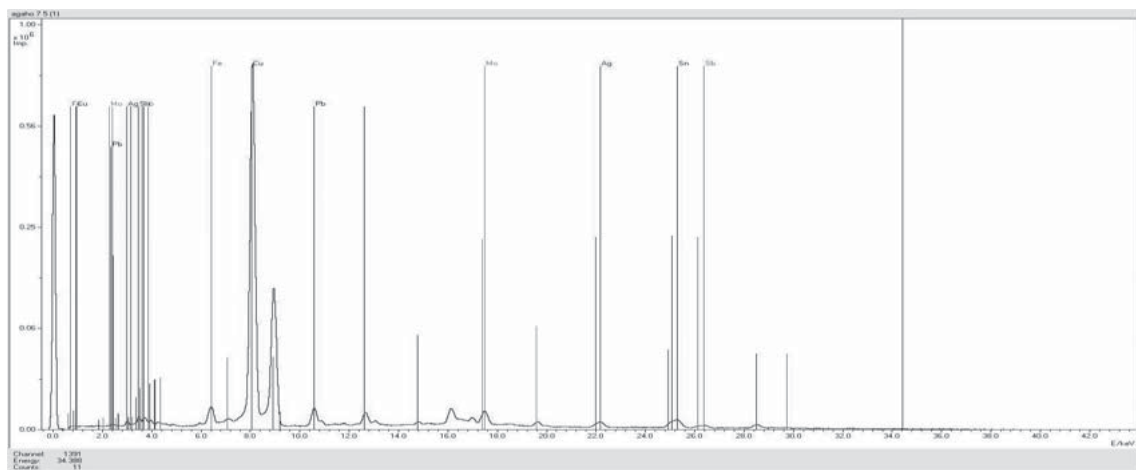
第10図 銅鏃の全体像と測定箇所



1



2



3

第11図 銅鏃蛍光X線定性分析スペクトル

第5節 池ノ下遺跡出土ガラス玉の材質分析

1 はじめに

池ノ下遺跡より出土した赤色透明のガラス玉について顕微鏡による構造調査と、蛍光X線分析装置による材質調査を行った。

2 試料

分析の対象とする試料は、竪穴住居SH001の埋土から出土した1点(S8)である。



3 試料の観察と分析

実体顕微鏡による観察

最初に実体顕微鏡で観察し、デジタルカメラで記録を取った。

使用した装置は(株)ニコン製SMZ-1500である。表面の風化の状態とガラス玉内部の気泡の観察による製作技法の検討を目的とし、落射光と透過光により観察した(第12図)。



第12図 池ノ下遺跡出土ガラス玉

蛍光X線分析装置による分析

蛍光X線分析は、スペクトロ社製エネルギー分散型蛍光X線分析装置MIDEX-Mを用いて行った。分析の条件は電圧45kV、電流0.25mA、測定時間180秒、軽元素側は電圧19kV、電流0.3mA、測定時間300秒で、コリメータ径は2.0mmで測定した。ターゲットはモリブデン(Mo)、検出器はベルチェ冷却SDD(液体窒素不要)である。測定雰囲気は、軽元素の検出感度を上げるためにヘリウムガスパージを行った。

また、独立行政法人 文化財機構 奈良文化財研究所の田村朋美氏に分析の指導・助言をいただいた。奈良文化財研究所では、エダックス社製EAGLE IIIを用いて分析を行った。分析の条件は、電圧20kV、電流100 μ A、測定時間300秒、コリメータ径は2.0mmで測定した。検出器は液体窒素冷却をおこなった。測定雰囲気は、空気による2次X線の吸収をできるだけ少なくするため、試料と検出器の間を真空状態として測定した。測定の結果はガラス標準試料をもちいて、検出した元素の総和が100%になるように規格化し、酸化物重量百分率で表示した(第8表)。

今回の測定の結果は、表面の非破壊測定によるため、表面の風化や形状が影響し、必ずしも試料内部の正確な化学組成を示すものにはならないが、大まかなガラスの材質を判断することは可能である。

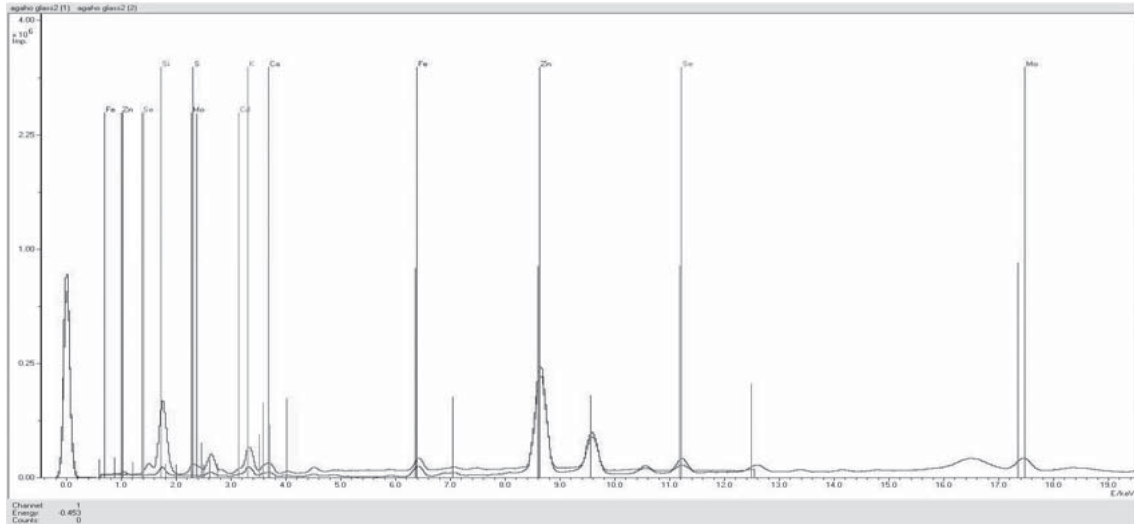
4 分析結果

顕微鏡による観察では、ガラス内部に孔と平行に小さな気泡が直線上に連なっていること、孔壁面が平滑であることが観察できた。

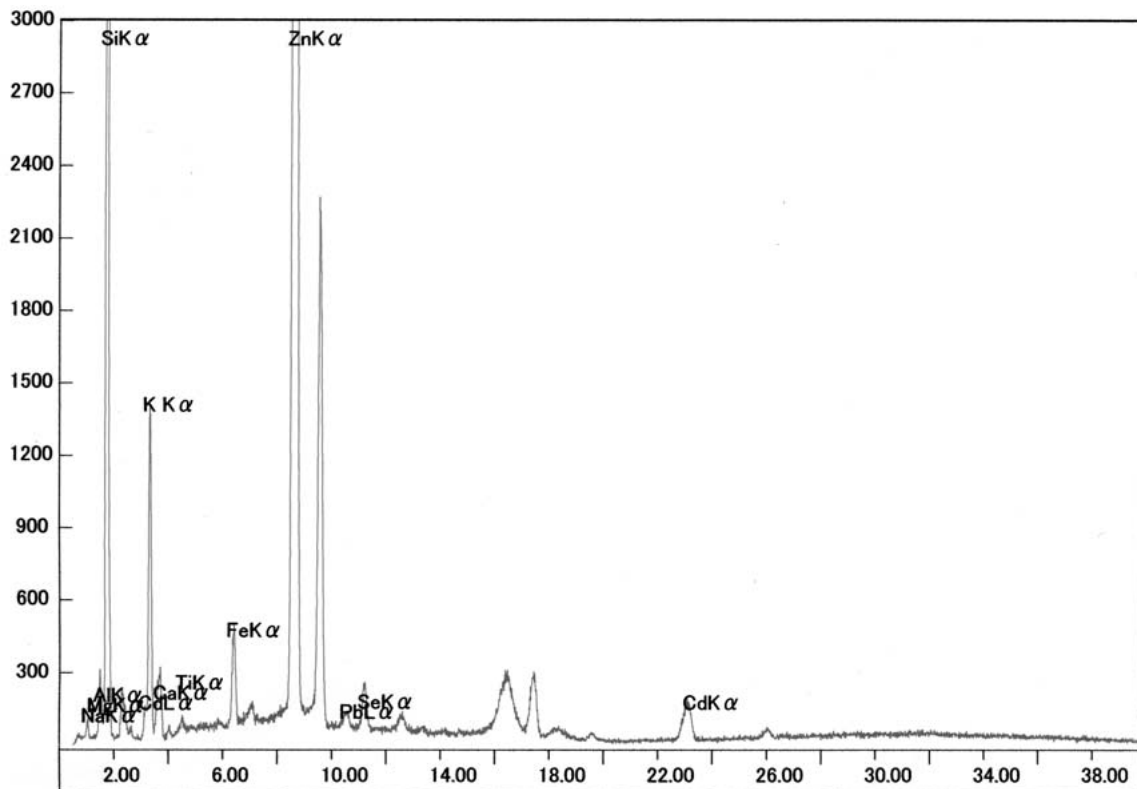
蛍光X線による材質分析では、ガラスの主成分である珪素(Si)の他にアルミニウム(Al)、カリウム(K)、鉄(Fe)、亜鉛(Zn)、セレン(Se)、カドミウム(Cd)、錫(Sn)を検出した。赤色の着色はセレン、カドミウムの混入によるものと考えられる。

第8表 ガラス玉成分分析結果

元素	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	CdO	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Fe ₂ O ₃	ZnO	SeO ₂
重量%	9.62	0.28	4.18	74.96	0.65	4.73	0.52	0.12	0.22	4.66	0.07



(考古博物館測定)



(奈良文化財研究所測定)

第13図 ガラス玉蛍光X線定性分析スペクトル

第6節 池ノ下遺跡における樹種同定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

池ノ下遺跡では、礎板や矢板など多くの木製品が検出されている。ここでは、これら木製品の樹種を明らかにし、当時の木材利用ならびに周辺の森林植生について検討した。

2. 試料

試料は、池ノ下遺跡より出土した板材、杭材、矢板、欵、鋤、曲物、横杓子、漆器、礎板、楯、柱、柱根などの木材50点である。

3. 方法

カミソリを用いて試料の新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柁目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40~1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果一覧を第9表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第14図に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

モミ属 *Abies* マツ科 写真40

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は比較的緩やかである。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は小型のスギ型で1分野に1~4個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、じゅず状末端壁を有する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりモミ属に同定される。モミ属は日本に5種が自生し、その内ウラジロモミ、トドマツ、シラビソ、オオシラビソの4種は亜寒帯に分布し、モミは温帯を中心に分布する。常緑高木で高さ45m、径1.5mに達する。材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 写真28

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属には、クロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。材は水湿によく耐え、広く用いられる。

スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科 写真29

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞ぐらいである。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 写真3

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高ぐらいである。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱であり、耐朽性、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真12

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 写真9

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものがみられる。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性ともに低いが、建築材などに用いられる。

シイ属 *Castanopsis* ブナ科 写真16

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性はやや低く、建築、器具などに用いられる。

なおシイ属には、スダジイとツブラジイがあり、集合放射組織の有無などで同定できるが、本試料は広範囲の観察が困難であったため、シイ属の同定にとどめる。

ブナ属 *Fagus* ブナ科 写真6

横断面：小型でやや角張った道管が、単独あるいは2～3個複合して密に散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は緩やかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔である。放射組織はほとんど平伏細胞からなるが、ときに上下端のみ方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織はまれに上下端のみ方形細胞が見られるがほとんどが同性放射組織型で、単列のもの、2～数列のもの、大型の広放射組織のものがある。

以上の形質よりブナ属に同定される。ブナ属には、ブナ、イヌブナがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ35m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で緻密、靱性があるが保存性は低い。容器などに用いられる。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真39

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 写真11

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は強靱で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真7・18

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと同型の大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性が強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

エノキ属 *Celtis* ニレ科 写真13

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～2細胞幅の小型のものと、8～12細胞幅ぐらいで鞘細胞をもつ大型のものからなる。

以上の形質よりエノキ属に同定される。エノキ属にはエゾエノキ、エノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1.5mに達する。材は、建築、器具、薪炭などに用いられる。

クスノキ *Cinnamomum camphora* Presl クスノキ科 写真19

横断面：中型から大型の道管が、単独および2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。これらの柔細胞の中には、しばしば大きく膨れ上がったものがみられる。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなり、これらの直立細胞のなかには、油を含み大きく膨れ上がったものも存在する。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには、大きく膨れ上がったものがみられる。

以上の形質よりクスノキに同定される。クスノキは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、通常高さ25m、径80cmぐらいであるが、高さ50m、径5mに達するものもある。材は堅硬で耐朽性、保存性が高く、芳香がある。建築、器具、楽器、船、彫刻、ろくろ細工などに用いられる。

カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 写真35

横断面：中型から大型の道管が、単独および2～4個放射方向に複合して、散在する散孔材である。道管の壁は厚い。不鮮明ではあるが接線状に配列する軸方向柔細胞がみられる。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。いずれの放射組織も高さがほぼ同じで、層階状に配列する傾向を示す。

以上の形質よりカキノキ属に同定される。カキノキ属には、トキワガキ、ヤマガキ、マメガキなどがあり、本州(西部)、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径1mぐらいに達する。材は、建築、器具などに用いられる。

5. 所見

池ノ下遺跡で出土した木材について樹種同定を行った。その結果、ヒノキ21点、スギ11点、コナラ属アカガシ亜属6点、マツ属複維管束亜属2点、モミ属1点、クリ1点、ツブラジイ1点、シイ属1点、ブナ属1点、コナラ属コナラ節1点、コナラ属クスギ節1点、エノキ属1点、クスノキ1点、カキノキ属1点が同定された。

検出数の多いヒノキは、礎板、矢板、杭、柱根、板、田下駄?などに使用されている。材は木理通直で大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高い。古墳時代以降多くなる用材である。続いて多いスギは、礎板、側板、板、横杓子、曲物、柱根などに使用されている。材は加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材である。コナラ属アカガシ亜属は、鋏、板、矢板、鋤、杭に使用されている。堅硬な材で、農耕具などの利用が多い。マツ属単維管束亜属は水湿に良く耐える材であり、柱根に使用されている。モミ属は軽軟で加工が容易な木材であり、楯に使用されている。クリは矢板に使用されており、重硬で保存性が良い材である。ツブラジイ、シイ属は矢板に使用されており、ツブラジイを含むシイ属は耐朽性、保存性は低い材である。ブナ属は強さ中庸、切削、加工も中庸であるが、弾性と従曲性に富む。漆器に使用されている。コナラ属クスギ節は弾力に富んだ強い材であり、杭に使用されている。エノキ属は概して強さは中庸、やや堅く従曲性に富んだ材である。杭に使用されている。クスノキは堅硬で耐朽性が高い材であり、槽・盤に使用されている。カキノキ属は概して堅硬な材と言え、柱根に使用されている。なお、立木はコナラ属コナラ節であった。

モミ、マツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキは温帯を中心に広く分布する針葉樹であり、モミは谷間や緩傾斜地の適潤な深層の肥沃地を好む常緑高木である。マツ属複維管束亜属も常緑高木で、土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。スギは肥沃で湿潤な土壌を好む常緑高木であり、特に積雪地帯や多雨地帯で純林を形成する。ヒノキは適潤性であるが乾燥した土壌にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にもよく生育する常緑高木であり、特に温帯中部に多い。次に広葉樹では、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、クスノキは温帯下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木である。コナラ属アカガシ亜属は、一般にカシと総称されるが、イチイガシ、アラカシなど多くの種があり、イチイガシは自然度が高いが、アラカシは二次林性でもある。シイ属も二次林要素であり、クスノキは海岸沿いに多い。コナラ属コナラ節、コナラ属クスギ節、エノキ属は温帯に広く分布する落葉高木であり、コナラ属コナラ節、コナラ属クスギ節は日当たりの良い山野に生育し、エノキ属は谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に生育する。カキノキ属は暖温帯から熱帯に分布する落葉高木で、日当たりの良い尾根筋や緩傾斜地を好む。

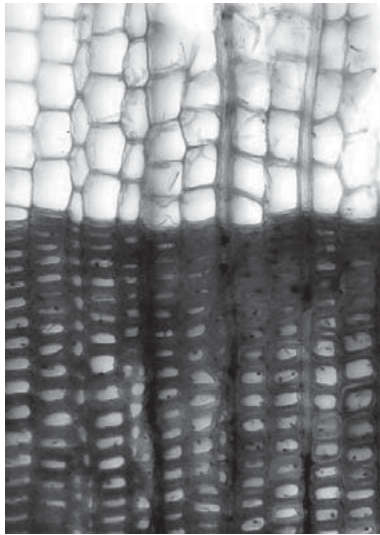
以上のことから、池ノ下遺跡の木材の樹種は、温帯下部の暖温帯に分布する樹木であり、当時遺跡周辺からか近隣地域よりもたらされたと推定される。

参考文献

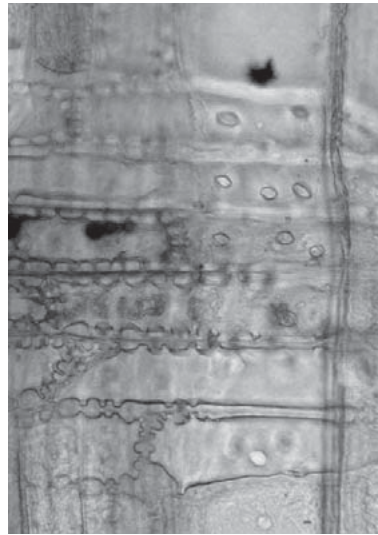
- 佐伯浩・原田浩(1985) 針葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p. 20-48.
 佐伯浩・原田浩(1985) 広葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p. 49-100.
 島地謙・伊東隆夫(1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p. 296.
 山田昌久(1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p. 242.

第9表 池ノ下遺跡における樹種同定結果

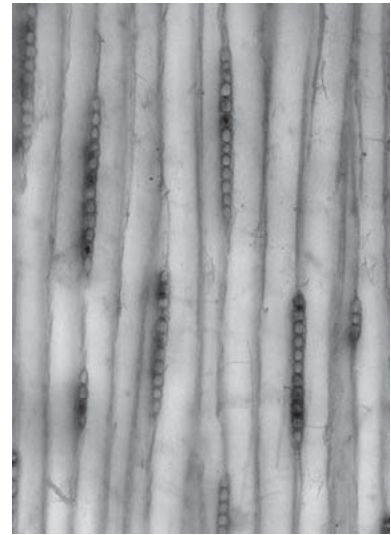
No.	調査番号-番号	報告番号	地区	遺構	器種	結果(学名/和名)		写真
1	2005157-1	W83	37	SB050P04	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
2	2005157-2	W82	37	SB050P05	礎板	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
3	2005157-3	W81	37	SB050P05	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	第12図(2)
4	2005157-5	W84	37	SB050P02	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
5	2005157-6	W86	37	SB050P02	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
6	2005157-31	-	37	SK039	漆器	<i>Fagus</i>	ブナ属	第12図(3)
7	2005157-321	W58	28	SD045	鋤	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	第12図(4)
8	2005157-333	W24	28	SW008	鋤・鍬	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	
9	2005157-444	W25	28	SW008	矢板	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky	ツブラジイ	第12図(2)
10	2005157-445	W28	28	SW008	矢板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
11	2005157-454	W35	28	SW008	杭	<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i>	コナラ属クヌギ節	第12図(4)
12	2005157-484	W26	28	SW008	杭	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	第12図(2)
13	2005157-520	W11	28	SW005	杭	<i>Celtis</i>	エノキ属	第12図(5)
14	2005157-598	-	28	SW009	杭	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
15	2005157-632	W37	28	SW009	矢板	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	
16	2005157-642	W45	28	SW009	矢板	<i>Castanopsis</i>	シイ属	第12図(3)
17	2005157-734	W17	28	SW007	矢板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
18	2005157-794	W36	28	SD047	又鍬	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	第12図(4)
19	2005157-795	W61	28	SD047	槽・盤	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl	クスノキ	第12図(5)
20	2005157-854	W66	34	SW011	杭	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	
21	2005157-874	W68	34	SW011	板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
22	2005157-893	-	26	ST003	南側板	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
23	2005157-894	-	26	ST003	北側板	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
24	2005157-895	-	26	ST003	西小口	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
25	2005157-896	-	26	ST003	東小口	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
26	2006055-1	-	14	SB016P07	柱根	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
27	2006055-2	-	15	P1501	柱根	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
28	2006055-3	-	8	SB012P09	柱根	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	第12図(1)
29	2006093-1	W95	56	SD186	横杓子	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	第12図(1)
30	2006093-4	W102	49	SD138	角材	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
31	2006093-33	-	56	P5601	礎板	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	
32	2006093-35	W103	55	SD171	田下駄?	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
33	2007057-1	-	62	P6201	柱根	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
34	2007057-4	-	65	SB087P04	柱根	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
35	2007057-8	-	19	SB028P04	礎板	<i>Diospyros</i>	カキノキ属	第12図(5)
36	2007057-10	-	19	SB028P02	礎板	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
37	2007057-12	-	19	SB030P05	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
38	2007057-13	W2	19	SB030P09	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
39	2007057-22	-	65	SD242	立木	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節	第12図(3)
40	2007057-25	W105	58	SD201	楯	<i>Abies</i>	モミ属	第12図(1)
41	2007057-31	-	66	SE001	曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
42	2007057-34	W1	19	SB028P10	礎板	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
43	2007057-35	-	19	SB028P02	柱根	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
44	2007057-36	-	58	SB076P07	礎板	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
45	2007057-48	W109	58	SW012	杭	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	
46	2006093-9	W100	49	SD138	部材	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
47	2007057-15	W3	19	SB030P14	礎板?	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ	
48	2007057-26	W104	58	SD201	柄部	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
49	2007057-72	W111	58	SW012	杭	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	
50	2005194-1	-	41	SB056P04	柱根	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ	



横断面 ————— : 0.2mm

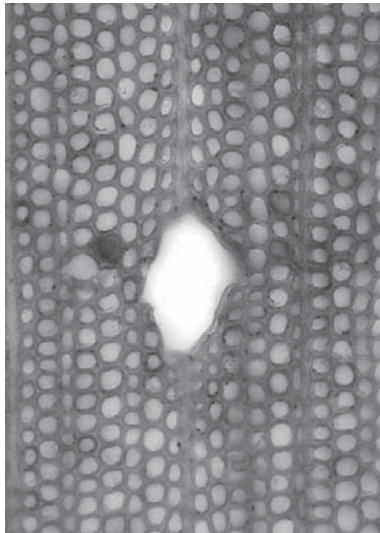


放射断面 ————— : 0.05mm

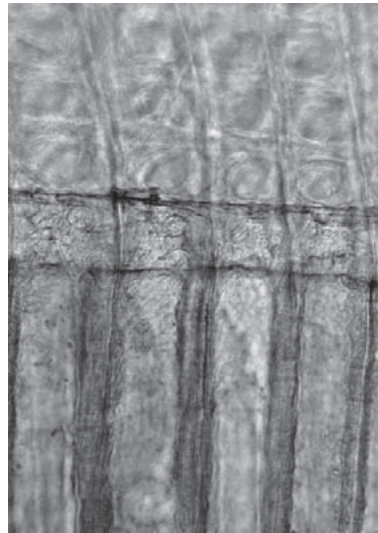


接線断面 ————— : 0.2mm

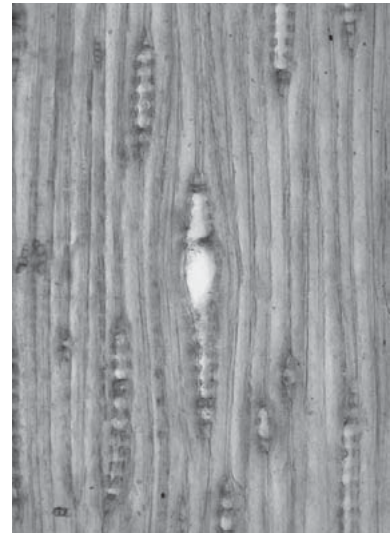
40. W105(2007057-25) 58区 SD201 楡 モミ属



横断面 ————— : 0.2mm

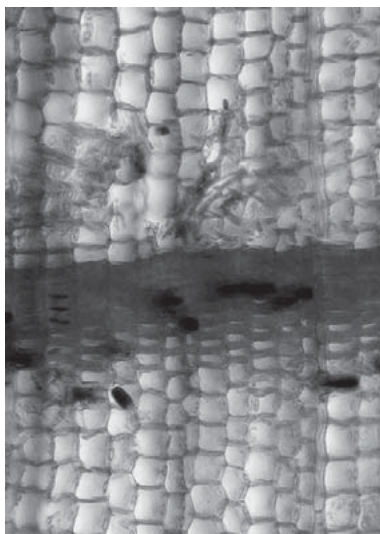


放射断面 ————— : 0.05mm

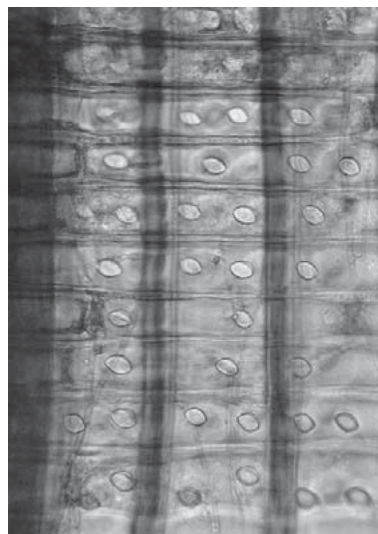


接線断面 ————— : 0.2mm

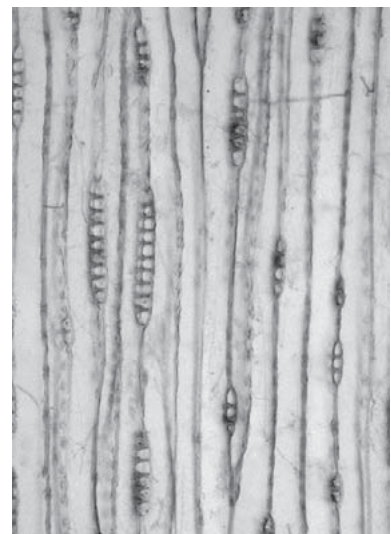
28. (2006055-3) 8区 SB012P09 柱根 マツ属複雑管束亜属



横断面 ————— : 0.2mm



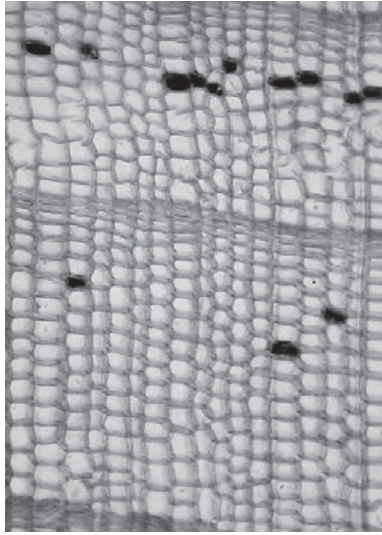
放射断面 ————— : 0.05mm



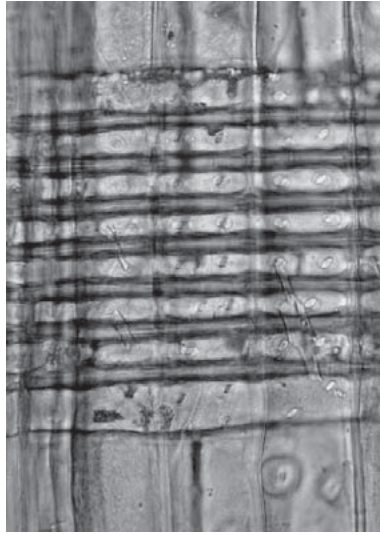
接線断面 ————— : 0.2mm

29. W95(2006093-1) 56区 SD186 横杓子 スギ

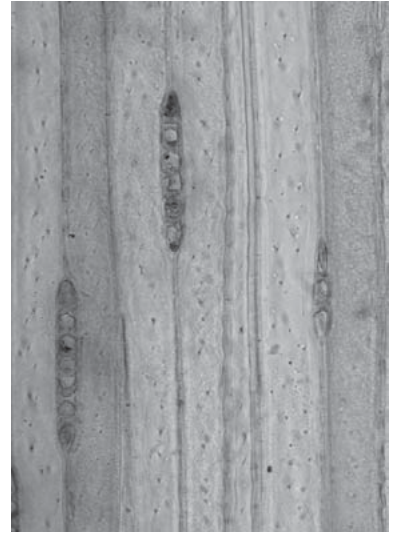
第14図 池ノ下遺跡の木材(1)



横断面 ————— : 0.2mm

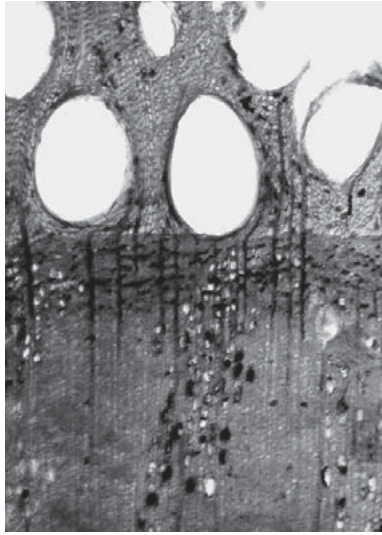


放射断面 ————— : 0.05mm



接線断面 ————— : 0.1mm

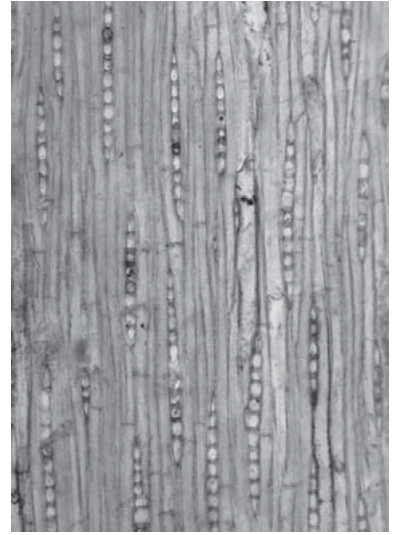
3. W81(2005157-3) 37区 SB050P05 礎板 ヒノキ



横断面 ————— : 0.5mm

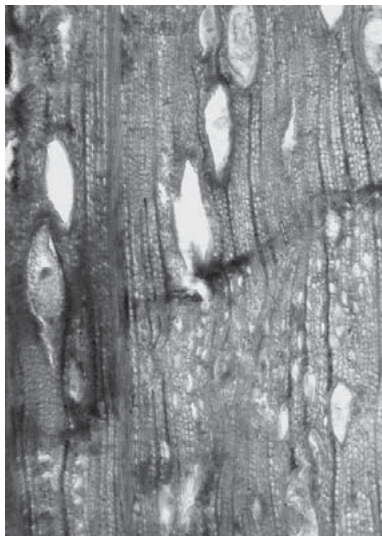


放射断面 ————— : 0.2mm

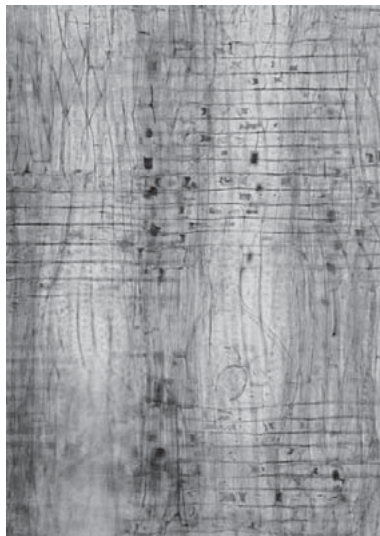


接線断面 ————— : 0.2mm

12. W26(2005157-484) 28区 SW008 矢板 クリ



横断面 ————— : 0.5mm



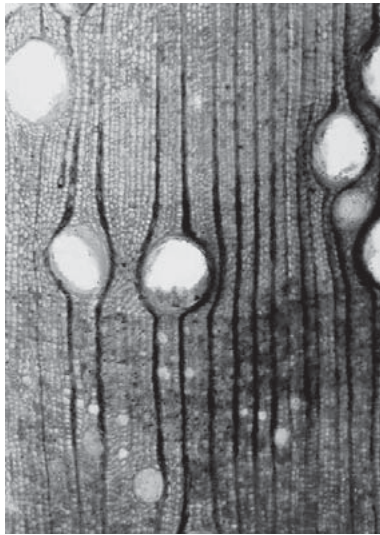
放射断面 ————— : 0.2mm



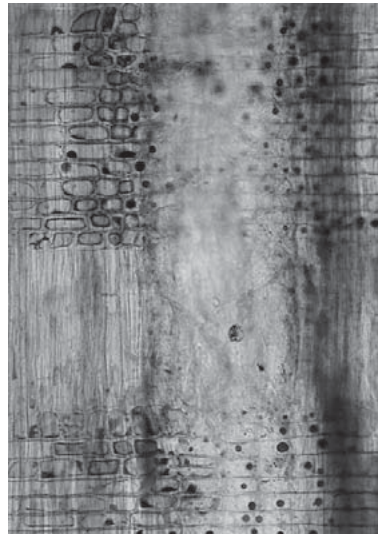
接線断面 ————— : 0.2mm

9. W25(2005157-444) 28区 SW008 矢板 ツブラジイ

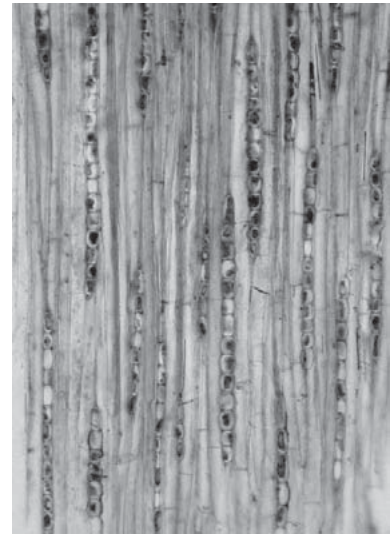
第14図 池ノ下遺跡の木材(2)



横断面 ————— : 0.5mm

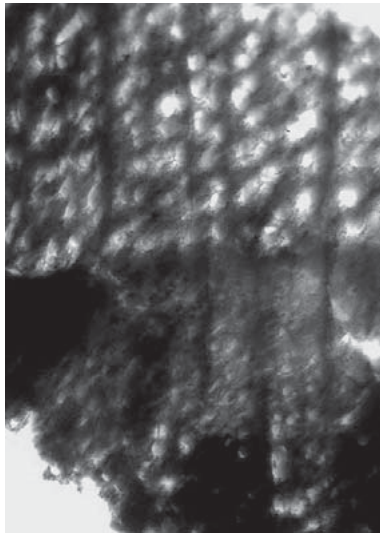


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

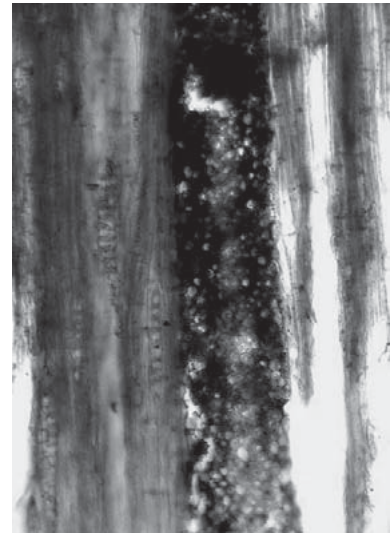
16. W45(2005157-642) 28区 SW009 矢板 シイ属



横断面 ————— : 0.5mm



放射断面 ————— : 0.1mm



接線断面 ————— : 0.2mm

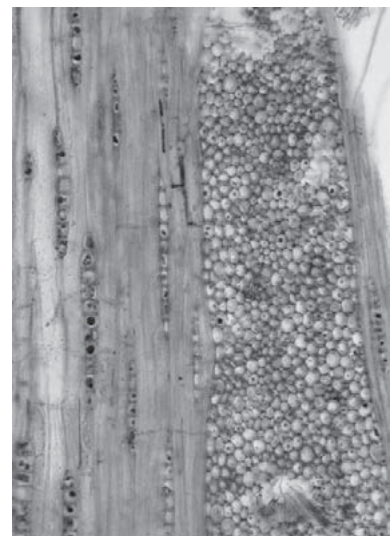
6. (2005157-31) 66区 SE001 漆器 プナ属



横断面 ————— : 0.2mm



放射断面 ————— : 0.2mm



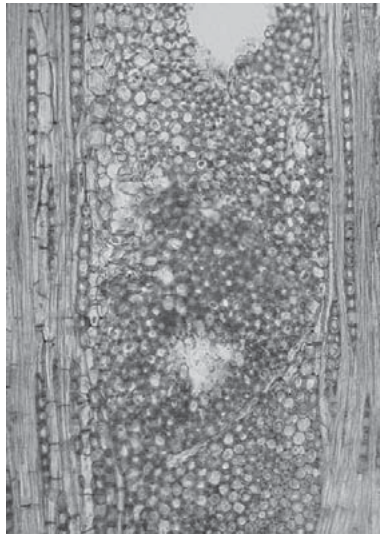
接線断面 ————— : 0.2mm

39. (2007057-22) 65区 SD242 立木 コナラ属コナラ節

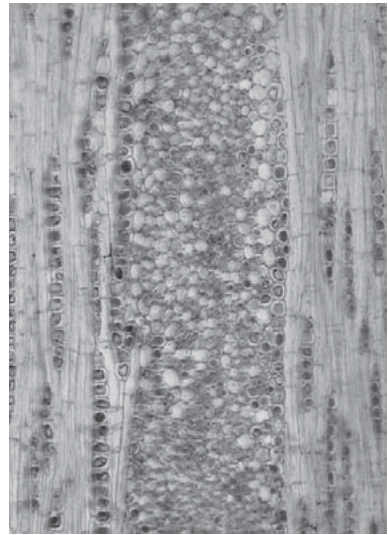
第14図 池ノ下遺跡の木材(3)



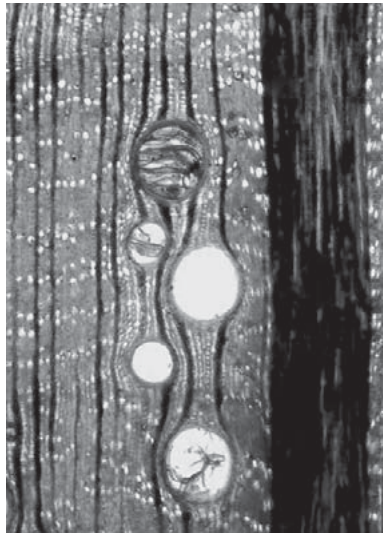
横断面 ————— : 0.5mm
11. (2005157-454) 28区 SW008



接線断面 ————— : 0.2mm
矢板 コナラ属クスギ節



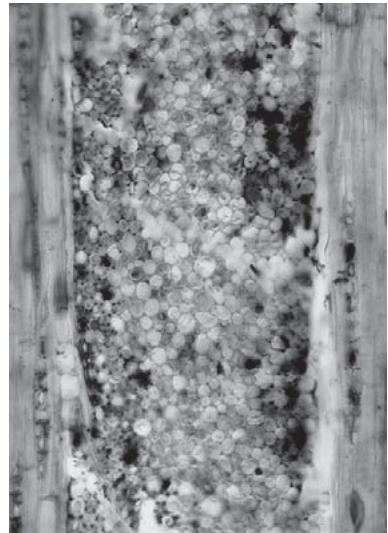
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm
7. W58(2005157-321) 28区 SD045



放射断面 ————— : 0.2mm
鋳 コナラ属アカガシ亜属



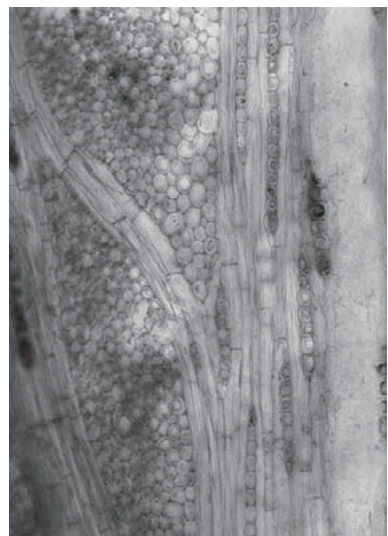
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm
18. W36(2005157-794) 28区 SD047

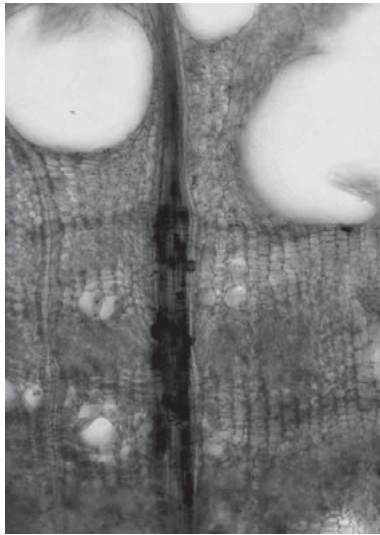


放射断面 ————— : 0.2mm
ナスビ鋳 コナラ属アカガシ亜属



接線断面 ————— : 0.2mm

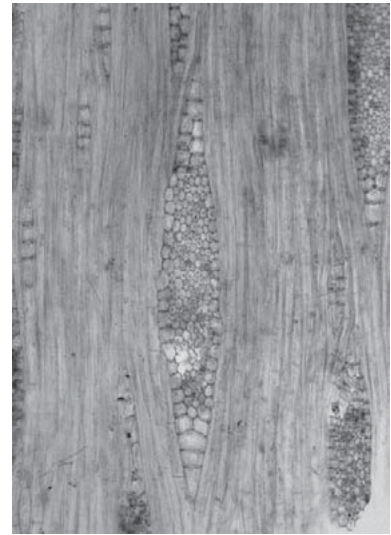
第14図 池ノ下遺跡の木材(4)



横断面 ————— : 0.2mm

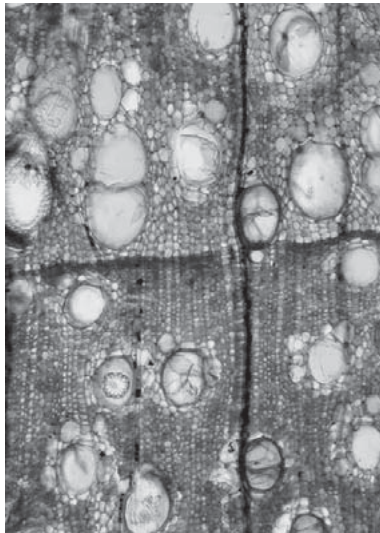


放射断面 ————— : 0.2mm

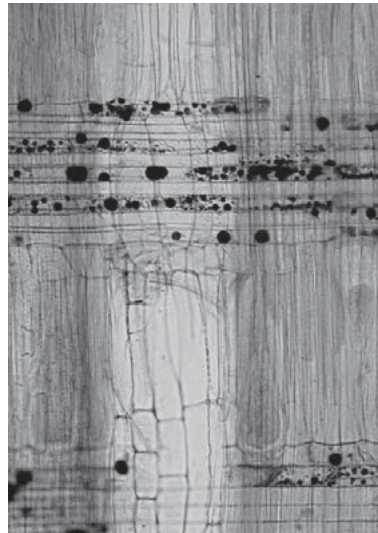


接線断面 ————— : 0.2mm

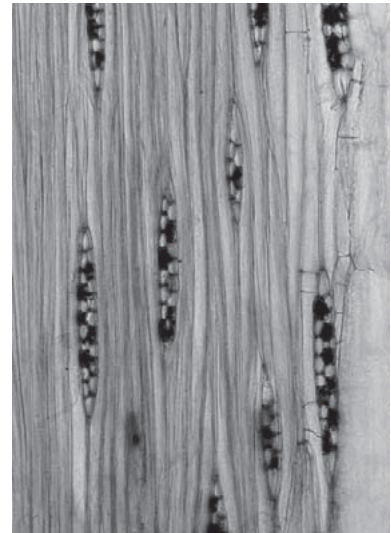
13. W11(2005157-520) 28区 SW005 杭 エノキ属



横断面 ————— : 0.5mm

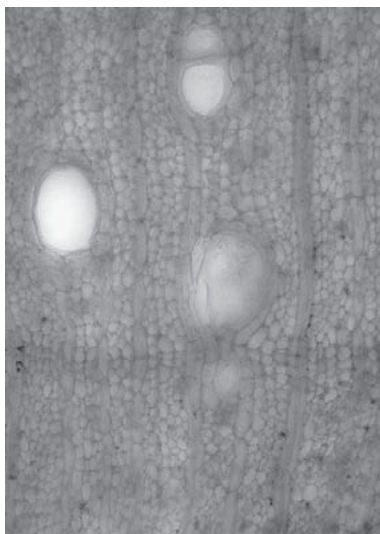


放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

19. W61(2005157-795) 28区 SD047 農具? クスノキ



横断面 ————— : 0.2mm



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

35. (2007057-8) 19区 SB028P04 柱根 カキノキ属

第14図 池ノ下遺跡の木材(5)

第7節 池ノ下遺跡の地形環境

青木 哲哉(立命館大学非常勤講師)

1. はじめに

人間は、自然環境に影響され、またそれを利用しながら活動してきた。中でも地形は、人間の生活舞台であり、活動の場となってきただけに、地形環境と人間生活との間には密接な関係が存在する。地形環境は、第四紀に変化を続け、現在に至っている。そのため、過去の人間生活を浮き彫りにするには、各時期の地形環境とその変化を明らかにすることが必要と考えられる。

人間生活の解明につながる地形環境は、数万年や数千年オーダーでの考察だけでなく、それより細かいオーダーで捉えなければならない。これには、考古遺跡の発掘調査区における地形・地質調査が有効な方法となる。調査区では、微地形の観察や堆積物の詳細な区分ができ、地形環境を細かいオーダーで復原できる。同時に、人間活動の痕跡である遺構が検出されるため、過去の人間生活が知られる。考古遺跡の調査区では、地形環境と人間生活の係わりについても考察できるのである。

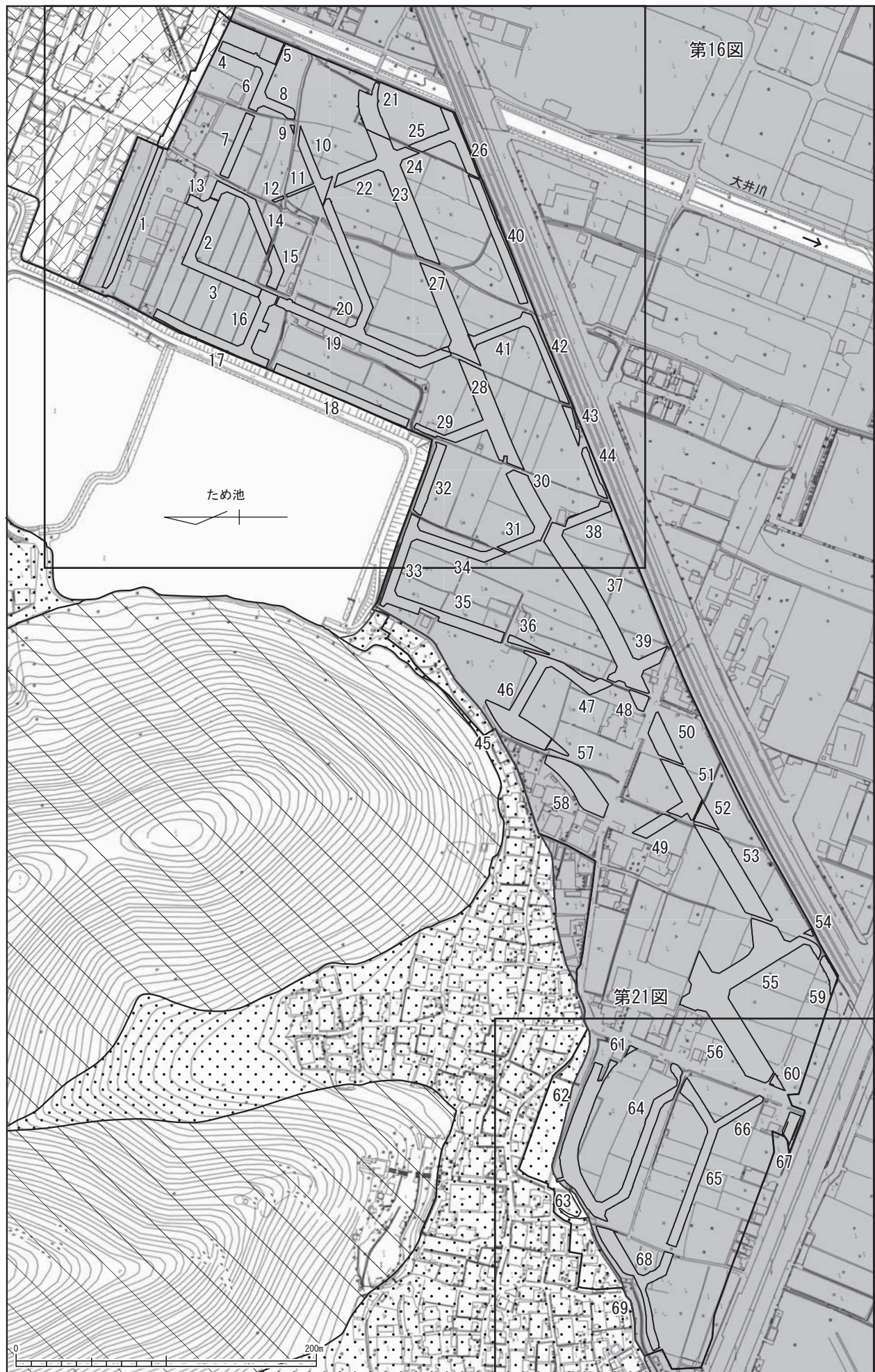
本稿では、池ノ下遺跡における地形環境を明らかにしたい。調査では、遺跡の調査区付近における地形を分類するとともに、調査区で堆積物の観察を実施した。地形分類では、5,000分の1空中写真の判読と現地踏査にもとづいて、調査区付近における地形面の区分と微地形の分類を行った。また、堆積物に関しては、調査区東部に位置する2区、19区、20区、および21区と調査区西部にみられる64区で調査し、遺構検出面より上位のものだけでなく、そこから掘削したトレンチ断面で遺構検出面以深の堆積物を観察した。こうして得られた地形と堆積物の調査結果に発掘調査の成果を加えて、調査区付近における地形環境の考察を行った。

2. 調査区付近の地形

本遺跡の調査区は、播磨平野の西部に位置し、東に市川、西に夢前川がみられる。市川と夢前川によって形成された平野は海岸付近で連続しており、そこを夢前川の支流である水尾川が南南西へ流下する。水尾川は比較的小規模であり、この川の支流にあたる大井川が調査区の東隣を流れる。調査区付近には山地、沖積低地の完新世段丘、および支流性扇状地が認められる(第15図)。これらのうち、調査区のはほとんどは完新世段丘に位置する。

山地は調査区の北西にみられる。山頂高度が約166mと低く、山地はそこから北方へ連なる。山麓には、支流性扇状地が点々と分布する。支流性扇状地は山地を刻む谷の中から発達しており、その一つが調査区西部の北側にみられる。これは複合扇状地をなす。地表は約68.6%の急傾斜で南へ高度を下げ、前面に存在する完新世段丘面と傾斜変換線で接している。

完新世段丘は現氾濫原とともに沖積低地を構成する。調査区周辺に広がる沖積低地では、完新世段丘が多くを面積を占め、現氾濫原は市川や夢前川に沿って細長く分布するにすぎない。完新世段丘面は、ほぼ平坦で、緩やかな傾斜でおおむね南または南西へ傾斜する。

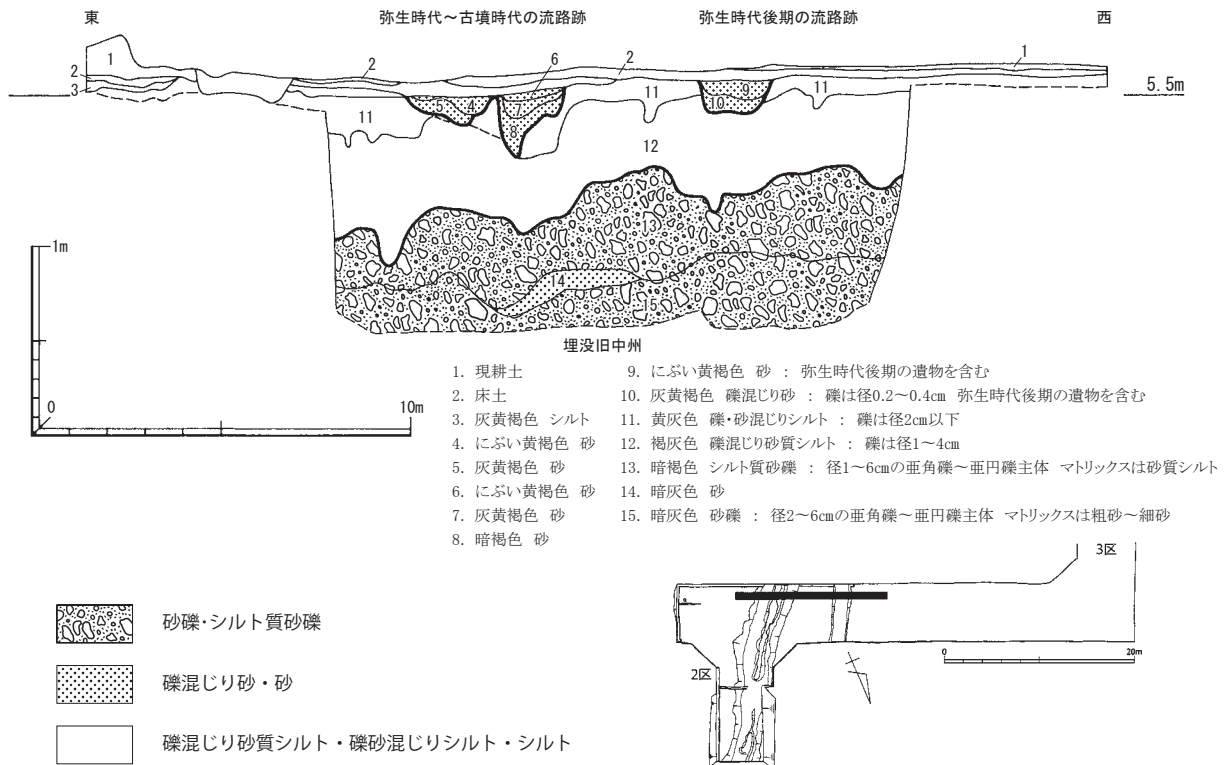


山地
 完新世段丘
 支流性扇状地
 人工改変地
 調査区

第15図 遺跡付近の地形分類図

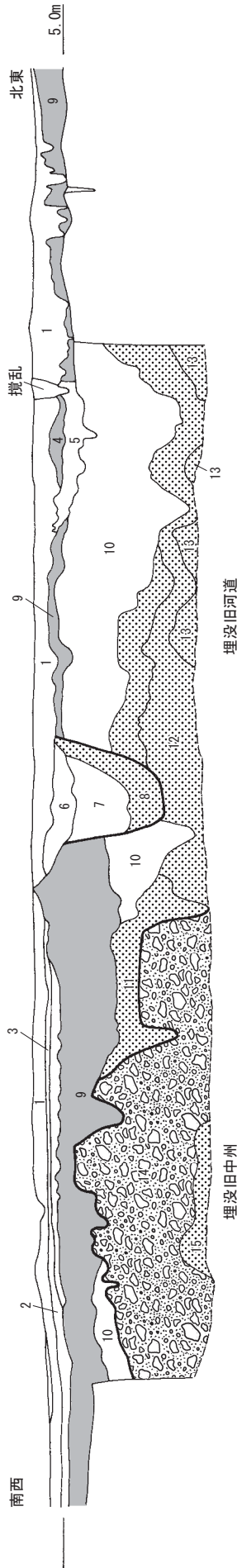


第16図 調査区東部における微地形の分布



第17図 2区の地質断面図

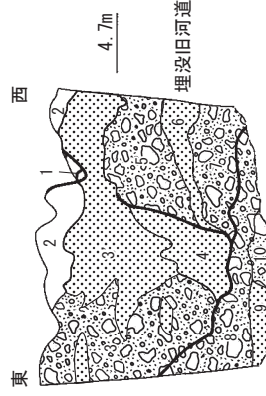
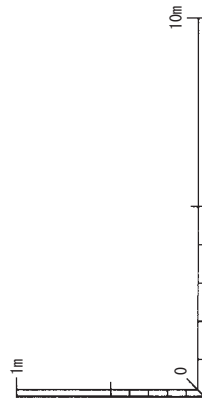
弥生時代後期の流路跡



- 1. 灰黄褐色 シルト
- 2. 黄褐色 シルト
- 3. 灰黄褐色 シルト
- 4. 黒褐色 シルト
- 5. 暗褐色 シルト
- 6. 暗褐色 シルト
- 7. 灰黄褐色 砂質シルト
- 8. 暗灰黄色 砂

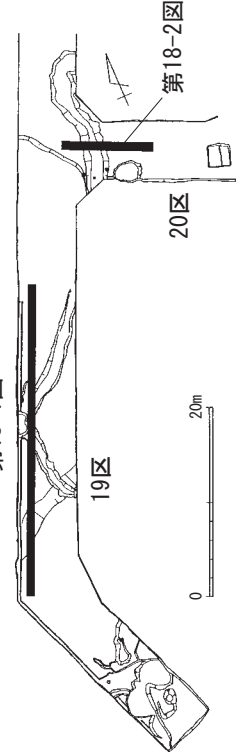
- 9. 黒褐色 シルト
- 10. 黄褐色 シルト
- 11. 青灰色 シルト質砂
- 12. 青灰色 砂
- 13. 黄灰色 礫混じり砂
- 14. 暗灰色 礫
- 15. 黄灰色 砂

- 砂礫
- 礫混じり砂・砂・シルト質砂
- 砂質シルト・シルト
- 黒褐色のシルト

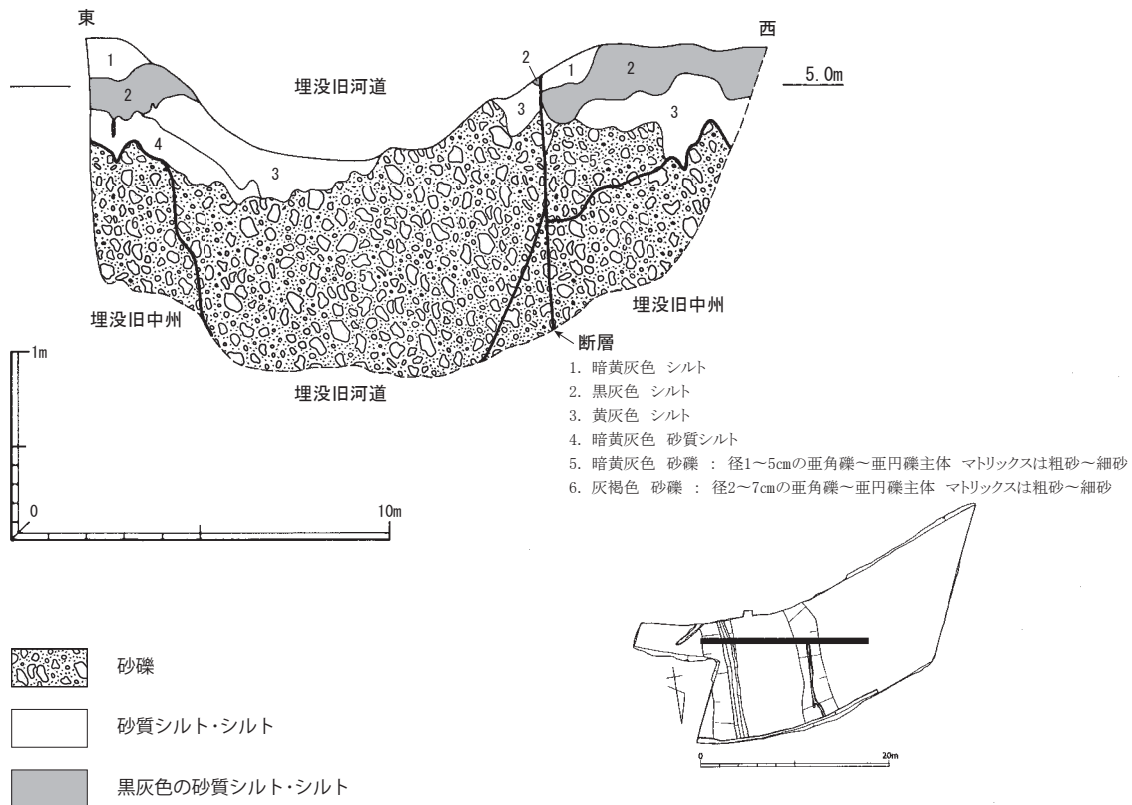


- 1. 灰色 砂礫
- 2. 黄灰色 砂質シルト
- 3. 灰色 砂礫
- 3' 灰色 シルト質砂
- 4. 灰色 砂
- 5. 灰色 礫
- 6. 灰色 砂
- 7. 灰色 砂礫
- 8. 灰色 砂礫
- 9. 灰色 砂
- 10. 暗灰色 砂礫

第18-1図



第18図 19区および19～20区の地質断面図(上段が第18-1図、下段が第18-2図)



第20図 21区の地質断面図

～8cmの亜角礫～亜円礫を主体とし、最大で径15cmのものが認められる。この砂礫は、礫径の違いから細分されることがあり、その場合砂(第17図の堆積物14・第18-1図の堆積物15、第18-2図の堆積物9)が砂礫間にレンズ状にはさまれる。こうした砂礫は、現地表下50cm以深の深さで調査区東部の全域に分布する。扇状地の微地形である埋没旧中州はこの砂礫で構成されており、その存在地点では砂礫の上面が高くなっている。

調査区東部でみられる3本の埋没旧河道は、この砂礫を切るものであり、それぞれ19区、20区、および21区の地質断面で観察される。19区でみられる埋没旧河道は砂やシルト質砂など(第18-1図の堆積物11～13)によって埋積されている。また、20区東部を通過する埋没旧河道の堆積物は砂礫と砂、21区東部のそれは砂礫である。埋没旧河道を埋積する砂礫は埋没旧中州より小さい礫からなり、径5cm以下の礫が主体となる。

砂礫の上位にみられる細粒堆積物(第17図の堆積物3・11・12、第18-1図の堆積物1～5・9・10、第18-2図の堆積物2、第19図の堆積物13・14、第20図の堆積物1～4)は、3～5つに細分される。これらは、主に黄褐色や黄灰色を呈する砂質シルトやシルトなどで、扇状地を覆って埋没させている。細粒堆積物には、湿地性堆積物にあたる黒褐色や黒灰色のシルト(第18-1図の堆積物4・9、第19図の堆積物13、第20図の堆積物2)が部分的にみられる。これらは埋没旧河道上またはその付近に多く分布する。

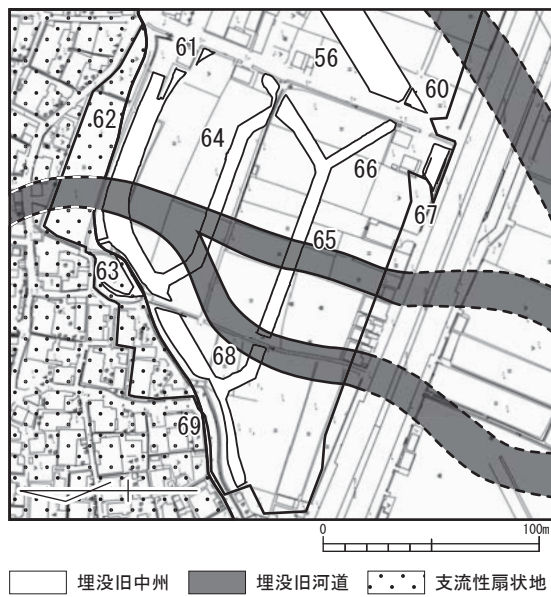
このような細粒堆積物の上面すなわち現耕土(旧耕土)の下面では、弥生時代から12～13世紀までの遺構が検出される。耕土の下面が遺構検出面となり、遺構がつくられた時期の旧表土がみられないのは、

条里制の施行期あるいはそれ以降に細粒堆積物の上部を人為的に削り取ったためである可能性が高い。細粒堆積物の上面では、2種類の小規模な流路跡が検出されている。ひとつは、10m前後の幅と約50cmの深さをもつ浅いもので、調査区東部では3本程度が分布する。流路跡は黒褐色のシルト(第18-1図の堆積物9)に埋積されており、そこには縄文時代晩期の遺物が含まれる。他の一つは、さらに小規模な流路跡で、幅が約3mである。これは、2本みられ、調査区東部の北西部を南西へと延びる。いずれも砂やシルトなどに埋積されており、北西側の流路からは弥生時代後期の遺物が出土している。

なお、21区の中央部では断層が埋没旧中州と埋没旧河道の境界付近に認められる。これは、西落ちの正断層で、北北東-南南西方向に延びる。この断層による堆積物の変位は約30cmである。

4. 調査区西部の微地形と堆積物

(1) 微地形の分布



第21図 調査区西部における微地形の分布

64区が位置する調査区西部では、ほとんどの調査区が調査区東部から連続する完新世段丘に位置する。そこでも、埋没した旧中州と旧河道がみられる(第21図)。埋没旧河道は北から南へ少し蛇行しながら延びる。これは調査区北側の支流性扇状地から流れる小河川の流路跡と考えられる。この埋没旧河道は64区の北側で2つに分かれ、65区の中央部と68区の東端を通過する。こうした埋没旧河道上では、古墳時代中期～後期の土坑(68区)などが検出されており、その付近には古墳時代後期の水田跡(64区)が広がる。

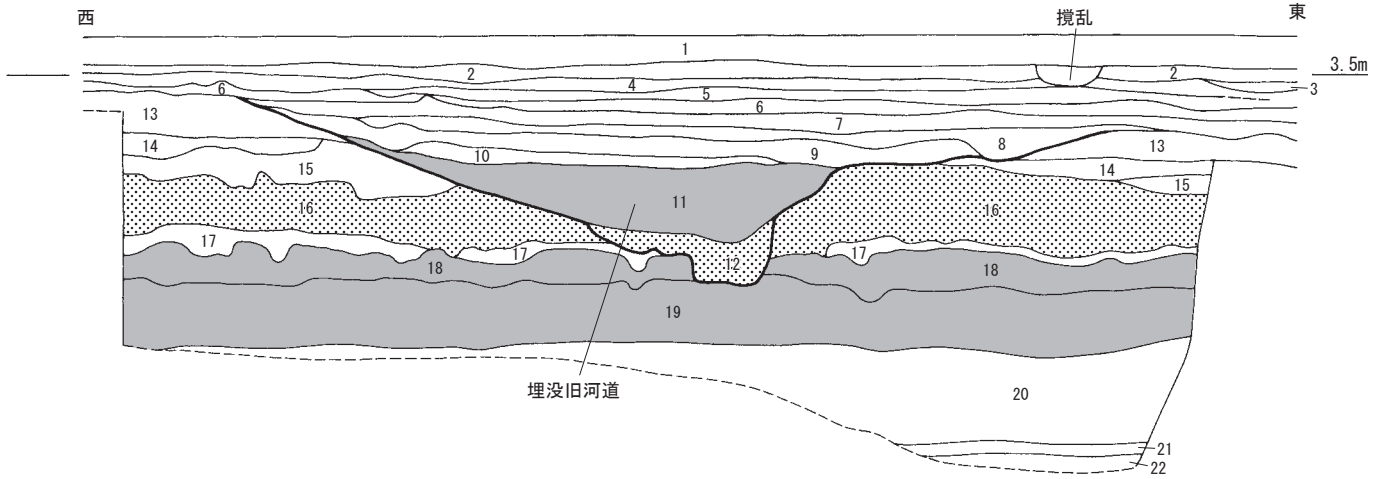
埋没旧河道以外の範囲には埋没旧中州が分布する。調査区西部では、これが少なくとも3ヶ所にみられる。埋没旧中州上では、古墳時代初頭の堅

穴住居跡と土坑(64区)、ならびに平安時代の掘立柱建物跡(64区)などが検出されている。

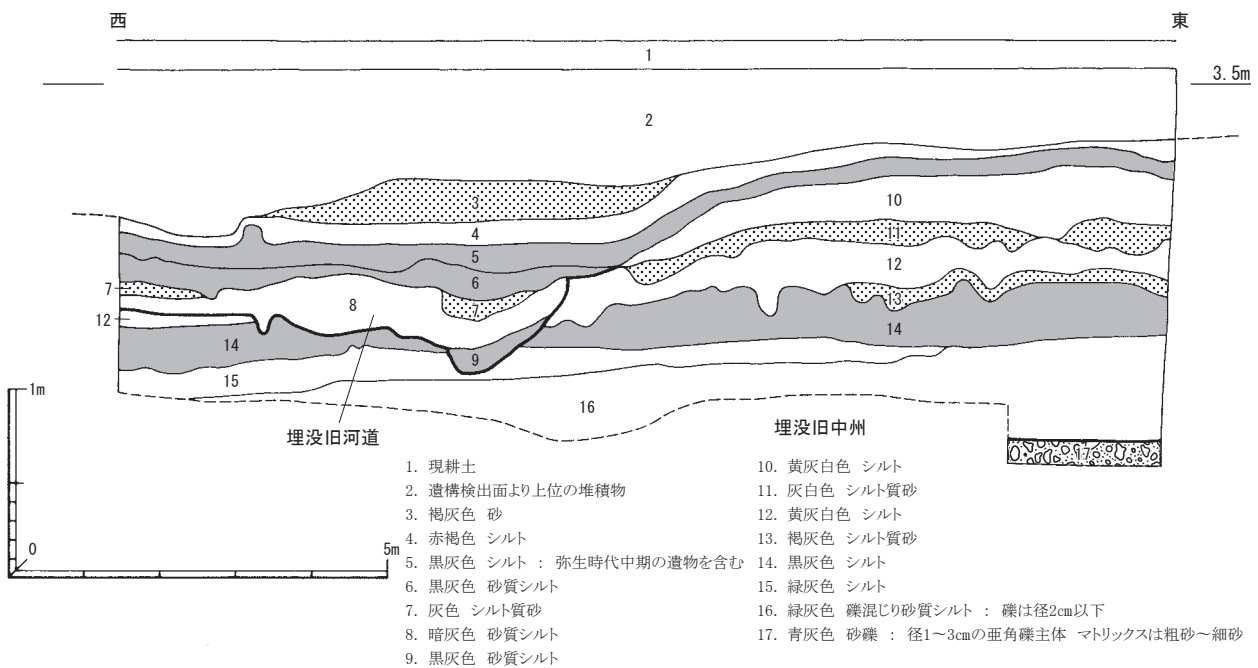
(2) 堆積物の特徴

64区で観察される堆積物は、青灰色を呈する砂礫とその上にある細粒堆積物である(第22図)。これらのうち、砂礫(第22図トレンチ2の堆積物17)は扇状地堆積物にあたる。埋没旧中州が存在する64区東部では、これが現地表下2.1m以深の深さにみられ、礫は径1~3cmの亜角礫を主体とする。

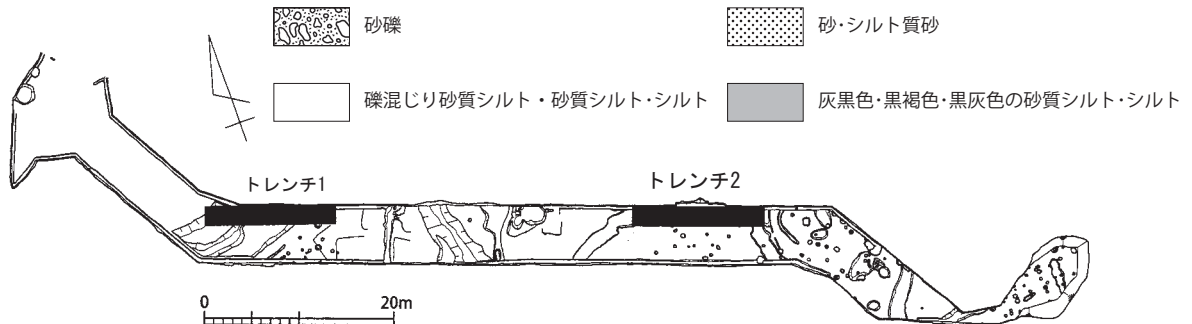
砂礫の上位に位置する細粒堆積物は15前後の堆積物に分けられる。これらの下部から中部にかけての堆積物(第22図トレンチ1の堆積物13~22、トレンチ2の堆積物3~5・10~16)は、1.6~1.8mの厚さをもち、砂、シルト質砂、およびシルトからなる。湿地性堆積物にあたる黒灰色のシルトも2~3つはさまれており、それらのうち最も上位にみられるシルト(第22図トレンチ2の堆積物5)には弥生時代中期の遺物が混入する。



- | | | |
|--------------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 1. 現耕土 | 8. 黒褐色 シルト : 古墳時代後期の水田土壌 | 15. 黄灰白色 シルト |
| 2. 灰白色 シルト | 9. 暗灰色 シルト : 古墳時代前期の遺物を含む | 16. 黄灰白色 シルト質砂 |
| 3. 黄橙色 シルト | 10. 褐灰色 シルト | 17. 黄灰色 砂質シルト |
| 4. 灰色 シルト | 11. 黒灰色 シルト | 18. 黒灰色 シルト |
| 5. 褐灰色 シルト | 12. 灰色 シルト質砂 | 19. 灰黒色 シルト |
| 6. 赤灰色 砂質シルト : 奈良時代~平安時代の遺物を含む | 13. 灰白色 シルト | 20. 緑灰色 シルト |
| 7. 褐灰色 シルト : 古墳時代後期の水田土壌 | 14. 暗灰色 シルト | 21. 緑灰色 礫混じり砂質シルト 礫は径2cm以下 |
| | | 22. 緑灰色 シルト |



- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 現耕土 | 10. 黄灰白色 シルト |
| 2. 遺構検出面より上位の堆積物 | 11. 灰白色 シルト質砂 |
| 3. 褐灰色 砂 | 12. 黄灰白色 シルト |
| 4. 赤褐色 シルト | 13. 褐灰色 シルト質砂 |
| 5. 黒灰色 シルト : 弥生時代中期の遺物を含む | 14. 黒灰色 シルト |
| 6. 黒灰色 砂質シルト | 15. 緑灰色 シルト |
| 7. 灰色 シルト質砂 | 16. 緑灰色 礫混じり砂質シルト : 礫は径2cm以下 |
| 8. 暗灰色 砂質シルト | 17. 青灰色 砂礫 : 径1~3cmの亜角礫主体 マトリックスは粗砂~細砂 |
| 9. 黒灰色 砂質シルト | |



第22図 64区の地質断面図(上段がトレンチ1、下段がトレンチ2)

こうした堆積物を切る埋没旧河道が2本認められる。いずれも64区北方の支流性扇状地から流下する小河川の流路跡と考えられる。ひとつは、64区の中央部にみられる旧河道で、最も上位に位置する黒灰色シルト(第22図トレンチ2の堆積物5)の下面から切り込まれる。これは深さが30~50cmと浅く、旧河道堆積物はシルト質砂と砂質シルト(第22図トレンチ2の堆積物6~9)である。他の一つは、64区の西部に分布し、灰白色のシルト(第22図トレンチ1の堆積物13)上面から切り込まれる。この旧河道は、約12mの幅とおよそ90cmの深さをもち、最下部をシルト質砂(第9図トレンチ1の堆積物12)、それより上をシルト(第22図トレンチ1の堆積物8~11)によって埋積されている。これらのうち、旧河道堆積物の上部にみられる暗灰色のシルト(第22図トレンチ1の堆積物9)には古墳時代前期の遺物が含まれ、黒褐色のシルト(第22図トレンチ1の堆積物8)は古墳時代後期の水田土壌にあたる。

この旧河道堆積物より上位には、砂質シルトとシルトがみられる。これらは、全体の厚さが20~40cmで、およそ6つの堆積物(第22図トレンチ1の堆積物2~7)に細分される。最下位の褐灰色シルトは古墳時代後期の水田土壌に該当し、その上位にみられる赤灰色の砂質シルトには奈良時代~平安時代の遺物が含まれる。完新世段丘の段丘化はこれらの堆積が終わった平安時代以降と推定される。ただし、これらの堆積物は北からの支流によってもたらされた可能性があるため、現時点では段丘化の時期が判然としない。

5. 調査区付近における地形環境の変遷

これまでに述べた事柄から調査区付近の地形環境は次のように考察される。

〔ステージ1〕 調査区付近には、市川や水尾川などによって砂礫が堆積し、扇状地がつくられた。これに伴って調査区東部では、中州が3ヶ所で形成され、また旧河道は砂礫や砂によって埋積された。このような扇状地の形成はおそらく縄文海進頂期以降のことと推定される。

〔ステージ2〕 扇状地は度重なる洪水がもたらした細粒堆積物によって覆われ埋没した。その過程では、わずかに低い埋没旧河道上付近が低湿化し、そこでは黒褐色や黒灰色のシルトが生成された。

〔ステージ3〕 このような環境の下で、調査区東部では縄文時代晩期に浅く小規模な流路が約3本つくられた。ついでこれらの埋積後弥生時代中期までには、堅穴住居が埋没旧中州上に建てられた。このころ調査区西部では、引き続き洪水堆積物が扇状地上を被覆していた。弥生時代中期の直前になると、北からの支流が64区の中央部を流れ、その後埋積された。

〔ステージ4〕 調査区西部を流れた支流の流路跡付近は弥生時代中期に低湿化し、さらに洪水による堆積が続いた。その後古墳時代前期までには再び小規模な支流が北から64区西部を通って流れ、古墳時代初頭にはこの流路より東の埋没旧中州上に堅穴住居が建てられた。他方、調査区東部では弥生時代後期とそれ以降に小規模な流路が形成された。

〔ステージ5〕 調査区西部では、支流の流路がほぼ埋積され、古墳時代後期にはその旧河道を中心に水田稲作が営まれた。水田は2度発生した洪水の度に新たにつくられた。さらに洪水が1度およんだ後、平安時代には掘立柱建物が64区東部の埋没旧中州上に建てられた。

〔ステージ6〕 調査区西部では、平安時代以降に数度の洪水が発生し、その度にシルトが薄く堆積した。一方、調査区東部では12~13世紀になって掘立柱建物が多数建てられた。これらの立地は埋没旧中州上だけでなく埋没旧河道上にもおよんだ。

6. おわりに

本遺跡の調査区は沖積低地の完新世段丘に位置する。そこは、縄文時代晩期以前に形成された扇状地がその後洪水に伴う細粒堆積物の被覆によって埋没したところにあたり、埋没した旧中州と旧河道が認められる。

調査区東部では、扇状地が埋没した後の縄文時代晩期、弥生時代後期、およびそれ以降に小規模な流路が数本形成され、弥生時代中期以前と12～13世紀に竪穴住居や掘立柱建物、墓などがつくられた。これらは主として比較的高燥な埋没旧中州上にみられたものの、12～13世紀の掘立柱建物と墓の一部はわずかに低い埋没旧河道上にも立地した。他方、調査区西部では、扇状地が埋没する過程で北からの支流が2度流れた。これらの旧河道を中心とする低湿な範囲では、古墳時代後期に洪水のおよぶ環境下で水田稲作が営まれた。また、埋没旧中州上は主に居住域となり、古墳時代初頭に竪穴住居が、平安時代には掘立柱建物が建てられた。

以上のように、本遺跡の調査区では埋没微地形の影響によって現出した地形環境を人間が利用して生活した。ただし、調査区東部では12～13世紀における居住が埋没旧河道上にもおよんでおり、これは建物の立地を考える上で特筆される現象であるといえる。

第6章 まとめ

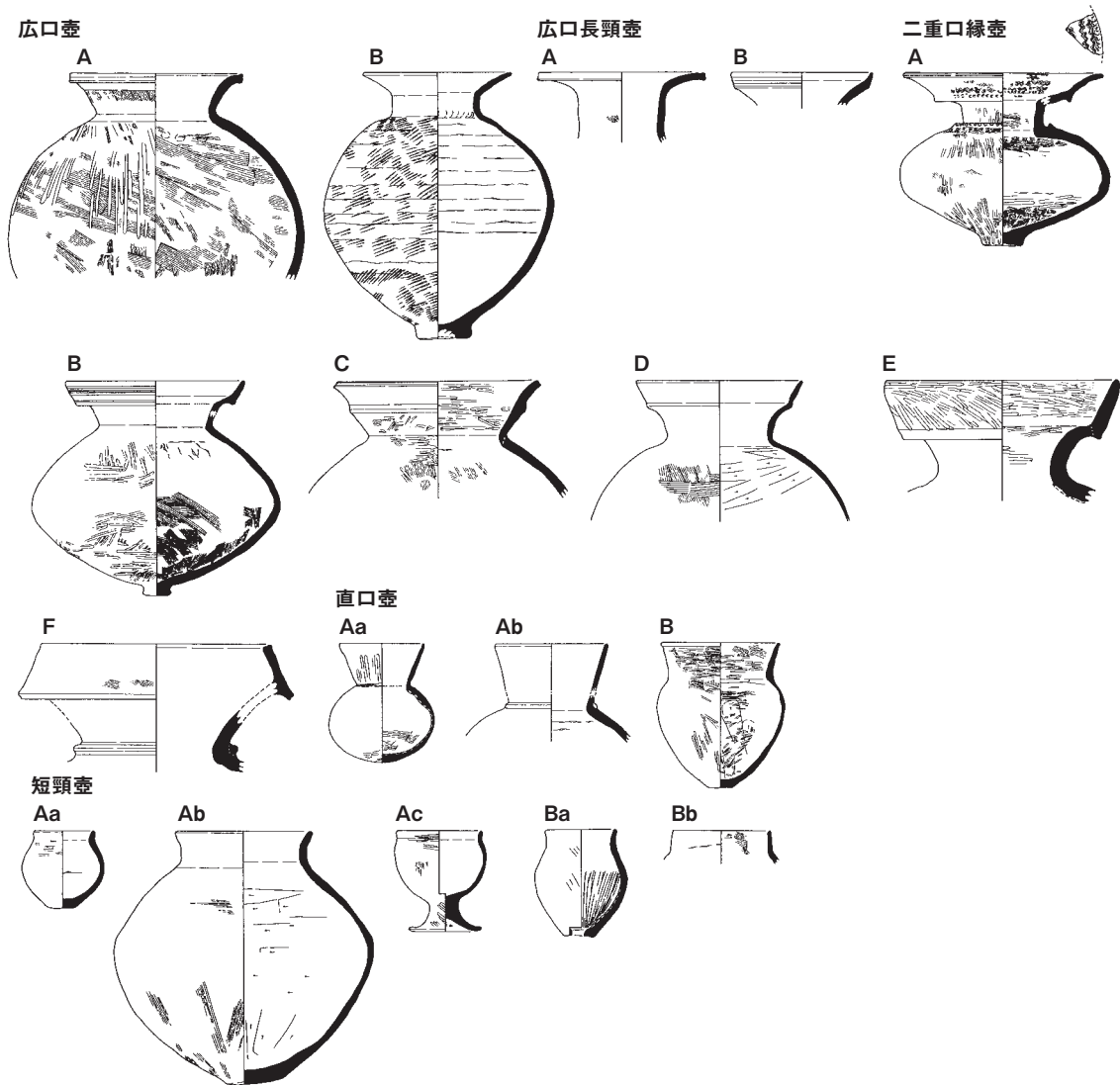
第1節 古墳時代初頭の土師器について(第23~25図)

1. 土器の分類

池ノ下遺跡から出土した古墳時代初頭の土器について分類を行う。土器の器種は、壺形土器、壺形土器蓋、甕形土器、甕形土器蓋、鉢形土器、手焙、有孔鉢、高坏形土器、器台形土器、小型丸底壺、小型丸底鉢、小型器台、製塩土器などが出土している。以下、これらの器種名のうち「形土器」を略称して記述する。なお、前後するが、第4章本文中の記述も本分類による。

壺

壺は形態を重視して、分類を行った。特に口縁部の形態・全体の形態を中心に、広口壺、広口長頸壺、二重口縁壺、直口壺、短頸壺、無頸壺に分類した。



第23図 古墳時代初頭土器分類(壺)

広口壺は口頸部が大きく広がる壺で、形態によりA・Bに分類した。広口壺Aは球形の体部に外反する口頸部もつ。広口壺Bは直立する頸部に短く外傾する口縁部をもつ。広口壺は丹波・但馬地域系の土器である。

広口長頸壺は、頸部が長く口縁部が外方に屈曲する壺で、形態によりA・Bに分類した。広口長頸壺Aは直立する頸部から口縁部が大きく外反する。広口長頸壺Bは口縁部が有段で、擬凹線文を施す。

二重口縁壺は口縁部に外反する二次口縁を持つ壺で、形態及び施文によりA・B・C・D・E・Fに分類した。二重口縁壺Aは直立する頸部から口縁部が外反した後、さらに大きく外反する。扁球形の体部で、体部・口縁部とも加飾する。二重口縁壺Bは短く外傾する頸部から口縁部が外反する。口縁部は有段口縁である。二重口縁壺Cは丹波・但馬地域系の土器である。二重口縁壺Dは短く外傾する頸部から口縁部が外反する。二重口縁壺Eは外反する頸部から口縁部が外傾する。いわゆる複合口縁である。二重口縁壺Fは外反する頸部から口縁部が直線的に内傾する大形の壺である。

直口壺は、外傾し直線的に伸びる口頸部をもつ壺で、頸体境に突帯をもたないものを直口壺Aa、突帯をもたないものを直口壺Abに細分した。

短頸壺は、口頸部が短い壺で口頸部の形態により、A・B・Cに分類した。短頸壺Aは球形体部に直立する短い口頸部をつける壺で、小形の短頸壺Aa、大形の短頸壺Ab、低い脚台を付けた短頸壺Acとに細分した。短頸壺Bは小形の縦長の体部に短い口頸部をつける壺で、小形の短頸壺Baと、大形の短頸壺Bbとに細分した。短頸壺Cは縦長の体部に、大きく開く短い口頸部をつける壺である。

無頸壺は体部が半球形の平底で、口縁部は内弯し、ミガキ調整で仕上げる。

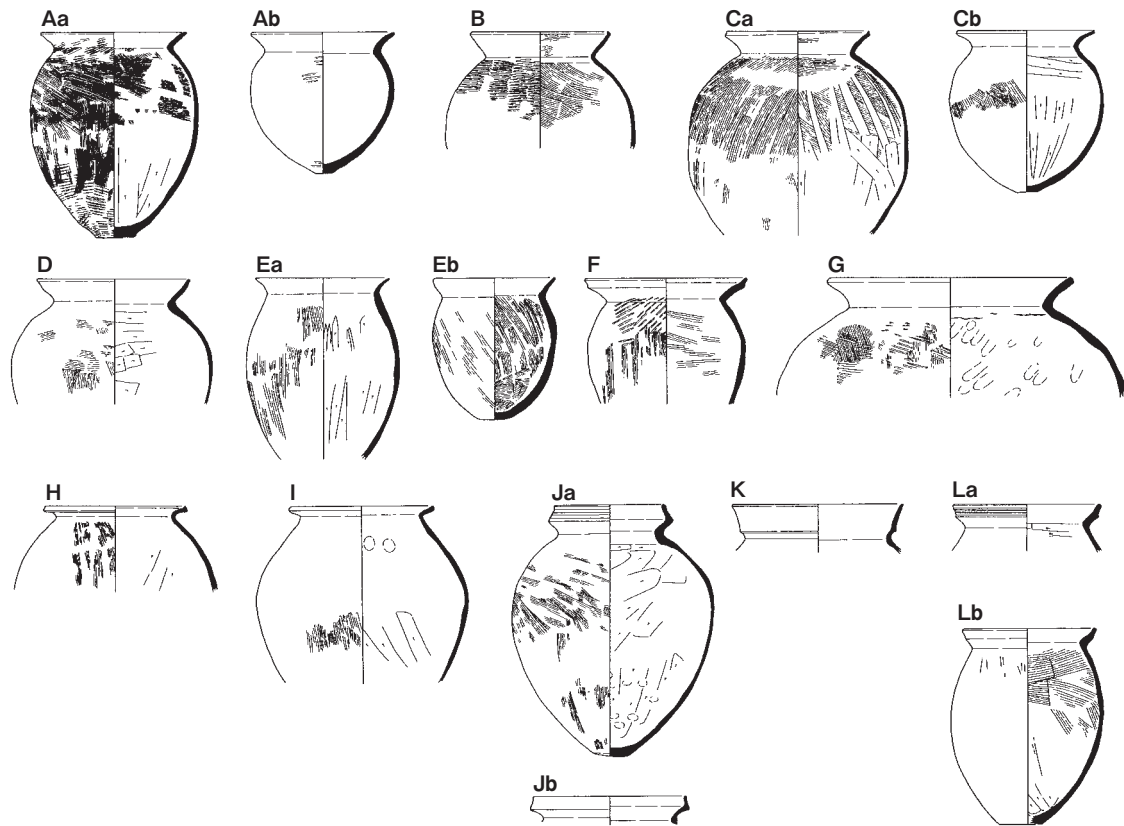
甕

甕は形態および調整・胎土を重視して、分類を行った。特に全体の形態・口縁部の形態、体部の調整を中心にA・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・Mに分類した。

甕Aは、球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。体部外面はタタキ整形あるいは、タタキ後ハケ調整を行っている。内面は横方向のハケ調整を行うものや、部分的にケズリを行うもの、全面にケズリを行うものなどある。縦長の体部をもつものを甕Aa、球形の体部をもつものを甕Abに細分した。甕Bは、甕Aと同様にく字に外反する口縁をもつ。口縁端部を上方につまみ上げる。体部は球形で、体部外面は細かいタタキ調整を行う。内面はケズリを行い、ナデやハケ調整を行う。器壁は薄く仕上げる。

甕Cは、く字に外反する口縁をもつ。体部外面はハケ調整を行う。球形の体部で大形のを甕Caと、小形のを甕Cbに細分した。甕Dは、く字に外反する口縁をもち、内弯気味に立ち上がる。球形の体部に、体部外面は縦方向と肩部に横方向のハケ調整を行い、内面はケズリを行う。甕Eは縦長の体部に、外反する口縁をもつ。体部外面はハケ調整を行う。内面は縦方向のハケ調整を行うものや、縦方向のケズリを行うものがある。大形のをEa、小形のをEbに細分した。甕Fは、く字に外反する口縁をもち、口縁端部を上方につまみ上げ面を作る。球形の体部に、外面はタタキ後ハケ調整、内面はハケ調整を行う。

甕Gは大形の球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。体部外面は左上がりのタタキ後ハケ調整を行う。甕Hは球形の体部で、口縁部は短く外反し、端部を上方につまみ上げる。体部外面はハケ調整、内面はケズリを行う。甕Iは肩が張った体部に、短く外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸く収めるものや上方につまみ上げるものがある。体部下半外面及び底部はミガキ調整、内面はケズリを行い、上半



第24図 古墳時代初頭土器分類(甕)

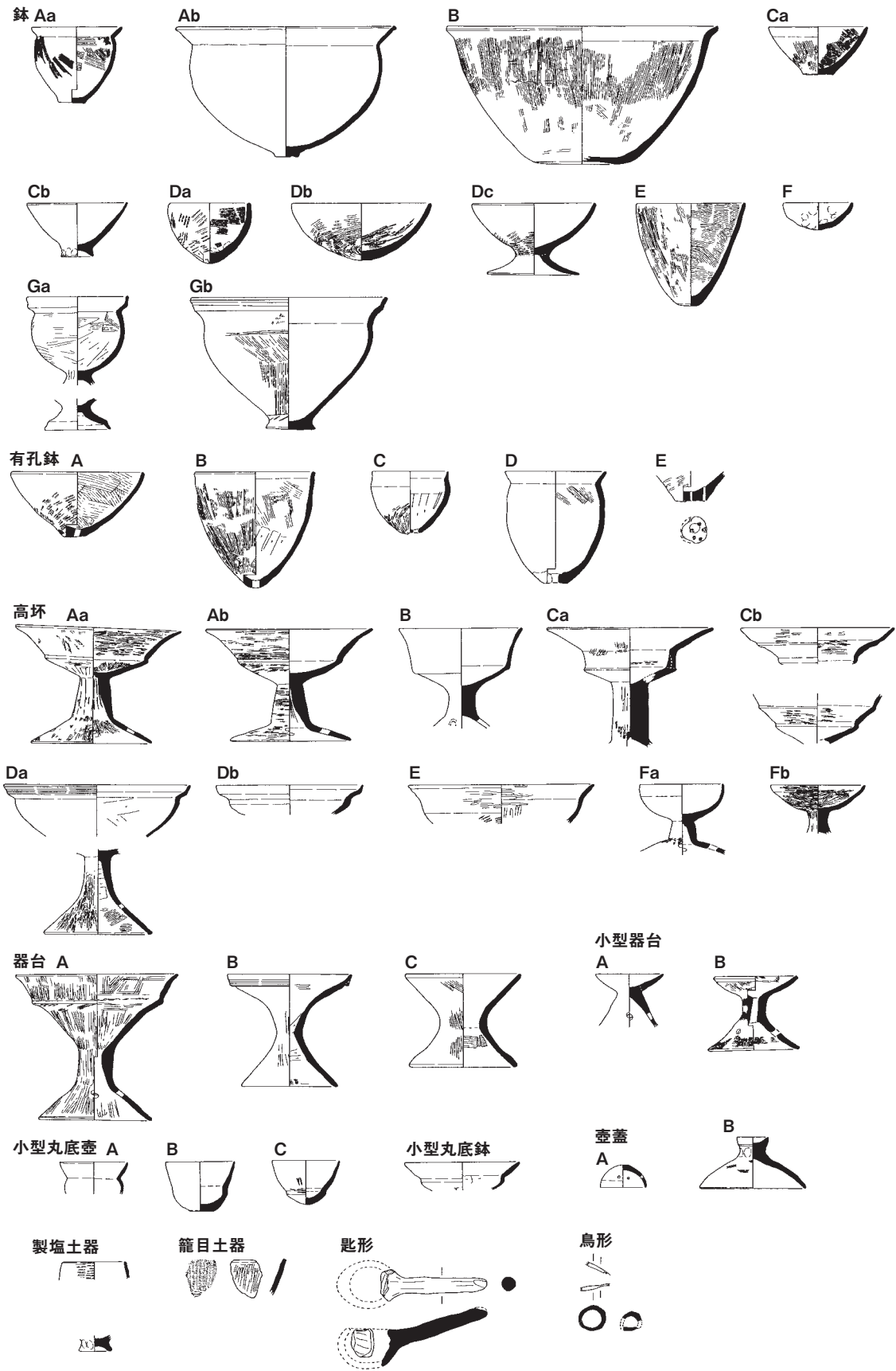
内面はオサエ痕跡が顕著である。甕Iは讃岐地域系の甕である。甕Jは縦長の体部に頸部が外反し、内傾する口縁をもつ。体部下外面はミガキ調整、内面はケズリを行い、下半内面は指オサエ痕跡が顕著である。口縁端部に擬凹線文を施すJaと、ナデで仕上げるJbとに細分した。甕Jは吉備地域系の甕である。甕Kは短く外反する頸部から口縁部が外傾する。いわゆる複合口縁である。甕Kは山陰地域系の甕である。甕Lは縦長の体部に短い有段口縁をもち、口縁端部は上方に拡張し、擬凹線文を施す甕Laと、ナデで仕上げる甕Lbとに細分した。体部外面は基本的にハケ調整であるが、ミガキ調整を行うものもある。内面は全面にケズリを行うものや下半部のみケズリを行うものなどがある。丹波・但馬地域系の甕であるが、播磨地域でも一定量出土している。甕Mは球形の体部に幅広の有段口縁をもち、口縁端部に擬凹線文を施す。

鉢

鉢は形態により、分類を行った。特に口縁部及び底部の形態により、A・B・C・D・E・F・Gに分類した。鉢Aは口縁部が屈折して外反する鉢で、小形の鉢Aaと、大形の鉢Abとに細分した。鉢Bは口縁部が外反する大形の鉢で、大きな平底である。鉢Cは口縁部が直線的に開き、平底の鉢Caと、底部を突出させ上げ底の鉢Cbとに細分した。鉢Dは口縁部が直線的に開く半球形であり、タタキ整形を行う。丸底もしくは尖底である。深めに作る鉢Daと、浅めに作る鉢Dbと、低い脚台を付けた鉢Dcとに細分した。鉢Eは口縁部が直線的に開く半球形であり、ハケ調整で仕上げている。鉢Fは口縁部が直線的に開く扁球形である。鉢Gは有段口縁で口縁端部は上方に拡張する。底部に低い脚台が付く鉢Gaと、大形で脚台が付かない鉢Gbとに細分した。鉢Gは丹波・但馬地域系の土器である。

手焙

手焙は覆部のみの出土である。



第25図 古墳時代初頭土器分類(鉢・有孔鉢・高坏・器台他)

有孔鉢

有孔鉢は形態及び底部の穿孔により分類を行い、A・B・C・D・Eに分類した。

有孔鉢Aは鉢Dの底部に1孔を穿孔したものである。有孔鉢Bは鉢Eの底部に1孔を穿孔したものである。有孔鉢Cは体部の形態は直口壺であるが、底部に1孔を穿孔しているため、ここに含めた。有孔鉢Dは体部の形態は甕であるが、底部に1孔を穿孔しているため、ここに含めた。有孔鉢Eは体部の形状は明らかでないが、底部が多孔のものである。

高坏

高坏は形態により分類を行った。特に坏部の形態により、A・B・C・D・E・Fに分類した。

高坏Aは坏部に稜を作り、口縁部が外反する。外面を縦ミガキするAaと、外面を横ミガキするAbとに細分した。高坏Bは坏部に稜を作り、口縁部が直立する。高坏Cは坏部上半に段をもち、屈折して直線的に伸びる高坏Caと、さらにもう一度屈曲する高坏Cbとに細分した。高坏Dは坏部が椀形で、口縁部は有段である。擬凹線文を施す高坏Daと、ヨコナデで仕上げる高坏Dbとに細分した。高坏Dは丹波・但馬地域系の高坏である。高坏Eは坏部が椀形で、弱い稜を作り口縁部は外反する。高坏Fは坏部が浅い椀形を呈する。外面を縦ミガキするFaと、外面を横ミガキするFbとに細分した。

器台

器台は形態により、A・B・Cに分類した。器台Aは体部から大きく外反する口縁部が付く。器台Bは有段口縁で口縁端部は上方に拡張し、擬凹線文を施す。器台Bは丹波・但馬系の土器である。器台Cは口縁部が単純に大きく外反する。

小型丸底壺

小型丸底壺は体部と口縁部の比率により、A・B・Cに分類した。小型丸底壺Aは口縁部よりも体部の比率が大きい。小型丸底壺Bは口縁部と体部の比率がほぼ同じのものである。小型丸底壺Cは口縁部よりも体部の比率が小さい。

小型丸底鉢

小型丸底鉢は扁平な体部から屈折して外方に伸びる口縁部をもつ。

小型器台

小型器台は形態により、A・Bに分類した。小型器台Aは浅い皿形の受部から脚部が屈折する。小型器台Bは浅い皿形の受部と脚部の柱状部をもち、裾部が屈折する。

壺蓋

壺蓋は形態によりA・Bに分類した。壺蓋Aは小形の半球形をなし、口縁部に紐孔を持つ。壺蓋Bは大形で、つまみを持つ。

製塩土器

製塩土器は体部をタタキで仕上げており、手捏整形した低い脚台が付く。

籠目土器

鉢の体部外面に籠の圧痕が残り、内面はミガキ調整で仕上げる。

匙

匙は瓢の体部を加工して刳り抜き、匙を模倣した土器である。

鳥形土製品

鳥の形を模した土器の可能性が高い。

第2節 古代・中世の土器について

1. 律令期の須恵器

律令期の土器は調査地西部のF地区西部・H地区で多く出土している。遺構に伴って出土したものは少なく、包含層から出土したものがほとんどである。土師器には残存状況の良いものは少なく、須恵器についてのみ整理しておく。

杯(951・1010・1011・1171・1517～1520・1538)は体部下半に丸味をもつ小ぶりの杯で、古墳時代の杯蓋が身に逆転した形態である。口径11.4cm～9.4cm、径高指数30以上である。7世紀代の口縁部にかえりのある蓋は出土していないため、8世紀まで下るものも多いと思われる。

杯Aは口径12.7cm～11.0cmのもの(1041・1477・1551・1569)と口径15.8cm～13.7cm(1336・1337・1360・1383・1397・1505・1511・1568)のものに分かれる。後者のほうが浅手で、器高が高く、スコバ谷・新田B谷窯跡に近い。前者はそれをやや遡る西奥窯段階のものも含まれると思われる(森内・永井1993)。

杯Bは口径16cm以下のものが主体を占めている。径高指数35以上(1120・1351・1516)、35未満～30以上(1169・1338・1515・1541)、30未満のもの(1004・1170・1352・1381・1476・1513・1514)に分かれる。30未満のものは西奥窯段階のものと思われる。その他、口径17～18cm台(1475・1572)、20cm前後のものがある(1570・1571)。大型のものはスコバ谷・新田B谷窯跡以降のものと思われる。

皿には高台をもたないものもつものがある。高台をもたないものは、口縁部が平底の底部から強く屈曲して立ち上がるもの(1383・1505・1512・1542・1573～1575)と底部から緩やかに彎曲して立ち上がるものがある(1521・1522)。前者は口径15cm前後のものが多く、後者は口径26cm前後である。高台をもつものは器高の高いもの(1345・1461)と器高の低いもの(1375・1552・1553・1576・1577)がある。器高の高いものは杯B形で、口径は26cm前後である。器高の低いものは口径20cm前後である。

その他、稜碗は8点(1254・1339・1398・1482・1483・1524・1543・1578)、円面硯は8点(1349・1406・1529・1530・1554～1557)出土している。円面硯には1554のようにやや大型のものが含まれている。

時期的には8世紀中葉～後半を中心にするものと思われる。皿は種類が多く、大型のものが含まれている。稜碗や硯も少なくない。一般集落より格の高い集落あるいは官衙的な施設が、調査区以北の現苦編集落下に存在する可能性が高いものと思われる。

2. 唐三彩

H地区69区の包含層から唐三彩弁口瓶(1584)が出土している。口縁部から頸部下端までが残存しており、口縁部の特徴的な形状から弁口瓶であることは明瞭である。亀井明德氏によると弁口瓶には無頸のものや有頸のものがあり、今回の出土例は伝世例の多い有頸球形胴形のものである(亀井1999)。体部にメダリオンや大型の宝相華文を貼り付けたものや弦文のものがあり、時期は盛唐期の8世紀前半と考えられている。

唐三彩の国内での出土は約70遺跡でみられ、県内では他に芦屋廃寺跡(芦屋市)、淡路国分寺跡(南あわじ市)で出土している(大村2002)。瓶類の出土例は少なく、他に沖ノ島第5号・7号遺跡(福岡県)、備後寺町廃寺(広島県)がある程度で、弁口瓶の出土例は他にない。瓶類を含む中型品は寺院跡での出土が多いが、その他の小型品は個人の所有の性格が高いものとされ、入手の経路は遣唐使に加わった官吏

や船舶の水手などの労務者の手土産として将来されたものが多いのではないかとされている(亀井2003)。池ノ下遺跡の出土遺物中には若干の瓦が含まれるものの、明瞭に仏教的な色彩を示す遺物は出土していない現状では寺院の存在を示す証拠はない。当遺跡が所在する英賀は、夢前川河口部付近に位置し、古代には「英賀河尻」(『播州円教寺記』)という湊が存在したとされることからすると、池ノ下遺跡近隣に港湾に関連する施設が存在し、唐三彩は遣唐使に随行した官吏や労務者など水上交通に関わる人によってもたらされた可能性が考えられる。

3. 平安期の施釉陶器

9～11世紀の土器についても遺構からまとまって出土したものはほとんどなく、律令期の須恵器に比べて凶化したものは少ない。ただし、施釉陶器についてはかなりの小破片でも凶化を行っている。

緑釉陶器は9点出土している。律令期の須恵器と同じくF地区西部、H地区での出土が多い。碗・皿類が6点で、蛇の目高台が1点(1182)、平高台が1点(1408)、輪高台が3点(1495・1547・1581)である。その他に小型の壺(1354)、壺もしくは香炉蓋(1435)、底部破片(1334)がある。時期的には9世紀～10世紀前半のものである。

灰釉陶器は11点(1409～1414・1436～1439・1494)出土している。F地区西部とG地区で多く出土している。いずれも碗皿類で、K-90型式(9世紀後半)と考えられる。

律令期に引き続き、10世紀前半頃まで調査区西部の北側に位置する集落は有力な地位を占めていたものと考えられる。

4. 中世の土器

12世紀には掘立柱建物跡の柱穴、溝、土坑などから遺物が出土し、13世紀までは同様の状態が続く。14世紀以降の土器は少ない。

12世紀前半の資料はSK045・SK047・P4001・SD013・SD086などから出土している。須恵器碗はやや器高が高く、見込みにくぼみの痕跡を残している。須恵器小皿は小碗形のものや、やや器高の高いものがある。土師器皿・小皿はいずれも底部ヘラ切りである。土師器鍋は浅い甕形で、調整はハケである。瓦器碗(1121)は尾上編年Ⅱ-1・2期のものである(尾上1983)。

12世紀後半の資料はSK50、SB065柱穴、SB067柱穴などから出土している。須恵器碗はやや器高が低く、見込みにくぼみが認められなくなる。土師器皿・小皿はいずれも底部ヘラ切りである。土師器鍋は浅い甕形で、調整はハケのもの(1301)、播丹型のもの(1328)があるようである。瓦器碗(1296)は尾上編年Ⅲ-1期のものである。

13世紀の資料はSB009柱穴、SD206、SK062などの資料がある。土師器皿・小皿は成形が手づくねである。SK062は土師器皿の口縁部の屈曲が強く13世紀代でもやや新しい可能性がある。土師器羽釜、瓦質土器羽釜があり、瓦質土器羽釜は三足の付くものがある。須恵器碗、瓦器碗などは小片のみしか伴っていない。

12世紀代の土師器皿・小皿の底部がほぼすべてヘラ切りで、糸切りを含まないことは姫路近辺の特徴として挙げられる。加古郡や揖保郡では糸切りが主体を占めていることとは大きく異なり、この特徴は地域圏を考える上で注目すべき事象である。ただし、13世紀には手づくね成形に変化するようである。

5. 中世の輸入陶磁器

白磁は56点出土している。碗が51点(碗Ⅳ類35点、碗Ⅴ類7点)、皿が2点、小杯が1点、水注が2点である。青磁は14点出土している。いずれも碗皿で、龍泉窯系は10点、同安窯系は4点である。その他に褐釉陶器壺1点、染付磁器6点がある。白磁碗が多く、12世紀代のものが多いようである。

参考文献

大村敬通2002年 「唐三彩と奈良三彩の序章」『兵庫県埋蔵文化財研究紀要』創刊号

尾上実1983年 「南河内の瓦器椀」『藤澤一夫先生古希記念古文化論叢』

亀井明德1999年 「隋唐陶磁器の研究－弁口瓶・鳳首瓶－」『大和文華』101号

亀井明德2003年 「日本出土唐代鉛釉陶の研究」『日本考古学』16号

森内秀造・永井信弘1993年 「播磨とその周辺の須恵器」『古代の土器研究会第2回シンポジウム発表資料』

第3節 池ノ下遺跡の変遷(第26～31図)

1. 池ノ下遺跡の概要

池ノ下遺跡は区画整理事業に伴う発掘調査であるため、事業範囲は広域であるが、調査範囲は部分的である。事業地約147,600㎡に対して25,260㎡、約17%の調査を実施したのみである。これは池ノ下遺跡に縦横にトレンチを入れた状態になり、遺跡の概要を把握できる結果となった。

第3章では各調査区の遺構の説明を個別に行い、第4章では遺物ごとの説明を行ったが、今回報告した遺構・遺物がすべてではない。また同一遺構でも調査区が離れている場合別の遺構番号を付けた場合が多い。今回報告した遺構は竪穴住居3棟、掘立柱建物88棟、柱列7基、土坑131基、墓3基、池状遺構3基、木組など12基、井戸1基、その他2基である。

以下、池ノ下遺跡の変遷を時代順にまとめる。

2. 旧石器時代

池ノ下遺跡の旧石器時代の遺構は検出していないが、原位置を遊離した状態で、後期旧石器時代のナイフ形石器が2点出土した。33区と55区からの出土であり、いずれも古代以降に大きく削平された調査区である。苦編山南麓での後期旧石器時代人の活動を示すものである。

3. 縄文時代

池ノ下遺跡の縄文時代の遺構は陥し穴と焼土遺構と流路がある。遺構や遺物から継続的に活動が行われていたことがわかる。焼土は16区の東端のSF001と27区東端のSF002・SF003がある。AMSの年代測定の結果、中期から後期の年代が出ている。46区SX001からは中期後半の完形に近い土器が出土しており、削平を受けているが、今後注意を要する。

晩期の遺構は流路があり、19区SD015-28区・30区・37区SD045が大きく蛇行して流れており、28区・30区・37区は以後古墳時代初頭まで溝が継続して掘り続けられている。他に東部地域を中心として溝が存在している。

4. 弥生時代

弥生時代は3時期に分けることができる。

弥生時代前期は竪穴住居・土坑・溝を検出した。16区には竪穴住居SH001があり、58区では土坑SK058がある。溝は33区・35区SD058-45区SD124-58区SD194と続く。前期の遺構は中央部から東半部に遺構や遺物が広がっている。

弥生時代中期は溝を検出した。縄文時代晩期の28区・30区・37区SD045の上層の溝SD046と33区・34区SD062～SD064-37区SD99・100へ流れる溝と50～53区SD146-55区SD169がある。28区には後期にかけて杭や木組みの遺構が存在しており、下流に水田域が推定できる。

弥生時代後期は溝を検出した。1・2区SD002-19区SD016と縄文時代晩期の28区・30区・37区SD045の上層の溝SD047とSD048がある。SD048からは銅鏃が出土している。

弥生時代は、溝を中心としているが、後世の削平を考慮して、本来は疎らに遺構が広がっていたと考えられる。

5. 古墳時代初頭

古墳時代初頭は竪穴住居・土坑・溝を検出した。

遺物が多量に出土している溝は58区SD201-49区SD138-55区SD171-56・60区SD186-67区SD186が蛇行しながら北東から南西へ流れる。上流は遺物量が少ないが33・35区SD077-36区SD090-47区SD131・132が古墳時代初頭の溝であると考えられる。西側は62区SD211-64区SD227-65区SD243と蛇行して南北に流れる。

この2本の溝間は微地形復原では微高地となっており、竪穴住居は58区SH002と64区SH003の2棟や56区の土器集中SX002や炭を伴った溝SD180が存在する。また現在の苦編集落と重なっており、居住域として推定できる。

遺物は、吉備地域・讃岐地域・阿波地域・河内地域・丹波但馬地域・山陰地域など他地域の土器が出土しており、この時期の特徴である。遺物量から、古墳時代初頭は池ノ下遺跡の中心となる時期の一つである。

6. 古墳時代中期

古墳時代中期は溝と水田と粘土採掘土坑を検出した。

古墳時代初頭の溝62区SD211-64区SD227-65区SD243の上層の溝と37区の西端で溝SD108がある。64区SD227-65区SD243の東側には水路を伴った水田を複数面検出した。水田は、微地形の等高線を見ると谷部にあたる。この谷は姫路バイパス南西側に広がっており、試掘調査では遺構や遺物が確認できなかった地点にあたり、水田が広がっているものと考えられる。

68区で粘土採掘土坑SK124～SK134を検出した。切り合いながら粘土を採掘している。

古墳時代中期は西部地区を中心に存在しているが、遺構や遺物の量から密度が低い時期である。

7. 古代

古代の遺構は溝・掘立柱建物があり、西半部の地区で遺構・遺物が多く出土している。

53区でL字に屈折する溝SD161・162があり、54区のSD163に続くと考えられる。隣の55区では掘立柱建物を2棟検出している。

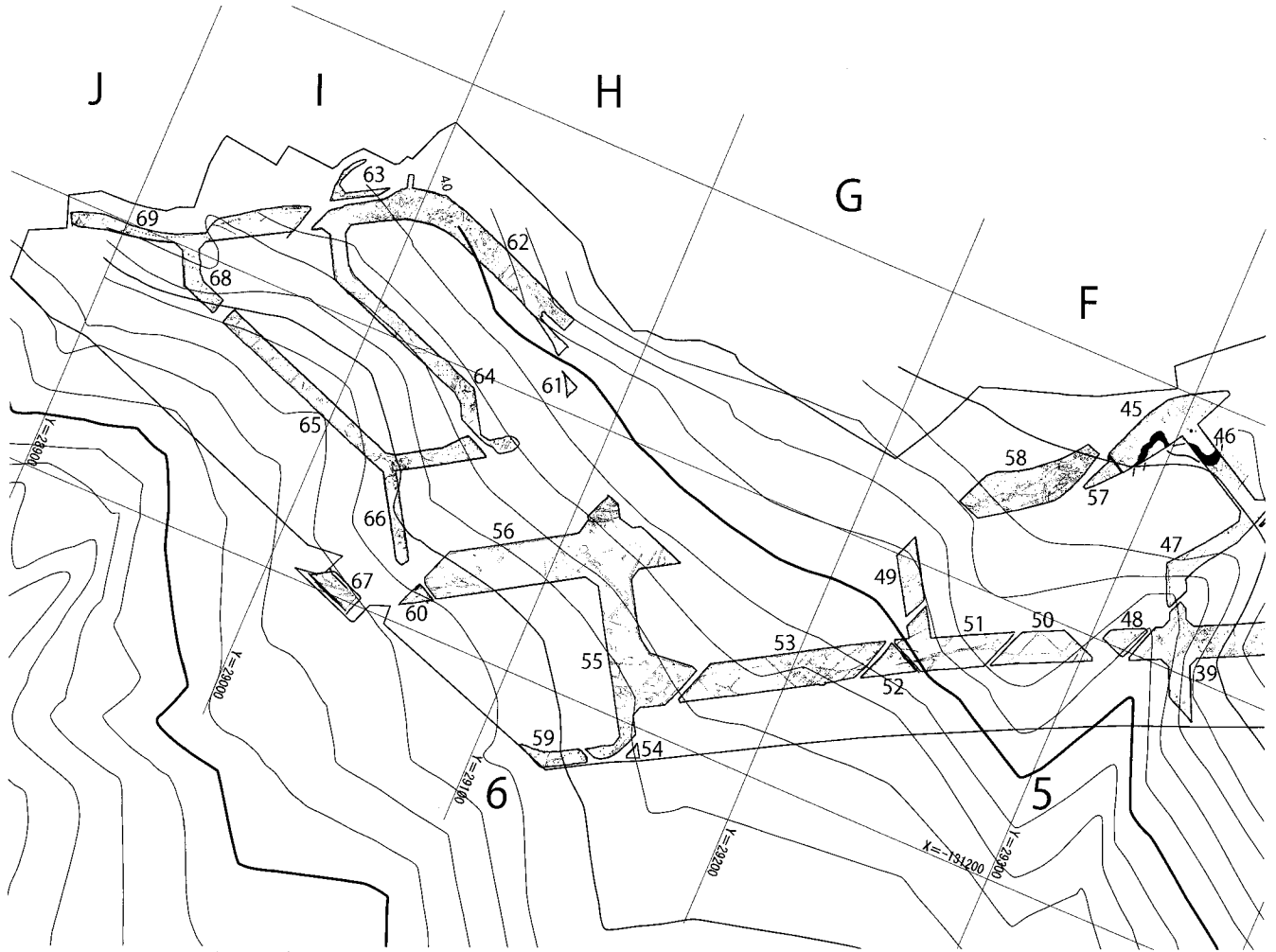
遺物は69区の包含層から唐三彩弁口瓶が出土しているほか、F地区西部やH地区など調査地西部で円面硯・瓦や石帯が出土している。

調査地では遺構の密度は低く、正方位の地割が存在する苦編集落に遺跡の中心があったと考えられる。

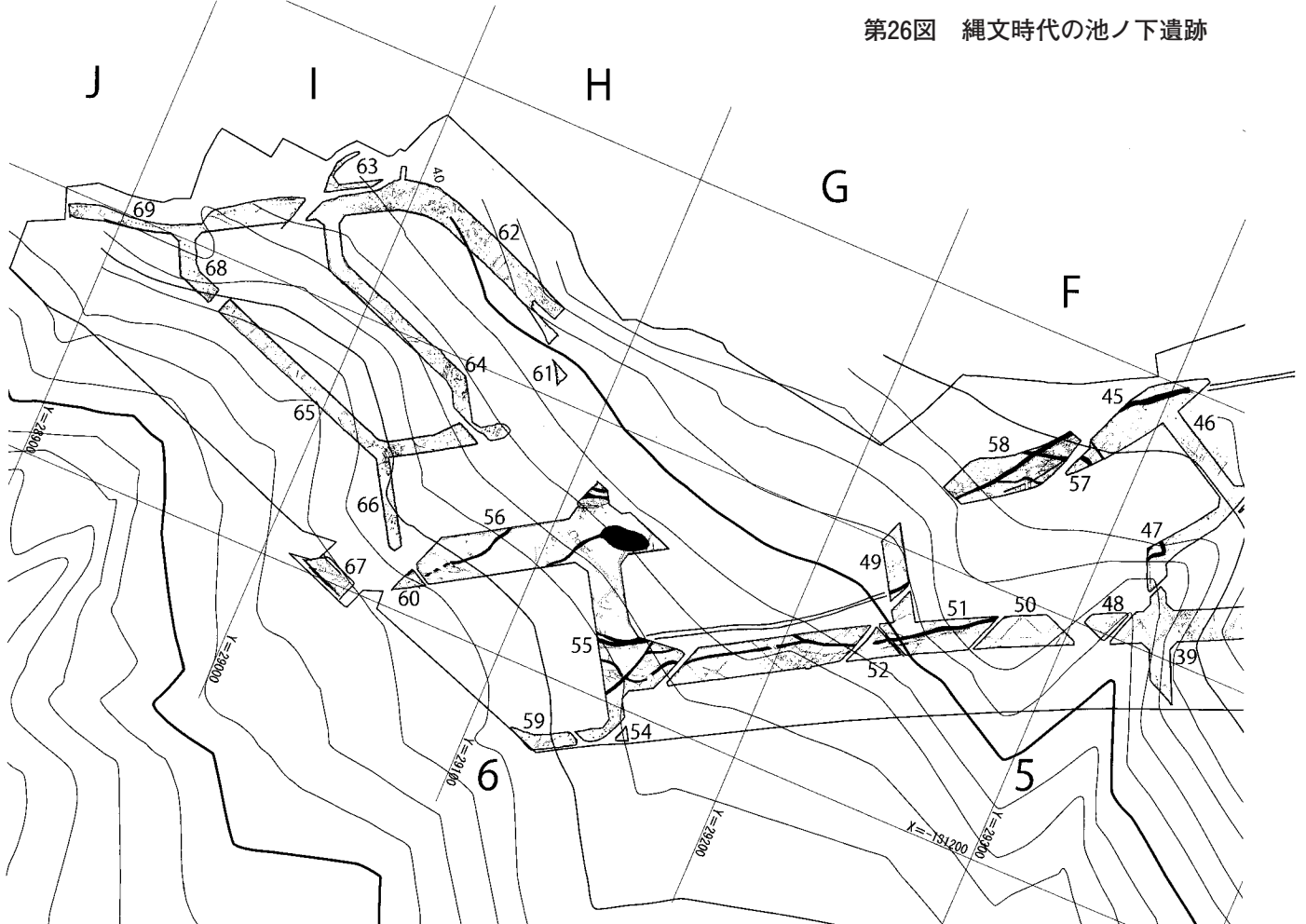
8. 中世前期

中世前期の遺構は、溝・掘立柱建物・土坑・木棺墓・土壙墓など調査区全面から検出している。

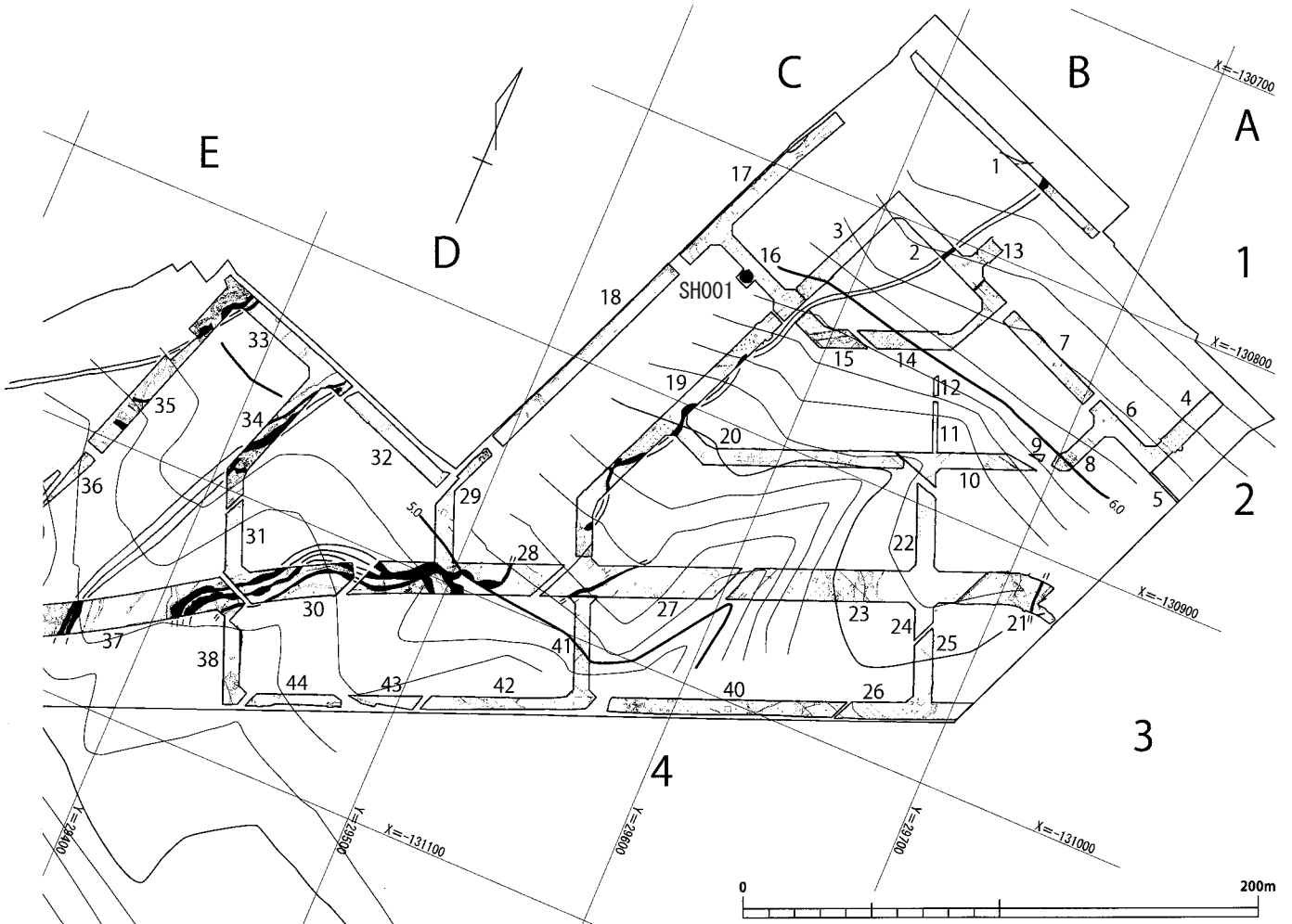
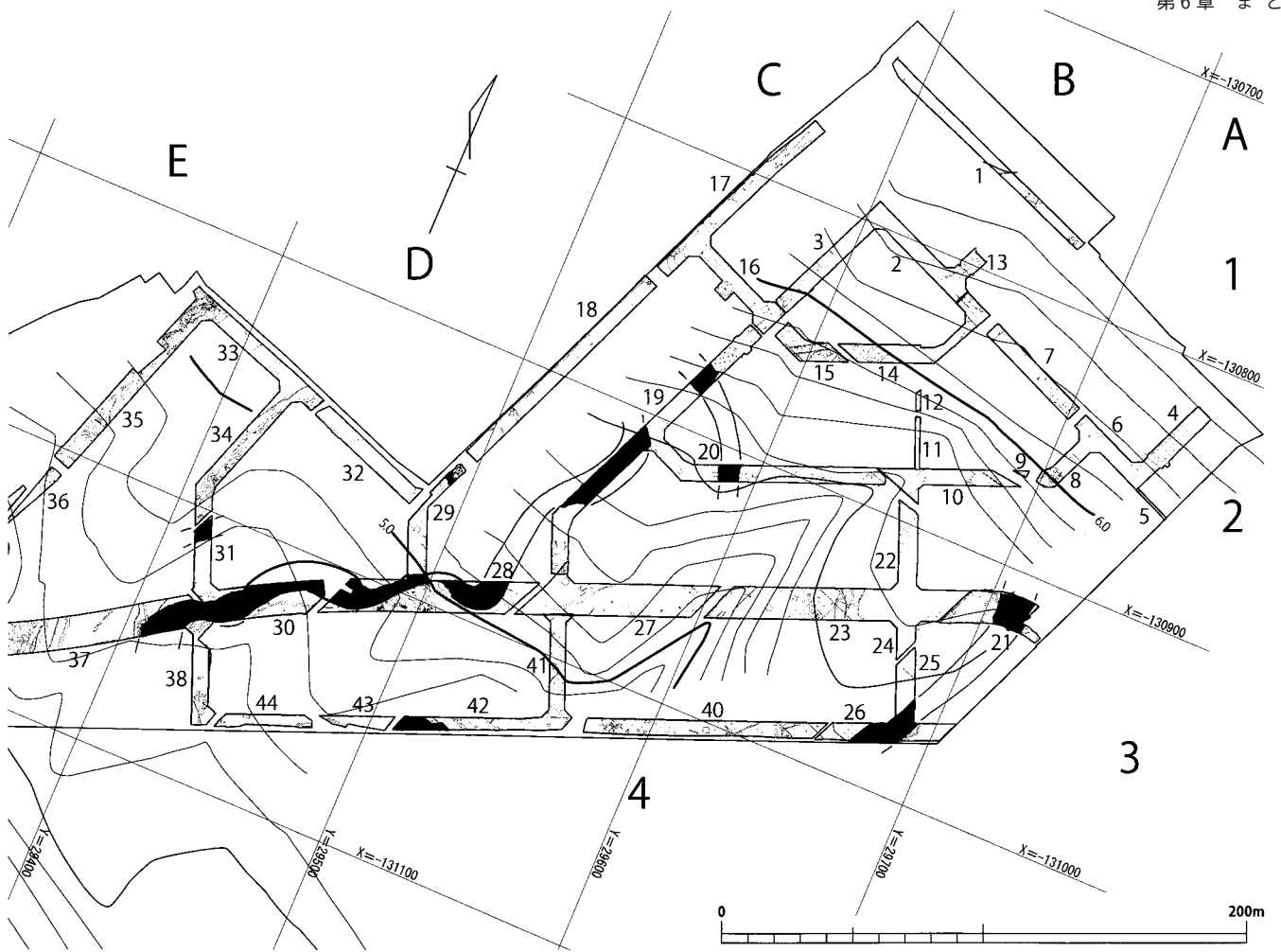
表層条里の痕跡は顕著に残り、埋没条里の溝を検出している。条里の坪内には壺を区画する溝と掘立柱建物・土坑・墓などがある。遺構の方位は条里方向を前後する方向で揃っており、条里坪内に計画的に配置された様子を読み取れる。掘立柱建物は存在する場所と、存在しない場所とが明瞭に分かれる。掘立柱建物が存在する場所でも、切り合い関係があり、同一場所に建て替えを行いながら継続的に住み続けた場所と、切り合い関係がなく建て替えが認められない場所がある。また古墳時代以前は流路だった条件の悪い場所にも建物を建てており、計画的な宅地配置が行われた様子がうかがえる。53区では鍛

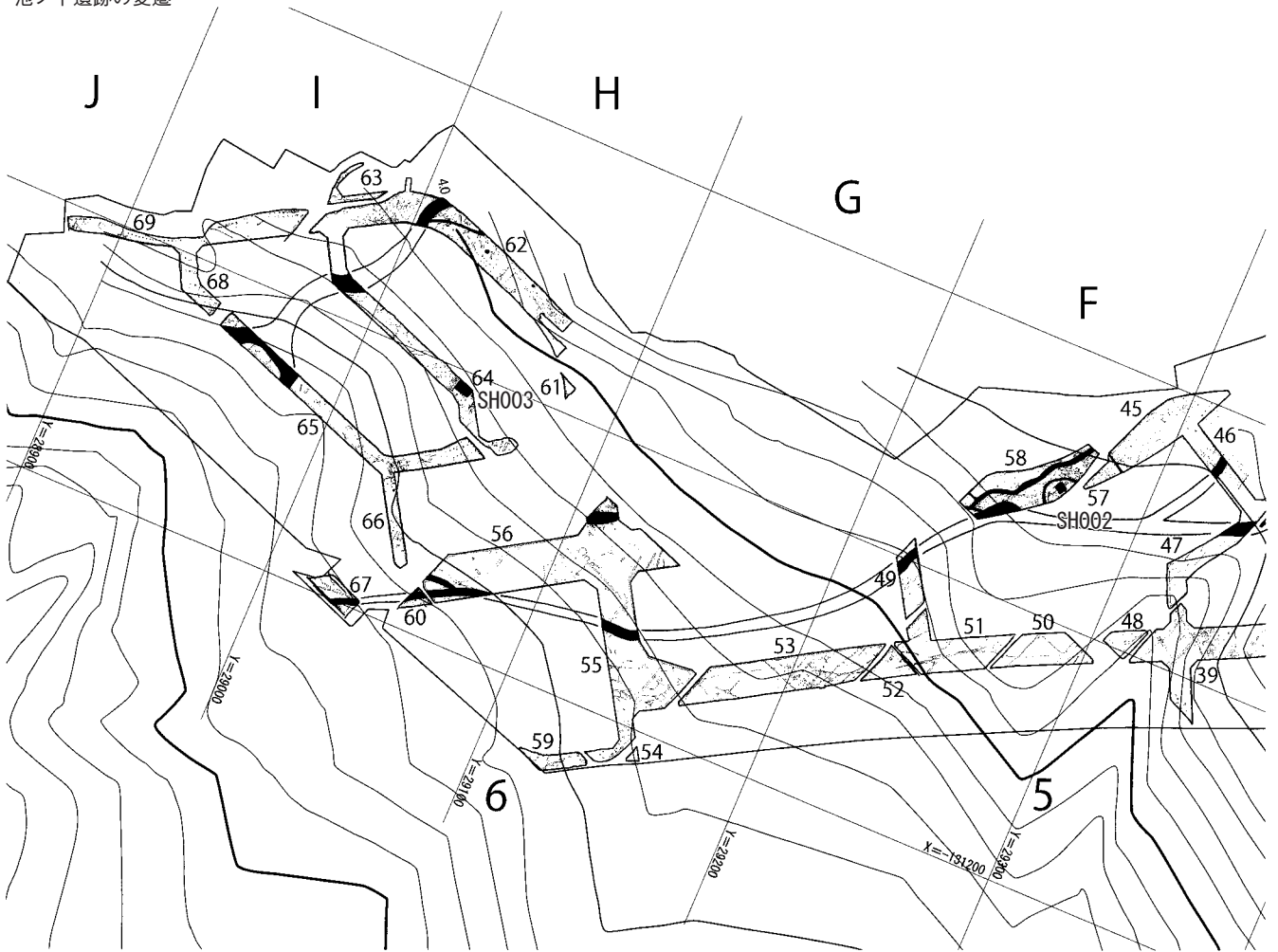


第26図 縄文時代の池ノ下遺跡

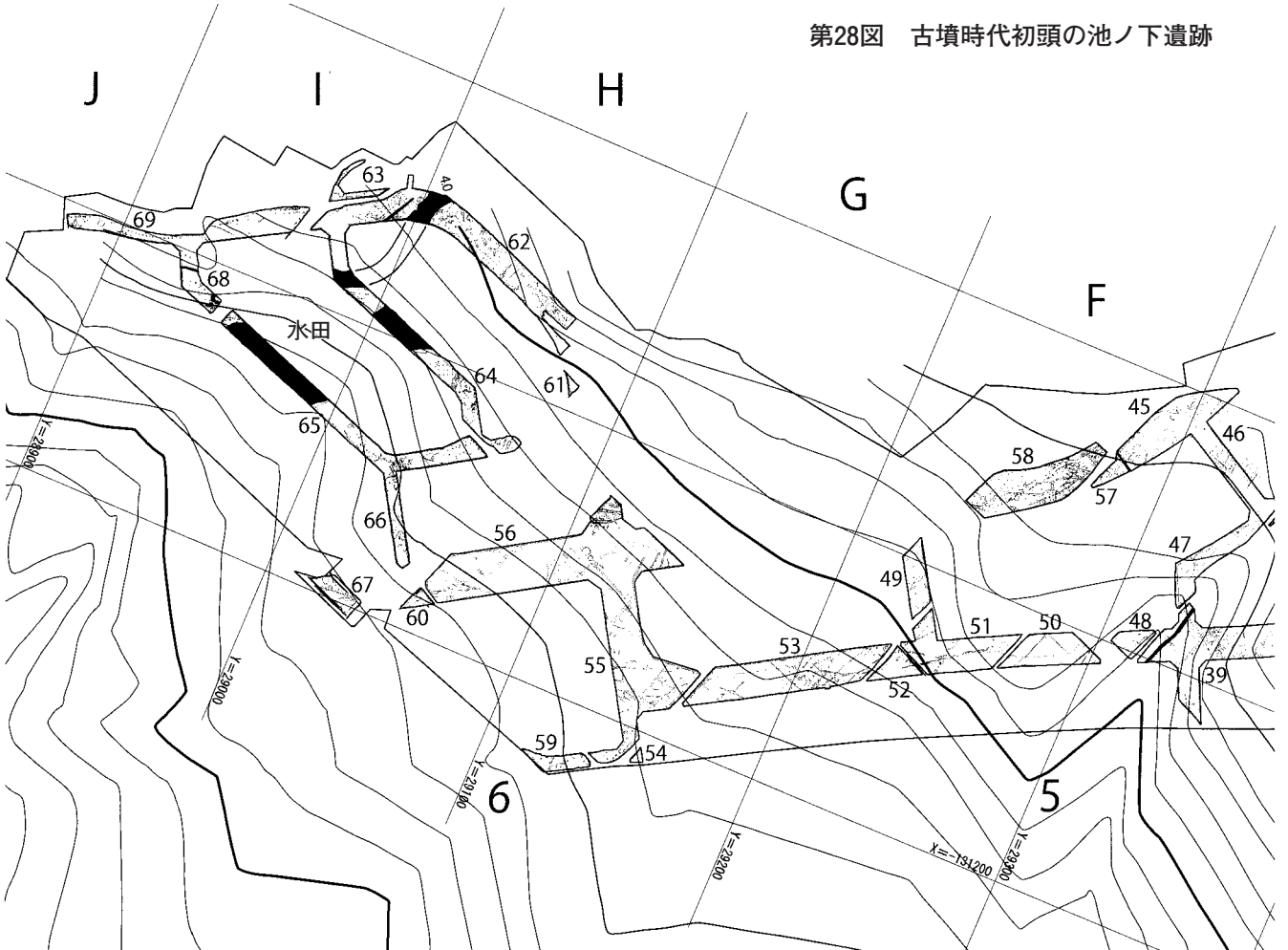


第27図 弥生時代の池ノ下遺跡

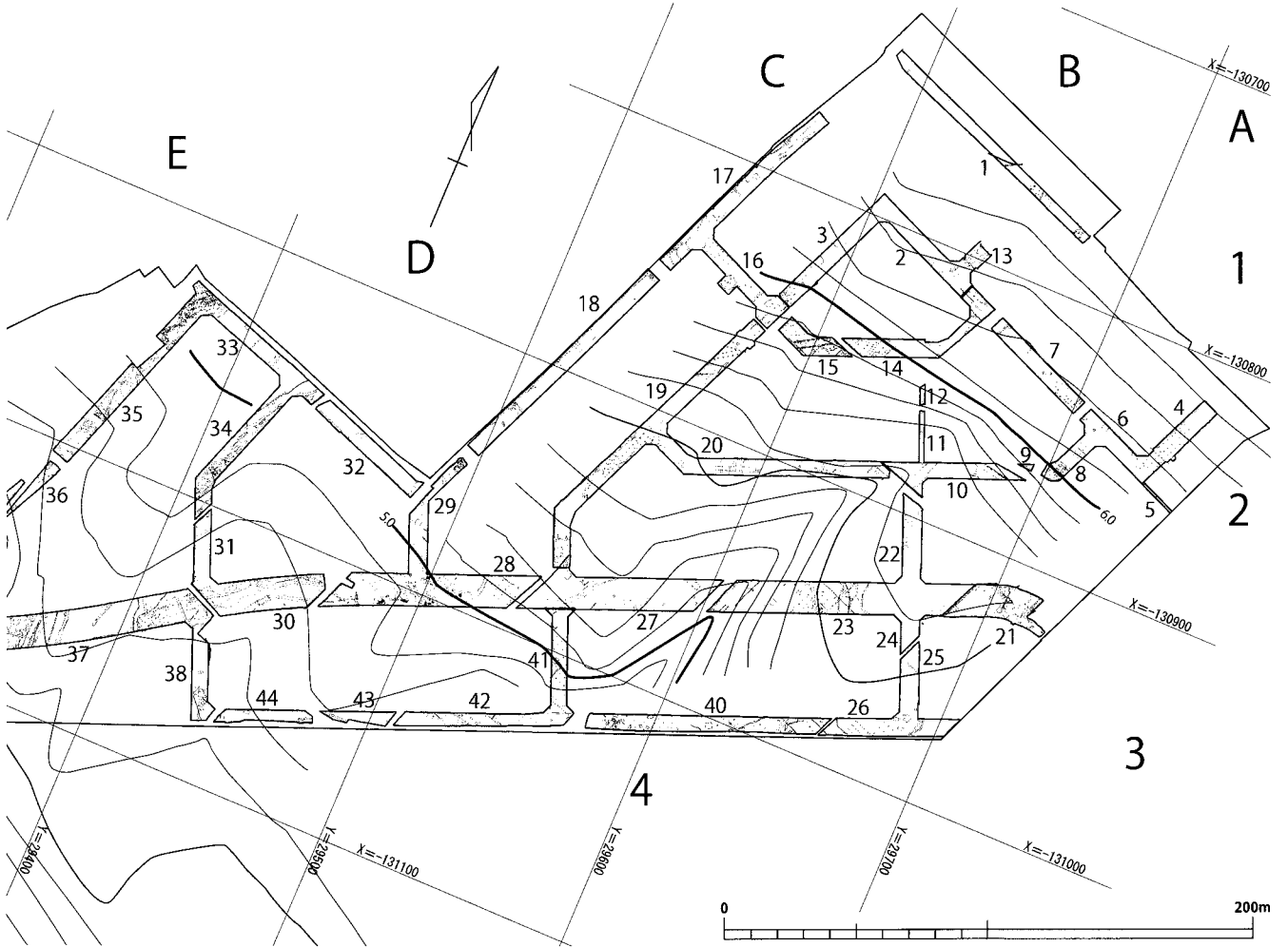
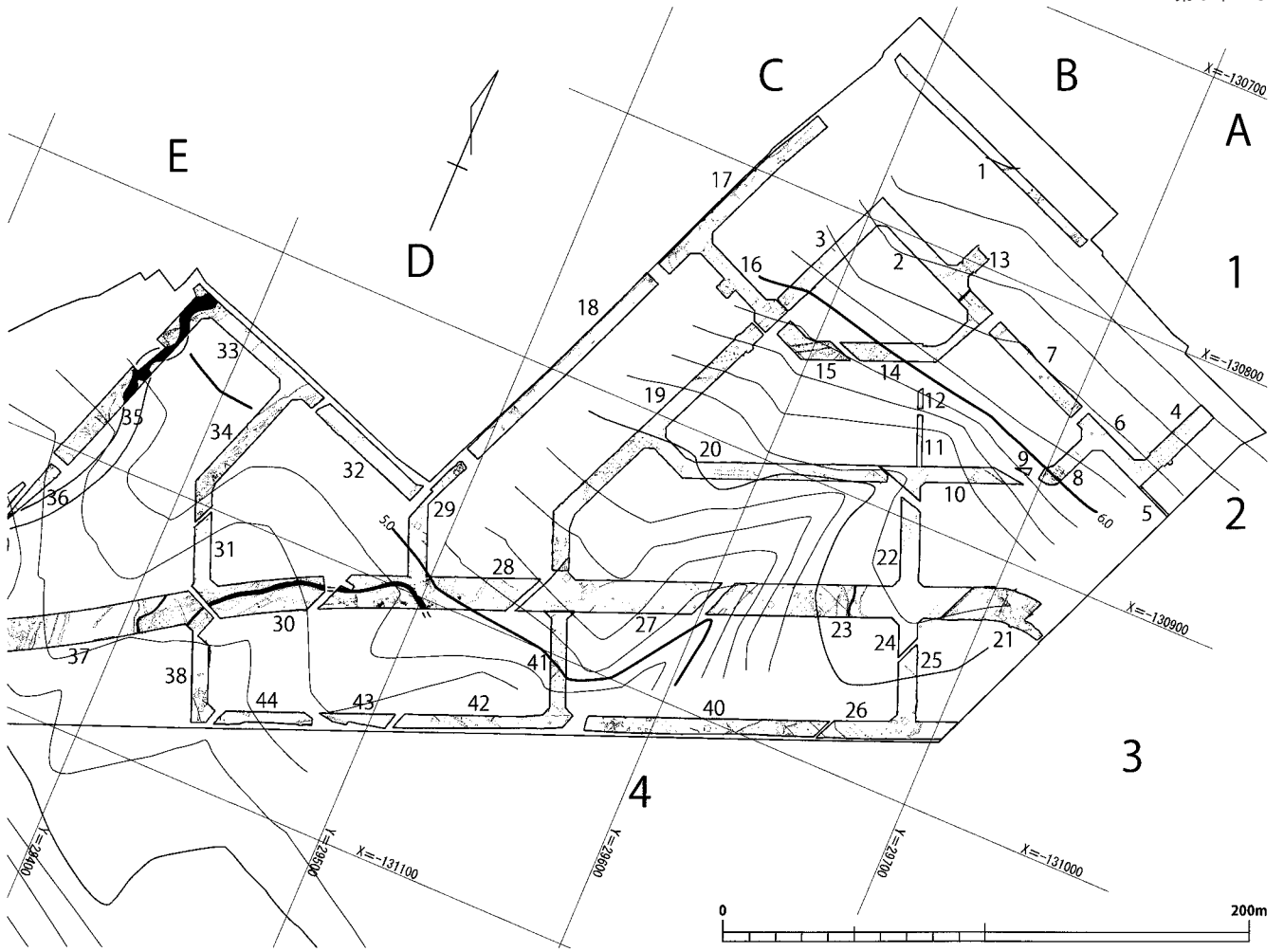


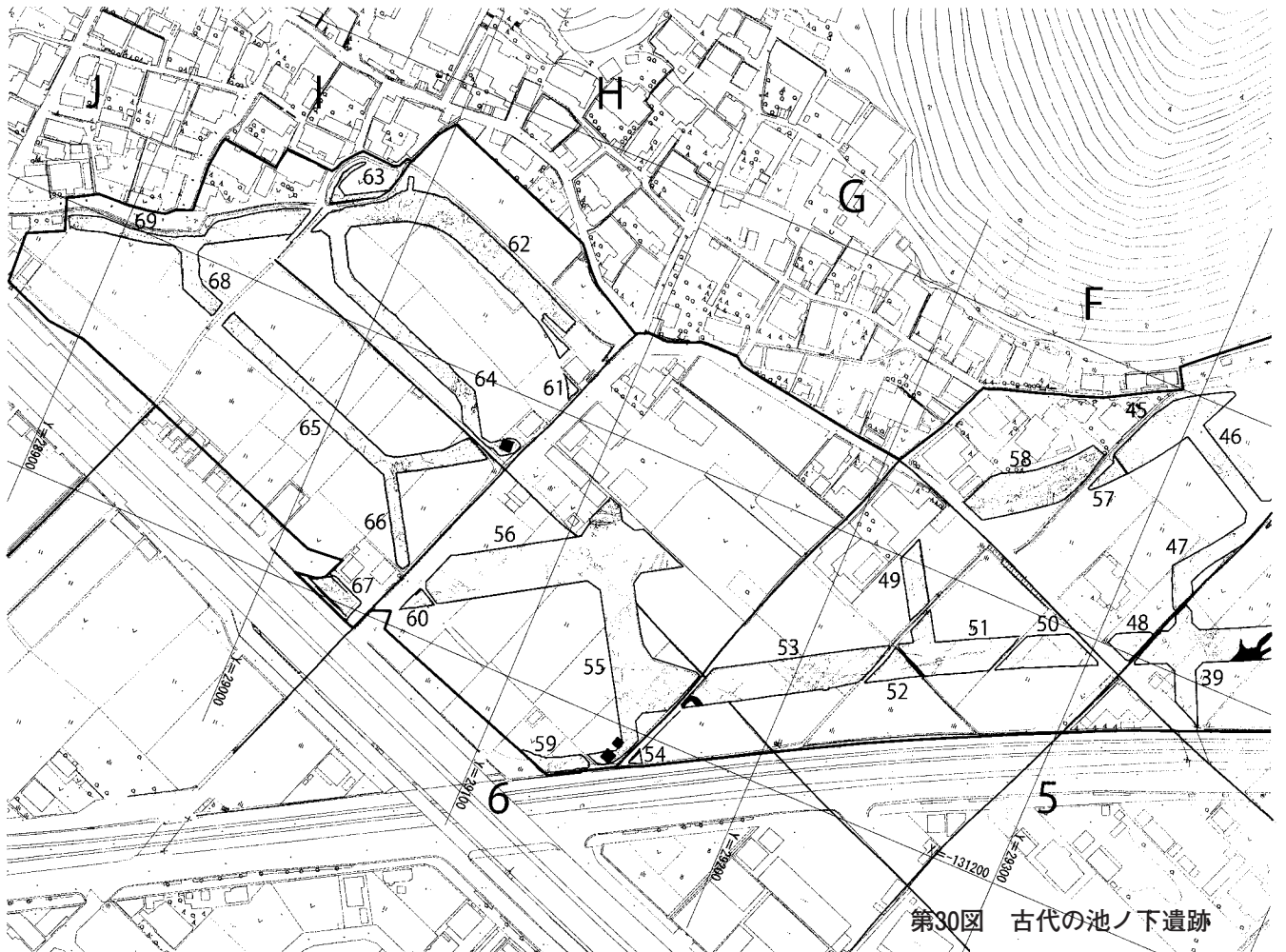


第28図 古墳時代初頭の池ノ下遺跡

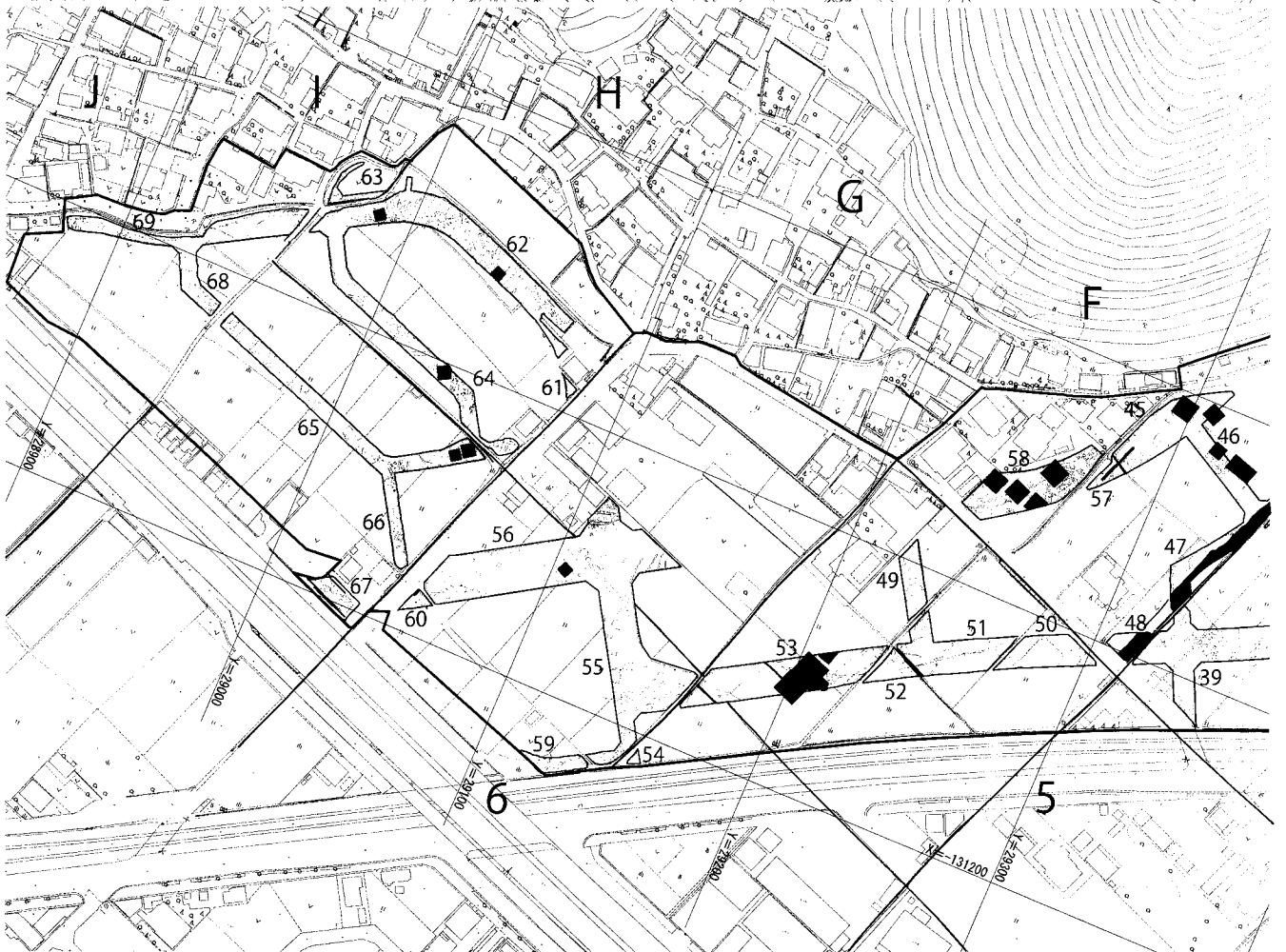


第29図 古墳時代中期の池ノ下遺跡

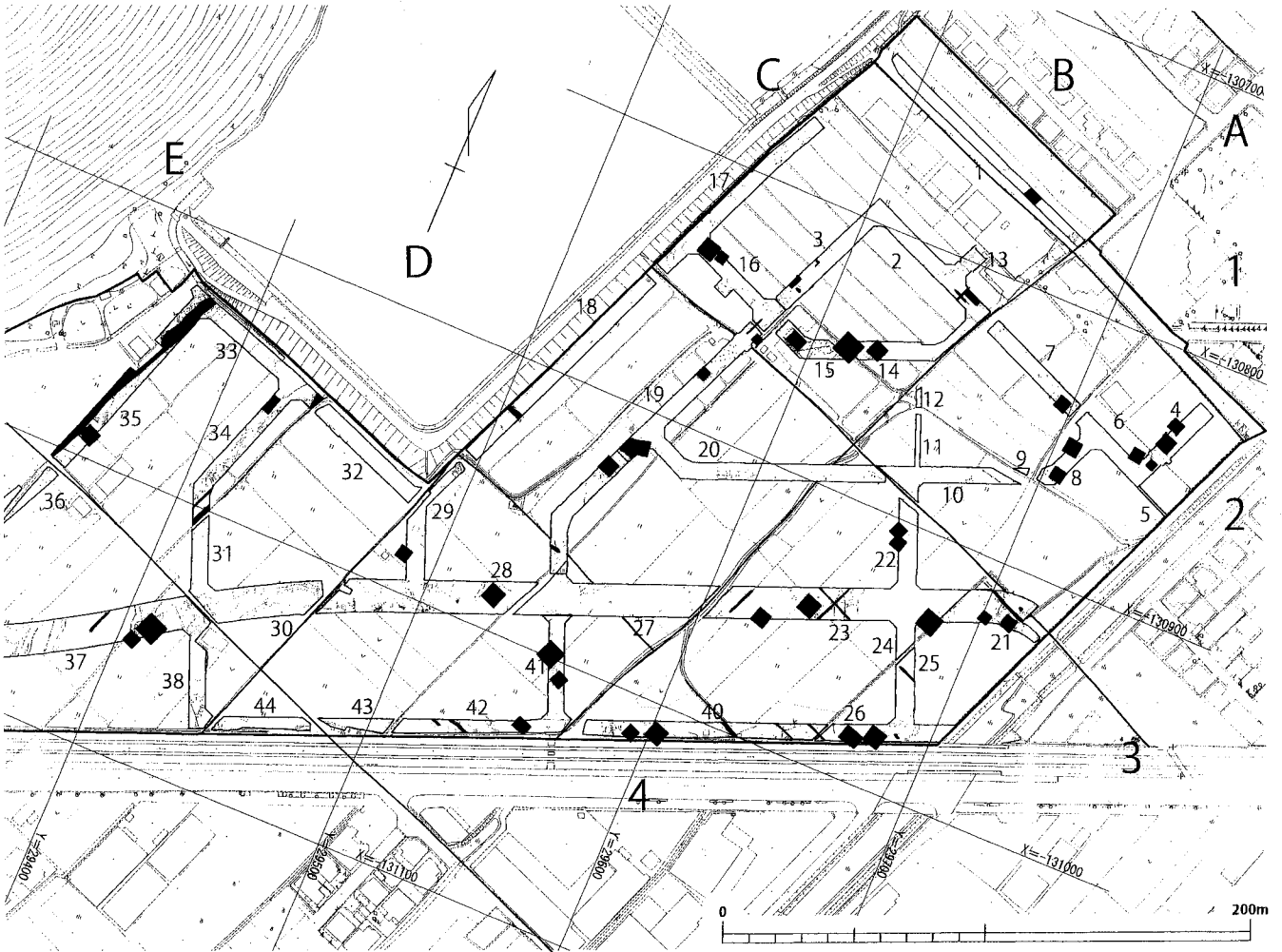
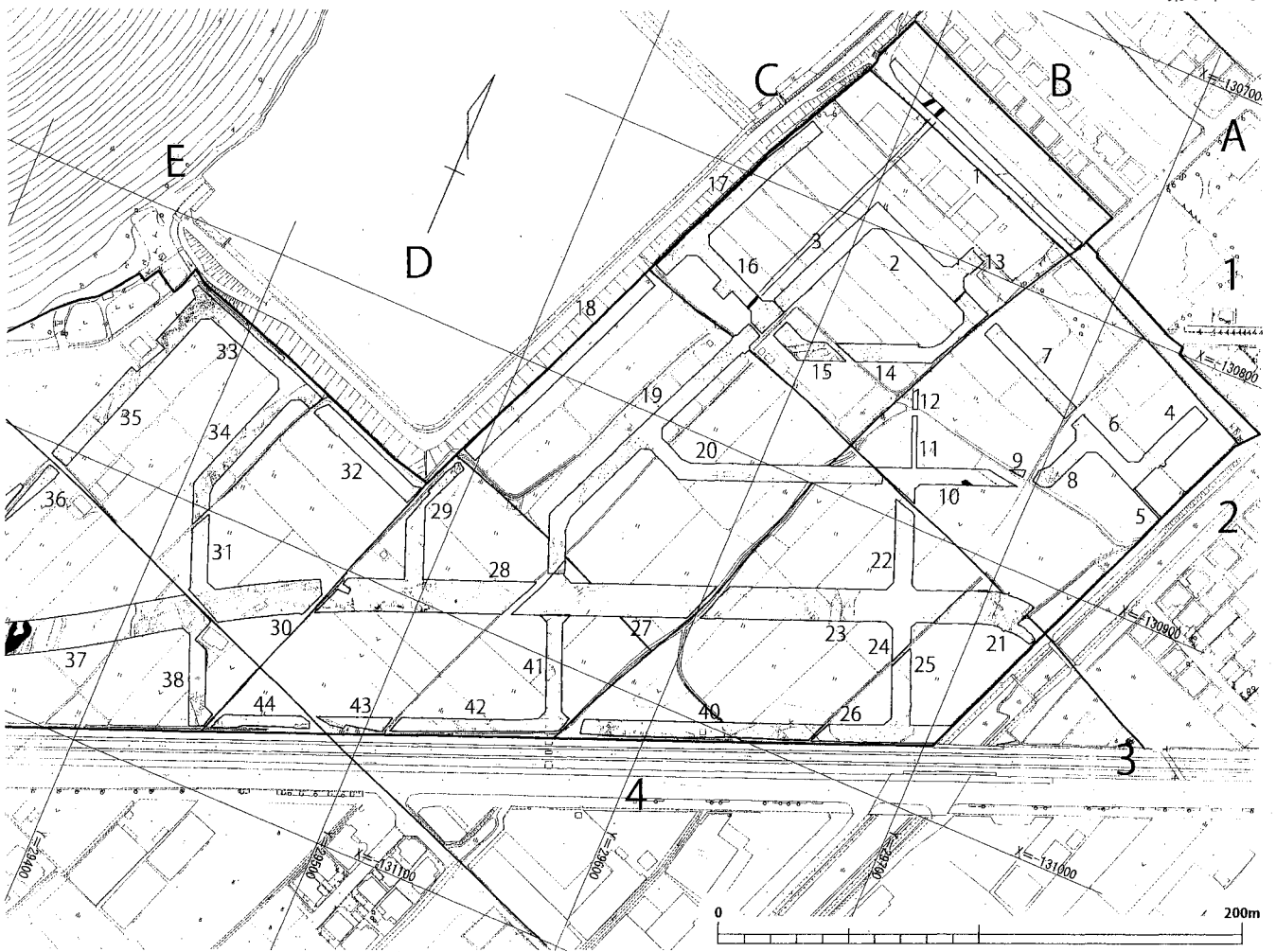




第30図 古代の池ノ下遺跡



第31図 中世前期の池ノ下遺跡



冶炉を検出しており、鉄滓が多量に出土している。23区SB037では柱穴から鉄滓と砥石が出土して注目される。

9. まとめ

今回の池ノ下遺跡の調査は道路部分のみの調査であり、部分的な調査であるが、概要を知ることができた。古代以降の条里区画の大規模な造成によって、それ以前の起伏が激しかった地形は平準化され、古墳時代以前の微高地は大きく削平を受けた。このため、微高地に存在していたと推定される居住地の遺構の多くは痕跡を残していない。竪穴住居や掘立柱建物・土坑など集落の構成要素を検出しているが、竪穴住居は数cmの壁面を確認したのみである。微低地に存在していた流路や溝などは微地形の復原に対応しており、地形に即している。これとは別に微地形に対応しない溝も存在し、これは水田開発によるものと考えられる。

古代以前は蛇行した溝であったが、古代以降は直線的な溝が掘削される。飭磨郡条里は北から東へ20°振っており、中世の掘立柱建物や溝・木棺墓などはほぼ前後する方位で作られている。しかし、奈良時代の唐三彩弁口瓶や円面硯・石帯・瓦など古代の寺院・官衙的遺物が出土している調査区西部の地域は様相が異なる。北側の調査対象外の苦編山南麓谷部に位置する苦編集落には、正方位の地割が存在しており、今後注意しなければならない。

中世前期は条里区画の坪内に整然とした宅地が作られており、掘立柱建物が11世紀後半から13世紀の間継続して建てられている。しかし、中世後期以降は溝からは遺物は出土するが、掘立柱建物は建てられなくなる。現在の苦編集落と重なる地点や豆田遺跡などに集落は移転し、土地利用の形態が変化したためであろうか。周辺の遺跡の動向とも合わせて考える必要がある。

以上のように、今回の池ノ下遺跡の調査は地形に応じた各時代の集落景観がたどれる稀有な調査であった。

別 表

別表1 土器一覽(1)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1	213	242	縄文土器	鉢底部	2007057	C	19	SD015	—	3.2+	7.2						
2	213	242	縄文土器	深鉢	2007057	C	19	SD016	—	2.2+	—						
3	213	242	縄文土器	深鉢	2007057	C	21	SD021	—	4.0+	—						
4	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	28	SD045	—	5.3+	—						
5	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	28	SD045	—	5.9+	—						
6	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	28	SD045	—	2.7+	—						
7	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	28	SD045	—	3.0+	—						
8	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	28	SD045	—	9.7	—						
9	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	28	SD049	—	3.5+	—						
10	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	30	SD047	—	2.1+	—						
11	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	33	SD076	—	4.6+	—						
12	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	33	SD058	—	5.9+	—						
13	213	240	縄文土器	深鉢	2005157	D	37	SD045	—	5.7+	—						
14	213	240	縄文土器	深鉢底部	2005157	D	37	SD045	—	2.8+	3.8						
15	213	247	縄文土器	深鉢	2005194	E	42	SD120	—	5.2+	—						
16	213	247	縄文土器	深鉢底部	2005194	E	42	SD120	—	2.3+	5.2						
17	213	241	縄文土器	深鉢	2006093	F	46	SX001	29.0	46.7	10.6						胎土No10
18	213	241	縄文土器	深鉢底部	2006093	F	46	SX001	—	1.9+	11.0						
19		241	縄文土器	深鉢	2006093	F	46	SX001									
20		241	縄文土器	深鉢	2006093	F	46	SX001									
21	213	248	縄文土器	深鉢	2006093	F	55	SD165	(21.7)	2.5+	—						
22	第1図	242	弥生土器	「く」字口縁鉢	2007057	A	2	SD002	43.4	22.5+	—						
23	第1図	242	弥生土器	壺底部	2007057	A	2	SD001	—	3.1+	6.2						
24	第1図	242	弥生土器	広口壺	2007057	C	19	SD016	18.4	26.1+	—						
25	第1図	242	弥生土器	長頸壺	2007057	C	19	SD016	11.8	7.6+	—						
26	第1図	242	弥生土器	壺底部	2007057	C	19	SD014	—	2.3+	8.0						
27	214	243	弥生土器	広口壺	2005157	D	28	SD045	20.0	9.1+	—						
28	214	244	弥生土器	「く」字口縁甕	2005157	D	28	SD045	15.3	26.3	5.8						胎土No.1
29	214	244	弥生土器	壺	2005157	D	28	SD045	—	3.8+	—						
30	214	252	弥生土器	甕底部	2005157	D	28	SD045	—	2.1+	6.5						
31	214	243	弥生土器	甕底部	2005157	D	28	SD045	—	4.3+	6.3						
32	214	243	弥生土器	広口壺	2005157	D	28	SD047	(20.1)	1.9+	—						
33	214	243	弥生土器	広口壺	2005157	D	28	SD047	10.6	2.2+	—						
34	214	243	弥生土器	広口壺	2005157	D	28	SD047	(19.4)	1.7+	—						
35	214	243	弥生土器	「く」字口縁甕	2005157	D	28	SD047	(16.3)	11.4+	—						
36	214	243	弥生土器	「く」字口縁甕	2005157	D	28	SD046	(12.6)	6.9+	—						
37	214	244	弥生土器	甕	2005157	D	28	SD046	(20.6)	1.5+	—						
38	214	243	弥生土器	壺底部	2005157	D	28	SD046	—	12.5+	6.8						
39	214	243	弥生土器	壺底部	2005157	D	28	SD046	—	6.0+	6.1						
40	214	244	弥生土器	「く」字口縁甕	2005157	D	28	SD046	15.0	21.3	3.9						
41	214	244	弥生土器	長頸壺	2005157	D	28	SD046	12.4	13.9+	—						
42	214	243	弥生土器	無頸壺	2005157	D	28	SD046	(10.5)	2.8+	—						
43	214	243	弥生土器	広口壺	2005157	D	28	SD046	(15.7)	1.5+	—						
44	214	244	弥生土器	甕	2005157	D	28	SD046	(17.8)	5.1+	—						
45	214	244	弥生土器	甕底部	2005157	D	28	SD046	—	3.4+	6.2						
46	214	243	弥生土器	脚台部	2005157	D	28	SD046	—	4.3+	9.6						
47	215	254	弥生土器	甕	2005157	D	30	SD049	14.3	2.1+	—						
48	215	254	弥生土器	広口壺	2005157	D	30	SD049	13.7	5.8+	—						
49	215	247	弥生土器	椀形高坏	2005157	D	30	SD049	(17.5)	3.6+	—						
50	215	254	弥生土器	有稜高坏	2005157	D	30	SD047	27.0	3.9+	—						
51	215	254	弥生土器	直口鉢	2005157	D	30	SD047	19.6	7.5+	—						
52	215	245	弥生土器	広口壺	2005157	D	34	SW011	(21.6)	1.5+	—						
53	215	245	弥生土器	壺底部	2005157	D	34	SW011	—	4.6+	8.0						
54	215	245	弥生土器	「く」字口縁甕	2005157	D	34	SW011	—	4.3+	—						
55	215	245	弥生土器	甕底部	2005157	D	34	SW011	—	3.3+	5.0						
56	215	245	弥生土器	広口壺	2005157	D	34	SD062	(17.7)	4.0+	—						
57	215	245	弥生土器	広口壺	2005157	D	34	SD062	(17.7)	3.9+	—						
58	215	245	弥生土器	広口壺	2005157	D	34	SD062	(16.4)	3.3+	—						
59	215	245	弥生土器	壺底部	2005157	D	34	SD062	—	3.2+	8.0						
60	215	245	弥生土器	「く」字口縁鉢	2005157	D	34	SD062	(21.1)	5.1+	—						

別表1 土器一覽(2)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
61	215	245	弥生土器	壺	2005157	D	33	SD065	—	4.8+	—						
62	215	245	弥生土器	広口壺	2005157	D	34	SD070	18.4	3.9+	—						
63	215	246	弥生土器	甕底部	2005157	D	34	SD069	—	3.3+	5.3						
64	215	246	弥生土器	甕底部	2005157	D	35	SD076	—	7.6+	9.7						
65	215	246	弥生土器	外反口縁甕	2005157	D	35	SD081	24.6	7.2+	—						
66	215	246	弥生土器	甕底部	2005157	D	35	SD081	—	4.4+	7.2						
67	215	246	弥生土器	甕	2005157	D	35	SD083	—	8.3+	—						
68	215	254	弥生土器	鉢底部	2005157	D	35	SD083	—	3.9+	4.3						
69	216	246	弥生土器	壺	2005157	D	35	SD082	—	9.2+	—						
70	216	246	弥生土器	壺頸部	2005157	D	35	SD082	—	4.3+	—						
71	216	246	弥生土器	壺底部	2005157	D	35	SD082	—	5.3+	5.7						
72	216	246	弥生土器	壺体部	2005157	D	35	SD082	—	4.7+	—						
73	216	246	弥生土器	大形壺	2005157	D	35	SD082	—	7.0+	—						
74	216	246	弥生土器	外反口縁甕	2005157	D	35	SD082	(21.4)	16.3+	—						
75	216	246	弥生土器	外反口縁甕	2005157	D	35	SD082	(22.5)	10.3+	—						
76	216	246	弥生土器	甕底部	2005157	D	35	SD082	—	6.3+	7.2						
77	216	246	弥生土器	甕底部	2005157	D	35	SD082	—	5.8+	8.0						
78	216	247	弥生土器	壺	2005157	D	37	SD099	—	13.2+	4.9						
79	216	247	弥生土器	水平口縁高坏	2005157	D	37	SD099	16.7	10.0+	—						
80	216	247	弥生土器	無頸壺	2005157	D	37	SD099	—	5.8+	—						
81	216	247	弥生土器	長頸壺	2005157	D	37	SD048	11.8	11.1+	—						
82	216	247	弥生土器	壺底部	2005157	D	37	SD046	—	2.7+	7.2						
83	217	248	弥生土器	大形外反口縁甕	2006093	F	45	SD124	(34.1)	6.9+	—						
84	217	248	弥生土器	大形外反口縁甕	2006093	F	45	SD124	(40.4)	9.6+	—						
85	217	248	弥生土器	大形甕底部	2006093	F	45	SD124	—	10.0+	9.6						
86	217	248	弥生土器	直口壺	2006093	F	46	SD127	(16.5)	6.3+	—						
87	217	248	弥生土器	甕底部	2006093	F	46	SD127	—	2.2+	4.7						
88	217	268	弥生土器	壺口頸部	2006093	F	49	SD138	(14.4)	5.8+	—						
89	217	270	弥生土器	外反口縁甕	2006093	F	49	SD138	(23.0)	4.5+	—						
90	217	248	弥生土器	「く」字口縁甕	2006093	F	51	SD146	13.2	8.6+	—						
91	217	248	弥生土器	脚付無頸壺	2006093	F	53	SD146	(17.0)	(10.6+)	13.6						
92	217	248	弥生土器	「く」字口縁甕	2006093	F	55	SD146	(12.0)	3.1+	—						
93	217	248	弥生土器	脚台	2006093	F	55	SD170	—	3.7+	11.4						
94	217	267	弥生土器	広口壺	2006093	F	56	SD186	16.0	3.1+	—						
95	217	283	弥生土器	壺底部	2006093	F	56	SG003	—	6.3+	8.0						
96	218	249	弥生土器	壺底部	2007057	G	57	SD189	—	4.4+	7.1						
97	218	249	弥生土器	甕底部	2007057	G	57	SD189	—	3.6+	9.2						
98	218	249	弥生土器	広口壺	2007057	G	58	SD192	10.8	3.6+	—						
99	218	249	弥生土器	広口壺	2007057	G	58	SD192	12.0	15.3+	—						
100	218	249	弥生土器	壺	2007057	G	58	SD192	—	3.7+	—						
101	218	249	弥生土器	壺頸部	2007057	G	58	SD192	—	4.6+	—						
102	218	249	弥生土器	壺頸部	2007057	G	58	SD192	—	4.4+	—						
103	218	249	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD192	(26.8)	6.7+	—						
104	218	249	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD192	—	7.2+	9.2						
105	218	249	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD192	—	3.9+	9.8						
106	218	249	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SD192	—	6.5+	8.4						
107	218	250	弥生土器	壺体部	2007057	G	58	SD193	—	4.4+	—						
108	218	250	弥生土器	甕体部	2007057	G	58	SD193	—	7.5+	—						
109	218	250	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SD193	—	7.1+	5.6						
110	218	250	弥生土器	広口壺	2007057	G	58	SD194	—	5.6+	—						
111	218	250	弥生土器	広口壺	2007057	G	58	SD194	—	5.0+	—						
112	218	250	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD194	17.5	2.5+	—						
113	218	250	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD194	25.6	7.2+	—						
114	218	250	弥生土器	無頸壺	2007057	G	58	SD194	—	2.4+	—						
115	218	250	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD194	—	2.0+	—						
116	218	250	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD194	—	4.0+	—						
117	218	250	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD194	—	7.2+	—						
118	218	250	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD194	—	4.0+	8.5						
119	218	250	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD194	—	8.3+	6.9						
120	218	250	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SD194	—	6.3+	8.2						

別表1 土器一覽(3)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
121	218		弥生土器	小形壺底部	2007057	G	58	SD195	—	2.8+	3.4						
122	218	250	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SD195	—	4.6+	6.4						
123	218	250	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SD195	—	6.2+	8.2						
124	218	249	弥生土器	壺蓋	2007057	G	58	SD195	13.6	6.0	—						
125	218	250	弥生土器	広口壺	2007057	G	58	SK058	16.4	7.3+	—						
126	218	250	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SK058	(24.6)	13.9+							
127	218	249	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SK058	—	5.6+	5.6						
128	218	250	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SK058	—	6.6+	10.1						
129	219	251	弥生土器	壺	2007057	G	58	SD201	—	4.2+	—						
130	219	251	弥生土器	壺	2007057	G	58	SD201	—	4.8+	—						
131	219	251	弥生土器	広口壺	2007057	G	58	SD201	—	6.5+	—						
132	219	251	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD201	—	4.2+	8.4						
133	219	251	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD201	—	3.9+	7.1						
134	219	251	弥生土器	壺底部	2007057	G	58	SD201	—	6.4+	9.8						
135	219	251	弥生土器	甕底部	2007057	G	58	SD201	—	10.6+	7.2						
136	219	251	弥生土器	甕	2007057	G	58	SD201	18.2	3.6+	—						
137	219	251	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD201	23.2	12.1+	—						胎土No.16
138	219	251	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD201	(27.0)	7.8+	—						
139	219	251	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD201	35.1	15.7+	—						
140	219	251	弥生土器	外反口縁甕	2007057	G	58	SD201	(31.5)	5.7+	—						
141	219	251	弥生土器	「く」字口縁甕	2007057	G	58	SD201	14.6	5.9+	—						
142	219	251	弥生土器	「く」字口縁甕	2007057	G	58	SD201	14.2	1.5+	—						
143	220	253	土師器	甕Aa	2005157	D	23	SK015	(13.9)	19.5	3.1						
144	220	252	土師器	二重口縁壺	2005157	D	28	SD048	21.4	12.5+	—						
145	220	252	土師器	甕A	2005157	D	28	SD048	14.8	4.9+	—						
146	220	252	土師器	短頸壺A	2005157	D	28	SD048	15.2	(25.1+)	—						
147	220	252	土師器	甕底部	2005157	D	28	SD048	—	6.1+	2.2						
148	220	252	土師器	甕底部	2005157	D	28	SD048	—	3.7+	4.0						
149	220	252	土師器	二重口縁壺	2005157	D	28	SD048	21.4	10.6+	—						
150	220	252	土師器	甕底部	2005157	D	28	SD048	—	4.2+	5.6						
151	220	253	土師器	甕底部	2005157	D	28	SD048	—	13.0+	4.5						
152	220	252	土師器	甕底部	2005157	D	28	SD048	—	10.1+	4.3						
153	220	252	土師器	甕Lb	2005157	D	28	SD048	(18.2)	4.1+	—						
154	220	252	土師器	壺底部	2005157	D	28	SD048	—	4.4+	4.4						
155	220	254	土師器	鉢Cb	2005157	D	30	SD049	—	3.9+	4.0						
156	220	254	土師器	二重口縁壺	2005157	D	30	SD049	(23.5)	3.1+	—						
157	220	245	土師器	広口壺	2005157	D	34	SD072	12.8	7.1+	—						
158	220	254	土師器	壺	2005157	D	35	SD078	—	6.7+	4.4						
159	220	254	土師器	甕	2005157	D	35	SD079	12.5	4.7+	—						
160	220	253	土師器	二重口縁壺	2005157	D	35	SD083	(17.6)	15.1+	—						胎土No. 2
161	220	254	土師器	壺	2005157	D	35	SD077	—	9.9+	5.9						
162	220	254	土師器	甕D	2005157	D	35	SD077	(18.8)	7.4+	—						
163	220	254	土師器	鉢	2005157	D	35	SD077	—	6.0+	4.0						
164	220	254	土師器	鉢	2005157	D	35	SD077	—	5.8+	4.5						
165	220	254	土師器	甕	2005157	D	35	SD077	—	5.4+	5.1						
166	220	254	土師器	甕	2005157	D	37	SD092	(15.7)	4.3+	—						
167	第2図	255	土師器	甕Ab	2006093	F	46	SD132	15.4	17.0	2.4						
168	第2図	255	土師器	甕Jb	2006093	F	46	SD132	18.4	17.0+	—						
169	第2図	255	土師器	二重口縁壺	2006093	F	47	SD132	(21.7)	3.6+	—						
170	第2図	255	土師器	鉢Db	2006093	F	47	SD131	20.0	8.0	—						
171	第2図	255	土師器	鉢底部	2006093	F	47	SD131	—	3.2+	4.0						
172	第2図	255	土師器	鉢Aa	2006093	F	47	SD130	17.2	4.9+	—						
173	第2図	255	土師器	壺底部	2006093	F	47	SD130	—	3.3+	5.5						
174	第2図	255	土師器	甕Pb1	2006093	F	47	SD133	23.6	26.9+	—						胎土No. 3
175	221	268	土師器	広口壺A	2006093	F	49	SD138	(14.8)	5.0+	—						
176	221	256	土師器	広口壺A	2006093	F	49	SD138	14.2	12.3	—						
177	221	256	土師器	広口壺B	2006093	F	49	SD138	15.9	14.2+	—						
178	221	256	土師器	広口壺B	2006093	F	49	SD138	20.5	(39.0)	6.0						
179	221	268	土師器	広口壺B	2006093	F	49	SD138	16.5	11.8+	—						
180	221	256	土師器	広口壺B	2006093	F	49	SD138	19.6	8.4+	—						

別表1 土器一覽(4)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
181	221	256	土師器	広口壺B	2006093	F	49	SD138	20.6	10.9+	—						
182	221	256	土師器	二重口縁壺	2006093	F	49	SD138	19.0	5.2+	—						
183	221	268	土師器	広口壺B	2006093	F	49	SD138	19.1	6.8+	—						
184	221	256	土師器	短頸壺	2006093	F	49	SD138	10.0	12.8	4.2						
185	221	268	土師器	小型丸底壺	2006093	F	49	SD138	—	5.7+	—						
186	221	257	土師器	短頸壺Ac	2006093	F	49	SD138	9.0	10.8	7.9						
187	221	268	土師器	壺	2006093	F	49	SD138	—	3.5+	—						
188	221	268	土師器	壺	2006093	F	49	SD138	—	6.2+	4.7						
189	221	271	土師器	鉢	2006093	F	49	SD138	—	4.4+	3.6						
190	221	271	土師器	鉢	2006093	F	49	SD138	—	3.7+	4.9						
191	222	257	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	17.6	17.3+	—						
192	222	257	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	15.6	21.0	2.4						
193	222	268	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	16.8	9.2+	—						
194	222	257	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	13.7	15.7	2.6						
195	222	268	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	13.5	8.5+	—						
196	222	258	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	14.8	15.0	2.0						
197	222	258	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	14.0	15.1	—						
198	222	257	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	13.6	7.2+	—						
199	222	269	土師器	甕Ca	2006093	F	49	SD138	15.1	4.0+	—						
200	222	269	土師器	甕Ca	2006093	F	49	SD138	15.4	5.4+	—						
201	222	258	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	16.3	19.7+	—						
202	222	257	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	18.5	16.9+	—						
203	222	258	土師器	甕Ca	2006093	F	49	SD138	15.0	21.6+	—						
204	222	269	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	(15.5)	18.9	17.8						
205	222	258	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	14.4	21.8+	—						胎土No. 7
206	222	269	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	16.5	7.1+	—						
207	222	258	土師器	甕Aa	2006093	F	49	SD138	17.4	15.3+	19.7						
208	222	269	土師器	甕E	2006093	F	49	SD138	11.7	5.4+	—						
209	222	259	土師器	甕底部	2006093	F	49	SD138	—	15.0+	4.0						
210	222	271	土師器	甕底部	2006093	F	49	SD138	—	3.1+	4.8						
211	223	269	土師器	甕F	2006093	F	49	SD138	13.4	8.8+	—						
212	223	259	土師器	甕Lb	2006093	F	49	SD138	15.8	11.3+	—						
213	223	269	土師器	甕Lb	2006093	F	49	SD138	(15.1)	22.5	1.9						胎土No. 5
214	223	259	土師器	甕Lb	2006093	F	49	SD138	11.5	12.7	3.7						
215	223	270	土師器	甕Ja	2006093	F	49	SD138	13.4	3.8+	—						
216	223	270	土師器	甕Ja	2006093	F	49	SD138	(14.1)	2.1+	—						
217	223	270	土師器	甕Ja	2006093	F	49	SD138	—	6.2+	—						
218	223	268	土師器	甕Ja	2006093	F	49	SD138	—	2.0+	4.6						
219	223	270	土師器	甕M	2006093	F	49	SD138	(14.4)	3.8+	—						
220	223	259	土師器	甕M	2006093	F	49	SD138	16.6	17.2+	—						胎土No. 6
221	223	270	土師器	甕K	2006093	F	49	SD138	(13.2)	3.7+	—						
222	223	270	土師器	甕K	2006093	F	49	SD138	(14.2)	4.0+	—						
223	223	270	土師器	甕K	2006093	F	49	SD138	16.0	3.7+	—						
224	223	268	土師器	鉢Ab	2006093	F	49	SD138	(27.8)	26.2+	—						
225	223	270	土師器	鉢Ab	2006093	F	49	SD138	31.7	12.3+	—						
226	223	270	土師器	鉢B	2006093	F	49	SD138	34.3	18.6	12.5						
227	223	259	土師器	鉢B	2006093	F	49	SD138	36.2	18.6	13.2						
228	224	259	土師器	甕Ab	2006093	F	49	SD138	13.4	11.3	2.6						
229	224	260	土師器	鉢Ca	2006093	F	49	SD138	(15.6)	8.05	5.2						
230	224	260	土師器	鉢Ca	2006093	F	49	SD138	—	7.6+	2.9						
231	224	260	土師器	鉢Ca	2006093	F	49	SD138	9.3	6.1	2.9						
232	224	271	土師器	鉢Ca	2006093	F	49	SD138	10.3	6.0	2.8						
233	224	260	土師器	鉢Ca	2006093	F	49	SD138	10.0	4.7	2.2						
234	224	260	土師器	鉢Db	2006093	F	49	SD138	6.0	4.2	—						
235	224	260	土師器	鉢底部	2006093	F	49	SD138	—	2.5+	2.7						
236	224	271	土師器	鉢底部	2006093	F	49	SD138	—	5.7+	4.0						
237	224	260	土師器	鉢Db	2006093	F	49	SD138	12.4	7.7	5.6						
238	224	260	土師器	鉢Dc	2006093	F	49	SD138	8.4	6.6	5.0						
239	224	270	土師器	鉢底部	2006093	F	49	SD138	—	3.0+	5.8						
240	224	260	土師器	鉢Dc	2006093	F	49	SD138	—	2.9+	8.1						

別表1 土器一覽(5)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
241	224	271	土師器	製塩土器	2006093	F	49	SD138	—	2.8+	4.8						
242	224	261	土師器	鉢Da	2006093	F	49	SD138	16.1	6.9+	—						
243	224	261	土師器	鉢Da	2006093	F	49	SD138	12.1	6.2	—						
244	224	261	土師器	鉢Da	2006093	F	49	SD138	9.8	5.8	—						
245	224	261	土師器	鉢Da	2006093	F	49	SD138	9.0	6.1	—						
246	224	270	土師器	鉢E	2006093	F	49	SD138	16.7	9.1+	—						
247	224	261	土師器	有孔鉢A	2006093	F	49	SD138	(17.5)	8.8	2.7						
248	224	261	土師器	有孔鉢B	2006093	F	49	SD138	15.8	15.5	1.8						
249	224	262	土師器	高坏A	2006093	F	49	SD138	16.0	11.5	11.9						
250	224	262	土師器	高坏Ab	2006093	F	49	SD138	22.2	15.0	16.1						
251	224	263	土師器	高坏脚部	2006093	F	49	SD138	—	3.1+	16.2						
252	224	270	土師器	鉢B	2006093	F	49	SD138	22.7	5.3+	—						
253	224	271	土師器	鉢B	2006093	F	49	SD138	(24.6)	5.2+	—						
254	224	271	土師器	高坏Da	2006093	F	49	SD138	(24.8)	7.0+	—						
255	224	271	土師器	高坏脚部	2006093	F	49	SD138	—	3.4+	12.5						
256	224	271	土師器	高坏脚部	2006093	F	49	SD138	—	2.8+	13.4						
257	224	262	土師器	高坏脚部	2006093	F	49	SD138	—	8.2+	14.8						
258	224	262	土師器	高坏脚部	2006093	F	49	SD138	—	6.1+	10.2						
259	224	263	土師器	壺蓋	2006093	F	49	SD138	—	6.3+	—						
260	225	271	土師器	器台B	2006093	F	49	SD138	—	7.8+	—						
261	225	263	土師器	器台A	2006093	F	49	SD138	21.8	19.6	15.1						胎土No. 4
262	225	263	土師器	器台A	2006093	F	49	SD138	23.5	9.8+	—						
263	225	263	土師器	器台A	2006093	F	49	SD138	23.3	14.0+	—						
264	225	271	土師器	器台脚部	2006093	F	49	SD138	—	7.4+	—						
265	225	263	土師器	小型器台B	2006093	F	49	SD138	—	7.5+	—						
266	225	264	土師器	小型器台B	2006093	F	51	SD146	—	6.4+	—						
267	225	264	土師器	壺	2006093	F	53	SD157	—	4.0+	—						
268	225	264	土師器	広口壺A	2006093	F	55	SD172	(15.4)	26.7	5.0						
269	225	264	土師器	壺	2006093	F	55	SD172	—	18.9+	4.4						
270	225	264	土師器	壺底部	2006093	F	55	SD172	—	3.9+	4.6						
271	225	264	土師器	甕Eb	2006093	F	55	SD172	12.6	15.0	3.1						
272	225	264	土師器	鉢	2006093	F	55	SD172	—	7.4+	4.3						
273	226	272	土師器	広口壺A	2006093	F	56	SD186	13.3	5.3+	—						
274	226	265	土師器	広口壺A	2006093	F	56	SD186	12.0	13.2+	—						
275	226	272	土師器	広口壺	2006093	F	56	SD186	12.0	4.4+	—						
276	226	267	土師器	壺口縁部	2006093	F	56	SD186	—	1.6+	(16.4)						
277	226	265	土師器	二重口縁壺	2006093	F	56	SD186	—	13.5+	—						
278	226	267	土師器	直口壺	2006093	F	56	SD186	16.8	5.8+	—						
279	226	272	土師器	短頸壺	2006093	F	56	SD186	13.2	11.6	3.2						
280	226	266	土師器	壺底部	2006093	F	56	SD186	—	4.9+	5.7						
281	226	267	土師器	鉢	2006093	F	56	SD186	—	4.3+	4.8						
282	226	273	土師器	甕Aa	2006093	F	56	SD186	16.7	14.7+	21.2						
283	226	272	土師器	甕Ab	2006093	F	56	SD186	14.4	15.2	3.5						
284	226	272	土師器	甕Ab	2006093	F	56	SD186	(13.0)	17.0	—						
285	226	273	土師器	甕B	2006093	F	56	SD186	14.4	12.3+	—						胎土No. 8
286	226	266	土師器	甕B	2006093	F	56	SD186	14.5	3.7+	—						
287	226	266	土師器	甕C	2006093	F	56	SD186	(13.2)	12.6+	—						
288	226	273	土師器	甕C	2006093	F	56	SD186	15.2	8.2+	—						
289	226	266	土師器	甕Ea	2006093	F	56	SD186	13.1	7.4+	—						
290	226	273	土師器	甕Lb	2006093	F	56	SD186	13.7	20.6	(5.6)						
291	226	266	土師器	甕Lb	2006093	F	56	SD186	(17.2)	2.0+	—						
292	226	267	土師器	甕Lb	2006093	F	56	SD186	16.7	13.2+	—						
293	226	267	土師器	甕Lb	2006093	F	56	SD186	14.7	16.4	2.8						
294	226	267	土師器	甕Lb	2006093	F	56	SD186	13.7	8.2+	—						
295	226	266	土師器	甕Lb	2006093	F	56	SD186	—	5.7+	2.7						
296	226	273	土師器	甕La	2006093	F	56	SD186	—	21.7+	3.0						胎土No. 9
297	227	273	土師器	鉢Ab	2006093	F	56	SD186	(28.7)	17.5	2.7						
298	227	266	土師器	鉢Aa	2006093	F	56	SD186	12.1	6.1+	—						
299	227	266	土師器	鉢Da	2006093	F	56	SD186	13.7	5.0+	—						
300	227	274	土師器	鉢Db	2006093	F	56	SD186	18.7	7.0+	—						

別表1 土器一覽(6)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
301	227	267	土師器	鉢Db	2006093	F	56	SD186	(20.1)	5.5+	—						
302	227	266	土師器	鉢Ca	2006093	F	56	SD186	16.2	11.7+	—						
303	227	274	土師器	鉢E	2006093	F	56	SD186	14.2	13.7	2.9						
304	227	267	土師器	鉢	2006093	F	56	SD186	—	6.3+	—						
305	227	266	土師器	鉢Ga	2006093	F	56	SD186	16.7	12.6	—						
306	227	274	土師器	鉢Ga	2006093	F	56	SD186	13.5	11.8+	—						
307	227	274	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SD186	10.0	6.8	4.6						
308	227	274	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SD186	—	6.2+	8.7						
309	227	274	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SD186	—	6.0+	8.95						
310	227	266	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SD186	—	4.4+	5.1						
311	227	275	土師器	有孔鉢B	2006093	F	56	SD186	12.5	13.9	(1.8)						
312	227	275	土師器	有孔鉢B	2006093	F	56	SD186	13.0	13.5	—						
313	227	266	土師器	有孔鉢B	2006093	F	56	SD186	—	8.7+	1.2						
314	227	266	土師器	有孔鉢A	2006093	F	56	SD186	—	4.0+	4.4						
315	227	275	土師器	高坏Ab	2006093	F	56	SD186	20.5	16.6	14.8						
316	227	275	土師器	高坏Aa	2006093	F	56	SD186	21.9	15.7	16.0						
317	227	266	土師器	高坏Da	2006093	F	56	SD186	17.0	2.7+	—						
318	227	267	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD186	—	9.4+	—						
319	227	267	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD186	—	8.6+	—						
320	227	274	土師器	壺蓋	2006093	F	56	SD186	11.2	5.5	3.8						
321	227	274	土師器	壺蓋	2006093	F	56	SD186	10.0	4.6	2.9						
322	228	278	土師器	二重口縁壺	2006093	F	56	SD180	17.6	5.2+	—						
323	228	278	土師器	二重口縁壺	2006093	F	56	SD180	(16.0)	2.5+	—						
324	228	278	土師器	壺底部	2006093	F	56	SD180	—	6.0+	7.6						
325	228	278	土師器	壺底部	2006093	F	56	SD180	—	4.7+	6.3						
326	228	277	土師器	壺蓋	2006093	F	56	SD180	6.0	3.0	—						
327	228	276	土師器	甕Aa	2006093	F	56	SD180	14.8	7.9	—						
328	228	276	土師器	甕Aa	2006093	F	56	SD180	13.4	7.3+	—						
329	228	276	土師器	甕Aa	2006093	F	56	SD180	12.4	5.1+	—						
330	228	276	土師器	甕	2006093	F	56	SD180	14.2	10.1+	—						
331	228	276	土師器	甕	2006093	F	56	SD180	19.1	9.0+	—						
332	228	276	土師器	甕Ca	2006093	F	56	SD180	(15.7)	9.8+	—						
333	228	276	土師器	甕Ea	2006093	F	56	SD180	14.2	9.6+	—						
334	228	281	土師器	甕Ca	2006093	F	56	SD180	(13.9)	4.8+	—						
335	228	281	土師器	甕	2006093	F	56	SD180	—	2.6+	—						
336	228	281	土師器	甕Ja	2006093	F	56	SD180	(16.8)	3.5+	—						
337	228	281	土師器	甕Jb	2006093	F	56	SD180	15.5	6.5+	—						
338	228	276	土師器	甕I	2006093	F	56	SD180	15.6	4.7+	—						
339	228	276	土師器	甕I	2006093	F	56	SD180	(16.8)	4.7+	—						
340	228	276	土師器	甕I	2006093	F	56	SD180	(15.8)	3.8+	—						
341	228	276	土師器	甕I	2006093	F	56	SD180	14.4	(23.2)	(8.0)						
342	228	276	土師器	甕J	2006093	F	56	SD180	—	5.6+	4.7						
343	228	278	土師器	鉢底部	2006093	F	56	SD180	—	2.6+	4.4						
344	228	281	土師器	鉢底部	2006093	F	56	SD180	—	2.8+	3.4						
345	228	277	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SD180	11.2	6.3	5.0						
346	228	281	土師器	製塩土器	2006093	F	56	SD180	—	4.4+	4.1						
347	228	277	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SD180	—	7.3+	8.2						
348	228	281	土師器	製塩土器	2006093	F	56	SD180	—	2.1+	4.3						
349	228	281	土師器	手焙	2006093	F	56	SD180	—	4.4+	—						
350	228	278	土師器	高坏Ab	2006093	F	56	SD180	17.3	3.3+	—						
351	228	278	土師器	高坏B	2006093	F	56	SD180	(16.6)	4.7+	—						
352	228	278	土師器	高坏Cb	2006093	F	56	SD180	(19.3)	4.8+	—						
353	228	278	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD180	—	5.7+	—						
354	228	277	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD180	—	11.4+	13.7						
355	228	278	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD180	—	6.0+	(13.7)						
356	228	278	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD180	—	4.8+	—						
357	228	278	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SD180	—	2.9+	—						
358	229	278	土師器	小型器台A	2006093	F	56	SD180	—	4.6+	—						
359	229	278	土師器	小型器台A	2006093	F	56	SD180	—	6.1+	—						
360	229	277	土師器	小型丸底壺	2006093	F	56	SD180	9.0	5.9	—						

別表1 土器一覽(7)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
361	229	281	土師器	小型丸底壺	2006093	F	56	SD180	—	5.3+	—						
362	229	281	土師器	小型丸底壺	2006093	F	56	SD180	—	5.9+	—						
363	229	277	土師器	鉢手捏	2006093	F	56	SD180	6.7	5.3	3.0						
364	229	281	土師器	鉢底部	2006093	F	56	SD180	—	2.6+	1.8						
365	229	281	土師器	鉢F	2006093	F	56	SD180	9.1	2.8	—						
366	229	281	土師質	粘土塊	2006093	F	56	SD180				3.5	3.4	1.2			
367	229		土師器	甕Aa	2006093	F	56	SK057	14.8	7.6+	—						
368	229		土師器	甕J	2006093	F	56	SK057	—	4.9+	4.9						
369	229		土師器	甕	2006093	F	56	SD176	13.1	3.7+	—						
370	229		土師器	甕	2006093	F	56	SD176	—	3.5+	2.3						
371	229		土師器	壺	2006093	F	56	SD176	—	10.0+	5.0						
372	229	279	土師器	二重口縁壺	2006093	F	56	SK055	(12.2)	2.5+	—						
373	229	280	土師器	直口壺	2006093	F	56	SK055	14.6	26.5	4.0						
374	229	279	土師器	壺底部	2006093	F	56	SK055	—	5.4+	4.4						
375	229	279	土師器	甕B	2006093	F	56	SK055	16.3	4.8	—						
376	229	280	土師器	甕	2006093	F	56	SK055	13.6	5.3+	—						
377	229	279	土師器	甕	2006093	F	56	SK055	(11.2)	5.3+	—						
378	229	279	土師器	甕Ca	2006093	F	56	SK055	(17.9)	11.4+	—						
379	229	279	土師器	鉢	2006093	F	56	SK055	—	4.3+	6.2						
380	229	279	土師器	高坏	2006093	F	56	SK055	—	9.5+	—						
381	229	283	土師器	甕Aa	2006093	F	56	P5606	17.8	16.7+	—						
382	229	283	土師器	甕	2006093	F	56	P5610	—	3.5+	—						
383	229	283	土師器	甕	2006093	F	56	P5609	(15.8)	6.3+	—						
384	229	283	土師器	甕Lb	2006093	F	56	P5605	17.0	2.3+	—						
385	229	283	土師器	甕Lb	2006093	F	56	P5612	15.6	2.6+	—						
386	229	283	土師器	甕I	2006093	F	56	P5602	(13.4)	6.7+	—						
387	229	280	土師器	鉢	2006093	F	56	P5611	9.4	6.2	3.7						
388	229	283	土師器	甕底部	2006093	F	56	P5605	—	2.6+	3.1						
389	229	283	土師器	甕	2006093	F	56	P5603	—	2.7+	3.2						
390	229	280	土師器	鉢	2006093	F	56	P5607	5.2	4.8	—						
391	230	282	土師器	広口壺	2006093	F	56	SX002	16.3	28.4+	—						
392	230	282	土師器	広口壺	2006093	F	56	SX002	13.6	11.1+	—						
393	230	282	土師器	壺	2006093	F	56	SX002	(19.1)	(27.0)	—						
394	230	279	土師器	二重口縁壺	2006093	F	56	SX002	26.3	9.5+	—						
395	230	279	土師器	直口壺	2006093	F	56	SX002	(11.7)	(10.6)	—						
396	230	278	土師器	直口壺	2006093	F	56	SX002	—	4.6+	—						
397	230	279	土師器	甕	2006093	F	56	SX002	—	14.7+	1.6						
398	230	282	土師器	甕	2006093	F	56	SX002	14.6	18.6+	—						
399	230	282	土師器	甕	2006093	F	56	SX002	15.4	19.8+	—						
400	230	281	土師器	甕B	2006093	F	56	SX002	(13.8)	9.3+	—						
401	230	282	土師器	甕B	2006093	F	56	SX002	15.0	8.1+	—						
402	230	279	土師器	甕B	2006093	F	56	SX002	14.3	8.2+	—						
403	230	281	土師器	甕	2006093	F	56	SX002	(14.5)	3.1+	—						
404	230	281	土師器	甕Ja	2006093	F	56	SX002	(12.8)	3.6+	—						胎土No.25
405	230	281	土師器	甕K	2006093	F	56	SX002	(17.7)	5.2+	—						
406	230	279	土師器	鉢Ca	2006093	F	56	SX002	(12.1)	6.8	3.2						
407	230	284	土師器	鉢Ca	2006093	F	56	SX002	—	4.7+	4.3						
408	230	284	土師器	鉢B	2006093	F	56	SX002	18.0	6.9	—						
409	230	279	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SX002	—	3.3+	6.6						
410	230	281	土師器	製塩土器	2006093	F	56	SX002	—	1.7+	5.6						
411	230	284	土師器	高坏A	2006093	F	56	SX002	21.4	5.9+	—						
412	230	284	土師器	高坏F	2006093	F	56	SX002	—	4.9+	—						
413	230	279	土師器	高坏Db	2006093	F	56	SX002	(17.4)	4.0+	—						
414	231	284	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SX002	—	11.3+	13.7						
415	231	278	土師器	高坏脚部	2006093	F	56	SX002	—	7.2+	—						
416	231	281	土師器	小型丸底壺	2006093	F	56	SX002	(8.9)	4.3+	—						
417	231	278	土師器	壺口縁部	2006093	F	56	SX002	16.8	1.7+	—						
418	231	279	土師器	鉢B	2006093	F	56	SX002	11.2	3.4+	—						
419	231	278	土師器	小型器台	2006093	F	56	SX002	(10.2)	2.1+	—						
420	231	284	土師器	小型器台A	2006093	F	56	SX002	8.9	7.1+	—						

別表1 土器一覽(8)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
421	231	284	土師器	小型器台A	2006093	F	56	SX002	—	8.4+	12.0						
422	231	280	土師器	甕Ab	2006093	F	56	SX002	—	12.3+	—						
423	231	280	土師器	鉢Dc	2006093	F	56	SX002	13.9	8.4	6.8						
424	231	278	土師器	小型器台B	2006093	F	56	SX002	—	5.8+	—						
425	231	278	土師器	小型器台B	2006093	F	56	SX002	—	5.8+	—						
426	231	278	土師器	口縁部	2006093	F	56	SX002	—	2.6+	—						
427	231	283	土師器	壺	2006093	F	56	包含層	—	4.8+	—						
428	231	281	土師器	直口壺	2006093	F	56	包含層	9.7	4.1+	—						
429	231	280	土師器	壺	2006093	F	56	包含層	3.8	5.9	3.6						
430	231		土師器	甕	2006093	F	56	包含層	(13.6)	2.4+	—						
431	231	283	土師器	甕	2006093	F	56	包含層	—	5.5+	—						
432	231	283	土師器	甕	2006093	F	56	包含層	(15.0)	4.3+	—						
433	231	283	土師器	鉢	2006093	F	56	包含層	—	3.2+	8.2						
434	231	283	土師器	製塩土器	2006093	F	56	包含層	—	2.6+	3.4						
435	231	283	土師器	高坏	2006093	F	56	包含層	(20.6)	5.1+	—						
436	232	286	土師器	広口壺	2007057	G	58	SD201	11.5	6.5+							
437	232	285	土師器	広口壺	2007057	G	58	SD201	(10.7)	18.4	2.5						
438	232	286	土師器	広口壺	2007057	G	58	SD201	(11.6)	5.4+							
439	232	286	土師器	壺底部	2007057	G	58	SD201	—	13.8+	—						
440	232	286	土師器	壺底部	2007057	G	58	SD201	—	19.0+	6.4						
441	232	285	土師器	二重口縁壺	2007057	G	58	SD201	(20.6)	18.5	3.9						胎土No.13
442	232	286	土師器	二重口縁壺	2007057	G	58	SD201	—	5.1+	—						
443	232	287	土師器	二重口縁壺	2007057	G	58	SD201	24.6	13.0+	—						
444	232	287	土師器	二重口縁壺	2007057	G	58	SD201	—	25.7+	—						
445	232	286	土師器	壺口縁部	2007057	G	58	SD201	(15.0)	3.6+	—						
446	232	287	土師器	直口壺	2007057	G	58	SD201	(12.4)	15.6	2.4						胎土No.15
447	232	286	土師器	直口壺	2007057	G	58	SD201	9.6	8.5+	—						
448	232	287	土師器	短頸壺	2007057	G	58	SD201	(8.0)	9.5	—						
449	232	287	土師器	壺底部	2007057	G	58	SD201	—	8.0+	—						
450	232	287	土師器	短頸壺	2007057	G	58	SD201	8.6	9.4	4.0						
451	233	288	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	14.9	25.2	20.3						
452	233	288	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	14.6	21.7	3.8						
453	233	288	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	14.0	19.0	—						
454	233	290	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	14.1	15.4+	—						
455	233	288	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	15.0	20.7+	—						
456	233	286	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	17.0	11.3+	—						
457	233	288	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	14.6	14.3+	—						
458	233	289	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	16.2	13.6+	—						
459	233	289	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	13.9	16.3+	—						
460	233	289	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	15.3	21.4	4.1						
461	233	289	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	16.7	21.8	—						
462	233	289	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	15.2	19.3	4.8						
463	233	289	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	15.9	22.1	3.0						
464	234	286	土師器	甕口縁	2007057	G	58	SD201	15.5	2.8+	—						
465	234	286	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	—	16.5+	—						
466	234	286	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	19.2	18.0+	—						
467	234	286	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	11.4	8.0+	—						
468	234	286	土師器	甕Ab	2007057	G	58	SD201	(14.4)	11.6+	—						
469	234	286	土師器	甕Aa	2007057	G	58	SD201	13.2	9.7+	—						
470	234	292	土師器	甕	2007057	G	58	SD201	14.2	5.3+	—						
471	234	286	土師器	甕底部	2007057	G	58	SD201	—	3.0+	4.3						
472	234	292	土師器	甕J	2007057	G	58	SD201	15.2	6.3+	—						
473	234	292	土師器	甕J	2007057	G	58	SD201	(19.8)	7.6+	—						
474	234	292	土師器	甕Ea	2007057	G	58	SD201	(13.9)	19.2+	—						
475	234	290	土師器	甕Cb	2007057	G	58	SD201	5.8	11.9	2.2						
476	234	292	土師器	甕Ca	2007057	G	58	SD201	12.5	6.3+	—						
477	234	290	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD201	15.4	13.9+	—						
478	234	292	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD201	13.8	17.9	(4.0)						
479	234	290	土師器	甕脚台付	2007057	G	58	SD201	—	(19.5)	8.1						
480	234	292	土師器	甕M	2007057	G	58	SD201	(12.7)	5.2+	—						

別表1 土器一覽(9)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析		
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他	
481	234	290	土師器	甕Ja	2007057	G	58	SD201	11.6	26.4	3.9							胎土No14
482	234	292	土師器	甕I	2007057	G	58	SD201	(15.4)	5.3+	—							
483	234	292	土師器	甕I	2007057	G	58	SD201	(21.5)	13.3	(27.1)							
484	235	292	土師器	鉢Ca	2007057	G	58	SD201	—	4.7+	3.7							
485	235	291	土師器	鉢Ca	2007057	G	58	SD201	—	6.8+	3.6							
486	235	291	土師器	鉢Da	2007057	G	58	SD201	(5.6)	6.6	—							
487	235	291	土師器	鉢Da	2007057	G	58	SD201	12.6	8.2	—							
488	235	292	土師器	鉢Db	2007057	G	58	SD201	13.6	3.8+	—							
489	235	292	土師器	鉢Db	2007057	G	58	SD201	17.6	4.5+	—							
490	235	291	土師器	鉢Db	2007057	G	58	SD201	14.8	6.1	—							
491	235	291	土師器	鉢Ca	2007057	G	58	SD201	(12.9)	6.5	4.2							
492	235	291	土師器	鉢H	2007057	G	58	SD201	11.9	7.7	5.1							胎土No26
493	235	292	土師器	鉢E	2007057	G	58	SD201	—	8.3+	2.3							
494	235	292	土師器	鉢Ga	2007057	G	58	SD201	14.7	6.6+	—							
495	235	292	土師器	鉢Cb	2007057	G	58	SD201	—	3.2+	3.2							
496	235	292	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SD201	—	7.6+	7.3							
497	235	292	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SD201	—	5.6+	6.7							
498	235	292	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SD201	—	5.9+	12.0							
499	235	292	土師器	有孔鉢E	2007057	G	58	SD201	—	4.0+	4.4							
500	235	293	土師器	有孔鉢C	2007057	G	58	SD201	(10.1)	8.4	2.6							
501	235	293	土師器	有孔鉢D	2007057	G	58	SD201	—	14.9+	4.4							
502	235	292	土師器	有孔鉢B	2007057	G	58	SD201	—	9.2+	(1.7)							
503	235	293	土師器	鉢Aa	2007057	G	58	SD201	9.3	8.2	3.4							
504	235	293	土師器	鉢Aa	2007057	G	58	SD201	7.6	7.5	1.8							
505	235	292	土師器	鉢Aa	2007057	G	58	SD201	(8.2)	4.0+	—							
506	235	293	土師器	鉢Aa	2007057	G	58	SD201	14.1	8.8	3.8							
507	235	292	土師器	小型丸底鉢	2007057	G	58	SD201	13.3	4.6+	—							
508	235	292	土師器	製塩土器	2007057	G	58	SD201	—	2.2+	4.8							
509	236	295	土師器	高坏Aa	2007057	G	58	SD201	19.0	4.4+	—							
510	236	294	土師器	高坏Aa	2007057	G	58	SD201	18.3	11.4+	—							
511	236	294	土師器	高坏Aa	2007057	G	58	SD201	19.7	13.4+	—							
512	236	295	土師器	高坏Ab	2007057	G	58	SD201	(20.6)	4.6+	—							
513	236	295	土師器	高坏Ab	2007057	G	58	SD201	—	7.3+	—							
514	236	295	土師器	高坏Ab	2007057	G	58	SD201	(20.6)	5.9+	—							
515	236	295	土師器	高坏Aa	2007057	G	58	SD201	(23.4)	4.1+	—							
516	236	295	土師器	高坏脚部	2007057	G	58	SD201	—	7.6+	—							
517	236	295	土師器	高坏脚部	2007057	G	58	SD201	—	6.7+	—							
518	236	294	土師器	高坏Fb	2007057	G	58	SD201	12.4	6.6+	—							
519	236	295	土師器	高坏Fb	2007057	G	58	SD201	(13.8)	4.9+	—							
520	236	294	土師器	高坏脚部	2007057	G	58	SD201	—	7.0+	13.6							
521	236	295	土師器	高坏Db	2007057	G	58	SD201	—	3.6+	—							
522	236	295	土師器	器台B	2007057	G	58	SD201	(16.1)	2.3+	—							
523	236	295	土師器	器台B	2007057	G	58	SD201	18.7	4.3+	—							
524	236	295	土師器	器台脚部	2007057	G	58	SD201	—	7.4+	—							
525	236	294	土師器	小型器台B	2007057	G	58	SD201	10.8	10.9	12.2							
526	236	295	土師器	壺蓋	2007057	G	58	SD201	14.1	6.9+	4.2							
527	237	296	土師器	二重口縁壺	2007057	G	58	SD199	19.0	23.1	2.8							胎土No19
528	237	296	土師器	短頸壺	2007057	G	58	SD199	14.2	27.3	6.2							
529	237	296	土師器	短頸壺	2007057	G	58	SD199	6.25	8.4	2.9							
530	237	296	土師器	壺底部	2007057	G	58	SD199	2.4	4.8	1.4							
531	237	299	土師器	短頸壺	2007057	G	58	SD199	10.6	7.2+	—							
532	237	299	土師器	甕	2007057	G	58	SD199	15.5	(16.9)	3.5							
533	237	299	土師器	甕	2007057	G	58	SD199	11.7	4.2+	—							
534	237	299	土師器	甕F	2007057	G	58	SD199	16.9	13.4+	—							
535	237	297	土師器	甕M	2007057	G	58	SD199	11.8	12.9	2.3							
536	237	297	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD199	13.5	19.5	2.7							胎土No18
537	237	299	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD199	14.4	(17.4)	3.4							
538	237	299	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD199	13.4	7.5+	—							
539	237	297	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD199	13.0	12.7+	—							
540	237	299	土師器	甕底部	2007057	G	58	SD199	—	8.9+	3.2							

別表1 土器一覽(10)

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	調査番号	調査地区	調査区	遺構	法量(cm)							分析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
541	237	296	土師器	甕底部	2007057	G	58	SD199	—	8.5+	3.6						
542	237		土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD199	19.0	7.5+	—						
543	237	299	土師器	甕Lb	2007057	G	58	SD199	(16.1)	7.4+	—						
544	237	299	土師器	甕I	2007057	G	58	SD199	14.9	18.8+	—						胎土No17
545	238	296	土師器	鉢Aa	2007057	G	58	SD199	—	7.5+	2.7						
546	238	299	土師器	鉢Ga	2007057	G	58	SD199	(15.6)	7.6+	—						
547	238	297	土師器	鉢Gb	2007057	G	58	SD199	25.6	17.6	6.5						
548	238	299	土師器	鉢底部	2007057	G	58	SD199	—	4.3+	5.2						
549	238	299	土師器	鉢底部	2007057	G	58	SD199	—	45.5+	4.3						
550	238	299	土師器	鉢Ga	2007057	G	58	SD199	(18.6)	(14.5+)	—						
551	238	299	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SD199	—	5.3	8.4						
552	238	299	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SD199	—	4.3+	5.2						
553	238	299	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SD199	—	2.7+	5.5						
554	238	299	土師器	鉢Ga	2007057	G	58	SD199	—	3.6+	7.5						
555	238	297	土師器	鉢Ga	2007057	G	58	SD199	—	4.2+	8.5						
556	238	297	土師器	鉢B	2007057	G	58	SD199	6.2	3.8	2.0						
557	238	298	土師器	器台C	2007057	G	58	SD199	22.8	11.0+	—						
558	238	298	土師器	器台C	2007057	G	58	SD199	15.2	12.5	14.3						
559	238	298	土師器	器台B	2007057	G	58	SD199	16.4	15.0	(12.8)						
560	238	299	土師器	器台脚部	2007057	G	58	SD199	—	9.2+	11.5						
561	238	299	土師器	小型器台受部	2007057	G	58	SD199	12.2	2.0+	—						
562	238	299	土師器	小型器台脚部	2007057	G	58	SD199	—	4.2+	6.8						
563	238	298	土師器	壺蓋B	2007057	G	58	SD199	11.6	6.0	5.7						
564	238	298	土師器	壺蓋B	2007057	G	58	SD199	12.4	5.8							つまみ 3.4
565	238	298	土師器	壺蓋B	2007057	G	58	SD199	(11.8)	6.1							つまみ 3.4
566	238	299	土師器	鳥形土製品	2007057	G	58	SD199		(3.9)		(4.0)					
567	238	299	土師器	匙	2007057	G	58	SD199		7.6+		14.1+			1.9		
568	239	301	土師器	鉢	2007057	G	58	SD200	—	6.0+	8.6						
569	239	300	土師器	壺蓋	2007057	G	58	SD200	12.8	7.5							つまみ 4.4~3.8
570	239	301	土師器	甕I	2007057	G	58	SD197	—	1.6+	5.4						
571	239	301	土師器	器台A	2007057	G	58	SD197	17.4	7.6+	—						
572	239	301	土師器	小型丸底壺	2007057	G	58	SD197	(9.5)	3.7	—						
573	239	301	土師器	甕A	2007057	G	58	SH002	14.2	7.0	—						
574	239	301	土師器	高坏脚部	2007057	G	58	SH002	—	4.8+	—						
575	239	301	土師器	鉢A	2007057	G	58	SH002	—	3.2+	—						
576	239	300	土師器	鉢	2007057	G	58	SK059	11.9	10.2	3.6						
577	239	301	土師器	鉢底部	2007057	G	58	SK059	—	3.0+	2.0						
578	239	300	土師器	鉢Ca	2007057	G	58	SK059	(11.4)	5.4	2.6						
579	239	300	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SK059	9.6	8.1	(4.8)						
580	239	300	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SK059	8.1	7.2+	—						
581	239	301	土師器	鉢D	2007057	G	58	SK059	(16.1)	3.3+	—						
582	239	301	土師器	鉢Dc	2007057	G	58	SK059	—	3.9+	—						
583	239	301	土師器	鉢B	2007057	G	58	SK059	7.2	4.4	7.0						
584	239	300	土師器	鉢B	2007057	G	58	SK059	3.9	5.4	1.4						
585	239		土師器	有孔鉢	2007057	G	57	SD190	—	4.6+	1.6						
586	240	301	土師器	広口壺	2007057	H	60	SD186	18.2	4.7+	—						
587	240	301	土師器	直口壺	2007057	H	60	SD186	(11.9)	5.4+	—						
588	240	301	土師器	壺底部	2007057	H	60	SD186	—	20.2+	5.8						
589	240	301	土師器	壺底部	2007057	H	60	SD186	—	11.8+	4.4						
590	240	301	土師器	壺底部	2007057	H	60	SD186	—	2.6+	—						
591	240	302	土師器	甕H	2007057	H	60	SD186	15.0	9.5+	—						
592	240	302	土師器	甕D	2007057	H	60	SD186	14.6	5.5+	—						
593	240	302	土師器	甕Ca	2007057	H	60	SD186	18.4	5.0+	—						
594	240	302	土師器	甕F	2007057	H	60	SD186	(15.0)	17.1	2.4						
595	240	302	土師器	甕底部	2007057	H	60	SD186	—	2.0+	3.6						
596	240	302	土師器	鉢Ab	2007057	H	60	SD186	(31.9)	7.7+	—						
597	240	302	土師器	鉢Da	2007057	H	60	SD186	(10.0)	5.8	2.4						
598	240	302	土師器	鉢	2007057	H	60	SD186	16.1	9.5	(11.9)						
599	240	302	土師器	高坏Ca	2007057	H	60	SD186	16.3	6.0+	—						
600	240	302	土師器	小型器台B	2007057	H	60	SD186	—	8.7+	9.0						

別表1 土器一覽(11)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)								分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)	その他		
601	240	302	土師器	小型丸底鉢	2007057	H	61	包含層	(15.2)	3.7+	—							
602	241	303	土師器	広口壺	2007057	H	62	SD211	24.3	9.4+	—							
603	241	304	土師器	広口壺	2007057	H	62	SD211	18.2	6.1+	—							
604	241	304	土師器	広口壺	2007057	H	62	SD211	(13.5)	6.8+	—							
605	241	304	土師器	広口壺	2007057	H	62	SD211	16.0	6.8+	—							
606	241	304	土師器	広口壺	2007057	H	62	SD211	17.2	6.3+	—							
607	241	304	土師器	直口壺	2007057	H	62	SD211	(15.2)	5.1+	—							
608	241	304	土師器	直口壺	2007057	H	62	SD211	13.6	6.4+	—							
609	241	303	土師器	直口壺	2007057	H	62	SD211	8.7	12.8	—							
610	241	303	土師器	甕Aa	2007057	H	62	SD211	13.4	23.3	—							
611	241	304	土師器	甕頸部	2007057	H	62	SD211	—	3.6+	—							
612	241	304	土師器	甕Jb	2007057	H	62	SD211	(14.3)	4.2+	—							
613	241	304	土師器	甕K	2007057	H	62	SD211	(17.5)	3.0+	—							
614	241	304	土師器	甕底部	2007057	H	62	SD211	—	4.1+	1.1							
615	241	304	土師器	甕底部	2007057	H	62	SD211	—	5.8+	1.8							
616	241	304	土師器	甕底部	2007057	H	62	SD211	—	1.3+	—							
617	241	303	土師器	鉢Da	2007057	H	62	SD211	7.8	3.6+	—							
618	241	305	土師器	鉢Da	2007057	H	62	SD211	(10.6)	5.8	—							
619	241	304	土師器	鉢F	2007057	H	62	SD211	—	6.8+	3.1							
620	241	303	土師器	鉢Da	2007057	H	62	SD211	13.1	6.9	4.2							
621	241	303	土師器	鉢Da	2007057	H	62	SD211	(12.0)	5.7	4.1							
622	241	305	土師器	鉢F	2007057	H	62	SD211	(9.8)	3.2	—							
623	241	304	土師器	鉢F	2007057	H	62	SD211	11.0	3.8	—							
624	241	305	土師器	鉢H	2007057	H	62	SD211	8.4	5.4	—							
625	241	304	土師器	鉢Dc	2007057	H	62	SD211	—	6.4+	7.6							
626	241	305	土師器	有孔鉢D	2007057	H	62	SD211	13.4	15.0	3.1							
627	241	304	土師器	製塩土器	2007057	H	62	SD211	—	2.2+	4.4							
628	241	304	土師器	高坏A	2007057	H	62	SD211	(21.8)	5.5+	—							
629	241	305	土師器	高坏脚部	2007057	H	62	SD211	—	9.2+	14.4							
630	241	304	土師器	高坏脚部	2007057	H	62	SD211	—	6.4+	5.2							
631	241	305	土師器	小型器台A	2007057	H	62	SD211	8.3	7.0	10.5							
632	241	305	土師器	鉢口縁部	2007057	H	62	SD211	—	5.1+	—							
633	241	304	土師器	蓋	2007057	H	62	SD211	(12.4)	3.9+	—							
634	242	306	土師器	甕Aa	2007057	H	62	SD220	12.4	20.4	—							胎土No.12
635	242	306	土師器	甕K	2007057	H	62	SD220	13.8	4.0+	—							
636	242	306	土師器	鉢F	2007057	H	62	SD220	10.2	5.5	—							
637	242	306	土師器	鉢F	2007057	H	62	SD220	12.0	5.3+	—							
638	242	306	土師器	高坏Ab	2007057	H	62	SD220	—	13.2+	12.2							胎土No.11
639	242	306	土師器	鉢底部	2007057	H	62	SD224	—	2.9+	2.6							
640	242	306	土師器	甕Ja	2007057	H	62	SK069	(9.1)	3.3+	—							
641	242	309	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK071	12.4	16.7+	—							
642	242	312	土師器	甕Cb	2007057	H	62	SK071	(17.2)	18.1+	—							
643	242	312	土師器	甕	2007057	H	62	SK071	(13.2)	11.1+	—							
644	242	309	土師器	鉢Ca	2007057	H	62	SK071	14.3	6.7	4.0							
645	242	307	土師器	広口壺B	2007057	H	62	SK074	15.5	28.8	5.0							胎土No.20
646	242	307	土師器	広口壺A	2007057	H	62	SK074	12.9	12.5+	—							
647	242	307	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK074	16.6	14.0+	—							
648	242	306	土師器	甕A	2007057	H	62	SK074	15.8	7.9+	—							
649	242	307	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK074	14.9	18.5	4.8							
650	242	307	土師器	甕Cb	2007057	H	62	SK074	14.4	17.1	2.2							胎土No.21
651	242	306	土師器	甕底部	2007057	H	62	SK074	—	8.4+	3.4							
652	242	306	土師器	鉢底部	2007057	H	62	SK074	—	4.5+	4.8							
653	242	307	土師器	鉢F	2007057	H	62	SK074	8.3	4.1	—							
654	243	312	土師器	二重口縁壺	2007057	H	62	SK086	(27.2)	10.0+	—							
655	243	312	土師器	壺底部	2007057	H	62	SK086	—	6.0+	5.1							
656	243	312	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK086	15.6	14.2+	—							
657	243	308	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK086	(15.5)	10.2+	—							
658	243	308	土師器	甕Aa	2007057	H	62	SK086	(15.2)	14.1+	—							
659	243	308	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK086	15.2	21.5	2.5							
660	243	308	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK086	13.5	(23.2)	3.4							

別表1 土器一覽(12)

報告番号	図版	写真図版	種別	器種	調査番号	調査地区	調査区	遺構	法量(cm)							分析		
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他	
661	243	308	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK086	15.6	21.5+	—							
662	243	308	土師器	甕Ab	2007057	H	62	SK086	14.8	20.0	4.8							胎土No23
663	243	312	土師器	鉢Aa	2007057	H	62	SK086	—	6.9+	4.6							
664	243	308	土師器	鉢Db	2007057	H	62	SK086	14.4	6.9	2.2							
665	243	312	土師器	鉢Da	2007057	H	62	SK086	(20.2)	10.0+	—							
666	243	312	土師器	鉢F	2007057	H	62	SK086	(9.9)	3.6	—							
667	243	312	土師器	製塩土器	2007057	H	62	SK086	—	3.3+	4.5							
668	243	312	土師器	製塩土器	2007057	H	62	SK086	—	2.1+	3.4							
669	243	312	土師器	製塩土器	2007057	H	62	SK086	—	1.1+	3.2							
670	243	309	土師器	器台脚部	2007057	H	62	SK086	—	9.5+	(14.1)							
671	243	312	土師器	高坏Ab	2007057	H	62	SK075	17.6	3.4+	—							
672	243	309	土師器	広口壺A	2007057	H	62	SK076	15.5	8.9+	—							
673	243	312	土師器	無形壺	2007057	H	62	SK076	(12.0)	6.1+	—							
674	244	310	土師器	甕口縁部	2007057	H	62	SK085	16.1	7.2+	—							
675	244	310	土師器	甕B	2007057	H	62	SK085	(15.4)	19.1+	—							
676	244		土師器	甕B	2007057	H	62	SK085	17.4	23.4	—							
677	244	309	土師器	甕D	2007057	H	62	SK085	16.0	13.3+	—							
678	244	310	土師器	甕D	2007057	H	62	SK085	18.6	13.0+	—							
679	244	309	土師器	甕B	2007057	H	62	SK085	—	15.5+	—							
680	244	310	土師器	鉢Ca	2007057	H	62	SK083	—	2.7+	3.0							
681	244		土師器	鉢Cb	2007057	H	62	SK083	—	3.7+	3.2							
682	244	310	土師器	鉢Cb	2007057	H	62	SK083	13.2	7.2	4.3							
683	244	306	土師器	小型丸底鉢	2007057	H	62	SK083	11.5	6.0	12.0							
684	244	310	土師器	直口壺	2007057	H	62	SK084	14.8	5.1+	—							
685	244		土師器	甕	2007057	H	62	SK084	11.9	16.0+	—							
686	245	311	土師器	直口壺	2007057	H	62	SK087	13.8	12.4+	—							
687	245	311	土師器	直口壺	2007057	H	62	SK087	8.8	10.8	—							
688	245	310	土師器	甕Cb	2007057	H	62	SK087	14.2	8.5+	—							
689	245	311	土師器	甕B	2007057	H	62	SK087	16.7	17.6+	—							胎土No22
690	245	311	土師器	鉢F	2007057	H	62	SK087	12.3	5.7	3.6							
691	245	310	土師器	鉢F	2007057	H	62	SK087	(11.4)	4.7	2.0							
692	245	311	土師器	鉢Ca	2007057	H	62	SK087	—	5.5+	3.8							
693	245	310	土師器	高坏Ab	2007057	H	62	SK087	17.6	6.4+	—							
694	245	310	土師器	二重口縁壺	2007057	H	62	SK088	23.6	4.1+	—							
695	245	310	土師器	高坏Cb	2007057	H	62	SK089	—	6.7+	—							
696	245	310	土師器	壺口縁部	2007057	H	62	SB082P04	20.8	4.7+	—							
697	245	310	土師器	甕	2007057	H	62	P6206	(16.0)	2.6+	—							
698	245	310	土師器	壺	2007057	H	62	P6205	16.6	3.7+	—							
699	245	310	土師器	壺	2007057	H	62	P6205	—	10.9+	3.0							
700	245	310	土師器	高坏Fb	2007057	H	62	P6204	(12.8)	3.2+	—							
701	245	311	土師器	鉢F	2007057	H	62	P6203	8.4	4.8	3.2							
702	246	308	土師器	広口壺A	2007057	H	62	包含層	(17.0)	14.0+	—							
703	246	312	土師器	広口壺A	2007057	H	62	包含層	—	9.9+	—							
704	246	312	土師器	二重口縁壺	2007057	H	62	包含層	—	5.8+	—							
705	246	312	土師器	壺体部	2007057	H	62	包含層	—	7.4+	—							
706	246	312	土師器	甕口縁部	2007057	H	62	包含層	(17.5)	2.7+	—							
707	246	312	土師器	鉢台部	2007057	H	62	包含層	6.9	2.5+	—							
708	246	312	土師器	製塩土器	2007057	H	62	包含層	—	1.9+	3.3							
709	246	317	土師器	二重口縁壺	2007057	H	62	包含層	20.0	6.8+	—							
710	246	313	土師器	二重口縁壺	2007057	H	62	包含層	20.8	4.7+	—							
711	246	317	土師器	二重口縁壺	2007057	H	62	包含層	23.6	5.8+	—							
712	246	317	土師器	甕Ab	2007057	H	62	包含層	—	16.0+	—							
713	246	317	土師器	甕	2007057	H	62	包含層	(14.7)	8.2+	—							
714	246	313	土師器	鉢Ca	2007057	H	62	包含層	(10.1)	6.2	3.3							
715	246	313	土師器	鉢Db	2007057	H	62	包含層	13.1	5.0	3.0							
716	246	313	土師器	鉢F	2007057	H	62	包含層	7.2	3.6	2.8							
717	246	317	土師器	鉢Dc	2007057	H	62	包含層	—	5.1+	5.7							
718	246	313	土師器	鉢	2007057	H	62	包含層	3.5	4.0	3.2							
719	246	317	土師器	製塩土器口縁部	2007057	H	62	包含層	8.0	2.4+	—							
720	246	317	土師器	製塩土器	2007057	H	62	包含層	—	2.7+	4.2							

別表1 土器一覽(13)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
721	246	317	土師器	製塩土器	2007057	H	62	包含層	—	2.9+	3.9						
722	246	317	土師器	製塩土器	2007057	H	62	包含層	—	1.4+	4.0						
723	246	317	土師器	製塩土器	2007057	H	62	包含層	—	1.8+	3.8						
724	246	313	土師器	高坏Ab	2007057	H	62	包含層	(22.8)	5.4+	—						
725	246	313	土師器	高坏F	2007057	H	62	包含層	11.0	9.5+	—						
726	246	313	土師器	高坏脚部	2007057	H	62	包含層	—	7.2+	16.0						
727	246	313	土師器	小型器台	2007057	H	62	包含層	10.1	2.5+	—						
728	246	313	土師器	小型器台	2007057	H	62	包含層	9.5	2.7+	—						
729	247	314	土師器	二重口縁壺	2007057	H	64	SD227	19.0	6.8+	—						
730	247	314	土師器	壺口縁部	2007057	H	64	SD227	(23.0)	3.9+	—						
731	247	314	土師器	壺口縁部	2007057	H	64	SD227	(17.8)	2.5+	—						
732	247	314	土師器	壺底部	2007057	H	64	SD227	—	5.0+	5.6						
733	247	314	土師器	甕	2007057	H	64	SD227	15.7	5.9+	—						
734	247	314	土師器	鉢底部	2007057	H	64	SD227	—	3.0+	3.1						
735	247	314	土師器	甕底部	2007057	H	64	SD227	—	2.4+	2.9						
736	247	314	土師器	小型丸底壺	2007057	H	64	SD227	8.0	3.5+	—						
737	247	316	土師器	小型丸底壺	2007057	H	64	SD227	—	6.0+	—						
738	247	314	土師器	高坏Ab	2007057	H	64	SD227	(14.4)	3.4+	—						
739	247	316	土師器	高坏B	2007057	H	64	SD227	17.0	13.3+	—						
740	247	316	土師器	高坏脚部	2007057	H	64	SD227	—	9.5+	11.2						
741	247	314	土師器	小型器台受部	2007057	H	64	SD227	—	2.3+	9.3						
742	247	314	土師器	小型器台A	2007057	H	64	SD227	—	7.9+	—						
743	247	314	土師器	高坏Db	2007057	H	64	SD229	—	2.9+	—						
744	247	314	土師器	高坏脚部	2007057	H	64	SD232	—	7.4+	—						
745	247	314	土師器	甕Lb	2007057	H	64	SD235	(13.0)	3.3+	—						
746	247	314	土師器	鉢F	2007057	H	64	SD235	—	3.0+	2.9						
747	247	315	土師器	鉢	2007057	H	64	SD235	3.9	3.3+	1.7						
748	247	314	土師器	甕底部	2007057	H	64	SD233	—	3.8+	3.2						
749	247	314	土師器	鉢Db	2007057	H	64	SD233	15.4	3.9+	—						
750	247	314	土師器	鉢底部	2007057	H	64	SD239	—	2.6+	2.8						
751	247	314	土師器	鉢	2007057	H	64	SK096	6.2	5.0	2.6						
752	247	314	土師器	製塩土器	2007057	H	64	SK096	—	2.1+	(4.1)						
753	247	314	土師器	甕底部	2007057	H	64	SK095	—	6.9+	—						
754	247	314	土師器	鉢Ca	2007057	H	64	SK095	—	4.8+	3.0						
755	247	315	土師器	鉢Ca	2007057	H	64	SK095	(9.9)	8.2	3.6						
756	247	314	土師器	甕	2007057	H	64	SK097	—	12.2+	—						
757	247	314	土師器	壺蓋つまみ部	2007057	H	64	SK102	—	2.5+	—					つまみ 2.2	
758	247	314	土師器	製塩土器	2007057	H	64	SK104	—	4.7+	4.3						
759	248	314	土師器	高坏Aa	2007057	H	64	SK094	(22.3)	3.2+	—						
760	248	314	土師器	甕Ab	2007057	H	64	SK094	14.9	16.5+	—						
761	248	314	土師器	甕Ab	2007057	H	64	SK094	—	8.5+	—						
762	248	314	土師器	甕Lb	2007057	H	64	SK094	13.1	4.7+	—						
763	248	314	土師器	甕底部	2007057	H	64	SK094	—	1.6+	2.9						
764	248	314	土師器	甕底部	2007057	H	64	SK094	—	2.0+	2.2						
765	248	315	土師器	鉢Da	2007057	H	64	SK094	(10.5)	8.0	—						
766	248	314	土師器	鉢Da	2007057	H	64	SK094	—	5.7+	—						
767	248	317	土師器	鉢Cb	2007057	H	64	SK094	—	4.6+	4.6						
768	248	317	土師器	鉢Dc	2007057	H	64	SK094	—	3.8+	7.4						
769	248	317	土師器	鉢Dc	2007057	H	64	SK094	—	3.9+	8.8						
770	248	315	土師器	鉢Dc	2007057	H	64	SK094	—	5.4+	9.7						
771	248	315	土師器	壺蓋	2007057	H	64	SK094	(14.9)	6.1	—					つまみ 3.3	
772	248	317	土師器	鉢Ga	2007057	H	64	SD234	—	6.3+	—						
773	248	317	土師器	甕Lb	2007057	H	64	SD234	11.0	10.8+	—						
774	248	317	土師器	鉢Dc	2007057	H	64	SD234	—	3.1+	4.7						
775	248	317	土師器	高坏坏部	2007057	H	64	SD234	—	2.5+	—						
776	248	317	土師器	高坏脚部	2007057	H	64	SD234	—	3.7+	14.4						
777	248	316	土師器	甕Ab	2007057	H	64	SK091	—	14.1+	2.8						
778	248	317	土師器	鉢Da	2007057	H	64	SK091	—	10.5+	—						
779	248	316	土師器	鉢Db	2007057	H	64	SK091	18.3	7.6	—						
780	248	316	土師器	小型器台B	2007057	H	64	SK091	—	7.4+	11.1						

別表1 土器一覽(14)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量 (cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
781	248	317	土師器	短頸壺	2007057	H	64	SH003	(10.2)	3.6+	—						
782	248	317	土師器	鉢Da	2007057	H	64	SH003	—	2.3+	—						
783	248	317	土師器	鉢口縁部	2007057	H	64	P6401		2.2+	—						
784	248	317	土師器	鉢Da	2007057	H	64	SB085P01	—	3.2+	2.5						
785	248	317	土師器	二重口縁壺	2007057	H	64	包含層	(26.0)	6.3+	—						
786	248	317	土師器	大形壺	2007057	H	64	包含層	—	5.1+	—						
787	248	315	土師器	鉢Ca	2007057	H	64	包含層	10.8	4.8	3.2						
788	248	317	土師器	鉢Ca	2007057	H	64	包含層	—	2.7+	4.4						
789	248	315	土師器	高坏Ca	2007057	H	64	包含層	(21.8)	16.0+	—						
790	248		土師器	高坏脚部	2007057	H	64	包含層	—	10.3+	—						
791	249	318	土師器	大形壺	2007057	H	65	SD244	(24.3)	6.0+	—						
792	249	318	土師器	甕	2007057	H	65	SD243	(20.4)	6.4+	—						
793	249	318	土師器	甕Jb	2007057	H	65	SD243	(16.0)	3.0+	—						
794	249	318	土師器	甕Ja	2007057	H	65	SD243	(14.7)	1.7+	—						
795	249	318	土師器	高坏	2007057	H	65	SD248	(20.7)	2.2+	—						
796	249	318	土師器	粘土塊	2007057	H	65	SK108				5.3	5.6	3.4			
797	249	318	土師器	手焙	2007057	H	65	SK111	—	5.2+	—						
798	249	318	土師器	壺底部	2007057	H	65	SK106	—	4.2+	3.9						
799	249	318	土師器	小型器台	2007057	H	65	SK106	7.8	2.1+	—						
800	249	318	土師器	甕I底部	2007057	H	65	SB087P01	—	2.0+	6.0						
801	249	318	土師器	イイダコ壺	2007057	H	65	水田	—	7.2+	—						
802	249	318	土師器	甕Ab	2007057	H	65	水田	13.6	10.8+							
803	249	318	土師器	脚台	2007057	H	65	水田	—	4.5+	7.5						
804	249	318	土師器	二重口縁壺	2007057	H	65	包含層	(23.6)	4.4+	—						
805	249	318	土師器	高坏A	2007057	H	65	包含層	(19.6)	4.4+	—						
806	249	318	土師器	小形甕	2007057	H	65	包含層	(9.2)	1.5	—						
807	249	318	土師器	鉢Dc	2007057	H	65	包含層	—	4.7+	10.3						
808	249	318	土師器	製塩土器	2007057	H	65	包含層	—	2.2+	4.7						
809	249	319	土師器	無頸壺	2007057	H	66	SK117	(12.6)	6.3+	—						
810	249	319	土師器	脚付土器	2007057	H	66	SK117	—	7.6+							
811	249	319	土師器	甕Ab	2007057	H	66	SK117	(16.1)	6.9+							
812	249	319	土師器	甕	2007057	H	66	SK117	(16.0)	3.7+	—						
813	249	319	土師器	鉢底部	2007057	H	66	SK117	—	6.2+	2.6						
814	249	319	土師器	甕Ab	2007057	H	66	SK117	12.1	18.2+	—						
815	249	319	土師器	甕Ab	2007057	H	66	SK117	15.8	15.6+	—						
816	249	319	土師器	甕Eb	2007057	H	66	SK117	(14.0)	8.2+	—						
817	249	319	土師器	高坏Cb	2007057	H	66	SK117	(20.3)	4.9+							
818	249	319	土師器	甕Ab	2007057	H	66	SK119	14.7	7.2+	—						
819	249	319	土師器	鉢Ca	2007057	H	66	SK116	—	4.2+	4.3						
820	249	319	土師器	壺蓋	2007057	H	66	包含層	8.1	4.4+	—						
821	250	322	土師器	広口壺A	2007057	H	67	SD256	18.4	22.1+	—						
822	250	322	土師器	広口壺B	2007057	H	67	SD256	17.2	14.9+	—						
823	250	320	土師器	壺底部	2007057	H	67	SD256	—	17.2+	7.9						
824	250	320	土師器	甕Aa	2007057	H	67	SD256	16.4	9.8+	—						
825	250	320	土師器	甕Ab	2007057	H	67	SD256	15.0	10.1+	—						
826	250	320	土師器	甕Ab	2007057	H	67	SD256	(17.2)	16.7+	—						
827	250	320	土師器	広口長頸壺	2007057	H	67	SD256	17.6	7.5+	—						
828	250	322	土師器	広口壺B	2007057	H	67	SD256	18.0	7.1+	—						
829	250	321	土師器	広口壺	2007057	H	67	SD256	(12.0)	2.9+	—						
830	250	321	土師器	壺底部	2007057	H	67	SD256	—	6.9+	4.5						
831	250	321	土師器	壺底部	2007057	H	67	SD256	—	6.5+	5.2						
832	250	320	土師器	壺底部	2007057	H	67	SD256	—	6.6+	3.4						
833	250	320	土師器	壺底部	2007057	H	67	SD256	—	8.7+	4.4						
834	250	320	土師器	甕Ab	2007057	H	67	SD256	16.7	8.0+	—						
835	250	320	土師器	甕Ab	2007057	H	67	SD256	(19.7)	11.8+	—						
836	250	322	土師器	大形甕	2007057	H	67	SD256	25.4	12.8+	—						胎土No24
837	251	322	土師器	甕Ab	2007057	H	67	SD256	16.7	17.5	1.8						
838	251	322	土師器	甕Cb	2007057	H	67	SD256	(16.6)	15.3+	—						
839	251	321	土師器	甕	2007057	H	67	SD256	15.4	10.7+	—						
840	251	321	土師器	甕	2007057	H	67	SD256	(16.4)	3.4+	—						

別表1 土器一覽(15)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
841	251	321	土師器	甕La	2007057	H	67	SD256	(15.2)	5.1+	—						
842	251	321	土師器	甕Lb	2007057	H	67	SD256	(15.6)	10.6+	—						
843	251	321	土師器	甕La	2007057	H	67	SD256	(24.2)	4.6+	—						
844	251	321	土師器	甕底部	2007057	H	67	SD256	—	5.6+	6.2						
845	251	321	土師器	甕底部	2007057	H	67	SD256	—	4.4+	4.6						
846	251	321	土師器	鉢Ab	2007057	H	67	SD256	37.2	19.5+	—						
847	251	323	土師器	鉢Ca	2007057	H	67	SD256	—	7.6+	3.4						
848	251	323	土師器	鉢Da	2007057	H	67	SD256	(11.1)	7.2	—						
849	251	323	土師器	鉢Da	2007057	H	67	SD256	(11.5)	6.3	—						
850	251	323	土師器	鉢Da	2007057	H	67	SD256	(11.6)	5.5+	—						
851	251	323	土師器	鉢F	2007057	H	67	SD256	(10.6)	5.5	5.0						
852	251	324	土師器	高坏	2007057	H	67	SD256	—	11.3+	14.1						
853	251	321	土師器	高坏脚部	2007057	H	67	SD256	—	6.4+	—						
854	251	323	土師器	鉢Db	2007057	H	67	SD256	18.2	6.9	—						
855	251	321	土師器	鉢Db	2007057	H	67	SD256	16.8	6.0+	—						
856	251	323	土師器	鉢Db	2007057	H	67	SD256	19.2	6.8	—						
857	251	323	土師器	鉢Db	2007057	H	67	SD256	(16.8)	6.5	4.1						
858	251	324	土師器	有孔鉢B	2007057	H	67	SD256	12.95	11.4	—						
859	251	321	土師器	器台B	2007057	H	67	SD256	(14.7)	3.4+	—						
860	第3図	324	土師器	甕Aa	2007057	H	67	SK122	13.4	19.2	2.8						
861	第3図		土師器	鉢Db	2007057	H	67	SK121	19.8	7.8+	—						
862	第3図		土師器	鉢Db	2007057	H	67	SK121	16.6	7.9	—						
863	第3図		土師器	甕	2007057	H	69	SD259	16.5	3.7+	—						
864	第3図		土師器	高坏坏部	2007057	H	69	P6901	(18.2)	3.5+	—						
865	第3図	324	土師器	小型丸底壺	2007057	H	69	P6901	9.0	6.7	3.2						
866	252	325	須恵器	坏身	2007057	A	3	包含層	(14.3)	2.7+	—						
867	252		須恵器	坏蓋	2005157	D	37	SD108	13.3	4.4+	—						
868	252	325	土師器	壺	2005157	D	37	SD108	8.9	7.7	—						
869	252	325	須恵器	蓋	2005157	D	35	SD077上層	13.3	4.5+	—						
870	252	325	須恵器	坏身	2005157	D	35	SD077上層	(11.2)	4.0+	—						
871	252	325	須恵器	短頸壺	2005157	D	35	SD077上層	(11.8)	4.8+	—						
872	252	325	土師器	有稜高坏	2005157	D	35	SD077上層	(21.6)	6.8+	—						
873	252	325	土師器	高坏	2005157	D	35	SD077上層	(19.6)	5.0+	—						
874	252	325	土師器	高坏	2005157	D	35	SD077上層	—	7.9+	9.3						
875	252	325	土師器	高坏	2005157	D	35	SD077上層	—	5.8+	—						
876	252	325	須恵器	蓋	2005157	D	37	SD103	6.1	4.2	8.7						
877	252	325	須恵器	平瓶	2005157	D	37	SD103	—	8.8+	8.9						
878	252	326	須恵器	坏	2005157	D	37	SD104	(11.0)	2.9	5.2						
879	252	326	須恵器	壺	2005157	D	37	SD104	—	14.1+	—						
880	252	326	須恵器	坏	2005157	D	37	SD102	(9.2)	3.0	5.0						
881	252	325	須恵器	坏	2005157	D	37	SD102	10.8	3.3	6.5						
882	252	326	須恵器	杯	2005157	D	37	SD102	13.5	4.1	9.1						
883	252	325	須恵器	坏蓋	2005157	D	28	包含層	11.1	4.0	—						
884	252	326	須恵器	坏身	2005157	D	28	包含層	12.6	4.9	—						
885	252	326	須恵器	坏身	2005157	D	23	包含層	10.0	3.1	—						
886	252	326	須恵器	坏身	2005157	D	23	包含層	9.8	3.5	5.5						
887	252	325	須恵器	坏身	2005157	D	37	包含層	11.3	3.7	6.5						
888	252	326	須恵器	器台	2005194	E	40	包含層	—	18.8+	26.5						
889	252	326	須恵器	壺	2005194	E	40	包含層	13.4	16.6	—						
890	253	327	須恵器	坏蓋	2006093	F	49	SD188上層	13.5	3.9+	—						
891	253	327	須恵器	坏蓋	2006093	F	49	SD188上層	(14.1)	3.8+	—						
892	253	327	須恵器	坏身	2006093	F	53	SD155	(14.1)	5.0+	—						
893	253	327	須恵器	坏蓋	2006093	F	56	SD180上層	—	1.4+	5.2						
894	253	329	須恵器	坏身	2006093	F	56	SB075P01	13.1	4.1	5.8						
895	253	327	須恵器	坏	2006093	F	53	包含層	—	1.6+	—						
896	253	329	須恵器	坏蓋	2006093	F	56	包含層	12.5	4.8	—						
897	253	327	須恵器	坏身	2007057	G	58	SD201上層	—	3.9+	—						
898	253	327	須恵器	短頸壺	2007057	G	58	SD201上層	(7.0)	4.2+	—						
899	253	327	須恵器	坏蓋	2007057	H	62	SD211	(11.9)	3.4	—						
900	253	329	須恵器	坏身	2007057	H	62	SD211	—	3.6+	—						

別表1 土器一覽(16)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
901	253	327	須恵器	壺	2007057	H	62	SD211	(17.9)	8.0+	—						
902	253	327	須恵器	甕	2007057	H	62	SD211	23.5	20.8+	—						
903	253	329	土師器	甕	2007057	H	62	SD211	—	21.6+	—						
904	253	327	土師器	壺	2007057	H	62	SD211	9.8	9.5	—						
905	253	327	土師器	高坏	2007057	H	62	SD211	(22.0)	5.9+	—						
906	254	328	土師器	甕or鍋	2007057	H	61	水田	(25.6)	6.8+	—						
907	254	328	土師器	高坏	2007057	H	61	包含層	—	7.0+	11.8						
908	254	328	須恵器	坏蓋	2007057	H	62	SD225	13.0	4.1+	—						
909	254	328	土師器	坏	2007057	H	62	SD225	—	3.4+	—						
910	254	328	土師器	不明	2007057	H	62	SD225				(4.8)	(4.7)	1.7			
911	254	329	須恵器	坏蓋	2007057	H	62	SD212	(13.5)	3.5+	—						
912	254	328	須恵器	無蓋高坏	2007057	H	62	SK088	(13.8)	4.2+	—						
913	254	328	須恵器	高杯	2007057	H	62	P6207	—	(4.4)	—						
914	254	328	土師器	甕	2007057	H	62	P6202	(13.7)	9.0+	—						
915	254	328	須恵器	坏身	2007057	H	64	水田	(13.0)	3.7+	—						
916	254	328	須恵器	高杯	2007057	H	64	SD227	—	4.8+	—						
917	254	328	須恵器	坏蓋	2007057	H	68	SK126	(14.3)	3.6+	—						
918	254	330	須恵器	坏身	2007057	H	68	SK126	(12.6)	5.1	—						
919	254	328	須恵器	壺	2007057	H	68	SK126	11.6	5.1+	—						
920	254	329	土師器	壺	2007057	H	68	SK126	11.4	12.0	—						
921	254	330	須恵器	有蓋高杯	2007057	H	68	SK128	10.7	9.1	8.2						
922	254	330	須恵器	有蓋高杯	2007057	H	68	SK128	—	7.4+	8.8						
923	254	328	須恵器	坏身	2007057	H	68	SK128	11.0	4.8	—						
924	254	328	土師器	高坏	2007057	H	68	SK128	(11.9)	2.8+	—						
925	254	328	須恵器	蓋	2007057	H	68	SK129	11.7	3.8+	—						
926	254	328	須恵器	坏身	2007057	H	68	SK129	(10.5)	4.8+	—						
927	254	328	須恵器	甕	2007057	H	68	SK129	27.7	5.6+	—						
928	254	328	土師器	製塩土器	2007057	H	68	SK132	4.5	2.0+	—						
929	254	328	須恵器	坏蓋	2007057	H	68	SD258	(12.2)	3.3+	—						
930	255	331	須恵器	坏蓋	2007057	H	62	包含層	11.8	3.6+	—						
931	255	331	須恵器	坏身	2007057	H	62	包含層	(11.9)	2.8	(7.5)						
932	255	331	土師器	把手	2007057	H	62	包含層				(5.4)	(5.5)	(2.5)			
933	255	331	土師器	把手	2007057	H	62	包含層				(5.9)	(2.6)	(2.5)			
934	255	330	須恵器	坏身	2007057	H	64	包含層	10.2	5.2	—						
935	255	330	須恵器	高坏	2007057	H	64	包含層	11.2	6.1+	—						
936	255	331	須恵器	坏身or高坏	2007057	H	64	包含層	9.8	4.2+	—						
937	255	331	須恵器	高坏	2007057	H	64	包含層	—	4.8+	9.1						
938	255	330	須恵器	高坏	2007057	H	64	包含層	—	5.8+	9.2						
939	255	331	須恵器	坏蓋	2007057	H	65	包含層	15.4	4.8+	—						
940	255	331	須恵器	坏身	2007057	H	65	包含層	10.9	4.5	—						
941	255	331	須恵器	坏身	2007057	H	65	包含層	(11.3)	2.8	—						
942	255	331	須恵器	短脚高坏	2007057	H	65	包含層	—	3.3+	8.7						
943	255	331	須恵器	壺	2007057	H	65	包含層	(16.0)	4.3+	—						
944	255	330	須恵器	坏身	2007057	H	66	包含層	11.5	3.7+	—						
945	255	330	須恵器	不明	2007057	H	68	包含層	5.8	2.7+	—						
946	255	331	埴輪	円筒埴輪	2007057	H	69	包含層	17.9	3.8+	—						
947	255	331	埴輪	朝顔形埴輪	2007057	H	69	包含層	—	4.7+	—						
948	255	331	土師器	高坏	2007057	H	69	包含層	—	3.9+	(16.6)						
949	255	331	埴輪	形象埴輪	2007057	H	69	包含層				9.1	8.6	2.0			
950	256	332	須恵器	碗	2007057	A	1	SD005	(14.7)	2.8+	—						
951	256	332	須恵器	坏	2007057	A	1	SD006	11.6	4.5	8.0						
952	256	332	土師器	小皿	2007057	A	1	SK002	8.2	1.4+	—						
953	256	332	須恵器	碗	2006055	B	4	SB003P05	(15.2)	4.0+	—						
954	256	332	須恵器	碗	2006055	B	4	SB003P05	(14.3)	3.5+	—						
955	256	332	土師器	鉢	2006055	B	4	SB003P05	(22.6)	6.9+	—						
956	256	332	土師器	小皿	2006055	B	5	P0501	(8.7)	1.4+	—						
957	256	332	土師器	皿	2006055	B	6	包含層	11.1	1.6+	—						
958	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB007P02	(8.0)	1.3	(4.4)						
959	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB007P05	7.8	1.5	—						
960	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB007P05	7.8	1.4	—						

別表1 土器一覽(17)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
961	256	332	瓦質土器	羽釜	2006055	B	7	SB007P06	(23.0)	3.7+	—						
962	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB008P04	7.8	1.5	—						
963	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB009P04	(12.8)	2.0+	—						
964	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB009P04	(12.6)	1.7+	—						
965	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB009P06	(12.6)	2.7+	—						
966	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB009P10	(11.0)	1.7	(7.9)						
967	256	332	土師器	小皿	2006055	B	7	SB009P08	(8.8)	1.3	(5.0)						
968	256	332	瓦質土器	羽釜	2006055	B	7	SB009P08	—	14.3+	—						
969	256	332	瓦質土器	羽釜	2006055	B	7	SB009P08	(27.6)	3.9+	—						
970	256	332	瓦質土器	羽釜	2006055	B	7	SB009P05	(29.5)	6.5+	—						
971	256	332	瓦質土器	三足付羽釜	2006055	B	7	SB009P07	24.9	13.6	(29.4)						
972	256	333	土師器	小皿	2006055	B	8	SB010P06	—	1.2+	—						
973	256	333	土師器	小皿	2006055	B	8	SB011P01	(9.0)	1.8+	—						
974	256	333	土師器	小皿	2006055	B	8	SB011P10	(9.5)	1.3+	—						
975	256	333	土師器	小皿	2006055	B	8	SB012P02	7.4	1.0	—						
976	256	333	土師器	小皿	2006055	B	8	SB012P01	(7.3)	0.9	—						
977	256	333	瓦	平瓦	2006055	B	8	SB012P05				(7.8)	(12.0)	1.8			
978	256	333	亀山焼	甕	2006055	B	8	P0801	—	3.8+	11.3						
979	256	333	瓦質土器	羽釜	2006055	B	8	P0802	(24.9)	4.2+	—						
980	256	333	瓦質土器	羽釜	2006055	B	8	P0803	26.8	4.0+	—						
981	256	333	瓦質土器	脚部	2006055	B	8	P0804	—	16.7	—						
982	257	333	土師器	皿	2006055	B	8	SK004	12.2	1.8+	—						
983	257	333	瓦質土器	三足付羽釜	2006055	B	8	SK004	(19.8)	10.3+	—						
984	257	333	瓦質土器	羽釜	2006055	B	8	SD008	(28.8)	6.2+	—						
985	257	333	瓦質土器	羽釜	2006055	B	8	包含層	—	5.9+	—						
986	257	333	須恵器	壺	2006055	B	10	SK005	11.8	6.1+	—						
987	257	333	白磁	碗	2006055	B	11	包含層	(17.6)	4.4+	—						
988	257	333	青磁	細連弁文碗	2006055	B	11	包含層	—	2.3+	—						
989	257	334	須恵器	碗	2006055	B	13	SB013P07	—	2.8+	5.5						
990	257	334	須恵器	碗	2006055	B	13	SB014P06	—	3.2+	5.7						
991	257	334	土師器	皿	2006055	B	13	P1301	14.4	3.1	8.4						
992	257	334	須恵器	碗	2006055	B	14	SB016P01	15.8	3.7+	—						
993	257	334	須恵器	碗	2006055	B	14	SB016P01	—	1.7+	(6.0)						
994	257	334	須恵器	碗	2006055	B	14	SB016P08	—	2.8+	6.0						
995	257	334	土師器	小皿	2006055	B	14	SB016P11	9.0	1.3	6.0						
996	257	334	須恵器	碗	2006055	B	14	SB016P12	(16.0)	3.7+	—						
997	257	334	須恵器	碗	2006055	B	14	SB016P12	—	2.1+	6.5						
998	257	334	須恵器	碗	2006055	B	14	SB016P16	(16.6)	2.5+	—						
999	257	334	土師器	皿	2006055	B	14	P1403	14.2	2.8	9.4						
1000	257	334	土師器	羽口	2006055	B	14	P1404				(8.9)	9.5				
1001	257	334	土師器	小皿	2006055	B	14	P1402	8.4	1.4	(5.8)						
1002	257	334	白磁	碗	2006055	B	14	包含層	15.7	2.5+	—						
1003	257	334	青白磁	合子蓋	2006055	B	14	包含層	5.2	1.5+	—						
1004	257	334	須恵器	杯B	2006055	B	15	包含層	13.8	3.6	(10.0)						
1005	257	334	土師器	鍋	2006055	B	15	包含層	38.7	5.2+	—						
1006	257	334	白磁	碗	2006055	B	15	包含層	17.6	4.4+	—						
1007	257	335	須恵器	碗	2006055	B	16	SB020P06	(15.6)	1.9+	—						
1008	257	335	須恵器	碗	2006055	B	16	SB022P11	15.6	3.8+	—						
1009	257	335	土師器	皿	2006055	B	16	SK007	8.8	1.5	—						
1010	257	335	須恵器	杯	2006055	B	16	SD009	11.1	4.1	6.4						
1011	257	335	須恵器	杯	2006055	B	17	SD012	(11.1)	3.7	7.0						
1012	257	335	須恵器	碗	2006055	B	17	SD012	—	2.6+	5.6						
1013	257	335	須恵器	捏鉢	2006055	B	17	SD012	(27.0)	3.2+	—						
1014	257	335	須恵器	捏鉢	2006055	B	17	SD012	(27.0)	2.3+	—						
1015	257	335	備前焼	搦鉢	2006055	B	17	SD012	(38.5)	5.7+	—						
1016	257	335	白磁	碗	2006055	B	17	SD012	—	1.9+	5.6						
1017	257	335	染付磁器	碗	2006055	B	17	SD012	—	2.8+	5.2						
1018	257	335	土師器	管状土錘	2006055	B	17	SD012				3.6	1.2	1.1	4.7		
1019	257	335	土師器	管状土錘	2006055	B	17	包含層				(3.9)	1.1	1.1	3.7		
1020	258	335	須恵器	碗	2006055	B	18	SD013	16.2	5.4	6.3						

別表1 土器一覽(18)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量 (cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1021	258	335	須恵器	碗	2006055	B	18	SD013	15.6	4.9+	—						
1022	258	335	須恵器	碗	2006055	B	18	SD013	—	3.6+	5.0						
1023	258	335	瓦器	碗	2006055	B	18	SD013	(14.8)	3.3+	—						
1024	258	335	須恵器	小皿	2006055	B	18	SD013	9.2	2.2	5.5						
1025	258	335	土師器	羽口	2006055	B	18	SD013				29.5	29.5	19.0	13.9		
1026	258	335	須恵器	杯B	2006055	B	18	包含層	—	2.4+	10.0						
1027	258	335	白磁	碗	2006055	B	18	包含層	—	2.6+	5.8						
1028	258	336	土師器	小皿	2007057	C	19	SB027P02	(8.8)	1.5	(6.2)						
1029	258	336	土師器	小皿	2007057	C	19	SB027P03	(7.9)	1.3	(6.0)						
1030	258	336	須恵器	碗	2007057	C	19	SB028P03	(14.6)	4.0+	—						
1031	258	336	土師器	小皿	2007057	C	19	SB029P05	7.6	1.3	4.0						
1032	258	336	土師器	羽釜	2007057	C	19	SD018	(21.2)	2.9+	—						
1033	258	336	須恵器	碗	2007057	C	19	SK010	(16.0)	3.4+	—						
1034	258	336	須恵器	碗	2007057	C	19	包含層	(15.5)	3.4	—						
1035	258	336	染付磁器	皿	2007057	C	19	SD018	9.8	2.6	2.6						
1036	258	336	土師器	小皿	2007057	C	21	ST002	8.6	1.7	6.7						
1037	258	336	土師器	小皿	2007057	C	21	ST002	8.3	1.5	5.8						
1038	258	336	土師器	小皿	2007057	C	21	ST002	8.4	1.6	6.6						
1039	258	336	土師器	小皿	2007057	C	21	ST002	8.6	1.4	6.8						
1040	258	336	白磁	碗	2007057	C	21	ST002	15.3	5.9	6.4						
1041	258	336	須恵器	杯A	2007057	C	21	包含層	(12.0)	3.7	6.8						
1042	258	336	白磁	碗	2007057	C	21	包含層	—	3.2+	6.8						
1043	258	336	土師器	小皿	2005157	D	22	P2201	7.7	1.6	—						
1044	258	336	須恵器	碗	2005157	D	23	SB037P07	(15.5)	4.2+	—						
1045	258		土師器	鍋	2005157	D	23	SB037P07	28.2	17.5+	—						
1046	258	336	土師器	小皿	2005157	D	23	SB037P09	8.4	1.2	5.9						
1047	258	336	土師器	小皿	2005157	D	23	SB037P09	7.7	1.4	5.2						
1048	258	336	土師器	管状土錘	2005157	D	23	包含層				5.5	1.3	1.1	6.2		
1049	258	336	土師器	管状土錘	2005157	D	23	包含層				(3.9)	1.3	1.1	4.7		
1050	258	336	白磁	碗	2005157	D	25	包含層	—	2.7+	6.0						
1051	258	337	須恵器	碗	2005157	D	26	SB040P06	16.9	3.6+	—						
1052	258	337	土師器	皿	2005157	D	26	SB042P06	14.2	3.3	8.6						
1053	258	337	土師器	皿	2005157	D	26	SB042P07	14.0	3.5	8.6						
1054	258	337	土師器	羽口	2005157	D	26	SB042P07				(6.3)	(6.8)	(3.4)			
1055	258	337	須恵器	碗	2005157	D	26	SB042P10	—	2.6+	6.0						
1056	258	337	須恵器	小皿	2005157	D	26	SB041P02	8.1	2.3	4.2						
1057	258	337	須恵器	碗	2005157	D	26	ST003	15.8	4.7	5.8						
1058	258	337	土師器	鍋	2005157	D	26	P2601	(46.1)	7.3+	—						
1059	259	337	須恵器	小皿	2005157	D	27	SD043	7.6	1.8+	—						
1060	259	337	須恵器	小皿	2005157	D	28	包含層	8.2	2.6	4.3						
1061	259	337	須恵器	捏鉢	2005157	D	28	包含層	(23.8)	4.8+	—						
1062	259	337	須恵器	捏鉢	2005157	D	28	包含層	(28.9)	5.0+	—						
1063	259	337	須恵器	捏鉢	2005157	D	28	包含層	(29.0)	7.1+	—						
1064	259	337	土師器	甕	2005157	D	28	包含層	(28.4)	3.3+	—						
1065	259	338	土師器	管状土錘	2005157	D	28	包含層				(3.9)	1.5	1.5	9.0		
1066	259	338	白磁	碗	2005157	D	28	包含層	(17.7)	4.9+	—						
1067	259	338	白磁	碗	2005157	D	28	包含層	15.7	5.1+	—						
1068	259	338	白磁	碗	2005157	D	28	包含層	—	2.8+	6.2						
1069	259	338	白磁	碗	2005157	D	28	包含層	—	3.3+	6.0						
1070	259	338	龍泉窯系青磁	連弁文碗	2005157	D	28	包含層	(15.7)	2.8+	—						
1071	259	338	須恵器	小皿	2005157	D	29	SB044P03	—	1.1+	4.0						
1072	259	338	土師器	有溝穿孔土錘	2005157	D	29	SG002				(2.0)	(3.1)	(1.3)			
1073	259	338	白磁	碗	2005157	D	29	包含層	—	2.9+	5.4						
1074	259	338	龍泉窯系青磁	連弁文碗	2005157	D	29	包含層	(14.7)	3.4+	—						
1075	259	338	備前焼	碗	2005157	D	30	包含層	(9.7)	2.9+	—						
1076	259	338	土師器	杯	2005157	D	33	SD065	(10.6)	2.9+	—						
1077	259	338	土師器	底部	2005157	D	33	SD078	—	3.0+	4.8						
1078	259	338	須恵器	杯B	2005157	D	33	SD078	—	2.8+	12.4						
1079	259	338	土師器	播鉢	2005157	D	34	SD075	—	4.2+	14.4						
1080	259	338	須恵器	碗	2005157	D	34	SD075	—	2.6+	5.8						

別表1 土器一覽(19)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1081	259	338	備前焼	播鉢	2005157	D	34	SD075	—	4.6+	10.7						
1082	259	338	備前焼	播鉢	2005157	D	34	SD075	—	6.2+	—						
1083	259	338	土師器	有溝穿孔土鉢	2005157	D	34	SD075		(2.5)		(4.5)	(3.6)				
1084	259	338	須恵器	小皿	2005157	D	34	包含層	8.9	2.9	5.1						
1085	259	338	同安窯系青磁	小碗	2005157	D	35	SB046P11	11.1	3.8+	—						
1086	259	338	土師器	皿	2005157	D	35	SB047P01	(12.0)	1.7	—						
1087	259	338	土師器	小皿	2005157	D	35	SB048P05	8.2	1.3	—						
1088	259	338	土師器	皿	2005157	D	35	SD086	13.6	3.1	7.8						
1089	259	339	土師器	皿	2005157	D	35	SD086	14.6	2.9+	—						
1090	259	339	土師器	小皿	2005157	D	35	SD086	8.7	1.4	6.6						
1091	259	339	土師器	小皿	2005157	D	35	SD086	8.3	1.6	5.2						
1092	259	339	土師器	鍋	2005157	D	35	SD086	35.0	16.0+	—						
1093	259	339	土師器	鍋	2005157	D	35	SD086	28.7	10.5+	—						
1094	260	339	土師器	鍋	2005157	D	35	SD086	(34.3)	14.4	—						
1095	260	339	土師器	羽釜	2005157	D	35	SD086	(27.3)	6.1+	—						
1096	260	339	土師器	鍋	2005157	D	35	SD086	(26.4)	5.0+	—						
1097	260	339	土師器	管状土鉢	2005157	D	35	SD086				6.9	1.4	1.2	10.8		
1098	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	(16.1)	5.7	5.5						
1099	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	14.9	5.1	6.0						
1100	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	15.6	4.8	5.0						
1101	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	15.5	5.4	5.2						
1102	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	(16.3)	4.8	6.0						
1103	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	16.3	5.6	4.9						
1104	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	16.9	5.0	6.0						
1105	260	340	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	16.1	4.9	5.4						
1106	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	17.5	4.6+	—						
1107	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	—	4.0+	4.9						
1108	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	—	3.1+	5.6						
1109	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	—	3.2+	(6.1)						
1110	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	—	2.4+	5.1						
1111	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	—	1.8+	5.2						
1112	260	339	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	—	2.4+	—						
1113	260	340	須恵器	小皿	2005157	D	35	SD086	9.5	3.1	5.0						
1114	260	340	須恵器	小皿	2005157	D	35	SD086	8.9	2.7	5.6						
1115	260	340	須恵器	小皿	2005157	D	35	SD086	8.9	2.4	5.7						
1116	260	340	須恵器	小皿	2005157	D	35	SD086	9.2	2.2	5.0						
1117	260	340	須恵器	小皿	2005157	D	35	SD086	8.2	1.7	4.7						
1118	260	341	須恵器	捏鉢	2005157	D	35	SD086	33.5	4.4+							
1119	260	341	須恵器	捏鉢	2005157	D	35	SD086	(28.0)	10.7	10.0						
1120	260		須恵器	坏B	2005157	D	35	SD086	(12.8)	4.7	(8.8)						
1121	261	341	瓦器	碗	2005157	D	35	SD086	—	3.5+	(5.7)						
1122	261	341	瓦器	碗	2005157	D	35	SD086	(15.4)	4.1+	—						
1123	261	341	瓦器	小皿	2005157	D	35	SD086	(11.7)	1.4+	—						
1124	261	341	瓦質土器	羽釜	2005157	D	35	SD086	(24.4)	3.9+	—						
1125	261	341	備前焼	播鉢	2005157	D	35	SD086	(27.9)	7.0+	—						
1126	261	341	備前焼	播鉢	2005157	D	35	SD086	(27.4)	4.9+	—						
1127	261	341	備前焼	播鉢	2005157	D	35	SD086	(23.7)	5.3+	—						
1128	261	341	備前焼	播鉢	2005157	D	35	SD086	(26.9)	6.3+	—						
1129	261	341	備前焼	播鉢	2005157	D	35	SD086	(27.7)	5.1+	—						
1130	261	341	備前焼	甕	2005157	D	35	SD086	—	9.2+	—						
1131	261	341	備前焼	甕	2005157	D	35	SD086	—	7.1+	—						
1132	261	341	丹波焼	壺	2005157	D	35	SD086	11.1	2.7+	—						
1133	261	342	肥前系施釉陶器	皿	2005157	D	35	SD086	12.3	2.9	4.5						
1134	261	342	肥前系施釉陶器	碗	2005157	D	35	SD086	—	3.0+	4.1						
1135	261	342	施釉陶器	底部	2005157	D	35	SD086	—	2.6+	7.6						
1136	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	(17.3)	7.1	7.6						
1137	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	17.6	5.0+	—						
1138	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	14.8	3.9+	—						
1139	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	—	1.7+	5.6						
1140	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	—	2.5+	4.9						

別表1 土器一覽(20)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1141	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	—	2.6+	6.4						
1142	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	—	3.9+	6.0						
1143	261	342	白磁	碗	2005157	D	35	SD086	—	3.1+	6.8						
1144	261	342	白磁	皿	2005157	D	35	SD086	—	1.9+	7.6						
1145	261	342	白磁	水注	2005157	D	35	SD086	—	4.1+	—						
1146	261	342	龍泉窯系青磁	皿	2005157	D	35	SD086	—	3.5+	5.4						
1147	261	342	龍泉窯系青磁	皿	2005157	D	35	SD086	—	1.1+	2.9						
1148	261	342	同安窯系青磁	碗	2005157	D	35	SD086	—	2.9+	5.2						
1149	261	342	中国製染付磁器	碗	2005157	D	35	SD086	—	4.1+	5.1						
1150	261	342	中国製染付磁器	底部	2005157	D	35	SD086	—	0.9+	5.6						
1151	261	342	須恵器	碗	2005157	D	35	SD086	(13.2)	3.8+	—						
1152	261	342	須恵器	杯A	2005157	D	35	包含層	(14.0)	4.5	8.3						
1153	262	343	土師器	托or皿	2005157	D	36	SA002P02	15.2	2.1+	—						
1154	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SB049P09	(15.9)	2.6+	—						
1155	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SB049P12	(15.3)	5.1	(5.2)						
1156	262	343	須恵器	小皿	2005157	D	37	SB049P18	8.2	1.9	6.4						
1157	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SB051P03	16.0	3.6+	—						
1158	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	SB051P08	9.1	1.4	6.6						
1159	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	SB051P12	9.3	1.3	7.1						
1160	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	SB051P13	(8.8)	1.5	5.9						
1161	262	343	土師器	底部	2005157	D	37	SB051P17	—	4.1+	8.7						
1162	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	SB051P17	(7.3)	1.2	(4.7)						
1163	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SB051P18	—	3.0+	6.4						
1164	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SB051P25	13.5	3.4+	—						
1165	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	P3701	9.1	1.5	(6.6)						
1166	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	P3701	9.3	1.3	(6.4)						
1167	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SA003P01	(15.3)	3.5+	—						
1168	262	343	土師器	托	2005157	D	37	SA003P02	8.6	2.3	5.2						
1169	262	343	須恵器	杯B	2005157	D	37	SD104	15.6	4.9	11.2						
1170	262	343	須恵器	杯B	2005157	D	37	SD101	(15.1)	4.0	11.6						
1171	262	343	須恵器	杯	2005157	D	37	SD101	9.4	3.4	5.8						
1172	262	343	土師器	小皿	2005157	D	37	SD093	9.0	1.3+	—						
1173	262	343	須恵器	碗	2005157	D	37	SD092	(16.4)	3.8+	—						
1174	262	344	土師器	小皿	2005157	D	37	SK040	9.1	1.3	6.4						
1175	262	344	須恵器	小皿	2005157	D	37	SK040	(10.3)	2.0+	—						
1176	262	344	土師器	皿	2005157	D	37	包含層	10.5	2.8+	—						
1177	262	344	須恵器	蓋	2005157	D	37	包含層	—	1.8+	—						
1178	262	344	須恵器	碗	2005157	D	37	包含層	(19.2)	5.8+	—						
1179	262	344	須恵器	捏鉢	2005157	D	37	包含層	—	3.8+	(11.2)						
1180	262	344	須恵器	捏鉢	2005157	D	37	包含層	(27.0)	5.9+	—						
1181	262	344	須恵器	捏鉢	2005157	D	37	包含層	(27.2)	6.2+	—						
1182	262	344	緑釉陶器	底部	2005157	D	37	包含層	—	1.4+	6.0						
1183	262	344	白磁	碗	2005157	D	37	包含層	16.4	3.9+	—						
1184	262	344	白磁	碗	2005157	D	37	包含層	(13.8)	4.0+	—						
1185	262	344	白磁	碗	2005157	D	37	包含層	(14.9)	1.8+	—						
1186	262	344	白磁	碗	2005157	D	37	包含層	—	2.5+	(7.8)						
1187	262	344	同安窯系青磁	皿	2005157	D	37	包含層	(10.3)	2.0	(4.6)						
1188	262	344	瓦器	碗	2005157	D	38	包含層	—	0.8+	4.6						
1189	262	344	龍泉窯系青磁	碗	2005157	D	38	包含層	—	5.6+	—						
1190	262	344	土師器	皿	2005157	D	39	SK042	(11.0)	1.3+	—						
1191	262	344	須恵器	碗	2005157	D	39	包含層	—	1.9+	5.8						
1192	262	344	白磁	碗	2005157	D	39	包含層	(16.3)	3.5+	—						
1193	262	344	同安窯系青磁	皿	2005157	D	39	包含層	—	1.8+	6.6						
1194	263	345	須恵器	小皿	2005194	E	40	P4001	9.1	2.7	4.9						
1195	263	345	須恵器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.2	2.4	5.0						
1196	263	345	須恵器	小皿	2005194	E	40	P4001	7.9	2.4	4.8						
1197	263	345	須恵器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.4	2.2	5.9						
1198	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.6	1.3	6.5						
1199	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	9.2	1.4	7.1						
1200	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.8	1.5	6.5						

別表1 土器一覽(21)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量 (cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1201	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.3	1.7	6.6						
1202	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.1	1.8	6.2						
1203	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.6	1.4	6.3						
1204	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.5	1.3	6.5						
1205	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.8	1.4	7.0						
1206	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	8.3	1.3	9.0						
1207	263	345	土師器	小皿	2005194	E	40	P4001	7.7	1.4	5.2						
1208	263	345	土師器	托	2005194	E	40	P4001	—	2.3+	5.8						
1209	263	345	土師器	托	2005194	E	40	P4001	—	2.3+	5.8						
1210	263	344	備前焼	播鉢	2005194	E	40	SD116	21.9	4.5+	—						
1211	263	344	備前焼	播鉢	2005194	E	40	SD116	—	6.2+	—						
1212	263	344	白磁	碗	2005194	E	40	SD116	—	3.4+	6.4						
1213	263	344	白磁	碗	2005194	E	40	包含層	17.9	2.4+	—						
1214	263	344	土師器	管状土錘	2005194	E	40	包含層				6.2	1.3	1.1	9.7		
1215	263	345	須恵器	碗	2005194	E	41	SB057P06	(14.5)	4.3+	—						
1216	263	345	須恵器	碗	2005194	E	41	SB057P03	15.2	3.5+	—						
1217	263	345	須恵器	碗	2005194	E	41	SK045	(15.5)	5.6	(6.2)						
1218	263	345	須恵器	碗	2005194	E	41	SK045	—	2.1+	5.0						
1219	263	345	土師器	小皿	2005194	E	41	SK045	7.4	0.9	5.6						
1220	263	345	土師器	小皿	2005194	E	41	SK045	8.5	1.3	6.3						
1221	263	345	須恵器	碗	2005194	E	41	SD118	—	2.0+	5.6						
1222	263	345	土師器	小皿	2005194	E	41	SD118	8.8	1.4	5.7						
1223	263	345	土師器	小皿	2005194	E	41	SD118	8.3	1.2	6.2						
1224	263	345	白磁	碗	2005194	E	41	包含層	—	2.1+	6.8						
1225	263	345	白磁	碗	2005194	E	41	包含層	—	1.7+	4.4						
1226	263	345	白磁	碗	2005194	E	43	包含層	(15.4)	3.0+	—						
1227	263	346	土師器	皿	2006093	F	45	攪乱包含層	(13.3)	1.9+	—						
1228	263	346	土師器	皿	2006093	F	45	攪乱包含層	(11.7)	1.8	(7.6)						
1229	263	346	土師器	鍋	2006093	F	45	攪乱包含層	(30.7)	7.2+	—						
1230	263	346	土師器	杯	2006093	F	45	SK047	(14.7)	3.2	(7.4)						
1231	263	346	土師器	杯	2006093	F	45	SK047	14.1	3.9	8.5						
1232	263	346	土師器	托	2006093	F	45	SK047	(15.6)	2.6+	—						
1233	263	346	土師器	小皿	2006093	F	45	SK047	(8.9)	1.3	5.6						
1234	263	346	土師器	小皿	2006093	F	45	SK047	8.6	1.1	7.0						
1235	263	346	土師器	小皿	2006093	F	45	SK047	8.5	1.2	6.0						
1236	263	346	土師器	小皿	2006093	F	45	SK047	8.1	1.3	6.3						
1237	263	346	土師器	底部	2006093	F	45	SK047	—	1.7+	4.9						
1238	263	346	土師器	底部	2006093	F	45	SK047	—	2.3+	6.8						
1239	263	346	土師器	底部	2006093	F	45	SK047	—	2.2+	7.4						
1240	263	346	須恵器	碗	2006093	F	45	SK047	16.6	5.9	(7.4)						
1241	263	346	須恵器	碗	2006093	F	45	SK047	—	3.4+	6.0						
1242	263	346	須恵器	小皿	2006093	F	45	SK047	8.3	3.4	3.6						
1243	263	346	須恵器	小皿	2006093	F	45	SK047	9.2	2.9	5.5						
1244	263	346	白磁	碗	2006093	F	45	SK047	15.7	3.6+	—						
1245	263	346	瓦	平瓦	2006093	F	45	SK047				(7.2)	(11.3)	2.0			
1246	263	346	須恵器	碗	2006093	F	45	SD126	(16.0)	2.2+	—						
1247	263	347	須恵器	碗	2006093	F	46	SB061P09	(14.8)	2.9+	—						
1248	263	347	土師器	小皿	2006093	F	46	SB064P01	(6.3)	1.3	4.5						
1249	263	347	土師器	皿	2006093	F	46	SB062P03	(12.4)	2.2+	—						
1250	263	347	土師器	小皿	2006093	F	46	SB062P07	8.3	1.3+	—						
1251	263	347	土師器	小皿	2006093	F	46	SB062P07	8.2	1.4+	—						
1252	263	347	須恵器	杯B	2006093	F	46	SB062P07	—	2.4+	9.4						
1253	263	347	須恵器	甕	2006093	F	46	SB062P07	(22.4)	2.5+	—						
1254	263	347	須恵器	稜碗	2006093	F	46	SD127最上層	(16.0)	3.2+	—						
1255	263	347	土師器	皿	2006093	F	46	SD128	12.2	2.4+	—						
1256	263	347	土師器	羽釜	2006093	F	46	SD128	23.5	5.2+	—						
1257	264	347	土師器	小皿	2006093	F	47	SD133	8.4	1.2+	—						
1258	264	347	土師器	小皿	2006093	F	47	SD133	9.1	1.2+	—						
1259	264	347	土師器	碗	2006093	F	47	SD133	(13.1)	3.9+	—						
1260	264	347	土師器	碗	2006093	F	47	SD133	—	2.6+	6.2						

別表1 土器一覽(22)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1261	264	347	土師器	碗	2006093	F	47	SD133	—	1.9+	5.9						
1262	264	347	土師器	托	2006093	F	47	SD133	—	2.8+	4.4						
1263	264	347	土師器	鍋	2006093	F	47	SD133	(29.4)	9.2+	—						
1264	264	347	須恵器	甕	2006093	F	47	SD133	22.5	4.0+	—						
1265	264	347	須恵器	碗	2006093	F	47	SD133	(15.5)	5.4	5.4						
1266	264	347	須恵器	碗	2006093	F	47	SD133	15.1	3.4+	—						
1267	264	348	瓦質土器	三足付羽釜	2006093	F	47	SD133	20.8	12.2+	—						
1268	264	348	瓦質土器	三足付羽釜	2006093	F	47	SD133	25.6	5.9+	—						
1269	264	348	瓦器	碗	2006093	F	47	SD133	(13.8)	2.4+	—						
1270	264	348	備前焼	壺	2006093	F	47	SD133	—	(1.2)	5.2						
1271	264	348	白磁	碗	2006093	F	47	SD133	(16.8)	4.9+	—						
1272	264	348	白磁	碗	2006093	F	47	SD133	—	3.8+	6.5						
1273	264	348	白磁	碗	2006093	F	47	SD133	—	4.8+	6.2						
1274	264	348	白磁	把手	2006093	F	47	SD133				(4.4)	2.7	0.8			
1275	264	348	青磁	碗	2006093	F	47	SD133	—	3.3+	—						
1276	264	348	染付磁器	碗	2006093	F	47	SD133	—	2.4+	3.3						
1277	264	348	瓦	平瓦	2006093	F	47	SD133				(7.1)	(7.2)	1.9			
1278	264	348	施釉陶器	壺	2006093	F	47	SD133		6.1+	—						
1279	264		瓦	平瓦	2006093	F	48	SD133				(10.0)	(13.2)	2.0			
1280	264		白磁	皿	2006093	F	48	SD133	—	0.9+	5.0						
1281	264	348	須恵器	杯	2006093	F	49	SD138	(13.3)	4.2+	—						
1282	264	348	須恵器	杯B蓋	2006093	F	49	SD138	17.2	0.8+	—						
1283	264	348	須恵器	壺	2006093	F	49	SD138	10.0	4.2+	—						
1284	264	348	土師器	管状土錘	2006093	F	49	SD134				3.7	1.4	1.4	8.2	孔径0.6	
1285	264	348	白磁	碗	2006093	F	49	包含層	—	2.4+	—						
1286	264	348	白磁	碗	2006093	F	49	包含層	—	3.9+	(6.5)						
1287	264	348	白磁	小杯	2006093	F	49	包含層	—	1.2+	(3.7)						
1288	264	348	龍泉窯系青磁	碗	2006093	F	49	包含層	13.5	2.1+	—						
1289	265	348	土師器	鍋	2006093	F	51	SD151	(27.0)	5.2+	—						
1290	265	348	備前焼	摺鉢	2006093	F	52	SD151	(31.4)	(6.1)	—						
1291	265	348	備前焼	壺	2006093	F	52	SD151	13.6	4.7+	—						
1292	265	348	青磁	碗	2006093	F	52	SD151	—	1.7+	4.2						
1293	265	350	瓦器	碗	2006093	F	53	SB065P12	14.8	5.1	4.6						
1294	265	350	土師器	皿	2006093	F	53	SB065P14	14.9	2.8	9.6						
1295	265	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB065P18	7.3	1.0	5.2						
1296	265	349	瓦器	碗	2006093	F	53	SB065P18	14.7	4.1+	—						
1297	265	349	須恵器	碗	2006093	F	53	SB066P01	(16.8)	2.9+	—						
1298	265	349	白磁	碗	2006093	F	53	SB066P09	16.0	4.8+	—						
1299	265	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB066P10	8.0	1.2	6.0						
1300	265	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB066P16	8.4	1.4	6.0						
1301	265	350	土師器	鍋	2006093	F	53	SB067P04	36.3	17.7+	—						
1302	265	350	土師器	皿	2006093	F	53	SB067P06	13.8	2.5	9.2						
1303	265	350	瓦器	碗	2006093	F	53	SB067P06	15.1	5.1	5.1						
1304	265	350	土師器	小皿	2006093	F	53	SB067P06	18.2	1.2	7.9						
1305	265	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB067P06	8.0	1.3	5.7						
1306	265	349	土師器	羽口	2006093	F	53	SB067P06	—	5.5+	—						
1307	265	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB069P03	7.3	1.0	5.1						
1308	265	350	土師器	竈	2006093	F	53	SB069P01	—	37.9+	—						
1309	266	349	須恵器	碗	2006093	F	53	SB070P01	—	2.5+	5.3						
1310	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB070P06	7.2	1.4	4.6						
1311	266	349	白磁	碗	2006093	F	53	SB071P11	(15.6)	3.7+	—						
1312	266	349	須恵器	壺	2006093	F	53	SB071P13	—	5.3+	—						
1313	266	350	須恵器	碗	2006093	F	53	SB071P14	15.1	4.9	5.5						
1314	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB071P14	8.0	1.3	5.8						
1315	266	349	土師器	皿	2006093	F	53	SB071P16	(13.9)	3.3	8.1						
1316	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB071P17	7.8	1.0	6.4						
1317	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB071P18	7.8	1.4	5.7						
1318	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SB071P19	8.2	1.4	6.1						
1319	266	350	須恵器	碗	2006093	F	53	SB071P19	17.0	5.5	5.4						
1320	266	349	須恵器	碗	2006093	F	53	SB071P19	(15.7)	3.6+	—						

別表1 土器一覽(23)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1321	266	349	瓦器	碗	2006093	F	53	P5301	(15.0)	3.4+	—						
1322	266	349	須恵器	碗	2006093	F	53	SK048	16.0	3.3+	—						
1323	266	349	白磁	碗	2006093	F	53	SK048	—	3.3+	6.4						
1324	266	350	土師器	皿	2006093	F	53	SK050	(14.7)	2.9	8.4						
1325	266	349	土師器	皿	2006093	F	53	SK050	(15.0)	2.5+	—						
1326	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SK050	(8.5)	0.9	6.0						
1327	266	349	土師器	小皿	2006093	F	53	SK050	7.7	1.3	5.0						
1328	266	349	土師器	鍋	2006093	F	53	SK050	(26.5)	4.5+	—						
1329	266	350	須恵器	碗	2006093	F	53	SK050	16.2	4.5	6.0						
1330	266	350	須恵器	碗	2006093	F	53	SK050	16.1	4.8	5.4						
1331	266	349	須恵器	碗	2006093	F	53	SK050	15.0	4.0+	—						
1332	266	349	瓦器	碗	2006093	F	53	SK050	(15.9)	2.3+	—						
1333	266	351	土師器	管状土錘	2006093	F	53	SD155				4.5	1.1	1.0	4.0	孔径0.4	
1334	266	351	緑釉陶器		2006093	F	53	SD146	—	0.6+	—						
1335	266	351	土師器	杯	2006093	F	53	SD161	(16.8)	3.6	(10.0)						
1336	266	351	須恵器	杯A	2006093	F	53	SD161	(13.7)	3.7	10.0						—
1337	266	351	須恵器	杯A	2006093	F	53	SD161	(14.2)	3.4	(11.0)						
1338	266	351	須恵器	杯B	2006093	F	53	SD161	(14.4)	4.5	10.6						—
1339	266	351	須恵器	稜碗	2006093	F	53	SD161	16.7	6.3	10.0						—
1340	266	351	須恵器	杯B蓋	2006093	F	53	SD161	(18.4)	1.9+	—						つまみ 3.0
1341	266	351	須恵器	杯B蓋	2006093	F	53	SD161	(19.8)	1.5+	—						—
1342	266	351	須恵器	碗	2006093	F	53	SD156	(15.7)	3.0+	—						
1343	266	351	土師器	管状土錘	2006093	F	53	SD160				5.3	1.1	1.0	4.9	孔径0.4	
1344	267	351	土師器	羽口	2006093	F	53	包含層									
1345	267	351	須恵器	皿	2006093	F	53	包含層	(26.7)	6.0	(19.2)						
1346	267	351	須恵器	碗	2006093	F	53	包含層	—	1.9+	5.9						
1347	267	351	須恵器	碗	2006093	F	53	包含層	—	1.5+	5.8						
1348	267	351	須恵器	捏鉢	2006093	F	53	包含層	18.0	5.8+	—						
1349	267	351	須恵器	円面硯	2006093	F	53	包含層	10.8	2.1+	—						
1350	267	351	須恵器	風字硯	2006093	F	53	包含層				(6.3)	(5.2)	1.0			
1351	267	351	須恵器	杯B	2006093	F	54	SD163	13.5	5.4	10.1						
1352	267	352	須恵器	杯B	2006093	F	54	包含層	13.2	3.6	9.9						
1353	267	352	須恵器	稜碗蓋	2006093	F	54	包含層	(17.9)	1.6+	—						
1354	267	352	緑釉陶器	壺	2006093	F	54	包含層	—	1.6+	(6.6)						
1355	267	352	土師器	製塩土器	2006093	F	55	SB072P04	—	4.4+	—						
1356	267	352	土師器	製塩土器	2006093	F	55	SB073P08	9.4	2.6+	—						
1357	267	352	須恵器	碗	2006093	F	55	SK053	—	2.0+	5.7						
1358	267	352	須恵器	壺	2006093	F	55	SK053	10.8	3.7	—						
1359	267	352	須恵器	壺	2006093	F	55	SK053	—	5.8+	14.8						
1360	267	352	須恵器	杯A	2006093	F	55	SD170	(14.0)	3.0	(10.6)						
1361	267	352	須恵器	碗	2006093	F	55	SD170	—	2.2+	6.5						
1362	267	352	須恵器	碗	2006093	F	55	SD170	(17.0)	4.2+	—						
1363	267	352	須恵器	壺	2006093	F	55	SD170	—	4.3+	4.6						
1364	267	352	須恵器	杯B	2006093	F	55	SD172	—	3.9+	8.5						
1365	267	352	須恵器	捏鉢	2006093	F	55	SD172	(30.0)	5.2+	—						
1366	267	352	須恵器	碗	2006093	F	55	SD165	15.0	3.0+	—						
1367	267	352	須恵器	杯B	2006093	F	55	SD174	—	1.9+	6.0						
1368	267	352	須恵器	甕	2006093	F	55	SD174	(26.0)	9.0+	—						
1369	267	352	土師器	製塩土器	2006093	F	55	包含層	(11.2)	6.9+	—						
1370	267	352	土師器	管状土錘	2006093	F	55	包含層				4.9	1.2	1.2	6.7	孔径0.5	
1371	267	352	須恵器	杯A	2006093	F	55	包含層	(15.8)	3.5	(11.5)						
1372	267	352	須恵器	杯	2006093	F	55	包含層	—	1.1+	(5.0)						
1373	267	352	須恵器	杯B蓋	2006093	F	55	包含層	18.4	2.2+	—						
1374	267	352	須恵器	稜碗蓋	2006093	F	55	包含層	20.7	3.8+	—						
1375	267	352	須恵器	皿	2006093	F	55	包含層	21.7	2.4	(20.1)						
1376	267	353	須恵器	壺	2006093	F	55	包含層	13.0	3.0+	—						
1377	267	353	須恵器	壺	2006093	F	55	包含層	—	5.4+	—						
1378	267	353	瓦器	小皿	2006093	F	55	包含層	(8.8)	1.7	—						
1379	267	353	白磁	碗	2006093	F	55	包含層	—	4.6+	5.5						
1380	268	353	須恵器	碗	2006093	F	56	SA006P03	(16.4)	3.6+	—						

別表1 土器一覽(24)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1381	268	353	須恵器	杯B	2006093	F	56	包含層	(13.8)	4.1	10.8						
1382	268	353	須恵器	杯B	2006093	F	56	包含層	—	1.4+	8.9						
1383	268	353	須恵器	杯A	2006093	F	56	包含層	13.8	2.5	11.5						
1384	268	353	須恵器	底部	2006093	F	56	包含層	—	2.2+	10.0						
1385	268	353	須恵器	蓋	2006093	F	56	包含層	4.8	1.7	—						
1386	268	354	土師器	皿	2006093	F	56	包含層	(16.0)	4.4	7.6						
1387	268	281	土師器	小皿	2006093	F	56	包含層	6.8	1.9	—						
1388	268	353	山茶碗	小碗	2006093	F	56	包含層	—	1.8+	(4.6)						
1389	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				4.6	1.3	1.2	7.2	孔径0.3	
1390	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				4.2	1.9	1.9	11.7	孔径0.5	
1391	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				4.8	1.8	1.6	12.6	孔径0.4	
1392	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				(2.6)	2.0	1.8	8.1	孔径0.4	
1393	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				4.9	1.3	1.2	6.3		
1394	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				(3.4)	1.1	1.1	2.8		
1395	268	353	土師器	管状土錘	2006093	F	56	包含層				4.4	1.1	1.0	4.2		
1396	268	353	土師器	製塩土器	2006093	F	56	包含層	(12.7)	6.3+	—						
1397	268	353	須恵器	杯A	2006093	F	56	包含層	14.8	3.5	10.8						
1398	268	353	須恵器	稜碗	2006093	F	56	包含層	(19.1)	6.1	(11.0)						
1399	268	353	須恵器	皿	2006093	F	56	包含層	(13.6)	2.0	7.6						
1400	268	353	須恵器	皿	2006093	F	56	包含層	16.0	2.1	10.4						
1401	268	353	須恵器	皿	2006093	F	56	包含層	13.4	2.3+	—						
1402	268	353	須恵器	杯B蓋	2006093	F	56	包含層	16.0	1.1+	—						
1403	268	353	須恵器	杯B蓋	2006093	F	56	包含層	12.8	1.6+	—						
1404	268	354	須恵器	蓋	2006093	F	56	包含層	13.8	3.4+	—						
1405	268	354	須恵器	平瓶	2006093	F	56	包含層	—	5.2+	5.7						
1406	268	354	須恵器	円面硯	2006093	F	56	包含層	(14.3)	2.7+	—						
1407	268	354	須恵器	壺	2006093	F	56	包含層	12.7	7.3+	—						
1408	268	354	緑釉陶器	底部	2006093	F	56	包含層	—	1.7+	7.0						
1409	268	354	灰釉陶器	碗	2006093	F	56	包含層	(13.0)	3.5+	—						
1410	268	354	灰釉陶器	碗	2006093	F	56	包含層	(15.6)	2.8+	—						
1411	268	354	灰釉陶器	皿	2006093	F	56	包含層	(15.5)	1.3+	—						
1412	268	354	灰釉陶器	底部	2006093	F	56	包含層	—	1.8+	(5.9)						
1413	268	354	灰釉陶器	底部	2006093	F	56	包含層	—	1.4+	7.0						
1414	268	354	灰釉陶器	底部	2006093	F	56	包含層	—	1.7+	5.8						
1415	268	354	白磁	碗	2006093	F	56	包含層	16.4	5.3+	—						
1416	268	354	白磁	碗	2006093	F	56	包含層	—	3.1+	7.2						
1417	268	354	白磁	碗	2006093	F	56	包含層	—	1.6+	4.7						
1418	268	354	白磁	皿	2006093	F	56	包含層	(10.3)	2.4	3.6						
1419	268	354	青磁	皿	2006093	F	56	包含層	10.0	3.1	4.1						
1420	268	354	瓦	平瓦	2006093	F	56	包含層				(14.0)	(11.5)	2.1			
1421	269	355	須恵器	碗	2007057	G	57	SD191	—	2.2+	6.2						
1422	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SB076P05	(7.9)	1.1+	—						
1423	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SB077P08	(11.8)	2.3+	—						
1424	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SB077P14	13.9	1.9+	—						
1425	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SB077P14	12.1	3.0+	—						
1426	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SB079P01	13.8	2.6+	—						
1427	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SB079P01	(7.6)	1.4+	—						
1428	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SB079P01	8.8	1.4+	—						
1429	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SB079P06	(11.7)	2.3+	—						
1430	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	P5801	(12.8)	2.5+	—						
1431	269	355	須恵器	杯B	2007057	G	58	P5802	—	1.8+	(9.0)						
1432	269	355	須恵器	碗	2007057	G	58	SD201	16.6	2.8+	—						
1433	269	355	須恵器	碗	2007057	G	58	SD201	—	2.3+	6.1						
1434	269	355	須恵器	碗	2007057	G	58	SD201	7.8	2.9	6.0						
1435	269	355	緑釉陶器	底部	2007057	G	58	SD201	—	1.6+	—						
1436	269	355	灰釉陶器	皿	2007057	G	58	SD201最上層	(13.4)	1.1+	—						
1437	269	355	灰釉陶器	底部	2007057	G	58	SD201	—	1.5	6.0						
1438	269	355	灰釉陶器	底部	2007057	G	58	SD201	—	1.1+	7.2						
1439	269	355	灰釉陶器	底部	2007057	G	58	SD201	—	2.0	6.9						
1440	269	355	須恵器	碗	2007057	G	58	SD204	—	2.1+	4.8						

別表1 土器一覽(25)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1441	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SD206	(14.8)	2.2+	—						
1442	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SD206	11.8	2.1	5.9						
1443	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SD206	(4.8)	1.5	7.8						
1444	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SD206	8.0	0.9	8.1						
1445	269	355	土師器	羽釜	2007057	G	58	SD206	27.4	7.8+	—						
1446	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SK061	(12.7)	2.8+	—						
1447	269	355	須恵器	碗	2007057	G	58	SK061	(15.8)	2.7+	—						
1448	269	355	須恵器	小皿	2007057	G	58	SK061	8.2	1.3+	—						
1449	269	355	須恵器	捏鉢	2007057	G	58	SK061	(27.5)	3.7+	—						
1450	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SK062	(13.4)	3.2+	—						
1451	269	356	土師器	皿	2007057	G	58	SK062	13.0	2.7	—						
1452	269	356	土師器	皿	2007057	G	58	SK062	12.7	2.9	—						
1453	269	356	土師器	皿	2007057	G	58	SK062	13.4	3.0	9.2						
1454	269	356	土師器	皿	2007057	G	58	SK062	12.8	2.5	8.2						
1455	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SK062	(8.2)	1.2+	—						
1456	269	355	土師器	小皿	2007057	G	58	SK062	8.2	2.1+	—						
1457	269	355	須恵器	碗	2007057	G	58	SK062	(13.8)	3.3+	—						
1458	269	355	瓦器	碗	2007057	G	58	SK062	—	0.9+	4.2						
1459	269	355	土師器	皿	2007057	G	58	SK063	(12.9)	1.9+	—						
1460	269	355	瓦器	碗	2007057	G	58	包含層	—	2.2+	4.6						
1461	269	357	須恵器	皿	2007057	H	62	SK090	(25.6)	7.1	(21.0)						
1462	269	357	須恵器	杯	2007057	H	62	SK090	—	1.4+	6.8						
1463	269	357	須恵器	皿	2007057	H	62	SK090	(15.6)	1.6+	—						
1464	269	357	須恵器	底部	2007057	H	62	SK090	—	2.0+	5.8						
1465	269	357	土師器	管状土錘	2007057	H	62	SK090			—	4.3			5.6+	孔径0.3	
1466	269	357	瓦	平瓦	2007057	H	62	SK090				11.8	7.0	2.7			
1467	270	357	土師器	泥面子	2007057	H	62	包含層	4.1×4.0		—			1.0			
1468	270	356	土師器	焙烙	2007057	H	62	包含層	27.3	6.9+	—						
1469	270	356	染付磁器	碗	2007057	H	62	包含層	10.5	5.8	4.1						
1470	270	356	白磁	鉢	2007057	H	62	包含層	15.4	9.0	7.7						
1471	270	356	陶体染付	碗	2007057	H	62	包含層	(10.7)	6.2	5.2						
1472	270	356	染付磁器	油壺	2007057	H	62	包含層	1.9	6.5	3.5						
1473	270	356	施釉陶器	筆立	2007057	H	62	包含層	3.5	7.2	5.0						
1474	270	357	土師器	製塩土器	2007057	H	62	包含層	14.7	8.7+	—						
1475	270	357	須恵器	杯B	2007057	H	62	包含層	(17.4)	6.6	(12.8)						
1476	270	357	須恵器	杯B	2007057	H	62	包含層	(14.0)	3.7	11.6						
1477	270	357	須恵器	杯A	2007057	H	62	包含層	(11.0)	2.9	(8.2)						
1478	270	357	須恵器	底部	2007057	H	62	包含層	—	0.6+	—						
1479	270	357	須恵器	底部	2007057	H	62	包含層	—	1.9+	8.2						
1480	270	357	須恵器	底部	2007057	H	62	包含層	—	1.3+	6.5						
1481	270	357	須恵器	底部	2007057	H	62	包含層				(4.9)	(6.4)	1.0			
1482	270	357	須恵器	稜碗	2007057	H	62	包含層	(19.2)	5.0+	—						
1483	270	357	須恵器	稜碗	2007057	H	62	包含層	(18.4)	3.9+	—						
1484	270	357	須恵器	碗	2007057	H	62	包含層	(11.0)	3.2	(4.1)						
1485	270	357	須恵器	皿	2007057	H	62	包含層	13.2	2.2	9.7						
1486	270	357	須恵器	杯B蓋	2007057	H	62	包含層	(16.2)	3.4							
1487	270	357	須恵器	杯B蓋	2007057	H	62	包含層	—	2.1+	—						
1488	270	357	須恵器	杯B蓋	2007057	H	62	包含層	(18.8)	3.3+	—						
1489	270	358	須恵器	杯B蓋	2007057	H	62	包含層	—	1.1+	—						
1490	270	358	須恵器	杯B蓋	2007057	H	62	包含層	—	1.7+	—						
1491	270	358	須恵器	杯B蓋	2007057	H	62	包含層	(14.7)	1.9+	—						
1492	270	358	須恵器	壺	2007057	H	62	包含層	—	5.2+	—						
1493	270	358	須恵器	鉢	2007057	H	62	包含層	(24.7)	12.6+	—						
1494	270	358	灰釉陶器	皿	2007057	H	62	包含層	—	2.0+	8.1						
1495	270	358	緑釉陶器	碗	2007057	H	62	包含層	—	1.7+	5.9						
1496	270	358	白磁	碗	2007057	H	62	包含層	(14.0)	3.9+	—						
1497	270	358	白磁	碗	2007057	H	62	包含層	(13.5)	1.9+	—						
1498	271	358	瓦	丸瓦	2007057	H	62	包含層				(9.4)	(10.0)	(2.8)			
1499	271	358	瓦	平瓦	2007057	H	62	包含層				(9.7)	(6.0)	(2.1)			
1500	271	358	瓦	平瓦	2007057	H	62	包含層				(10.9)	(8.1)	(2.4)			

別表1 土器一覽(26)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1501	271	358	瓦	道具瓦	2007057	H	62	包含層				6.4	(5.4)	1.5			
1502	271	358	須恵器	杯B	2007057	H	62	包含層	—	4.0+	10.6						
1503	271	358	須恵器	杯B	2007057	H	62	包含層	—	2.3+	9.4						
1504	271	358	備前焼	播鉢	2007057	H	63	包含層	(32.0)	4.9+	—						
1505	271	358	須恵器	皿	2007057	H	63	包含層	(14.2)	1.5	(9.8)						
1506	271	358	土師器	杯	2007057	H	63	包含層	(14.8)	2.6	12.2						
1507	271	358	須恵器	壺	2007057	H	63	包含層	—	2.3+	8.0						
1508	271	359	須恵器	杯B蓋	2007057	H	64	P6402	(13.9)	2.0+	—						
1509	271	359	土師器	杯	2007057	H	64	包含層	(14.8)	2.5	—						
1510	271	359	土師器	底部	2007057	H	64	包含層	—	2.2+	8.2						
1511	271	359	須恵器	杯A	2007057	H	64	包含層	15.4	3.4	—						
1512	271	359	須恵器	皿	2007057	H	64	包含層	15.4	2.5+	—						
1513	271	359	須恵器	杯B	2007057	H	64	包含層	(14.5)	3.7	12.2						
1514	271	359	須恵器	杯B	2007057	H	64	包含層	14.0	4.0	(10.1)						
1515	271	359	須恵器	杯B	2007057	H	64	包含層	12.4	4.1	(10.4)						
1516	271	359	須恵器	杯B	2007057	H	64	包含層	(12.8)	4.7	(8.6)						
1517	272	359	須恵器	杯	2007057	H	64	水田畦畔	11.0	3.8	—						
1518	272	359	須恵器	杯	2007057	H	64	包含層	10.5	3.5	6.3						
1519	272	359	須恵器	杯	2007057	H	64	包含層	9.7	3.3+	—						
1520	272	359	須恵器	杯	2007057	H	64	包含層	9.6	3.2+	—						
1521	272	359	須恵器	皿	2007057	H	64	包含層	(27.6)	1.9+	—						
1522	272	359	須恵器	皿	2007057	H	64	包含層	(25.6)	2.3+	—						
1523	272	359	須恵器	皿	2007057	H	64	包含層	(12.6)	2.3	5.4						
1524	272	359	須恵器	稜碗	2007057	H	64	包含層	(19.6)	3.7+	—						
1525	272	360	須恵器	高杯	2007057	H	64	包含層	—	4.0+	—						
1526	272	359	須恵器	杯B蓋	2007057	H	64	包含層	—	1.9+	—						
1527	272	359	須恵器	杯B蓋	2007057	H	64	包含層	—	1.5+	—						
1528	272	359	須恵器	底部	2007057	H	64	包含層	—	2.1+	7.0						
1529	272	359	須恵器	円面規	2007057	H	64	包含層	—	3.3+	—						
1530	272	359	須恵器	円面規	2007057	H	64	包含層	—	4.4+	—						
1531	272	359	須恵器	甑	2007057	H	64	包含層				3.8	3.9	1.0			
1532	272	359	白磁	碗	2007057	H	64	包含層	(17.6)	3.1+	—						
1533	272	359	白磁	碗	2007057	H	64	包含層	—	3.4	7.6						
1534	272	359	白磁	碗	2007057	H	64	包含層	—	3.7+	6.6						
1535	272	360	土師器	土馬	2007057	H	64	包含層				(10.0)	3.1	3.0			
1536	272	360	土師器	土馬	2007057	H	64	包含層				(10.1)	2.8	3.2			
1537	272		須恵器	管状土錘	2007057	H	64	包含層			—	5.3	1.9×2.0		22.6		
1538	272		須恵器	杯	2007057	H	65	SK112	(10.8)	3.4	—						
1539	272	360	土師器	管状土錘	2007057	H	65	包含層				5.0	1.5	1.4	11.1		
1540	272	360	土師器	土馬	2007057	H	65	包含層				11.1	3.5	3.0			
1541	272	360	須恵器	杯B	2007057	H	65	包含層	(14.3)	4.8	(11.2)						
1542	272	360	須恵器	皿	2007057	H	65	包含層	16.6	1.8	(14.9)						
1543	272	360	須恵器	稜碗	2007057	H	65	包含層	(18.6)	4.5+	—						
1544	272	360	須恵器	壺	2007057	H	65	包含層	—	8.0+	17.5						
1545	272	360	須恵器	高杯	2007057	H	65	水田	—	4.0+	7.2						
1546	272	360	染付磁器	底部	2007057	H	65	包含層				4.7	3.1	0.4			
1547	272	360	緑釉陶器	底部	2007057	H	66	SK113	—	1.9+	6.6						
1548	272	360	須恵器	杯B蓋	2007057	H	66	包含層	—	2.3+	—						
1549	272	360	白磁	碗	2007057	H	66	包含層	(16.6)	4.8+	—						
1550	272	360	須恵器	捏鉢	2007057	H	67	包含層	(28.0)	9.7+	—						
1551	272	361	須恵器	杯A	2007057	H	68	包含層	12.7	3.4	9.4						
1552	272	361	須恵器	皿	2007057	H	68	包含層	(23.5)	2.1	(20.2)						
1553	272	361	須恵器	皿	2007057	H	68	包含層	(19.0)	2.8	(12.5)						
1554	272	361	須恵器	円面規	2007057	H	68	包含層	上面径 16.4	4.2+	—						
1555	272	361	須恵器	円面規	2007057	H	68	包含層	(13.7)	3.2+	—						
1556	272	361	須恵器	円面規	2007057	H	68	包含層	(12.8)	2.1+	—						
1557	272	362	須恵器	円面規	2007057	H	68	包含層	—	1.2+	(13.4)						
1558	273	361	土師器	高杯	2007057	H	69	SK135	—	5.0+	—						
1559	273	361	土師器	碗	2007057	H	69	SK136	—	2.2+	(6.7)						
1560	273	361	須恵器	碗	2007057	H	69	SK136	—	2.0+	6.0						

別表1 土器一覽(27)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	調査番号	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量(cm)							分 析	
									口径	器高	底径	長	幅	厚	重量(g)		その他
1561	273	361	土師器	杯	2007057	H	69	包含層	(18.6)	3.8+	—						
1562	273	361	土師器	底部	2007057	H	69	包含層	—	4.9+	(9.4)						
1563	273	361	土師器	製塩土器	2007057	H	69	包含層	(10.0)	5.1+	—						
1564	273	361	土師器	製塩土器	2007057	H	69	包含層	8.6	4.2+	—						
1565	273	361	土師器	羽釜	2007057	H	69	包含層	24.7	5.2+	—						
1566	273	361	土師器	羽口	2007057	H	69	包含層		(3.2)		(4.7)	(5.5)				
1567	273	361	土師器	土馬	2007057	H	69	包含層		4.1		15.8	6.8				
1568	273	362	須恵器	杯A	2007057	H	69	包含層	14.7	3.1	(11.0)						
1569	273	362	須恵器	杯A	2007057	H	69	包含層	(12.4)	3.6	4.1						
1570	273	362	須恵器	杯B	2007057	H	69	包含層	(19.9)	4.2	(15.2)						
1571	273	362	須恵器	杯B	2007057	H	69	包含層	22.0	4.8	18.1						
1572	273	362	須恵器	杯B	2007057	H	69	包含層	(18.4)	6.3	12.2						
1573	273	362	須恵器	皿	2007057	H	69	包含層	(20.5)	2.0	(17.8)						
1574	273	362	須恵器	皿	2007057	H	69	包含層	(16.8)	2.5	(15.2)						
1575	273	362	須恵器	皿	2007057	H	69	包含層	(14.9)	2.2	(10.6)						
1576	273	362	須恵器	皿	2007057	H	69	包含層	(18.7)	2.2	(16.6)						
1577	273	362	須恵器	皿	2007057	H	69	包含層	(19.0)	2.2	(16.4)						
1578	273	362	須恵器	稜碗	2007057	H	69	包含層	(18.2)	4.8+	—						
1579	273	362	須恵器	壺	2007057	H	69	包含層	(8.2)	4.2+	—						
1580	273	362	須恵器	壺	2007057	H	69	包含層	—	5.3	—						
1581	273	362	緑釉陶器	碗	2007057	H	69	包含層	(15.1)	5.5	6.9						
1582	273	362	緑釉陶器	碗	2007057	H	69	包含層	(11.4)	2.4+	—						
1583	273	362	備前焼	壺	2007057	H	69	包含層	—	8.1+	—						
1584	272	363	唐三彩	弁口瓶	2007057	H	69	包含層		10.2+							
1585	273	362	瓦	平瓦	2007057	H	69	包含層				(8.5)	(7.2)	(1.7)			

別表2 石器・石製品一覧(1)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	石 材	調査 番号	時 期	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量			
											長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
S1	274	364	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2007057	弥生時代後期	A	1	SD002	5.45	4.30	0.95	25.77
S2	281	372	石器	砥石		2006055	中世	B	4	SB005P11	7.20	6.85	5.25	363.45
S3	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055		B	7	包含層	2.50	1.65	0.45	1.70
S4	281	372	石製品	砥石		2006055	中世	B	13	SB013P07	17.00	10.55	8.85	2600.00
S5	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	中世	B	13	SB013P07	1.45	1.15	0.25	0.28
S6	274	364	石器	尖頭器	サヌカイト	2006055		B	13	包含層	3.50	2.40	0.50	3.75
S7	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055		B	15	P1501	2.05	(1.80)	0.30	0.80
S8	274	364	ガラス	小玉	ガラス	2006055	弥生時代	B	16	SH001	0.22	0.24	0.24	0.02
S9	274		石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	1.50	1.20	0.25	0.38
S10	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	1.35	1.15	0.30	0.35
S11	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	2.65	1.90	0.40	1.66
S12	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	2.10	1.50	0.45	1.05
S13	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	4.05	1.65	0.65	4.23
S14	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	4.60	2.10	0.60	5.13
S15	274	364	石器	石鏃	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	4.40	1.50	0.60	2.81
S16	275	365	石器	楔形石器	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	3.00	2.35	0.60	7.00
S17	275	365	石器	楔形石器	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	3.20	2.40	0.40	3.66
S18	275	365	石器	楔形石器	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	3.77	2.05	1.06	8.55
S19	275	365	石器	楔形石器	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	6.62	2.61	1.45	16.60
S20	275	365	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	3.60	0.55	0.40	0.67
S21	275	365	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	3.65	3.53	0.89	14.34
S22	275	365	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	2.75	0.75	0.30	0.53
S23	275	365	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2006055	弥生時代	B	16	SH001	7.85	2.90	0.50	15.07
S24	275	365	石器	石鏃	サヌカイト	2006055		B	17	包含層	1.95	1.40	0.35	0.72
S25	275	365	石器	剥片	サヌカイト	2006055		B	17	包含層	5.00	6.00	2.30	54.00
S26	275	366	石製品	石棒	サヌカイト	2006055		B	17	包含層	11.60	3.20	1.90	106.90
S27	276	366	石器	二次加工の ある剥片	不明	2007057	弥生時代中期	C	19	SD014	5.10	3.25	0.40	9.81
S28	281	372	石製品	砥石	砂岩	2005157	中世	D	23	SB037P07	14.40	7.00	7.55	1357.60
S29	276	366	石器	石鏃	サヌカイト	2005157		D	23	包含層	1.90	1.60	0.25	0.44
S30	276	366	石器	石鏃	サヌカイト	2005157		D	23	包含層	4.55	1.70	0.60	3.53
S31	276	366	石器	削器	サヌカイト	2005157		D	23	包含層	4.39	6.73	0.90	32.07
S32	276	366	石器	石ヒ	サヌカイト	2005157		D	27	SD041	6.40	4.10	1.00	15.84
S33	276	367	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	縄文時代晩期・ 弥生時代中期	D	28	SD045	2.10	1.70	0.30	0.75
S34	276	367	石器	打製石包丁	サヌカイト		弥生時代中期	D	28	SW009	8.70	4.80	1.20	51.97
S35	276	367	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	弥生時代後期	D	28	SD046	2.45	1.40	0.25	1.11
S36	276	367	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	古墳時代初頭	D	28	SD048	1.80	1.50	0.25	0.65
S37	277	367	石器	削器	サヌカイト	2005157		D	28	包含層	3.20	1.40	0.35	1.37
S38	277	367	石器	削器	サヌカイト	2005157		D	28	包含層	4.45	2.31	0.97	10.20
S39	277	367	石器	楔形石器	サヌカイト	2005157		D	28	包含層	7.50	6.90	1.70	126.33
S40	277	367	石器	鋸歯縁石器	サヌカイト	2005157		D	28	包含層	4.95	1.90	0.75	8.08
S41	281	372	石製品	石鍋	滑石	2005157		D	29	SK029	8.05	5.60	0.90	54.70
S42	277	368	石器	石核	サヌカイト	2005157		D	31	SD057	9.70	6.40	4.30	388.62
S43	277	367	石器	ナイフ形石器	サヌカイト	2005157	後期旧石器時代	D	33	包含層	2.95	1.25	0.75	2.58
S44	278	368	石製品	石鏃	不明	2005157		D	33	包含層	3.40	3.40	1.25	22.99
S45	278	368	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	弥生時代中期	D	34	SD063	4.10	1.30	0.60	2.76
S46	278	368	石器	楔形石器	サヌカイト	2005157	弥生時代中期	D	34	SD063	1.90	3.80	0.60	6.26
S47	278	368	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	弥生	D	34	SD069	4.95	2.40	0.25	2.34
S48	278	368	石器	楔形石器	サヌカイト	2005157		D	34	SD071	3.65	3.53	0.89	14.34
S49	278	368	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	中世以降	D	34	SD075	1.60	1.30	0.35	0.54
S50	281	372	石製品	五輪塔	花崗岩	2005157	中世以降	D	34	SD075	高さ16.50	23.0	—	13.20
S51	281	372	石製品	五輪塔	花崗岩	2005157	中世以降	D	34	SD075	高さ20.20	25.8	—	19.20
S52	278	368	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	中世	D	33	SD086	2.20	1.60	0.40	1.37
S53	278	368	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	中世	D	35	SD086	2.20	2.10	0.70	3.17
S54	278	369	石器	石鏃	サヌカイト	2005157	中世	D	35	SD086	3.80	1.20	0.60	2.57
S55	282	372	石製品	砥石		2005157	中世	D	35	SD086	9.50	4.60	1.40	61.45
S56	278	369	石製品	石片	紅簾片岩	2005157	弥生時代前期	D	35	SD083	7.80	4.10	0.70	26.67

別表2 石器・石製品一覧(2)

報告 番号	図版	写真 図版	種 別	器 種	石 材	調査 番号	時 期	調査 地区	調査 区	遺 構	法 量			
											長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
S57	278	369	石製品	石棒?	緑泥片岩	2005157	弥生時代前期	D	35	SD082	2.20	2.10	0.70	3.17
S58	278	369	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2005157		D	35	SD077	2.20	1.35	0.40	1.40
S59	278	369	石器	石鏃	サヌカイト	2005157		D	35	SD084	1.44	1.20	0.27	0.46
S60	278	369	石器	石鏃	サヌカイト	2005157		D	37	SD108	2.30	1.50	0.28	0.92
S61	278	369	石器	石鏃	サヌカイト	2005157		D	37	包含層	2.00	1.50	0.30	0.62
S62	282	372	石製品	砥石	不明	2005157		D	37	包含層	7.45	3.70	0.90	36.04
S63	282	373	石製品	石鍋	滑石	2005157		D	37	包含層	4.60	4.10	1.20	32.75
S64	282	373	石製品	石鍋	滑石	2005157		D	37	包含層	4.30	3.00	1.20	20.57
S65	282	373	石製品	石鍋	滑石	2005157		D	37	包含層	10.00	8.85	3.10	228.18
S66	282	373	石製品	石鍋	滑石	2005157		D	37	包含層	11.30	4.00	2.10	113.62
S67	279	369	石器	石鏃	サヌカイト	2005194		E	41	包含層	18.50	15.00	3.50	0.70
S68	279	369	石器	石鏃	サヌカイト	2005194		E	41	包含層	27.00	14.00	3.00	0.80
S69	283	373	石製品	不明		2006093		F	46	SD127	36.60	12.30	13.7	9200.00
S70	279	369	石器	石鏃	サヌカイト	2006093		F	46	包含層	2.15	1.50	0.38	0.89
S71	279	369	石器	楔形石器	サヌカイト	2006093	中世	F	47	SD133	4.50	2.10	0.75	9.73
S72	282	373	石器	二次加工の ある剥片	片麻岩	2006093	中世	F	47	SD133	7.50	6.90	1.70	126.33
S73	279	370	石器	石鏃		2006093		F	51	包含層	1.65	1.70	0.45	0.57
S74	283	373	石製品	石臼	花崗岩	2006093	中世以降	F	52	SD151	(18.10)	(13.10)	6.40	2200.00
S75	279	370	石器	石鏃	サヌカイト	2006093	中世	F	53	SK048	15.00	16.50	3.50	0.70
S76	279	370	石器	ナイフ形石器	サヌカイト	2006093	後期旧石器時代	F	55	包含層	59.00	21.50	8.50	9.50
S77	279	370	石器	石鏃	サヌカイト	2006093		F	55	包含層	1.70	1.50	0.50	0.75
S78	279	370	石器	石鏃	サヌカイト	2006093	弥生時代前期	F	56	SD175	3.50	1.80	0.35	1.88
S79	279	370	石器	石鏃	サヌカイト	2006093		F	56	SD178	2.00	1.65	0.30	0.65
S80	284	374	石製品	砥石	砂岩	2006093	古墳時代初頭	F	56	SX002	10.20	7.60	5.15	455.58
S81	279	370	石器	二次加工の ある剥片	サヌカイト	2006093		F	56	包含層	3.50	5.40	0.50	8.83
S82	279	370	石製品	石棒	紅簾片岩	2006093		F	56	包含層	8.55	1.90	1.60	43.28
S83	284	374	石製品	砥石	砂岩	2006093		F	56	包含層	6.30	4.00	2.40	89.68
S84	280	371	石器	礫器	砂岩	2007057	弥生時代前期	G	57	SD189	(9.50)	4.30	3.20	142.01
S85	280	371	石器	削器	サヌカイト	2007057	古墳時代初頭	G	58	SD201	6.65	3.50	1.10	25.62
S86	284	374	石器	削器	サヌカイト	2007057	古墳時代初頭	G	58	SD201	12.40	6.75	1.45	104.91
S87	284	374	石製品	分割礫	片麻岩	2007057	古墳時代初頭	G	58	SD201	9.25	7.45	2.55	229.22
S88	280	371	石器	石鏃	サヌカイト	2007057		G	58	包含層	2.00	1.30	0.45	0.81
S89	第4図	第4図	石製品	勾玉	碧玉	2007057		H	61	SD209	1.30	0.70	0.30	0.44
S90	283	374	石製品	石皿	砂岩	2007057	古墳時代初頭	H	62	SK076	13.85	10.70	10.15	2800.00
S91	285	375	石製品	砥石	凝灰岩	2007057	古墳時代初頭	H	62	SD224	9.00	6.75	4.00	248.19
S92	283	374	石製品	砥石	砂岩	2007057	古墳時代初頭	H	62	SK085	11.70	10.40	6.05	1060.55
S93	284	375	石製品	砥石	不明	2007057		H	62	包含層	6.40	5.80	1.45	51.43
S94	285	375	石製品	凹み石	砂岩	2007057		H	62	包含層	10.20	8.10	4.20	500.39
S95	285	375	石製品	不明	凝灰岩	2007057		H	64	包含層	10.70	5.70	5.70	422.84
S96	285	375	石製品	砥石	凝灰岩	2007057		H	65	包含層	10.20	3.00	2.70	126.67
S97	284	374	石器	石核	サヌカイト	2007057		H	65	水田土壌	11.74	9.03	2.34	298.78
S98	285	375	石製品	石杵?	砂岩	2007057		H	65	包含層	10.20	3.00	2.70	126.67
S99	第4図	第4図	石製品	勾玉	不明	2007057		H	66	包含層	3.15	2.10	0.75	6.06
S100	280	371	石器	石鏃	サヌカイト	2007057	古墳時代初頭	H	67	SD256	2.90	2.20	0.40	2.09
S101	285	375	石製品	石錘	凝灰岩	2007057		H	67	SD257	4.90	4.25	3.90	104.57
S102	280	371	石器	石鏃	サヌカイト	2007057		H	67	包含層	1.85	1.20	0.30	0.56
S103	280	371	石器	楔形石器	サヌカイト	2007057		H	68	包含層	6.60	2.60	1.05	20.88
S104	280	371	石器	石鏃	サヌカイト	2007057		H	68	包含層	26.50	14.50	3.00	0.90
S105	280	371	石製品	丸靱	粘板岩	2007057		H	68	包含層	2.70	4.00	0.70	15.66

別表3 金属器一覽(1)

報告 番号	図版	写真 図版	種別	器種	調査番号	時期	調査 地区	調査区	遺構	法量				分析
										長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
M1	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055		B	14	P1401	3.6	2.6	1.5	10.2	
M2	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055	12C前半～中頃	B	18	SD013	6.0	4.5	2.1	41.9	
M3	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055	12C前半～中頃	B	18	SD013	5.5	5.6	2.5	46.7	AGH-3
M4	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055	12C前半～中頃	B	18	SD013	9.3	8.4	2.8	206.6	AGH-4
M5	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055	12C前半～中頃	B	18	SD013	9.0	7.4	3.0	109.8	
M6	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055	12C前半～中頃	B	18	SD013	6.1	4.8	3.0	53.5	
M7	286	376	鉄製品	鉄滓	2006055	12C前半～中頃	B	18	SD013	7.2	4.5	3.2	72.1	
M8	286	376	鉄製品	鉄釘	2007057		C	19	SB030P13	4.1	0.6	0.5	2.8	
M9	286	376	鉄製品	鉄釘	2007057		C	21	SD028	1.9	0.7	0.7	1.5	
M10	287	376	鉄製品	鉄滓	2005157	12C	D	23	SB037P02	13.3	9.4	4.4	501.1	
M11	287	376	鉄製品	鉄釘	2005157	12C前後	D	26	SB040P04	3.8	1.2	1.2	5.5	
M12	287	376	鉄製品	鉄釘	2005157		D	26	SD038	2.3	1.4	1.6	5.0	
M13	287	376	鉄製品	鉄釘	2005157		D	26	包含層	6.7	5	2.6	120.0	
M14	287	376	鉄製品	鉄釘	2005157	12C前半	D	35	SD086	22.4	2.4	1.9/1.5	105.3	
M15	287	376	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	10.6	9.6	4.1	377.3	
M16	287	376	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	6.5	5.5	3.0	71.2	AGH-1
M17	287	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	5.5	5.5	3.2	72.8	AGH-2
M18	287	376	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	6.7	3.8	2.1	66.6	
M19	287	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	3.5	2.3	2.2	9.9	
M20	287	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	1.7	0.5	0.9	0.5	
M21	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	4.6	5	2.1	44.1	
M22	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C前半	D	35	SD086	4.6	3.7	3.2	43.3	
M23	288	377	鉄製品	不明鉄製品	2005157	12C	D	37	SB051P10	3.3	2.9	1.0	3.7	
M24	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C	D	37	SK040	1.9	1.8	1.4	4.8	
M25	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157	12C	D	37	SK040	2.7	2.3	1.1	5.9	
M26	288	377	鉄製品	不明鉄製品	2005157		D	37	SK039	3.8	1.4	0.5	1.4	
M27	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	37	包含層	9.1	8.5	4.0	245.1	
M28	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	37	包含層	11.0	8.7	3.6	331.0	
M29	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	37	包含層	9.1	7.8	3.1	199.0	
M30	288	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	37	包含層	7.4	5.4	2.1	69.8	
M31	289	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	37	包含層	6.2	5.5	1.5	46.5	
M32	289	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	37	包含層	6.7	4.8	3.2	93.8	
M33	289	377	鉄製品	鉄滓	2005157		D	39	包含層	7.6	6.6	1.7	98.0	
M34	289	377	鉄製品	不明鉄製品	2005194		E	43	包含層	3.9	3.3	0.9	16.3	
M35	289	377	鉄製品	鉄製釣針	2006093		F	45	攪乱包含層	2.5	0.5	0.3	0.9	
M36	289	377	鉄製品	鉄製鋳	2006093	12C前半	F	45	SK047	4.3	1.6	1.2	9.1	
M37	289	377	鉄製品	鉄釘	2006093	12～13C	F	47	SD133	4.0	0.6	0.5	1.8	
M38	289	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12～13C	F	47	SD133	7.4	6.6	2.2	101.4	
M39	289	378	鉄製品	鉄滓	2006093		F	47	包含層	8.7	7	2.8	242.1	
M40	289	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12C後半	F	53	SB065P05	8.7	8.6	3.5	288.5	
M41	289	378	鉄製品	鉄塊	2006093	12C後半	F	53	SB065P12	6.9	5.2	2.7	111.8	AGH-6
M42	289	378	鉄製品	鉄釘	2006093	12C後半	F	53	SB065P12	2.8	1.8	0.9	3.1	
M43	289	378	鉄製品	鉄釘	2006093	12C後半	F	53	SB065P07	1.4	1.2	0.5	1.5	
M44	289	378	鉄製品	鉄釘	2006093	12C後半	F	53	SB065P07	2.8	1.5	1.1	11.5	
M45	290	378	鉄製品	鉄釘	2006093	12C	F	53	SB071P12	4.2	1.8	1.1	10.4	
M46	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12C	F	53	SB071P17	4.7	3.8	3.4	40.7	
M47	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12C後半	F	53	SK050	5.5	4.3	2.1	57.0	AGH-5
M48	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12C後半	F	53	SK050	4.7	3.8	2.9	33.7	
M49	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12C後半	F	53	SK050	7.6	5.8	4.9	186.7	
M50	290	378	鉄製品	鉄塊	2006093	12C後半	F	53	SK050	2.5	2.5	1.8	12.7	
M51	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093	12C後半	F	53	SK050	6.1	4.3	2.3	57.3	
M52	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093		F	53	包含層	6.8	6.5	4.0	167.4	
M53	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093		F	53	包含層	6.4	6.2	3.0	160.2	
M54	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093		F	55	SD166	3.5	2.6	1.5	18.7	
M55	290	378	鉄製品	鉄滓	2006093		F	55	包含層	7.7	7.2	3.5	180.7	
M56	291	379	鉄製品	鉄滓	2006093		F	56	SD183	6.1	3.1	3.3	43.2	
M57	291	379	鉄製品	鉄滓	2006093		F	56	包含層	8.9	7.2	3.5	151.4	
M58	291	379	鉄製品	鉄滓	2006093		F	56	包含層	7.6	5.4	4.2	180.5	
M59	291	379	鉄製品	鉄滓	2006093		F	56	包含層	10.9	8.4	3.9	372.1	
M60	291	379	鉄製品	鉄滓	2006093		F	56	包含層	7.7	7.4	2.7	160.1	

別表3 金属器一覽(2)

報告 番号	図版	写真 図版	種別	器種	調査番号	時期	調査 地区	調査区	遺構	法量				分析
										長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	
M61	291	379	鉄製品	鉄滓	2006093		F	56	包含層	7.4	5.4	2.8	119.6	
M62	291	379	鉄製品	鉄釘	2007057	13C	G	58	SB077P09	2.7	0.6	0.5	0.9	
M63	291	379	鉄製品	鉄滓	2007057	10C	G	58	SD201	5.2	3	2.3	36.2	
M64	291	379	鉄製品	鉄滓	2007057	10C	G	58	SD201	3.4	3.1	1.1	10.7	
M65	292	379	鉄製品	鉄滓	2007057	13C	G	58	SK061	9.6	8.3	3.7	346.6	
M66	292	379	鉄製品	鉄滓	2007057	13C	G	58	SK061	4.6	3	2.5	19.4	
M67	292	379	鉄製品	鉄滓	2007057	13C	G	58	SK061	2.8	1.9	1.7	6.6	
M68	292	379	鉄製品	不明鉄片	2007057	13C	G	58	SK061	2.3	2.2	1.2	6.7	
M69	292	379	鉄製品	鉄滓	2007057		G	58	SK063	4.4	2.6	1.0	9.7	
M70	292	379	鉄製品	鉄滓	2007057		G	58	包含層	7.2	4.4	1.8	62.9	
M71	292	380	鉄製品	鉄滓	2007057		H	62	包含層	9.5	8.1	3.0	302.6	
M72	292	380	鉄製品	鉄滓	2007057		H	62	包含層	8.9	7.8	3.3	187.2	
M73	292	380	鉄製品	鉄滓	2007057		H	62	包含層	8.7	7.1	2.8	163	
M74	292	380	鉄製品	鉄滓	2007057		H	62	包含層	5.2	4.2	1.6	30.6	
M75	292	380	鉄製品	鉄滓	2007057		H	63	包含層	6.7	4.9	3.9	151.6	
M76	第5図	380	銅製品	銅鏃	2005157	弥生後期	D	30	SD048	4.0	1.1	0.4	3.5	
M77	第5図	380	銅製品	銅銭	2006055	11C	B	7	包含層	2.2	2.2	孔径0.6	2.1	
M78	第5図	380	銅製品	銅銭	2006055	17C	B	10	包含層	2.5	2.5	孔径0.6	2.8	
M79	第5図	380	銅製品	銅銭	2007057	11C	C	19	包含層	2.4	2.4	孔径0.8	2.6	
M80	第5図	380	銅製品	銅銭	2007057	11C	G	58	SK061	2.4	2.5	孔径0.7	2.2	

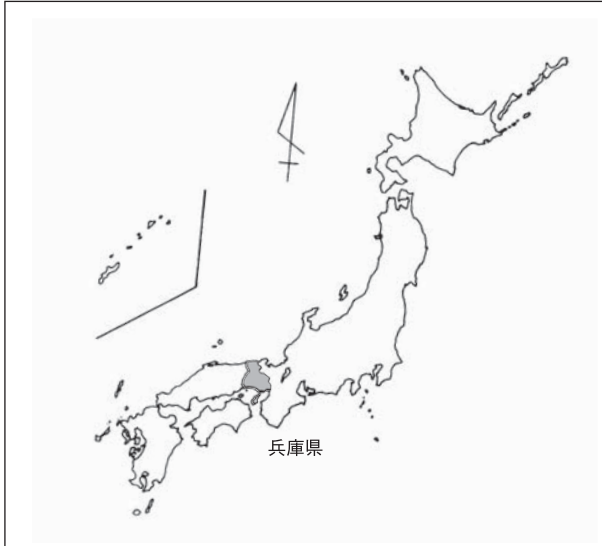
別表4 木製品一覧(1)

報告 番号	図版	写真 図版	種別	器 種	調査番号	時 期	調査 地区	調査区	遺 構	法量(cm)			樹 種	分 析
										長	幅	厚		
W1	293	381	木製品	礎板(鼻縁)	2007057		C	19	SB028P10	12.5	14.8	14.2	スギ	樹種No.42
W2	293	381	木製品	板材	2007057		C	19	SB030P09	(8.2)	0.3	2.4	ヒノキ	樹種No.38
W3	293	381	木製品	板材	2007057		C	19	SB030P14	(6.9)	3.6	0.4	スギ	樹種No.47
W4	293	381	木製品	杭	2005157		D	28	SW001	23.4	6.0	3.7		
W5	293	381	木製品	杭	2005157		D	28	SW001	26.5	2.6	2.4		
W6	293	381	木製品	杭	2005157		D	28	SW002	(31.6)	4.8	4.7		
W7	293	381	木製品	着木	2005157		D	28	SW003	(15.8)	0.7	0.5		
W8	293	381	木製品	杭	2005157		D	28	SW003	21.5	3.7	3.1		
W9	293	381	木製品	杭	2005157		D	28	SW003	28.6	3.2	3.2		
W10	293	381	木製品	矢板	2005157		D	28	SW003	64.0	10.5	2.6		
W11	294	382	木製品	杭	2005157		D	28	SW005	22.8	4.0	3.6	エノキ属	樹種No.13
W12	294	382	木製品	杭	2005157		D	28	SW005	(21.2)	2.6	2.4		
W13	294	382	木製品	杭	2005157		D	28	SW005	(28.9)	3.0	3.1		
W14	294	382	木製品	杭	2005157		D	28	SW005	(32.1)	3.6	3.9		
W15	294	382	木製品	杭	2005157		D	28	SW006	(47.5)	4.1	3.9		
W16	294	382	木製品	板材	2005157		D	28	SW007	(36.5)	2.2	14.5		
W17	294	382	木製品	板材	2005157		D	28	SW007	37.8	15.0	1.9	ヒノキ	樹種No.17
W18	294	382	木製品	板材	2005157		D	28	SW007	(41.0)	12.5	3.2		
W19	295	382	木製品	部材	2005157		D	28	SW007	(111.5)	14.9	2.9		
W20	295	382	木製品	田下駄?	2005157		D	28	SW007	48.0	8.1	1.8		
W21	295	382	木製品	板材	2005157		D	28	SW007	38.6	8.5	2.4		
W22	295	382	木製品	矢板	2005157		D	28	SW007	(44.0)	5.9	2.7		
W23	295	382	木製品	杭	2005157		D	28	SW007	46.4	5.0	2.4		
W24	296	383	木製品	鋤鍬	2005157		D	28	SW008	33.0	11.2	1.4	アカガシ亜属	樹種No.8
W25	296	383	木製品	矢板	2005157		D	28	SW008	(44.0)	12.0	4.3	ツブラジイ	樹種No.9
W26	296	383	木製品	杭か	2005157		D	28	SW008	(31.3)	5.1	3.3	クリ	樹種No.12
W27	296	383	木製品	板材	2005157		D	28	SW008	(38.4)	16.4	3.6		
W28	296	383	木製品	矢板	2005157		D	28	SW008	(45.4)	14.1	3.0	ヒノキ	樹種No.10
W29	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	(45.8)	4.7	4.3		
W30	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	36.5	4.4	4.4		
W31	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	(35.6)	4.4	4.6		
W32	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	(33.4)	3.8	3.5		
W33	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	19.1	3.6	3.1		
W34	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	22.6	3.7	3.4		
W35	297	383	木製品	杭	2005157		D	28	SW008	32.4	6.0	5.2	クヌキ節	樹種No.11
W36	298	384	木製品	又鍬	2005157		D	28	SD047	(43.0)	10.8	1.5	アカガシ亜属	樹種No.18
W37	298	384	木製品	鋤鍬?	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	40.0	6.4	3.1	アカガシ亜属	樹種No.15
W38	298	384	木製品	鋤鍬、くさび?	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(45.0)	7.7	2.6		
W39	298	384	木製品	矢板?	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	35.1	10.8	4.0		
W40	298	384	木製品	鋤鍬、くさび?	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(30.3)	7.7	3.0		
W41	298	384	木製品	田下駄?	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(74.9)	9.4	1.7		
W42	299	384	木製品	角材	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(21.4)	1.7	1.9		
W43	299	384	木製品	棒状	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(24.8)	2.9	1.4		
W44	299	384	木製品	板材	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(37.4)	6.8	2.4		
W45	299	384	木製品	割材	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(33.8)	6.6	5.0	シイ属	樹種No.16
W46	299	384	木製品	矢板?	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(48.7)	11.3	1.3		
W47	299	384	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	51.5	3.8	3.5		
W48	299	384	木製品	矢板	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	36.1	6.9	3.0	ヒノキ	
W49	299	384	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	24.6	4.8	3.5		
W50	299	384	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	27.8	3.5	3.4		
W51	299	384	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	25.8	3.7	3.3		
W52	299	384	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(15.1)	3.3	3.2		
W53	299	384	木製品	棒状	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(10.3)	3.0	2.6		
W54	300	385	木製品	板材	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	76.3	16.7	3.7		
W55	300	385	木製品	板材	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	(66.7)	11.5	(3.9)		
W56	300	385	木製品	角材	2005157	弥生時代中期	D	28	SW009	99.5	13.8	5.6		
W57	300	385	木製品	部材	2005157	縄文時代晩期～ 弥生時代中期	D	28	SD045	119.6	12.5	4.4		
W58	301	385	木製品	組合せ平鍬	2005157	縄文時代晩期～ 弥生時代中期	D	28	SD045	13.4	18.5	1.5	アカガシ亜属	樹種No.7
W59	301	385	木製品	有頭棒状	2005157	縄文時代晩期～ 弥生時代中期	D	28	SD045	4.3	3.5	2.9		

別表4 木製品一覧(2)

報告 番号	図版	写真 図版	種別	器 種	調査番号	時 期	調査 地区	調査区	遺 構	法量(cm)			樹 種	分 析
										長	幅	厚		
W60	301	385	木製品	板材	2005157	弥生時代後期	D	28	SD047	(26.9)	3.2	1.5		
W61	301	385	木製品	槽盤?	2005157	弥生時代後期	D	28	SD047	(29.2)	11.2	4.6	クスノキ	樹種No.19
W62	301	385	木製品	桶状	2005157	弥生時代後期	D	28	SD047	86.9	14.1	3.8		
W63	302	386	木製品	曲物底板	2005157	中世	D	35	SD086	15.0	3.9	0.8		
W64	302	386	木製品	糸巻き?	2005157	古墳時代初頭	D	35	SD077	(9.6)	1.5	(1.2)		
W65	302	386	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	34	SW011	17.3	3.8	3.5		
W66	302	386	木製品	杭	2005157	弥生時代中期	D	34	SW011	(13.1)	3.0	3.1	アカガシ亜属	樹種No.20
W67	302	386	木製品	矢板	2005157	弥生時代中期	D	34	SW011	(47.5)	9.0	4.0		
W68	302	386	木製品	部材	2005157	弥生時代中期	D	34	SW011	(53.9)	8.6	3.0	ヒノキ	樹種No.21
W69	302	386	木製品	鋤鍬?	2005157		D	30	SW010	(16.2)	5.2	2.7		
W70	302	386	竹		2005157	近代	D	36	SK037	19	2.1	1.8		
W71	302	386	竹	篋?	2005157	近代	D	36	SK037	(20.9)	0.9	0.4		
W72	302	386	竹	篋?	2005157	近代	D	36	SK037	(12.9)	1.0	0.6		
W73	302	386	木製品	薄板材	2005157	近代	D	36	SK037	12.3	2.2	0.3		
W74	302	386	木製品	板材	2005157	近代	D	36	SK037	(24.6)	5.1	0.5		
W75	302	386	木製品	角材	2005157	近代	D	36	SK037	(24.2)	(3.0)	(1.8)		
W76	302	386	木製品	板材	2005157	近代	D	36	SK037	(15.9)	4.8	1.1		
W77	302	386	木製品	板材	2005157	近代	D	36	SK037	18.5	6.4	1.0		
W78	302	386	木製品	板材	2005157	近代	D	36	SK037	5.9	4.0	1.5		
W79	302	386	木製品	部材	2005157	近代	D	36	SK037	59.2	4.1	4.8		
W80	303	387	木製品	礎板	2005157	中世	D	37	SB050P05	(17.4)	(8.8)	(6.4)		
W81	303	387	木製品	礎板(鼻縁)	2005157	中世	D	37	SB050P05	17.3	14.9	7.2	ヒノキ	樹種No.3
W82	303	387	木製品	礎板(鼻縁)	2005157	中世	D	37	SB050P05	14.9	18.7	3.3	スギ	樹種No.2
W83	303	387	木製品	礎板(板材)	2005157	中世	D	37	SB050P04	(17.4)	(8.8)	(6.4)	ヒノキ	樹種No.1
W84	303	387	木製品	礎板(鼻縁)	2005157	中世	D	37	SB050P02	12.8	13.5	4.6	ヒノキ	樹種No.4
W85	303	387	木製品	礎板	2005157	中世	D	37	SB050P02	(12.7)	10.8	3.0		
W86	303	387	木製品	礎板(鼻縁)	2005157	中世	D	37	SB050P02	13.5	12.5	5.1	ヒノキ	樹種No.5
W87	304	388	木製品	板材	2005157	弥生	D	37	SD046	40.5	7.8	1.6		
W88	304	388	木製品	板材	2005157	弥生時代後期	D	37	SD047	(27.3)	(6.3)	(1.2)	カキノキ属	樹種No.35
W89	304	388	木製品	部材	2005157	近代	D	37	SK041	(29.8)	(9.5)	1.7		
W90	304	388	木製品	杭	2005157	弥生時代後期	D	37	SD048	32.9	5.9	5.0		
W91	304	388	木製品	杭	2005157	弥生時代後期	D	37	SD048	(34.3)	5.2	4.9		
W92	304	388	木製品	杭	2005157	古墳	D	37	SD102	77.3	5.4	4.7		
W93	304	388	木製品	板材	2005157	古墳	D	37	SD100	(70.6)	8.8	2.7		
W94	304	388	木製品	板材	2005157	古墳	D	37	SD100	17.3	3.4	1.2		
W95	305	389	木製品	横杓子	2006093	古墳時代初頭	F	56	SD186	(33.3)	(16.5)	8.6	スギ	樹種No.29
W96	305	389	木製品	容器?	2006093	古墳時代初頭	F	56	SD186	23.6	6.5	1.3		
W97	305	389	木製品	部材	2006093	古墳時代初頭	F	56	SD186	(29.5)	2.9	1.6		
W98	305	389	木製品	棒状	2006093	古墳時代初頭	F	56	SD186	(53.9)	3.4	3.2		
W99	305	389	木製品	曲物底板	2006093	中世	F	47	SD133	9.7	3.4	0.7		
W100	305	389	木製品	把手	2006093	古墳時代初頭	F	49	SD138	10.9	2.0	1.9	ヒノキ	樹種No.46
W101	305	389	木製品	部材	2006093	古墳時代初頭	F	49	SD138	(32.9)	13.2	1.3		
W102	305	389	木製品	角材	2006093	古墳時代初頭	F	49	SD138	25.2	10.9	3.1	ヒノキ	樹種No.30
W103	305	389	木製品	板材	2006093	古墳時代初頭	F	55	SD163	(25.2)	11.4	2.5	ヒノキ	樹種No.32
W104	306	390	木製品	棒状	2007057	古墳時代初頭	G	58	SD201	(17.9)	4.0	1.4	ヒノキ	樹種No.48
W105	306	390	木製品	桶	2007057	古墳時代初頭	G	58	SD201	(33.4)	(22.0)	1.0	モミ属	樹種No.40
W106	306	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	49.2	5.3	5.6		
W107	306	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	(41.8)	4.5	4.3		
W108	306	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	(32.5)	4.5	4.4		
W109	306	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	(24.0)	4.7	4.3	アカガシ亜属	樹種No.45
W110	306	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	(15.6)	4.5	4.7		
W111	307	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	(31.0)	5.5	3.5	ヒノキ	樹種No.49
W112	307	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	39.9	6.8	3.1		
W113	307	390	木製品	杭	2007057	古墳時代初頭	G	58	SW012	54.5	6.0	4.3		
W114	307	390	木製品	杭	2007057		H	64	水田	(47.0)	(7.9)	(5.4)		

圖 版



1



2

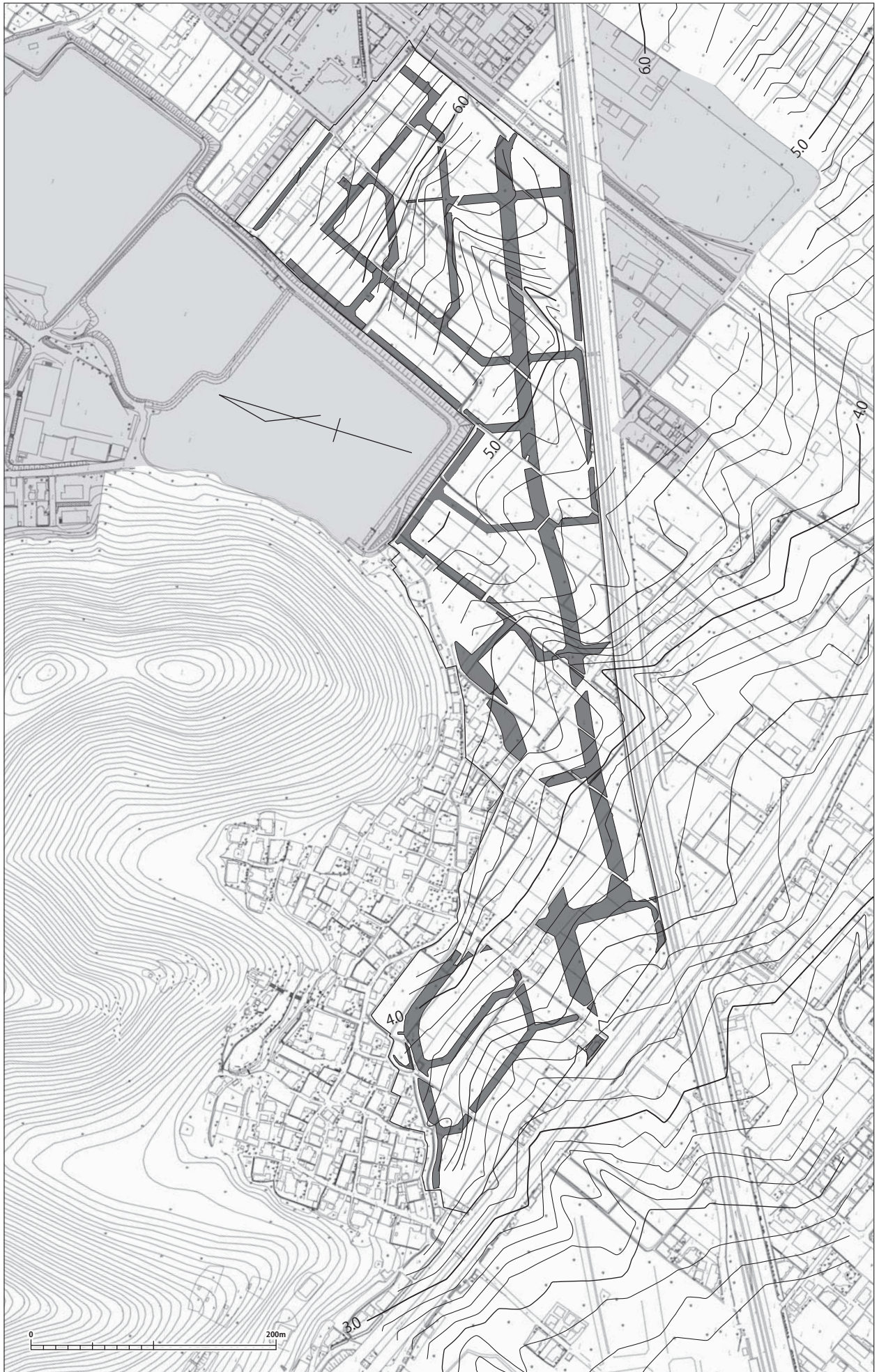


3

1 兵庫県の位置 2 姫路市の位置 3 池ノ下遺跡の位置 (1/200,000)



池ノ下遺跡周辺の地質 (1/100,000)



人工改变地 調査区

池ノ下遺跡周辺の微地形復原

No.	遺跡番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の時代	遺跡の種類
1	020377	蒲田遺跡	姫路市広畑区蒲田	奈良	散布地
2	020378~020385	山所群集墳	姫路市広畑区蒲田	古墳	古墳
3	020386	山所遺跡	姫路市広畑区蒲田	弥生	散布地
4	020387	山所廃寺	姫路市広畑区蒲田	奈良	寺院
5	020388	山所南遺跡	姫路市広畑区蒲田 2 丁目	弥生	散布地
6	020389	山崎城跡	姫路市飾磨区山崎	中世	城郭
7	020390・020391	稚児ヶ淵古墳群	姫路市飾磨区山崎	古墳	古墳
8	020574	村東遺跡	姫路市飾磨区山崎	平安・中世	集落
9	020392~020768	付城山群集墳	姫路市苫編	古墳	古墳
10	020396	付城山遺跡	姫路市苫編	弥生	散布地
11	020450	四ツ池遺跡	姫路市苫編～町坪	古墳	散布地
12	020578	池ノ下遺跡	姫路市苫編、町坪、飾磨区高町	旧石器～中世	集落
13	020397	辻垣内遺跡	姫路市飾磨区城南町 1 丁目	平安	散布地
14	020398	歌野橋遺跡	姫路市飾磨区英賀西町 3 丁目	弥生・古墳	集落
15	020399	英賀城跡	姫路市飾磨区英賀東町他	中世	城郭・寺院
16	020400	城田付城構跡	姫路市飾磨区高町	中世	城郭
17	020161	今宿遺跡	姫路市西今宿 5 丁目	奈良	散布地
18	020165	今宿丁田遺跡	姫路市東今宿 1～4 丁目	縄文～奈良	集落
19	020452	土山遺跡	姫路市西庄	弥生	散布地
20	020451	町田遺跡	姫路市岡田	古墳	散布地
21	020446	八反長遺跡	姫路市岡田	弥生	集落
22	020445	堂田遺跡	姫路市岡田	縄文	散布地
23	020449	村前遺跡	姫路市井ノ口	弥生	散布地
24	020448	法輪寺山遺跡	姫路市井ノ口	弥生	散布地
25	020576	豆田遺跡	姫路市町坪	平安・中世	集落
26	020575	大浄口遺跡	姫路市玉手	中世	集落
27	020419	中ノ町遺跡	姫路市玉手	弥生	散布地
28	020420	大石橋遺跡	姫路市玉手	弥生～中世	集落
29	020421	辻堂遺跡	姫路市玉手	中世	集落
30	020422	鹿谷道遺跡	姫路市玉手	弥生～中世	集落
31	020423	出手遺跡	姫路市玉手	中世	集落
32	020424	横枕遺跡	姫路市玉手	中世	集落
33	020425	東川遺跡	姫路市玉手	弥生	集落
34	020447	丁田遺跡	姫路市町坪～中地	弥生・古墳	集落
35	020416	西久保遺跡	姫路市中地南町	弥生	散布地
36	020415	邨東遺跡	姫路市中地	弥生	集落
37	020413	東久保遺跡	姫路市中地南町	弥生	散布地
38	020417	中地天神遺跡	姫路市中地南町	弥生～中世	集落
39	020418	権現遺跡	姫路市中地南町	縄文・弥生	集落
40	020412	大町遺跡	姫路市飾磨区構 5 丁目	弥生	散布地
41	020411	大塚遺跡	姫路市飾磨区構 5 丁目	弥生	散布地
42	020426	石田遺跡	姫路市飾磨区構 4 丁目	縄文・弥生	集落
43	020410	真福寺遺跡	姫路市飾磨区構 5 丁目	弥生・古墳	散布地
44	020409	構遺跡	姫路市飾磨区構 3 丁目	縄文・弥生	散布地
45	020408	南雲遺跡	姫路市飾磨区構 3 丁目	弥生・古墳	散布地
46	020405	今在家平塚遺跡	姫路市飾磨区今在家 7 丁目	古墳	散布地
47	020406	タテノ遺跡	姫路市飾磨区構 1 丁目	弥生・古墳	散布地
48	020407	坂川遺跡	姫路市飾磨区構 1 丁目	古墳	散布地
49	020401	栗木遺跡	姫路市飾磨区今在家 6 丁目	弥生・古墳	散布地
50	020403	石ヤ田遺跡	姫路市飾磨区加茂北	古墳～中世	集落
51	020402	加茂遺跡	姫路市飾磨区加茂	中世	城郭
52	020404	構石田遺跡	姫路市飾磨区構	中世	散布地
53	020164	名古山遺跡	姫路市名古山町	弥生	集落
54	020572	岩端町遺跡	姫路市岩端町	弥生	集落
55	020453	千代田遺跡	姫路市千代田町	縄文・弥生	散布地
56	020444	山崎遺跡	姫路市西延末	弥生	集落
57	020872	手柄山北丘遺跡	姫路市西延末	旧石器～古墳	集落・散布地
58	020443	手柄山北丘頂上古墳	姫路市西延末	古墳	古墳
59	020442・020873~020883	手柄山北丘群集墳	姫路市西延末	古墳	古墳
60	020884	手柄山南丘遺跡	姫路市西延末	弥生	集落
61	020885~020888	手柄山南丘群集墳	姫路市西延末	古墳	古墳
62	020454	村淵遺跡	姫路市延末 1 丁目	弥生	散布地
63	020441	橋詰遺跡	姫路市延末	縄文～古墳	集落
64	020440	黒表遺跡	姫路市東延末	弥生・古墳	散布地
65	020439	小山遺跡	姫路市延末	弥生・古墳	集落
66	020438	生矢神社裏遺跡	姫路市手柄	弥生	散布地
67	020436	浜田遺跡	姫路市手柄	弥生	散布地
68	020437	古屋敷遺跡	姫路市手柄 1 丁目	弥生・古墳	散布地
69	020435	竹の前遺跡	姫路市手柄	弥生・古墳	散布地
70	020414	長越遺跡	姫路市飯田	弥生・古墳	集落
71	020940	湯田遺跡	姫路市飯田	弥生・古墳	集落
72	020432	畑田遺跡	姫路市飯田	縄文～中世	集落
73	020427	カスカエ遺跡	姫路市飯田	弥生～平安	その他
74	020428	飯田カスカエ遺跡	姫路市飯田	縄文～古墳	集落
75	020431	善慶田遺跡	姫路市飯田	弥生・古墳	集落
76	020430	笹山田遺跡	姫路市飯田	平安	集落
77	020429	大鳥遺跡	姫路市飯田	縄文	散布地
78	020433	石ヶ坪遺跡	姫路市亀山	縄文・弥生	散布地
79	020434	三宅遺跡	姫路市飾磨区三宅 1 丁目他	奈良	官衙
80	020926	光明寺跡	姫路市飾磨区御幸	中世	寺院
81	020520	西通り遺跡	姫路市飾磨区中島	古墳～中世	散布地
82	020577	南通り遺跡	姫路市飾磨区中島	弥生～中世	弥生～中世

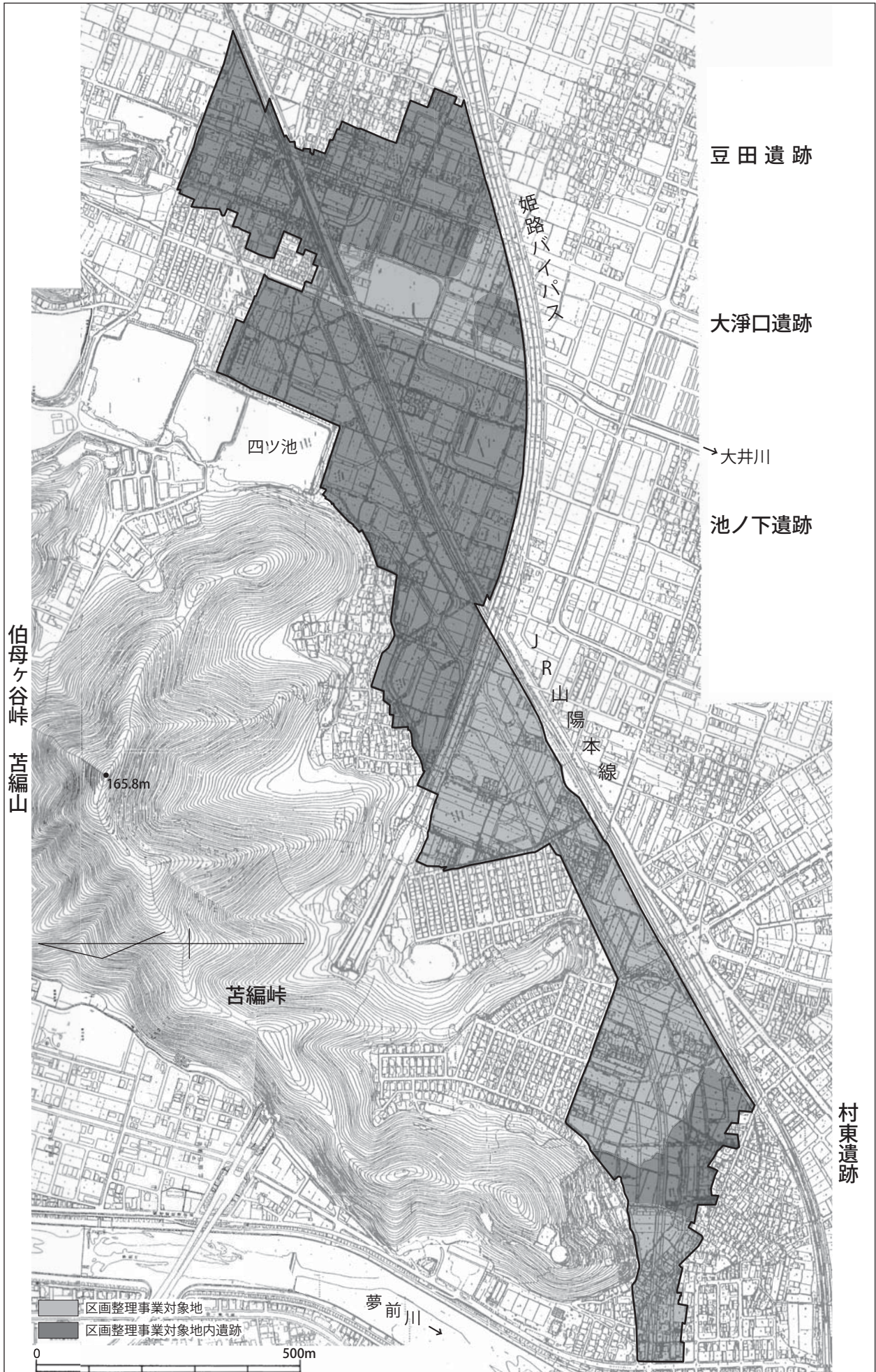
池ノ下遺跡周辺の主要遺跡一覧



池ノ下遺跡周辺の主要遺跡 (1/25,000)



明治 39 年の池ノ下遺跡周辺 (1/20,000)



中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業用地と遺跡 (1/1,000)

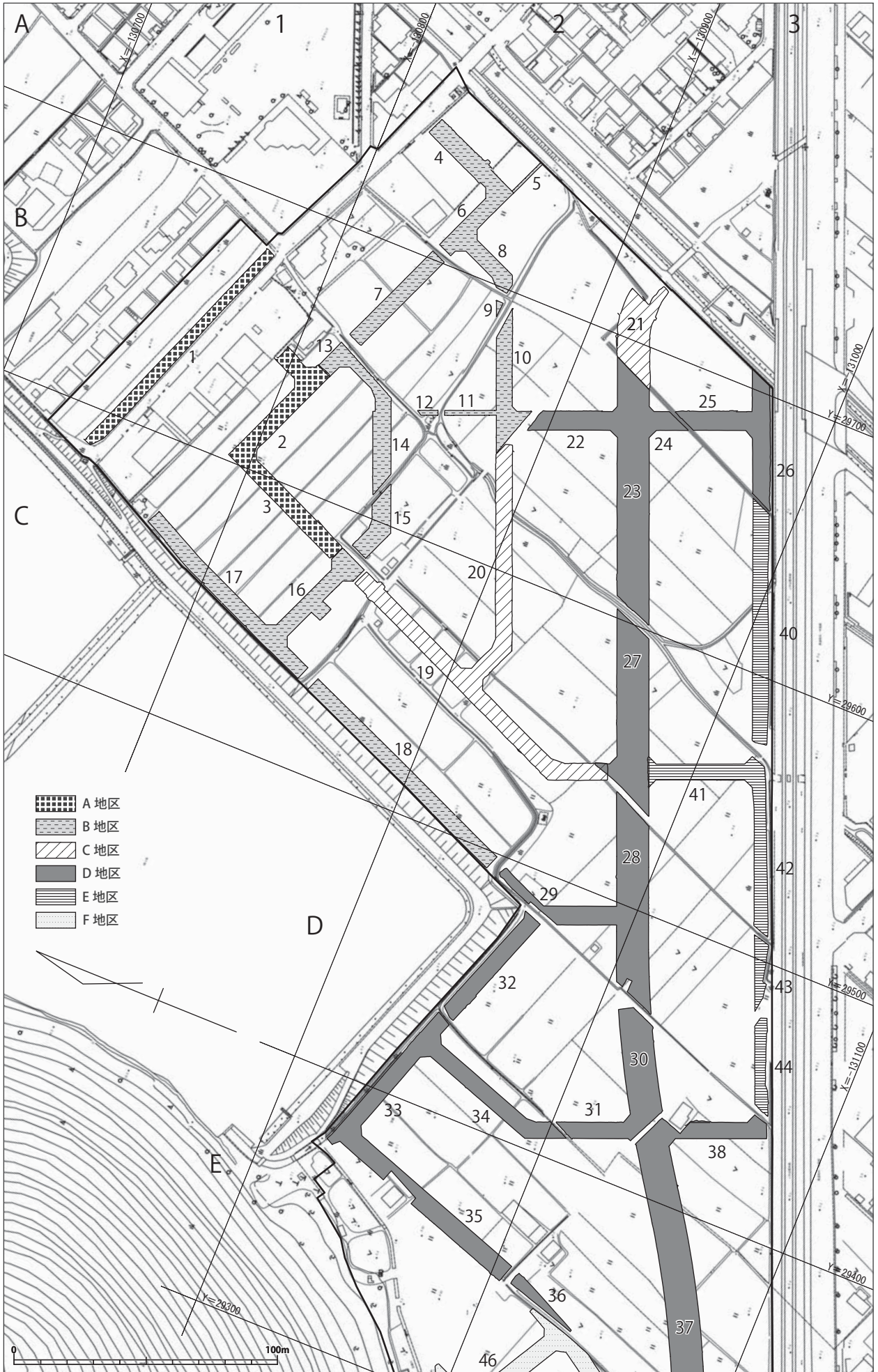
図版 8 遺跡



池ノ下遺跡確認調査位置



池ノ下遺跡調査区位置

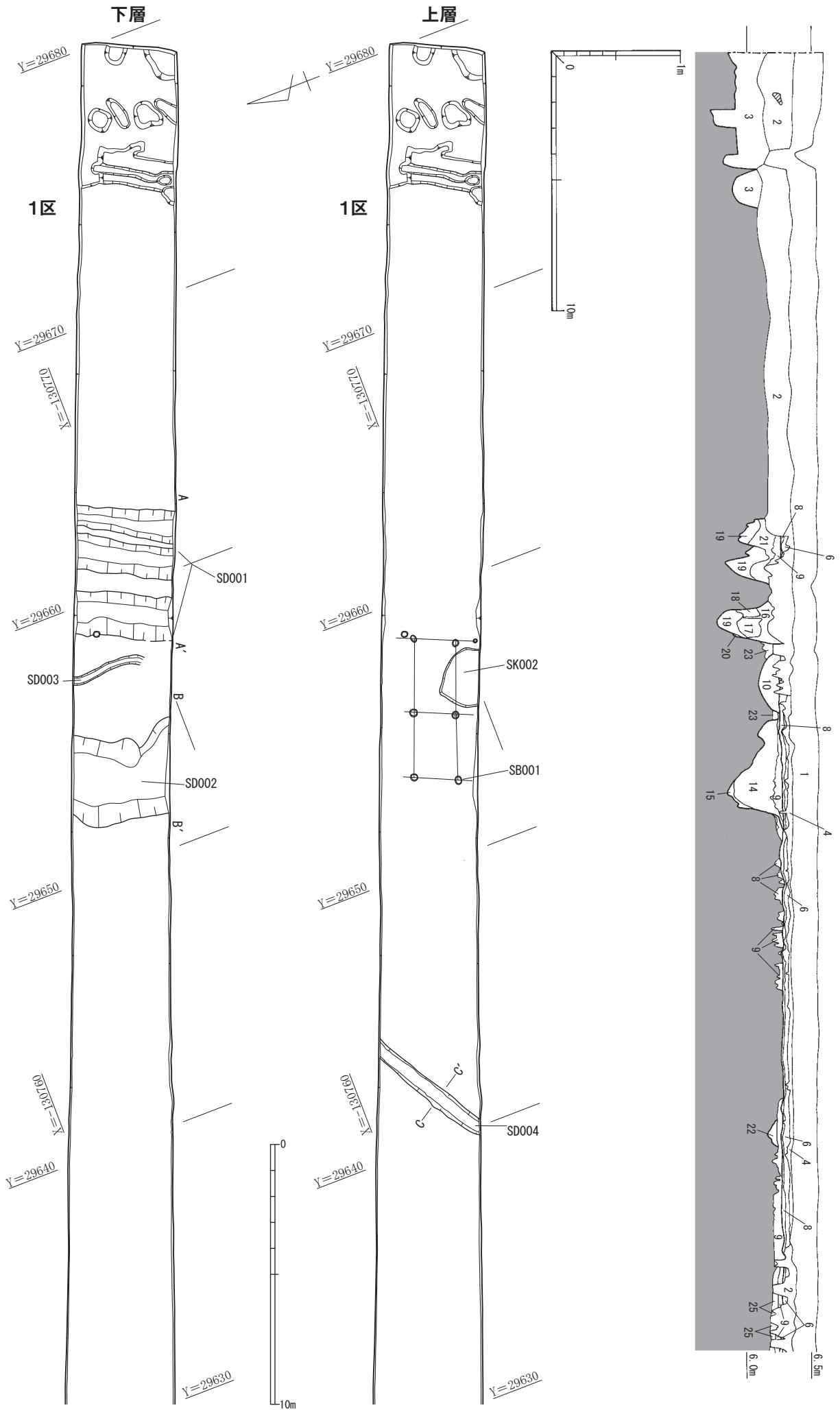


池ノ下遺跡調査区位置 (東部)

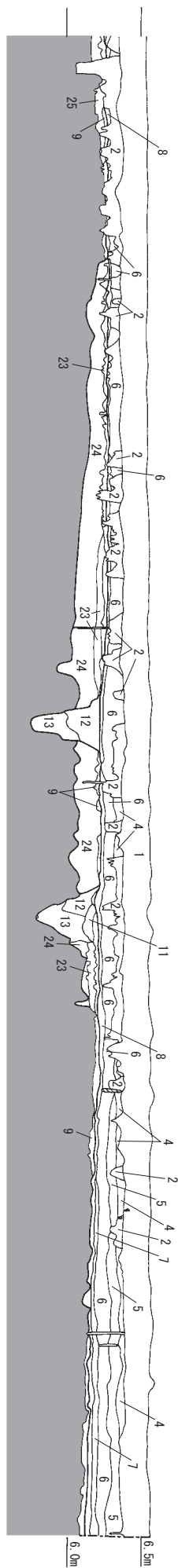


池ノ下遺跡調査区位置 (西部)

図版 12 遺構 A 地区 1 区

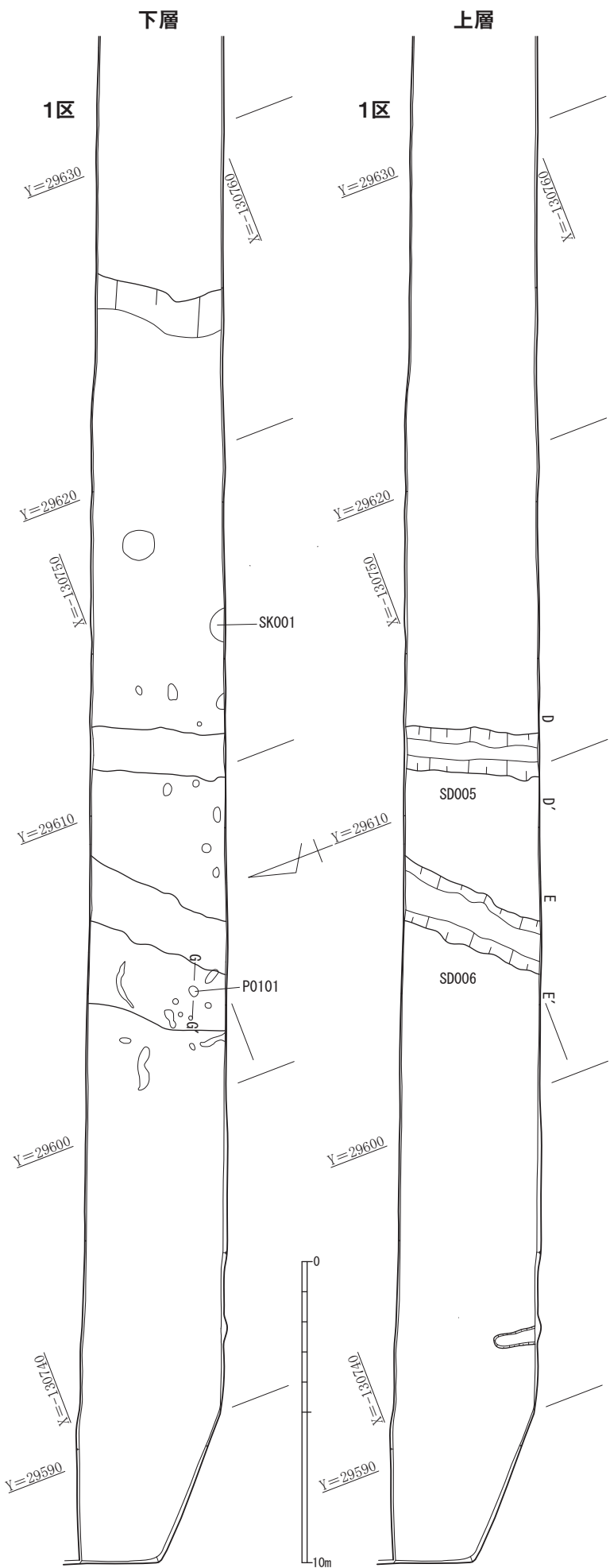


東半部 下層・上層遺構配置 土層断面



図版12・13

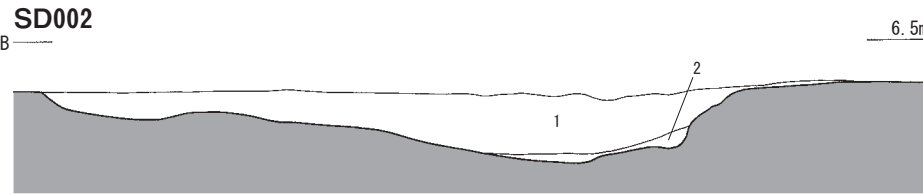
- | | | |
|---------------------|------------------------------|----------------------------|
| 1. [耕作土] | 10. 灰黄褐 極細砂(暗褐シルト質極細砂粒混じる) | 19. 暗褐 細砂~粗砂(細礫混じるラミナ) |
| 2. [床土] | 11. 黄褐 極細砂 | 20. 暗褐 シルト質極細砂(細礫混じる) |
| 3. にさい黄褐と灰黄褐 極細砂混じる | 12. にさい黄褐 極細砂 | 21. 暗褐 シルト質極細砂~細砂 |
| 4. 灰黄褐 極細砂 | 13. 暗灰黄 細砂~粗砂(ラミナ成分比著) | 22. 灰黄褐 極細砂(黄褐シルト質極細砂粒混じる) |
| 5. にさい黄褐 極細砂(Mn含有) | 14. 暗褐 シルト質極細砂(ラミナ) | 23. 暗褐 シルト質極細砂 |
| 6. にさい黄褐 極細砂 | 15. 暗灰 細砂(細礫~極粗砂混じるラミナ) | 24. 褐 シルト質極細砂(Mn・炭含有) |
| 7. 灰黄褐 極細砂 | 16. 暗褐 シルト質極細砂(細礫混じる) | 25. 暗灰黄 シルト質極細砂 |
| 8. にさい黄褐 シルト質極細砂 | 17. 灰黄褐 極細砂 | |
| 9. 灰黄褐 シルト質極細砂 | 18. 黒 シルト質極細砂(黄褐シルト質極細砂粒混じる) | |



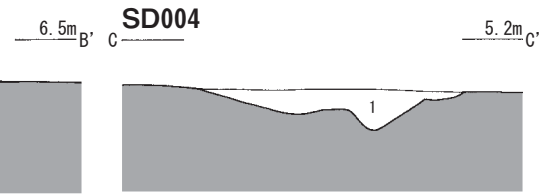
西半部 下層・上層遺構配置 土層断面



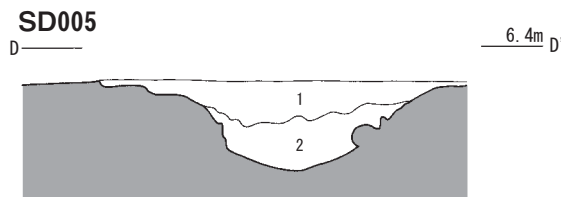
- 1. 暗褐 シルト質極細砂～細砂
- 2. 黒 シルト質極細砂(黄褐シルト質極細砂粒混じる)
- 3. 暗褐 細砂～粗砂(細礫混じるラミナ)
- 4. 暗褐 シルト質極細砂(細礫混じる)



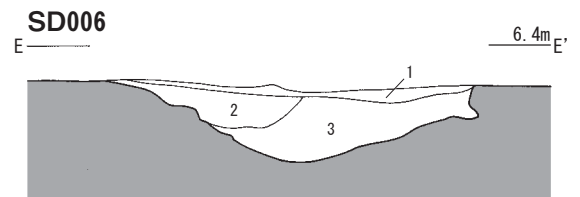
- 1. 暗褐 シルト質極細砂(ラミナ)
- 2. 褐灰 細砂(細礫～極粗砂混じるラミナ)



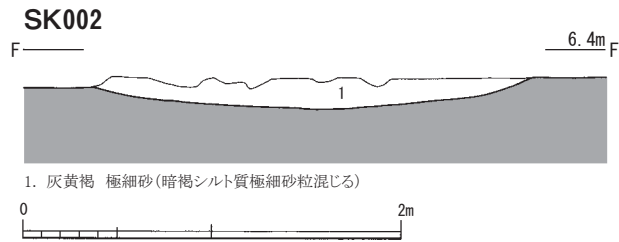
- 1. 灰黄褐 極細砂(黄褐シルト質極細砂粒混じる)



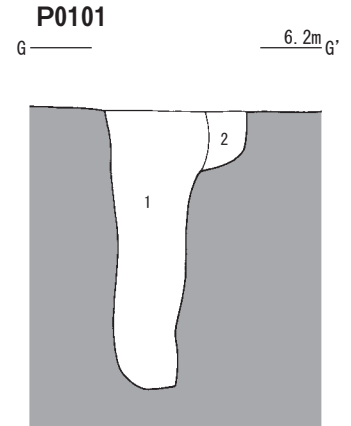
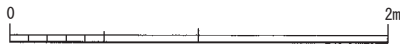
- 1. 黄褐 極細砂
- 2. 暗灰黄 細砂～粗砂(ラミナ鉄分沈着)



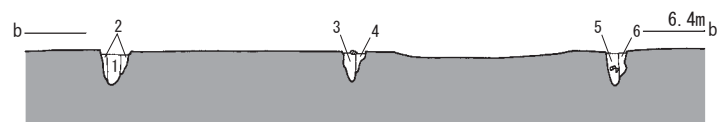
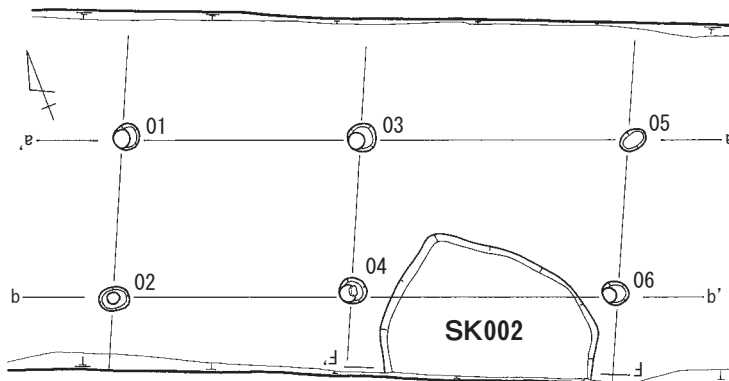
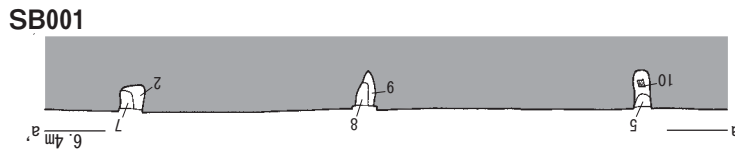
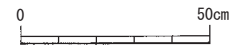
- 1. 黄褐 極細砂
- 2. にぶい黄褐 極細砂
- 3. 暗灰黄 細砂～粗砂(ラミナ鉄分沈着)



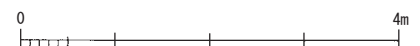
- 1. 灰黄褐 極細砂(暗褐シルト質極細砂粒混じる)



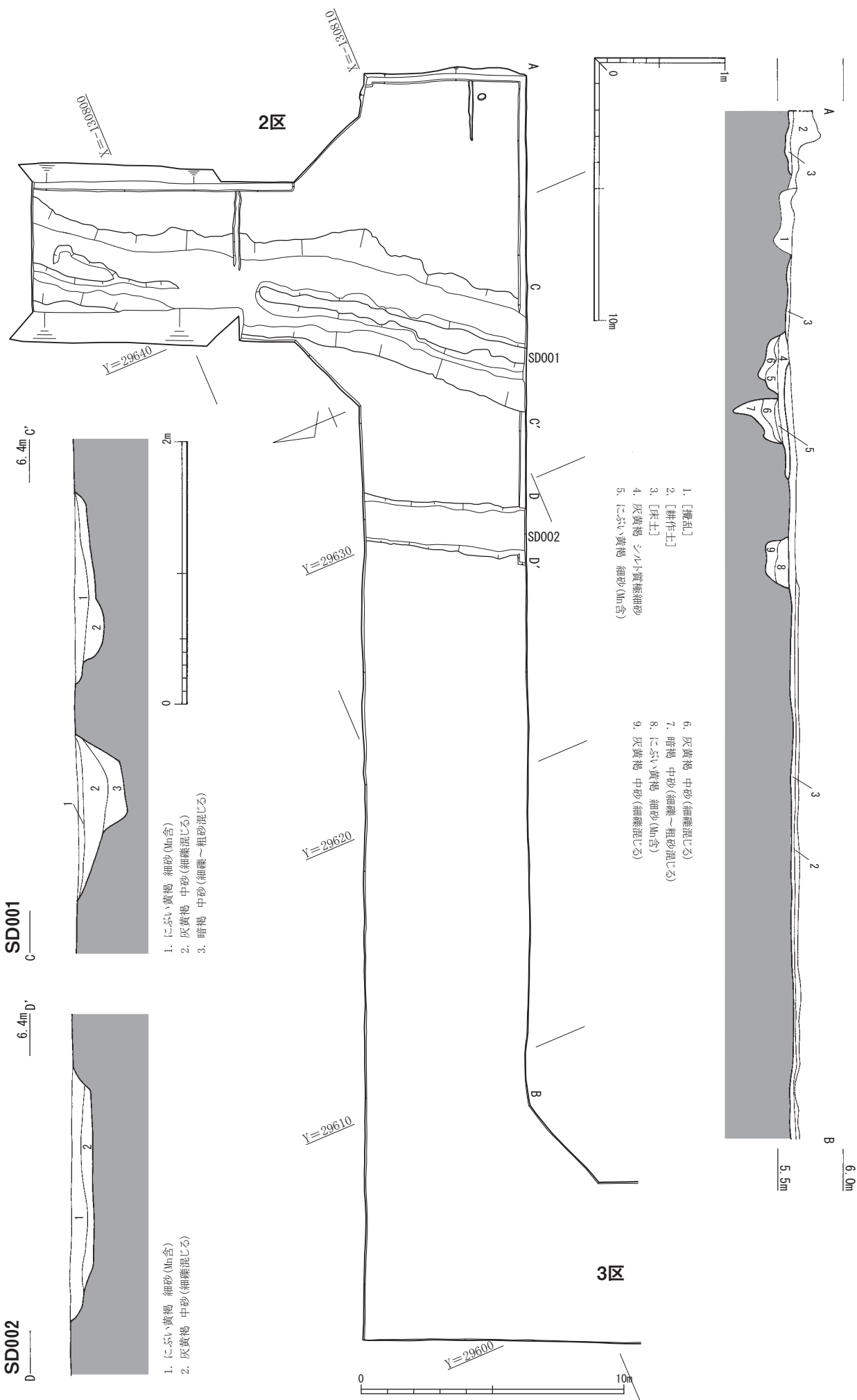
- 1. 黒褐 シルト質極細砂(褐シルト質極細砂粒混じる炭多量に含)
- 2. にぶい黄褐 シルト質極細砂(炭混じる)



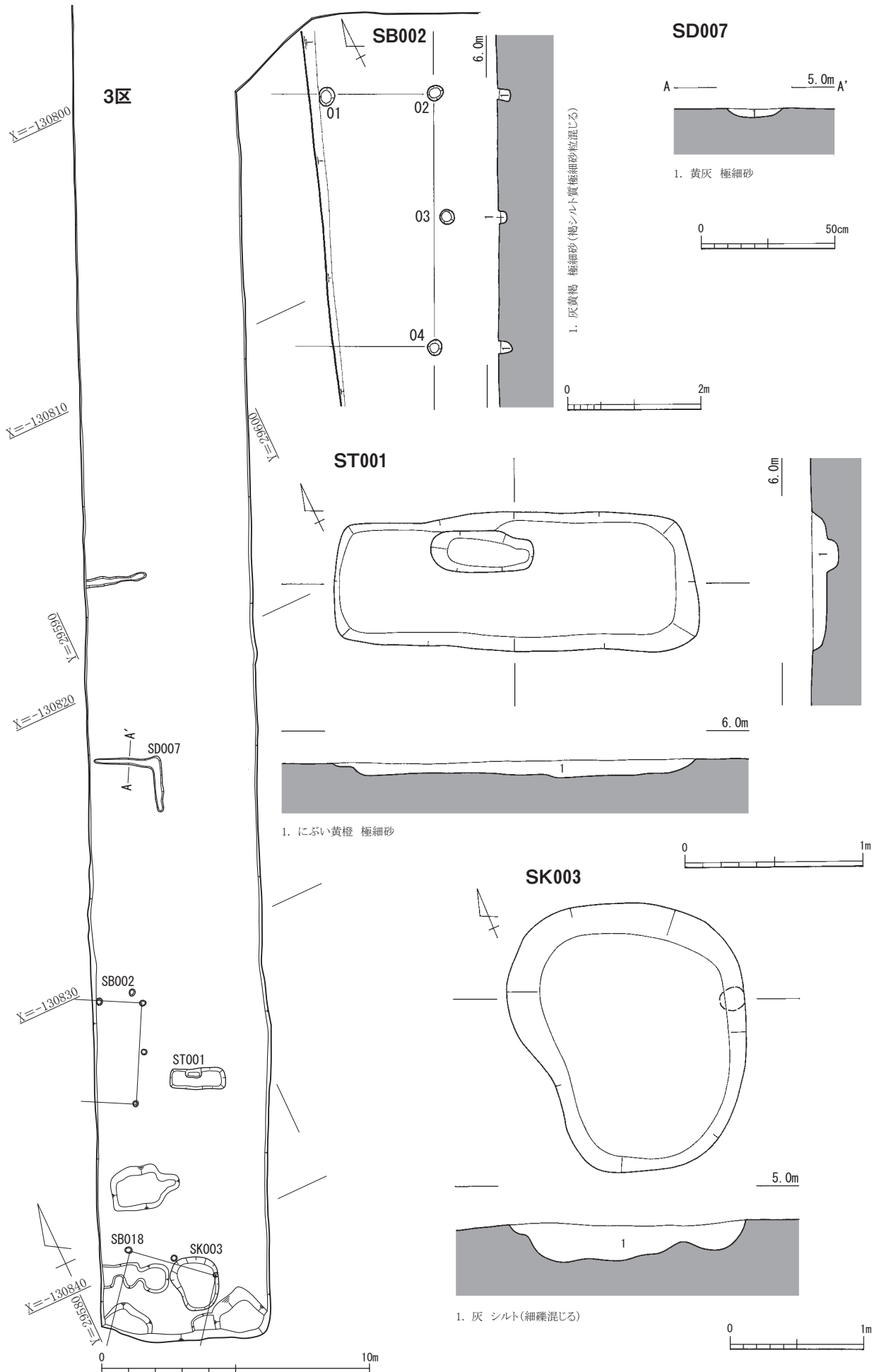
- 1. 褐灰 極細砂(黒褐シルト質極細砂粒僅かに混じる)
- 2. 褐灰 極細砂(黒褐シルト質極細砂粒多く混じる)
- 3. 灰黄褐 極細砂(黒褐シルト質極細砂粒混じる)
- 4. 褐 極細砂(黒褐及びにぶい黄褐シルト質極細砂粒混じる)
- 5. 灰黄褐 極細砂
- 6. 暗褐 シルト質極細砂(灰黄褐極細砂混じる)
- 7. 褐灰 極細砂
- 8. 灰黄褐 極細砂(にぶい黄褐シルト質極細砂混じる)
- 9. にぶい黄褐 極細砂(灰黄褐シルト質極細砂粒混じる)
- 10. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる)



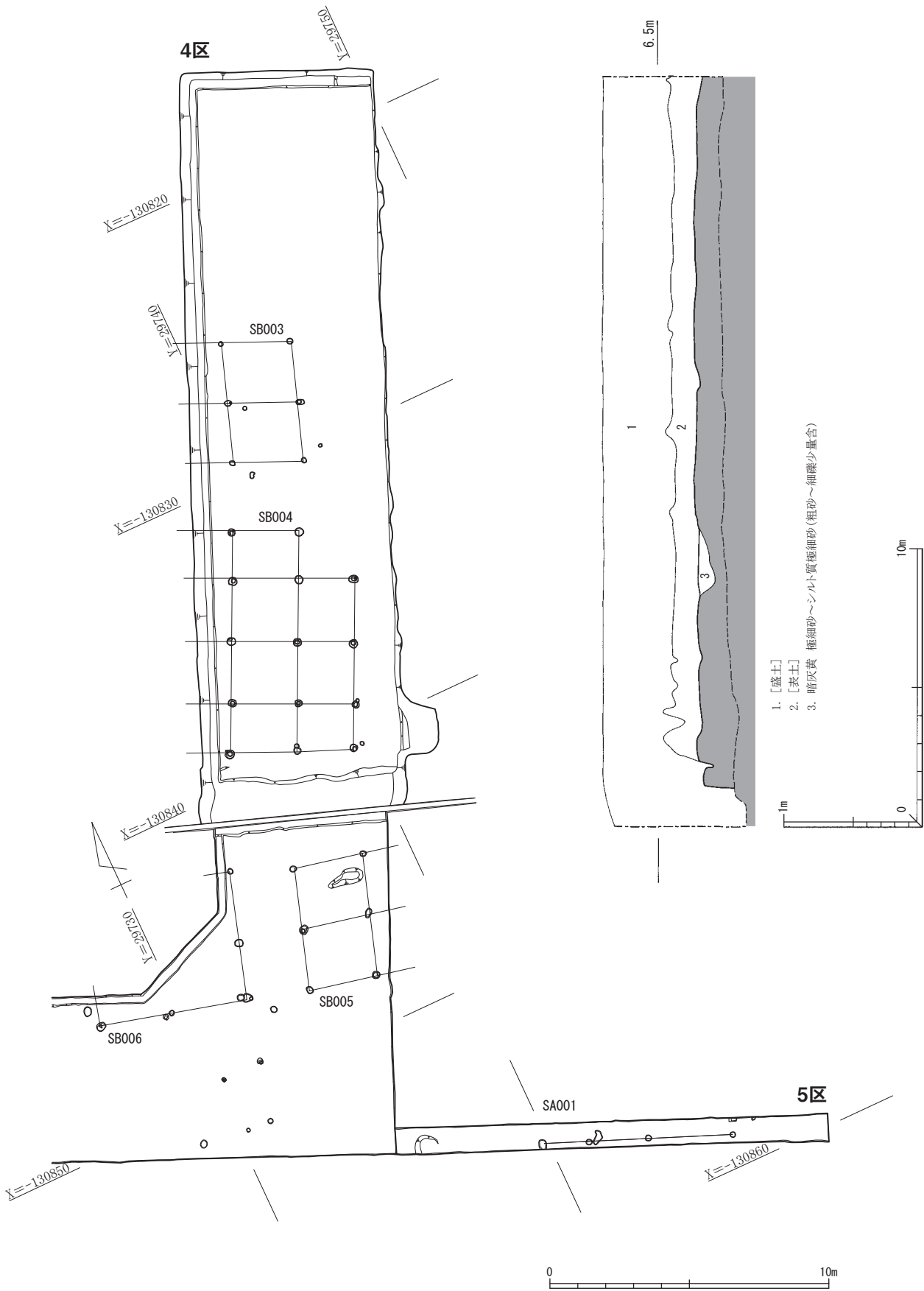
溝 SD001・SD002・SD004～SD006 土層断面 柱穴 P0101 土層断面 掘立柱建物 SB001



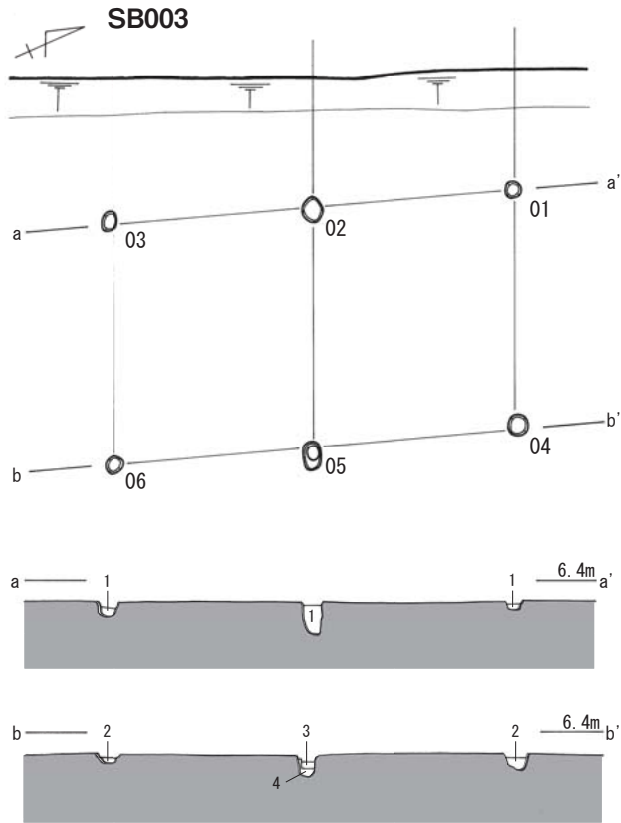
遺構配置 土層断面 溝 SD001・SD002 土層断面



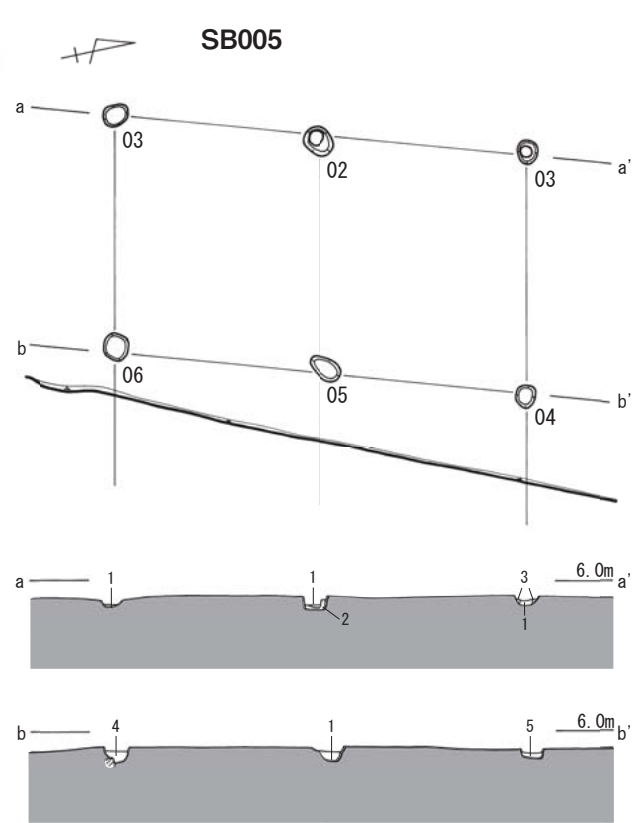
遺構配置 土層断面 掘立柱建物 SB002 溝 SD007 土層断面 土壇墓 ST001 土坑 SK003



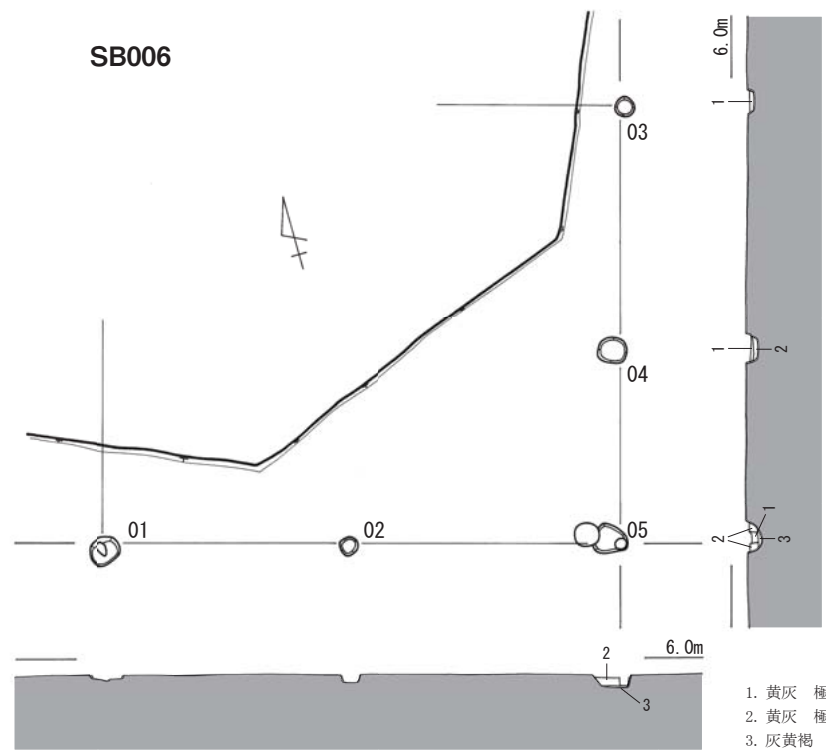
遺構配置 土層断面



1. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂（細礫～中礫少量混じる）
2. 暗灰黄 極細砂（細礫～中礫少量混じる）
3. 黒褐 シルト質極細砂（炭含）
4. 暗灰黄 極細砂（粗砂少量混じる）

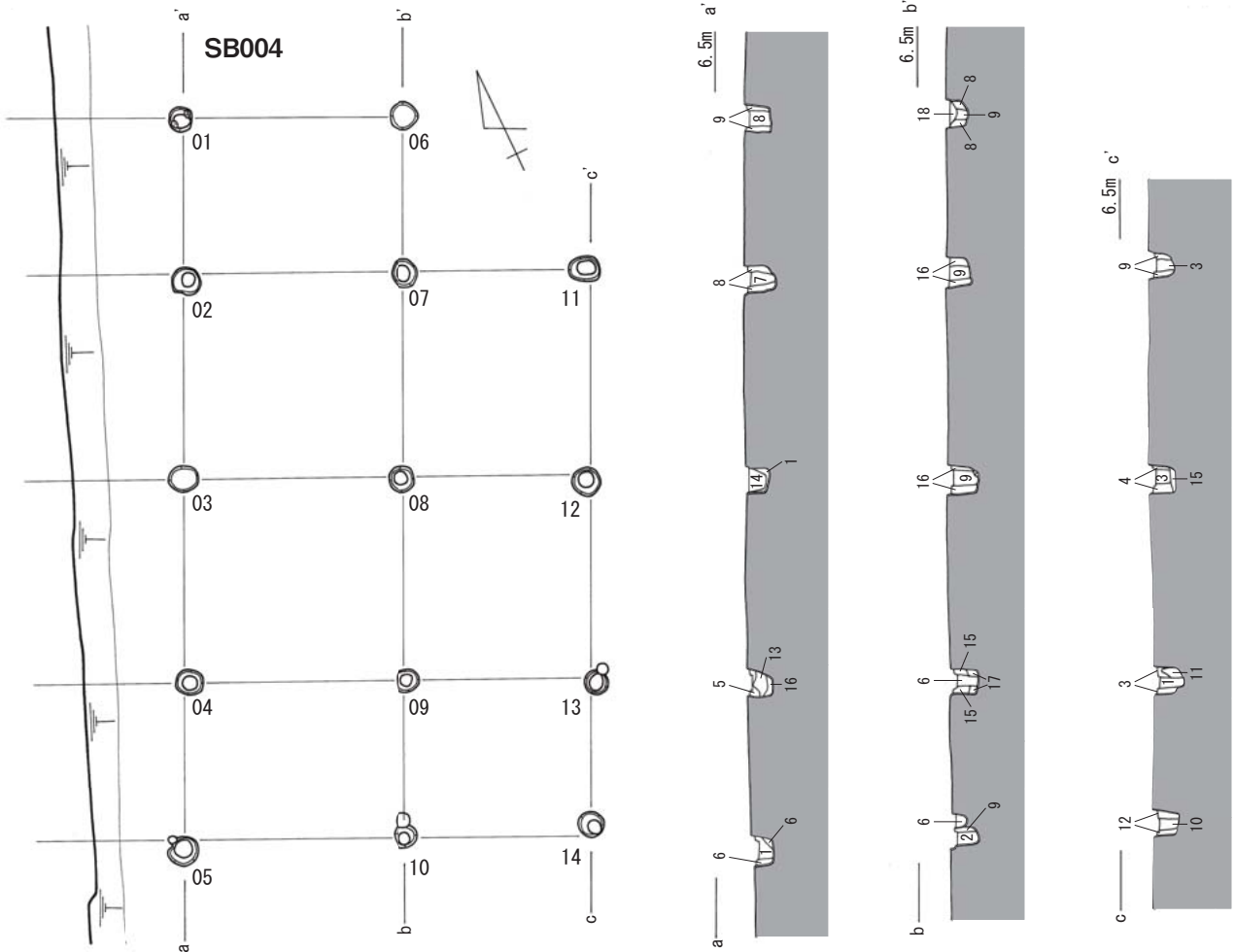


1. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂（粗砂少量混じる）
2. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂（粗砂少量混じる）
3. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂（粗砂～細礫混じる）
4. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂（細礫少量混じる）
5. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂（粗砂混じる）

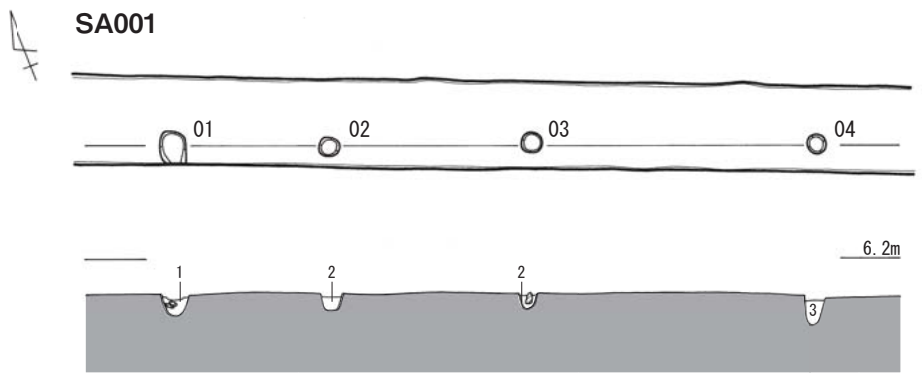


1. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂（細礫少量混じる）
2. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂（粗砂～細礫少量混じる）
3. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂（細砂～中砂混じる）

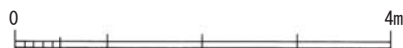




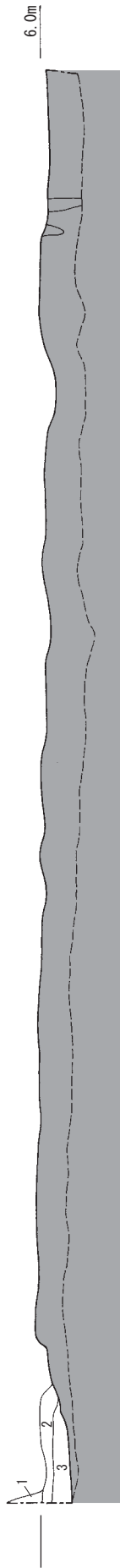
- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. 暗灰黄 極細砂 | 11. 暗灰黄 シルト質極細砂 (炭少量含) |
| 2. 暗灰黄 極細砂 (細礫~中礫少量混じる) | 12. 暗灰黄 極細砂~シルト質極細砂 |
| 3. 暗灰黄 極細砂 (細礫少量混じる) | 13. 褐 極細砂 |
| 4. 暗灰黄 極細砂 (細礫少量・黄褐ブロック混じる) | 14. 黄褐 極細砂 (細礫混じる) |
| 5. 暗灰黄 極細砂 (粗砂~細礫混じる) | 15. 黄褐 極細砂~シルト質極細砂 |
| 6. 暗灰黄 極細砂~シルト質極細砂 | 16. 黄褐 極細砂~シルト質極細砂 (細礫少量混じる) |
| 7. 暗灰黄 極細砂~シルト質極細砂 (細砂~中礫混じる) | 17. 黄灰 極細砂~シルト質極細砂 (細礫少量混じる) |
| 8. 暗灰黄 極細砂~シルト質極細砂 (細礫~中礫混じる) | 18. 灰黄 極細砂 (細礫少量混じる) |
| 9. 暗灰黄 極細砂~シルト質極細砂 (細礫少量混じる) | |
| 10. 暗灰黄 シルト質極細砂 | |



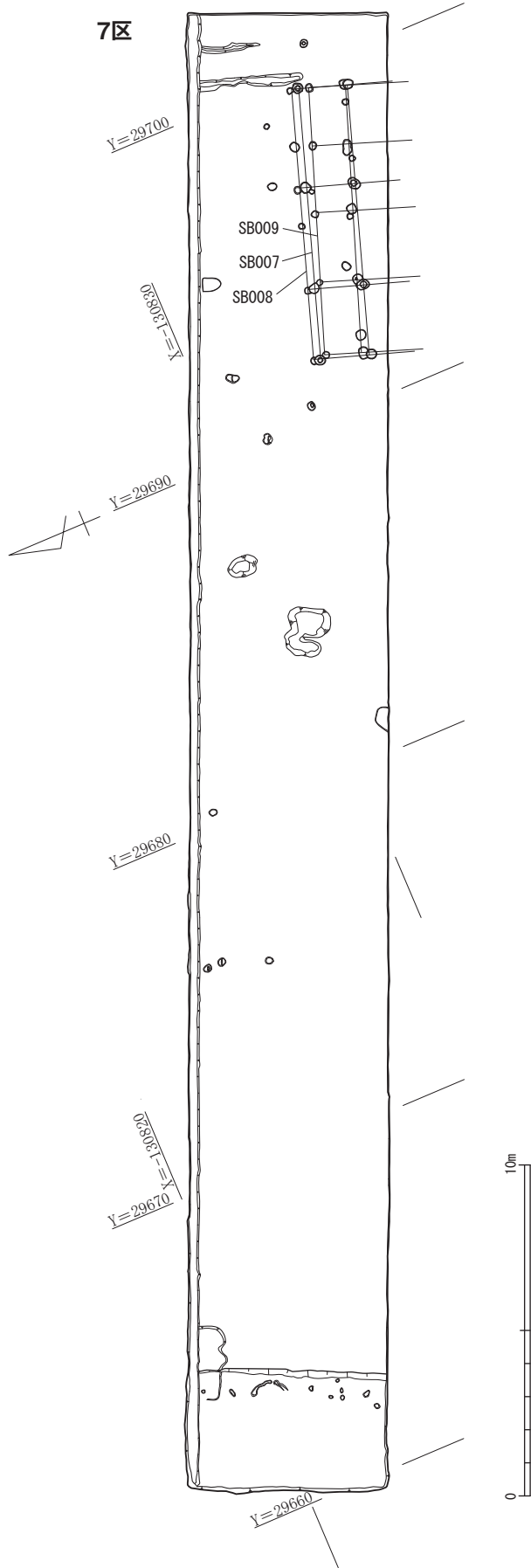
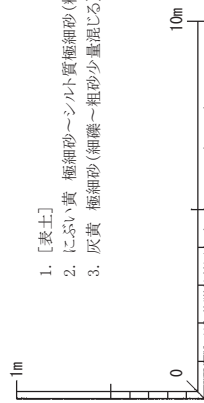
1. 黄灰 極細砂~シルト質極細砂 (粗砂~細礫少量混じる、炭少量含)
2. 黄灰 極細砂~シルト質極細砂 (粗砂~細礫少量混じる)
3. 黄灰 極細砂~シルト質極細砂 (粗砂~細礫混じる)



掘立柱建物 SB004 柵 SA001

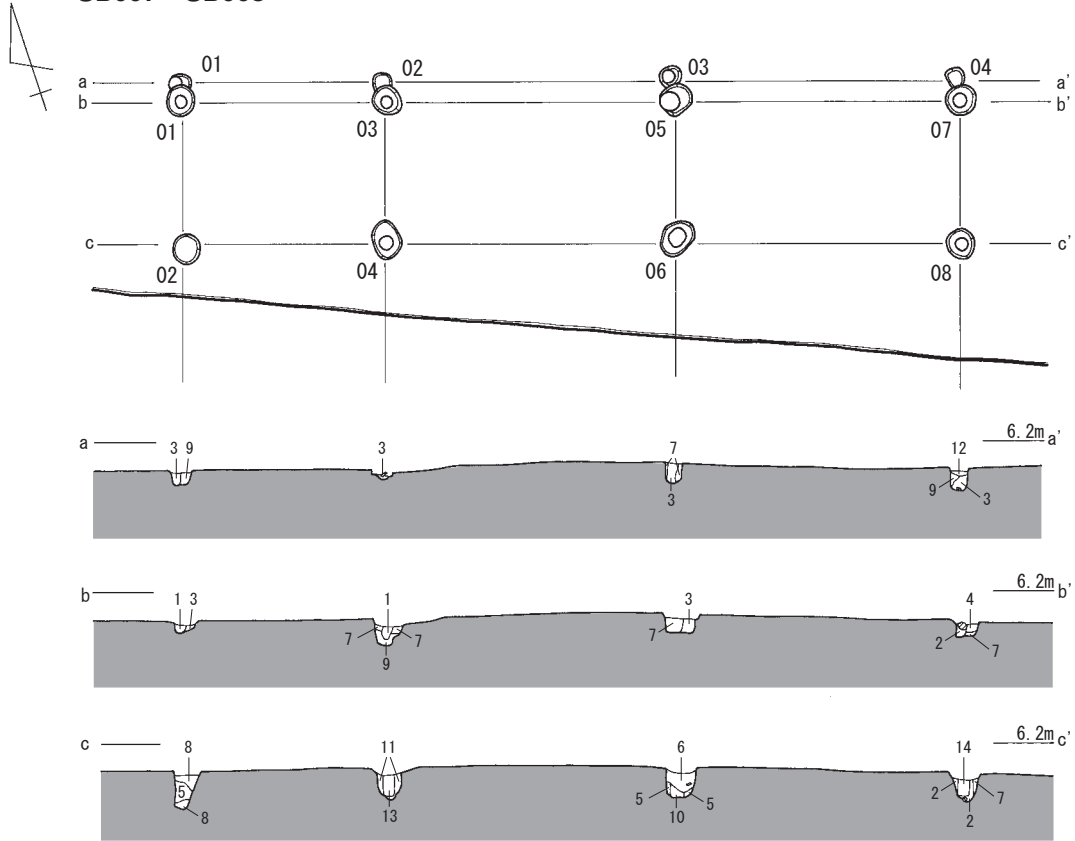


1. [表土]
2. にぶい黄 極細砂～シルト質極細砂(粗砂少量混じる)
3. 灰黄 極細砂(細礫～粗砂少量混じる)



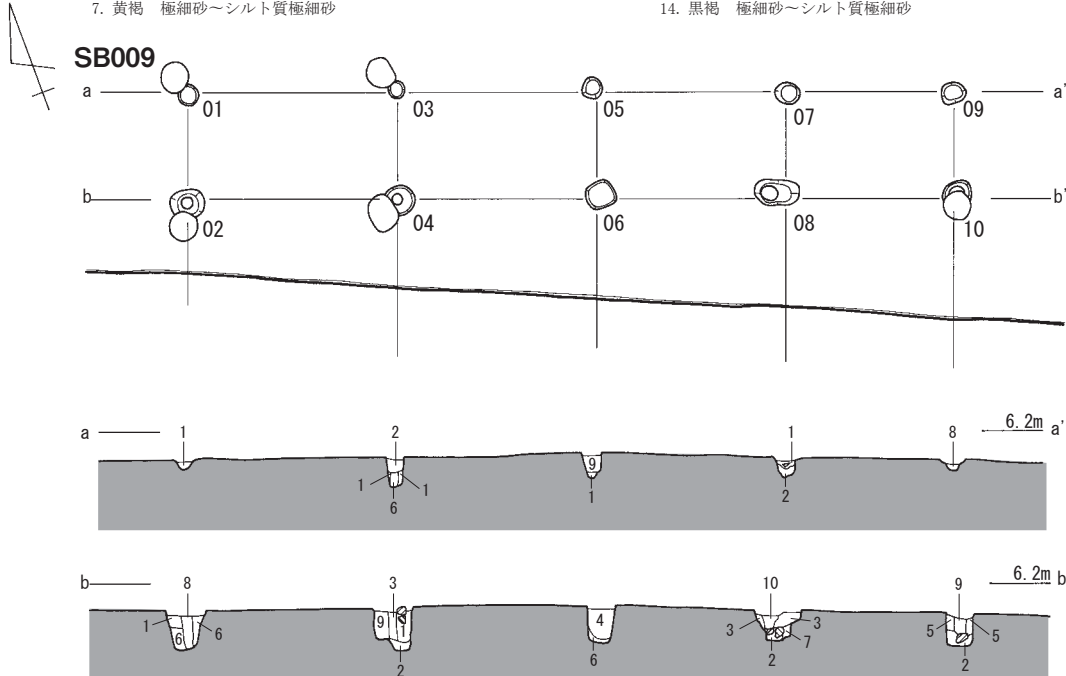
遺構配置 土層断面

SB007・SB008

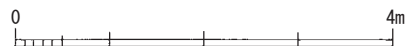


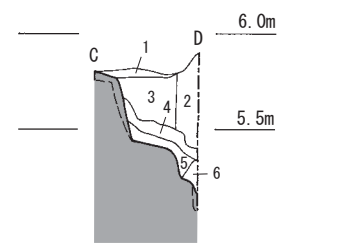
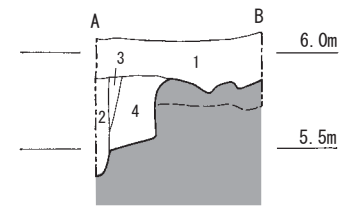
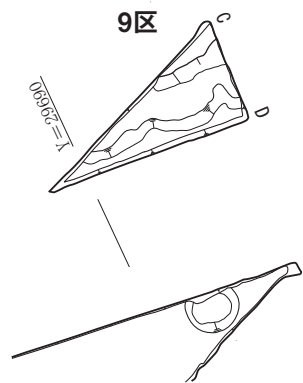
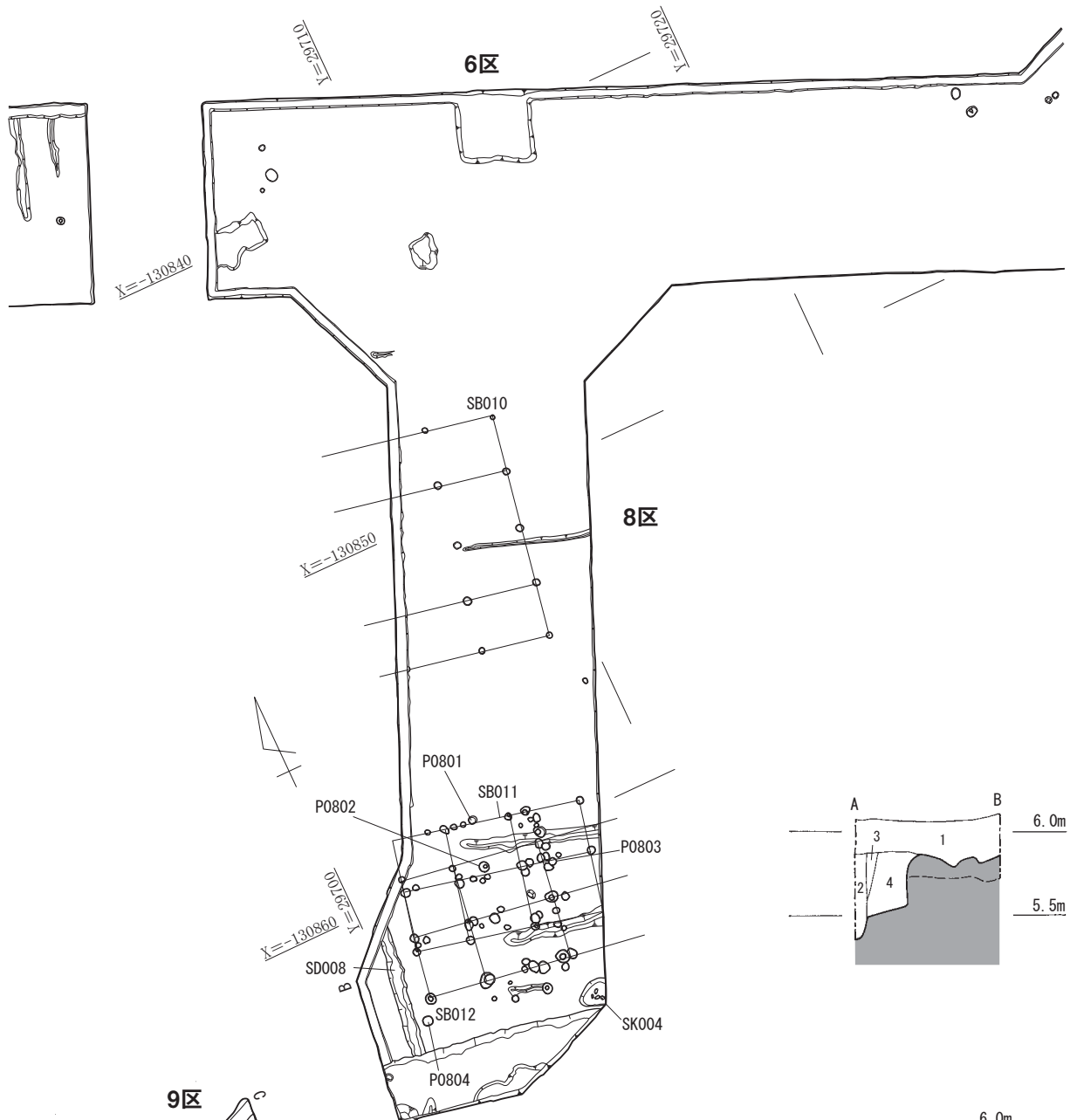
- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 暗灰黄 極細砂 | 8. 黄灰 シルト質極細砂 |
| 2. 暗灰黄 極細砂 (炭含) | 9. 黄褐 シルト質極細砂 |
| 3. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 | 10. 黄灰 シルト質極細砂 (細礫混じる) |
| 4. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (黒褐色土ブロック混じる) | 11. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 |
| 5. 暗灰黄 シルト質極細砂 | 12. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂混じる) |
| 6. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (細礫混じる) | 13. 黒褐 シルト質極細砂 (黄褐シルト質極細砂粒混じる) |
| 7. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂 | 14. 黒褐 極細砂～シルト質極細砂 |

SB009

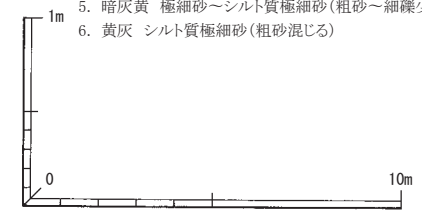


- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 | 6. 黄褐 シルト質極細砂 |
| 2. 暗灰黄 シルト質極細砂 | 7. 黄褐 シルト質極細砂 (黒褐ブロック混じる) |
| 3. 暗灰黄 シルト質極細砂 (黒褐ブロック混じる) | 8. 黄灰 極細砂 |
| 4. 灰黄 極細砂 (黒褐ブロック混じる) | 9. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 |
| 5. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂 | 10. 黄灰 シルト質極細砂 (炭含) |

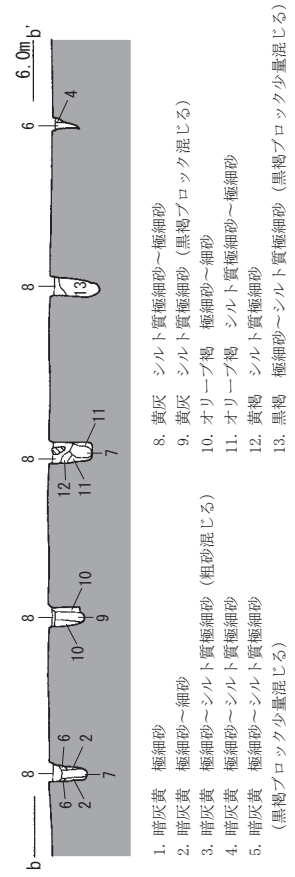
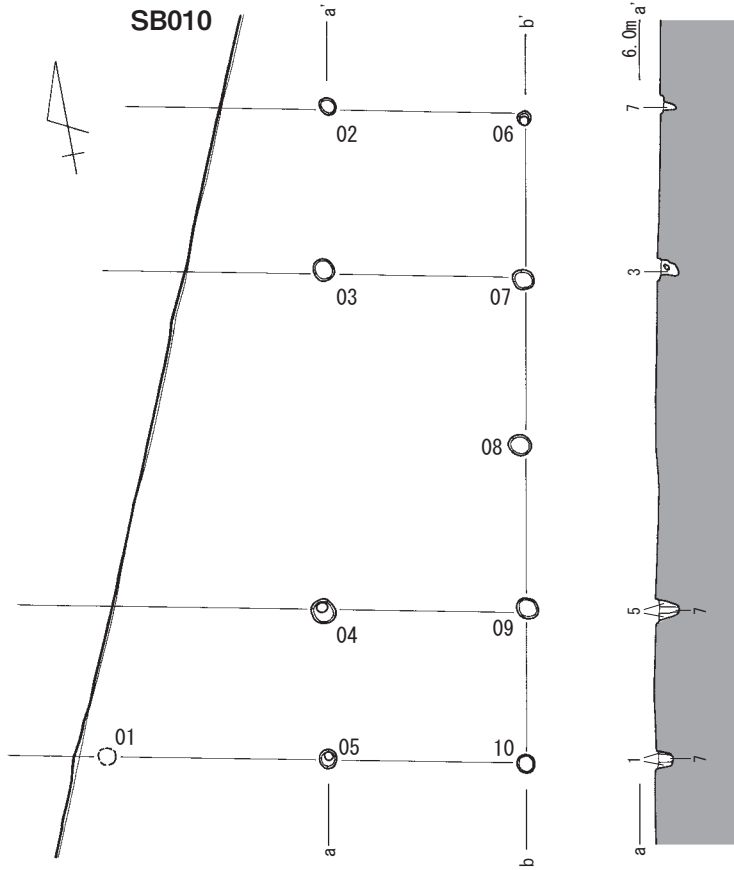




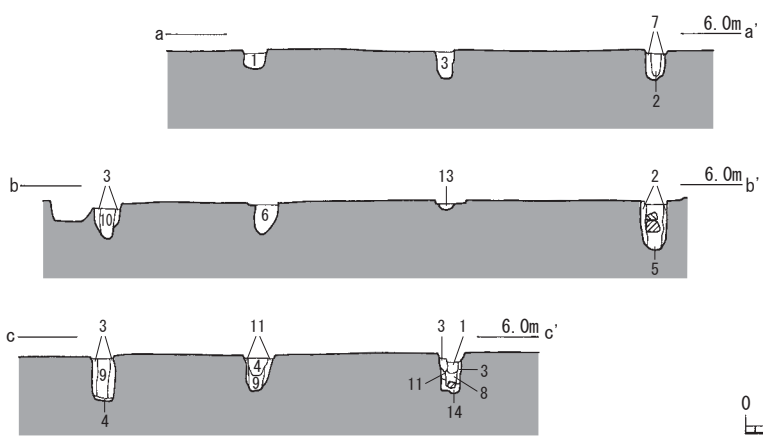
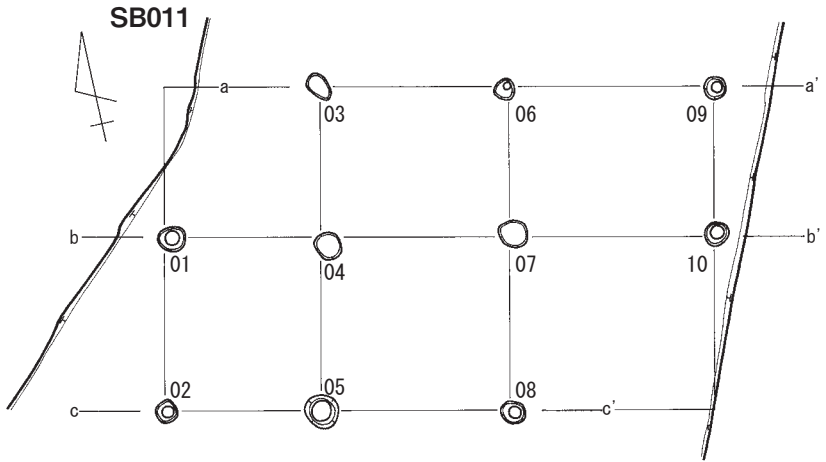
1. [床土]
2. [攪乱]
3. 黄褐色 シルト質極細砂(細砂～細礫混じる)
4. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂(粗砂少量混じる)
5. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂(粗砂～細礫少量混じる)
6. 黄灰 シルト質極細砂(粗砂混じる)



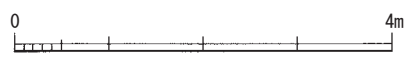
遺構配置 土層断面



- 8. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂
- 9. 黄灰 シルト質極細砂 (黒褐ブロック混じる)
- 10. オリーブ褐 極細砂～細砂
- 11. オリーブ褐 シルト質極細砂～極細砂
- 12. 黄褐 シルト質極細砂
- 13. 黒褐 極細砂～シルト質極細砂 (黒褐ブロック少量混じる)
- 極細砂
- 1. 暗灰黄 極細砂～細砂
- 2. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂混じる)
- 3. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂
- 4. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂
- 5. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (黒褐ブロック少量混じる)
- 6. 黄灰 極細砂
- 7. 黄灰 シルト質極細砂

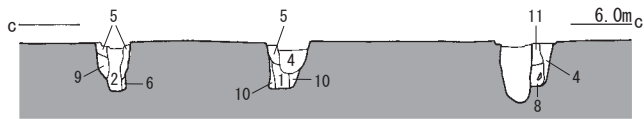
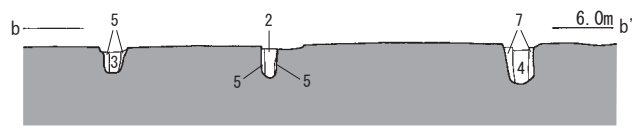
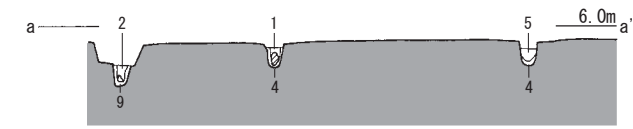
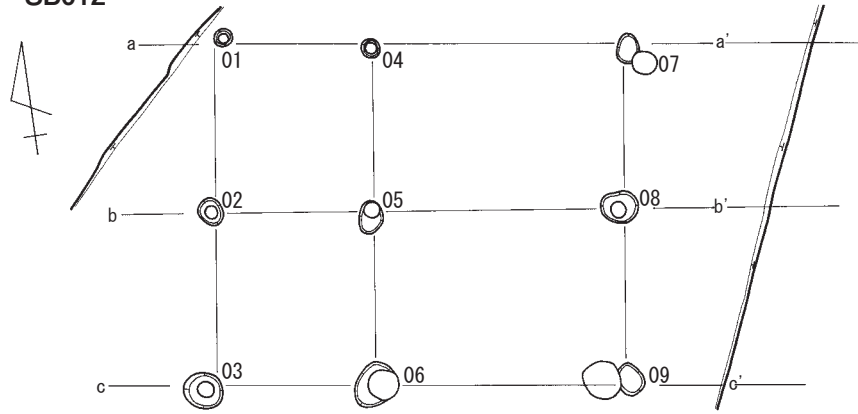


- 1. 暗灰黄 極細砂
- 2. 暗灰黄 極細砂～細砂
- 3. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂
- 4. 暗灰黄 シルト質極細砂
- 5. 黄灰 極細砂
- 6. 黄灰 極細砂 (黄ブロック多く混じる)
- 7. 黄灰 極細砂～細砂
- 8. 黄灰 シルト質極細砂
- 9. 黄灰 シルト質極細砂 (木質含)
- 10. 黄褐 極細砂 (炭含)
- 11. 黄褐 シルト質極細砂
- 12. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂
- 13. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
- 14. 灰黄 シルト質極細砂

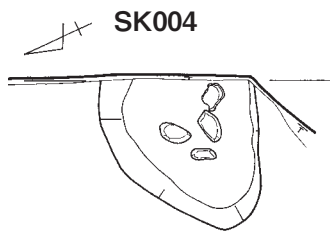
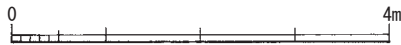


掘立柱建物 SB010・SB011

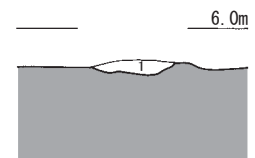
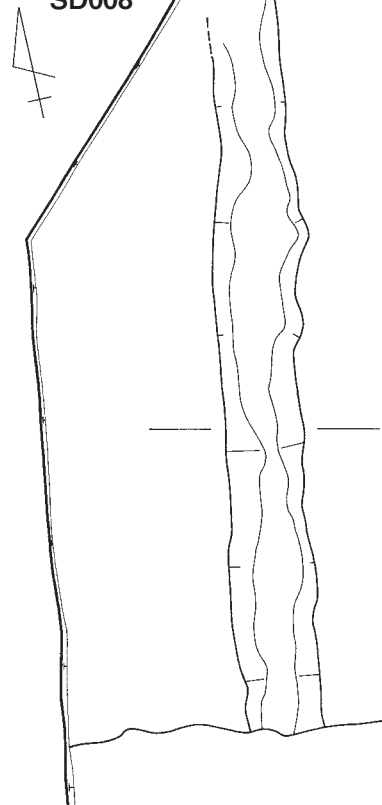
SB012



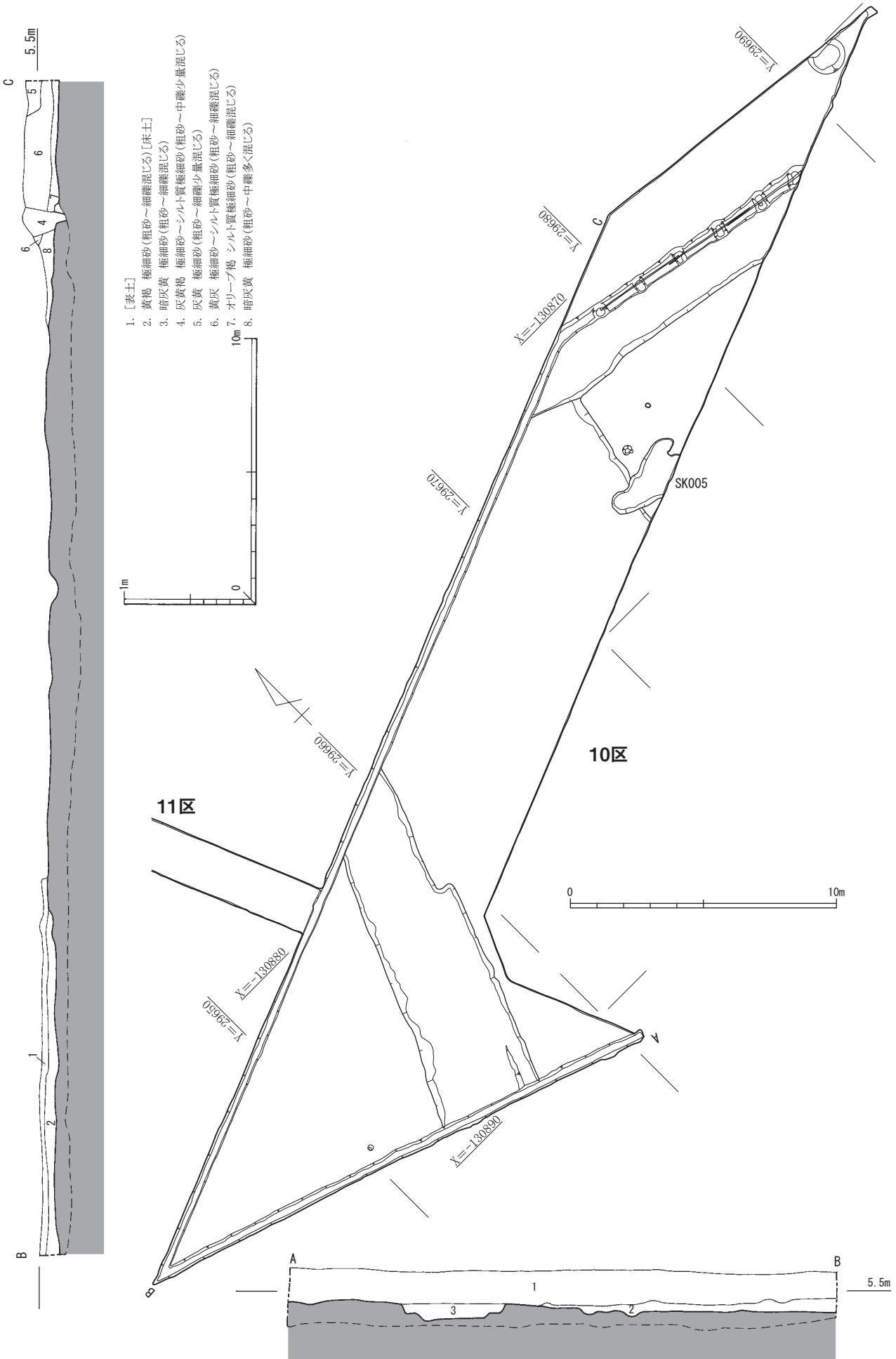
- 1. 黄灰 シルト質極細砂 (炭含)
- 2. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂
- 3. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
- 4. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂
- 5. 暗灰黄 極細砂
- 6. 暗灰黄 シルト質極細砂
- 7. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂
- 8. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂混じる)
- 9. 黄褐 シルト質極細砂
- 10. 黄褐 シルト質極細砂～極細砂
- 11. 灰黄 シルト質極細砂



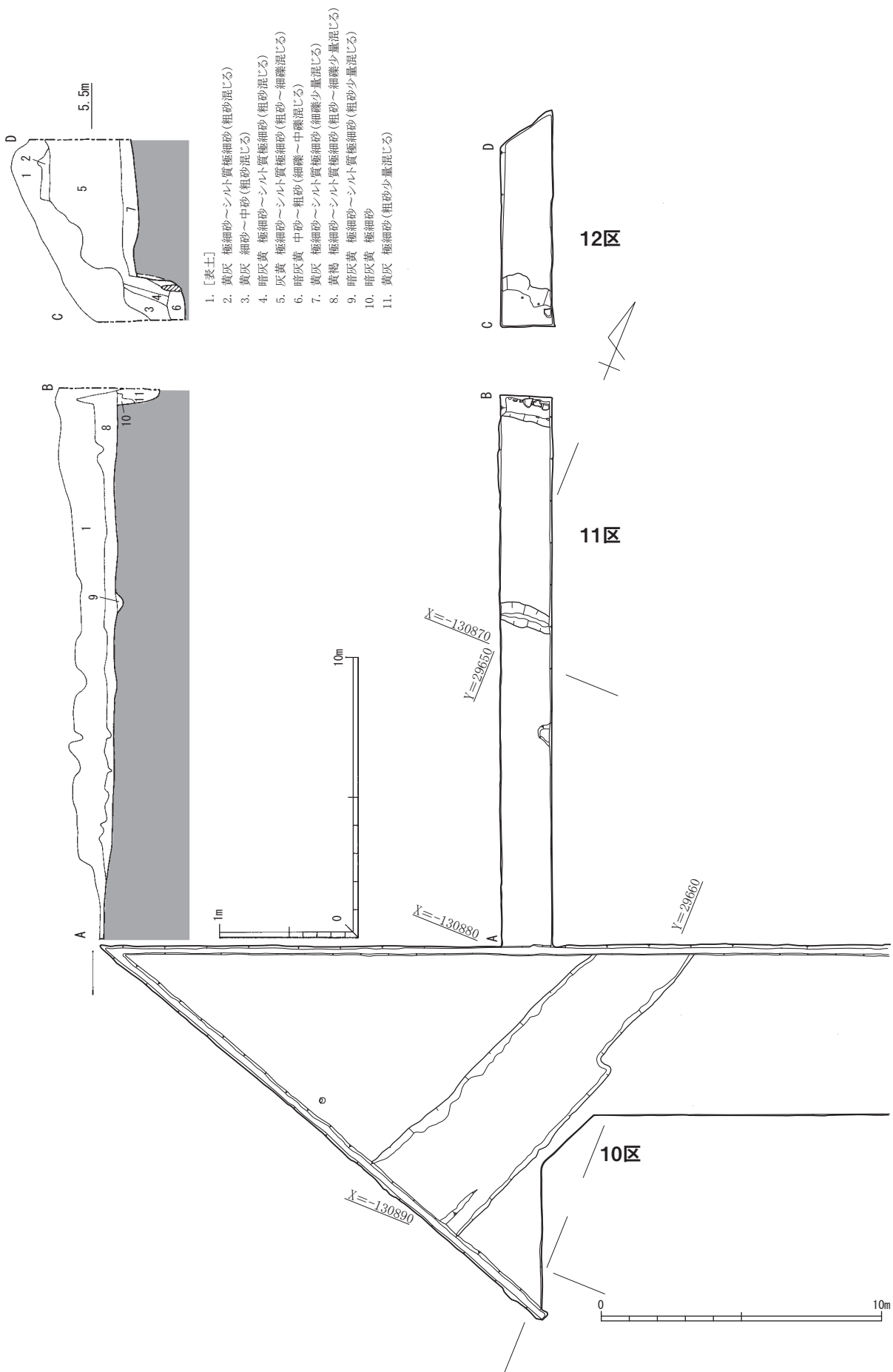
SD008



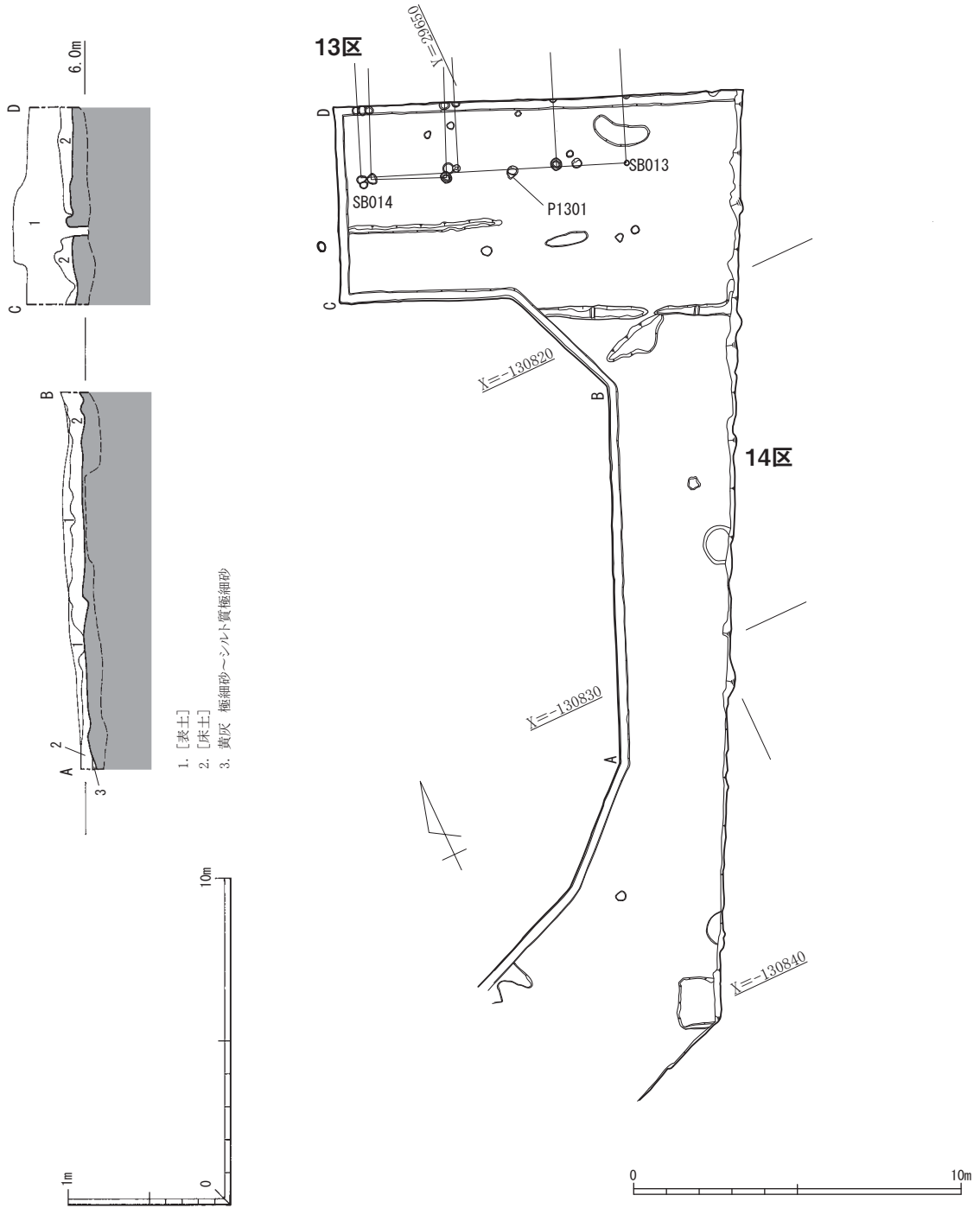
- 1. 暗灰黄 極細砂 (粗砂少量混じる)



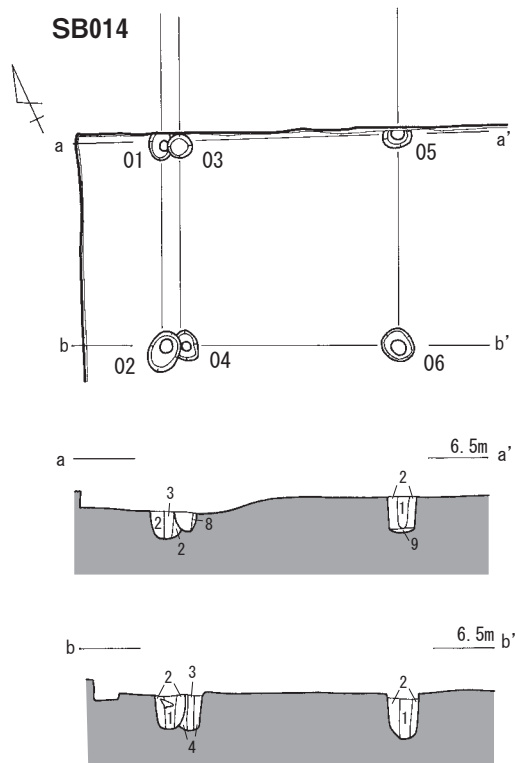
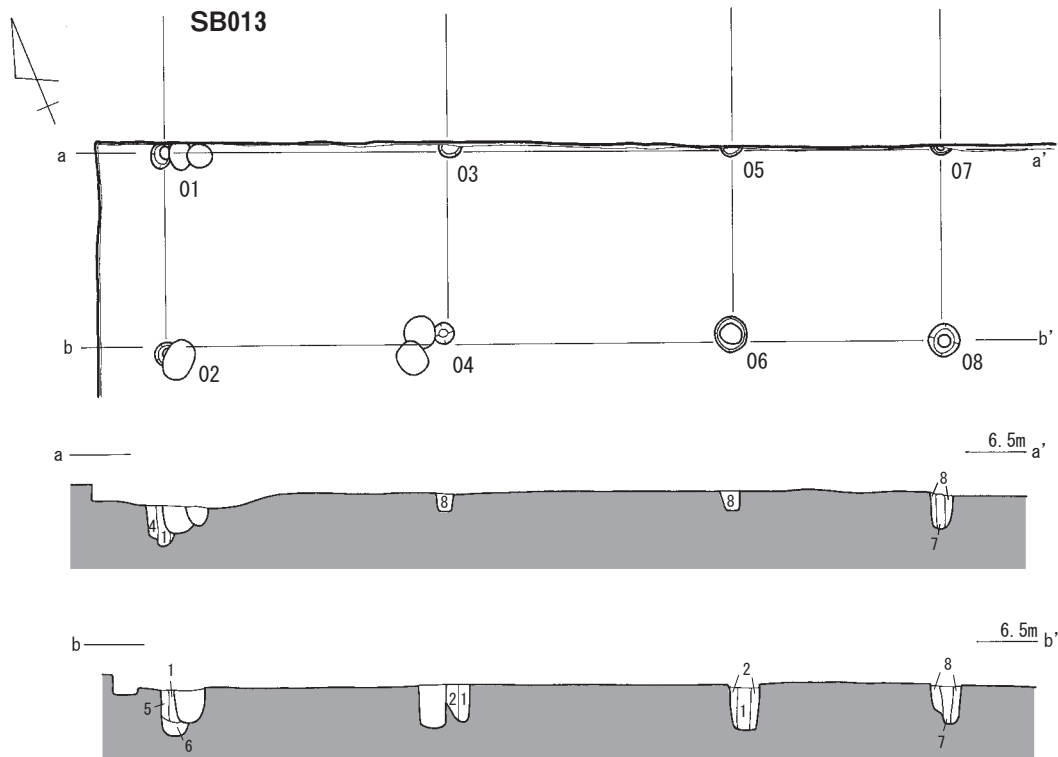
遺構配置 土層断面



遺構配置 土層断面

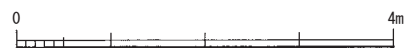


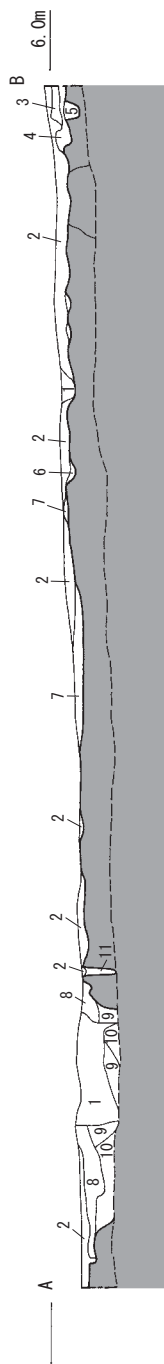
遺構配置 土層断面



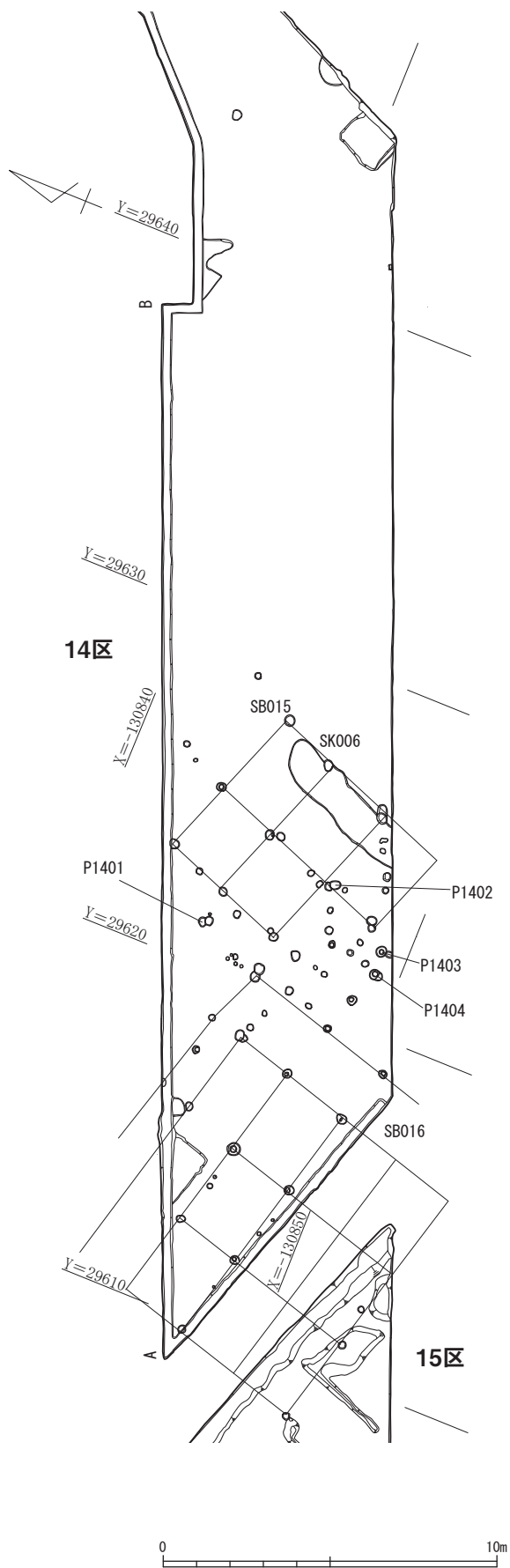
SB013・SB014

1. 灰黄褐 シルト質極細砂
2. 黒褐 極細砂(中砂～細礫混じる)
3. 黒褐 極細砂(中砂混じる)
4. 黒褐 極細砂(細砂～細礫混じる)
5. 褐 極細砂(中礫混じる)
6. 褐灰 極細砂
7. にぶい黄褐 シルト質極細砂
8. 褐灰 極細砂(暗褐シルト質極細砂ブロック混じる)
9. 褐灰 極細砂(黒褐シルト質極細砂ブロック混じる)

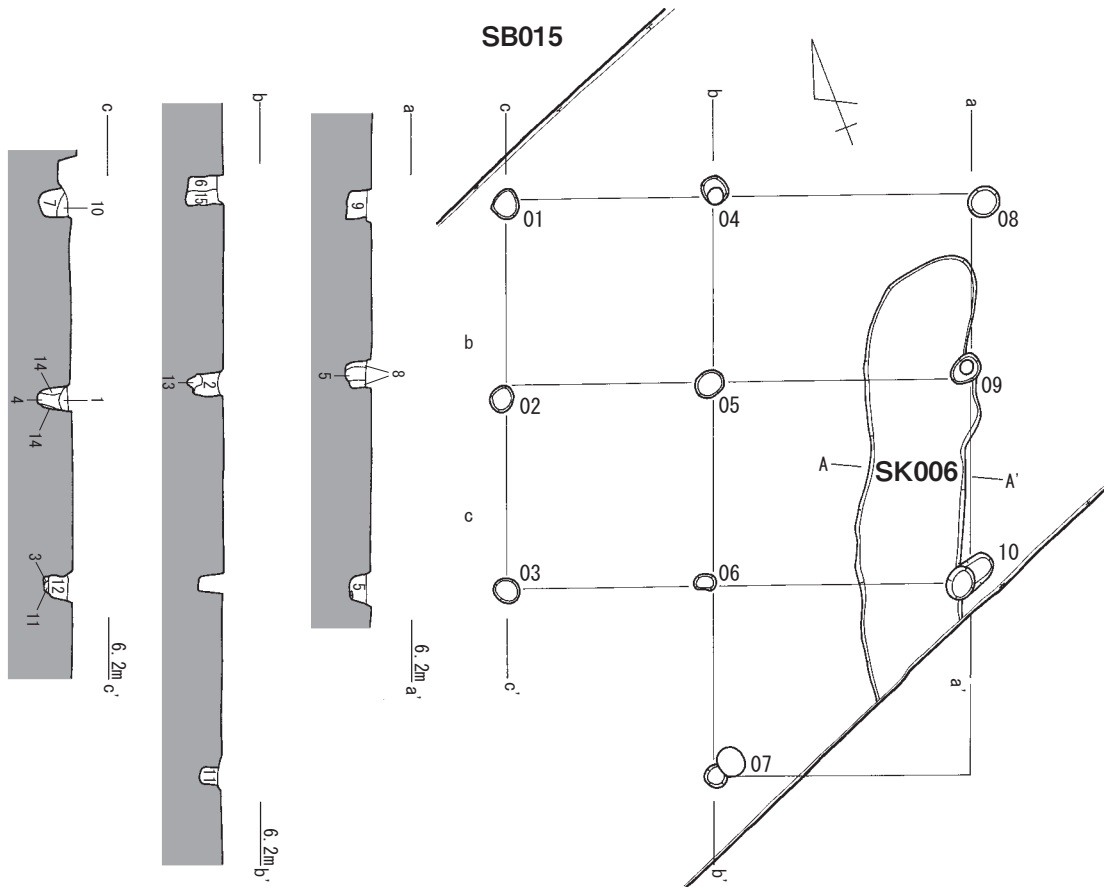




1. [雑乱]
2. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂(粗砂少量混じる)[床土]
 3. 黄褐 極細砂(粗砂混じる)
 4. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂(粗砂～細礫混じる)
 5. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂(粗砂～細礫混じる)
 6. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂(粗砂～細礫少量混じる)
 7. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂(粗砂混じる)
 8. オリーブ褐 極細砂～シルト質極細砂(粗砂～細礫少量混じる)
 9. 暗灰黄 極細砂(粗砂～細礫少量混じる)
 10. 灰褐 細砂(細礫少量混じる)
 11. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂(細礫混じる)



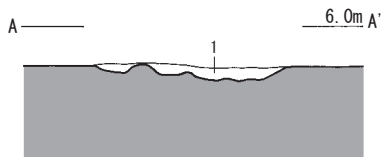
遺構配置 土層断面



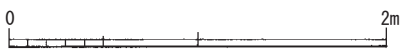
1. 暗灰黄 極細砂
2. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂
3. 暗灰黄 シルト質極細砂
4. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (炭少量含)
5. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂少量混じる)
6. 黄褐 シルト質極細砂
7. 黄褐 シルト質極細砂 (細礫混じる)
8. 黄灰 極細砂 (粗砂少量混じる)
9. 黄灰 極細砂 (粗砂少量・黒褐ブロック混じる)
10. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂
11. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (炭含)
12. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (黒褐ブロック混じる)
13. 黒褐 シルト質極細砂 (黄ブロック混じる)
14. 黒褐 シルト質極細砂 (粗砂・黄ブロック混じる)
15. 灰黄 極細砂～シルト質極細砂

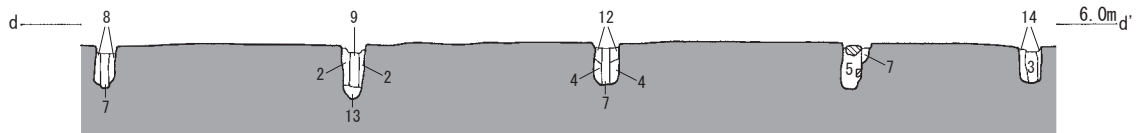
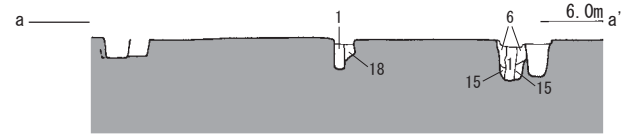
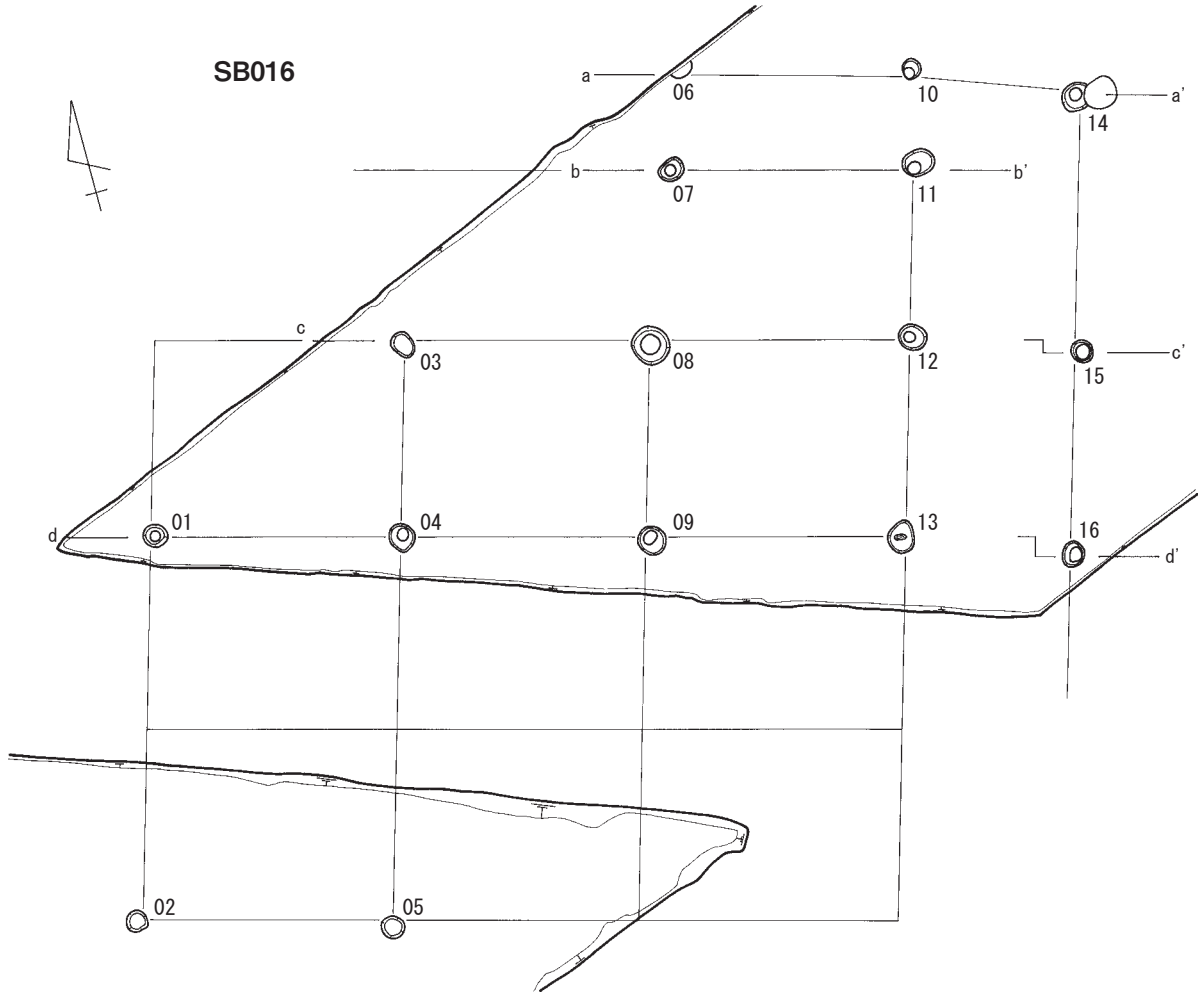


SK006



1. にぶい黄 極細砂 (粗砂・地山ブロック混じる)

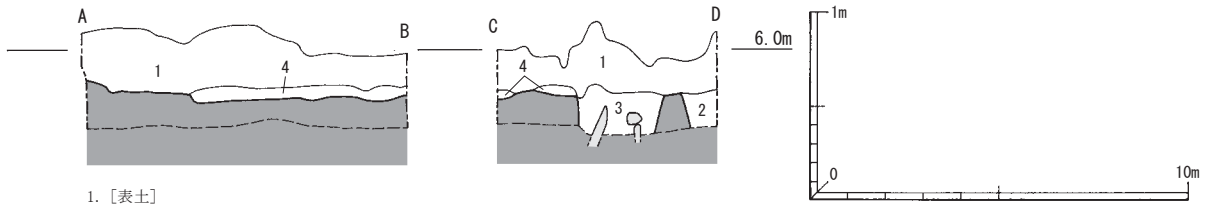




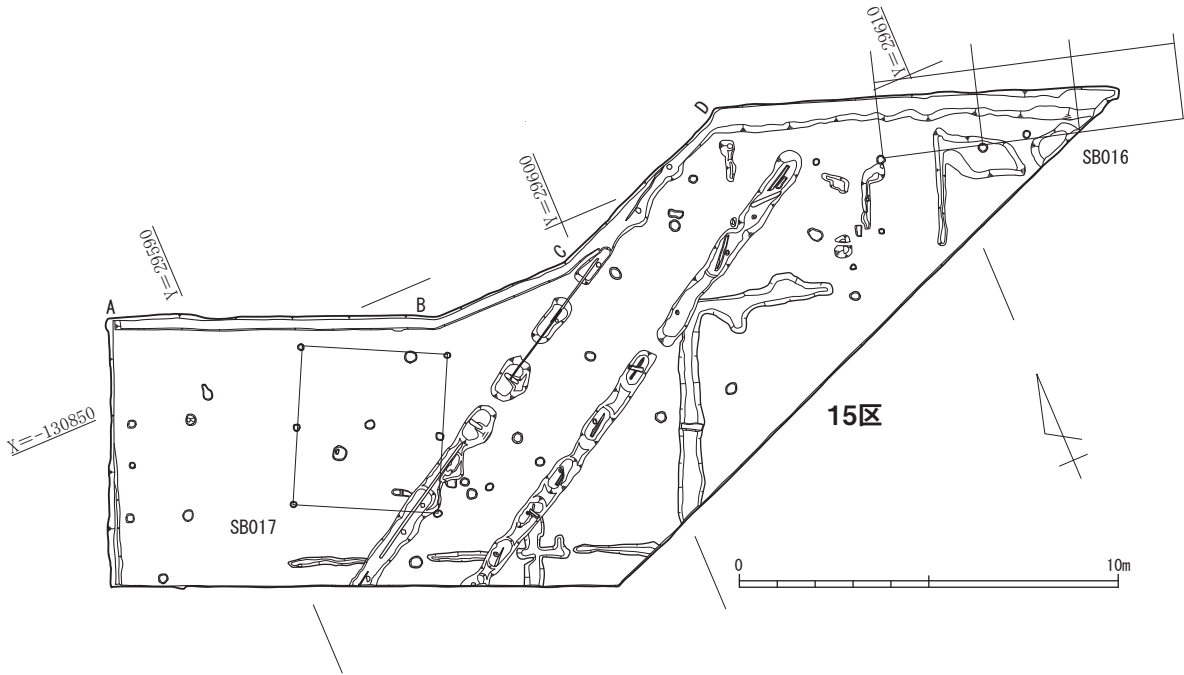
- | | | |
|---------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 1. 暗灰黄 極細砂 | 9. 黄灰 極細砂 (細礫少量混じる) | 17. 灰黄 極細砂 (黄ブロック混じる) |
| 2. 暗灰黄 極細砂 (細礫・黒褐ブロック混じる) | 10. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 | 18. 灰黄 極細砂 (細礫混じる) |
| 3. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (炭含) | 11. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (炭含) | 19. 灰黄 極細砂～シルト質極細砂 |
| 4. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂混じる) | 12. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂少量混じる) | 20. 灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂～細礫混じる) |
| 5. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂混じる、炭少量含) | 13. 黄灰 シルト質極細砂 | 21. 灰黄褐 シルト質極細砂 (粗砂～細礫混じる) |
| 6. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂 | 14. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (細礫少量混じる) | |
| 7. 黄灰 極細砂 | 15. 黒褐 シルト質極細砂 | |
| 8. 黄灰 極細砂 (黄ブロック混じる) | 16. 灰黄 極細砂 | |



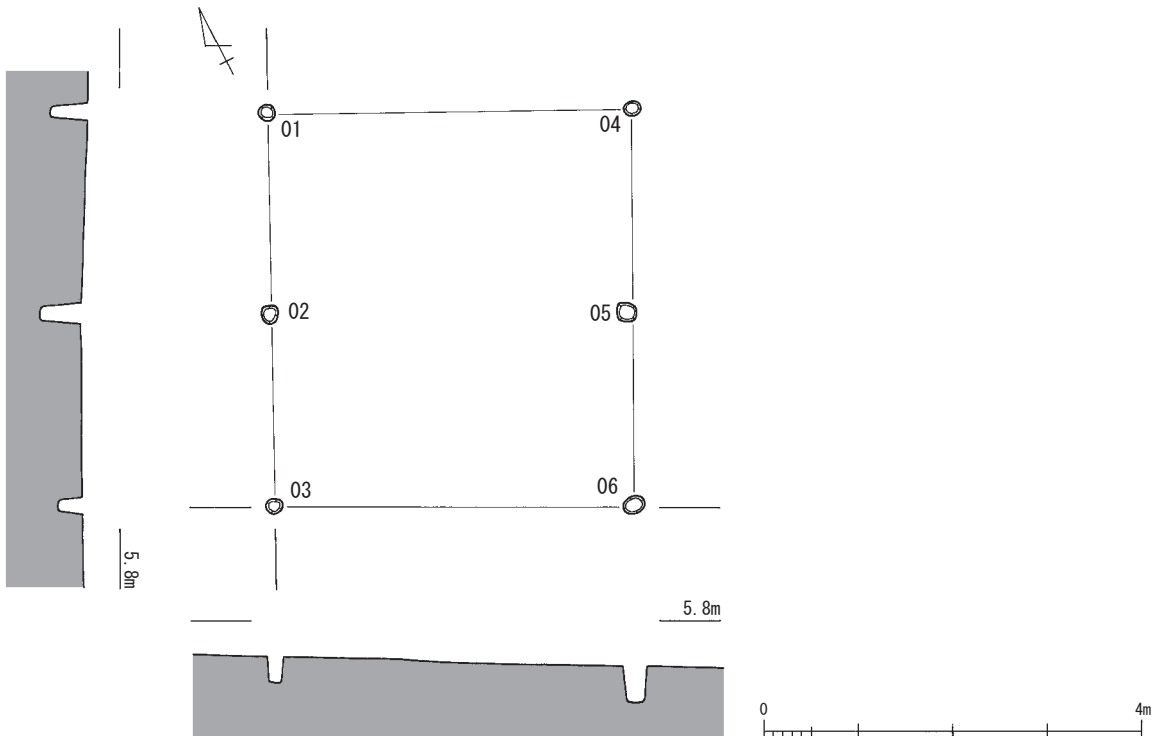
掘立柱建物 SB016



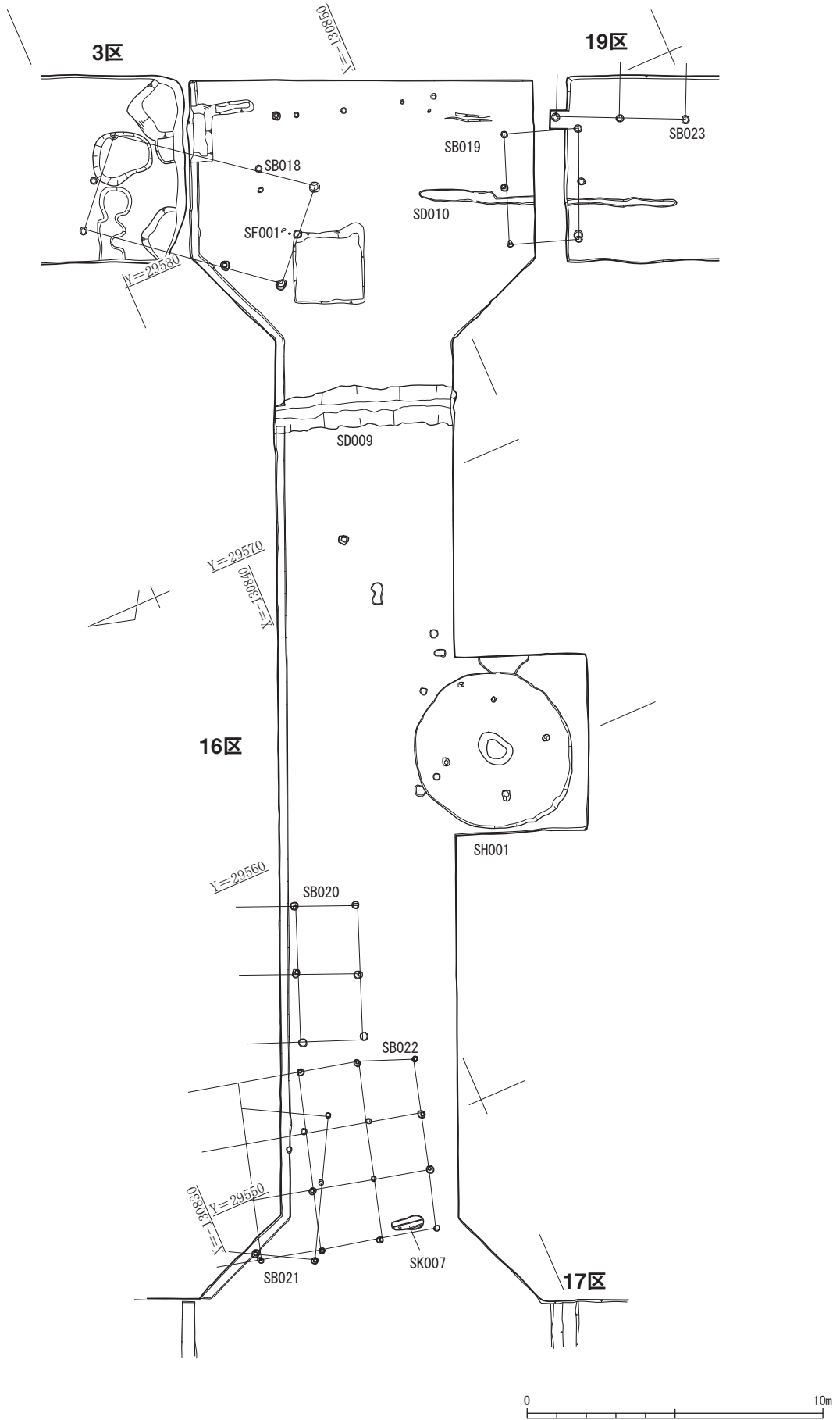
- 1. [表土]
- 2. 攪乱[水路の掘形]
- 3. 攪乱[杭列]
- 4. 暗灰黄 シルト質極細砂(粗砂少量混じる)[床土]



SB017

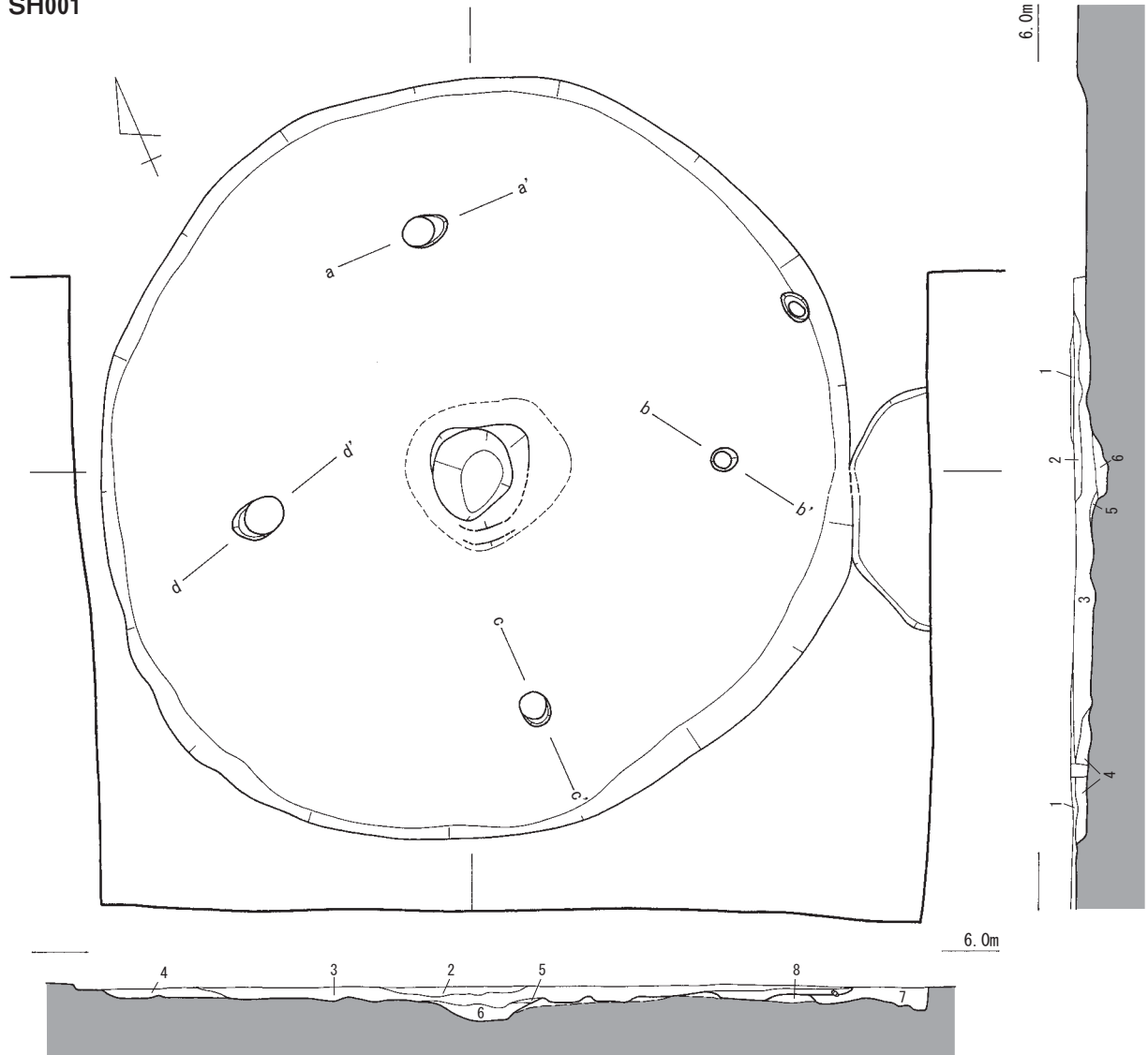


遺構配置 土層断面 掘立柱建物 SB017

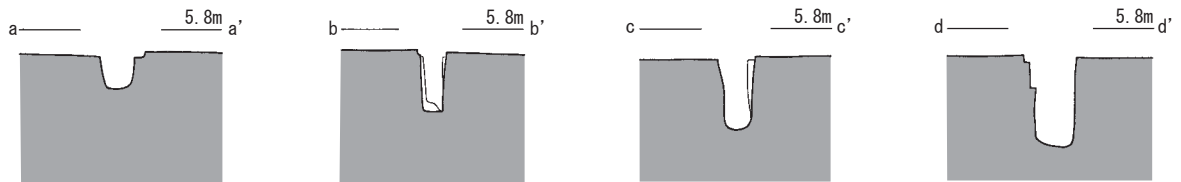


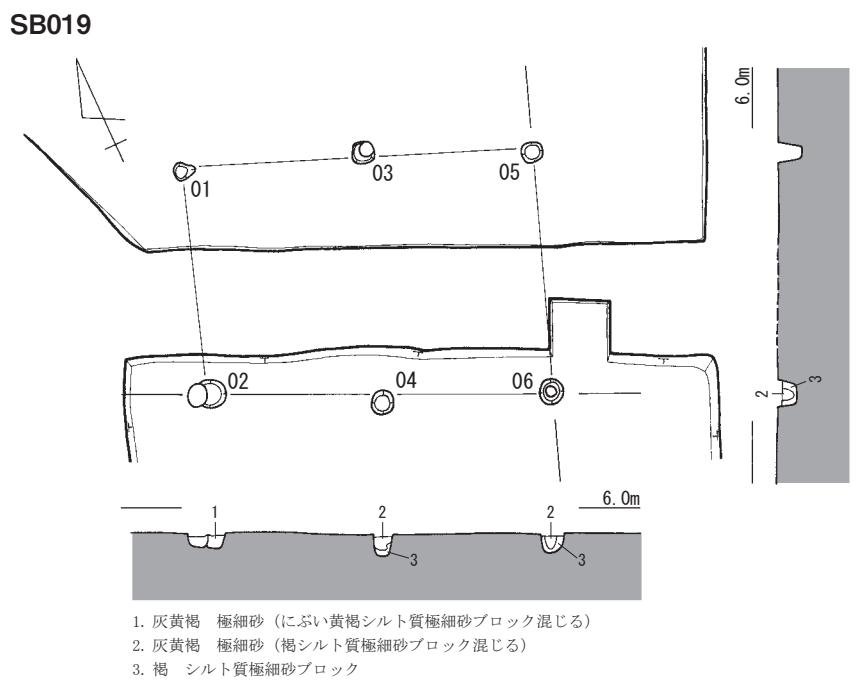
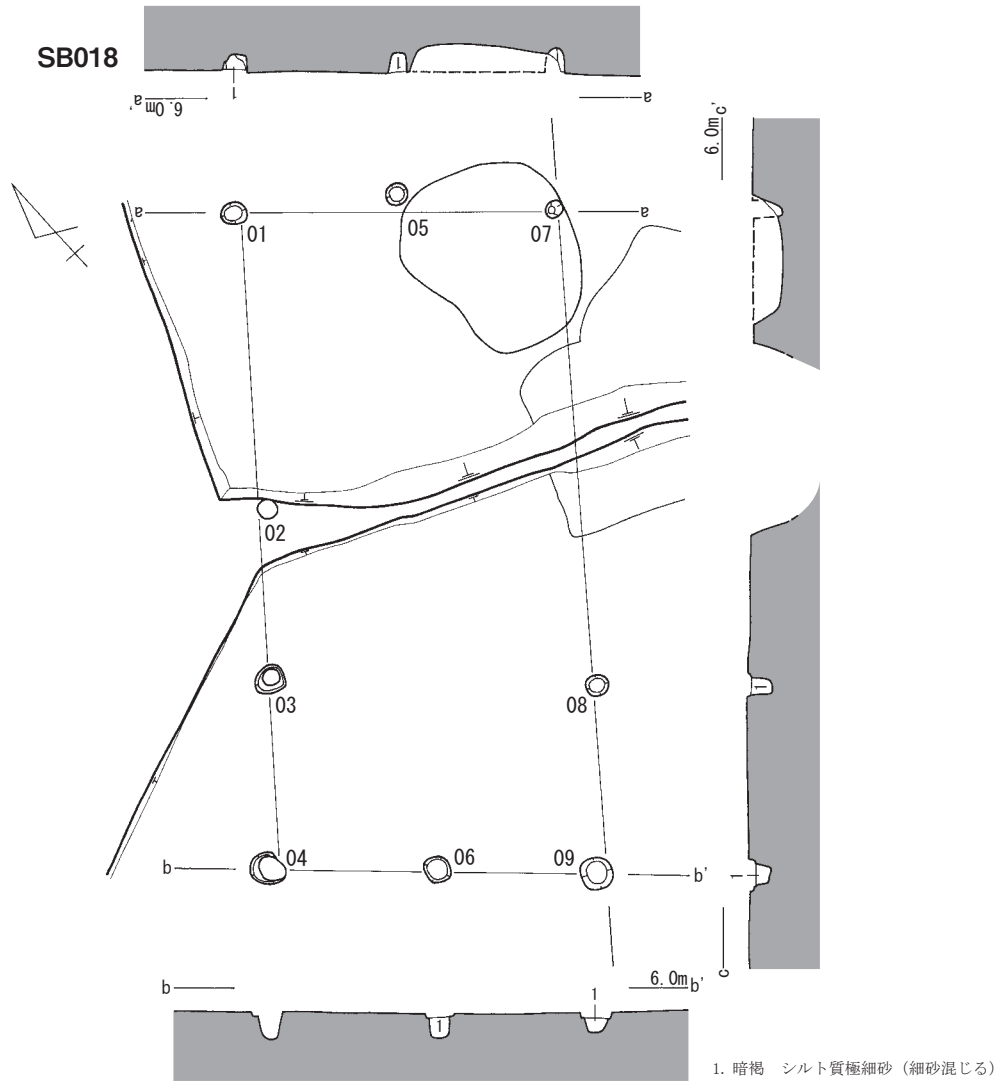
遺構配置

SH001

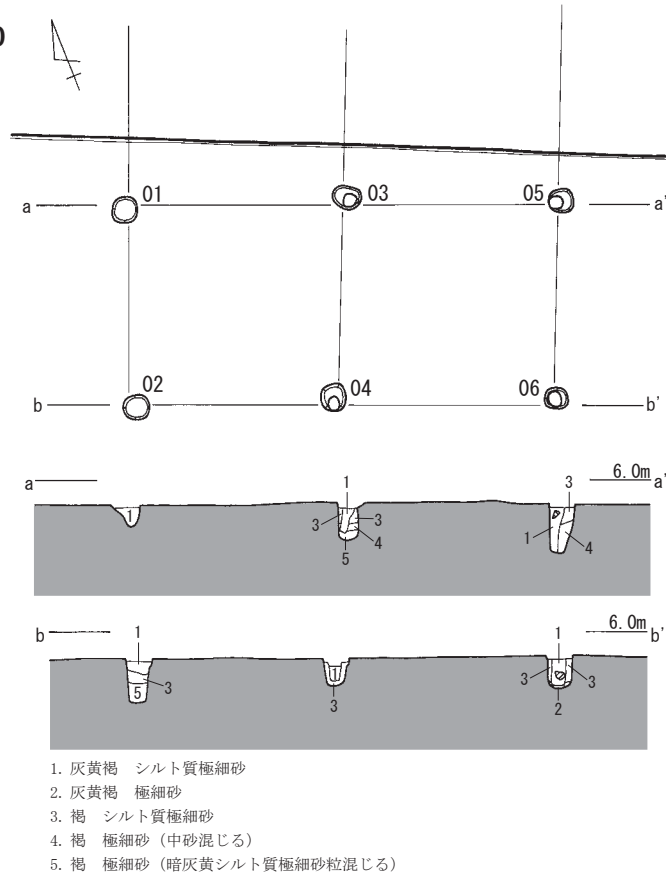


- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 褐 極細砂[床土] | 5. 黒褐 シルト質極細砂(細砂混じる、炭含) |
| 2. 黒褐 シルト質極細砂 | 6. 暗褐 シルト質極細砂(細砂混じる) |
| 3. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～細礫混じる、Mn含) | 7. 黒褐 シルト質極細砂 |
| 4. 黒褐 シルト質極細砂(細砂混じる、Mn含) | 8. 黒褐 シルト質極細砂(褐シルト質極細砂混じる) |

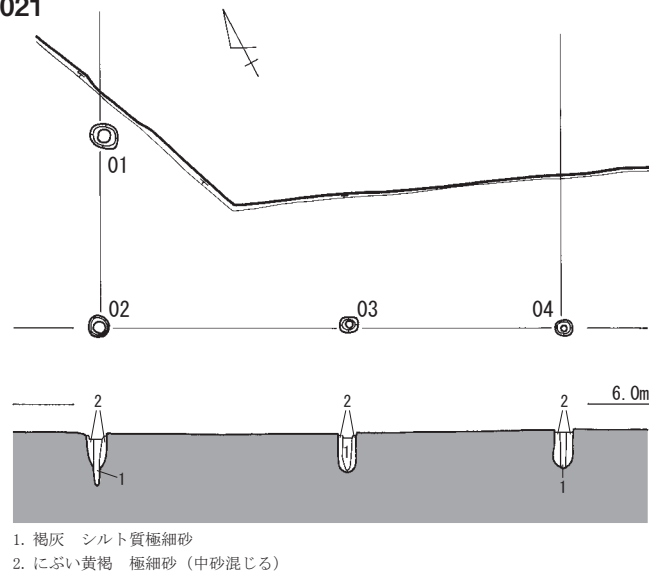


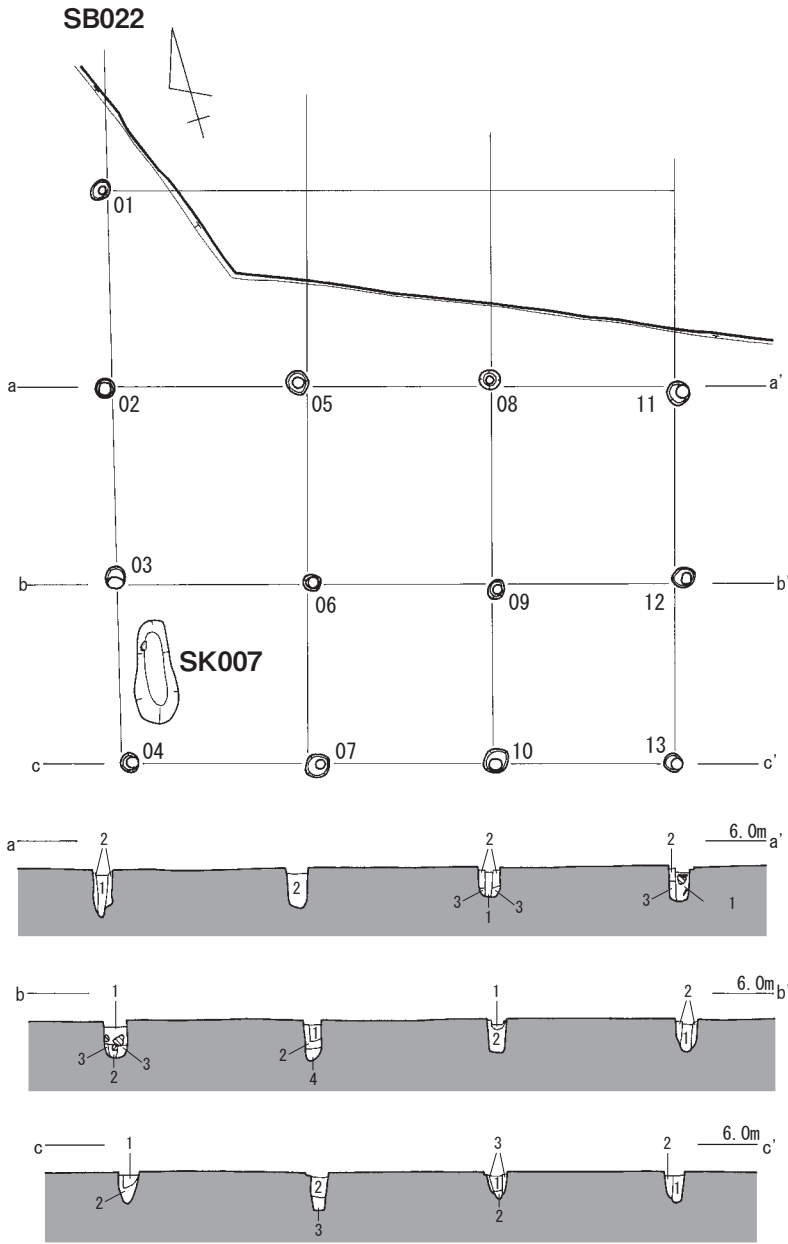


SB020

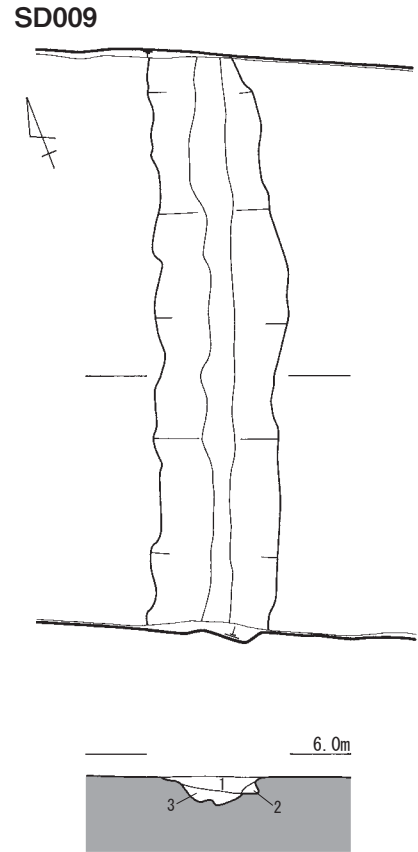


SB021

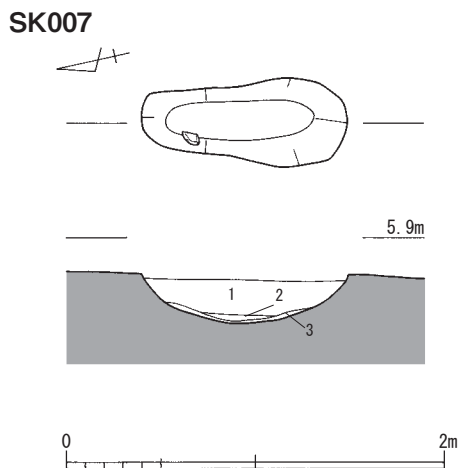
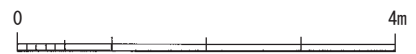




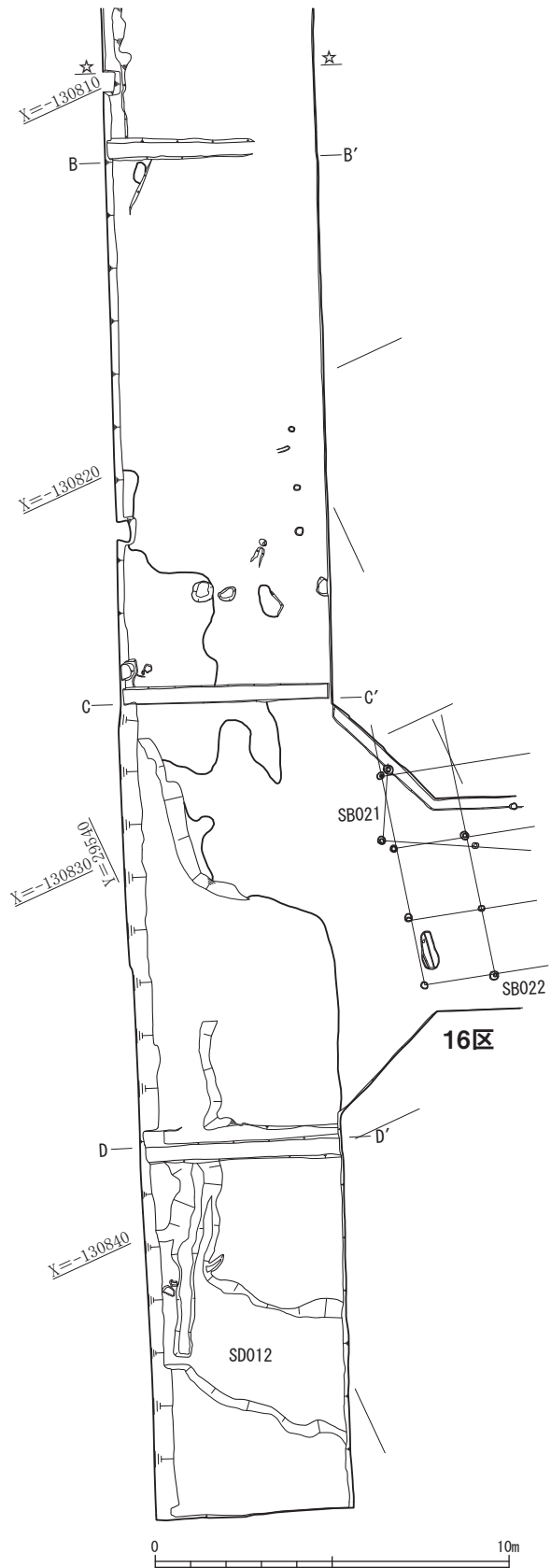
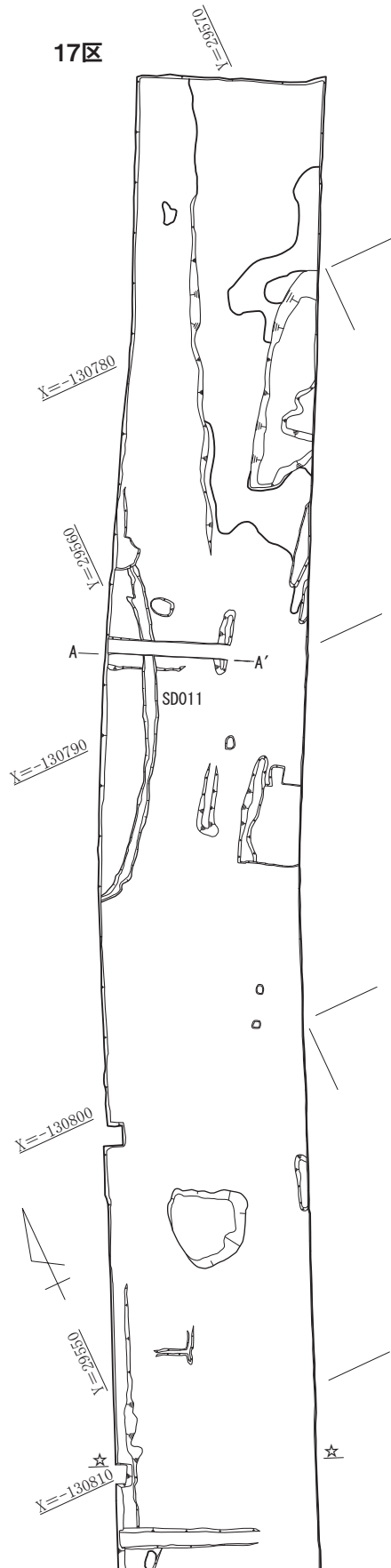
1. 灰黄褐 シルト質極細砂
2. 明黄褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
3. 灰黄褐 中砂
4. 黒褐 シルト質極細砂



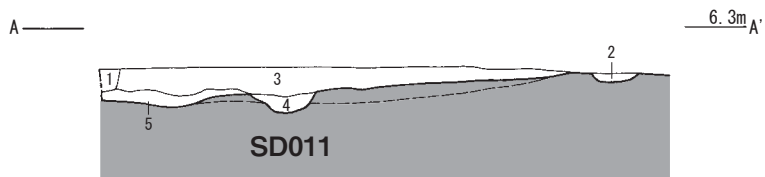
1. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂混じる)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂混じる、Mn 含)
3. にぶい黄褐 細砂～中砂 (ラミナ)



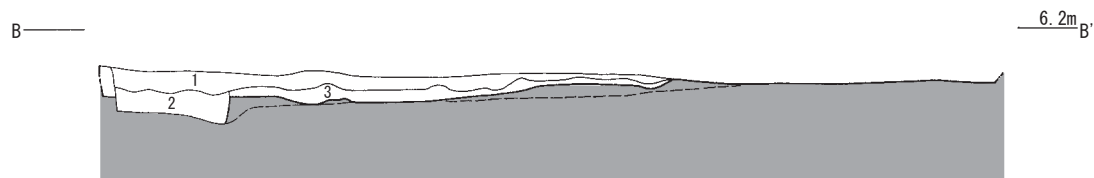
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
2. 褐灰 シルト質極細砂
3. 黒 極細砂質シルト



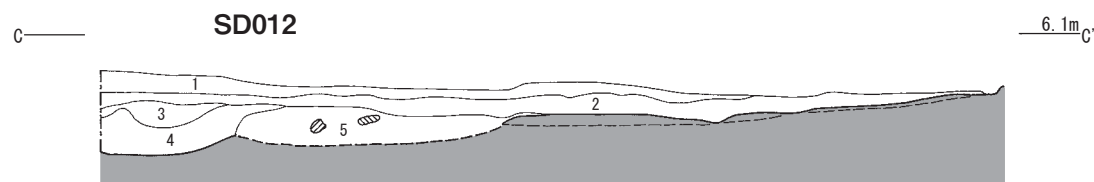
遺構配置



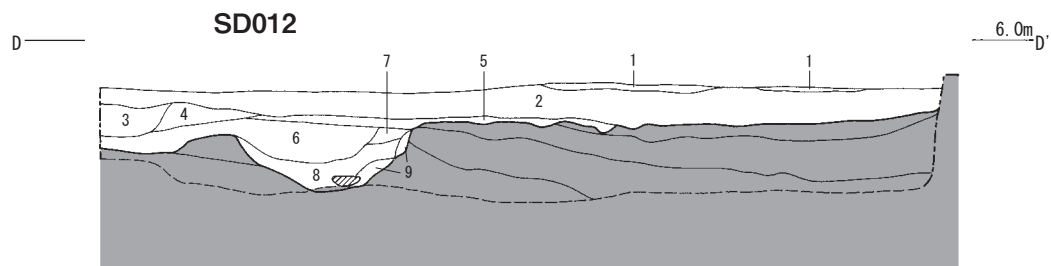
1. [攪乱]
2. 灰オリーブ シルト質極細砂 (粗砂～細礫・黄ブロック混じる)
3. 灰 極細砂 (粗砂～細礫少量混じる)
4. 灰 シルト質極細砂 (粗砂～細礫少量混じる)
5. 黄灰 中砂～粗砂 (細礫～中礫混じる)



1. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂～細礫少量混じる)
2. 黄灰 粗砂～細砂 [水路掘形]
3. 灰黄 極細砂～シルト質極細砂 [中世包含層]



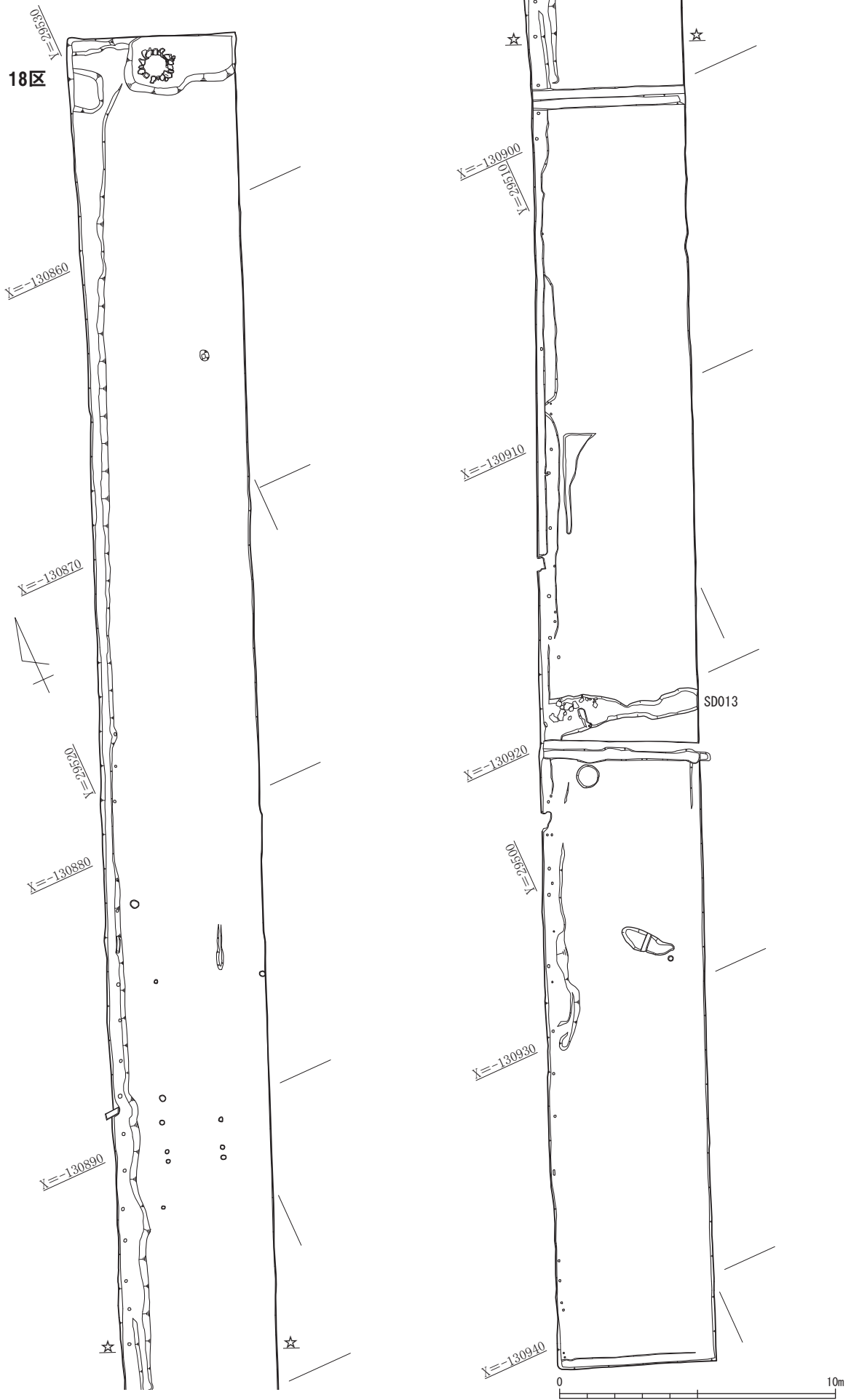
1. 灰黄褐 シルト質極細砂
2. 灰黄褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
3. 灰黄褐 極細砂 (中砂混じる)
4. オリーブ褐 中砂～中礫 (ラミナ)
5. 黄灰 中砂～細砂



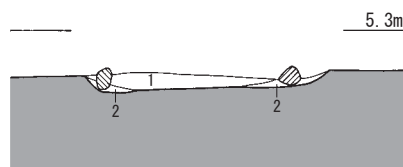
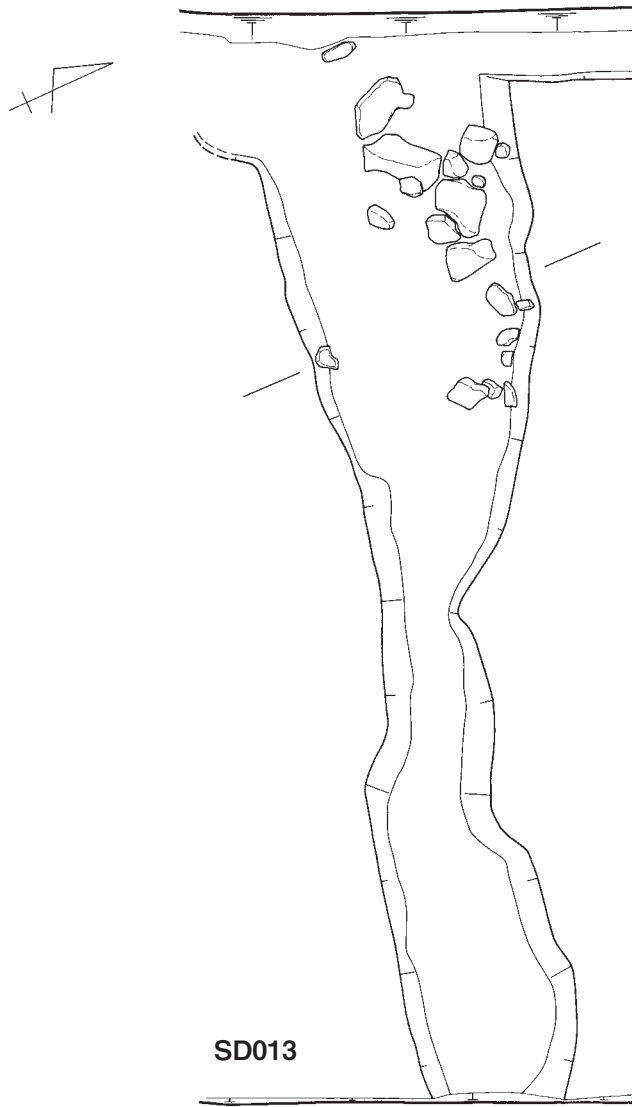
1. 灰黄褐 シルト質極細砂
2. 灰黄褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
3. 褐灰 極細砂 (中砂混じる、ラミナ)
4. 褐 細砂 (中砂混じる)
5. 灰黄褐 極細砂 (中砂混じる)
6. オリーブ褐 中砂～中礫 (ラミナ)
7. 暗灰黄 細砂 (中砂混じる)
8. 黄灰 中砂～細砂
9. 黒褐 シルト質極細砂



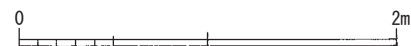
図版 40
遺構 B 地区
18 区



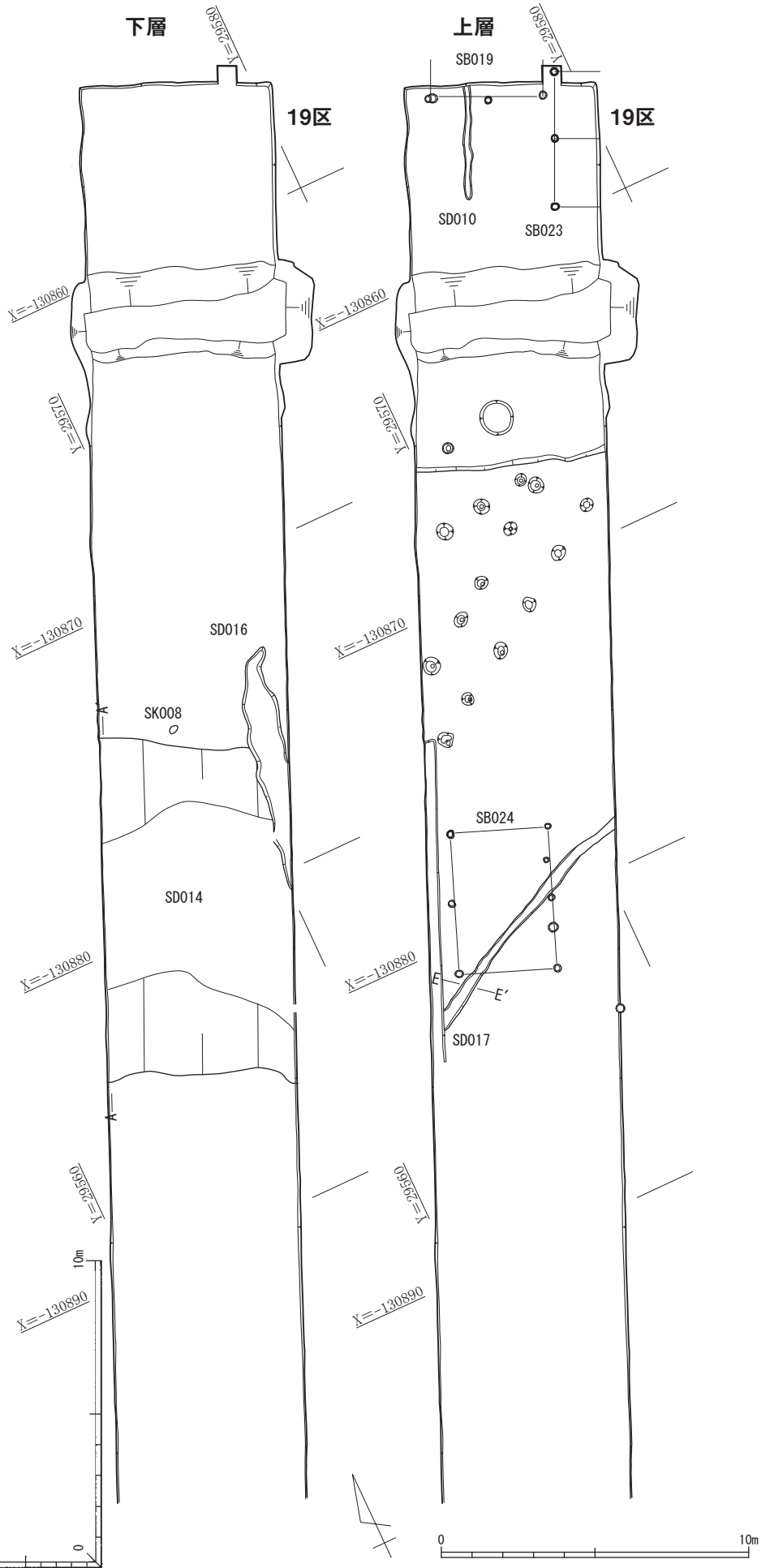
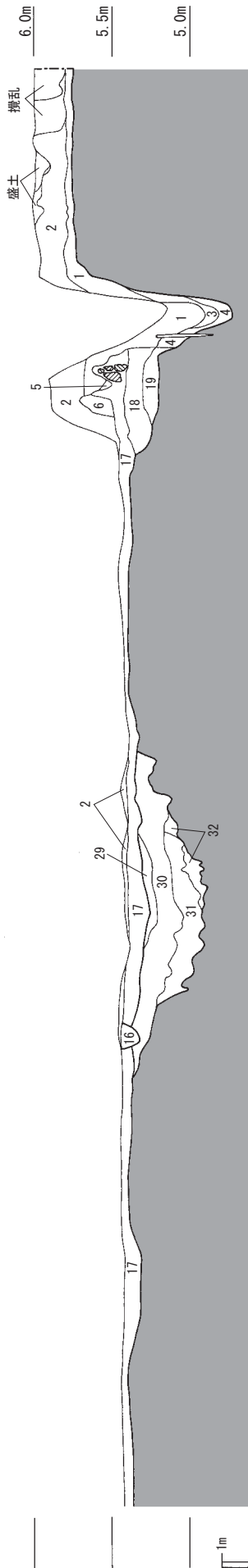
遺構配置



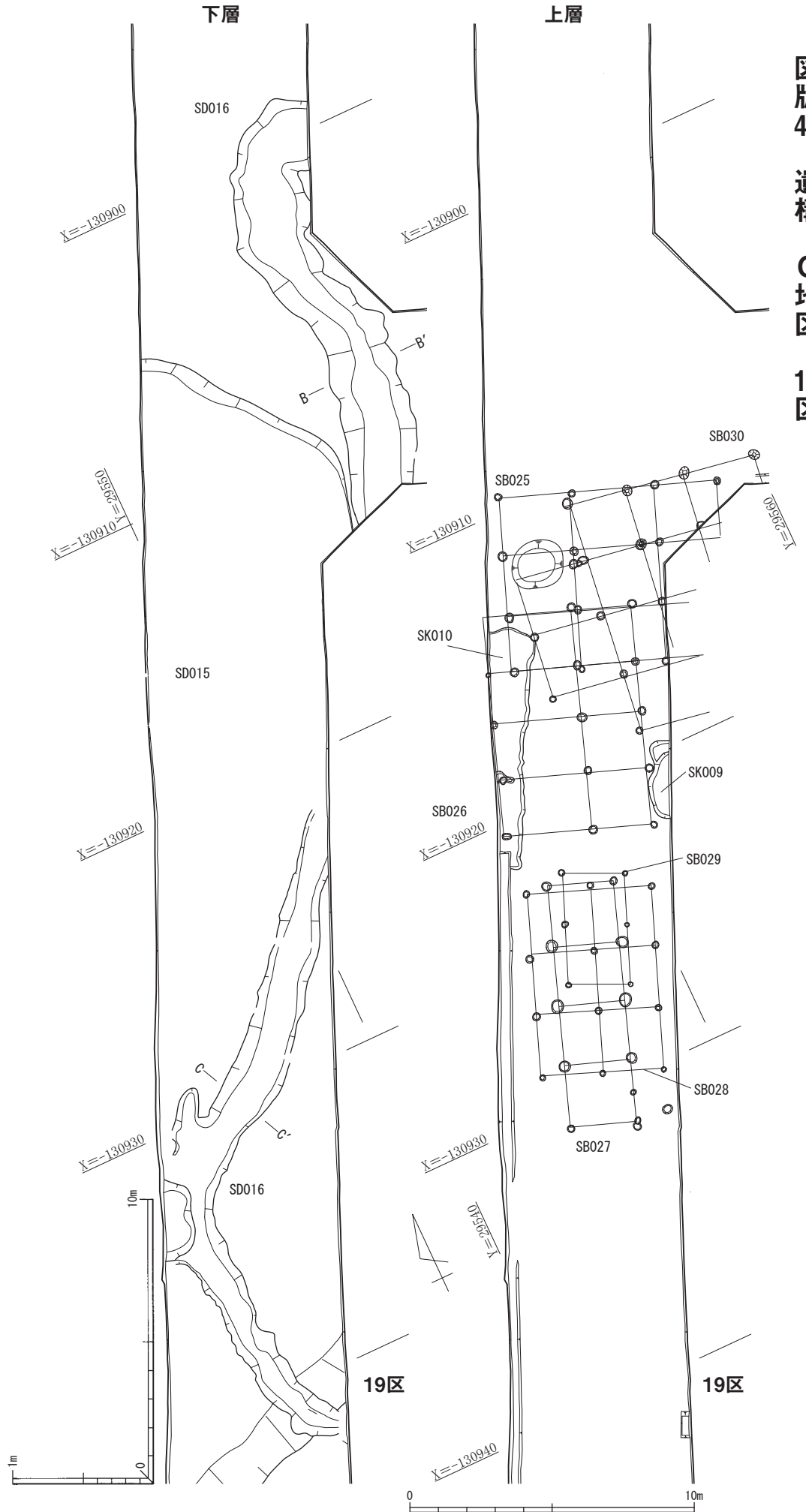
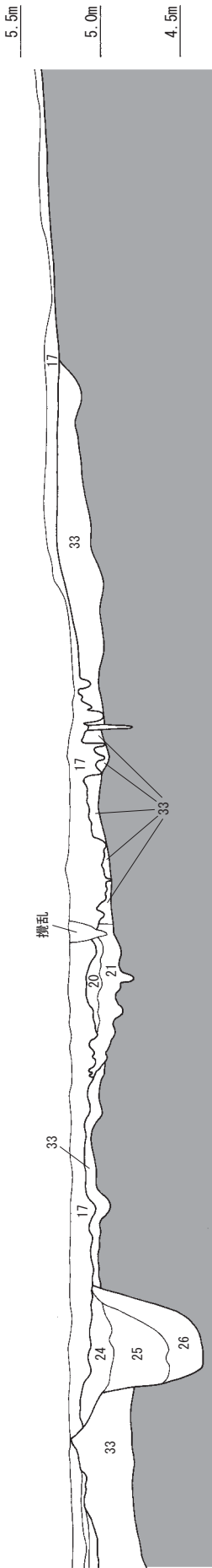
- 1. 褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
- 2. 褐灰 シルト質極細砂



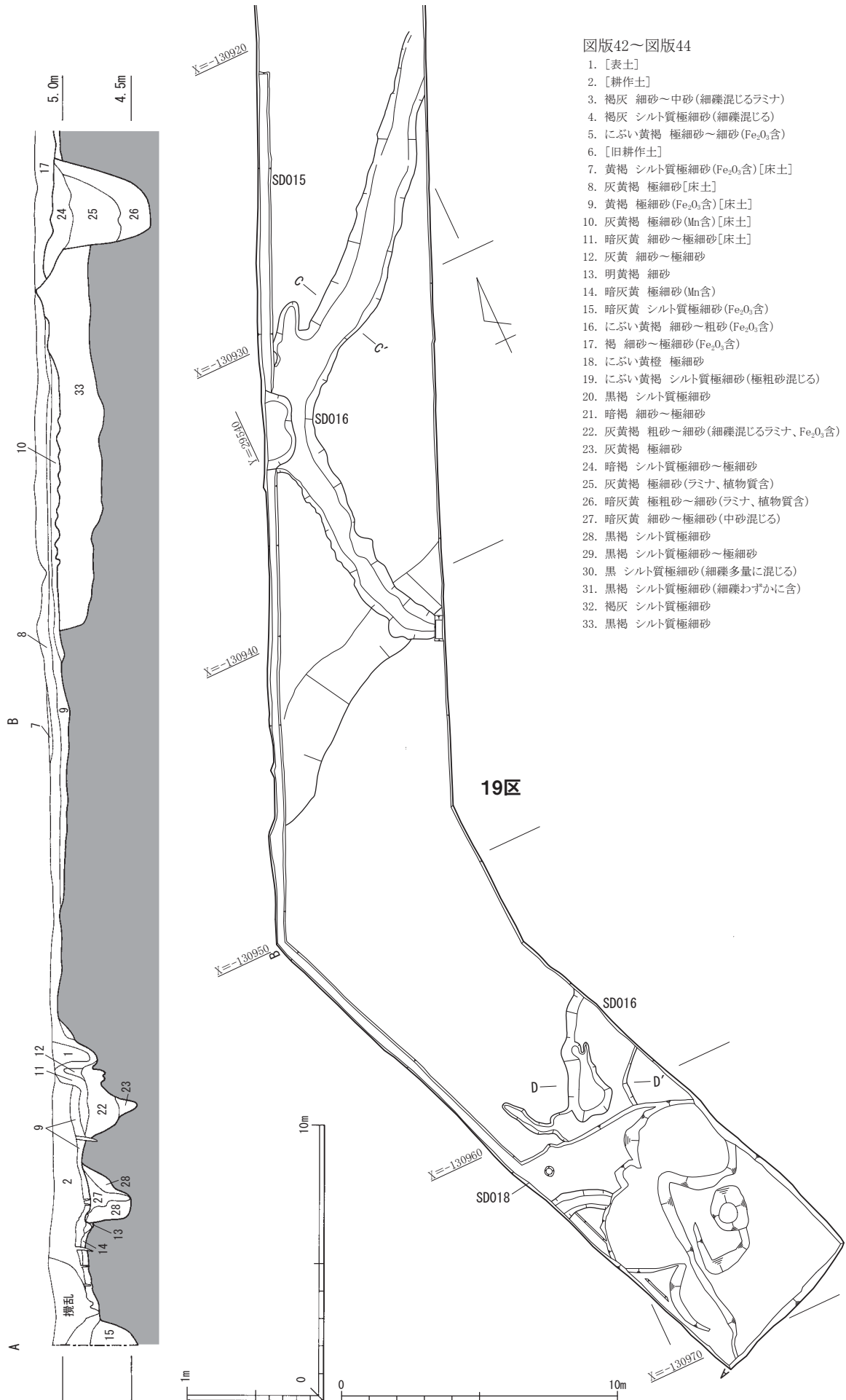
溝 SD013



北半部 下層・上層遺構配置 土層断面



中央部 下層・上層遺構配置 土層断面

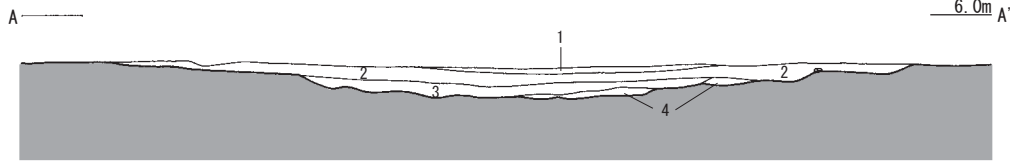


図版42～図版44

1. [表土]
2. [耕作土]
3. 褐灰 細砂～中砂(細礫混じるラミナ)
4. 褐灰 シルト質極細砂(細礫混じる)
5. にぶい黄褐 極細砂～細砂(Fe₂O₃含)
6. [旧耕作土]
7. 黄褐 シルト質極細砂(Fe₂O₃含)[床土]
8. 灰黄褐 極細砂[床土]
9. 黄褐 極細砂(Fe₂O₃含)[床土]
10. 灰黄褐 極細砂(Mn含)[床土]
11. 暗灰黄 細砂～極細砂[床土]
12. 灰黄 細砂～極細砂
13. 明黄褐 細砂
14. 暗灰黄 極細砂(Mn含)
15. 暗灰黄 シルト質極細砂(Fe₂O₃含)
16. にぶい黄褐 細砂～粗砂(Fe₂O₃含)
17. 褐 細砂～極細砂(Fe₂O₃含)
18. にぶい黄橙 極細砂
19. にぶい黄褐 シルト質極細砂(極粗砂混じる)
20. 黒褐 シルト質極細砂
21. 暗褐 細砂～極細砂
22. 灰黄褐 粗砂～細砂(細礫混じるラミナ、Fe₂O₃含)
23. 灰黄褐 極細砂
24. 暗褐 シルト質極細砂～極細砂
25. 灰黄褐 極細砂(ラミナ、植物質含)
26. 暗灰黄 極粗砂～細砂(ラミナ、植物質含)
27. 暗灰黄 細砂～極細砂(中砂混じる)
28. 黒褐 シルト質極細砂
29. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂
30. 黒 シルト質極細砂(細礫多量に混じる)
31. 黒褐 シルト質極細砂(細礫わずかに含)
32. 褐灰 シルト質極細砂
33. 黒褐 シルト質極細砂

南半部 遺構配置 土層断面

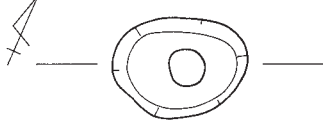
SD014



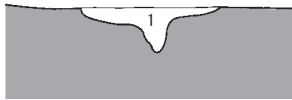
1. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂（細礫多量に混じる）
2. 黒 シルト質極細砂（細礫僅かに混じる）
3. 黒褐 シルト質極細砂
4. 褐灰 シルト質極細砂



SK008

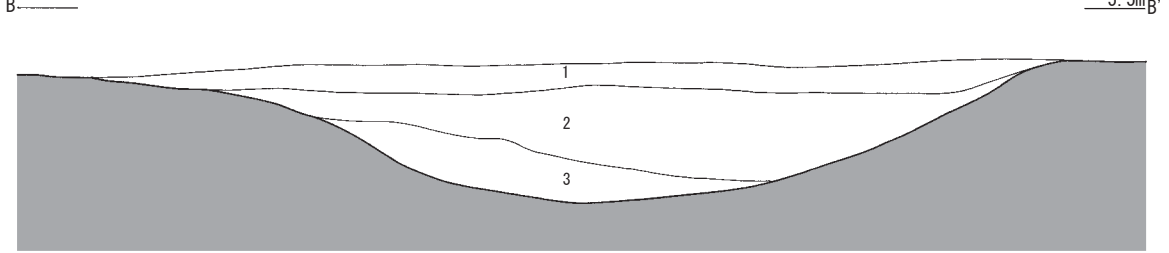


5.5m



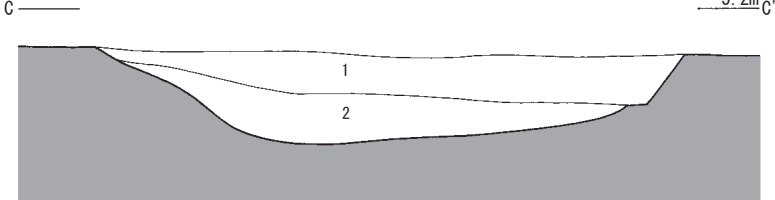
1. にぶい暗褐 粗砂（明褐焼土含）

SD016



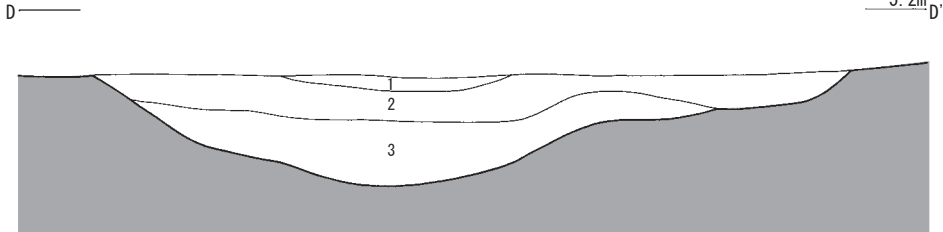
1. 黒褐 シルト質極細砂（細砂混じる）
2. 褐灰 細礫～中砂（植物含・ラミナ）
3. 灰黄褐 細礫～粗砂（ラミナ・鉄分沈着）

SD016

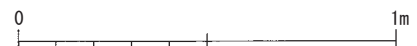


1. 黒褐 シルト質極細砂（細砂混炭化物含・ラミナ）
2. 褐 極細砂～中砂（ラミナ）

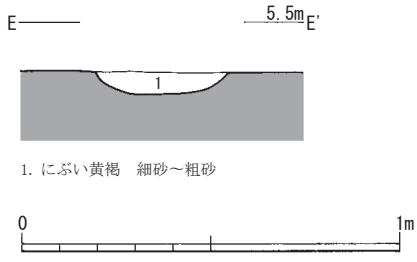
SD016



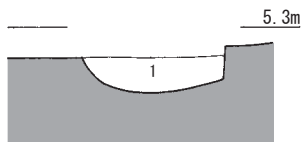
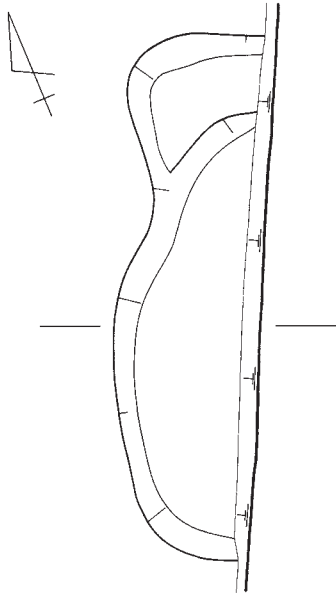
1. 灰黄褐 細砂～粗砂
2. 黒褐 極細砂（ラミナ）
3. 褐灰 細礫～中砂



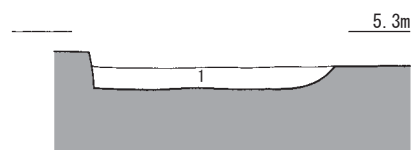
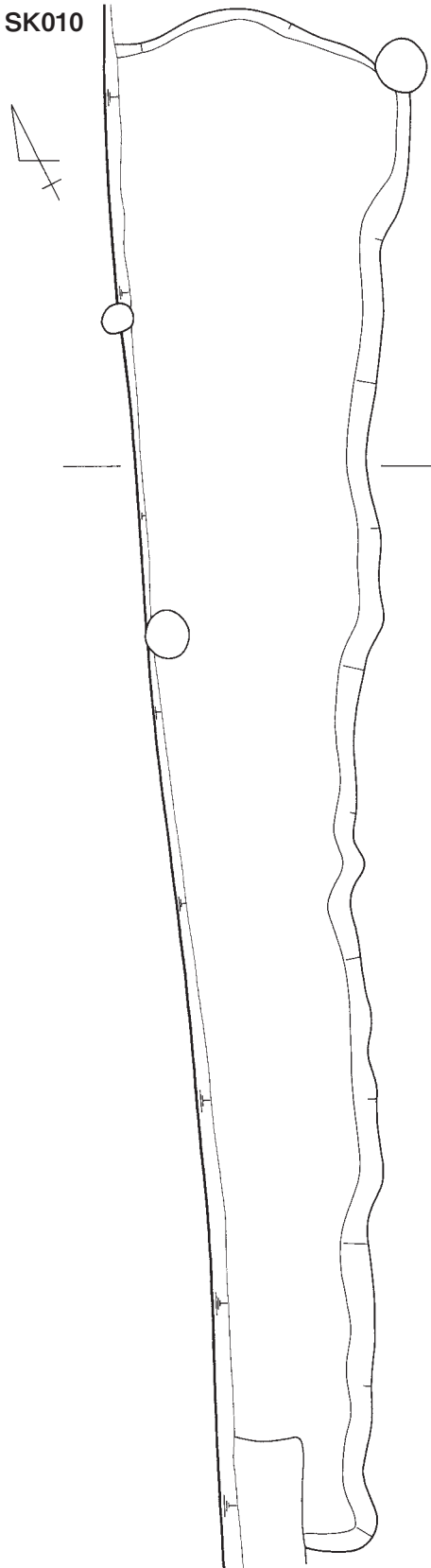
SD017



SK009

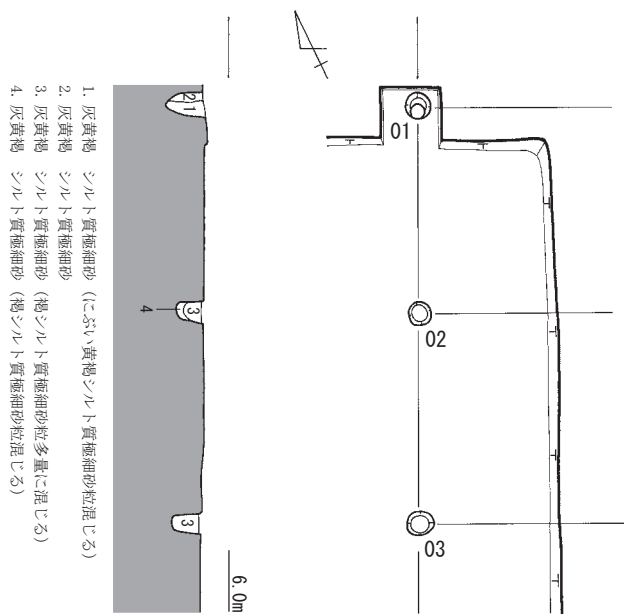


SK010

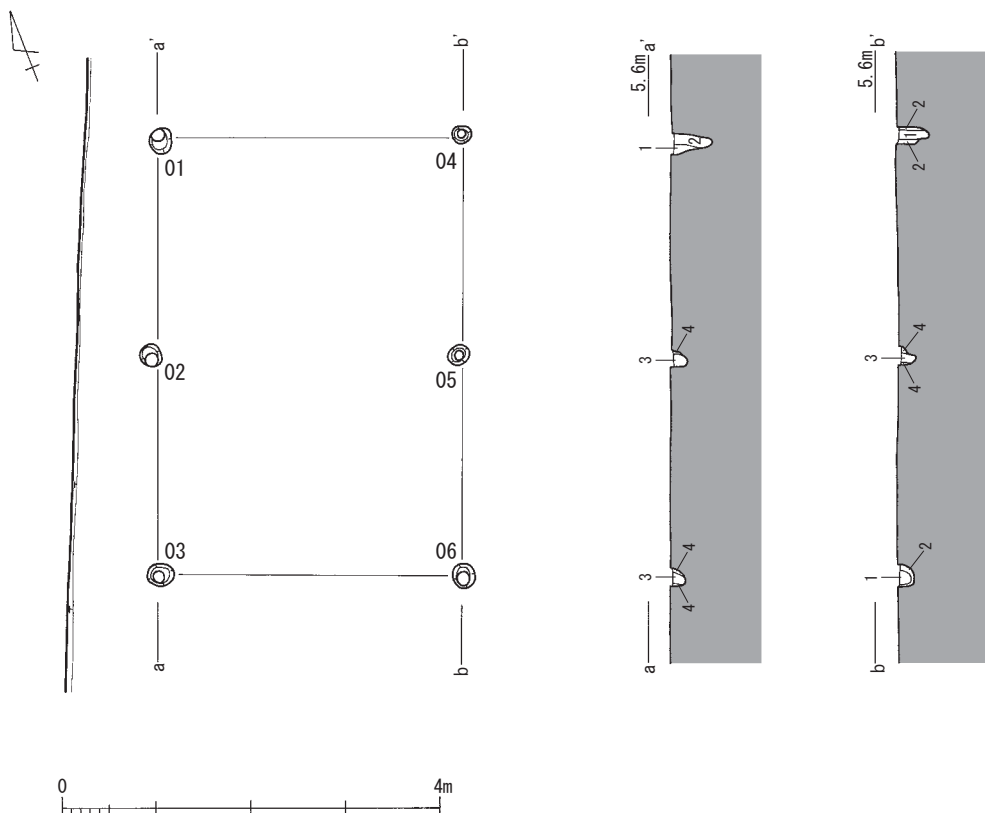


溝 SD017 土層断面 土坑 SK009・SK010

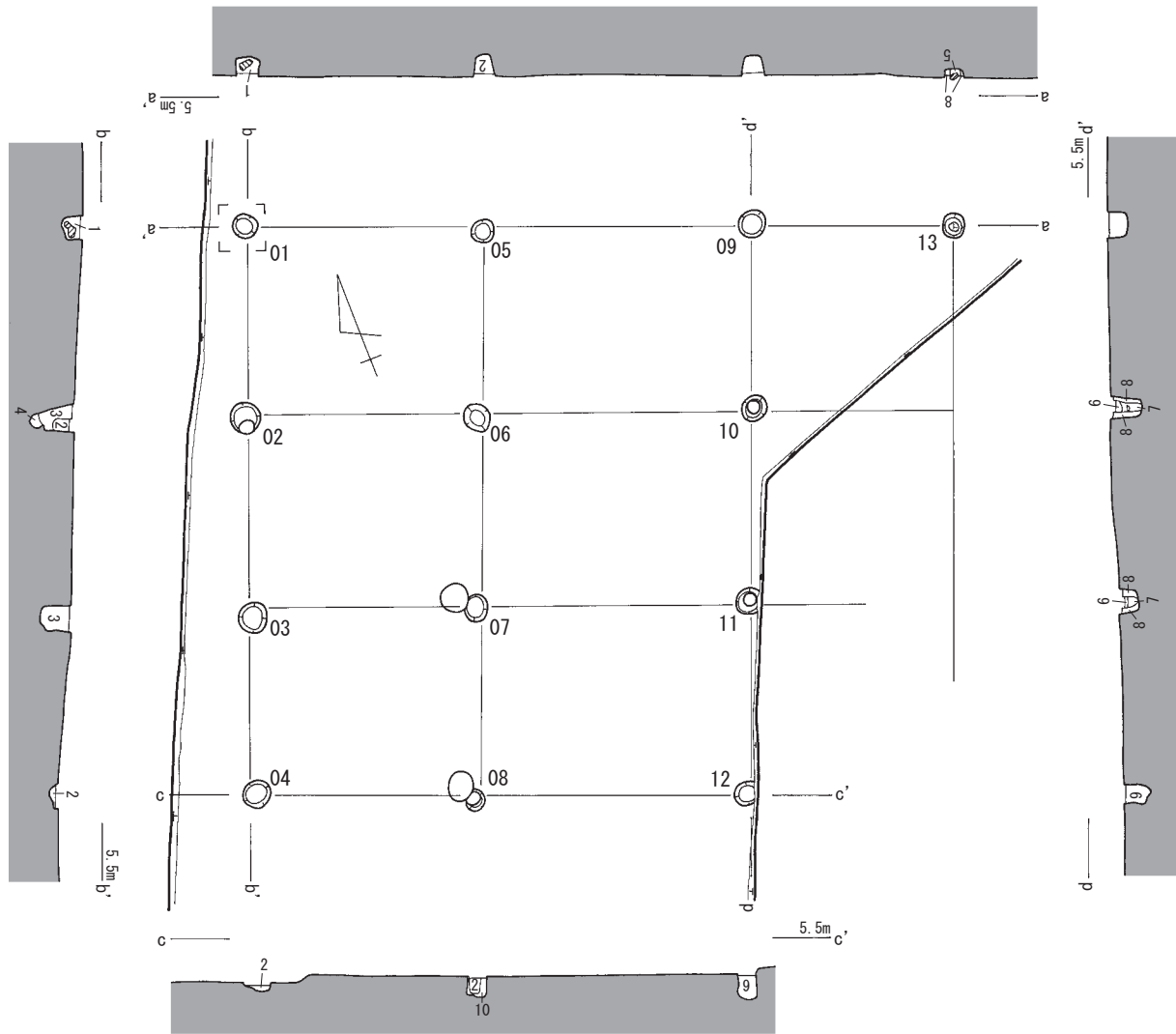
SB023



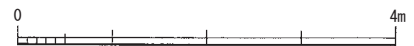
SB024



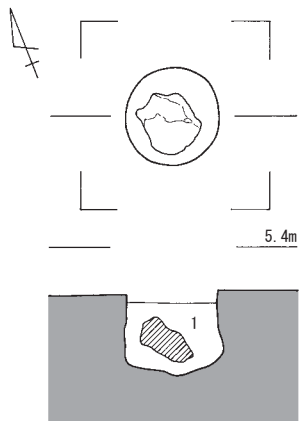
SB025



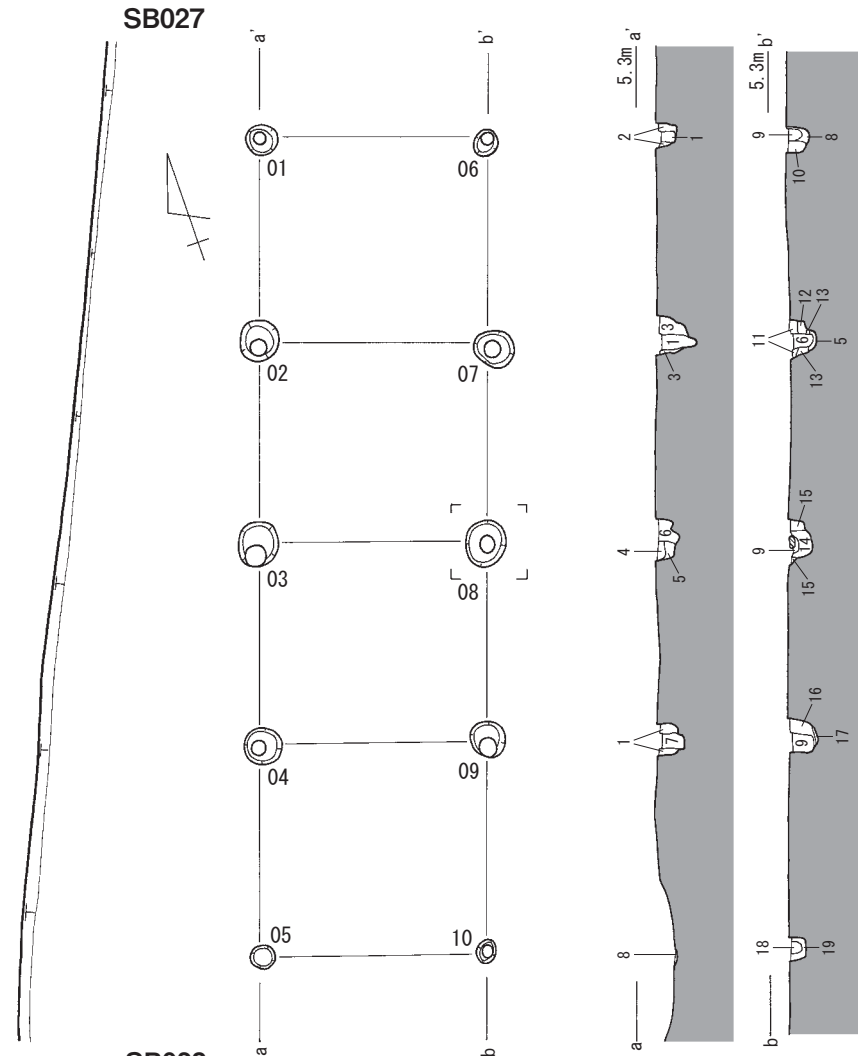
- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 灰黄褐 シルト質極細砂(灰褐シルト質極細砂粒混じる) | 6. にぶい黄褐 極細砂～細砂 |
| 2. にぶい黄褐 極細砂(灰黄褐極細砂粒混じる) | 7. 灰黄褐 シルト質極細砂～極細砂 |
| 3. 暗灰黄 極細砂(灰黄褐シルト質極細砂混じる) | 8. 黒褐 極細砂(灰黄褐極細砂粒混じる) |
| 4. 黒褐 シルト質極細砂 | 9. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂(褐シルト質極細砂粒混じる) |
| 5. 灰褐 極細砂(黒褐シルト質極細砂混じる) | 10. 灰黄褐 極細砂(にぶい黄褐極細砂粒混じる) |



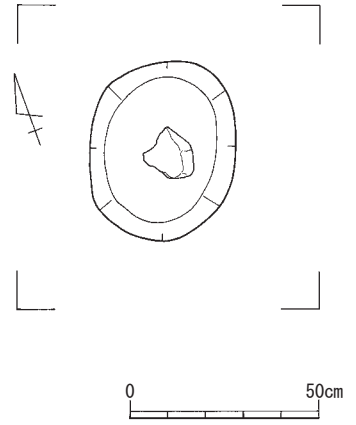
SB025 P01



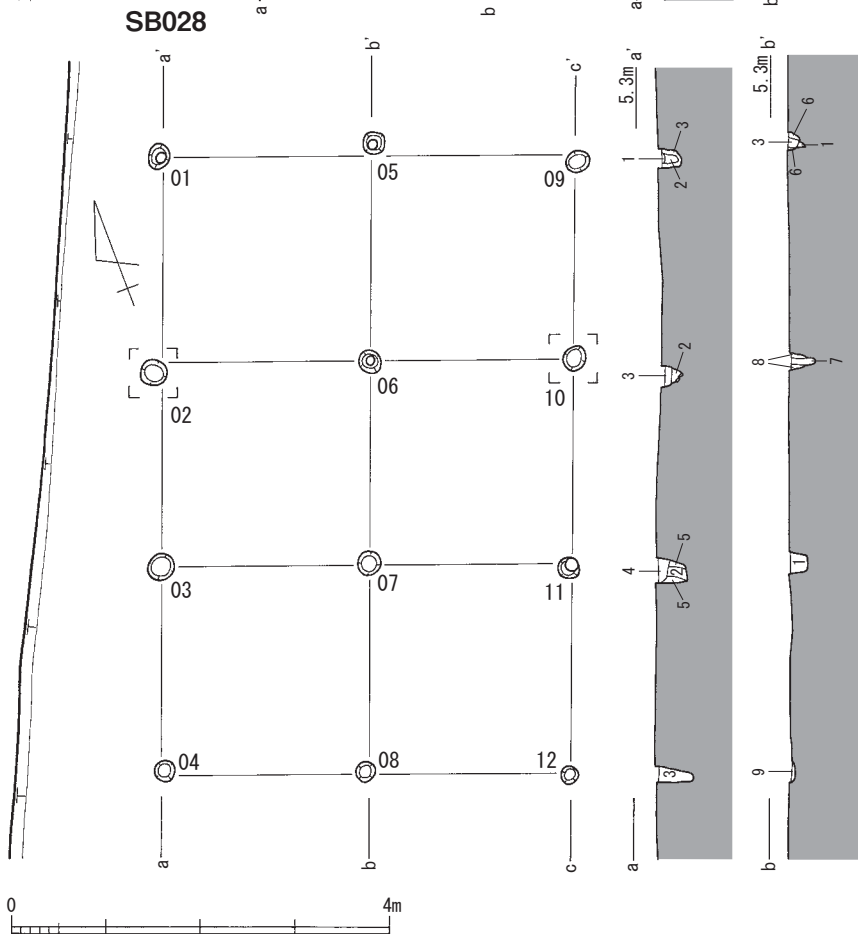
掘立柱建物 SB025



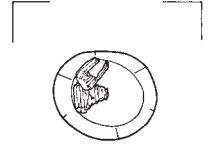
SB027 P08



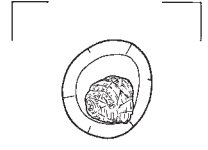
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
2. 黒褐 極細砂 (灰黄褐極細砂粒混じる)
3. 黒褐 シルト質極細砂 (こぶい、黄褐極細砂粒混じる)
4. 灰黄褐 シルト質極細砂 (粗砂混じる)
5. 黒褐 シルト質極細砂
6. 灰黄褐 極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
7. 灰黄褐 シルト質極細砂
8. 暗褐 シルト質極細砂
9. 灰黄褐 極細砂
10. 黒褐 シルト質極細砂 (灰黄褐極細砂粒混じる)
11. 黒褐 極細砂
12. 暗褐 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂混じる)
13. 暗褐 極細砂
14. 黒褐 シルト質極細砂 (細砂混じる)
15. 黒褐 シルト質極細砂 (褐砂混じる)
16. 黄褐 シルト質極細砂 (暗褐極細砂粒混じる)
17. 黒 シルト質極細砂
18. 灰黄褐 極細砂 (暗褐極細砂粒混じる)
19. 黒褐 シルト質極細砂 (炭含 灰黄褐極細砂粒混じる)



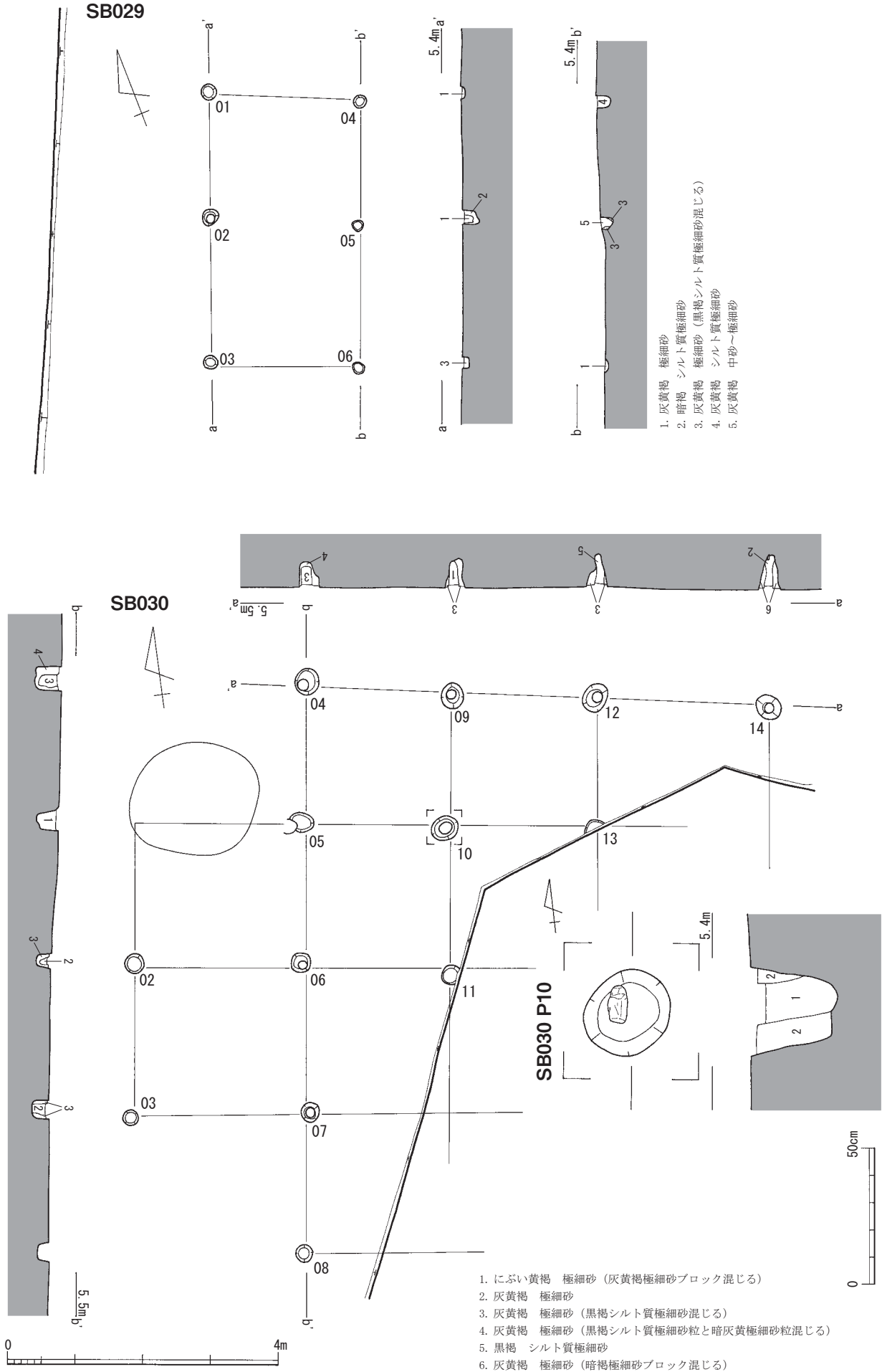
SB028 P02



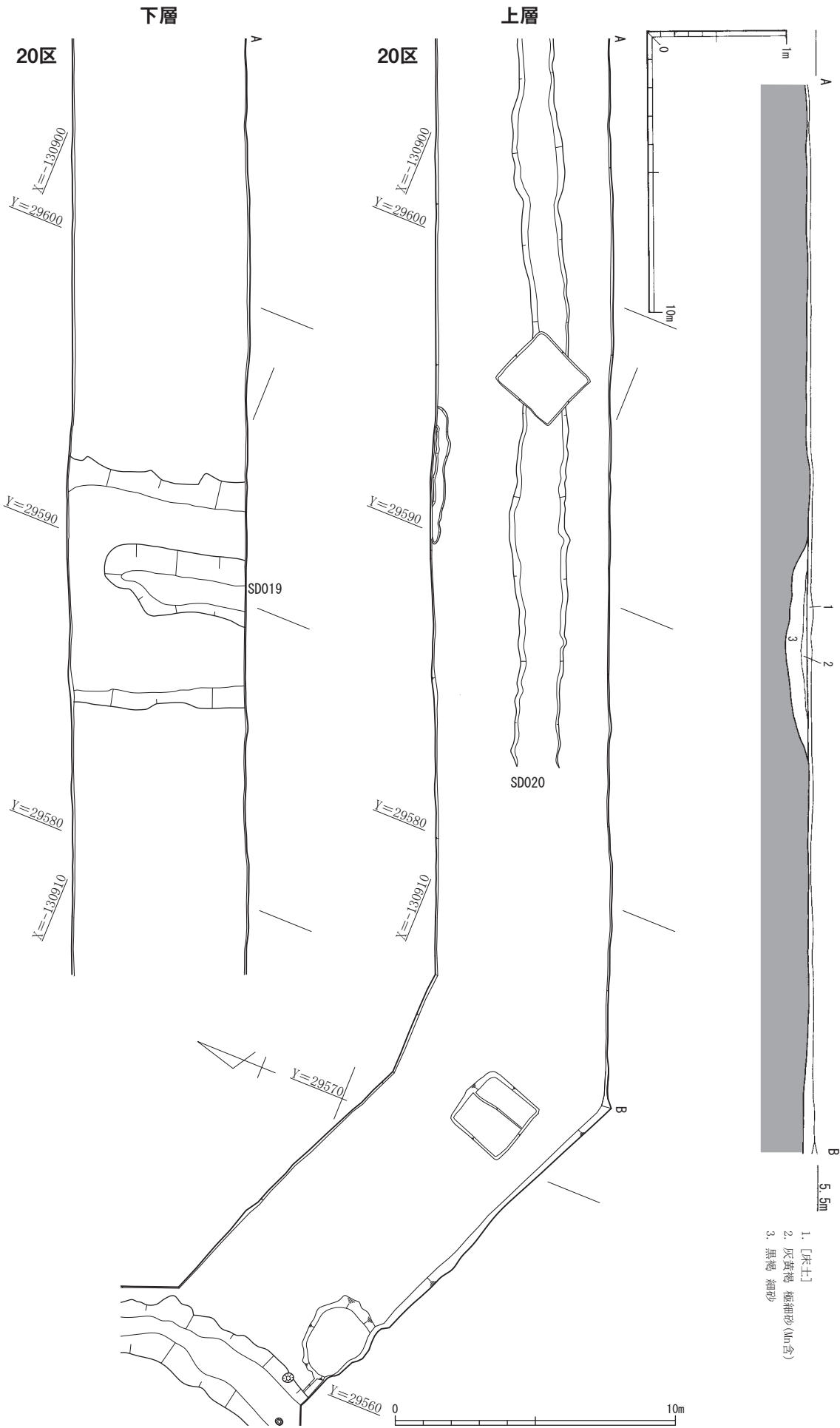
SB028 P10



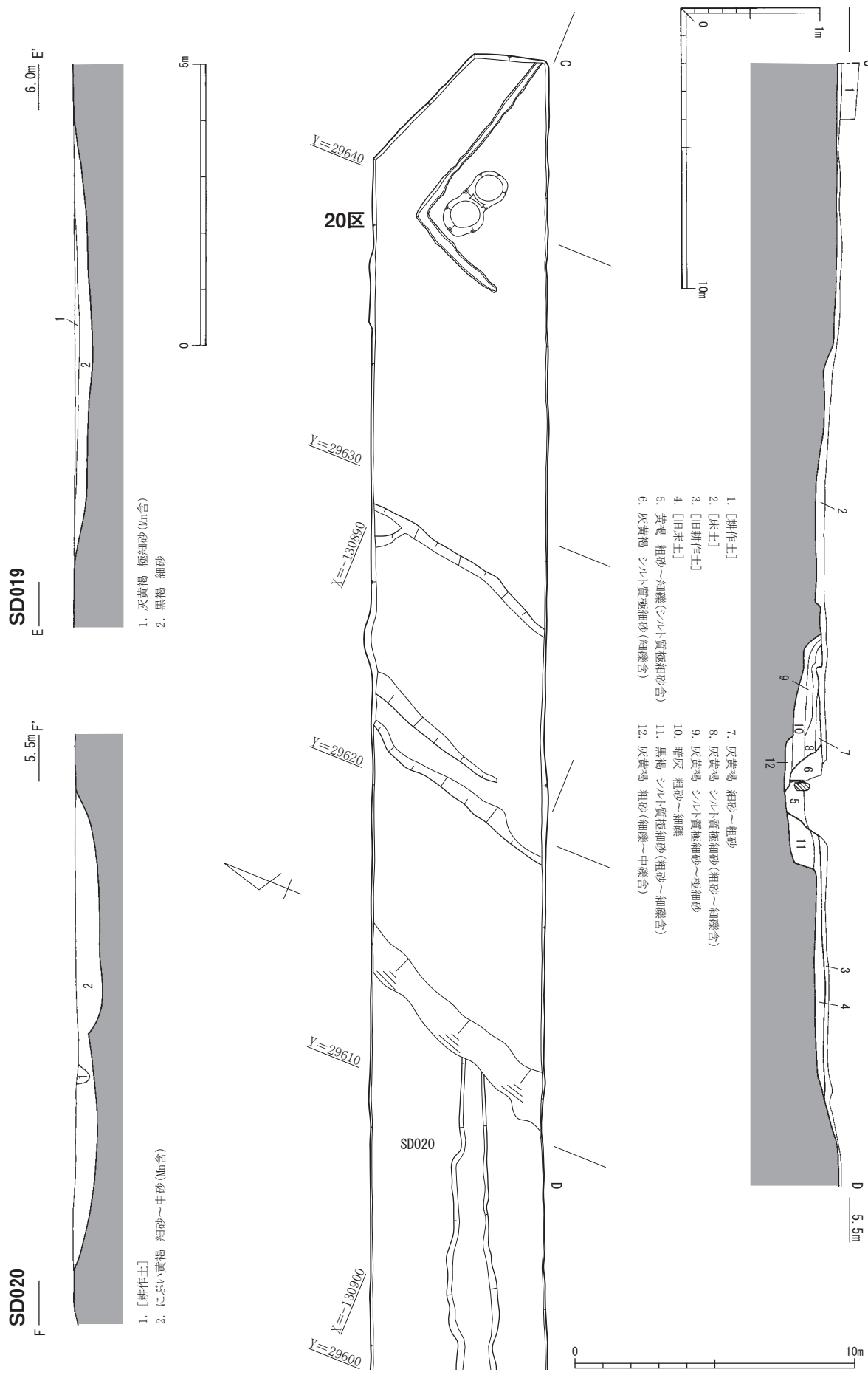
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂
3. 灰黄褐 極細砂 (こぶい、黄褐シルト質極細砂粒混じる)
4. 灰黄褐 極細砂
5. 黒 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
6. 黒 シルト質極細砂 (灰黄褐極細砂粒混じる)
7. 灰黄褐 細砂～細砂 (暗灰黄シルト質極細砂粒混じる)
8. 暗褐 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
9. 灰黄褐 シルト質極細砂 (細砂混じる)
10. 灰黄褐 極細砂 (黒褐と褐砂粒混じる)
11. 暗褐 シルト質極細砂
12. 黒褐 シルト質極細砂
13. 灰黄褐 シルト質極細砂 (暗灰黄シルト質極細砂粒混じる)



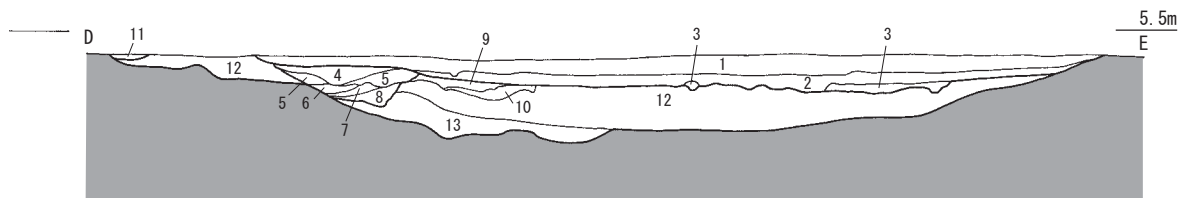
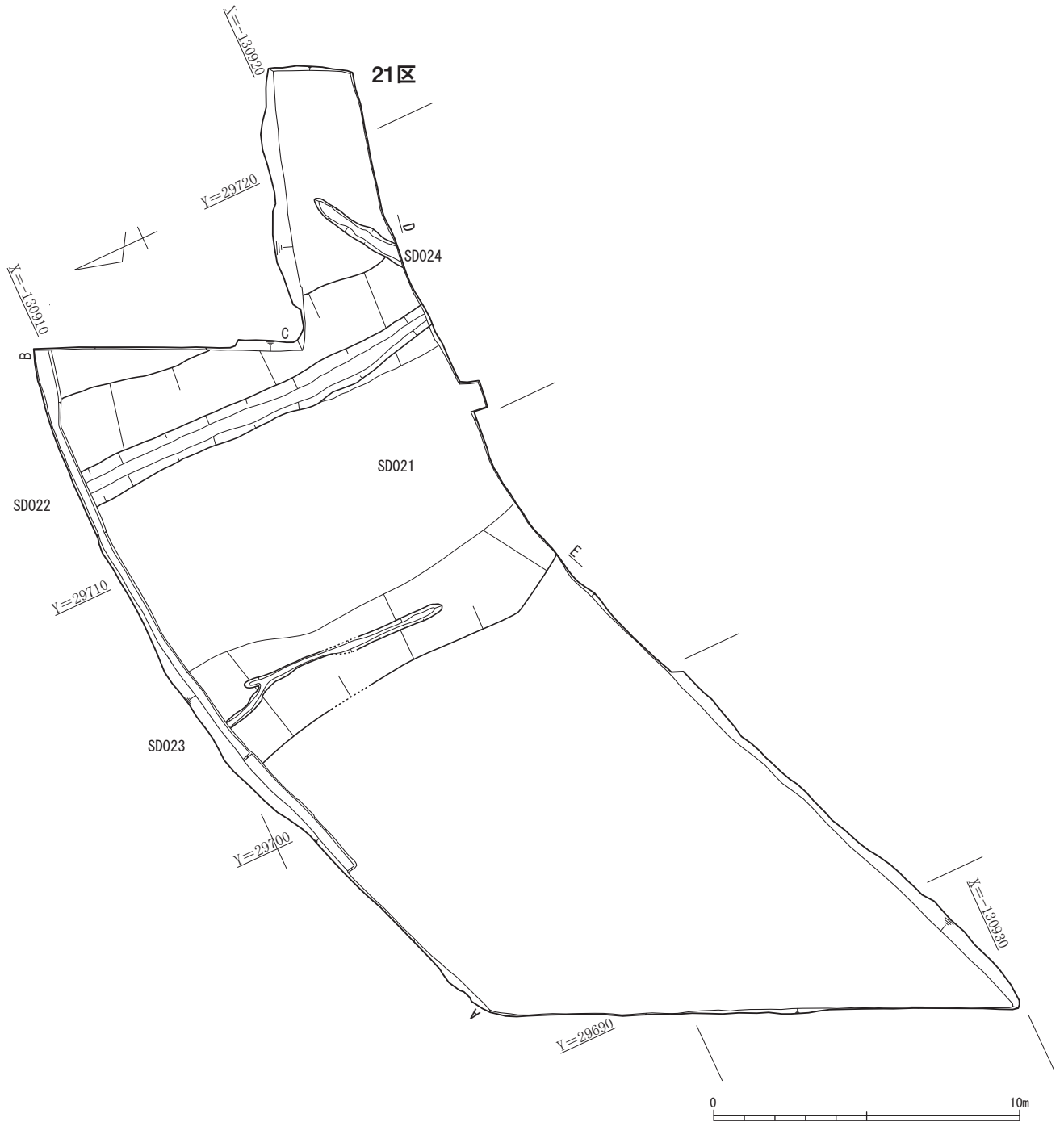
掘立柱建物 SB029・SB030



西半部 下層・上層遺構配置 土層断面



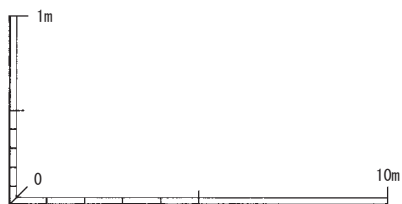
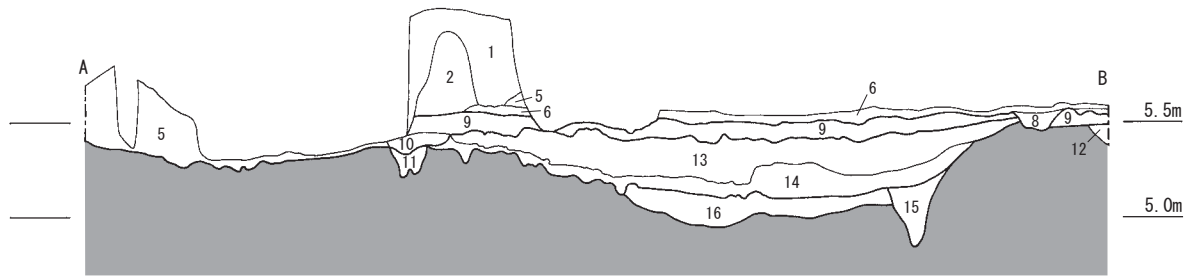
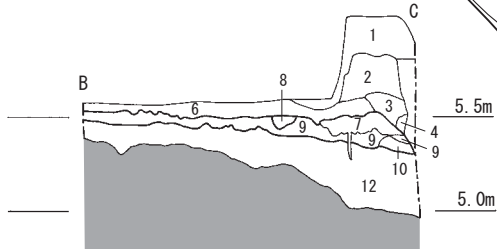
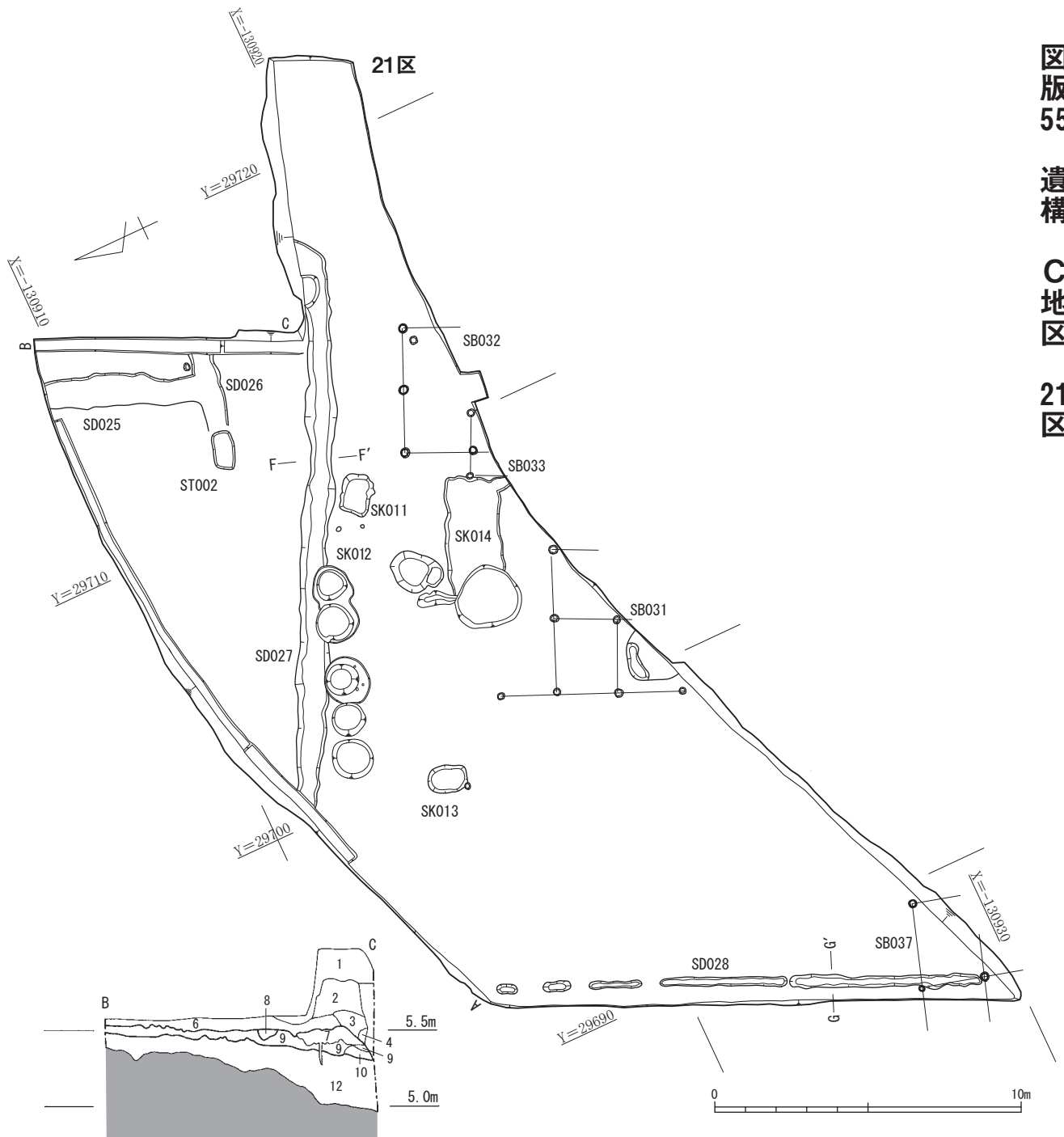
東半部 遺構配置 土層断面 溝 SD019・SD020 土層断面



- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂(中砂混じる) | 8. 黒褐 細砂～極細砂(ラミナ) |
| 2. 灰褐 極細砂(中砂～極細砂混じる) | 9. 黒褐 中砂～細砂 |
| 3. 灰褐 極細砂(黒褐 シルト質極細砂混じる) | 10. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる) |
| 4. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 | 11. 褐 極細砂(粗砂混じる)[SD024] |
| 5. 黒 シルト質極細砂 | 12. 灰白 シルト質極細砂 |
| 6. 黒 粗砂～極細砂 | 13. 黄灰 細砂 |
| 7. 暗褐 中砂～細砂(ラミナ) | |



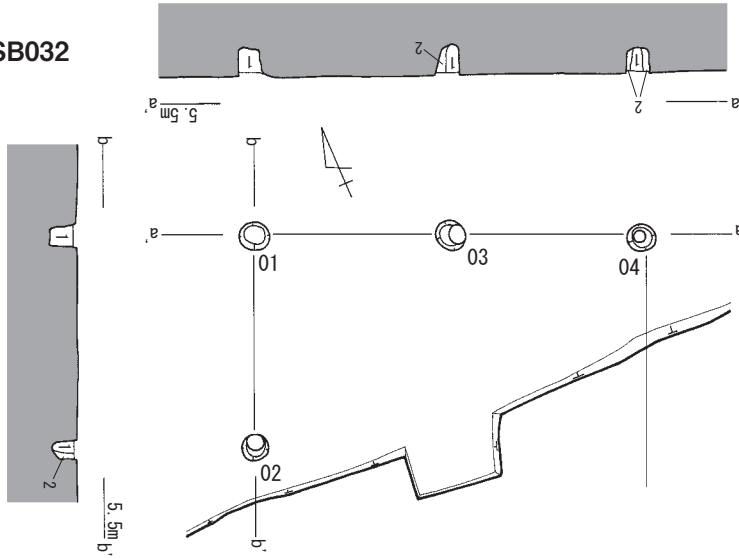
下層遺構配置 土層断面



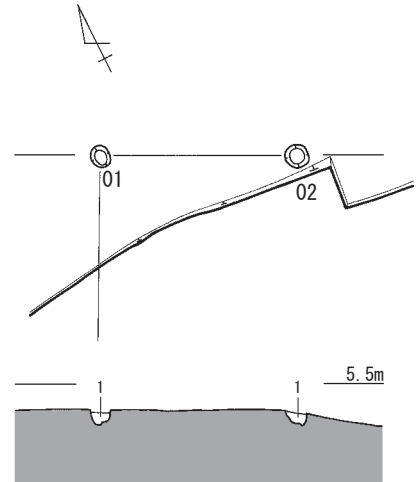
- | | |
|---|--------------------------|
| 1. [道路] | 9. 灰褐 極細砂(Mn含) |
| 2. [畦畔] | 10. 暗褐色 シルト質極細砂 |
| 3. にぶい黄褐 極細砂 | 11. 灰黄褐 極細砂(細礫含) [SD027] |
| 4. にぶい黄褐 極細砂(Fe ₂ O ₃ 含) | 12. 黒褐 シルト質極細砂 |
| 5. 灰黄褐 細砂[畦畔] | 13. 黒褐 シルト質極細砂(中砂混じる) |
| 6. 明黄褐 極細砂(Fe ₂ O ₃ 含) | 14. 灰褐 極細砂(中砂~極細砂混じる) |
| 7. 灰黄褐色 極細砂(Fe ₂ O ₃ 含) | 15. 黄灰 細砂 |
| 8. 明黄褐 中砂(Fe ₂ O ₃ 含) [SD025] | 16. 灰白 シルト質極細砂 |

上層遺構配置 土層断面

SB032



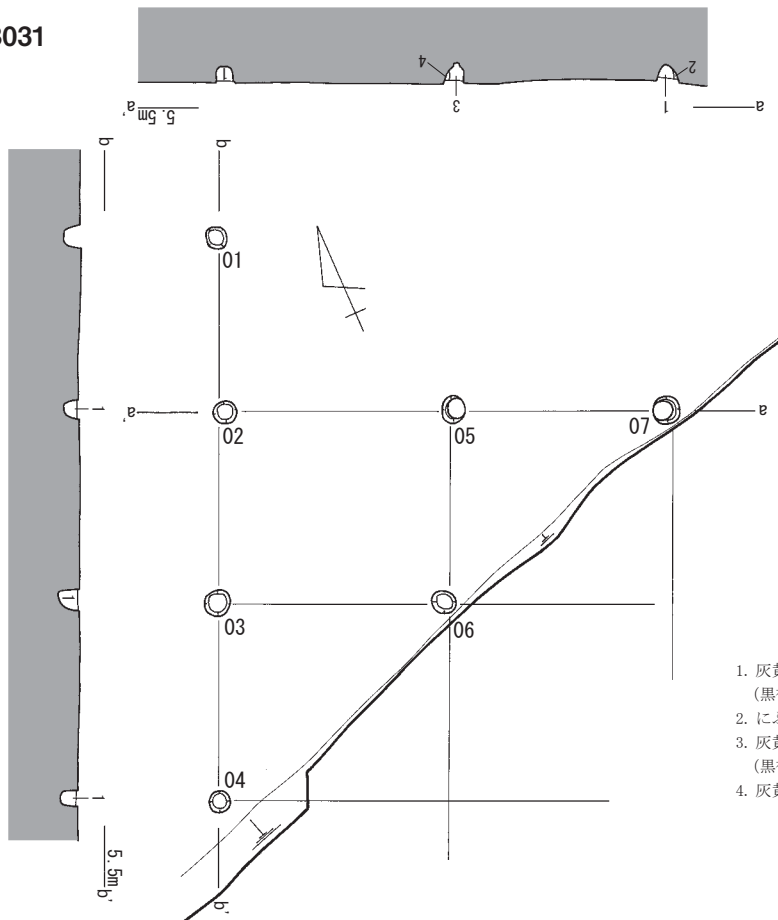
SB033



- 1. にぶい黄橙 極細砂 (褐シルト質極細砂粒混じる)
- 2. にぶい黄橙 極細砂

1. にぶい黄橙 極細砂

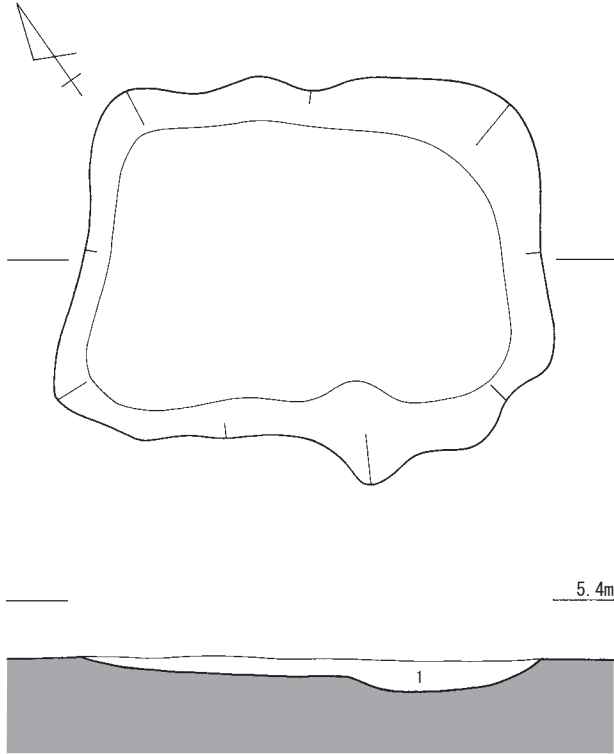
SB031



- 1. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
- 2. にぶい黄褐 極細砂
- 3. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒・細礫混じる)
- 4. 灰黄褐 中砂～細砂

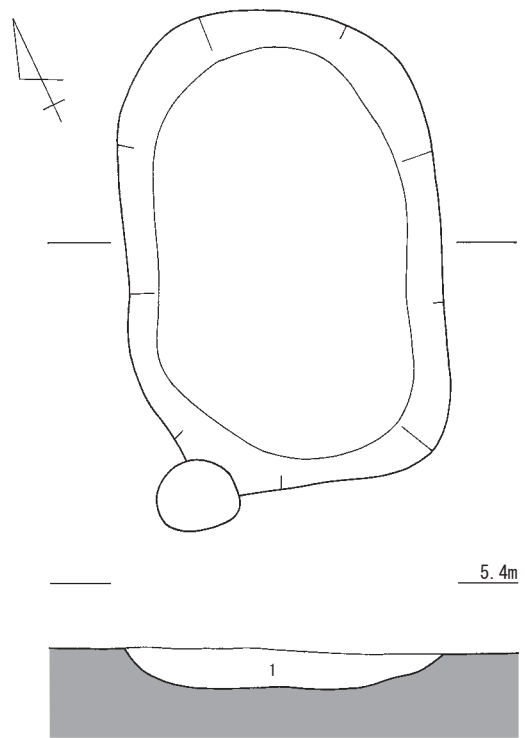


SK011



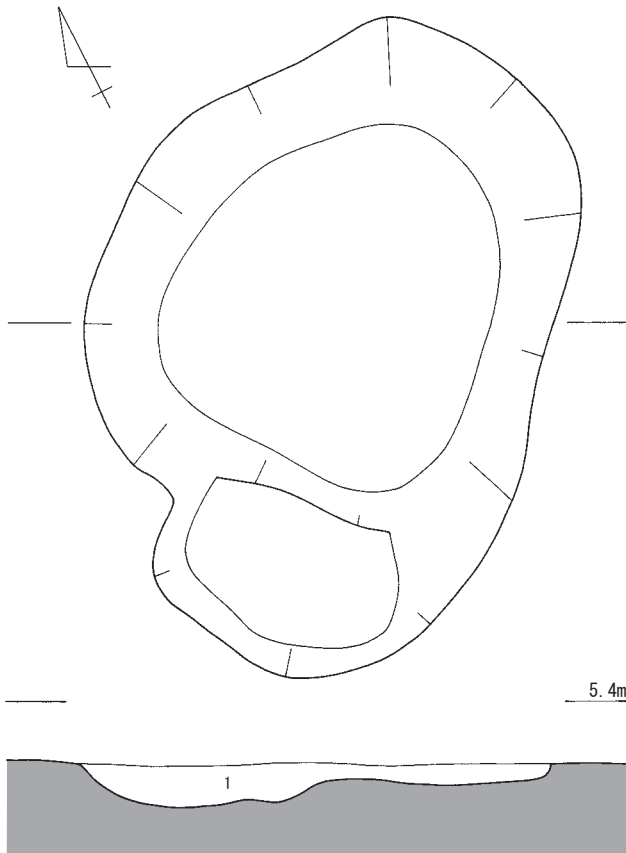
1. にぶい黄橙 シルト質極細砂(中砂混じる)

SK013



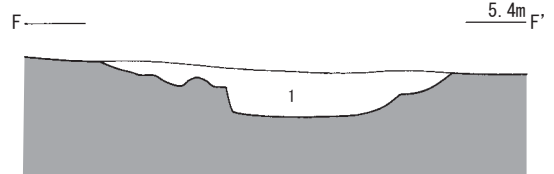
1. 灰黄褐 極細砂(黒シルト質極細砂粒混じる)

SK012



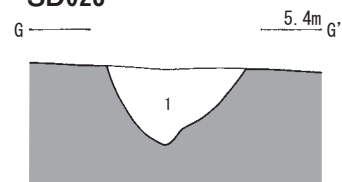
1. にぶい黄橙 極細砂(黒褐極細砂粒混じる)

SD027



1. 灰黄褐 極細砂(細礫少量混じる)

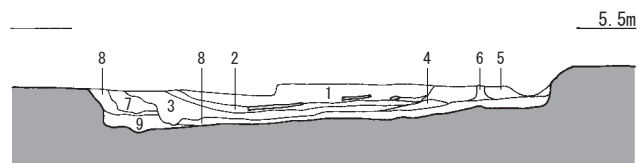
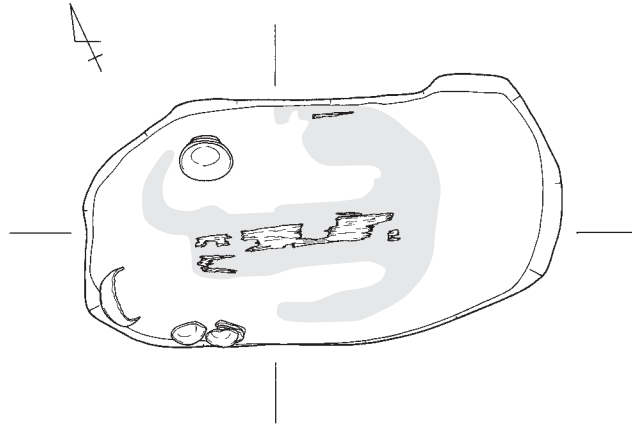
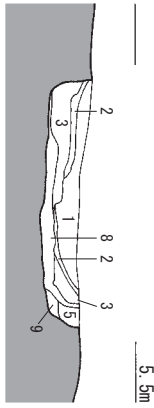
SD028



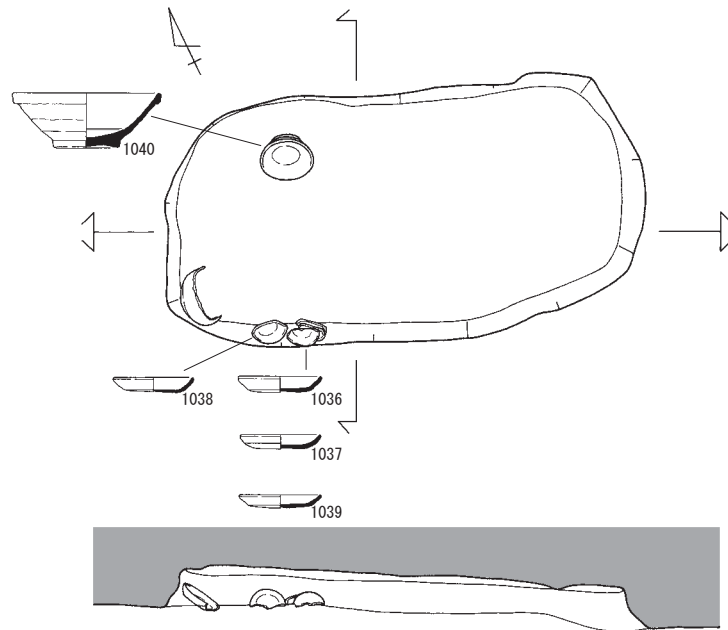
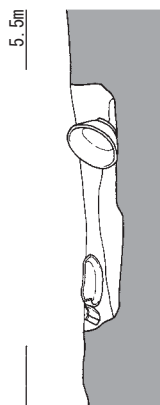
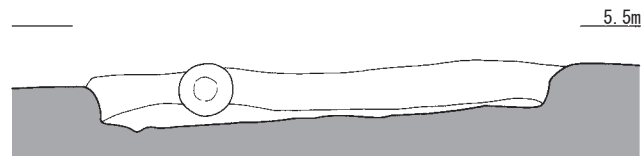
1. 灰黄褐 極細砂



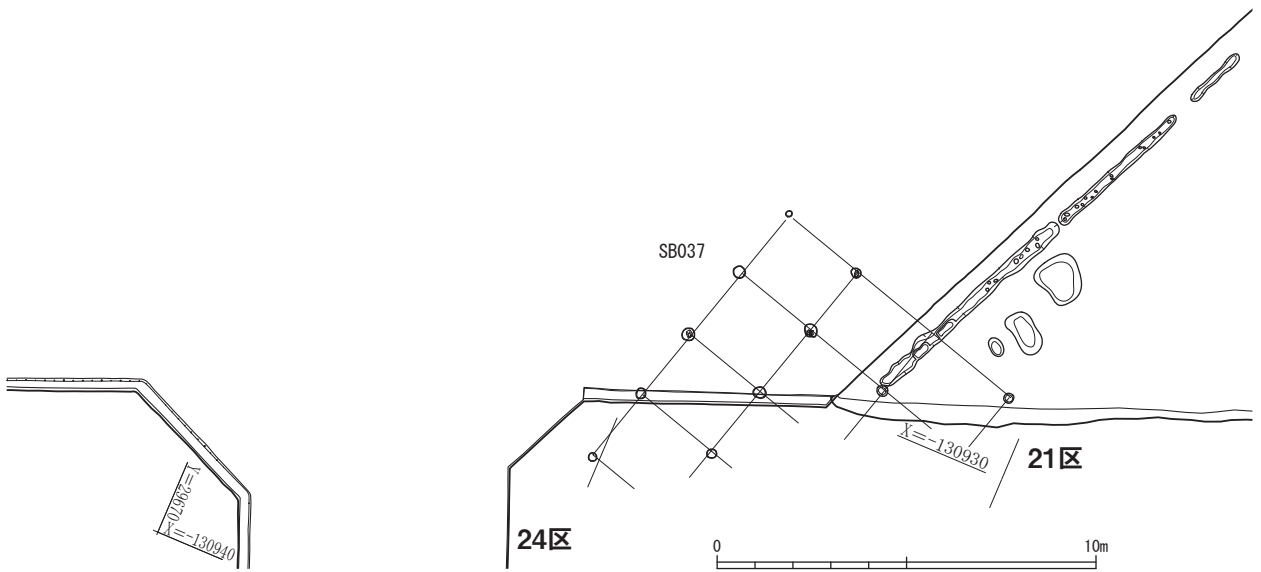
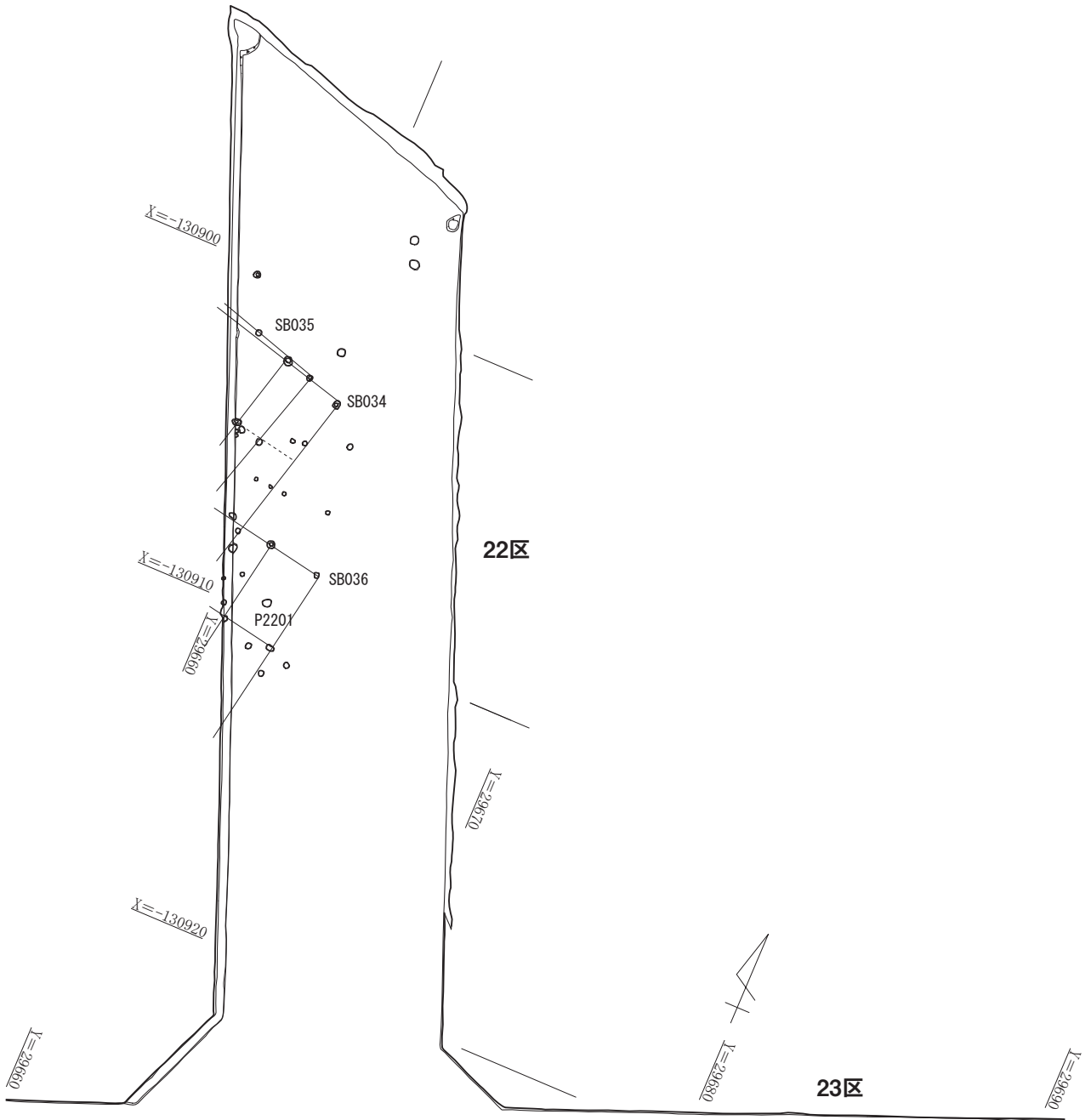
ST002



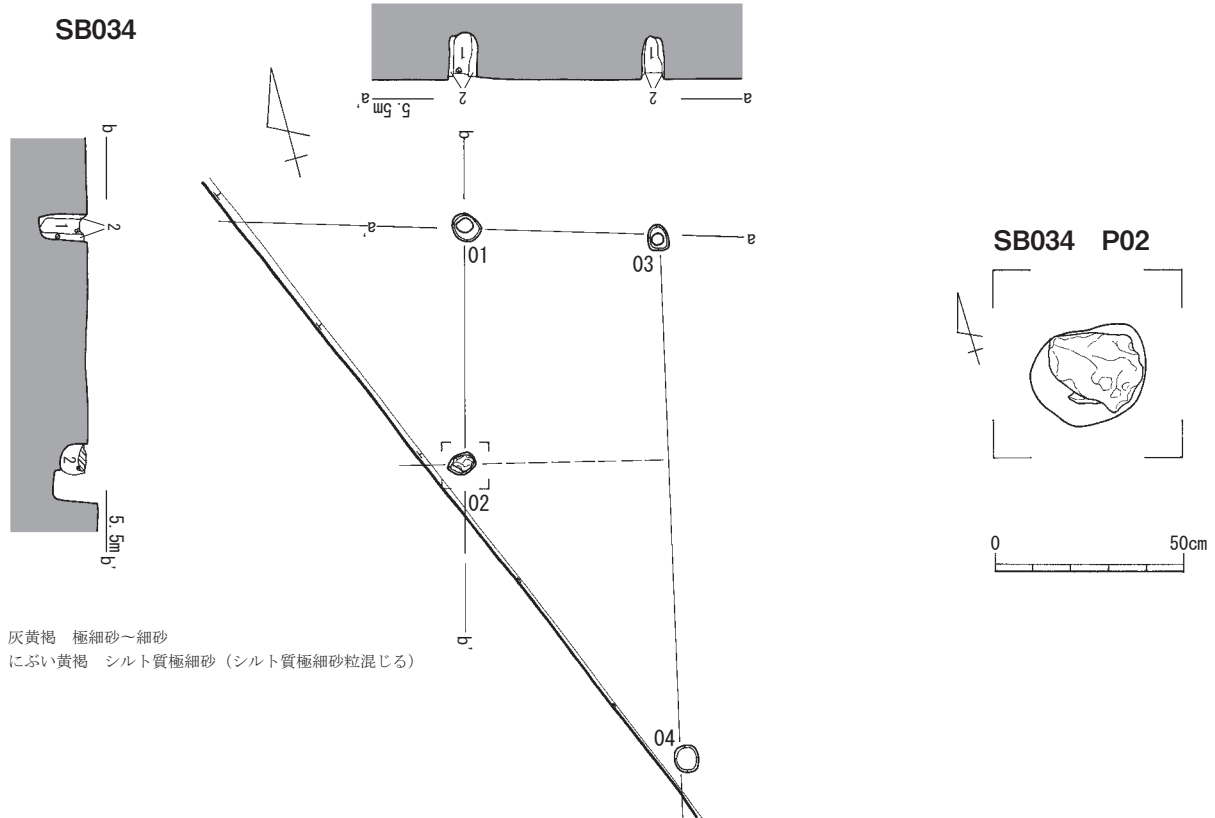
- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 灰褐色 細砂 [盛土] | 6. 黄褐色 シルト質極細砂 |
| 2. 灰黄褐色 シルト質極細砂 [蓋痕跡] | 7. 暗褐色 シルト質極細砂 |
| 3. にぶい黄褐色 細砂~極細砂 | 8. 褐色 極細砂 |
| 4. 灰黄褐色 細砂~シルト質極細砂 | 9. 暗褐色 シルト質極細砂 |
| 5. にぶい黄褐色 細砂 | |



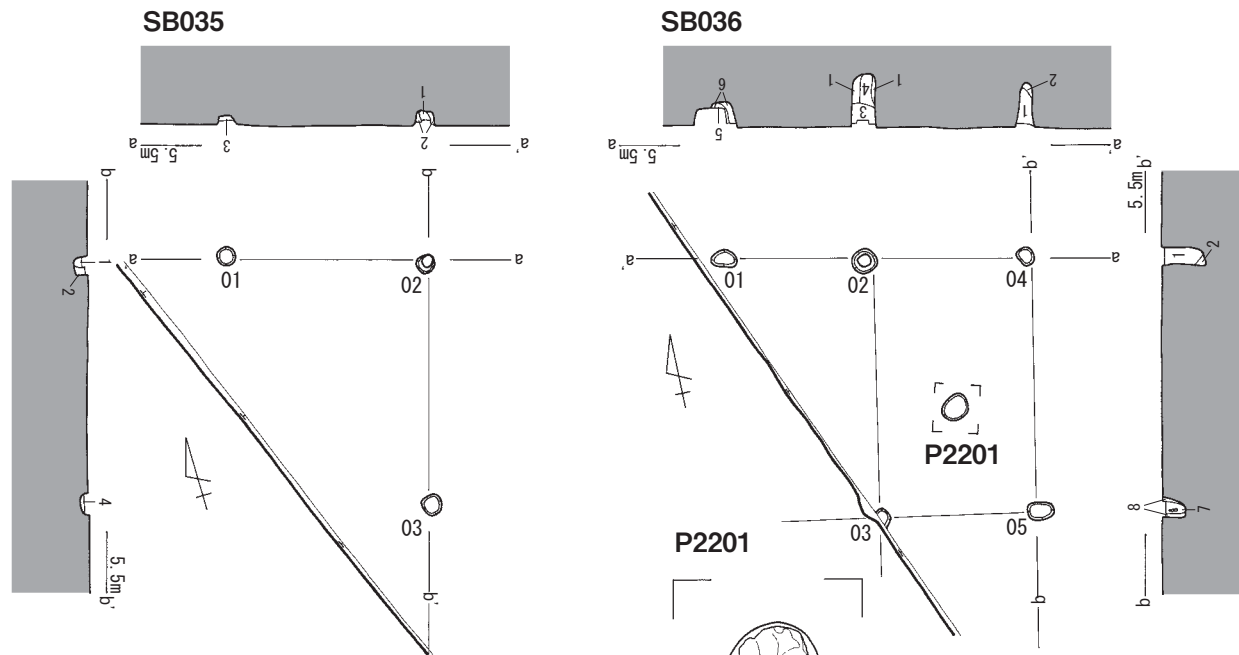
土壙墓 ST002



遺構配置



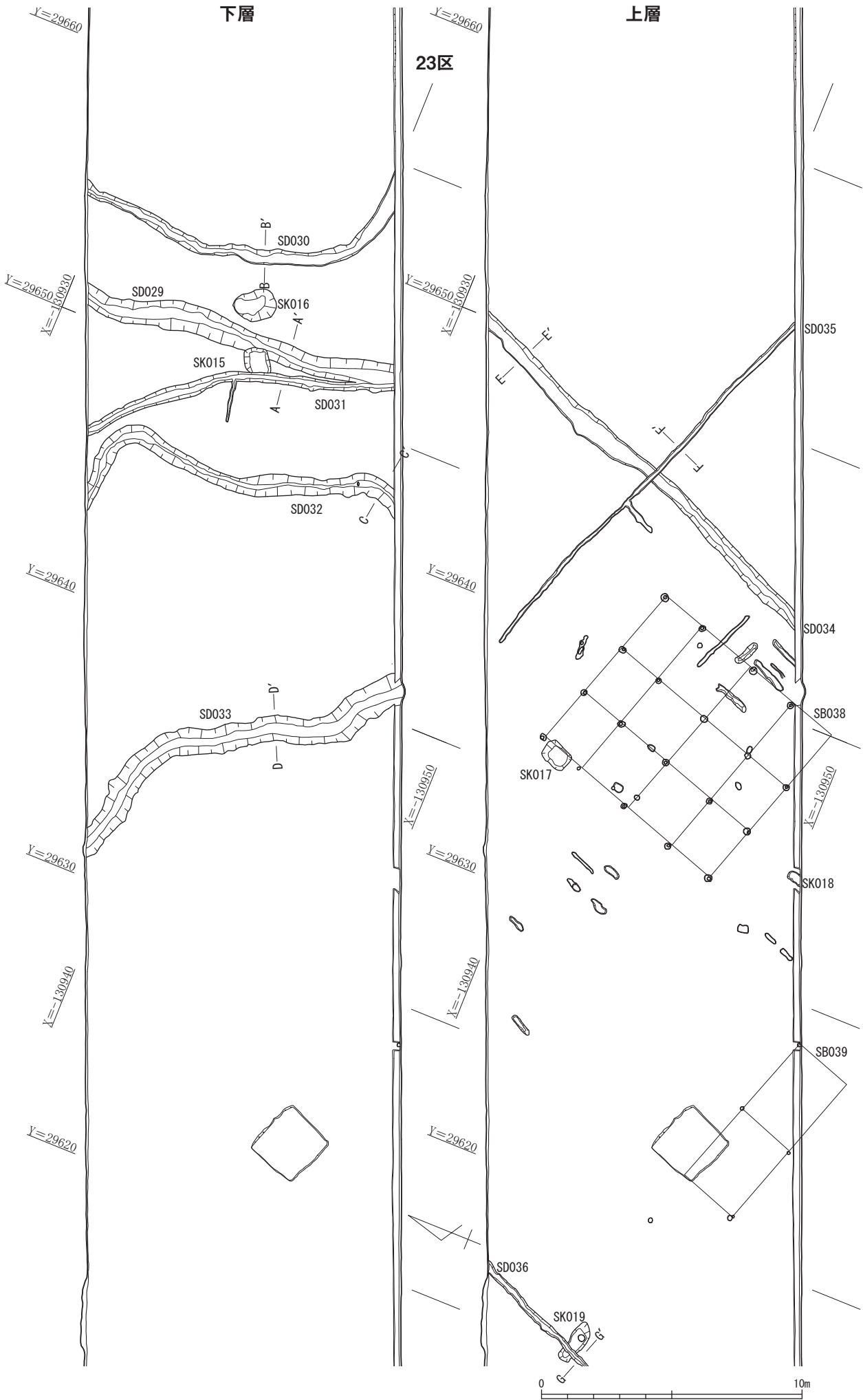
1. 灰黄褐 極細砂～細砂
2. にぶい黄褐 シルト質極細砂（シルト質極細砂粒混じる）



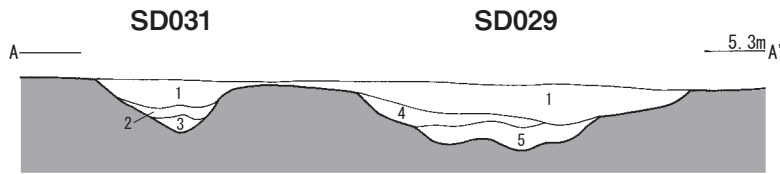
1. にぶい黄褐 極細砂
2. 黄褐 シルト質極細砂（シルト質極細砂粒混じる）
3. 灰黄褐 極細砂
4. 灰黄褐 シルト質極細砂（極細砂粒混じる）

1. 灰黄褐 極細砂（にぶい黄褐極細砂粒混じる）
2. 褐灰 シルト質極細砂
3. 灰黄褐 極細砂（極細砂粒混じる）
4. 灰黄褐 極細砂
5. 灰黄褐 シルト質極細砂
6. にぶい黄褐 シルト質極細砂（明黄褐シルト質極細砂粒混じる）
7. 灰黄褐 極細砂（木質含）
8. にぶい黄褐 シルト質極細砂

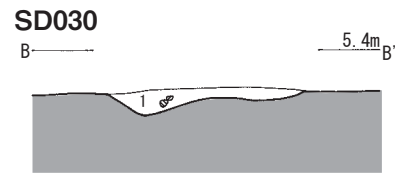




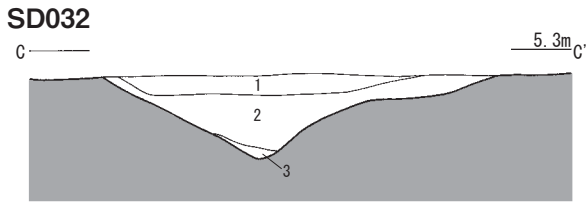
下層・上層遺構配置



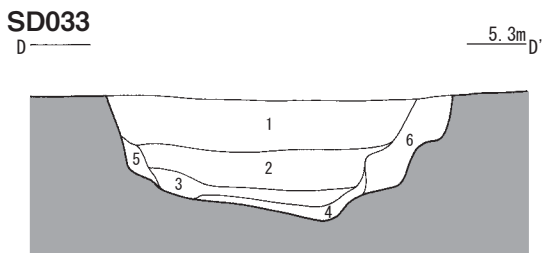
- 1. 暗灰黄 極細砂
- 2. 黒褐 極細砂
- 3. にぶい黄褐 細砂～中砂 (Fe₂O₃ 含)
- 4. 褐灰 極細砂
- 5. にぶい黄褐 細砂～粗砂 (ラミナ・底部に Fe₂O₃ 沈着)



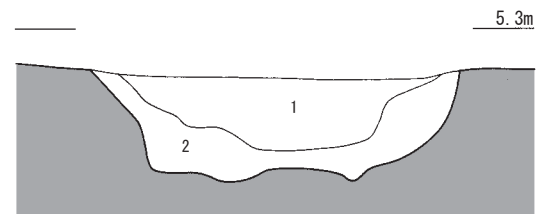
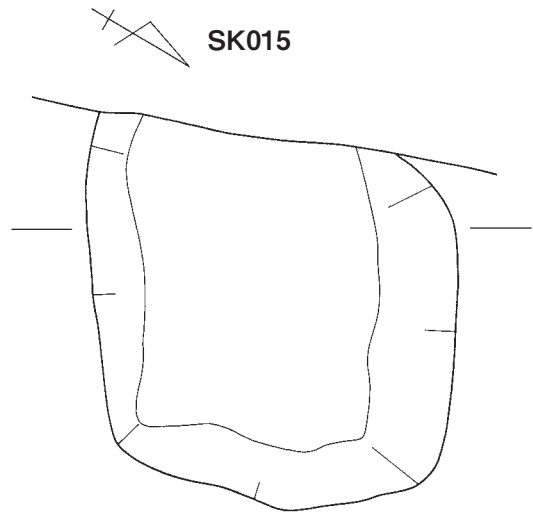
- 1. 黄灰 極細砂～細砂 (底部に中砂～粗砂含)



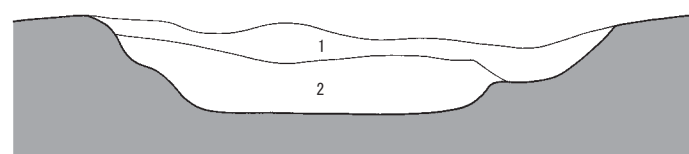
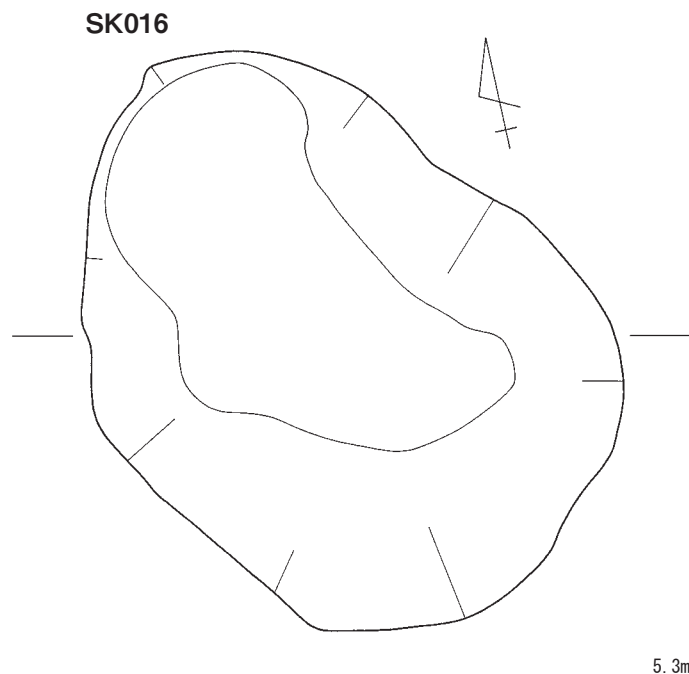
- 1. 灰黄褐 極細砂
- 2. 褐灰 極細砂 (にぶい黄褐極細砂粒混じる)
- 3. 明黄褐 細砂～粗砂 (Fe₂O₃ 含)



- 1. 灰黄褐 極細砂 (細砂～粗砂混じる)
- 2. 暗灰黄 極細砂～細砂 (ラミナ)
- 3. 灰黄褐 細砂～粗砂 (細礫～極粗砂混じる)
- 4. 黄褐 シルト質極細砂 (細礫混じる・Fe₂O₃ 含)
- 5. 暗灰黄 極細砂
- 6. 暗灰黄 極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)



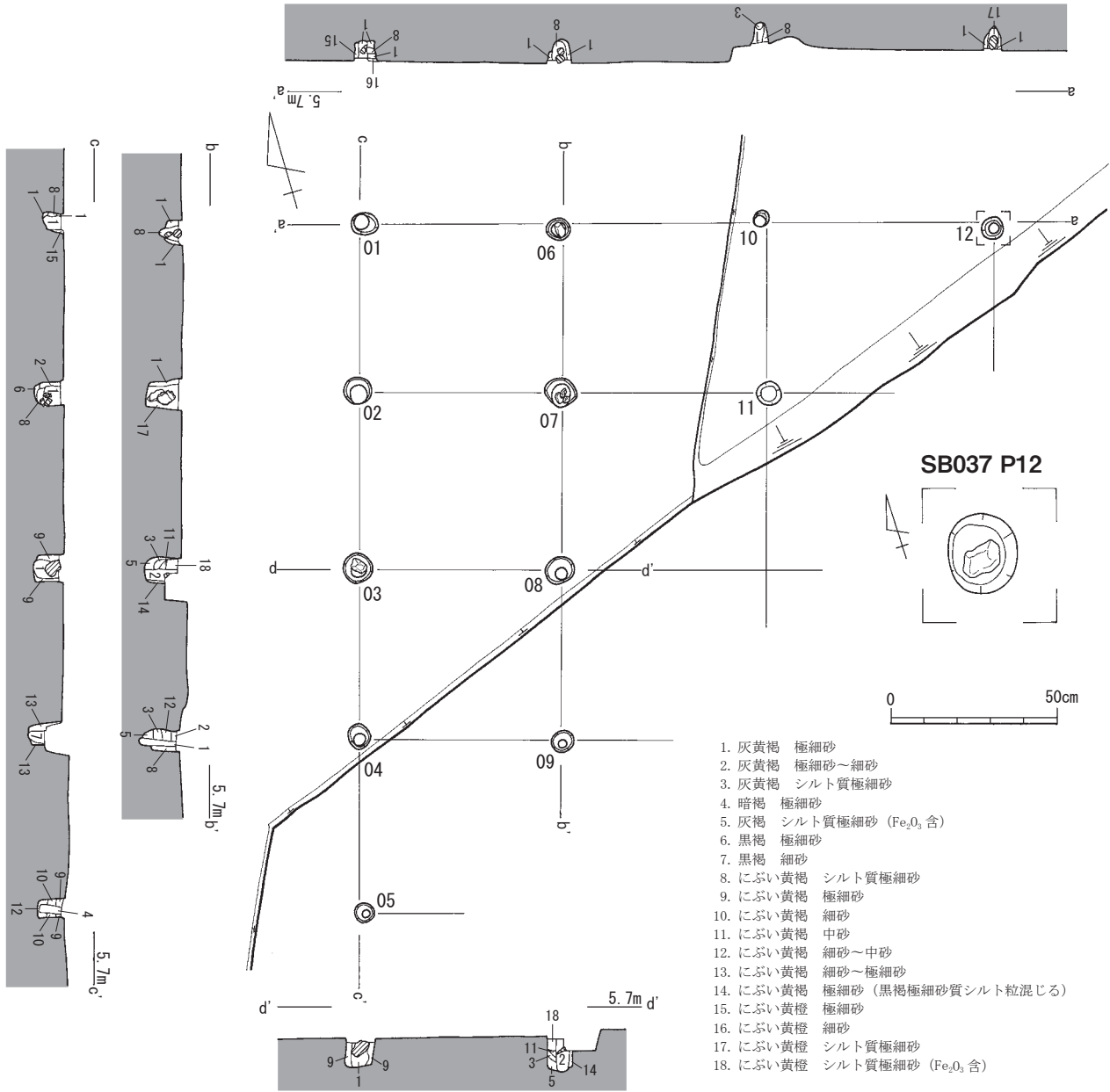
- 1. 暗灰黄 極細砂～細砂
- 2. 暗褐 極細砂



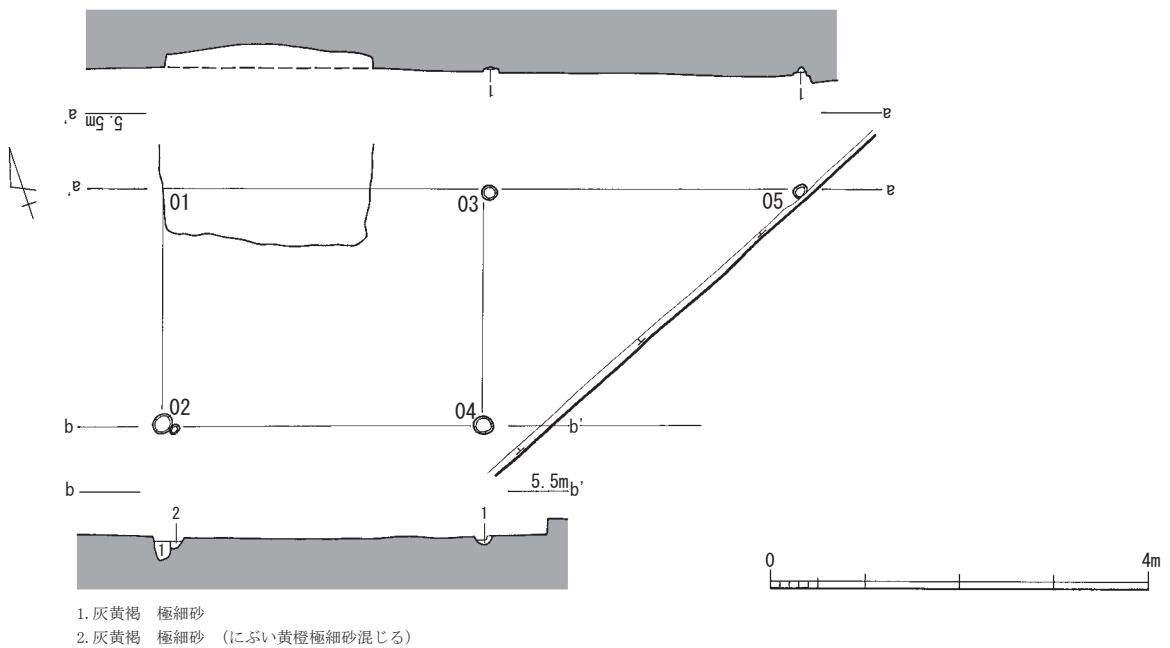
- 1. 灰黄褐 極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
- 2. 黒褐 シルト質極細 (黄褐極細砂粒混じる)



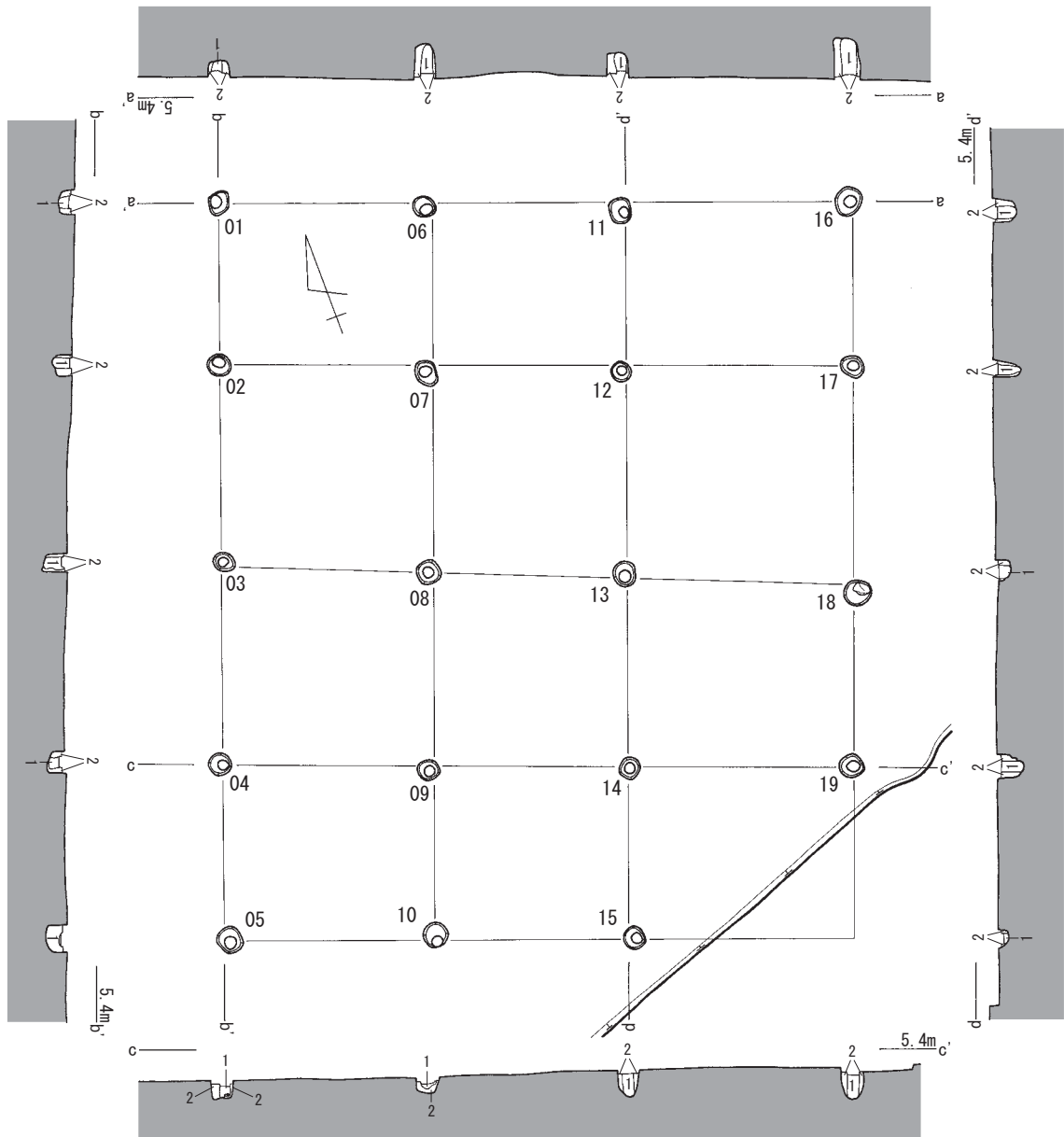
SB037



SB039

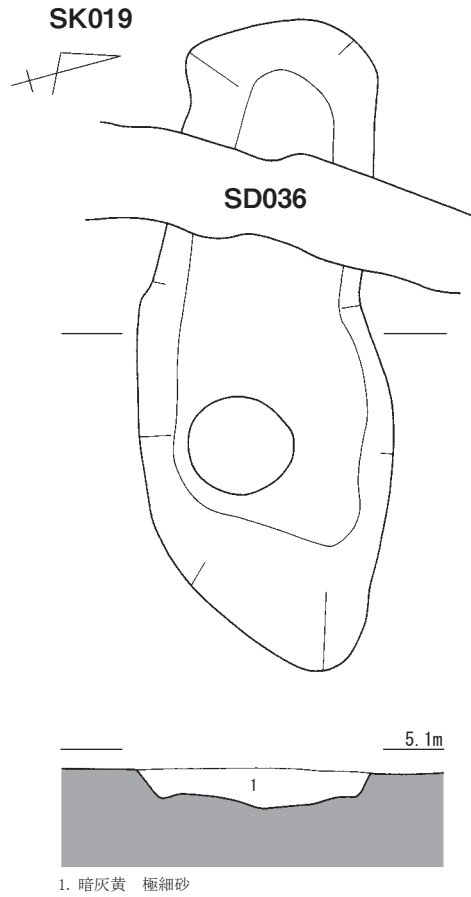
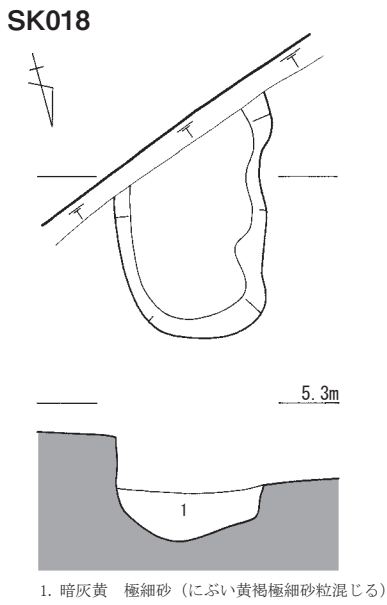
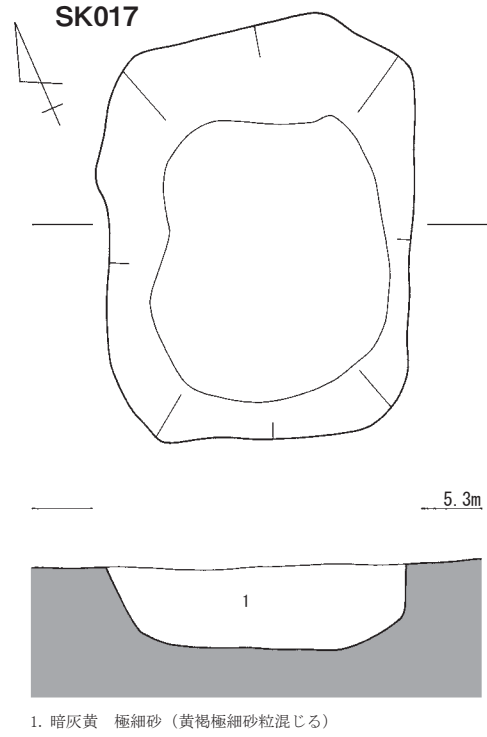
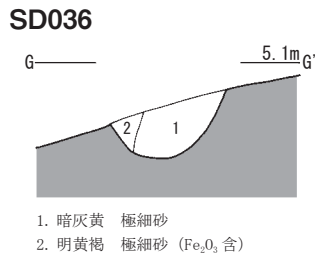
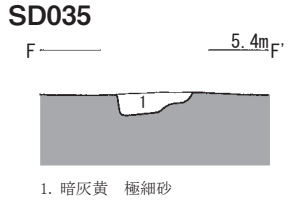
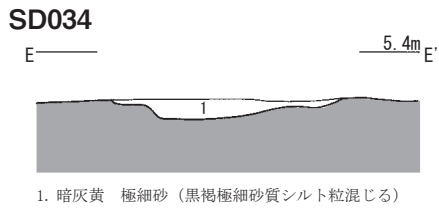


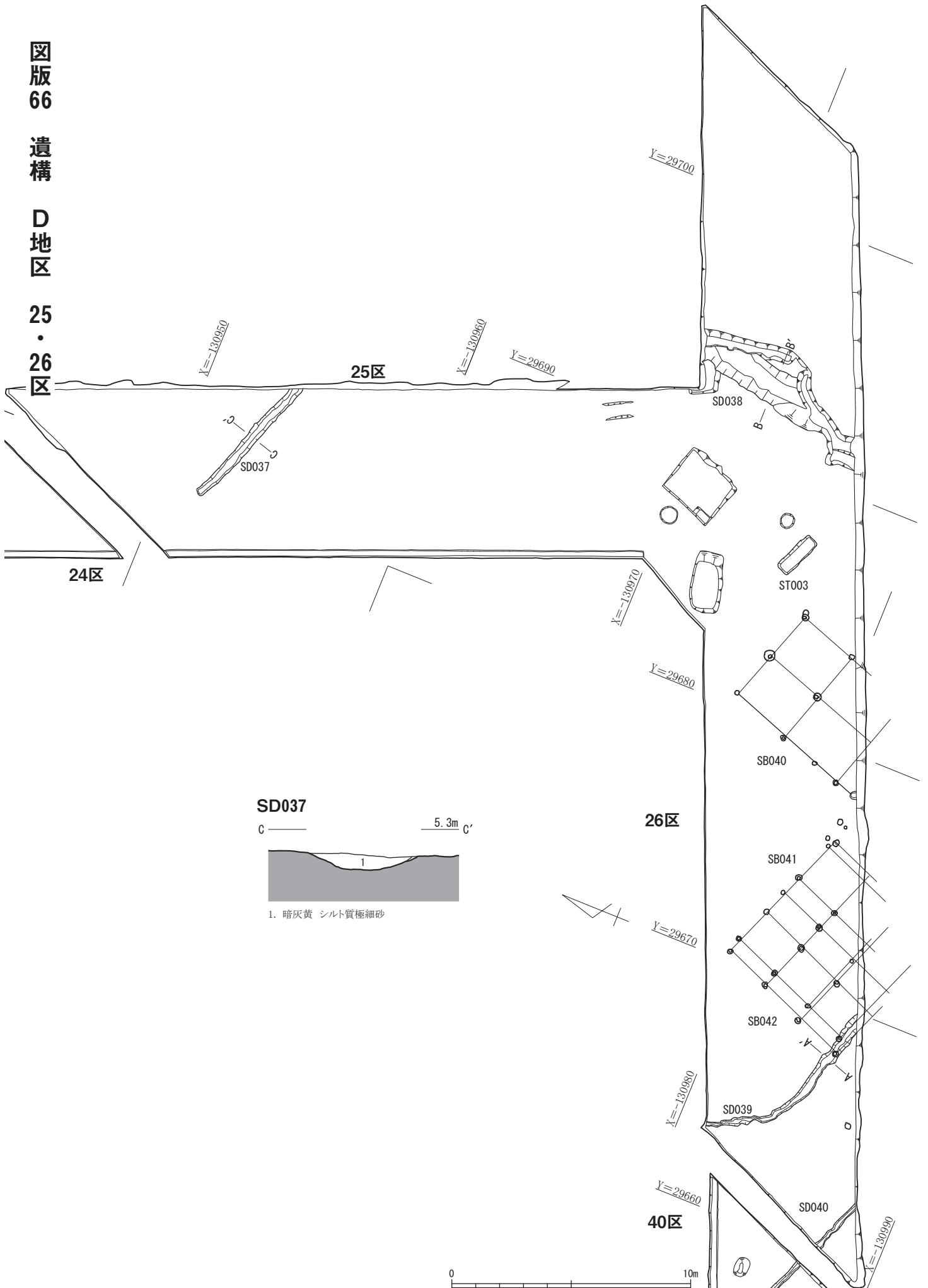
SB038



- 1. 灰黄褐 極細砂
- 2. 灰黄褐 極細砂 (にぶい黄橙極細砂混じる)

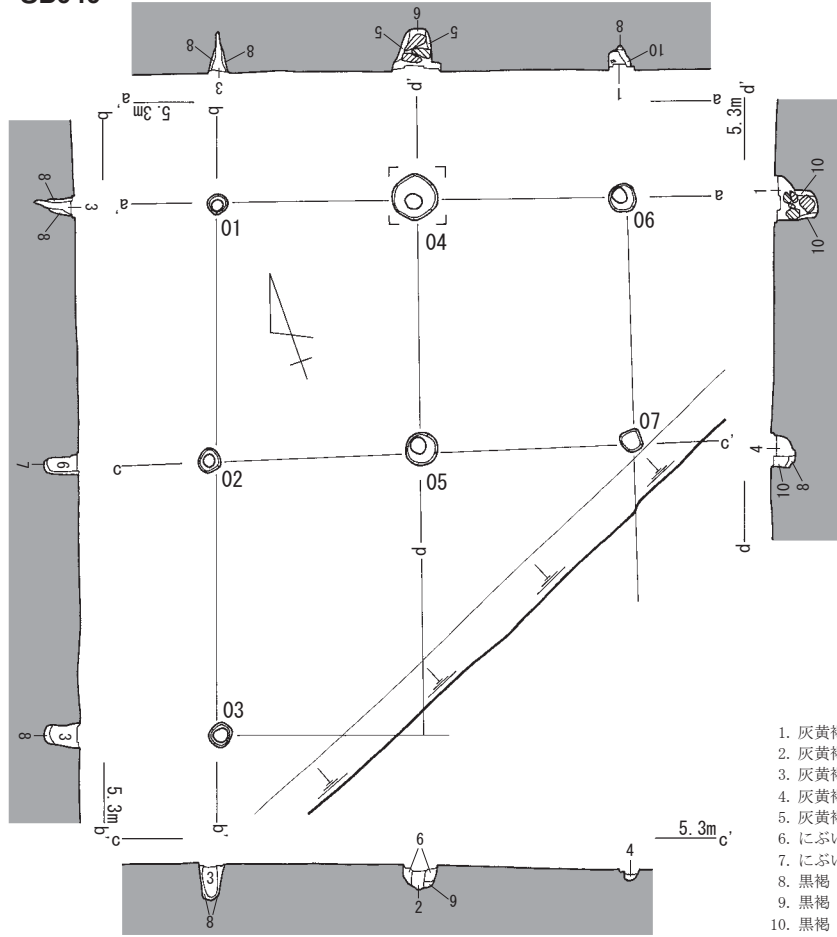




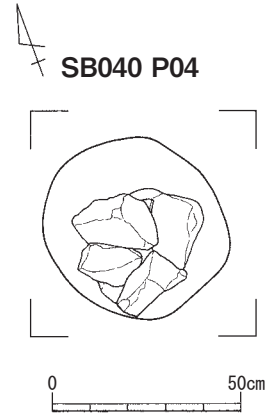


遺構配置 溝 SD037 土層断面

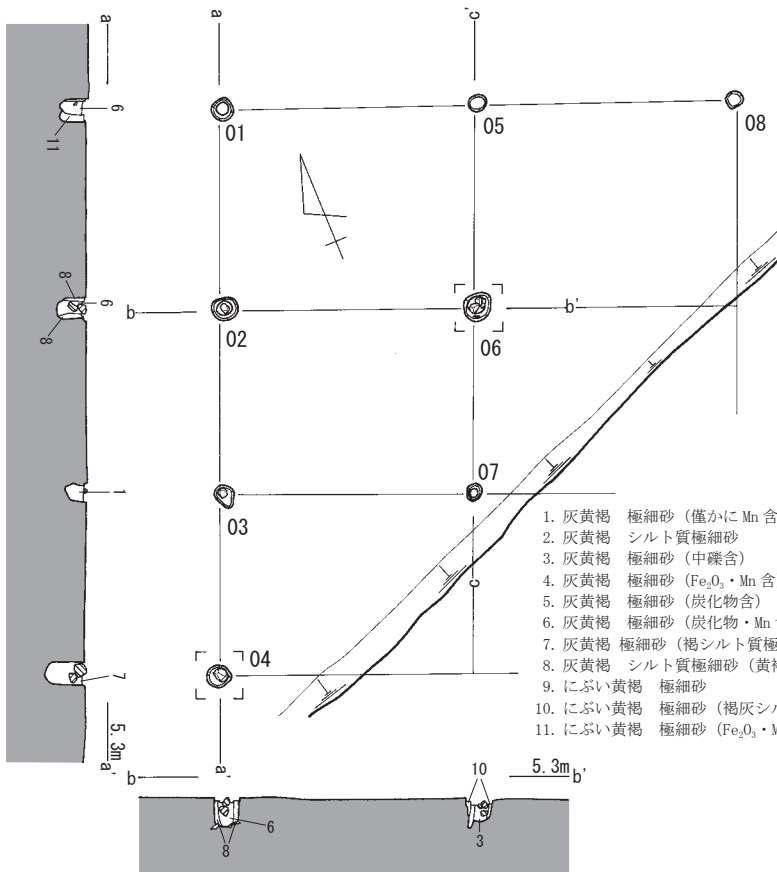
SB040



1. 灰黄褐 極細砂 (炭化物含)
2. 灰黄褐 極細砂 (炭化物含、下部に Mn 含)
3. 灰黄褐 極細砂 (炭化物含、下部に Fe₂O₃・Mn 含)
4. 灰黄褐 極細砂 (Mn 含)
5. 灰黄褐 極細砂 (黒シルト質極細砂粒混じる)
6. にぶい黄褐 極細砂
7. にぶい黄褐 極細砂 (暗褐シルト質極細砂粒混じる)
8. 黒褐 シルト質極細砂 (灰黄褐極細砂粒混じる)
9. 黒褐 極細砂 (灰黄褐極細砂粒混じる)
10. 黒褐 シルト質極細砂 (灰黄褐極細砂粒混じる、Fe₂O₃ 含)



SB041

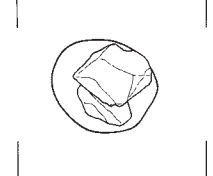


1. 灰黄褐 極細砂 (僅かに Mn 含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂
3. 灰黄褐 極細砂 (中礫含)
4. 灰黄褐 極細砂 (Fe₂O₃・Mn 含)
5. 灰黄褐 極細砂 (炭化物含)
6. 灰黄褐 極細砂 (炭化物・Mn 含)
7. 灰黄褐 極細砂 (褐シルト質極細砂粒・炭化物混じる)
8. 灰黄褐 シルト質極細砂 (黄褐極細砂粒混じる、Fe₂O₃・Mn 含)
9. にぶい黄褐 極細砂
10. にぶい黄褐 極細砂 (褐灰シルト質極細砂粒混じる)
11. にぶい黄褐 極細砂 (Fe₂O₃・Mn 含)

SB041 P06

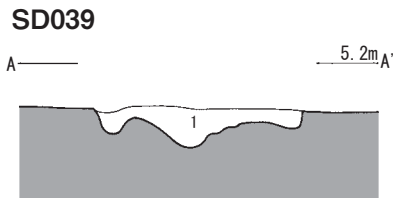
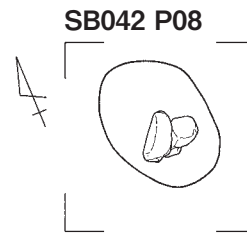
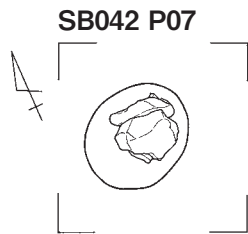
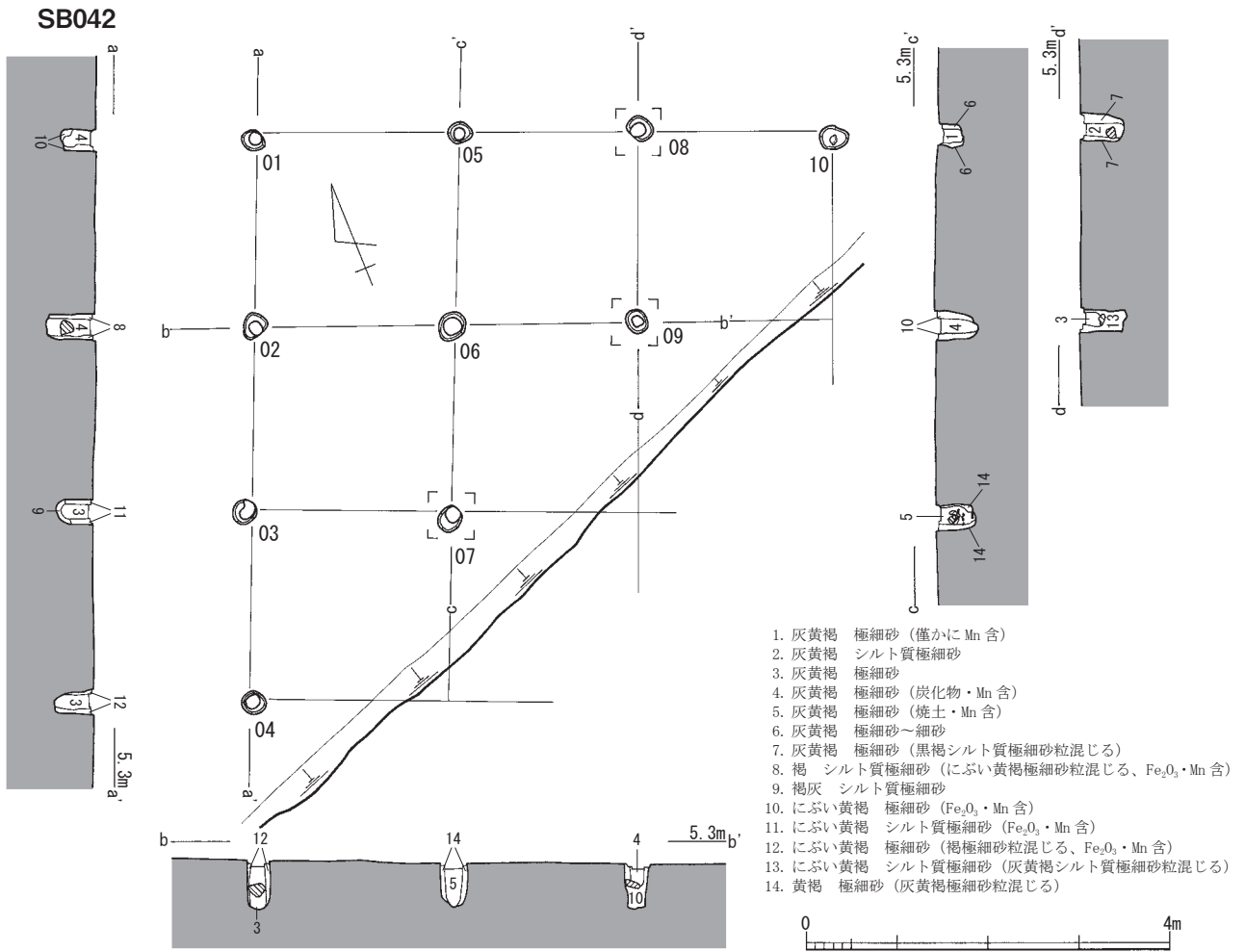


SB041 P04

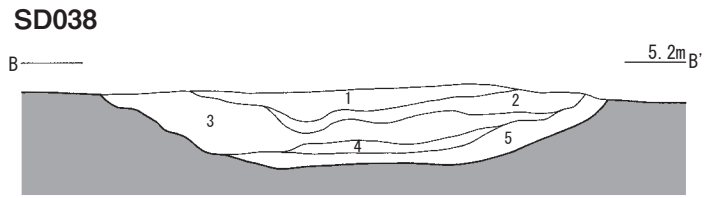


0 50cm

0 4m



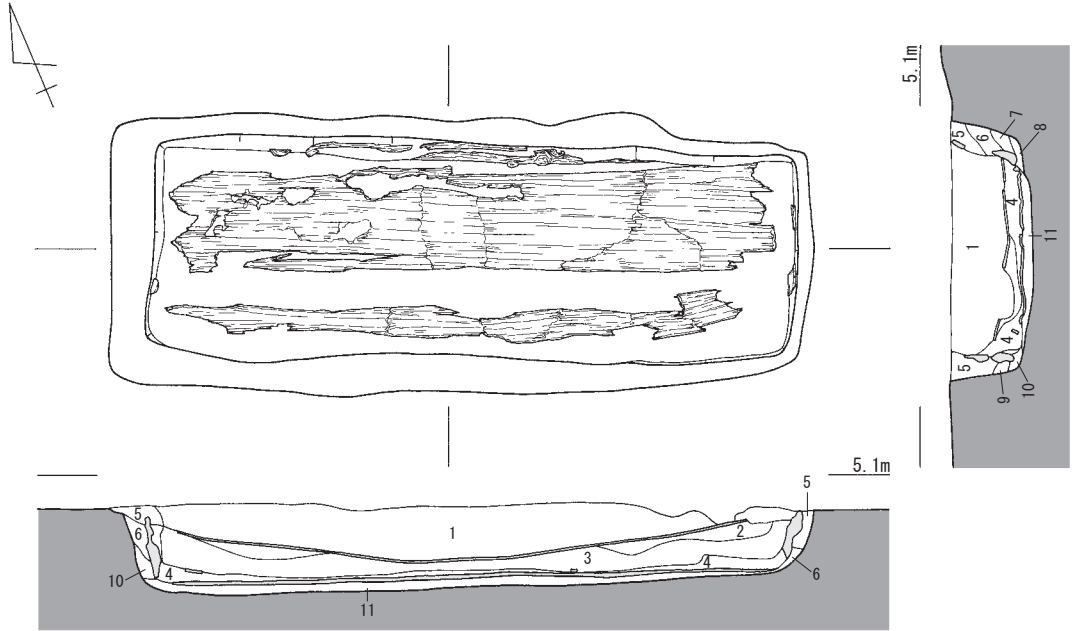
1. 灰黄褐 極細砂 (僅かに Mn 含)



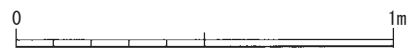
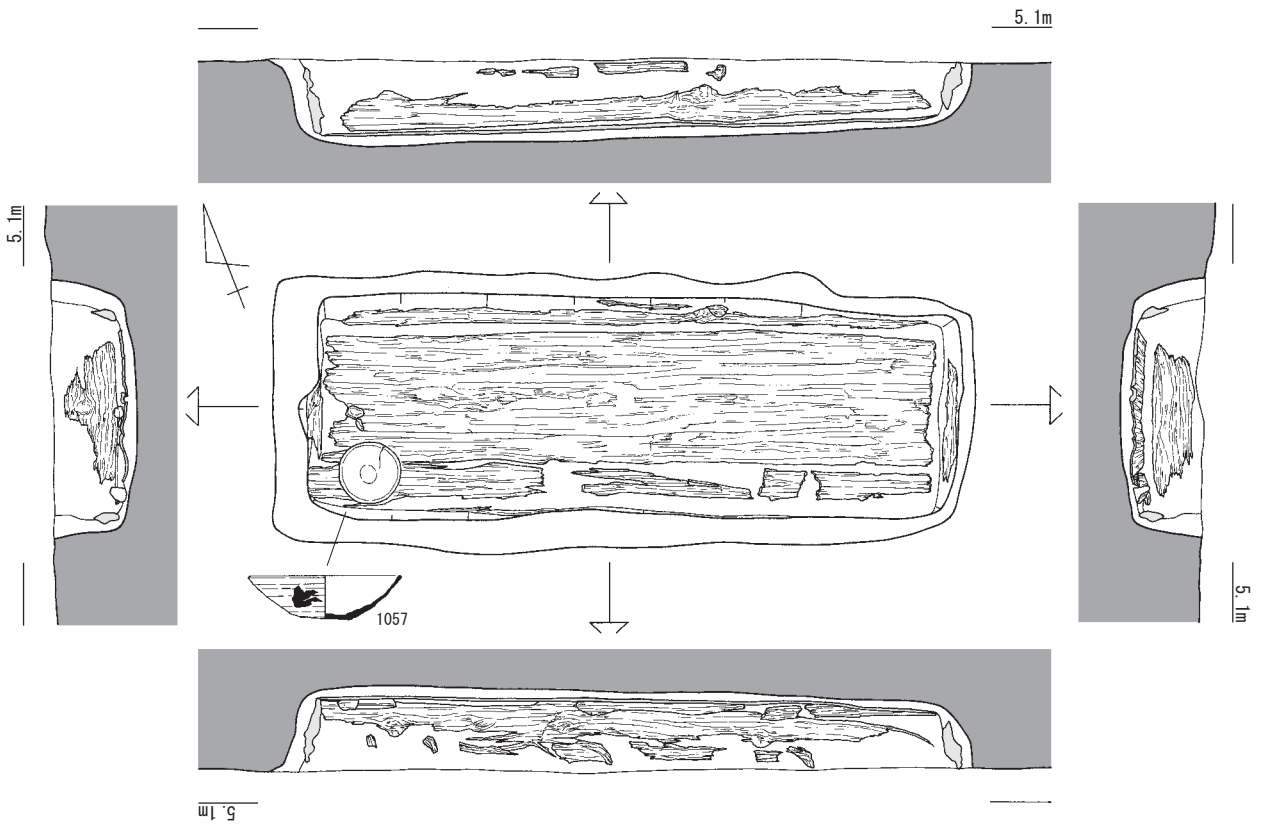
1. 黒褐 極細砂 (Mn 含)
 2. 灰黄褐 細砂～中砂 (Fe_2O_3 含)
 3. 暗褐 極細砂
 4. 黒褐 シルト質極細砂
 5. 灰黄褐 細砂～中砂 (Fe_2O_3 含)



ST003

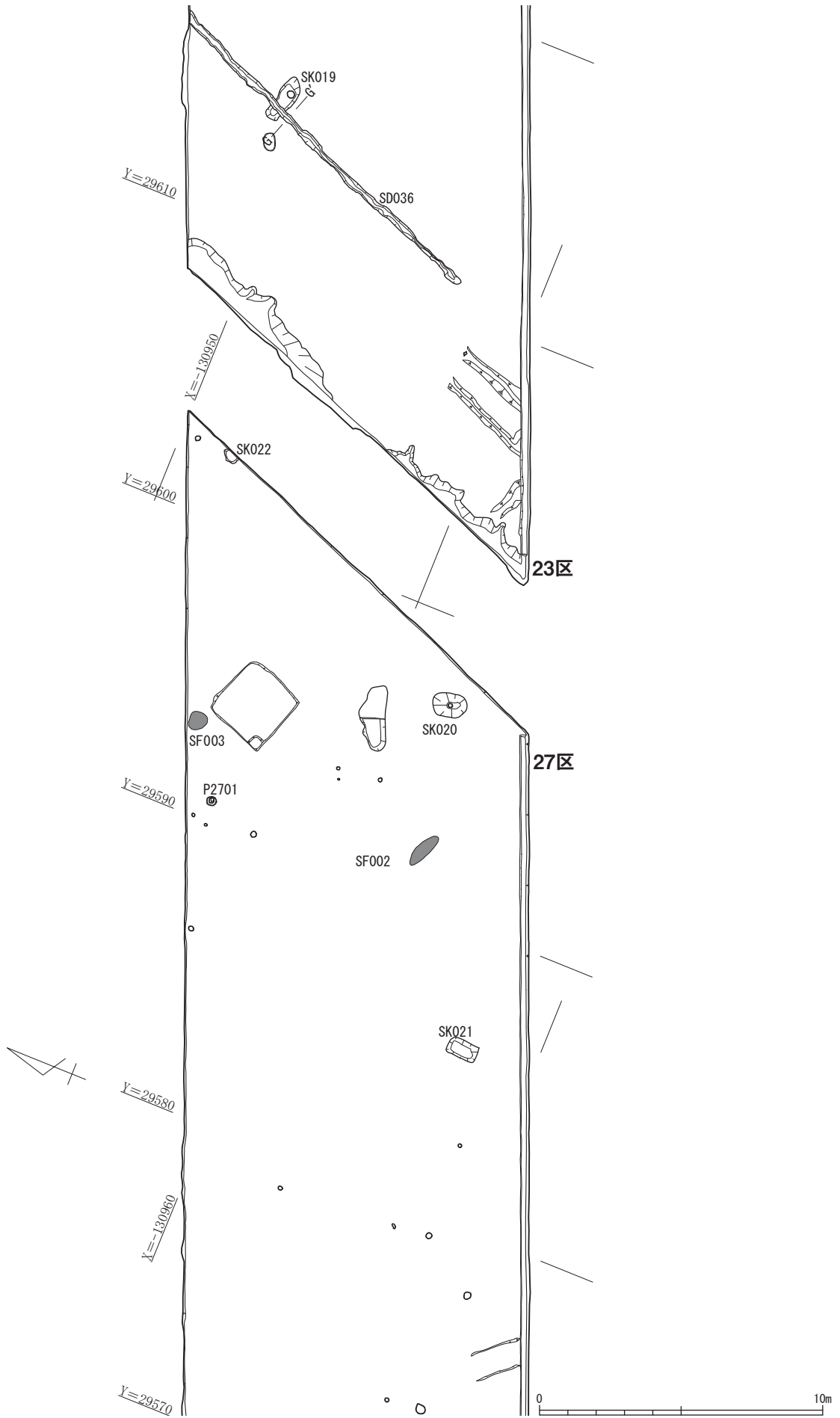


- | | |
|--|------------------------------|
| 1. にぶい黄褐 極細砂 (基盤層ブロック混じる) [盛土] | 7. 灰黄 極細砂 (にぶい黄褐極細砂粒混じる) |
| 2. 褐灰 極細砂 (細砂混じる) | 8. にぶい黄褐 極細砂 |
| 3. 灰黄褐 シルト質極細砂~極細砂 (Mn・Fe ₂ O ₃ 含) | 9. にぶい黄褐 (褐極細砂粒混じる) |
| 4. 褐灰 シルト質極細砂~極細砂 (ラミナ) | 10. 黒褐 極細砂 (にぶい黄褐極細砂粒・中礫混じる) |
| 5. にぶい黄褐 極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) | 11. 黒褐 極細砂 (にぶい黄褐極細砂粒・細礫混じる) |
| 6. 褐 極細砂 | |

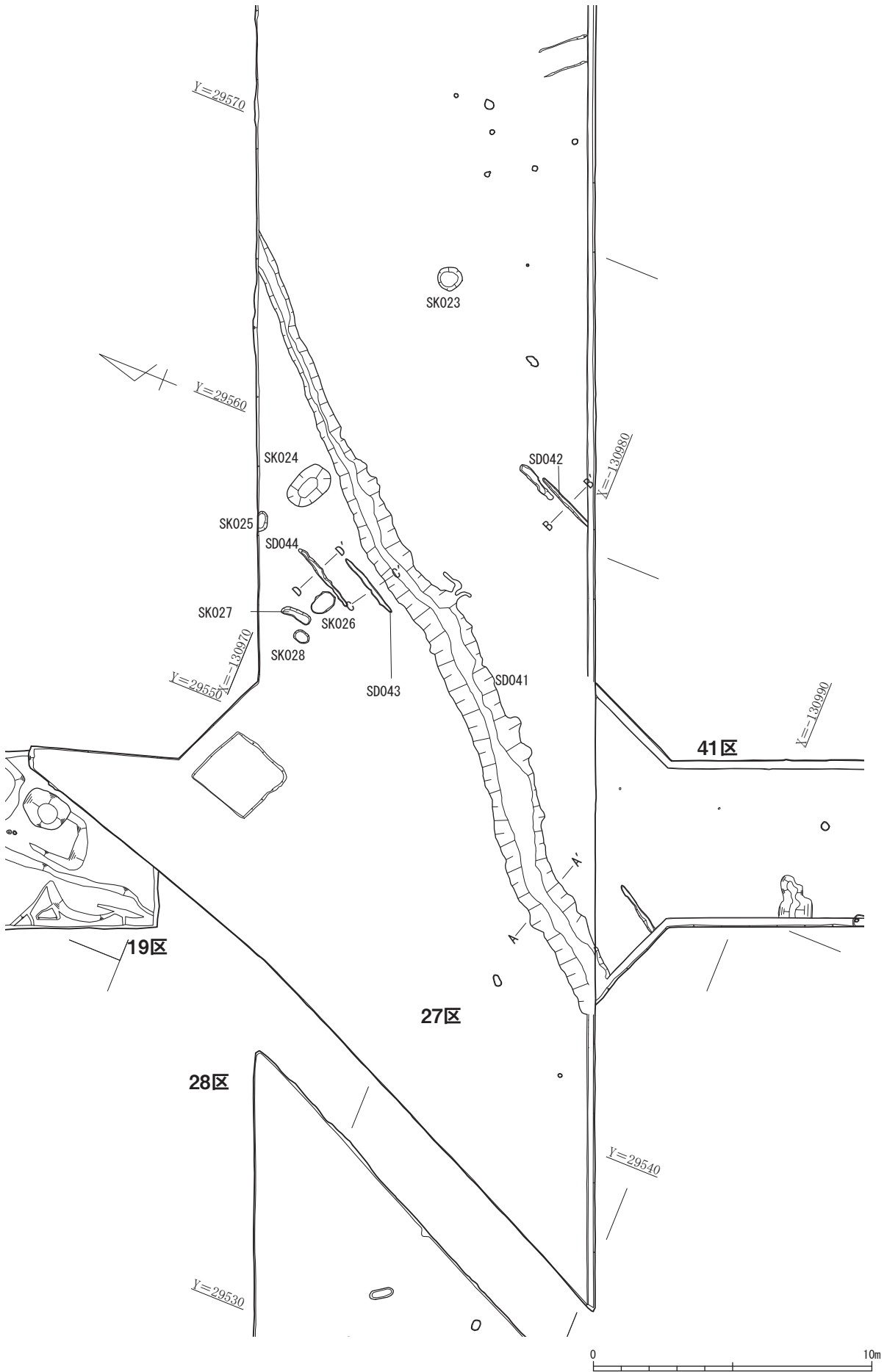


土壙墓 ST003

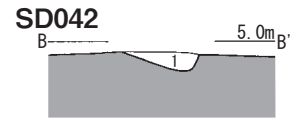
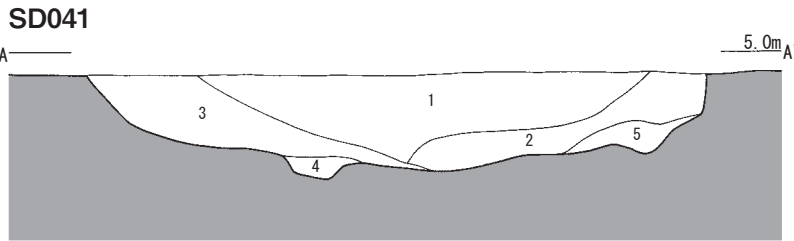
図版 70
遺構
D地区
23・27区



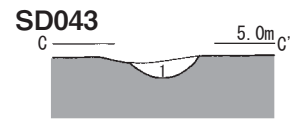
23区・27区東半部 遺構配置



西半部 遺構配置



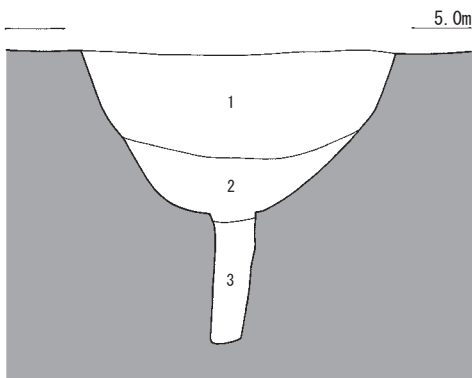
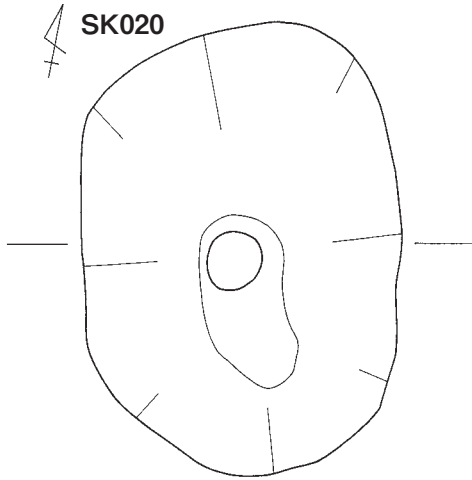
1. 暗灰黄 極細砂 (黄褐極細砂粒混じる)



1. 灰黄褐 極細砂

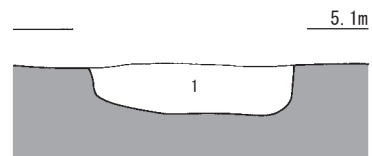
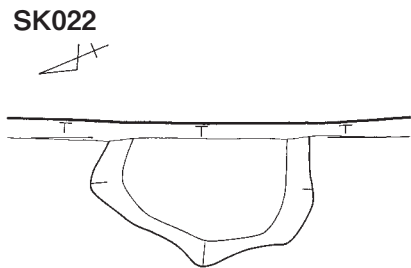


1. 灰黄褐 極細砂

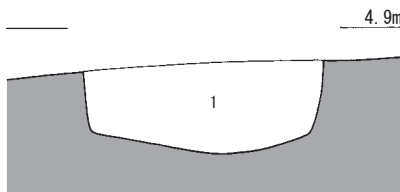
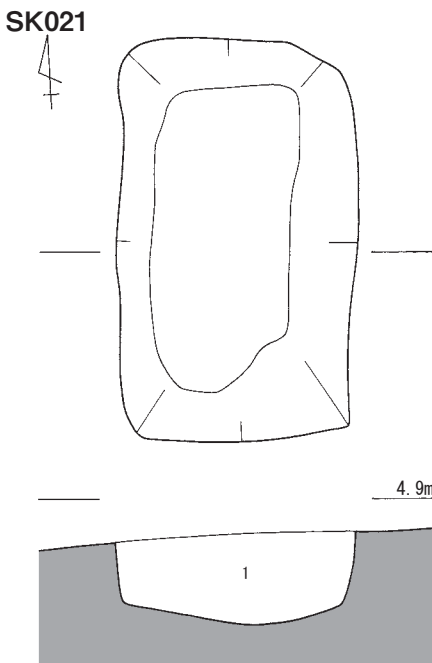


1. 暗灰黄 極細砂～中砂 (ラミナ)
2. 灰黄褐 極細砂～粗砂
3. 暗灰黄 極細砂～細砂 (ラミナ)
4. 黄褐 シルト質粗砂 (細礫～中礫混じる)
5. オリーブ褐 シルト質粗砂～細砂

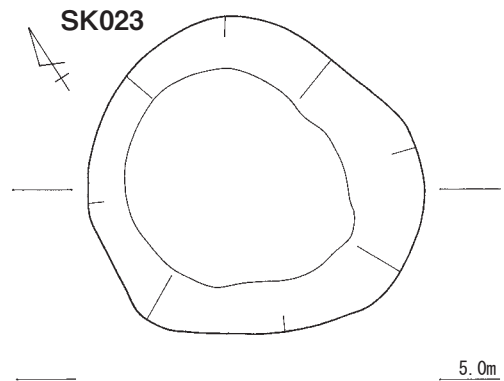
1. 明黄褐 シルト質極細砂 (Fe₂O₃ 含)
2. 褐 シルト質極細砂 (Fe₂O₃ 含)
3. 暗灰黄 極細砂質シルト



1. 灰黄褐 シルト質極細砂



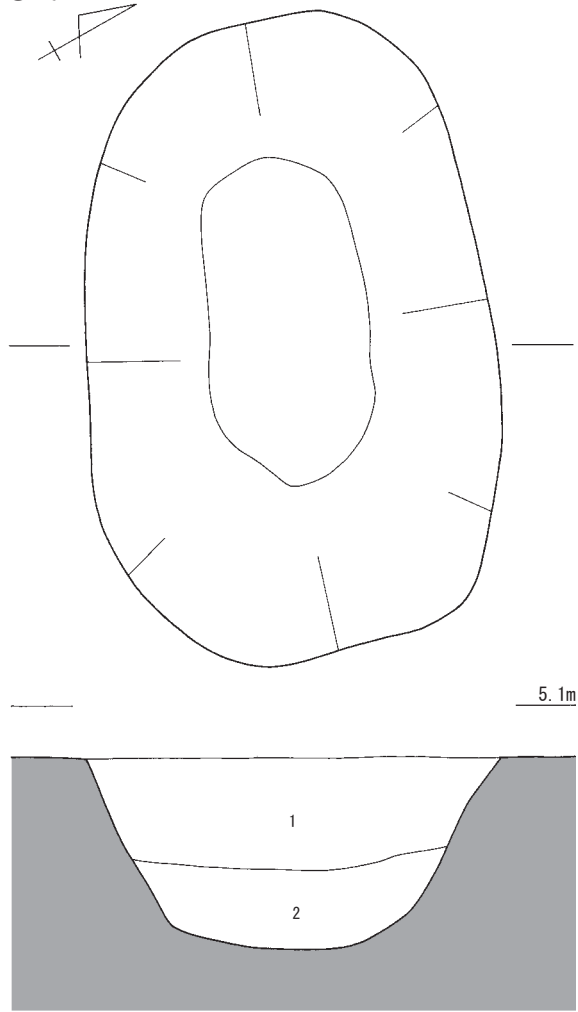
1. 黄褐 シルト質極細砂 (Fe₂O₃ 含)



1. にぶい黄褐 極細砂 (Fe₂O₃ 含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂

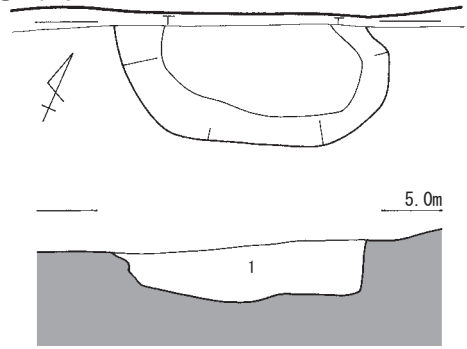


SK024



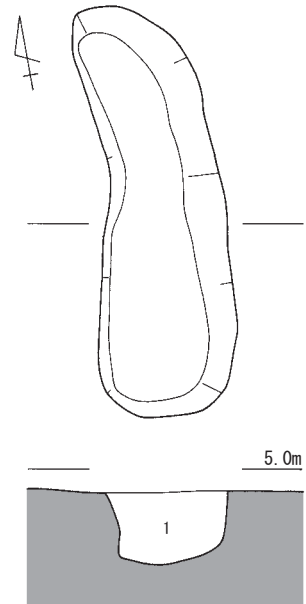
- 1. 灰黄褐 極細砂(基盤層の明黄褐極細砂ブロック混じる)
- 2. 褐灰 極細砂(基盤層の褐極細砂ブロック混じる)

SK025



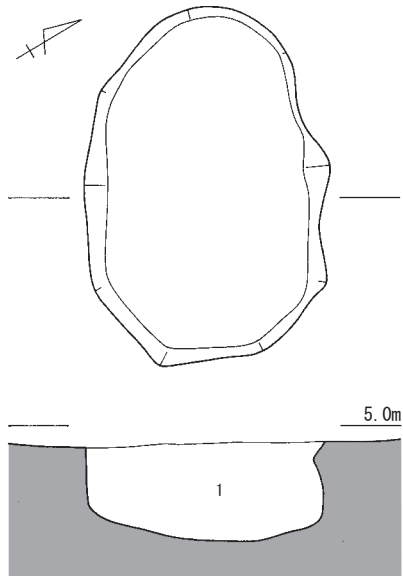
- 1. 明黄褐 シルト質極細砂

SK027



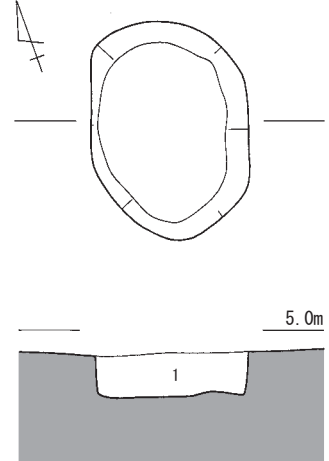
- 1. 灰黄褐 極細砂(基盤層の黄褐極細砂ブロック混じる)

SK026



- 1. 灰黄褐 極細砂(基盤層の黄褐極細砂ブロック混じる)

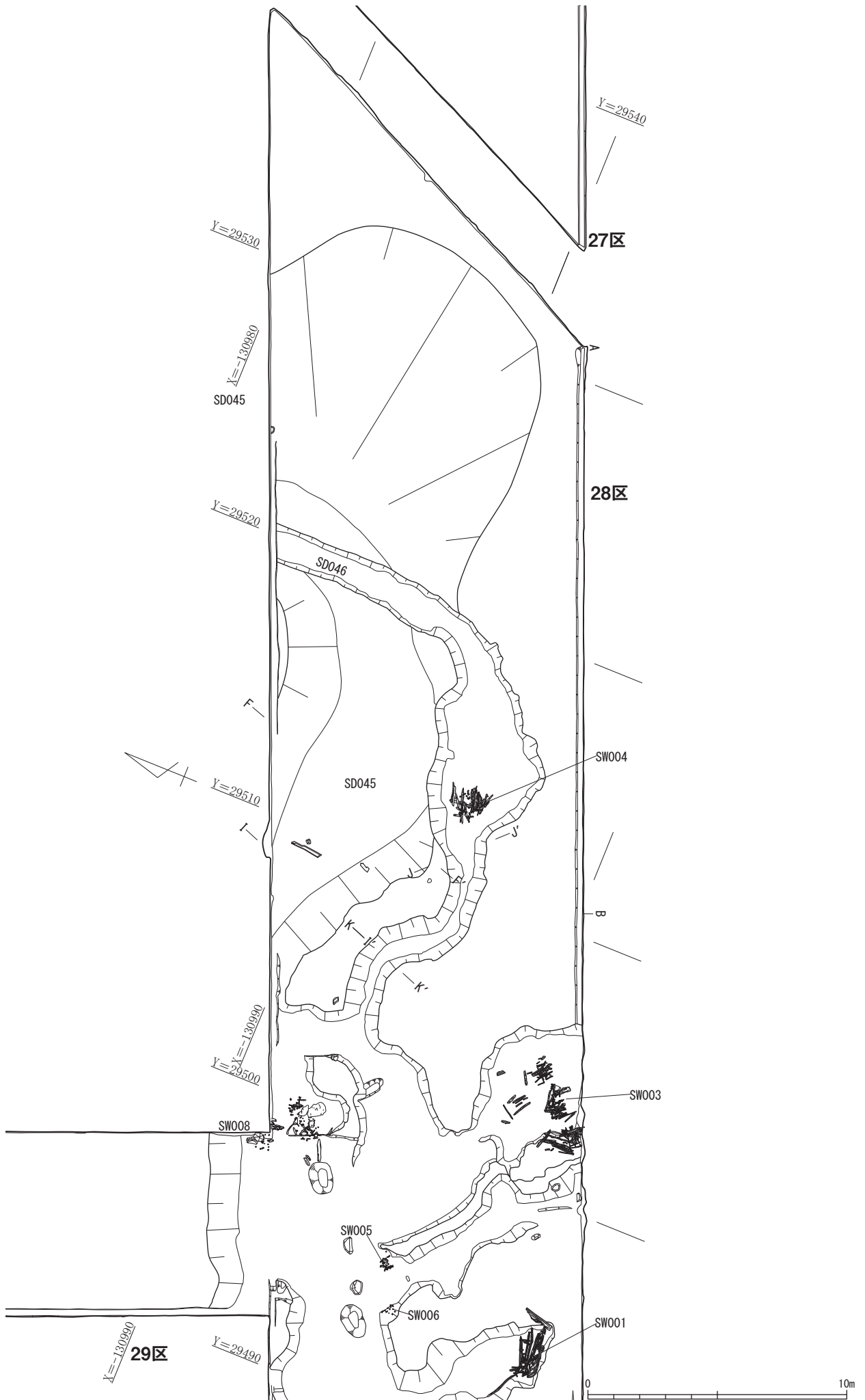
SK028



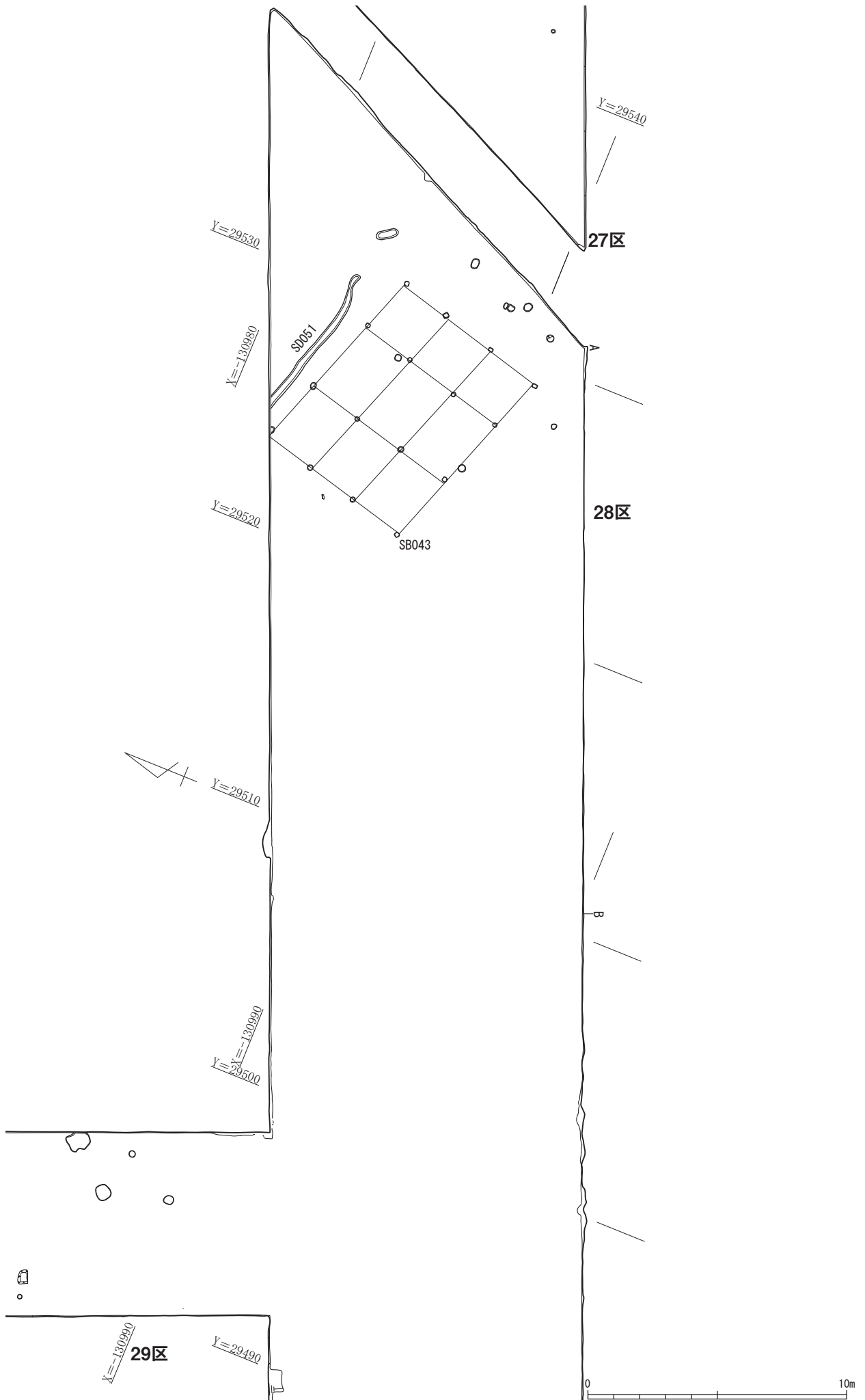
- 1. 灰黄褐 極細砂(基盤層の黄褐極細砂ブロック混じる)



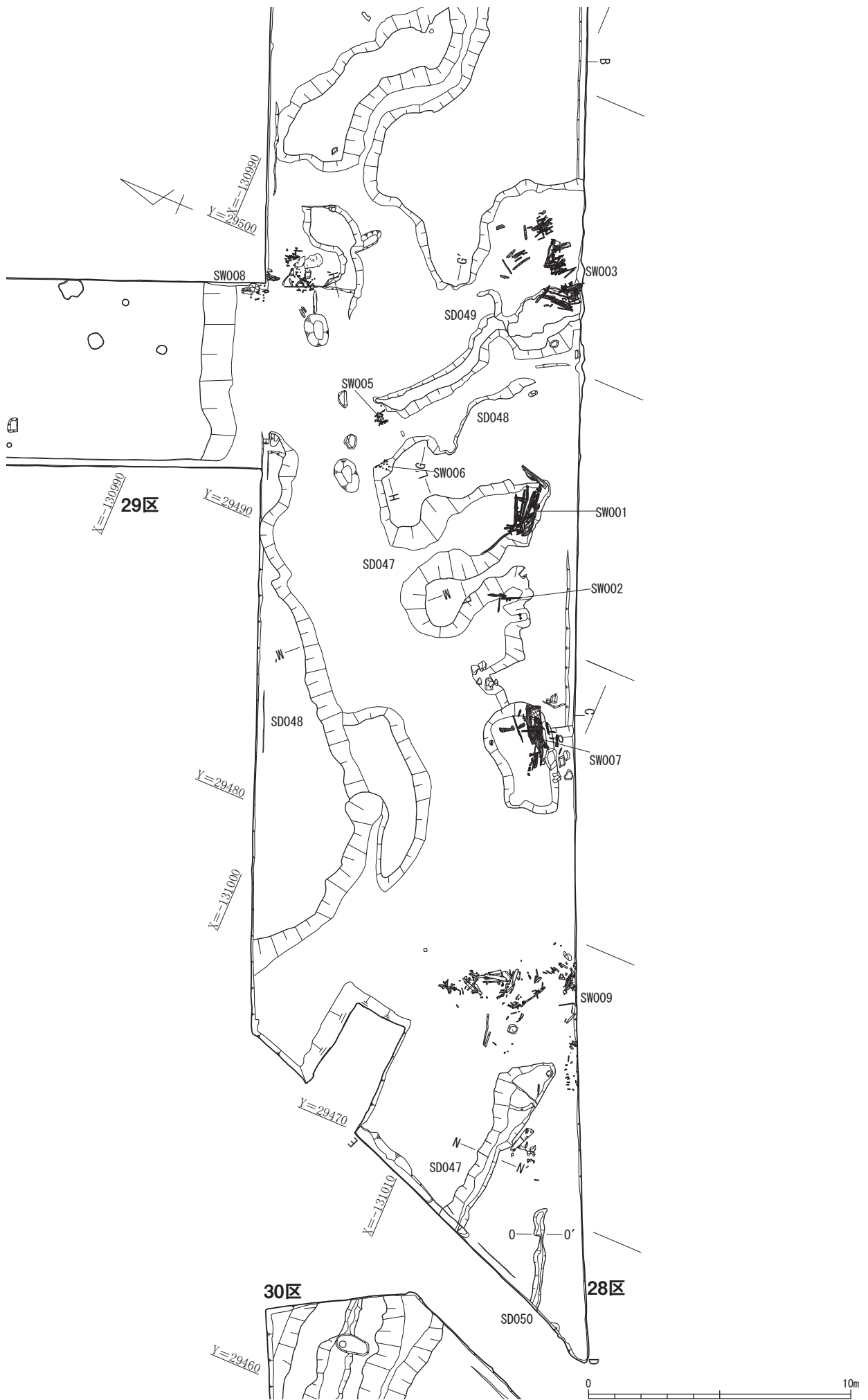
図版 74
遺構
D地区
28区



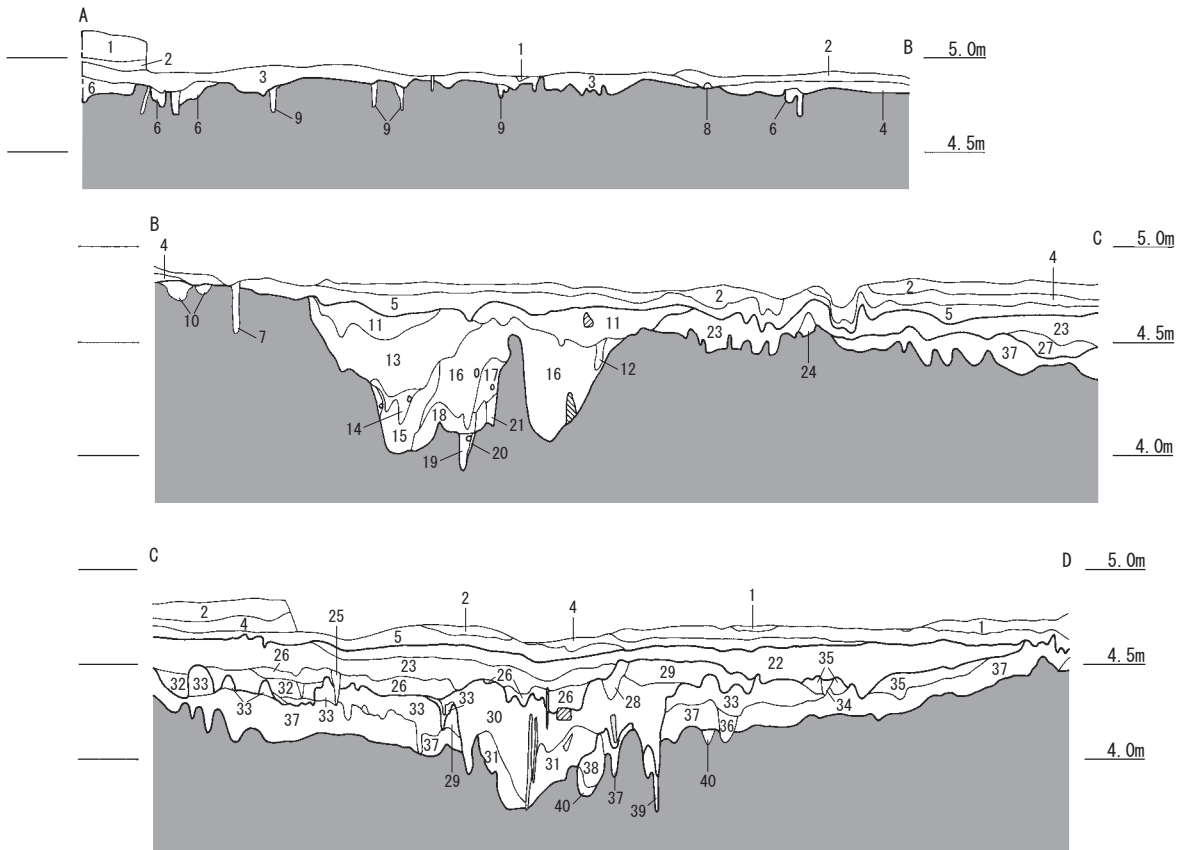
東半部 下層遺構配置



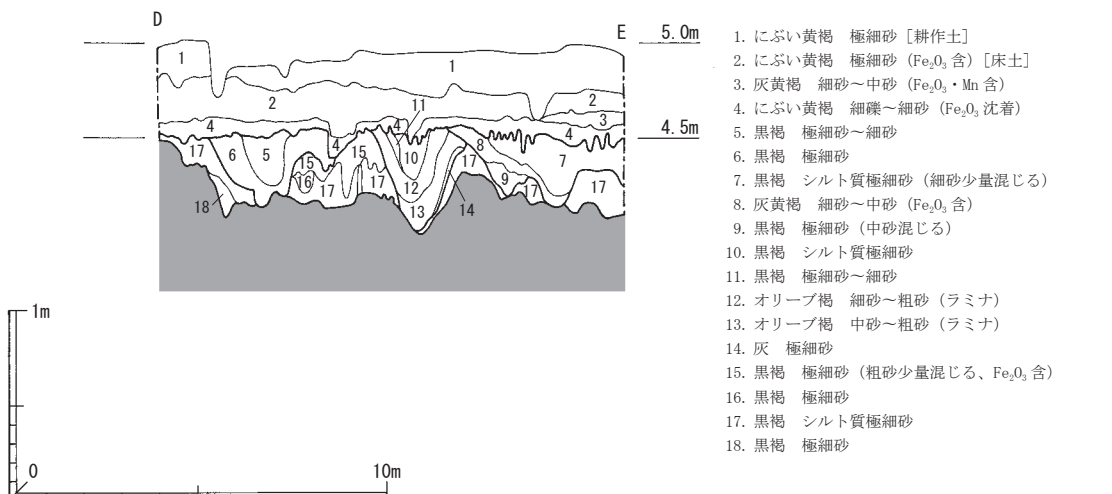
東半部 上層遺構配置



西半部 下層遺構配置



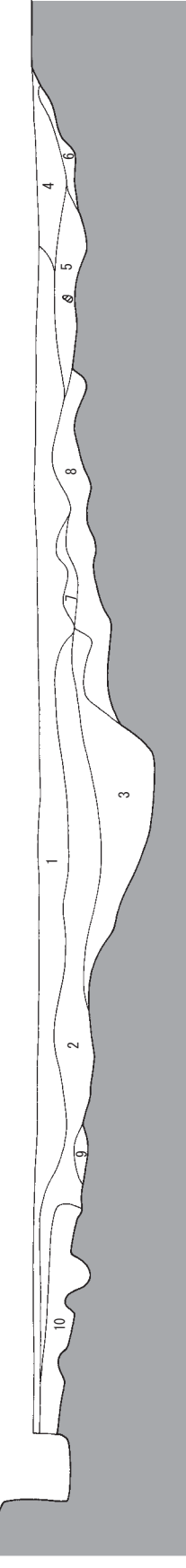
- | | |
|--|--|
| 1. 暗褐 極細砂 [耕作土] | 21. 灰 シルト質極細砂 |
| 2. 灰黄褐 極細砂 [床土] | 22. 黒褐 極粗砂～中砂 (Fe ₂ O ₃ 含) |
| 3. 黒褐 極細砂 (Fe ₂ O ₃ ・Mn 含) | 23. 灰黄褐 シルト質極細砂 |
| 4. 灰黄褐 極細砂 (礫混じる、Fe ₂ O ₃ ・Mn 含) | 24. 黄褐 細砂 (極細砂混じる、Fe ₂ O ₃ 含) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂 | 25. 褐灰 シルト質極細砂 |
| 6. 黄褐 極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) | 26. 灰黄褐 細礫～細砂 |
| 7. 褐灰 シルト質極細砂 (明黄褐シルト質極細砂粒混じる) | 27. 褐灰 極細砂 (炭化物含) |
| 8. 黒褐 極細砂 | 28. 黒褐 細砂～細礫 |
| 9. 黒褐 極細砂 (炭化物含) | 29. 灰黄褐 細砂 (極粗砂～粗砂混じる、Fe ₂ O ₃ 含) |
| 10. 明灰褐 中砂 (洪水砂、Fe ₂ O ₃ 含) | 30. 褐灰 シルト質極細砂 (細礫～中砂混じる、ラミナ、Fe ₂ O ₃ 含) |
| 11. 灰黄褐 細砂～中砂 (洪水砂、Fe ₂ O ₃ 沈着) | 31. 黒褐 シルト質極細砂 (極細砂～粗砂混じる、有機物多量に含) |
| 12. 暗灰黄 細砂 | 32. 黒褐 極細砂 |
| 13. 黒褐 極細砂～細砂 (ラミナ) | 33. 黒 シルト質極細砂 (細礫～中砂混じる) |
| 14. 灰 中砂～細砂 (ラミナ) | 34. 黒褐 極細砂 (粗砂～中砂混じる) |
| 15. オリーブ黒 シルト質極細砂～中砂 (ラミナ、炭化物含) | 35. 褐 極細砂 |
| 16. 黒褐 極細砂～細砂 (ラミナ) | 36. にぶい黄褐 極細砂～中砂 |
| 17. オリーブ褐 極細砂～細砂 (有機物含) | 37. 黒 極細砂質シルト |
| 18. オリーブ黒 細砂～粗砂 (ラミナ、灰シルト質極細砂粒混じる) | 38. 黒褐 中礫～極細砂 |
| 19. 黒褐 シルト質極細砂 (有機物含) | 39. 灰黄褐 細礫～極細砂 |
| 20. 黒褐 極細砂質シルト (有機物含) | 40. 黒褐 極細砂 |



土層断面

5.0m F

SD045

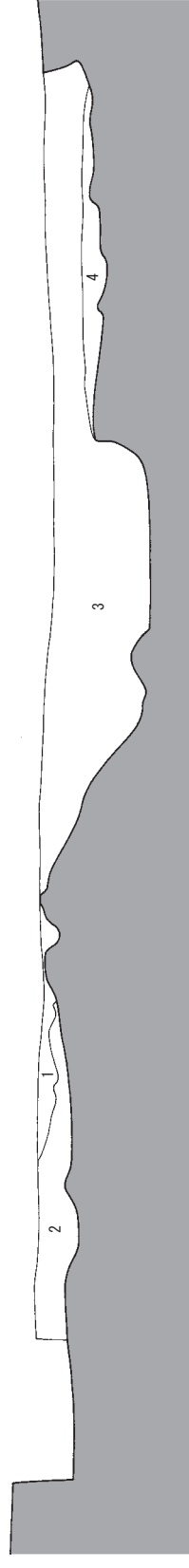


- 6. 褐灰 シルト質極細砂
- 7. 黒 シルト質極細砂 (黒褐粗砂~中砂混じる)
- 8. 黒 シルト質極細砂
- 9. 黒 シルト質極細砂 (灰細砂混じる)
- 10. 黒 シルト質極細砂 (細礫~中砂混じる)

- 1. 褐灰 シルト質極細砂~中砂
- 2. 灰 細砂~粗砂 (ラミナ)
- 3. 灰 細砂~極細砂 (ラミナ)
- 4. 灰黄褐 シルト質極細砂~極細砂 (にぶい黄褐混じる)
- 5. 灰黄褐 極細砂~中砂 (ラミナ)

5.0m G

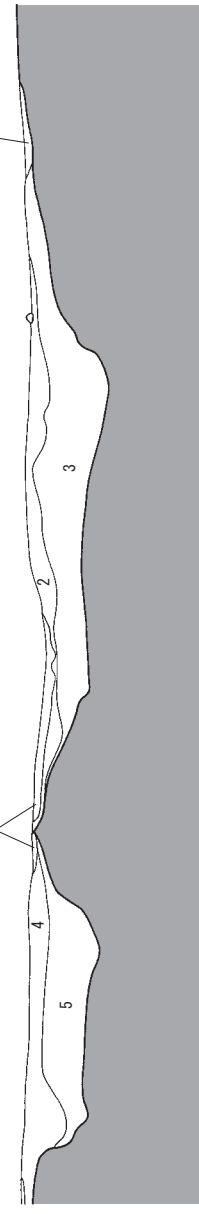
SD049



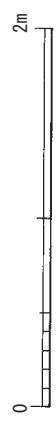
- 1. 灰黄褐 細砂 (粗砂~細礫少量混じる、Fe₂O₃ 含)
- 2. 褐灰 シルト質極細砂~中砂 (ラミナ)
- 3. 黒褐 シルト質極細砂~細礫 (ラミナ)
- 4. 褐灰 シルト質極細砂 (粗砂~細礫多く混じる、ラミナ、Fe₂O₃ 含)

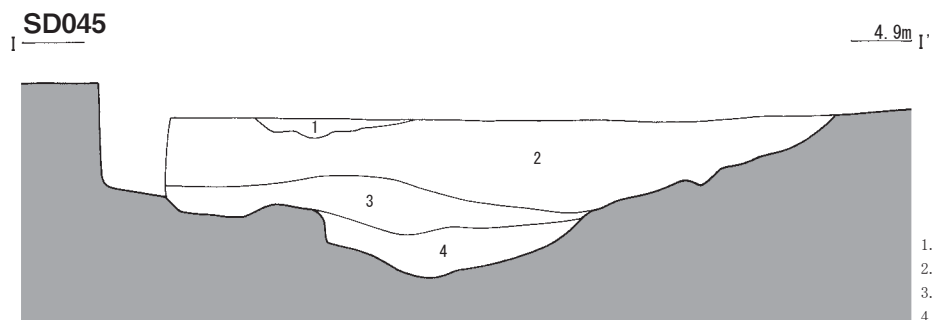
4.8m H

SD048

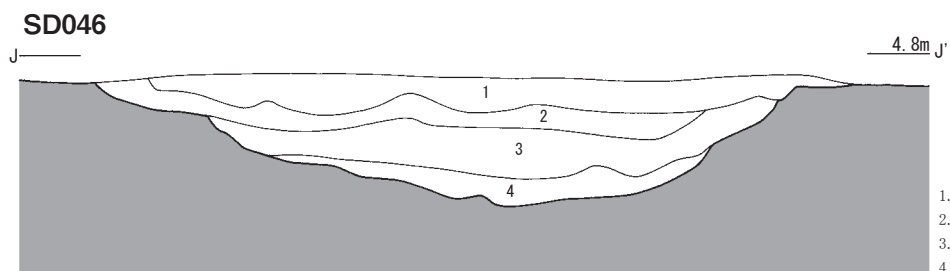


- 1. にぶい黄褐 中砂~細礫 (大礫少量混じる、Fe₂O₃ 含)
- 2. 黒褐 シルト質極細砂
- 3. 褐灰 極細砂~細礫 (ラミナ、植物質多量に含)
- 4. 黒褐 極細砂~シルト質極細砂
- 5. 灰黄褐 細砂~中砂 (ラミナ、植物質含)

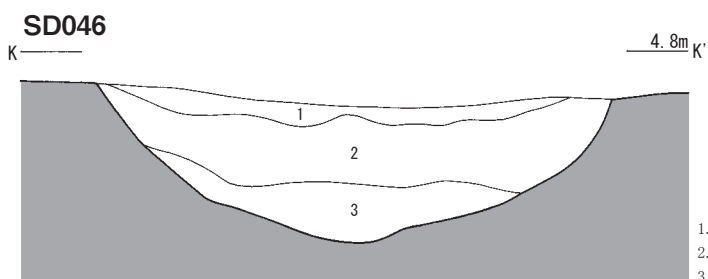




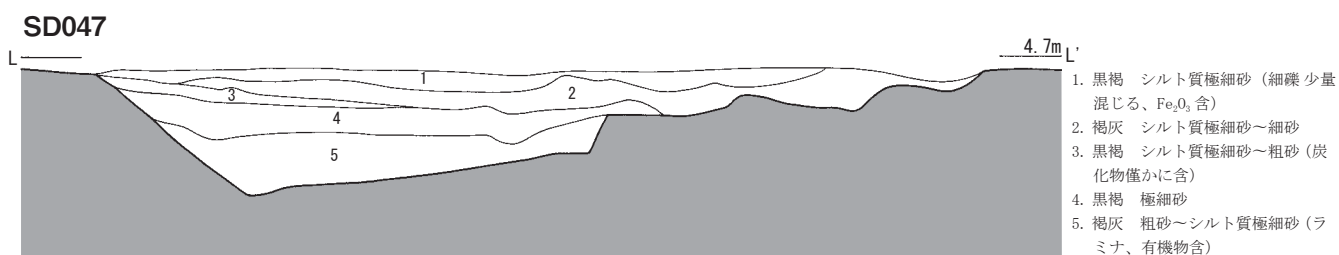
1. にぶい黄褐 シルト質極細砂 (Fe₂O₃ 含)
2. 褐灰 シルト質極細砂～細砂 (ラミナ、植物質含)
3. 黒褐 シルト質極細砂～粗砂 (ラミナ)
4. 黒 シルト質極細砂～細砂 (ラミナ)



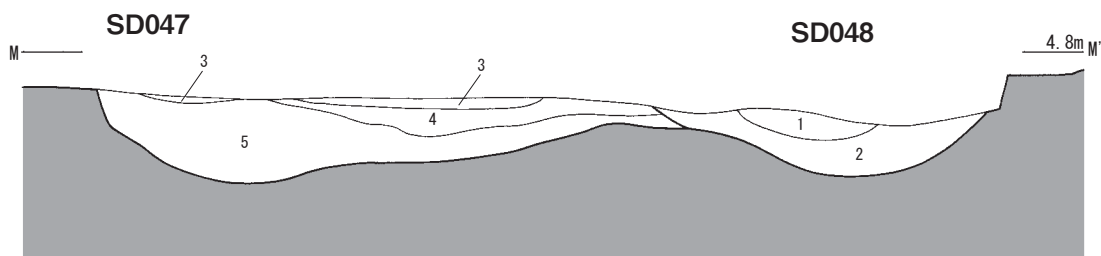
1. 褐灰 シルト質極細砂 (Fe₂O₃ 含)
2. 灰黄褐 粗砂～極細砂
3. 黒褐 シルト質極細砂
4. にぶい黄褐 中砂～粗砂 (ラミナ、Fe₂O₃ 含)



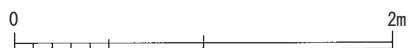
1. 灰黄褐 粗砂～極細砂
2. 黒褐 シルト質極細砂
3. にぶい黄褐 中砂～粗砂 (ラミナ、Fe₂O₃ 含)



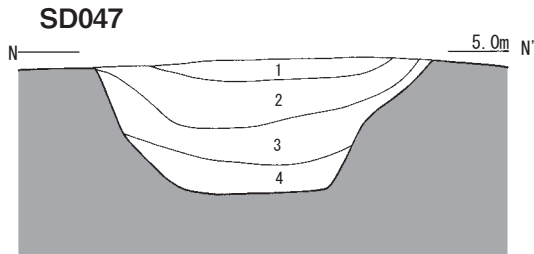
1. 黒褐 シルト質極細砂 (細礫少量混じる、Fe₂O₃ 含)
2. 褐灰 シルト質極細砂～細砂
3. 黒褐 シルト質極細砂～粗砂 (炭化物僅かに含)
4. 黒褐 極細砂
5. 褐灰 粗砂～シルト質極細砂 (ラミナ、有機物含)



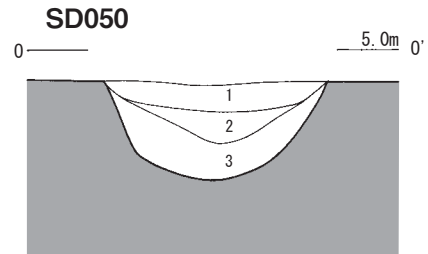
1. 褐灰 シルト質極細砂～細礫 (植物質含)
2. 灰黄褐 中砂～細礫
3. 灰黄 細礫～中砂 (大礫混じる)
4. 黒褐 シルト質極細砂～中砂 (ラミナ、有機物含)
5. 褐灰 極細砂～粗砂 (ラミナ)



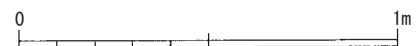
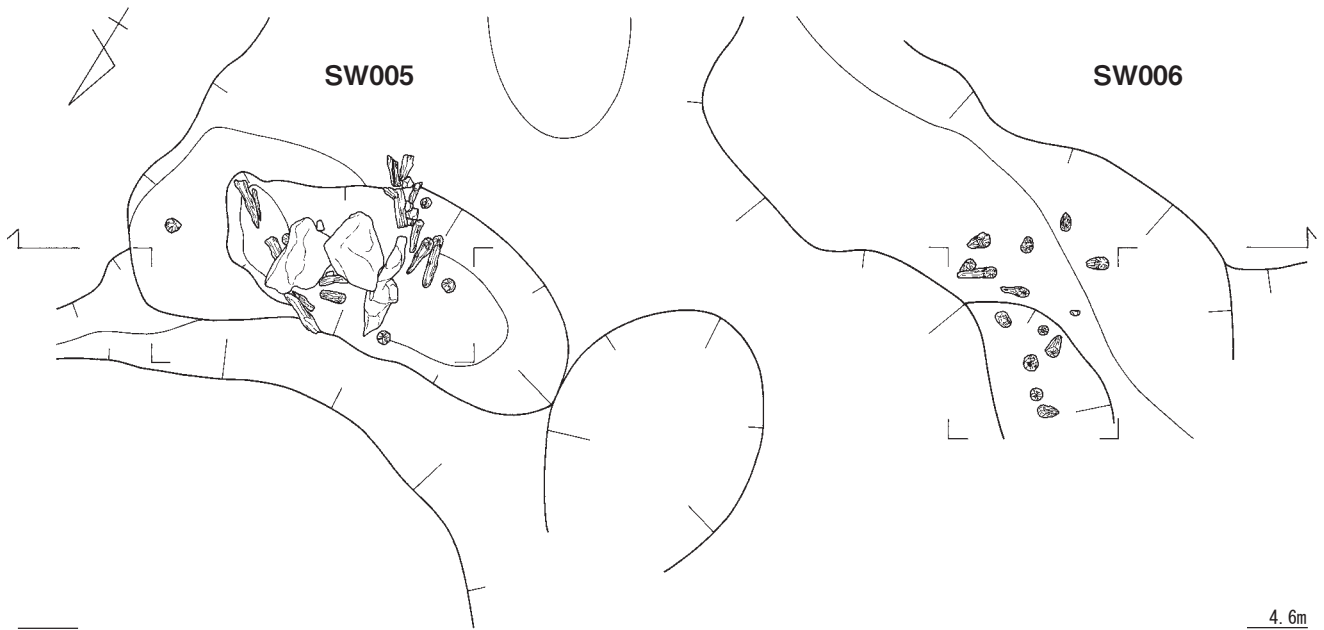
溝 SD045～SD048 土層断面

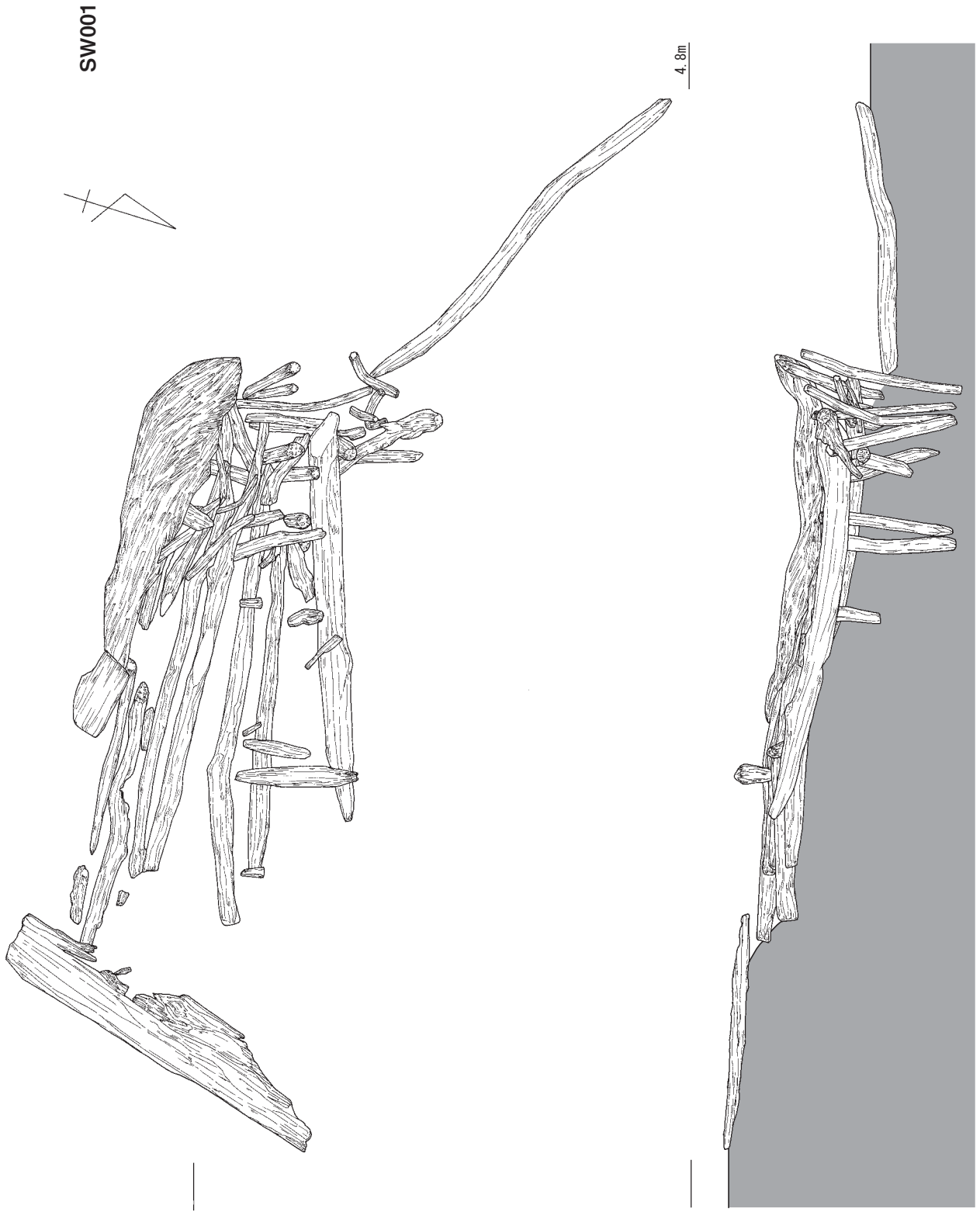


1. 褐灰 シルト質極細砂 (Mn・Fe₂O₃ 含)
2. 黒褐 シルト質極細砂 (有機物含)
3. 褐灰 シルト質極細砂
4. 褐灰 細砂～中砂



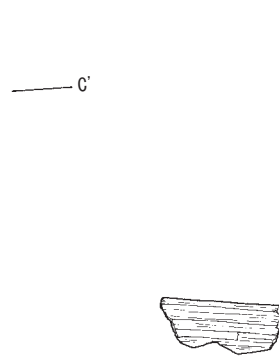
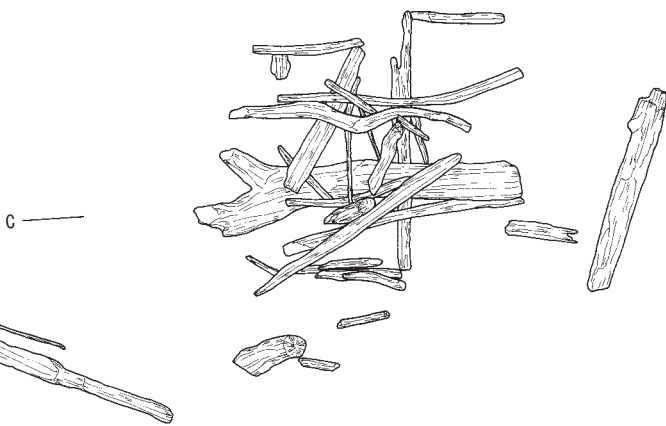
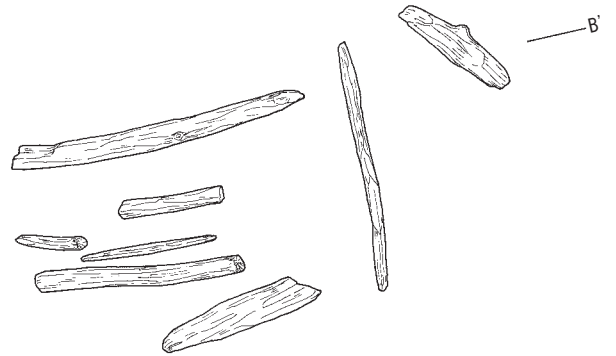
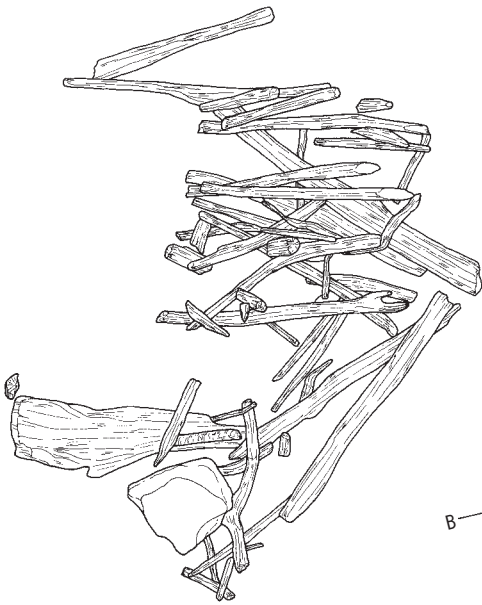
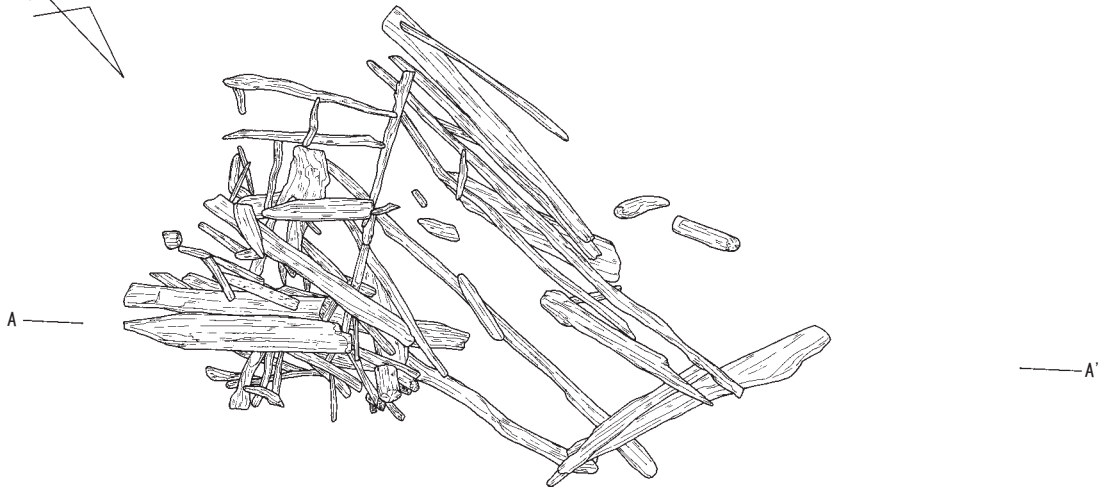
1. 褐灰 極細砂～中砂 (Fe₂O₃ 含)
2. 黒褐 極細砂～細砂 (有機物含)
3. 褐灰 極細砂～中砂 (ラミナ)





木組 SW001

SW003

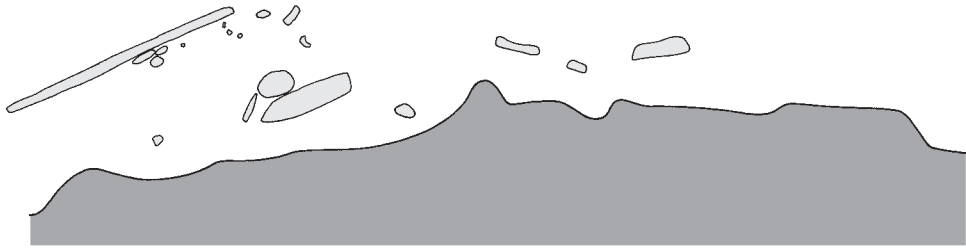


木組 SW003

SW003 断面

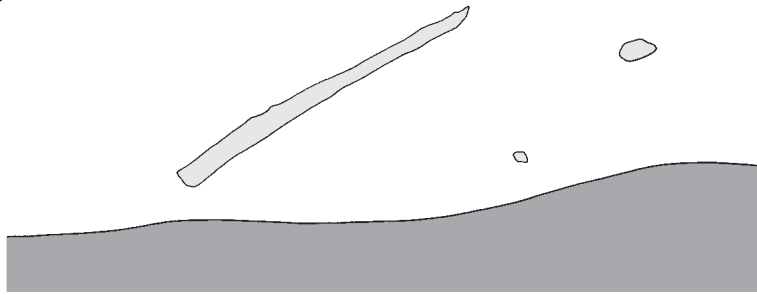
A

4.5m A'



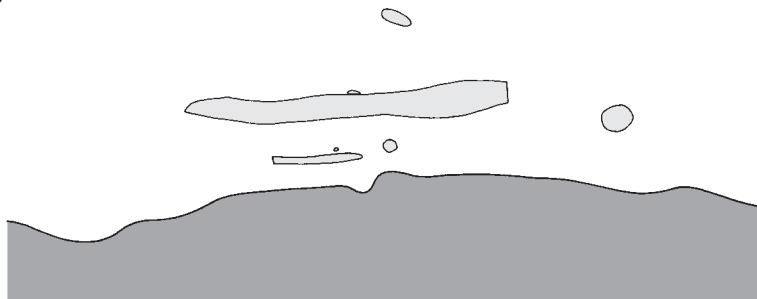
B

4.5m B'



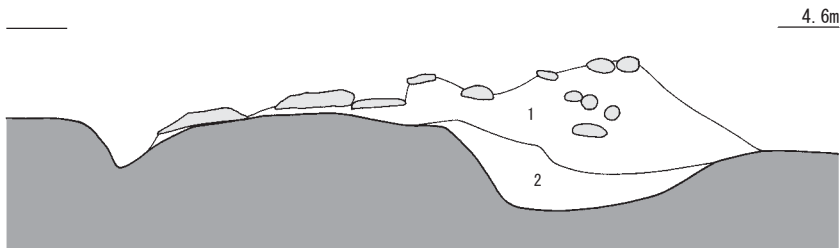
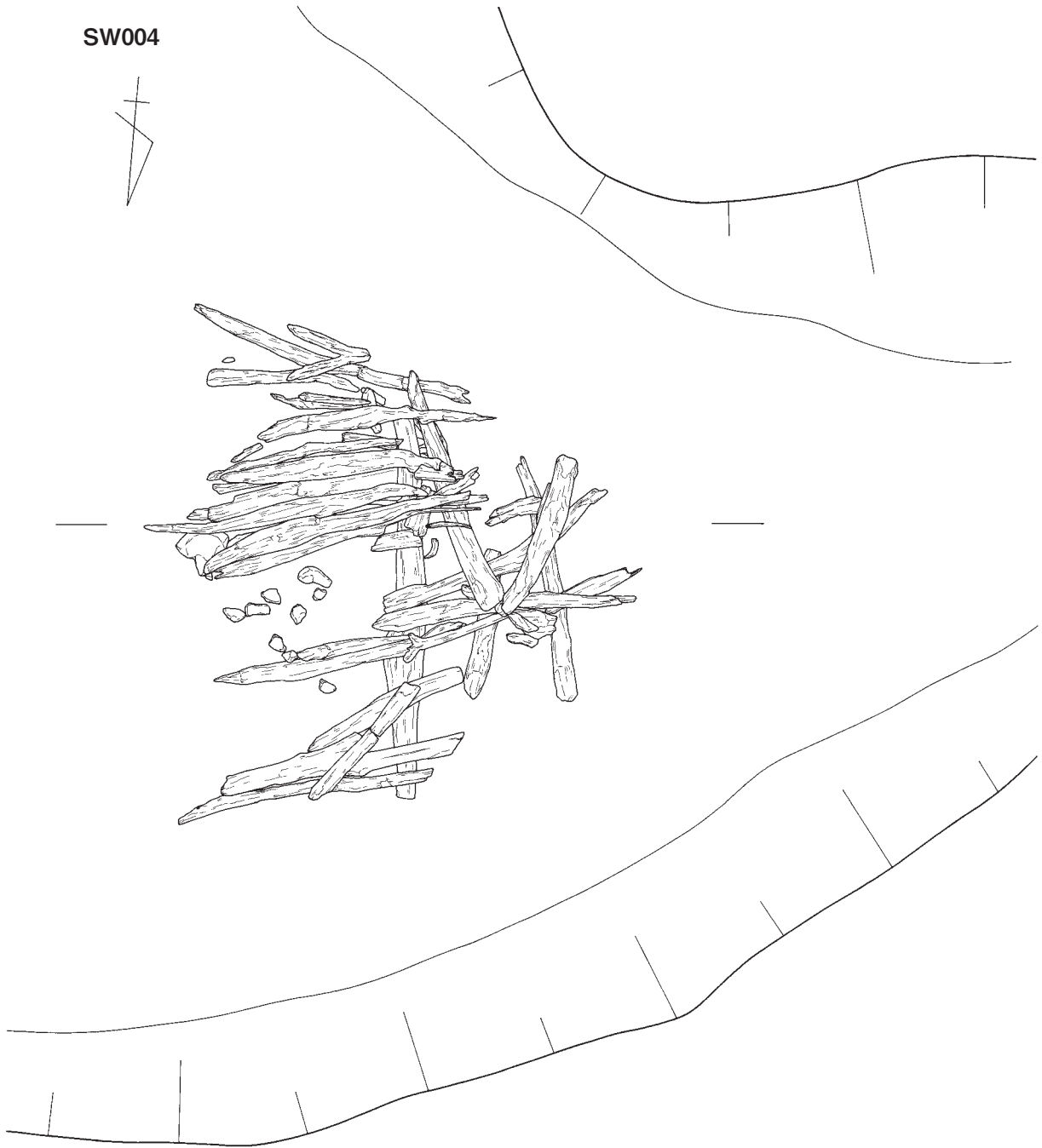
C

4.5m C'



木組 SW003 断面

SW004

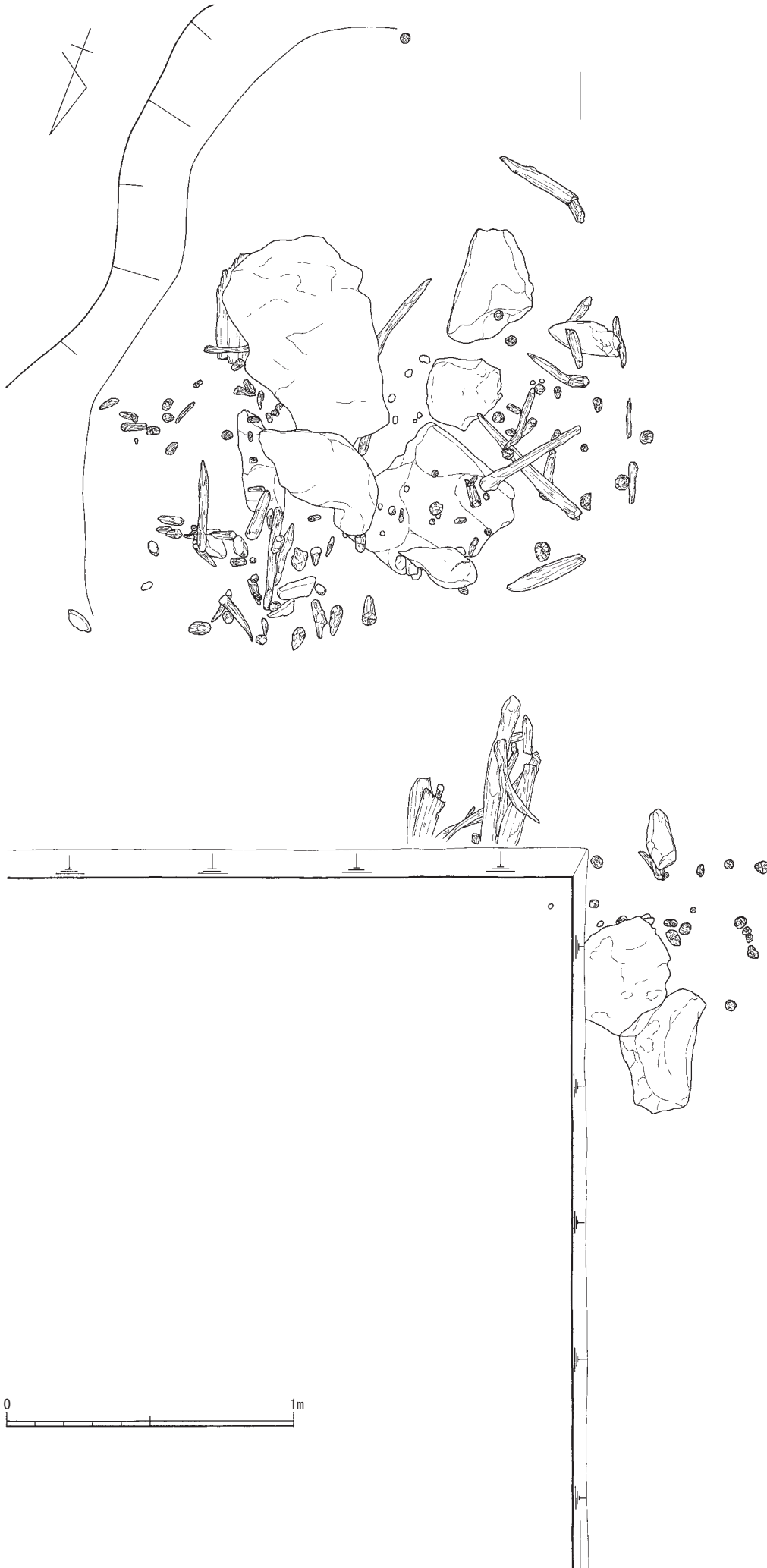


- 1. 褐灰 中砂～シルト質極細砂 (ラミナ)
- 2. 灰黄褐 中砂～粗砂 (ラミナ)



木組 SW004

SW008



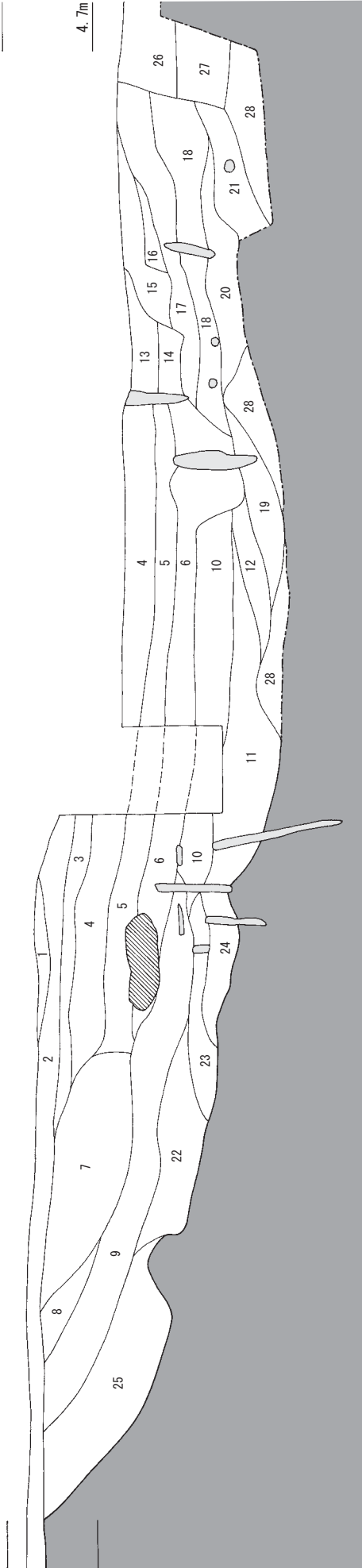
杭列 SW008

4.7m SW008



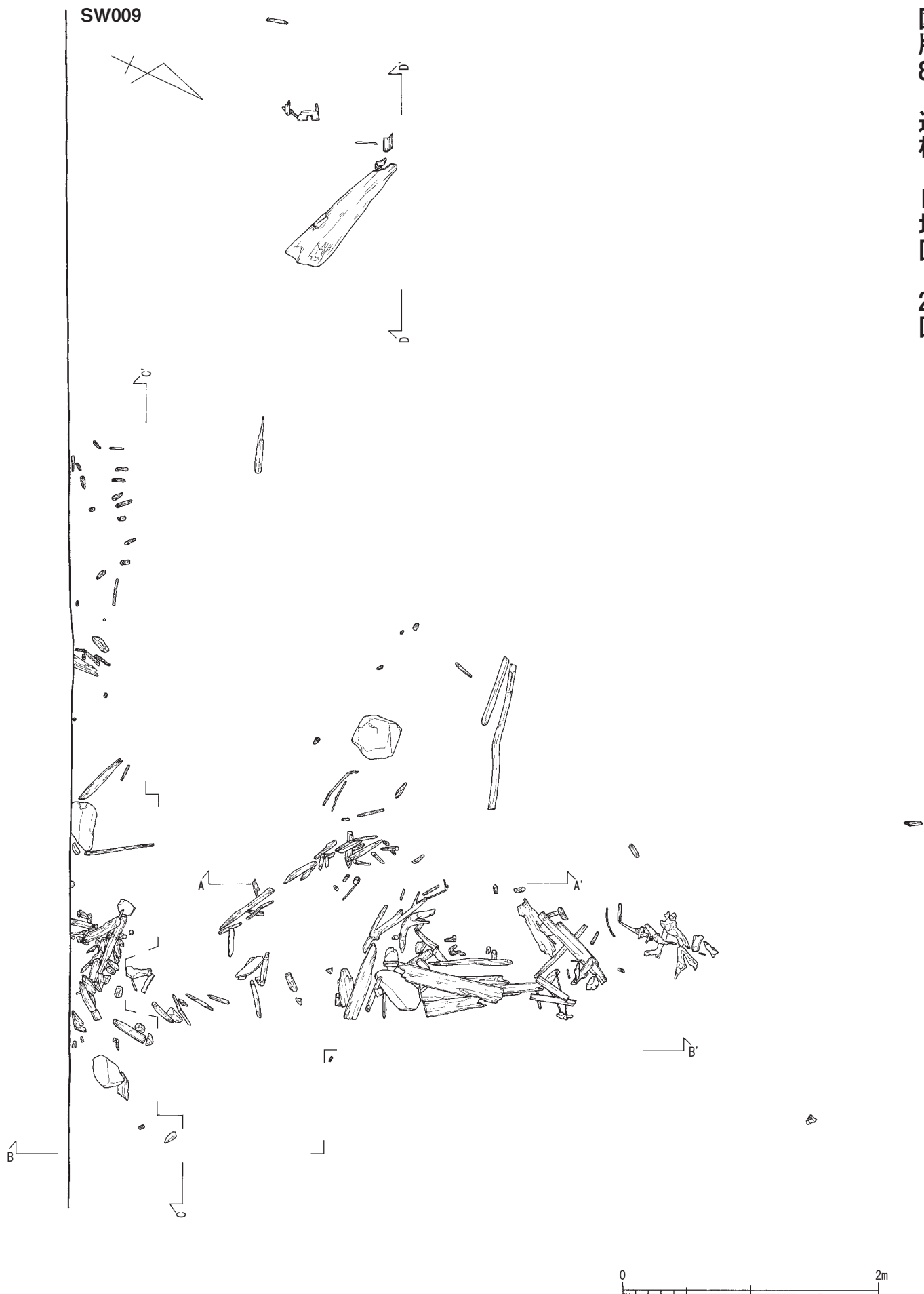
5.0m

4.7m

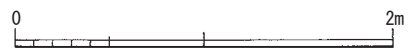
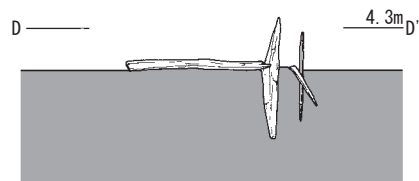
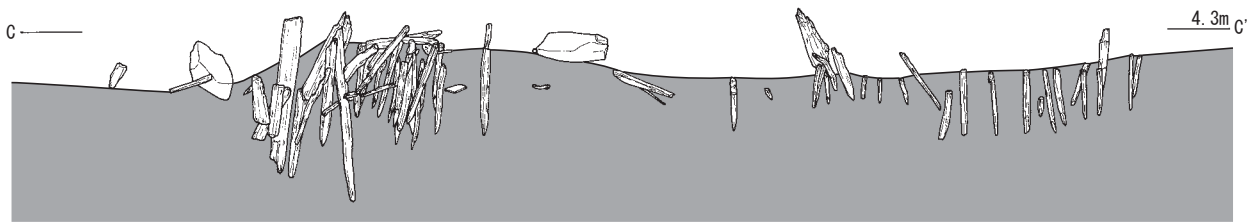
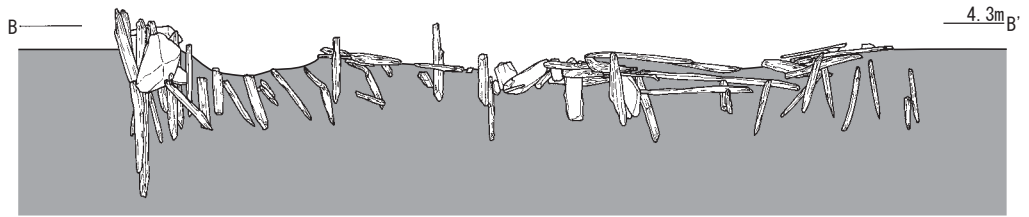
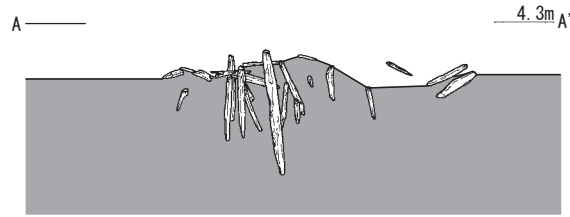


- | | | |
|--------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. にぶい、黄褐 極細砂～細砂〔耕作土〕 | 11. 黒褐 シルト質極細砂～細砂 | 21. 黒褐 シルト質極細砂(灰オリーブシルト質極細砂粒混じる) |
| 2. 黄褐 シルト質極細砂～細砂 | 12. 黄褐 細砂～中礫 | 22. 黒褐 シルト質極細砂(細礫混じる) |
| 3. 灰黄 シルト質極細砂～細砂 | 13. 灰黄褐 細砂～細礫 | 23. 黒褐 細礫(中砂～極細砂混じる) |
| 4. 暗褐 細礫～中礫(シルト質極細砂混じる) | 14. 灰黄褐 シルト質極細砂～中礫 | 24. 黒褐 極細砂(細礫～粗砂混じる) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂(中礫～極細砂混じる) | 15. 暗灰黄 シルト質極細砂(粗砂～中礫混じる) | 25. 黒褐 シルト質極細砂～中礫 |
| 6. 暗灰黄 細砂～中礫 | 16. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～細礫混じる) | 26. 暗灰黄 細砂～中礫 |
| 7. 灰黄褐 シルト質極細砂(細砂～中礫混じる) | 17. 黒褐 シルト質極細砂(中礫・黒シルト質極細砂粒混じる) | 27. 暗灰黄 極細砂～中礫 |
| 8. 灰黄褐 シルト質極細砂(細砂～細礫混じる) | 18. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂～中礫混じる) | 28. 暗灰黄 細砂～細礫 |
| 9. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂～細礫混じる) | 19. 黄灰 シルト質極細砂～細礫 | |
| 10. 黒褐 細砂～中礫 | 20. 黄灰 シルト質極細砂～細礫(ラミナ) | |

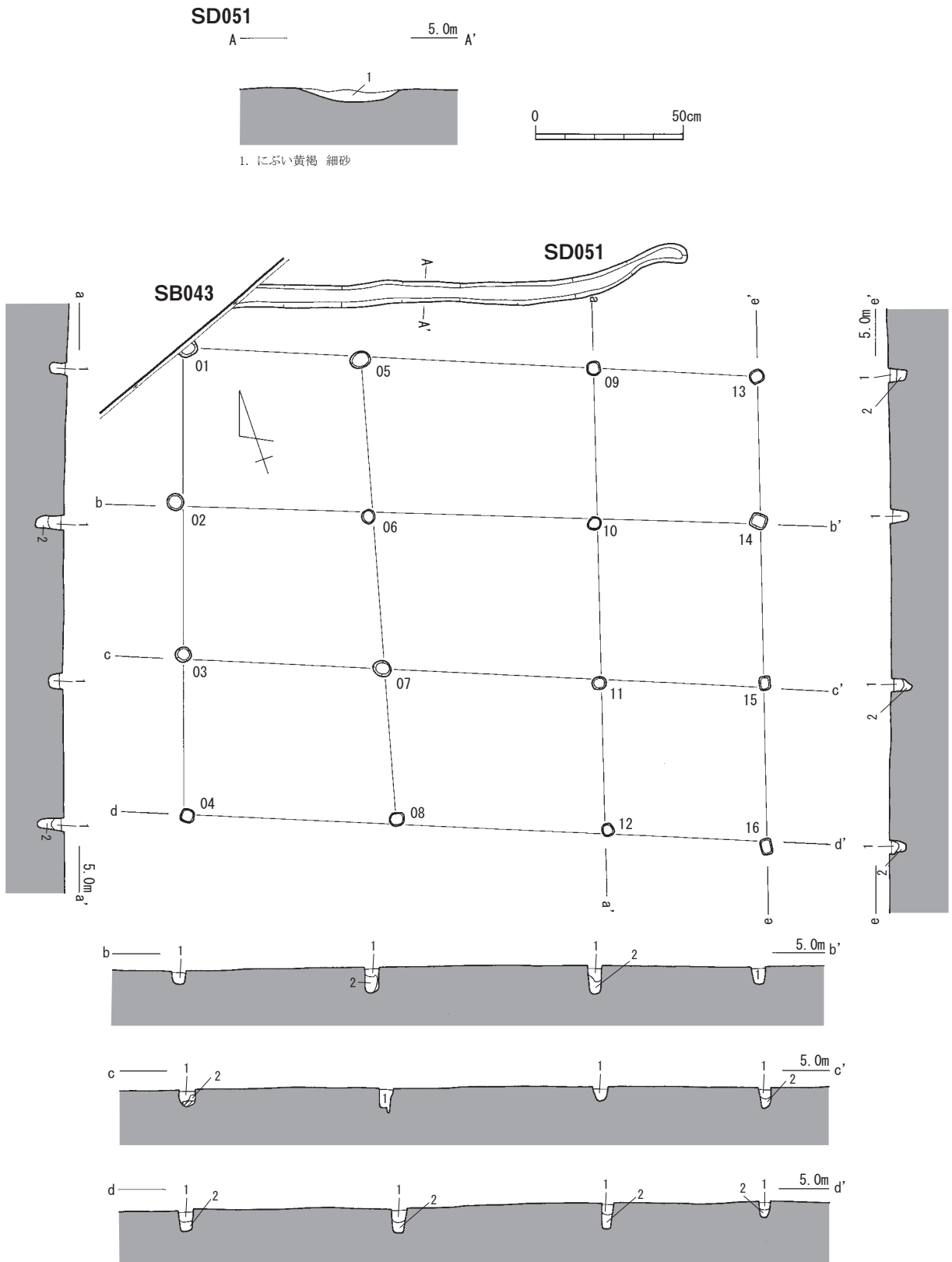
杭列 SW008 断面



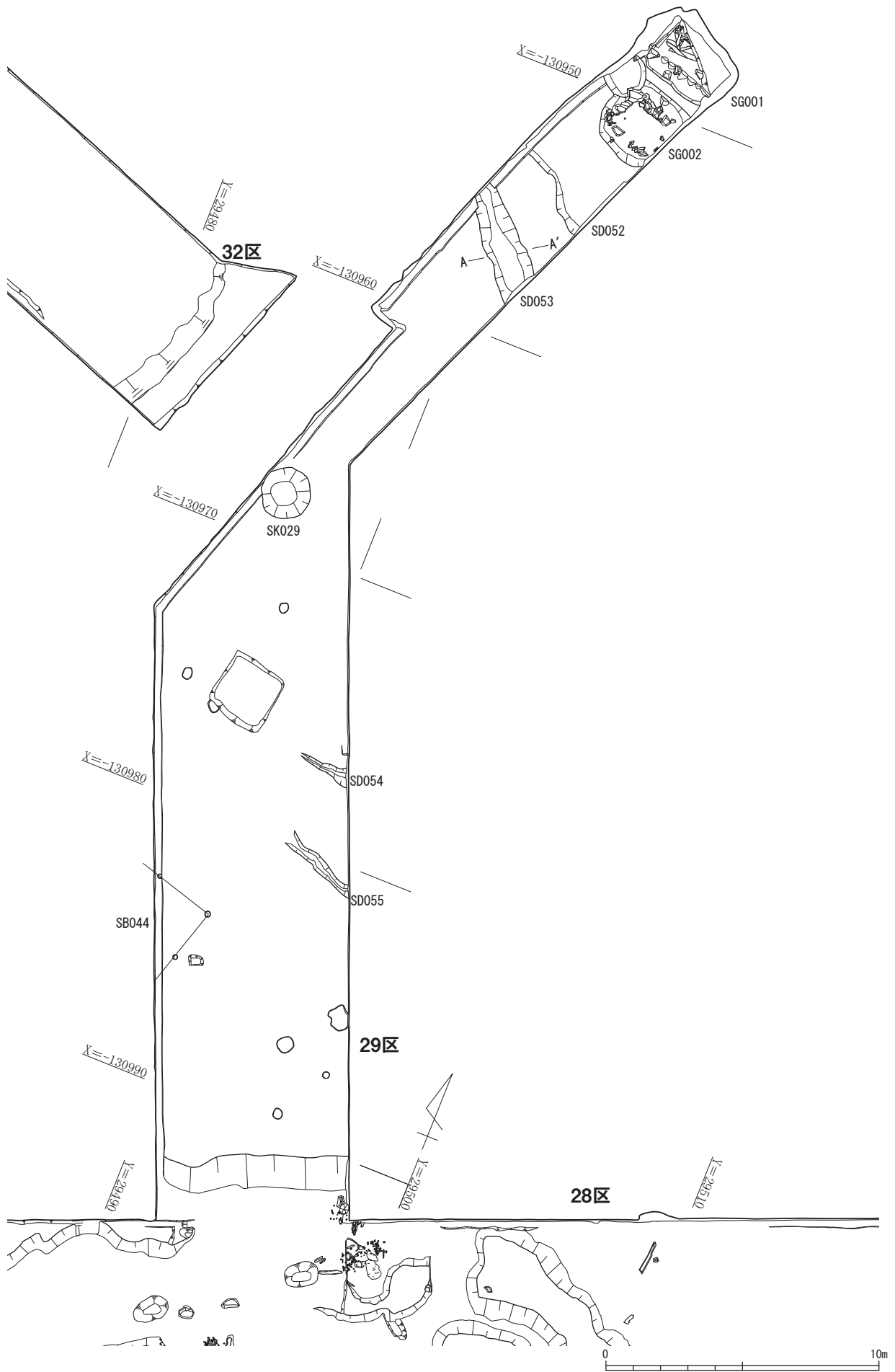
杭列 SW009



杭列 SW009 断面

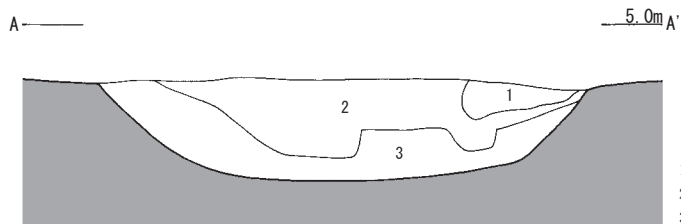


溝 SD051 土層断面 掘立柱建物 SB043

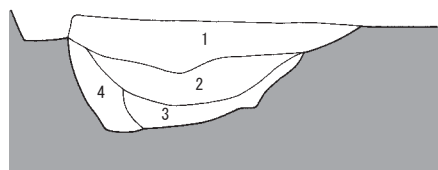
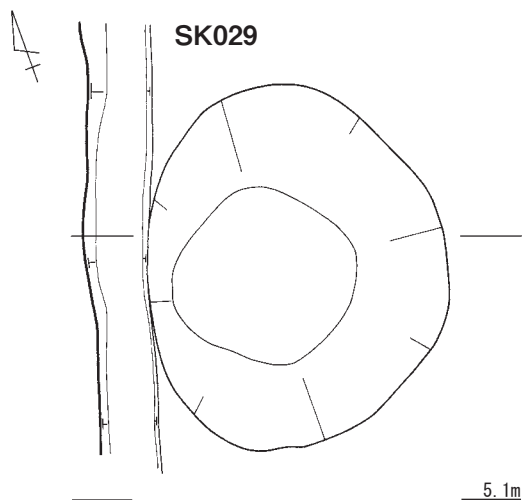
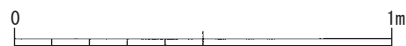


遺構配置

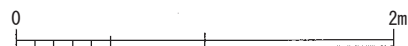
SD053



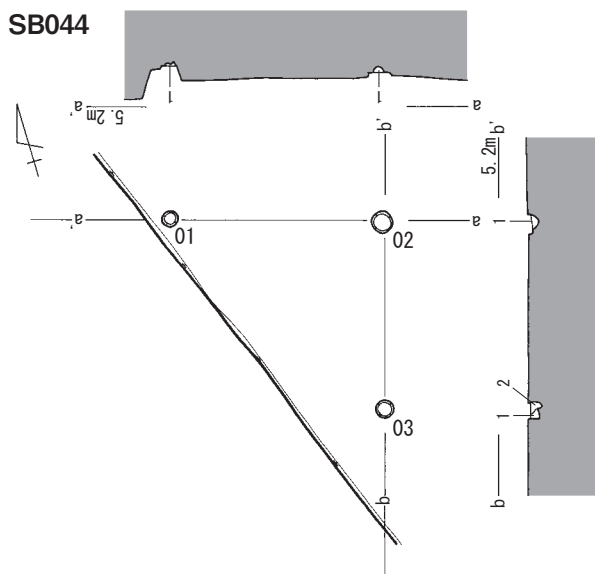
- 1. にぶい黄褐 細砂～極細砂（中礫混じる）
- 2. 黒褐 シルト質極細砂～細砂
- 3. 褐灰 中礫（シルト質極細砂混じる）



- 1. にぶい黄褐 細砂～極細砂
- 2. 灰黄褐 細砂
- 3. 黒褐 シルト質極細砂～細砂
- 4. 褐灰 中礫（シルト質極細砂混じる）



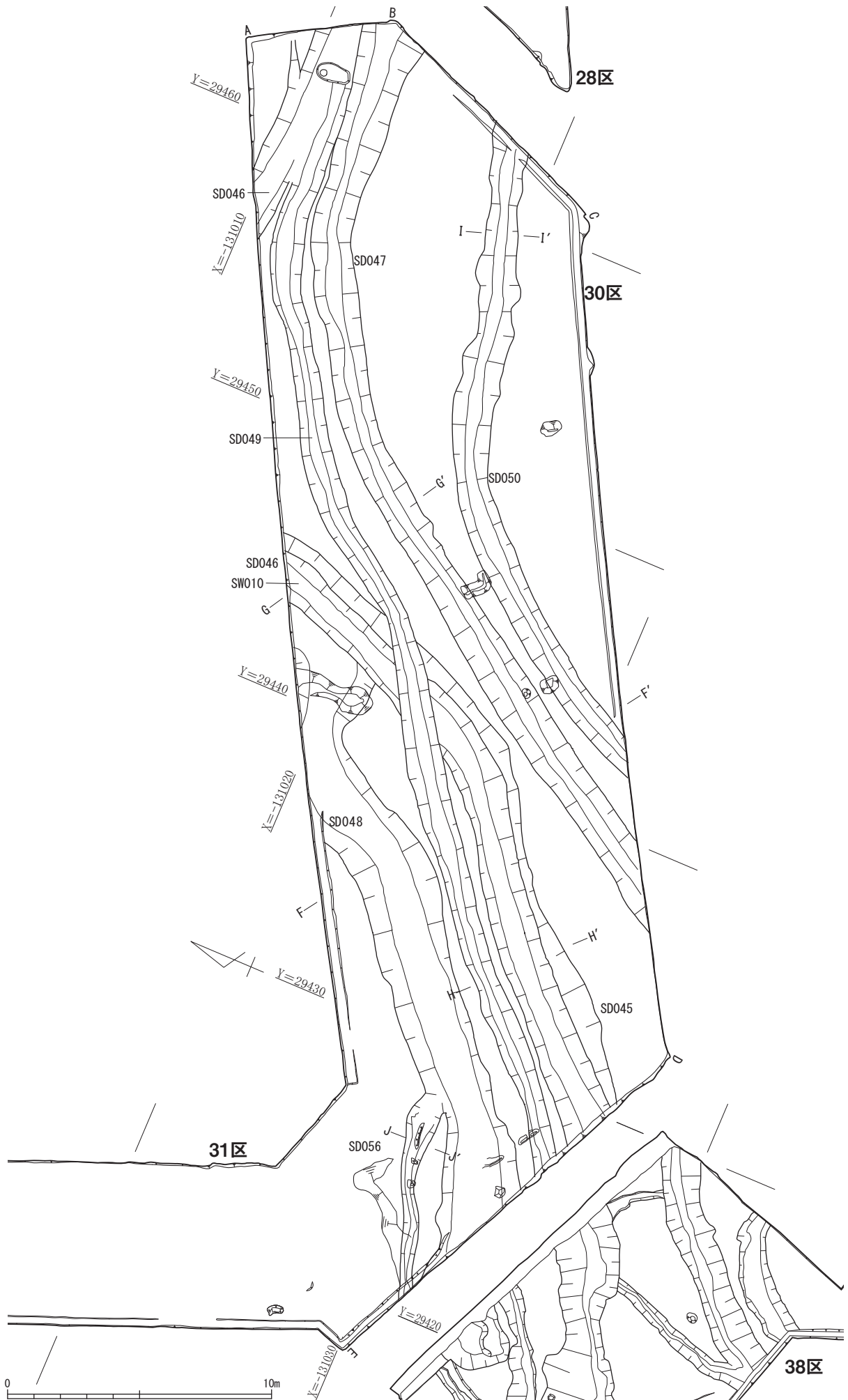
SB044



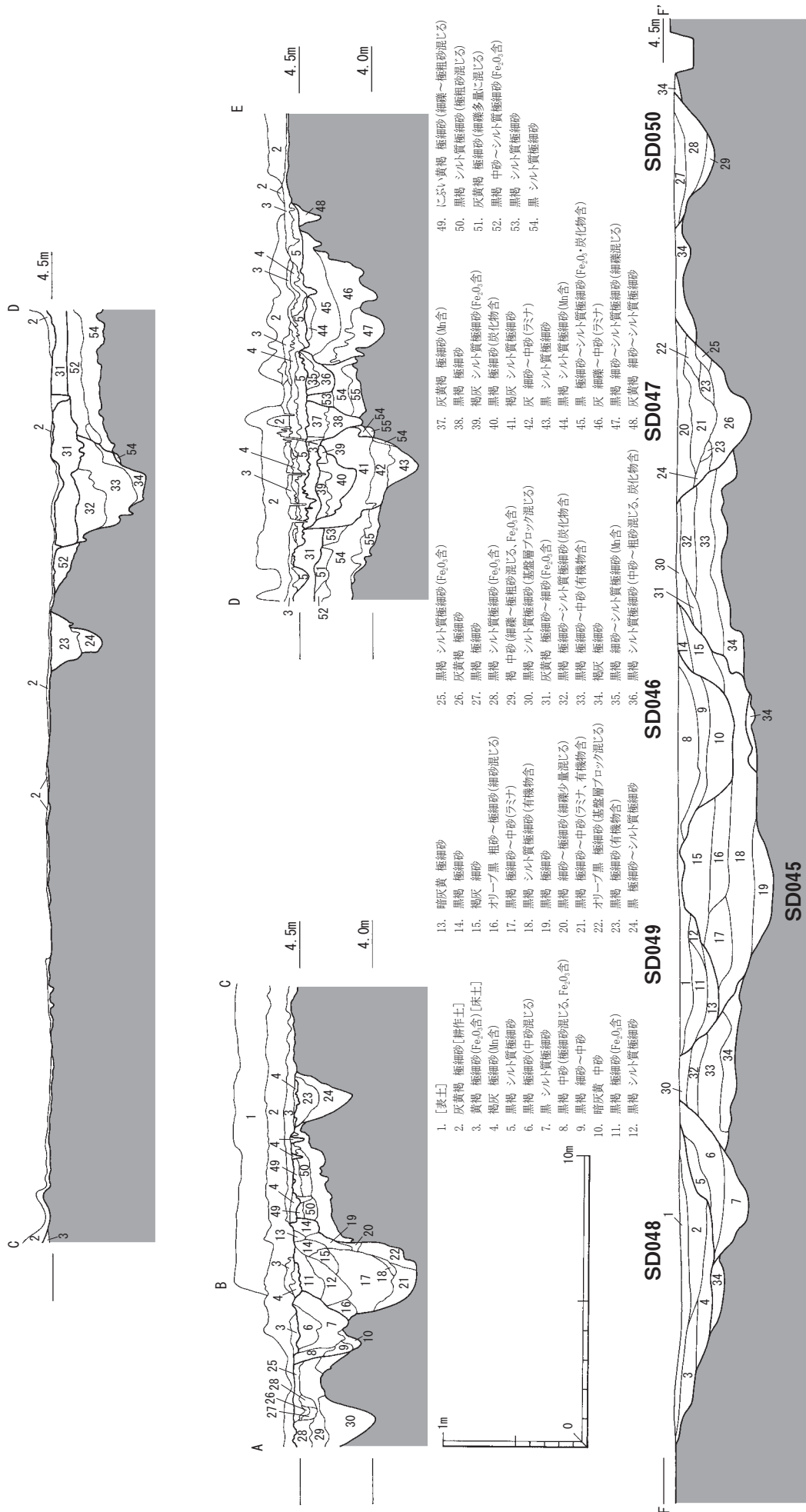
- 1. 灰黄褐 シルト質極細砂
- 2. にぶい黄褐 極細砂質シルト



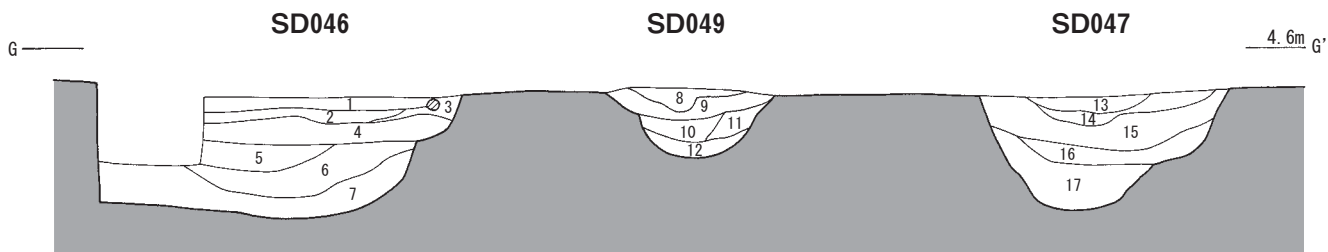
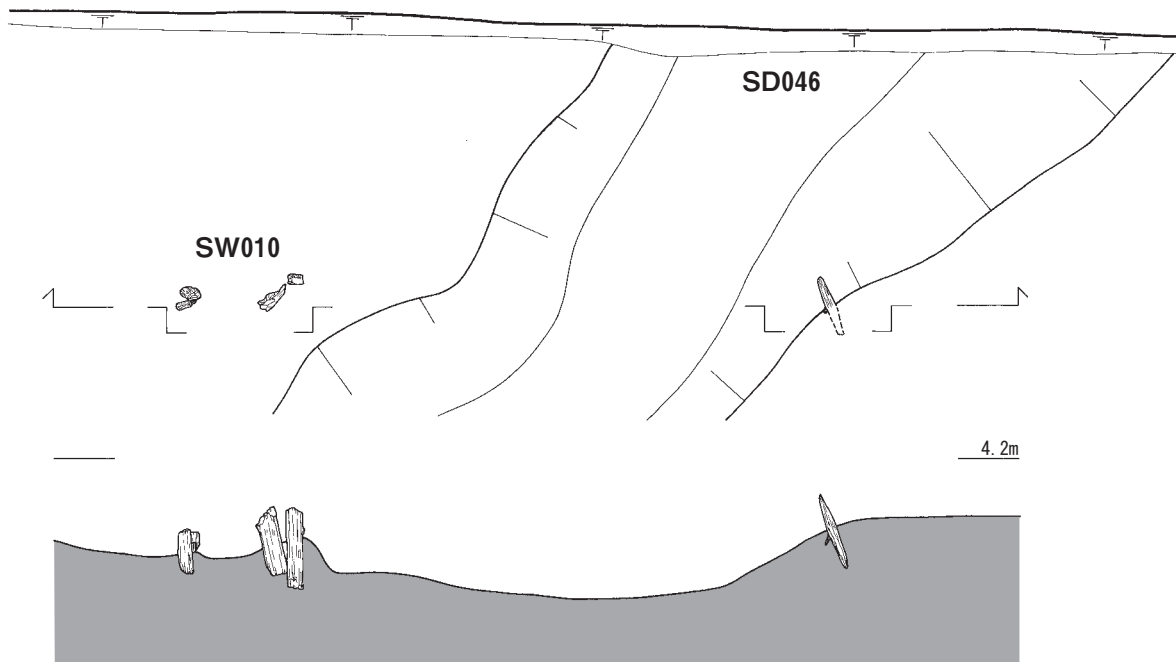
溝 SD053 土層断面 土坑 SK029 掘立柱建物 SB044



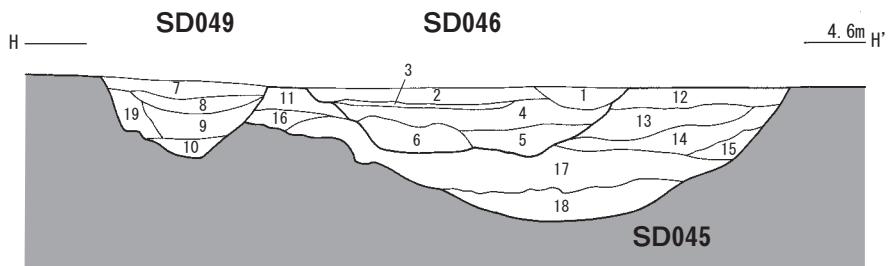
遺構配置



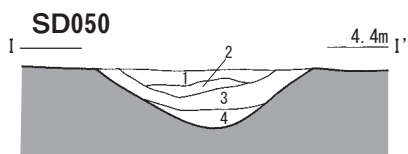
土層断面



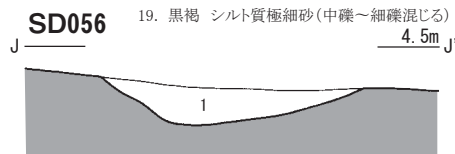
- | | | |
|---------------------|----------------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂～細砂 | 7. 黄灰 シルト質極細砂～細砂(ラミナ) | 13. 暗褐 シルト質極細砂(粗砂～細礫混じる) |
| 2. 黒 シルト質極細砂～細砂 | 8. 灰黄褐 シルト質極細砂～細礫 | 14. 黒褐 シルト質極細砂(ラミナ、炭化物含) |
| 3. 黄灰 シルト質極細砂～細礫 | 9. 黒褐 シルト質極細砂～細砂(ラミナ、炭化物含) | 15. 黄灰 シルト質極細砂～細砂(ラミナ) |
| 4. 暗灰黄 細砂～細礫 | 10. 暗灰黄 シルト質極細砂～細砂(ラミナ) | 16. 黄灰 シルト質極細砂～細砂(細礫混じる、ラミナ) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂(炭化物含) | 11. 黒褐 シルト質極細砂(中礫～細礫混じる) | 17. 黄灰 シルト質極細砂～細砂(中礫混じる、ラミナ) |
| 6. 黒褐 シルト質極細砂 | 12. 黄灰 細砂～細礫 | |



- | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂～細砂 | 7. 黒褐 シルト質極細砂(細礫～中砂混じる、ラミナ) | 13. 黒褐 細砂～中砂 |
| 2. 黒褐 シルト質極細砂～粗砂 | 8. 黒褐 シルト質極細砂(ラミナ、炭化物含) | 14. 黒褐 シルト質極細砂(細礫～中砂混じる、ラミナ) |
| 3. 黒褐 シルト質極細砂(ラミナ、炭化物含) | 9. 黄灰 シルト質極細砂(ラミナ) | 15. 黒褐 シルト質極細砂～細砂(ラミナ) |
| 4. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる) | 10. 黒褐 極細砂(大礫混じる) | 16. 黄灰 シルト質極細砂(細礫混じる) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂～細砂(ラミナ) | 11. 灰 シルト質極細砂(細礫混じる) | 17. 黄灰 シルト質極細砂～細砂(ラミナ) |
| 6. 黒褐 シルト質極細砂～細砂(粗砂混じる、ラミナ) | 12. 暗灰黄 極細砂～中砂 | 18. オリーブ黒 シルト質極細砂～極細砂(腐植質含) |
| | | 19. 黒褐 シルト質極細砂(中礫～細礫混じる) |



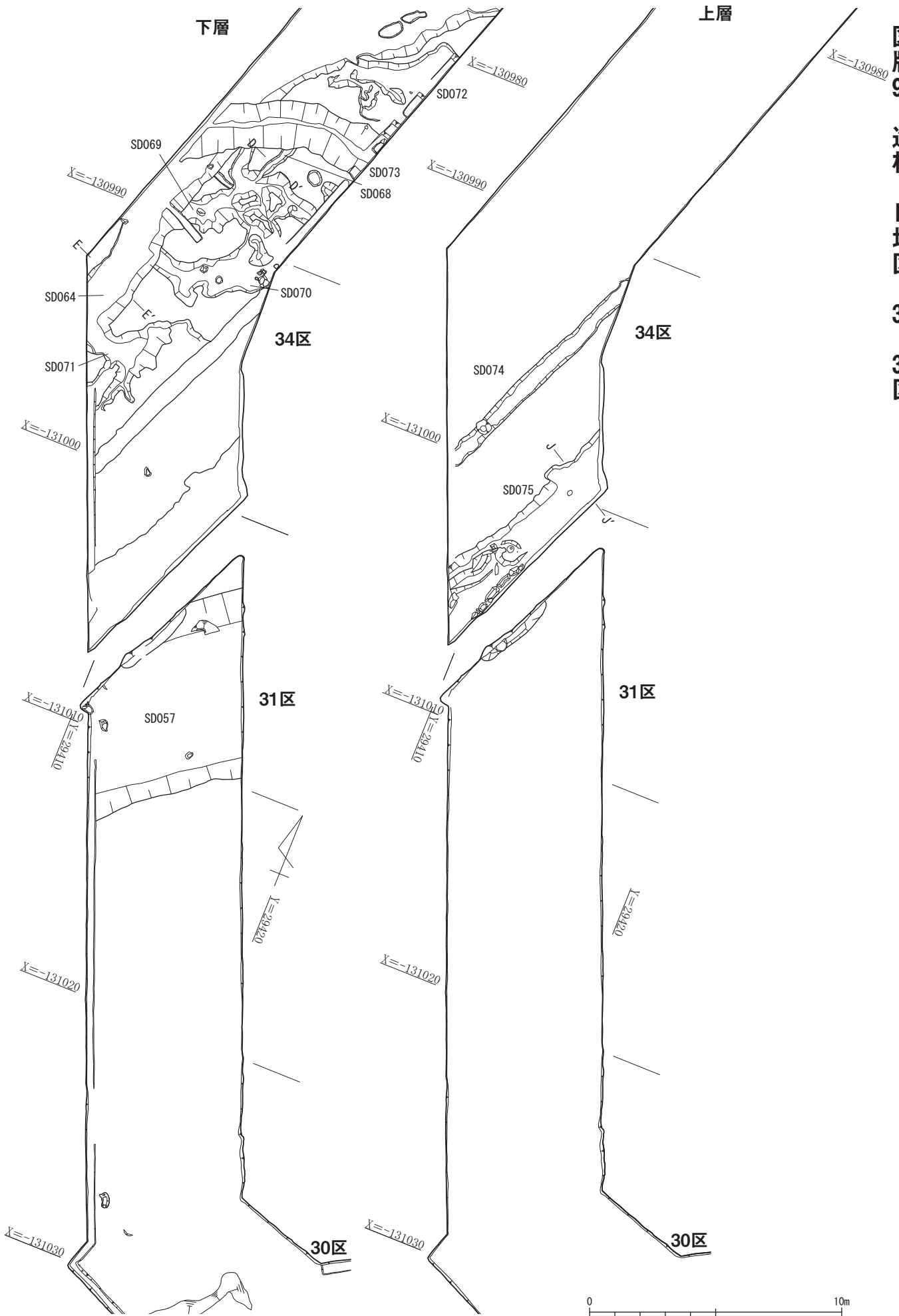
1. 灰黄褐 極細砂(細礫～中礫混じる)
2. オリーブ褐 細砂～中礫
3. 黒褐 細砂～中礫(ラミナ)
4. 暗灰黄 中砂～細礫(ラミナ)



1. 灰黄褐 細砂～シルト質極細砂

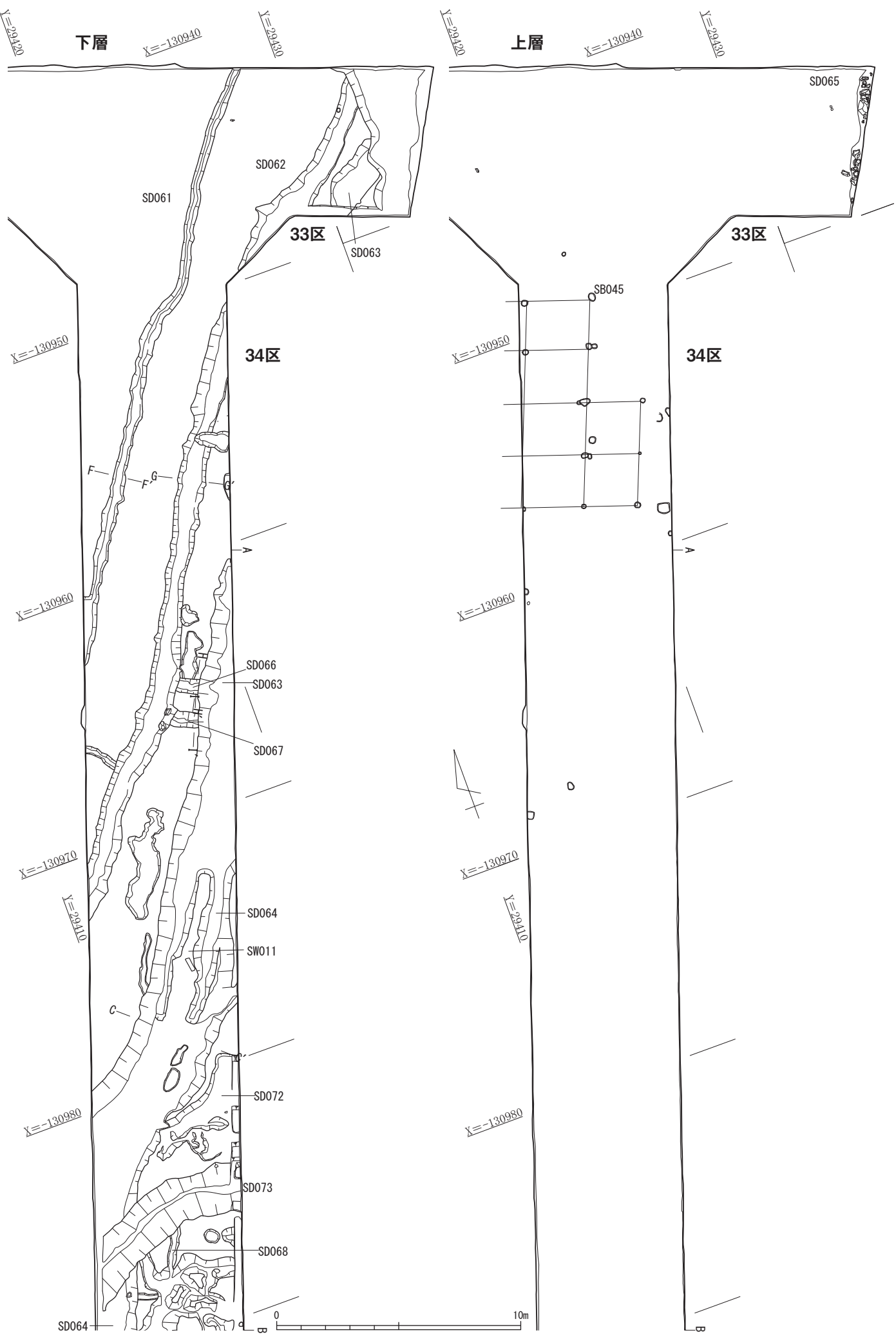


杭列 SW010 溝 SD046・SD047・SD049・SD050・SD056 土層断面

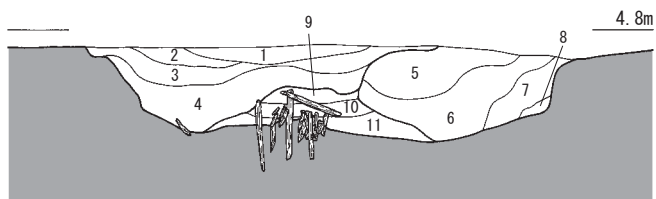
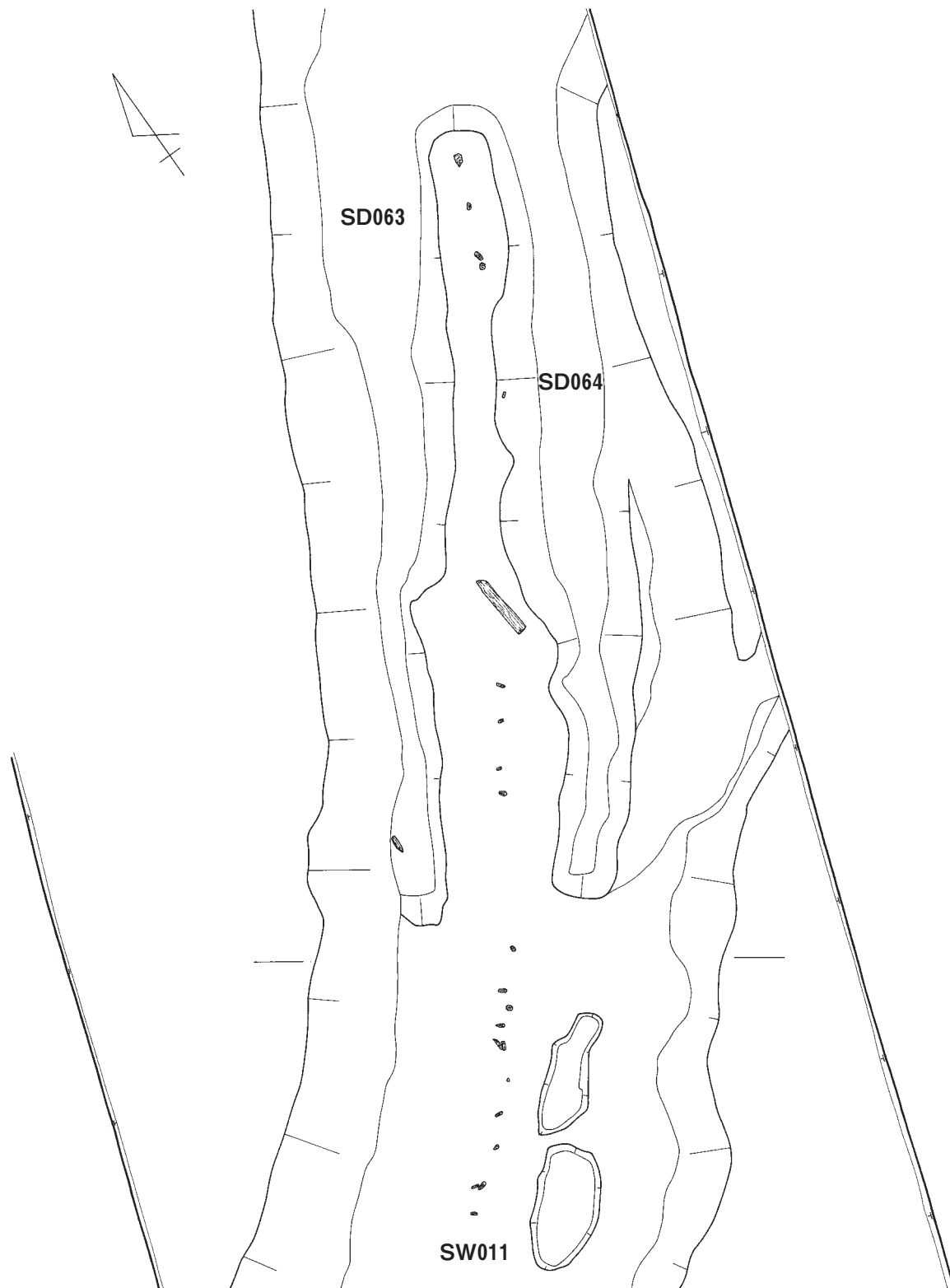


下層・上層遺構配置

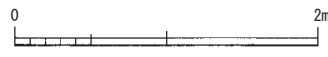
図版 96
遺構
D地区
33・34区



下層・上層遺構配置

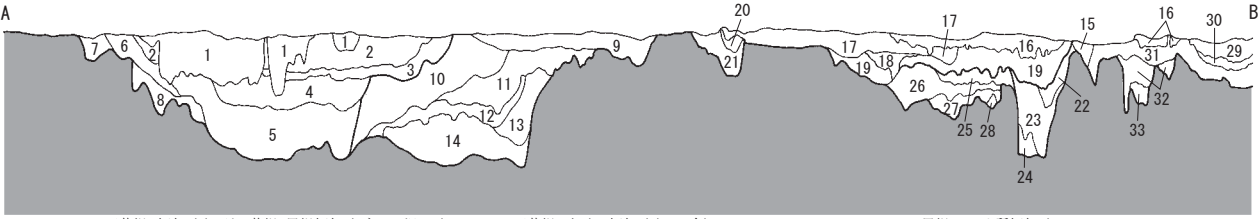


1. 灰黄 シルト質極細砂(粗砂混じる)
2. 黒褐 極細砂
3. にぶい黄褐 中砂～極細砂
4. 黒褐 極細砂～中砂(細礫～粗砂少量混じる)
5. 褐灰 中砂(極細砂～細礫混じる)
6. 黒褐 中砂～極細砂
7. 黒褐 シルト質極細砂
8. 暗灰黄 シルト質極細砂
9. 灰黄褐 細礫～中砂
10. 黒褐 中砂(粗砂混じる)
11. 褐灰 中砂(粗砂混じる)

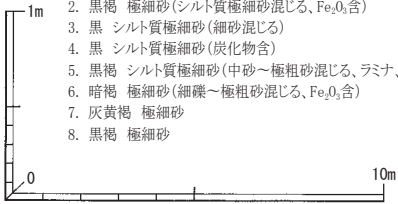


杭列 SW011

5.0m



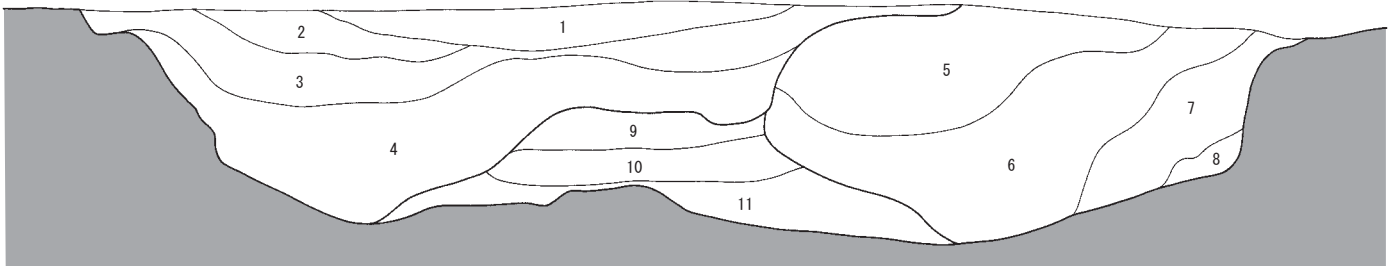
- | | | |
|--|--|---|
| 1. 灰黄褐 極細砂(にぶい黄褐・黒褐極細砂ブロック混じる) | 9. 灰黄褐 中砂～極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) | 21. 黒褐 シルト質極細砂 |
| 2. 黒褐 極細砂(シルト質極細砂混じる、Fe ₂ O ₃ 含) | 10. 灰黄褐 細砂～極細砂(細礫～極粗砂混じる) | 22. 褐灰 シルト質極細砂(炭化物含) |
| 3. 黒 シルト質極細砂(細砂混じる) | 11. 褐灰 細砂～細礫(ラミナ、Fe ₂ O ₃ 含) | 23. 褐灰 シルト質極細砂(灰細砂～中砂混じる、ラミナ、炭化物含) |
| 4. 黒 シルト質極細砂(炭化物含) | 12. 黒褐 シルト質極細砂(細礫混じる、ラミナ) | 24. 黒 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、ラミナ、炭化物含) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂(中砂～極粗砂混じる、ラミナ、炭化物含) | 13. 暗灰黄 シルト質極細砂(基盤層の黄褐シルト混じる、ラミナ) | 25. 灰黄 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、炭化物含) |
| 6. 暗褐 極細砂(細礫～極粗砂混じる、Fe ₂ O ₃ 含) | 14. 黒褐 シルト質極細砂(細礫～中砂混じる、ラミナ) | 26. 灰黄 細砂 |
| 7. 灰黄褐 極細砂 | 15. 灰黄 極細砂(細礫～中砂混じる) | 27. 灰 細砂(中砂～細礫多く混じる、炭化物含) |
| 8. 黒褐 極細砂 | 16. 褐灰 シルト質極細砂(細礫～中砂混じる) | 28. 黄灰 シルト質極細砂(基盤層ブロック混じる) |
| | 17. 褐灰 シルト質極細砂(細砂～粗砂少量混じる) | 29. 黄灰 シルト質極細砂(細砂混じる) |
| | 18. 灰黄 シルト質極細砂(細砂～中砂微量混じる) | 30. 褐灰 シルト質極細砂 |
| | 19. 黄灰 細砂 | 31. 褐灰 極細砂 |
| | 20. にぶい黄褐 極細砂 | 32. 黒 シルト質極細砂(基盤層ブロック混じる、Mn・Fe ₂ O ₃ 含) |
| | | 33. 黒 シルト質極細砂(基盤層ブロック多く混じる) |



C SD063

SD064 C'

4.8m



- | | | |
|--------------------------|---------------------|------------------|
| 1. 灰黄 シルト質極細砂(粗砂混じる) | 5. 褐灰 中砂(極細砂～細礫混じる) | 9. 灰黄褐 細礫～中砂 |
| 2. 黒褐 極細砂 | 6. 黒褐 中砂～極細砂 | 10. 黒褐 中砂(粗砂混じる) |
| 3. にぶい黄褐 中砂～極細砂 | 7. 黒褐 シルト質極細砂 | 11. 褐灰 中砂(粗砂混じる) |
| 4. 黒褐 極細砂～中砂(細礫～粗砂少量混じる) | 8. 暗灰黄 シルト質極細砂 | |

SD068

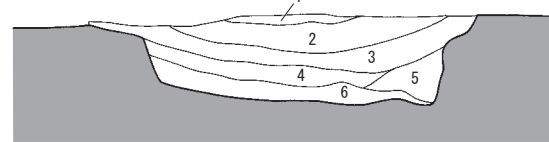
4.7m D'



1. 灰黄褐 シルト質極細砂(基盤層ブロック多く混じる)

SD064

4.8m E'

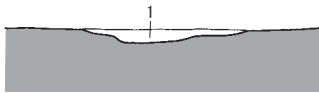


- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 暗灰黄 シルト質極細砂 | 4. オリーブ褐 中砂～粗砂(細礫混じる) |
| 2. オリーブ褐 極細砂～細砂(細礫混じる) | 5. 黒褐 シルト質極細砂 |
| 3. 灰黄褐 極細砂～細砂(細礫混じる、ラミナ、炭化物含) | 6. 暗灰黄 中礫～細礫 |



SD061

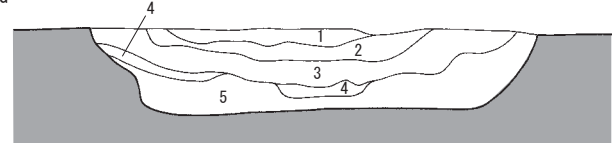
4.8m F'



1. 灰黄褐 中砂～粗砂

SD062

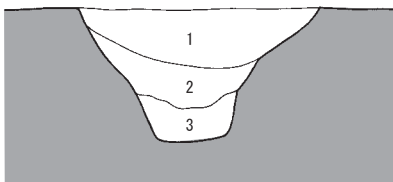
4.8m G'



- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 灰黄褐 細砂 | 4. 褐灰 中砂 |
| 2. 褐灰 中砂～細砂 | 5. 灰黄褐 極細砂～中砂 |
| 3. にぶい黄褐 細砂 | |

SD066

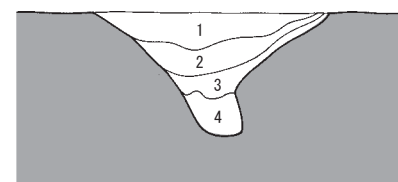
4.8m H'



1. にぶい黄褐 粗砂～中砂
2. 褐 細砂(Fe₂O₃含)
3. 灰黄褐 極細砂

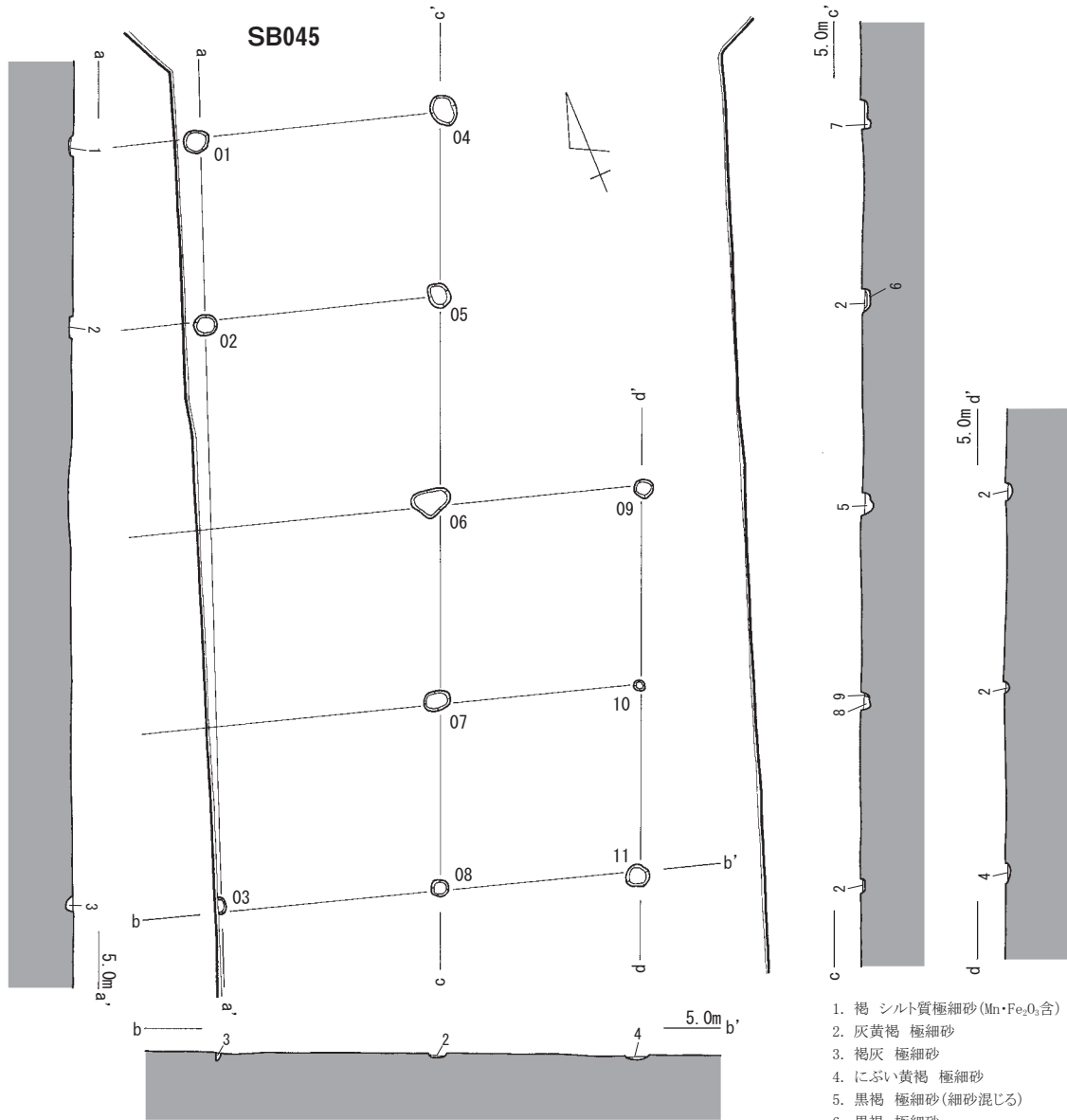
SD067

4.8m I'

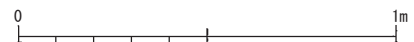
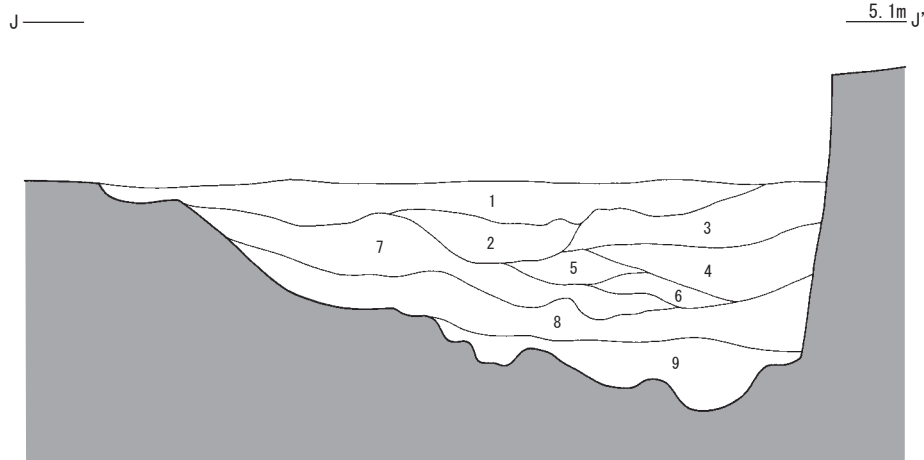


1. にぶい黄褐 粗砂～中砂
2. 黒褐 極細砂
3. 褐灰 シルト質極細砂
4. 褐灰 極細砂

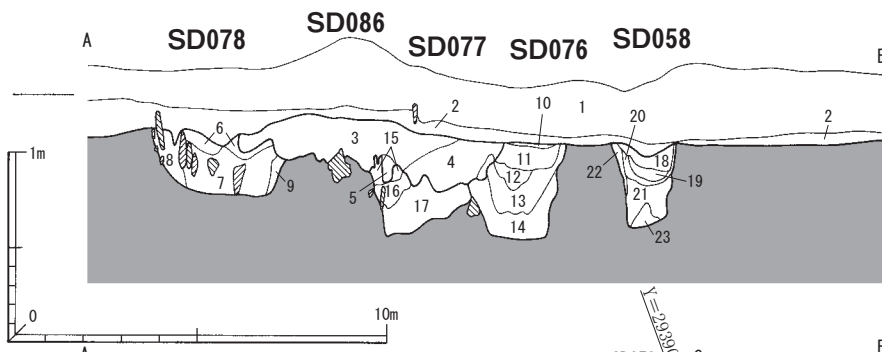




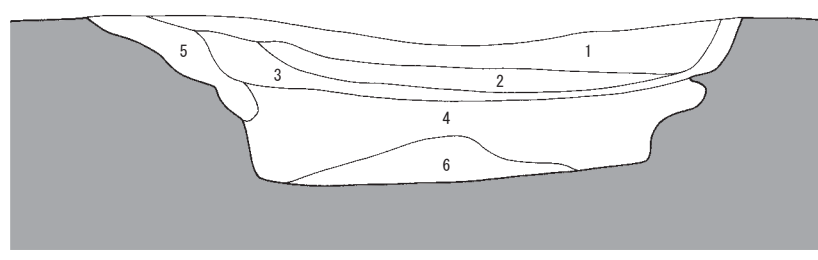
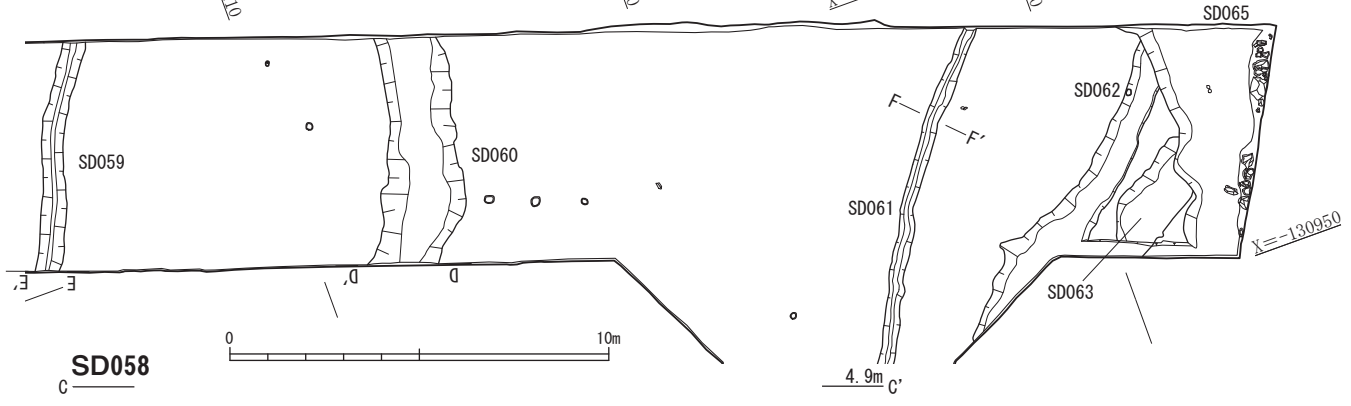
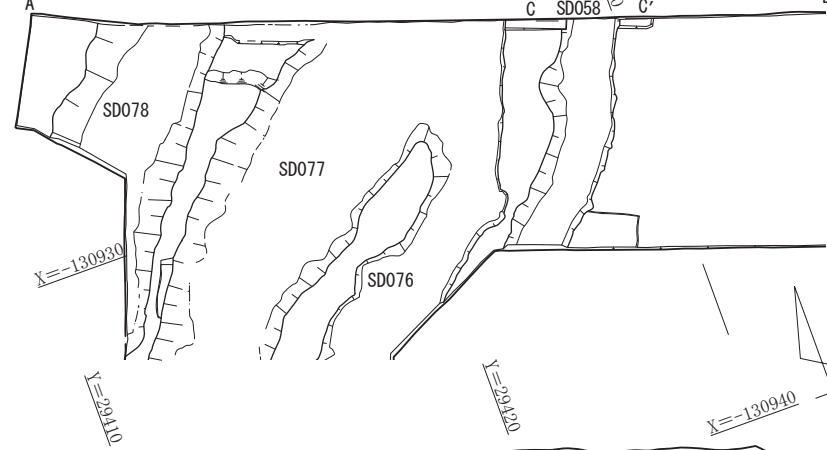
SD075



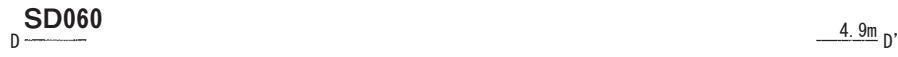
掘立柱建物 SB045 溝 SD75 土層断面



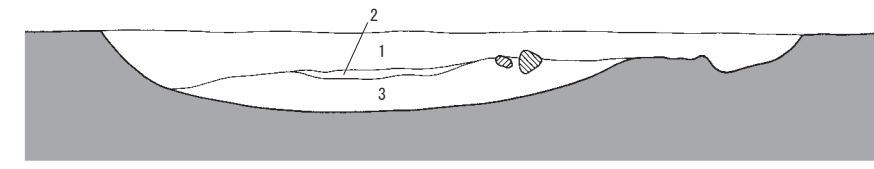
- 5.0m
1. 灰黄褐 極細砂[耕作土]
 2. にぶい黄褐 極細砂～中砂(Fe₂O₃含)[床土]
 3. にぶい黄褐 細砂～極細砂(ラミナ、Mn・Fe₂O₃沈着)
 4. 暗灰黄 中砂～極細砂(ラミナ、Mn・Fe₂O₃含)
 5. 褐灰 極細砂
 6. 暗灰黄 極細砂
 7. 褐灰 シルト質極細砂(ラミナ)
 8. 黒褐 シルト質極細砂
 9. 暗灰黄 シルト質極細砂(ラミナ)
 10. 暗褐 シルト質極細砂(Mn含)
 11. 暗褐 シルト質極細砂(中砂混じる、Mn含)
 12. 黒 シルト質極細砂(炭化物含)
 13. 黒褐 シルト質極細砂(炭化物含)
 14. 黒褐 細礫～極細砂(ラミナ)
 15. 黒褐 シルト質極細砂(炭化物含)
 16. 褐灰 極細砂～細砂
 17. 黒褐 シルト質極細砂～細砂(ラミナ、炭化物含)
 18. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～極粗砂混じる、Mn・Fe₂O₃含)
 19. 黒 シルト質極細砂(炭化物・Fe₂O₃含)
 20. 黒 シルト質極細砂(細砂～極粗砂混じる)
 21. 黒 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、ラミナ、炭化物含)
 22. 褐灰 シルト質極細砂(細砂混じる)
 23. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる)



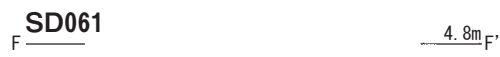
1. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～極粗砂混じる、Mn・Fe₂O₃含)
2. 黒 シルト質極細砂(炭化物・Fe₂O₃含)
3. 黒 シルト質極細砂(細砂～極粗砂混じる)
4. 黒 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、ラミナ、炭化物含)
5. 褐灰 シルト質極細砂(細砂混じる)
6. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる)



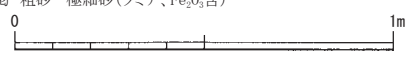
1. 灰黄褐 シルト質極細砂
2. 灰黄褐 細砂
3. 黄褐 細礫～細砂(ラミナ、Fe₂O₃含)



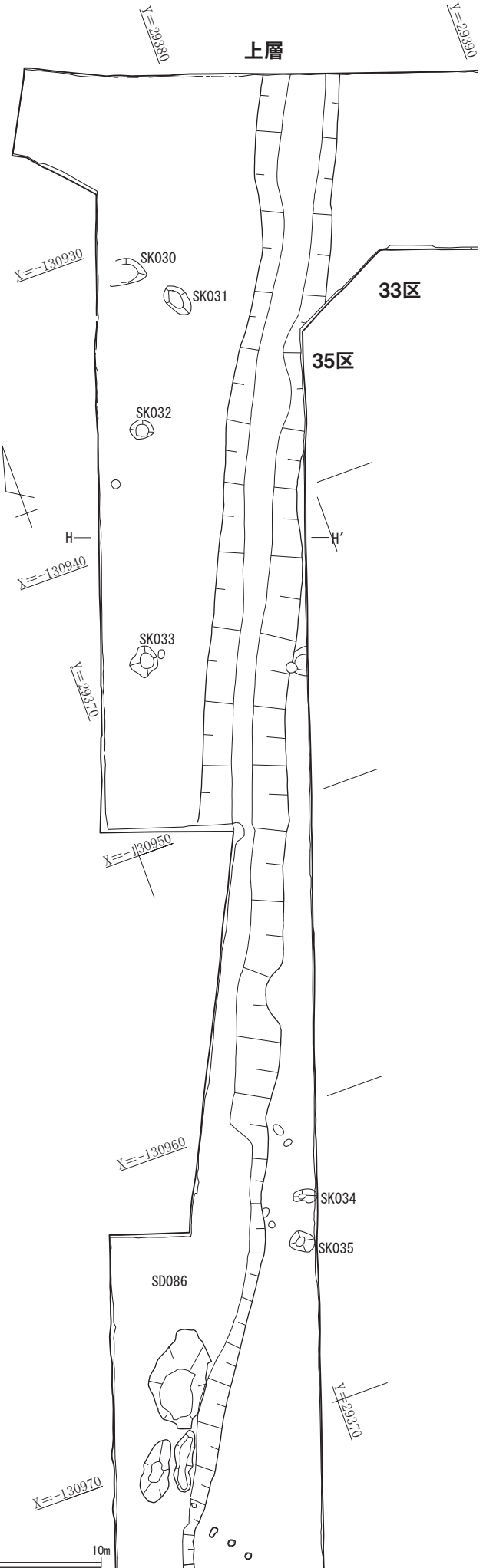
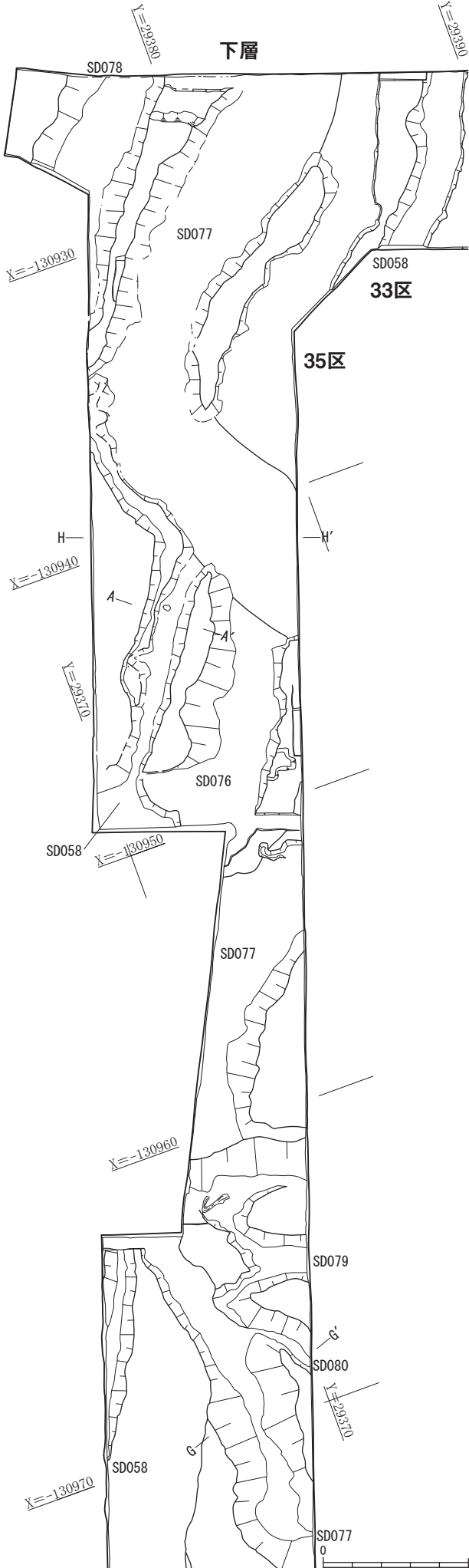
1. 灰黄褐 シルト質極細砂(基盤層のにぶい黄橙シルト質極細砂混じる)



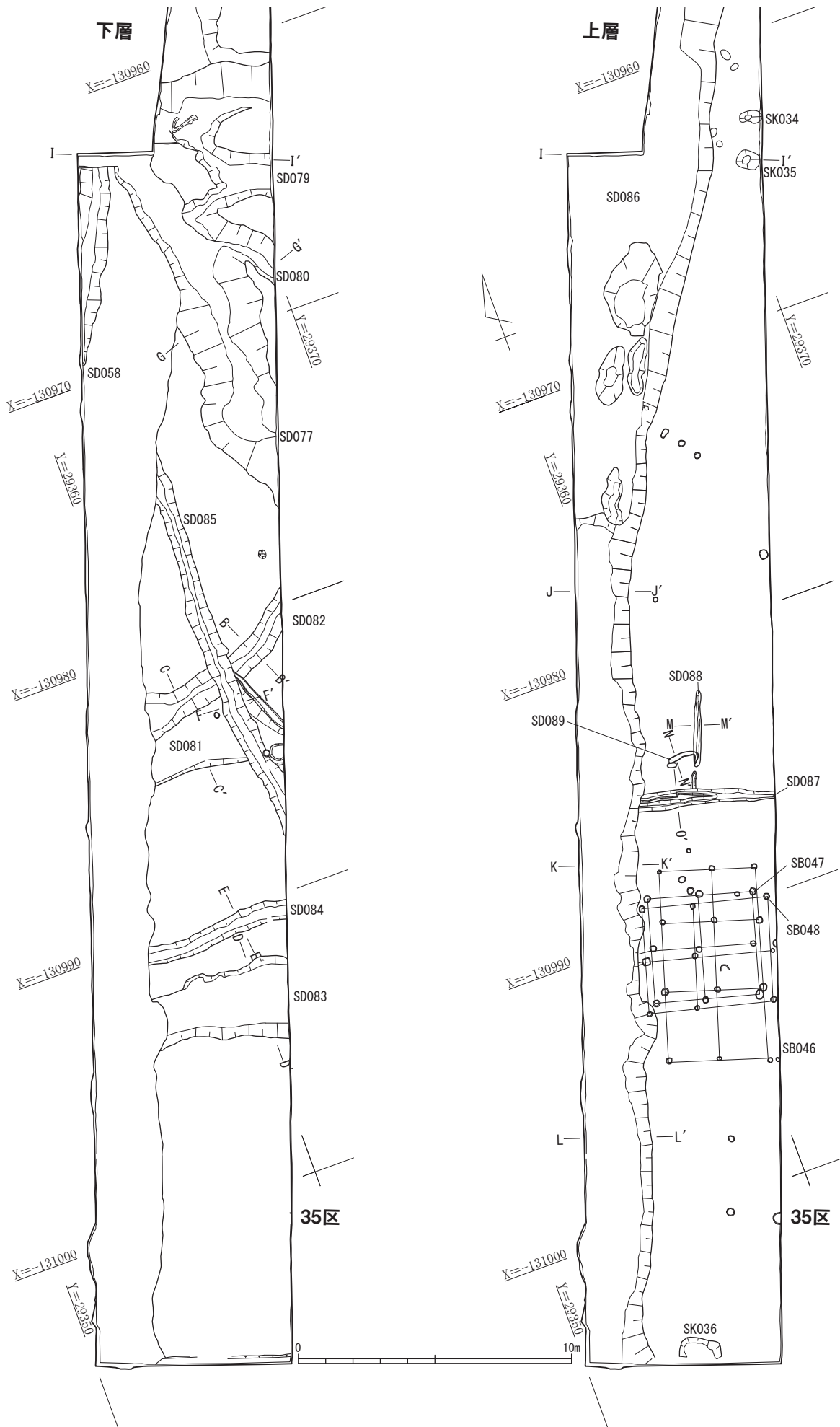
1. 灰黄褐 粗砂～極細砂(ラミナ、Fe₂O₃含)



遺構配置 溝 SD058～SD061・SD076～SD078・SD086



33区・35区北半部 下層・上層遺構配置

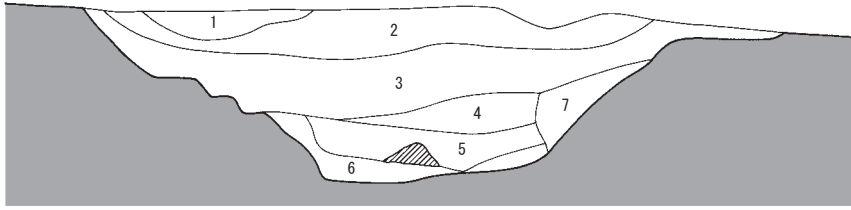


南半部 下層・上層遺構配置

SD058

A

4.9m A'

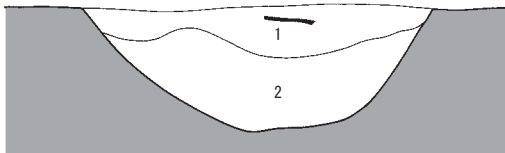


1. にぶい黄 極細砂 (粗砂含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂 (Fe₂O₃ 含)
3. にぶい黄褐 シルト質極細砂
4. 黒褐 極細砂～シルト質極細砂
5. 褐灰 細砂 (炭化物混じる)
6. 黄褐 中砂～粗砂 (大礫混じる、Fe₂O₃ 含)
7. 黒褐 極細砂 (にぶい黄褐 シルト質極細砂粒含)

SD082

B

4.7m B'

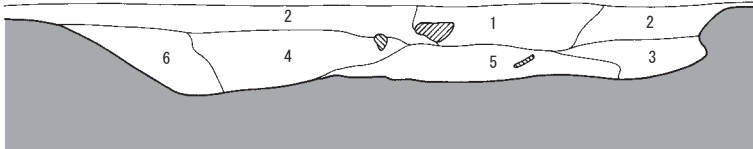


1. 暗褐 極細砂 (Mn 多量に含)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (底部に Fe₂O₃ 沈着)

SD081

C

4.7m C'

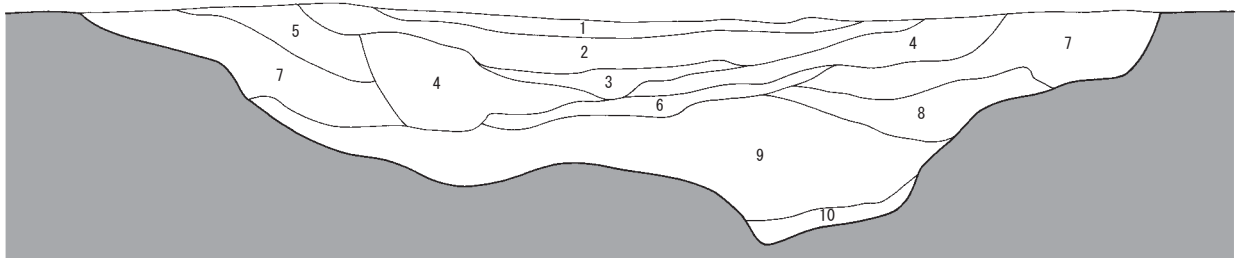


1. 灰黄褐 極細砂 (黄褐極細砂混じる)
2. 黒 細砂～極細砂 (Mn・Fe₂O₃ 多く含)
3. 黒 細砂～極細砂 (Fe₂O₃ 多く含)
4. 褐灰 中砂～細砂 (粗砂～中礫混じる)
5. 黄灰 細砂～極細砂 (粗砂～中礫混じる)
6. 黄灰 細砂～極細砂

SD083

D

4.7m D'

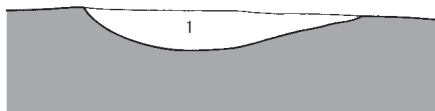


- | | | | |
|-------------------------|----------------------|--------------------------|------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂 (細礫・Mn 含) | 4. 黒褐 細礫～粗砂 | 7. 灰黄褐 極細砂 | 10. 黒褐 極細砂 |
| 2. 黒褐 シルト質極細砂 (細礫僅かに含) | 5. 黒褐 極細砂 (細礫～粗砂混じる) | 8. 黒褐 極細砂～細砂 | |
| 3. 黒 シルト質極細砂 | 6. 黒褐 極細砂 | 9. 灰黄褐 中砂～細砂 (細礫混じる・ラミナ) | |

SD084

E

4.7m E'

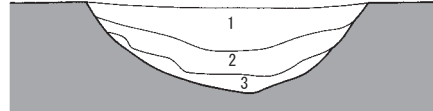


1. 暗褐 シルト質極細砂

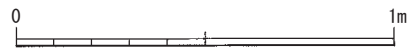
SD085

F

4.7m F'



1. 黒褐 シルト質極細砂 (Mn 多く含)
2. 暗褐 シルト質極細砂
3. 灰黄褐 中砂～細砂 (ラミナ)

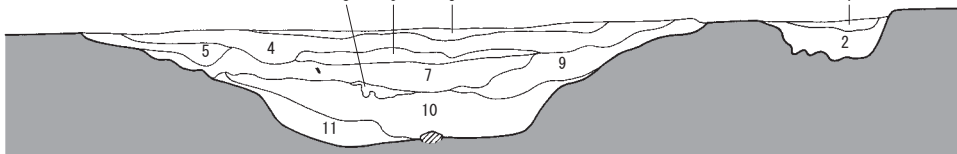


SD077

SD080

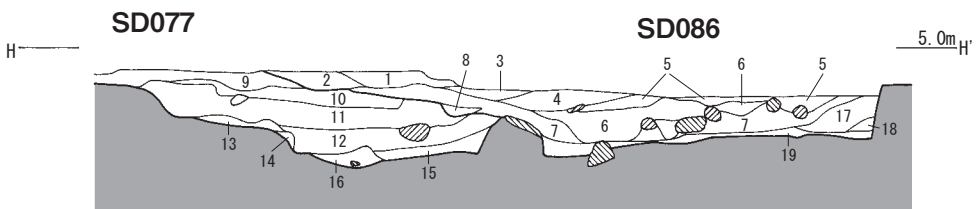
G

4.8m G'

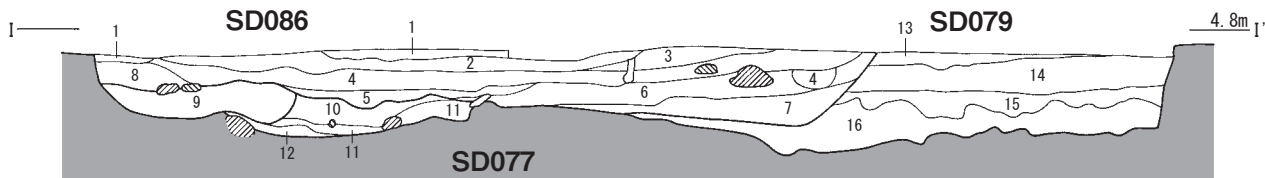


- | | |
|--|--|
| 1. 黄褐 極細砂～中砂 (Fe ₂ O ₃ 含) | 7. 灰黄褐 中砂～極細砂 (ラミナ、有機物含) |
| 2. にぶい黄褐 粗砂～中砂 (ラミナ、底部に Fe ₂ O ₃ 沈着) | 8. にぶい黄褐 粗砂～中砂 (ラミナ、底部に Fe ₂ O ₃ 沈着) |
| 3. 灰黄褐 極細砂 (Mn 含) | 9. 黒褐 シルト質極細砂～細砂 (ラミナ、有機物含) |
| 4. 黒褐 極細砂～細砂 (Mn 含) | 10. 黒褐 極細砂～中砂 (有機物多量に含) |
| 5. 灰黄褐 極細砂～細砂 | 11. 褐灰 中砂～細砂 (ラミナ、有機物含) |
| 6. 黒褐 シルト質極細砂～細砂 (ラミナ) | |





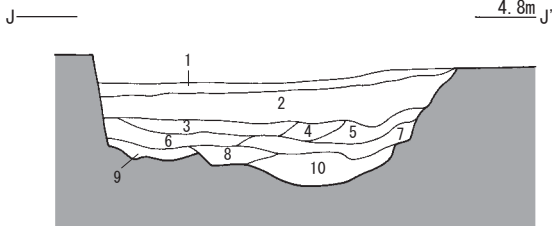
- | | | |
|---------------------------|---|--|
| 1. 暗灰黄 シルト質砂 (Mn 含) | 8. 暗灰黄 シルト質極細砂 (ラミナ) | 15. 黒褐 シルト質極細砂 (有機物含) |
| 2. 灰黄褐 極細砂~細砂 (細礫~極粗砂混じる) | 9. にぶい黄褐 中砂 | 16. 黒褐 シルト質極細砂~中砂 |
| 3. 暗灰黄砂 極細砂~細砂 | 10. 灰黄褐 細砂~極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) | 17. 黒褐 極細砂 |
| 4. 灰黄 細砂~粗粒砂 (ラミナ) | 11. 暗灰黄 極細砂 | 18. 黒褐 シルト質極細砂 |
| 5. 暗黄 極細砂 (ラミナ) | 12. 黒褐 極細砂 (中砂混じる) | 19. 灰黄褐 極細砂~中砂 (底部に Fe ₂ O ₃ 沈着) |
| 6. にぶい黄色 中砂~粗砂 (ラミナ) | 13. 暗灰黄 極細砂 | |
| 7. 黄褐 極細砂~細砂 (ラミナ) | 14. 黒褐 シルト質極細砂 (にぶい黄褐シルト質極細砂粒含) | |



- | | |
|--|--|
| 1. 黒褐 極細砂 [耕作土] | 9. 黄褐 粗砂~細礫 (ラミナ、下部 Fe ₂ O ₃ 沈着) |
| 2. 黄褐 細砂 (Fe ₂ O ₃ ・Mn 含) [床土] | 10. 暗灰黄 細砂 |
| 3. 灰黄褐 極細砂~細砂 (Mn 含) | 11. 暗灰黄 中砂 |
| 4. 暗灰黄褐 極細砂 | 12. 黒褐 極細砂 |
| 5. 暗灰黄 極細砂 | 13. 褐 シルト質極細砂下層 |
| 6. 暗灰黄 極細砂~粗砂 | 14. 灰黄褐 極細砂 |
| 7. 黄褐 細砂 | 15. 褐灰 極細砂 |
| 8. 暗灰黄 粗砂~細礫 | 16. 灰黄褐 極細砂 |

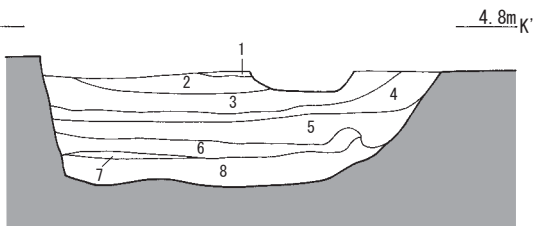


SD086



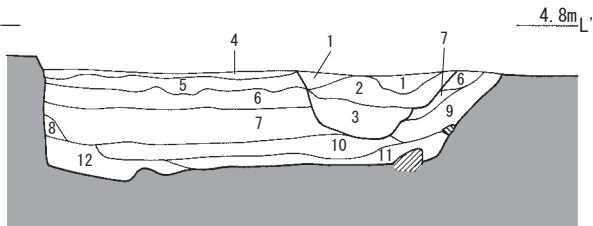
- | |
|-------------------------|
| 1. にぶい黄 極細砂~細砂 |
| 2. 暗灰黄 細砂 (シルト質極細砂混じる) |
| 3. 暗灰黄 中砂~粗砂 |
| 4. 暗灰黄 細砂~粗砂 |
| 5. 暗灰黄 細砂~粗砂 (細礫多量に混じる) |
| 6. 黄灰 細礫~中砂 |
| 7. 黄灰 シルト質極細砂 (細礫混じる) |
| 8. 黄灰 中砂~細礫 |
| 9. 黄褐 中砂~粗砂 |
| 10. 暗灰黄 中礫~細礫 |

K

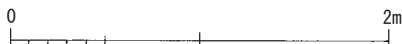


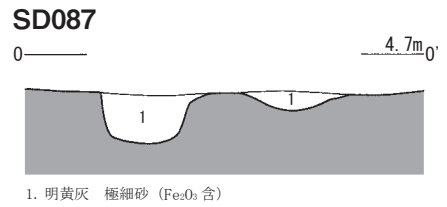
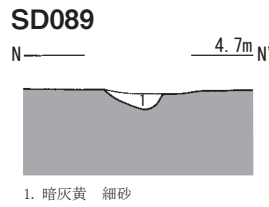
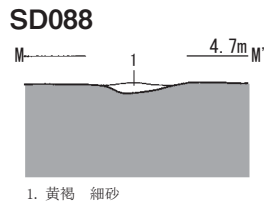
- | |
|---|
| 1. 明黄灰 極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) |
| 2. にぶい黄 極細砂~細砂 (粗砂~極粗砂混じる) |
| 3. 暗灰黄 シルト質極細砂 (粗砂~極粗砂多量に混じる) |
| 4. 暗灰黄 極細砂質シルト |
| 5. 暗灰黄 極細砂質シルト (細礫混じる) |
| 6. 黄褐 中砂~粗砂 |
| 7. 暗灰黄 極細砂質シルト (ラミナ) |
| 8. 黄褐 粗砂~極粗砂 |

L

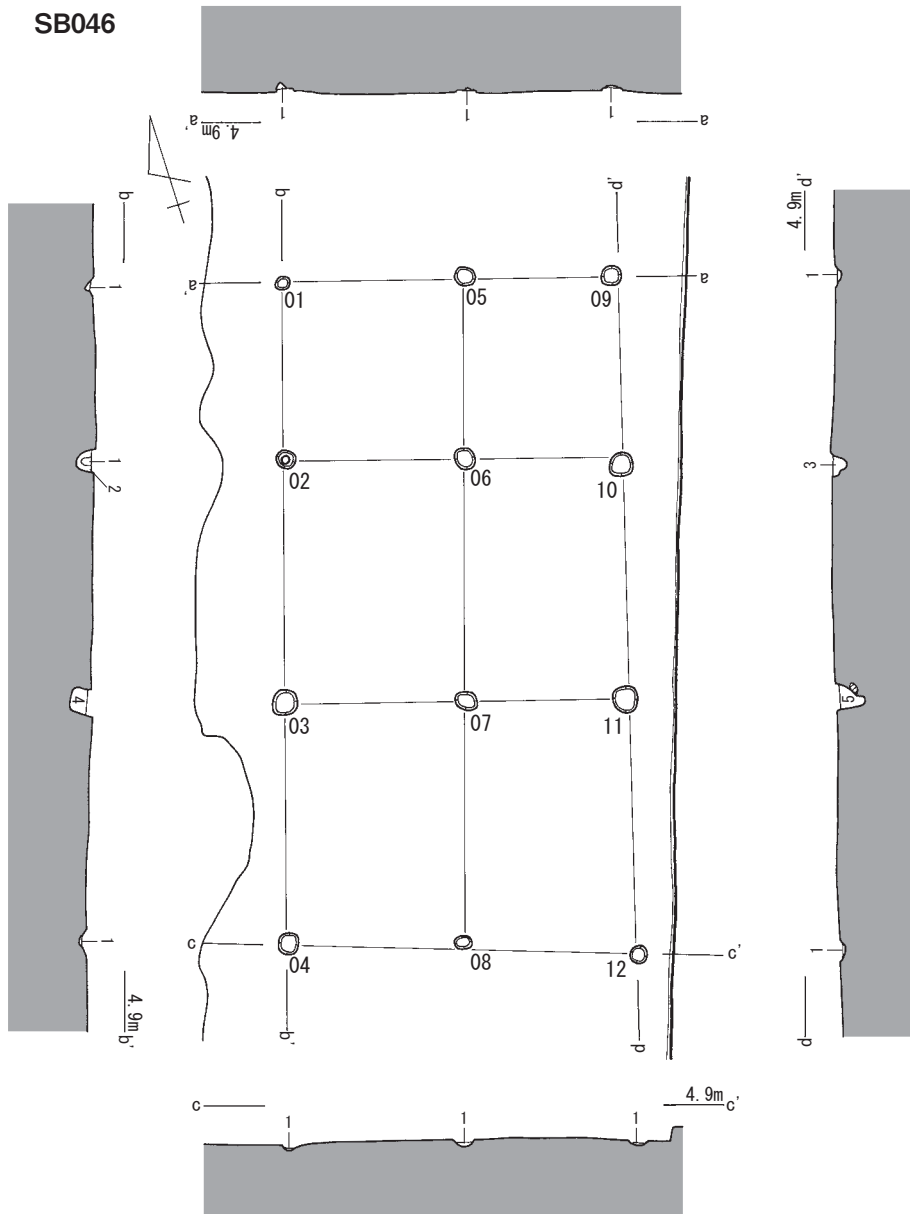


- | |
|---|
| 1. 灰黄 極細砂~細砂 |
| 2. 暗灰黄 極粗砂 |
| 3. 灰黄褐 極細砂質シルト |
| 4. 明黄灰 極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) |
| 5. にぶい黄 極細砂~細砂 (粗砂~極粗砂混じる) |
| 6. 暗灰黄 シルト質極細砂 (粗砂~極粗砂多量に混じる) |
| 7. 暗灰黄 極細砂質シルト (細礫混じる) |
| 8. 灰黄 極細砂~粗砂 |
| 9. 黄褐 細砂 |
| 10. 黄灰 極細砂質シルト |
| 11. 黄褐 中砂~粗砂 |
| 12. 黒褐 極細砂質シルト (極粗砂~粗砂混じる) |





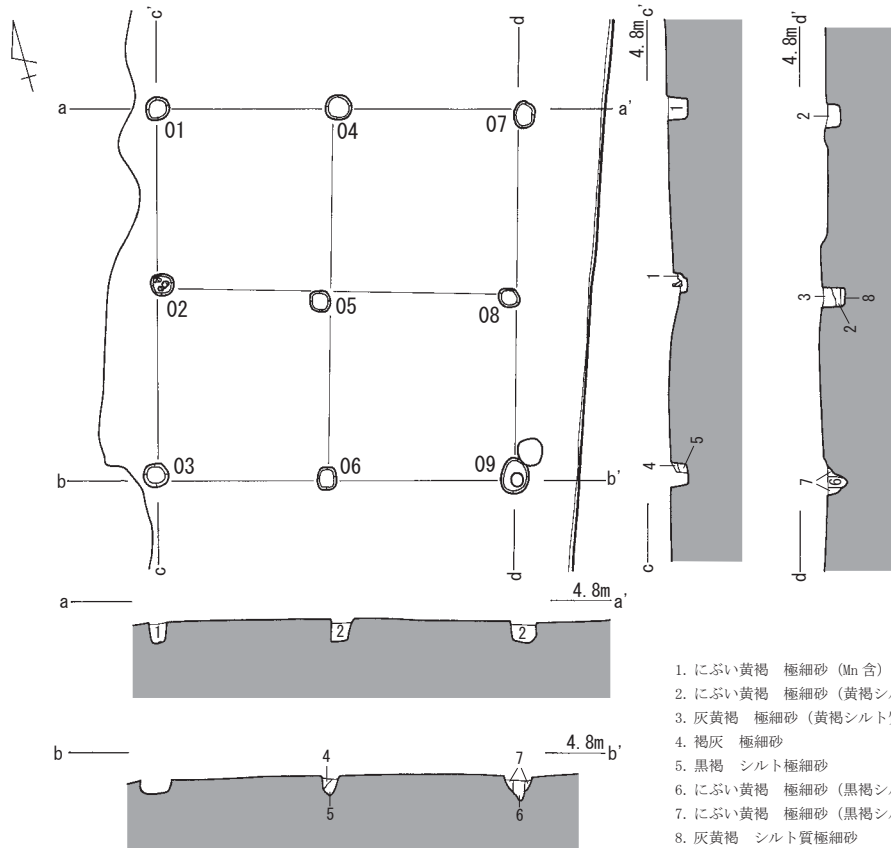
SB046



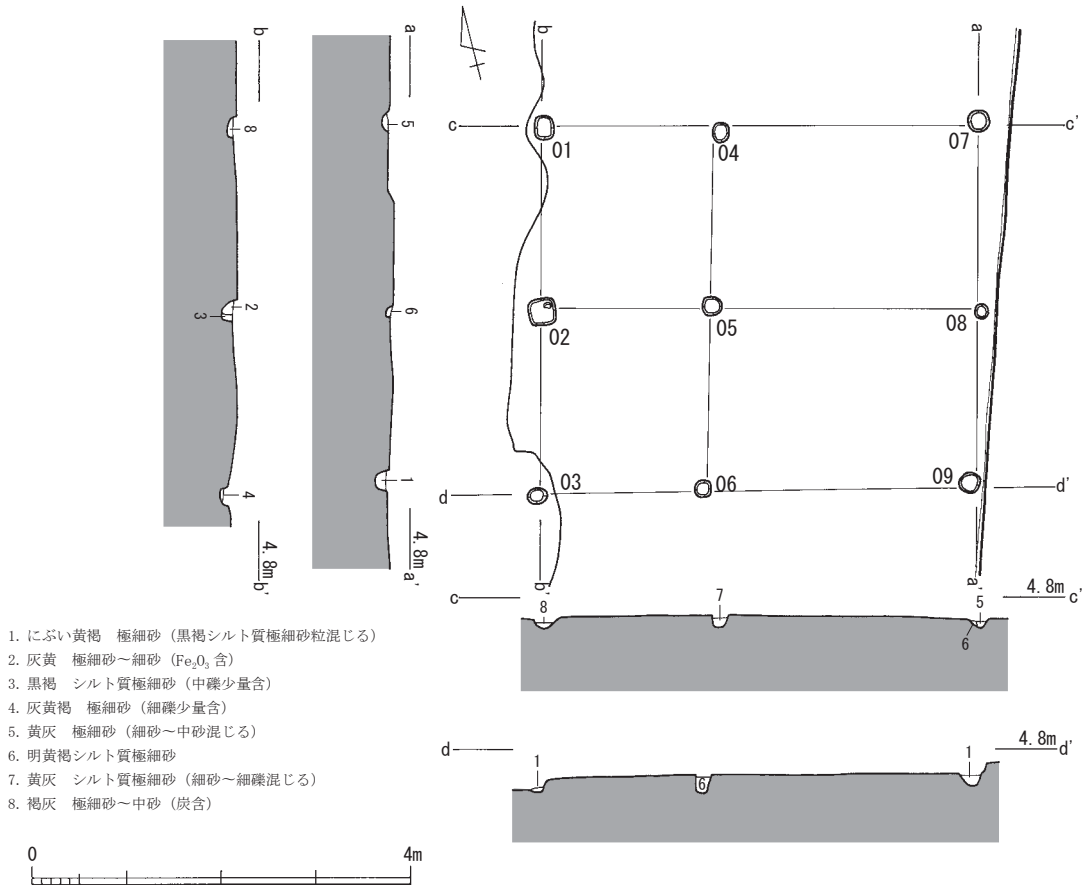
1. 褐灰 シルト質極細砂
2. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂
3. 黒褐 シルト質極細砂 (褐灰シルト質極細砂粒混じる)
4. 褐灰 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒混じる)
5. 褐灰 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒多量に混じる)



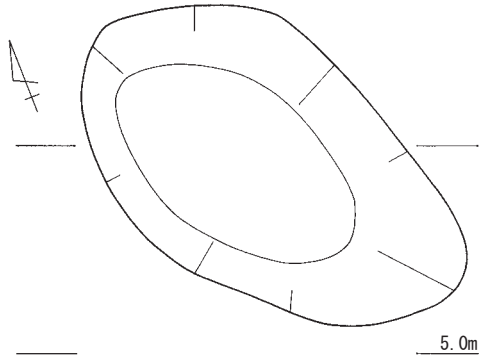
SB047



SB048

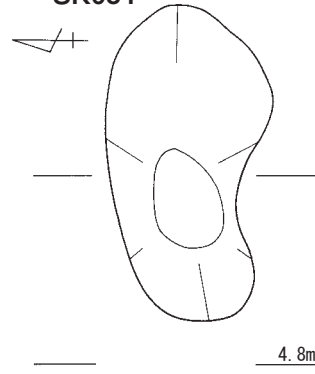


SK031



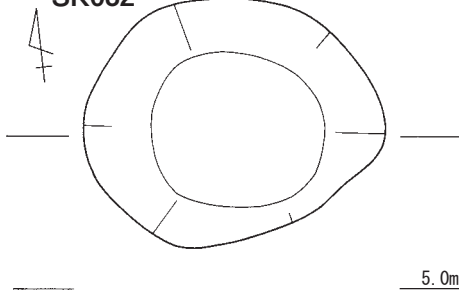
1. 黄褐 極細砂～細砂 (粗砂含)

SK034



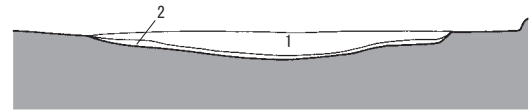
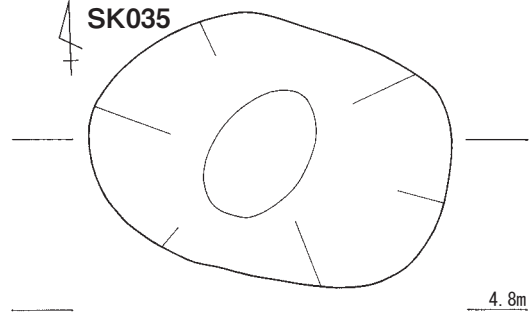
1. 黄褐 細砂

SK032



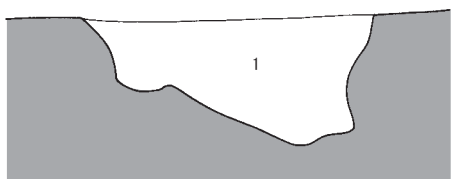
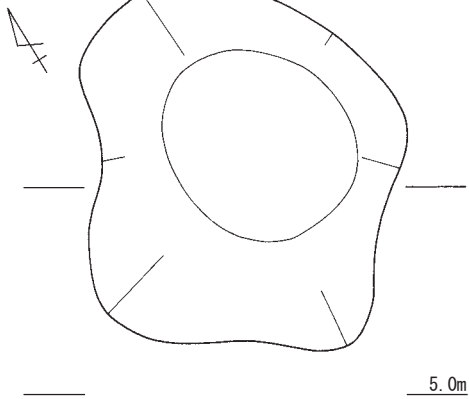
1. にぶい黄 極細砂～細砂 (粗砂含)

SK035



1. 暗灰黄 極細砂 (Mn 含)
2. 黒炭

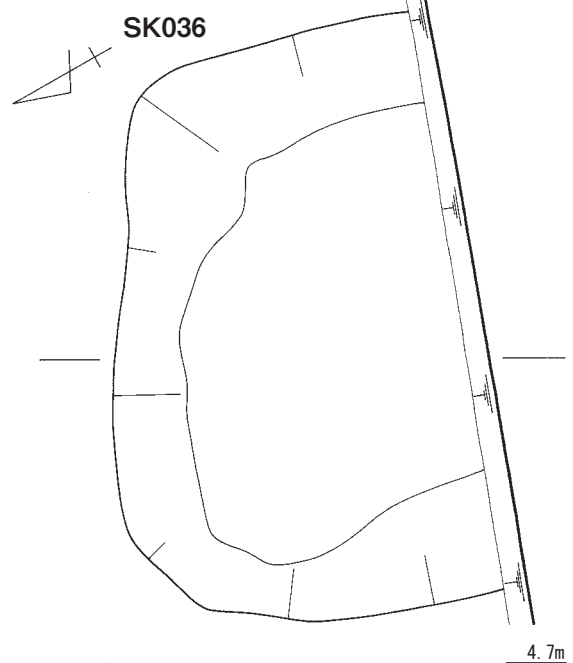
SK033



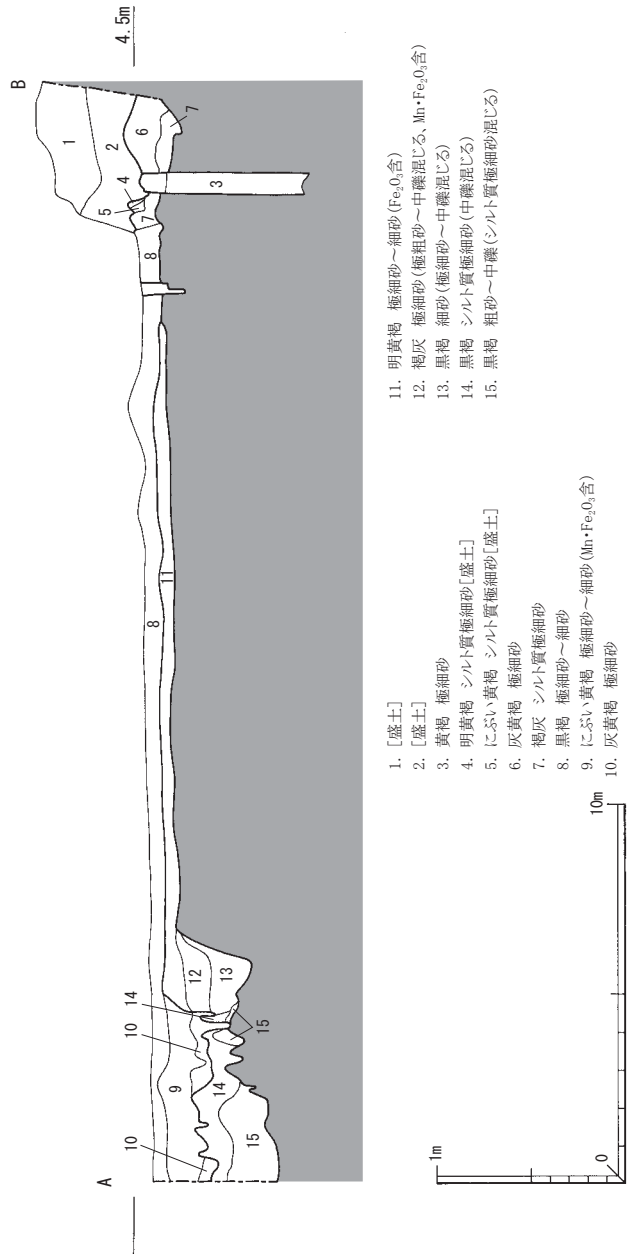
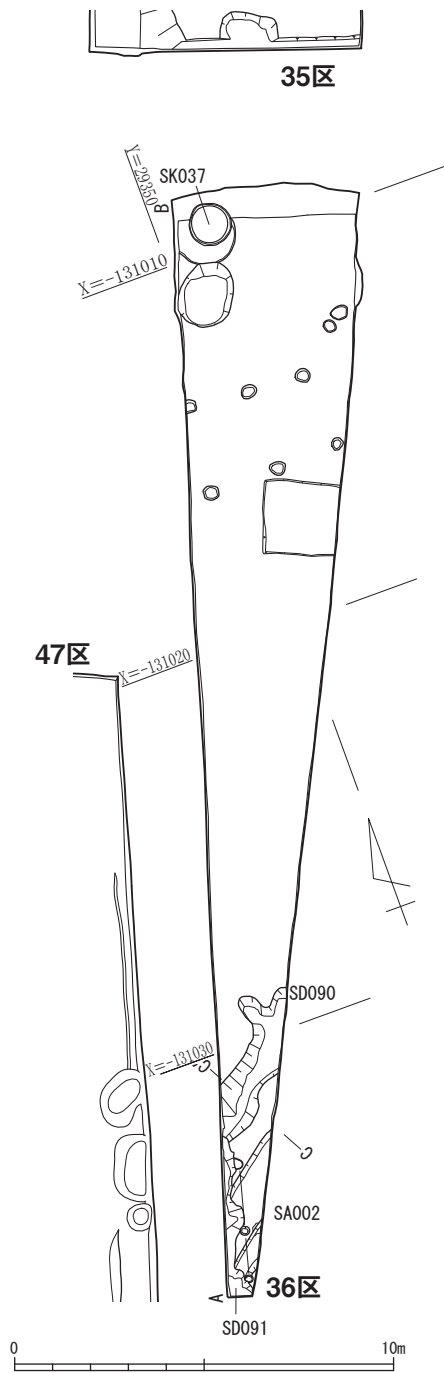
1. 黄褐と暗灰 シルト質極細砂の互層



SK036

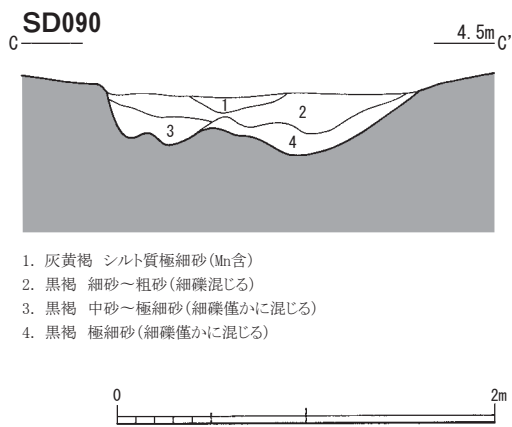


1. 灰黄 極細砂 (明黄灰粒 [基盤層] 混)

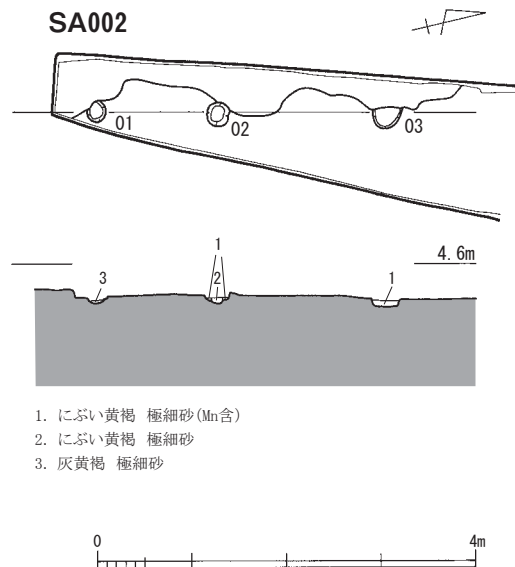


- 11. 明黄褐 極細砂～細砂 (Fe₂O₃含)
- 12. 褐灰 極細砂(極粗砂～中礫混じる, Mn・Fe₂O₃含)
- 13. 黒褐 細砂(極細砂～中礫混じる)
- 14. 黒褐 シルト質極細砂(中礫混じる)
- 15. 黒褐 粗砂～中礫(シルト質極細砂混じる)

- 1. [盛土]
- 2. [盛土]
- 3. 黄褐 極細砂
- 4. 明黄褐 シルト質極細砂[盛土]
- 5. にぶい黄褐 シルト質極細砂[盛土]
- 6. 灰黄褐 極細砂
- 7. 褐灰 シルト質極細砂
- 8. 黒褐 極細砂～細砂
- 9. にぶい黄褐 極細砂～細砂 (Mn・Fe₂O₃含)
- 10. 灰黄褐 極細砂



- 1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (Mn含)
- 2. 黒褐 細砂～粗砂 (細礫混じる)
- 3. 黒褐 中砂～極細砂 (細礫僅かに混じる)
- 4. 黒褐 極細砂 (細礫僅かに混じる)

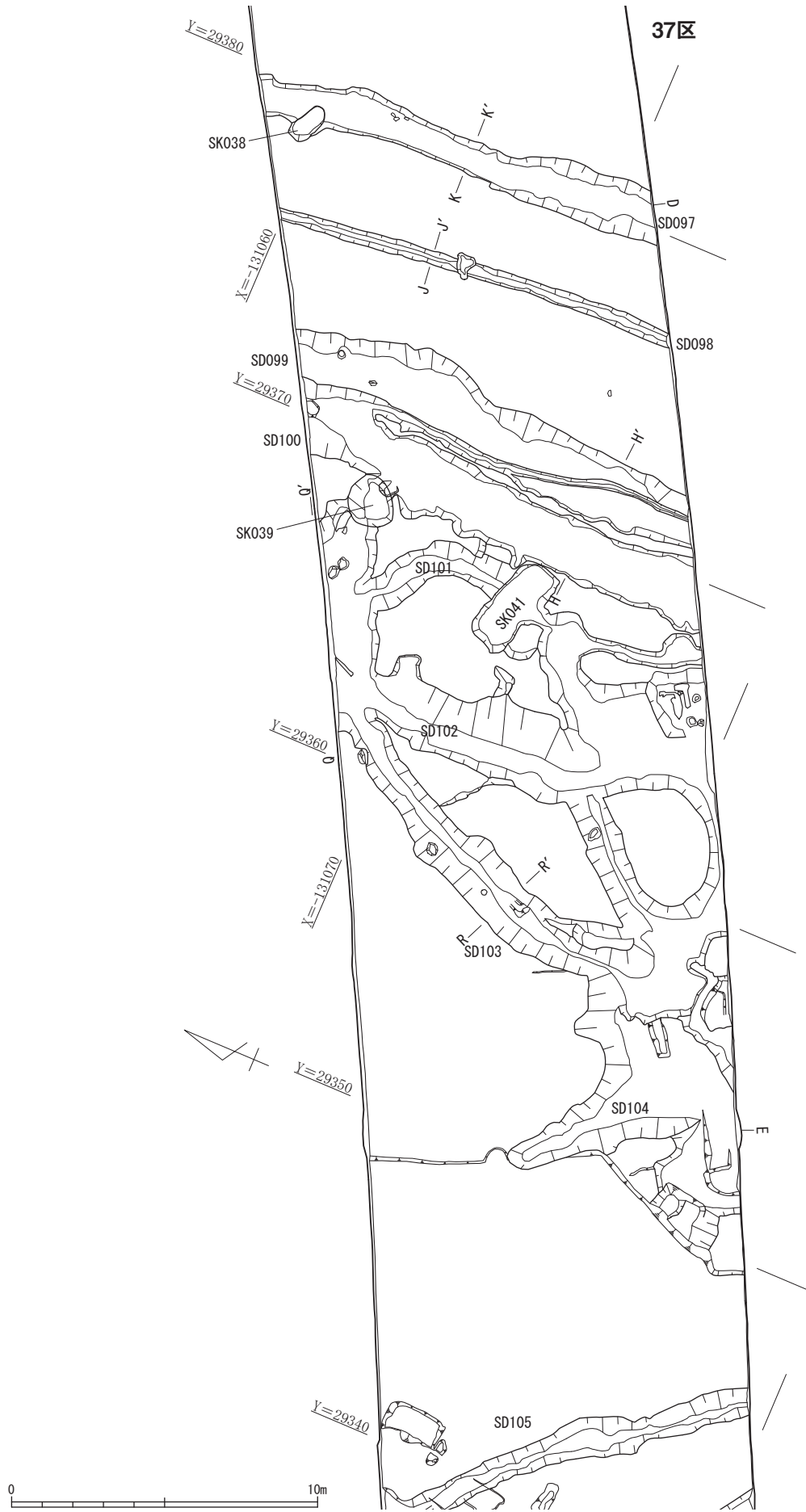


- 1. にぶい黄褐 極細砂 (Mn含)
- 2. にぶい黄褐 極細砂
- 3. 灰黄褐 極細砂

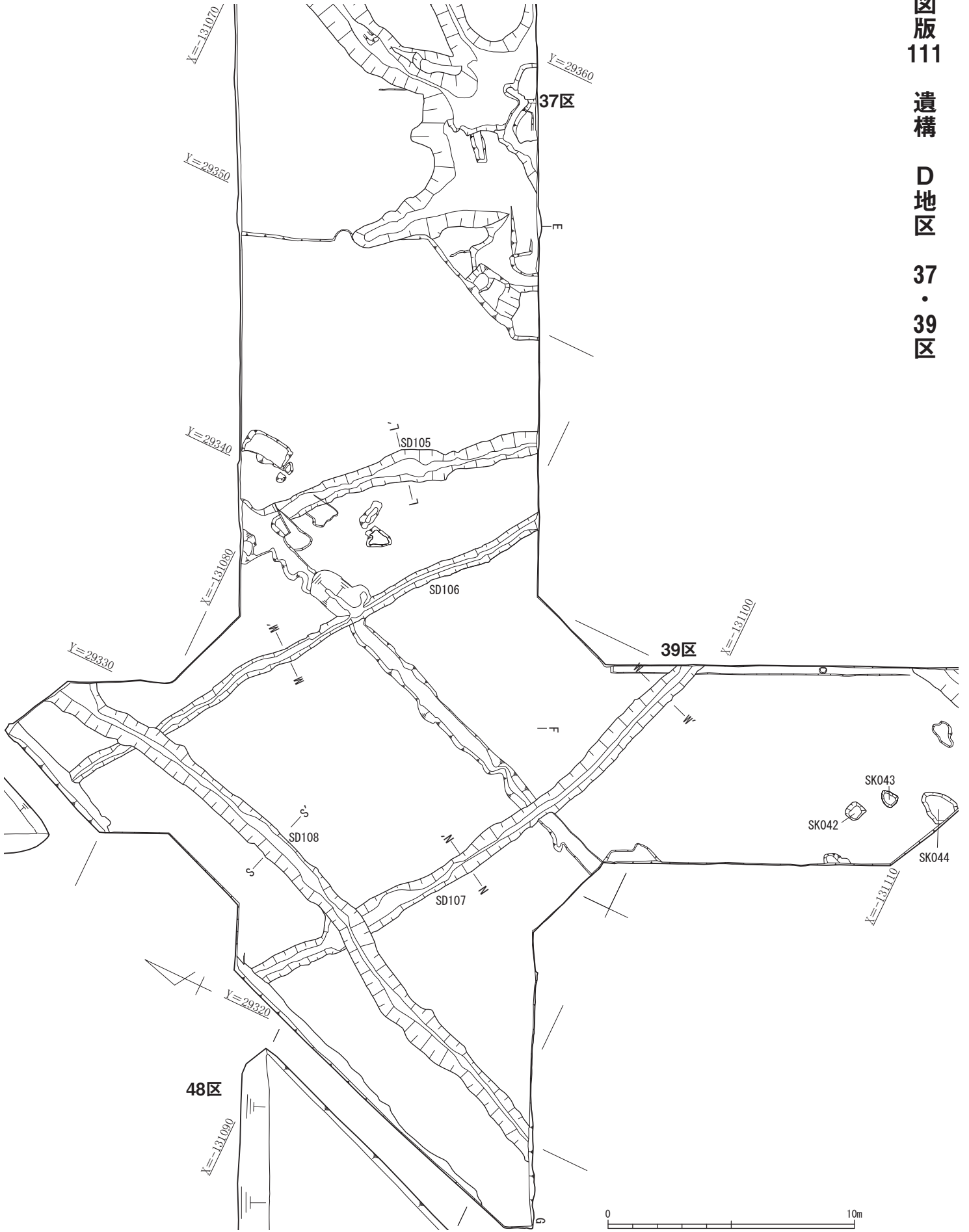
遺構配置 土層断面 溝 SD090 柵 SA002



東半部 下層・上層遺構配置

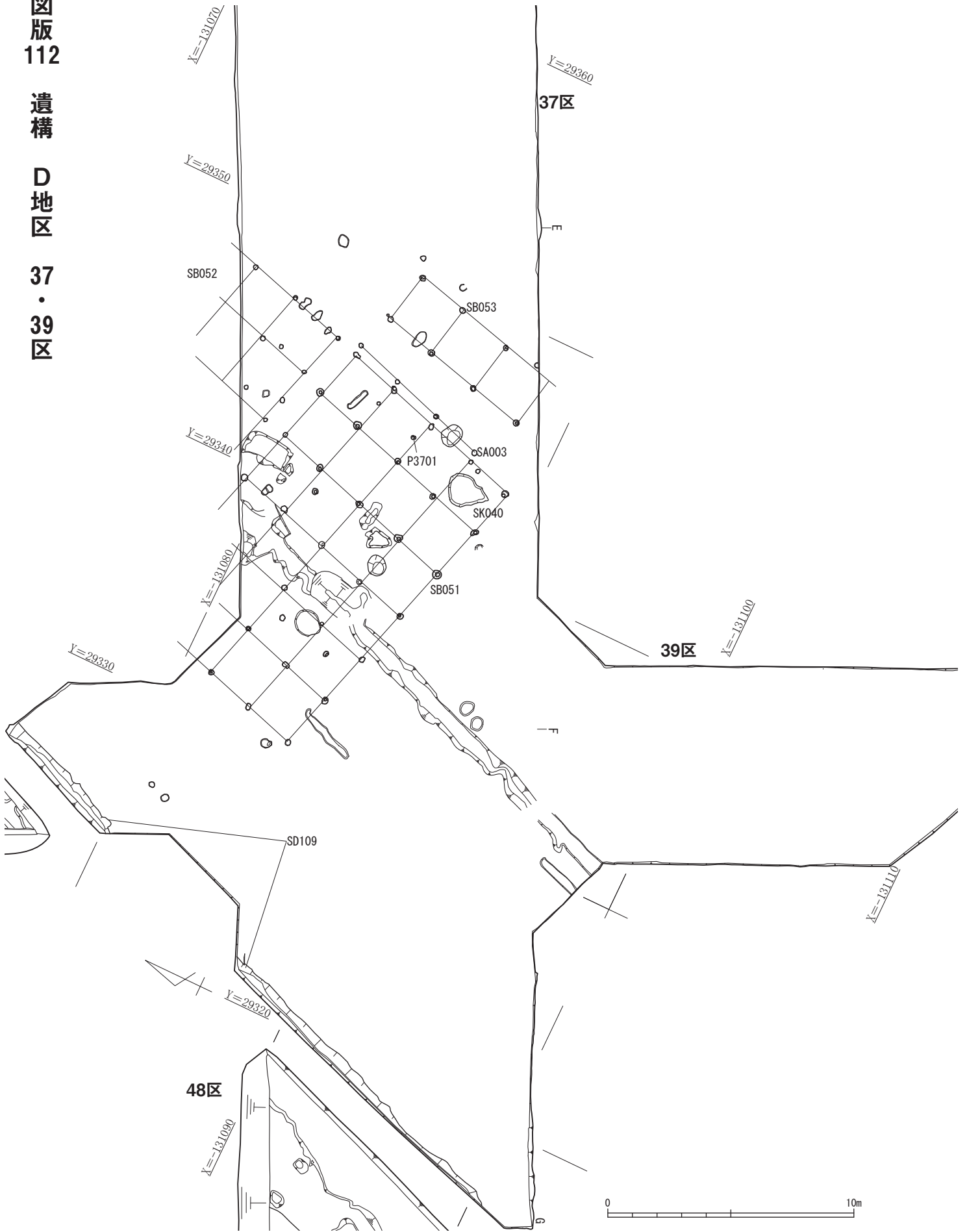


中央部 遺構配置

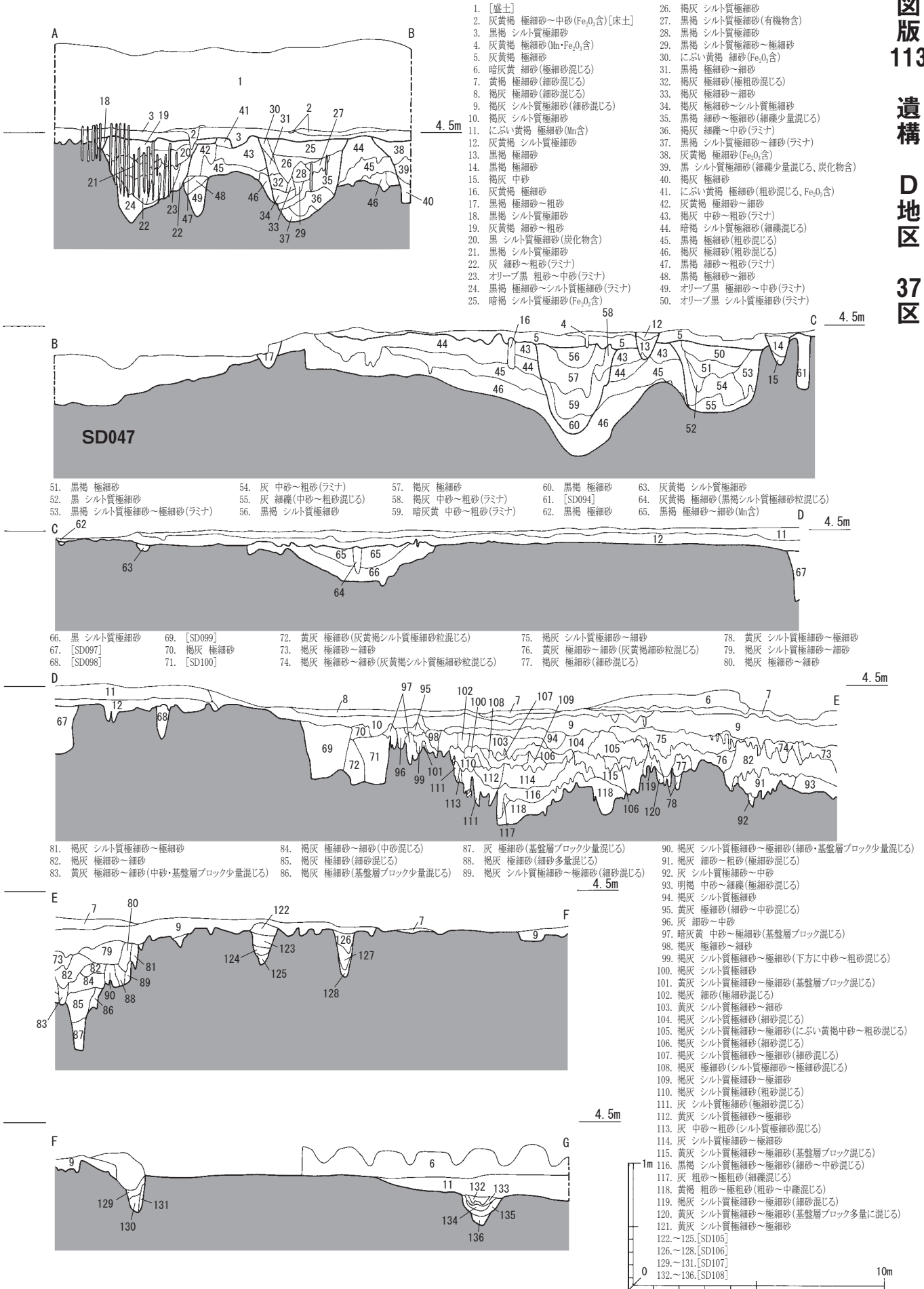


37区西半部・39区 下層遺構配置

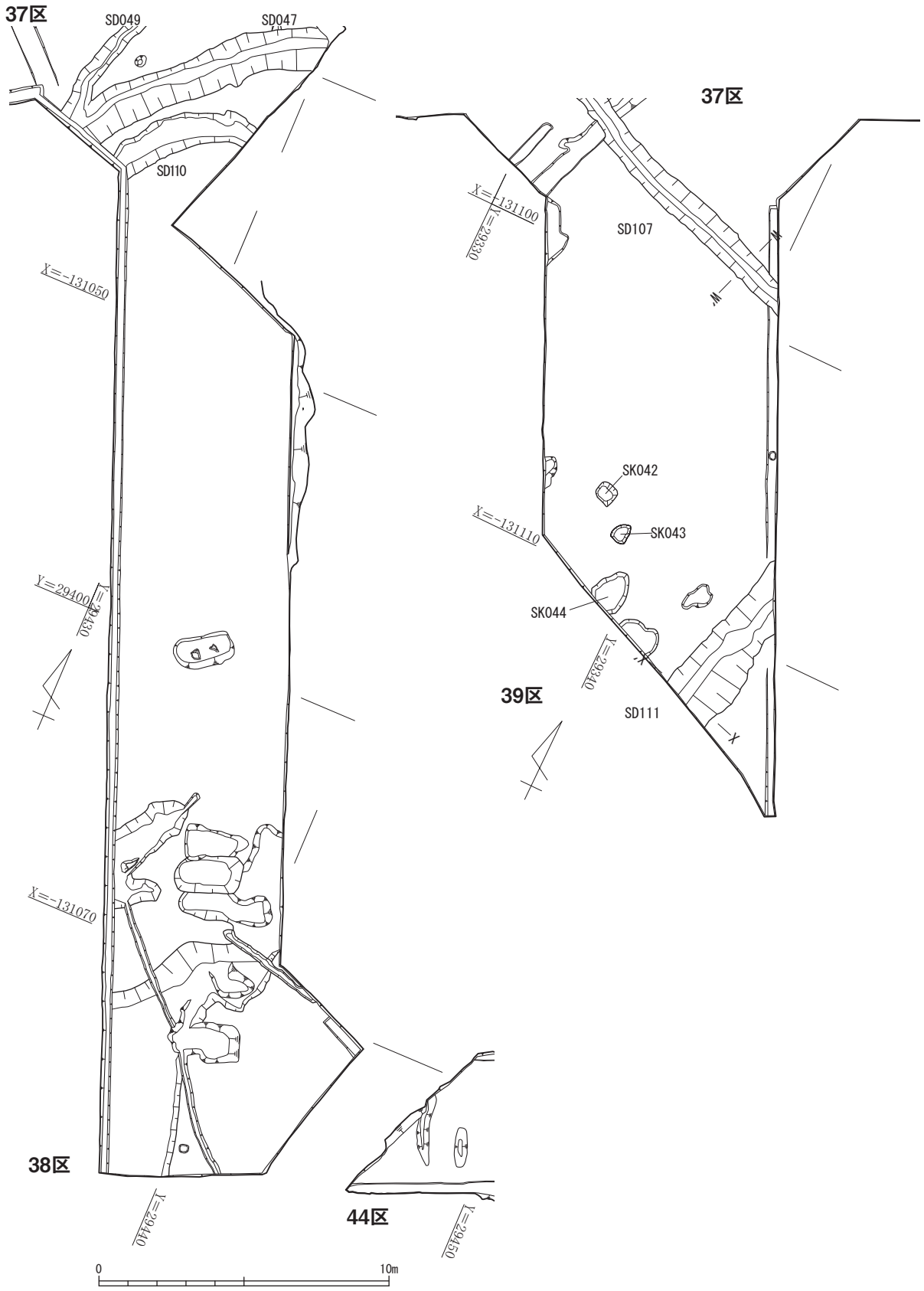
図版
112
遺構
D地区
37・39区



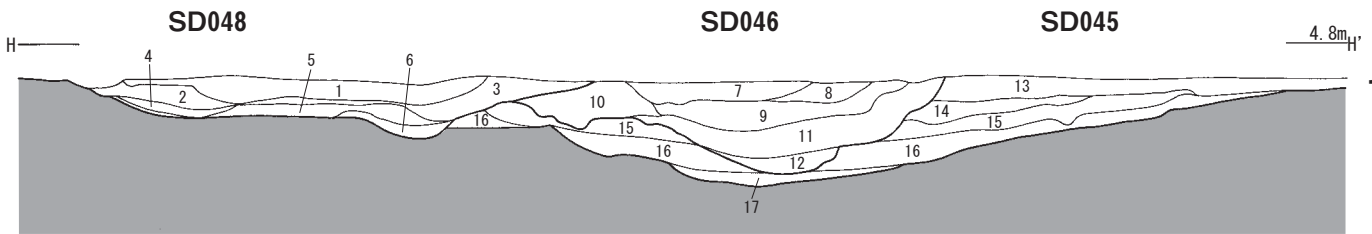
37区西半部・39区 上層遺構配置



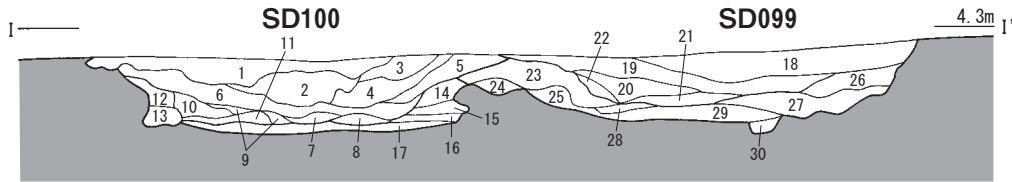
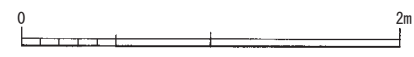
土層断面



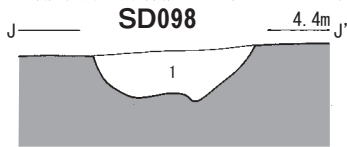
遺構配置



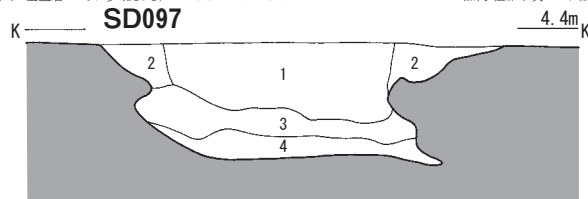
- 1. 褐灰 細砂～中砂
- 2. 灰黄褐 中砂～粗砂(細礫混じる)
- 3. 黄灰 細砂(ラミナ)
- 4. 黒褐 シルト質極細砂
- 5. 灰黄褐 中砂～細砂(ラミナ)
- 6. 黒褐 極細砂
- 7. 黒褐 極細砂
- 8. 黒褐 シルト質極細砂
- 9. 黒褐 中砂～細砂
- 10. 黒褐 極細砂～中砂
- 11. 褐灰 細砂～粗砂(ラミナ)
- 12. 黒 極細砂(シルト質極細砂混じる、ラミナ)
- 13. にぶい黄褐 細砂(Fe_2O_3 含)
- 14. 黒褐 シルト質極細砂
- 15. 黒 シルト質極細砂
- 16. 黒褐 シルト質極細砂
- 17. 灰黄褐 シルト質極細砂



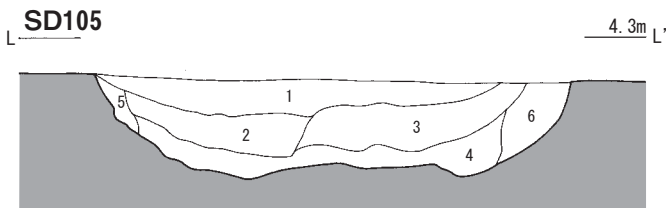
- 1. 褐灰 極細砂(細砂混じる)
- 2. 黒褐 細砂～中砂(極細砂・細礫混じる、炭化物含)
- 3. 黒褐 細砂(極細砂～細礫混じる)
- 4. 褐灰 極細砂～細砂(中礫少量混じる)
- 5. 褐灰 極細砂～細砂
- 6. 褐灰 極細砂
- 7. 黒褐 細砂～極細砂(中砂混じる)
- 8. 褐灰 中砂～粗砂(中礫混じる、ラミナ)
- 9. 褐灰 細砂～中砂(極細砂混じる、炭化物含)
- 10. 黒褐 極細砂
- 11. 黒褐 細砂～極細砂(中砂～細礫混じる)
- 12. 黄灰 極細砂(細砂・基盤層ブロック多く混じる)
- 13. 褐灰 極細砂(細砂・基盤層ブロック少量混じる)
- 14. 褐灰 極細砂(基盤層ブロック混じる)
- 15. 褐灰 極細砂(細砂混じる)
- 16. 褐灰 細砂～中砂
- 17. 褐灰 細砂～中砂(中礫多く混じる)
- 18. 褐灰 極細砂
- 19. 褐灰 細砂(中砂～粗砂混じる)
- 20. 褐灰 極細砂～細砂
- 21. 褐灰 細砂～中砂
- 22. 褐 細砂～細礫
- 23. 褐灰 極細砂～細砂
- 24. 褐灰 極細砂(基盤層ブロック混じる)
- 25. 黒褐 極細砂～細砂
- 26. 褐灰 極細砂(細砂混じる)
- 27. 黒褐 細砂～中砂(極細砂混じる、炭化物含)
- 28. 灰 細砂～中砂(極細砂質シルト混じる)
- 29. 黒褐 細砂～細礫(中礫多く混じる)
- 30. 黒褐 極細砂質シルト(炭化物含)



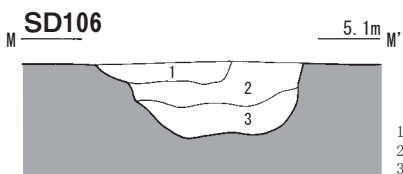
- 1. 黒褐 極細砂質シルト(粗砂～極細砂混じる)



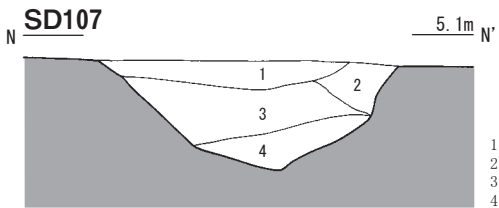
- 1. 黒褐 極細砂質シルト(細礫混じる)
- 2. 暗灰黄 極細砂質シルト
- 3. 黒褐 極細砂質シルト(ラミナ、細礫混じる)
- 4. 灰黄褐 極細砂質シルト(Fe_2O_3 含)



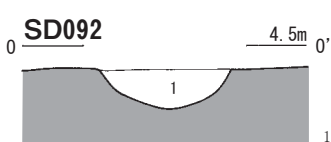
- 1. 灰黄褐 極細砂(粗砂～細礫混じる)
- 2. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂
- 3. 黒褐 極細砂(粗砂～細礫混じる)
- 4. 褐灰 極細砂
- 5. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂
- 6. にぶい黄褐 シルト質極細砂～極細砂(粗砂～細礫混じる)



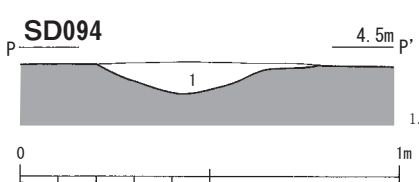
- 1. 暗灰黄 極細砂質シルト
- 2. 灰黄 極細砂質シルト
- 3. 黄褐 極細砂質シルト



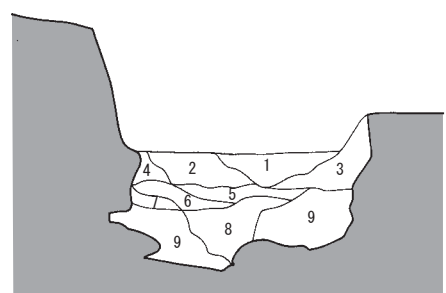
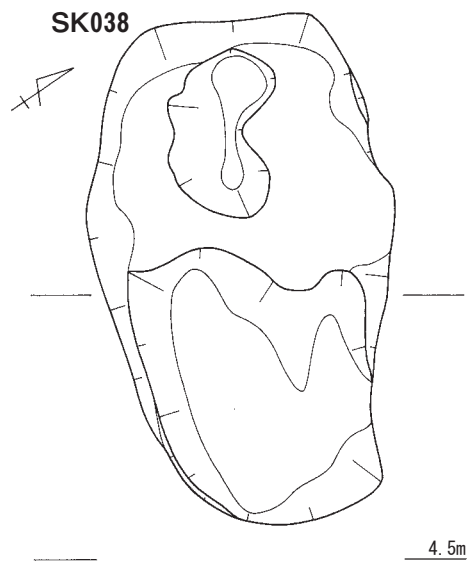
- 1. 暗灰黄 極細砂質シルト
- 2. にぶい黄 極細砂質シルト
- 3. オリーブ褐 極細砂質シルト
- 4. 暗灰黄 極細砂質シルト(細礫混じる)



- 1. 黒褐 細砂～極細砂(細礫多量に混じる)

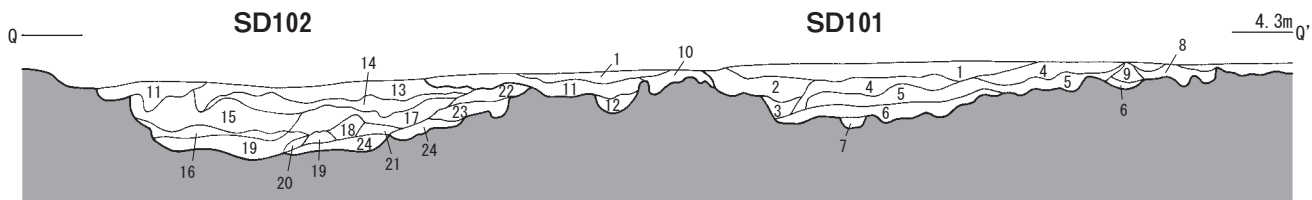


- 1. 暗灰黄 極細砂質シルト

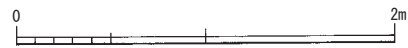


- 1. 灰黄褐 シルト質極細砂(基盤層ブロック混じる)
- 2. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂
- 3. オリーブ黒 シルト質極細砂
- 4. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂(基盤層ブロック混じる)
- 5. 灰 シルト質極細砂～極細砂
- 6. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂
- 7. にぶい黄 シルト質極細砂～極細砂
- 8. 黒 極細砂
- 9. 黒 シルト質極細砂

溝 SD045・SD046・SD048・SD092・SD094・SD097～SD100・SD105～SD107 土層断面 土坑 SK038

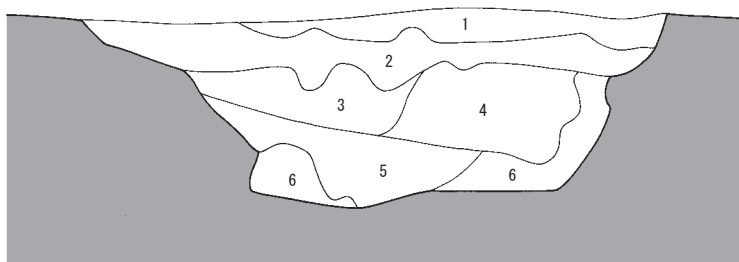


- | | | | |
|----------------------|---------------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 褐灰 極細砂(細砂混じる) | 9. 黄灰 細砂 | 17. 褐灰 細砂～極細砂(ラミナ) | 21. 明褐 極細砂～細礫(ラミナ) |
| 2. 褐灰 細砂(極細砂混じる) | 10. 黄灰 細砂～中砂 | 18. 褐灰 細砂～極細砂 | 22. 褐灰 極細砂(細砂混じる) |
| 3. 褐灰 細砂～中砂(極細砂混じる) | 11. 褐灰 シルト質極細砂(細砂～極細砂混じる) | 19. 明黄褐 中砂～細礫 | 23. 黄灰 中砂～細礫(ラミナ) |
| 4. 黄灰 シルト質極細砂(細砂混じる) | 12. 黄灰 極細砂(基盤層ブロック混じる) | 20. 黄灰 シルト質極細砂 | 24. 明褐 粗砂～中礫 |
| 5. 褐灰 極細砂～細砂(ラミナ) | 13. 灰黄褐 細砂～粗砂(ラミナ) | | |
| 6. 灰 細砂～中砂 | 14. 褐灰 極細砂(細砂混じる) | | |
| 7. 黄褐 中砂～粗砂(細礫混じる) | 15. 黄灰 極細砂(基盤層ブロック混じる) | | |
| 8. 黄灰 中砂～極細砂 | 16. 褐灰 シルト質極細砂 | | |



SD103

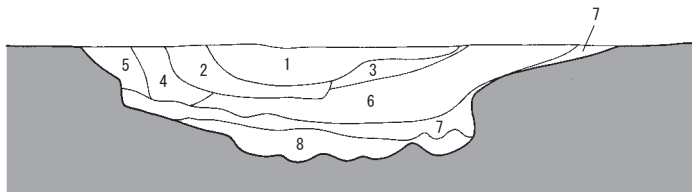
R 4.3m R'



1. 灰黄褐 極細砂
2. 褐灰 極細砂(粗砂混じる)
3. 黄灰 シルト質極細砂
4. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂
5. 灰黄褐 シルト質極細砂～粗砂(ラミナ)
6. 褐灰 シルト質極細砂(基盤層ブロック混じる)

SD108

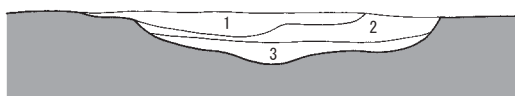
S 4.2m S'



1. 暗黄 極細砂質シルト(粗砂～極細砂混じる)
2. 黒褐 シルト質極細砂(ラミナ)
3. 暗黄 極細砂～細砂
4. 黒褐 シルト質極細砂
5. 灰黄 シルト質極細砂(基盤層ブロック混じる)
6. 灰黄褐 シルト質極細砂～中砂(ラミナ)
7. 暗褐 シルト質極細砂～細砂(ラミナ)
8. 灰黄褐 中砂～粗砂

SD093

T 4.6m T'



1. 灰黄褐 シルト質極細砂(Mn含)
2. 黒褐 極細砂
3. にぶい黄褐 細礫～中砂(ラミナ、Fe₂O₃含)

SD096

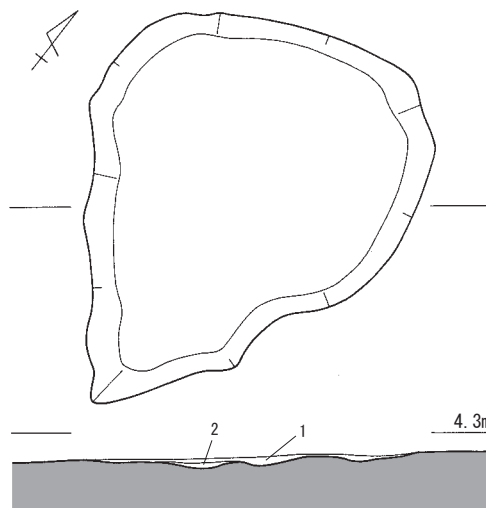
U 4.5m U'



1. 黄褐 極細砂～細砂(ラミナ、中砂～粗砂混じる)

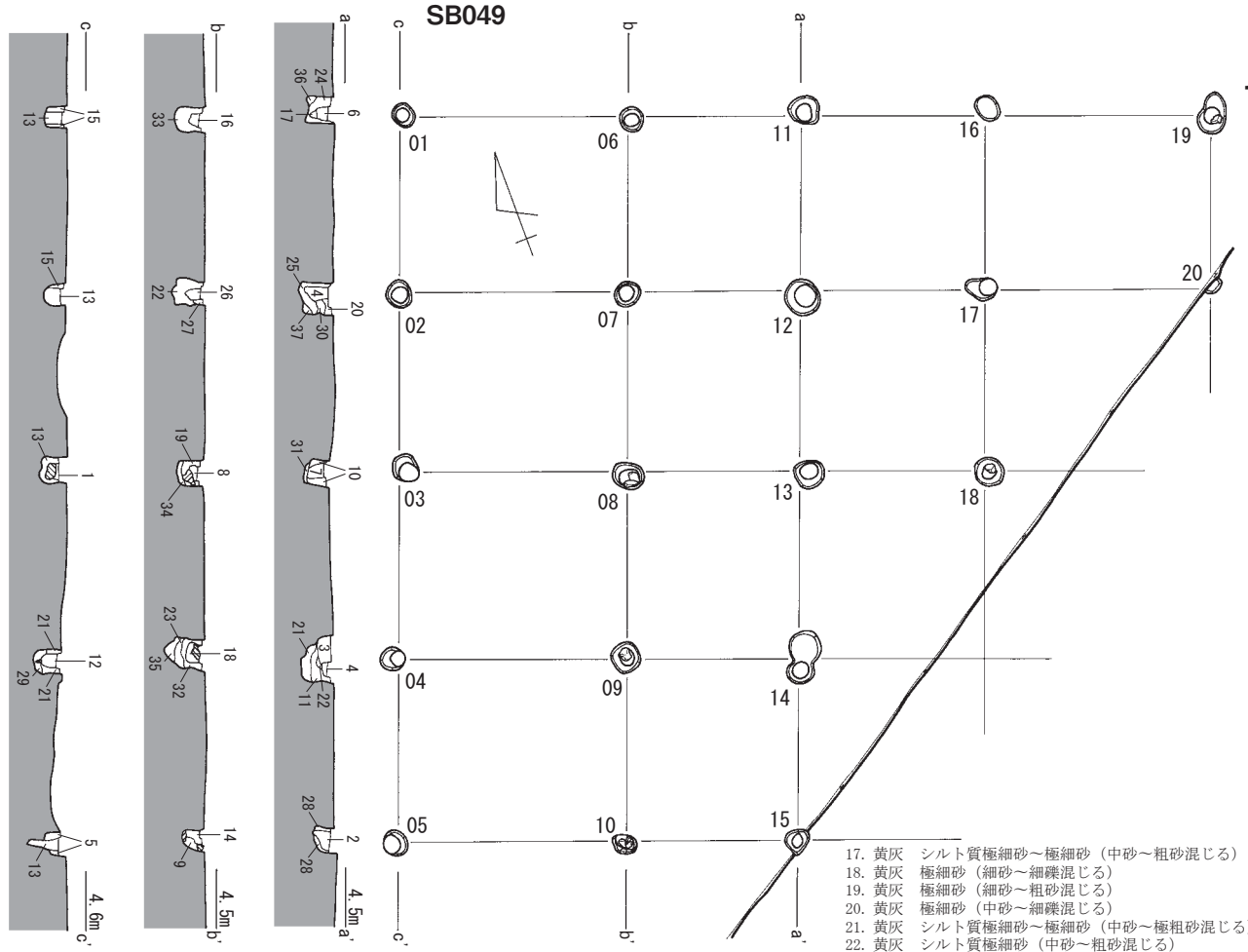


SK040



1. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂(炭含)
2. 黒 シルト質極細砂(炭含)

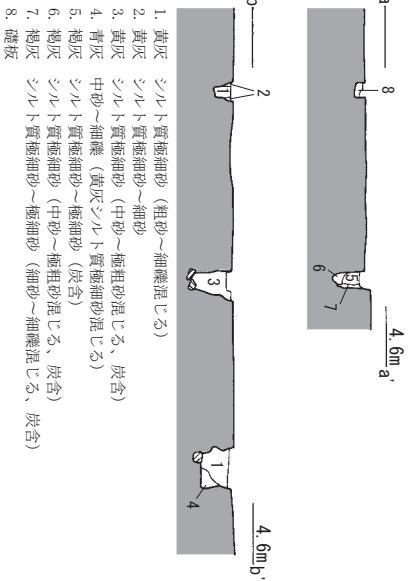




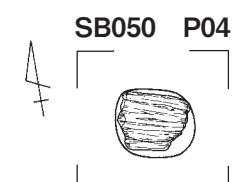
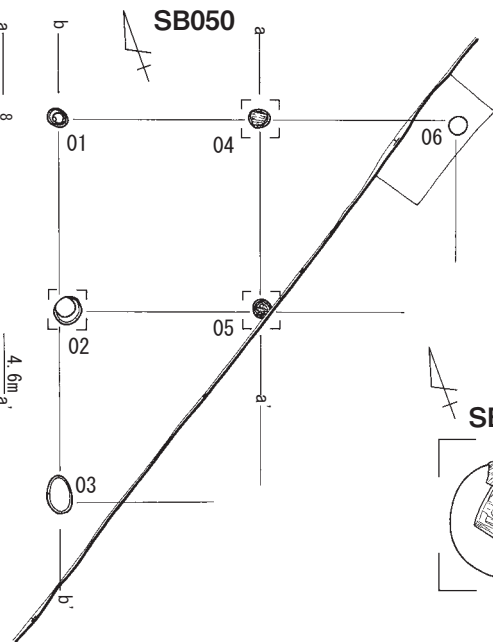
- 1. 灰 シルト質極細砂 (細砂混じる)
- 2. 灰 シルト質極細砂 (細砂～極粗砂混じる、炭含)
- 3. 灰 極細砂
- 4. 灰 シルト質極細砂 (中砂～粗砂混じる、炭含)
- 5. 灰 シルト質極細砂～中砂 (炭含)
- 6. 褐灰 シルト質極細砂～細砂 (黒シルト質極細砂粒混じる)
- 7. 褐灰 極細砂～細砂 (中砂～極粗砂混じる、炭含)
- 8. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂～粗砂混じる)

- 9. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂～細礫混じる)
- 10. 褐灰 シルト質極細砂～細砂
- 11. 褐灰 シルト質極細砂
- 12. 黄灰 シルト質極細砂～細砂
- 13. 黄灰 シルト質極細砂 (炭含)
- 14. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (中砂～細礫混じる)
- 15. 黄灰 極細砂～細砂
- 16. 黄灰 シルト質極細砂 (黒シルト質極細砂粒混じる)

- 17. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (中砂～粗砂混じる)
- 18. 黄灰 極細砂 (細砂～細礫混じる)
- 19. 黄灰 極細砂 (細砂～粗砂混じる)
- 20. 黄灰 極細砂 (中砂～細礫混じる)
- 21. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (中砂～粗砂混じる)
- 22. 黄灰 シルト質極細砂 (中砂～粗砂混じる)
- 23. 黄灰 シルト質極細砂 (中砂～細砂混じる)
- 24. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂
- 25. 黄灰 極細砂～細砂 (細礫混じる)
- 26. 黒褐 シルト質極細砂～細砂 (中砂混じる、炭含)
- 27. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂
- 28. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (中砂混じる)
- 29. 黒褐 シルト質極細砂 (緑灰シルト質極細砂粒混じる)
- 30. 黒褐 極細砂～細砂 (中砂～細礫・黄灰シルト質極細砂混じる)
- 31. 黒褐 シルト質極細砂
- 32. 黒 シルト質極細砂 (中砂混じる)
- 33. 黒 シルト質極細砂
- 34. 黒 シルト質極細砂 (中砂～細砂混じる)
- 35. 黒 シルト質極細砂 (細砂～極粗砂混じる)
- 36. 黒 シルト質極細砂 (褐灰シルト質極細砂混じる)
- 37. 黒 細砂～極粗砂 (黒シルト質極細砂粒混じる)

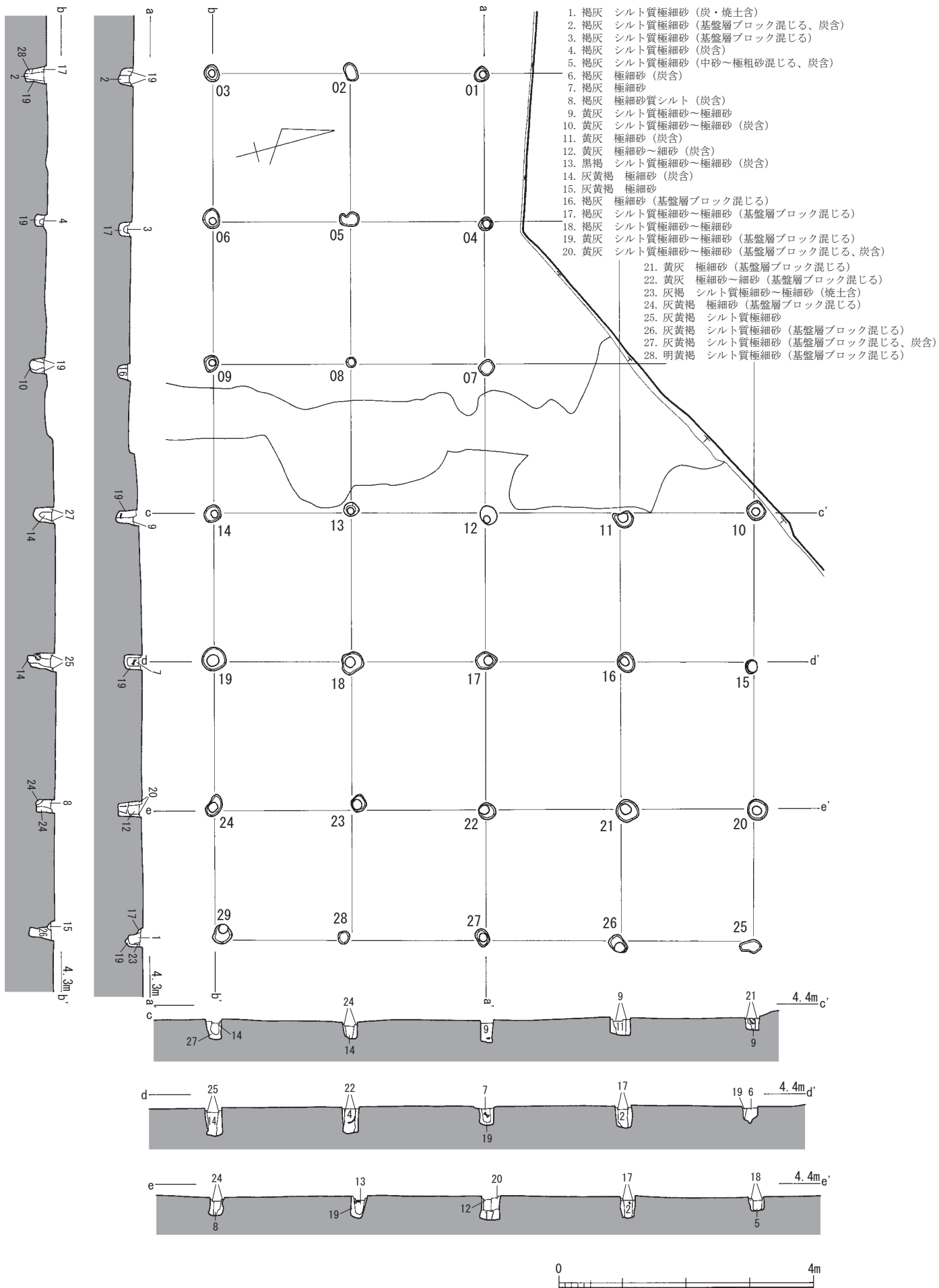


- 1. 黄灰 シルト質極細砂 (粗砂～細礫混じる)
- 2. 黄灰 シルト質極細砂～細砂
- 3. 黄灰 シルト質極細砂 (中砂～極粗砂混じる、炭含)
- 4. 青灰 中砂～細礫 (黄灰シルト質極細砂混じる)
- 5. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
- 6. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂～極粗砂混じる、炭含)
- 7. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (細砂～細礫混じる、炭含)
- 8. 礎板

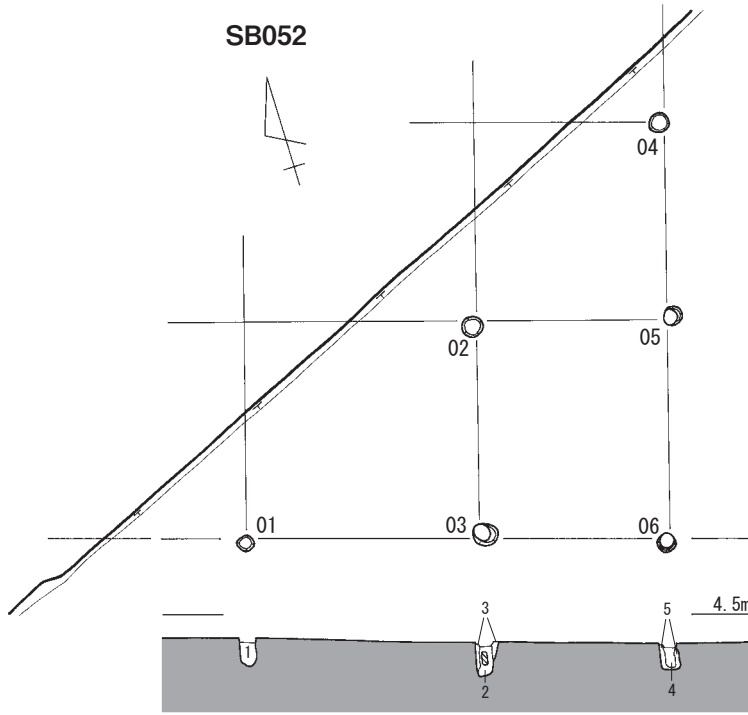


掘立柱建物 SB049・SB050

SB051

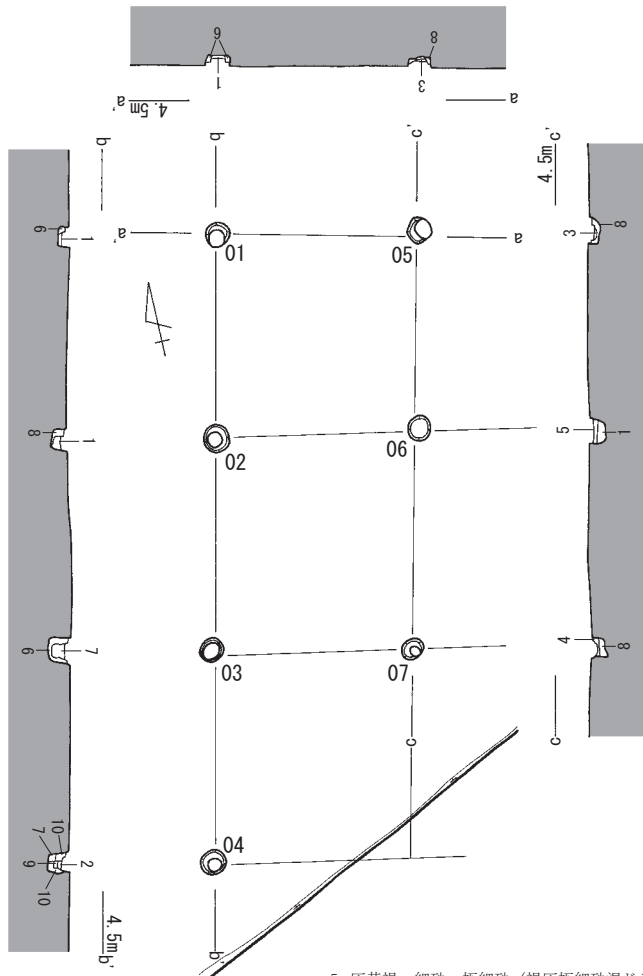


掘立柱建物 SB051



1. 灰黄褐 シルト質極細砂～極細砂 (炭片・灰含)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (木片含)
3. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂
4. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (炭片含)
5. 褐灰 極細砂 (炭片含)

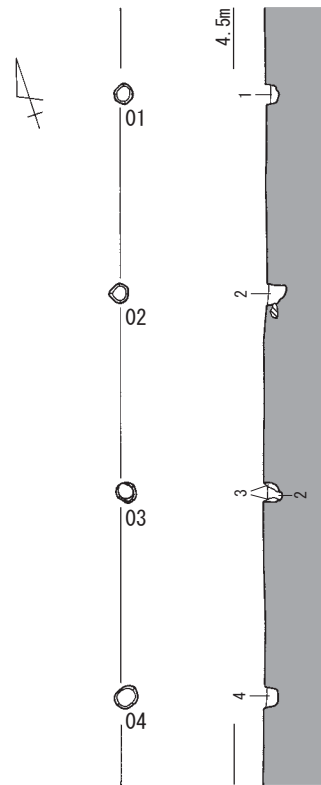
SB053



1. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
2. 褐灰 極細砂
3. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂
4. にぶい黄褐 細砂～極細砂

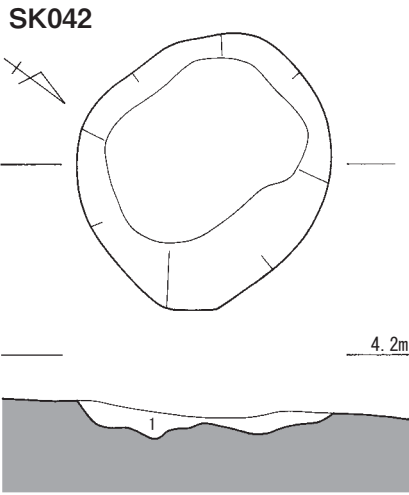
5. 灰黄褐 細砂～極細砂 (褐灰極細砂混じる)
6. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (基盤層ブロック混じる)
7. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
8. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂
9. 黄灰 シルト質極細砂 (基盤層ブロック混じる)
10. 黄灰 極細砂 (基盤層ブロック混じる)

SA003

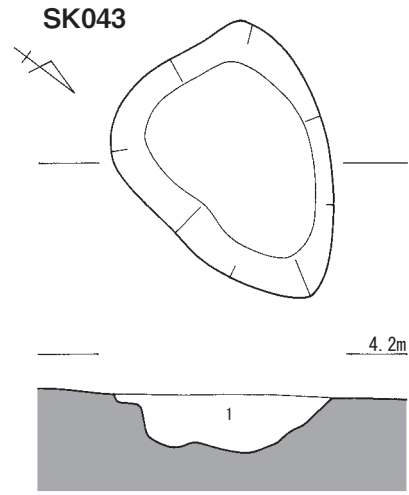


1. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (灰黄褐シルト質極細砂ブロック混じる)
2. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (基盤層ブロック・炭混じる)
3. 黄灰 極細砂 (シルト質極細砂・基盤層ブロック混じる)
4. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (基盤層ブロック混じる)

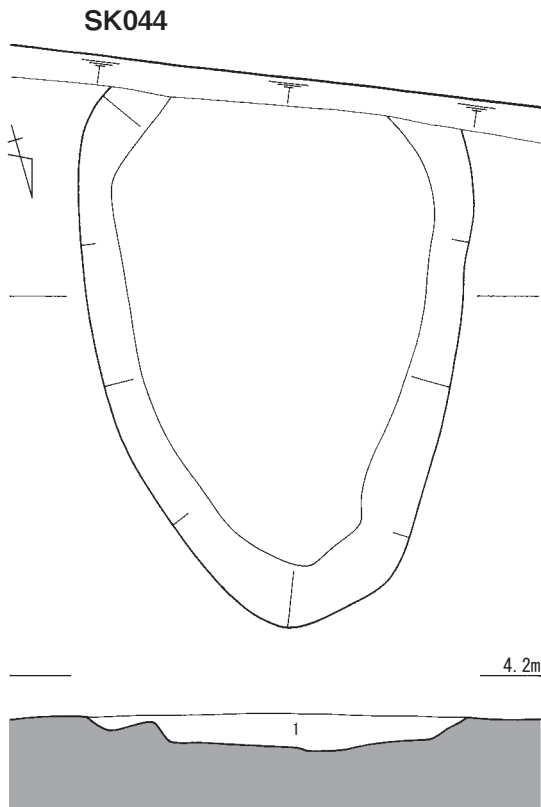




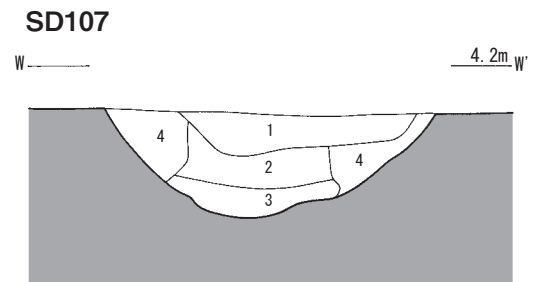
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (基盤層の細礫少量混じる)



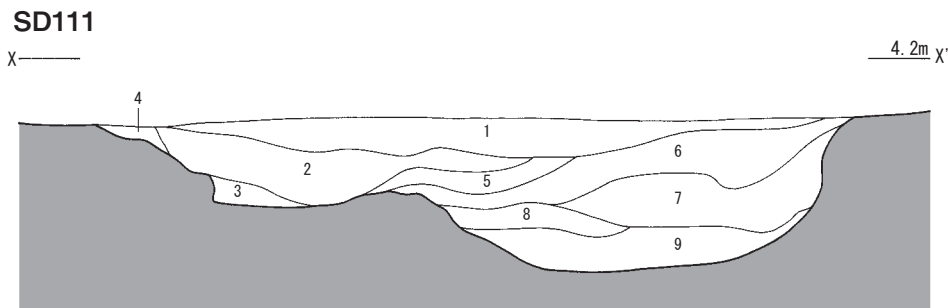
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (基盤層の細礫少量混じる)



1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (基盤層の細礫少量混じる)

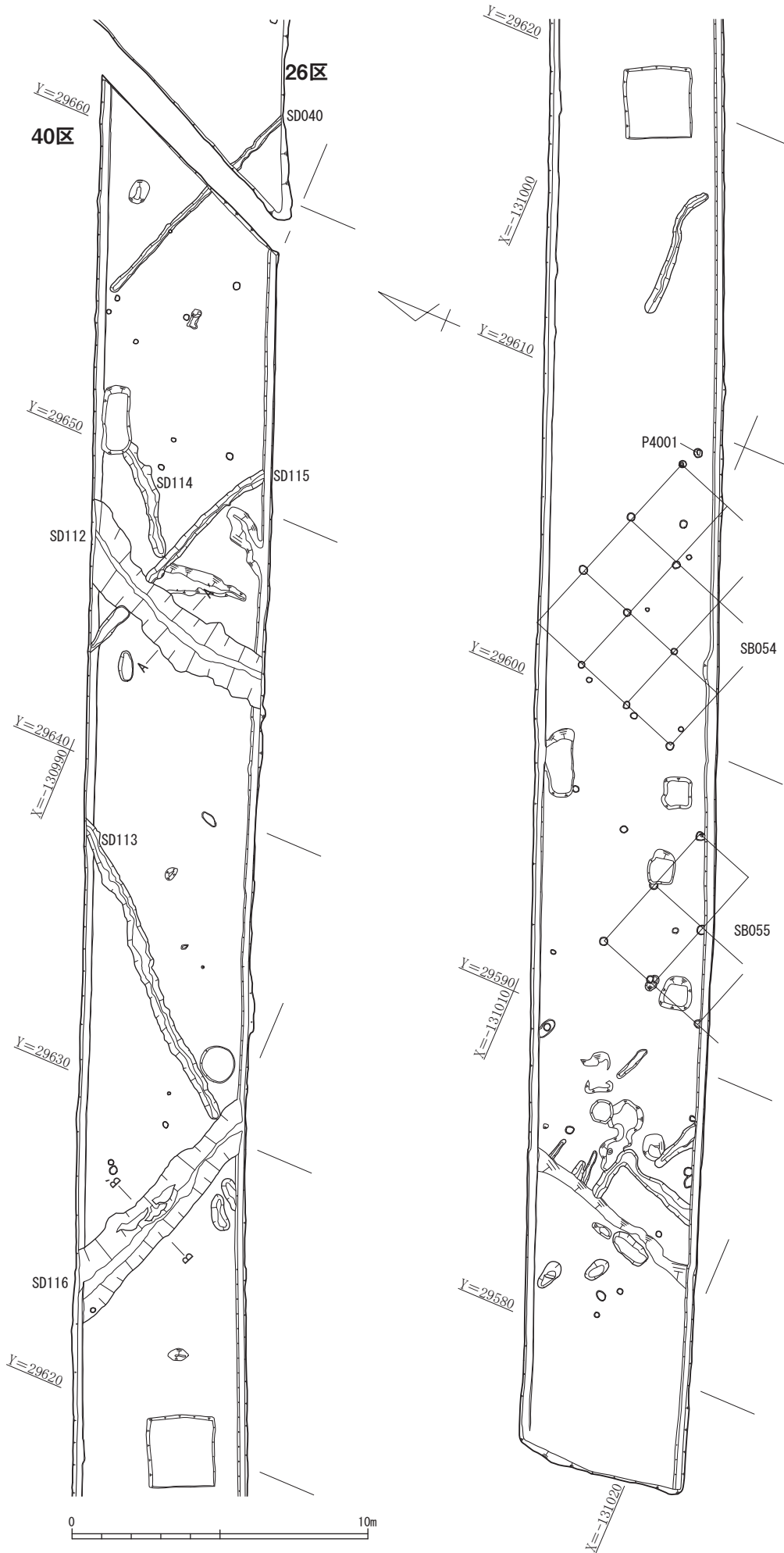


1. にぶい黄褐 極細砂 (Mn 含)
2. にぶい黄褐 シルト質極細砂 (明黄褐シルト質極細砂粒混じる)
3. 褐 極細砂～細砂 (Fe₂O₃ 含)
4. 明黄褐 シルト質極細砂 (基盤層ブロック混じる)



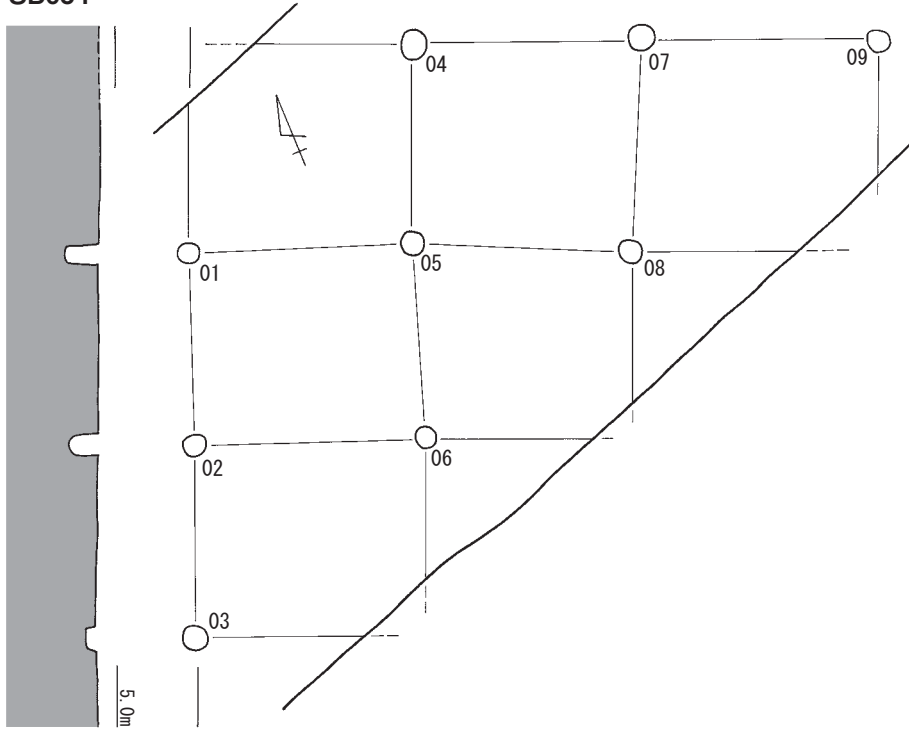
1. 褐 極細砂 (Mn・Fe₂O₃ 含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂 (Mn 含)
3. 灰黄褐 極細砂
4. 黄褐 細砂
5. 灰黄褐 極細砂～細砂
6. 灰黄褐 中砂～極細砂
7. 黒褐 シルト質極細砂 (Mn 含)
8. 黄褐 シルト質極細砂～細砂 (細礫混じる、Fe₂O₃ 含)
9. 褐 中砂～細礫 (Fe₂O₃ 含)



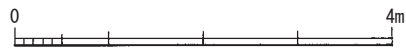
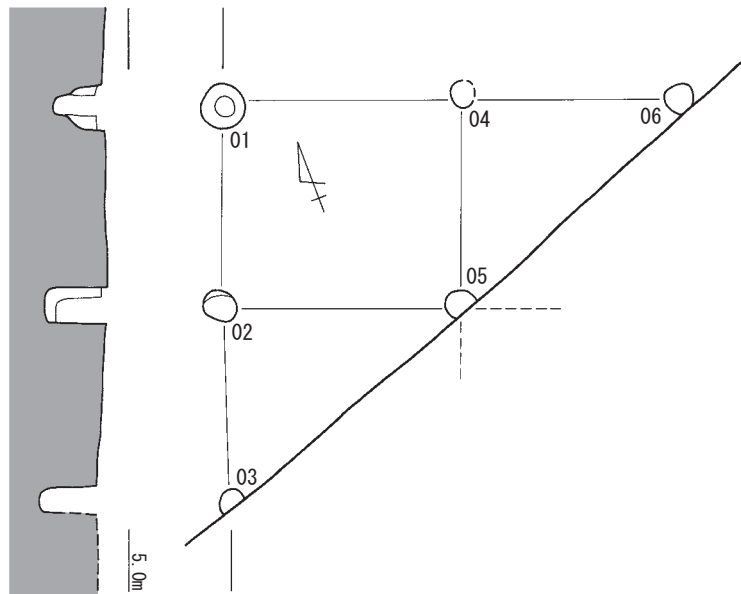


遺構配置

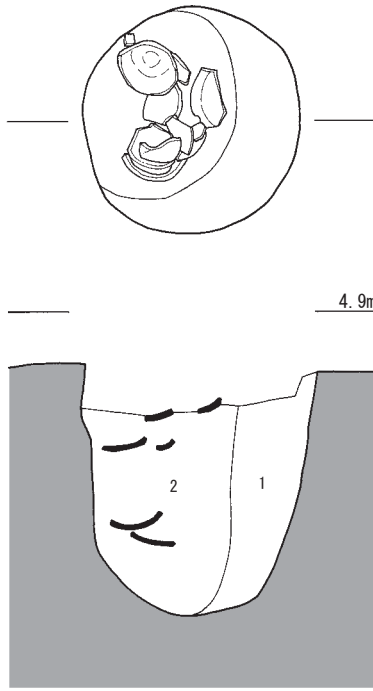
SB054



SB055



P4001

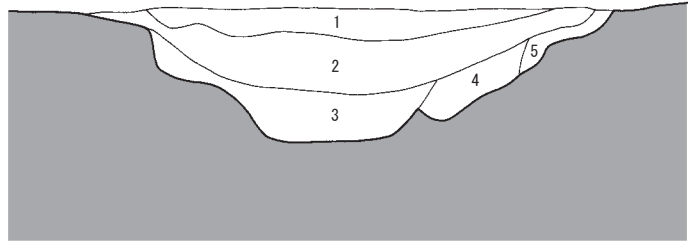


1. 暗灰 細砂 (明黄褐シルト質極細砂粒少量混じる)
2. 明黄褐 シルト質極細砂 (灰細砂少量混じる)

SD112

A——

5.1m A'

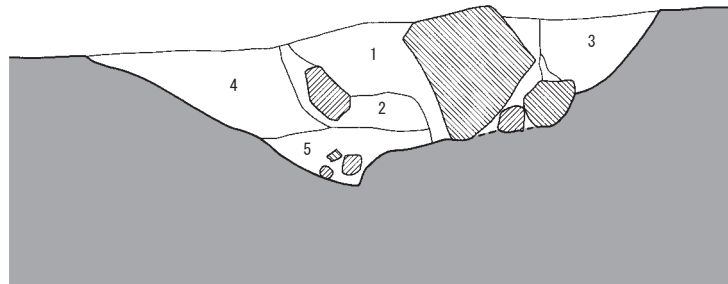


1. 褐灰 極細砂 (暗褐灰極細砂粒混じる、 $Fe_2O_3 \cdot Mn$ 沈着)
2. 暗褐灰 極細砂～細砂
3. 褐灰 細砂～シルト質極細砂 (粗砂～細礫・基盤層ブロック混じる)
4. 褐灰 細砂～シルト質極細砂
5. 明黄褐 極細砂～細砂

SD116

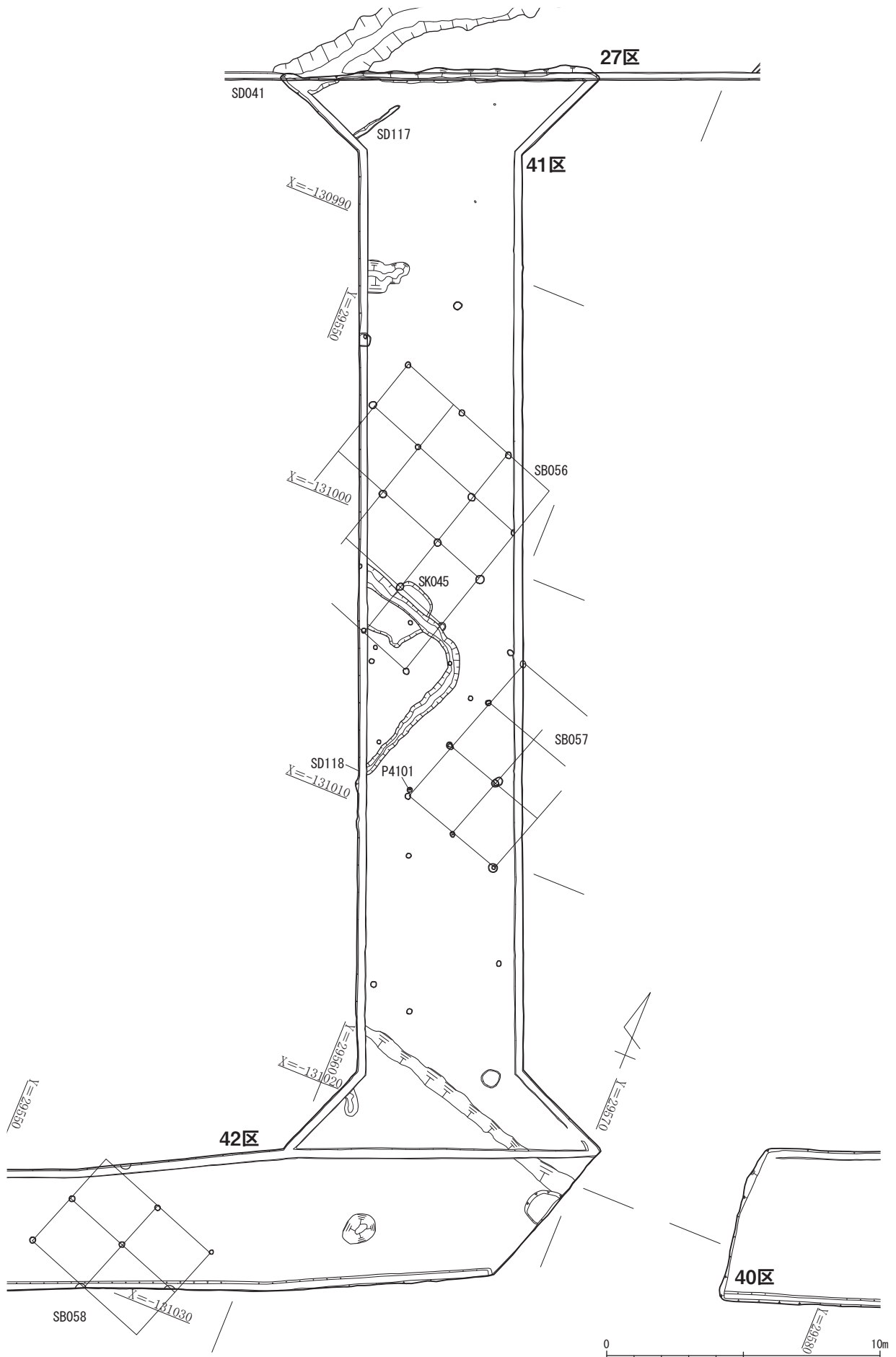
B——

5.1m B'

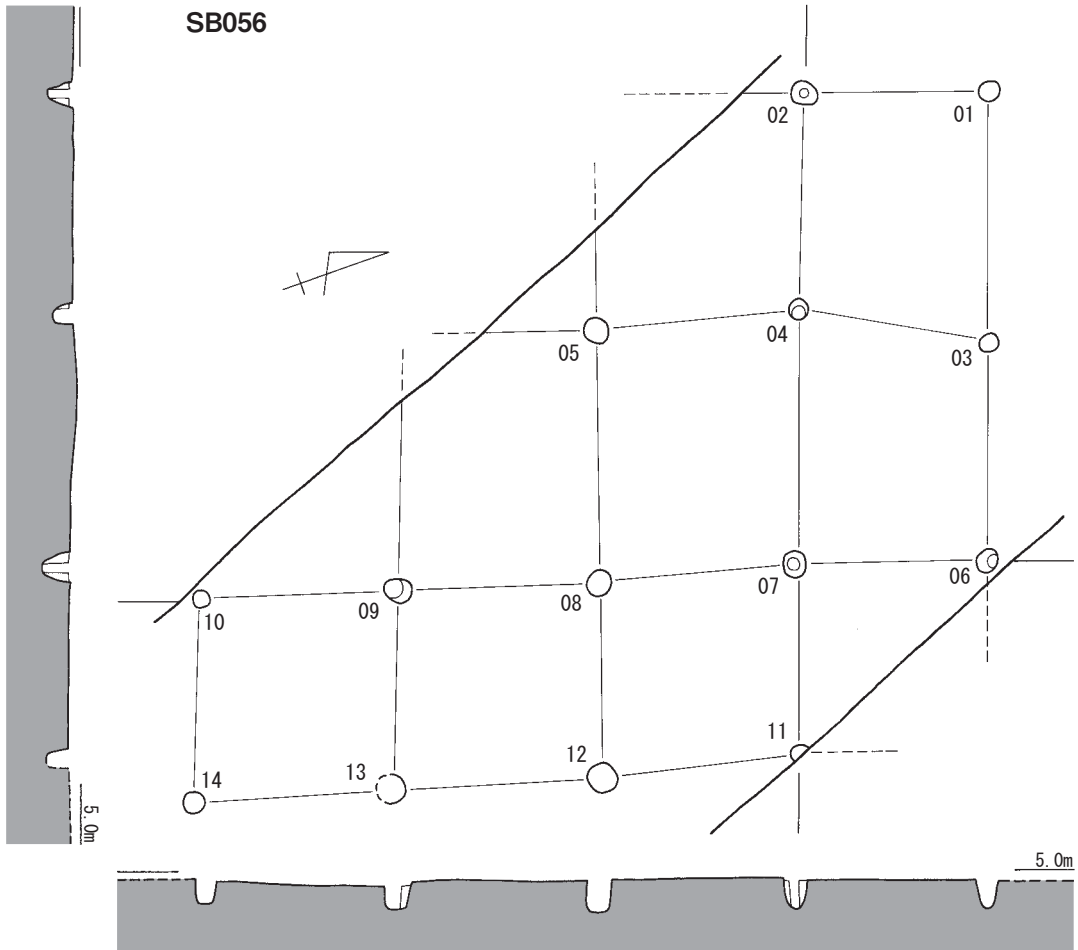


1. 暗青灰 極細砂 (極大礫混じる)
2. 灰褐 細砂～シルト質極細砂 (大礫混じる)
3. 灰黄褐 極細砂
4. 明灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂
5. 淡褐灰 極細砂～シルト質極細砂 (粗砂・礫混じる)

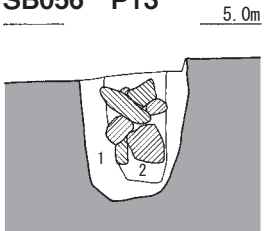




遺構配置

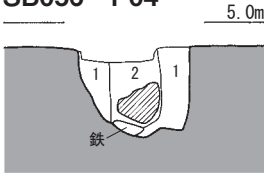


SB056 P13



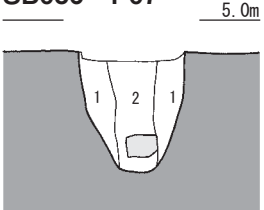
1. 灰シルト質極細砂～細砂
2. 灰シルト質極細砂～細砂（明黄褐シルト質極細砂粒混じる）

SB056 P04

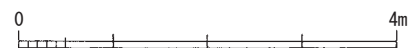
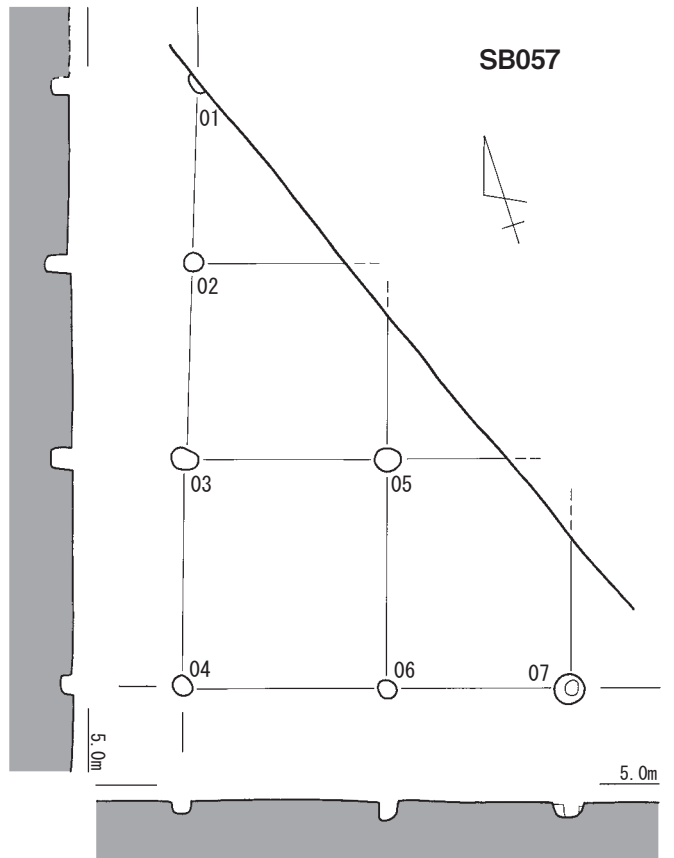
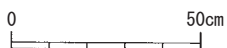


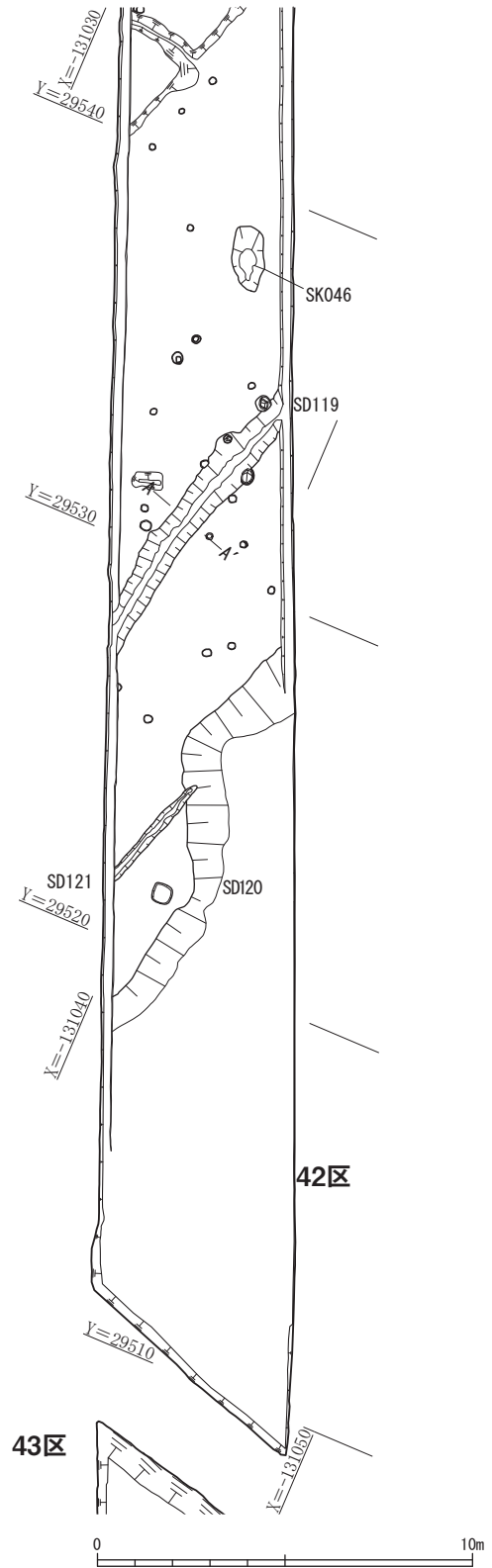
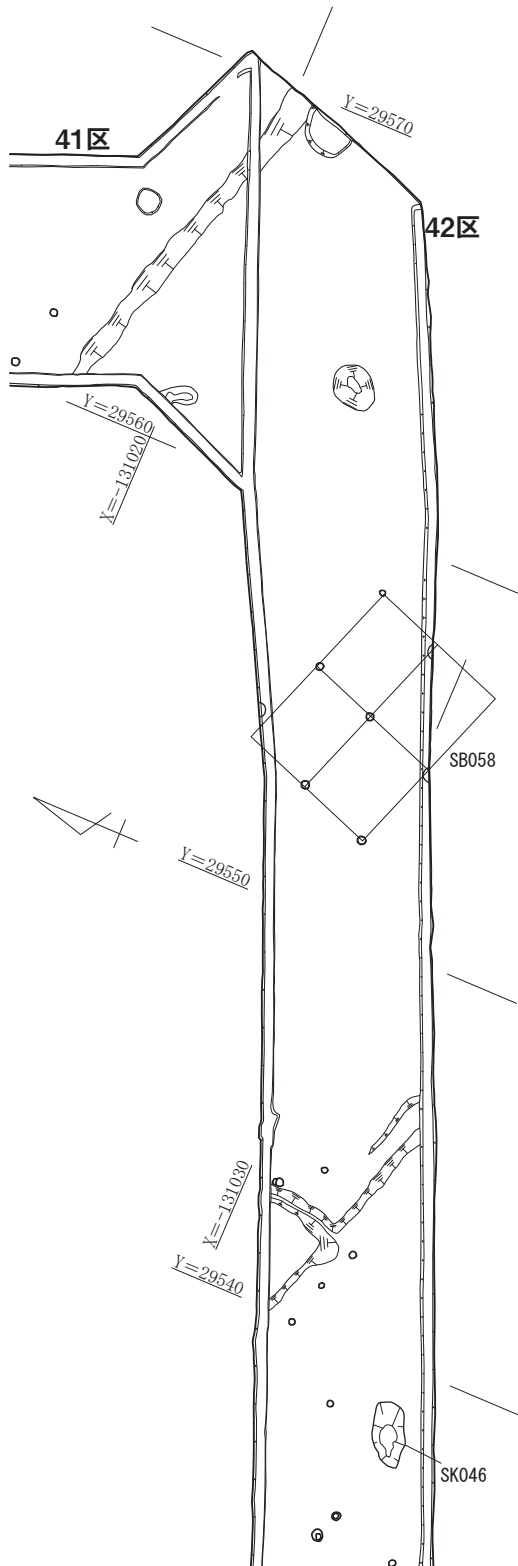
1. 灰シルト質極細砂～細砂
2. 灰シルト質極細砂～細砂（明黄褐シルト質極細砂粒混じる）

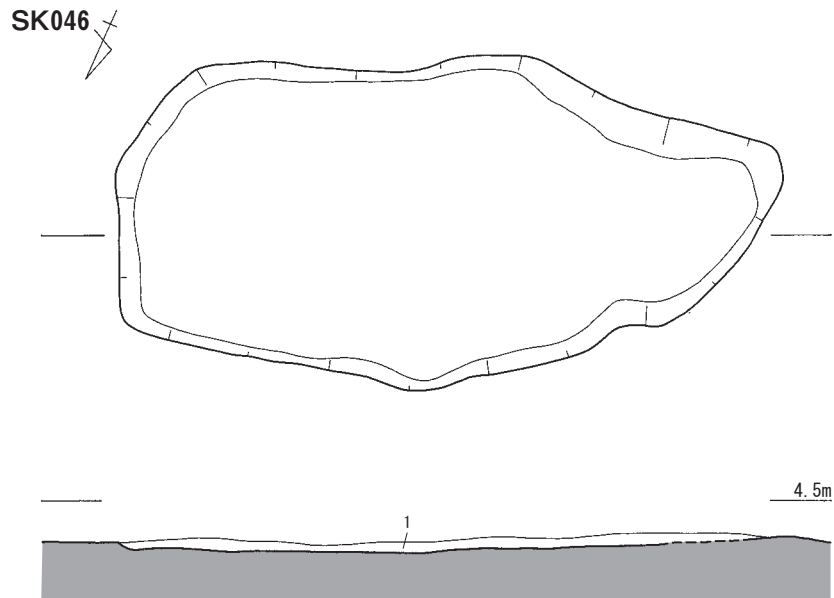
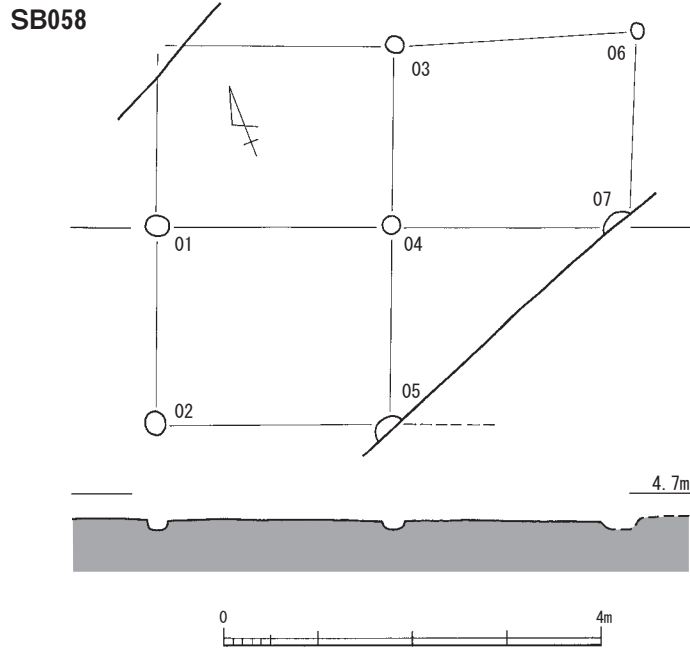
SB056 P07



1. 灰シルト質極細砂～細砂
2. 明黄褐シルト質極細砂（灰シルト質極細砂～細砂混じる）

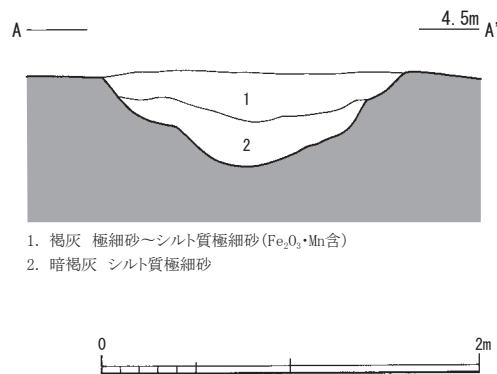




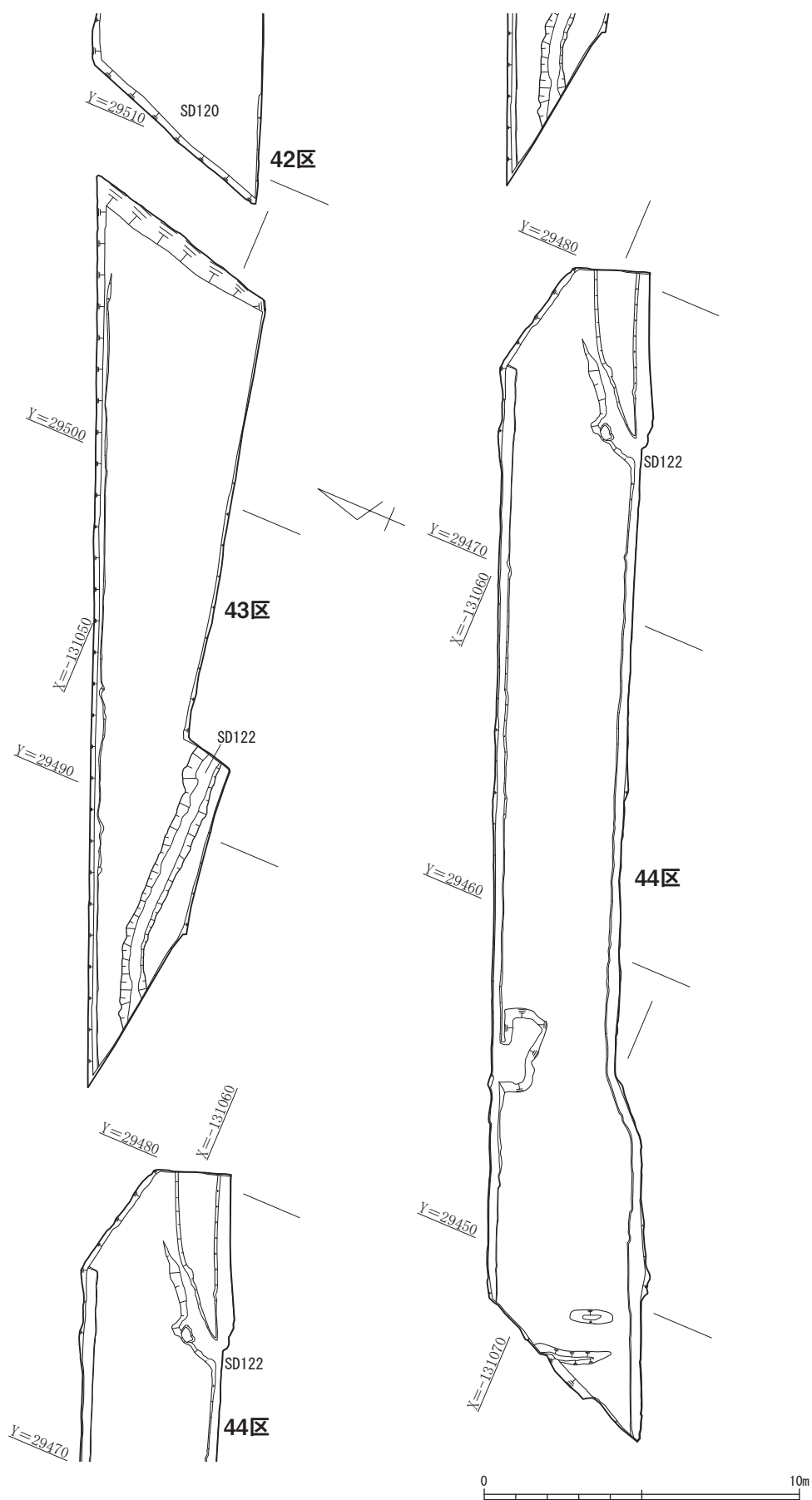


1. 褐灰 極細砂～シルト質極細砂(明青灰シルト質極細砂粒混じる)

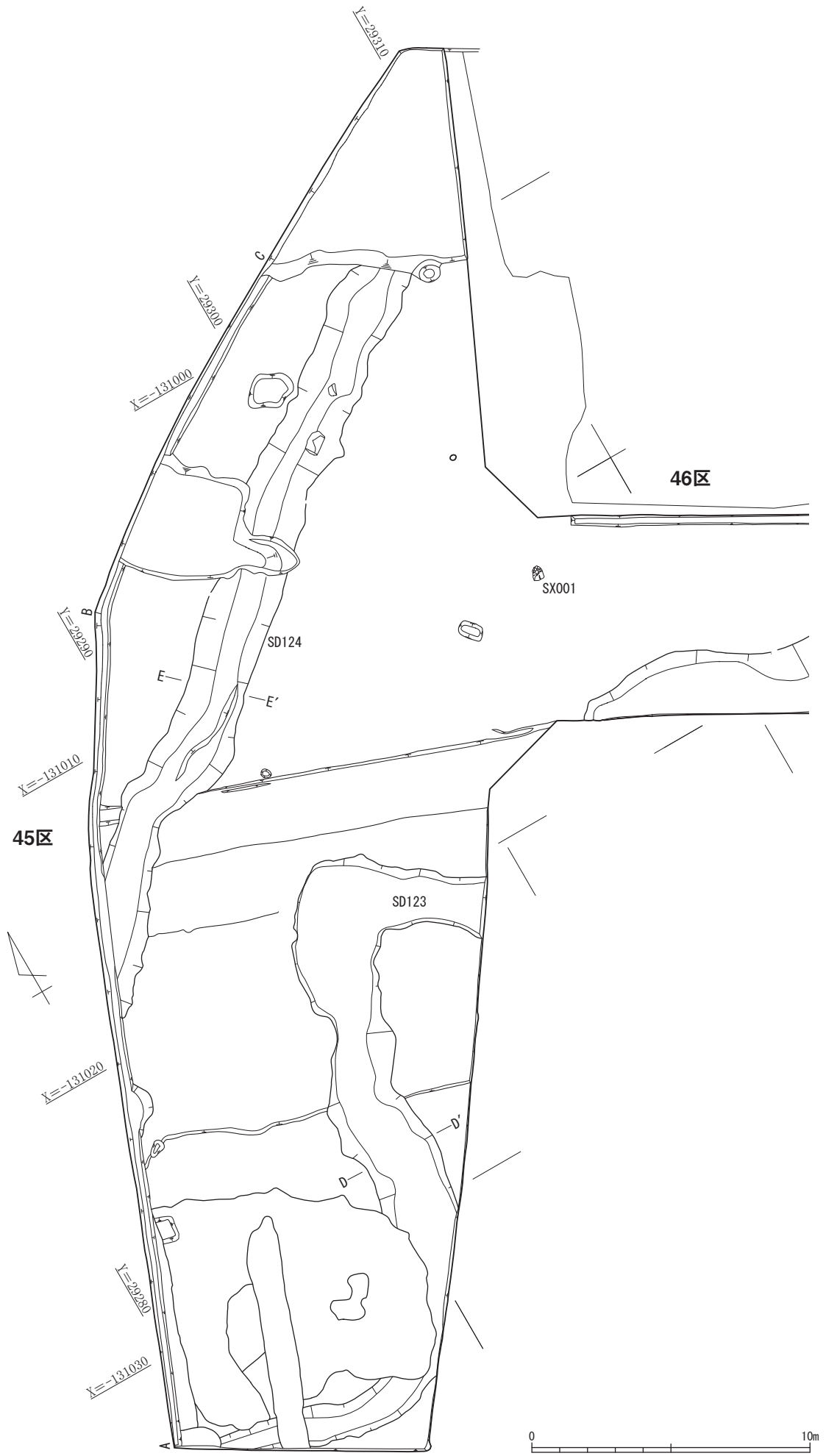
SD119



1. 褐灰 極細砂～シルト質極細砂 ($Fe_2O_3 \cdot Mn$ 含)
2. 暗褐灰 シルト質極細砂

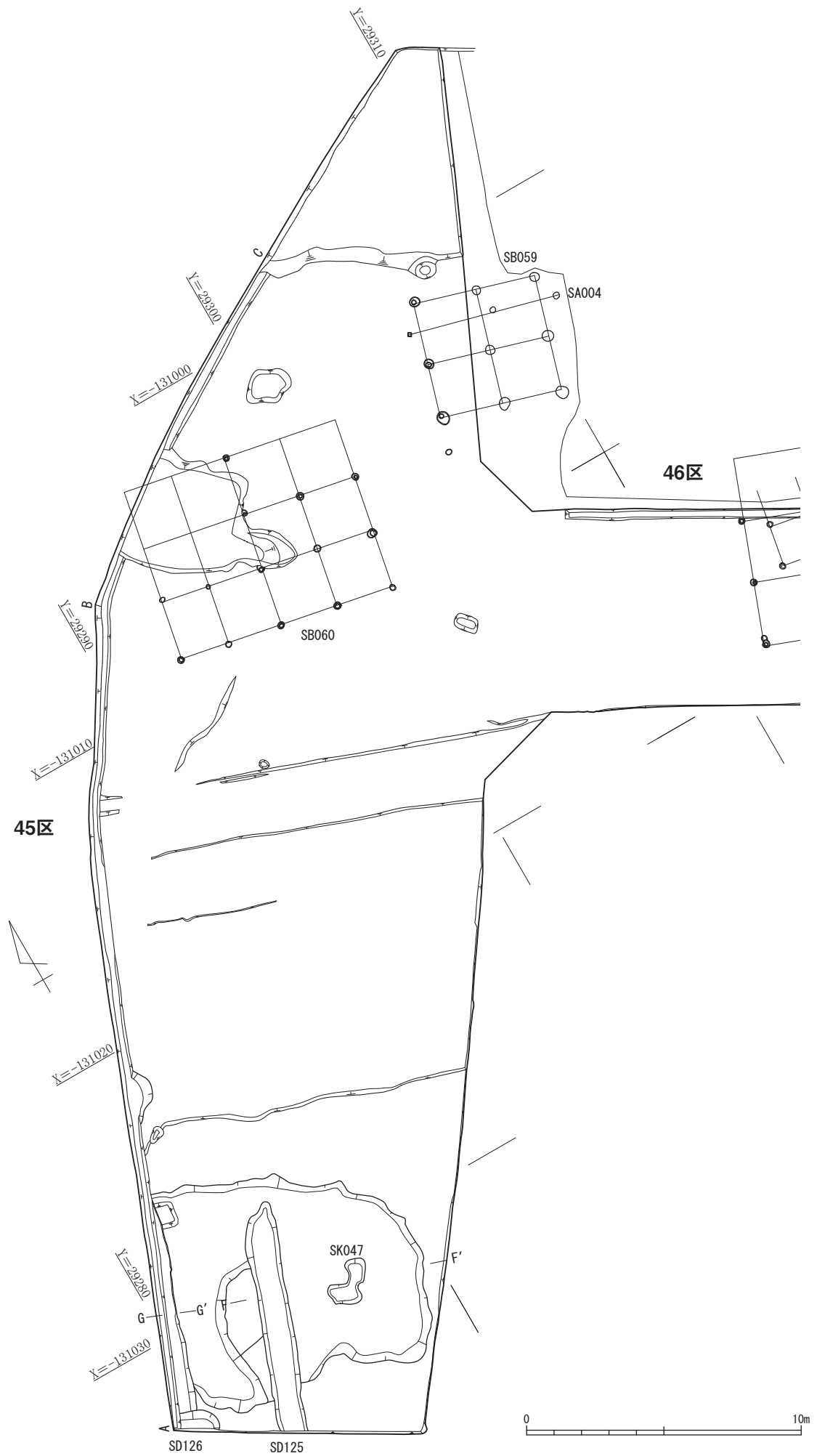


遺構配置

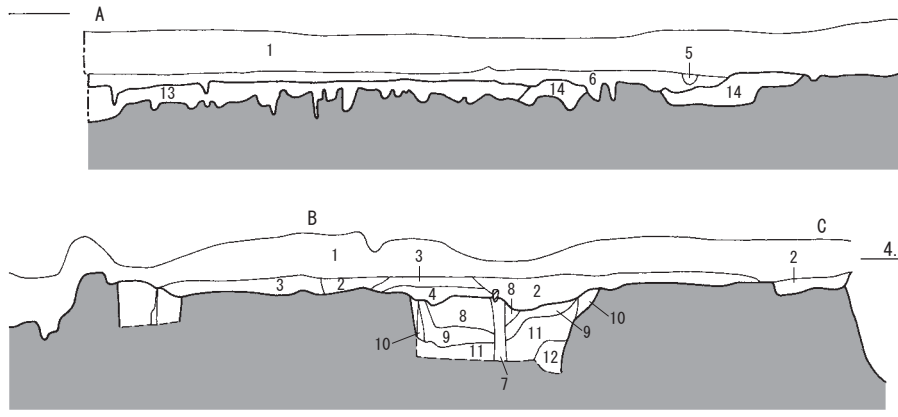


下層遺構配置

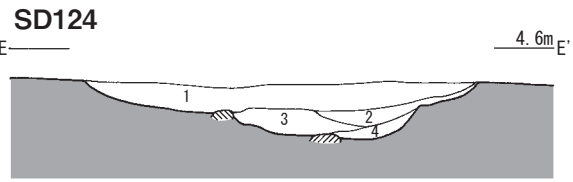
図版
130
遺構
F地区
45・46区



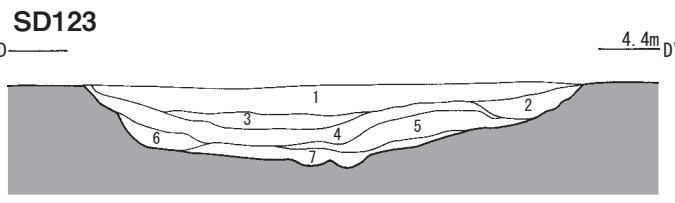
上層遺構配置



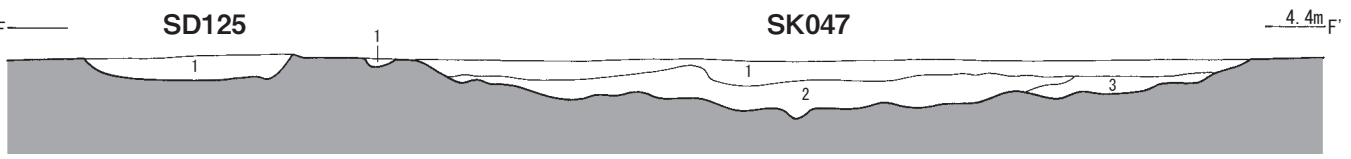
1. [耕作土]
2. 耕作土と基盤層ブロックの混じり
3. 黒褐 極細砂 [耕作土]
4. 灰黄褐 極細砂 [床土]
5. 灰黄褐 中砂
6. 灰黄褐 中砂～細砂 (Fe₂O₃ 含)
7. にぶい黄褐
細礫～中砂 (しまりなし・Fe₂O₃ 含)
8. にぶい黄褐 粗砂～中砂 (Fe₂O₃ 含)
9. 褐 細礫～中砂 (Fe₂O₃ 含)
10. にぶい黄褐 細砂～粗砂
11. 灰黄褐 極細砂～中砂 (Fe₂O₃ 含)
12. 褐灰 中砂
13. 明褐 極細砂 [SD126]
14. 黒褐 シルト質極細砂



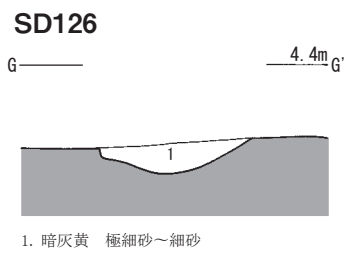
1. 黒褐 シルト質極細砂 (細砂～細礫含)
2. 褐灰 極細砂～細砂 (細礫少量含)
3. 灰黄褐 中砂～細砂 (細礫多く含)
4. 灰黄褐 極細砂～細砂 (細礫少量含)



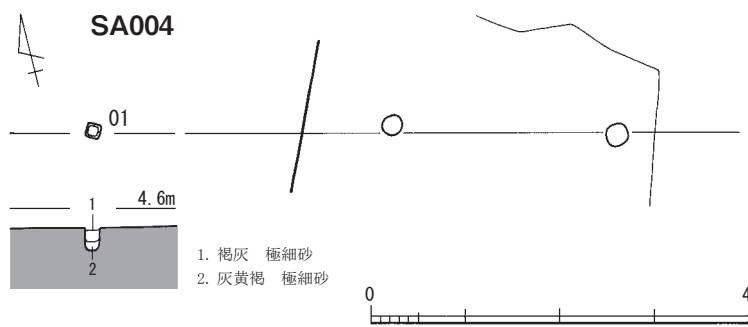
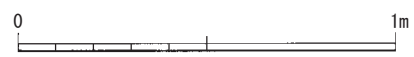
1. 黄灰 極細砂～細砂
2. 灰黄褐 極細砂～細砂
3. 灰黄褐 細砂
4. 黒 シルト質極細砂
5. 黒褐 細砂
6. 暗灰黄 細砂～極細砂
7. 黄灰 中砂～細礫



1. 灰黄褐 極細砂
2. 黒褐 シルト質極細砂
3. 灰黄褐 シルト質極細砂



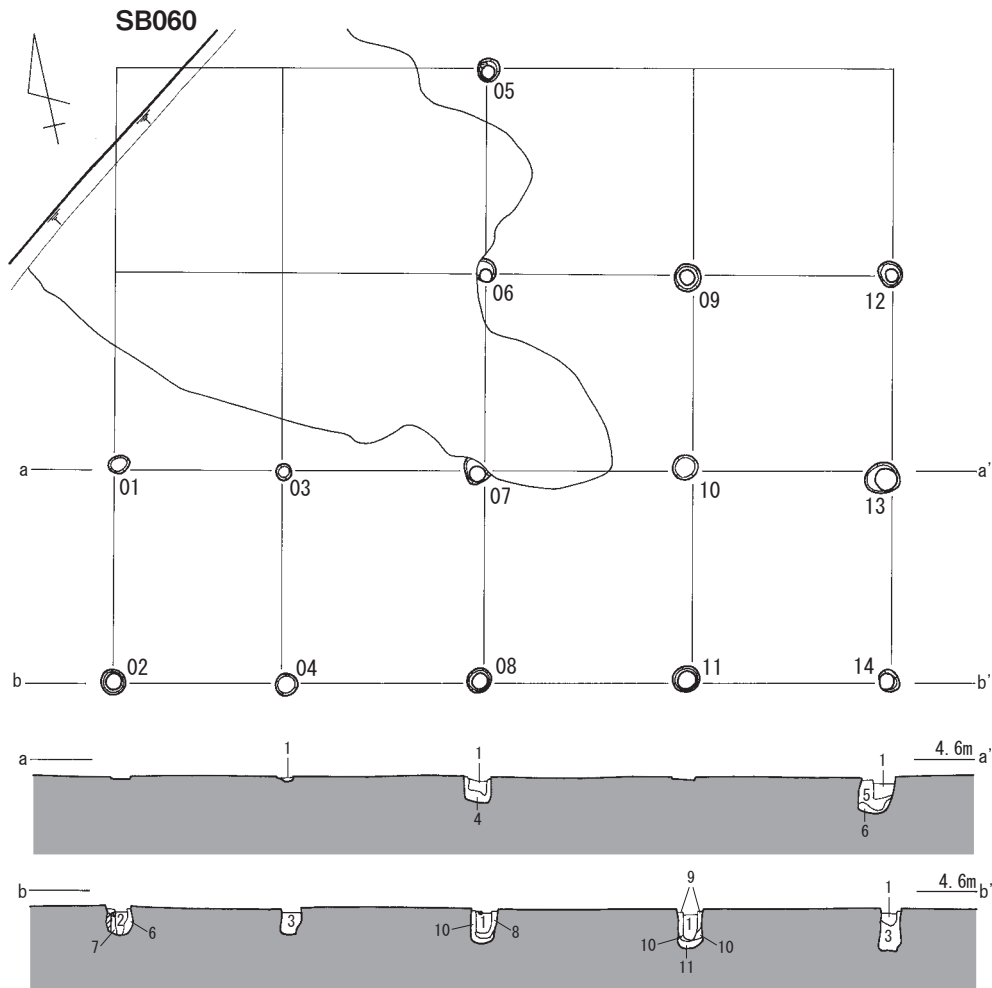
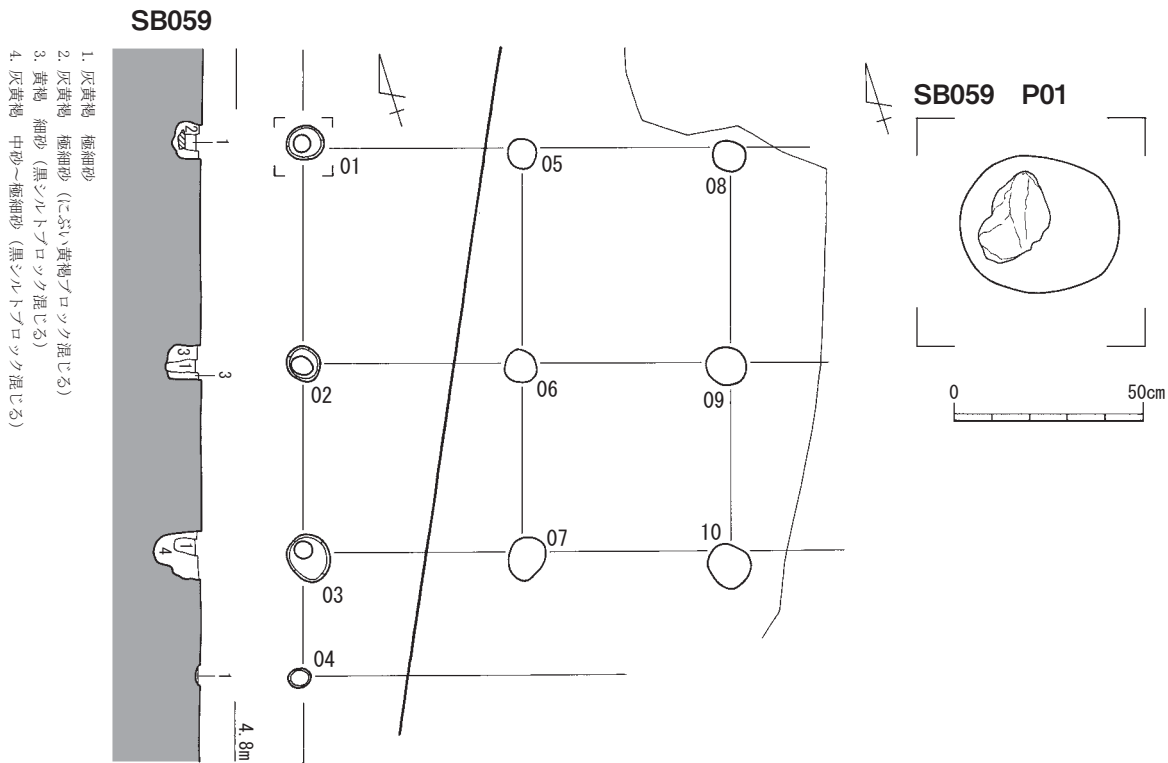
1. 暗灰黄 極細砂～細砂



1. 褐灰 極細砂
2. 灰黄褐 極細砂



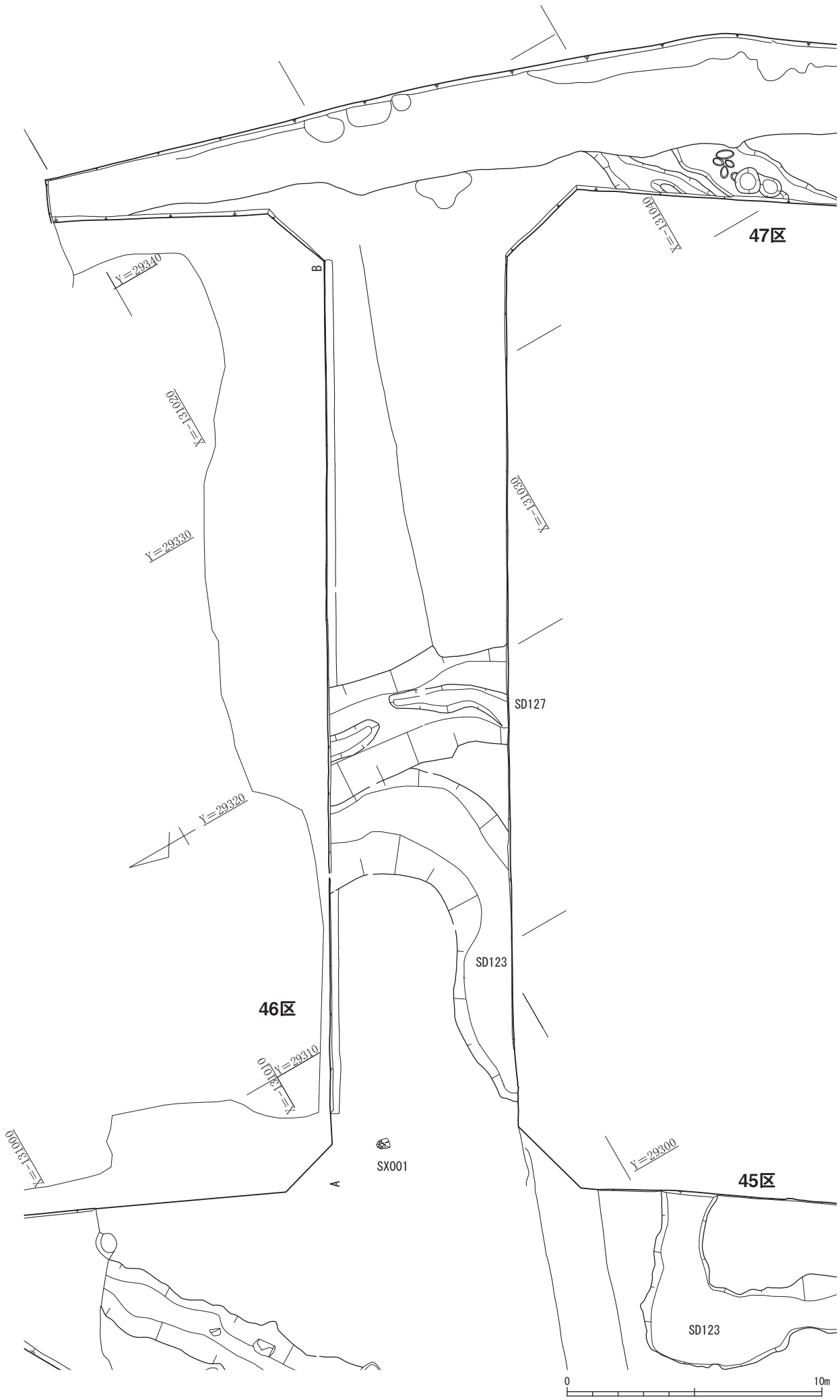
土層断面 溝 SD123～SD126 土層断面 土坑 SK047 土層断面 柵 SA004



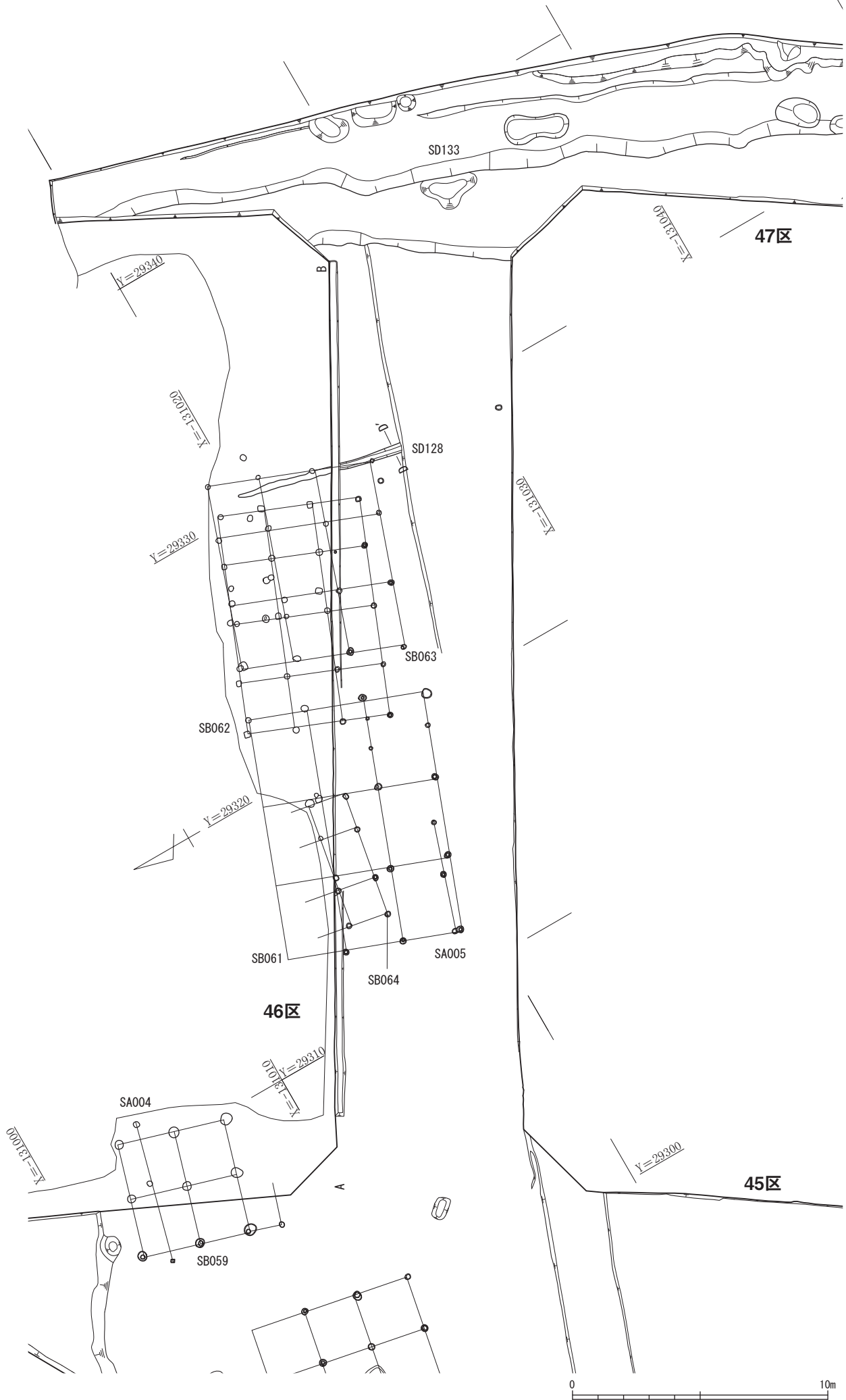
1. 灰黄褐 極細砂
2. 灰黄褐 極細砂~細砂 (炭含)
3. 褐灰 極細砂 (SD124埋土ブロック含)
4. 灰黄褐 極細砂 (SD124埋土ブロック含)
5. 黒 シルトブロック
6. 灰黄褐 細砂
7. 黒褐 極細砂~細砂 (炭含)
8. 黒 シルト質極細砂 (褐灰ブロック混)
9. 褐灰 極細砂
10. にぶい黄褐 極細砂
11. 褐灰 シルト質極細砂



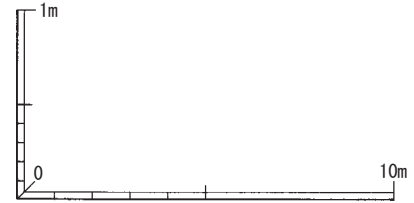
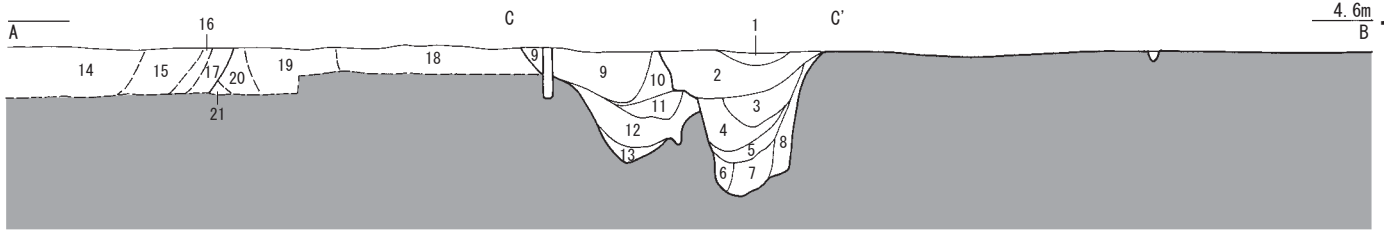
掘立柱建物 SB059・SB060



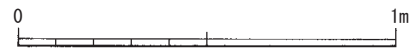
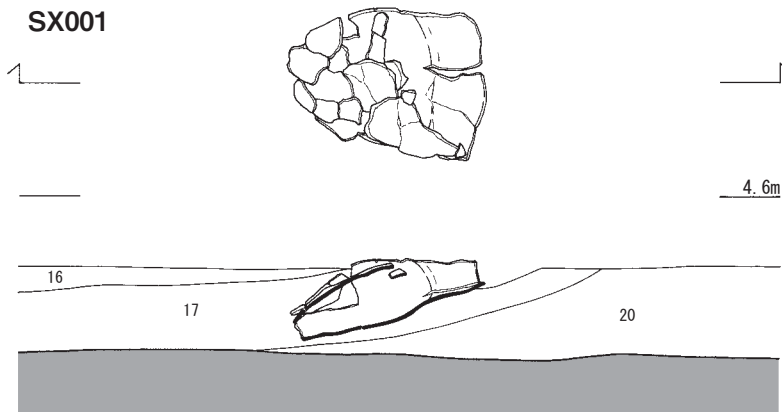
下層遺構配置



上層遺構配置

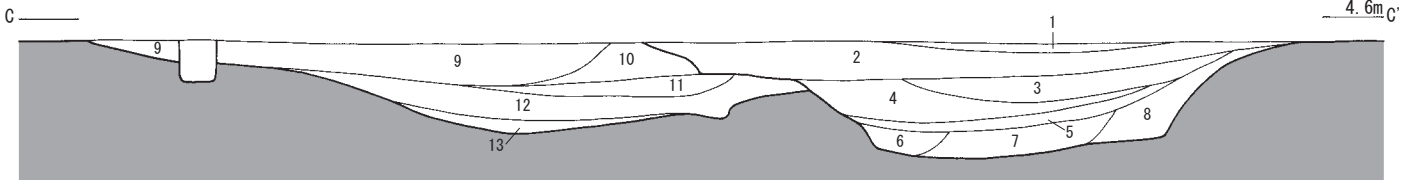


SX001



SD123

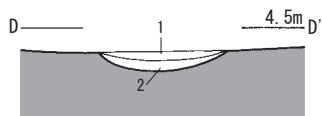
SD127



- | | | |
|--|--|---|
| 1. 灰黄褐 細砂 (細礫混じる、Mn 含) | 8. 黒褐 極細砂 | 15. 灰黄褐 細礫～細砂 |
| 2. 灰黄褐 極細砂～細砂 (細礫混じる、Mn 含) | 9. 褐灰 中砂～細砂 | 16. にぶい黄褐 細礫～極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) |
| 3. 黒褐 細砂～中砂 (ラミナ) | 10. 灰黄褐 細砂 | 17. 褐 中砂～粗砂 (Fe ₂ O ₃ 含) |
| 4. 黒褐 中砂～粗砂 (ラミナ、有機質含) | 11. にぶい黄褐 細砂～中砂 | 18. にぶい黄褐 極細砂 |
| 5. 黒 シルト質極細砂 (ラミナ、有機質含) | 12. 黒 シルト質極細砂～細砂 | 19. 灰黄褐 中礫～細砂 |
| 6. 黒褐 中砂～シルト質極細砂 (ラミナ) | 13. 褐 粗砂 (ラミナ、Fe ₂ O ₃ 含) | 20. 灰黄褐 細礫～粗砂 |
| 7. 暗褐 細礫～粗砂 (ラミナ、Fe ₂ O ₃ 含) | 14. にぶい黄褐 極細砂 (Fe ₂ O ₃ 含) | 21. にぶい黄褐 細礫～粗砂 (Fe ₂ O ₃ 含) |

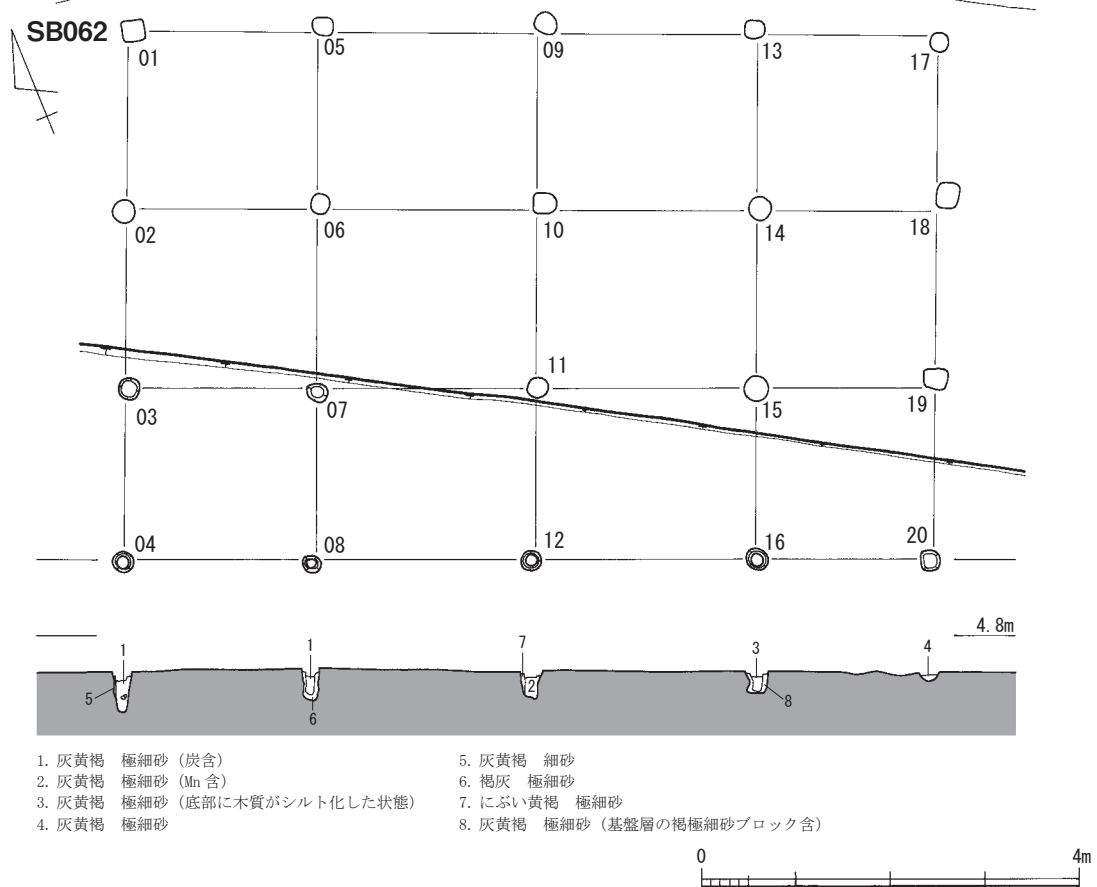
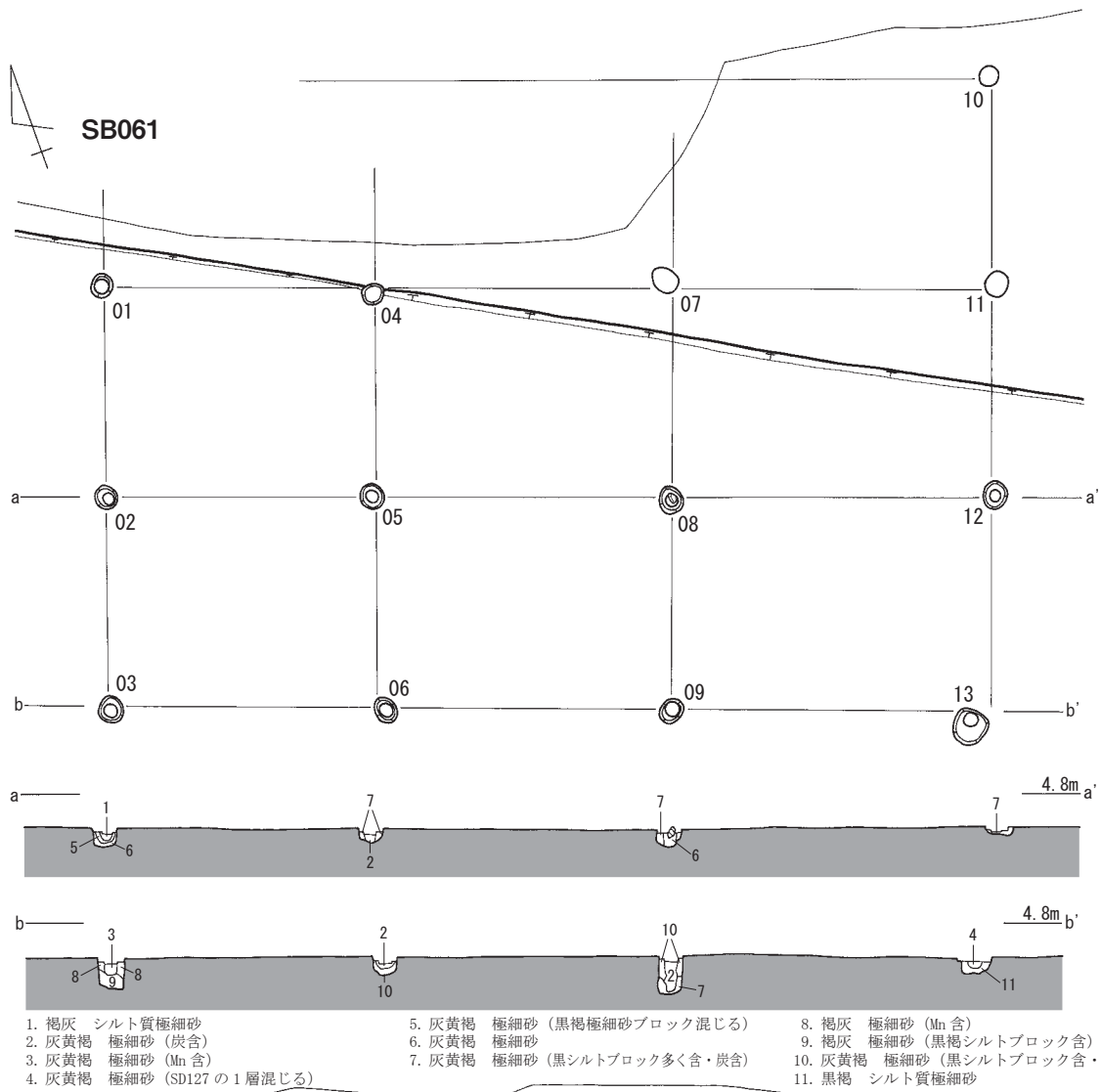


SD128

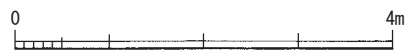
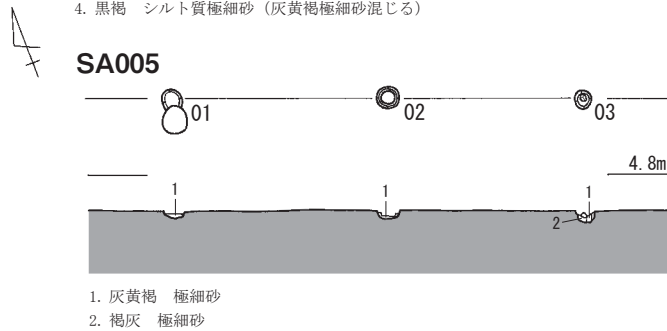
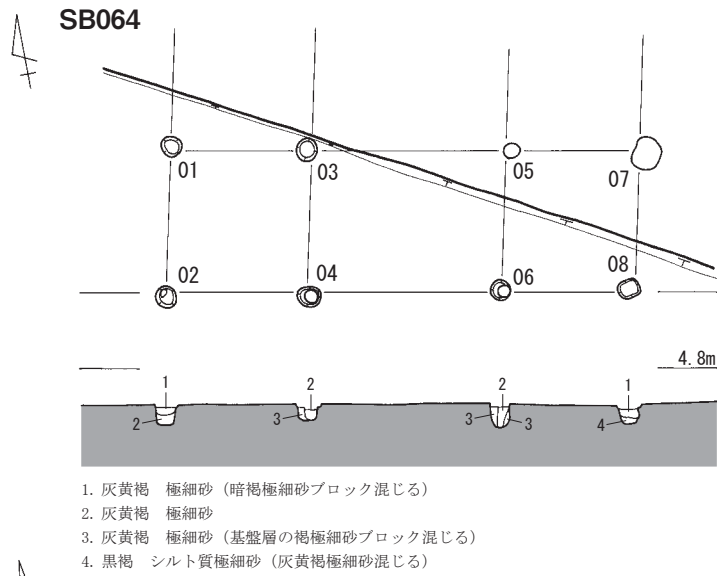
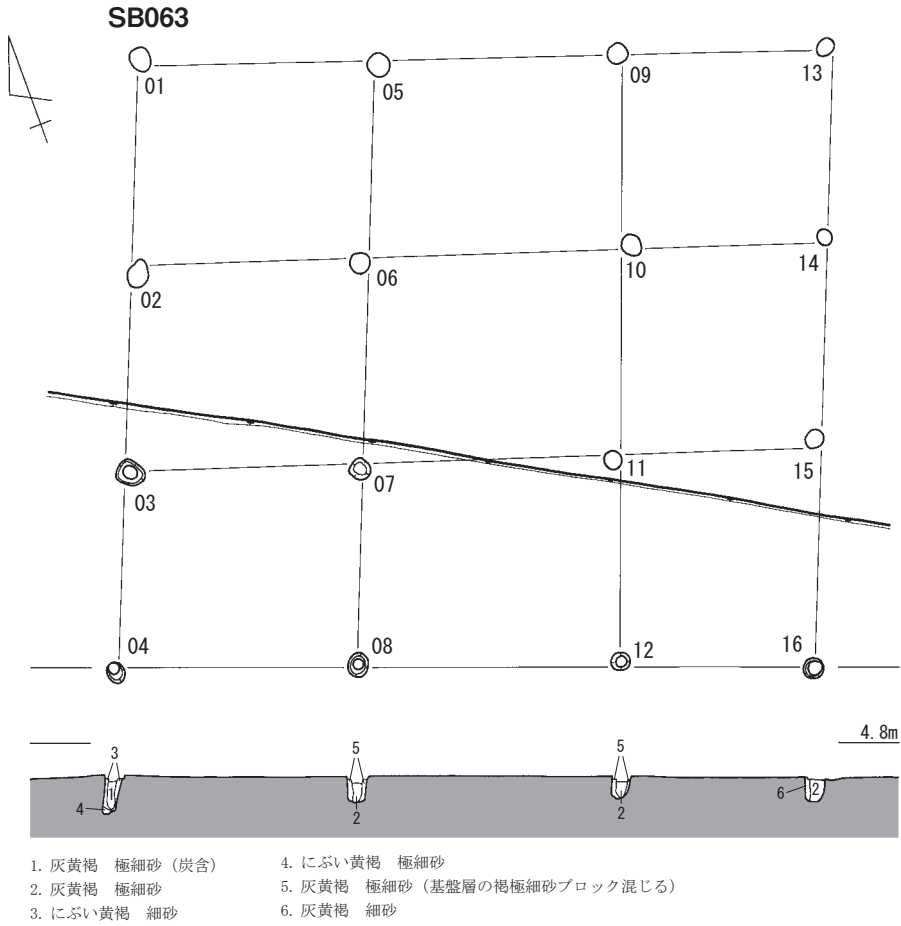


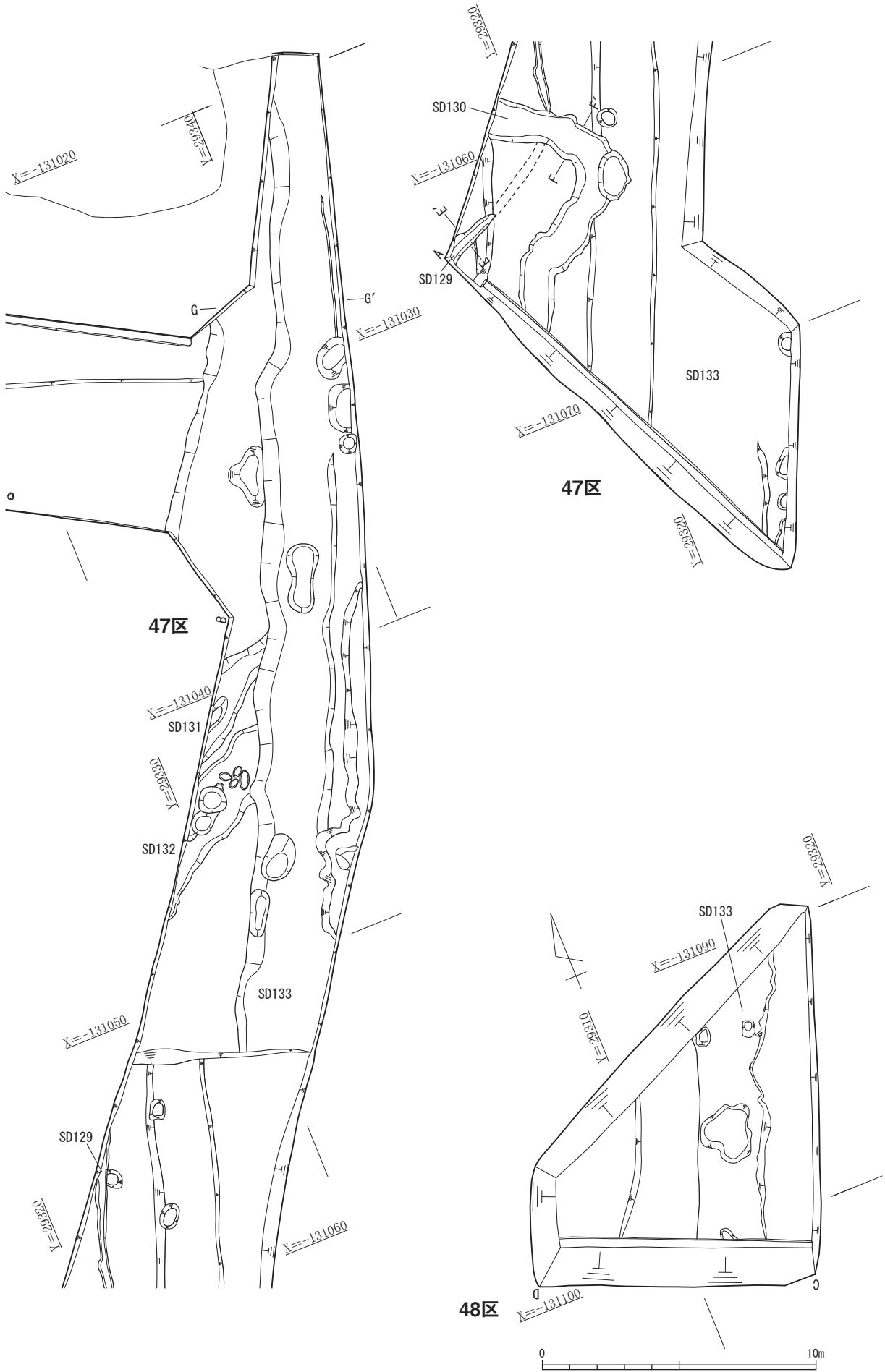
1. 黒褐 シルト質極細砂
2. 褐 細砂 (底部に鉄分沈着)





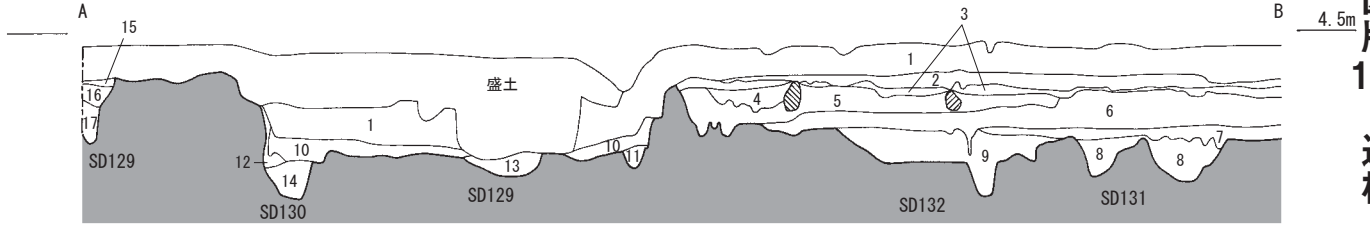
掘立柱建物 SB061・SB062





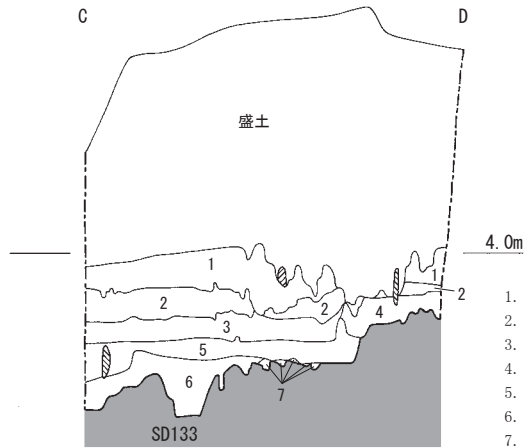
遺構配置

47区西壁

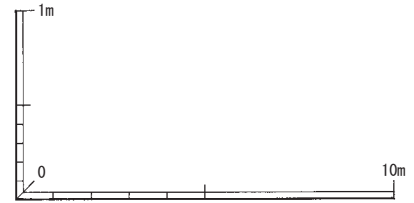


1. [耕作土]
2. 暗灰黄 細砂 (Mn含) [床土]
3. にぶい黄橙 細砂 (Fe₂O₃・Mn含) [床土]
4. 灰黄褐 細砂
5. 灰黄褐 細砂 (大礫～細礫多量含) [整地層]
6. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (Mn含)
7. 灰黄褐 中砂～細礫 (下部Fe₂O₃沈着)
8. 黒褐 中砂～細礫 (ラミナ・下部Fe₂O₃沈着) [SD131]
9. 黒褐 極細砂～中砂 [SD132]
10. 黄灰 極細砂～細砂 [床土]
11. 黄灰 極細砂 (明黄褐シルト混じる)
12. 黄灰 極細砂 (明黄褐シルト質極細砂混じる)
13. 暗灰黄 極細砂 (Fe₂O₃含)
14. 暗灰黄 中砂～細砂 (細礫を含)
15. 暗褐 シルト質極細砂 (Mn含)
16. 灰黄褐 極細砂
17. 暗灰黄 極細砂 (Fe₂O₃含)

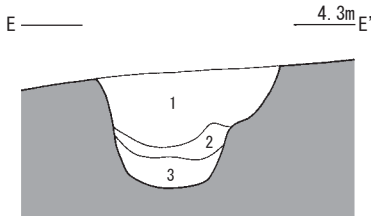
48区南壁



1. 褐灰 極細砂 [耕作土]
2. 灰黄褐 極細砂 (にぶい黄シルト [基盤層] 混じる) [床土]
3. 褐灰 極細砂 [旧耕作土]
4. 黄灰 細砂～極細砂
5. 黄褐 極細砂 [旧床土]
6. 灰黄褐 中砂～細礫 (中礫わずかに含・ラミナ)
7. 灰黄褐 細砂～極細砂

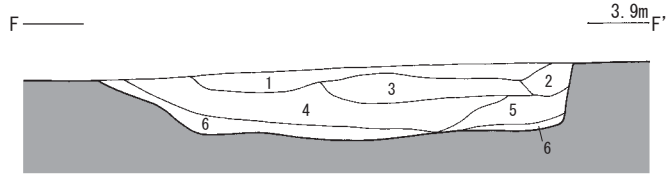


SD129



1. 暗褐 シルト質極細砂 (Mn含)
2. 灰黄褐 極細砂
3. 暗灰黄 極細砂 (Fe₂O₃含)

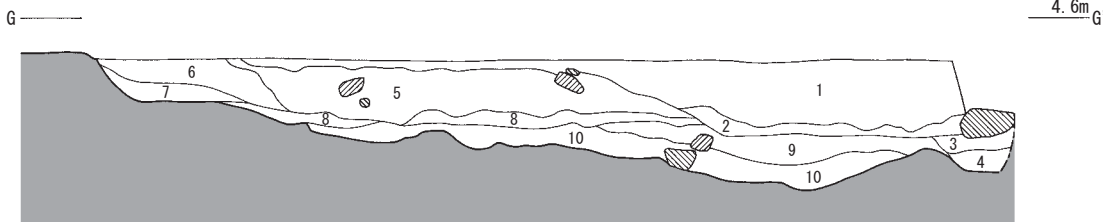
SD130



1. 黒褐 シルト質極細砂 (細礫少量含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂～極細砂
3. 黒褐 シルト質極細砂
4. 灰黄褐 細砂～中砂 (炭少量含)
5. 黒褐 シルト質極細砂 (粗砂・炭少量含)
6. 暗灰黄 中砂～細砂 (細礫含)



SD133

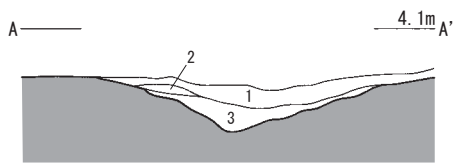


1. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (細砂～細礫含) [整地層]
2. 暗灰黄 シルト質極細砂 (細砂～細礫少量含) [水田土壤]
3. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (細砂～細礫少量含)
4. 灰オリーブ 細砂 (細礫少量含) [溝]
5. にぶい黄 極細砂 (細砂～中砂多く含) [整地層]
6. 暗灰黄 極細砂～シルト質極細砂 (細砂～細礫含)
7. 黄灰 極細砂～シルト質極細砂 (細砂少量含)
8. 黄灰 シルト質極細砂 (細砂～細礫含) [水田土壤]
9. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (細礫含)
10. 灰 細砂 (細～中礫多く含)



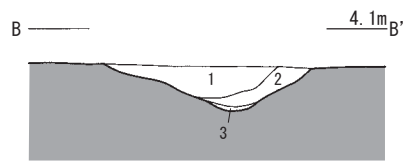


SD136



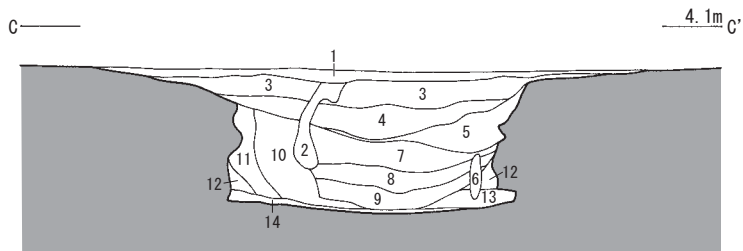
1. 黒褐 極細砂
2. にぶい黄褐 極細砂(細砂混じる・Mn・Fe₂O₃含)
3. 灰黄褐 細砂

SD135



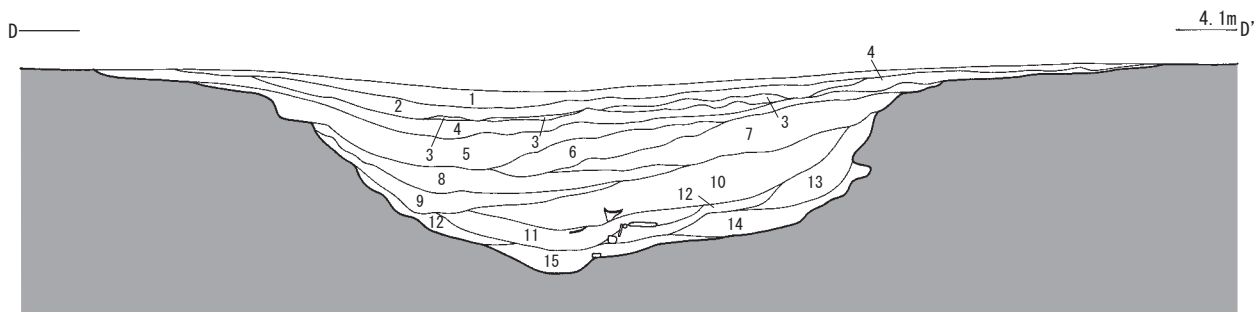
1. 灰黄褐 極細砂(中砂～粗砂混じる)
2. 黒褐 シルト質極細砂
3. 褐灰 極細砂(中砂～粗砂混じる)

SD134

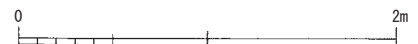


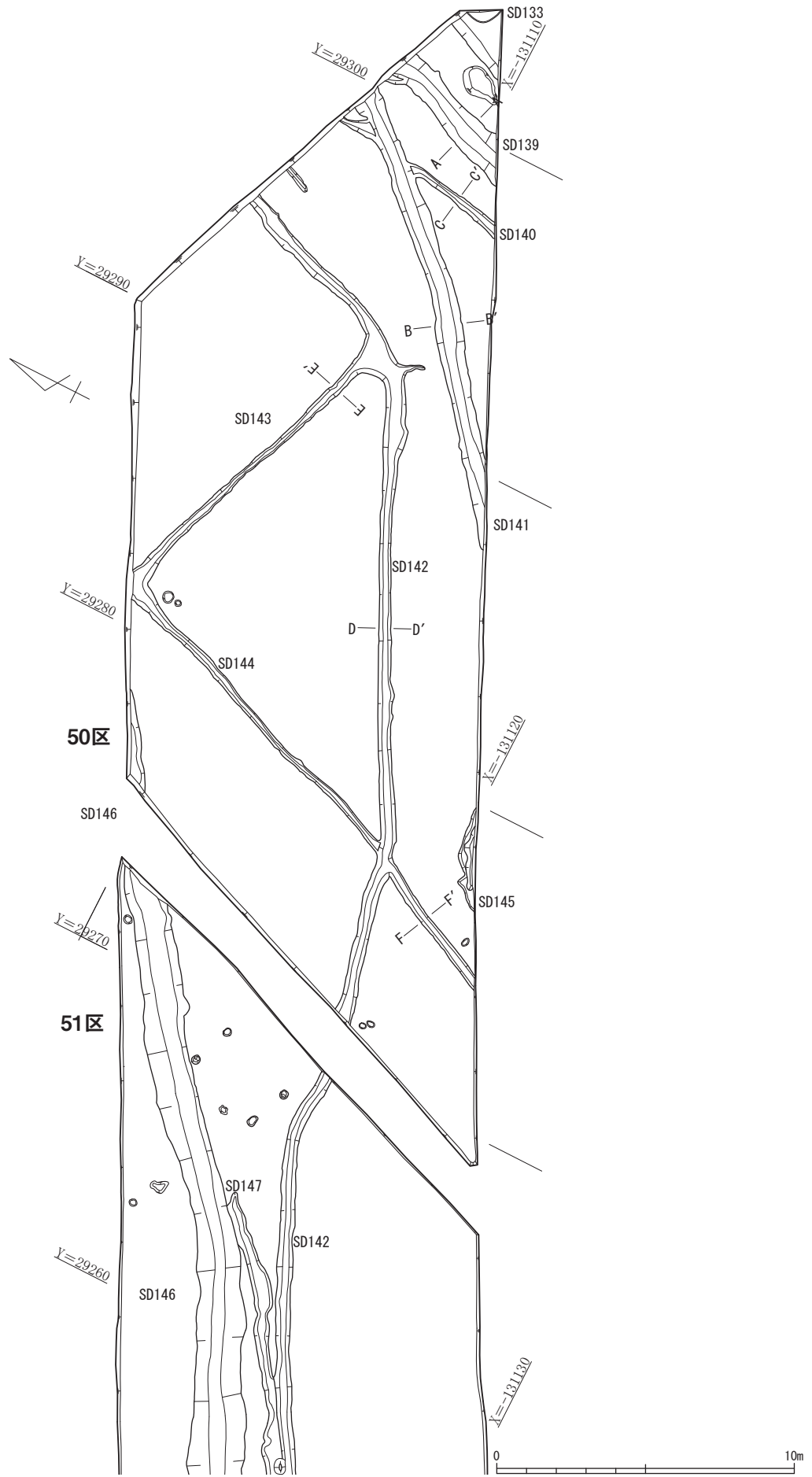
- | | | |
|---------------------|-------------------|----------------------------|
| 1. 暗灰褐 極細砂(Mn含) | 6. 灰 細砂 | 11. 灰黄褐 細砂 |
| 2. 黄褐 極細砂(植物痕か・生物痕) | 7. 灰黄褐 シルト質極細砂 | 12. 明黄褐 極細砂(灰黄褐極細砂の基盤層混じる) |
| 3. 灰黄褐 極細砂(Mn含) | 8. 灰黄褐 細砂～中砂(ラミナ) | 13. 灰黄褐 極細砂 |
| 4. 褐灰 シルト質極細砂(Mn含) | 9. 黒褐 細砂～極細砂(ラミナ) | 14. にぶい黄褐 粗砂～中砂(ラミナ・鉄分沈着) |
| 5. 灰黄褐 細砂～極細砂 | 10. 褐灰 シルト質極細砂 | |

SD138

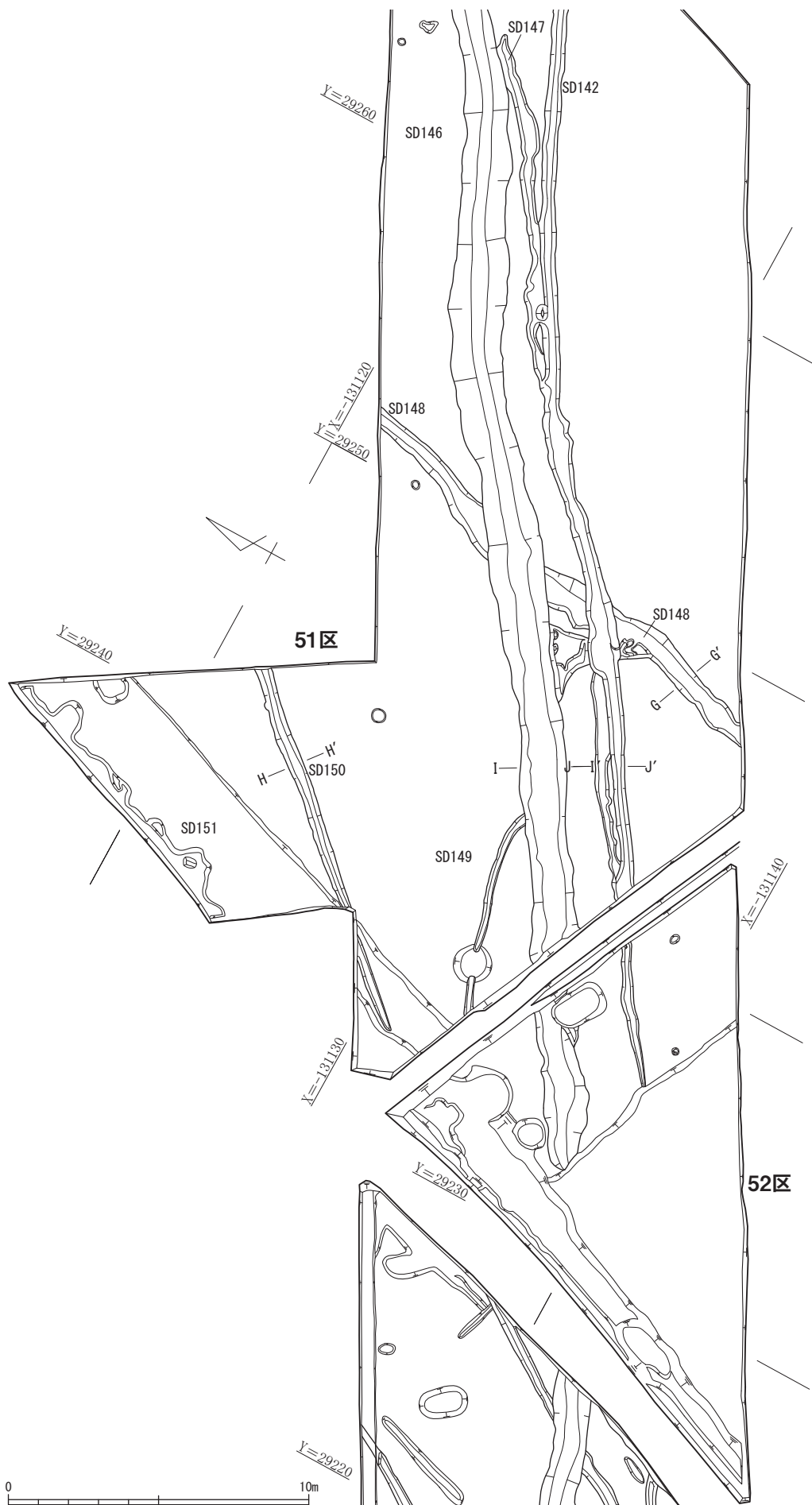


- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 灰黄褐 極細砂(細礫混じる・Mn含) | 9. 黒褐 細砂～極細砂(ラミナ・植物含) |
| 2. 灰黄褐 極細砂 | 10. 褐灰 極細砂～中砂(ラミナ・植物・炭化物含) |
| 3. にぶい黄褐 中砂 | 11. 黒褐 極細砂～細砂(ラミナ) |
| 4. 暗褐 極細砂(細砂混じる) | 12. 褐灰 細砂～極細砂(ラミナ) |
| 5. 黒 シルト質極細砂 | 13. 黒褐 極細砂 |
| 6. 褐 細砂 | 14. 褐灰 中砂～細砂(ラミナ・細礫混じる) |
| 7. 暗褐 シルト質極細砂 | 15. 黒褐 細砂～極細砂(細礫含) |
| 8. 灰黄褐 中砂～極細砂(ラミナ・炭化物含) | |



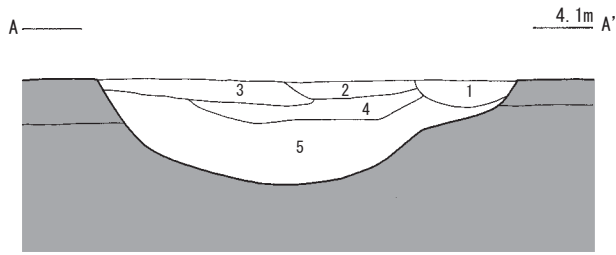


遺構配置



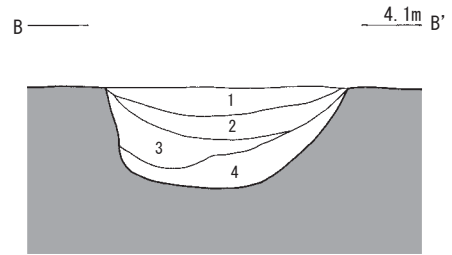
遺構配置

SD139



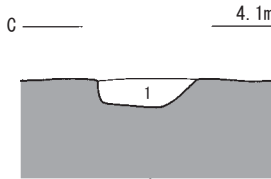
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (鋤溝)
2. にぶい黄褐 極細砂 (灰黄褐シルト質極細砂混じる・Mn多く含)
3. にぶい黄褐 極細砂 (Mn多く含)
4. 灰黄褐 細砂 (シルト質極細砂混じる)
5. 黒褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)

SD141



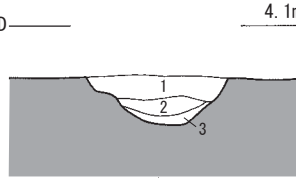
1. 灰黄褐 極細砂
2. 灰黄褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
3. 褐 シルト質極細砂
4. 暗褐 シルト質極細砂

SD140



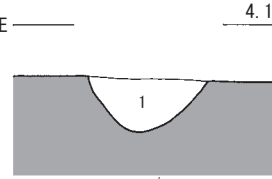
1. 褐灰 極細砂

SD142



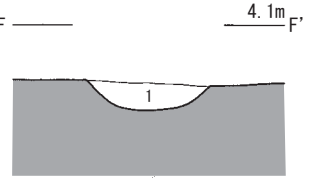
1. 灰黄褐 極細砂 (中砂混じる)
2. 褐灰 中砂 (極細砂混じる)
3. 灰黄褐 極細砂 (中砂混じる)

SD143



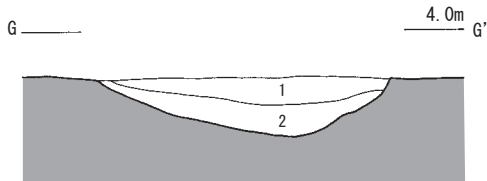
1. 灰黄褐 シルト質極細砂

SD144



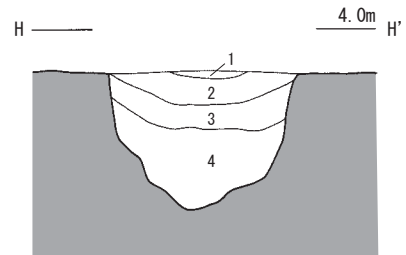
1. 褐灰 極細砂

SD148



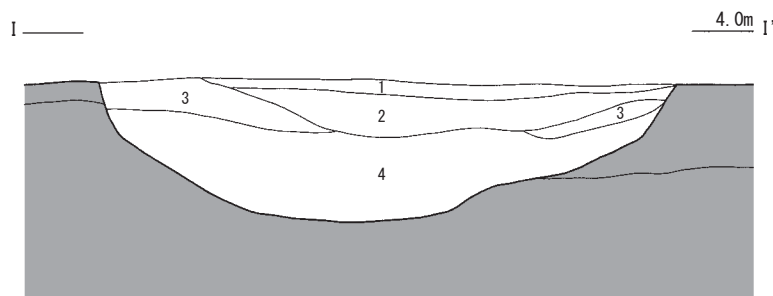
1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)
2. 暗褐 シルト質極細砂 (中砂混じる)

SD150



1. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂混じる)
2. 明黄褐 極細砂 (中砂～細礫混じる)
3. 褐 極細砂 (中砂～細礫混じる)
4. 褐灰 シルト質極細砂 (中砂～細礫混じる)

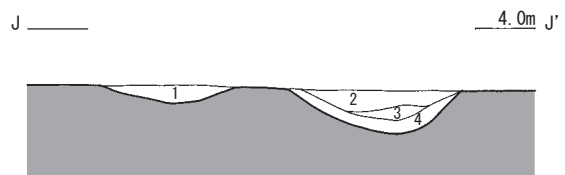
SD146



1. 灰黄褐 極細砂 (中砂混じる)
2. 褐灰 極細砂 (中砂～細礫混じる)
3. 灰黄褐 極細砂 (細礫～細砂混じる)
4. 灰黄褐 細砂～中礫 (ラミナ)

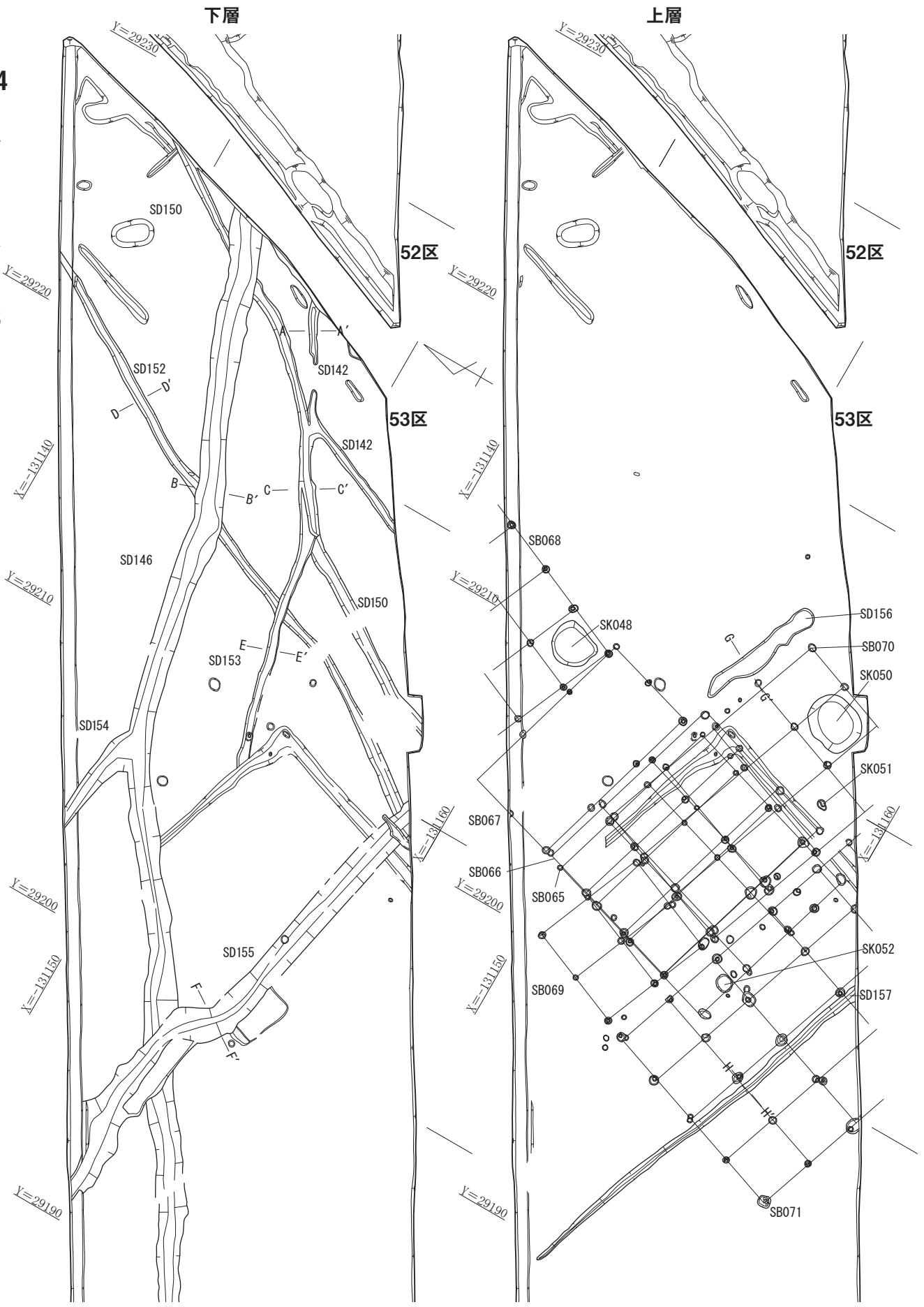
SD147

SD142

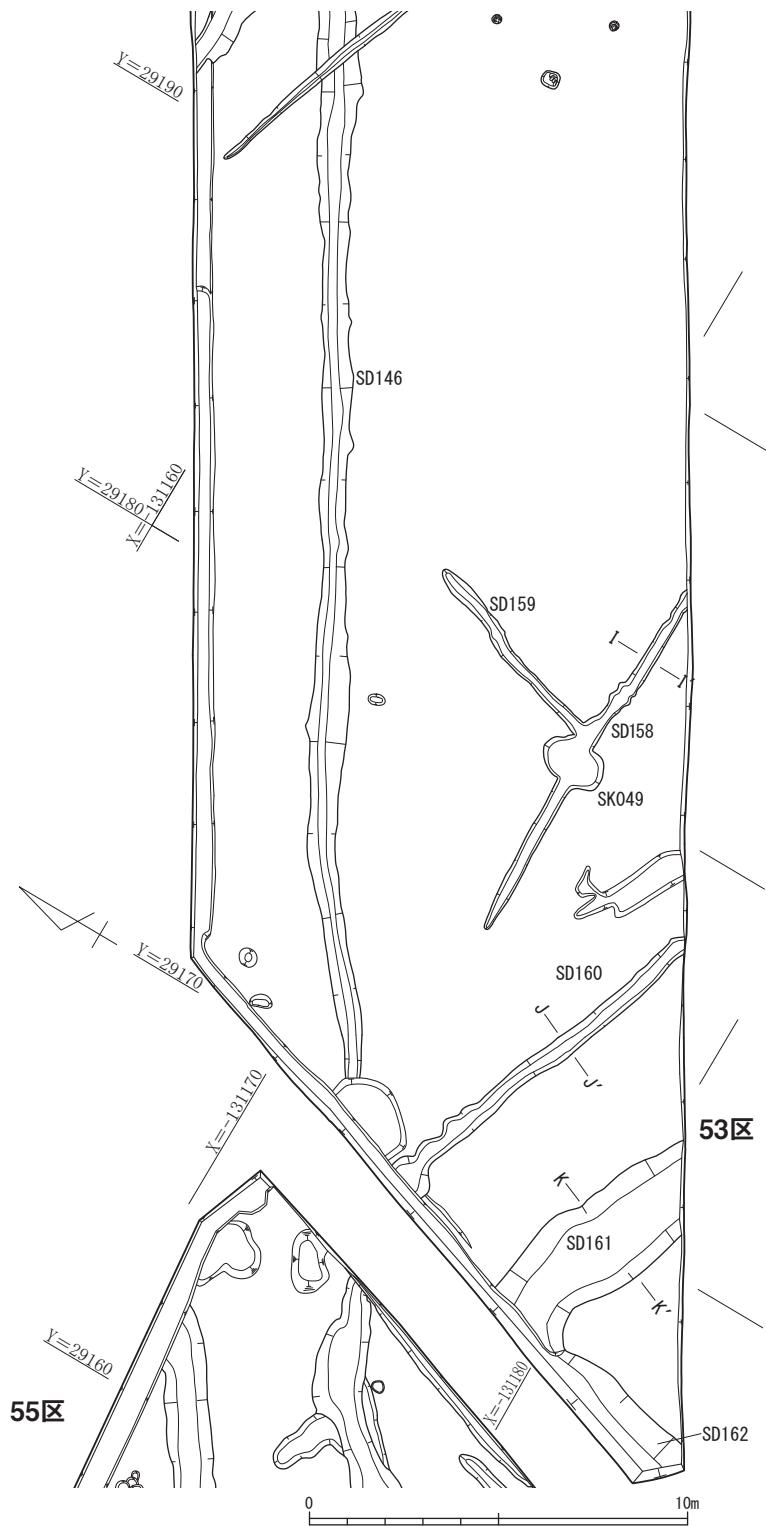


1. 黒褐 シルト質極細砂
2. 暗褐 シルト質極細砂
3. 褐 中砂混じり極細砂
4. 灰黄褐 シルト質極細砂



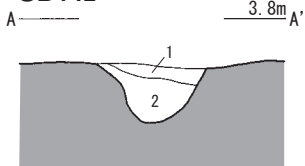


東半部 下層・上層遺構配置



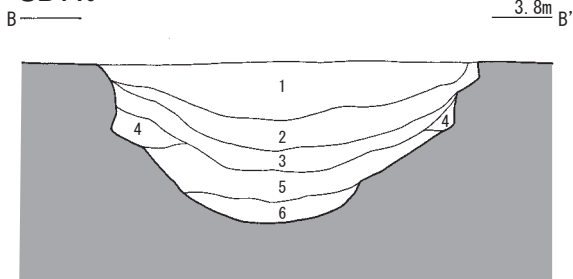
西半部 遺構配置

SD142



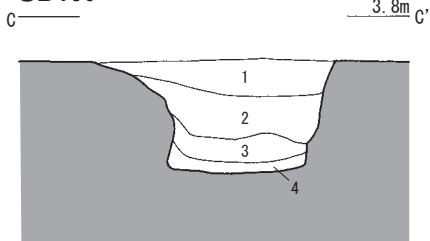
1. 灰黄褐 極細砂
2. 灰黄褐 シルト質極細砂

SD146



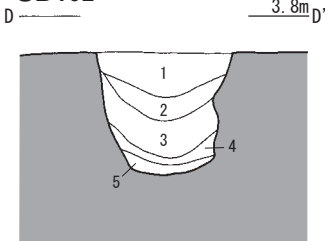
1. 褐灰 極細砂 (Mn含)
2. 灰黄褐 中砂~細砂
3. 褐灰 中砂~極細砂
4. にぶい黄褐 シルト質極細砂
5. 褐灰 中砂~極細砂
6. 灰黄褐 細砂~中砂 (ラミナ)

SD150



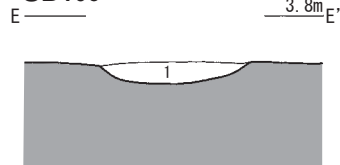
1. にぶい黄褐 極細砂
2. 褐 極細砂
3. 灰黄褐 極細砂
4. 褐灰 細砂~極細砂

SD152



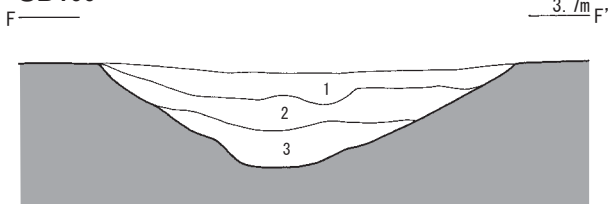
1. 灰黄褐 極細砂
2. 褐灰 極細砂
3. 黄褐 極細砂 (褐灰極細砂混じる)
4. 黄褐 細砂混じり極細砂
5. 灰黄褐 細砂

SD153



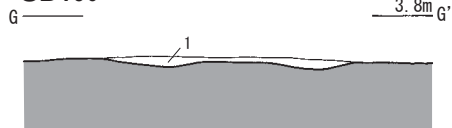
1. 褐灰 極細砂 (Mn含)

SD155



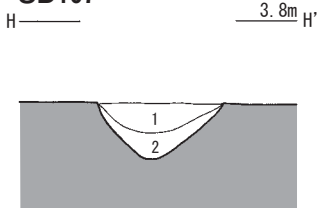
1. にぶい黄褐 極細砂~細砂 (Fe₂O₃・Mn含)
2. 黒褐 シルト質極細砂
3. 褐灰 中砂~粗砂 (ラミナ)

SD156



1. 黒褐 細砂~極細砂

SD157



1. 灰黄褐 極細砂
2. 褐灰 細砂~極細砂

SD158



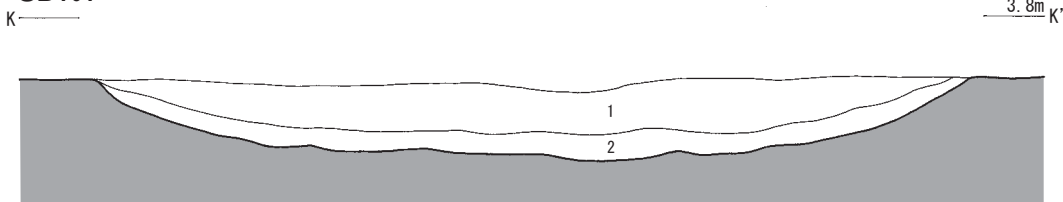
1. 灰黄褐 シルト質極細砂

SD160

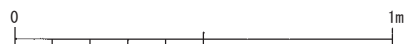


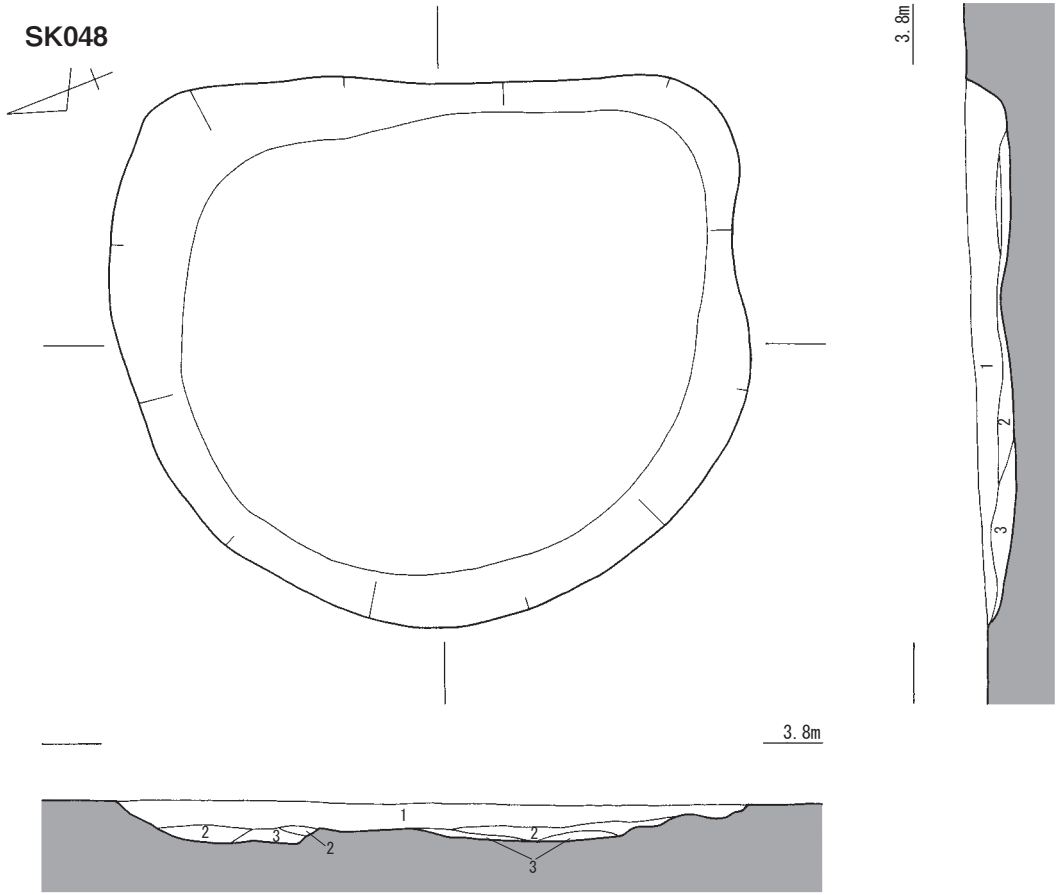
1. 褐灰 細砂 (炭混じる)
2. 褐灰 細砂~極細砂

SD161

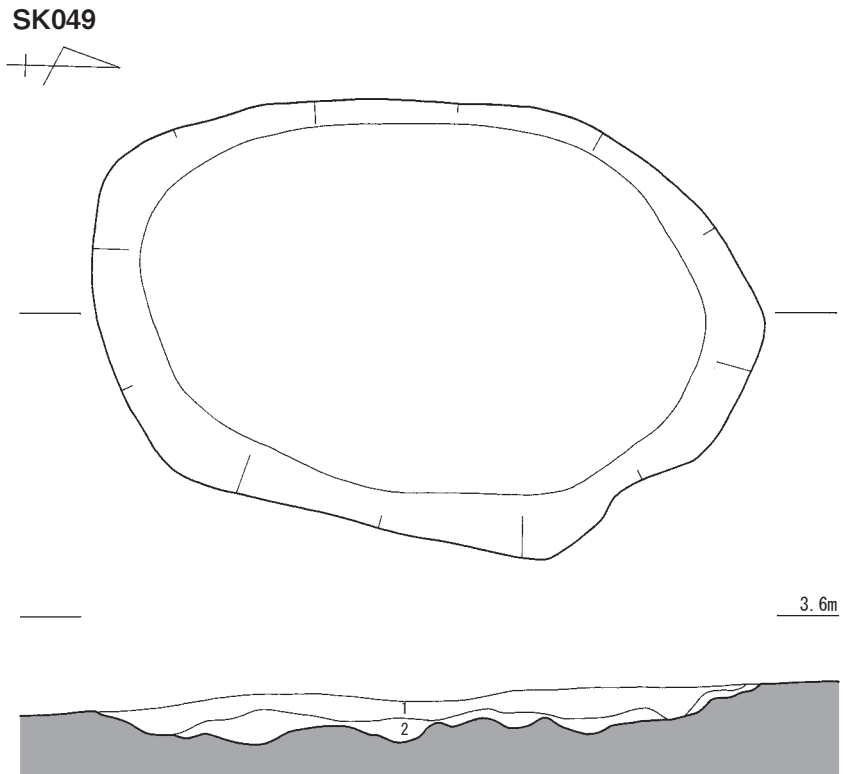


1. 暗灰黄 細砂
2. 灰黄褐 極細砂~粗砂 (ラミナ Fe₂O₃底部に沈着)

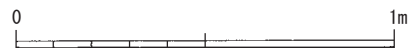


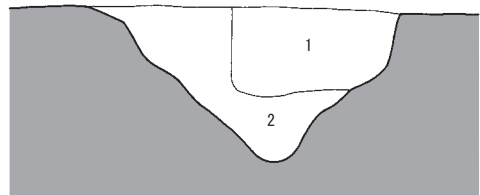
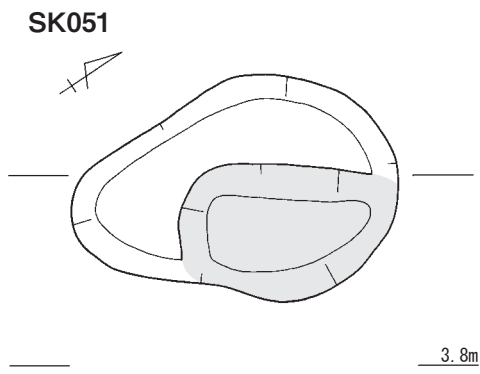


1. 褐灰 シルト質極細砂
2. 褐灰 シルト質極細砂 (浅黄橙シルト粒混じる)
3. 褐灰 シルト質極細砂 (浅黄橙シルト粒・基盤層シルト混じる)

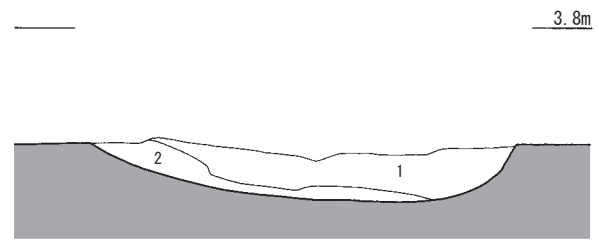
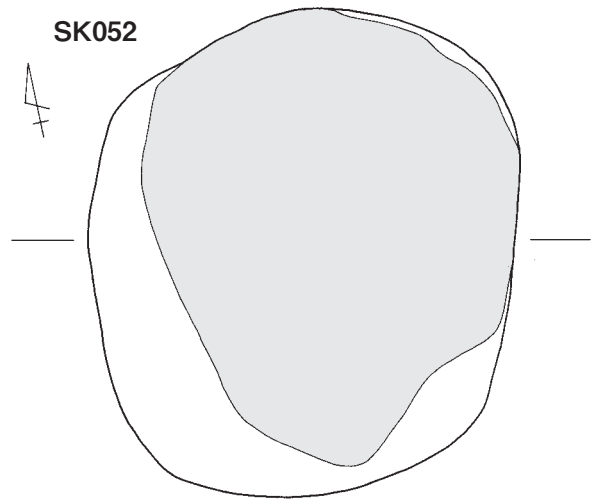


1. 灰黄褐 細砂 (Mn 含)
2. 明黄褐 シルト質極細砂 (灰黄褐細砂粒混じる)

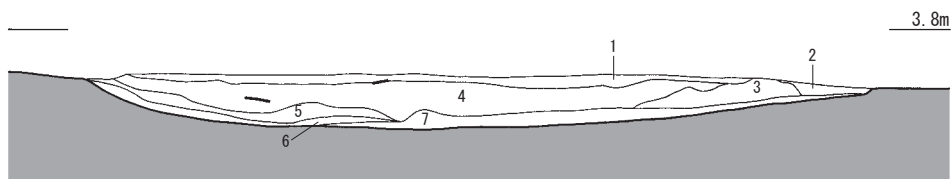
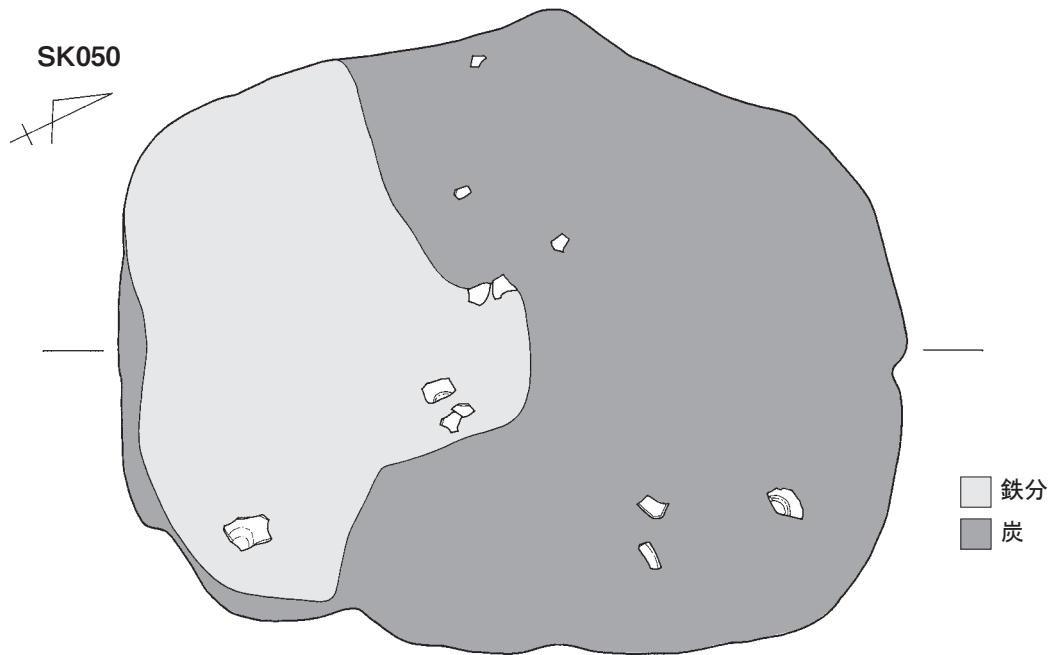




- 1. 褐 極細砂 (粗砂・鉄滓含)
- 2. にぶい黄 シルト質極細砂



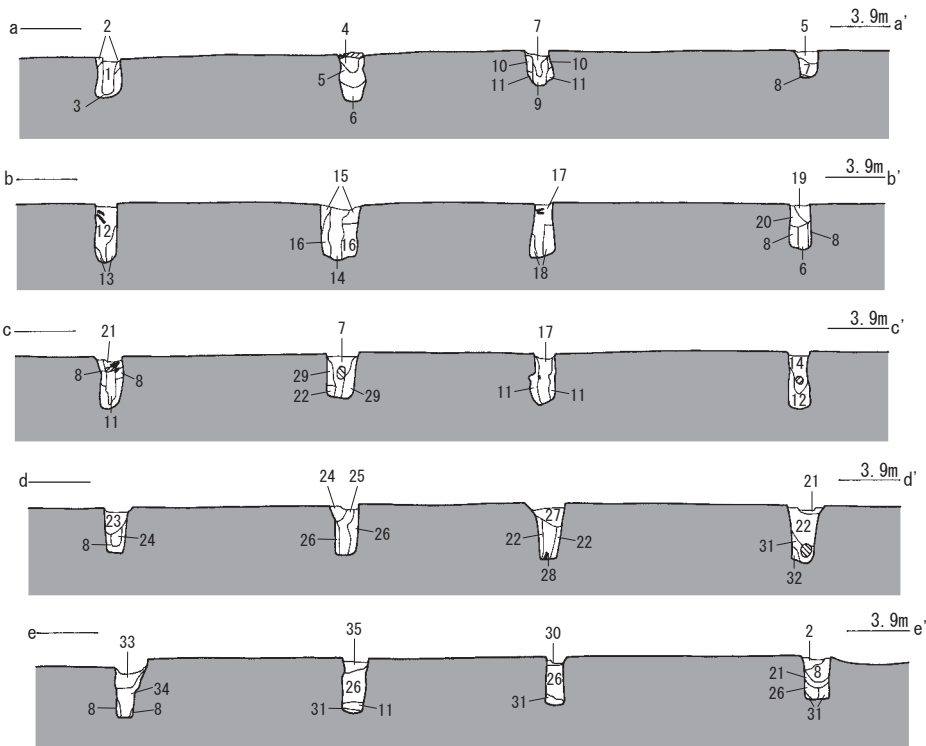
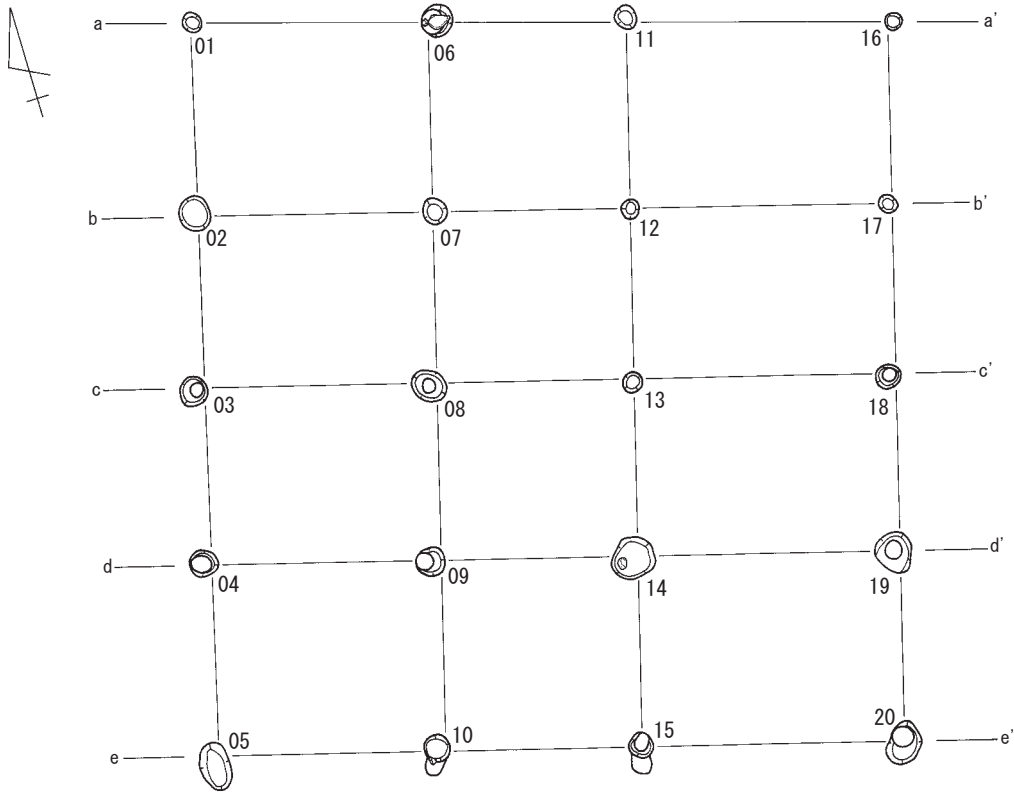
- 1. 褐 極細砂 (粗砂・鉄滓含)
- 2. にぶい黄 シルト質極細砂



- 1. 褐灰 シルト質極細砂
- 2. 灰白 シルト質極細砂 (黄灰シルト・鉄分多く混じる)
- 3. 褐灰 シルト質極細砂 (炭混じる)
- 4. 灰白 シルト質極細砂
- 5. 褐 極細砂 (細砂・鉄滓含・鉄分が多い)
- 6. 灰オリーブ シルト質極細砂
- 7. 炭



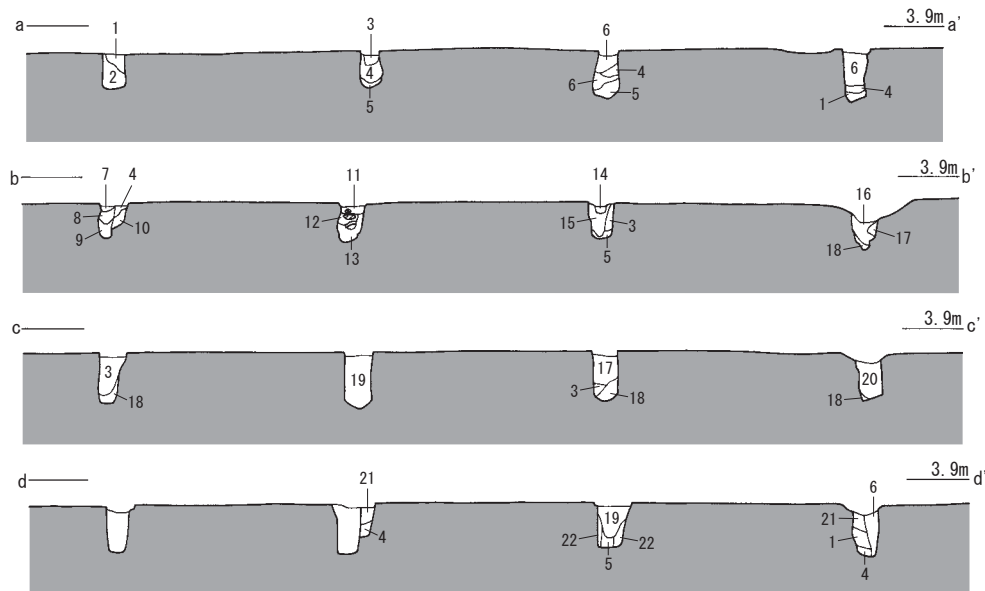
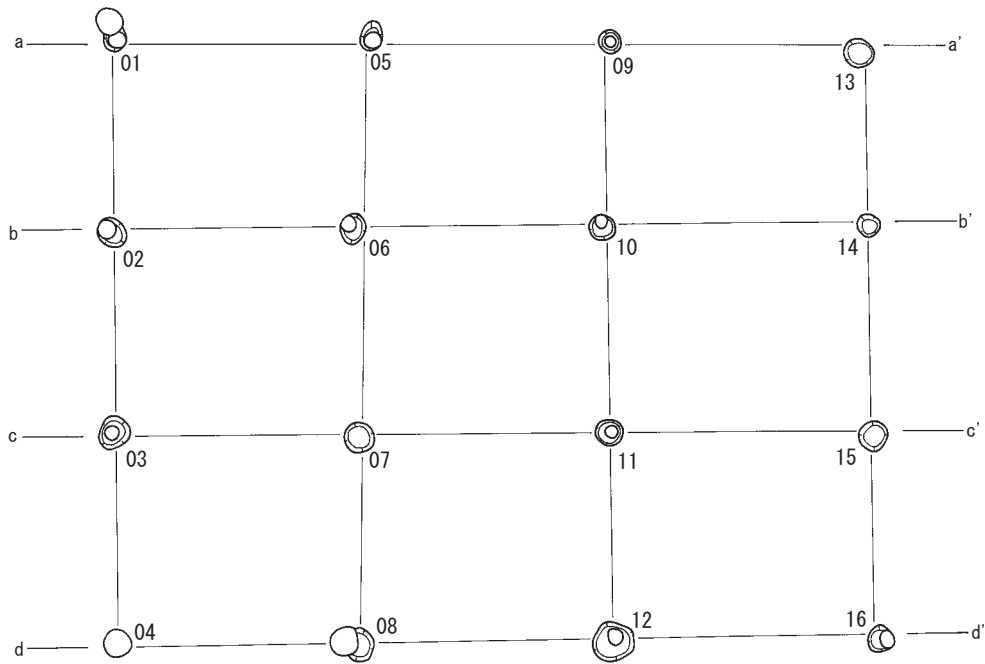
SB065



- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) | 12. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒・粗砂・炭含) | 23. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒・炭含) |
| 2. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 | 13. 黄灰 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒含) | 24. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) |
| 3. 灰黄 シルト質極細砂 | 14. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭含) | 25. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) |
| 4. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 | 15. 浅黄 シルト質極細砂 | 26. にぶい黄 シルト質極細砂 |
| 5. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含) | 16. 灰黄 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒含) | 27. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) |
| 6. 黄灰 シルト質極細砂 (炭含) | 17. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭含) | 28. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 |
| 7. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) | 18. 灰白 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒含) | 29. 黄灰 シルト質極細砂 |
| 8. 灰黄 シルト質極細砂 | 19. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭含) | 30. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 |
| 9. 灰白 シルト質極細砂～極細砂 | 20. 浅黄 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒含) | 31. 黒褐 シルト質極細砂 |
| 10. 灰オリーブ シルト質極細砂 | 21. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 | 32. 褐灰 シルト質極細砂 |
| 11. 灰白 シルト質極細砂 | 22. 黄灰 シルト質極細砂 (炭含) | 33. 灰 シルト質極細砂 |
| | | 34. 灰黄 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含) |
| | | 35. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (細砂・炭含) |

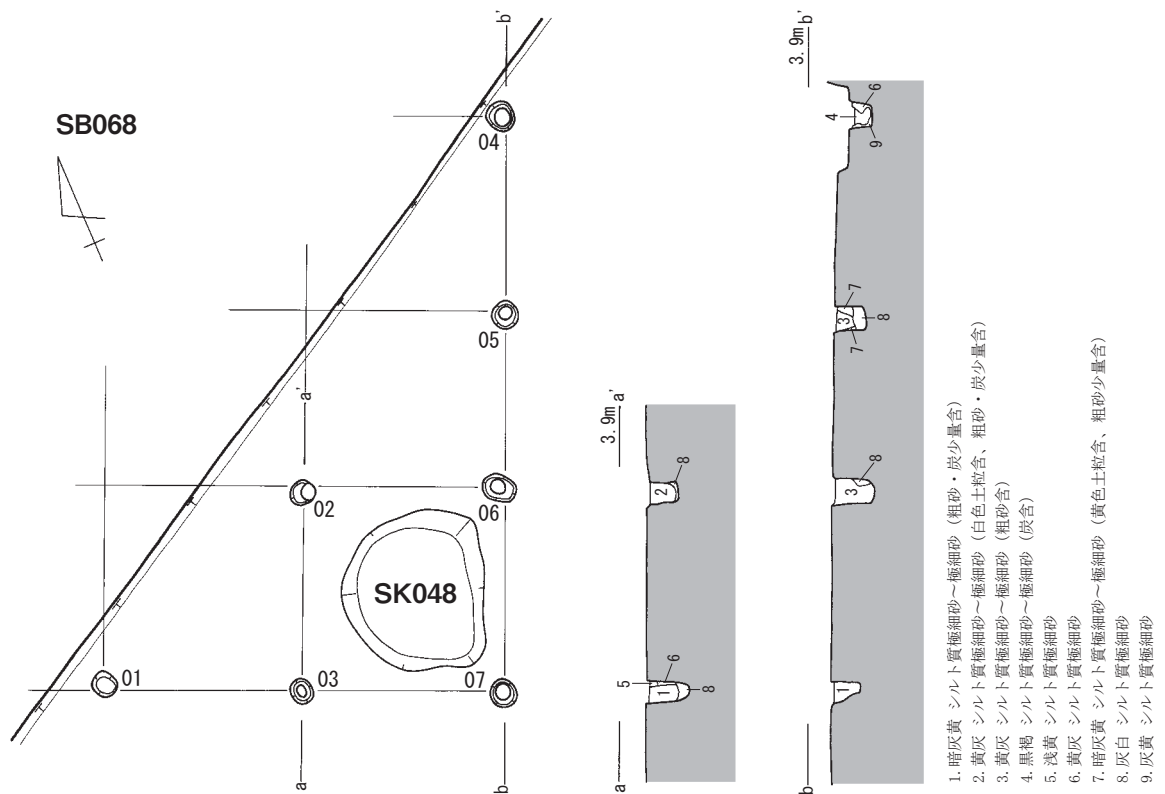
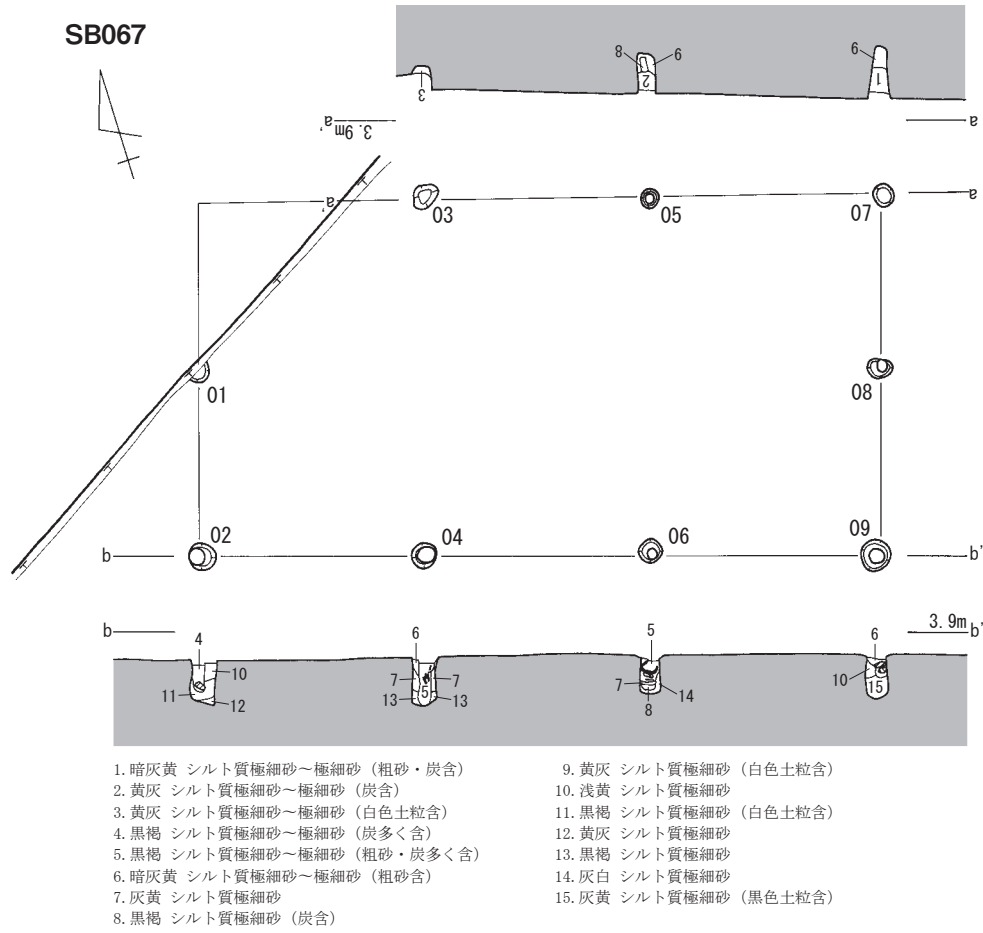
掘立柱建物 SB065

SB066

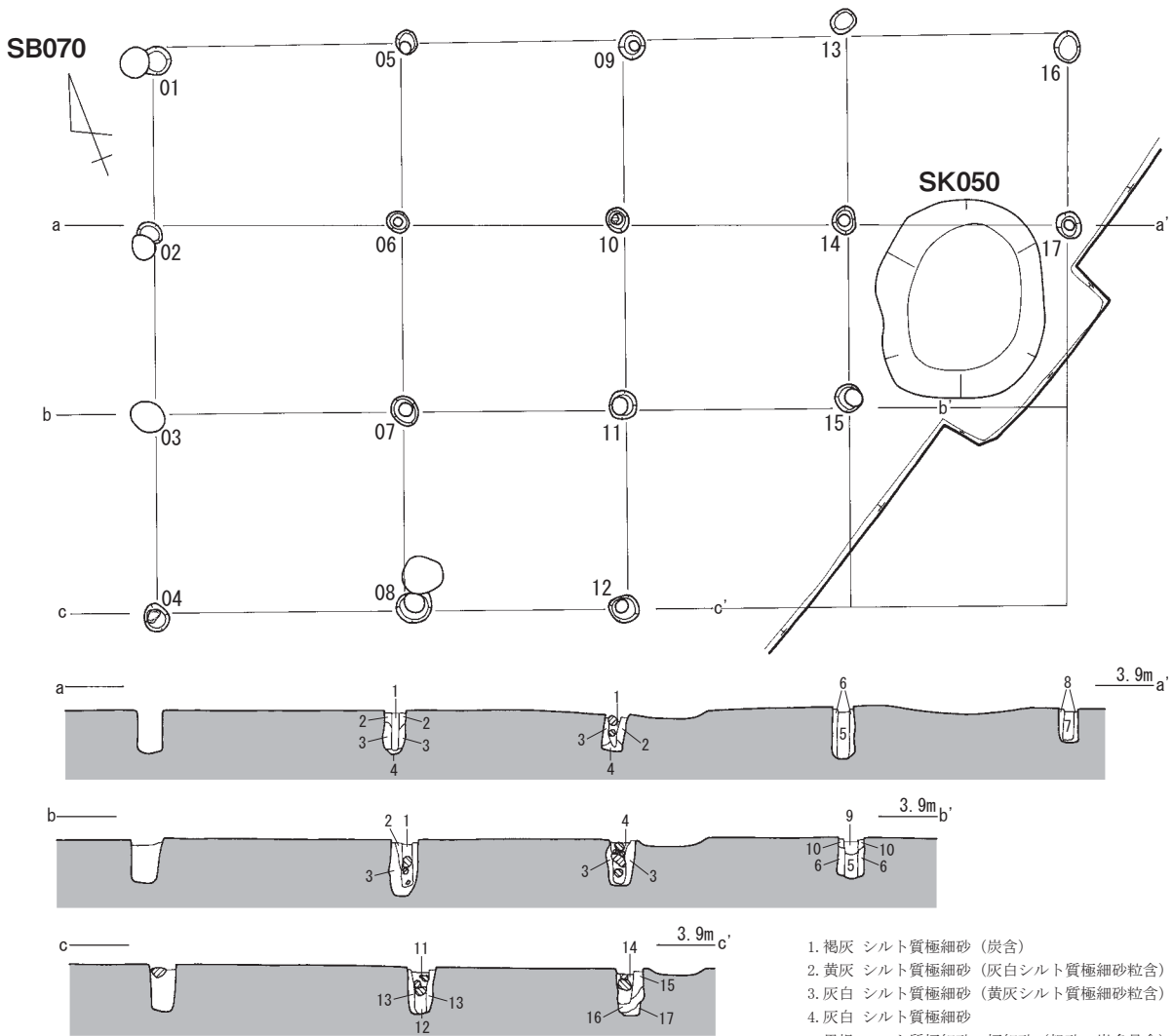


- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂 | 12. 黒褐 シルト質極細砂 (炭含) |
| 2. 灰黄 シルト質極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒含) | 13. 黄灰 シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒含) |
| 3. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) | 14. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭含) |
| 4. 灰黄 シルト質極細砂 | 15. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含) |
| 5. 黄灰 シルト質極細砂 | 16. 黄灰 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒・炭含) |
| 6. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (炭含) | 17. 浅黄 シルト質極細砂 |
| 7. 黄灰 シルト質極細砂 (粗砂・炭含) | 18. 灰白 シルト質極細砂 |
| 8. 明黄褐 シルト質極細砂 | 19. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含) |
| 9. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂含) | 20. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 |
| 10. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (灰白シルト質極細砂粒・粗砂含) | 21. にぶい黄 シルト質極細砂 |
| 11. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂含) | 22. 灰オリーブ シルト質極細砂 |

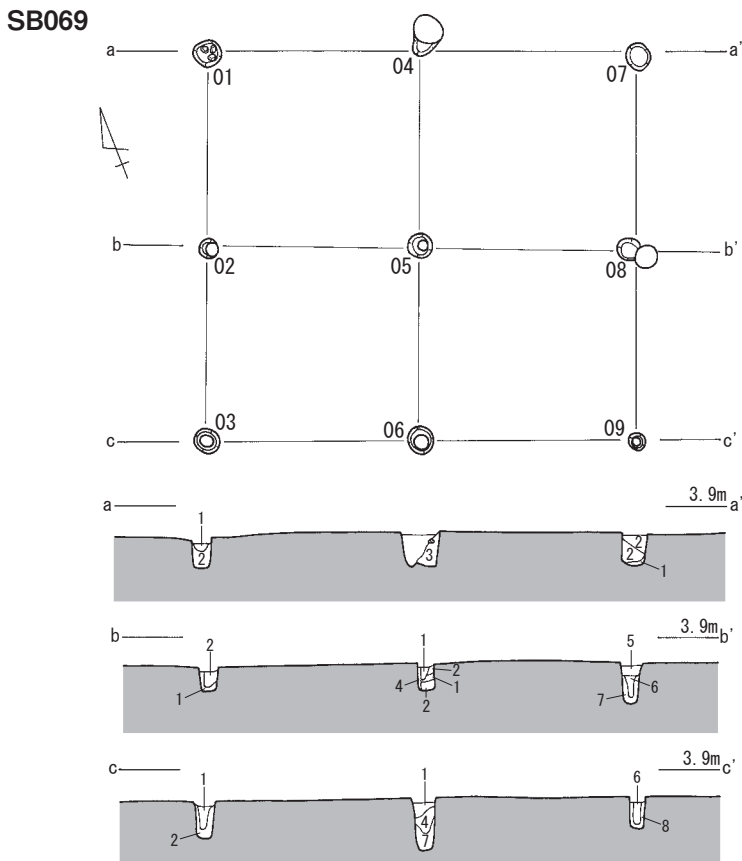




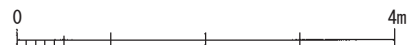
掘立柱建物 SB067・SB068

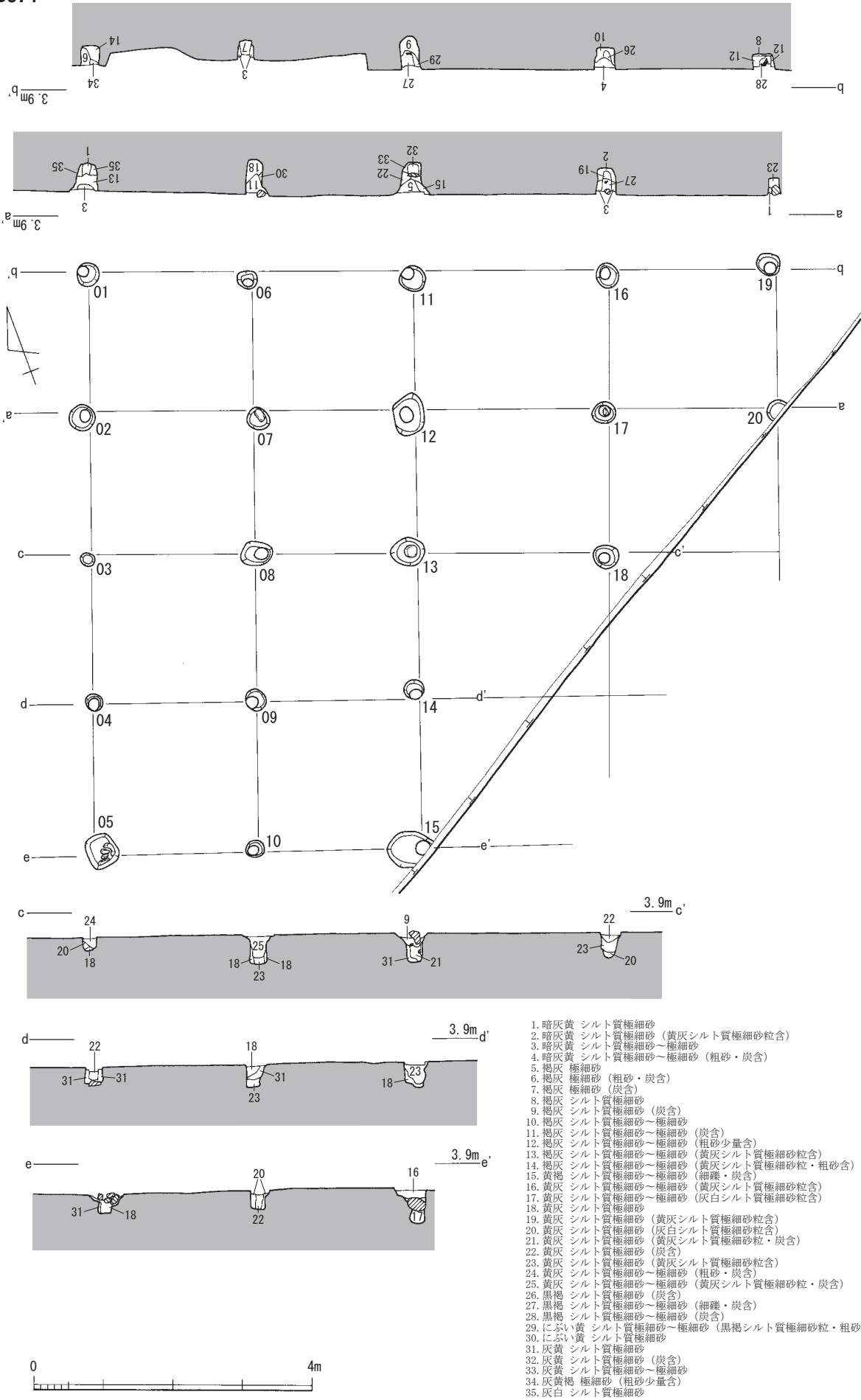


1. 褐灰 シルト質極細砂 (炭含)
2. 黄灰 シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒含)
3. 灰白 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
4. 灰白 シルト質極細砂
5. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭多量含)
6. 浅黄 シルト質極細砂
7. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭多量含)
8. にぶい黄 シルト質極細砂
9. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭多量含)
10. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (粗砂少量含)
11. 暗灰黄 極細砂 (炭少量含)
12. 暗灰黄 シルト質極細砂 (炭少量含)
13. 黄灰 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
14. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
15. 黄灰 極細砂
16. 暗灰黄 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
17. 黄灰 シルト質極細砂



1. 黄灰 シルト質極細砂
2. 黄灰 シルト質極細砂 (白色土粒含)
3. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂 (白色土粒・粗砂含)
4. 灰白 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
5. 灰白 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂含)
6. 褐灰 シルト質極細砂
7. 灰白 シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂少量含)
8. 褐灰 シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂含)





1. 暗灰シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
2. 暗灰シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
3. 暗灰シルト質極細砂～極細砂
4. 暗灰シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭含)
5. 褐灰 極細砂
6. 褐灰 極細砂 (粗砂・炭含)
7. 褐灰 極細砂 (炭含)
8. 褐灰シルト質極細砂 (炭含)
9. 褐灰シルト質極細砂 (炭含)
10. 褐灰シルト質極細砂～極細砂
11. 褐灰シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
12. 褐灰シルト質極細砂～極細砂 (粗砂少量含)
13. 褐灰シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
14. 褐灰シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒・粗砂含)
15. 黄褐シルト質極細砂～極細砂 (細礫・炭含)
16. 黄灰シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
17. 黄灰シルト質極細砂～極細砂 (灰白シルト質極細砂粒含)
18. 黄灰シルト質極細砂
19. 黄灰シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
20. 黄灰シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒含)
21. 黄灰シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
22. 黄灰シルト質極細砂 (炭含)
23. 黄灰シルト質極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒含)
24. 黄灰シルト質極細砂～極細砂 (粗砂・炭含)
25. 黄灰シルト質極細砂～極細砂 (黄灰シルト質極細砂粒・炭含)
26. 黒褐シルト質極細砂 (炭含)
27. 黒褐シルト質極細砂～極細砂 (細礫・炭含)
28. 黒褐シルト質極細砂～極細砂 (炭含)
29. にぶい黄シルト質極細砂～極細砂 (黒褐シルト質極細砂粒・粗砂含)
30. にぶい黄シルト質極細砂
31. 灰黄シルト質極細砂
32. 灰黄シルト質極細砂 (炭含)
33. 灰黄シルト質極細砂～極細砂
34. 灰黄褐 極細砂 (粗砂少量含)
35. 灰白シルト質極細砂

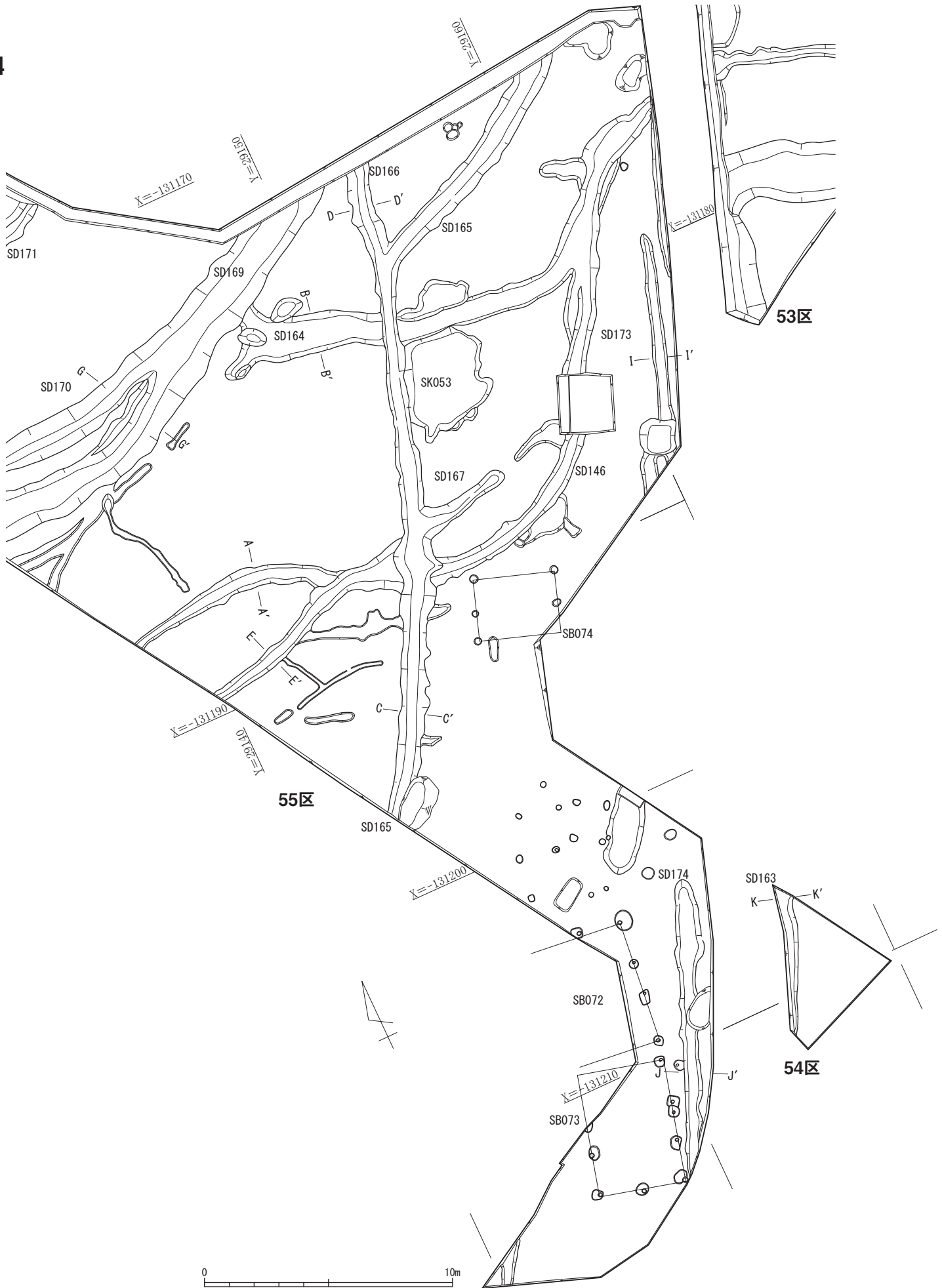
掘立柱建物 SB071

图版
154

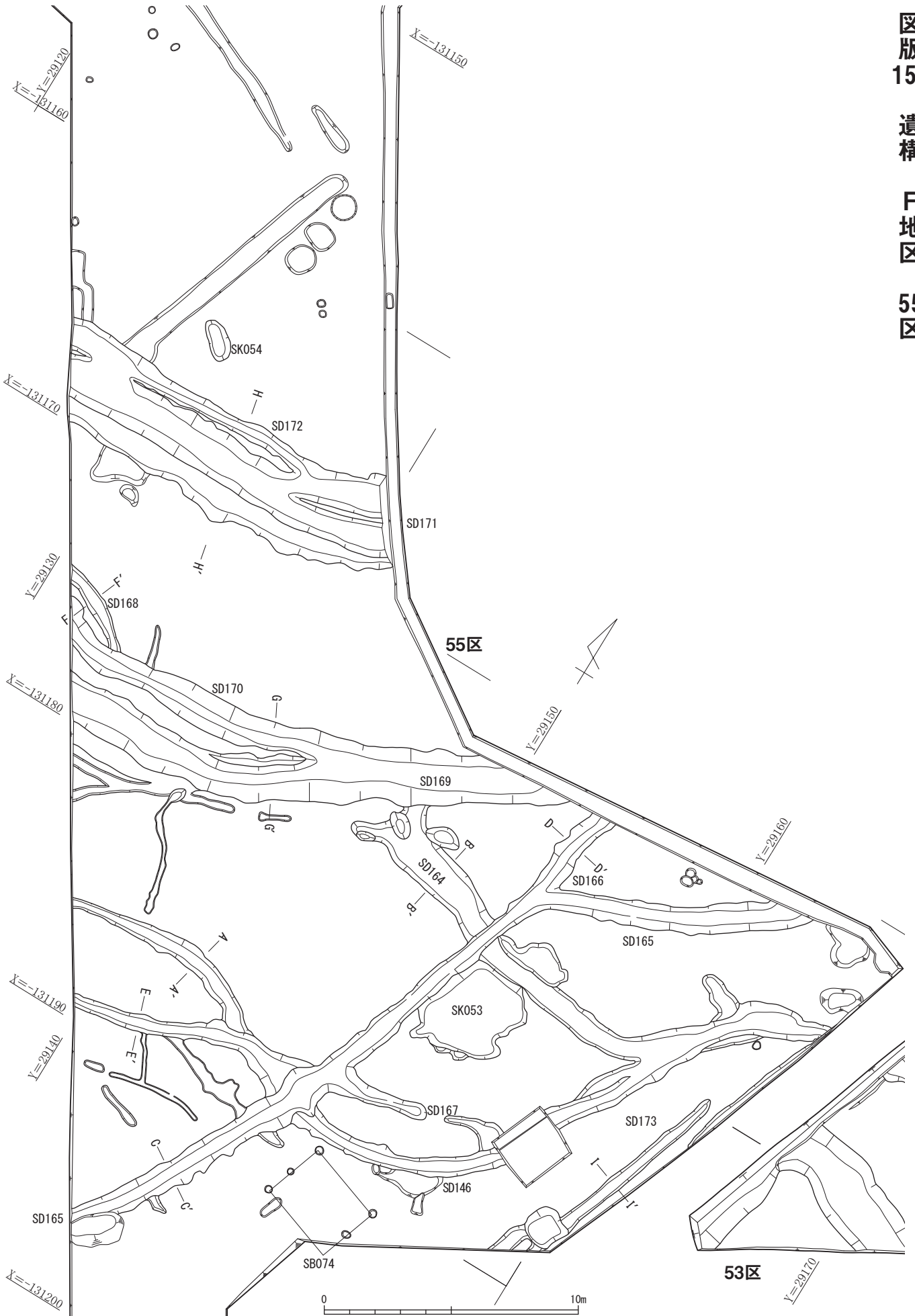
遺構

F地区

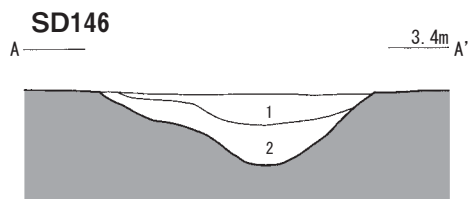
54・55区



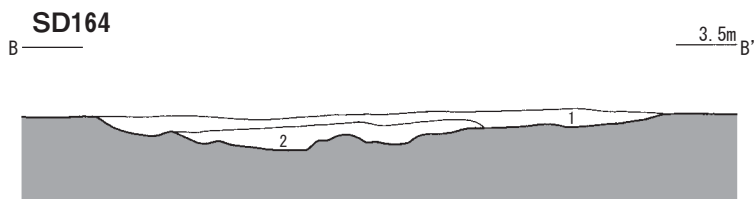
遺構配置



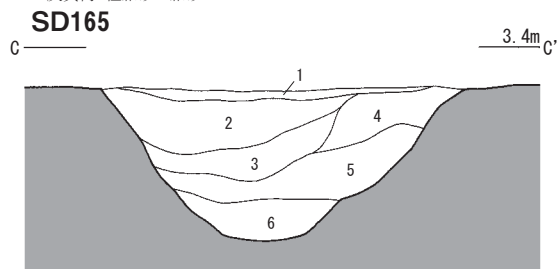
遺構配置



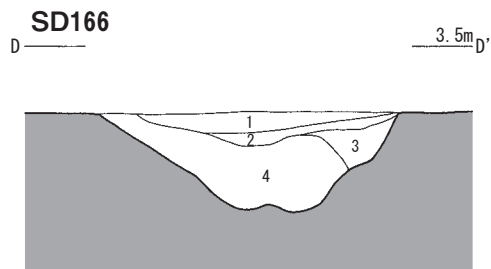
1. 暗灰黄 極細砂(Mn含)
2. 灰黄褐 極細砂~細砂



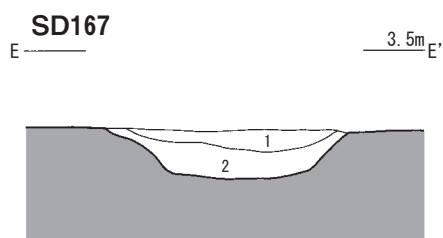
1. 灰黄褐 細礫(極細砂混じる・Mn含)
2. にぶい黄褐 細砂~中砂(Fe₂O₃含)



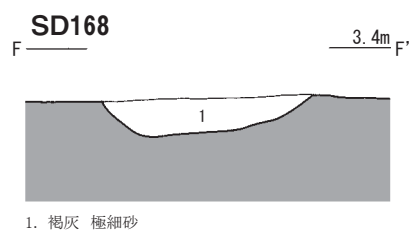
- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 灰黄褐 極細砂(Mn含) | 4. 褐灰 極細砂 |
| 2. 黄灰 極細砂 | 5. 灰黄褐 極細砂(基盤層ブロック含) |
| 3. 暗褐 極細砂 | 6. 褐灰 極細砂~細砂 |



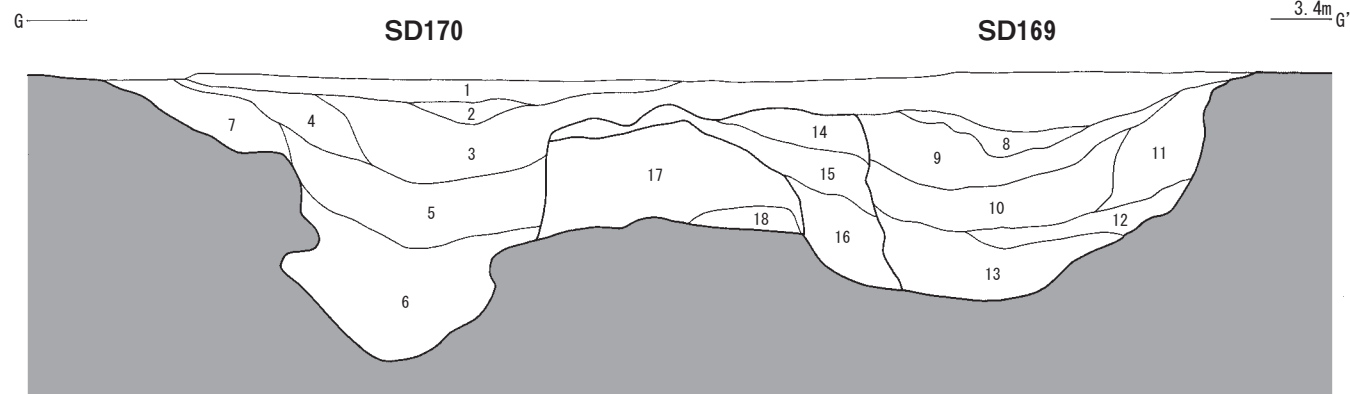
- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 褐灰 極細砂(細礫混じる・Mn含) | 3. 褐灰 細砂 |
| 2. 明黄褐 細砂 | 4. 明灰黄 細砂 |



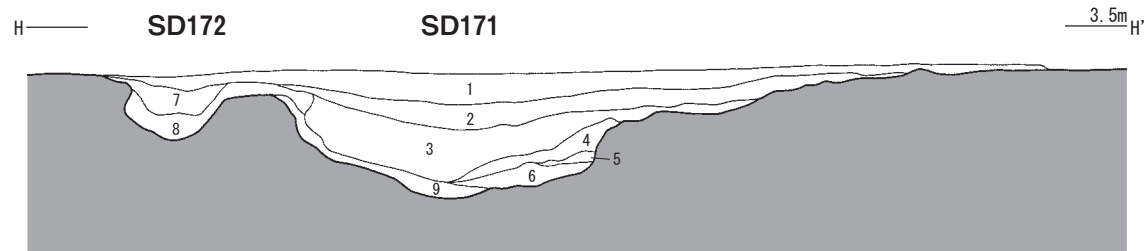
1. 暗灰黄 極細砂~細砂(Mn含)
2. 灰黄褐 細砂



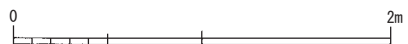
1. 褐灰 極細砂



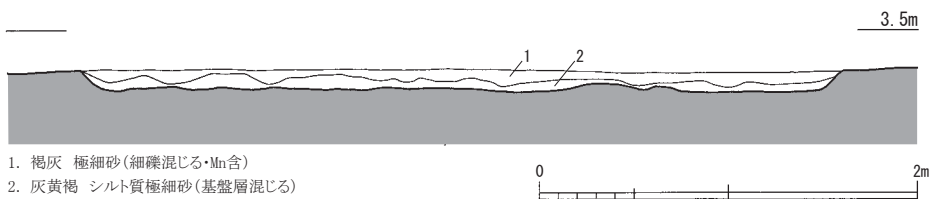
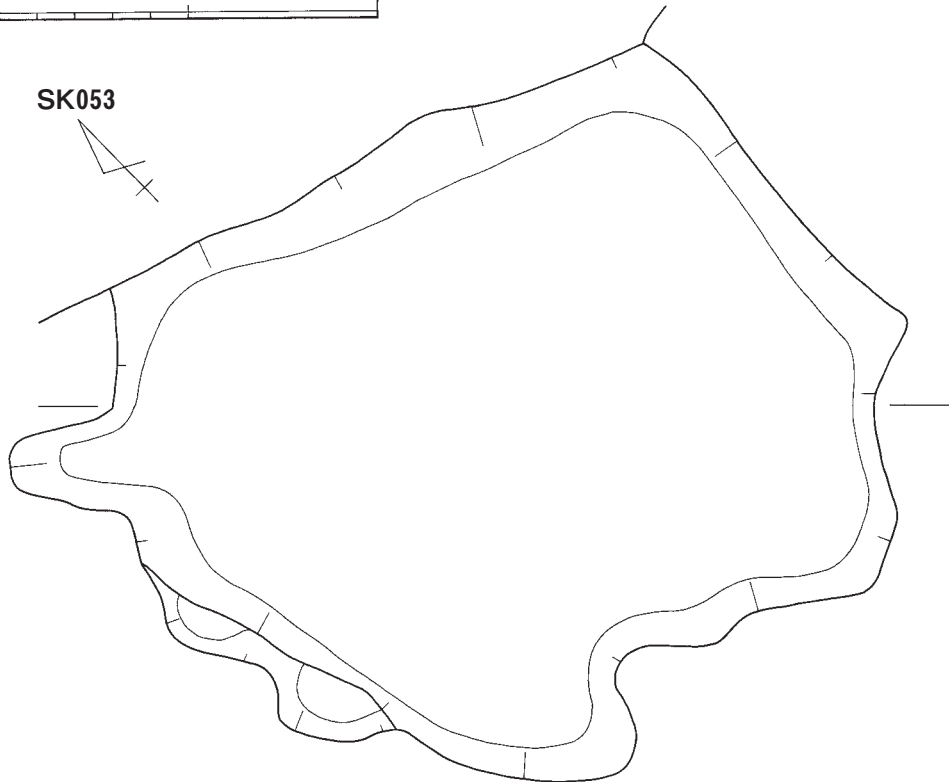
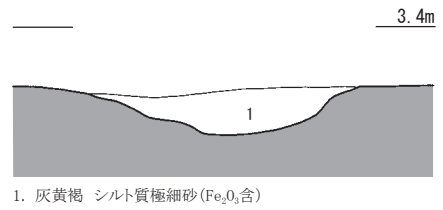
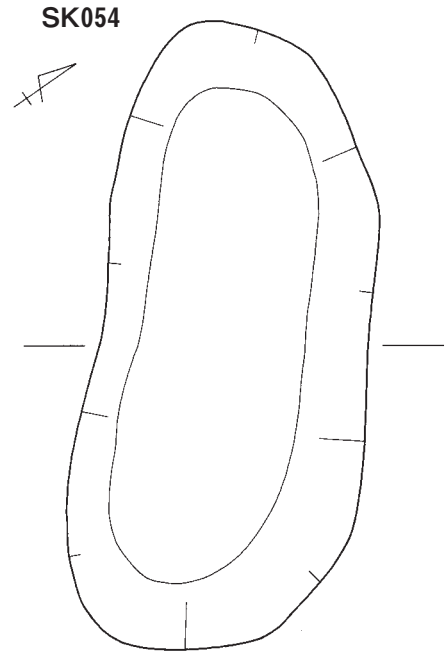
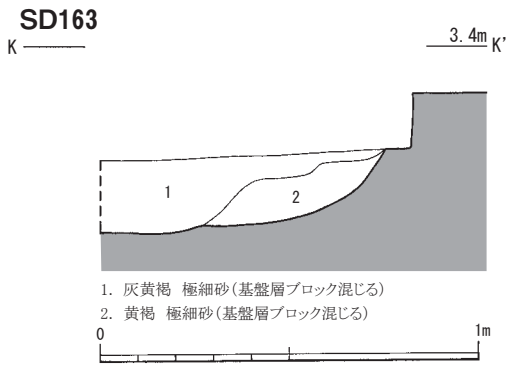
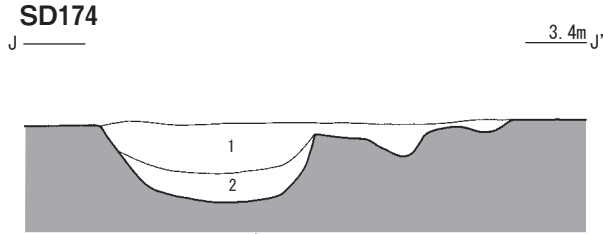
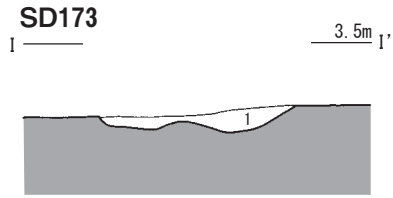
- | | | |
|----------------------------|-------------------|------------------------------|
| 1. 褐灰 極細砂~細砂(細礫・Mn混じる) | 7. 褐灰 シルト質極細砂 | 13. 暗褐 極細砂~中砂(ラミナ) |
| 2. 灰黄褐 中砂 | 8. 暗褐 中砂 | 14. 灰黄褐 細砂 |
| 3. 褐灰 極細砂 | 9. 褐灰 細砂~極細砂 | 15. にぶい黄褐 極細砂~中砂(基盤層ブロック混じる) |
| 4. 灰黄褐 細砂(細礫混じる) | 10. 黒褐 シルト質極細砂 | 16. 暗褐 極細砂(基盤層ブロック混じる) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂 | 11. 黒褐 極細砂(細礫混じる) | 17. 黒褐 極細砂 |
| 6. 黒 シルト質極細砂(基盤層ブロック・炭混じる) | 12. 黒褐 粗砂~細砂(ラミナ) | 18. 褐灰 中砂 |

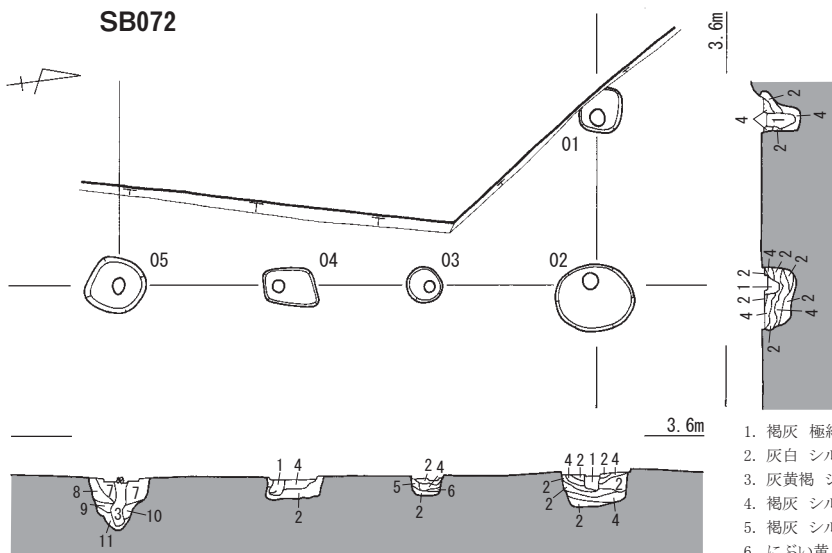


- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1. 灰黄褐 極細砂(細礫~粗砂混じる) | 6. 褐灰 細礫~細砂(ラミナ) |
| 2. 暗褐 シルト質極細砂 | 7. 灰黄褐 細砂(ラミナ) |
| 3. 灰黄褐 細砂~中砂(ラミナ) | 8. 黒褐 極細砂 |
| 4. 黒褐 シルト質極細砂 | 9. 褐灰 細砂 |
| 5. 灰白 シルト質極細砂(基盤層ブロック混じる) | |



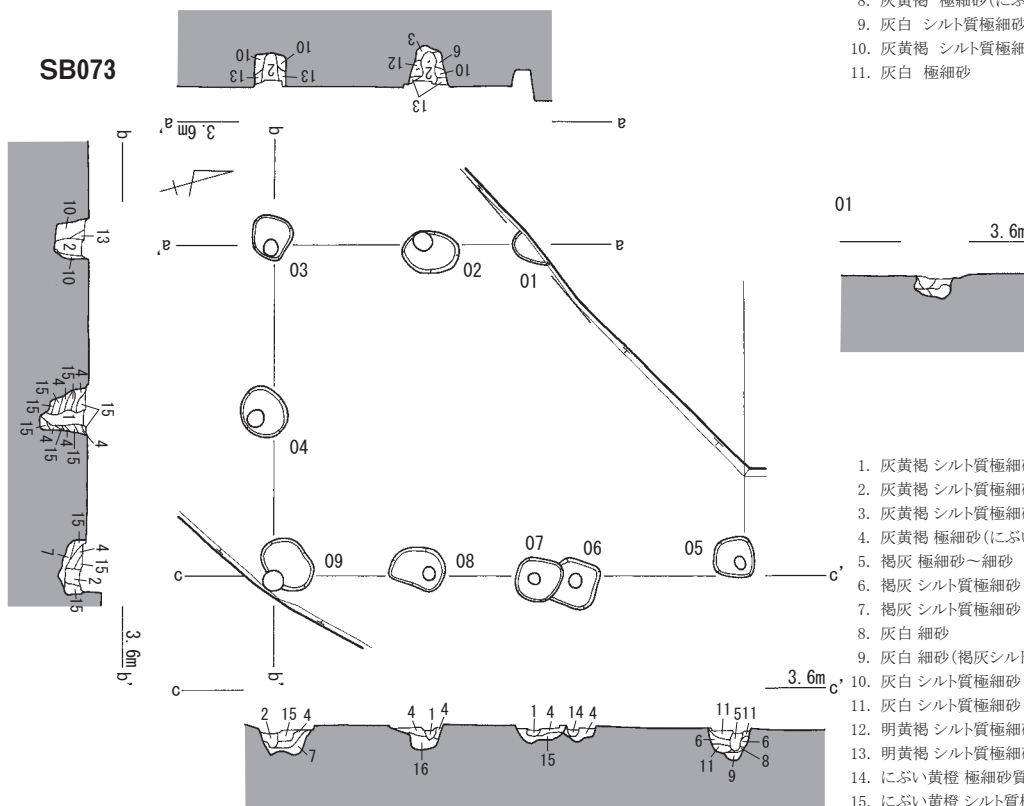
溝 SD146・SD164～SD172 土層断面





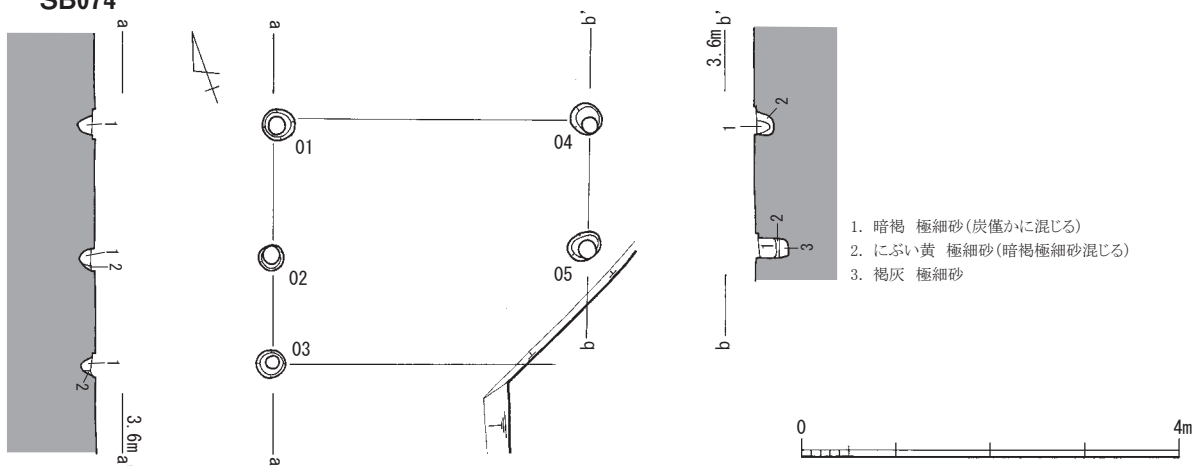
1. 褐灰 極細砂～細砂
2. 灰白 シルト質極細砂(褐灰シルト質極細砂混じる)
3. 灰黄褐 シルト質極細砂(にぶい黄橙シルト混じる)
4. 褐灰 シルト質極細砂(灰白シルト質極細砂混じる)
5. 褐灰 シルト質極細砂
6. にぶい黄 極細砂
7. にぶい黄橙 シルト質極細砂(灰黄褐極細砂ブロック混じる)
8. 灰黄褐 極細砂(にぶい黄橙シルト質極細砂ブロック混じる)
9. 灰白 シルト質極細砂
10. 灰黄褐 シルト質極細砂
11. 灰白 極細砂

SB073

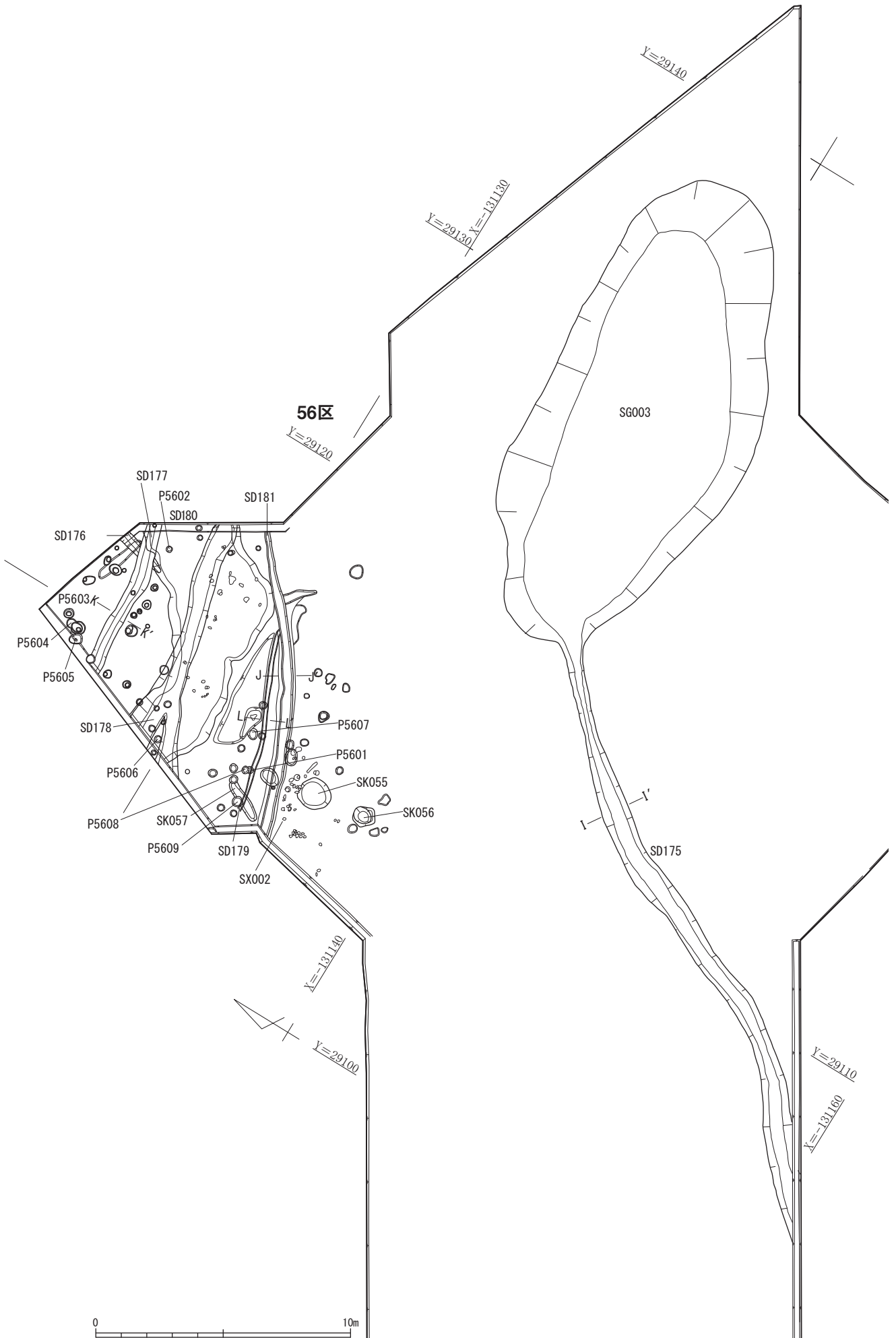


1. 灰黄褐 シルト質極細砂(にぶい黄橙シルトブロック混じる)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂(にぶい黄橙シルトブロック、炭混じる)
3. 灰黄褐 シルト質極細砂
4. 灰黄褐 極細砂(にぶい黄橙シルト質極細砂ブロック混じる)
5. 褐灰 極細砂～細砂
6. 褐灰 シルト質極細砂(灰白シルト質極細砂ブロック混じる)
7. 褐灰 シルト質極細砂
8. 灰白 細砂
9. 灰白 細砂(褐灰シルト質極細砂混じる)
10. 灰白 シルト質極細砂(灰黄褐シルト質極細砂混じる)
11. 灰白 シルト質極細砂(褐灰シルト質極細砂混じる)
12. 明黄褐 シルト質極細砂(炭混じる)
13. 明黄褐 シルト質極細砂(灰黄褐シルト質極細砂混じる)
14. にぶい黄橙 極細砂質シルト
15. にぶい黄橙 シルト質極細砂(極細砂ブロック混じる)

SB074

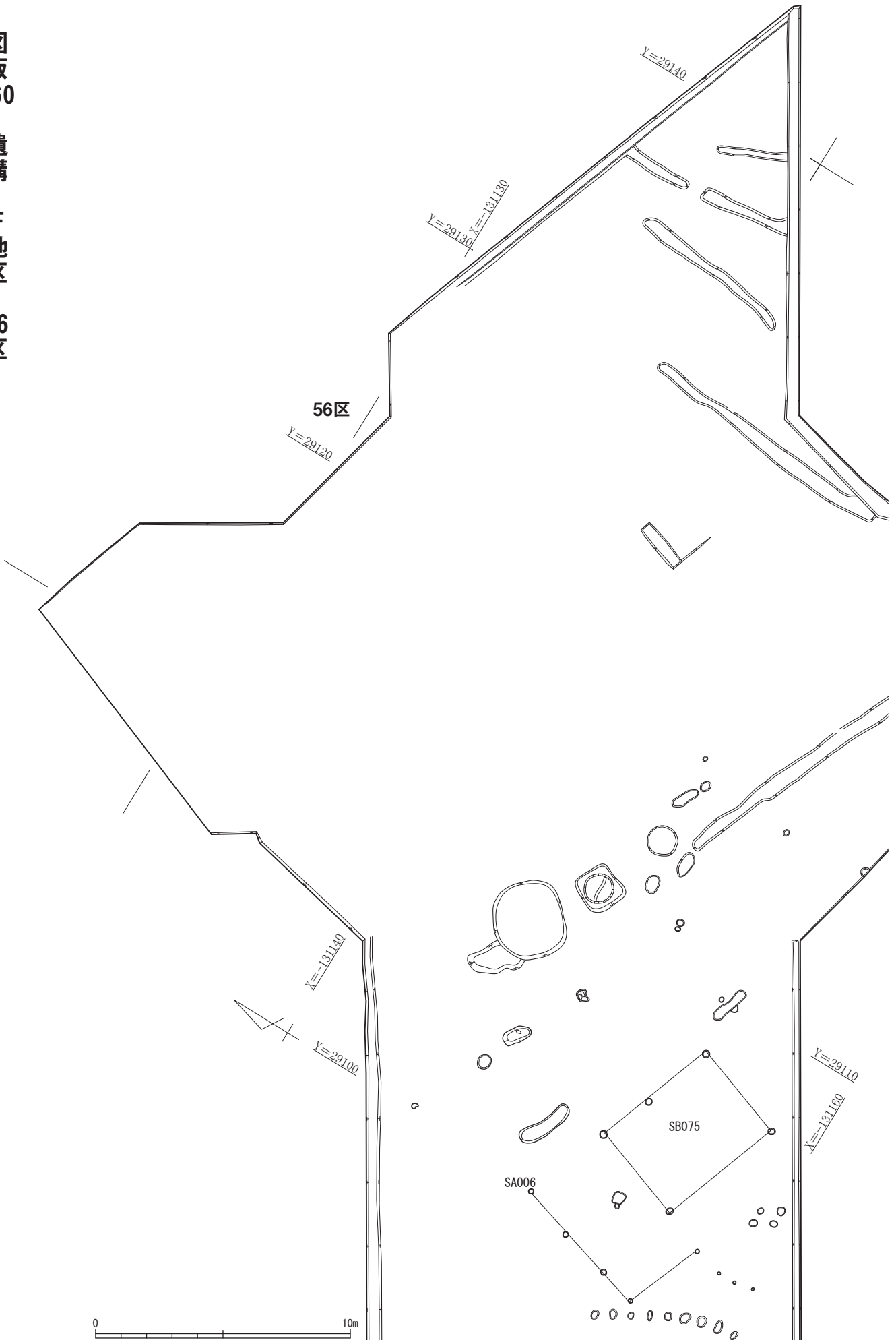


1. 暗褐 極細砂(炭僅かに混じる)
2. にぶい黄 極細砂(暗褐極細砂混じる)
3. 褐灰 極細砂

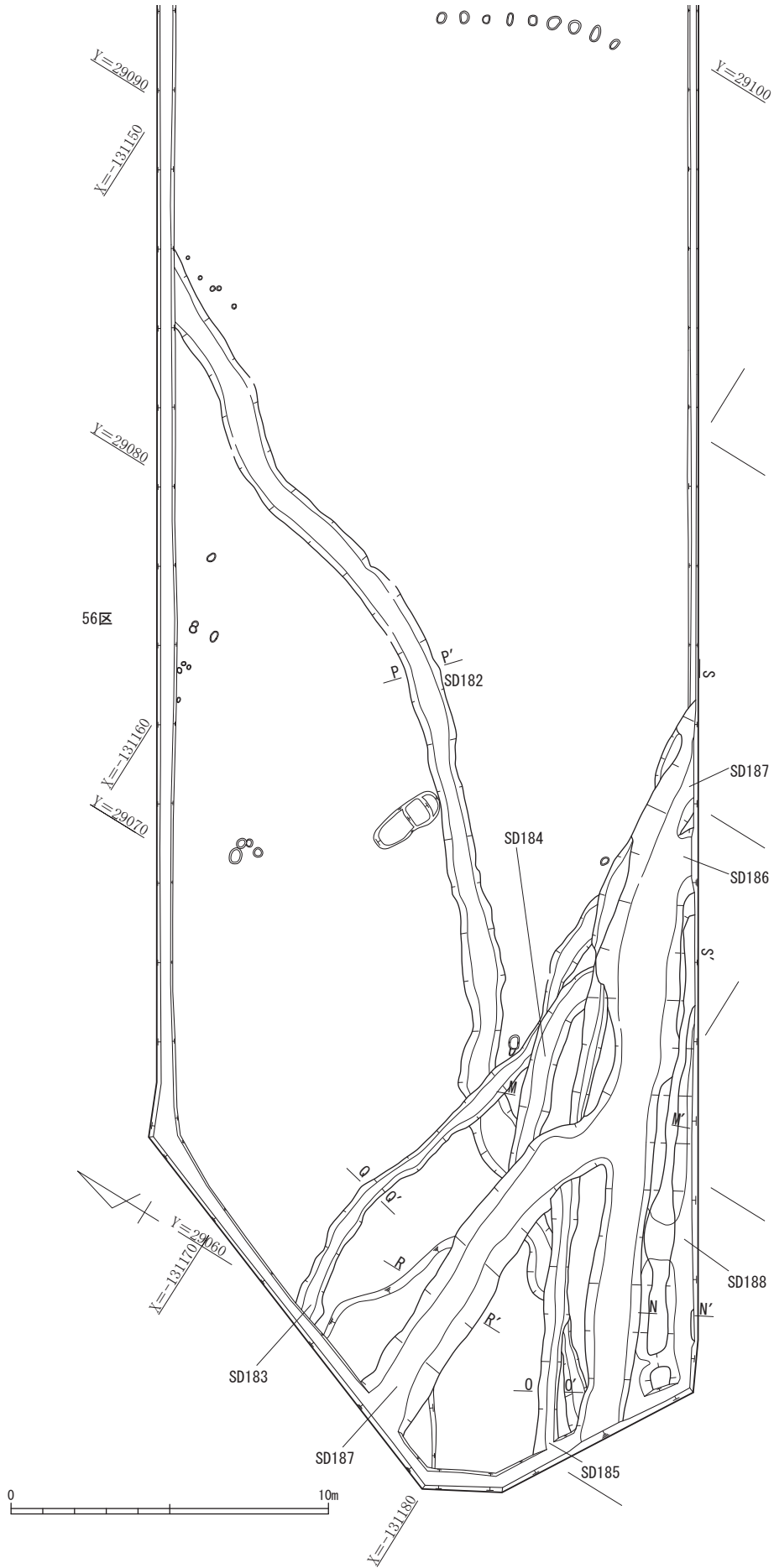


北半部 下層遺構配置

図版
160
遺構
F地区
56区

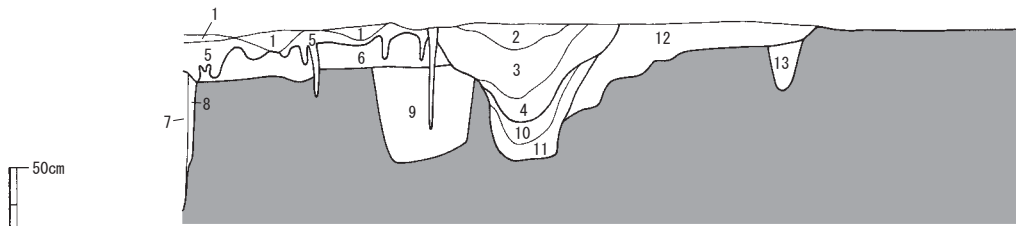


北半部 上層遺構配置

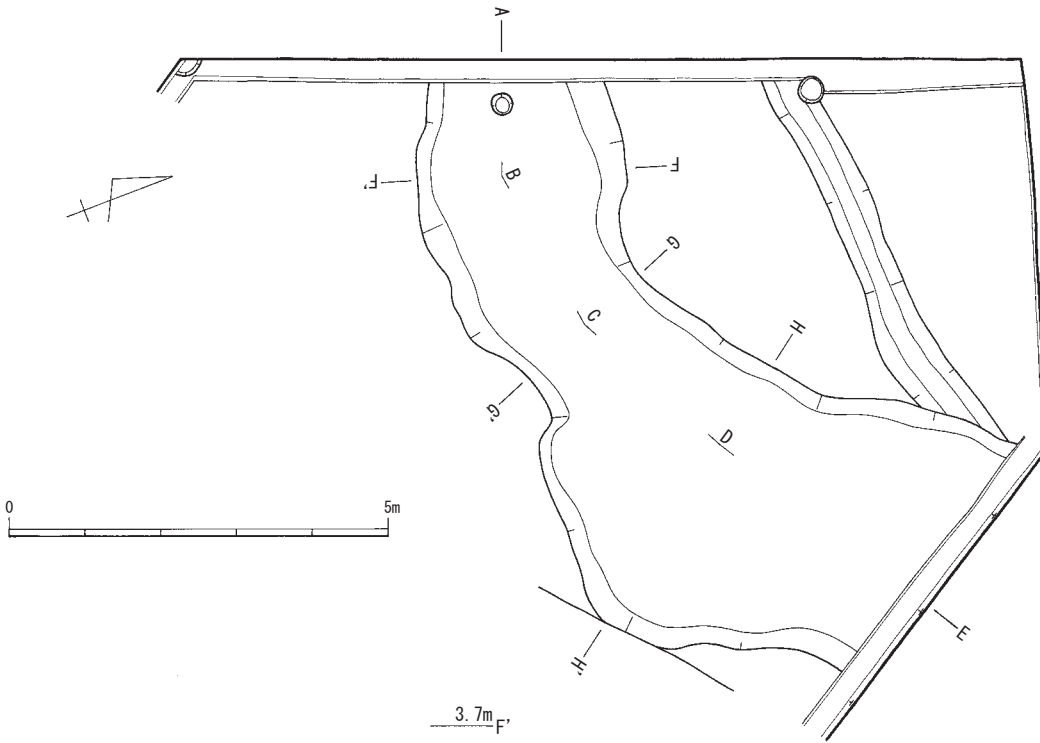


南半部 遺構配置

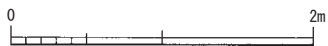
3.7m



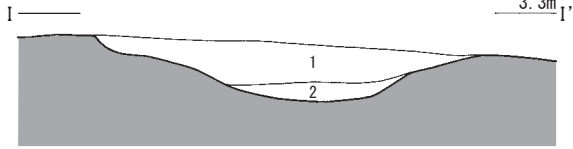
- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. [擾乱] | 8. 灰黄褐 極細砂(粗砂多く混じる)[柱穴] |
| 2. 暗灰黄 シルト質極細砂～極細砂(粗砂・細砂混じる) | 9. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂(粗砂～細砂混じる、炭含)[SD178] |
| 3. 黒 シルト質極細砂～極細砂(粗砂～細砂混じる、炭多く含) | 10. 黒灰黄 シルト質極細砂～極細砂(粗砂混じる、炭含) |
| 4. 黄灰 シルト質極細砂～極細砂(粗砂～細砂混じる、下部に炭多く含) | 11. 黒褐 シルト質極細砂(炭多く含) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂(粗砂多く混じる、炭多く含) | 12. 暗灰黄 極細砂～細砂(粗砂・細砂多く混じる) |
| 6. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂(粗砂混じる) | 13. 黒褐 極細砂～細砂(粗砂・細砂混じる)[SD177] |
| 7. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂(粗砂混じる、炭含)[柱穴] | |



塗りつぶし、炭層
他暗灰黄 極細砂～細砂(焼土・炭含)

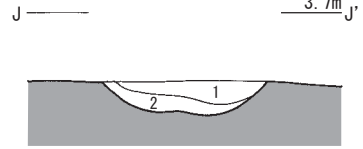


SD175



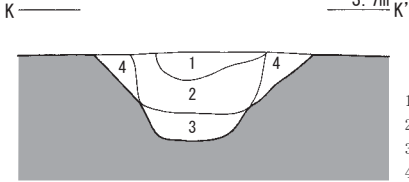
1. 黒褐 細砂(中砂混じる)
2. 灰黄褐 中砂～粗砂(底部にFe₂O₃沈着)

SD181



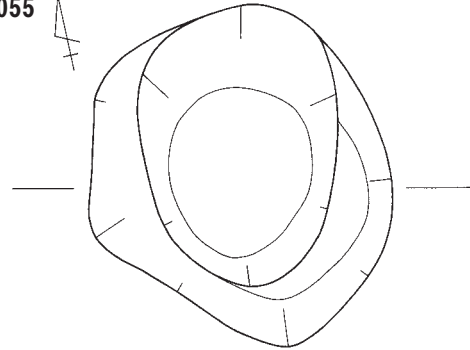
1. 黒褐 極細砂(中砂混じる)
2. にぶい黄褐 極細砂

SD177

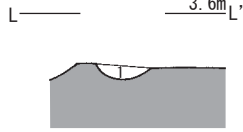


1. 灰黄褐 極細砂(粗砂混じる)
2. 暗褐 シルト質極細砂(細礫混じる)
3. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる)
4. にぶい黄褐 極細砂(粗砂混じる)

SK055

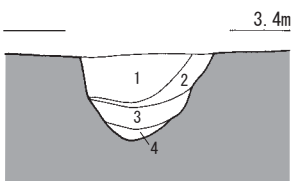
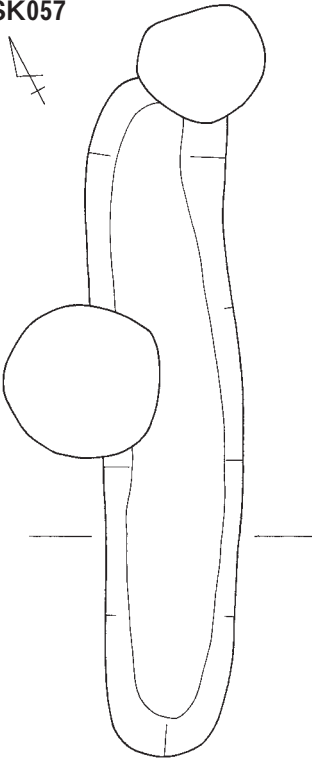


SD179



1. 暗褐 極細砂(中砂混じる)

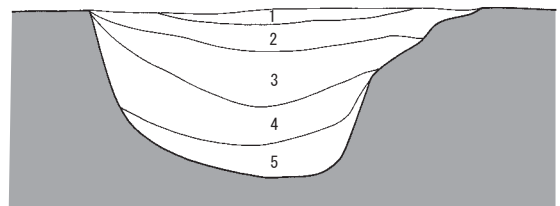
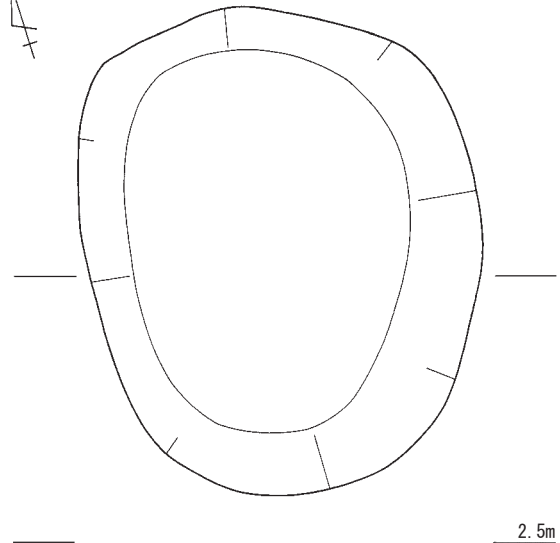
SK057



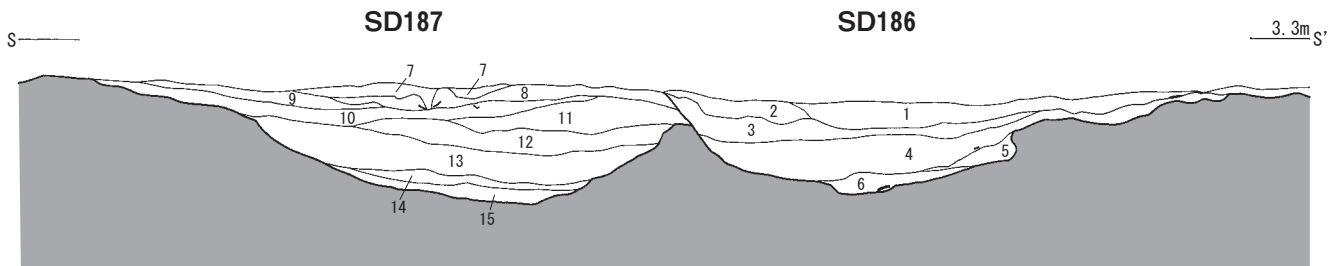
1. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、炭含)
2. 黒褐 シルト質極細砂(炭含)
3. 黒褐 シルト質極細砂(細砂混じる)
4. 黒 シルト質極細砂



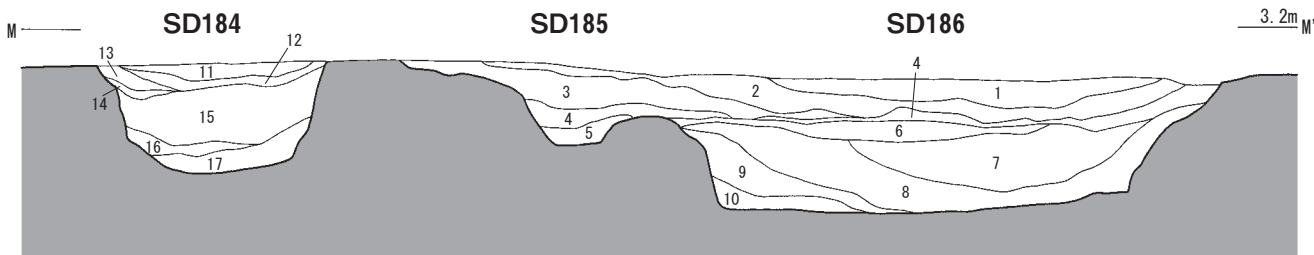
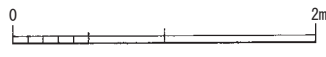
SK056



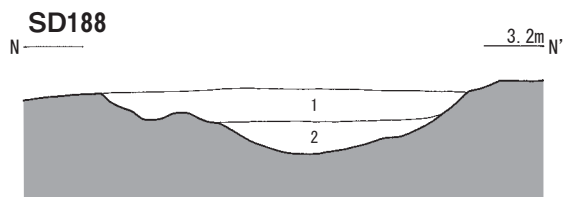
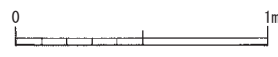
1. 褐灰 シルト質極細砂(粗砂～細砂混じる)
2. 暗褐 極細砂(中砂混じる)
3. 黒 極細砂
4. 黒褐 細砂
5. 灰黄褐 細砂(炭少量含)



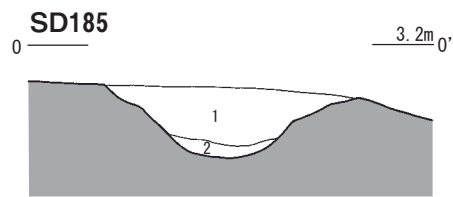
- | | | |
|------------------------------|-----------------------|------------------|
| 1. 暗褐 シルト質極細砂 | 6. 褐 粗砂～細礫(細砂混じる、ラミナ) | 11. 黒褐 極細砂 |
| 2. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる) | 7. 極暗褐 極細砂質細砂 | 12. 褐 細砂～中砂(ラミナ) |
| 3. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、ラミナ) | 8. 黒褐 極細砂(粗砂混じる) | 13. 褐 中砂～粗砂(ラミナ) |
| 4. 灰黄褐 中砂(シルト質極細砂～粗砂混じる、ラミナ) | 9. 黒 シルト質極細砂(ラミナ) | 14. 褐灰 シルト質極細砂 |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる、ラミナ) | 10. 黒褐 シルト質極細砂 | 15. 褐 中砂～細礫 |



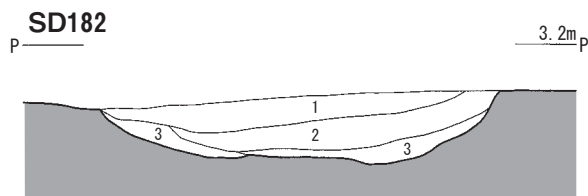
- | | | |
|------------------------|----------------------------|------------------------|
| 1. 暗褐 極細砂(粗砂混じる) | 7. 褐灰 粗砂～シルト質極細砂(ラミナ、有機質含) | 13. 褐灰 細砂～粗砂 |
| 2. 黒褐 粗砂～中礫(極細砂混じる) | 8. 黒 シルト質極細砂(ラミナ) | 14. 褐灰 シルト質極細砂 |
| 3. 黒褐 中砂(極細砂混じる) | 9. 灰黄褐 細砂～シルト質極細砂(ラミナ) | 15. にぶい黄 細砂 |
| 4. 黒 シルト質極細砂～細砂 | 10. 褐灰 中砂～細砂(ラミナ) | 16. 明褐 細砂～中砂 |
| 5. 灰黄褐 細砂(基盤層ブロック混じる) | 11. 灰黄褐 粗砂(極細砂混じる) | 17. 褐灰 シルト質極細砂～中砂(ラミナ) |
| 6. 灰黄褐 細砂～シルト質極細砂(ラミナ) | 12. 灰黄褐 極細砂質シルト | |



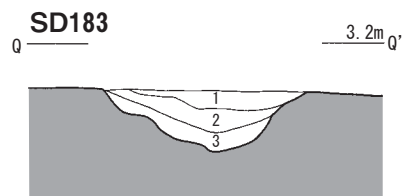
1. 黒褐 シルト質極細砂
2. 黒褐 シルト質極細砂～細砂



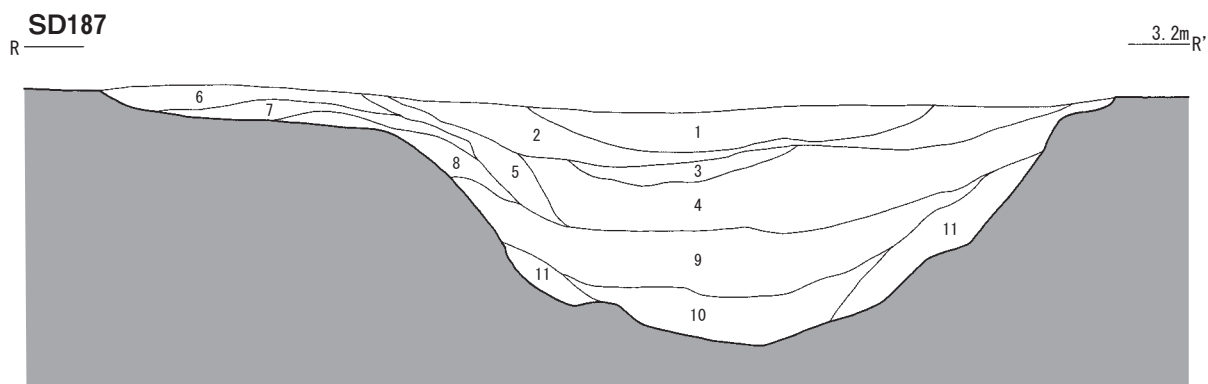
1. 黒褐 シルト質極細砂
2. 灰黄褐 シルト質極細砂(中砂混じる)



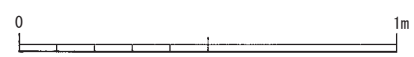
1. 黒 シルト質極細砂(粗砂混じる)
2. 黒 中砂(シルト質極細砂混じる)
3. 黒 シルト質極細砂(粗砂混じる、ラミナ)

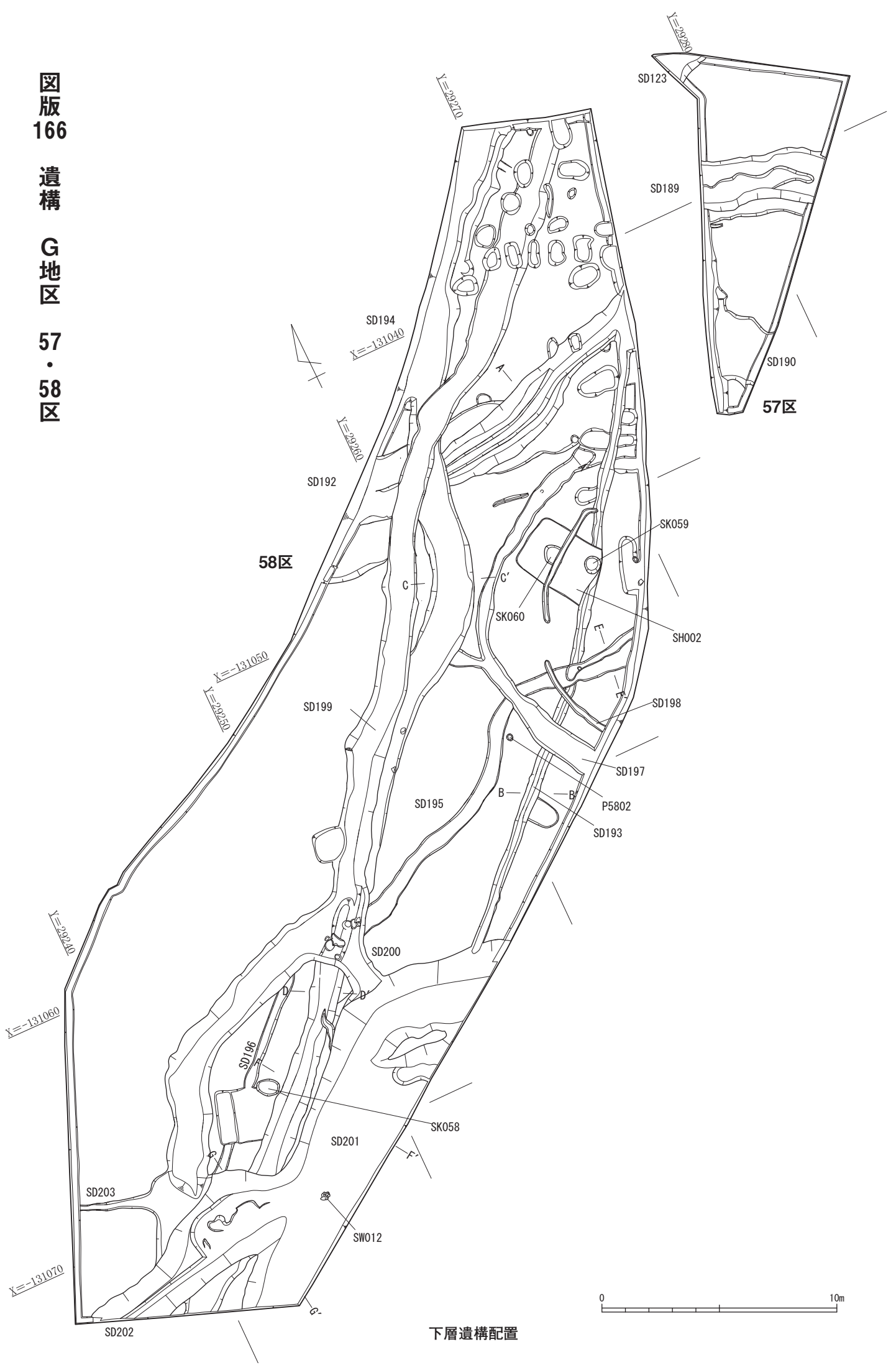


1. 暗褐 細砂(粗砂混じる)
2. 褐灰 シルト質細砂
3. 黒褐 シルト質細砂(基盤層ブロック混じる、ラミナ)

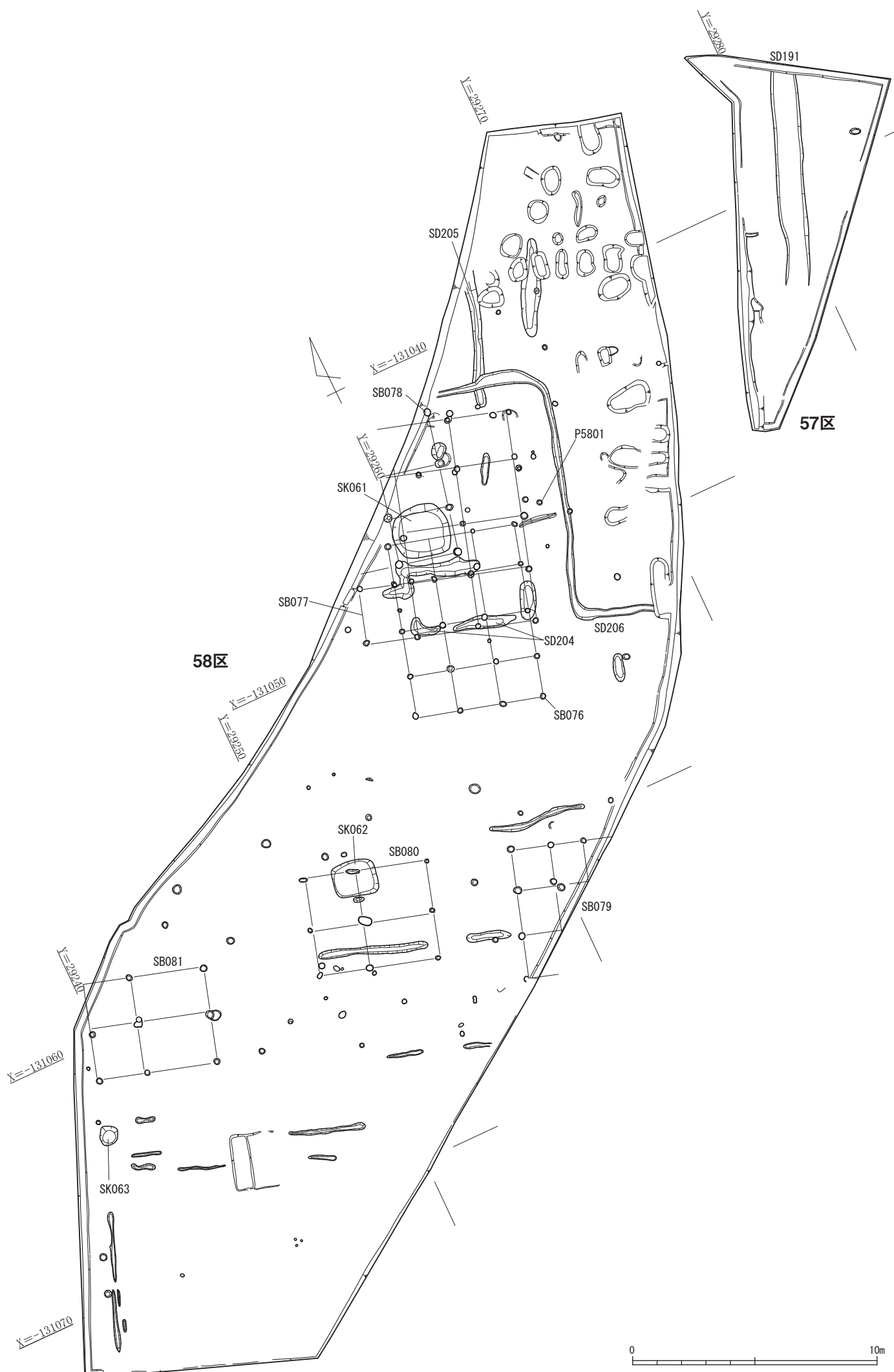


- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 黒褐 シルト質極細砂 | 7. 褐灰 シルト質極細砂 |
| 2. 褐灰 シルト質極細砂(細砂混じる) | 8. にぶい褐 シルト質極細砂 |
| 3. 灰黄褐 中砂(細砂混じる、ラミナ) | 9. 褐 中砂(ラミナ) |
| 4. 褐 中砂(ラミナ) | 10. 褐 中砂～粗砂(ラミナ) |
| 5. 灰黄褐 細砂 | 11. 褐灰 細砂(ラミナ) |
| 6. 褐灰 細砂(シルト質極細砂混じる) | |



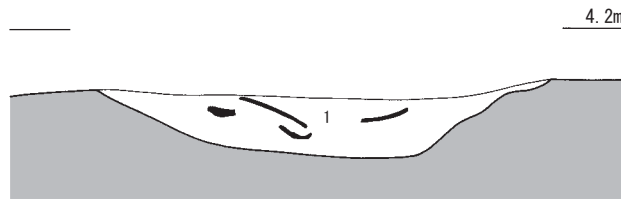
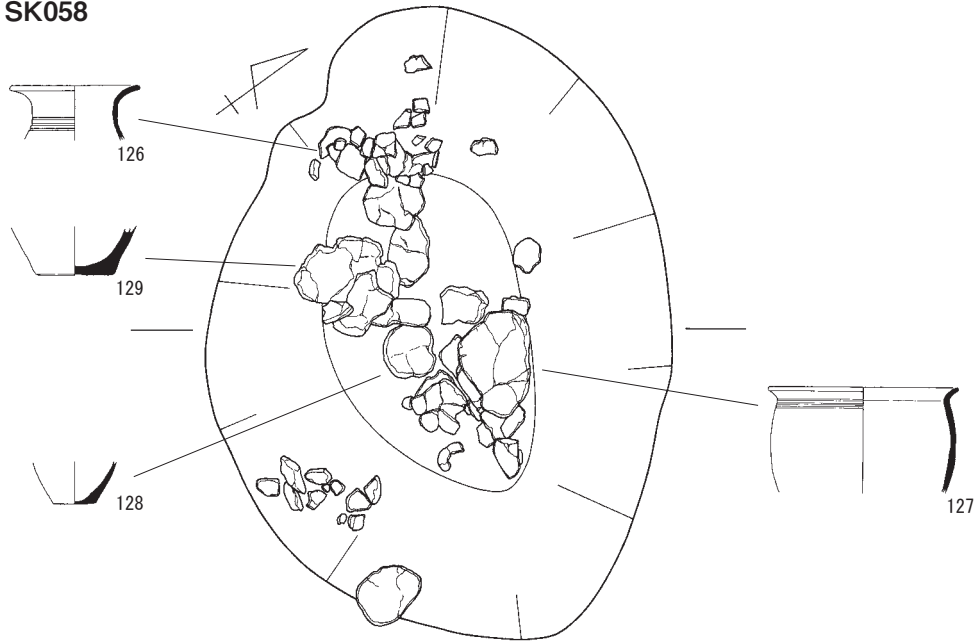


下層遺構配置



上層遺構配置

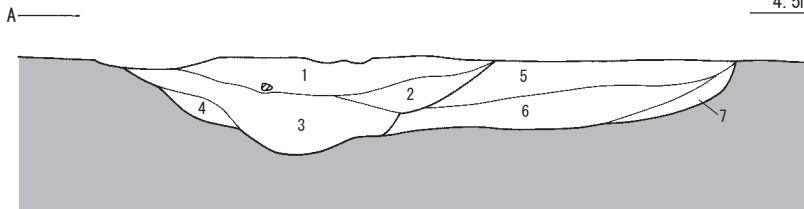
SK058



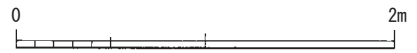
1. 黒褐 細砂～極細砂 (炭僅かに混じる)



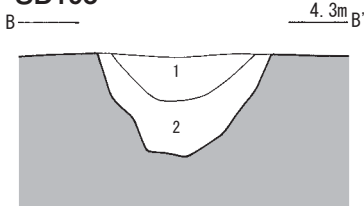
SD192



- 1. 黒褐 極細砂 (細礫・Mn含)
- 2. 灰黄褐 極細砂 (Mn・Fe₂O₃含)
- 3. 黒褐 シルト質極細砂 (底部にFe₂O₃沈着)
- 4. 黒褐 極細砂
- 5. 褐 極細砂 (Mn・細砂含)
- 6. 黒褐 極細砂 (Fe₂O₃含)
- 7. 黒褐 極細砂

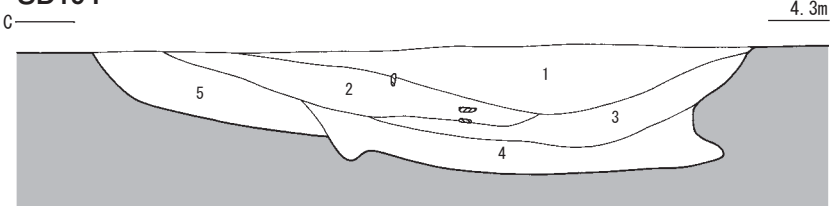


SD193



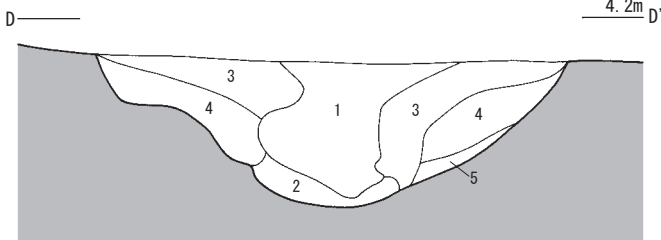
- 1. 黒褐 極細砂 (Mn含)
- 2. 暗褐 極細砂 (Fe₂O₃含)

SD194



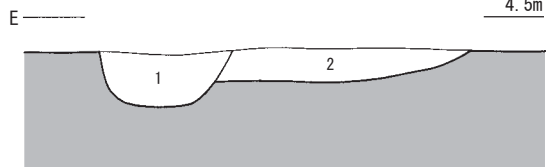
- 1. にぶい黄褐 極細砂
- 2. 黒褐 極細砂 (粗砂～細礫混じる)
- 3. 黒褐 極細砂
- 4. 黒褐 細砂 (粗砂～細礫多量含、底部に鉄分沈着)
- 5. にぶい黄褐 細砂～極細砂

SD194



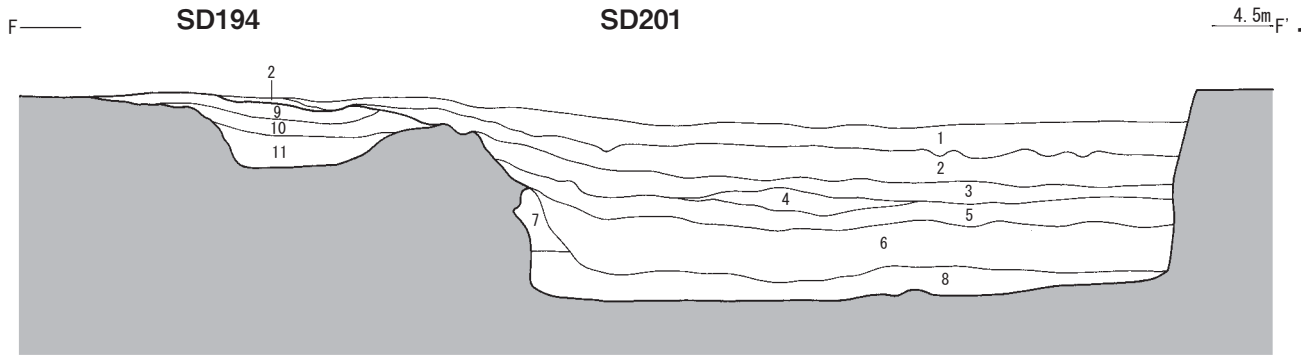
- 1. 黒褐 シルト質極細砂
- 2. 黒褐 粗砂～中砂 (細礫少量含)
- 3. 灰黄褐 極細砂
- 4. にぶい黄褐 極細砂
- 5. 黒褐 極細砂～細砂

SD195

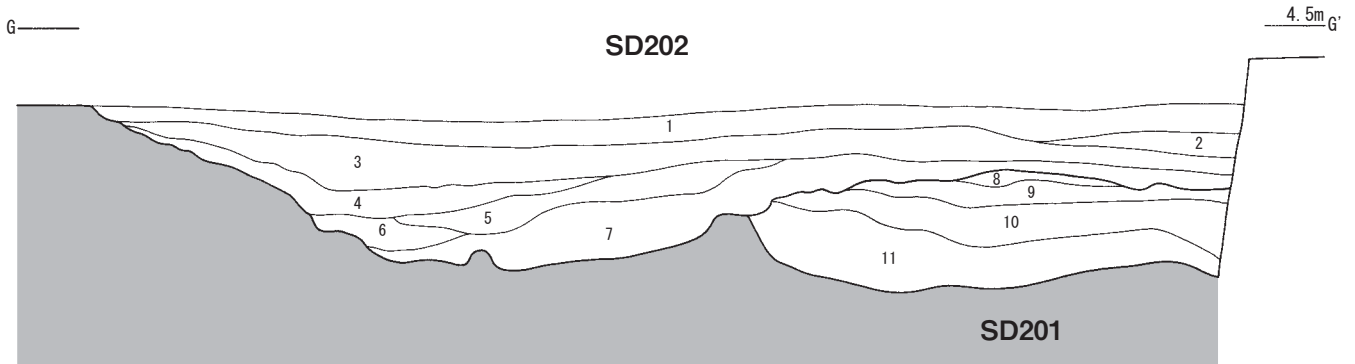


- 1. 黒褐 極細砂
- 2. 灰黄褐 極細砂

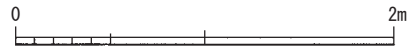




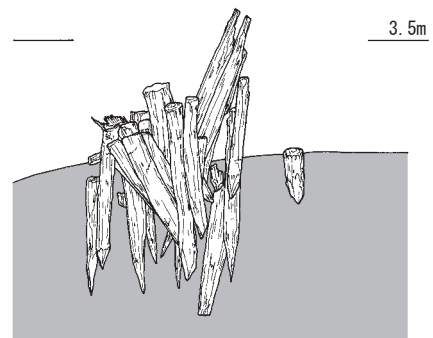
- | | | |
|---------------------------|-----------------------------|----------------|
| 1. 灰黄褐 極細砂 (粗砂～細礫混じる、Mn含) | 5. 黒褐 細砂～シルト質極細砂 | 9. 黒褐 極細砂 |
| 2. 黒褐 シルト質極細砂 | 6. 褐灰 シルト質極細砂～粗砂 (ラミナ、植物質含) | 10. 暗褐 極細砂 |
| 3. 黒 シルト質極細砂 | 7. 褐灰 シルト質極細砂～粗砂 (暗灰黄極細砂粒含) | 11. 灰黄褐 細砂～極細砂 |
| 4. 黒褐 細砂～中砂 (ラミナ) | 8. 灰黄褐 細砂～細礫 (ラミナ) | |

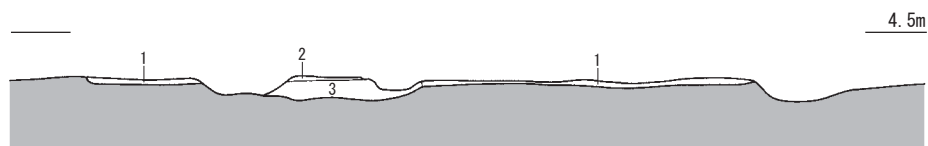
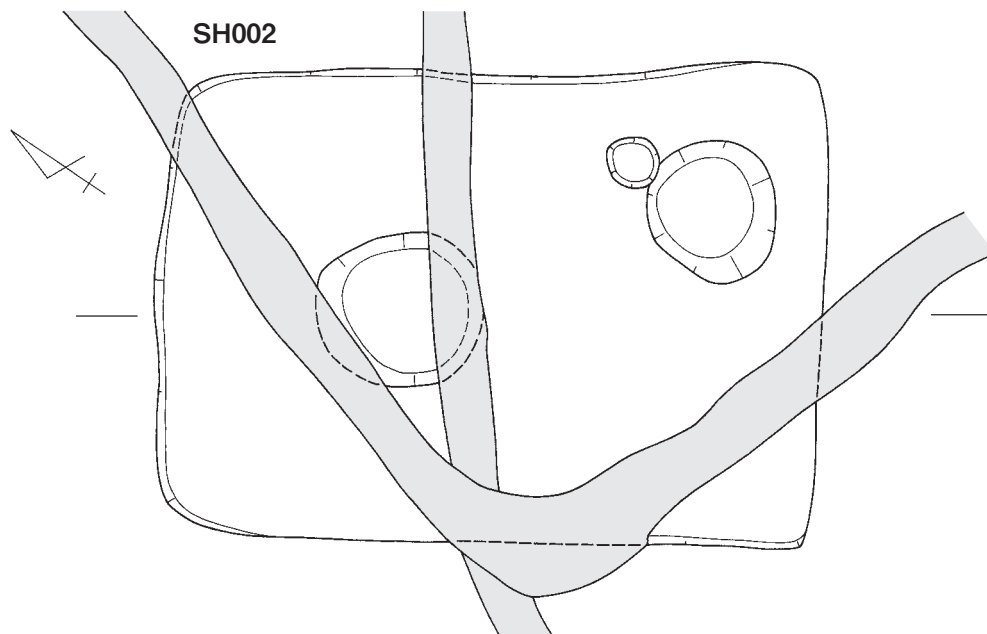


- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 灰黄褐 極細砂 (粗砂～細礫混じる、Mn含) | 7. 灰黄褐 細砂～粗砂 (ラミナ) |
| 2. 灰黄褐 極細砂～細砂 | 8. 黒褐 極細砂 |
| 3. 黒褐 シルト質極細砂 | 9. 灰黄褐 シルト質極細砂 |
| 4. 灰黄褐 細砂～粗砂 (ラミナ、黄褐極細砂粒・植物質含) | 10. 褐灰 シルト質極細砂 (炭化物含) |
| 5. 黒褐 シルト質極細砂 (植物質含) | 11. 灰黄褐 細砂～細礫 (ラミナ) |
| 6. 褐灰 シルト～粗砂 (ラミナ、植物質含) | |

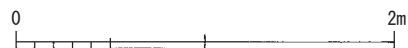


SW012

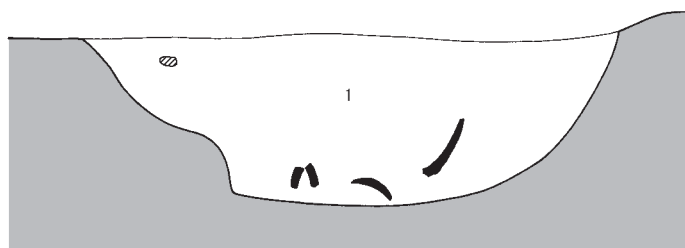
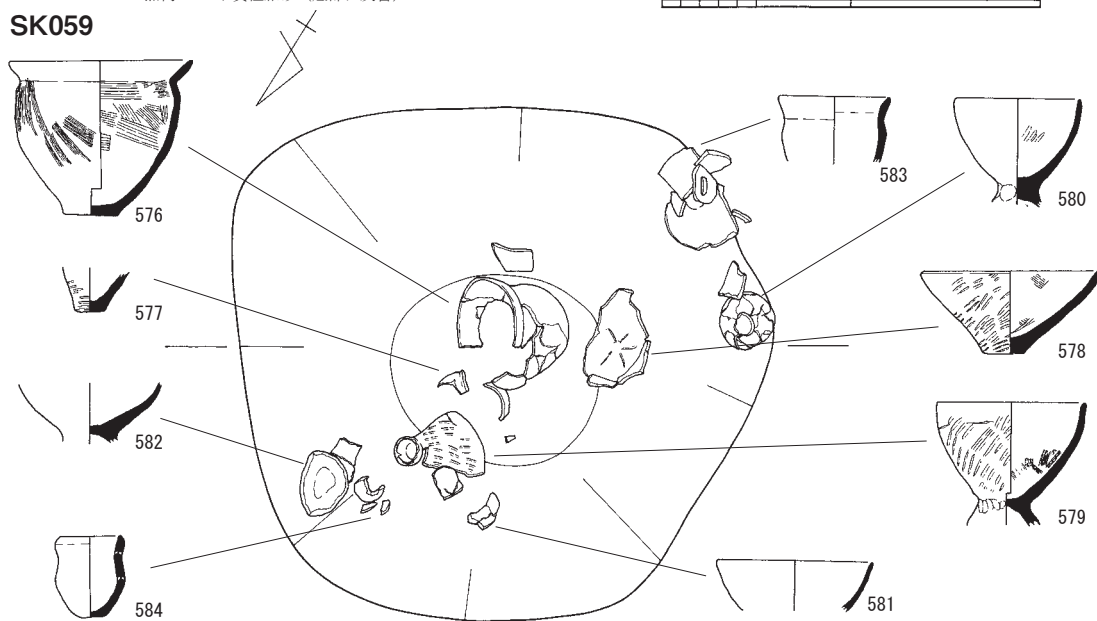




- 1. 黒褐 極細砂 (炭少量、Mn含)
- 2. 黒褐 極細砂 (炭多量含)
- 3. 黒褐 シルト質極細砂 (底部に炭含)

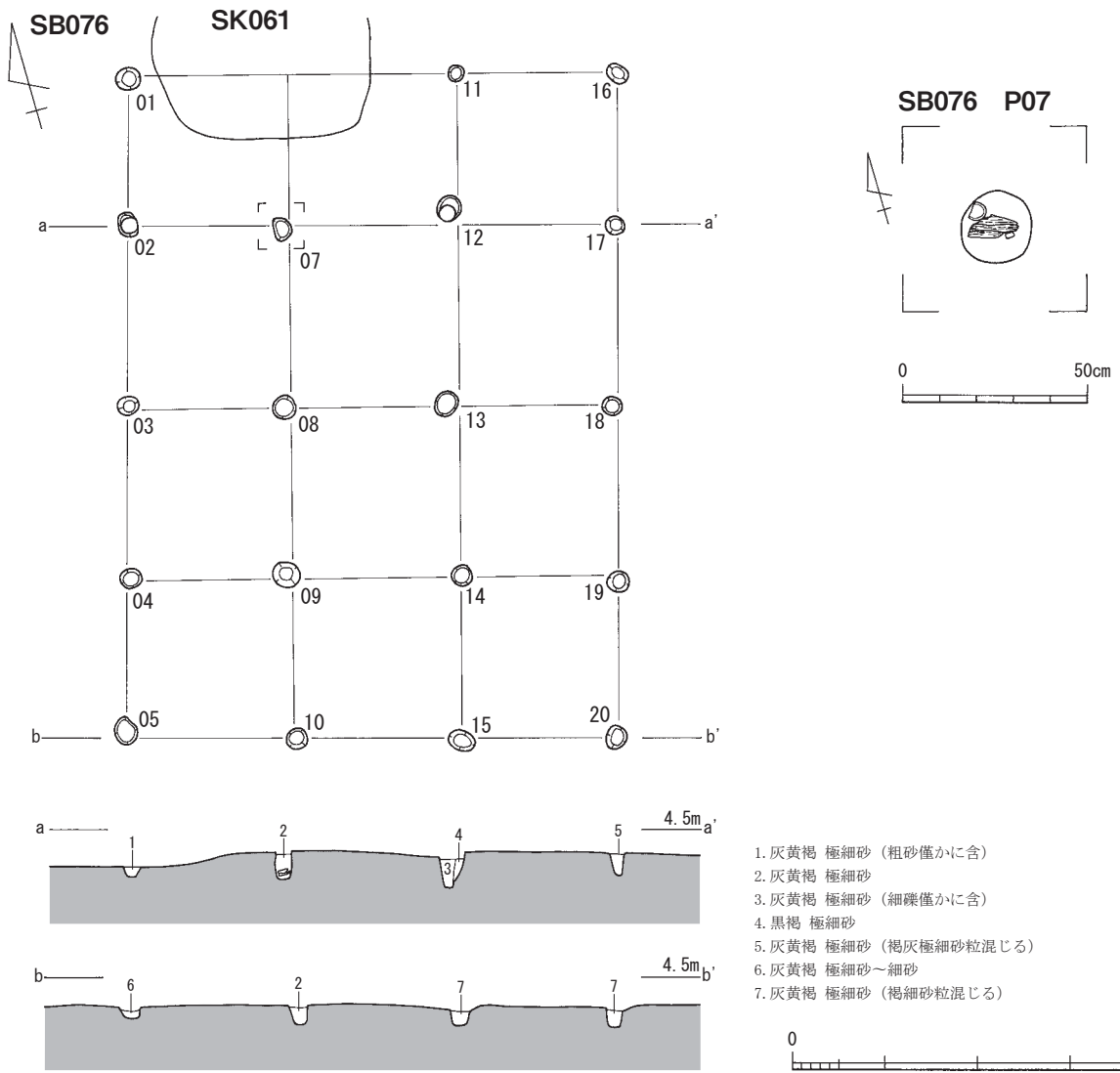
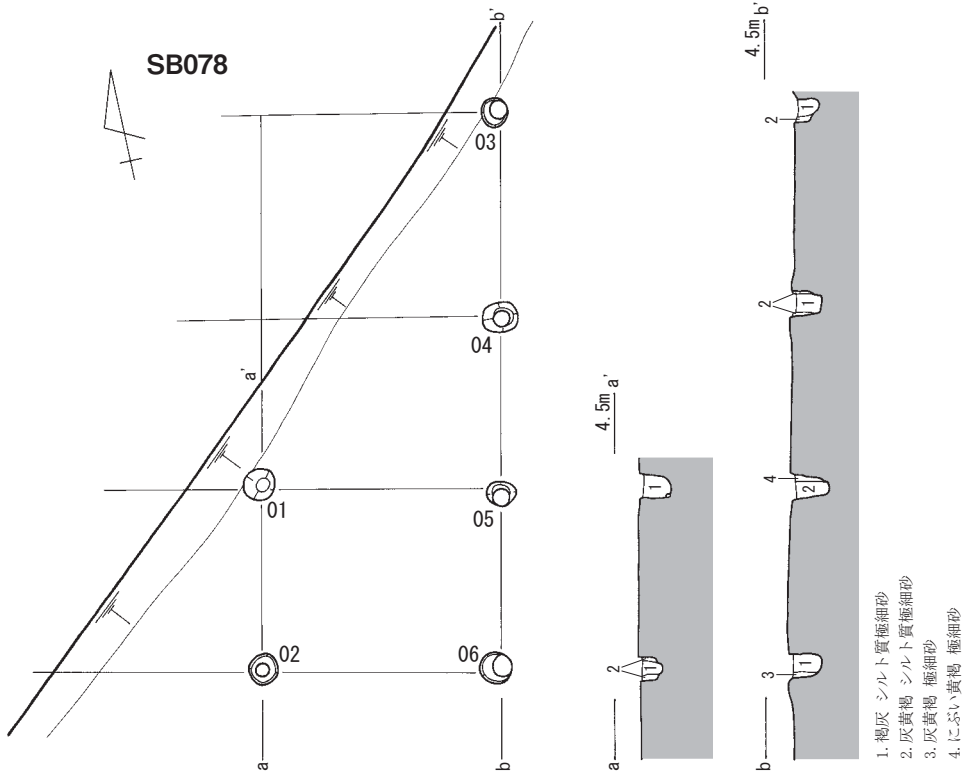


SK059

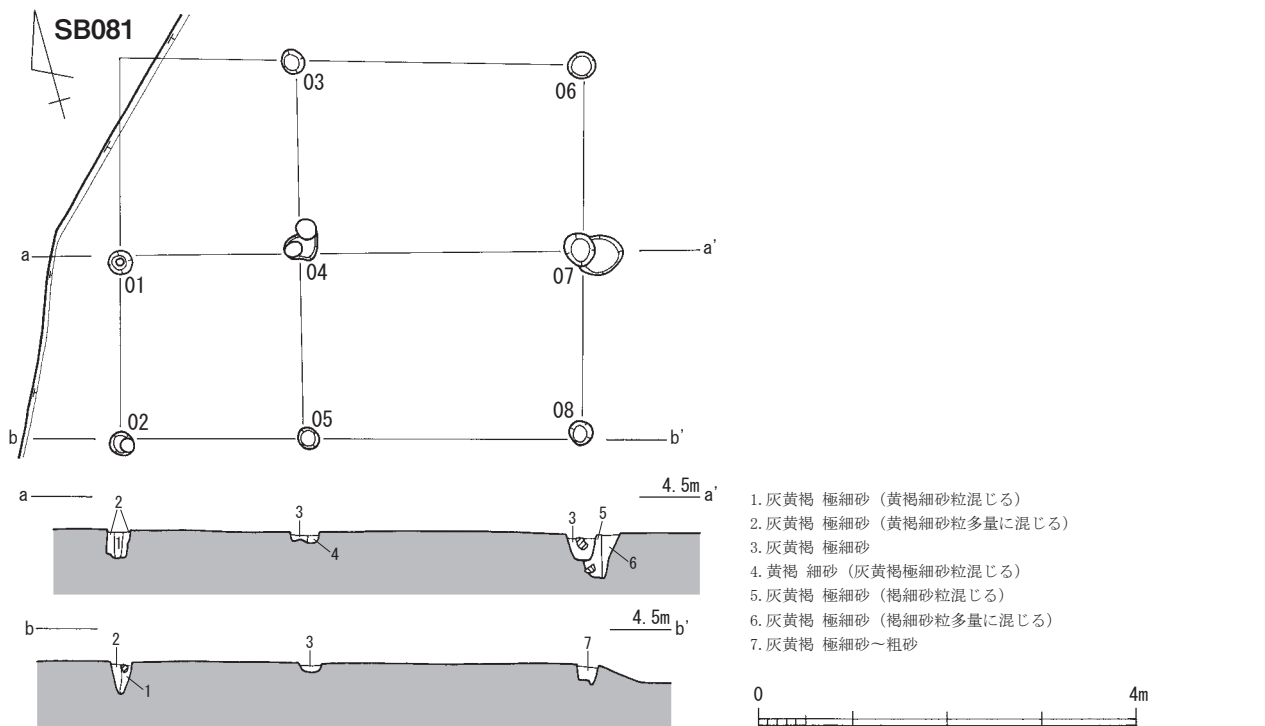
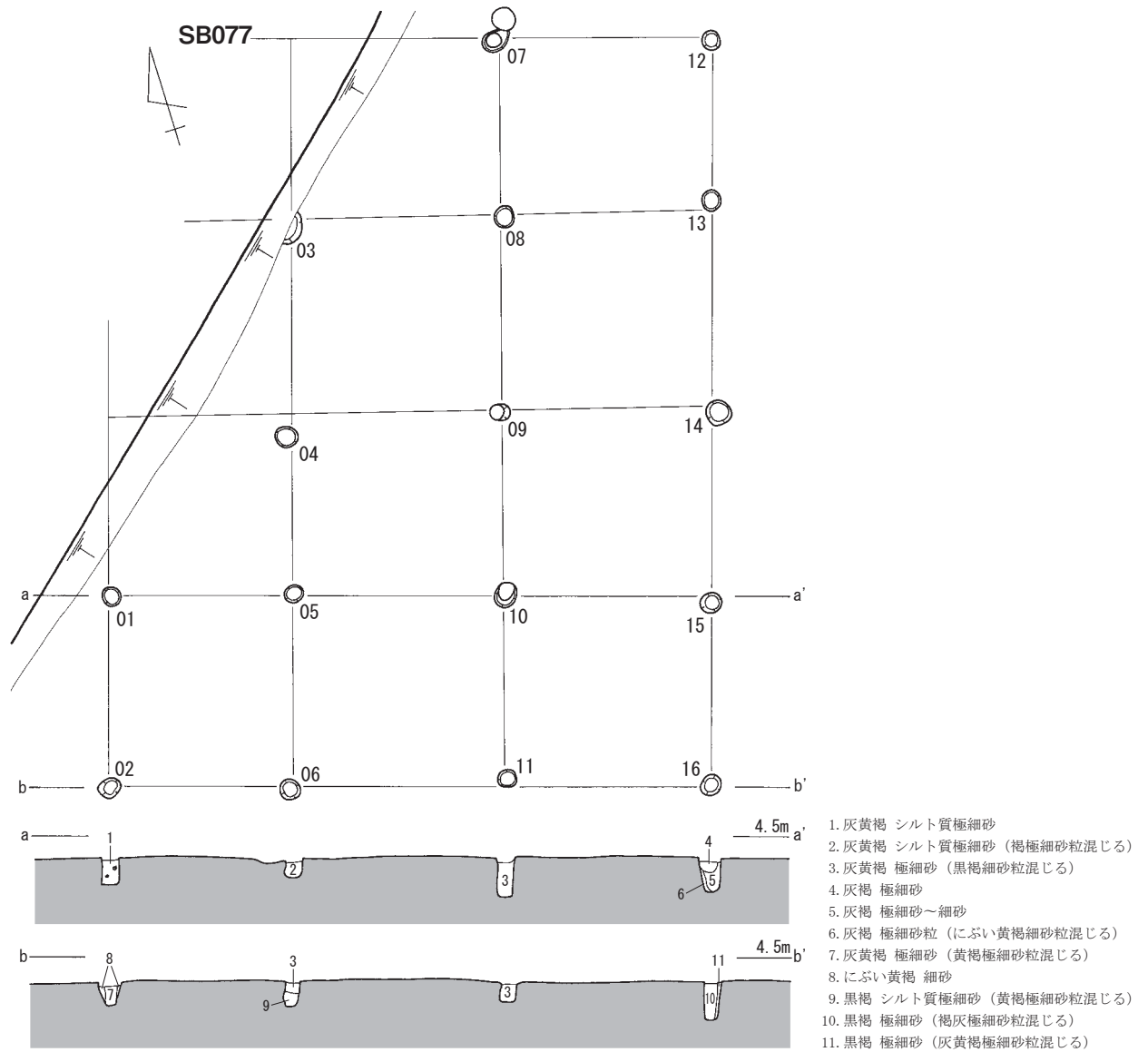


- 1. 暗褐 極細砂 (黄褐極細砂粒・炭僅かに混じる)

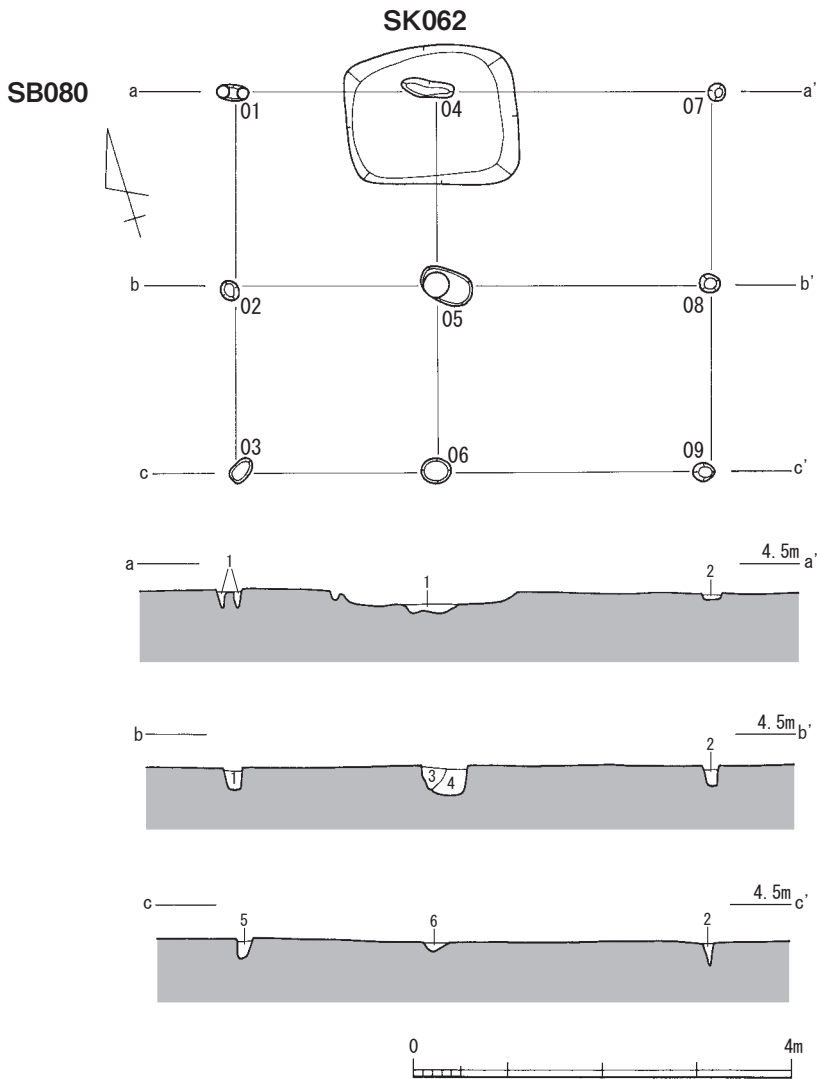
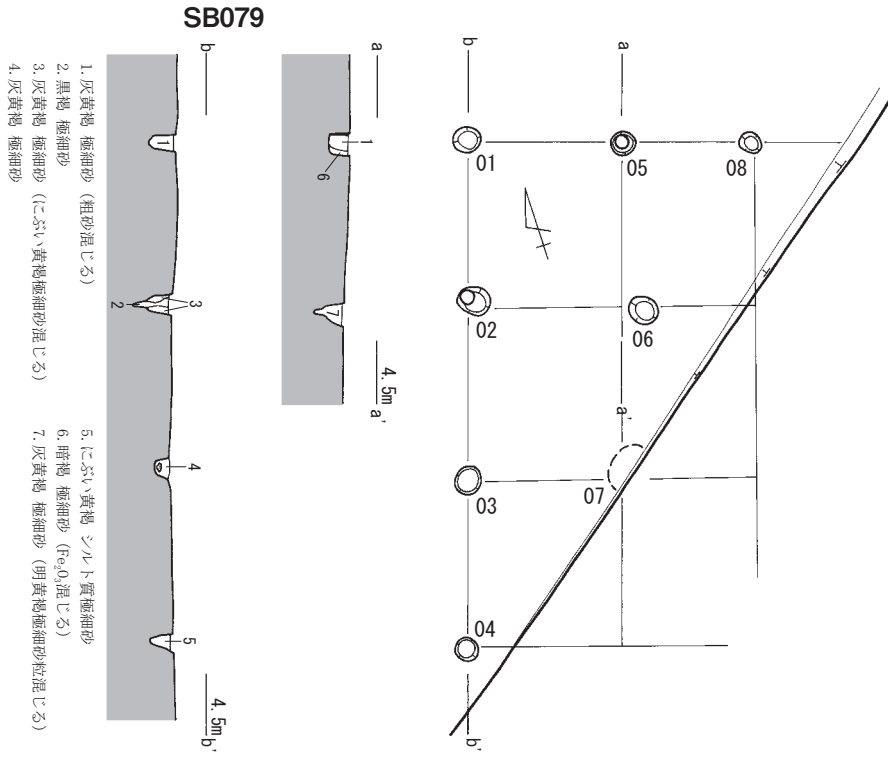




掘立柱建物 SB078・SB076

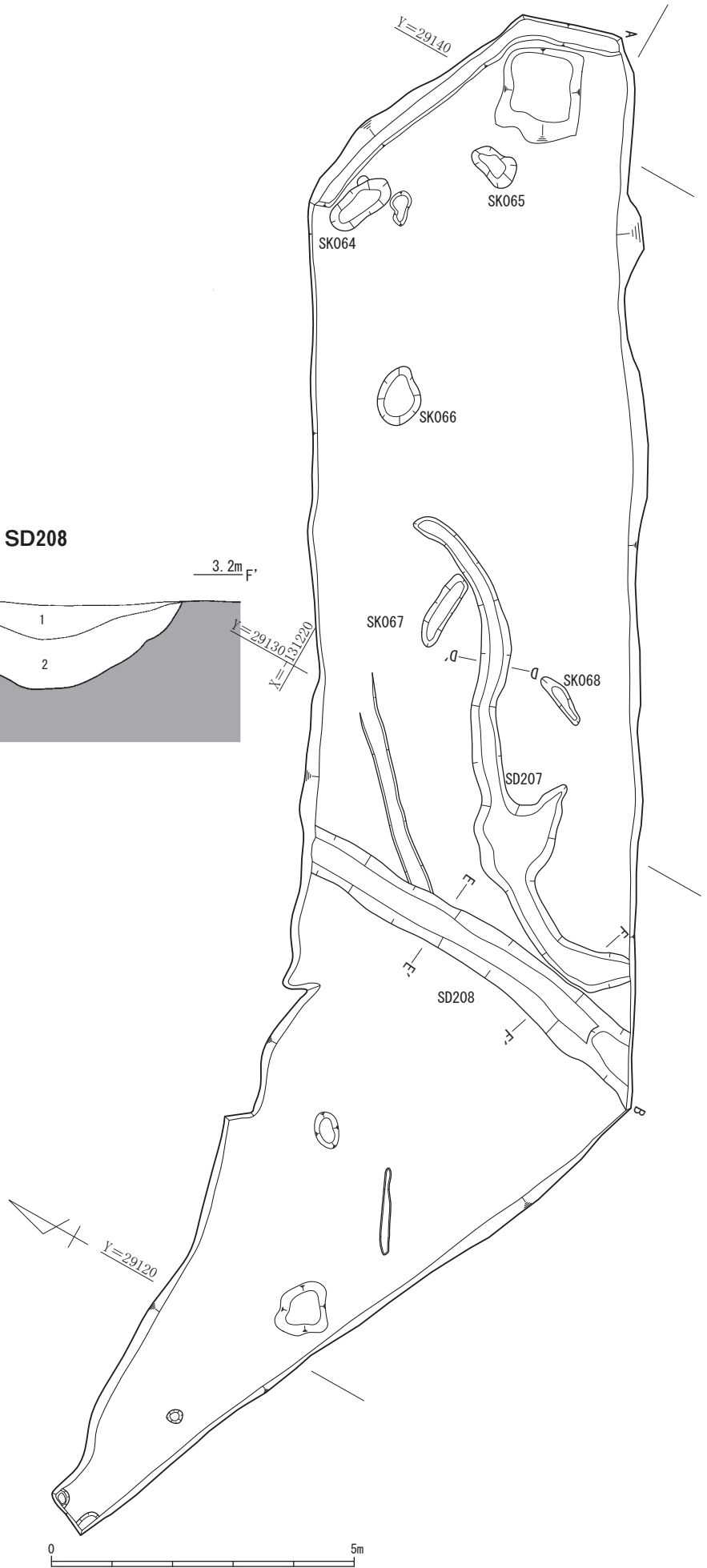
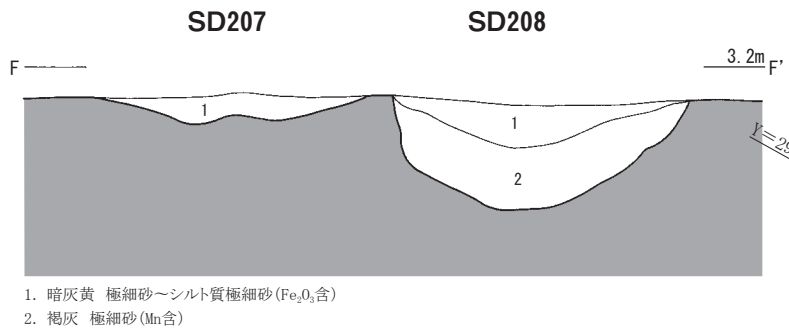
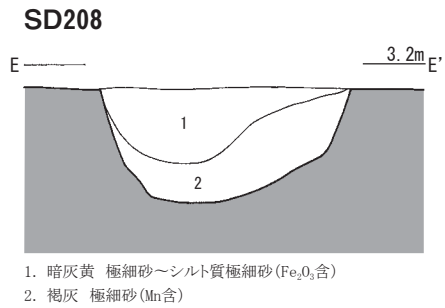
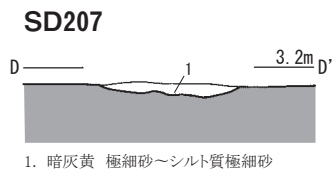


掘立柱建物 SB077・SB081

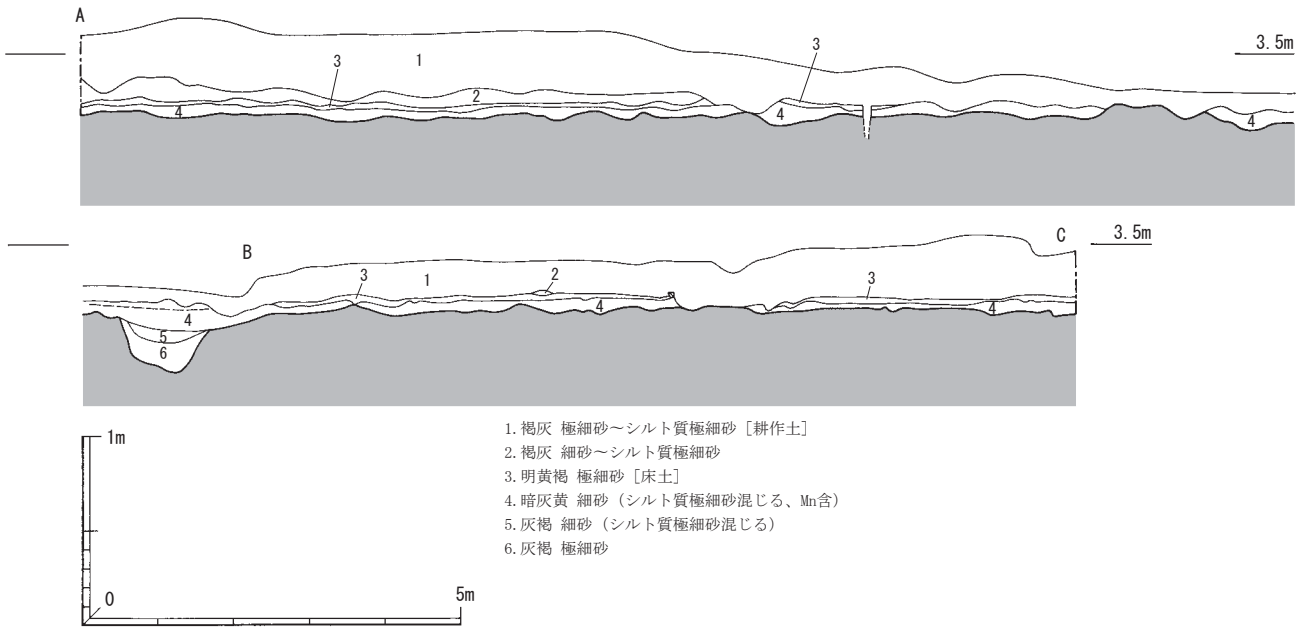


1. 灰黄褐色 極細砂 (にぶい、黄褐色極細砂粒混じる)
2. 灰黄褐色 極細砂
3. 褐灰 極細砂 (黒褐色極細砂粒混じる)
4. 暗褐色 シルト質極細砂
5. 暗褐色 極細砂 (にぶい、黄褐色極細砂粒混じる)
6. 灰黄褐色 極細砂 (暗褐色極細砂粒混じる)

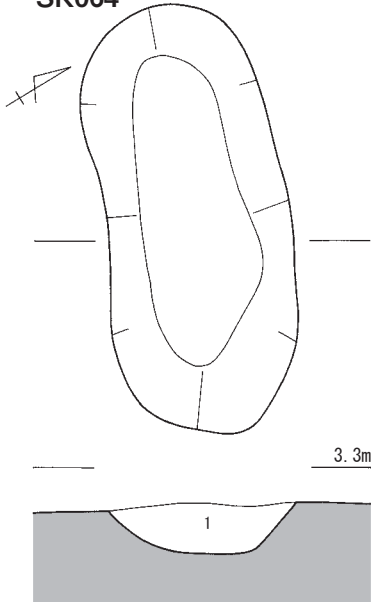
掘立柱建物 SB079・SB080



遺構配置 溝 SD207・SD208 土層断面

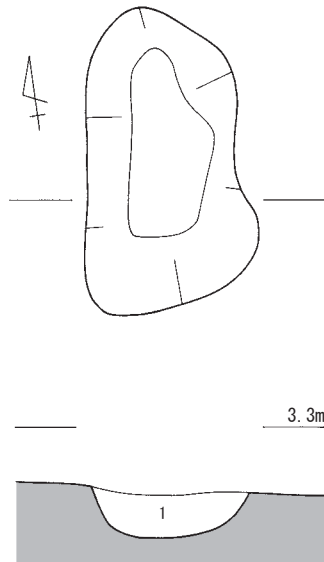


SK064



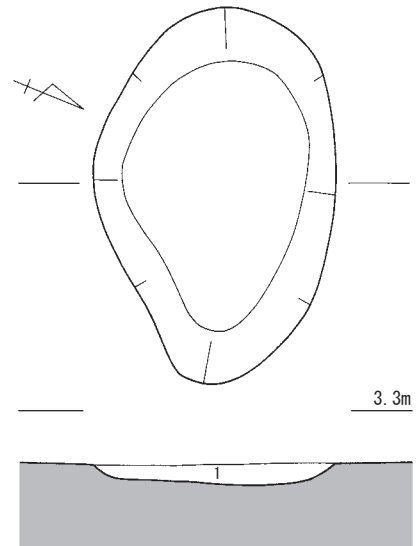
1. 褐灰 極細砂 (シルト質極細砂混じる)

SK065



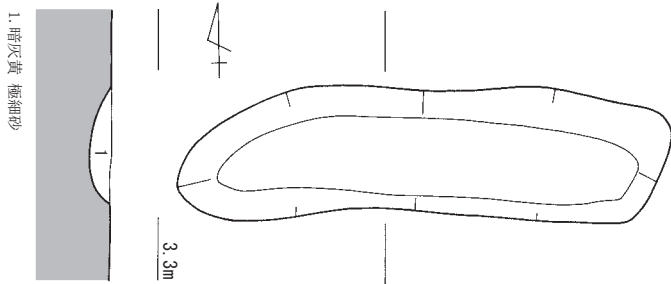
1. 褐灰 極細砂 (シルト質極細砂混じる、Fe₂O₃含)

SK066



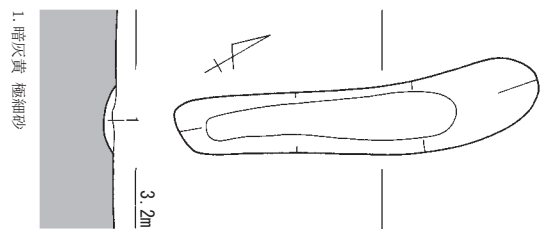
1. 灰白 極細砂質シルト (Mn含)

SK067



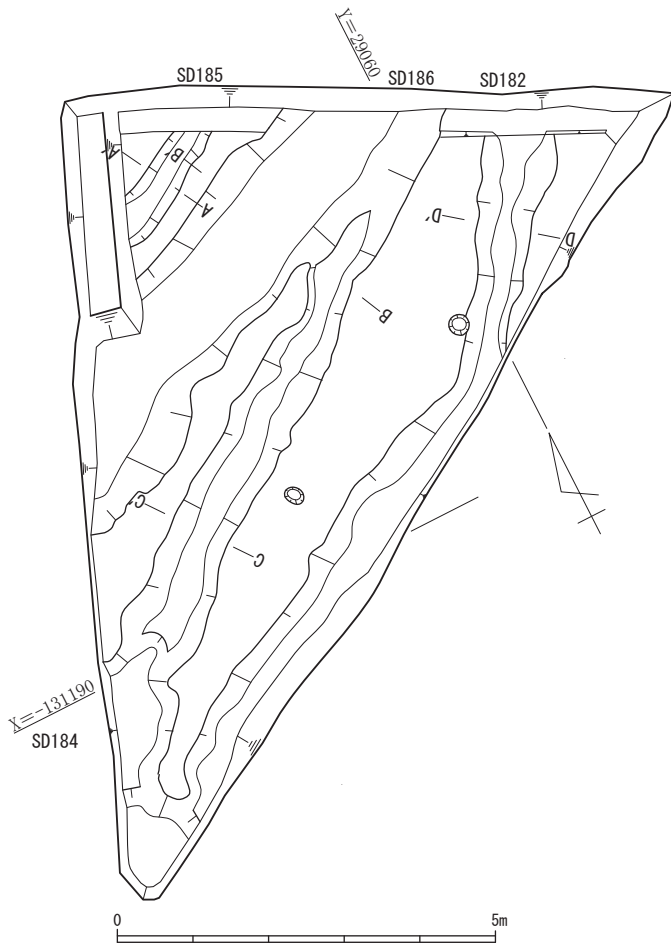
1. 暗灰黄 極細砂

SK068



1. 暗灰黄 極細砂





SD185

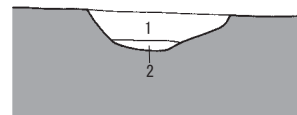
A ————— 3.2m A'



1. 褐灰 極細砂～シルト質極細砂

SD184

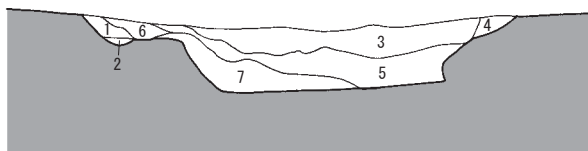
C ————— 3.2m C'



1. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる)
2. 褐灰 細砂～粗砂(シルト質極細砂混じる)

SD186

B ————— 3.2m B'



1. 黒褐 シルト質極細砂(粗砂混じる)
2. 褐灰 細砂～粗砂(シルト質極細砂混じる)
3. 黒褐 シルト質極細砂
4. 灰白 極細砂
5. 褐灰 細砂(シルト質極細砂・粗砂混じる)
6. 灰黄褐 細砂(シルト質極細砂混じる)
7. 黒褐 細砂

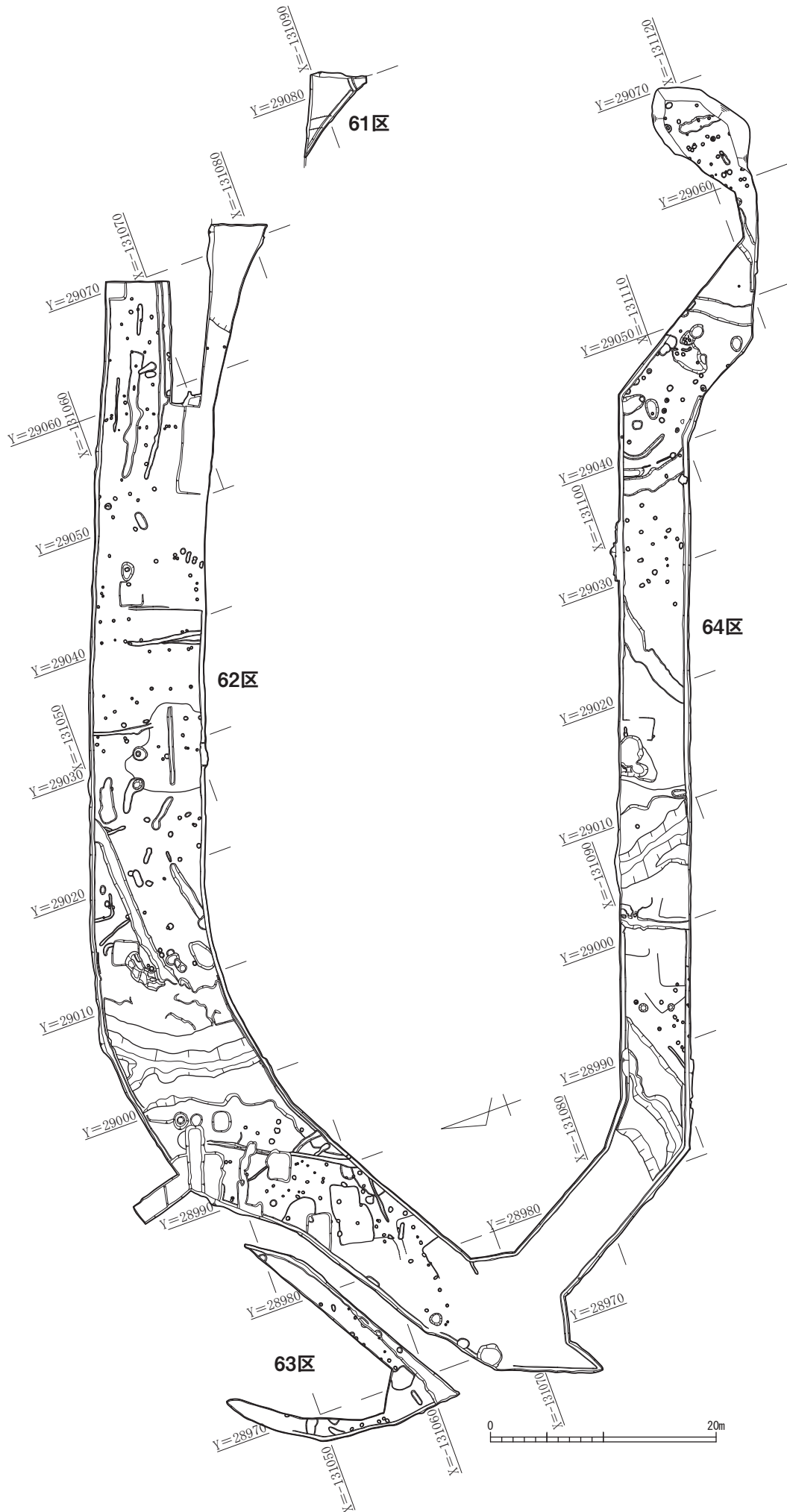
SD182

D ————— 3.2m D'

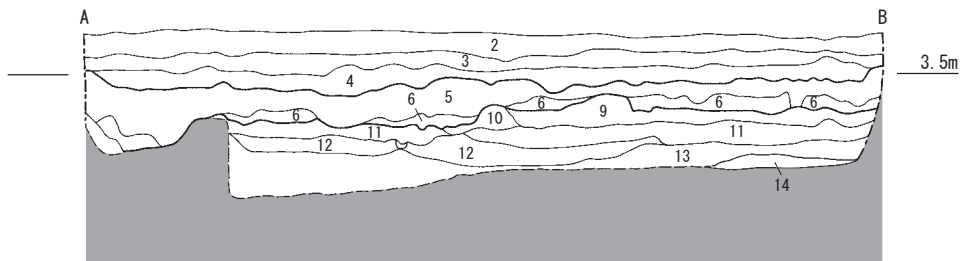
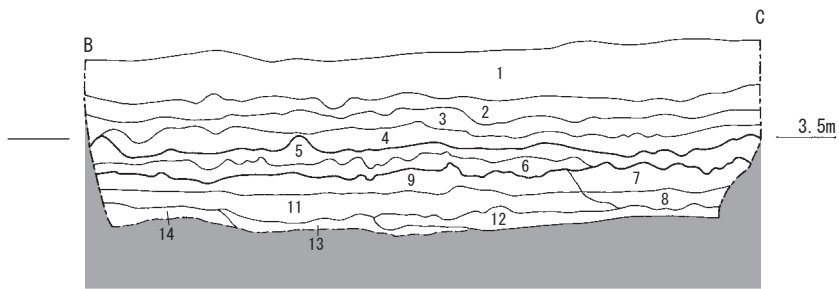
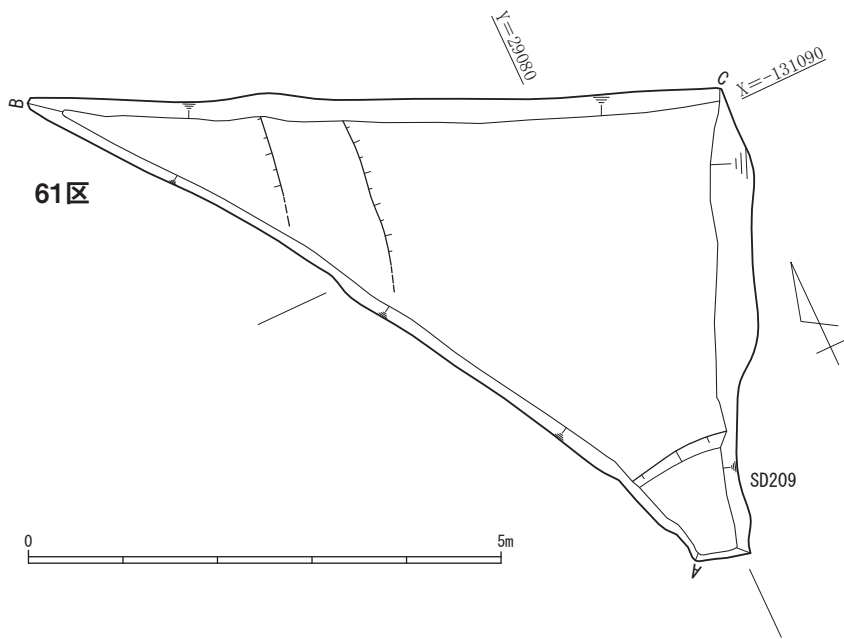


1. 褐灰 極細砂

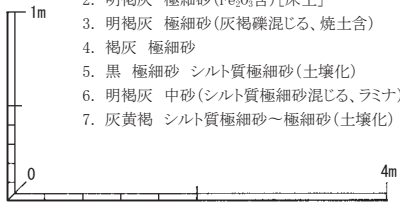


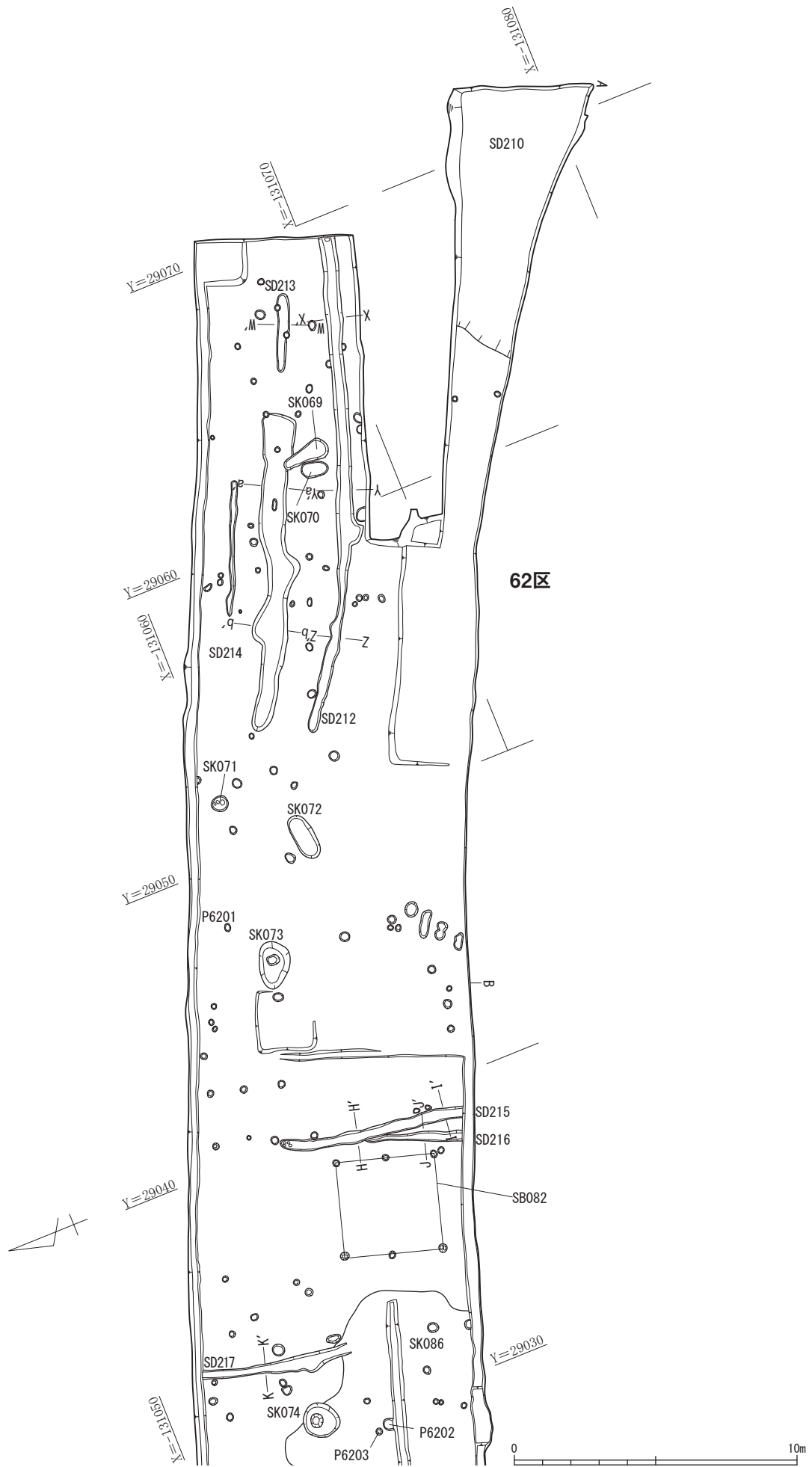


遺構配置

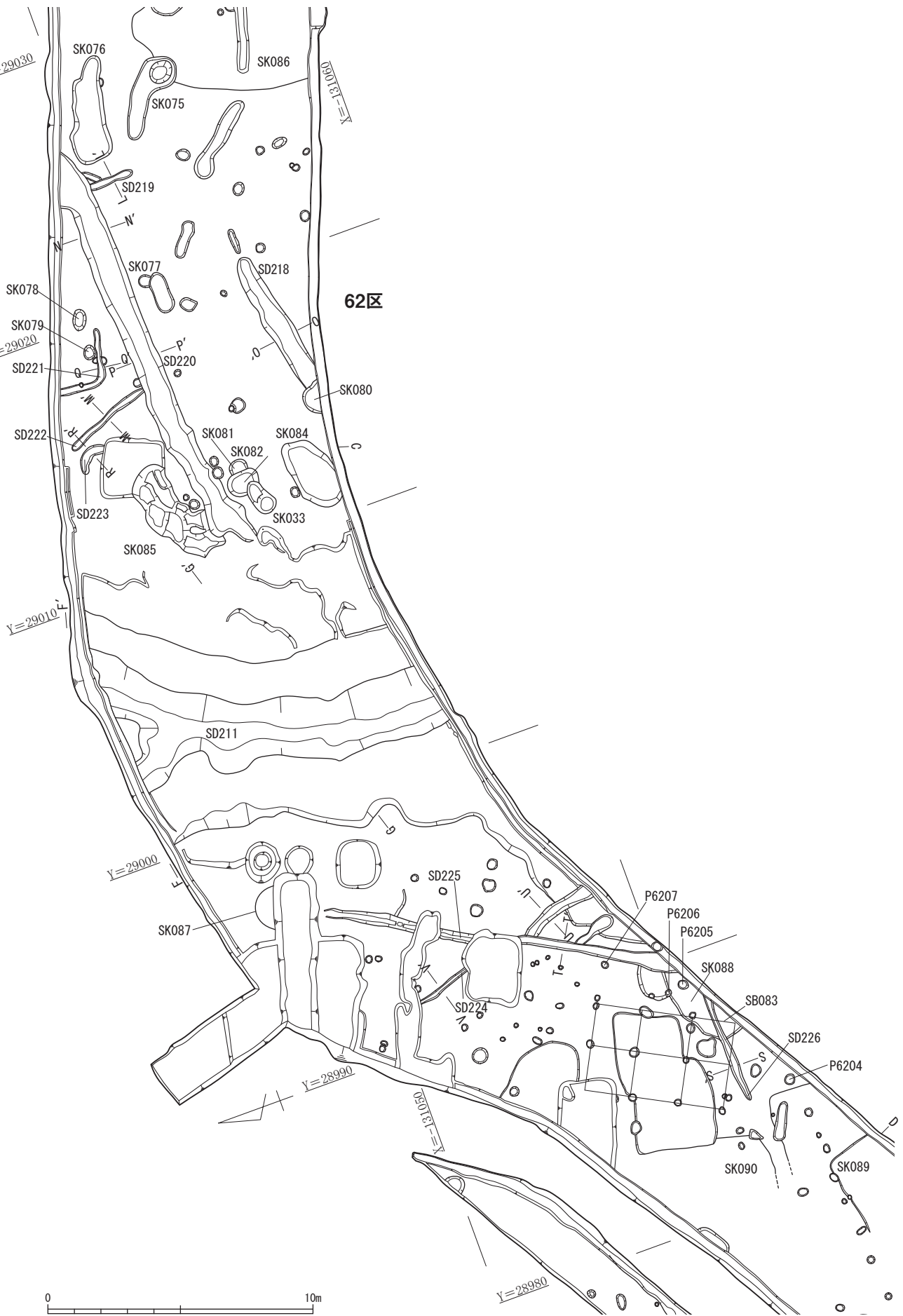


- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 灰 極細砂 | 8. 褐灰 シルト質極細砂(中砂混じる、土壌化) |
| 2. 明褐灰 極細砂(Fe_2O_3 含)[床土] | 9. 褐灰 シルト質極細砂~極細砂(土壌化) |
| 3. 明褐灰 極細砂(灰褐礫混じる、焼土含) | 10. 褐灰 極細砂(土壌化) |
| 4. 褐灰 極細砂 | 11. 褐灰 シルト質極細砂(土壌化) |
| 5. 黒 極細砂 シルト質極細砂(土壌化) | 12. 明褐灰 シルト質極細砂(土壌化) |
| 6. 明褐灰 中砂(シルト質極細砂混じる、ラミナ) | 13. 暗紫灰 シルト質極細砂(土壌化) |
| 7. 灰黄褐 シルト質極細砂~極細砂(土壌化) | 14. 灰赤 シルト質極細砂~極細砂 |

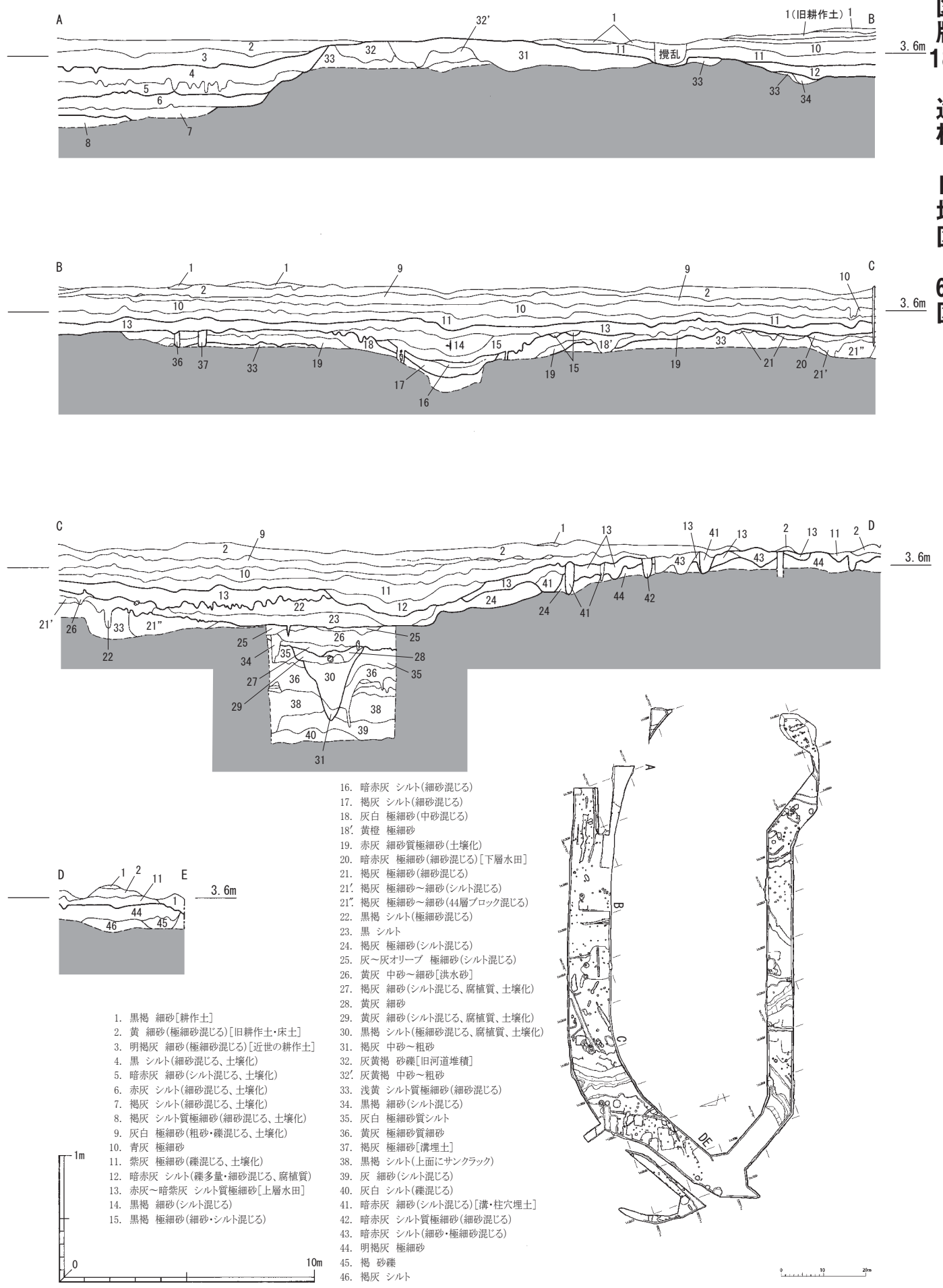




東半部 遺構配置



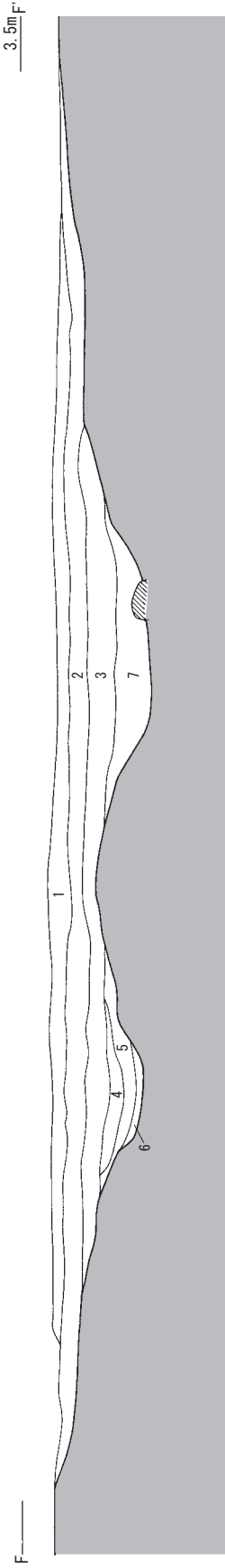
西半部 遺構配置



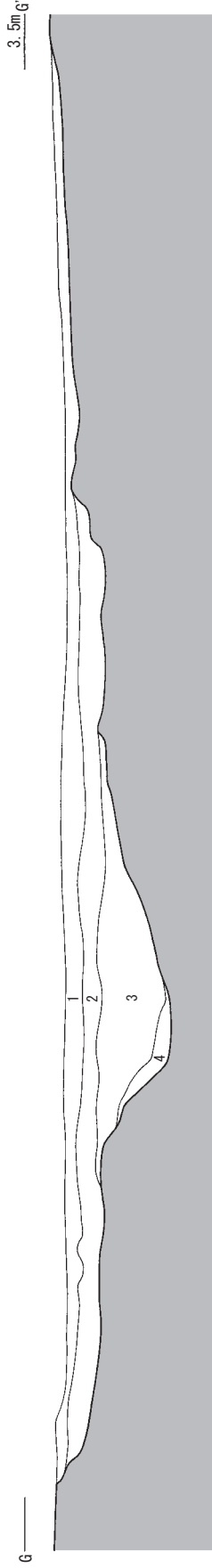
1. 黒褐 細砂[耕作土]
2. 黄 細砂(極細砂混じる)[旧耕作土・床土]
3. 明褐灰 細砂(極細砂混じる)[近世の耕作土]
4. 黒 シルト(細砂混じる、土壌化)
5. 暗赤灰 細砂(シルト混じる、土壌化)
6. 赤灰 シルト(細砂混じる、土壌化)
7. 褐灰 シルト(細砂混じる、土壌化)
8. 褐灰 シルト質極細砂(細砂混じる、土壌化)
9. 灰白 極細砂(粗砂・礫混じる、土壌化)
10. 青灰 極細砂
11. 紫灰 極細砂(礫混じる、土壌化)
12. 暗赤灰 シルト(礫多量・細砂混じる、腐植質)
13. 赤灰~暗紫灰 シルト質極細砂[上層水田]
14. 黒褐 細砂(シルト混じる)
15. 黒褐 極細砂(細砂・シルト混じる)
16. 暗赤灰 シルト(細砂混じる)
17. 褐灰 シルト(細砂混じる)
18. 灰白 極細砂(中砂混じる)
- 18' 黄橙 極細砂
19. 赤灰 細砂質極細砂(土壌化)
20. 暗赤灰 極細砂(細砂混じる)[下層水田]
21. 褐灰 極細砂(細砂混じる)
- 21' 褐灰 極細砂~細砂(シルト混じる)
- 21'' 褐灰 極細砂~細砂(44層ブロック混じる)
22. 黒褐 シルト(極細砂混じる)
23. 黒 シルト
24. 褐灰 極細砂(シルト混じる)
25. 灰~灰オリブ 極細砂(シルト混じる)
26. 黄灰 中砂~細砂[洪水砂]
27. 褐灰 細砂(シルト混じる、腐植質、土壌化)
28. 黄灰 細砂
29. 黄灰 細砂(シルト混じる、腐植質、土壌化)
30. 黒褐 シルト(極細砂混じる、腐植質、土壌化)
31. 褐灰 中砂~粗砂
32. 灰黄褐 砂礫[旧河道堆積]
- 32' 灰黄褐 中砂~粗砂
33. 浅黄 シルト質極細砂(細砂混じる)
34. 黒褐 細砂(シルト混じる)
35. 灰白 極細砂質シルト
36. 黄灰 極細砂質細砂
37. 褐灰 極細砂[溝埋土]
38. 黒褐 シルト(上面にサンクラック)
39. 灰 細砂(シルト混じる)
40. 灰白 シルト(礫混じる)
41. 暗赤灰 細砂(シルト混じる)[溝・柱穴埋土]
42. 暗赤灰 シルト質極細砂(細砂混じる)
43. 暗赤灰 シルト(細砂・極細砂混じる)
44. 明褐灰 極細砂
45. 褐 砂礫
46. 褐灰 シルト

南壁土層断面

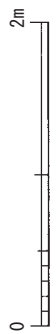
SD211



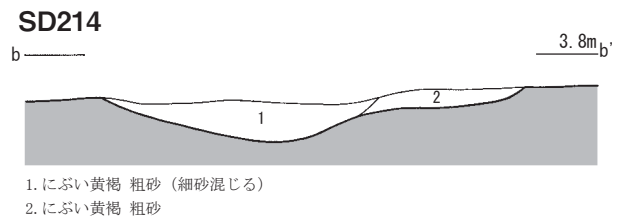
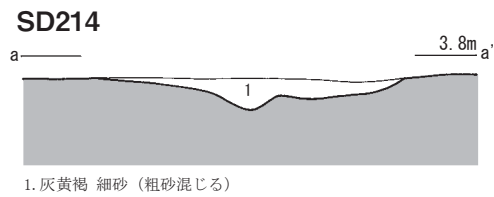
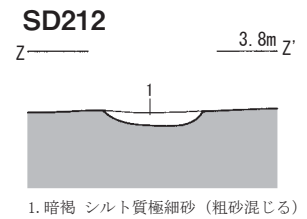
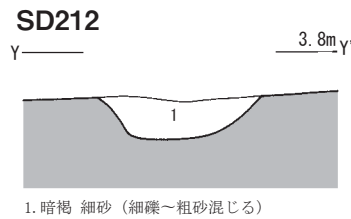
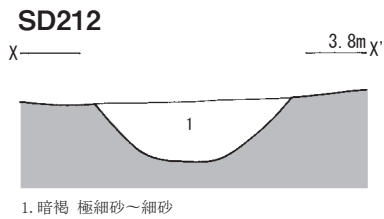
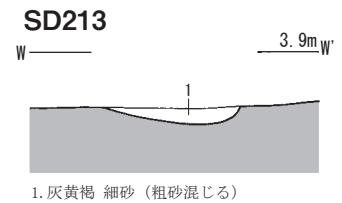
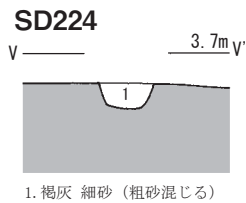
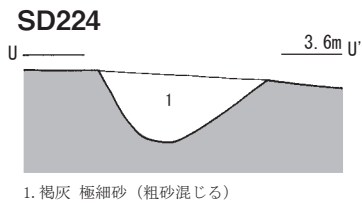
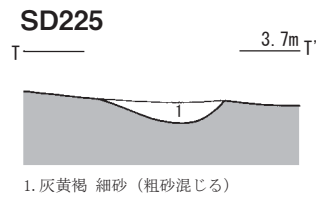
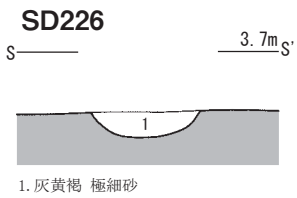
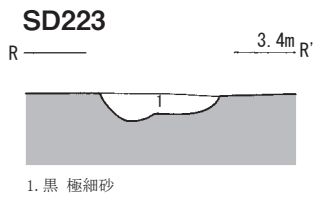
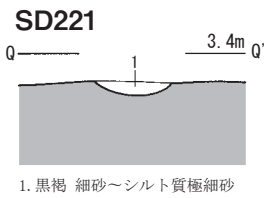
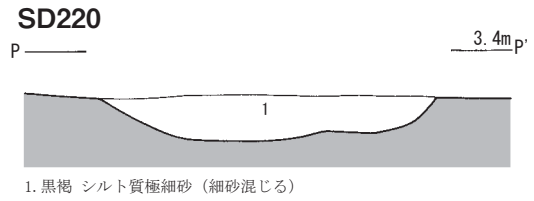
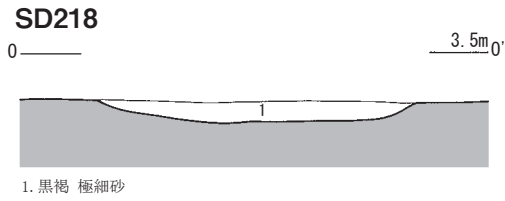
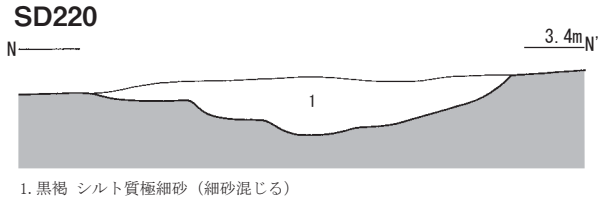
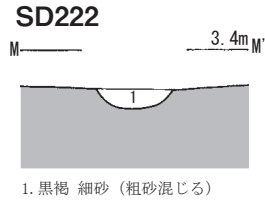
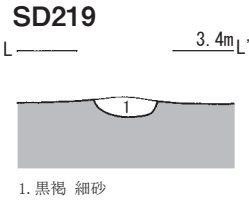
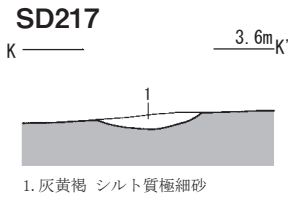
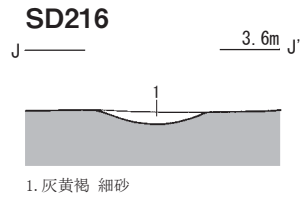
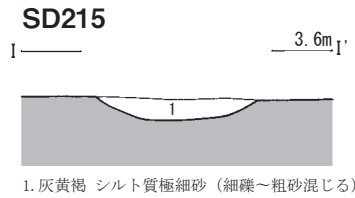
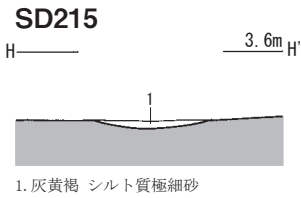
- 1. 黒 シルト質極細砂 (細礫混じる)
- 2. 黒 シルト質極細砂 (細礫少量混じる)
- 3. 褐灰 シルト質極細砂
- 4. 黒褐 シルト質極細砂
- 5. 黒褐 細砂～極細砂
- 6. 褐灰 細砂～極細砂
- 7. 褐灰 シルト質極細砂



- 1. 黒褐 シルト質極細砂 (細礫少量混じる)
- 2. 灰黄褐 シルト質極細砂 (細礫少量混じる)
- 3. 褐灰 極細砂～シルト質極細砂
- 4. 黒褐 シルト質極細砂

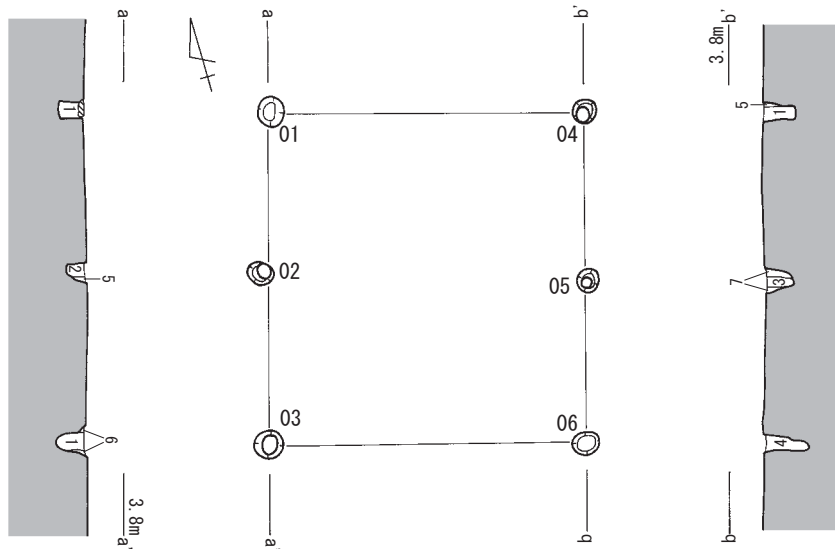


溝 SD211 土層断面



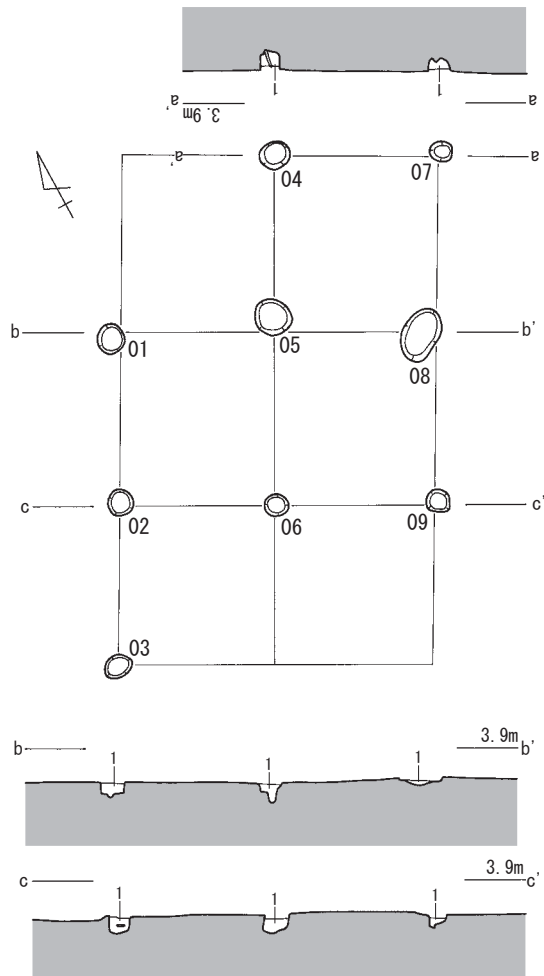
溝 SD212～SD226 土層断面

SB082



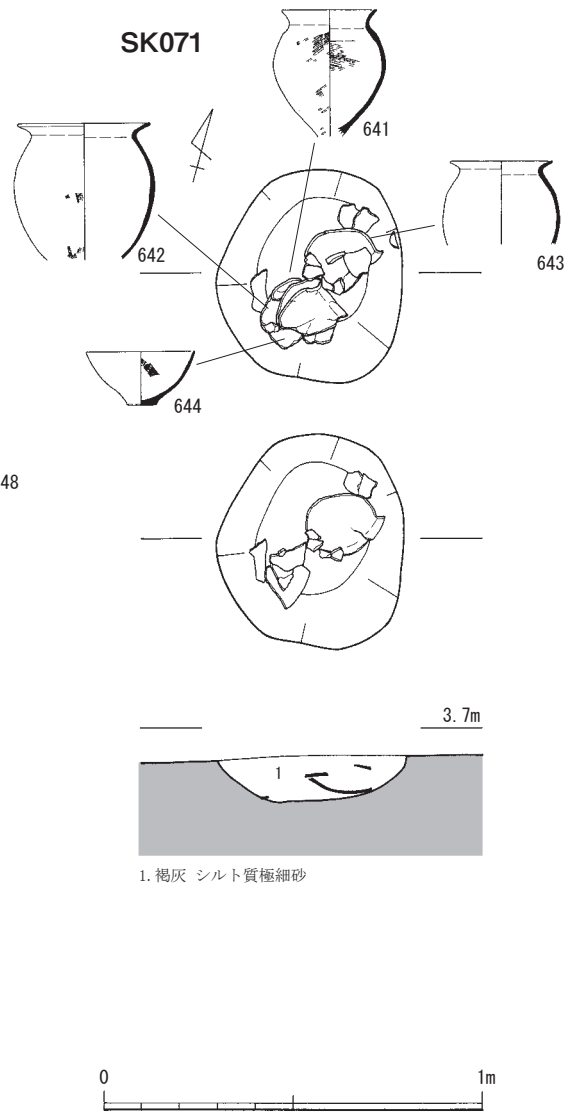
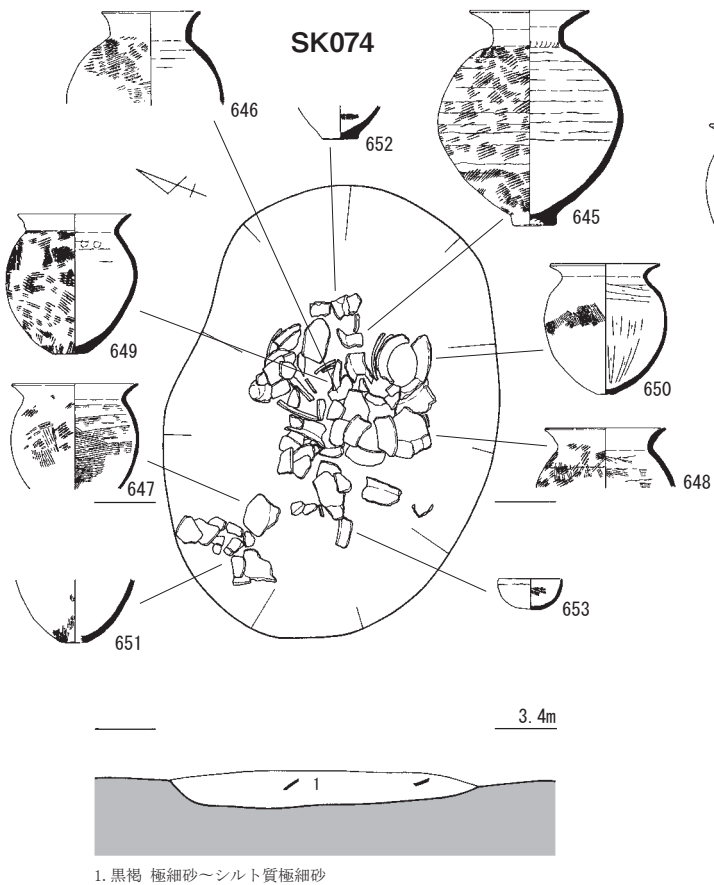
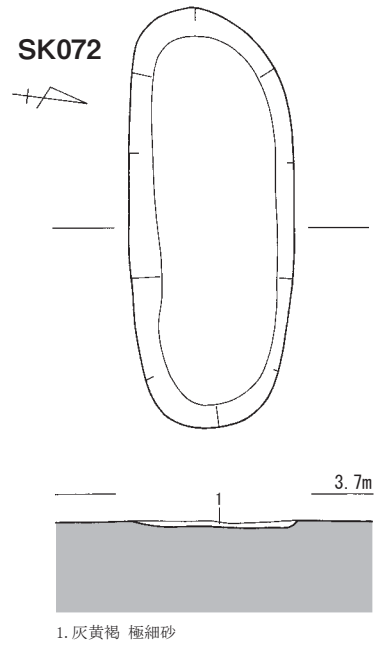
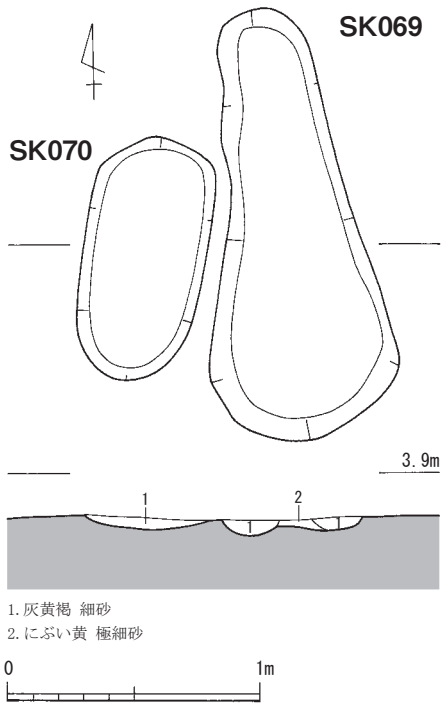
1. 灰黄褐 細砂～シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒混じる)
2. 黒褐 細砂～シルト質極細砂 (炭化物含)
3. 灰黄褐 細砂
4. 黒褐 細砂～シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒混じる)
5. 灰黄褐 細砂～シルト質極細砂
6. 黒褐 細砂 (灰白シルト質極細砂粒混じる)
7. にぶい黄橙 シルト質極細砂 (細砂混じる)

SB083

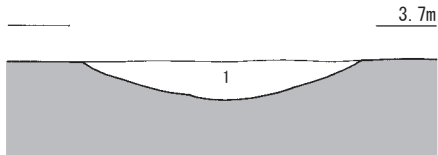
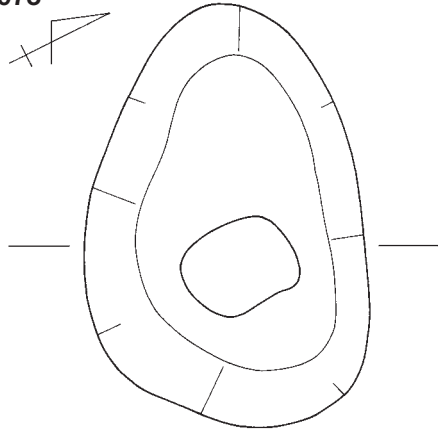


1. 黒褐 シルト質極細砂 (灰黄シルト質極細砂粒混じる)



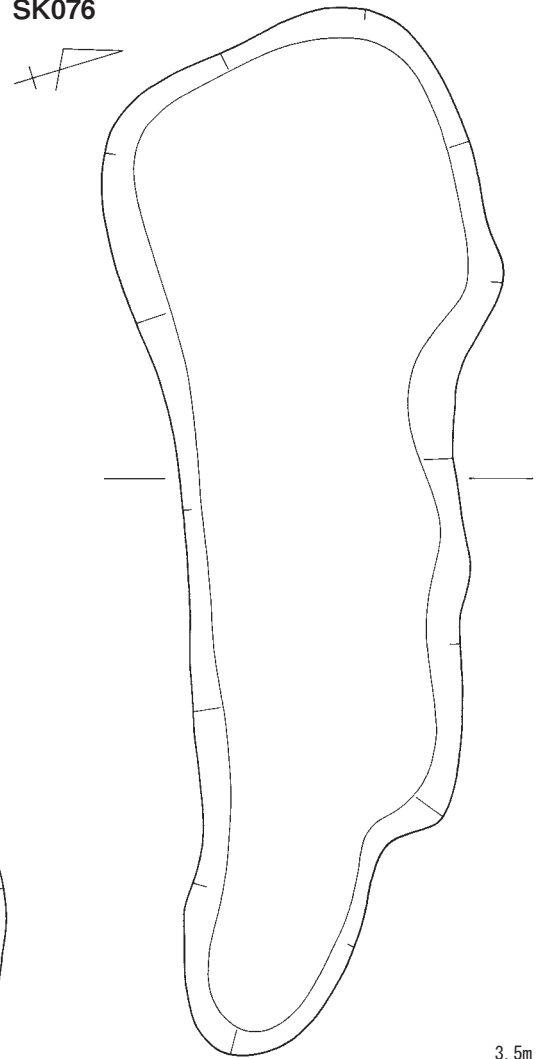


SK073



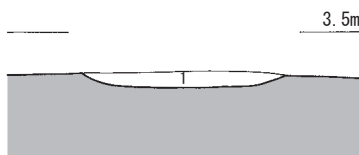
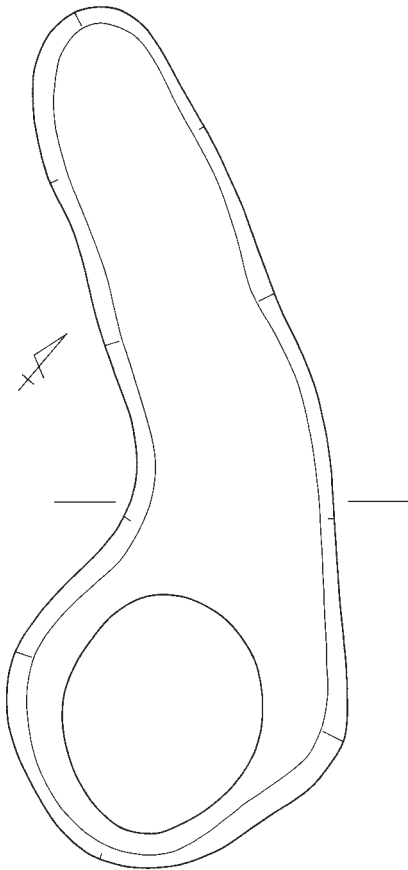
1. 黒褐 シルト質極細砂

SK076



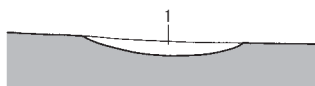
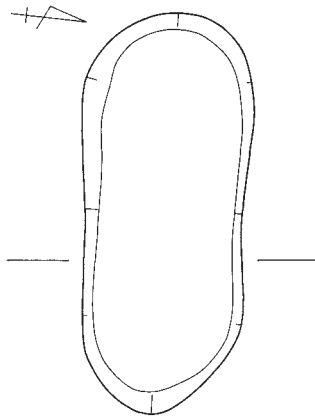
1. 黒褐 極細砂～シルト質細砂

SK075



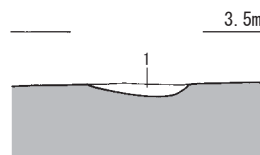
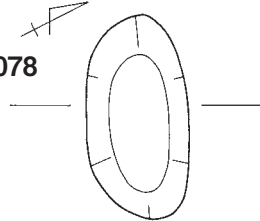
1. 黒褐 極細砂～細砂

SK077



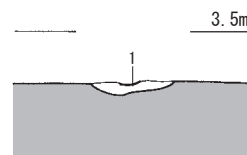
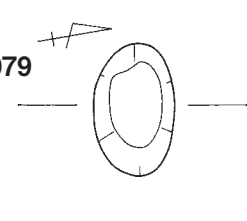
1. 黒褐 細砂 (シルト質極細砂混じる)

SK078



1. 黒褐 細砂～中砂

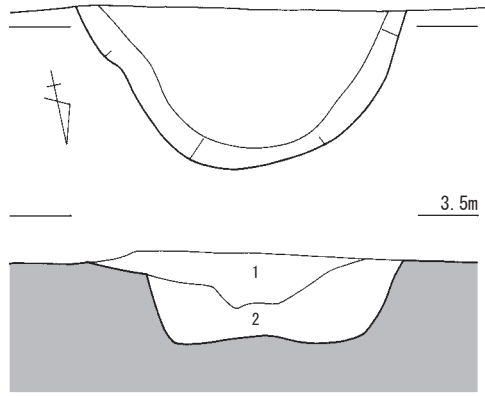
SK079



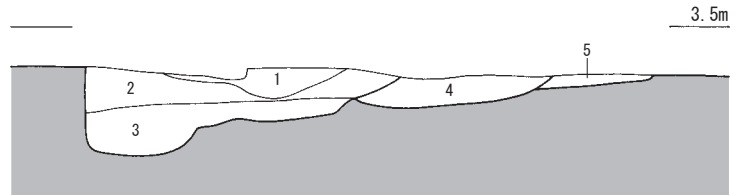
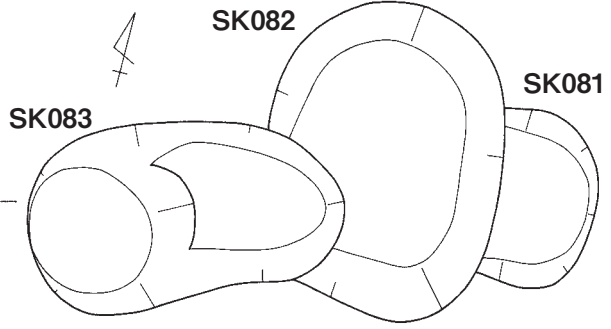
1. 黒褐 細砂～シルト質極細砂



SK080

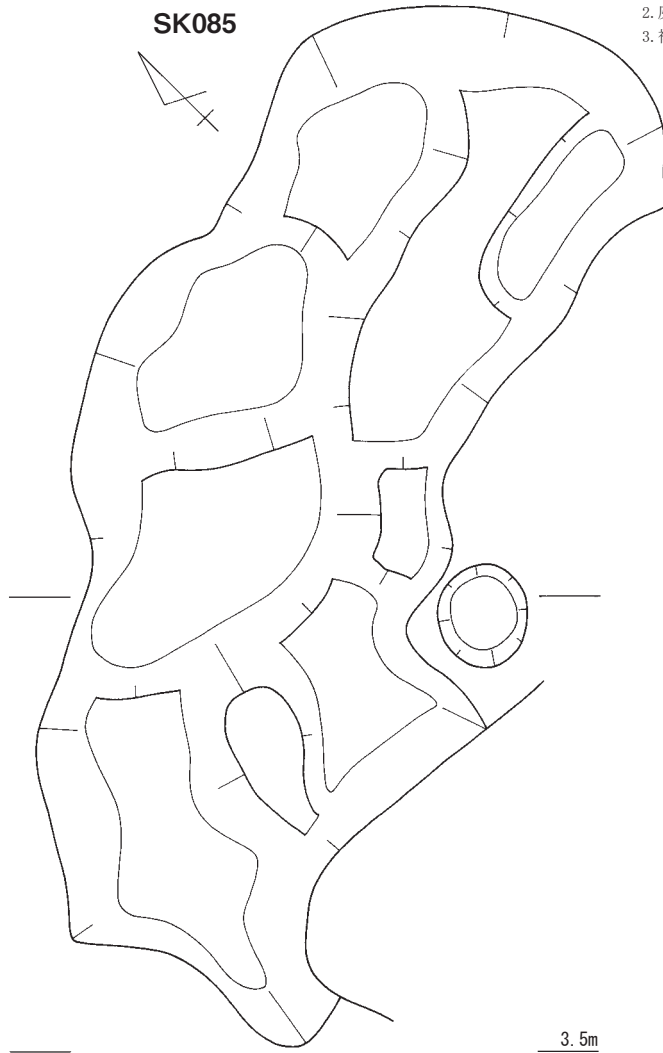


- 1. 褐灰 シルト質極細砂
- 2. 褐灰 シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒混じる)



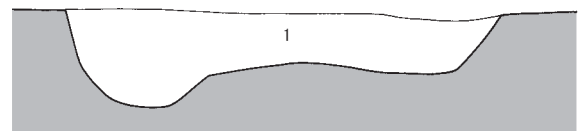
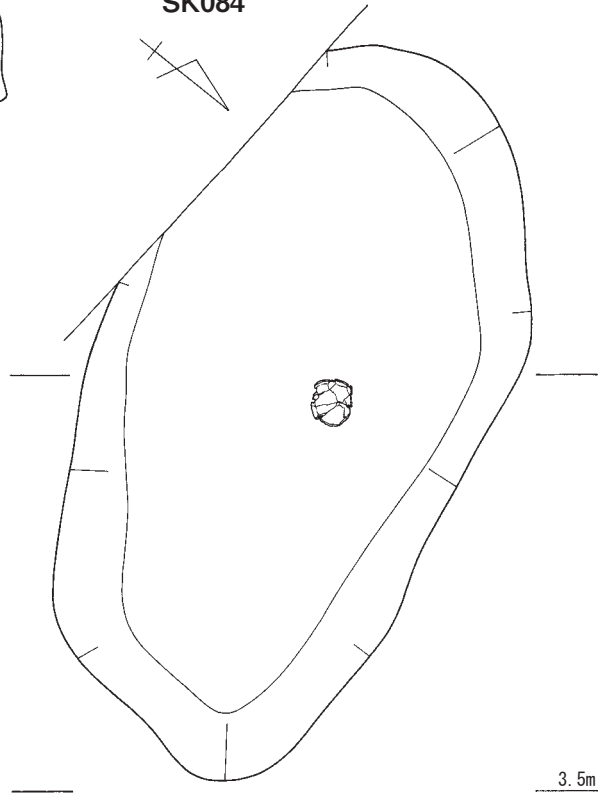
- 1. 黒褐 極細砂 (粗砂混じる)
- 2. 灰黄褐 シルト質極細砂
- 3. 褐灰 シルト質極細砂
- 4. 褐灰 シルト質極細砂
- 5. 灰黄褐 極細砂

SK085



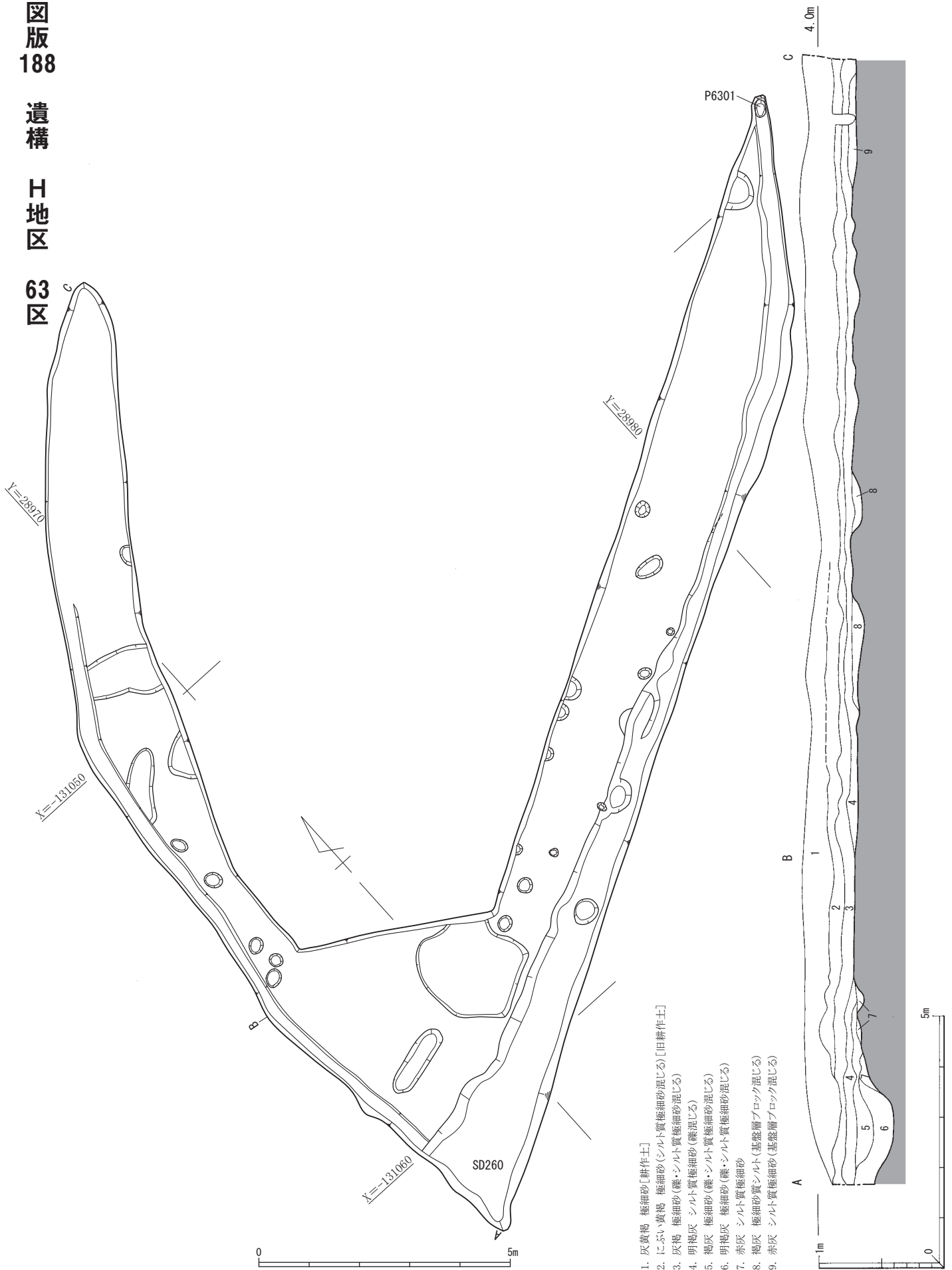
- 1. 褐灰 極細砂
- 2. 黒褐 シルト質極細砂 (灰黄褐シルト質極細砂粒混じる)

SK084

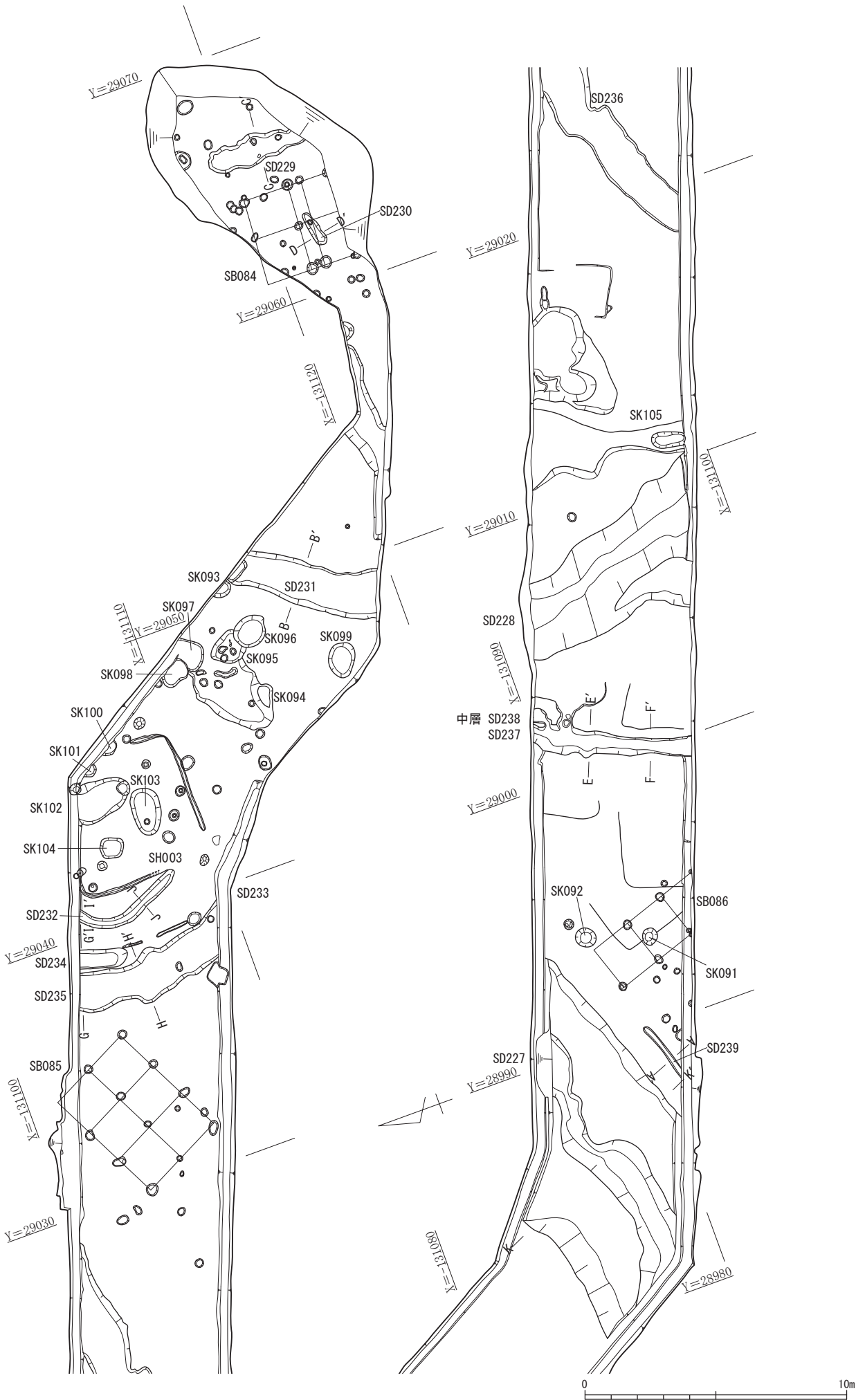


- 1. 褐灰 シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒混じる)

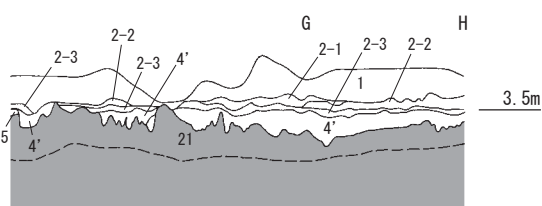
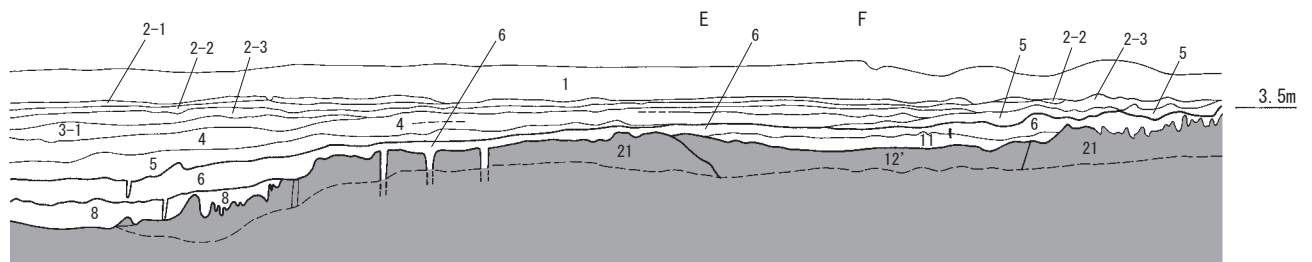
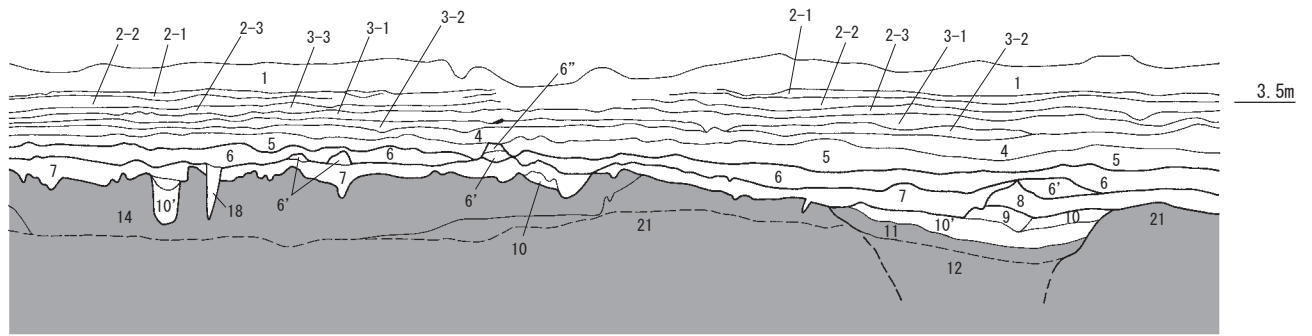
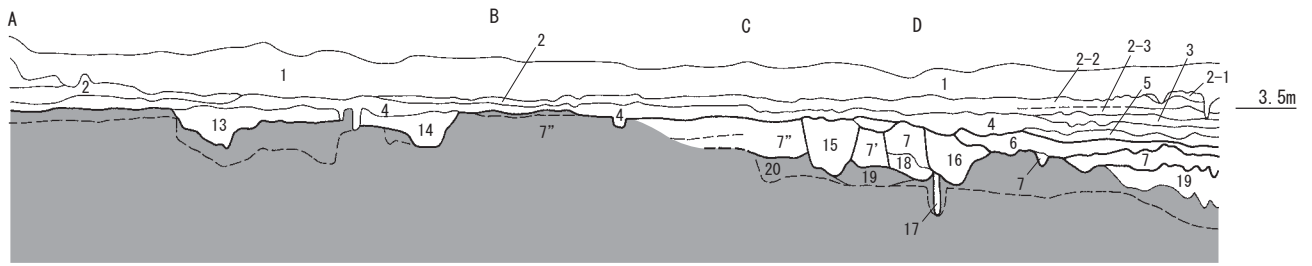




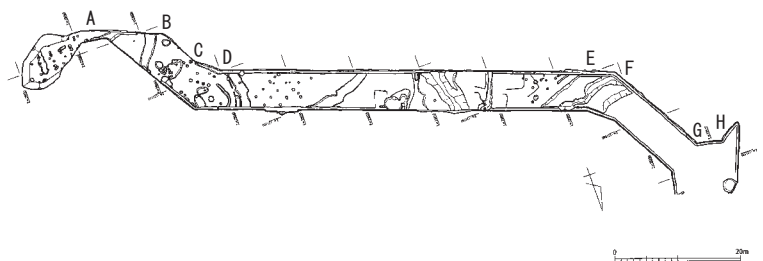
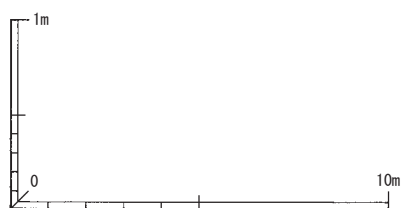
遺構配置 西壁土層断面



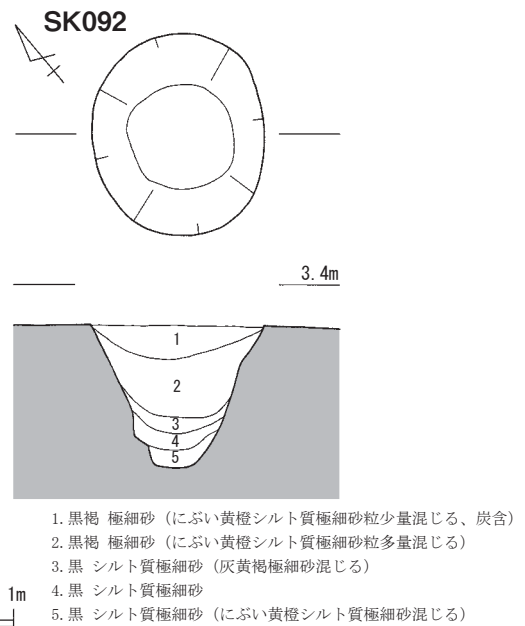
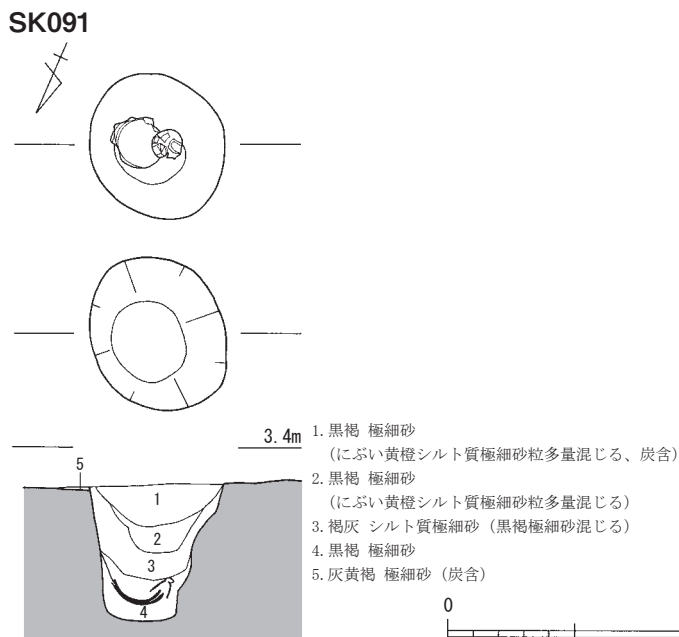
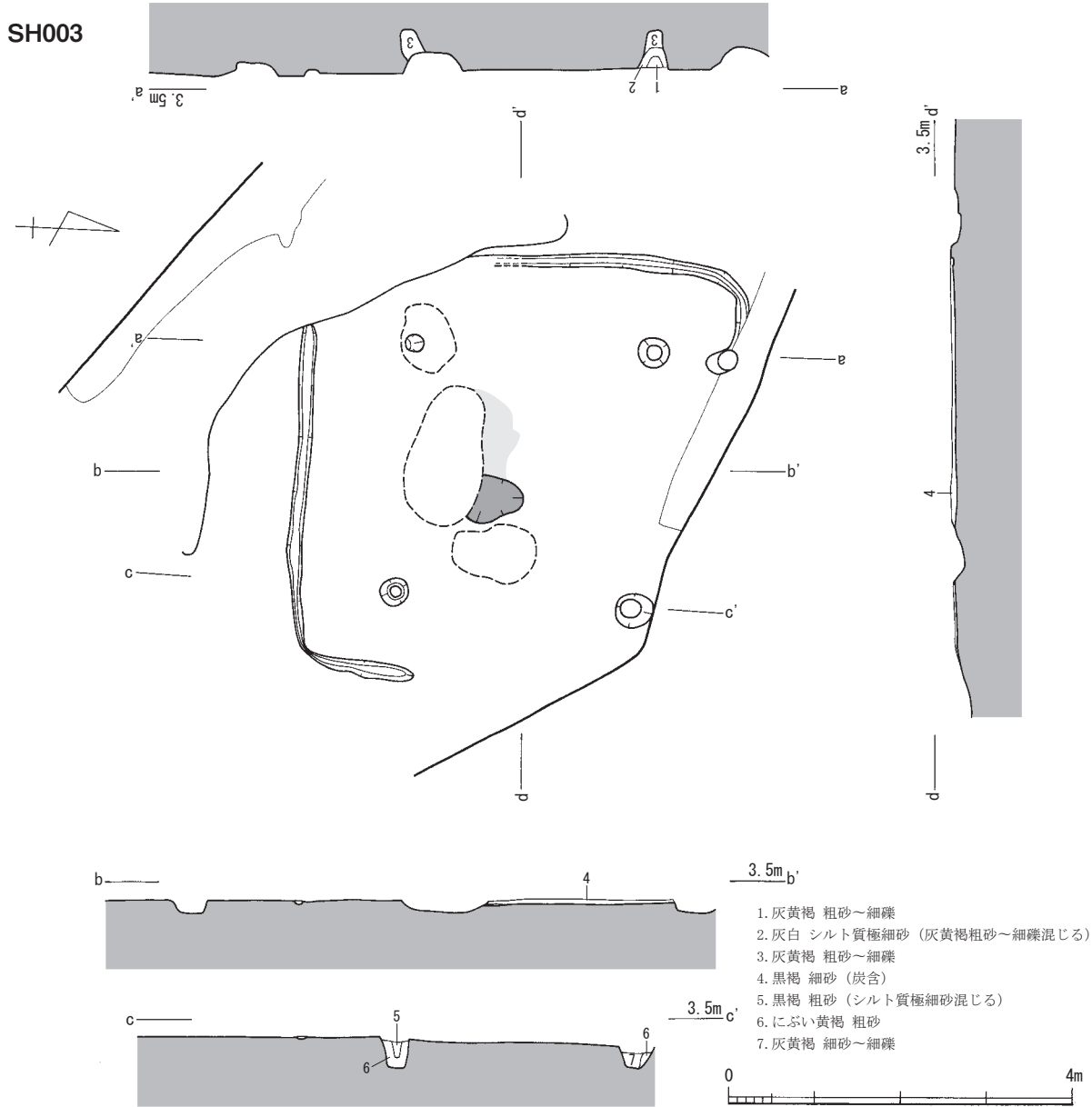
遺構配置

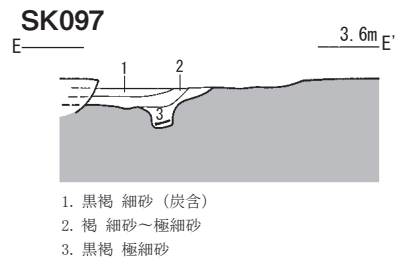
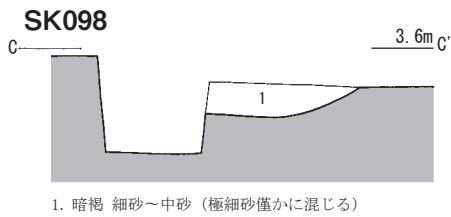
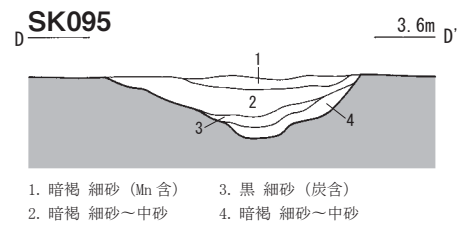
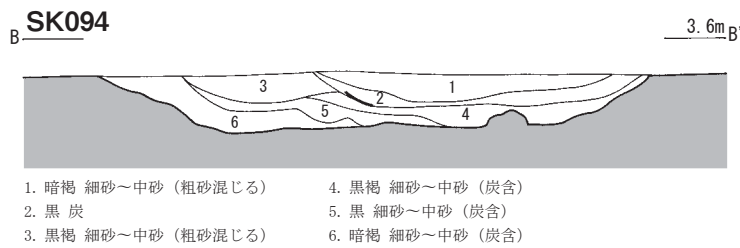
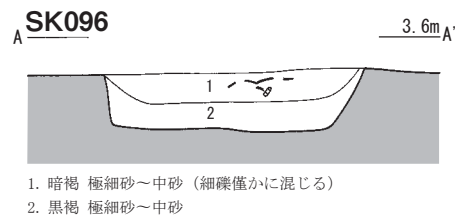
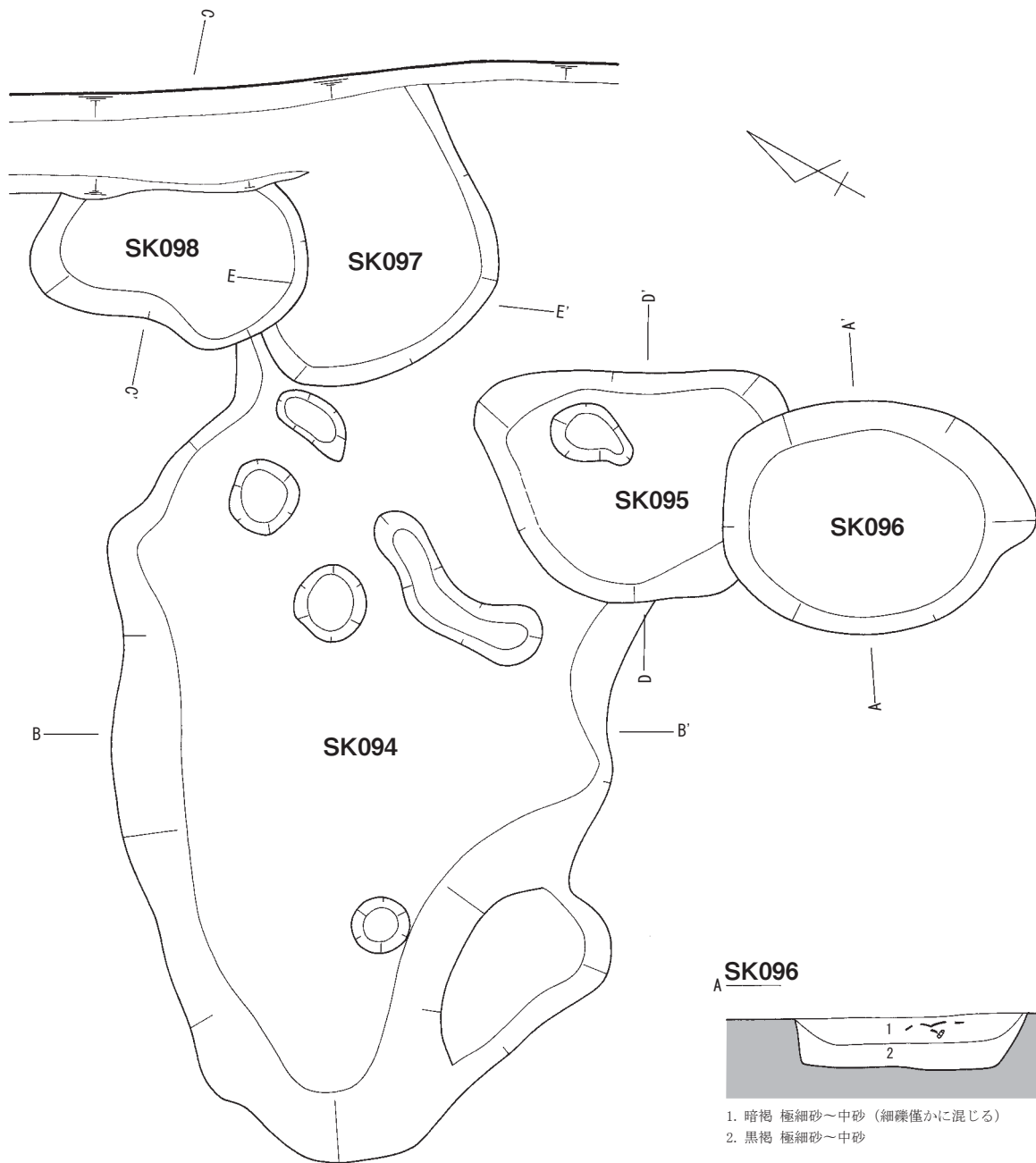


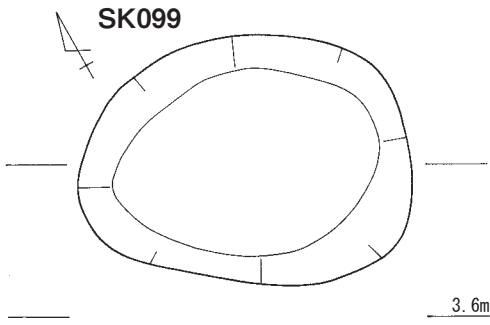
- 1. 黒褐 細砂[耕作土]
- 2.2-1.2.2-2.2-3. 灰黄褐 細砂(シルト質極細砂混じる、Fe₂O₃・Mn集積)[床土]
- 3-1. 褐灰 シルト質極細砂(細砂～中砂混じる)
- 3-2. 褐灰 粗砂(シルト質極細砂混じる)[洪水]
- 4. 黒褐 シルト質極細砂[上層水田]
- 4'. シルト質極細砂(中砂～細砂混じる)[上層を水田耕作]
- 5. 褐灰 シルト質極細砂(細砂多量に混じる)
- 6. 灰褐 粗砂(シルト質極細砂混じる)
- 6'. オリーブ褐 細砂～中砂(シルト質極細砂混じる)[畦畔]
- 6''. 灰黄褐 シルト質極細砂(土壌化)
- 7. 暗赤灰 細砂(シルト質極細砂混じる) [中層～下層水田]
- 7'. 暗赤灰 中砂～細砂(シルト質極細砂混じる)
- 7''. 灰黄褐 中砂～細砂
- 8. 黒褐 極細砂質シルト[下層水田土壌]
- 9. 黒褐 極細砂質シルト
- 10. 黒褐 シルト質極細砂
- 10'. 褐灰 細砂
- 11. 赤灰 中砂～細砂(シルト質極細砂混じる)
- 12. 褐灰 極細砂質シルト
- 12'. 赤灰 極細砂
- 13. 灰褐 粗砂(シルト質極細砂混じる)
- 14. 黒褐 中砂～粗砂(シルト質極細砂混じる)
- 15. オリーブ黒 中砂(シルト質極細砂混じる)
- 16. シルト質極細砂(細砂～中砂・灰白色ブロック混じる)
- 17. 黒褐 シルト質極細砂(細砂混じる)
- 18. 灰黄褐中砂(シルト質極細砂混じる)
- 19. にぶい黄褐 細砂～中砂(シルト質極細砂混じる)
- 20. 黄褐 細砂(シルト質極細砂混じる)
- 21. 灰白 シルト質極細砂



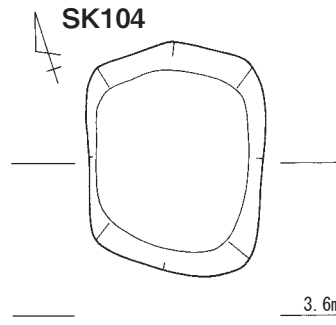
土層断面



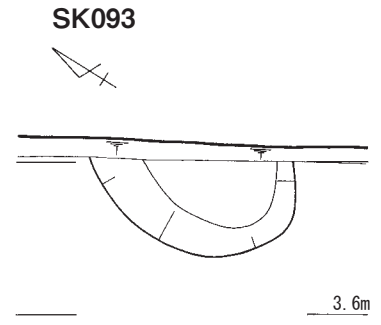




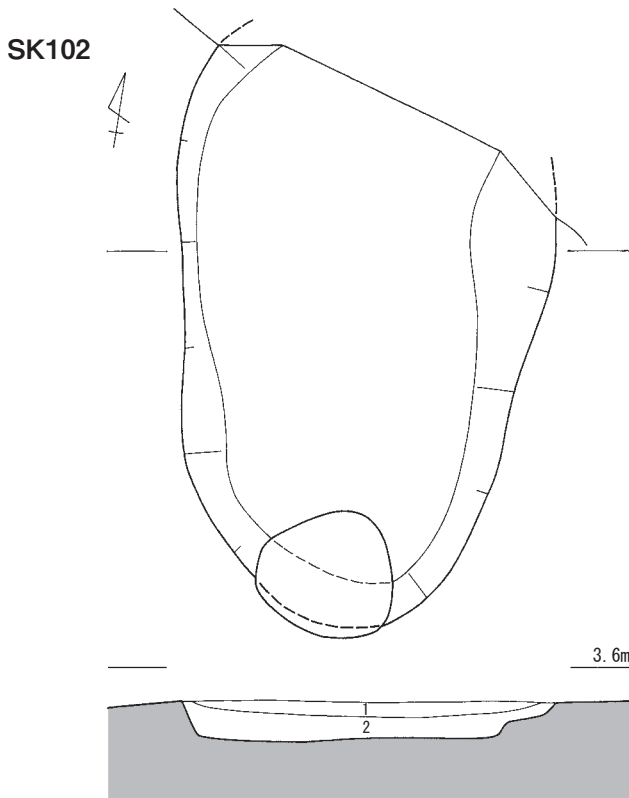
1. 黒褐 シルト質極細砂 (Mn・炭含)
2. にぶい黄褐 細砂～極細砂



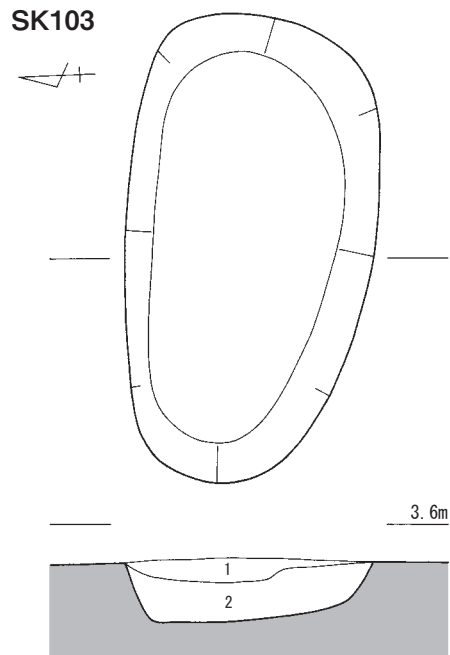
1. 灰黄褐 細砂～中砂 (黒褐極細砂粒混じる)



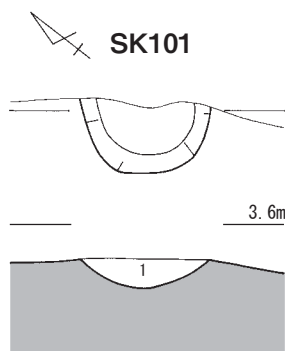
1. 灰黄褐 極細砂 (粗砂混じる)
2. 灰黄褐 中砂
3. 褐灰 極細砂 (黒褐混じる)



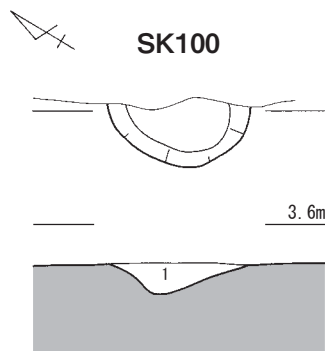
1. 褐灰 極細砂～細砂
2. 黒褐 極細砂～細砂 (粗砂・細礫混じる)



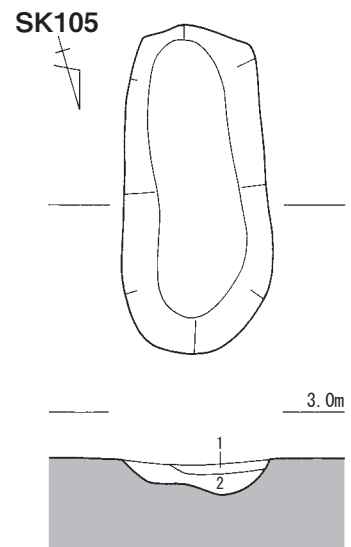
1. 黒褐 細砂 (粗砂混じる、炭含)
2. 黒褐 シルト質極細砂 (細砂～粗砂混じる)



1. 灰黄褐 細砂 (粗砂混じる、炭含)



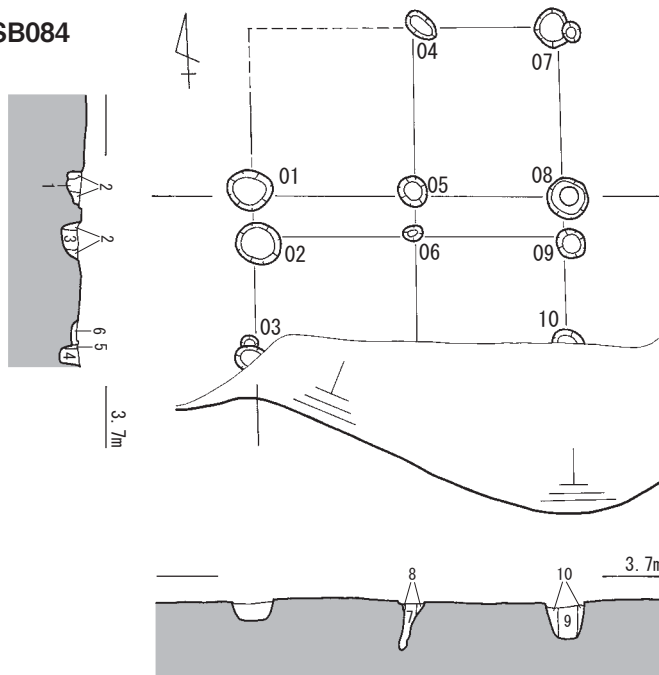
1. 黒褐 粗砂 (細砂混じる)



1. 黒褐 シルト質極細砂
2. 灰黄褐 シルト質極細砂～極細砂

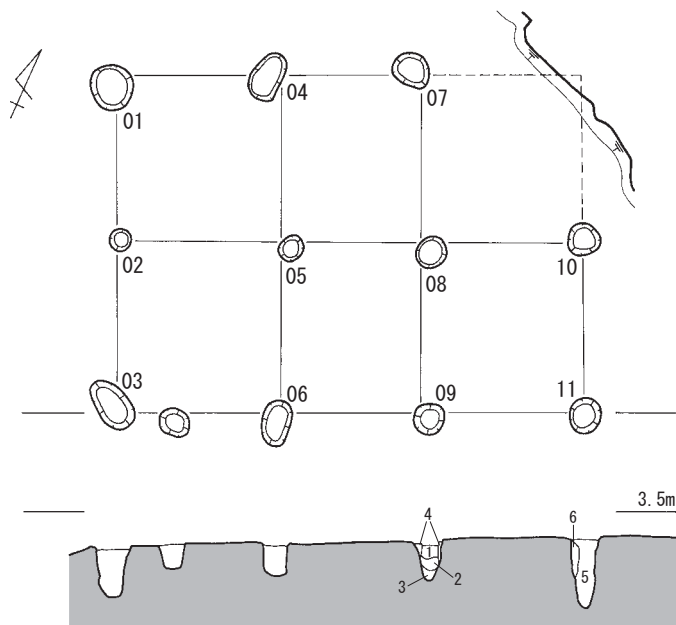


SB084

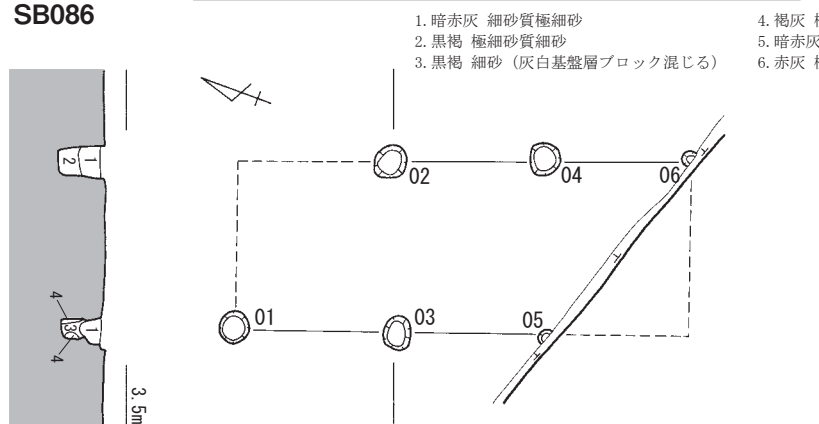


1. にぶい黄褐 極細砂質細砂 (Fe₂O₃含)
2. 灰黄褐 細砂質極細砂
3. にぶい赤褐 細砂質極細砂 (シルト質極細砂混じる)
4. 赤灰 極細砂 (粗砂混じる)
5. 灰黄褐 中砂～粗砂 (極細砂混じる)
6. 赤灰 極細砂 (粗砂混じる)
7. 黄灰 中砂 (極細砂・細礫混じる)
8. 褐灰 中砂 (細礫混じる、Mn斑有り)
9. 赤灰 中砂 (シルト質極細砂混じる)
10. 赤灰 細砂～中砂 (極細砂混じる、Mn含)

SB085



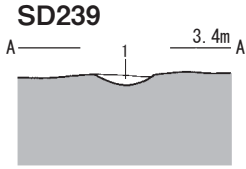
SB086



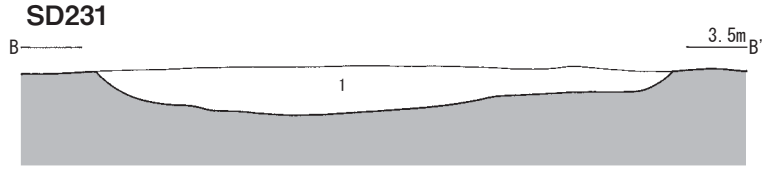
1. 暗赤灰 細砂質極細砂
2. 黒褐 極細砂質細砂
3. 黒褐 細砂 (灰白基盤層ブロック混じる)
4. 褐灰 極細砂質細砂
5. 暗赤灰 細砂～シルト質極細砂
6. 赤灰 極細砂 (灰白基盤層ブロック混じる)

1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (黄褐極細砂～シルト質極細砂粒混じる)
2. にぶい黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (灰黄褐シルト質極細砂粒混じる)
3. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (灰黄褐シルト質極細砂粒混じる)
4. 黄褐 極細砂～シルト質極細砂 (灰黄褐シルト質極細砂粒混じる)

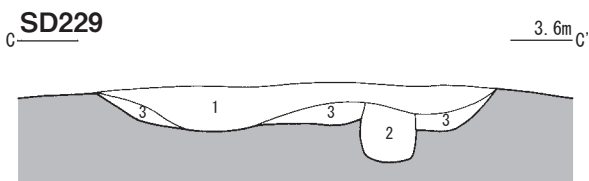




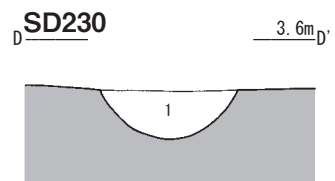
1. 灰黄褐 極細砂 (Fe₂O₃含)



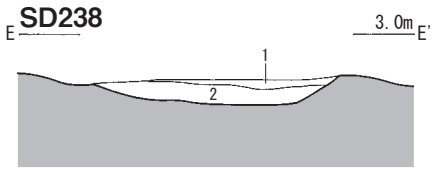
1. 黒褐 極細砂 (細礫多量に混じる)



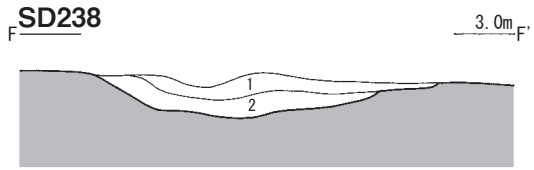
1. 黒褐 細砂～中砂 (Mn含)
2. 暗褐 細砂～中砂
3. 灰黄褐 中砂



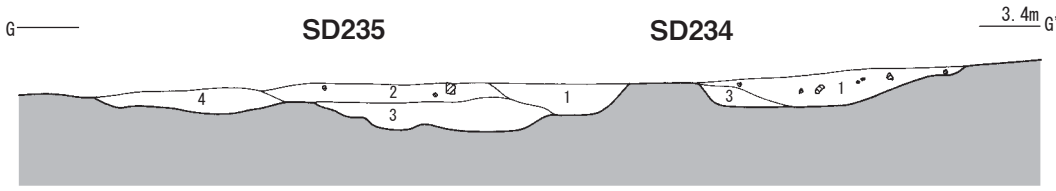
1. 黒褐 細砂～中砂



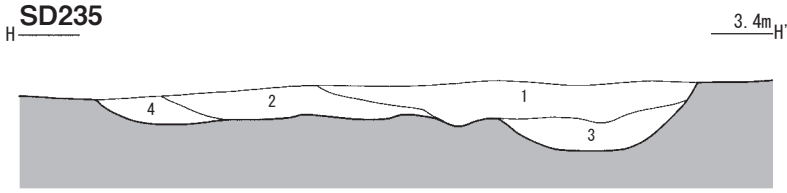
1. 褐灰 シルト質極細砂 (細砂混じる)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (極細砂混じる)



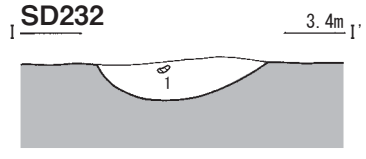
1. 褐灰 極細砂質シルト (土壌化)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (土壌化)



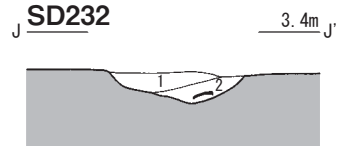
1. 褐灰 細砂 (細礫混じる) 3. 褐灰 細砂～極細砂 (基盤層ブロック混じる)
2. 褐灰 細砂～極細砂 (基盤層ブロック・細礫混じる) 4. 褐灰 細砂～極細砂



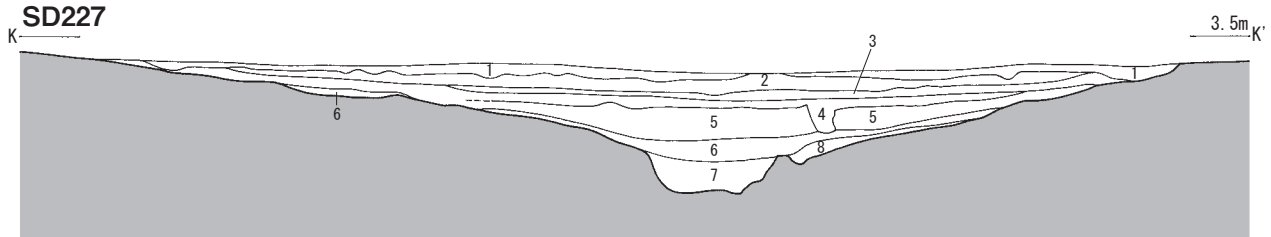
1. 褐灰 細砂 (細礫混じる)
2. 褐灰 細砂～極細砂 (基盤層ブロック・細礫混じる)
3. 褐灰 細砂～極細砂 (基盤層ブロック混じる)
4. 褐灰 細砂～極細砂



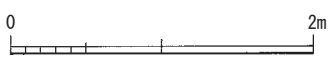
1. 褐灰 粗砂

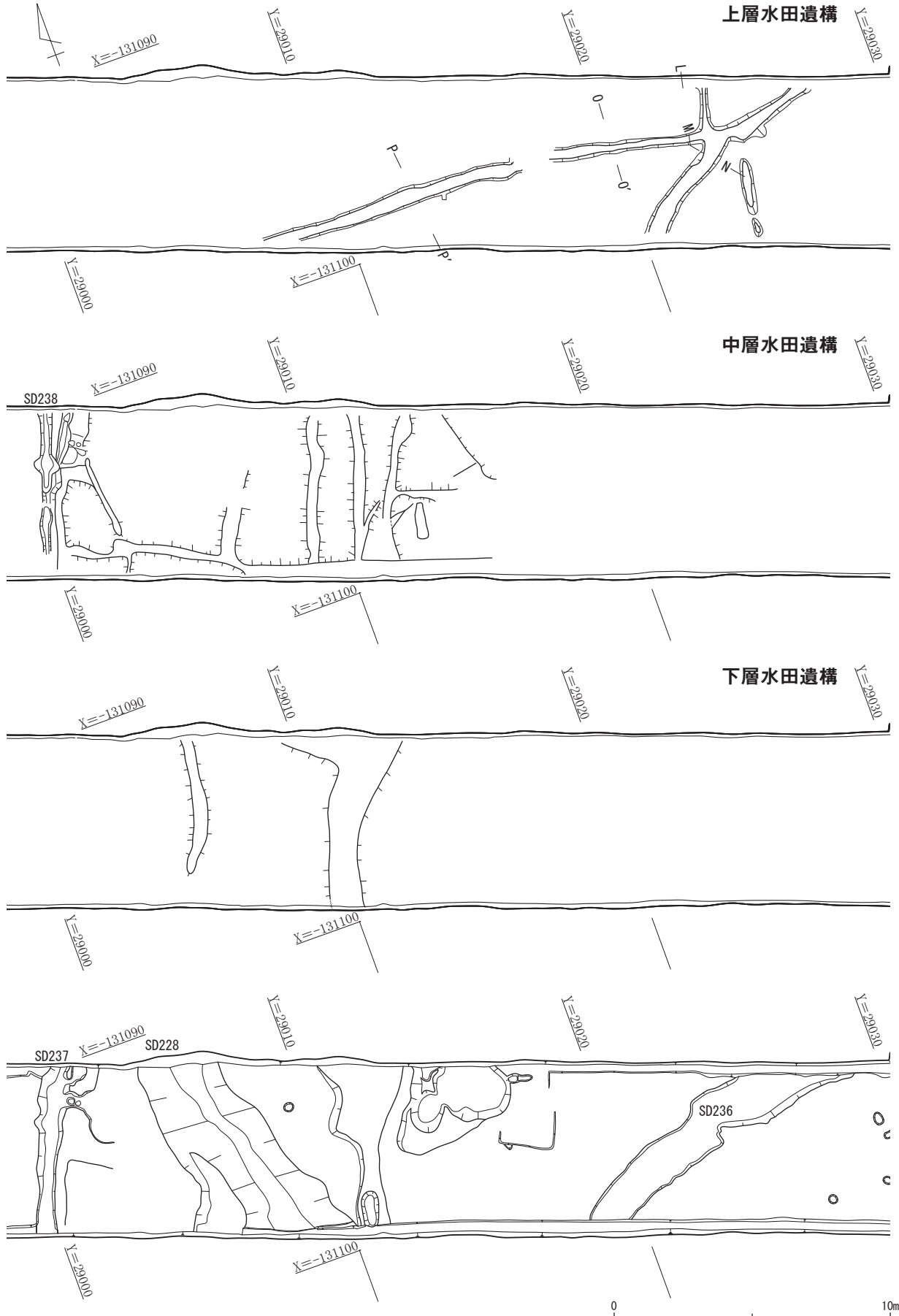


1. 褐灰 粗砂
2. 灰 粗砂



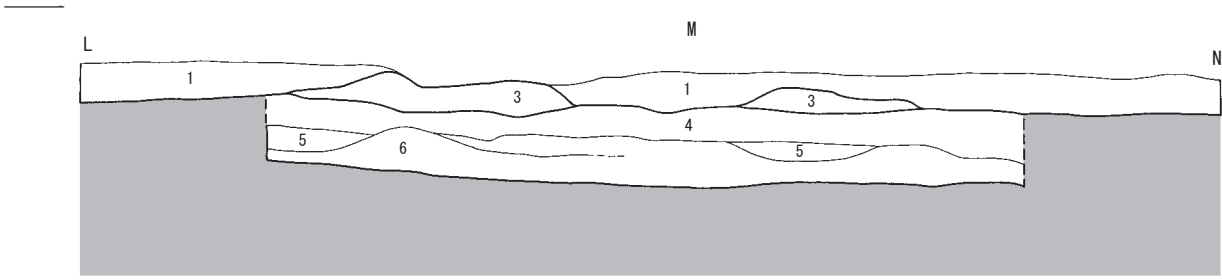
1. 褐灰 極細砂 (土壌化) 4. 明褐灰 極細砂質シルト 7. 赤灰 細砂質極細砂 (土壌化)
2. 明褐灰 極細砂 (細砂混じる、土壌化、Fe₂O₃含) 5. 黒褐 シルト質極細砂 (土壌化) 8. 明赤灰 極細砂質細砂
3. 褐灰 極細砂質シルト (土壌化) 6. 褐灰 シルト質極細砂 (土壌化、炭化物含)





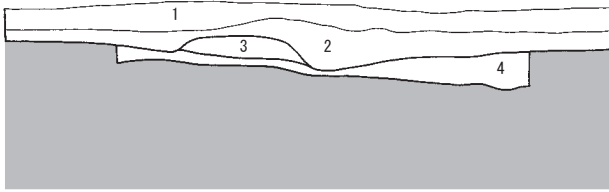
上層水田・中層水田・下層水田及び最下層の遺構

3.5m



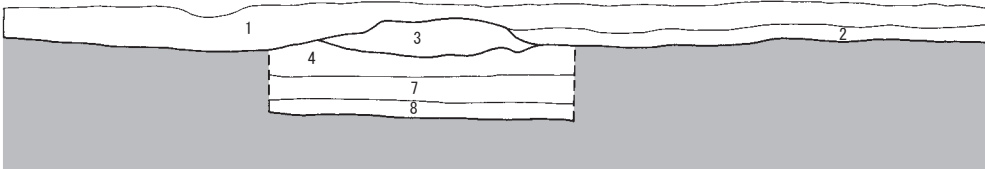
0

3.5m

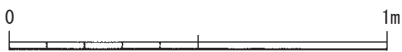


P

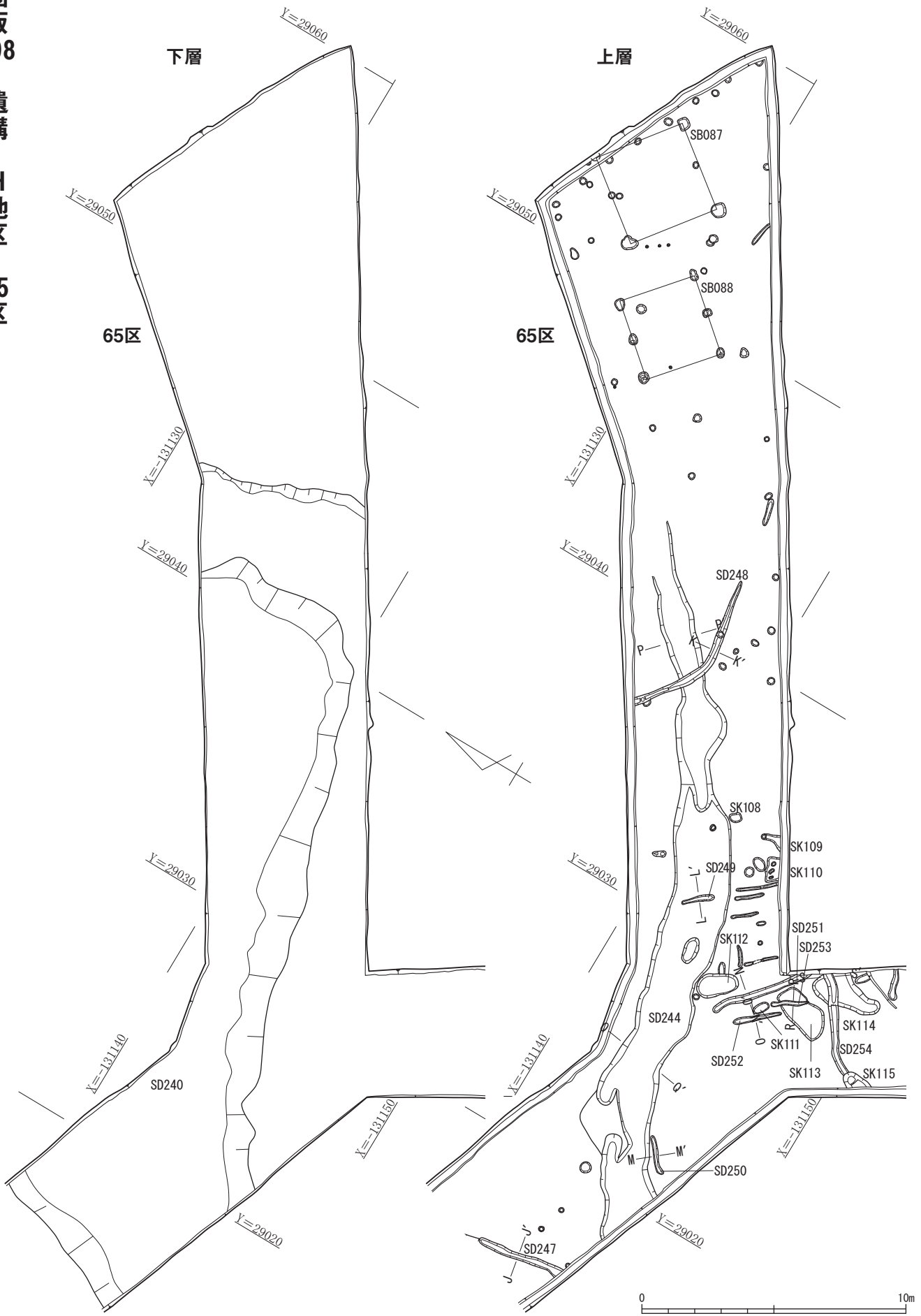
3.5m



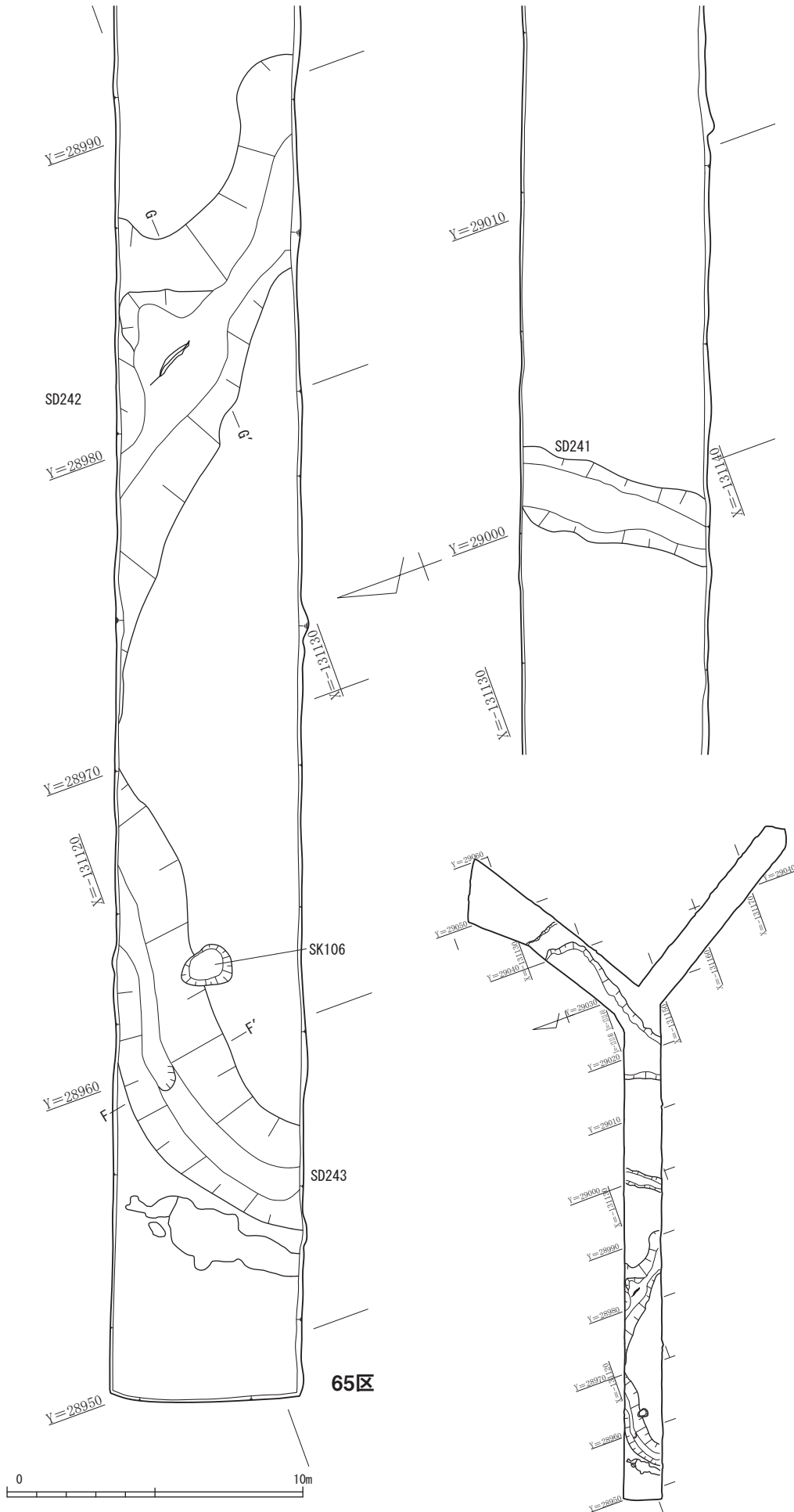
1. 褐灰 極細砂～極細砂質シルト（細砂混じる）〔上層水田土壤Ⅰ〕
2. 褐灰 シルト質極細砂（細砂～極細砂質シルト混じる）〔上層水田土壤Ⅱ〕
3. 褐灰 中砂・粗砂（洪水堆積）〔畦畔基部〕
4. 褐灰 極細砂（シルト質極細砂混じる）〔中層水田土壤〕
5. 褐灰 極細砂（粗砂混じる）
6. 灰 砂礫
7. 黒 細砂質極細砂（シルト質極細砂混じる、土壤化）
8. 黒 極細砂（シルト質極細砂混じる、やや土壤化）



上層水田土層断面

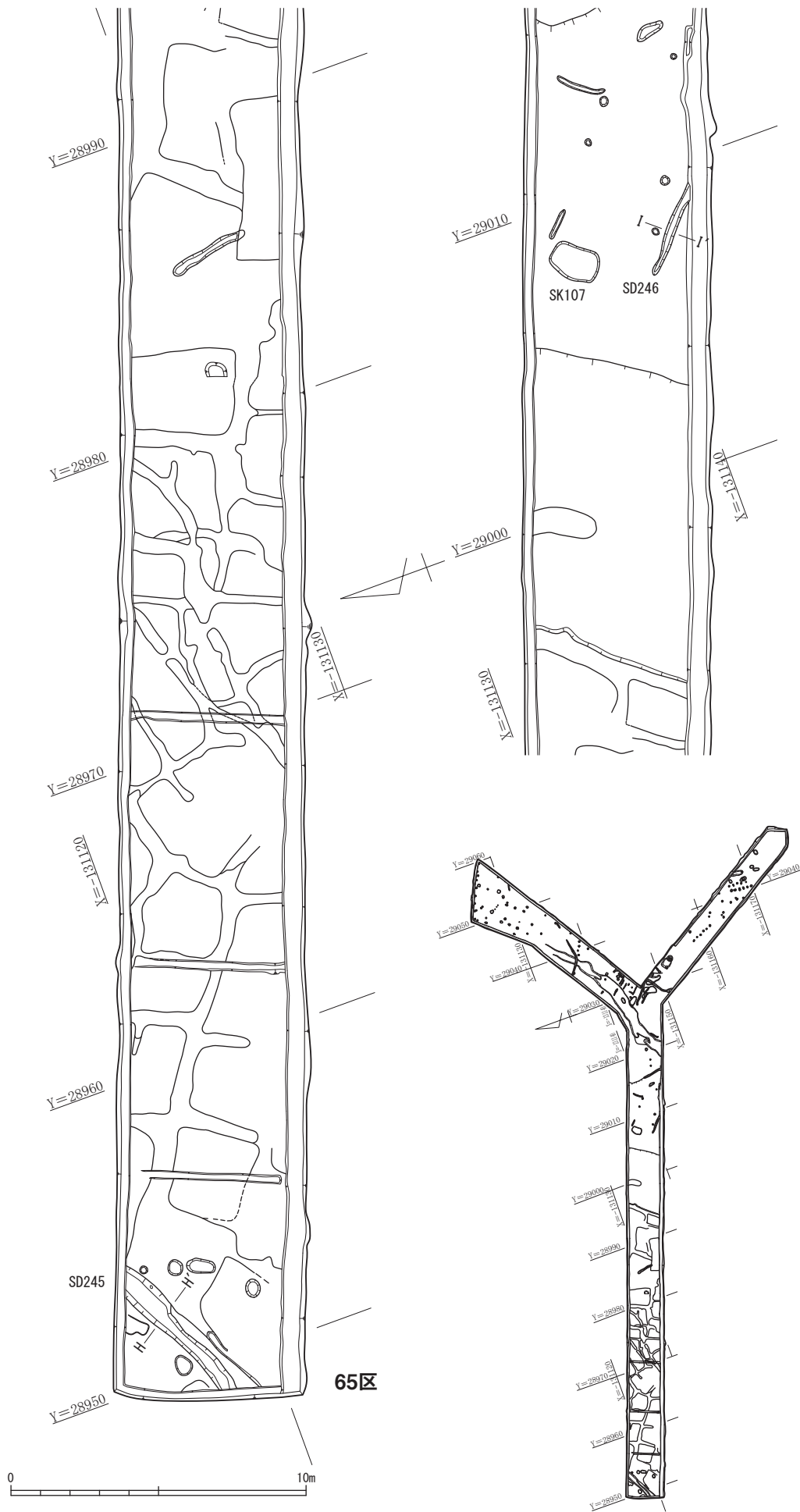


東半部 下層・上層遺構配置

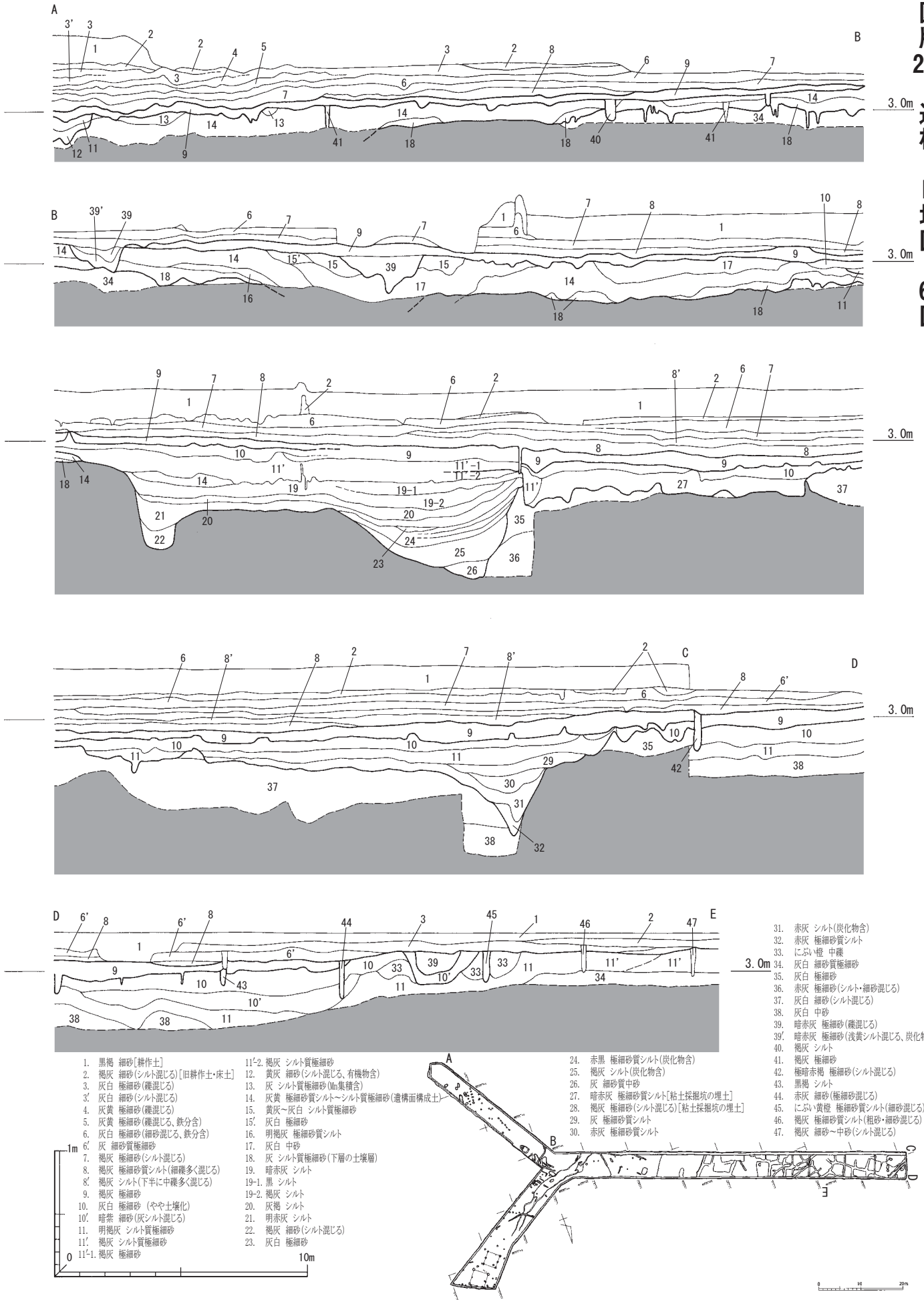


下層遺構配置

图版 200
 遺構 H地区 65区



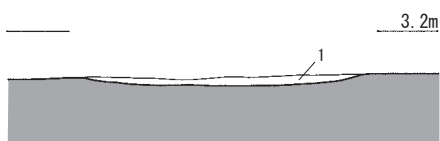
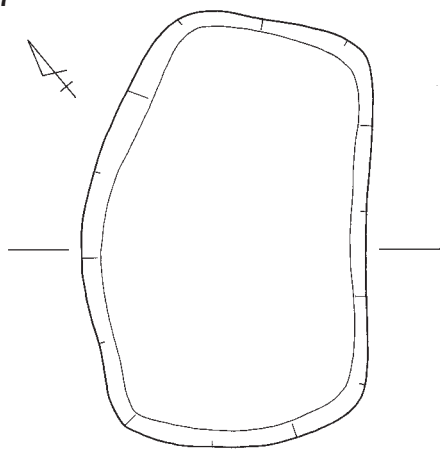
上層遺構配置



- | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------|
| 1. 黒褐 細砂[耕作土] | 11'-2. 褐灰 シルト質極細砂 | 24. 赤黒 極細砂質シルト(炭化物含) | 42. 極暗赤褐 極細砂(シルト混じる) |
| 2. 褐灰 細砂(シルト混じる)[旧耕作土・床土] | 12. 黄灰 細砂(シルト混じる、有機物含) | 25. 褐灰 シルト(炭化物含) | 43. 黒褐 シルト |
| 3. 灰白 極細砂(礫混じる) | 13. 灰 シルト質極細砂(Mn集積含) | 26. 灰 細砂質中砂 | 44. 赤灰 細砂(極細砂混じる) |
| 3'. 灰白 細砂(シルト混じる) | 14. 灰黄 極細砂質シルト-シルト質極細砂(遺構面構成土) | 27. 暗赤灰 極細砂質シルト[粘土採掘坑の埋土] | 45. にぶい黄橙 極細砂質シルト(細砂混じる) |
| 4. 灰黄 極細砂(礫混じる) | 15. 灰黄-灰白 シルト質極細砂 | 28. 褐灰 極細砂(シルト混じる)[粘土採掘坑の埋土] | 46. 褐灰 極細砂質シルト(粗砂-細砂混じる) |
| 5. 灰黄 極細砂(礫混じる、鉄分含) | 15'. 灰白 極細砂 | 29. 灰 極細砂質シルト | 47. 褐灰 細砂-中砂(シルト混じる) |
| 6. 灰白 極細砂(細砂混じる、鉄分含) | 16. 明褐灰 極細砂質シルト | 30. 赤灰 極細砂質シルト | |
| 6'. 灰 細砂質極細砂 | 17. 灰白 中砂 | | |
| 7. 褐灰 極細砂(シルト混じる) | 18. 灰 シルト質極細砂(下層の土壌層) | | |
| 8. 褐灰 極細砂質シルト(細礫多く混じる) | 19. 暗赤灰 シルト | | |
| 8'. 褐灰 シルト(下半に中礫多く混じる) | 19-1. 黒 シルト | | |
| 9. 褐灰 極細砂 | 19-2. 褐灰 シルト | | |
| 10. 灰白 極細砂(やや土壌化) | 20. 灰褐 シルト | | |
| 10'. 暗紫 細砂(灰シルト混じる) | 21. 明赤灰 シルト | | |
| 11. 明褐灰 シルト質極細砂 | 22. 褐灰 細砂(シルト混じる) | | |
| 11'. 褐灰 シルト質極細砂 | 23. 灰白 極細砂 | | |
| 11''-1. 褐灰 極細砂 | | | |

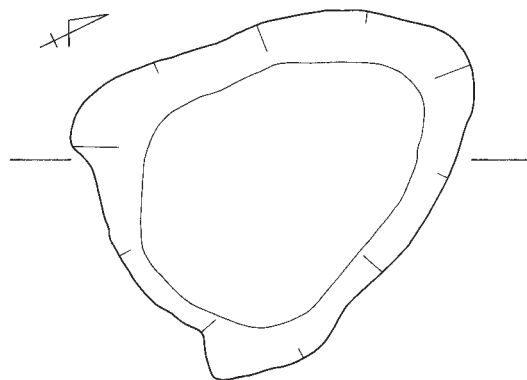
土層断面

SK107



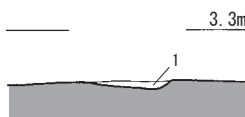
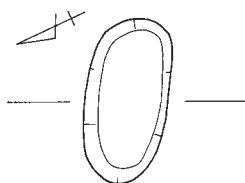
1. 褐灰 細砂(にぶい黄褐シルト質極細砂混じる)

SK106



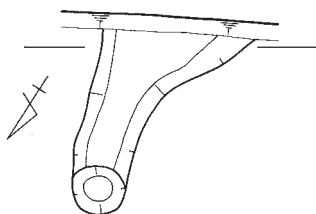
1. 黒褐 シルト質極細砂

SK111



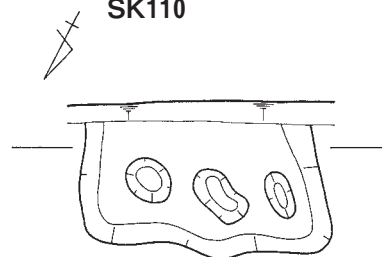
1. 灰黄褐 細砂~シルト質極細砂(炭化物含)

SK109

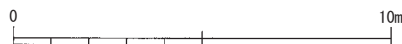
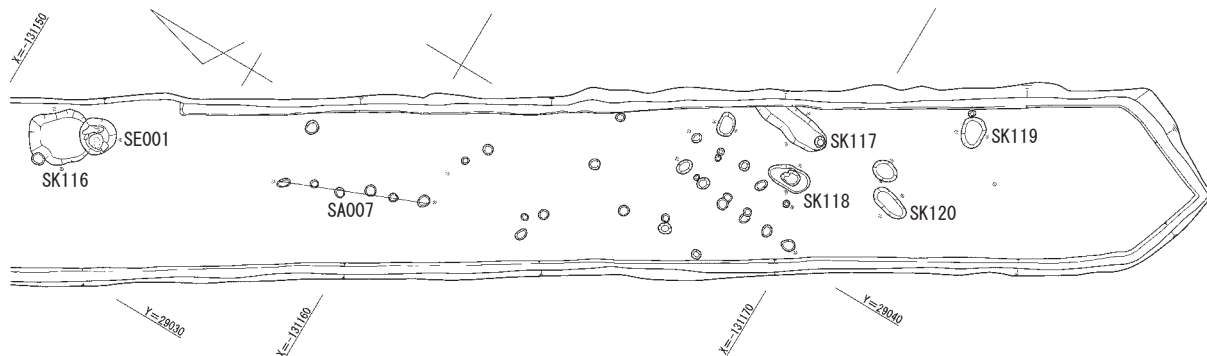
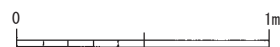


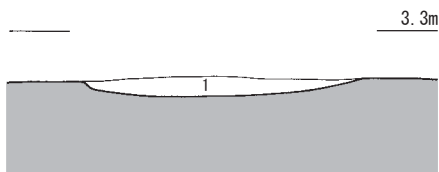
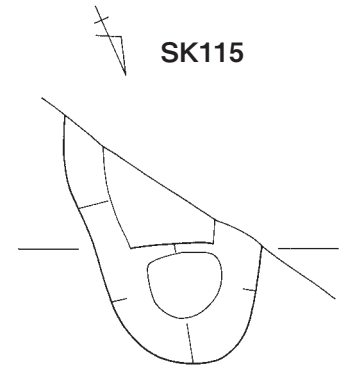
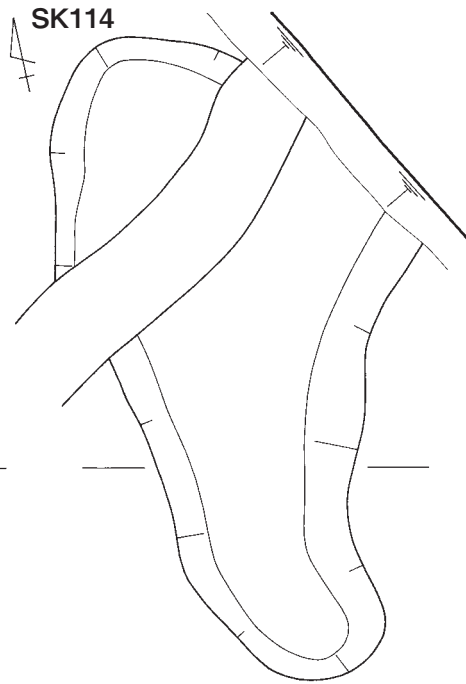
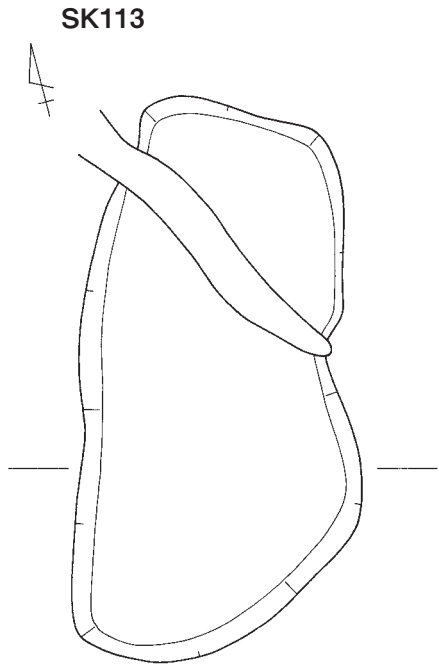
1. 暗灰黄 極細砂(炭化物含)

SK110

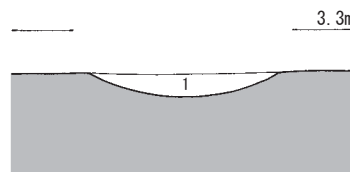


1. 黄褐 極細砂(炭化物含)





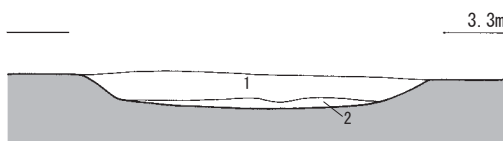
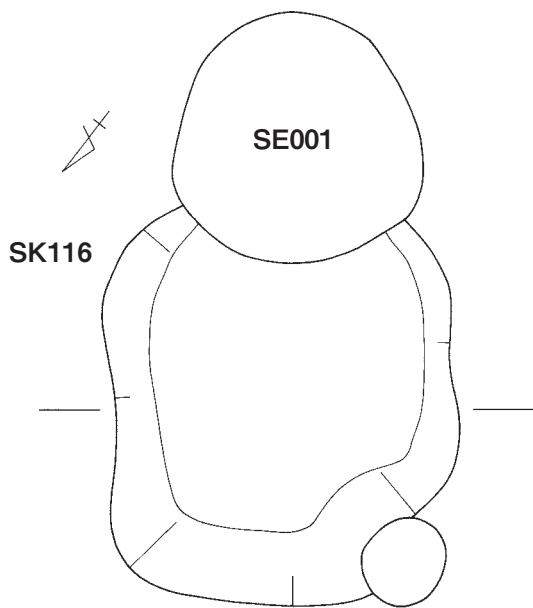
1. 黒褐 細砂～極細砂 (炭化物含)



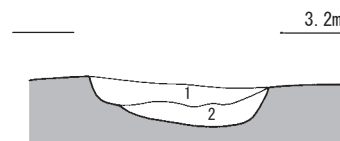
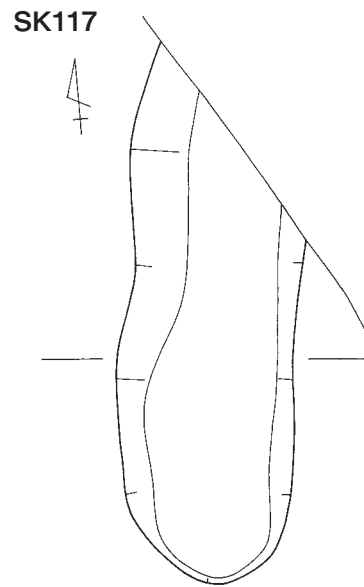
1. 黒褐 極細砂



1. 灰黄褐 シルト質極細砂 (細砂混じる、炭化物含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂



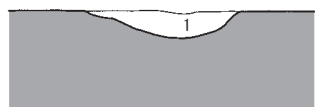
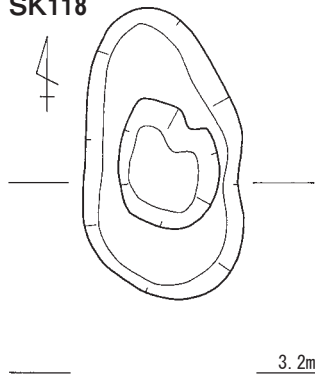
1. 灰黄褐 極細砂 (炭化物含)
2. 灰黄褐 シルト質極細砂



1. 褐灰 シルト質極細砂 (粗砂混じる、炭化物含)
2. 褐灰 粗砂

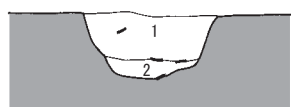
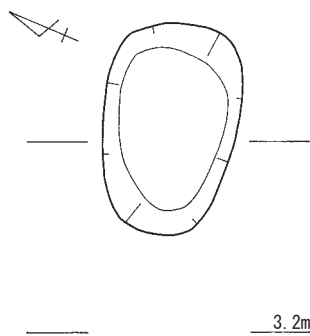


SK118



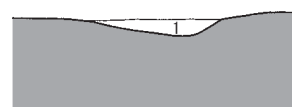
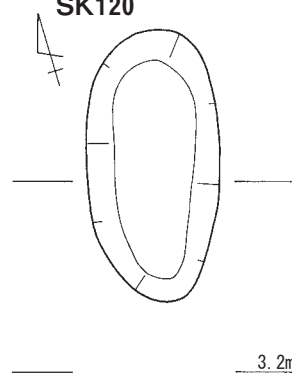
1. 褐灰 シルト質極細砂(粗砂混じる)

SK119



1. 褐灰 シルト質極細砂(粗砂混じる)
2. 灰黄褐 粗砂(シルト質極細砂混じる)

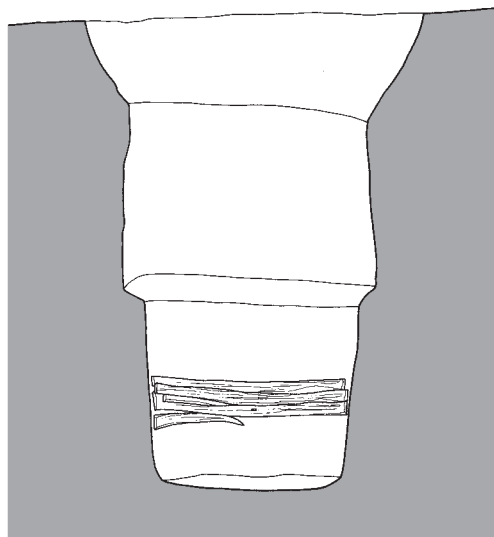
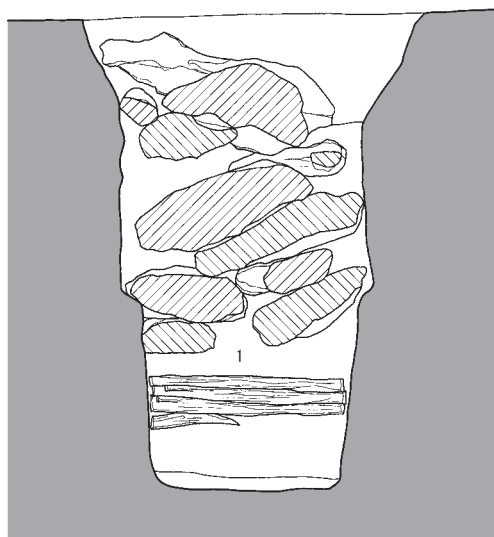
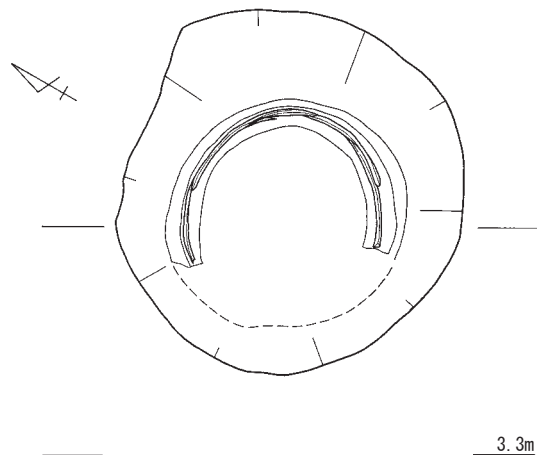
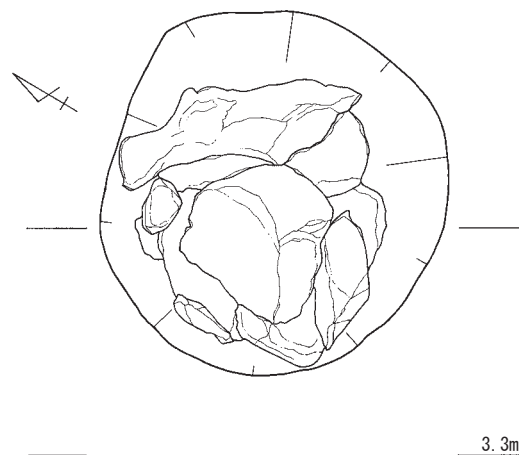
SK120



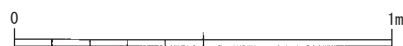
1. 褐灰 シルト質極細砂(粗砂混じる)



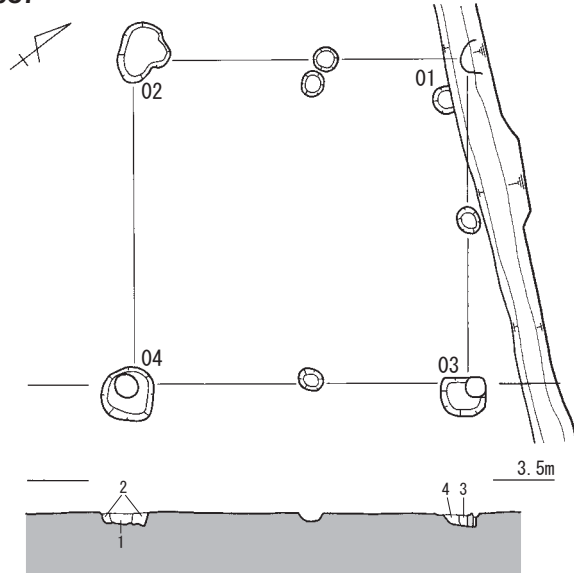
SE001



1. 灰黄褐 シルト質極細砂(粗砂混じる)

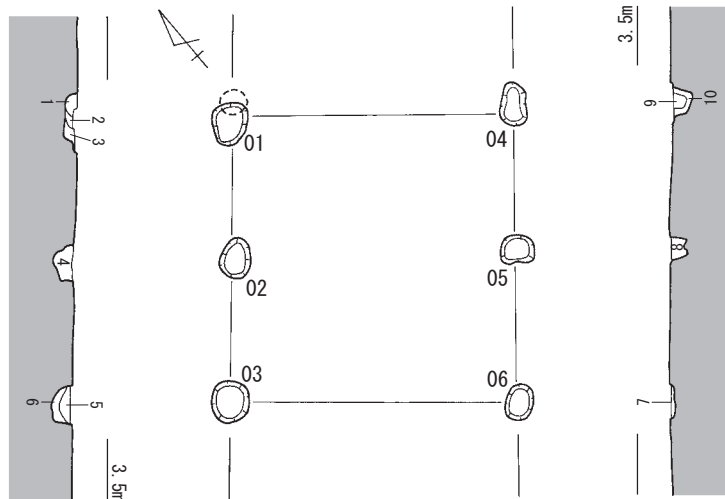


SB087



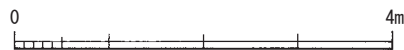
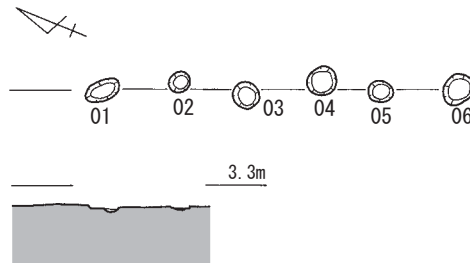
1. 黒褐 粗砂～細砂 (灰黄褐細砂～粗砂混じる)
2. にぶい黄褐 粗砂～細砂 (シルト質極細砂～細砂混じる)
3. 褐灰 細砂
4. 黒褐 細砂～粗砂

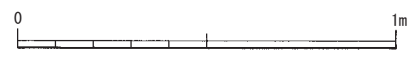
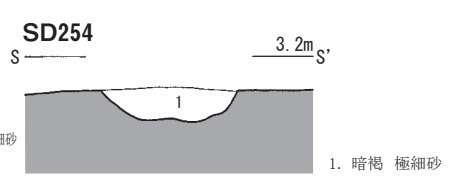
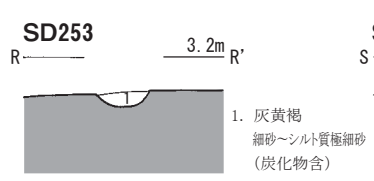
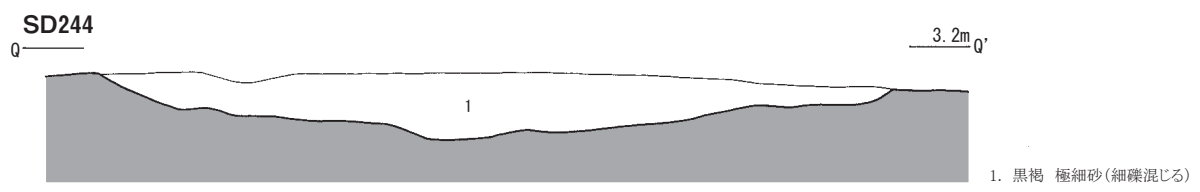
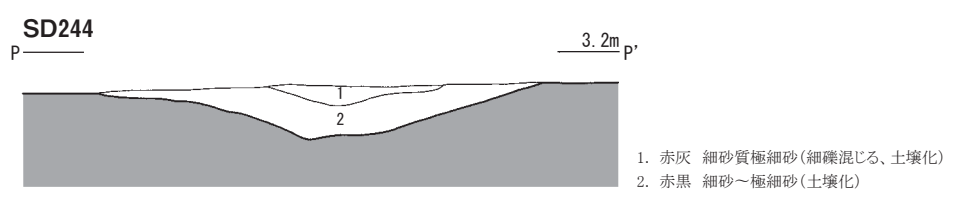
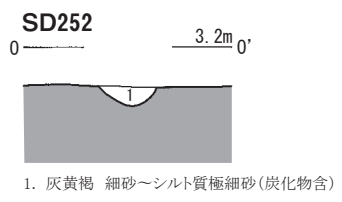
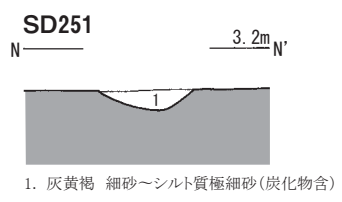
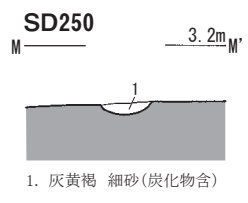
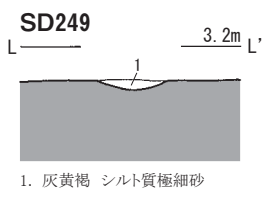
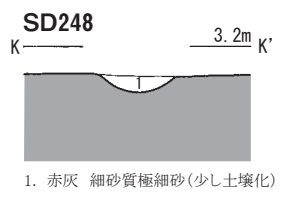
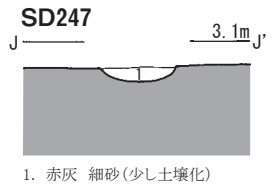
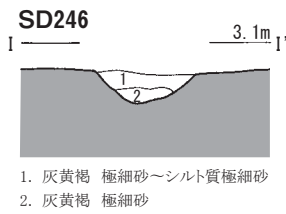
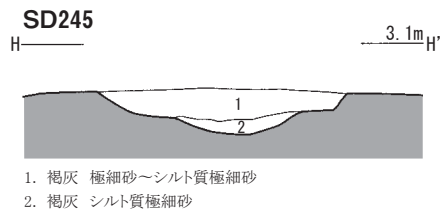
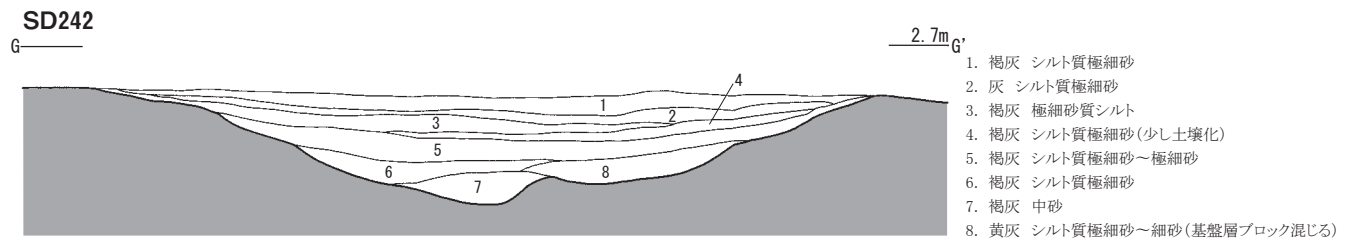
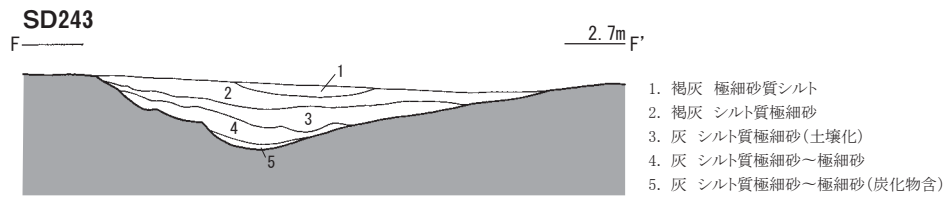
SB088



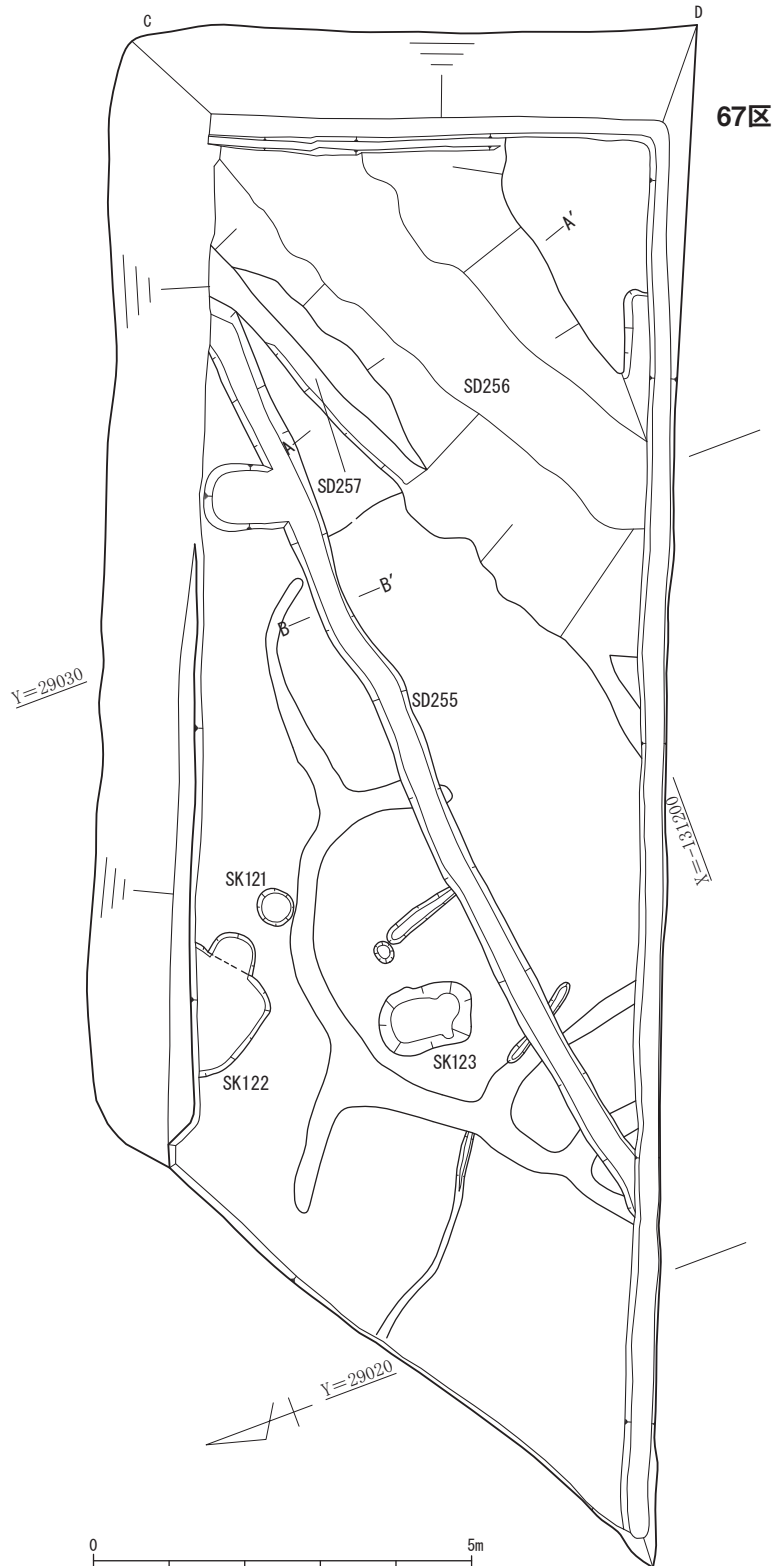
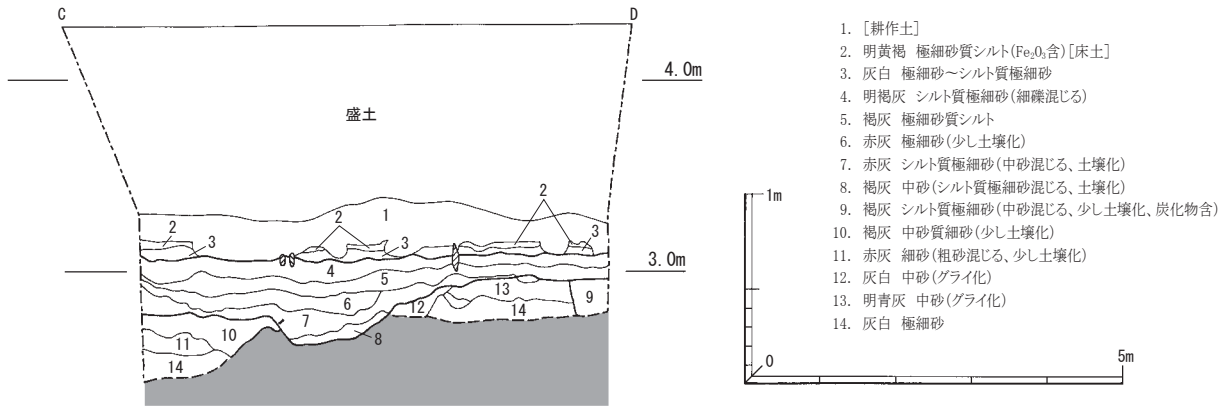
1. にぶい黄褐 細砂 (シルト質極細砂粒混じる)
2. 灰黄褐 細砂～粗砂
3. にぶい黄褐 シルト質極細砂
4. 黒褐 シルト質極細砂 (粗砂混じる)
5. 黒褐 細砂
6. 灰黄褐 シルト質極細砂 (細砂混じる)
7. 褐灰 シルト質極細砂～細砂 (にぶい黄褐シルト質極細砂粒混じる)
8. 灰黄褐 細砂
9. 灰黄褐 細砂～シルト質極細砂 (黒褐・灰白シルト質極細砂粒混じる)
10. 黒褐 細砂～シルト質極細砂 (灰白シルト質極細砂粒混じる)

SA007



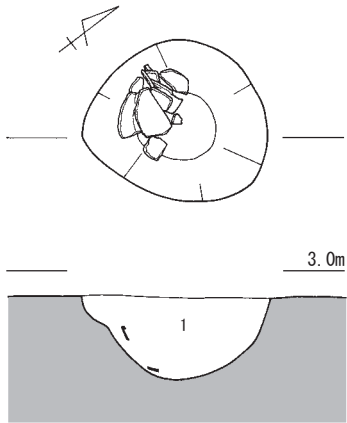


溝 SD242 ～ SD254 土層断面



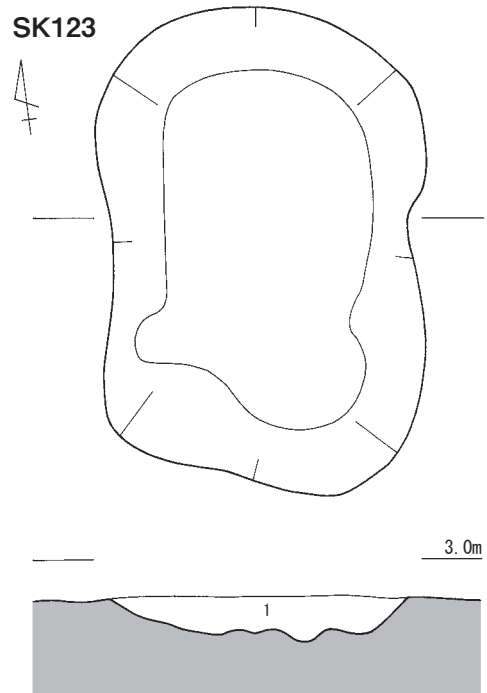
遺構配置 土層断面

SK121



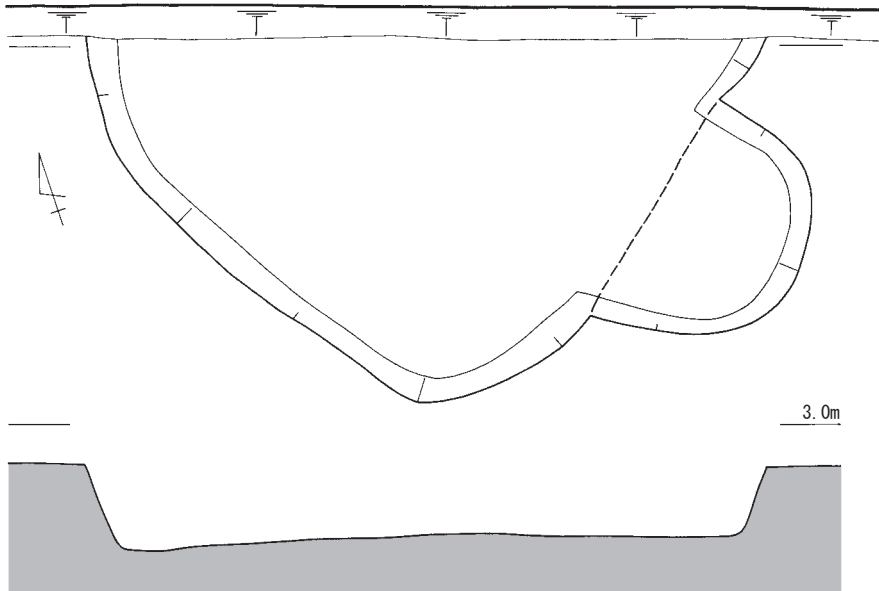
1. 黒褐 シルト質極細砂 (粗砂混じる)

SK123



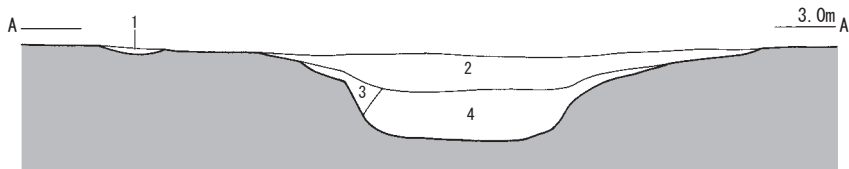
1. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂

SK122



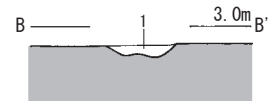
SD257

SD256



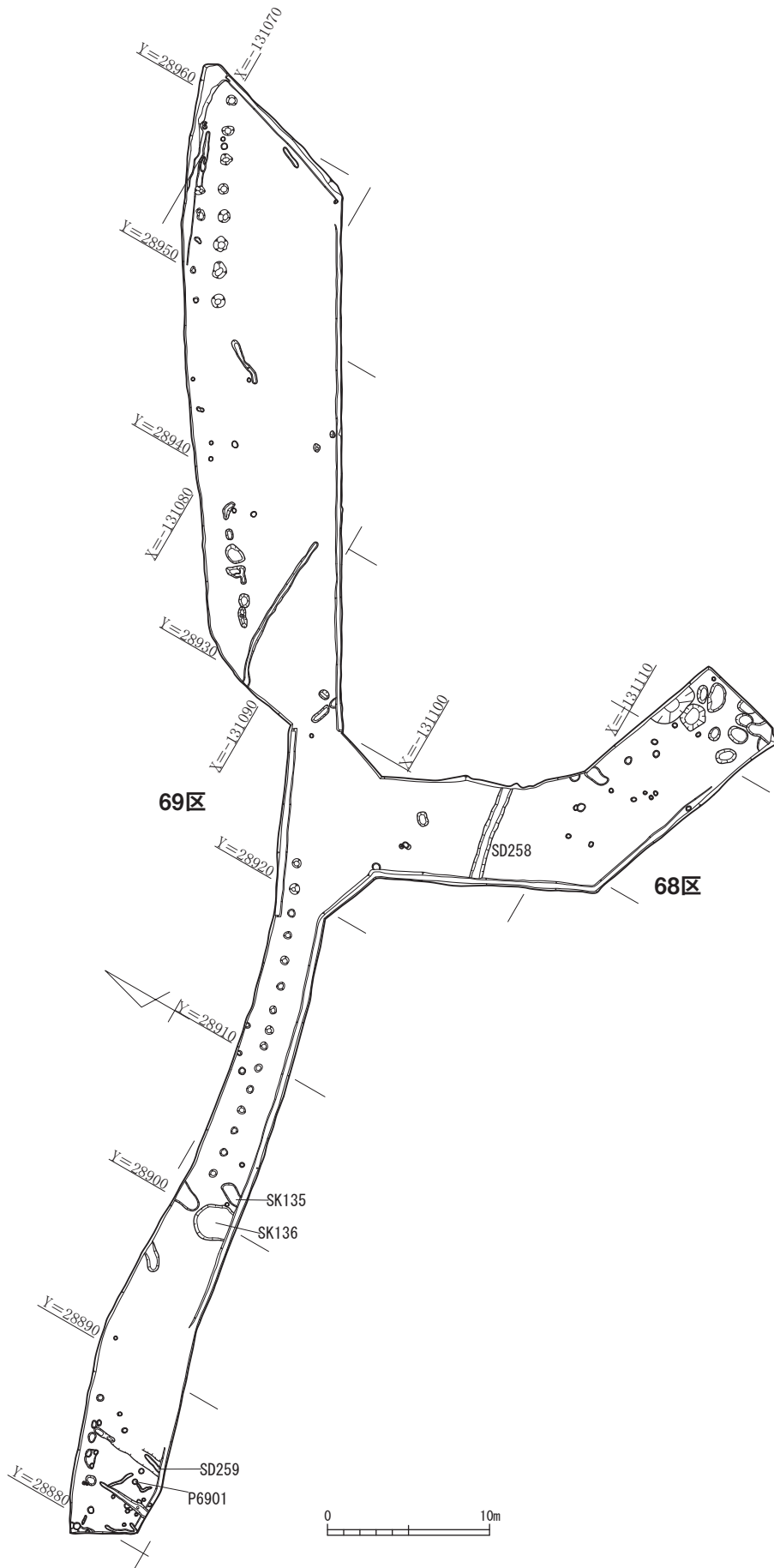
1. 褐灰 シルト質極細砂
2. 黒褐 シルト質極細砂 (灰黄褐細砂混じる)
3. 灰黄褐 極細砂～シルト質極細砂
4. 褐灰 粗砂～細砂 (細礫混じる、ラミナ)

SD255

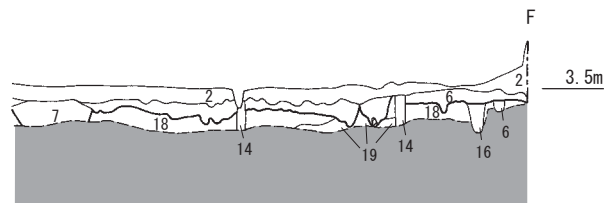
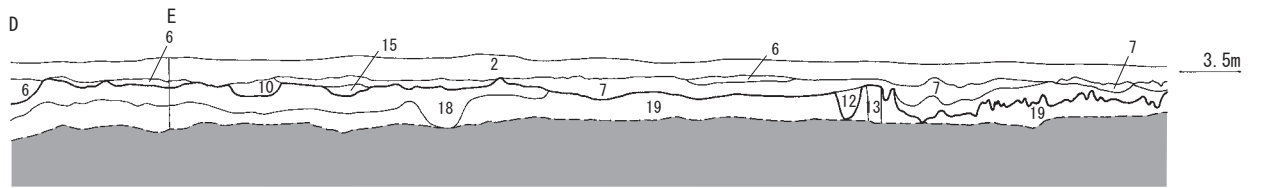
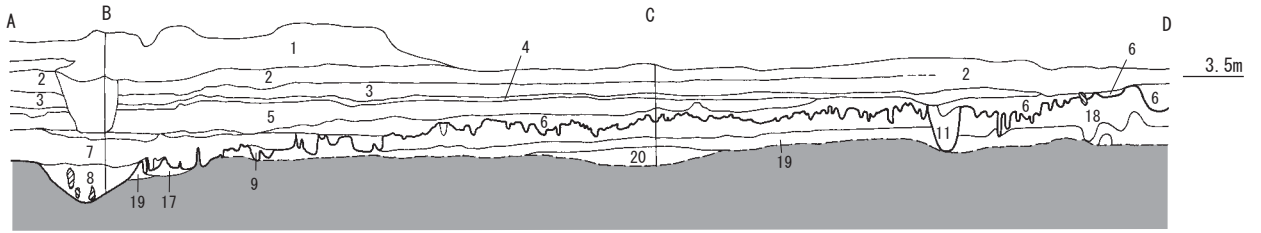


1. 灰黄褐 シルト質極細砂

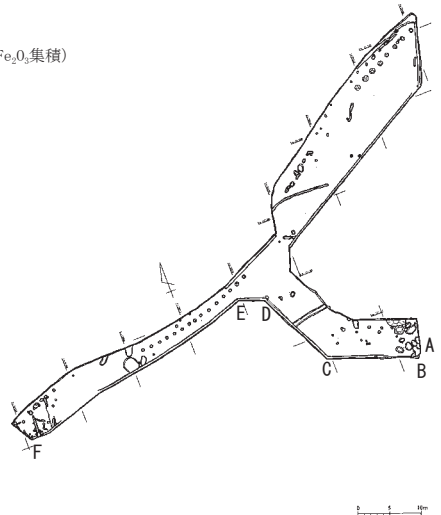
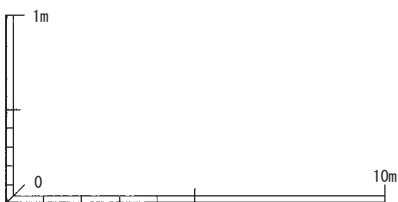




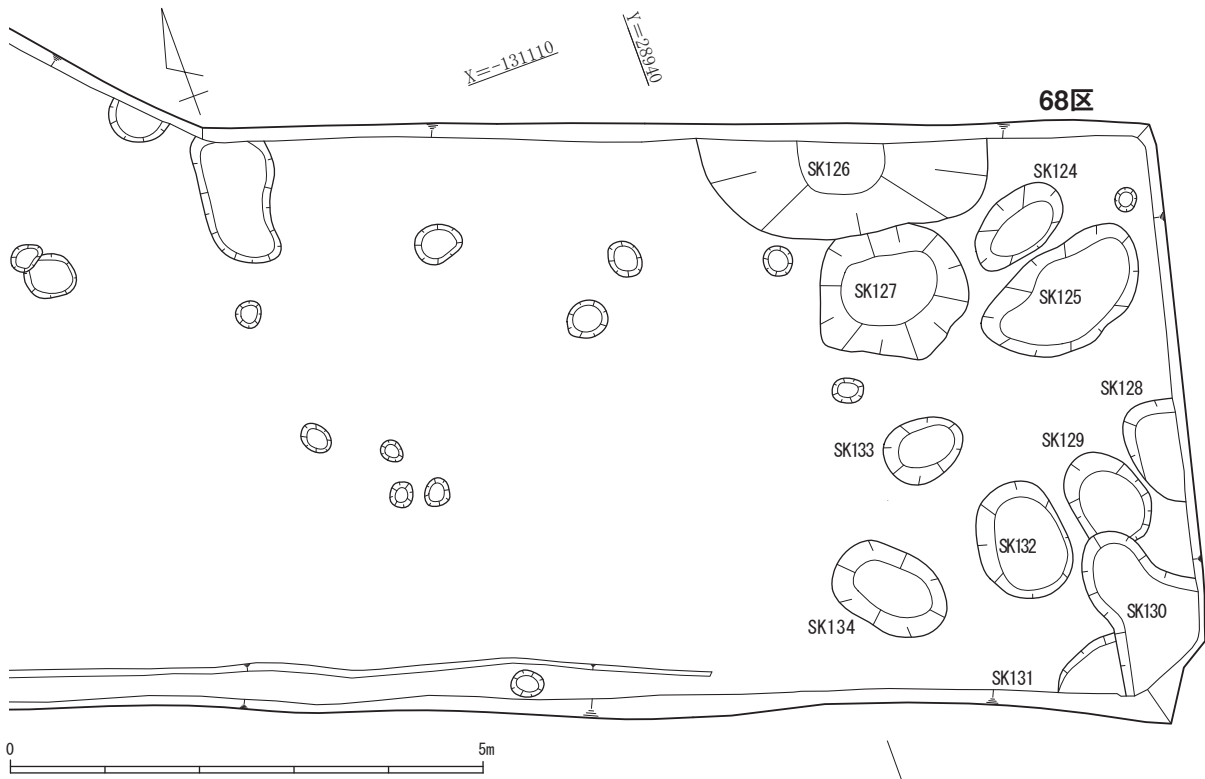
遺構配置



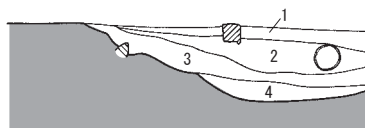
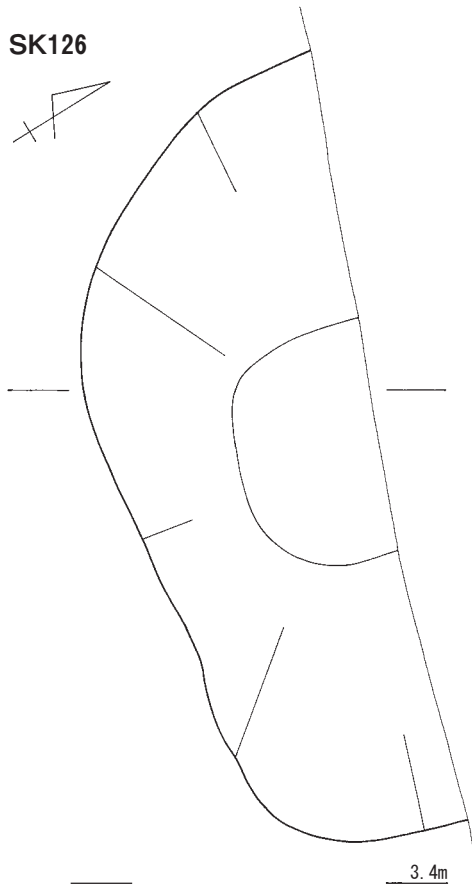
- | | |
|--|--|
| 1. [耕作土・盛土] | 11. 黄 シルト質極細砂(灰シルト質極細砂ブロック混じる) |
| 2. にぶい黄 細砂 (Fe ₂ O ₃ 集積) [床土] | 12. 黄灰 シルト質極細砂 |
| 3. 黒褐 細砂 | 13. オリーブ黒 シルト質極細砂 |
| 4. にぶい黄橙 極細砂 | 14. 黒褐 シルト質極細砂～極細砂(土壌化) |
| 5. 褐灰 極細砂 | 15. 灰 極細砂 |
| 6. 褐灰 シルト質極細砂(極細砂・細礫混じる、Fe ₂ O ₃ 含) [洪水] | 16. 灰 シルト質極細砂(粗砂混じる) [溝] |
| 7. 灰 シルト質極細砂(細砂混じる) [洪水] | 17. 灰 シルト質極細砂(細砂混じる) |
| 8. 灰 シルト質極細砂(細砂混じる、土壌化) [土坑] | 18. 黄 シルト質極細砂(Fe ₂ O ₃ 集積) |
| 9. 黄灰 シルト質極細砂(細砂混じる) | 19. 灰 極細砂質シルト(若干土壌化、Fe ₂ O ₃ 集積) |
| 10. 灰 極細砂質シルト(土壌化) | 20. 灰白 シルト質極細砂 |



土層断面

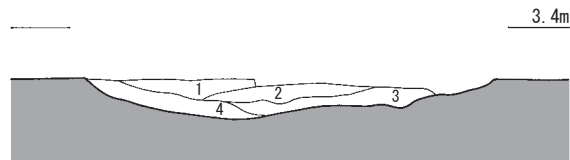
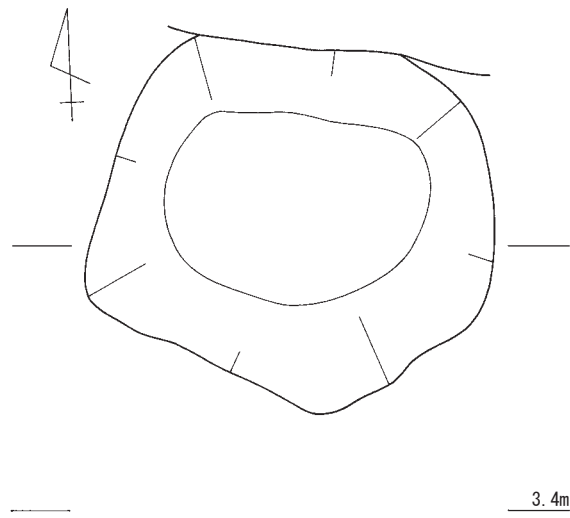


SK126



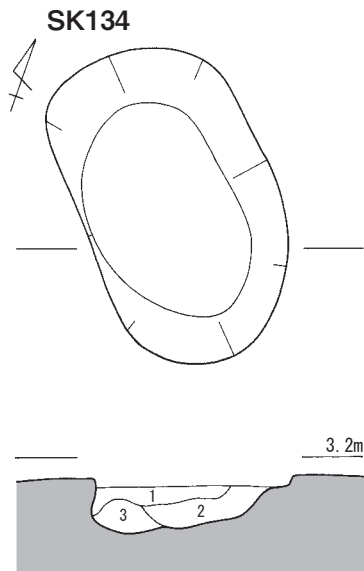
1. 褐灰 極細砂
2. 褐灰 シルト質極細砂
3. 灰 シルト質極細砂
4. 灰 極細砂質シルト

SK127

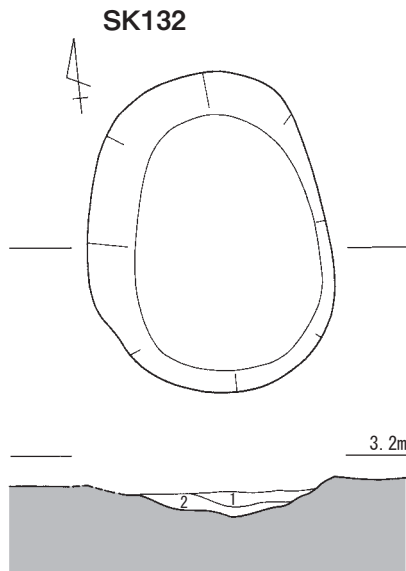


1. 褐灰 シルト質極細砂(細砂粒混じる、Fe₂O₃斑)
2. 褐灰 極細砂～シルト質極細砂 (Fe₂O₃・Mn斑)
3. 褐灰 極細砂 (Fe₂O₃・Mn斑)
4. 褐灰 極細砂～シルト質極細砂

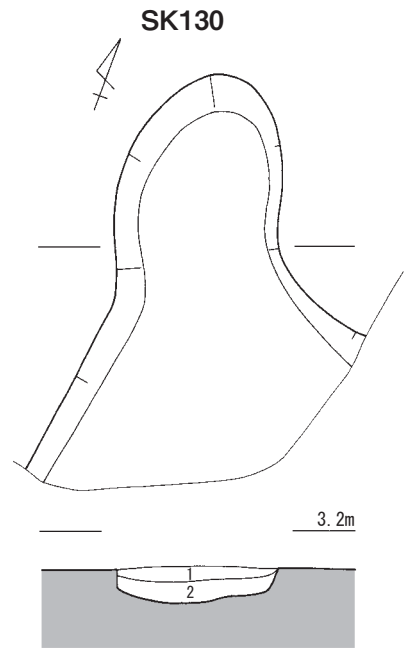




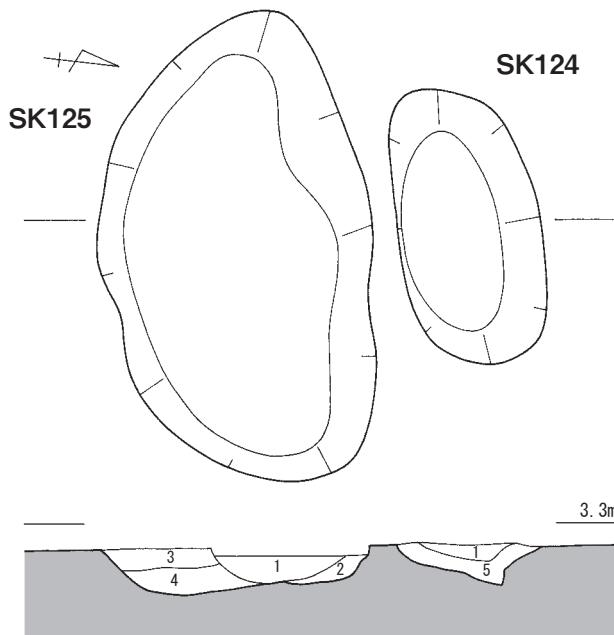
1. 褐灰 シルト質極細砂～細砂 (基盤層ブロック混じる)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (基盤層ブロック混じる)
3. 褐灰 シルト質極細砂 (細砂混じる)



1. 褐灰 シルト質極細砂 (有機質含)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (基盤層ブロック混じる、有機質含)

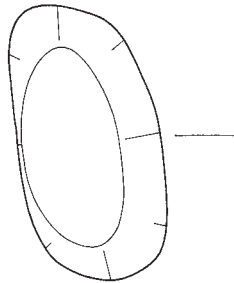


1. 褐灰 シルト質極細砂 (Fe₂O₃・Mn斑)
2. 褐灰 シルト質極細砂

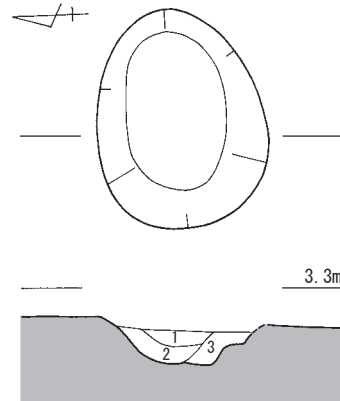


1. 褐灰 細砂質極細砂 (Mn斑)
2. 褐灰 シルト質極細砂 (Mn斑)
3. 灰白 シルト質極細砂 (細砂粒混じる、Fe₂O₃斑)
4. 黒褐 シルト質極細砂 (極細砂混じる)
5. 褐灰 シルト質極細砂

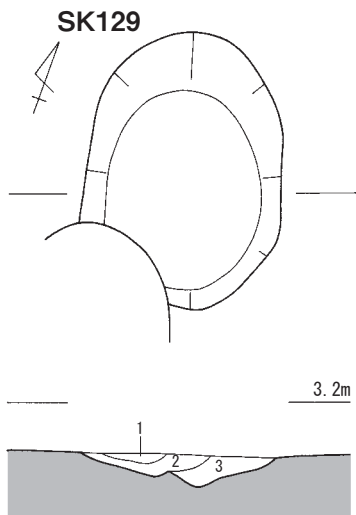
SK124



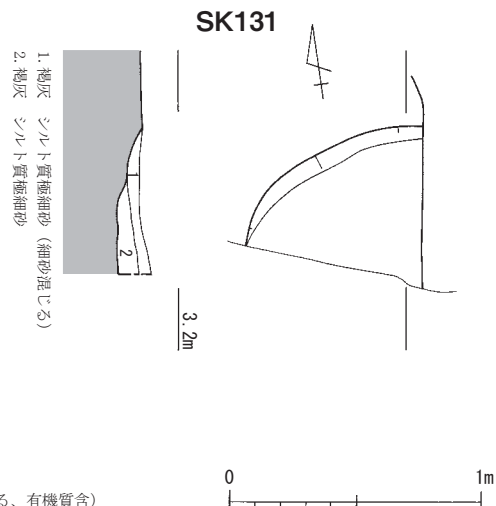
SK133



1. 褐灰 シルト質極細砂
2. 褐灰 シルト質極細砂 (Mn斑)
3. 明黄褐 極細砂質シルト (Mn斑)



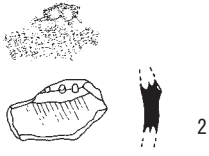
1. 褐灰 シルト質極細砂～極細砂 (有機質含)
2. 灰白 極細砂質シルト (Mn斑)
3. 褐灰 シルト質極細砂ブロック (細砂混じる、有機質含)



1. 褐灰 シルト質極細砂 (細砂混じる)
2. 褐灰 シルト質極細砂



SD016



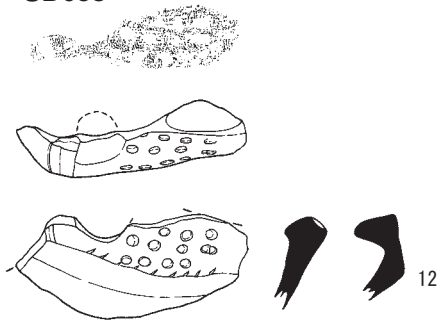
2

SD076



11

SD058



12

SD021



3

SD045



4



5

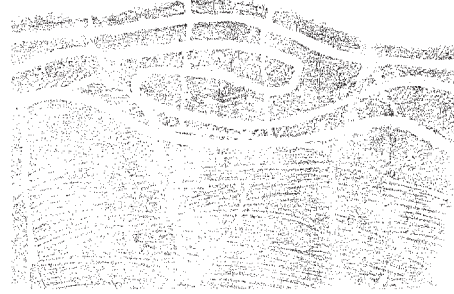


6



7

SX001



8

SD049



9

SD047



10

SD045

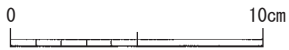


13

SD120



15



SD015



1

SD045

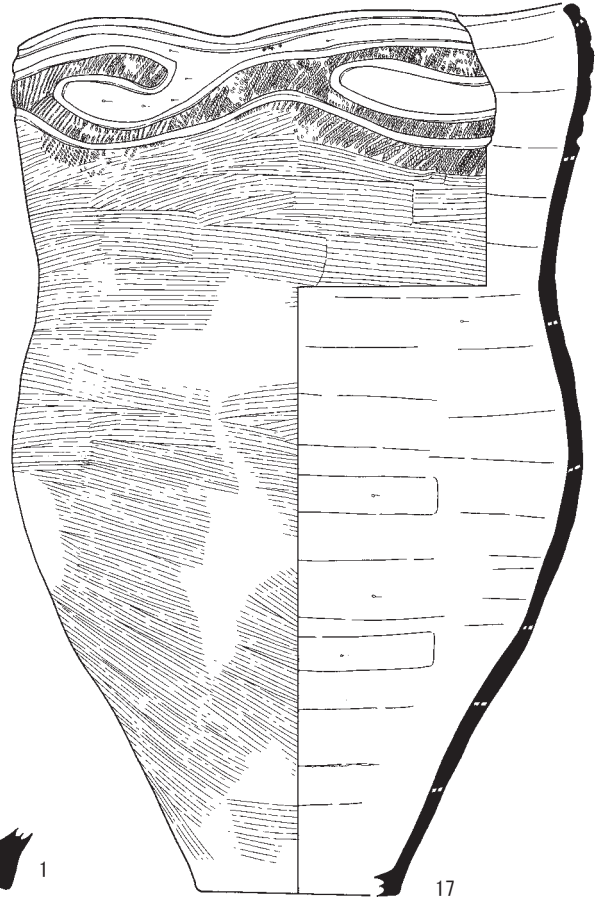


14

SD120



16

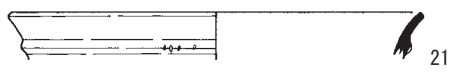


17

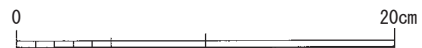


18

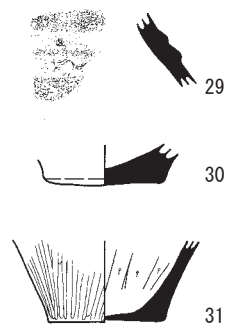
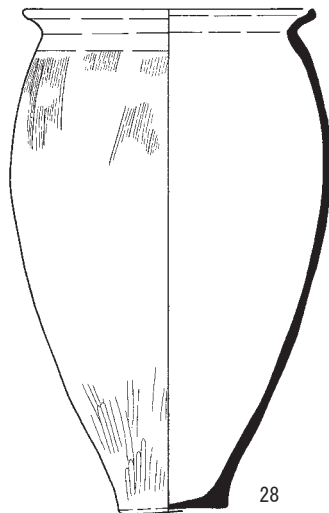
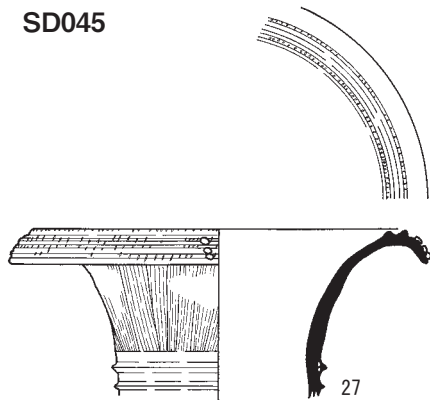
SD165



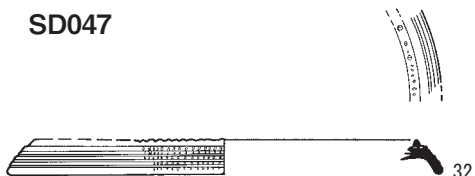
21



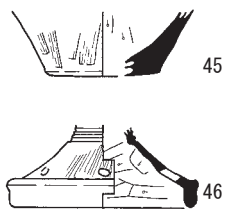
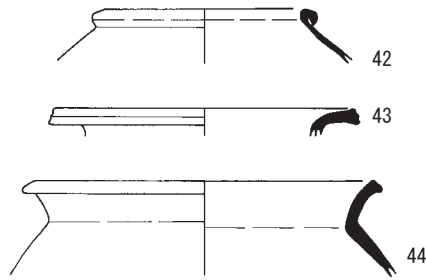
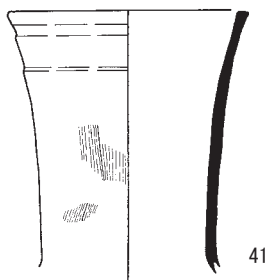
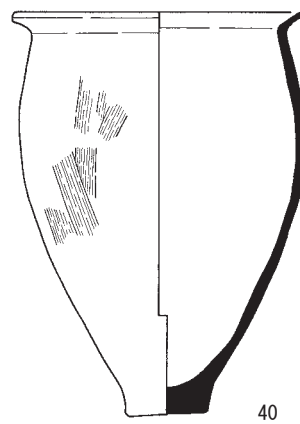
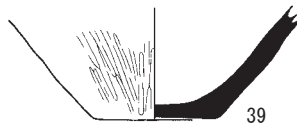
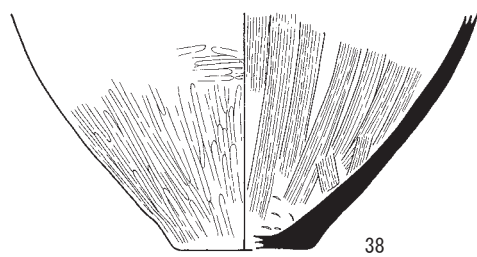
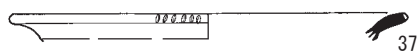
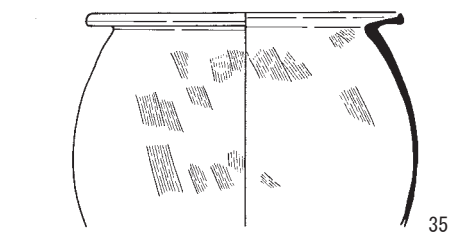
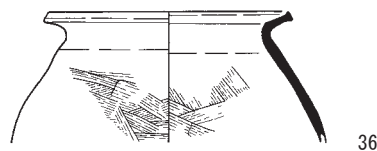
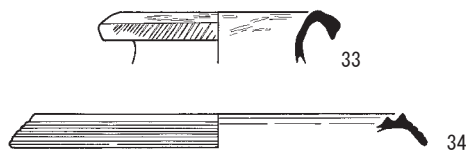
SD045



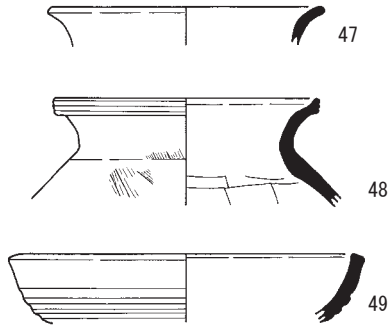
SD047



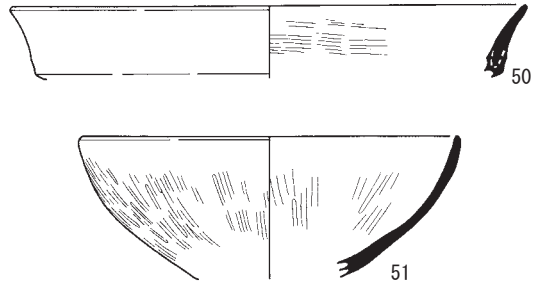
SD046



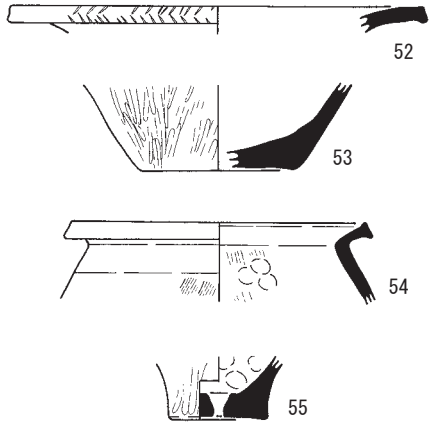
SD049



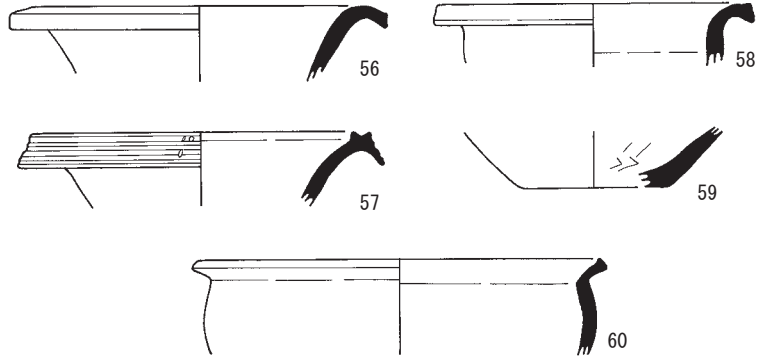
SD047



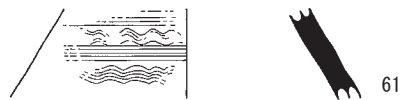
SW011



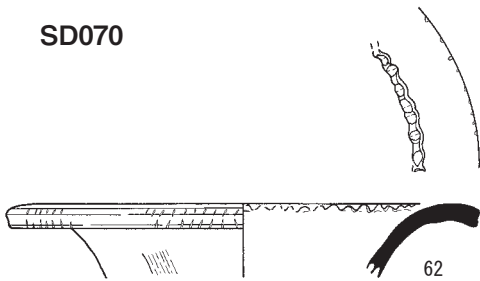
SD062



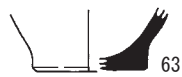
SD065



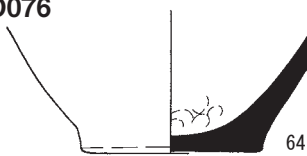
SD070



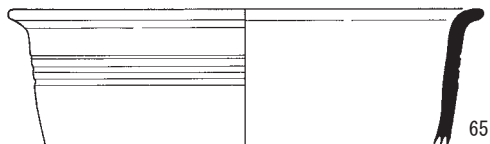
SD069



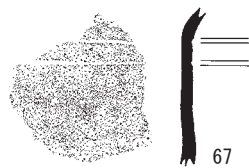
SD076



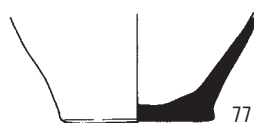
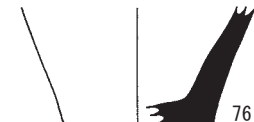
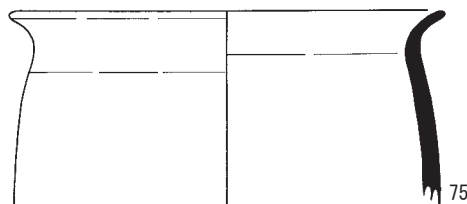
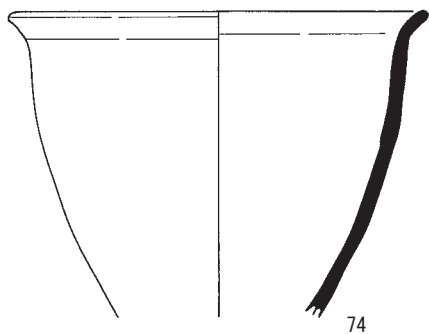
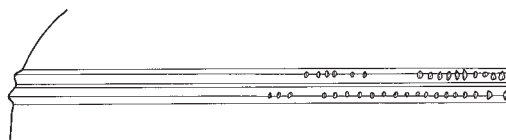
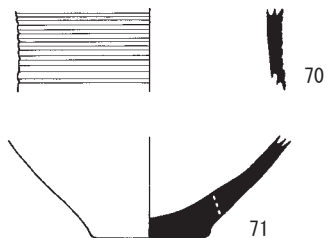
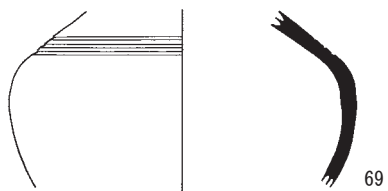
SD081



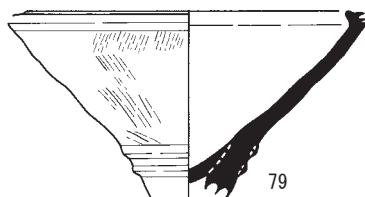
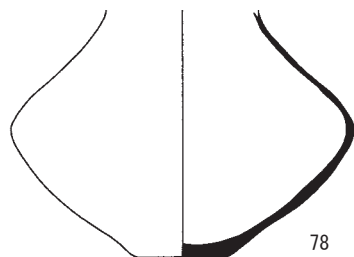
SD083



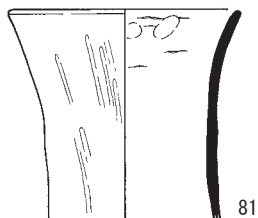
SD082



SD099



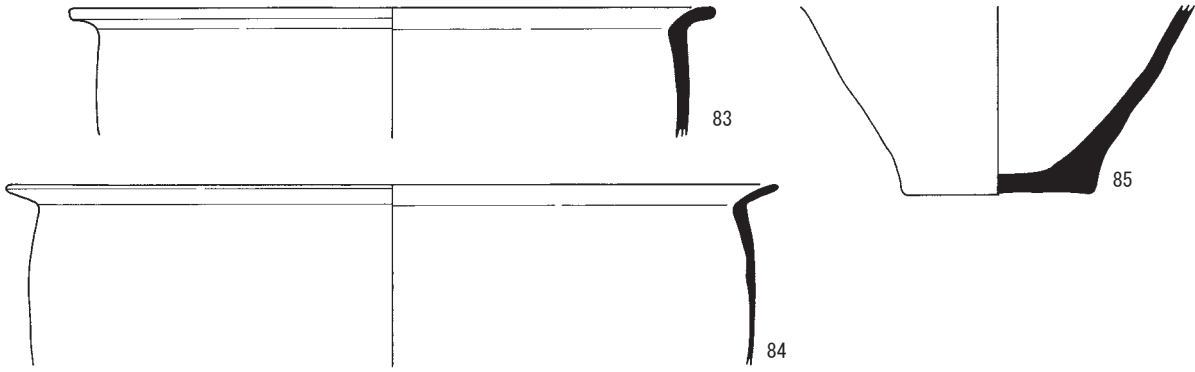
SD048



SD046



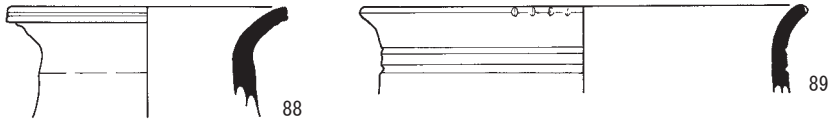
SD124



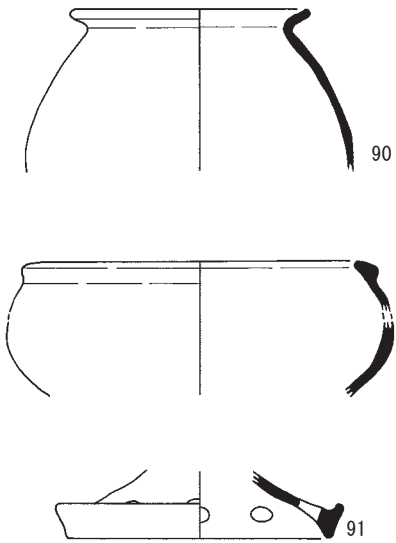
SD127



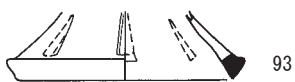
SD138



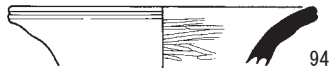
SD146



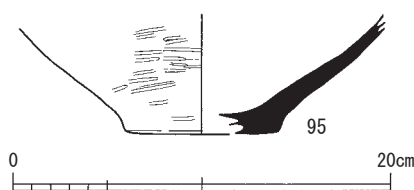
SD170



SD186



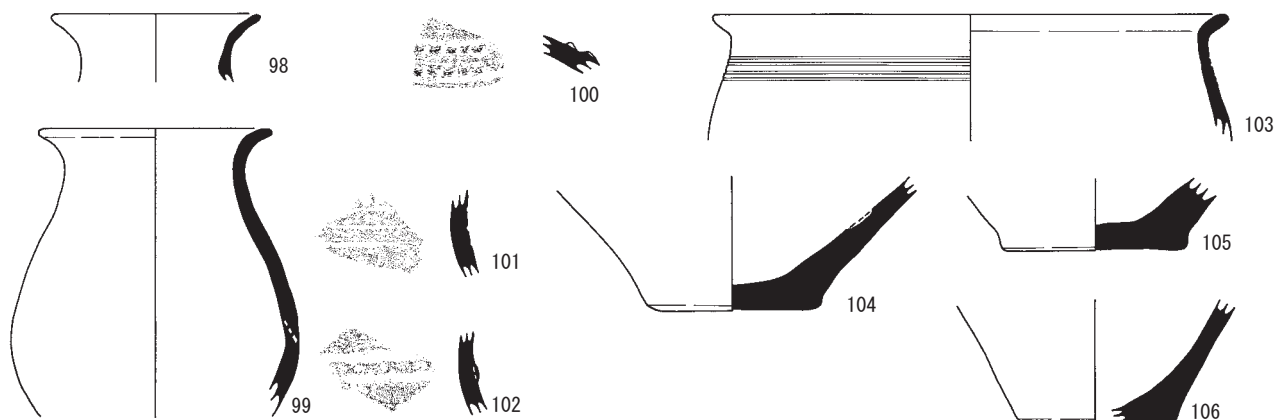
SG003



SD189



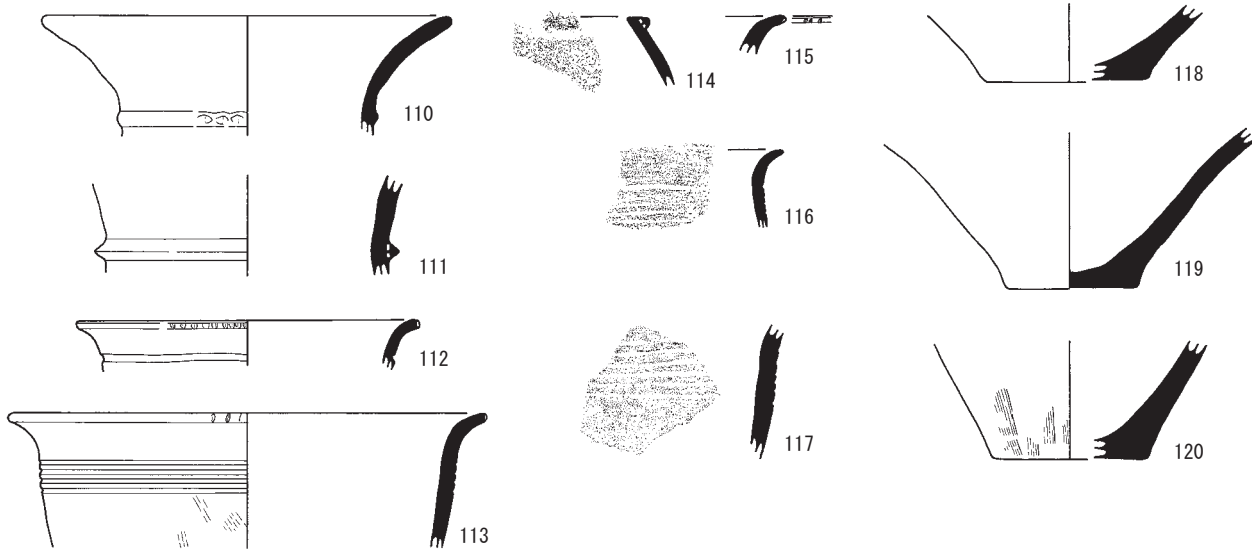
SD192



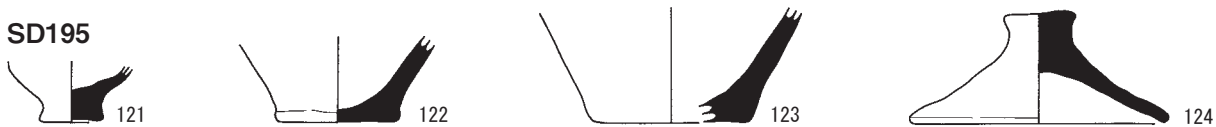
SD193



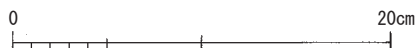
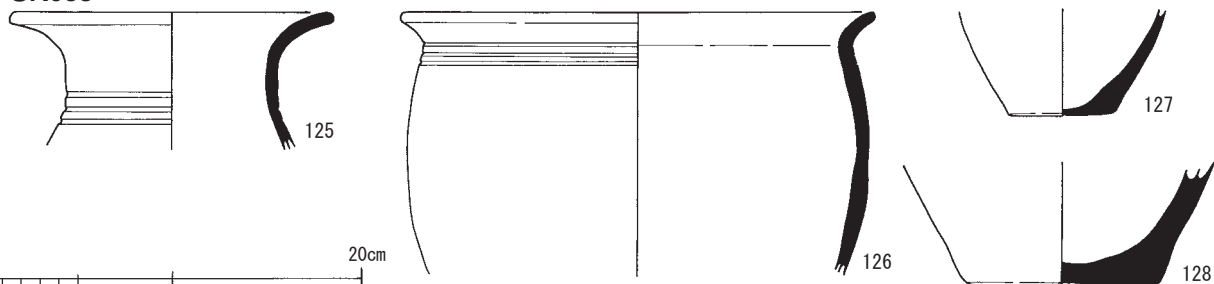
SD194



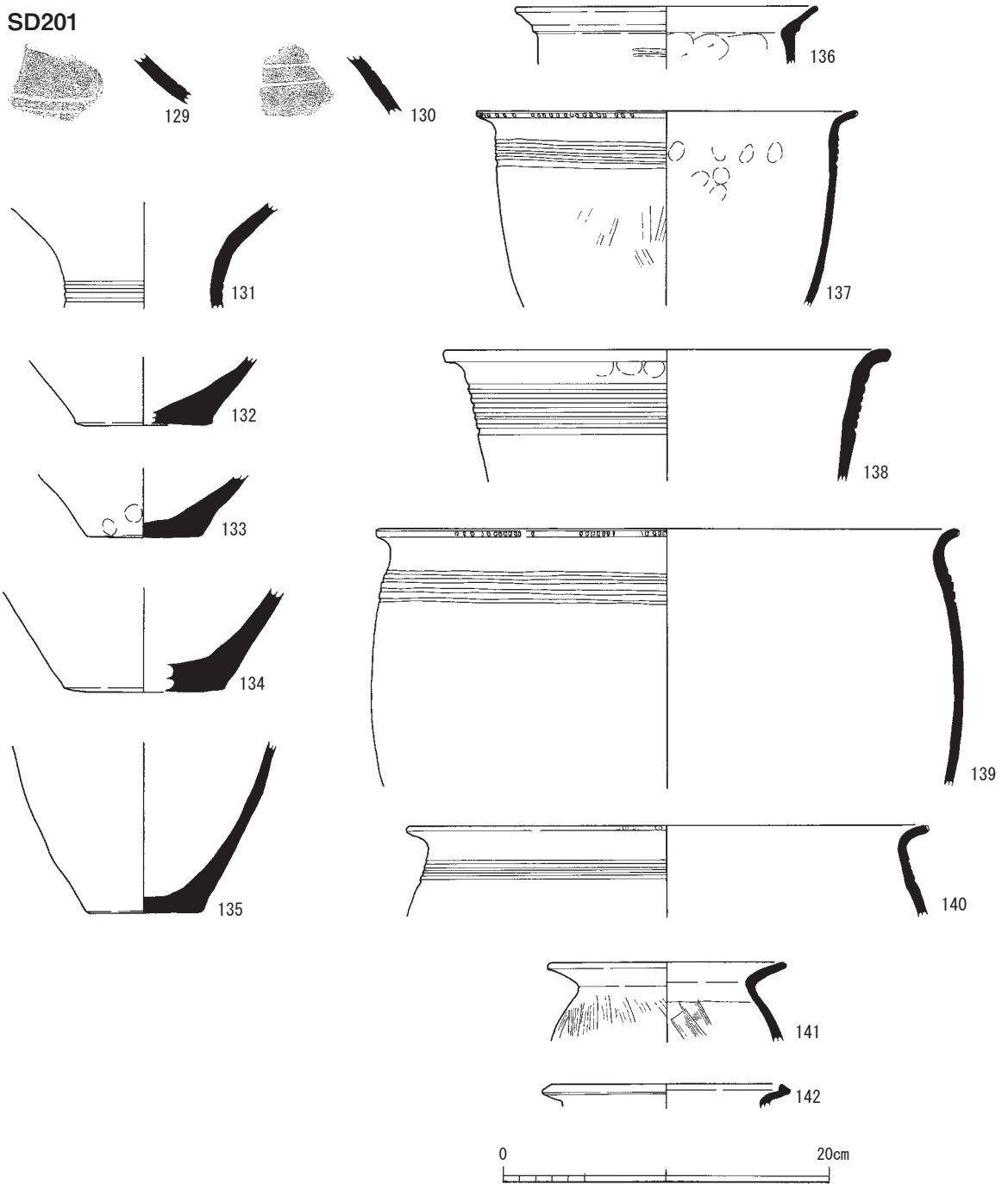
SD195

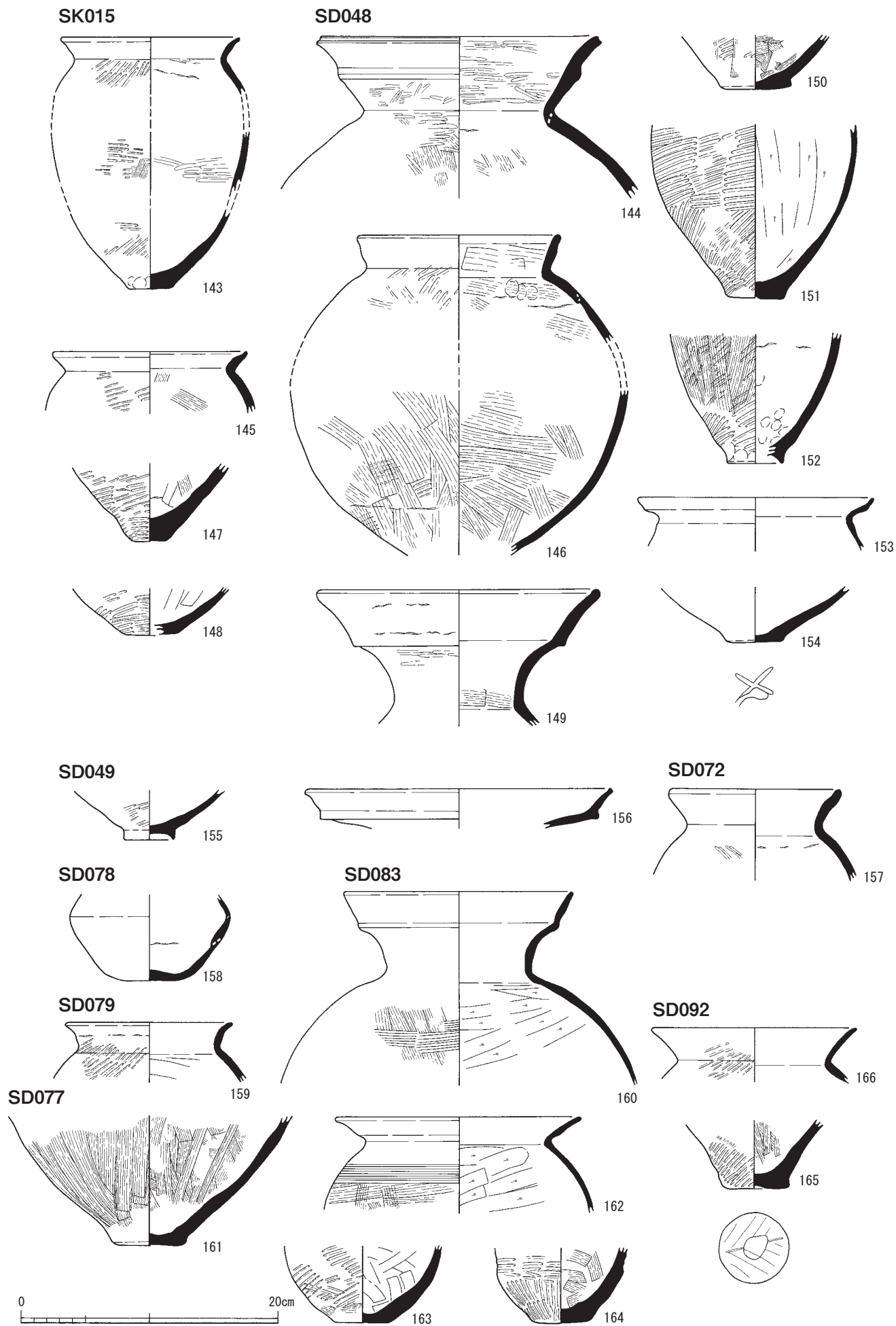


SK058

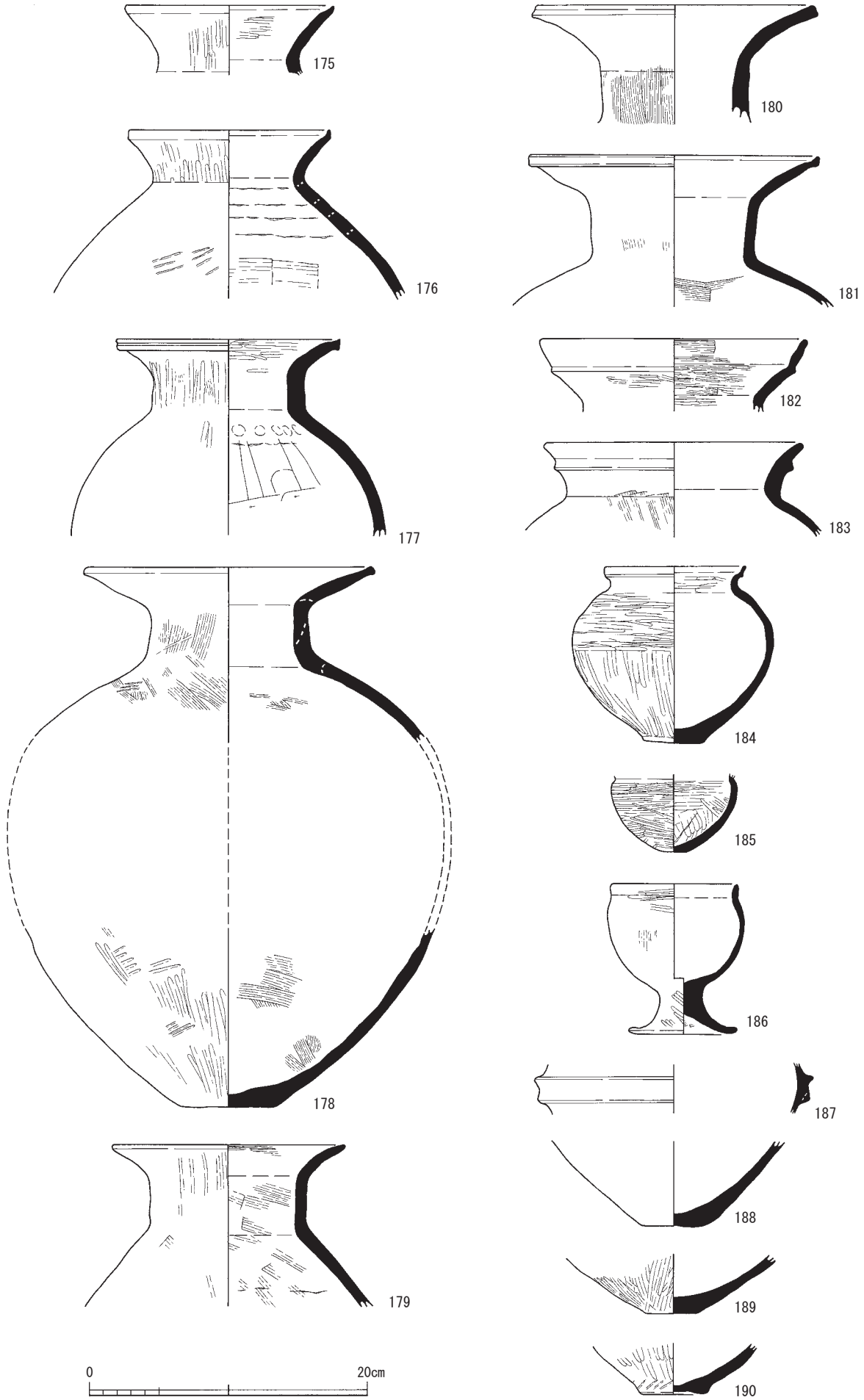


SD201



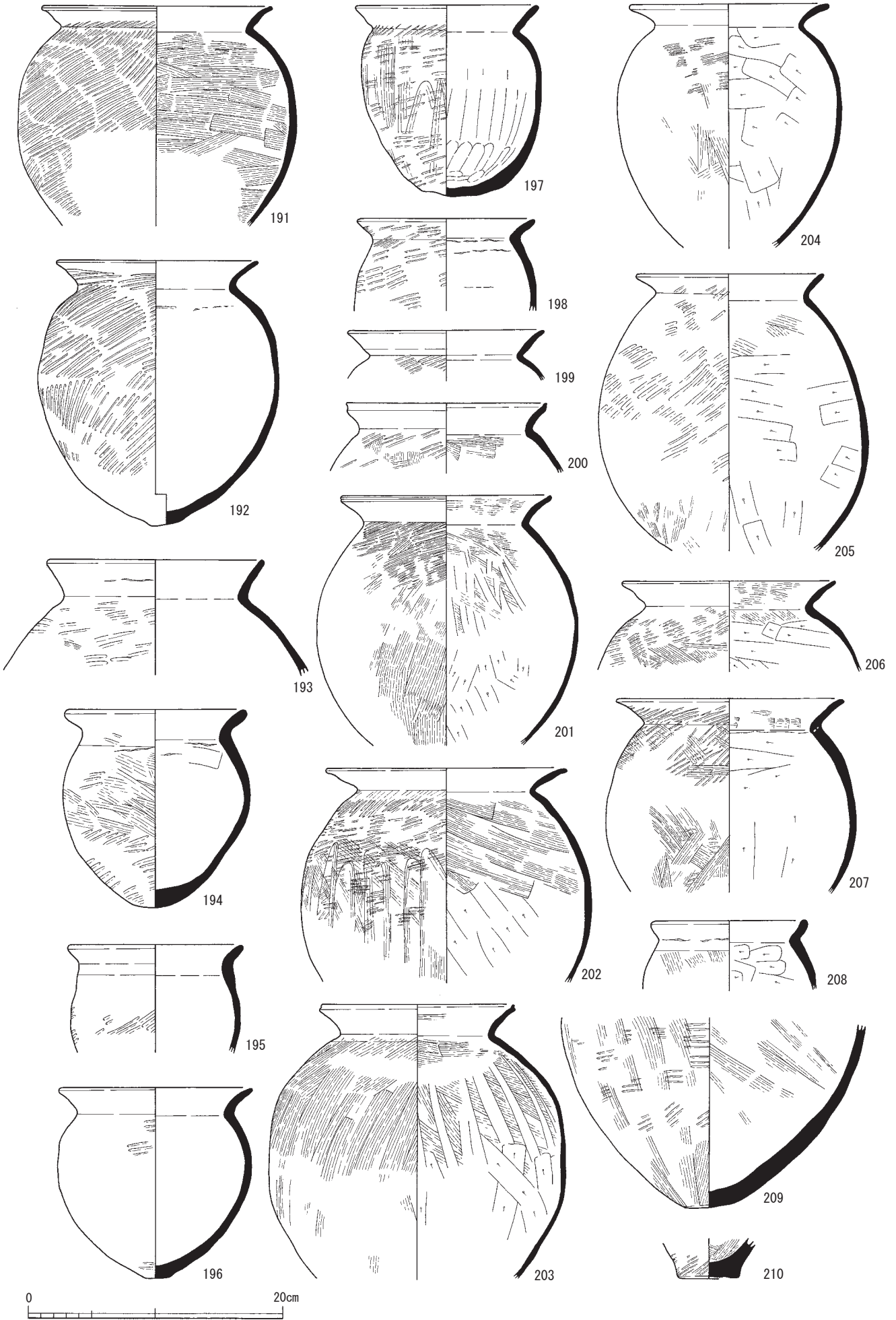


SD138



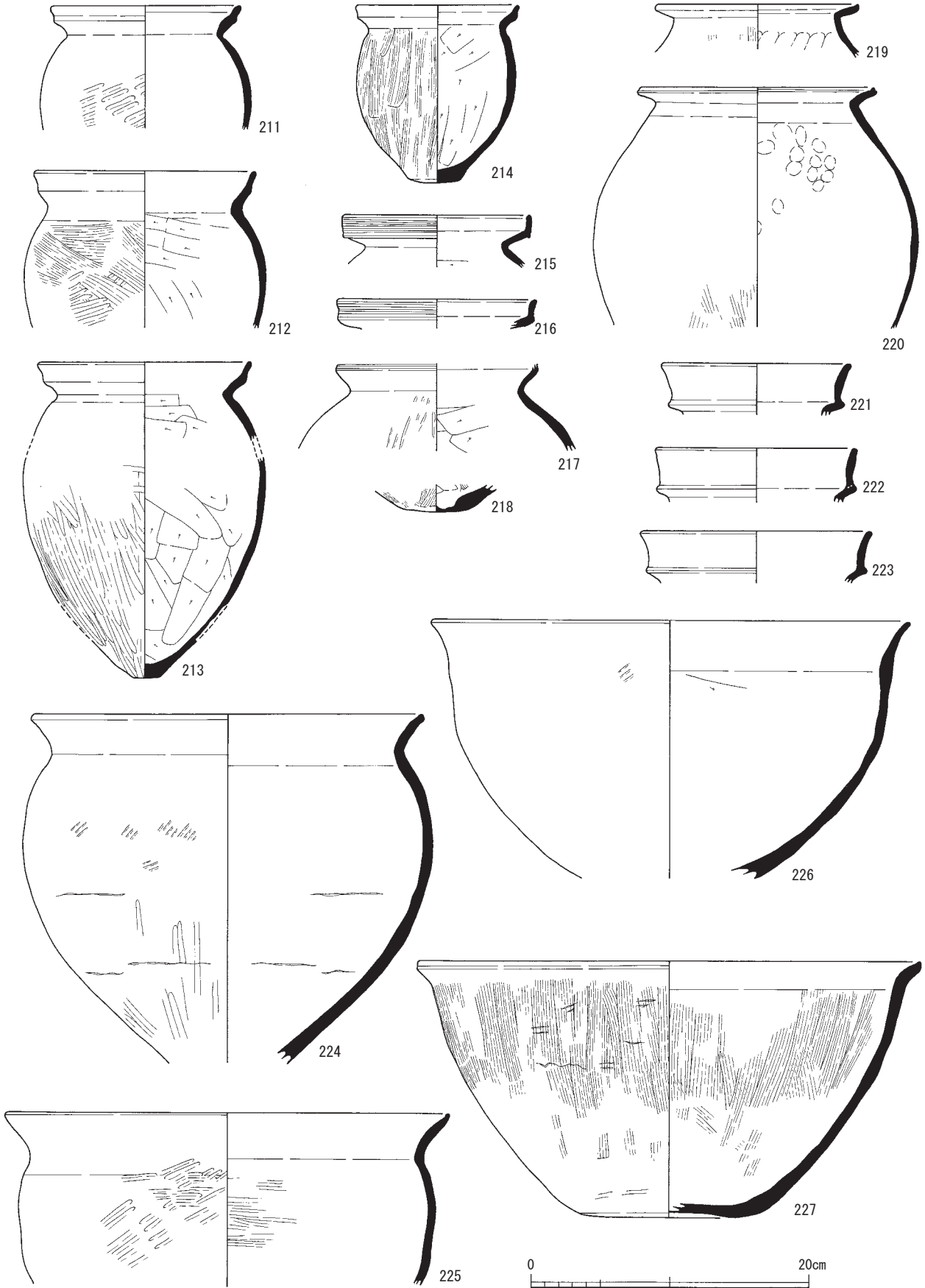
土器 175 ~ 190 (SD138)

SD138



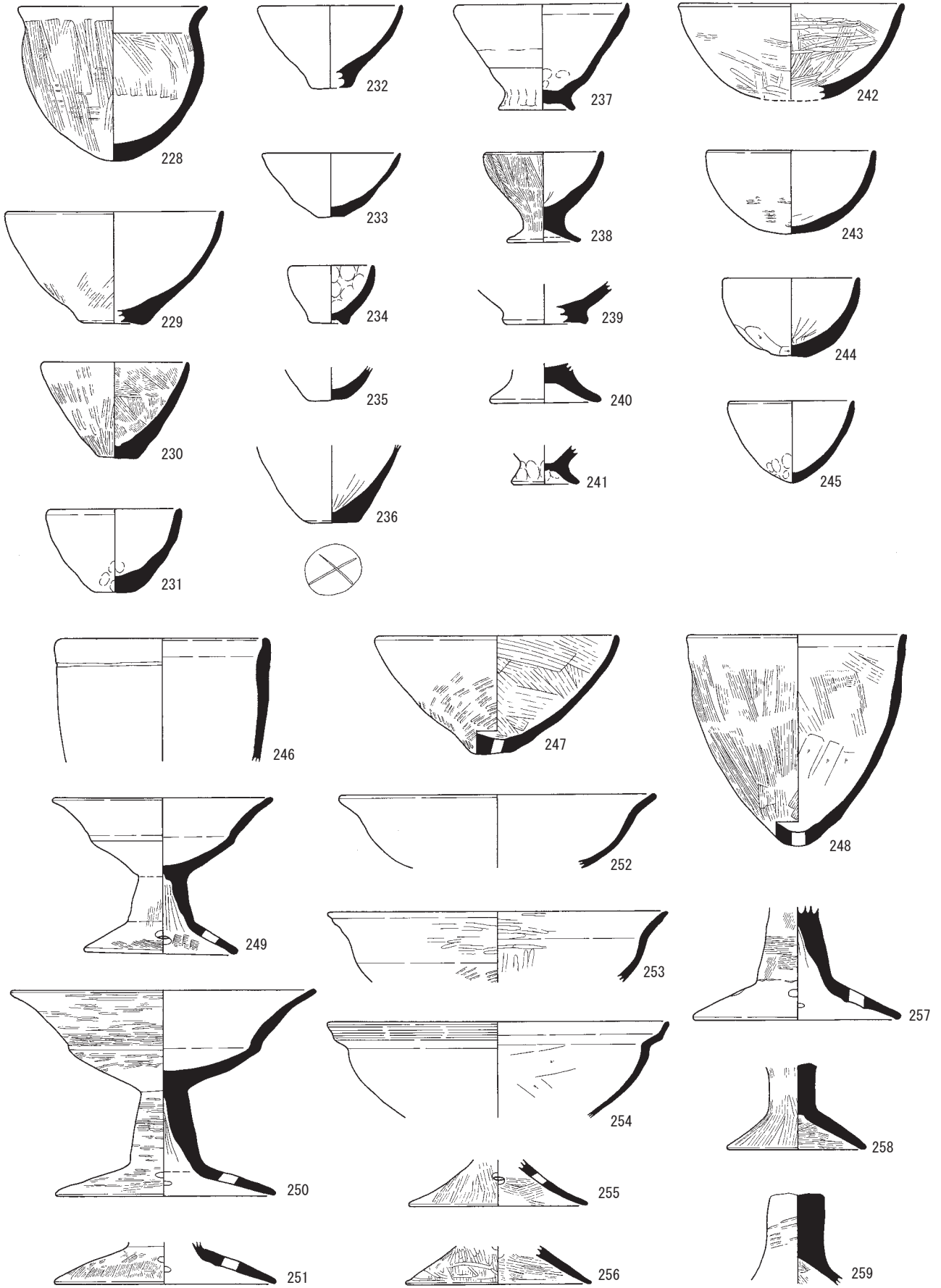
土器 191 ~ 210 (SD138)

SD138



土器 211 ~ 227 (SD138)

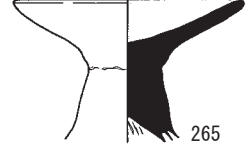
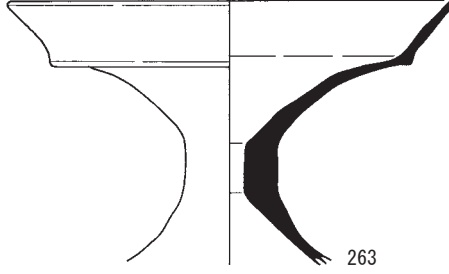
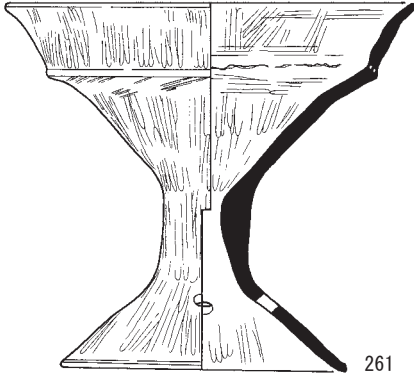
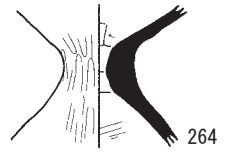
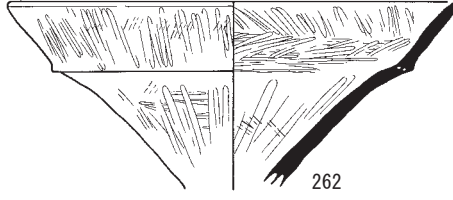
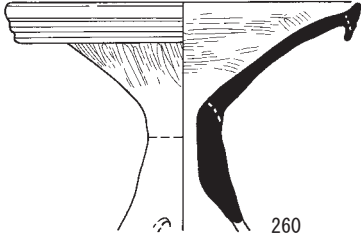
SD138



0 20cm

土器 228 ~ 259 (SD138)

SD138



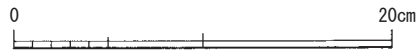
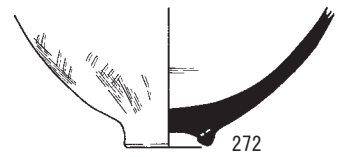
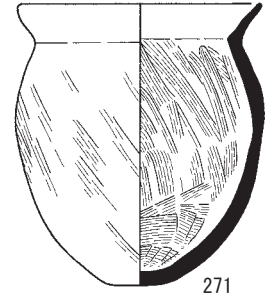
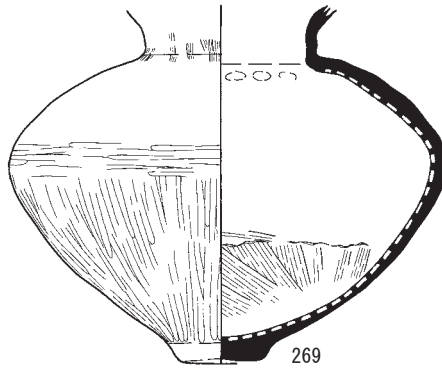
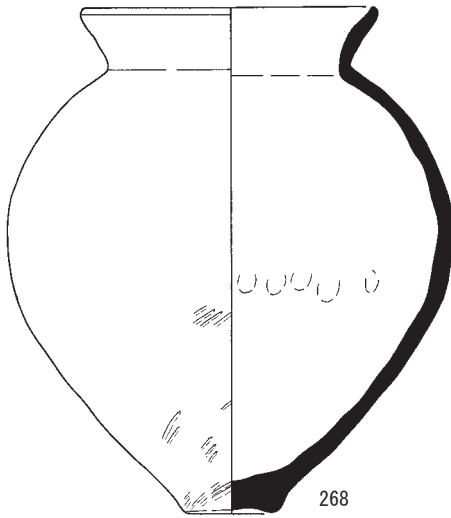
SD146



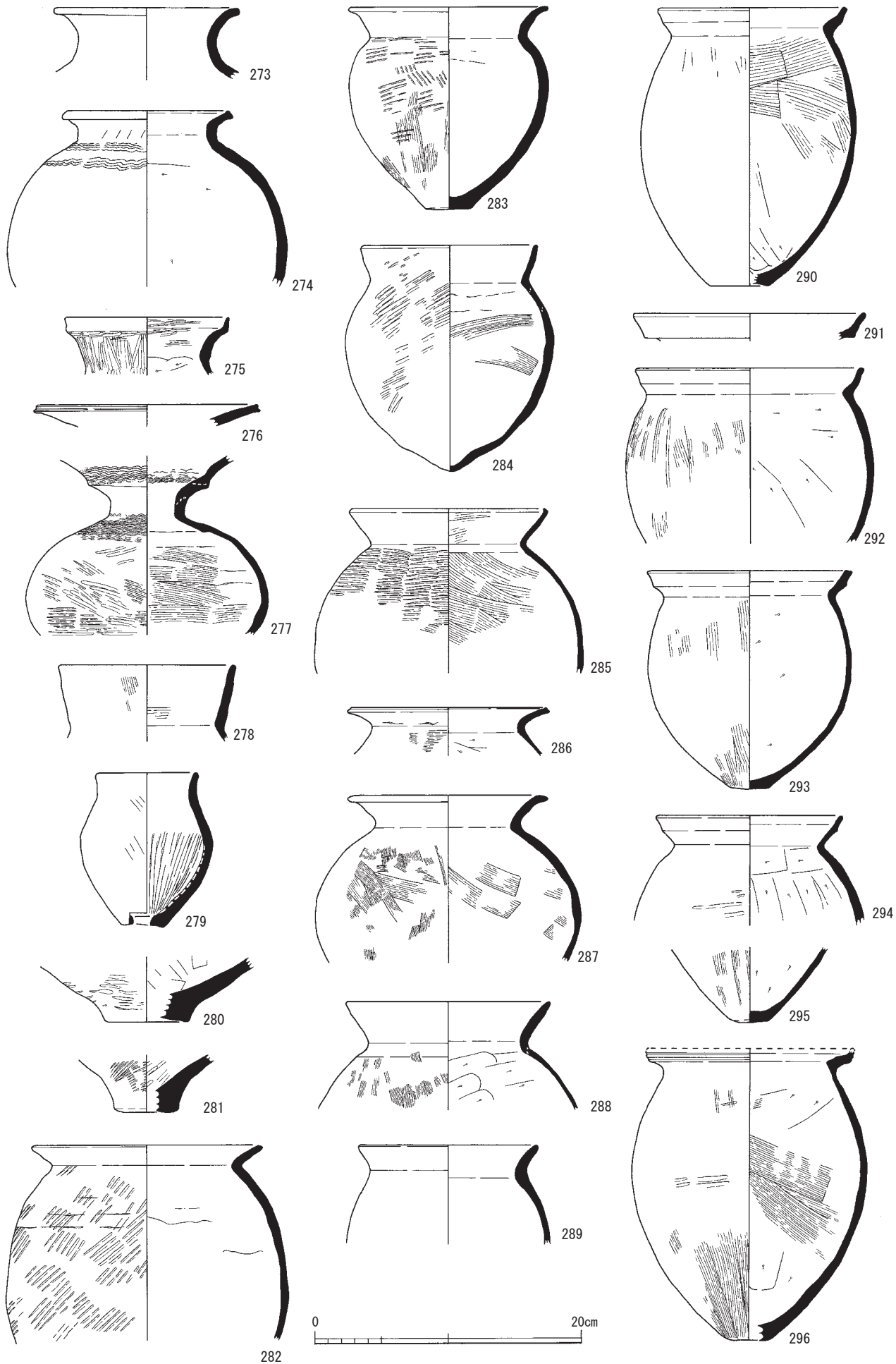
SD157



SD172

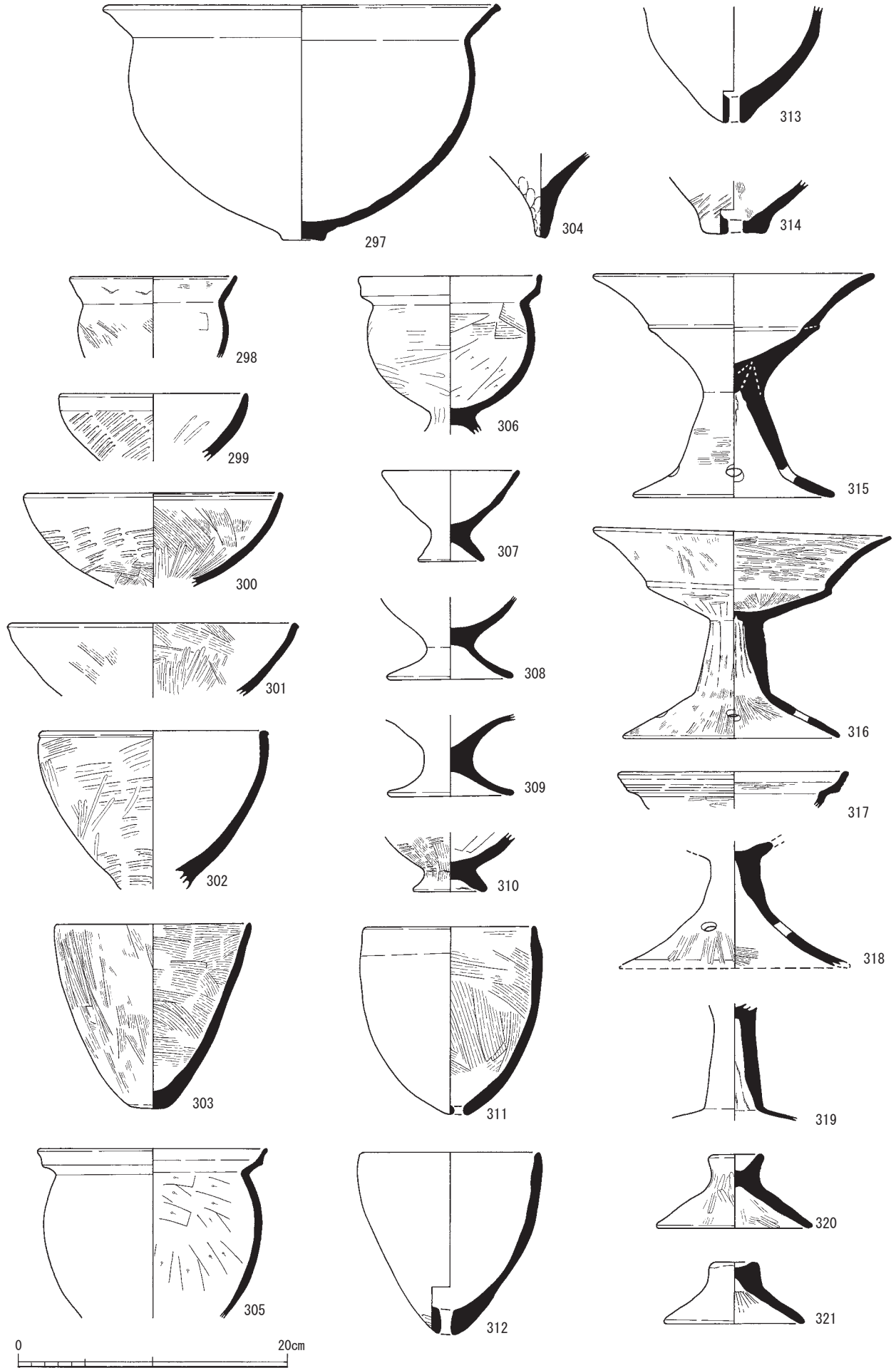


SD186



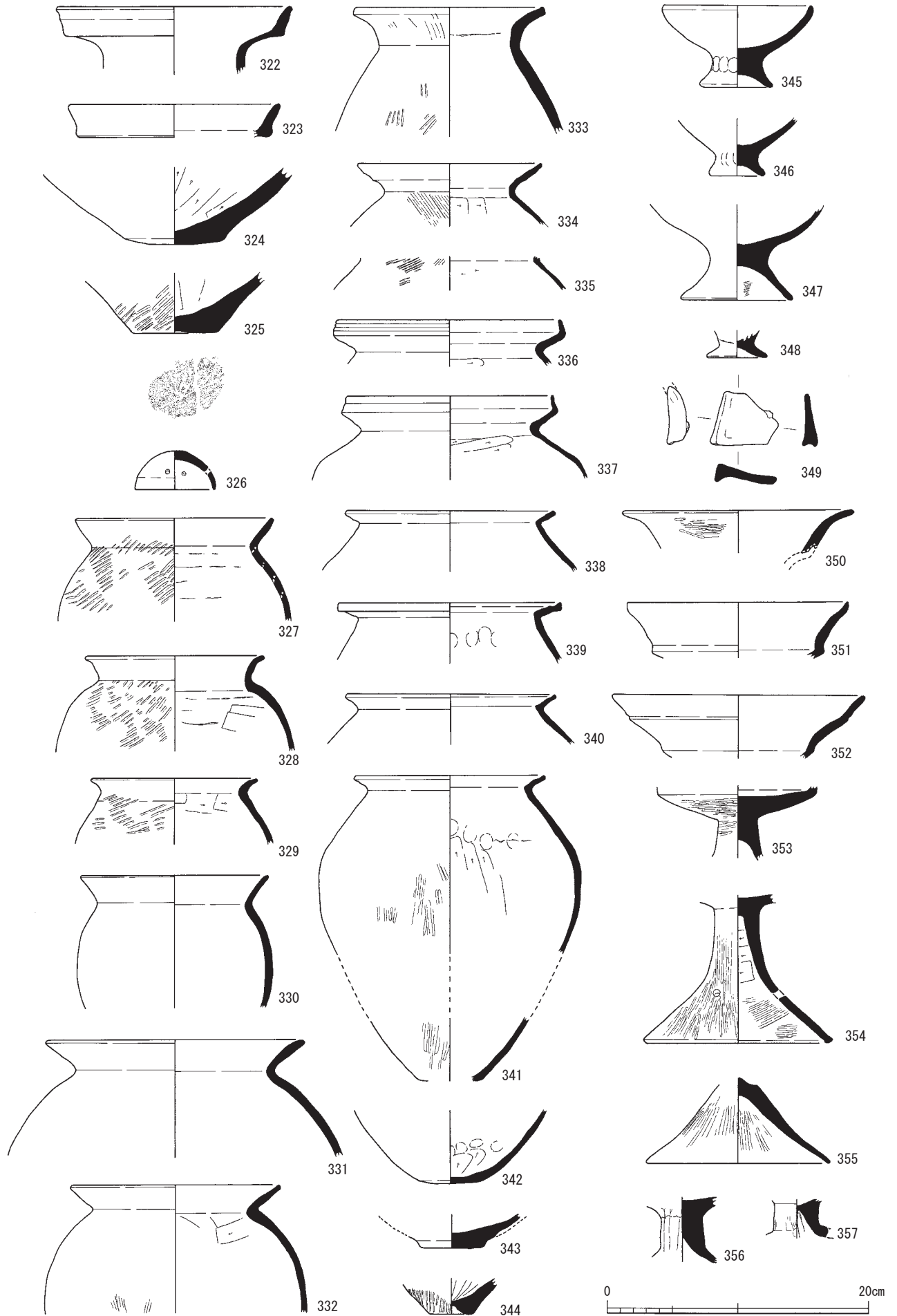
土器 273 ~ 296 (SD186)

SD186



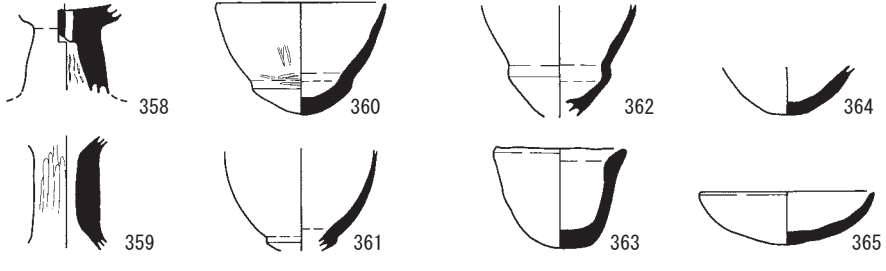
土器 297 ~ 321 (SD186)

SD180

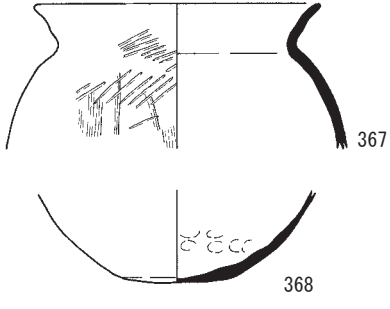


土器 322 ~ 357 (SD180)

SD180



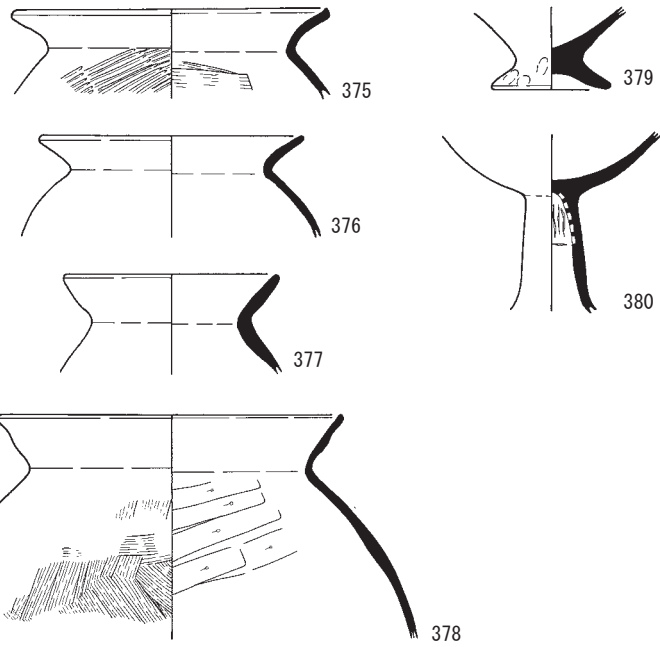
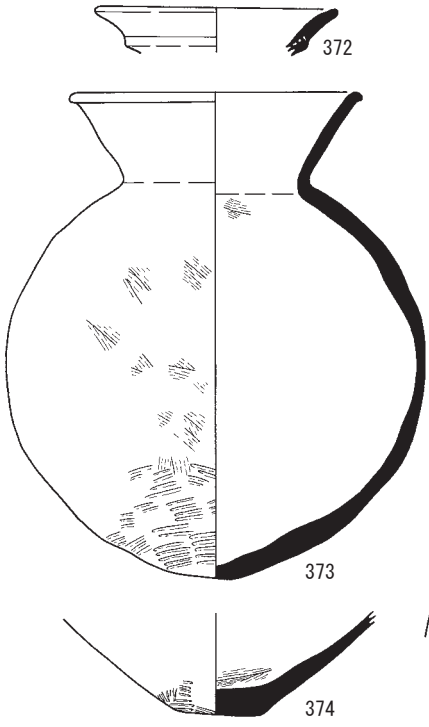
SK057



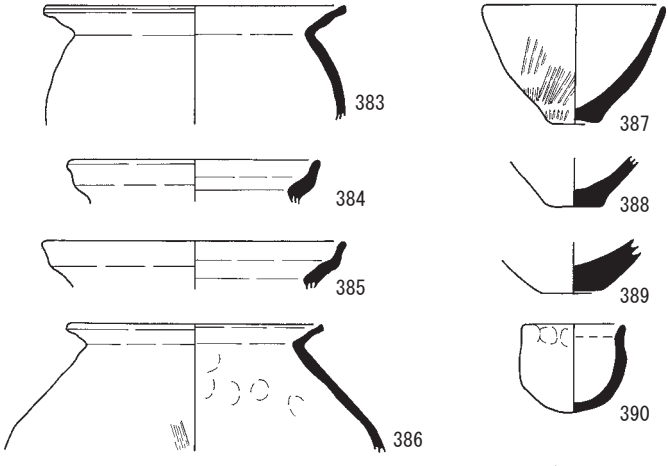
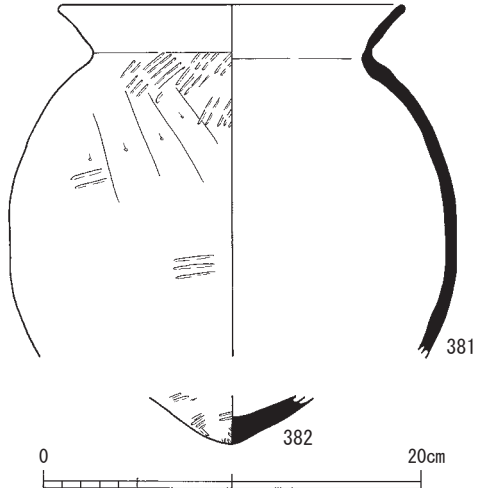
SD176



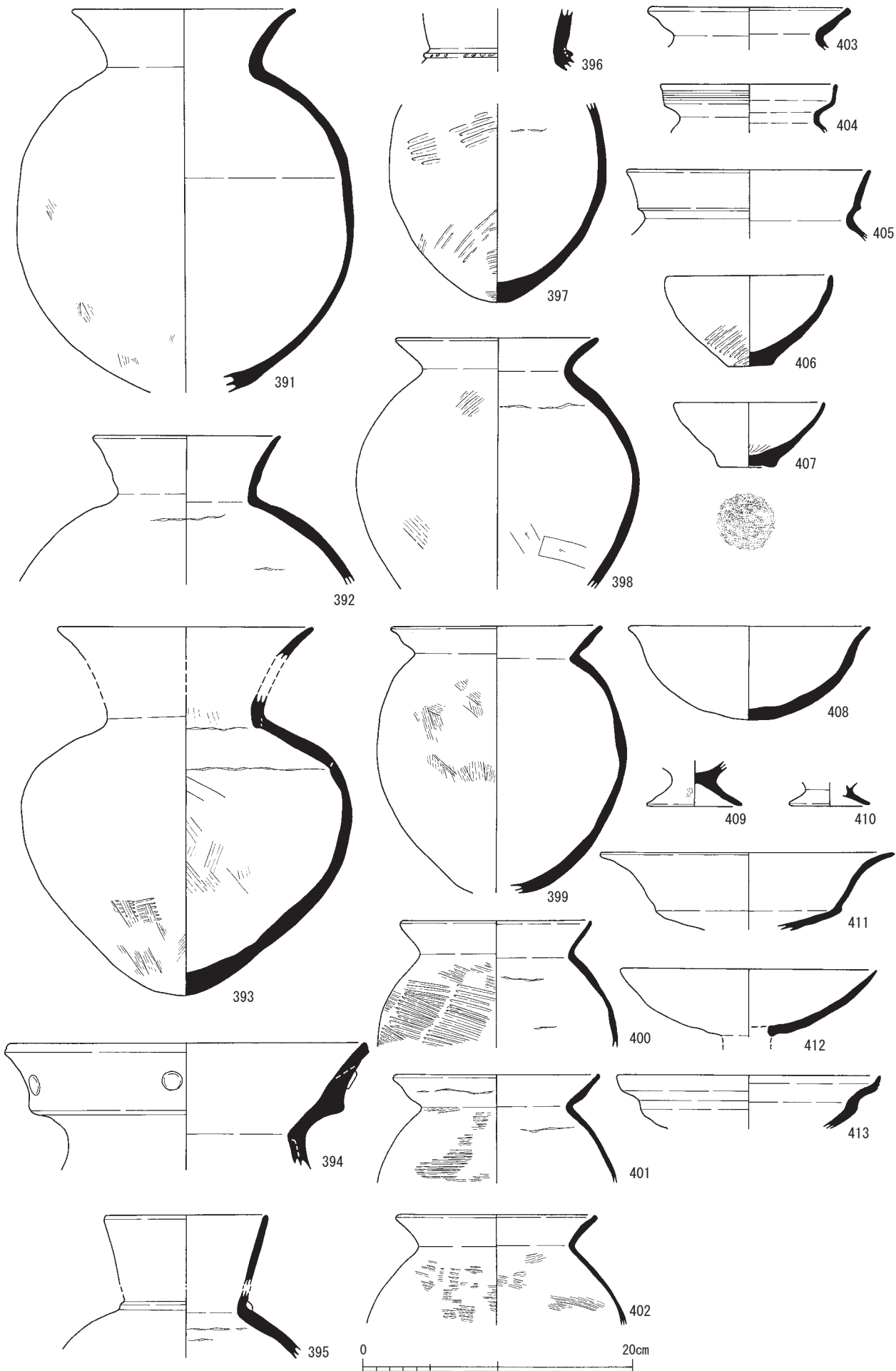
SK055



Pit

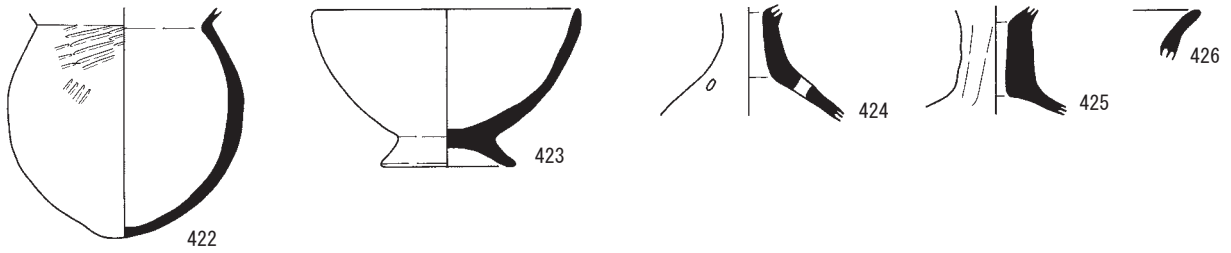
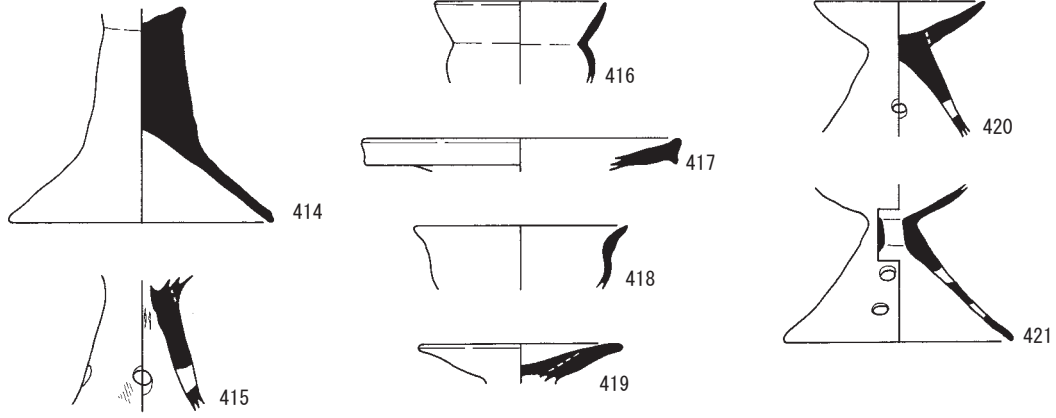


SX002

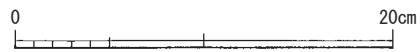
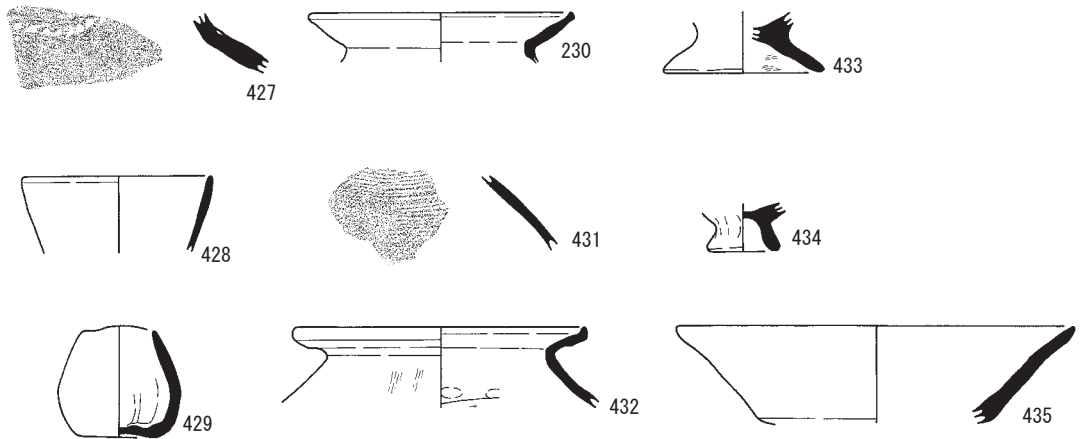


土器 391 ~ 413 (SX002)

SX002



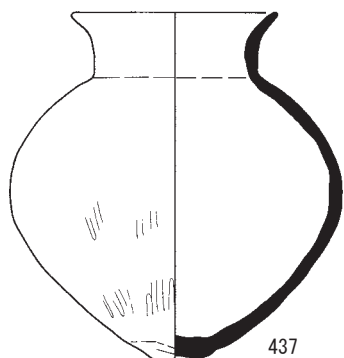
包含層



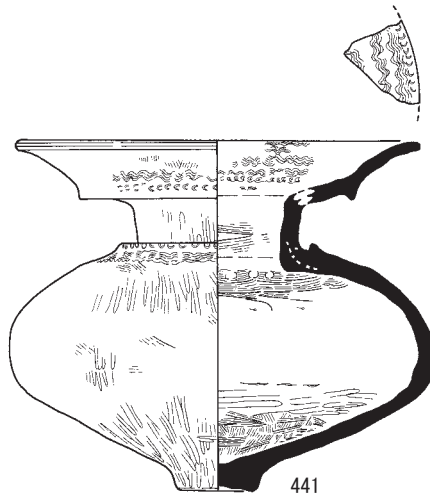
SD201



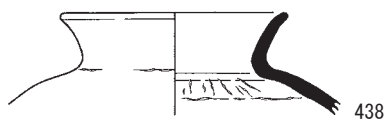
436



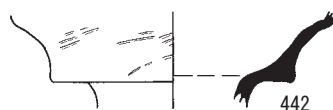
437



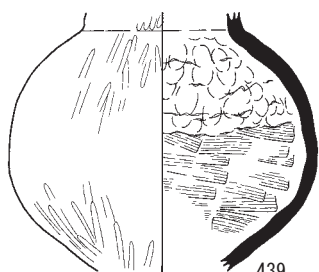
441



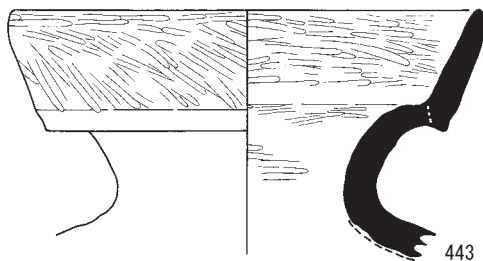
438



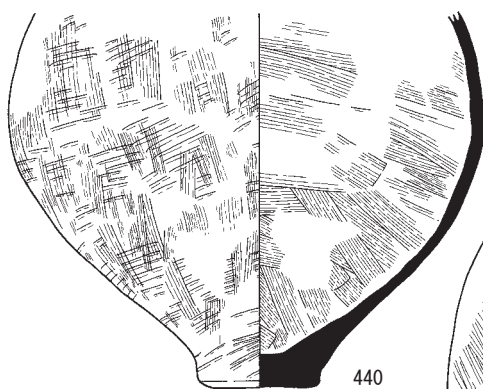
442



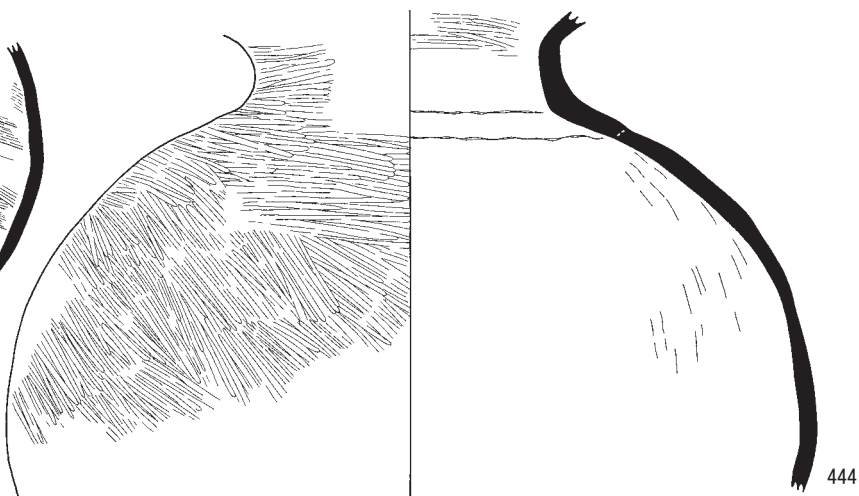
439



443



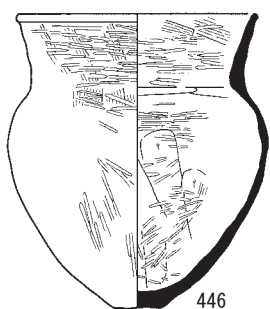
440



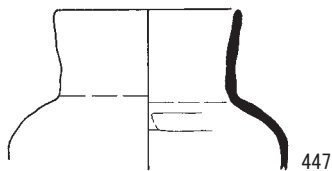
444



445



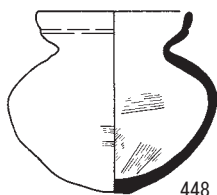
446



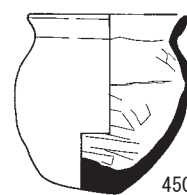
447



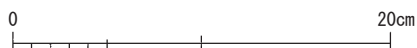
449



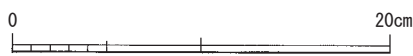
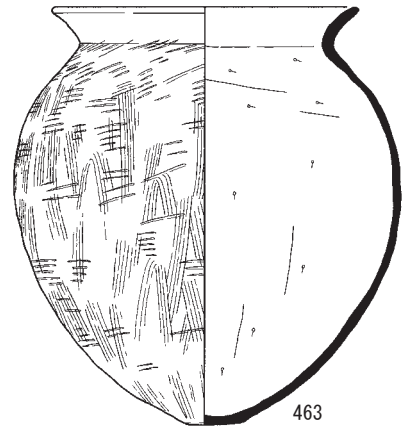
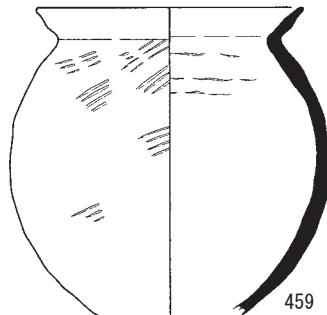
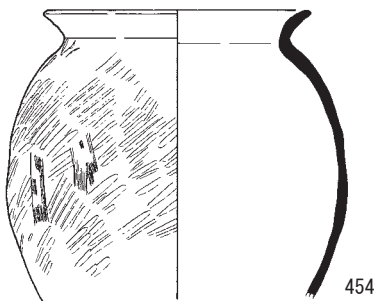
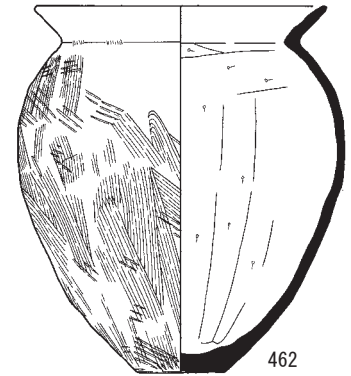
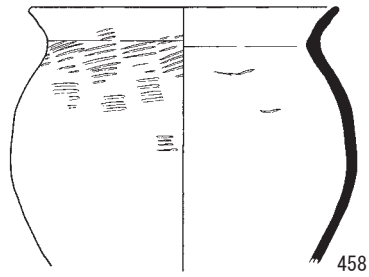
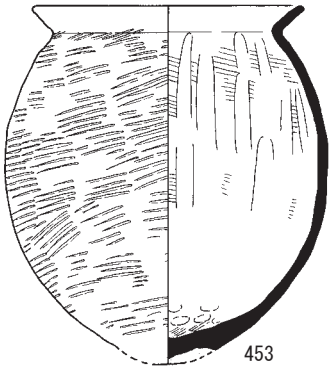
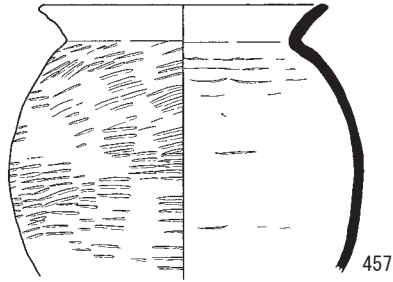
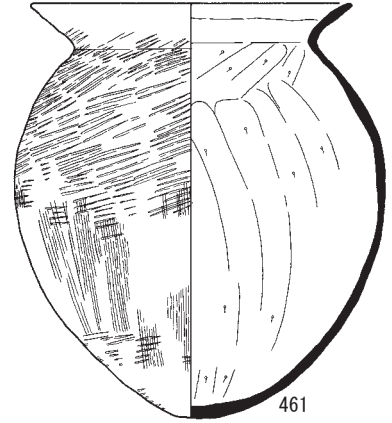
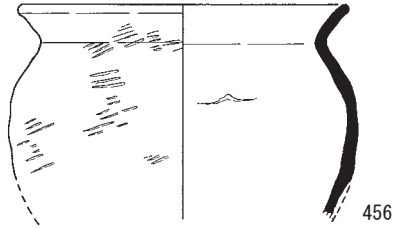
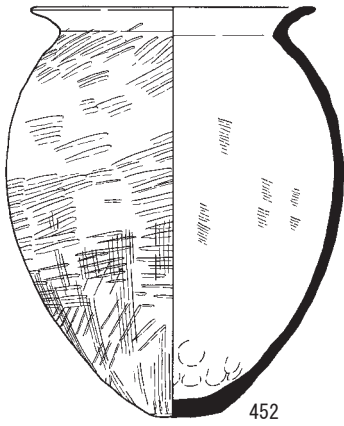
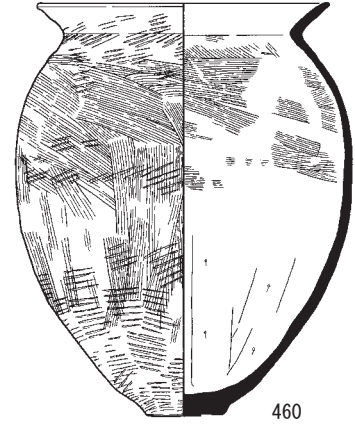
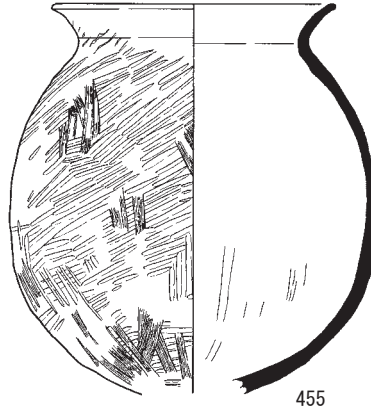
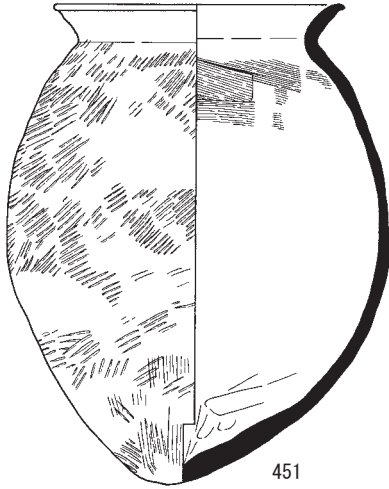
448



450

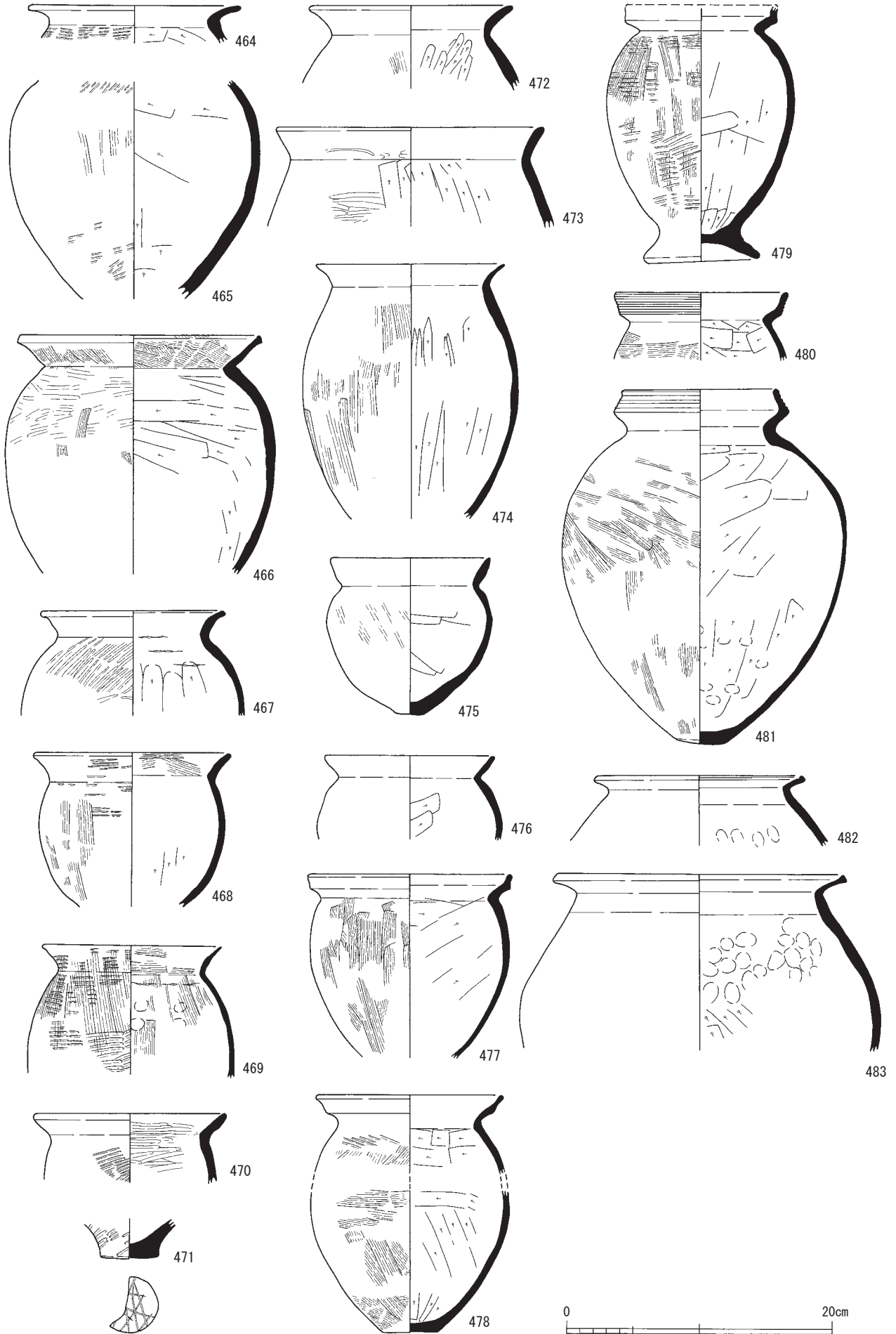


SD201



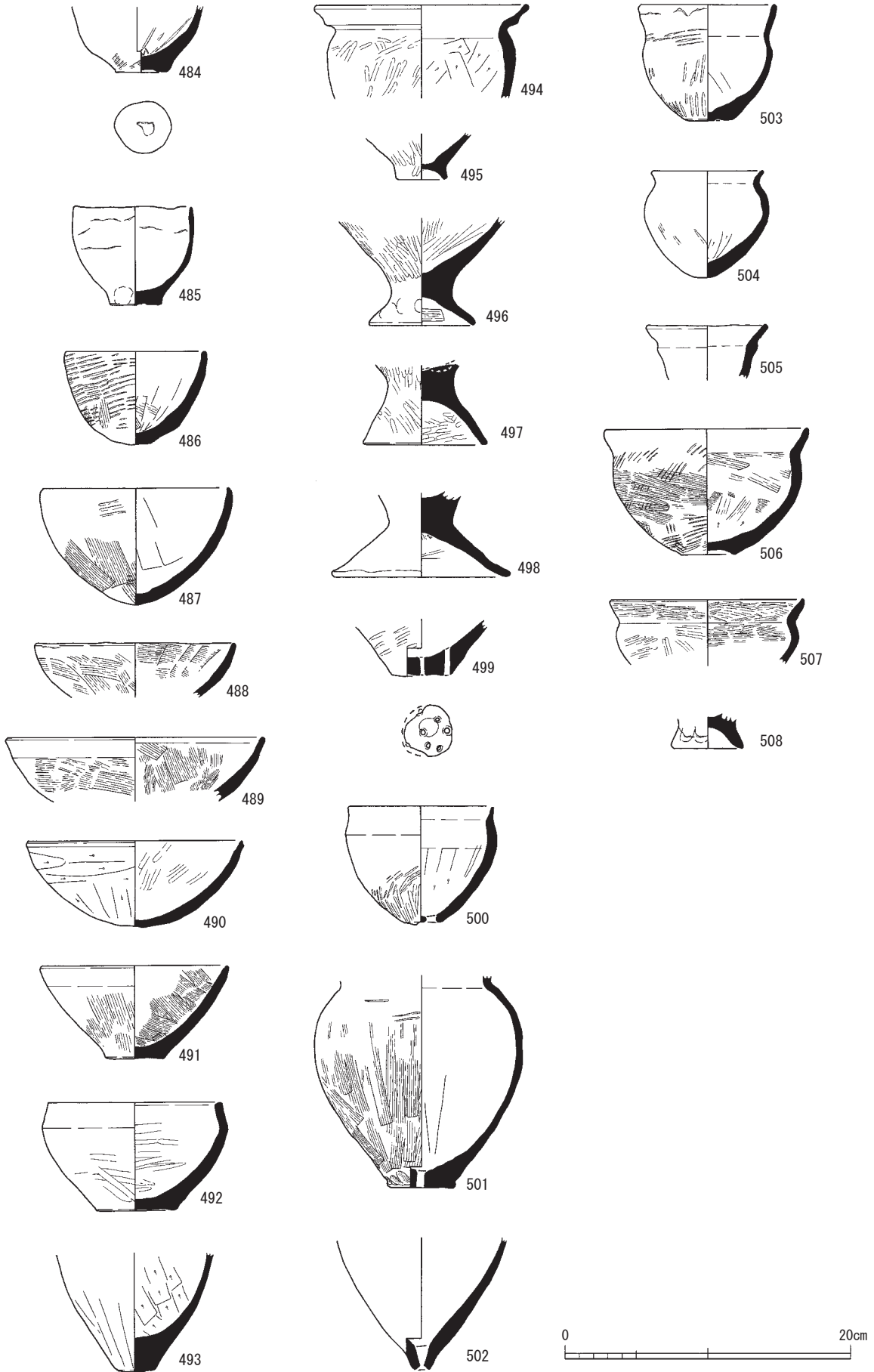
土器 451 ~ 463 (SD201)

SD201



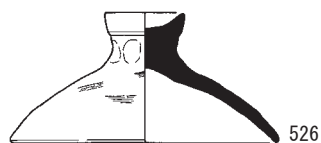
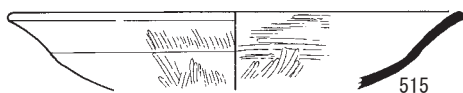
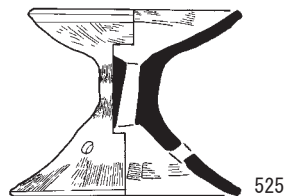
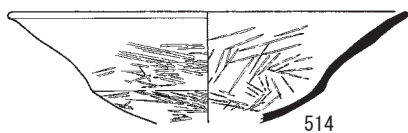
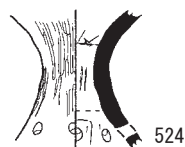
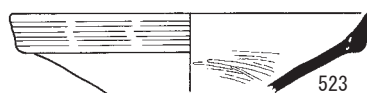
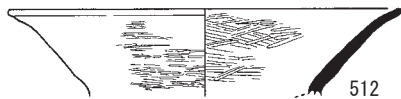
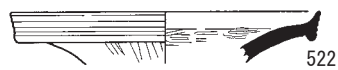
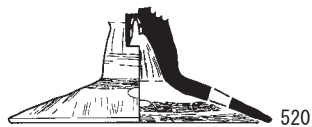
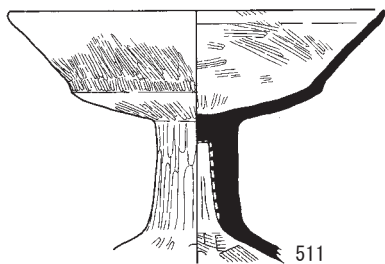
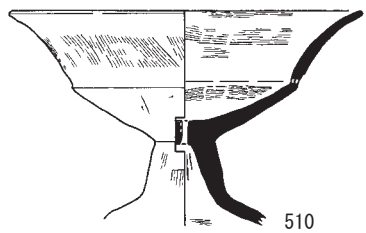
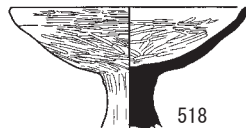
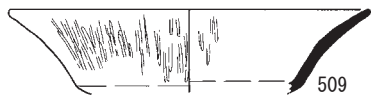
土器 464 ~ 483 (SD201)

SD201

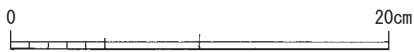
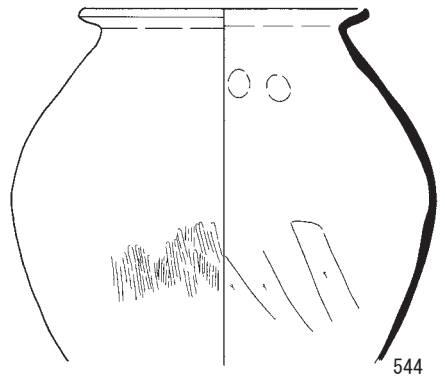
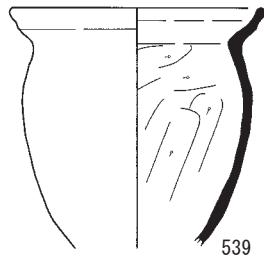
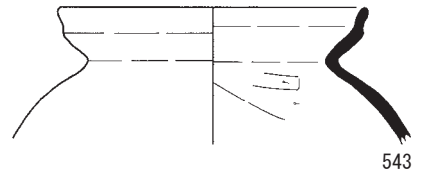
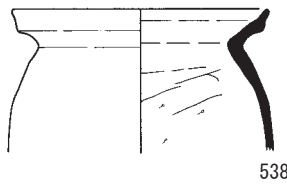
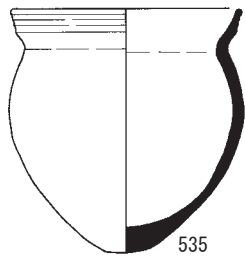
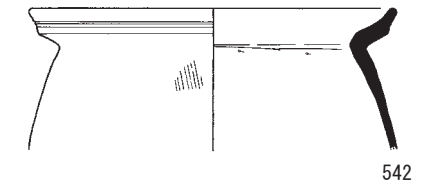
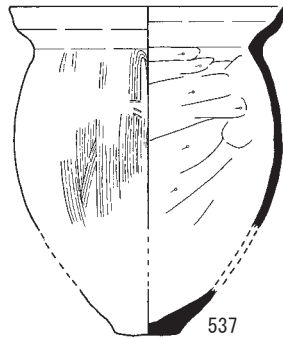
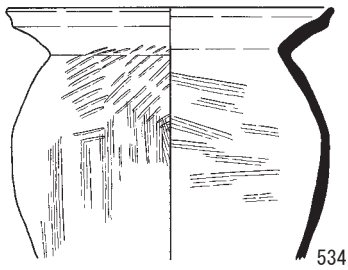
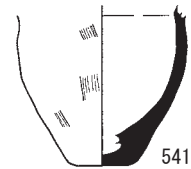
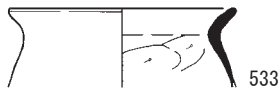
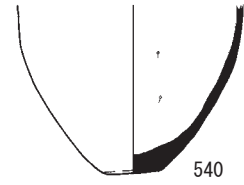
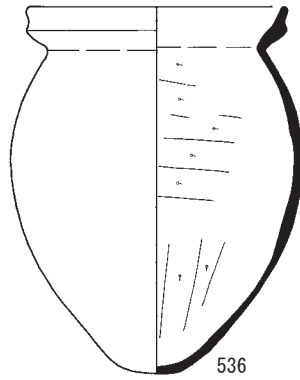
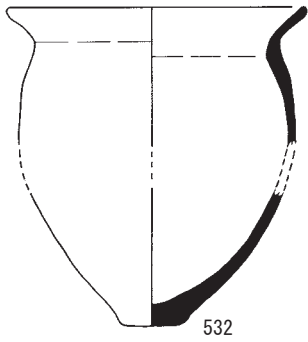
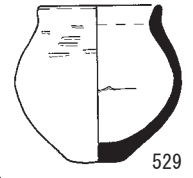
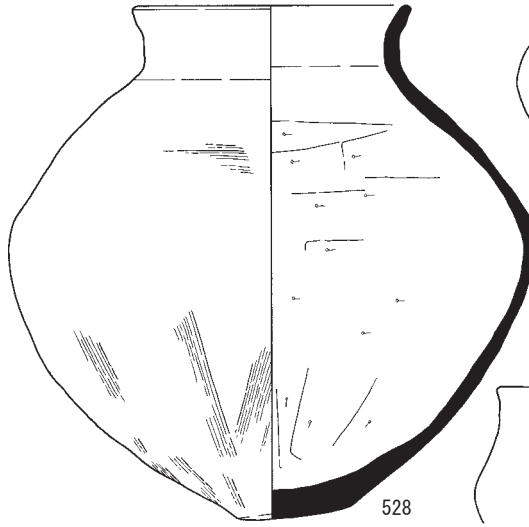
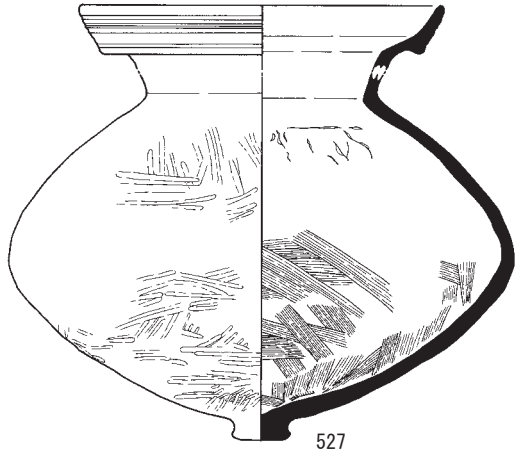


土器 484 ~ 508 (SD201)

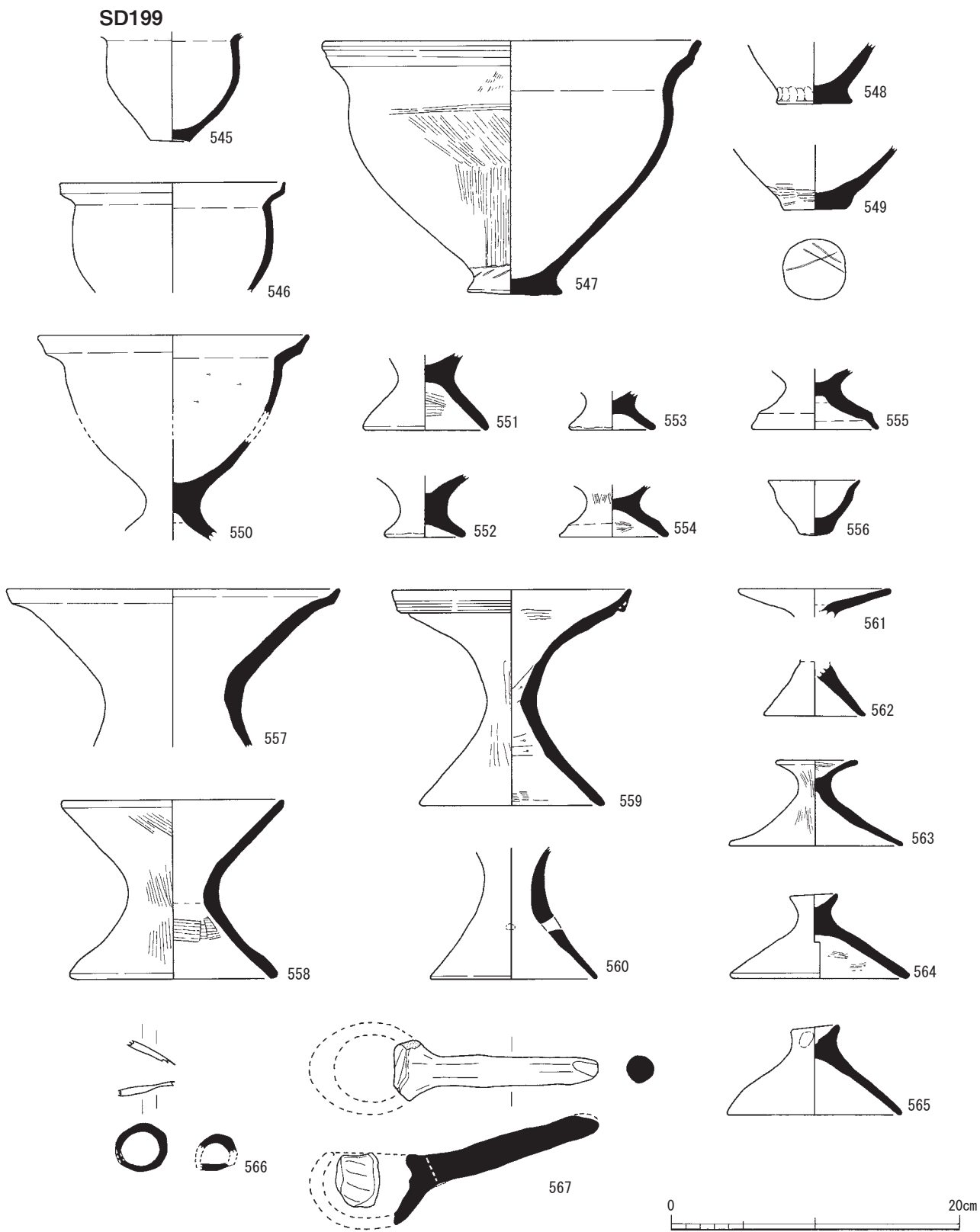
SD201



SD199

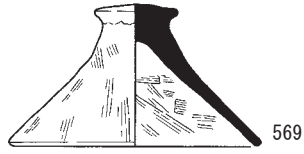
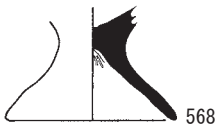


土器 527 ~ 544 (SD199)

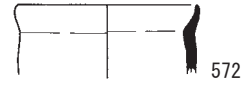
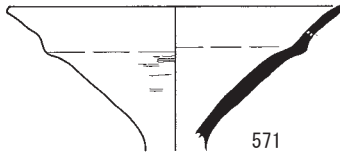
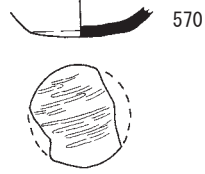


土器 545 ~ 567 (SD199)

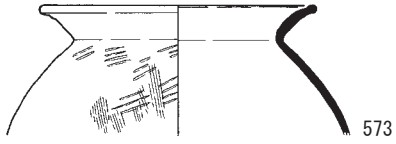
SD200



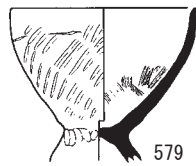
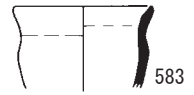
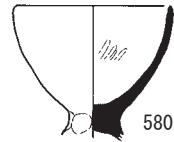
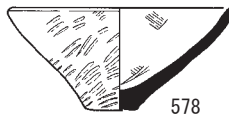
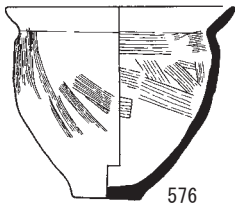
SD197



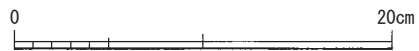
SH002



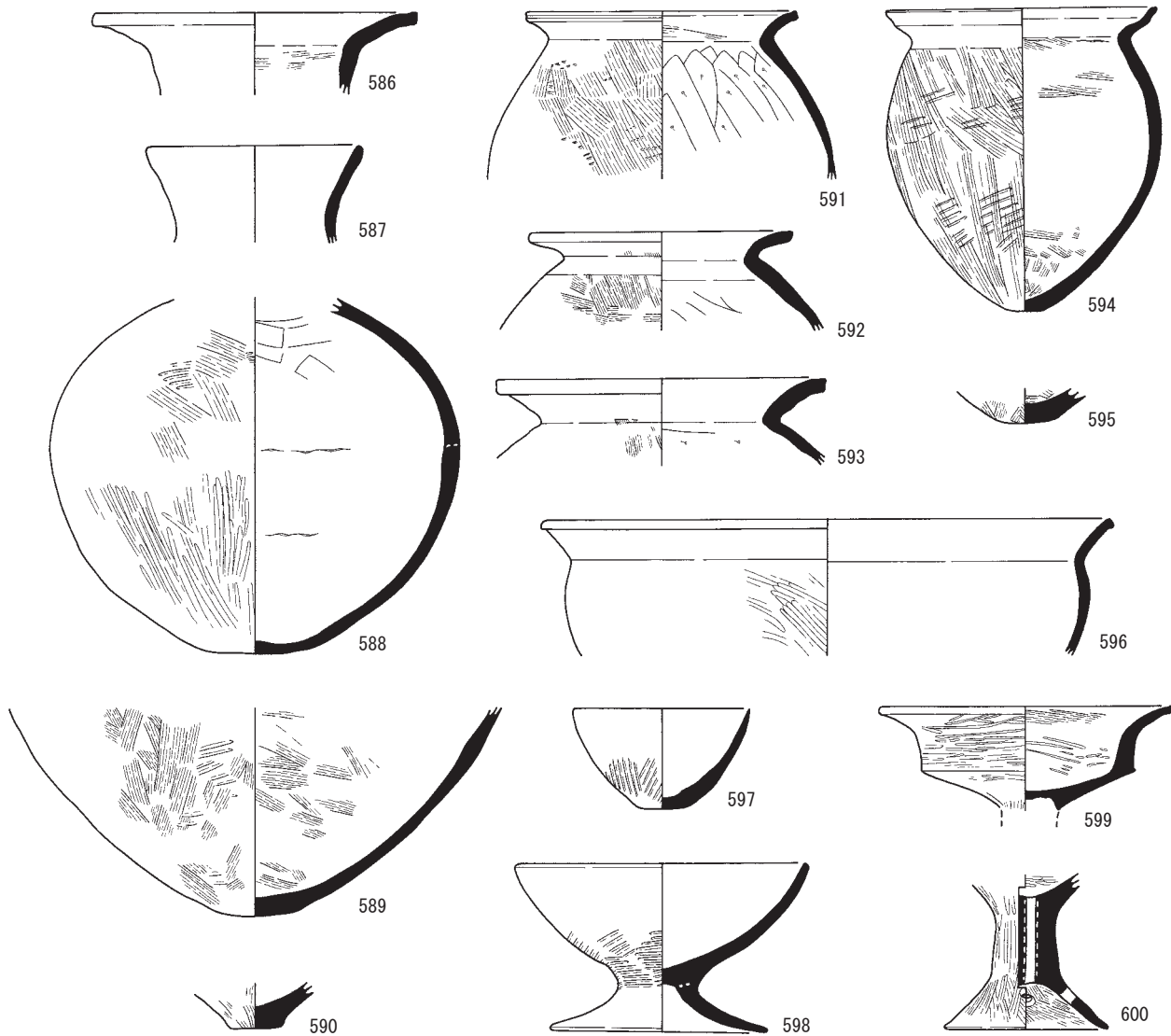
SK059



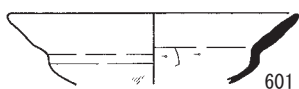
SD190



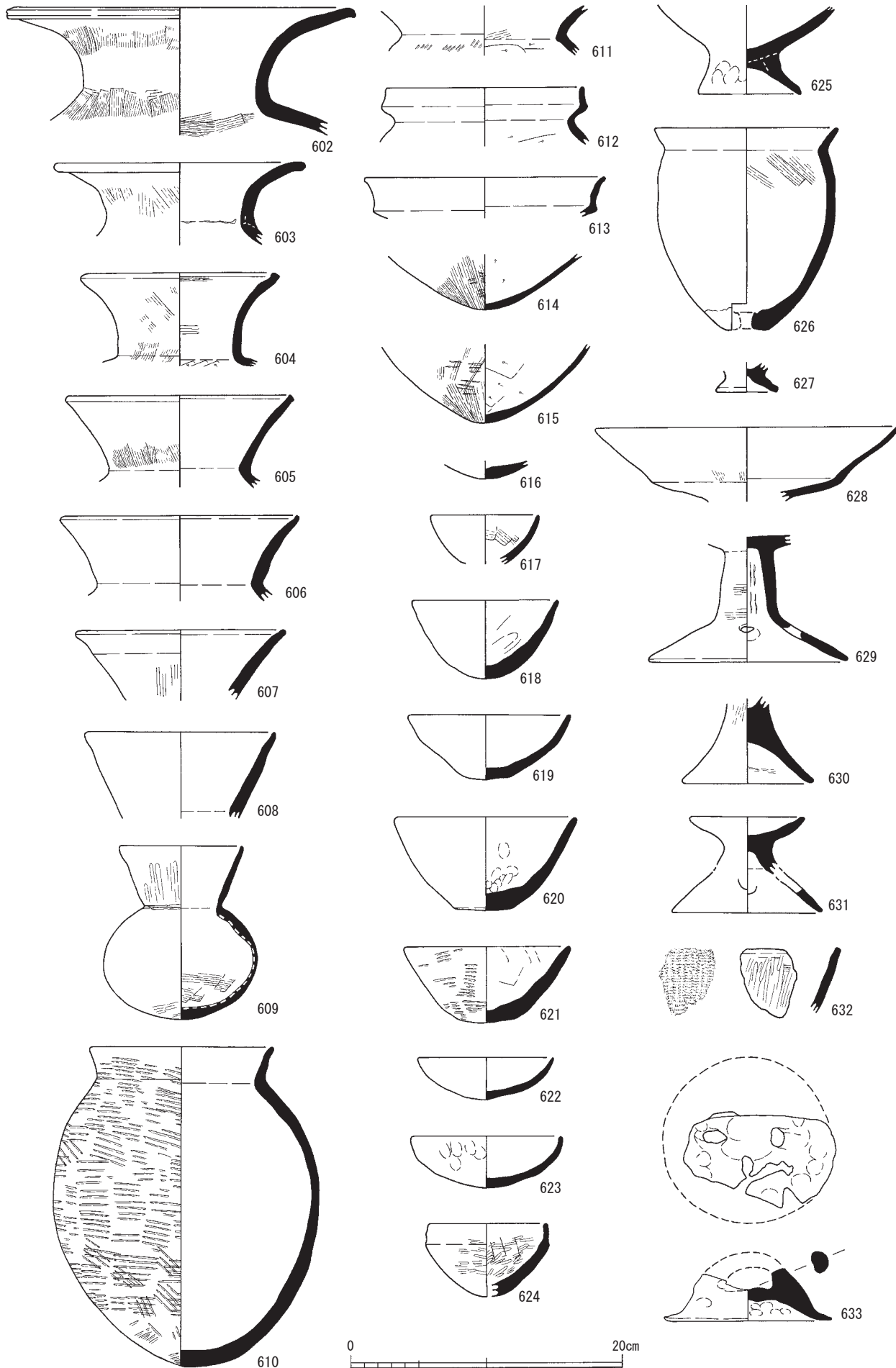
SD186



包含層

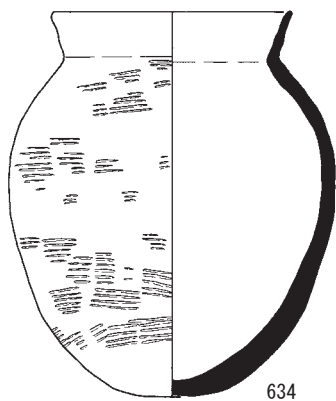


SD211



土器 602 ~ 633 (SD211)

SD220



634



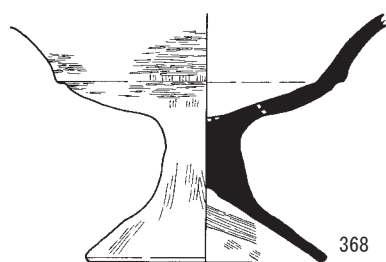
635



636



637



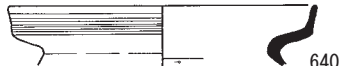
368

SD224



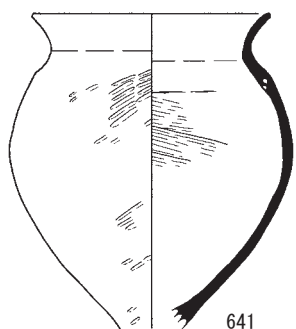
639

SK069

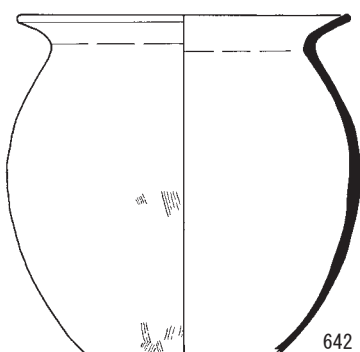


640

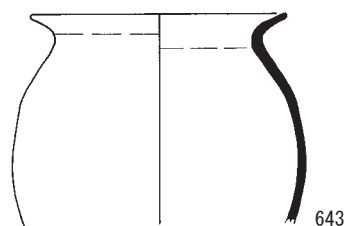
SK071



641



642

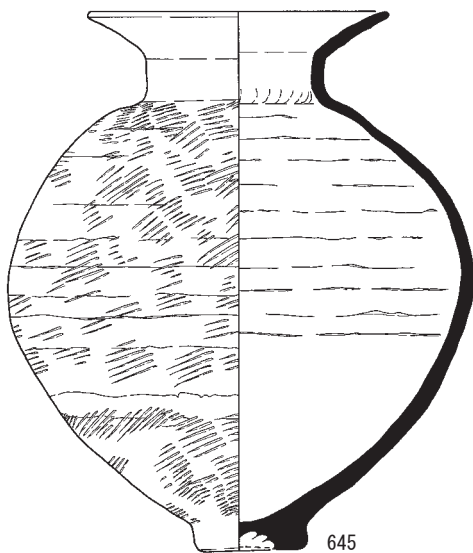


643



644

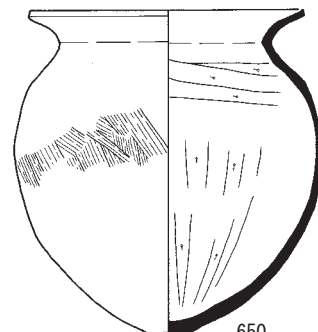
SK074



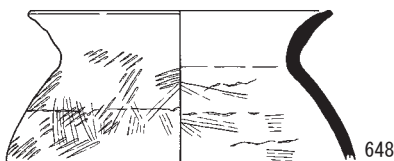
645



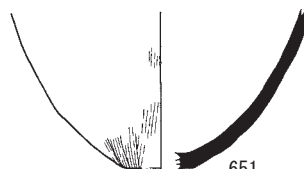
647



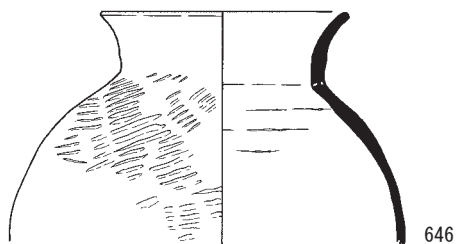
650



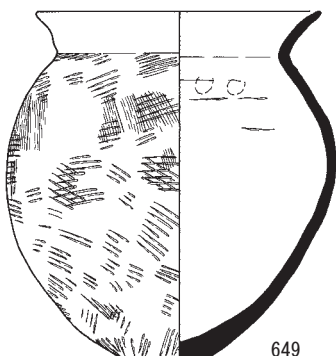
648



651



646



649



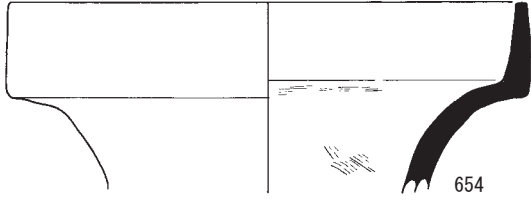
652



653



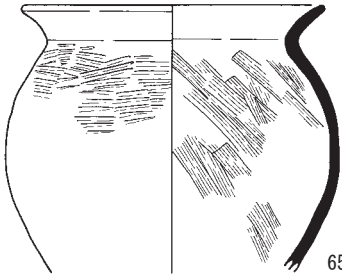
SK086



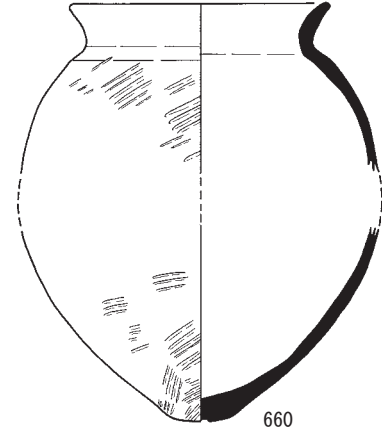
654



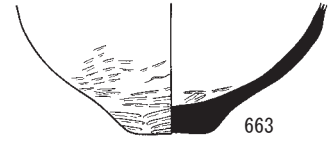
655



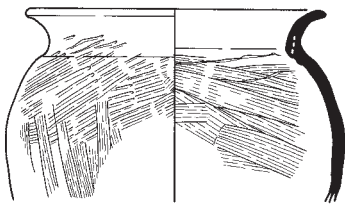
656



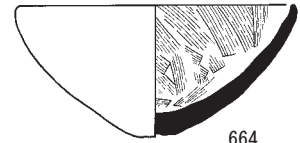
660



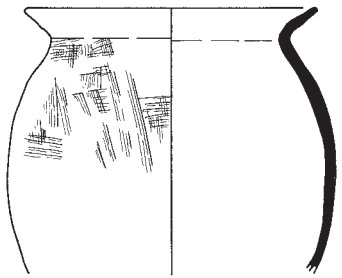
663



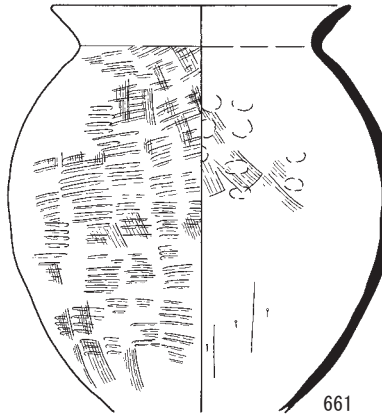
657



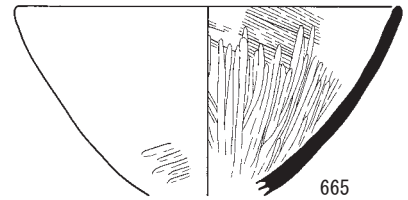
664



658



661



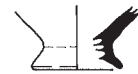
665



666



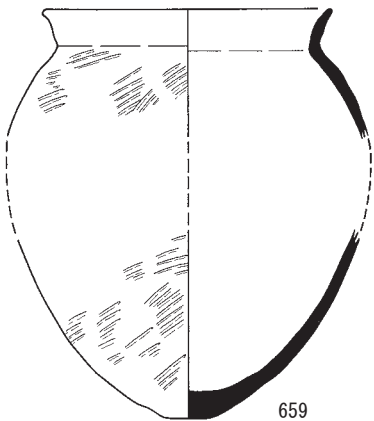
668



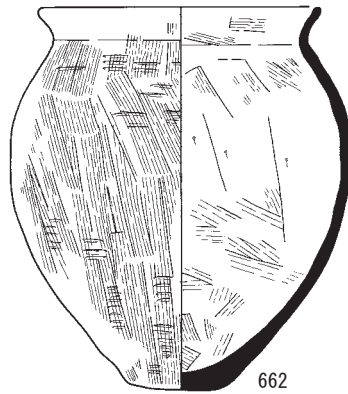
667



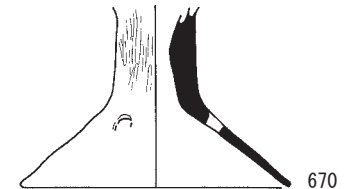
669



659

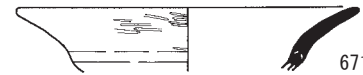


662



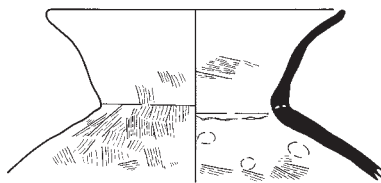
670

SK075

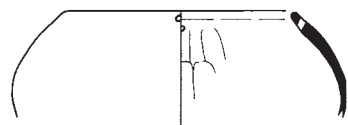


671

SK076



672



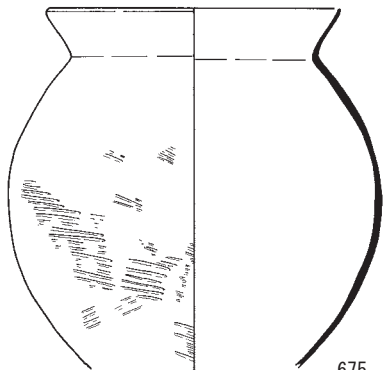
673



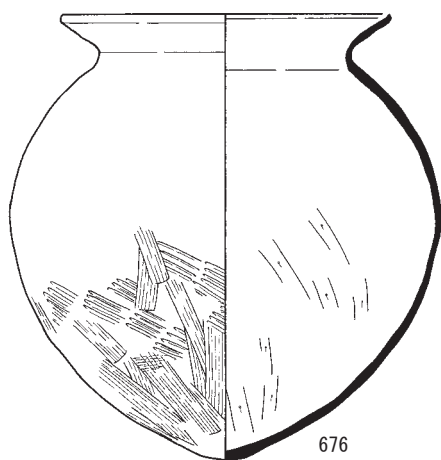
SK085



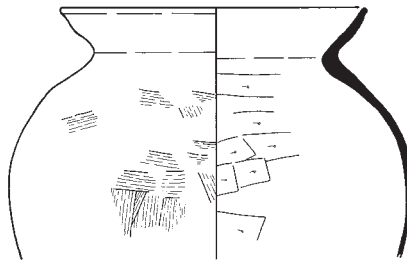
674



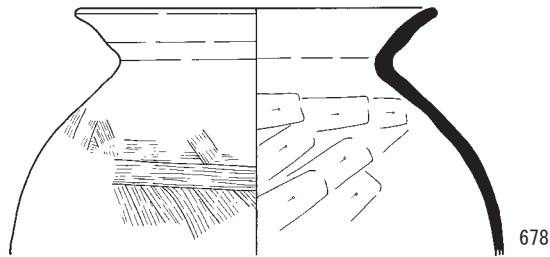
675



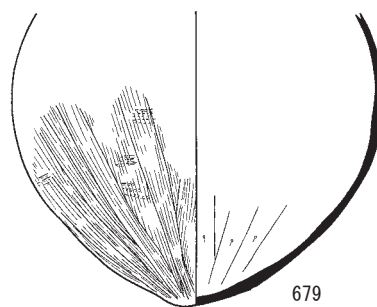
676



677



678



679

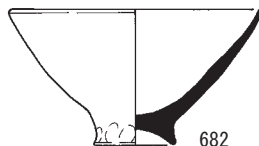
SK083



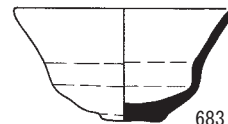
680



681

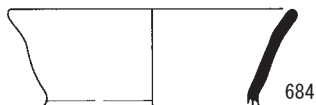


682

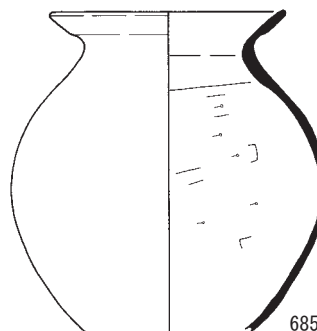


683

SK084



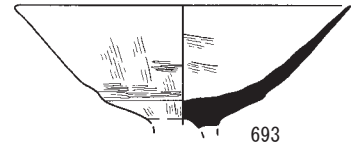
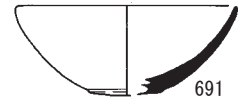
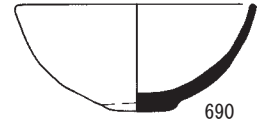
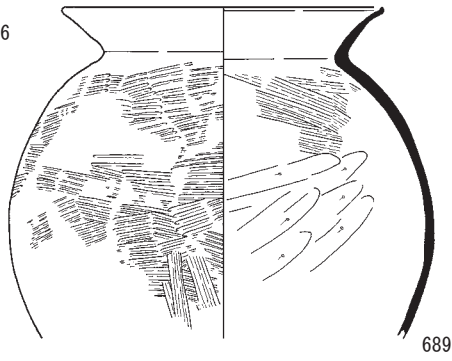
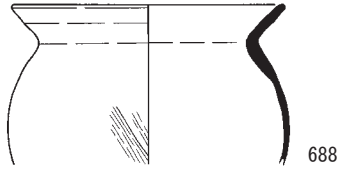
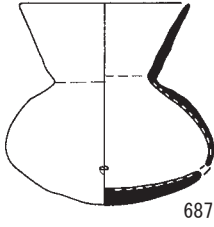
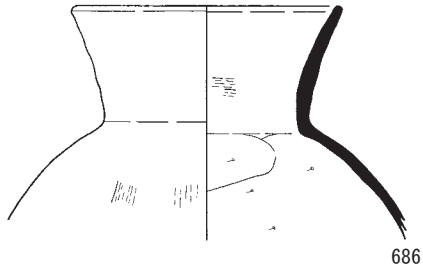
684



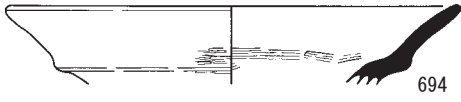
685



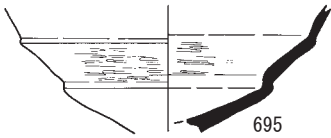
SK087



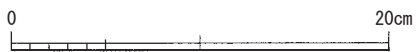
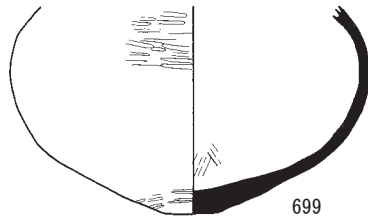
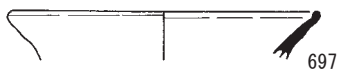
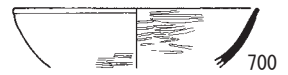
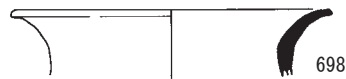
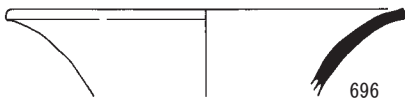
SK088



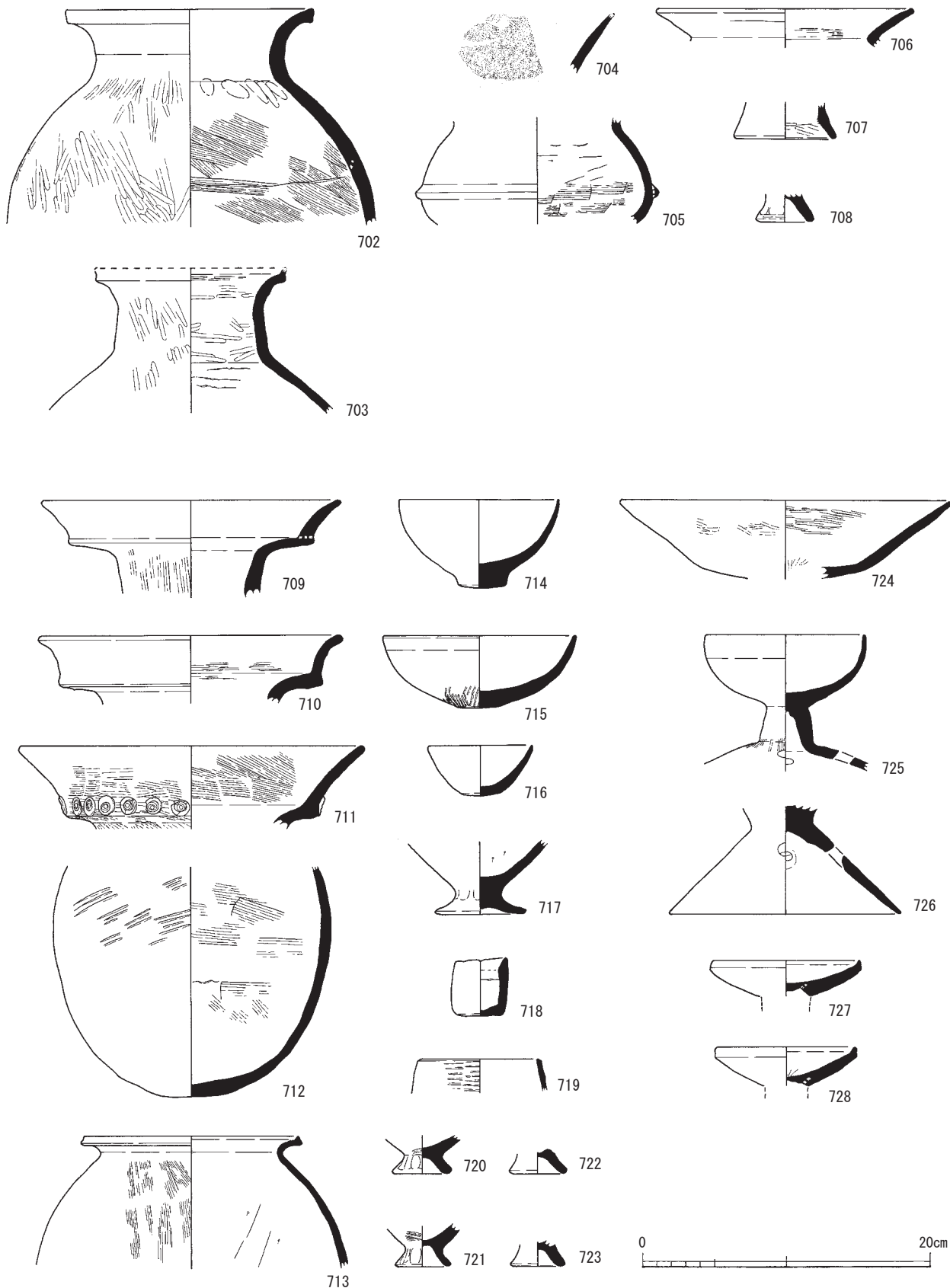
SK089



Pit

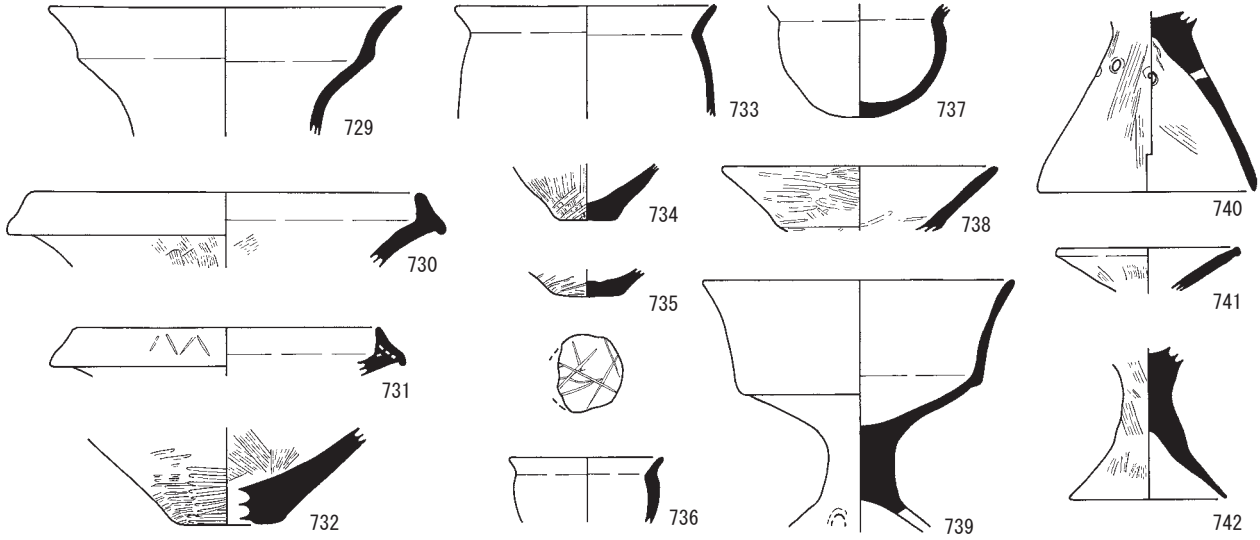


包含層

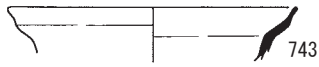


土器 702 ~ 728 (包含層)

SD227



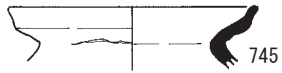
SD229



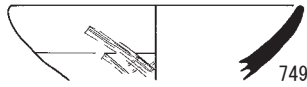
SD232



SD235



SD233



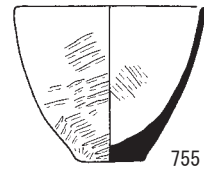
SD239



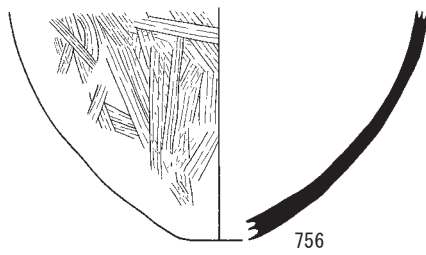
SK096



SK095



SK097



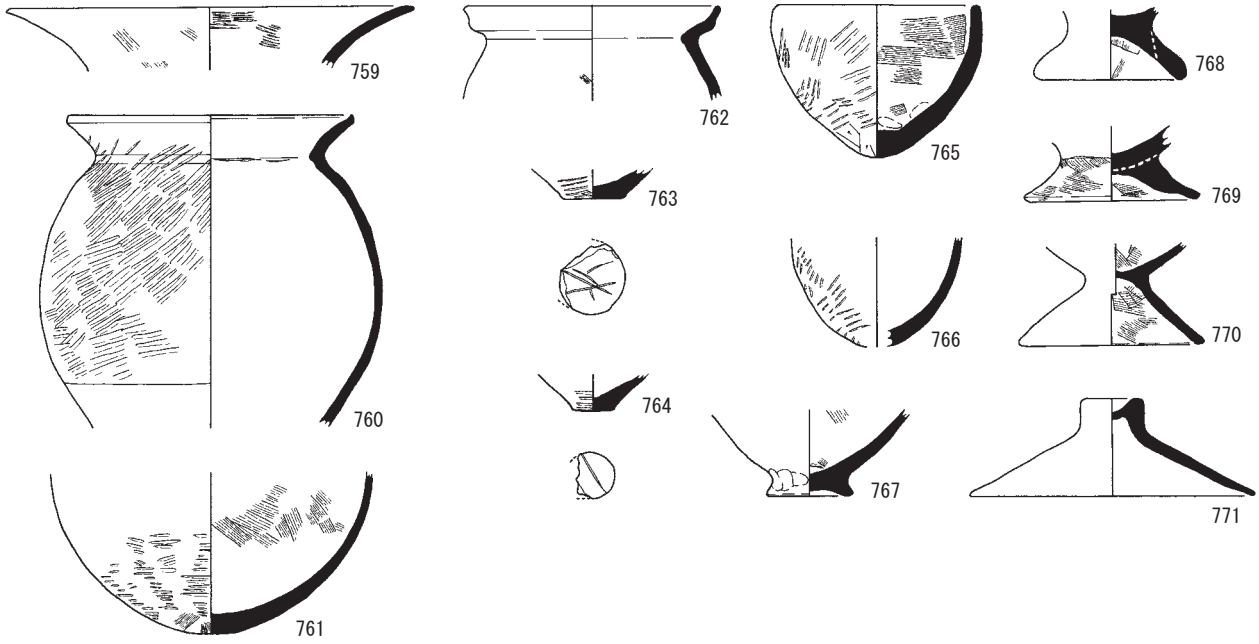
SK102



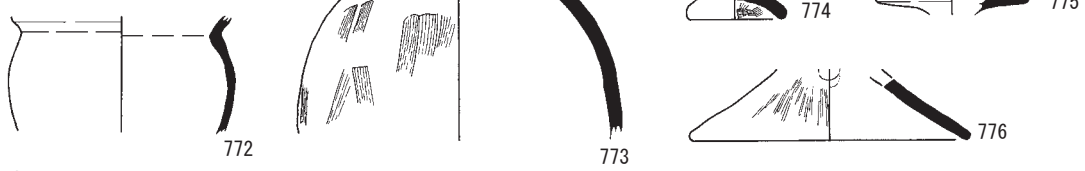
SK104



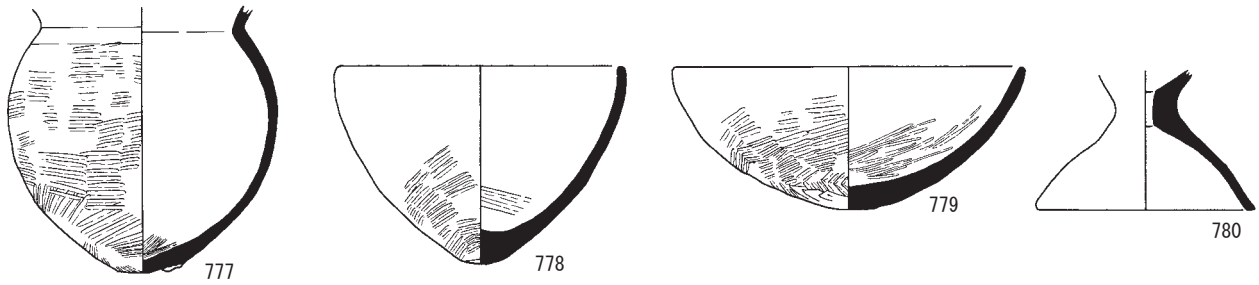
SK094



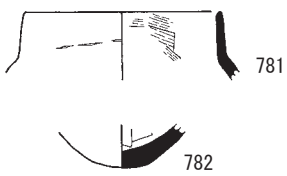
SD234



SK091



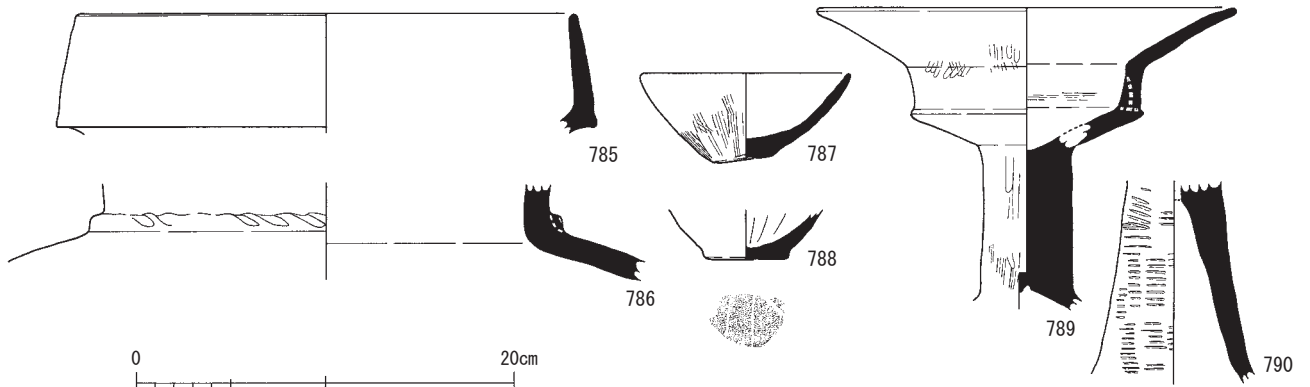
SH003

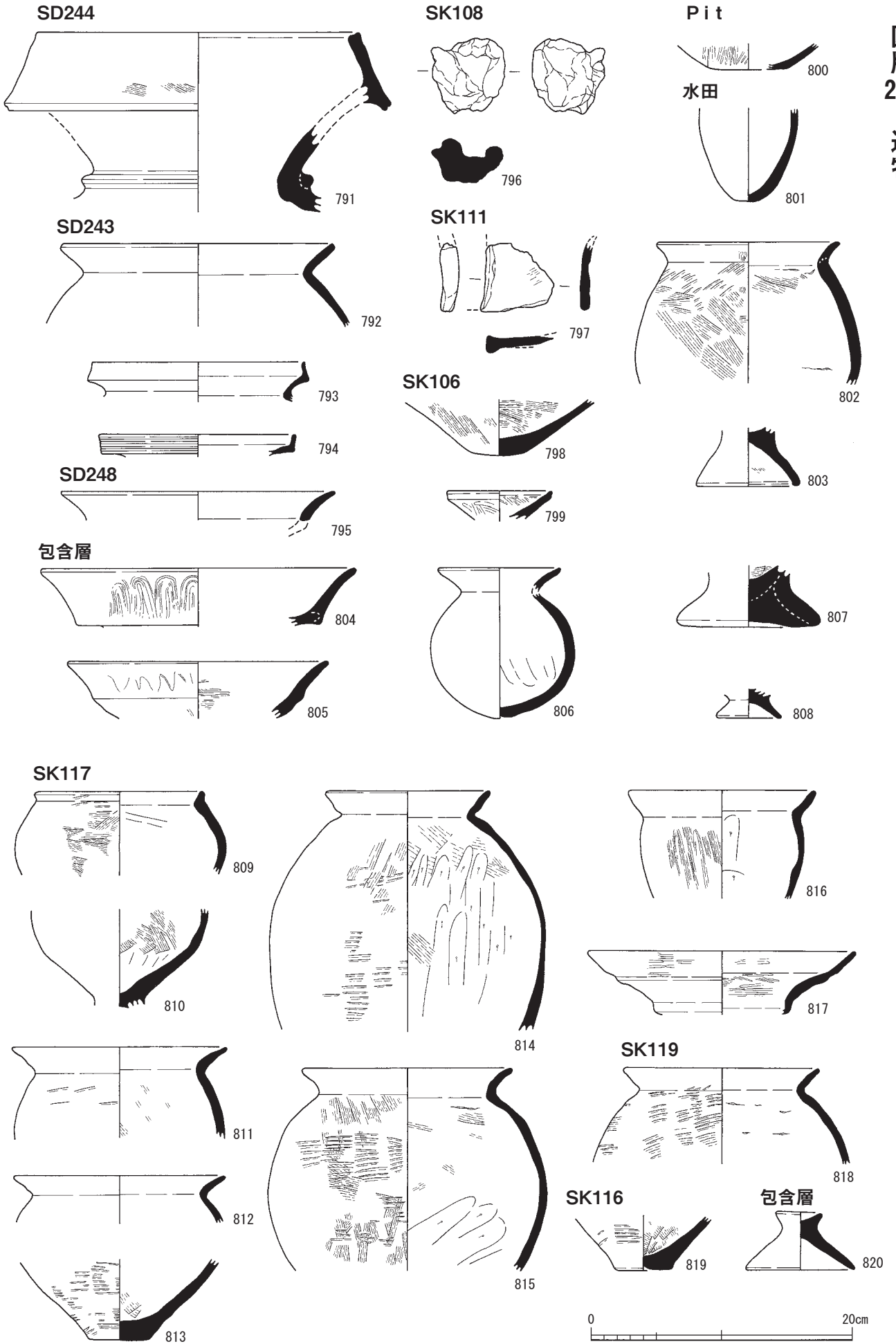


Pit

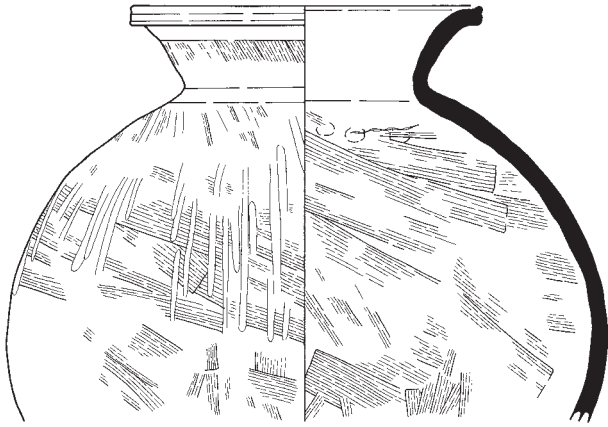


包含層

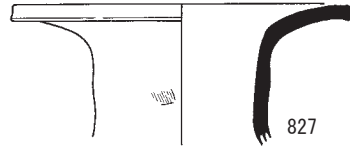




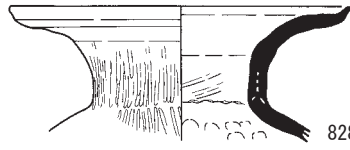
SD256



821



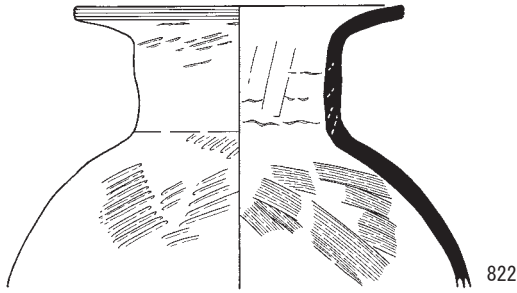
827



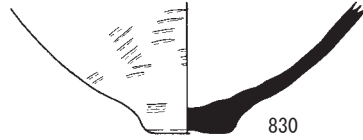
828



829



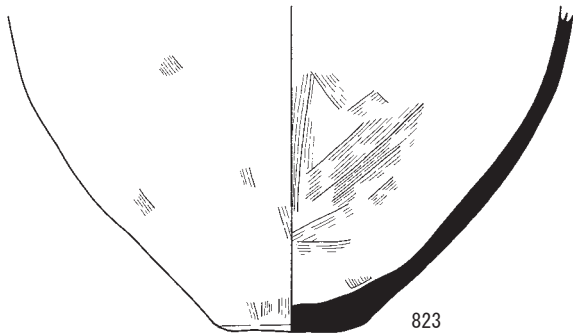
822



830



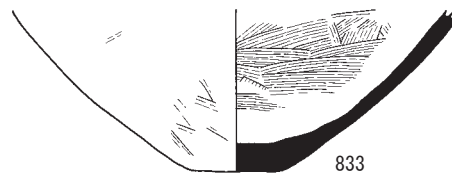
831



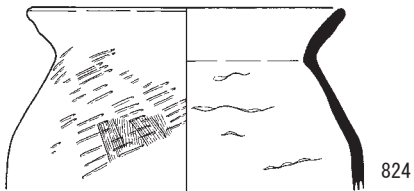
823



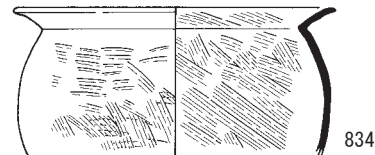
832



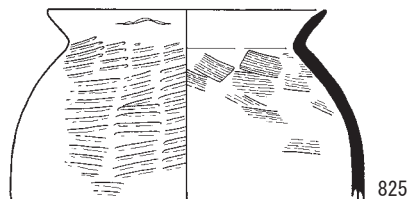
833



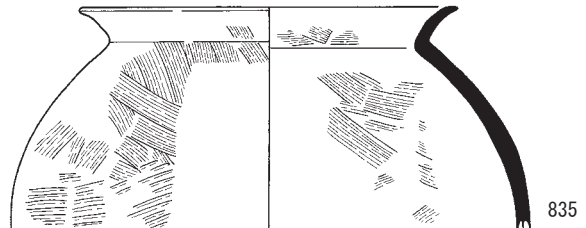
824



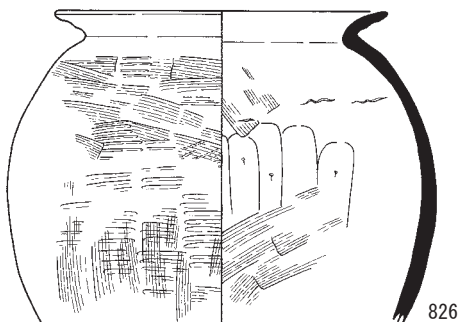
834



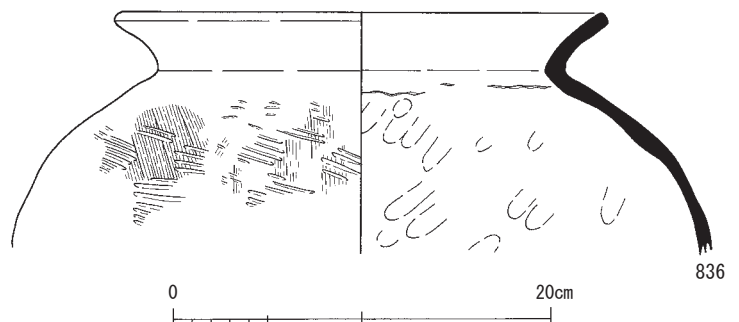
825



835



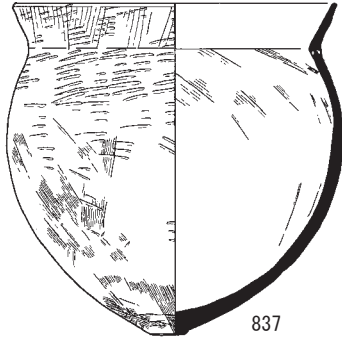
826



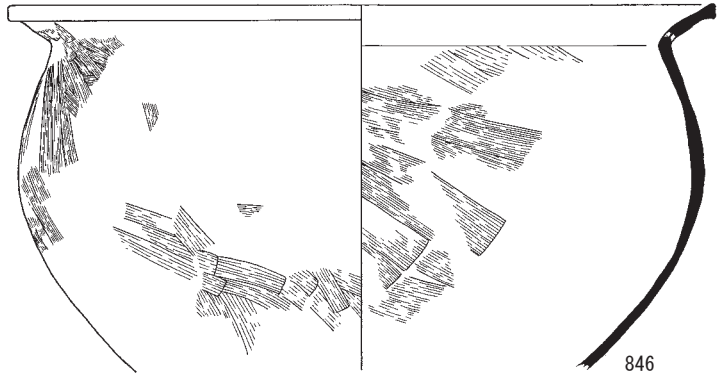
836

0 20cm

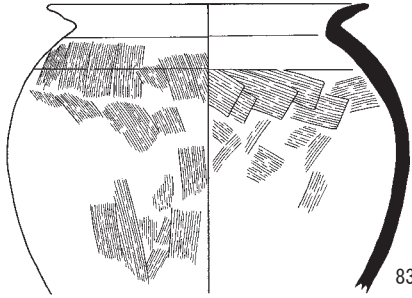
SD256



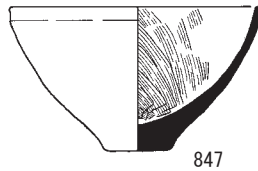
837



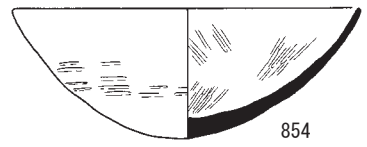
846



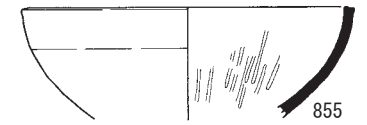
838



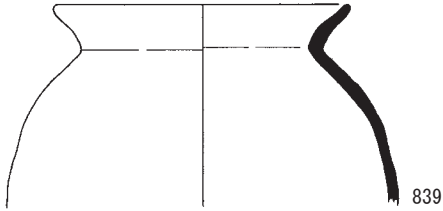
847



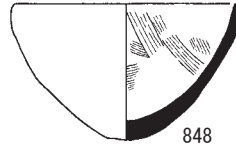
854



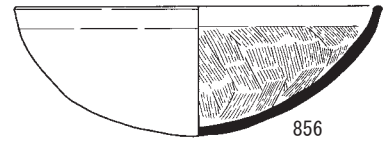
855



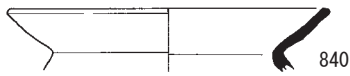
839



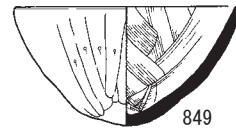
848



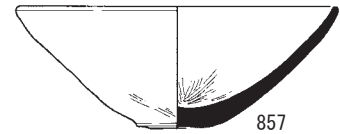
856



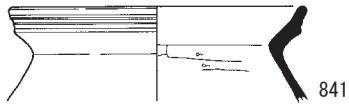
840



849



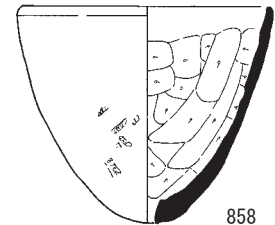
857



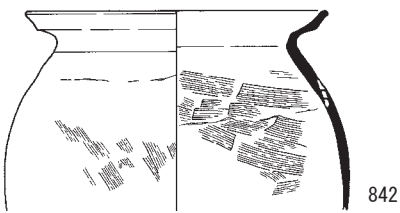
841



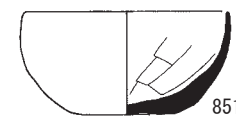
850



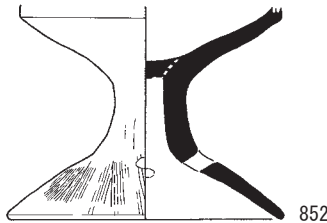
858



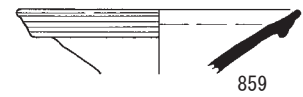
842



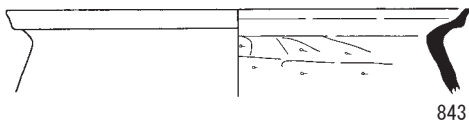
851



852



859



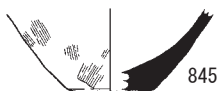
843



844



853

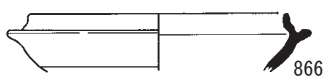


845



土器 837 ~ 859 (SD256)

包含層

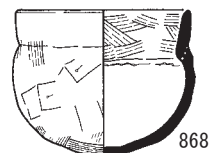


866

SD108

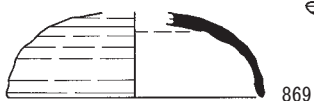


867

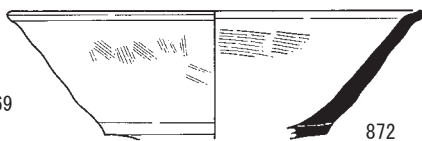


868

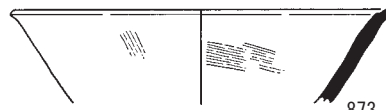
SD077 上層



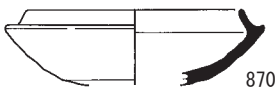
869



872



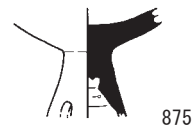
873



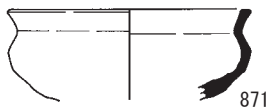
870



874



875



871

SD103



876

SD104

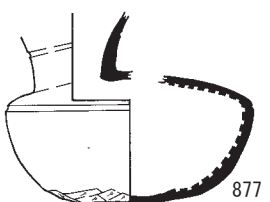


878

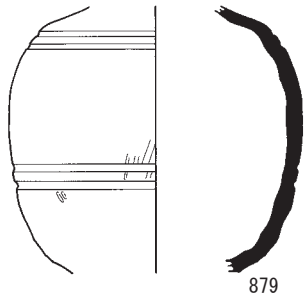
SD102



880



877



879



881



882

包含層



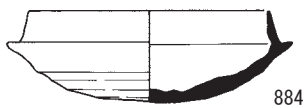
883



885



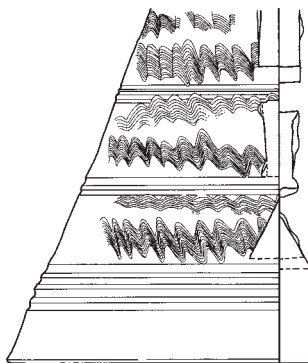
887



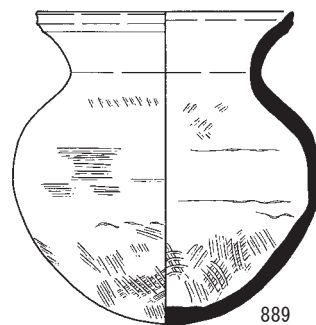
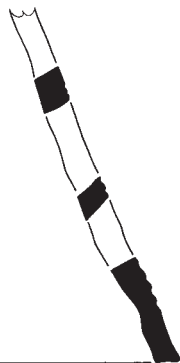
884



886



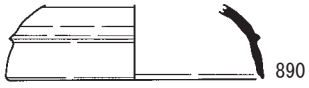
888



889



SD188



SD155



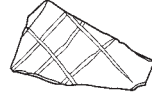
SD180 上層



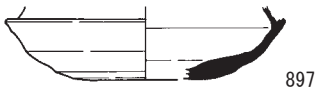
Pit



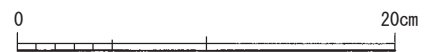
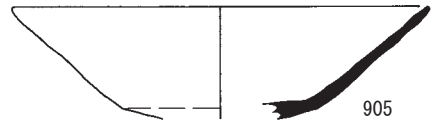
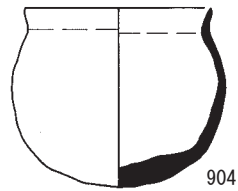
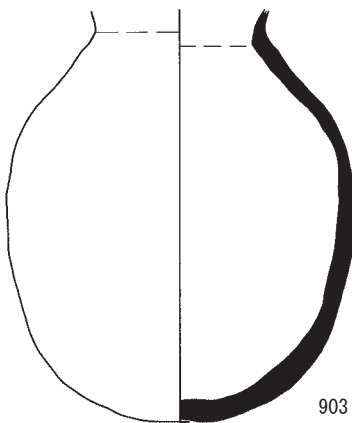
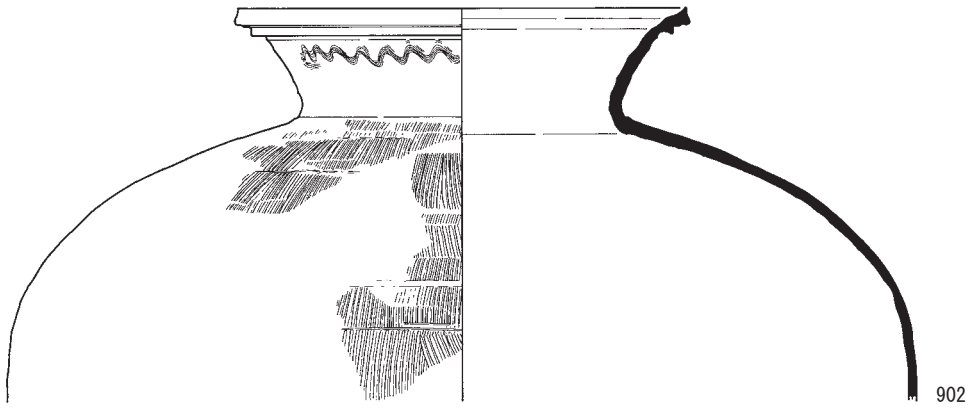
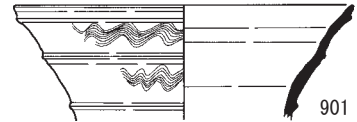
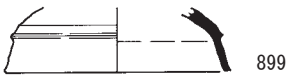
包含層



SD201 上層



SD211

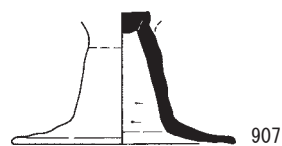


水田



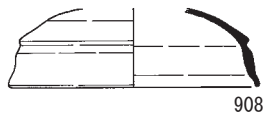
906

包含層

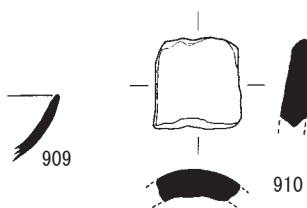


907

SD225



908



909

910

SD212



911

SK088

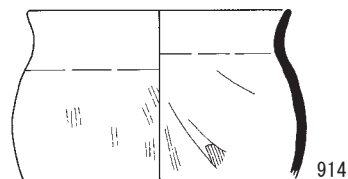


912

Pit

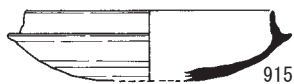


913



914

水田

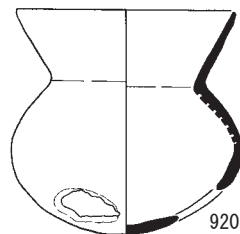


915

SD227



916



920

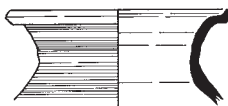
SK126



917

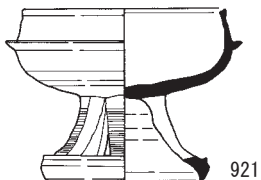


918

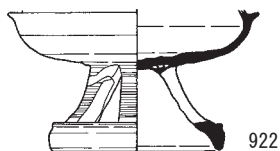


919

SK128



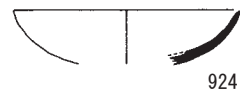
921



922

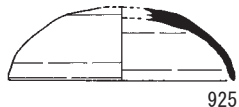


923



924

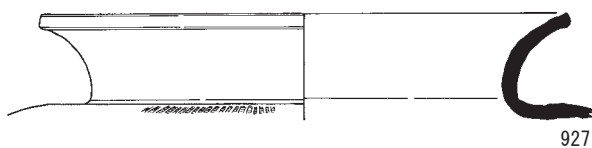
SK129



925



926



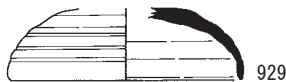
927

SK132



928

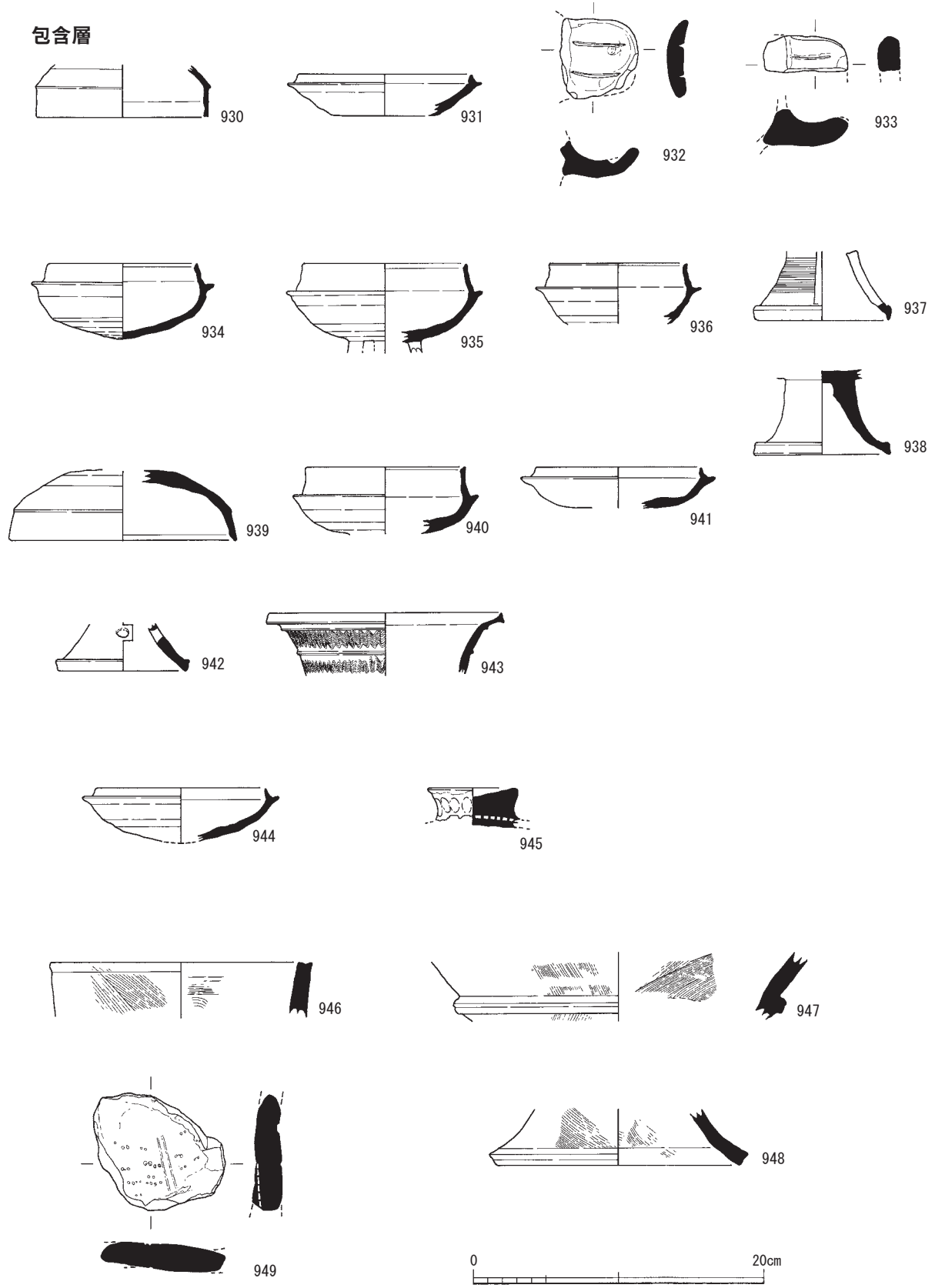
SD258



929

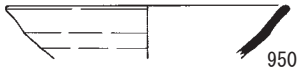


包含層



土器 930 ~ 949 (包含層)

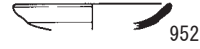
SD005



SD006



SK002



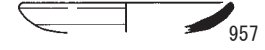
SB003



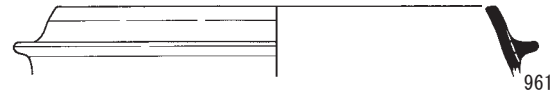
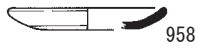
Pit



包含層



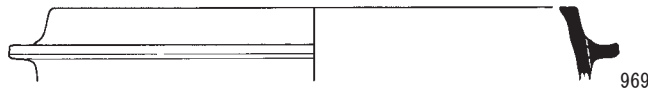
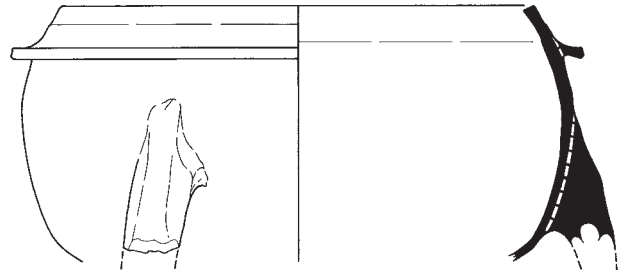
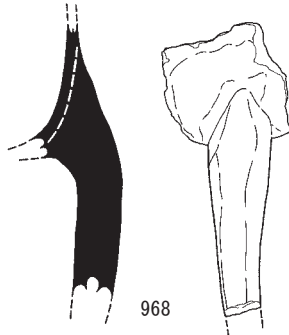
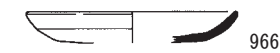
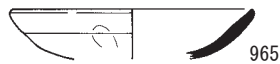
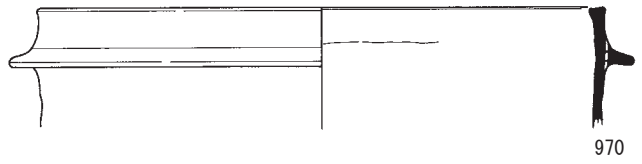
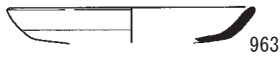
SB007



SB008



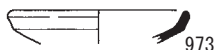
SB009



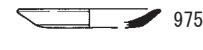
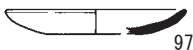
SB010



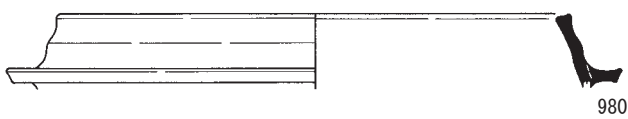
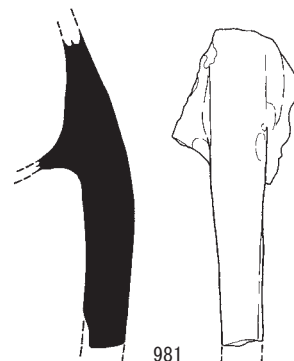
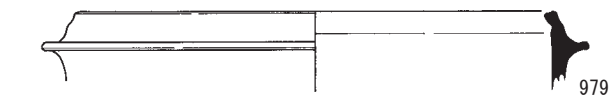
SB011

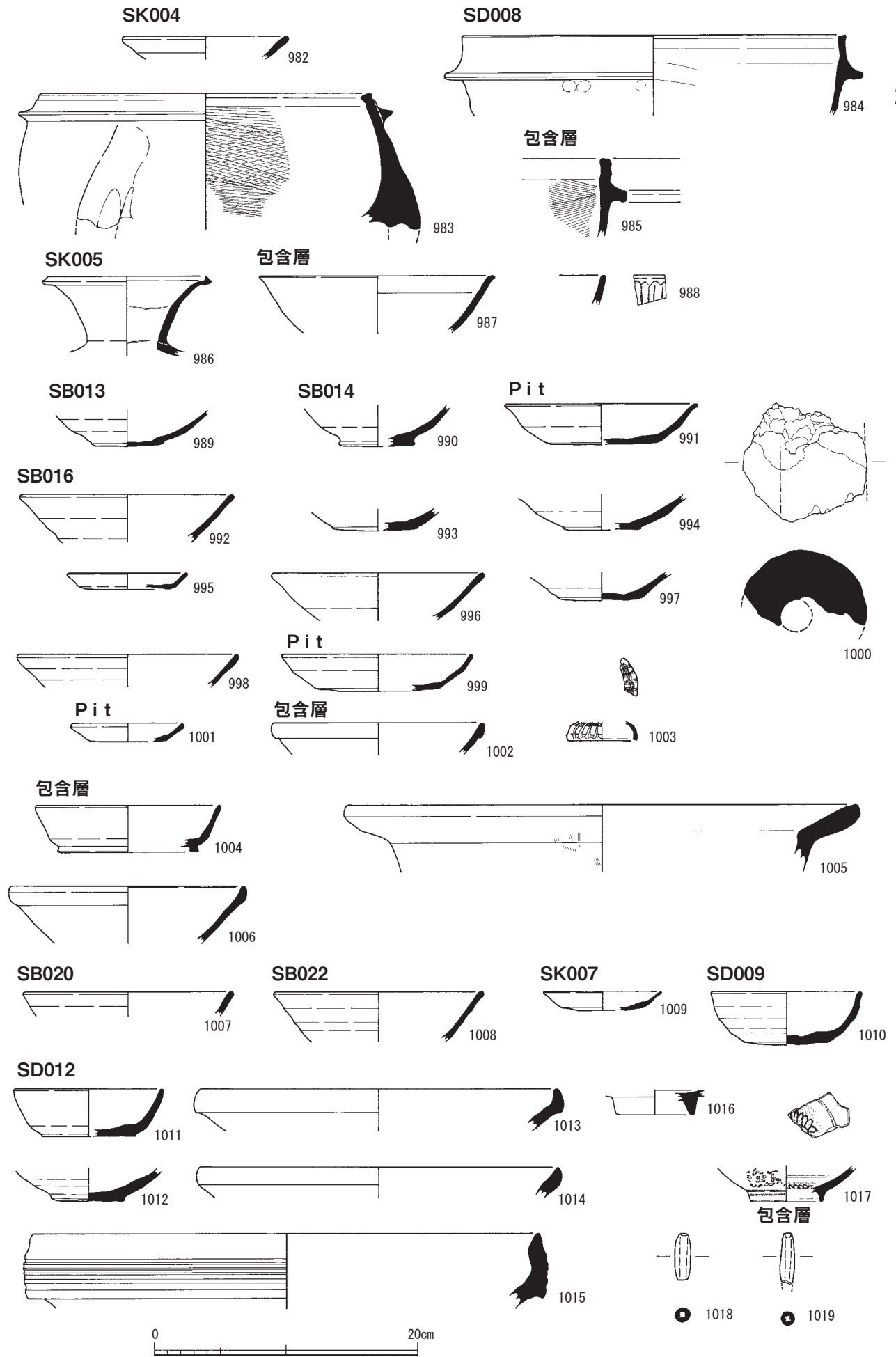


SB012

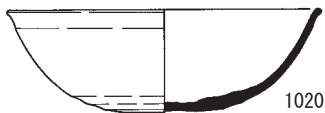


Pit

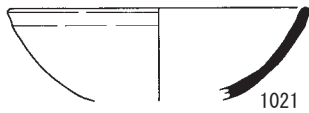




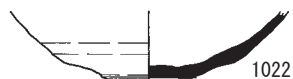
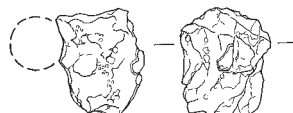
SD013



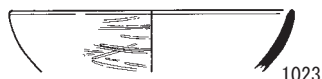
1020



1021



1022



1023



1025



1024

包含層

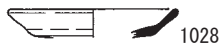


1026



1027

SB027



1028



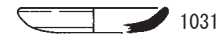
1029

SB028



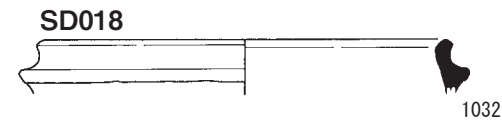
1030

SB029



1031

SD018

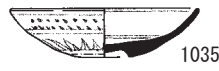


1032

SK010

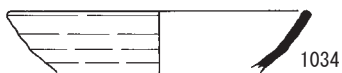


1033



1035

包含層



1034



ST002

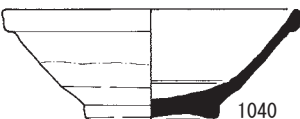


1036



1037

包含層



1040



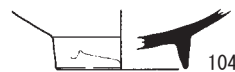
1041



1038



1039



1042

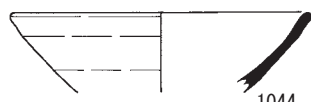
Pit



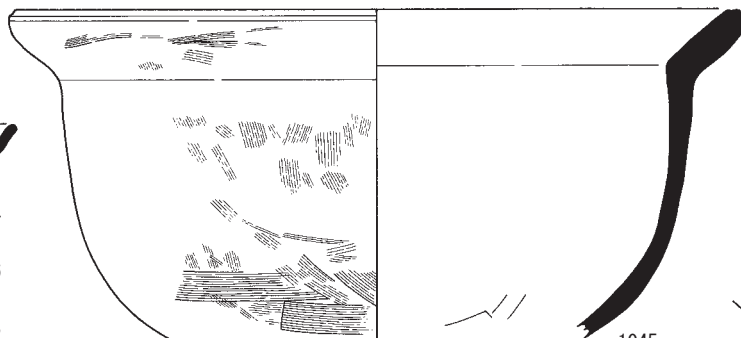
1043

包含層

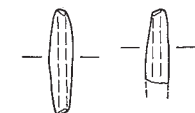
SB037



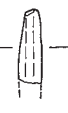
1044



1045



1048



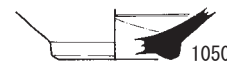
1049



1046

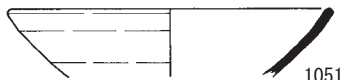


1047



1050

SB040



1051

SB042



1052



1053

SB042



1055

SB041



1056

ST003

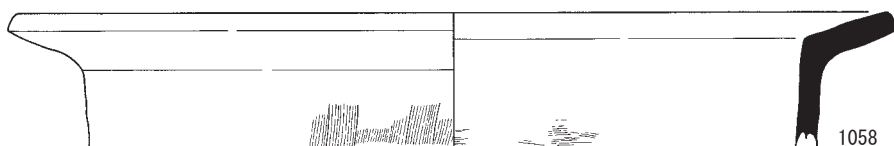


1057

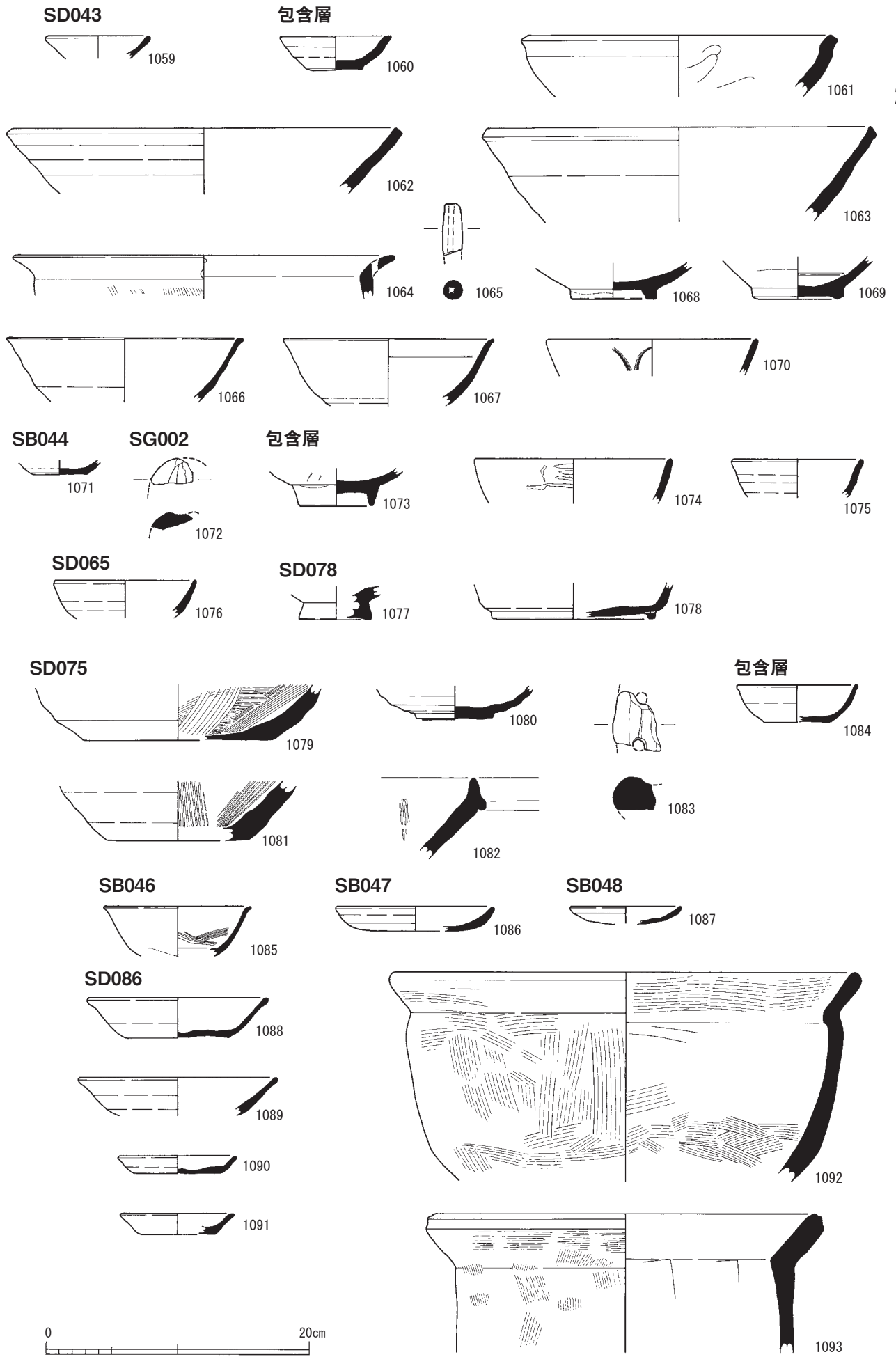


1054

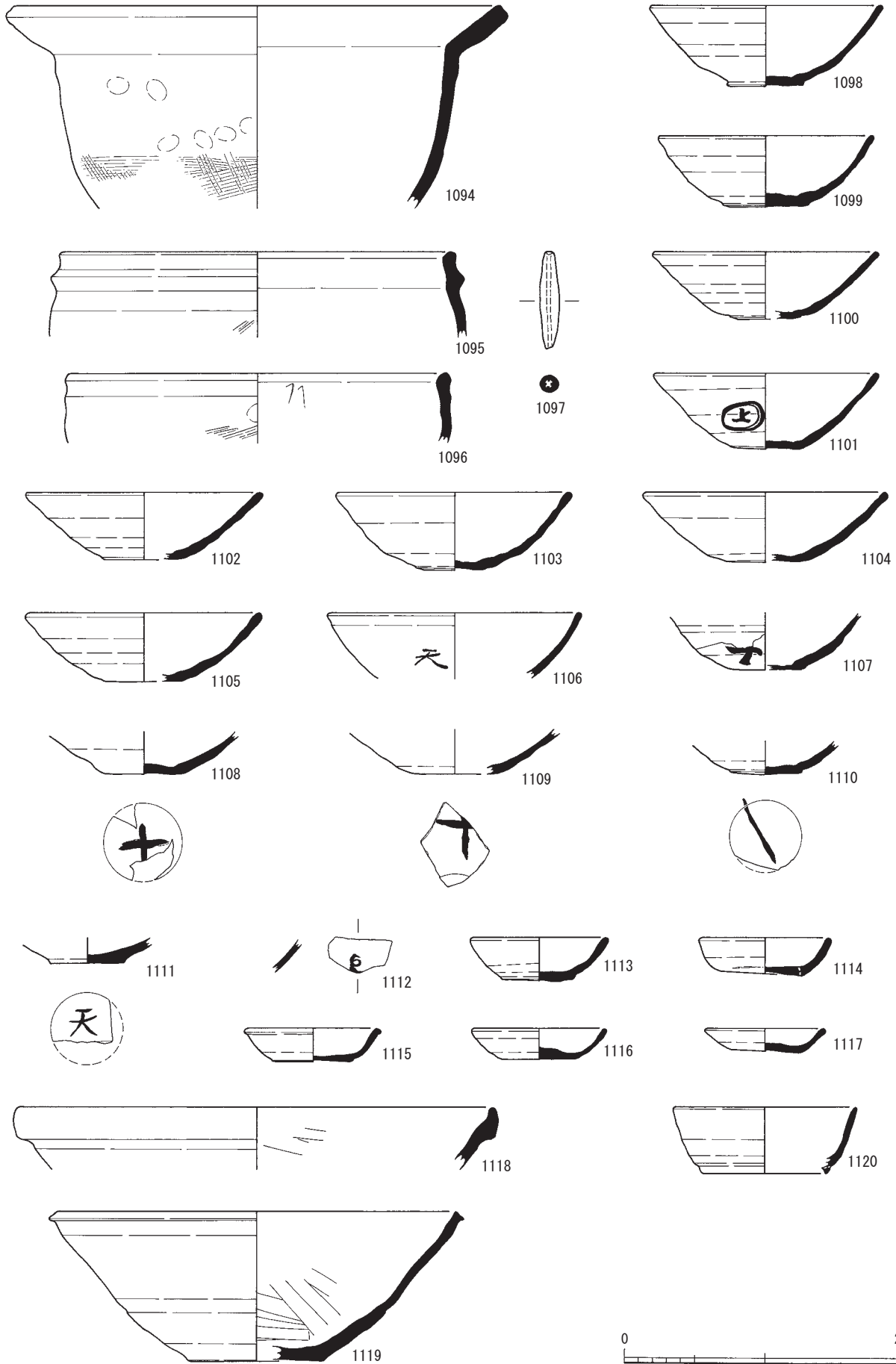
Pit



1058

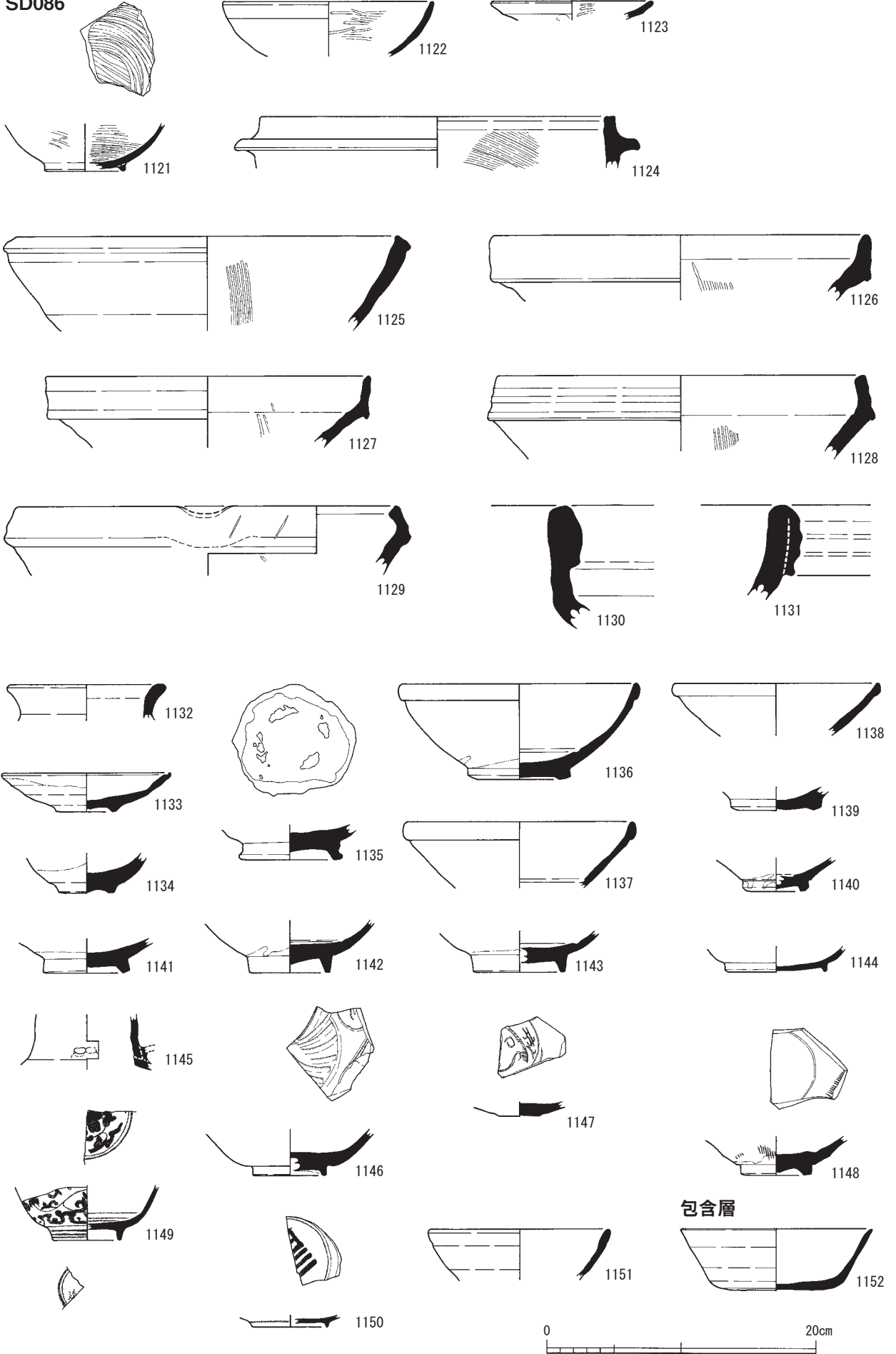


SD086



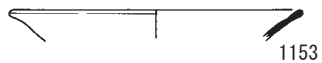
土器 1094 ~ 1120 (SD086)

SD086



土器 1121 ~ 1152

SA002

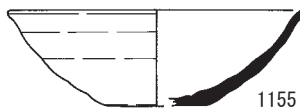


1153

SB049



1154

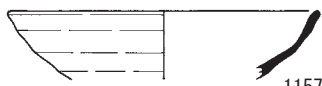


1155



1156

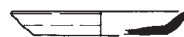
SB051



1157



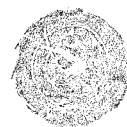
1158



1159



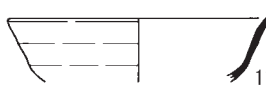
1160



1161



1162

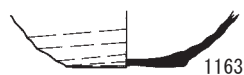
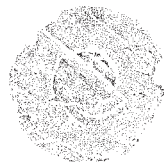


1164

SA003

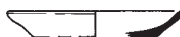


1167



1163

Pit



1165



1166



1168

SD104

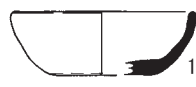


1169

SD101



1170



1171

SD093



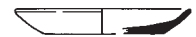
1172

SD092



1173

SK040



1174

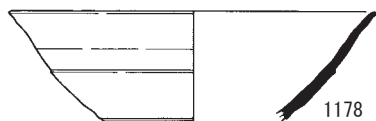


1175

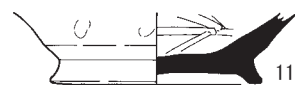
包含層



1176



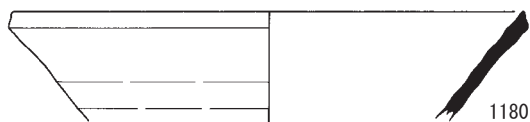
1178



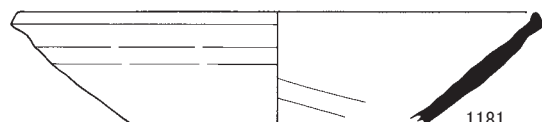
1179



1177



1180



1181



1182



1184



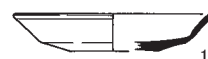
1185



1183



1186

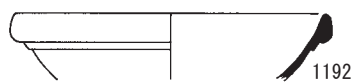


1187

SK042



1190



1192



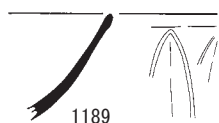
包含層



1191



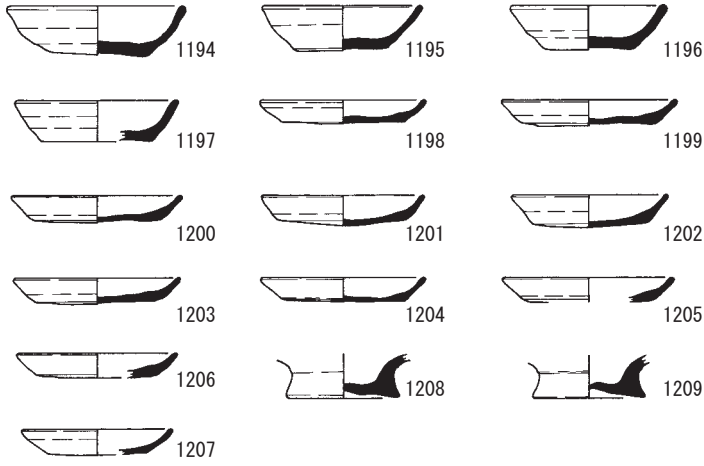
1193



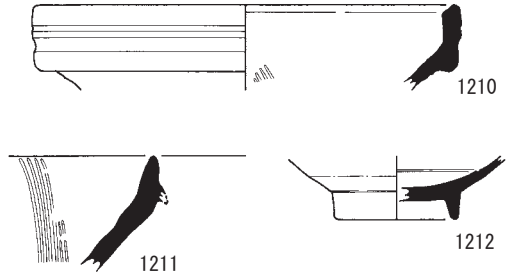
1189



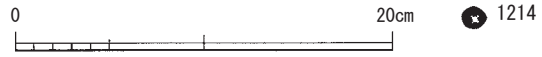
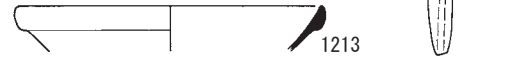
Pit



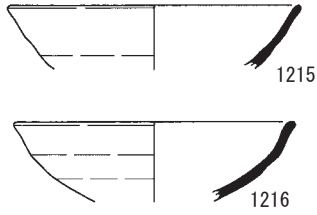
SD116



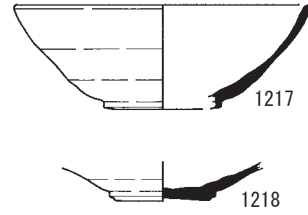
包含層



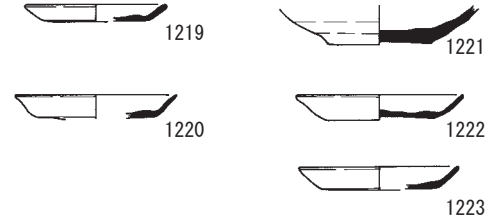
SB057



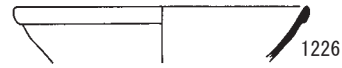
SK045



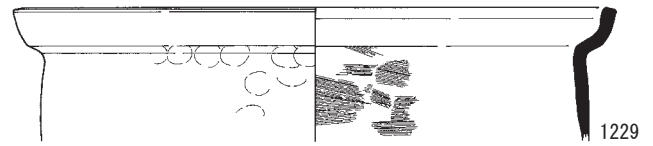
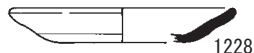
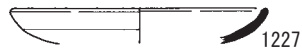
SD118



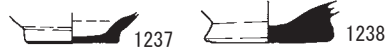
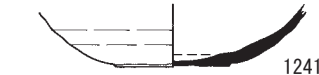
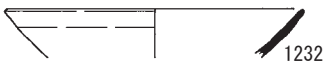
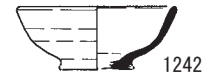
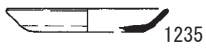
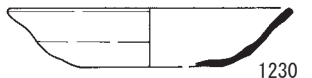
包含層



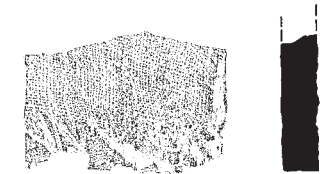
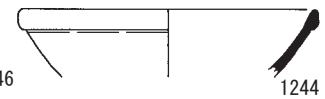
攪乱包含層



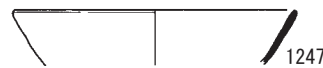
SK047



SD126



SB061



SB064



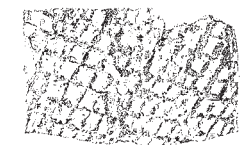
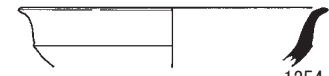
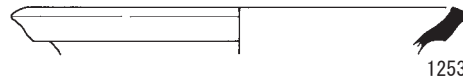
SB062



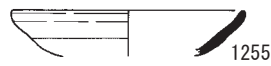
SB062



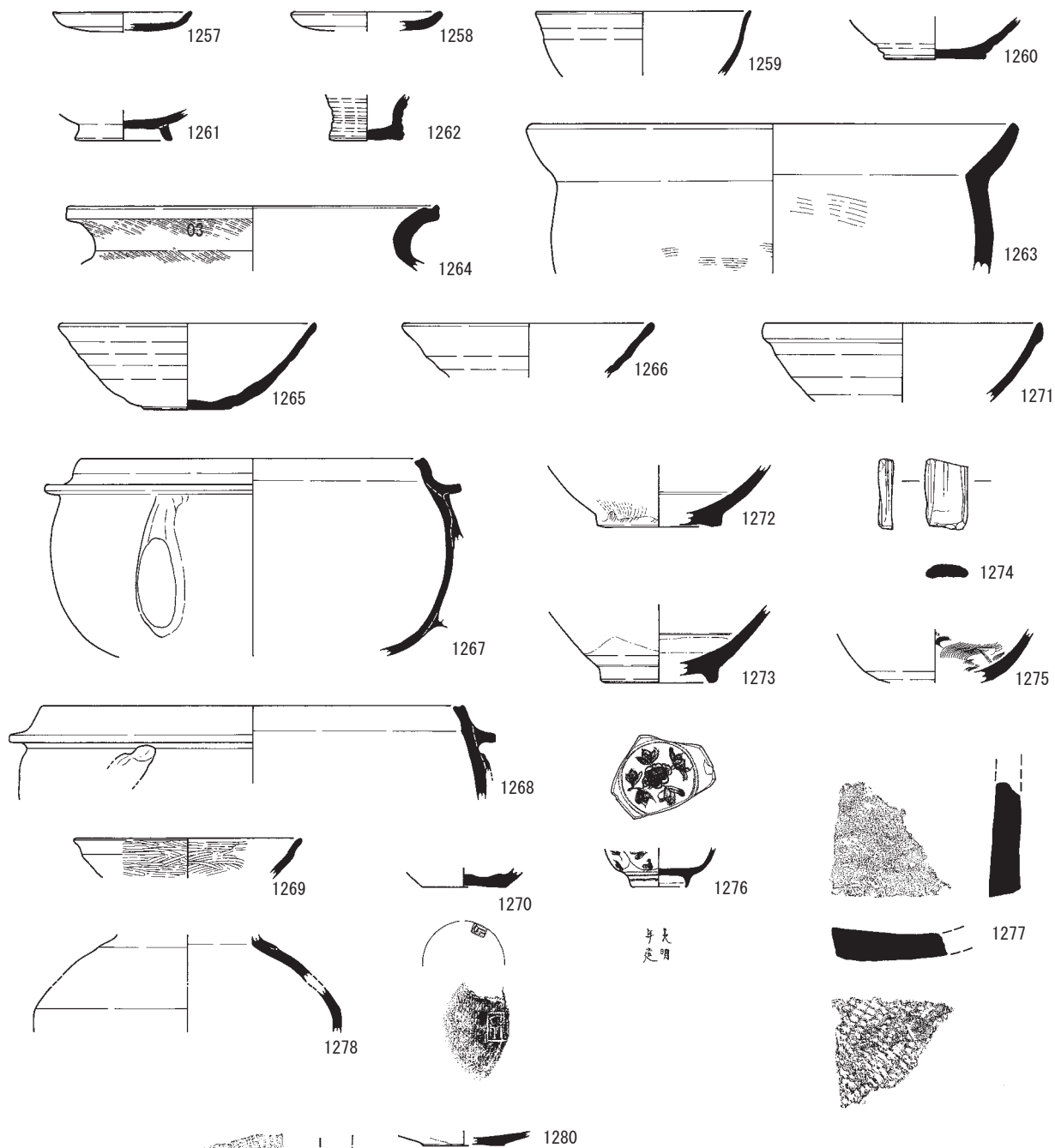
SD127 最上層



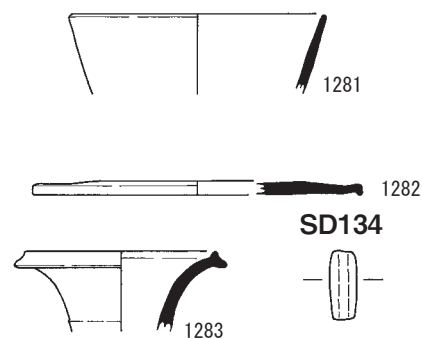
SD128



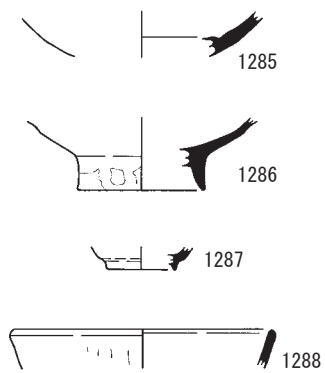
SD133



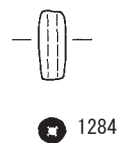
SD138



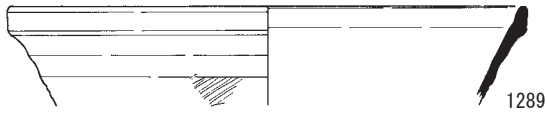
包含層



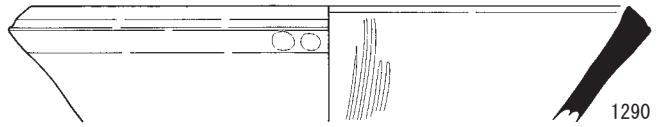
SD134



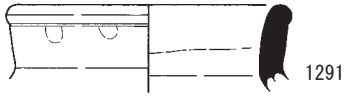
SD151



1289



1290

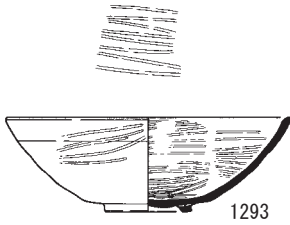


1291

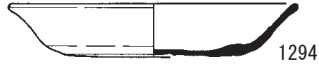


1292

SB065



1293



1294

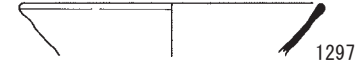


1295

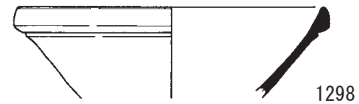


1296

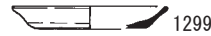
SB066



1297



1298

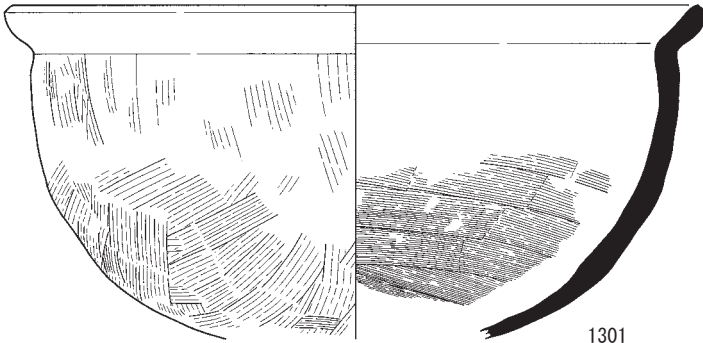


1299

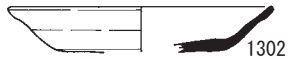


1300

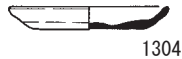
SB067



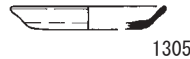
1301



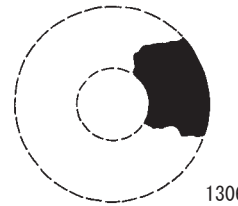
1302



1304



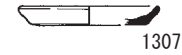
1305



1306

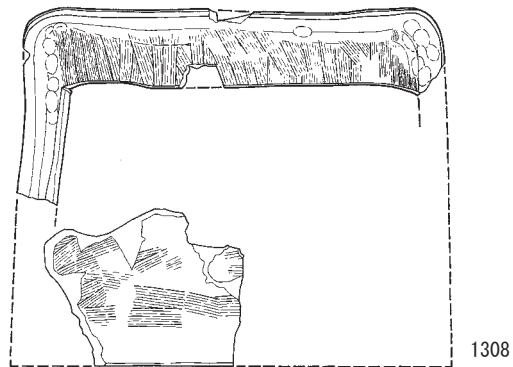
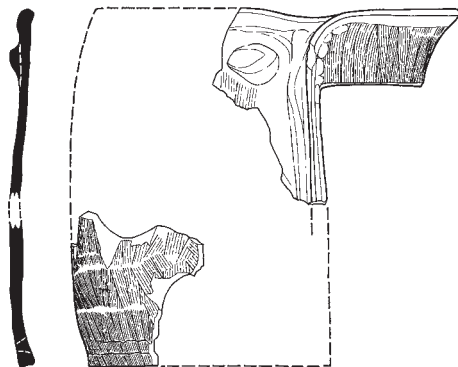


1303

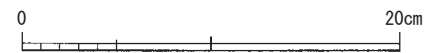


1307

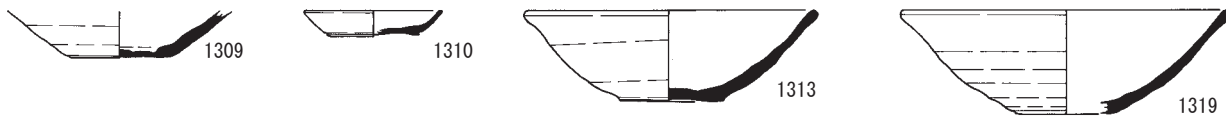
SB069



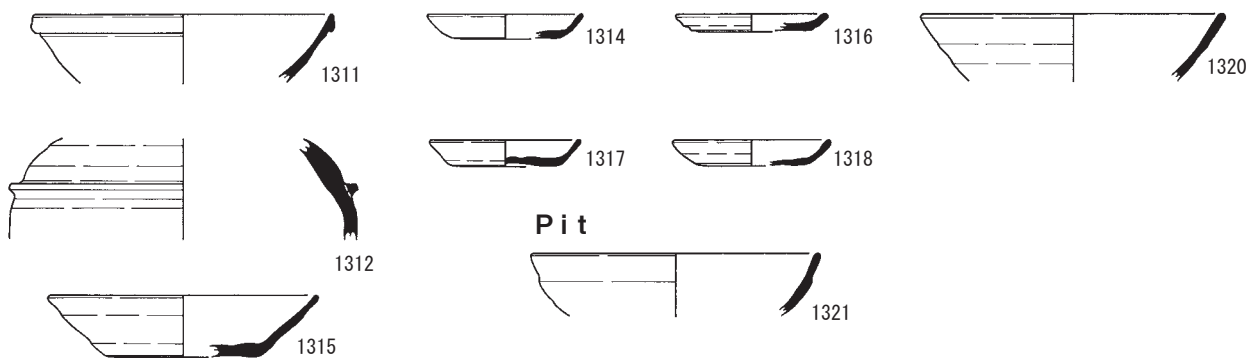
1308



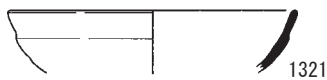
SB070



SB071



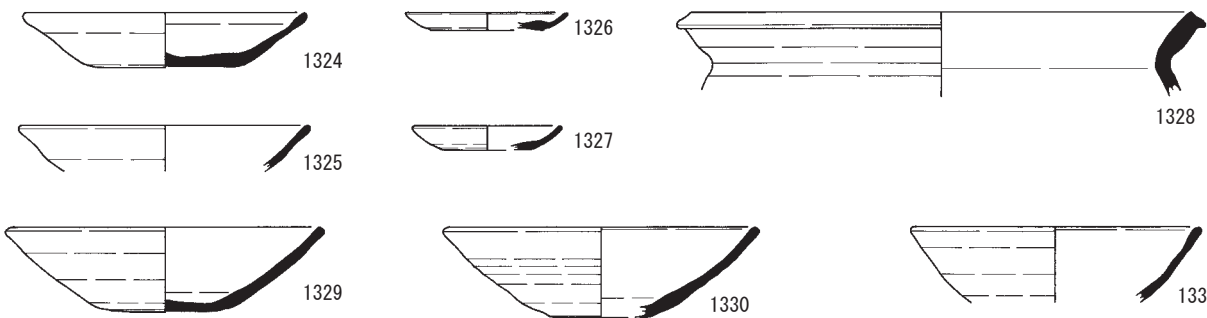
Pit



SK048



SK050



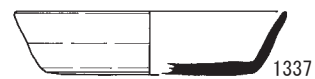
SD155



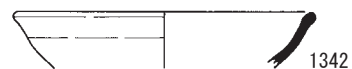
SD146



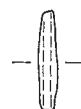
SD161

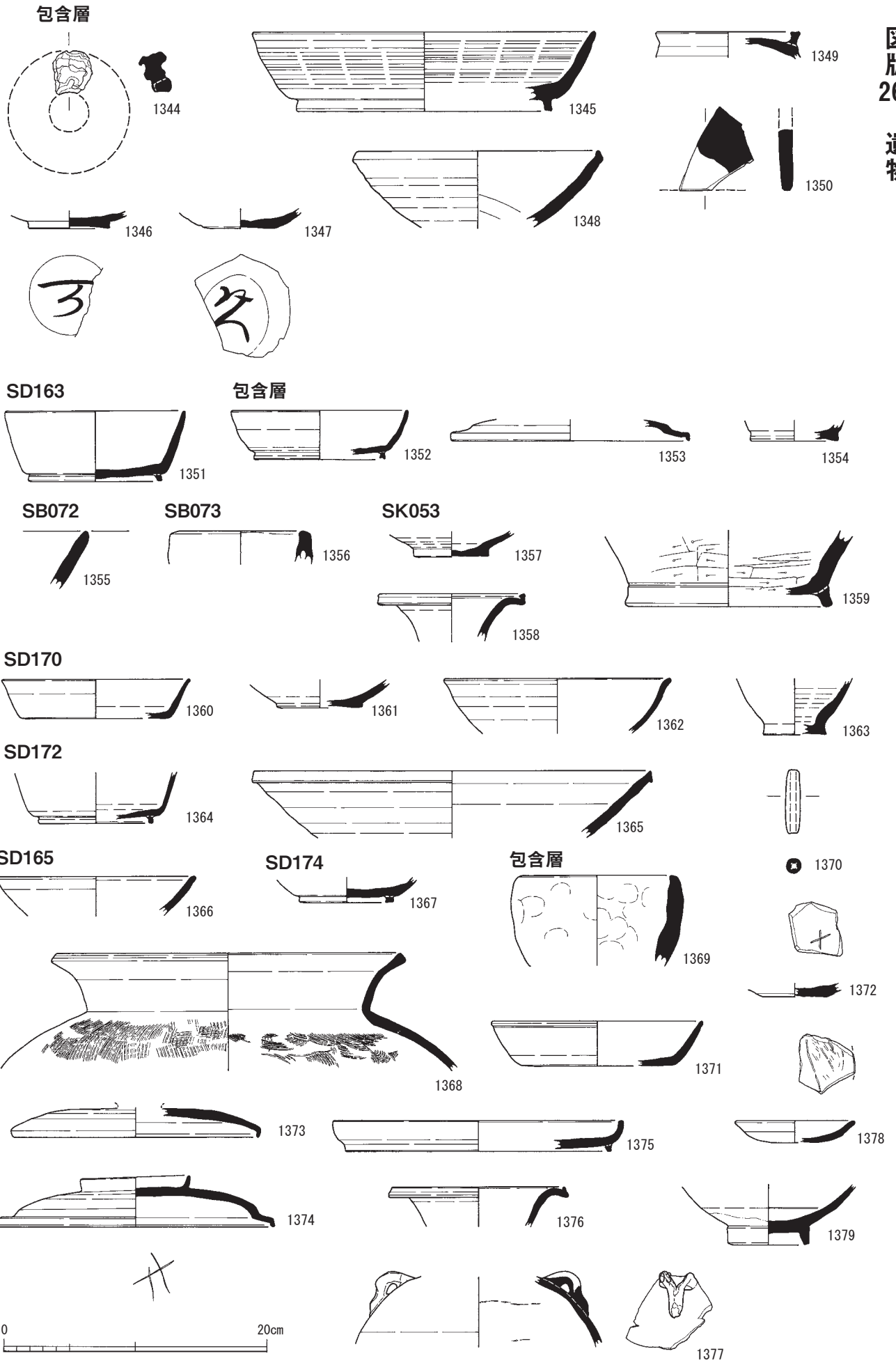


SD156

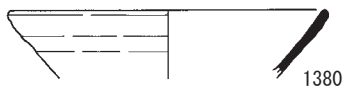


SD160





SA006



1380

包含層



1381



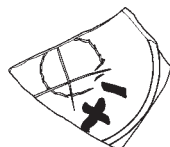
1384



1386



1382



1383



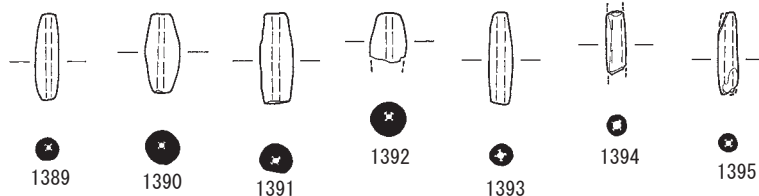
1385



1387



1388



1389

1390

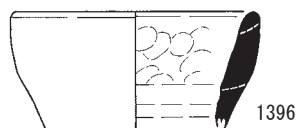
1391

1392

1393

1394

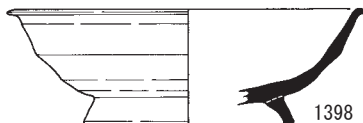
1395



1396



1397



1398



1399



1400



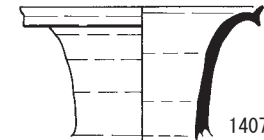
1401



1402



1404



1407



1403



1406



1405



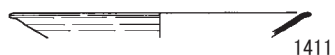
1408



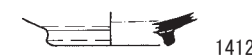
1409



1410



1411



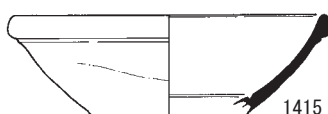
1412



1413



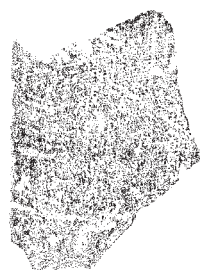
1414



1415



1417



1420



1416



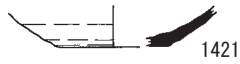
1419



1418



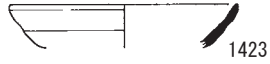
SD191



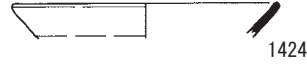
1421



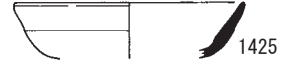
SB077



1423

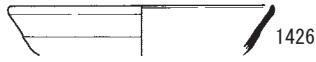


1424



1425

SB079



1426



1427

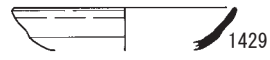


1428

SB076

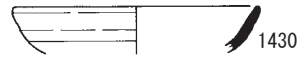


1422

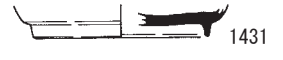


1429

Pit



1430



1431

SD201



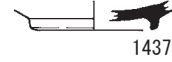
1432



1435



1436



1437



1438



1433

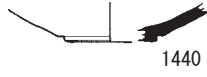


1434



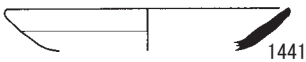
1439

SD204

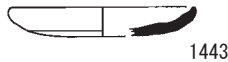


1440

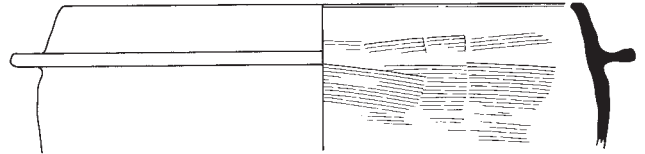
SD206



1441



1443



1445



1442

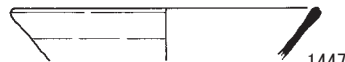


1444

SK061



1446

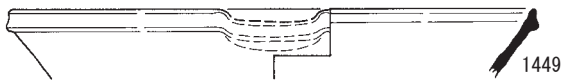


1447

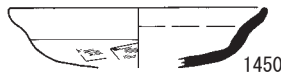


1448

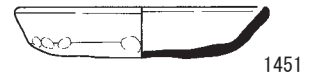
SK062



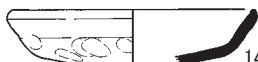
1449



1450



1451



1452



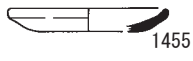
1453



1454



1457



1455



1456



1458

SK063



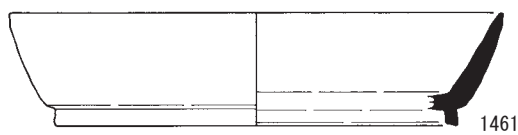
1459

包含層



1460

SK090



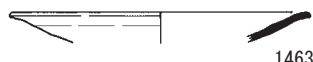
1461



1465



1462



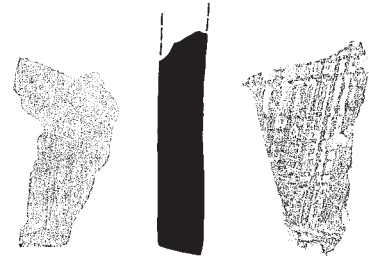
1463



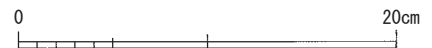
1462



1464



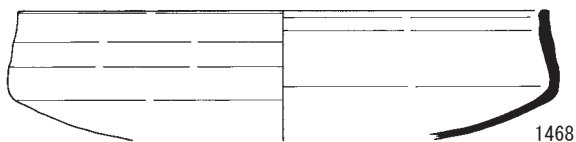
1466



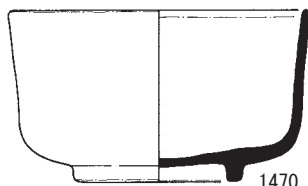
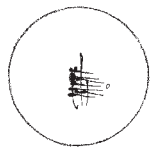
包含層



1467



1468

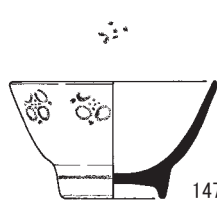


1470

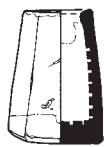
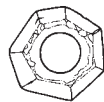


1469

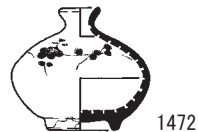
1467
1468
1469



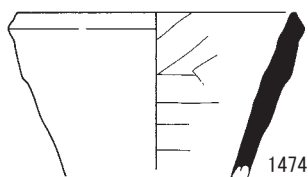
1471



1473



1472



1474



1475



1476



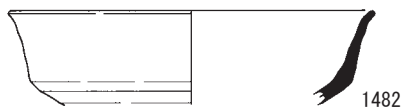
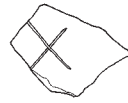
1477

1478

1479

1480

1481



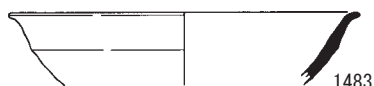
1482



1486



1489



1483



1487



1490



1484



1488



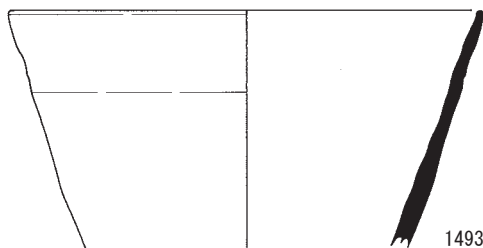
1491



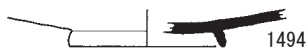
1485



1492



1493



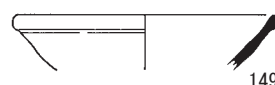
1494



1495



1496

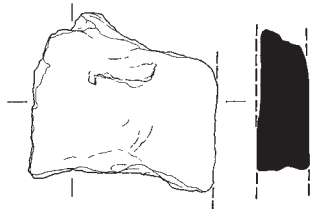


1497

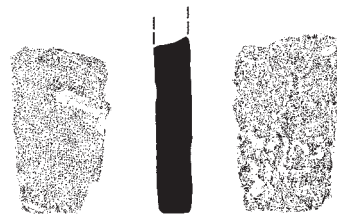


土器 1467 ~ 1497 (包含層)

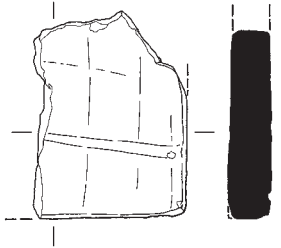
包含層



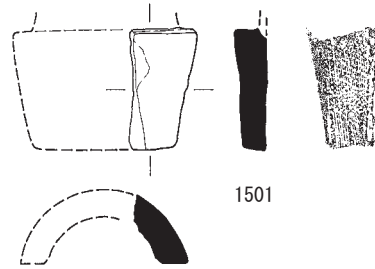
1498



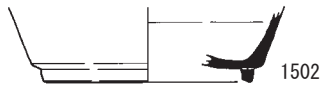
1499



1500



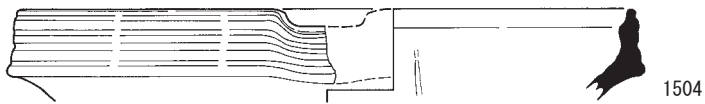
1501



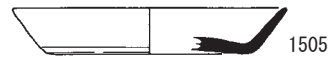
1502



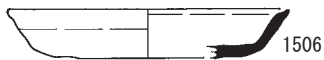
1503



1504



1505



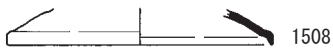
1506



1507



Pit



1508

包含層



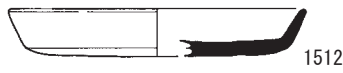
1509



1510



1511



1512



1513



1514



1515



1516



水田畦畔

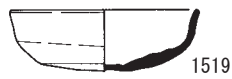


1517

包含層



1518



1519



1520



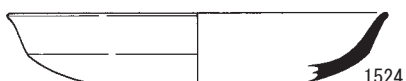
1521



1522



1523



1524



1525



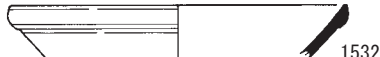
1526



1528



1529



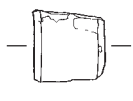
1532



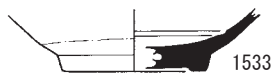
1527



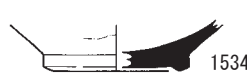
1530



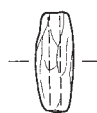
1531



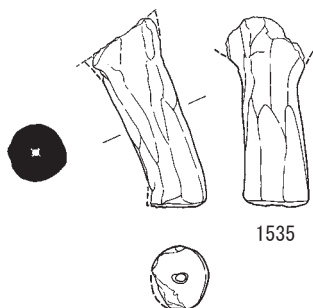
1533



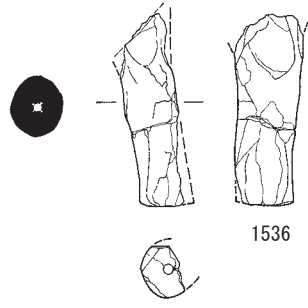
1534



1537

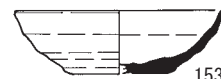


1535



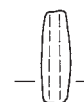
1536

SK112



1538

包含層



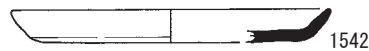
1539



1540



1541



1542

水田

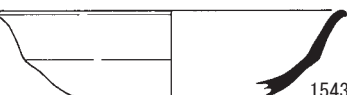
包含層



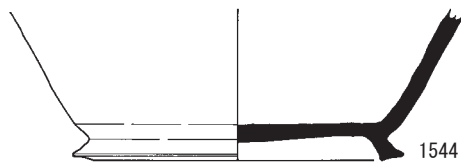
1545



1546



1543



1544

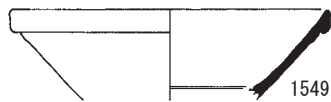
SK113



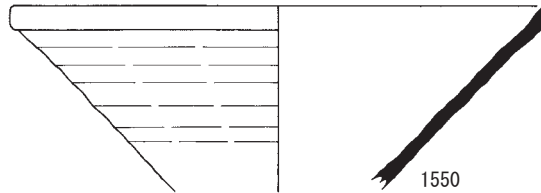
1547



1548



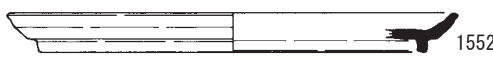
1549



1550



1551



1552



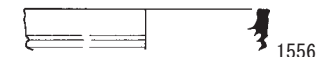
1553



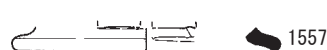
1554



1555



1556



1557

包含層

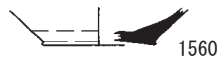
SK136



1558

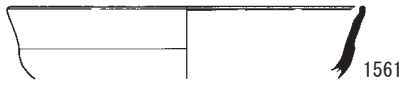


1559

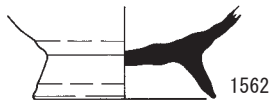


1560

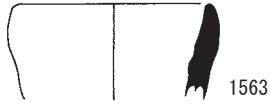
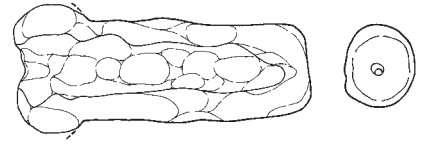
包含層



1561



1562



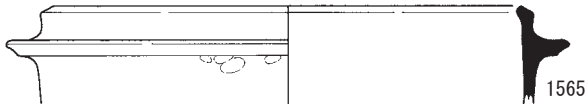
1563



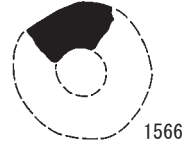
1564



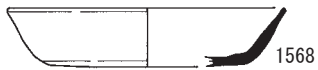
1567



1565



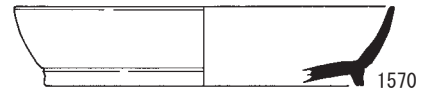
1566



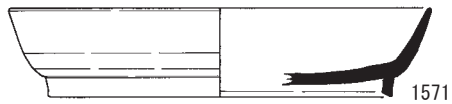
1568



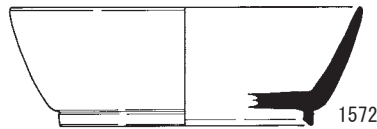
1569



1570



1571



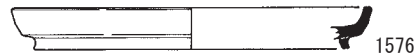
1572



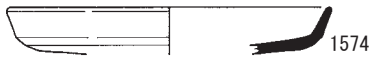
1573



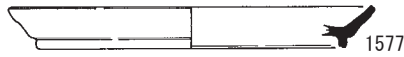
1574



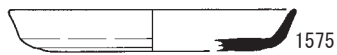
1575



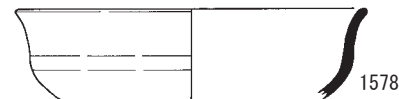
1576



1577



1578



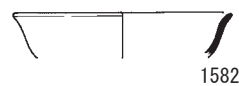
1579



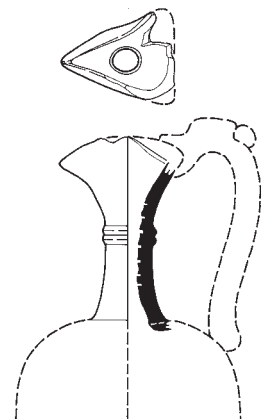
1580



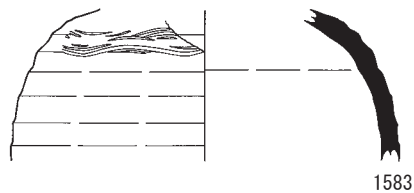
1581



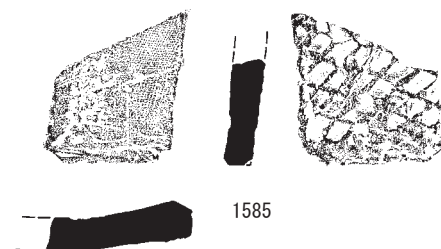
1582



1583



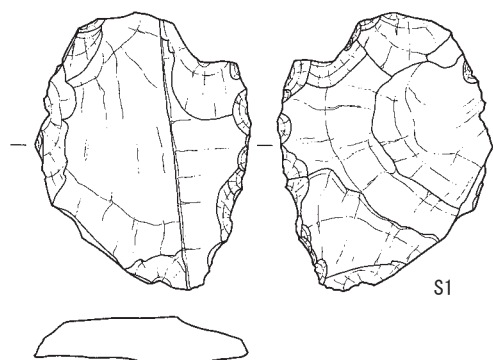
1584



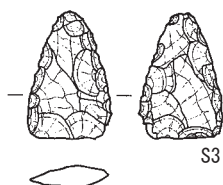
1585



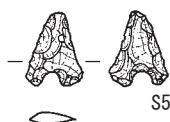
SD002



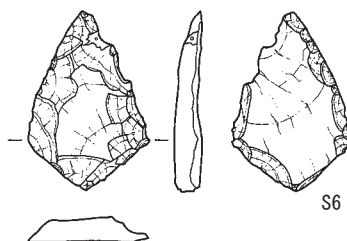
包含層



SB013



包含層

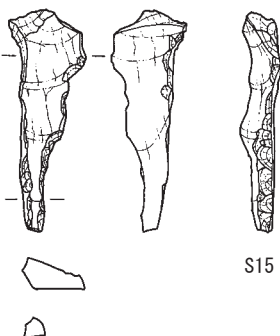
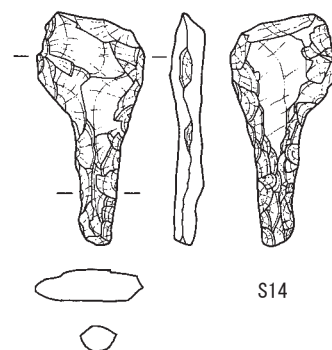
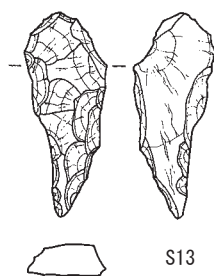
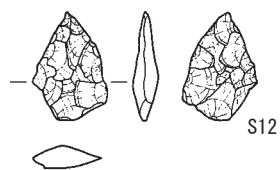
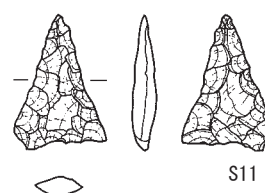
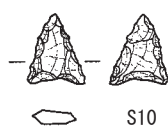
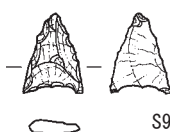


Pit

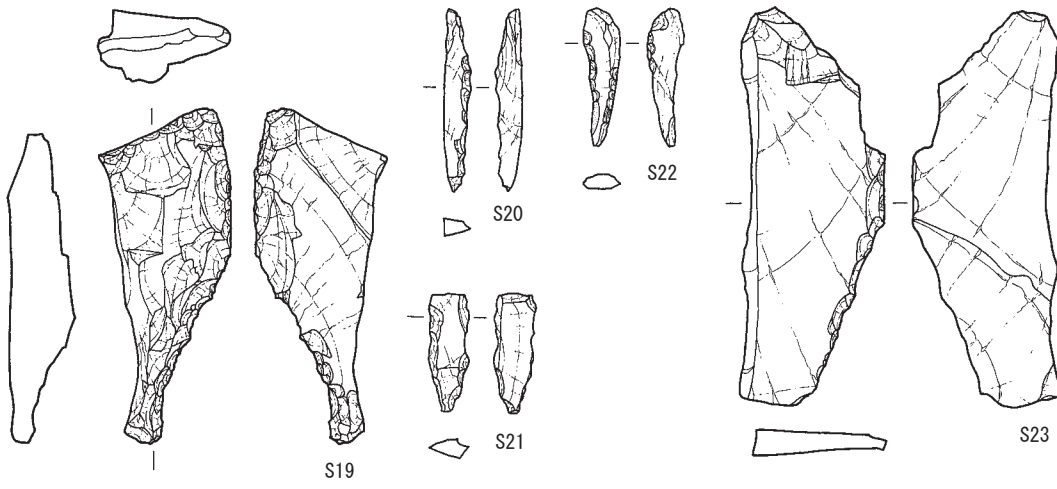
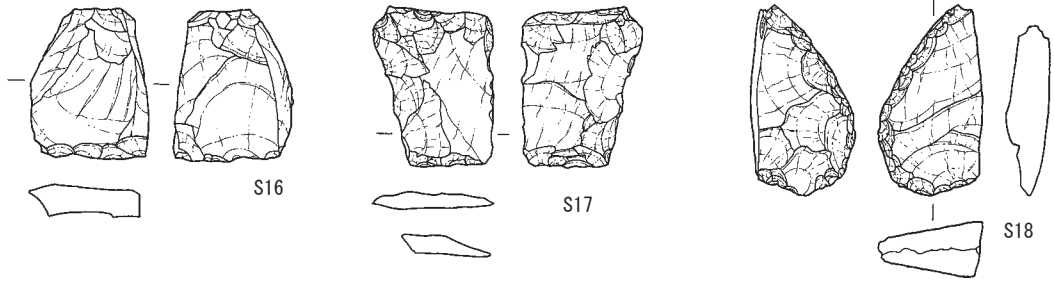


SH001

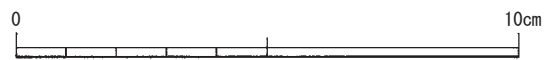
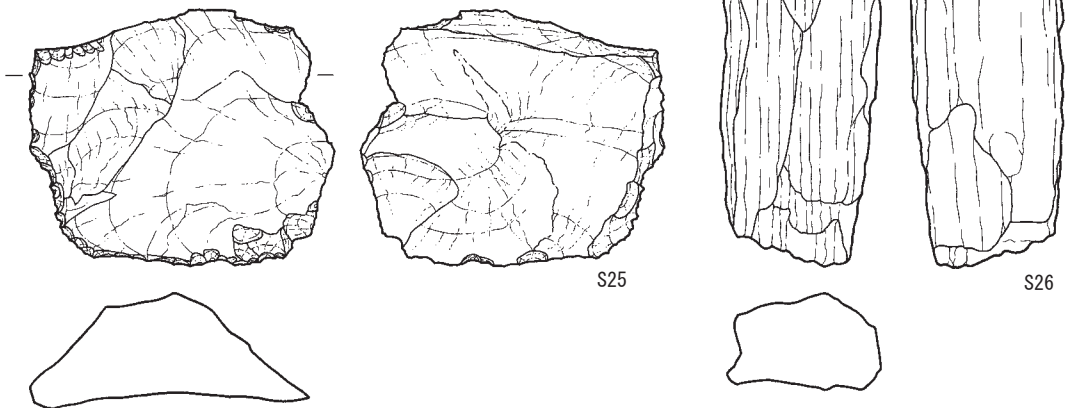
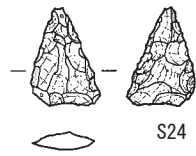
◎
⊙
S8



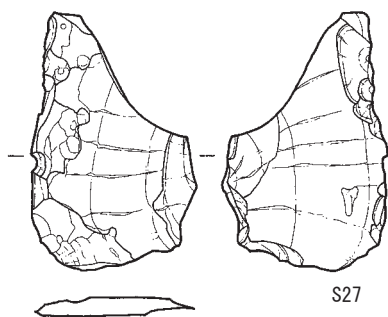
SH001



包含層



SD014

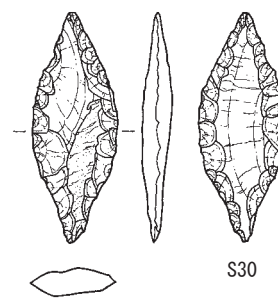


S27

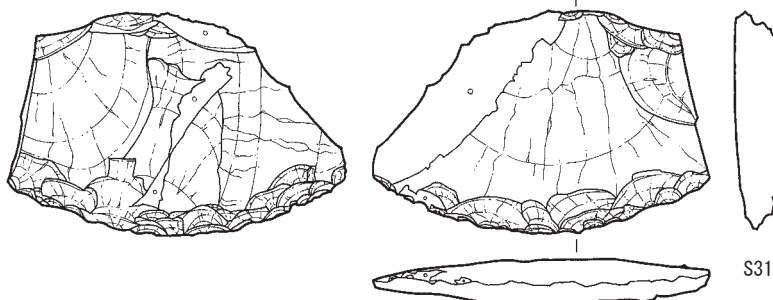
包含層



S29

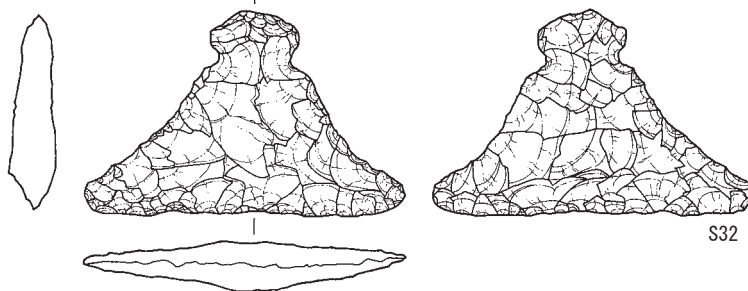


S30



S31

SD041



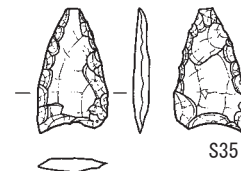
S32

SD045



S33

SD046



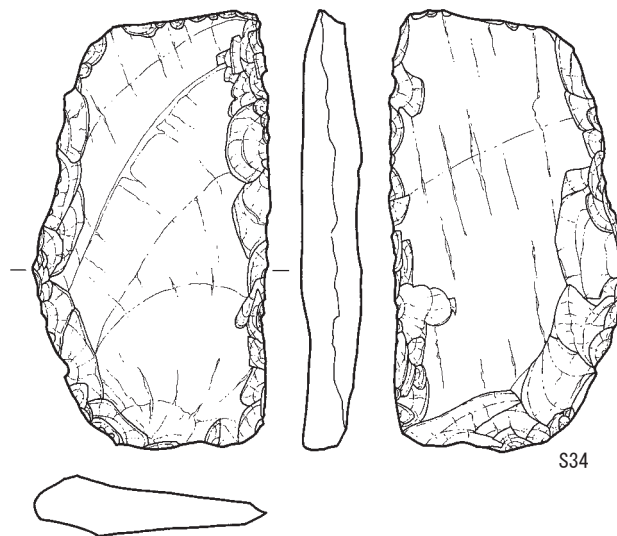
S35

SD048

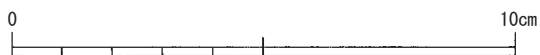


S36

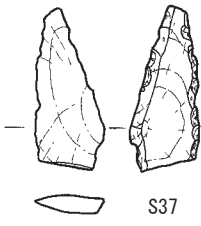
SW009



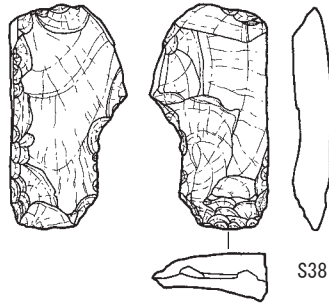
S34



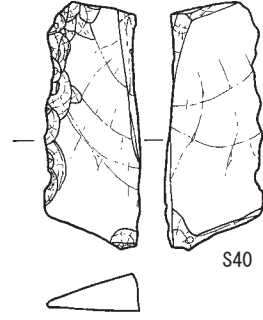
包含層



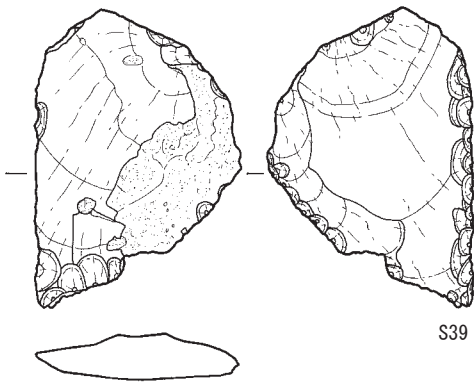
S37



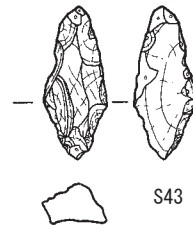
S38



S40

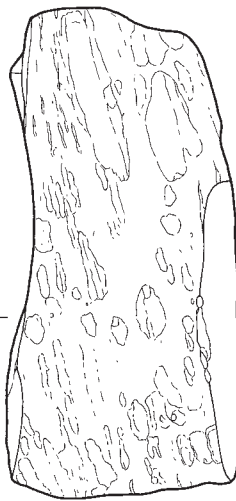
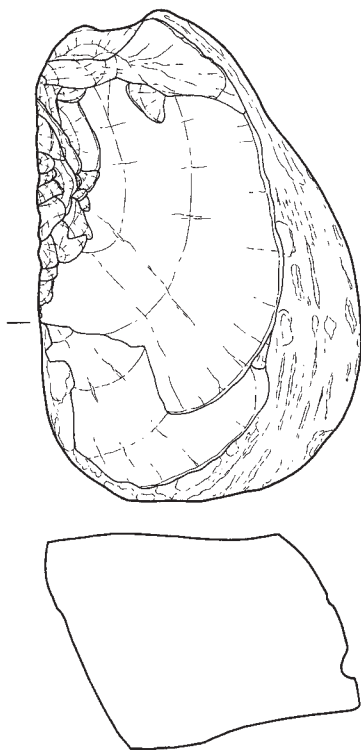


S39

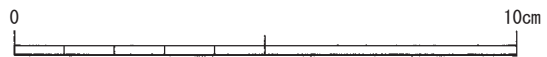


S43

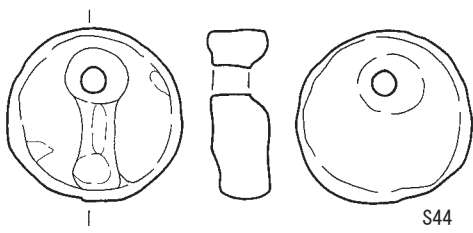
SD057



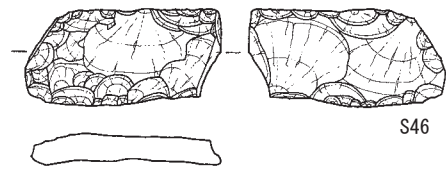
S42



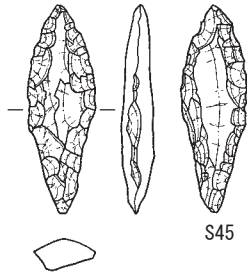
包含層



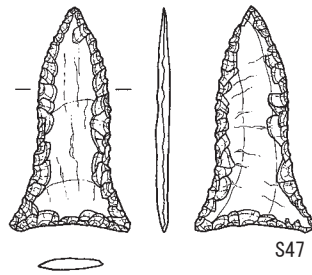
SD063



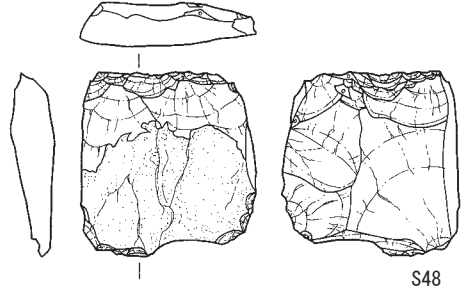
SD063



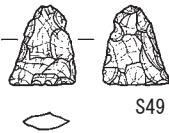
SD069



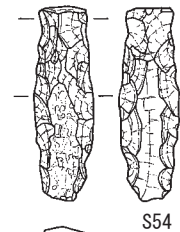
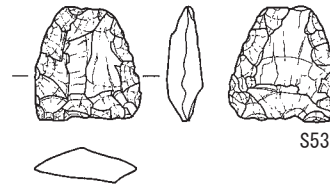
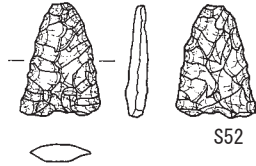
SD071



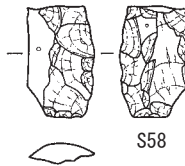
SD075



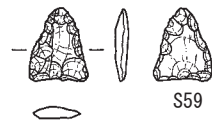
SD086



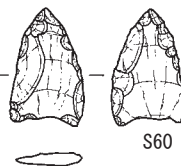
SD077



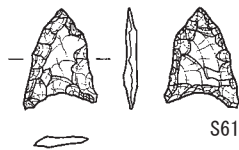
SD084



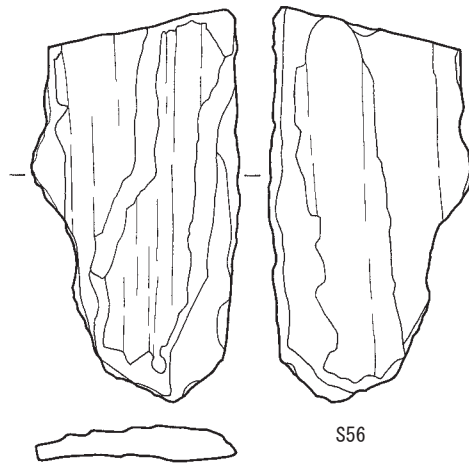
SD108



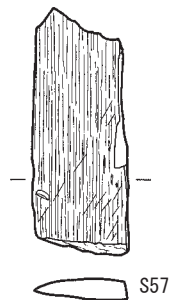
包含層



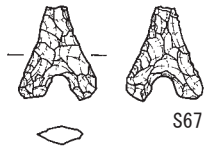
SD083



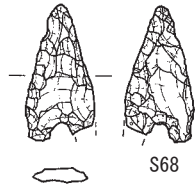
SD082



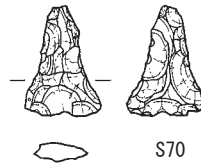
包含層



S67

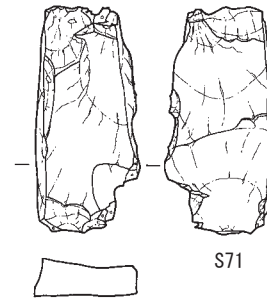


S68



S70

SD133

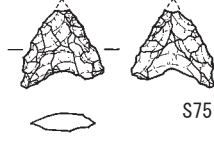


S71

SK048



S73



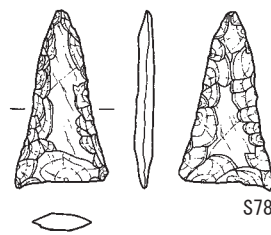
S75

包含層



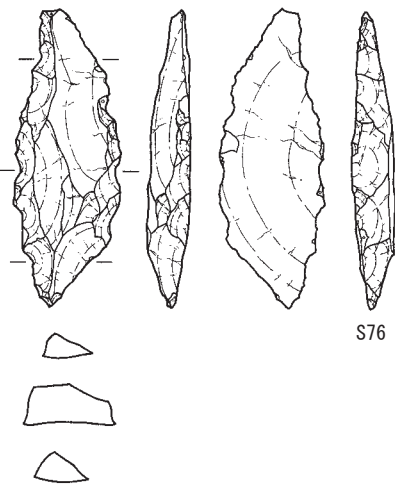
S77

SD175

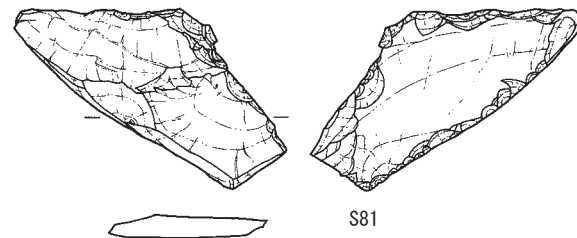


S78

包含層

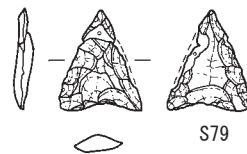


S76



S81

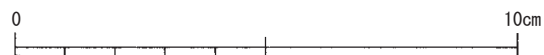
SD178



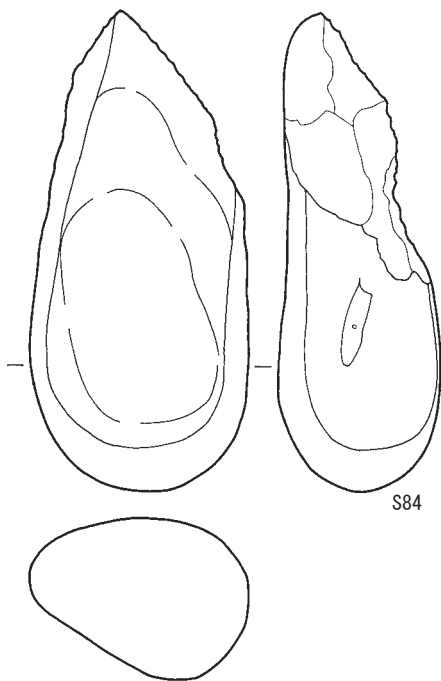
S79



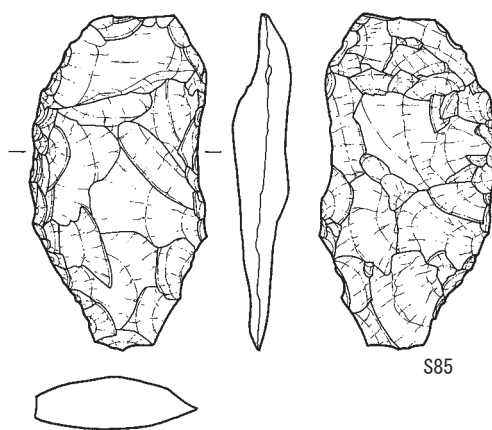
S82



SD189



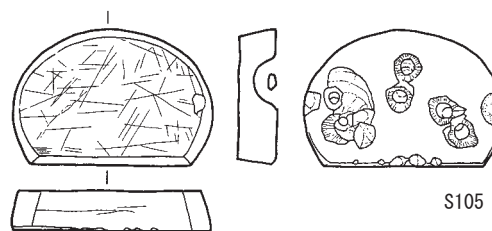
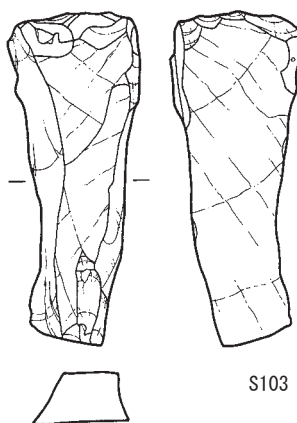
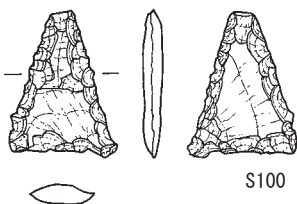
SD201



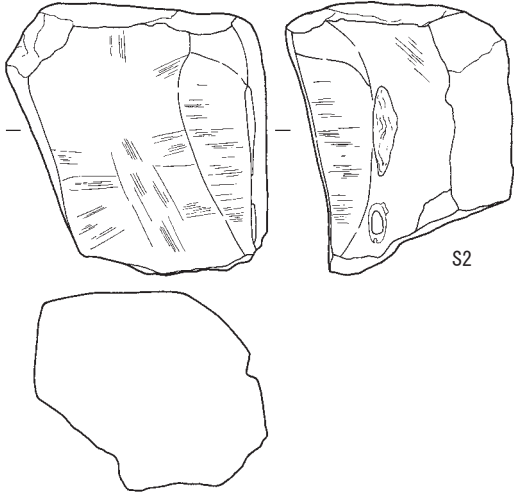
包含層



SD256



SB005



S2

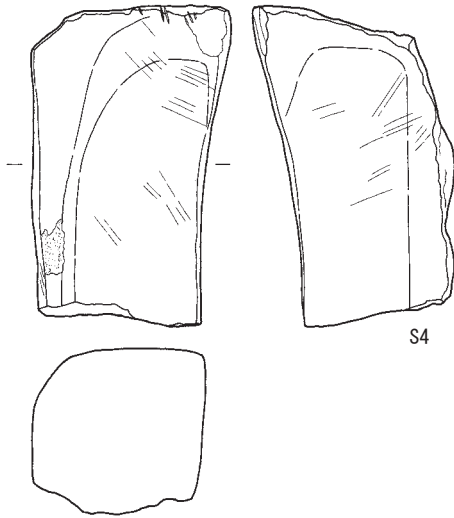
SK029



S41

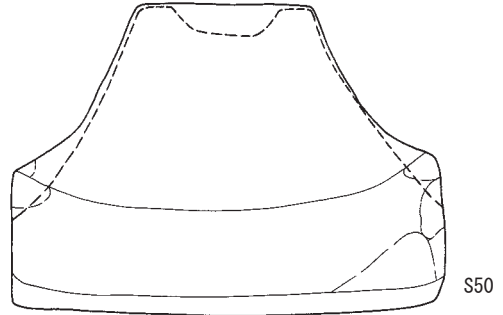


SB013



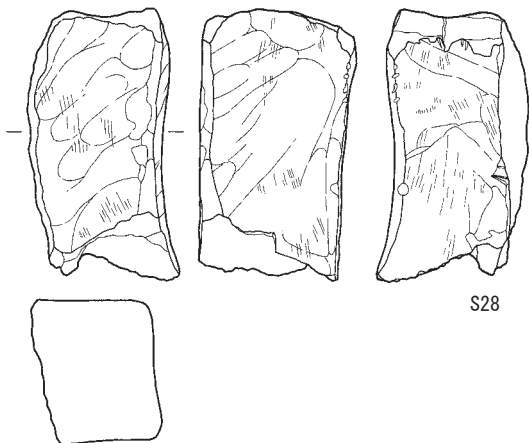
S4

SD075

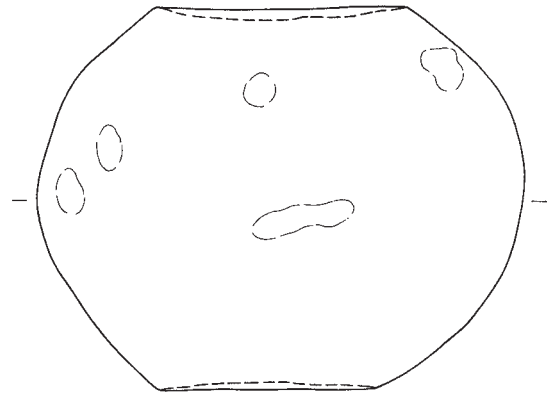


S50

SB037



S28

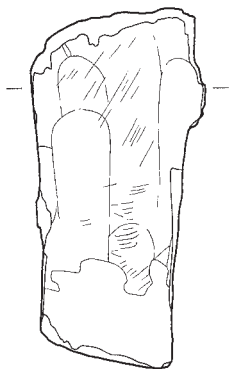


S51

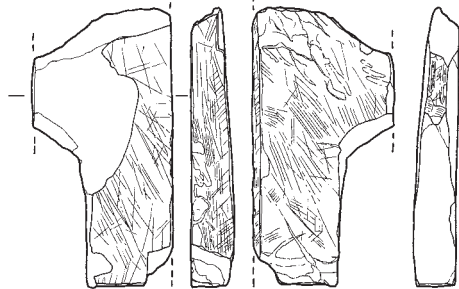


SD086

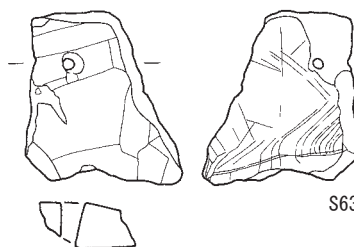
包含層



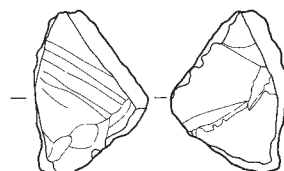
S55



S62



S63



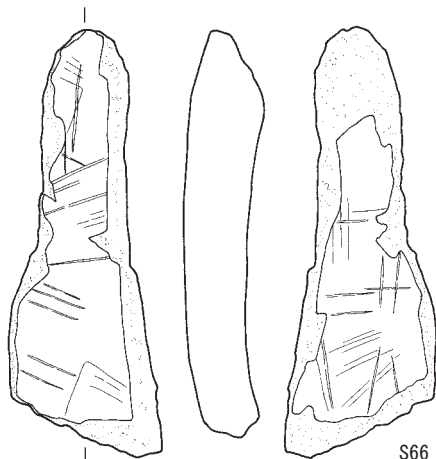
S64



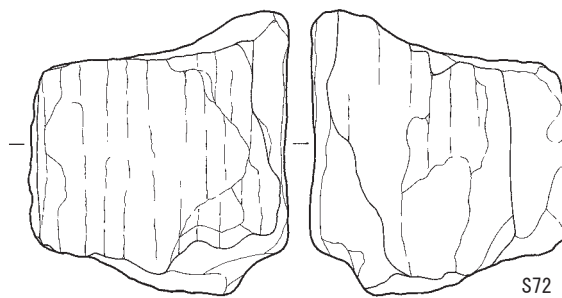
S65



SD133



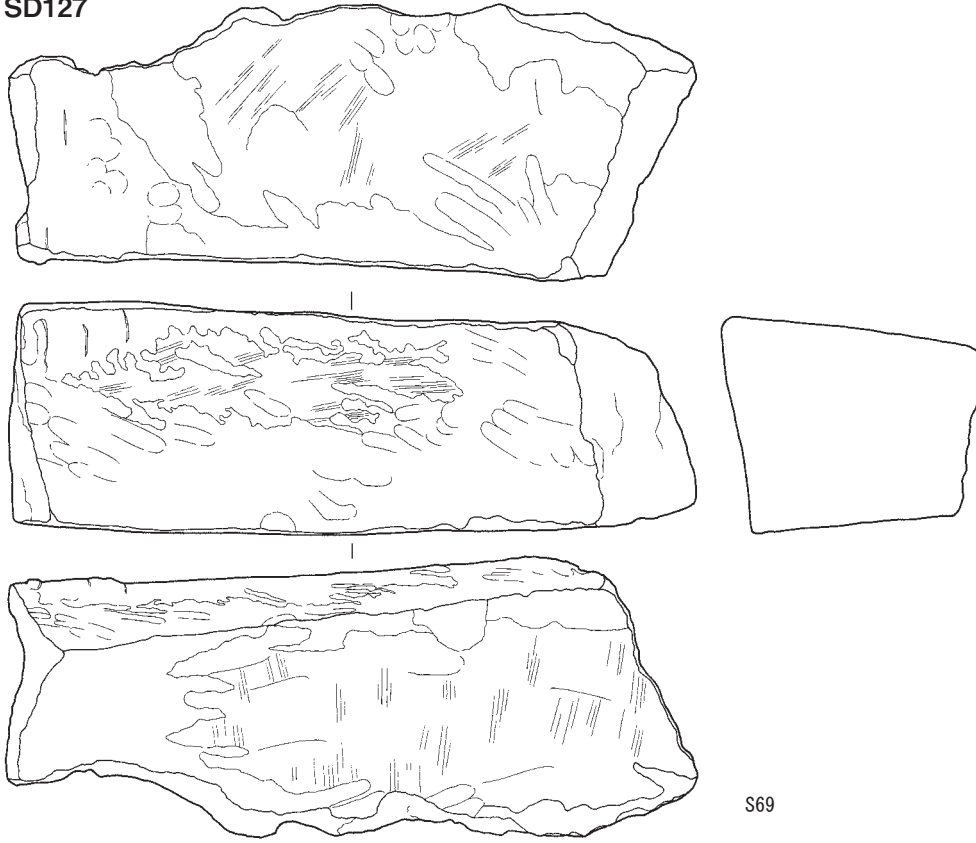
S66



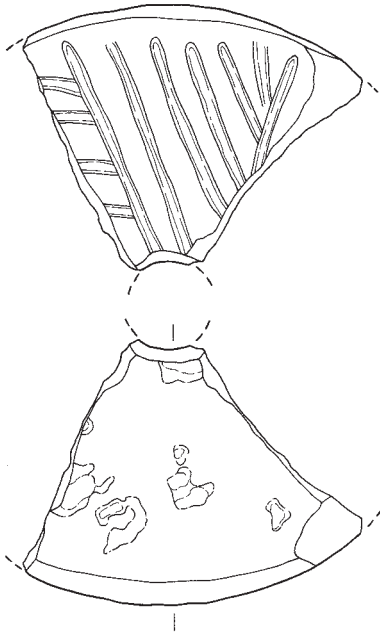
S72



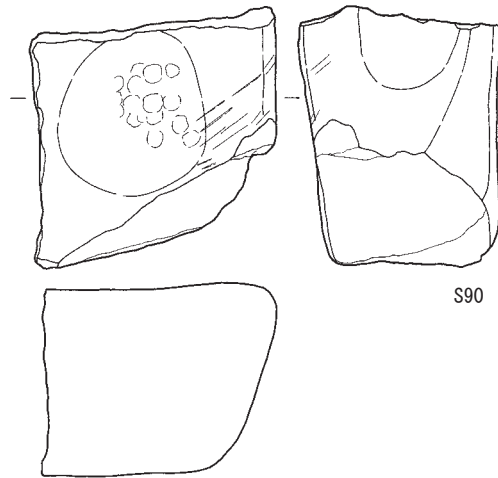
SD127



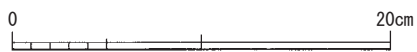
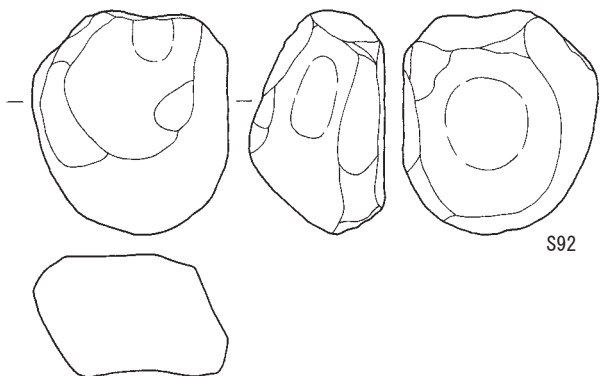
SD151



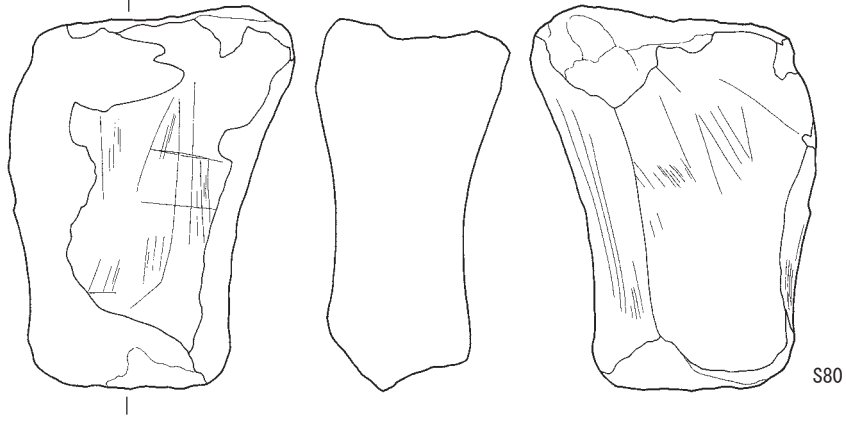
SK076



SK085



SX002



S80

SD201



S87

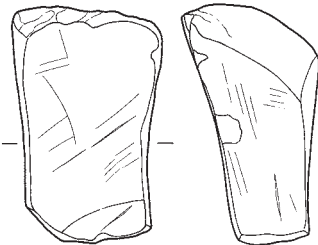


S86

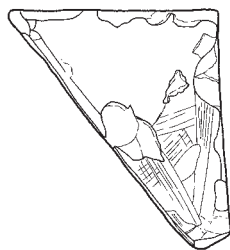
水田土壤



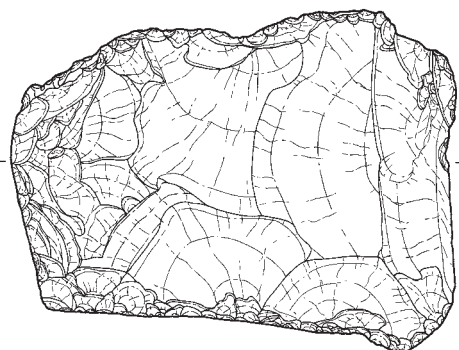
包含層



S83



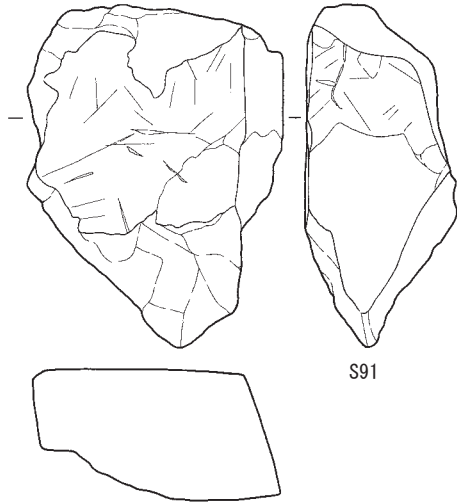
S93



S97

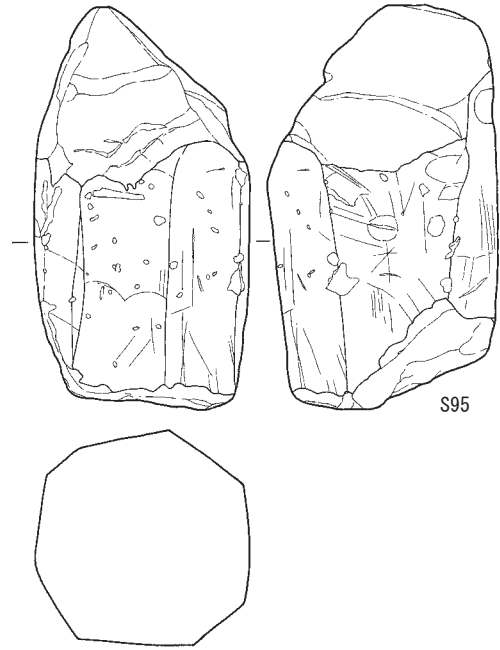


SD224



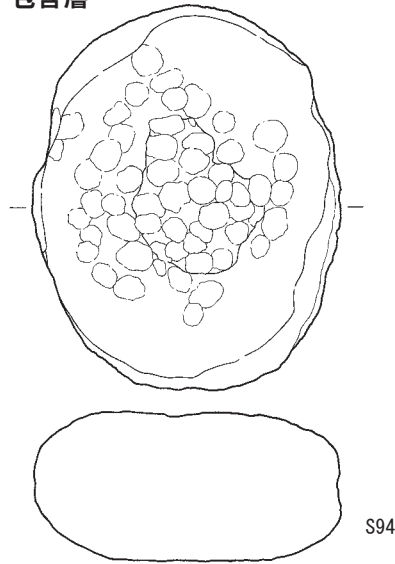
S91

包含層

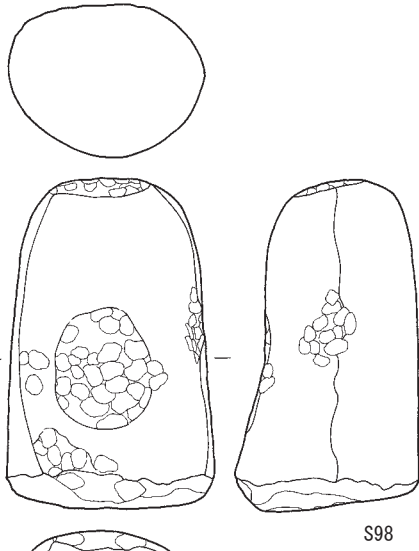


S95

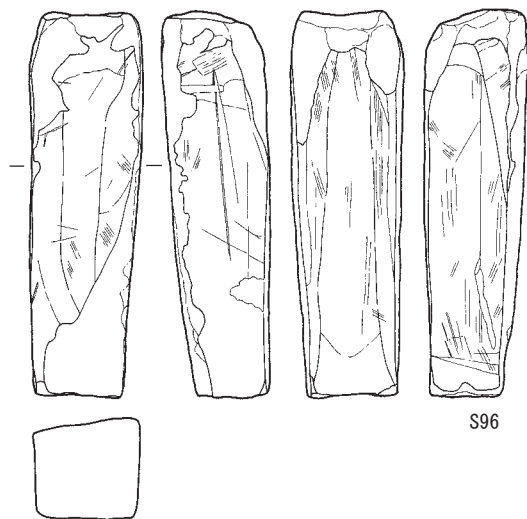
包含層



S94

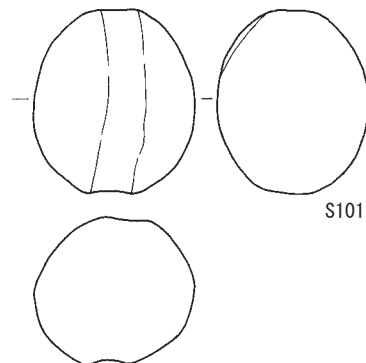


S98



S96

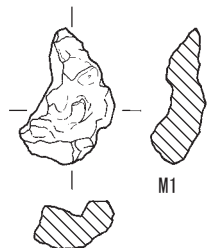
SD257



S101

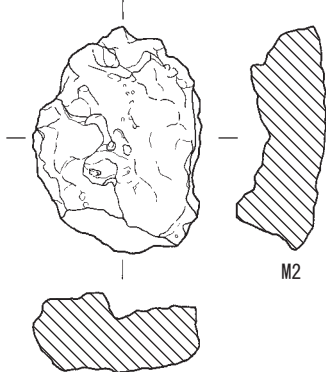


Pit

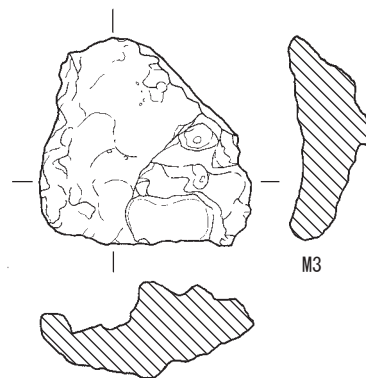


M1

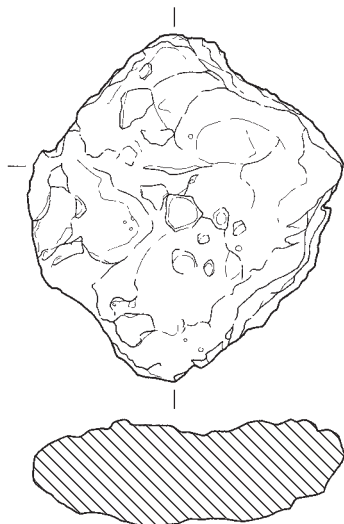
SD013



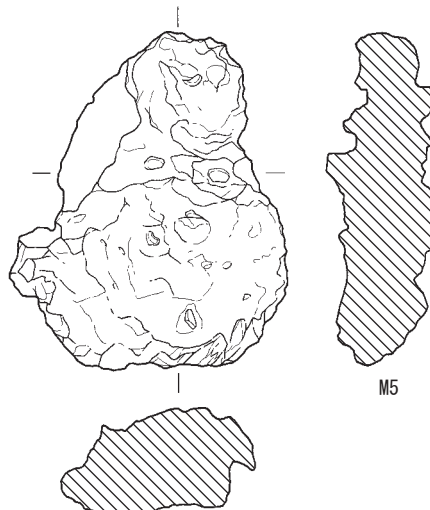
M2



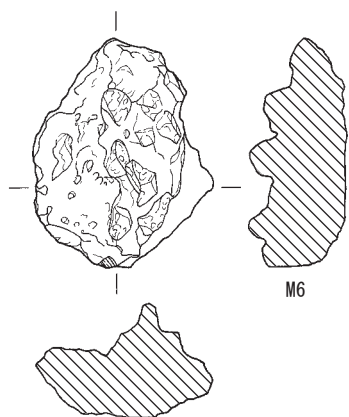
M3



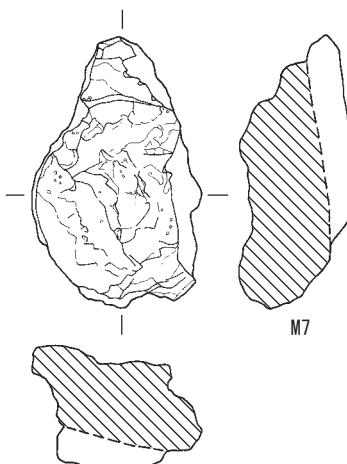
M4



M5

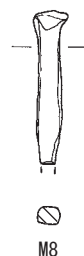


M6



M7

SB030

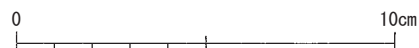


M8

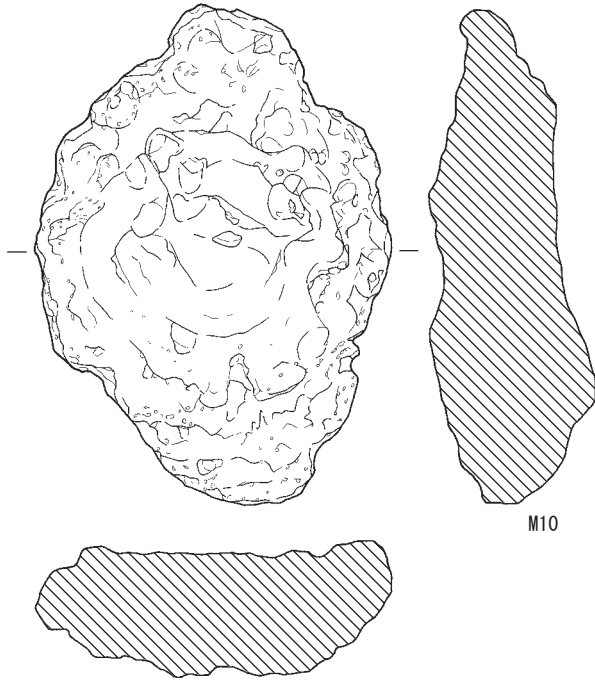
SD028



M9



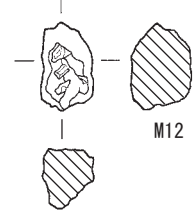
SB037



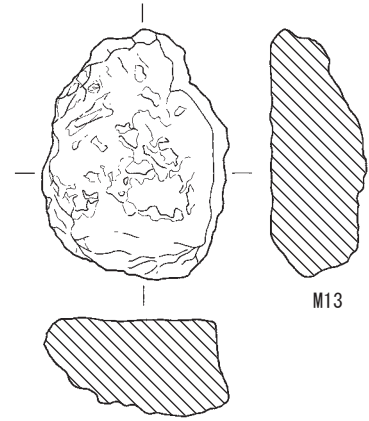
SB040



SD038



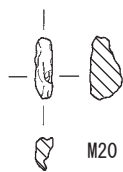
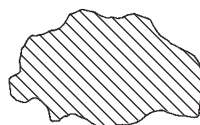
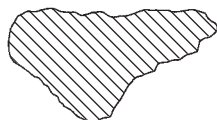
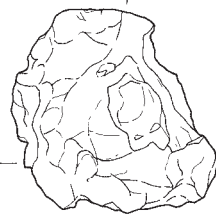
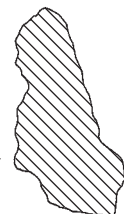
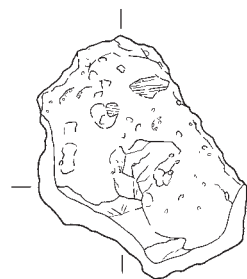
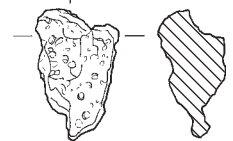
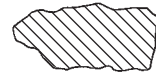
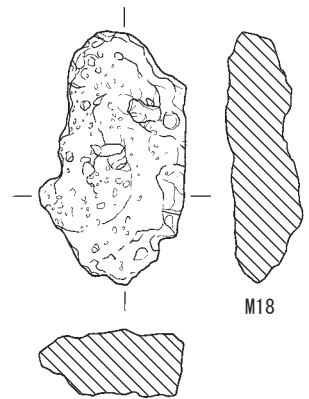
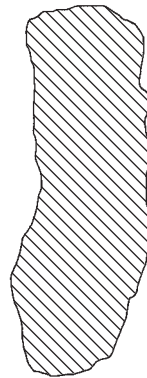
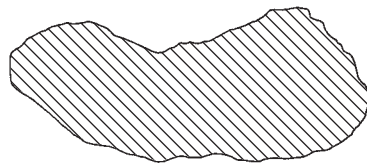
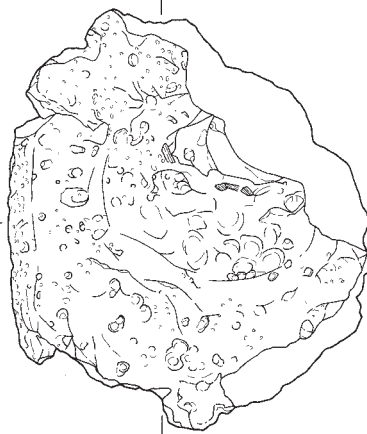
包含層



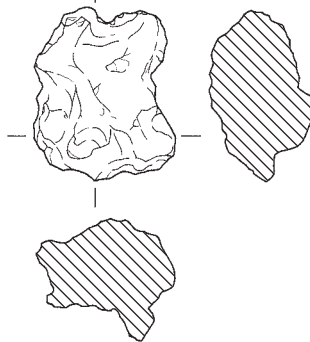
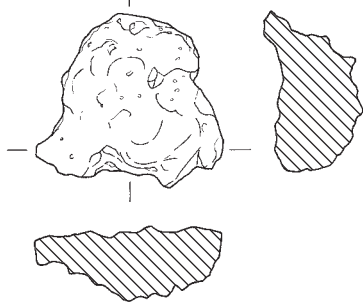
SD086



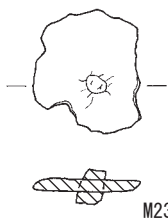
M14



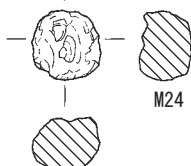
SD086



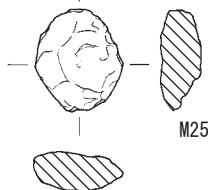
SB051



SK040



M24



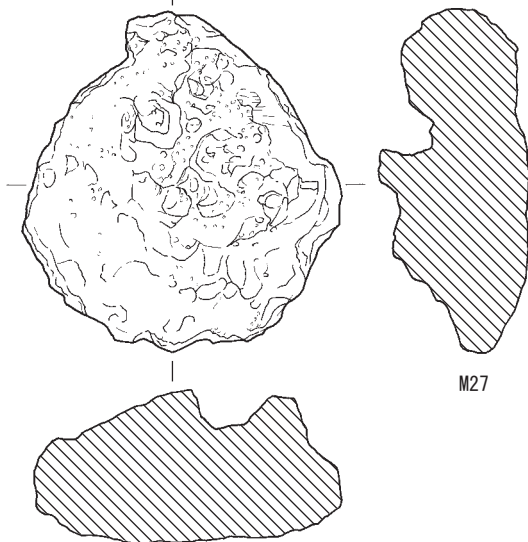
M25

SK039

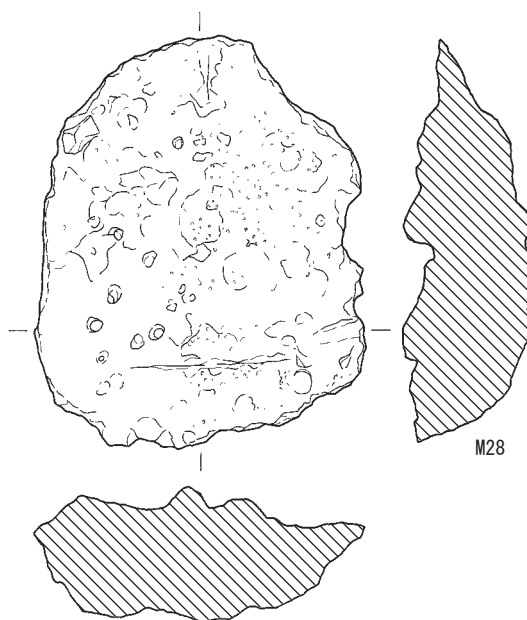


M26

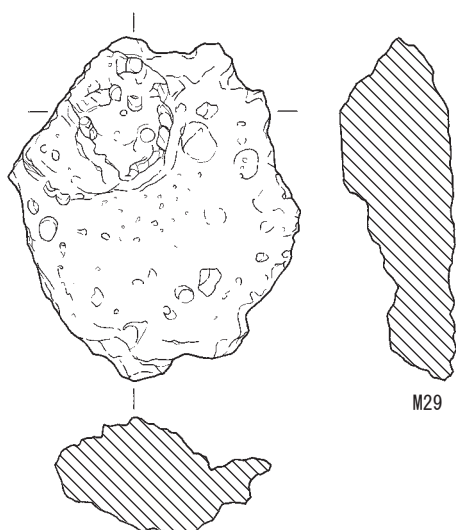
包含層



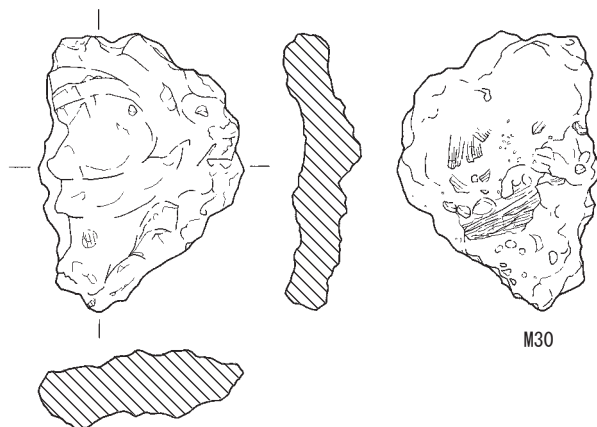
M27



M28



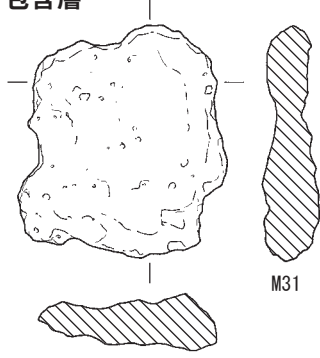
M29



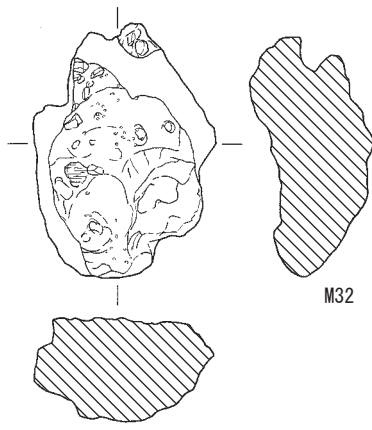
M30



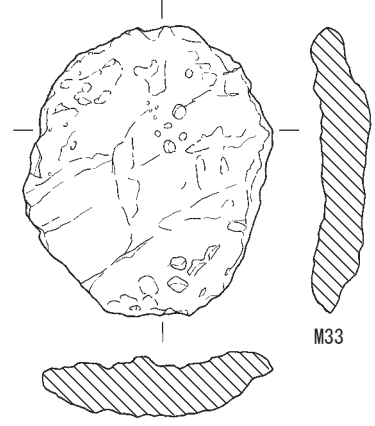
包含層



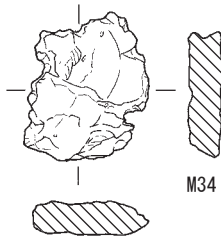
M31



M32

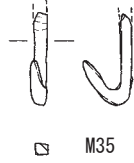


M33



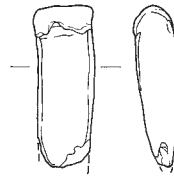
M34

攪乱包含層



M35

SK047



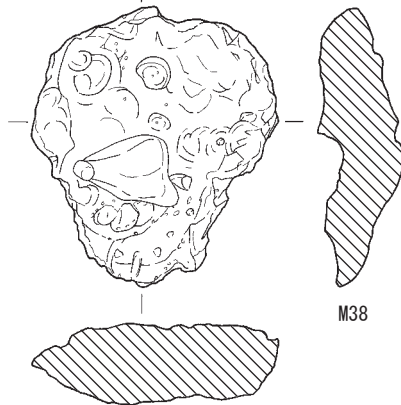
M36

SD133



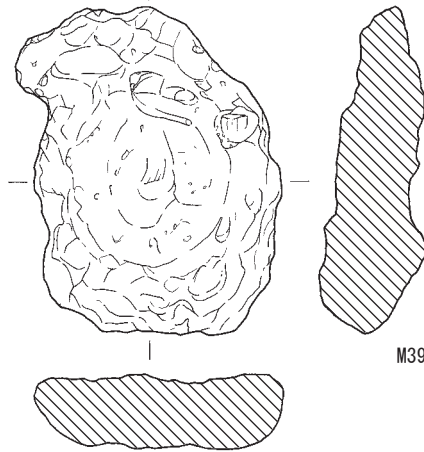
M37

SD133



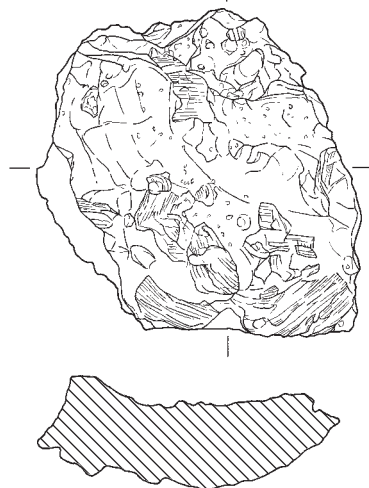
M38

包含層

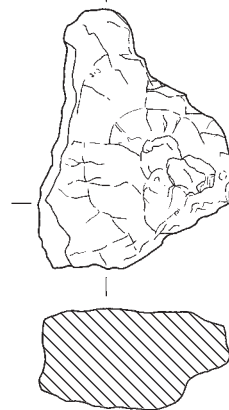
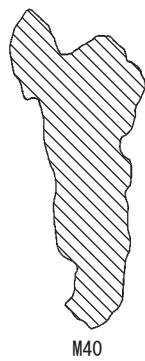


M39

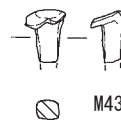
SB065



M40



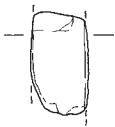
M41



M43



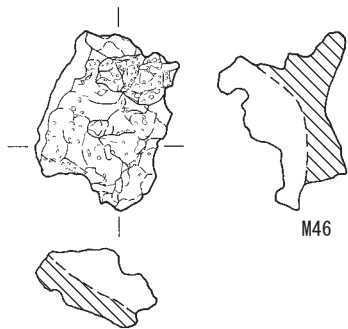
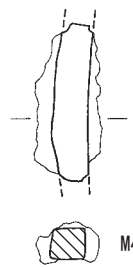
M42



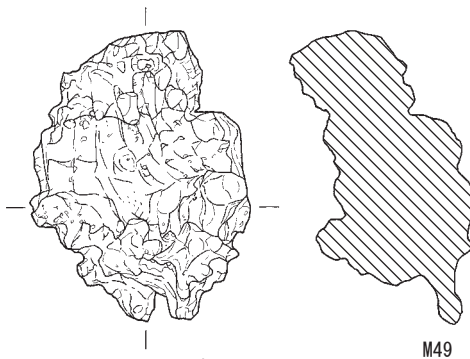
M44



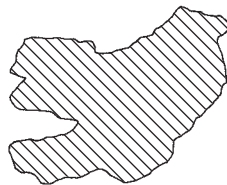
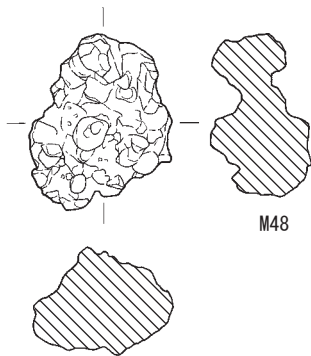
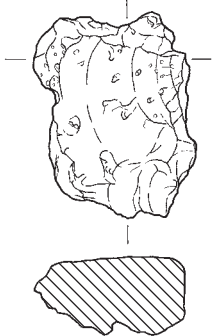
SB071



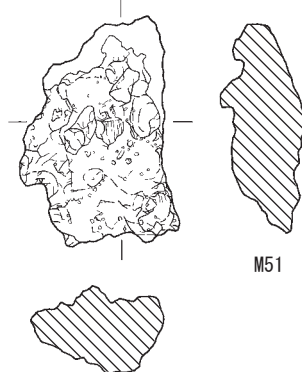
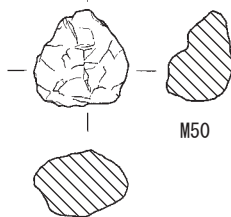
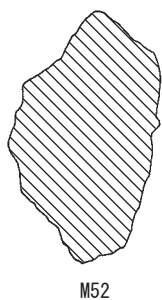
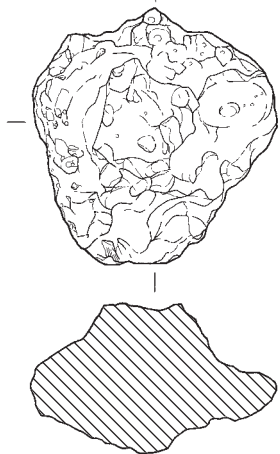
SK050



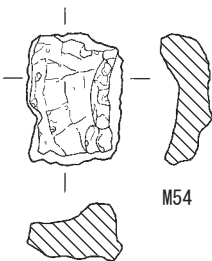
SK050



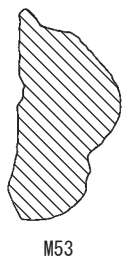
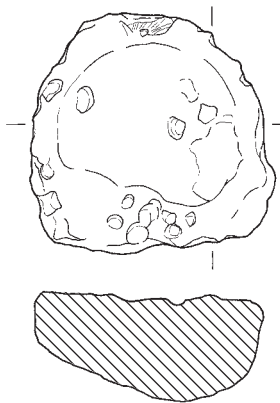
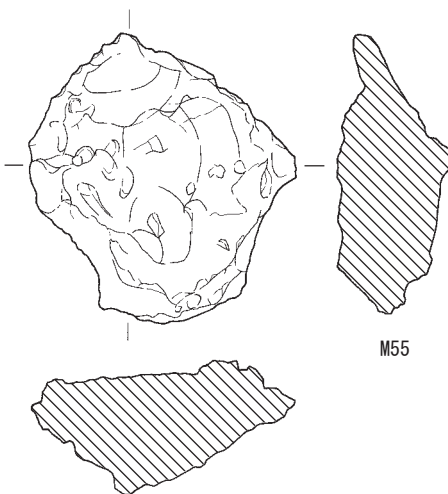
包含層



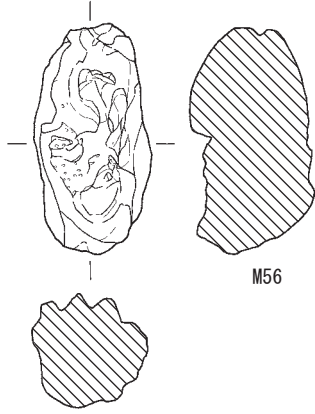
SD166



包含層

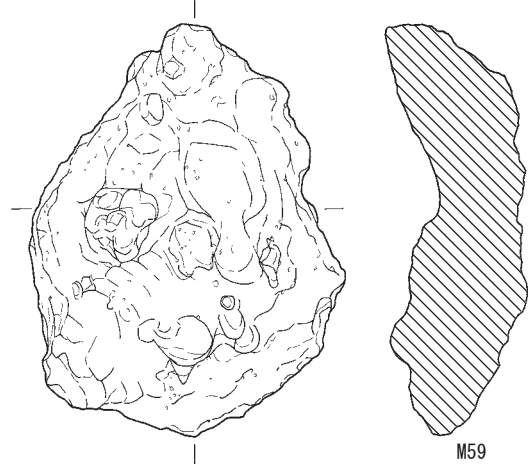


SD183



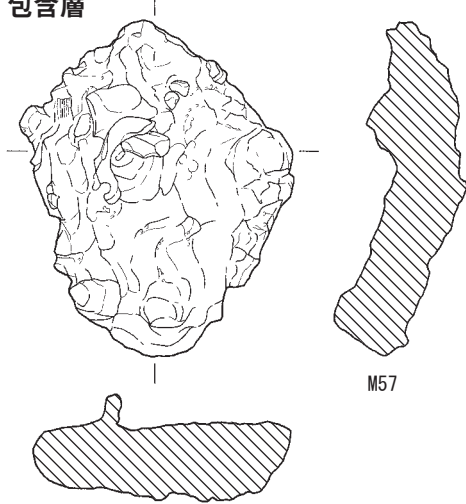
M56

包含層

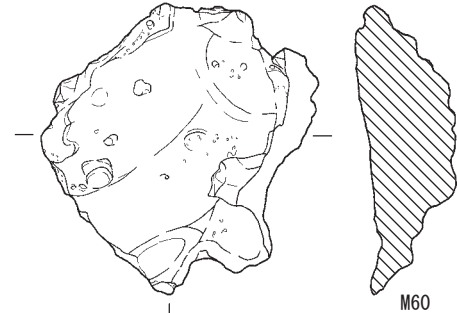
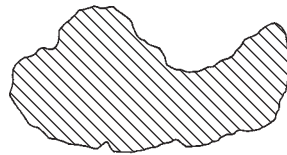


M59

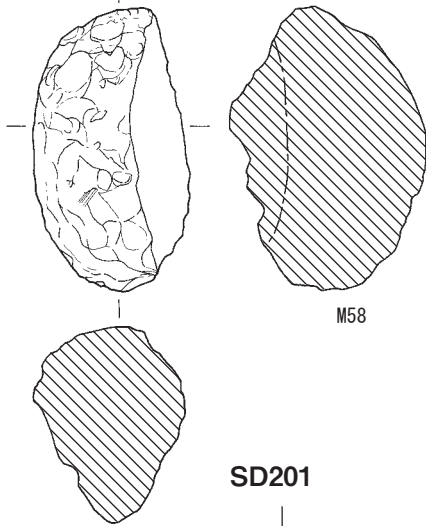
包含層



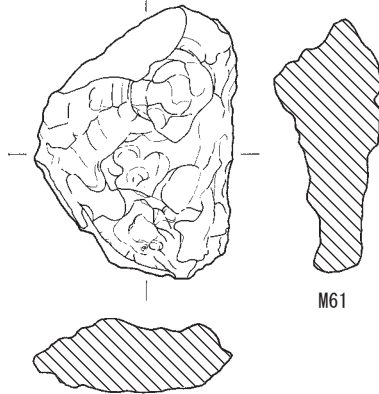
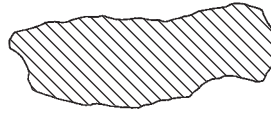
M57



M60

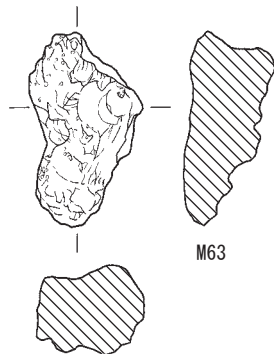


M58



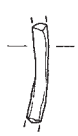
M61

SD201

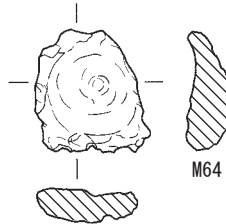


M63

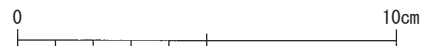
SB077



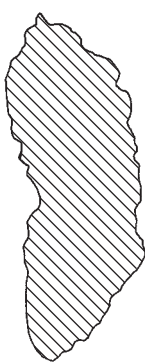
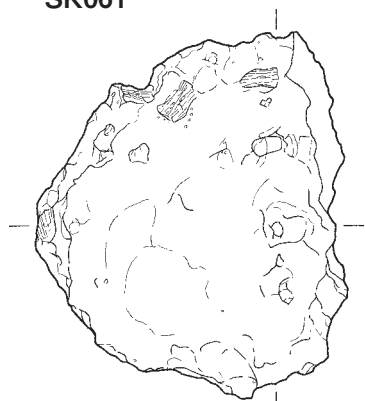
M62



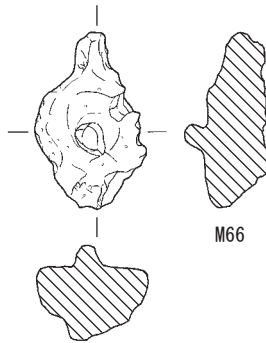
M64



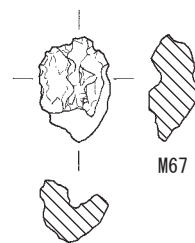
SK061



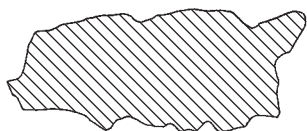
M65



M66



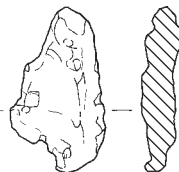
M67



SK063



M68



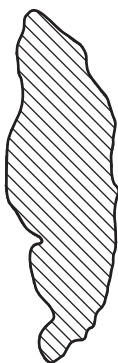
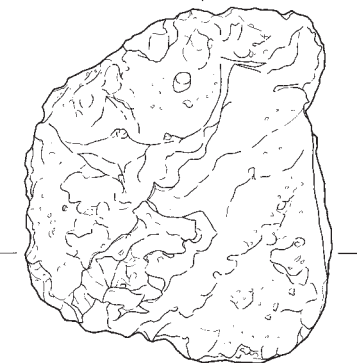
M69



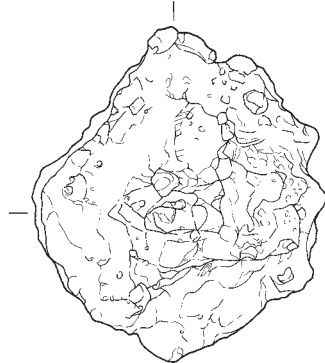
M70

包含層

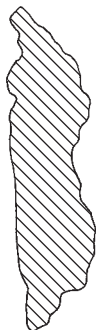
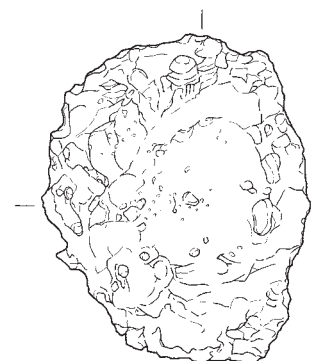
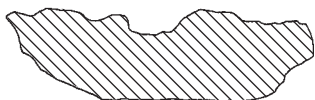
包含層



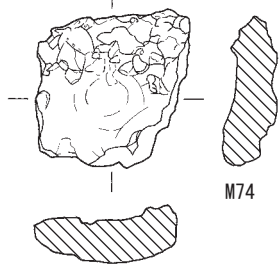
M71



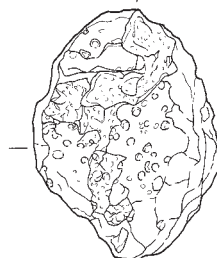
M72



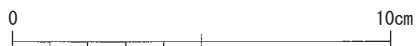
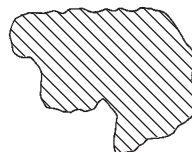
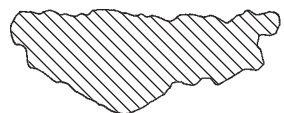
M73



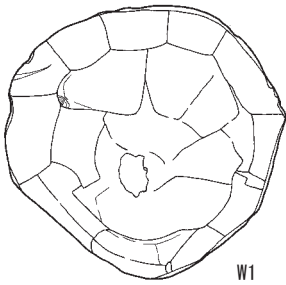
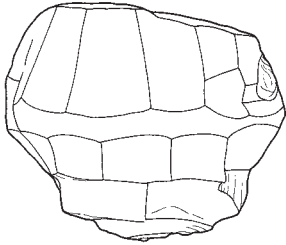
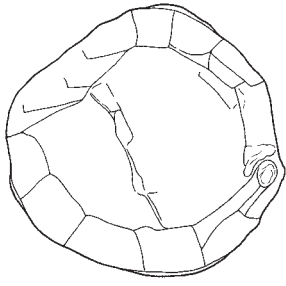
M74



M75

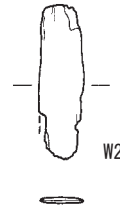


SB028

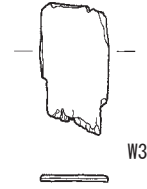


W1

SB030

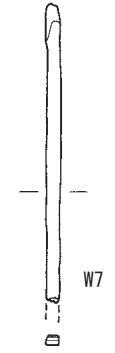


W2



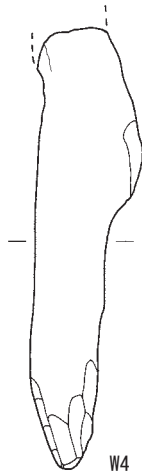
W3

SW003



W7

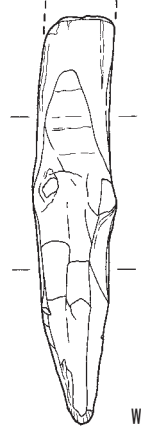
SW001



W4



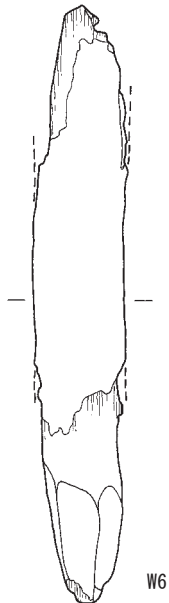
SW003



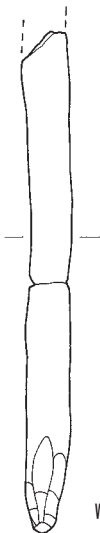
W8



SW002



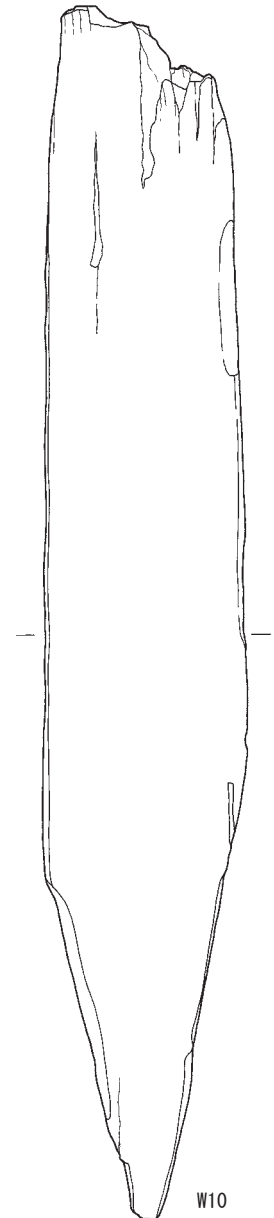
W6



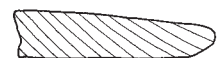
W5



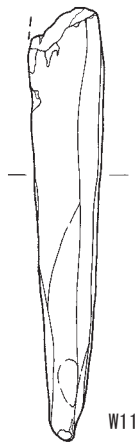
W9



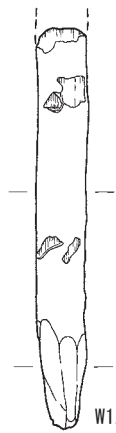
W10



SW005



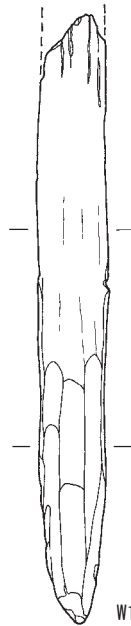
W11



W12



W13



W14



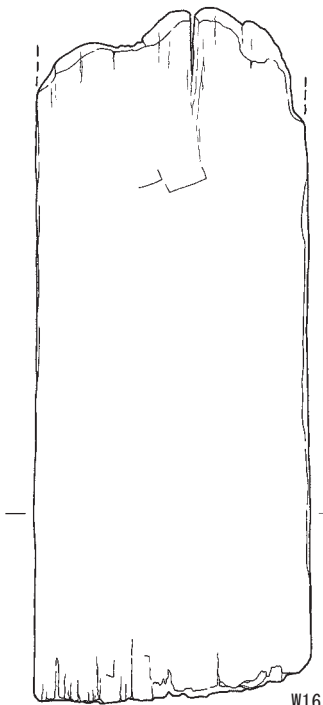
SW006



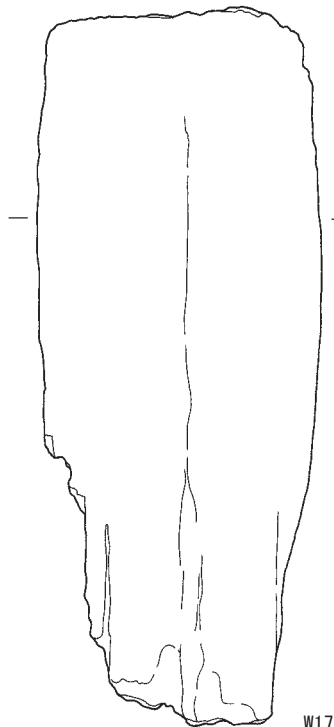
W15



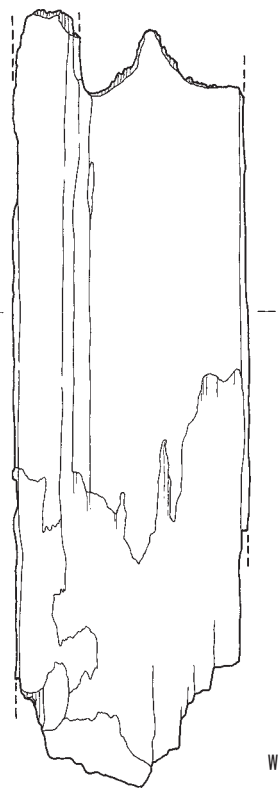
SW007



W16



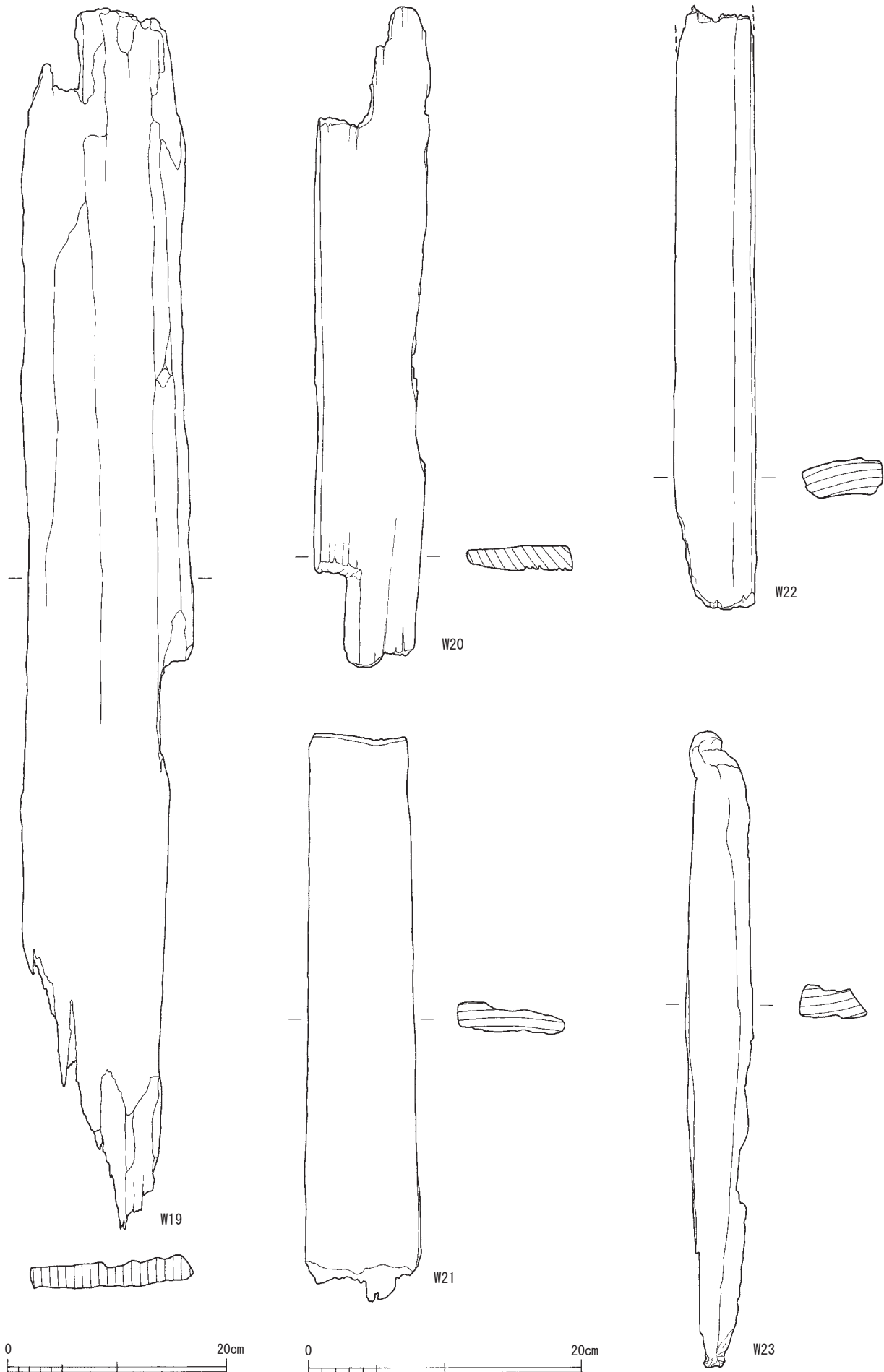
W17



W18

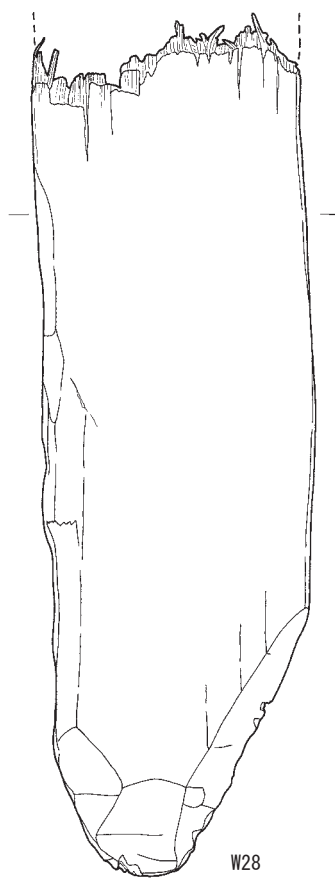
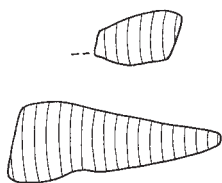
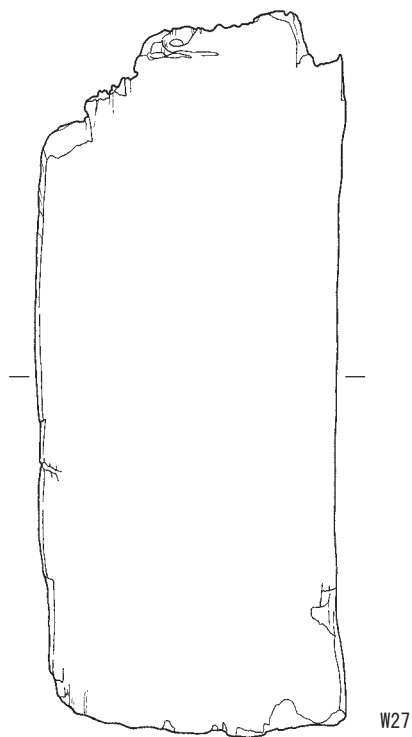
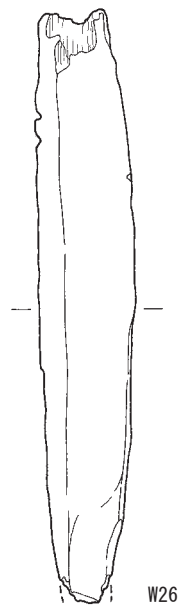
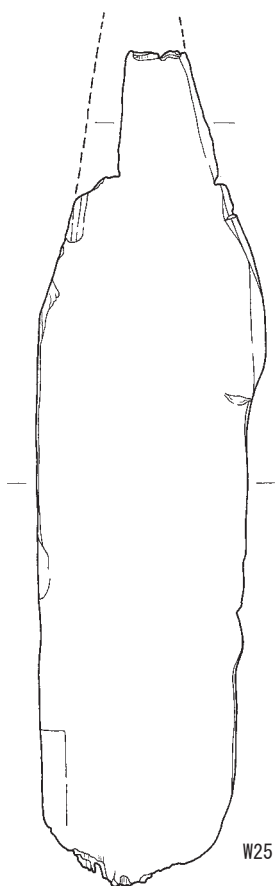
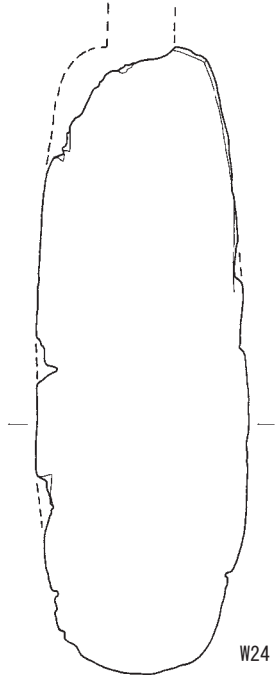


SW007



木製品 W19 ~ W23 (SW007)

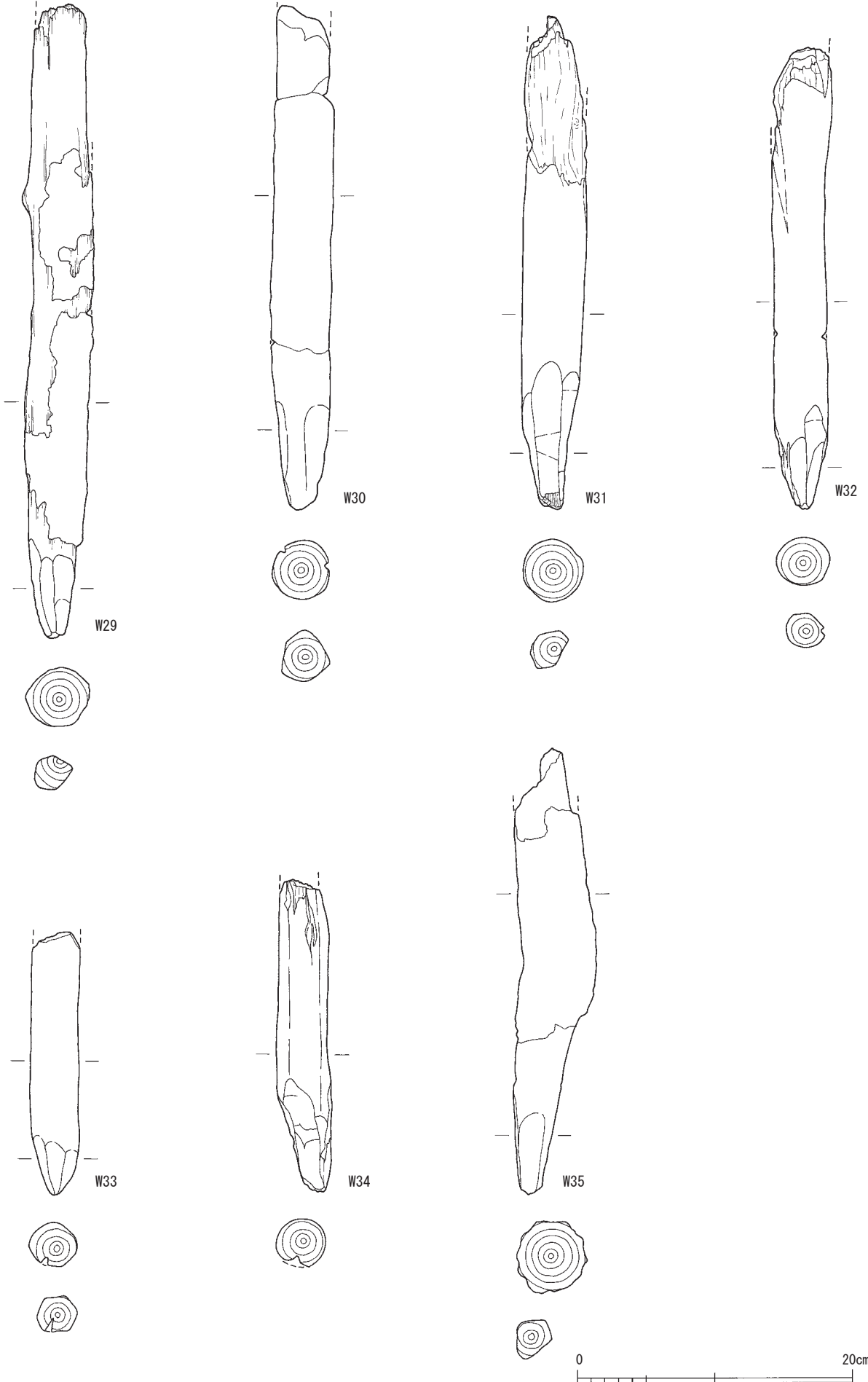
SW008



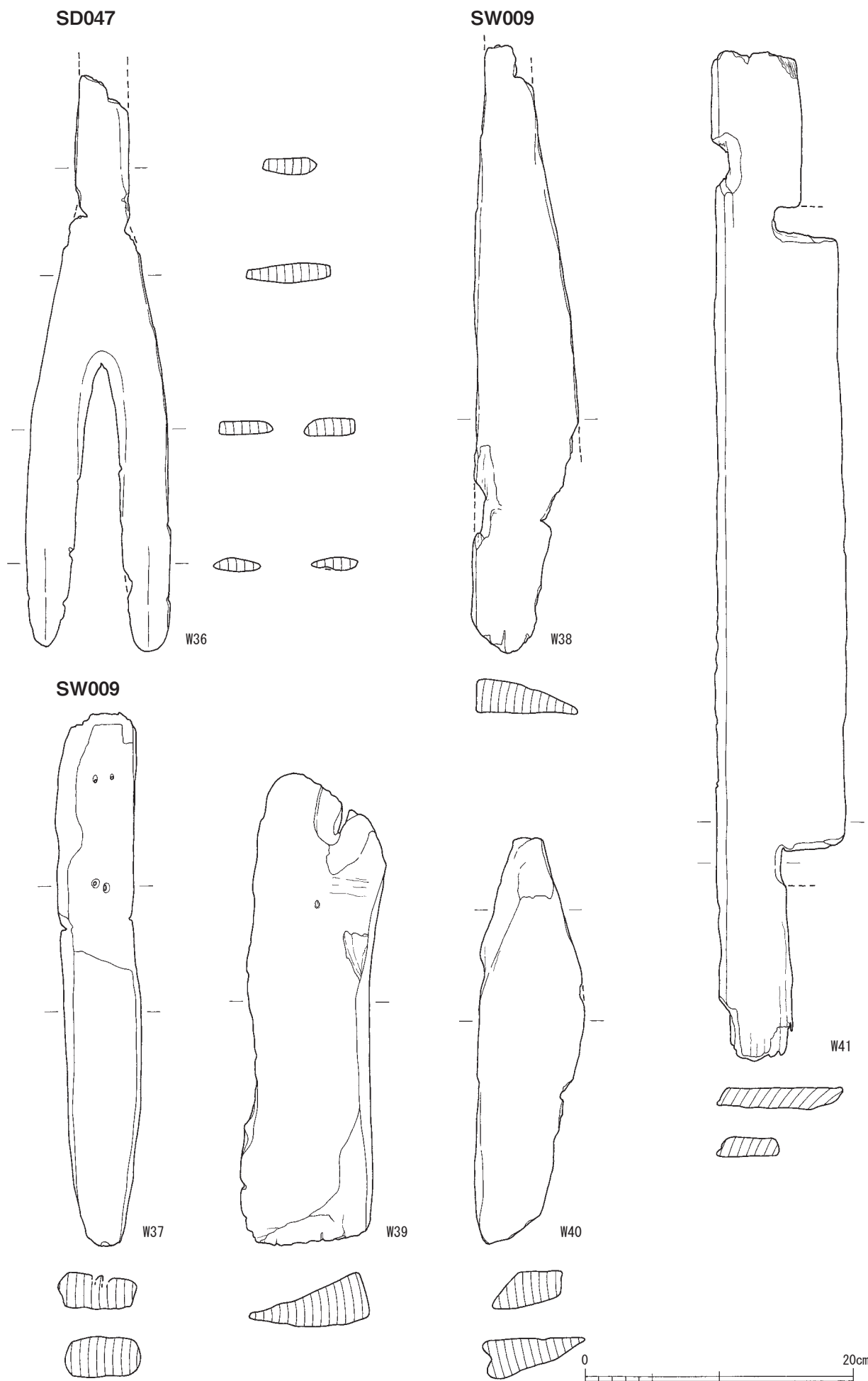
0 20cm

木製品 W24 ~ W28 (SW008)

SW008

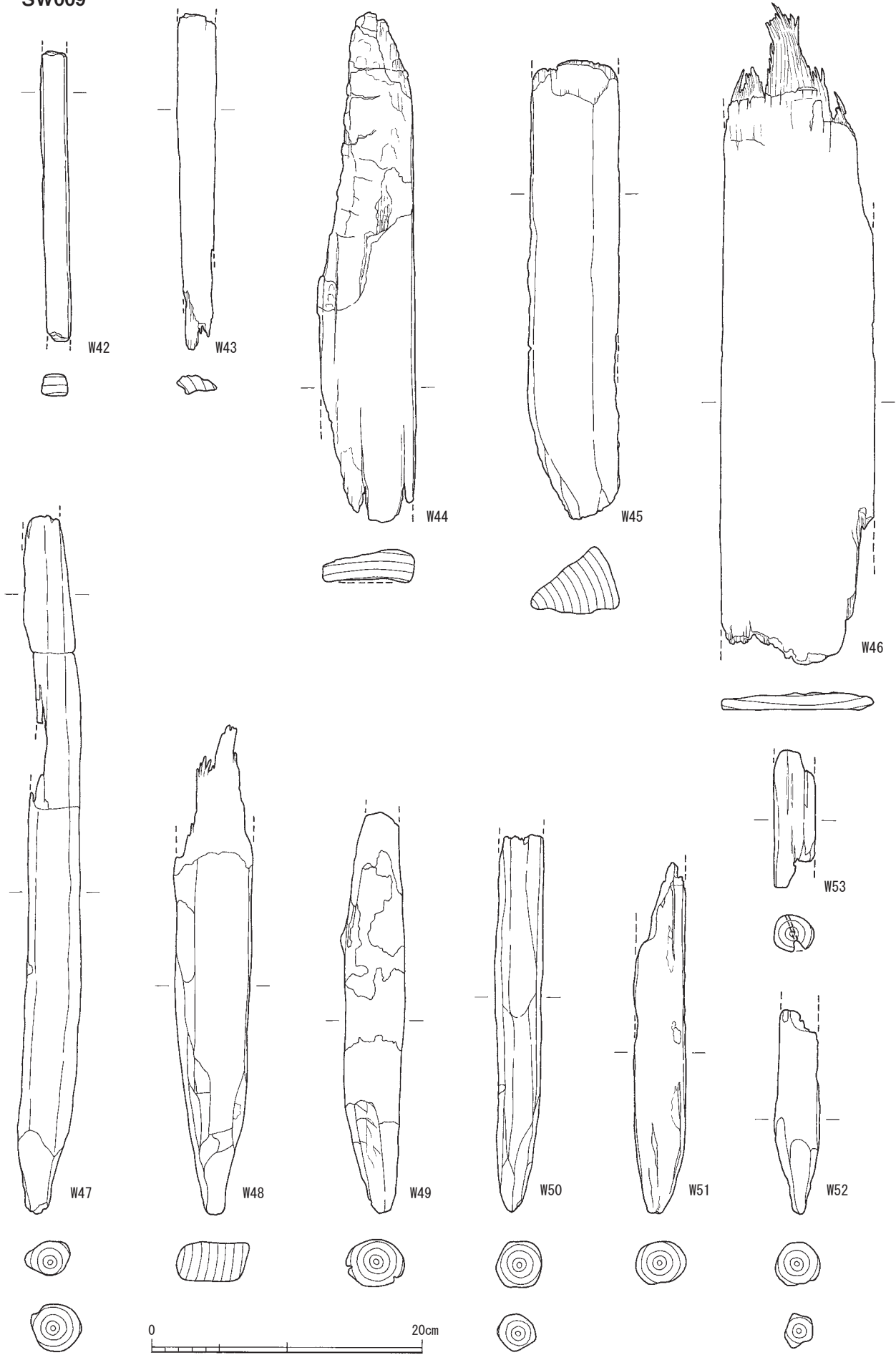


木製品 W29 ~ W35 (SW008)



木製品 W36 ~ W41

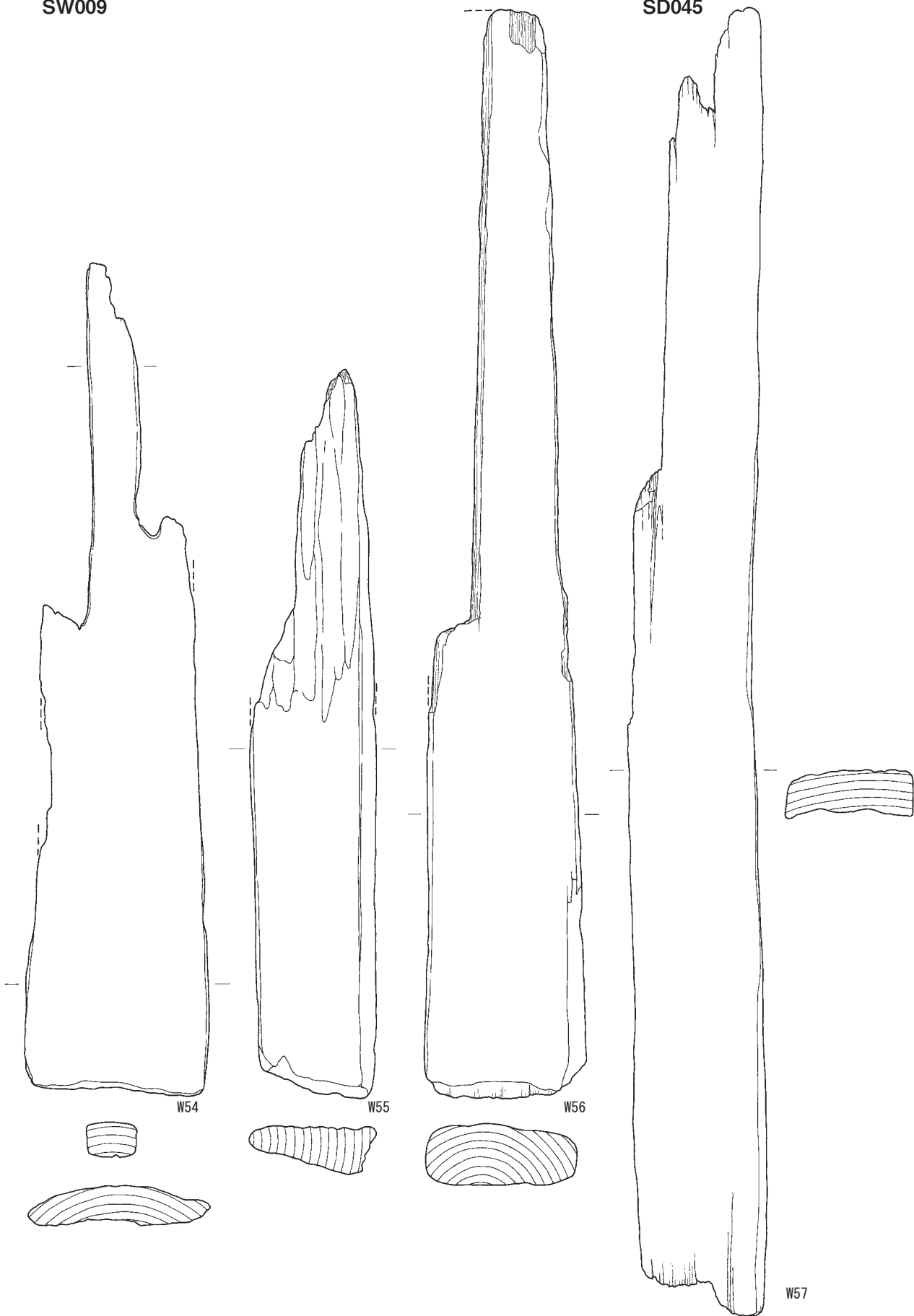
SW009



木製品 W42 ~ W53 (SW009)

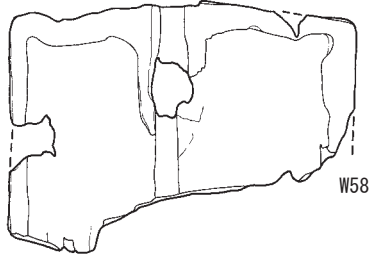
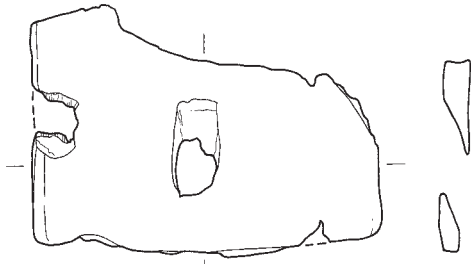
SW009

SD045

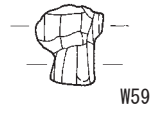


木製品 W54 ~ W57

SD045



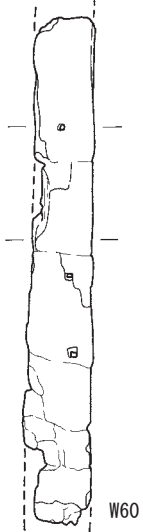
W58



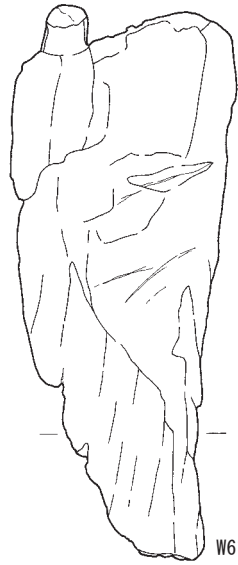
W59



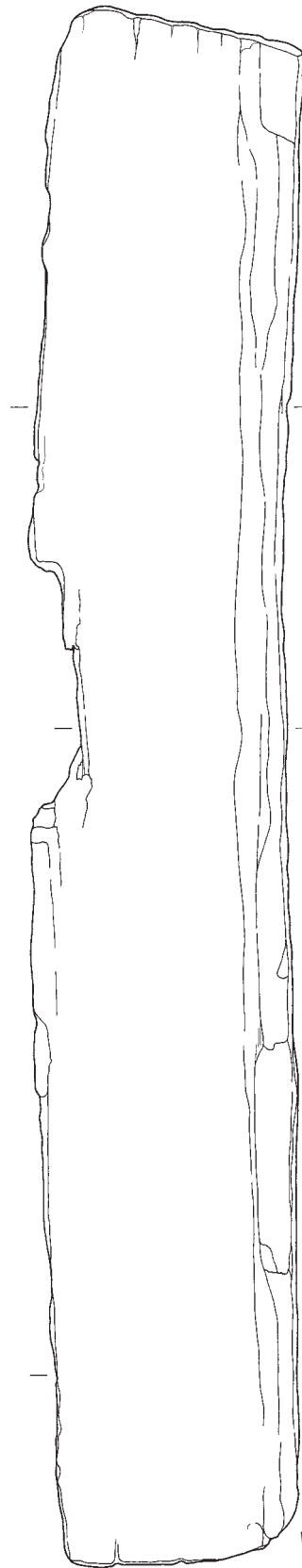
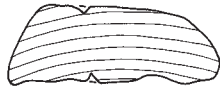
SD047



W60

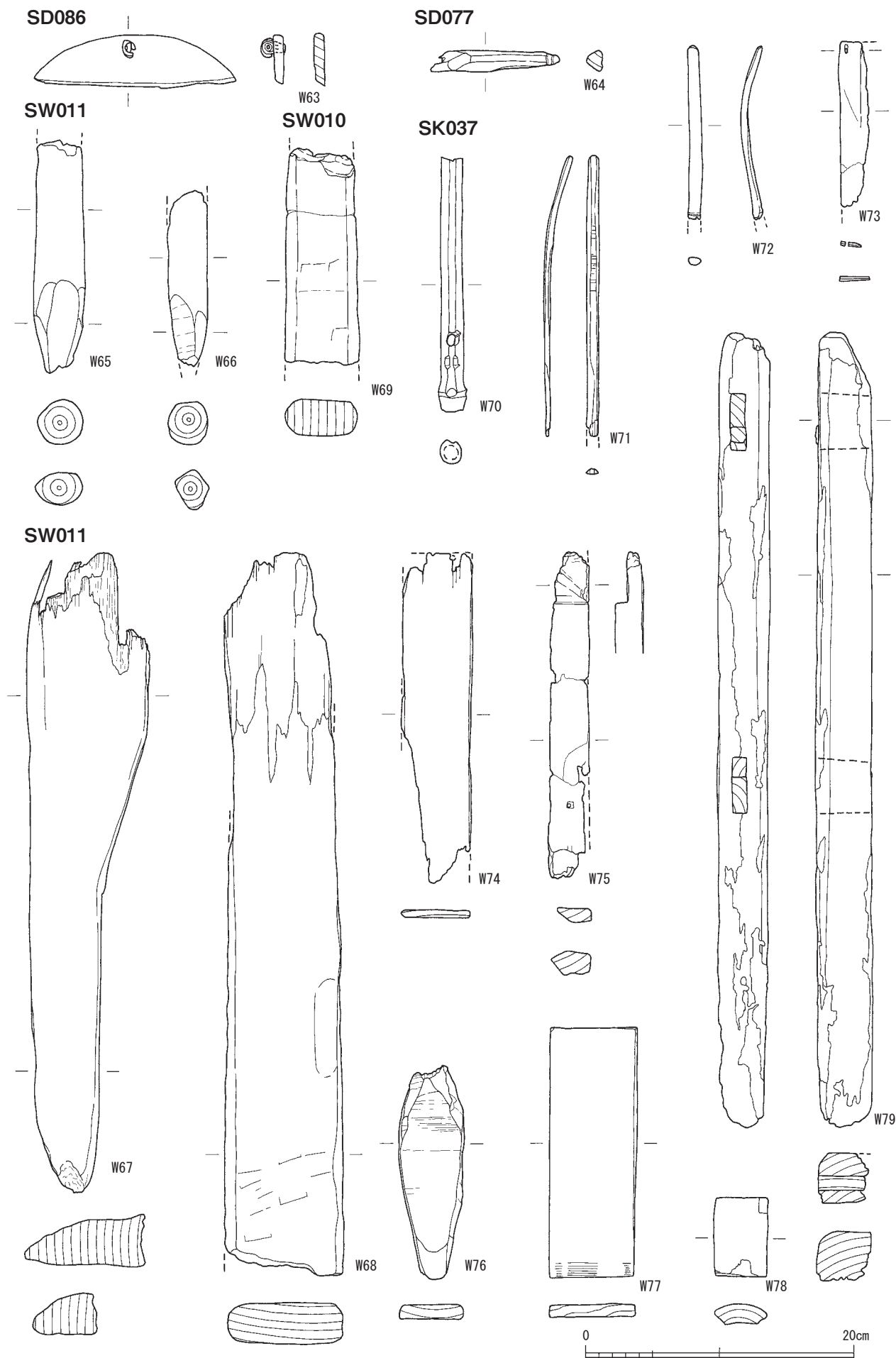


W61



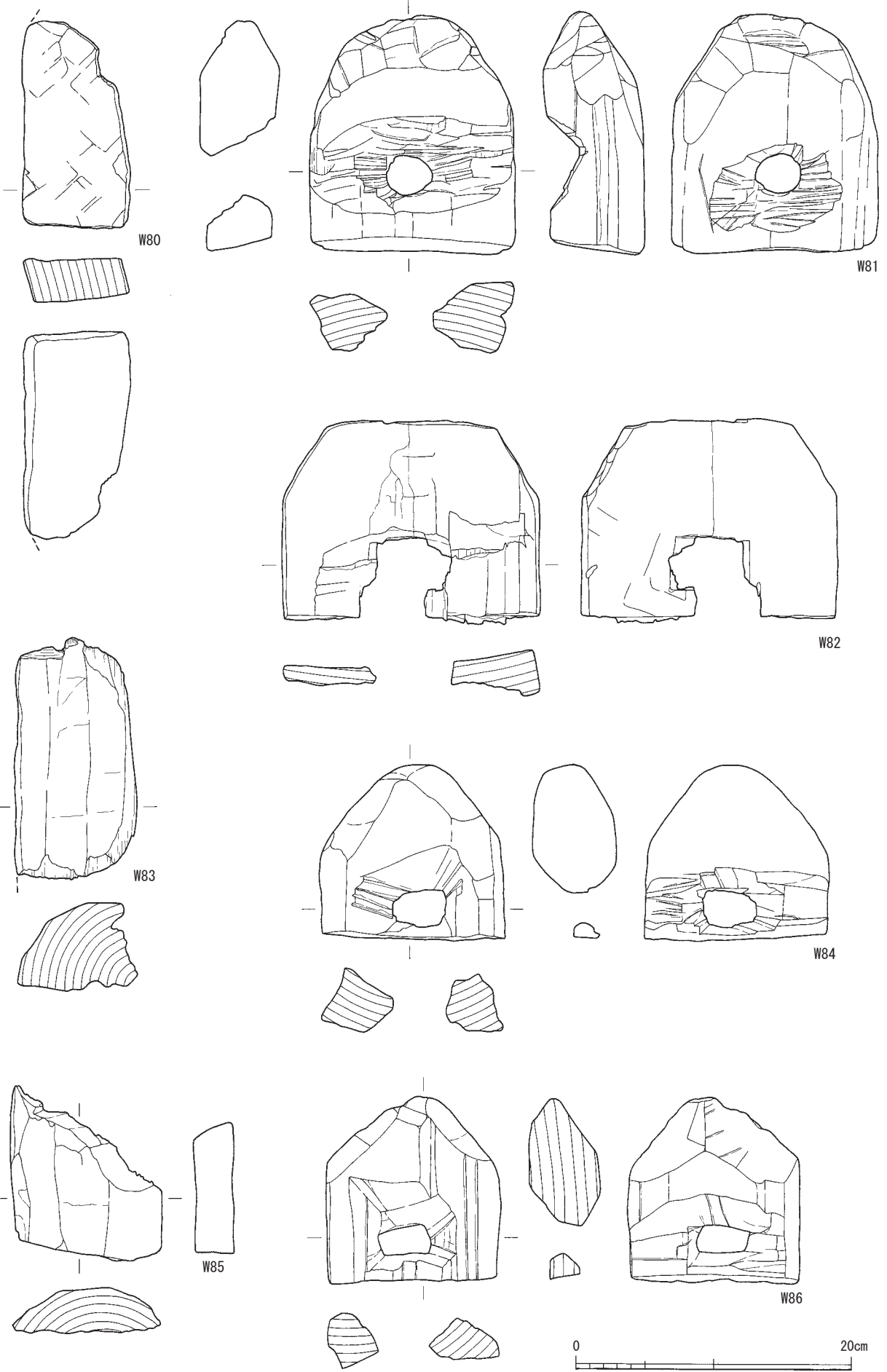
W62



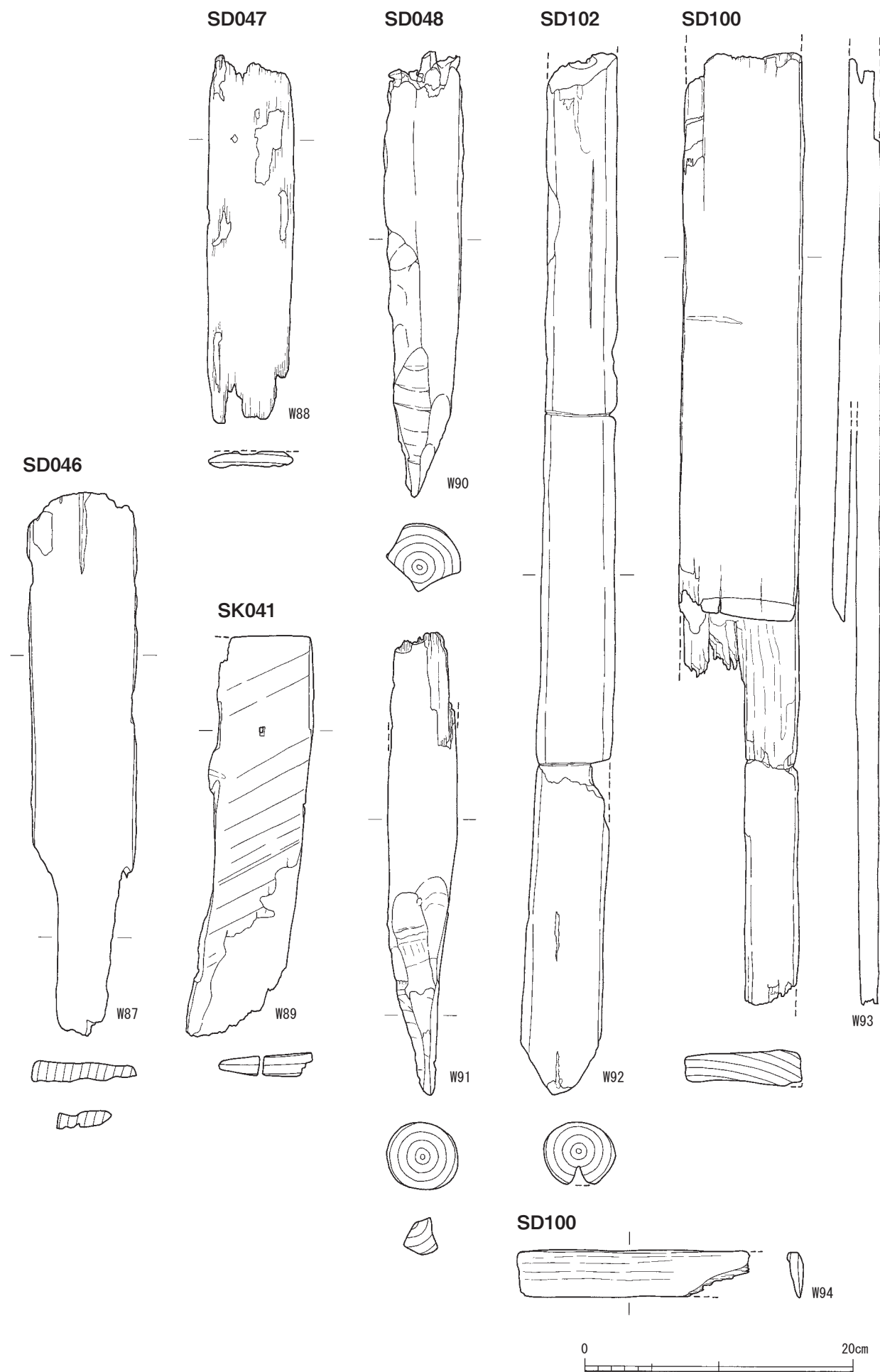


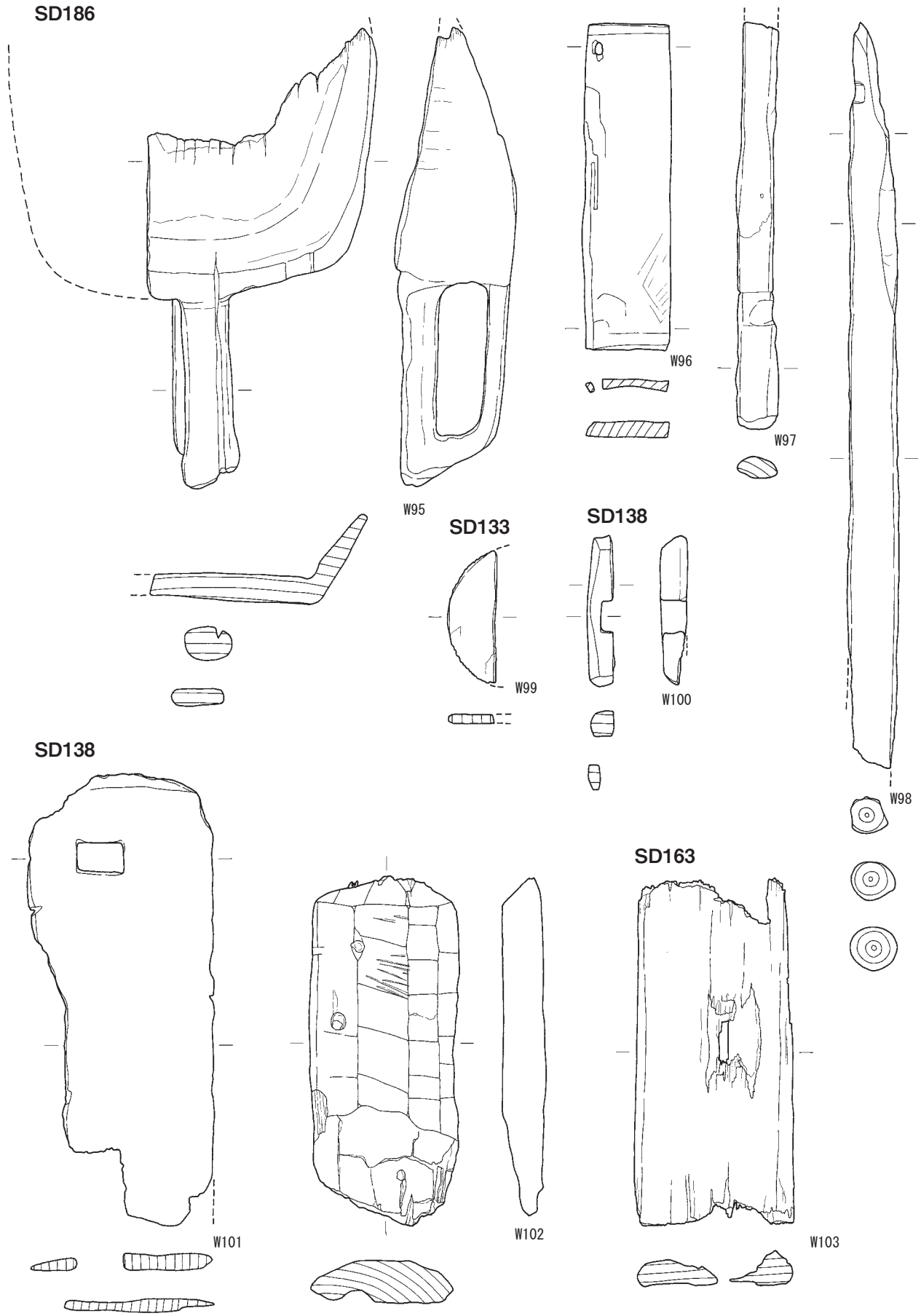
木製品 W63 ~ W79

SB050



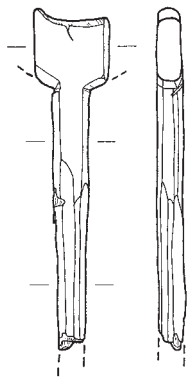
木製品 W80 ~ W86 (SB050)



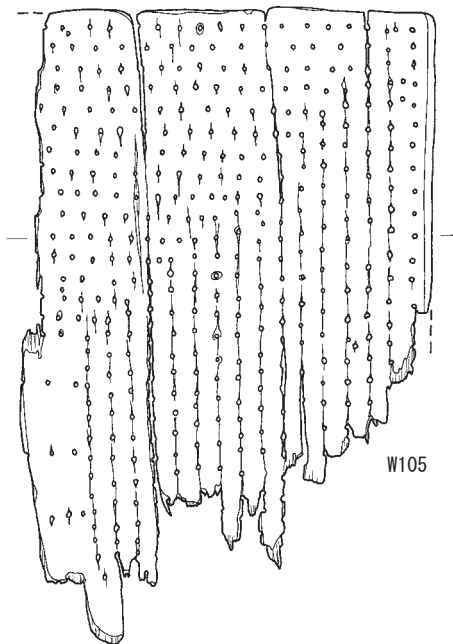


木製品 W95 ~ W103

SD201



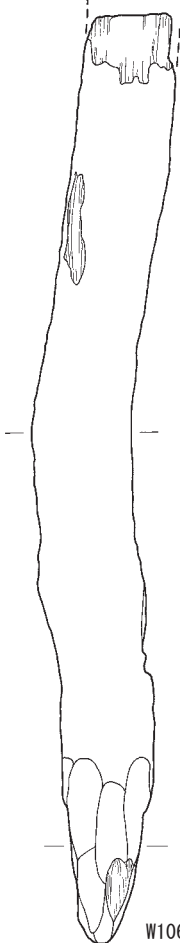
W104



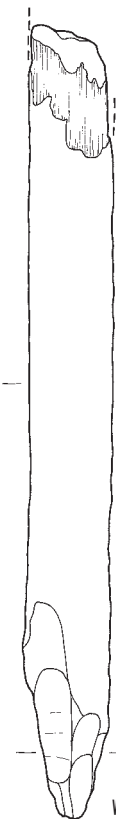
W105



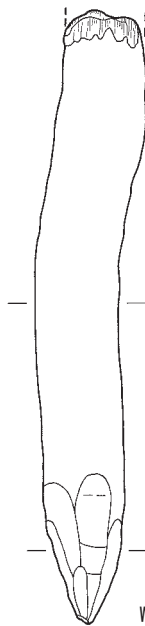
SW012



W106



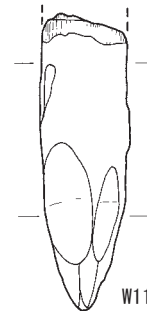
W107



W108



W109

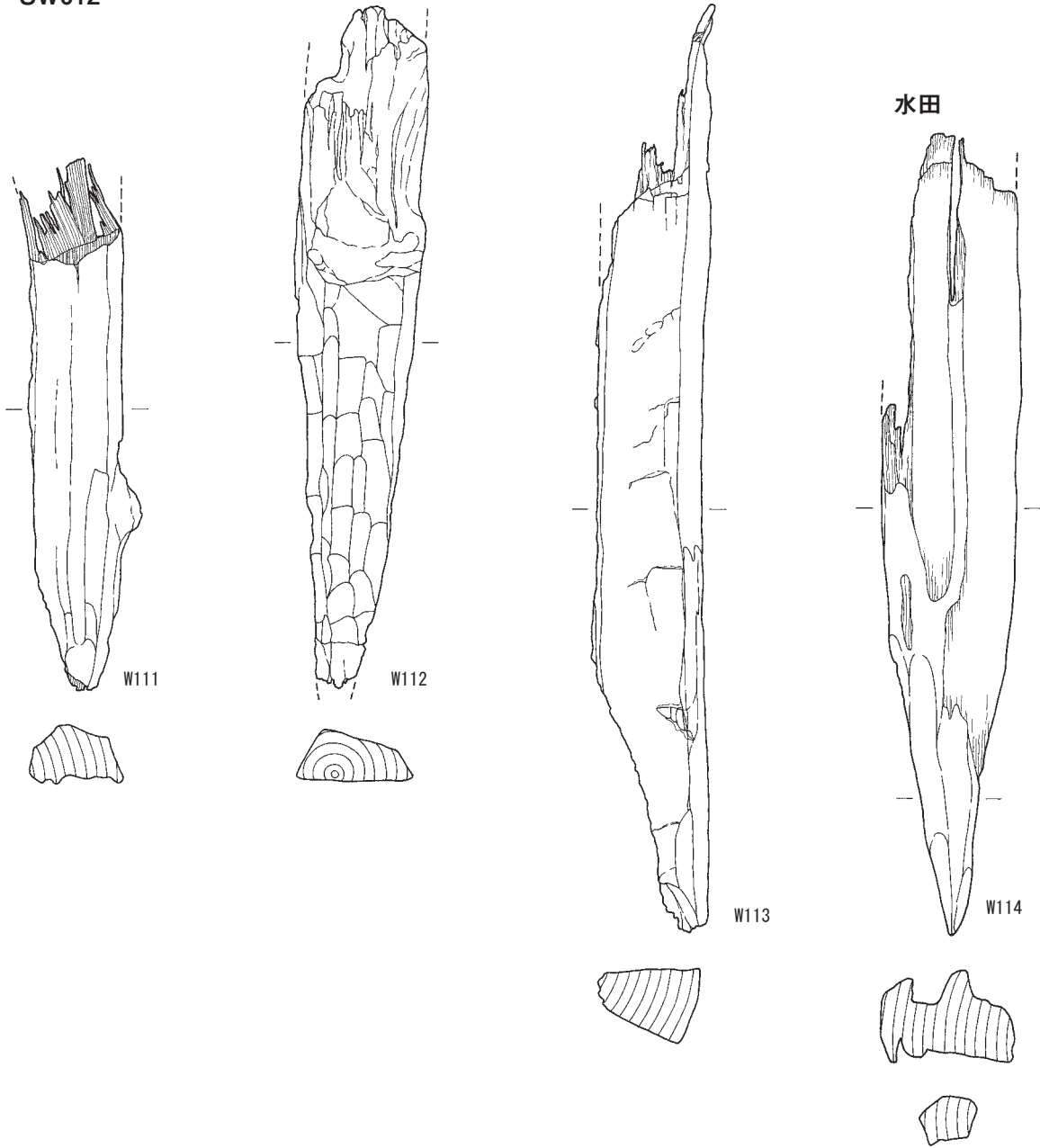


W110



SW012

水田



木製品 W111 ~ W114

報 告 書 抄 録

ふりがな	いけのしたいせき
書名	池ノ下遺跡
副書名	中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第435冊
編著者名	篠宮 正・西口圭介・別府洋二・山田清朝・池田征弘・岡本一秀・青木哲哉・(株)加速器分析研究所・(株)九州テクノリサーチ・パリノ・サーヴェイ株式会社・(株)古環境研究所
編集機関	兵庫県立考古博物館
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1-1 Tel 079-437-5589
発行機関	兵庫県教育委員会
所在地	〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1 Tel 078-341-7711
発行年月日	2012(平成24)年3月26日

所収遺跡名	所在地	コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村						
池ノ下遺跡	兵庫県姫路市	282014	020578	34度 49分 5秒	134度 39分 10秒	本発掘調査(2005157) 2005年10月11日～ 2006年2月13日	7,946㎡	中播都市計画 事業英賀保駅 周辺土地区画 整理事業
						本発掘調査(2005194) 2006年1月19日～ 3月24日	1,329㎡	
						本発掘調査(2006055) 2006年6月30日～ 9月29日	3,031㎡	
						本発掘調査(2006093) 2006年10月2日～ 2007年1月23日	5,863㎡	
						本発掘調査(2007057) 2007年6月13日～ 12月6日	7,107㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池ノ下遺跡	集落	旧石器時代	流路 竪穴住居・土坑・ 掘立柱建物・ 溝・流路	石器	銅鏃
		縄文時代		土器・石製品	
		弥生時代		土器・石製品・金属器・木製品	
		古墳時代 初頭	竪穴住居・土坑・ 溝	土器・木製品	
		中期	溝・水田・粘土採 掘坑	土器	
奈良時代	掘立柱建物 溝・土坑	土器・石製品	唐三彩弁口 瓶・円面硯・ 石帯		
平安時代～ 鎌倉時代	掘立柱建物・土 坑・溝・木棺墓・ 土壙墓	土器・石製品・木製品			

調査概要	池ノ下遺跡は姫路平野の海岸部の旧石器時代～中世の遺跡である。旧石器時代後期は遺構に伴っていないがナイフ形石器が出土している。縄文時代は流路と焼土遺構を検出しており、縄文時代後期と晩期の土器が出土し、各時代の石器が出土した。弥生時代は前期の竪穴住居と掘立柱建物を調査したほか溝を検出している。古墳時代初頭は竪穴住居と土坑・溝を検出した。溝からは多量の土器が出土した。古墳時代中期は水田と粘土採掘坑を検出した。奈良時代は遺構の密度は少ないものの唐三彩の弁口瓶や円面硯・石帯・瓦など古代の寺院・官衙的遺物が出土している。中世前期は条里区画の坪内に整然とした宅地が作られており、掘立柱建物が11世紀後半から13世紀の間継続して建てられている。宅地内には木棺墓や土壙墓などもある。中世後期以降遺物は出土するが、居住にかかわる遺構は検出していない。
------	--

兵庫県文化財調査報告 第435冊

池ノ下遺跡

中播都市計画事業英賀保駅周辺土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
[本文・図版編]

平成24年3月26日発行

編集 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号

TEL 079-437-5589

発行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷 丸山印刷株式会社

〒676-8566 兵庫県高砂市神爪1丁目11番33号
